

下滝高井前遺跡

— 本文編 —

国道354号高崎玉村バイパス(高崎工区)社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化発掘調査報告書

2014

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

下滝高井前遺跡

— 本文編 —

国道354号高崎玉村バイパス(高崎工区)社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一四

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



下 滝 高 井 前 遺 跡

－ 本 文 編 －

国道354号高崎玉村バイパス(高崎工区)社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化発掘調査報告書

2014

群 馬 県 高 崎 土 木 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺跡全体写真（上空から）



207図14



207図15



207図16・17



331図14



541図10



3区58号住居の耳環・銅釧出土状態



3区157号土坑の銅鈴出土状態



3区90号土坑の宝篋印塔確認状態



3区112号土坑底面の板碑出土状態

序

東毛広域幹線道路は、群馬県の東毛地域と県央地域を直結する新たな動脈として期待されています。その整備は「はばたけ群馬・県土整備プラン」の主要な事業として、推進されてきました。国道354号のバイパス建設は、この東毛広域幹線道路の中核と位置づけられています。

本書で報告します下滝高井前遺跡は、高崎駅東口に直結する計画路線域の高崎市下滝町に所在し、この国道354号高崎玉村バイパス地域活力基盤創造事業に伴い発掘調査された遺跡です。

調査は、群馬県高崎土木事務所から委託を受け、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成20・21年度に実施しました。その結果、縄文時代から平安時代の住居190軒を超える集落、14世紀から16世紀にわたる中世屋敷など、様々な遺構と遺物が発見されました。特に5世紀から7世紀にかけての古墳時代を主とする集落は、時間的間断なく連続する密集した集落景観が明らかで、井野川沿岸における農業生産力の安定と地理的重要性をうかがうことができました。近隣地域には史跡観音山古墳があり、鎌倉時代には上野国奉行人安達氏が居住した伝承もあります。この度の成果は、先に刊行いたしました『綿貫牛道遺跡』・『綿貫原北遺跡』・『綿貫伊勢遺跡』とともに、地域史解明に寄与するものと考えております。

最後に、発掘調査の実施から本書の刊行にいたるまで、群馬県高崎土木事務所、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には終始ご協力を賜りました。上梓にあたり、皆様方に心より厚く御礼申し上げます。序といたします。

平成26年1月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 上原訓幸

例 言

- 1 本書は国道354号高崎玉村バイパス道路改築事業に伴い発掘調査し、国道354号高崎玉村バイパス(高崎工区)社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴い整理作業を行った埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、高崎市下滝町、同下斎田町、同綿貫町で、地番は以下のとおりである。
下滝町653-1・656-1・657-1・657-3・658-1・670-1・672-1・672-3・674・676-1・677・708・710-1・710-2・11-1・718-・720・721・722・727・728・732-2・733・734・735 / 下斎田町1-3・4-3 / 綿貫町1831-1・1832-1
- 3 事業主体は群馬県西部県民局高崎土木事務所である。
- 4 発掘調査の主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
- 5 発掘調査の期間と体制は以下のとおりである。
平成20年度 1・2区、3区南西部
調査履行期間 平成20年9月10日～平成21年3月31日 / 調査期間 平成20年10月1日～平成21年3月31日
発掘調査担当者 菊池 実(上席専門員)、真下裕章(主任調査研究員) / 遺跡掘削請負工事 技研測量株式会社
委託 地上測量：株式会社横田調査設計 / 空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル
平成21年度 3区北半部・南東部
調査履行期間 平成21年8月17日～平成22年3月31日 / 調査期間 平成21年9月1日～平成22年3月31日
発掘調査担当者 菊池 実(上席専門員)、山田精一(主任調査研究員) / 遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社
委託 地上測量・空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル
- 6 整理事業の期間と体制は以下のとおりである。
整理履行及び整理期間 平成22年3月1日～平成22年3月31日 / 整理担当者 飯森康広(専門員(主幹))
整理履行及び整理期間 平成22年4月1日～平成23年3月31日 / 整理担当者 飯森康広・小林 正(主任)
整理履行及び整理期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日 / 整理担当者 菊池 実(上席専門員)
整理履行及び整理期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日 / 整理担当者 飯森康広
整理履行及び整理期間 平成25年4月1日～平成25年11月31日 / 整理担当者 飯森康広
- 7 本書作成の担当者は次のとおりである。
編集 菊池 実・飯森康広・小林 正、デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)
本文執筆 菊池 実(第1章、第2章(第2節6・7を除く)、第3章第1節・第3節2) / 飯森康広(第2章第2節6・7、第3章第3節(2を除く)・第4節、第5章) / 小林正(第3章第2節)
遺物写真撮影 佐藤元彦(補佐) 保存処理 関 邦一(補佐)
遺物観察 石器・石造物：岩崎泰一(上席専門員)、新倉明彦(上席専門員) / 縄文土器：谷藤保彦(上席専門員) / 土師器・須恵器：桜岡正信(上席専門員)・徳江秀夫(資料統括) / 土師器・須恵器年代比定：神谷佳明(資料部長) / 4世紀土器年代比定：坂口 一(主席専門員) / 中近世陶磁器・土器：大西雅広(上席専門員) / 金属器：関 邦一・大西雅広 / 木器：飯森康広
- 8 委託・鑑定 人骨・獣骨、種実、石材については、檜崎修一郎、パレオ・ラボ、飯島静男(群馬地質研究会)に委託して行った。
- 9 発掘調査および報告書作成に際しては、群馬県教育委員会・高崎市教育委員会をはじめ、関係機関ならびに多くの方々のご協力、ご指導をいただきました。記して感謝いたします。
- 10 下滝高井前遺跡の諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

- 1 遺構平面は世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)を用いて測量した。本文中に使用した方位は全て国家座標北を表している。真北との偏差は、26区A-1グリッド付近で、東偏0度26分33秒である。
- 2 遺構名称は区ごとに通番をつけた。遺構名称は原則調査段階のものを踏襲し、欠番そのままとした。また、やむを得ず整理段階で付番し直した場合も元番号を残し、改称後の遺構本文中に旧名称を明記した。なお、欠番は以下のとおりである。

住居 3区：3・52・67・79・83・133・159・163・175

掘立柱建物 3区：2・8・18・36・41

竪穴状遺構 2区：1

土坑 2区：5～7 / 3区：16・17・18・26・28・36・46・48・64・69・84・137・190・191・196・207

ピット 3区：29・129・163・236・255・256・269・282・283・369・382・383・484・522・542～550・594・608・618・642・650・661・665・666・839・961・967・987・1229・1265・1279・1283～1286

溝 3区：62

- 3 遺構・遺物実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構 住居・竪穴状遺構 1：60、カマド 1：30、掘立柱建物 1：80、土坑 1：30、1：60

墓 1：30、ピット 1：60、1：80、溝・島 1：40、1：80、1：100、1：120、1：150、1：200

遺物 土師器・須恵器 1：3、陶磁器・在地系土器 1：4、

石器・石製品 1：1、1：2、1：3、1：6、金属器・金属製品 1：1、1：2、木器 1：6

- 4 本書の図版に使用したスクリーントーンは次のことを表示している。

| | | | | | | | | | | | |
|------|--|------|--|------|--|---|--|-----|--|-----|--|
| 粘土 | | 焼土 | | 炭 | | 灰 | | 炭化物 | | 硬化面 | |
| 貼床 | | 攪乱 | | 煤 | | 漆 | | 摩滅 | | 灰釉 | |
| 黒色処理 | | 砂目粘土 | | 赤色塗彩 | | | | | | | |

- 5 住居の床面積は、デジタルプランメーターにより住居の壁の内側を3回計測した平均値である。住居の方位はカマドを持つ壁に直交する軸を主軸線とした。遺構の計測値で全体を計測できないものについては、現存の値を記載し()に、推定で全体がわかるものについては〔 〕に表示した。
- 6 掘立柱建物の柱穴は、平面図の底面標高測点を原則として中心とし、その心々距離を計測した。各辺の長さの計測も同様とし、その平均値を乗じて面積を算出した。なお、下屋及び庇を持つ場合も、同様に算出し加えた。下屋と庇の分類は、民家建築への移行を意識し、1mを境に狭い方を下屋、広い方を庇と表現した。また、調査区域外に延びるなど、建物が収束しない場合、m以上、㎡以上と記載した。主軸方位は棟方向を計測し、桁側二辺の方位を数値幅として、～によって示した。桁側長(桁行)を平均し、これを柱間で除して、桁行平均柱間を算出し、柱穴の偏りを判断する基準とした。規格については、中世のものに関して、梁間1間型か梁間2間型かに着目し、梁間○間型の桁行○間と示した。ただし、正方形・方形のものは棟方向が不明のため、南北○間×東西○間とした。それ以外については、通例に従い桁行・梁間の順で桁行○×梁間○間と記載することとした。柱穴は新たにP1から順に時計回りで付番し、調査時に呼称されたピット番号はそのまま残し計測表に付記し、非掲載遺物との照合に配慮した。すでに掘立柱建物の柱穴として付番されていた場合、Pアから順次カタカナを使用した。

目次

| | |
|------------------------------------|-----|
| 口絵 | |
| 序 | |
| 例言 | |
| 凡例 | |
| 目次 | |
| 挿図目次 | |
| 表目次 | |
| 第1章 発掘調査の経過と方法 | |
| 第1節 発掘調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 調査の経過 | 3 |
| 第3節 発掘調査の方法 | |
| 1 グリッドの設定 | 5 |
| 2 調査区の設定 | 6 |
| 3 調査の方法 | 6 |
| 4 基本土層 | 6 |
| 第4節 整理作業の方法 | 11 |
| 第2章 遺跡の立地と周辺の遺跡 | |
| 第1節 遺跡の立地 | 12 |
| 第2節 周辺の遺跡 | 15 |
| 第3章 発掘調査の記録 | |
| 第1節 遺跡の概要 | |
| 1 概要 | 29 |
| 第2節 2区の遺構と遺物 | |
| 1 概要 | 30 |
| 2 竪穴住居 | 30 |
| 3 竪穴状遺構 | 97 |
| 4 墓 | 98 |
| 5 土坑 | 99 |
| 6 井戸 | 102 |
| 7 ピット | 102 |
| 8 溝 | 103 |
| 第3節 3区の遺構と遺物(1) | |
| 1 概要 | 104 |
| 2 竪穴住居 | 104 |
| 3 掘立柱建物 | 466 |
| 4 竪穴状遺構 | 469 |
| 5 土坑 | 472 |
| 6 井戸 | 490 |
| 7 ピット | 492 |
| 8 溝 | 509 |
| 9 畠 | 546 |
| 10 集石遺構 | 546 |
| 第4節 3区の遺構と遺物(2)―中世区画遺構― | |
| 1 概要 | 549 |
| 2 1号区画遺構(1号屋敷) | |
| (1)掘立柱建物 | 549 |
| (2)竪穴状遺構 | 593 |
| (3)土坑 | 596 |
| (4)井戸 | 602 |
| (5)ピット | 607 |
| (6)溝 | 621 |
| 3 2号区画遺構 | |
| (1)土坑 | 632 |
| (2)石造物などが混入する土坑 | 643 |
| (3)土坑(土坑墓) | 650 |
| (4)土坑(火葬跡ほか) | 651 |
| (5)井戸 | 656 |
| (6)ピット | 657 |
| (7)溝 | 662 |
| 4 その他関連する遺構 | |
| (1)掘立柱建物 | 674 |
| (2)土坑 | 685 |
| (3)井戸 | 690 |
| (4)ピット | 691 |
| (5)溝 | 699 |
| 第5節 遺構外出土遺物 | 701 |
| 第4章 鑑定分析・自然科学分析 | |
| 第1節 鑑定分析・自然科学分析の目的 | 724 |
| 第2節 出土人骨・獣骨鑑定の結果 | 724 |
| 第3節 種実同定の結果 | 731 |
| 第5章 総括 | |
| 第1節 まとめ | |
| 1 縄文時代 | 732 |
| 2 古墳時代～平安時代 | 732 |
| 3 中世 | 739 |
| 4 近世以降 | 745 |
| 第2節 考察 | |
| 1 綿貫原北・綿貫牛道・綿貫伊勢遺跡、下滝高井前遺跡からみた中世屋敷 | 746 |
| 2 綿貫原北遺跡ほかの中世屋敷と綿貫小林前遺跡との関係 | 758 |
| 3 上滝遺跡の区画遺構群と下滝高井前遺跡との比較検討 | 764 |

挿 図 目 次

| | | | | | |
|------|--|----|-------|-------------------------|-----|
| 第1図 | 国道354号高崎玉村バイパス路線図(1:60,000) | 1 | 第60図 | 2区11号住居カマド | 81 |
| 第2図 | 遺跡位置図(国土地理院地勢図1:20,000「宇都宮」(平成18年4月1日発行(「長野」(平成10年2月1日発行)使用) | 2 | 第61図 | 2区11号住居出土遺物(1) | 82 |
| 第3図 | グリッド設定図 | 6 | 第62図 | 2区11号住居出土遺物(2) | 83 |
| 第4図 | 調査区位置図(高崎市全体図№41昭和54年度測量1:2,500) | 7 | 第63図 | 2区11号住居出土遺物(3) | 84 |
| 第5図 | 1・2区基本土層標式位置図及びトレンチ設定状況 | 8 | 第64図 | 2区11号住居出土遺物(4) | 85 |
| 第6図 | 2区全体図とトレンチ断面図 | 9 | 第65図 | 2区12号住居 | 87 |
| 第7図 | 2区トレンチ・北壁・東壁断面図 | 10 | 第66図 | 2区12号住居断面図、掘り方 | 88 |
| 第8図 | 3区基本土層 | 11 | 第67図 | 2区12号住居カマド | 89 |
| 第9図 | 明治時代前半の周辺地形図 (第一軍管地方迅速測図『倉賀野駅』(明治18年測量)を使用) | 13 | 第68図 | 2区12号住居出土遺物(1) | 90 |
| 第10図 | 遺跡周辺地形分類図(群馬県『土地分類基本調査高崎』(1993)年による) | 14 | 第69図 | 2区12号住居出土遺物(2) | 91 |
| 第11図 | 高崎・前橋台地と井野川低地帯の地下断面図 (『新編高崎市史通史編1』P.90の図30を一部改変) | 15 | 第70図 | 2区13号住居 | 93 |
| 第12図 | 周辺遺跡の分布図 | 16 | 第71図 | 2区13号住居出土遺物(1) | 94 |
| 第13図 | 3区古代・近世遺構全体図 | 25 | 第72図 | 2区13号住居出土遺物(2) | 95 |
| 第14図 | 3区中世区画遺構群全体図 | 27 | 第73図 | 2区13号住居貯蔵穴・ピット断面図 | 96 |
| 第15図 | 2区1号住居と出土遺物 | 30 | 第74図 | 2区2号竪穴状遺構と出土遺物 | 97 |
| 第16図 | 2区2号住居 | 31 | 第75図 | 2区1・2号墓 | 98 |
| 第17図 | 2区2号住居出土遺物 | 32 | 第76図 | 2区土坑(1) | 100 |
| 第18図 | 2区3号住居 | 33 | 第77図 | 2区土坑(2) | 101 |
| 第19図 | 2区3号住居出土遺物 | 34 | 第78図 | 2区1号井戸 | 102 |
| 第20図 | 2区4号住居と出土遺物 | 35 | 第79図 | 2区1～6号ピット | 102 |
| 第21図 | 2区5号住居と出土遺物 | 36 | 第80図 | 2区1号溝 | 103 |
| 第22図 | 2区6号住居 | 38 | 第81図 | 3区1号住居 | 104 |
| 第23図 | 2区6号住居断面図と菰編石長幅比グラフ | 39 | 第82図 | 3区1号住居出土遺物 | 105 |
| 第24図 | 2区6号住居カマド | 40 | 第83図 | 3区2号住居菰編石長幅比グラフ | 106 |
| 第25図 | 2区6号住居掘り方と出土遺物 | 41 | 第84図 | 3区2号住居 | 107 |
| 第26図 | 2区7・10号住居 | 42 | 第85図 | 3区2号住居掘り方と出土遺物 | 108 |
| 第27図 | 2区7号住居カマド・ピット | 43 | 第86図 | 3区4号住居 | 110 |
| 第28図 | 2区10号住居カマド | 44 | 第87図 | 3区4号住居出土遺物(1) | 111 |
| 第29図 | 2区7・10号住居掘り方と10号住居出土遺物 | 44 | 第88図 | 3区4号住居出土遺物(2) | 112 |
| 第30図 | 2区7号住居出土遺物 | 45 | 第89図 | 3区4号住居出土遺物(3) | 113 |
| 第31図 | 2区7号住居菰編石長幅比グラフ | 46 | 第90図 | 3区5号住居と出土遺物 | 114 |
| 第32図 | 2区8号住居内部遺構断面図 | 47 | 第91図 | 3区6号住居 | 115 |
| 第33図 | 2区8号住居 | 48 | 第92図 | 3区6号住居出土遺物 | 116 |
| 第34図 | 2区8号住居土器出土状態・礫出土状態 | 49 | 第93図 | 3区7・78号住居 | 117 |
| 第35図 | 2区8号住居カマドと掘り方 | 50 | 第94図 | 3区7・78号住居カマド | 118 |
| 第36図 | 2区8号住居出土遺物(1) | 51 | 第95図 | 3区7・78号住居出土遺物 | 119 |
| 第37図 | 2区8号住居出土遺物(2) | 52 | 第96図 | 3区8・82号住居と82号住居出土遺物 | 120 |
| 第38図 | 2区8号住居出土遺物(3) | 53 | 第97図 | 3区8・82号住居掘り方 | 121 |
| 第39図 | 2区8号住居出土遺物(4) | 54 | 第98図 | 3区8号住居出土遺物 | 122 |
| 第40図 | 2区8号住居出土遺物(5) | 55 | 第99図 | 3区9・83号住居とカマド | 124 |
| 第41図 | 2区8号住居出土遺物(6) | 56 | 第100図 | 3区9・83号住居掘り方と83号住居出土遺物 | 125 |
| 第42図 | 2区8号住居出土遺物(7) | 57 | 第101図 | 3区9号住居出土遺物(1) | 126 |
| 第43図 | 2区8号住居出土遺物(8) | 58 | 第102図 | 3区9号住居出土遺物(2) | 127 |
| 第44図 | 2区8号住居出土遺物(9) | 59 | 第103図 | 3区9号住居出土遺物(3) | 128 |
| 第45図 | 2区8号住居出土遺物(10) | 60 | 第104図 | 3区9号住居廃棄礫(完成品)長幅比グラフ | 129 |
| 第46図 | 2区8号住居出土遺物(11) | 61 | 第105図 | 3区10・50号住居 | 130 |
| 第47図 | 2区8号住居出土遺物(12) | 62 | 第106図 | 3区10・50号住居断面図 | 131 |
| 第48図 | 2区8号住居出土遺物(13) | 63 | 第107図 | 3区10・50号住居掘り方と10号住居出土遺物 | 132 |
| 第49図 | 2区8号住居出土遺物(14) | 64 | 第108図 | 3区50号住居出土遺物 | 133 |
| 第50図 | 2区8号住居出土遺物(15) | 65 | 第109図 | 3区11号住居 | 135 |
| 第51図 | 2区8号住居廃棄礫(完形品)長幅比グラフ | 72 | 第110図 | 3区11号住居出土遺物 | 136 |
| 第52図 | 2区9号住居 | 73 | 第111図 | 3区12・13号住居と12号住居出土遺物 | 137 |
| 第53図 | 2区9号住居断面図 | 74 | 第112図 | 3区12・13号住居掘り方 | 138 |
| 第54図 | 2区9号住居カマド | 75 | 第113図 | 3区14号住居 | 139 |
| 第55図 | 2区9号住居掘り方 | 76 | 第114図 | 3区14号住居カマドと掘り方 | 140 |
| 第56図 | 2区9号住居出土遺物(1) | 77 | 第115図 | 3区14号住居出土遺物(1) | 141 |
| 第57図 | 2区9号住居出土遺物(2) | 78 | 第116図 | 3区14号住居出土遺物(2) | 142 |
| 第58図 | 2区9号住居菰編石長幅比グラフ | 79 | 第117図 | 3区14号住居菰編石長幅比グラフ | 144 |
| 第59図 | 2区11号住居 | 80 | 第118図 | 3区15号住居 | 145 |
| | | | 第119図 | 3区15号住居掘り方 | 146 |
| | | | 第120図 | 3区16・180号住居 | 147 |
| | | | 第121図 | 3区16号住居カマドと掘り方 | 148 |

| | | | | | |
|-------|--------------------------------|-----|-------|----------------------------------|-----|
| 第122図 | 3区16号住居出土遺物 | 149 | 第188図 | 3区47号住居と出土遺物(1) | 226 |
| 第123図 | 3区180号住居カマドと掘り方 | 150 | 第189図 | 3区47号住居出土遺物(2) | 227 |
| 第124図 | 3区17号住居 | 151 | 第190図 | 3区47号住居カマド | 228 |
| 第125図 | 3区17号住居出土遺物 | 152 | 第191図 | 3区48号住居 | 230 |
| 第126図 | 3区18号住居 | 153 | 第192図 | 3区48号住居カマド・掘り方と出土遺物(1) | 231 |
| 第127図 | 3区18号住居掘り方 | 154 | 第193図 | 3区48号住居出土遺物(2) | 232 |
| 第128図 | 3区19号住居 | 156 | 第194図 | 3区51号住居 | 234 |
| 第129図 | 3区19号住居出土遺物 | 157 | 第195図 | 3区51号住居掘り方と出土遺物 | 235 |
| 第130図 | 3区20号住居 | 158 | 第196図 | 3区53号住居 | 236 |
| 第131図 | 3区20号住居掘り方と出土遺物 | 159 | 第197図 | 3区54・56・65号住居と54号住居出土遺物(1) | 237 |
| 第132図 | 3区20号住居菰編石長幅比グラフ | 160 | 第198図 | 3区54・65号住居出土遺物(2) | 238 |
| 第133図 | 3区21・29号住居 | 161 | 第199図 | 3区54・65号住居掘り方と54号住居カマド | 239 |
| 第134図 | 3区21号住居カマドと21・29号住居掘り方 | 162 | 第200図 | 3区55号住居 | 240 |
| 第135図 | 3区21号住居出土遺物 | 163 | 第201図 | 3区56号住居と出土遺物 | 241 |
| 第136図 | 3区21・29号住居出土遺物 | 164 | 第202図 | 3区57号住居 | 242 |
| 第137図 | 3区22・37号住居と22号住居カマド | 165 | 第203図 | 3区57号住居カマドと掘り方 | 243 |
| 第138図 | 3区22・37号住居掘り方と22号住居出土遺物 | 166 | 第204図 | 3区57号住居出土遺物 | 244 |
| 第139図 | 3区24号住居礫出土状態 | 167 | 第205図 | 3区58号住居 | 245 |
| 第140図 | 3区23・24号住居と23号住居カマド | 168 | 第206図 | 3区58号住居出土遺物(1) | 246 |
| 第141図 | 3区24号住居カマド、23・24号住居掘り方と出土遺物(1) | 169 | 第207図 | 3区58号住居出土遺物(2) | 247 |
| 第142図 | 3区24号住居出土遺物(2) | 170 | 第208図 | 3区59・61号住居と59号住居カマド | 248 |
| 第143図 | 3区24号住居出土遺物(3) | 171 | 第209図 | 3区59・61号住居掘り方、61号住居カマドと59号住居出土遺物 | 249 |
| 第144図 | 3区24号住居出土遺物(4) | 172 | 第210図 | 3区61号住居出土遺物 | 250 |
| 第145図 | 3区24号住居出土遺物(5) | 173 | 第211図 | 3区60号住居 | 251 |
| 第146図 | 3区24号住居廃棄礫(完成品)長幅比グラフ | 176 | 第212図 | 3区60号住居掘り方と出土遺物(1) | 252 |
| 第147図 | 3区25号住居 | 178 | 第213図 | 3区60号住居出土遺物(2) | 253 |
| 第148図 | 3区25号住居出土遺物(1) | 179 | 第214図 | 3区62・73号住居 | 256 |
| 第149図 | 3区25号住居出土遺物(2) | 180 | 第215図 | 3区62・73号住居掘り方と73号住居出土遺物 | 257 |
| 第150図 | 3区26号住居 | 182 | 第216図 | 3区62号住居断面図と出土遺物(1) | 258 |
| 第151図 | 3区26号住居カマド1・2 | 183 | 第217図 | 3区62号住居出土遺物(2) | 259 |
| 第152図 | 3区26号住居菰編石長幅比グラフ | 184 | 第218図 | 3区63号住居と出土遺物 | 260 |
| 第153図 | 3区26号住居掘り方 | 184 | 第219図 | 3区66号住居 | 261 |
| 第154図 | 3区26号住居出土遺物 | 185 | 第220図 | 3区68・69・71号住居 | 262 |
| 第155図 | 3区27号住居と出土遺物 | 186 | 第221図 | 3区68・69・71号住居掘り方と69・71号住居出土遺物 | 263 |
| 第156図 | 3区28・35・36号住居 | 188 | 第222図 | 3区70号住居 | 265 |
| 第157図 | 3区28号住居カマドとピット断面図 | 189 | 第223図 | 3区70号住居掘り方と出土遺物(1) | 266 |
| 第158図 | 3区28・35・36号住居掘り方 | 190 | 第224図 | 3区70号住居出土遺物(2) | 267 |
| 第159図 | 3区28号住居出土遺物(1) | 191 | 第225図 | 3区72号住居と出土遺物 | 268 |
| 第160図 | 3区28号住居出土遺物(2) | 192 | 第226図 | 3区72号住居掘り方 | 269 |
| 第161図 | 3区28号住居出土遺物(3) | 193 | 第227図 | 3区74号住居と出土遺物 | 270 |
| 第162図 | 3区28号住居出土遺物(4) | 194 | 第228図 | 3区75号住居と出土遺物 | 271 |
| 第163図 | 3区30号住居 | 196 | 第229図 | 3区76・80号住居と76号住居出土遺物 | 273 |
| 第164図 | 3区30号住居出土遺物 | 197 | 第230図 | 3区77号住居 | 274 |
| 第165図 | 3区31号住居と出土遺物(1) | 198 | 第231図 | 3区81号住居 | 274 |
| 第166図 | 3区31号住居と出土遺物(2) | 199 | 第232図 | 3区81号住居出土遺物 | 275 |
| 第167図 | 3区32号住居と出土遺物(1) | 200 | 第233図 | 3区84号住居 | 277 |
| 第168図 | 3区32号住居出土遺物(2) | 201 | 第234図 | 3区84号住居掘り方と出土遺物 | 278 |
| 第169図 | 3区32号住居カマドと掘り方 | 202 | 第235図 | 3区85号住居 | 279 |
| 第170図 | 3区33号住居と出土遺物 | 204 | 第236図 | 3区86・87号住居 | 280 |
| 第171図 | 3区34・183・184号住居 | 205 | 第237図 | 3区86・87号住居カマドと86号住居出土遺物 | 282 |
| 第172図 | 3区34号住居出土遺物 | 206 | 第238図 | 3区86・87号住居掘り方と87号住居出土遺物 | 283 |
| 第173図 | 3区183号住居出土遺物 | 207 | 第239図 | 3区88・89号住居 | 285 |
| 第174図 | 3区38号住居と出土遺物 | 210 | 第240図 | 3区89号住居カマドと出土遺物 | 286 |
| 第175図 | 3区39・40号住居と出土遺物 | 211 | 第241図 | 3区88・89号住居掘り方と88号住居出土遺物 | 287 |
| 第176図 | 3区39・40号住居掘り方 | 212 | 第242図 | 3区90号住居 | 289 |
| 第177図 | 3区41号住居 | 213 | 第243図 | 3区90号住居カマド・住居内土坑と出土遺物 | 290 |
| 第178図 | 3区42号住居 | 214 | 第244図 | 3区90号住居掘り方 | 291 |
| 第179図 | 3区43号住居 | 215 | 第245図 | 3区91号住居と出土遺物 | 293 |
| 第180図 | 3区43号住居出土遺物 | 216 | 第246図 | 3区92号住居と出土遺物(1) | 294 |
| 第181図 | 3区44・49・64号住居 | 218 | 第247図 | 3区92号住居出土遺物(2) | 295 |
| 第182図 | 3区44・49号住居カマド | 219 | 第248図 | 3区93号住居と出土遺物 | 296 |
| 第183図 | 3区44・49・64号住居掘り方と64号住居出土遺物 | 220 | 第249図 | 3区93号住居掘り方 | 297 |
| 第184図 | 3区44・49号住居出土遺物 | 221 | 第250図 | 3区94号住居 | 298 |
| 第185図 | 3区45号住居 | 223 | 第251図 | 3区94号住居出土遺物(1) | 299 |
| 第186図 | 3区45号住居出土遺物 | 224 | 第252図 | 3区94号住居掘り方と出土遺物(2) | 300 |
| 第187図 | 3区46号住居と出土遺物 | 225 | 第253図 | 3区95・99・107号住居と出土遺物 | 303 |

| | | | | | |
|-------|--------------------------------|-----|-------|-------------------------------|-----|
| 第254図 | 3区96・104号住居と96号住居カマド | 304 | 第320図 | 3区135号住居出土遺物(1) | 382 |
| 第255図 | 3区96・104号住居掘り方 | 305 | 第321図 | 3区135号住居出土遺物(2) | 383 |
| 第256図 | 3区96号住居出土遺物 | 306 | 第322図 | 3区135号住居出土遺物(3) | 384 |
| 第257図 | 3区104号住居出土遺物 | 307 | 第323図 | 3区135号住居出土遺物(4) | 386 |
| 第258図 | 3区97号住居 | 309 | 第324図 | 3区136・165号住居 | 387 |
| 第259図 | 3区97号住居出土遺物(1) | 310 | 第325図 | 3区136号住居出土遺物 | 388 |
| 第260図 | 3区97号住居出土遺物(2) | 311 | 第326図 | 3区137・138号住居と137号住居カマド | 389 |
| 第261図 | 3区98号住居と出土遺物(1) | 314 | 第327図 | 3区137号住居出土遺物(1) | 390 |
| 第262図 | 3区98号住居掘り方と出土遺物(2) | 315 | 第328図 | 3区137・138号住居掘り方と137号住居出土遺物(2) | 391 |
| 第263図 | 3区100号住居と出土遺物 | 316 | 第329図 | 3区138号住居出土遺物 | 393 |
| 第264図 | 3区100号住居掘り方 | 317 | 第330図 | 3区139・140号住居と139号住居カマド | 394 |
| 第265図 | 3区101号住居と出土遺物 | 319 | 第331図 | 3区139・140号住居出土遺物 | 395 |
| 第266図 | 3区102号住居 | 320 | 第332図 | 3区141・142号住居と141号住居出土遺物 | 397 |
| 第267図 | 3区102号住居カマドと掘り方 | 321 | 第333図 | 3区141号住居カマドと142号住居出土遺物 | 398 |
| 第268図 | 3区102号住居出土遺物 | 322 | 第334図 | 3区141・142号住居掘り方と142号住居カマド | 399 |
| 第269図 | 3区103号住居 | 323 | 第335図 | 3区146号住居菰編石長幅比グラフ | 400 |
| 第270図 | 3区105号住居と出土遺物 | 324 | 第336図 | 3区145号住居と出土遺物 | 401 |
| 第271図 | 3区106号住居 | 326 | 第337図 | 3区146号住居 | 401 |
| 第272図 | 3区108号住居 | 326 | 第338図 | 3区146号住居カマド1・2と出土遺物 | 402 |
| 第273図 | 3区108号住居出土遺物 | 327 | 第339図 | 3区147号住居と出土遺物 | 403 |
| 第274図 | 3区109号住居と出土遺物 | 328 | 第340図 | 3区147号住居掘り方 | 404 |
| 第275図 | 3区110号住居 | 329 | 第341図 | 3区148号住居と出土遺物 | 406 |
| 第276図 | 3区110号住居出土遺物 | 330 | 第342図 | 3区150・169号住居と169号住居出土遺物 | 407 |
| 第277図 | 3区111号住居出土遺物 | 331 | 第343図 | 3区150号住居出土遺物 | 408 |
| 第278図 | 3区112号住居 | 332 | 第344図 | 3区150・169号住居掘り方 | 409 |
| 第279図 | 3区112号住居カマド1・2 | 333 | 第345図 | 3区151・153号住居 | 411 |
| 第280図 | 3区112号住居掘り方 | 334 | 第346図 | 3区151号住居カマドと153号住居ピット・貯蔵穴断面図 | 412 |
| 第281図 | 3区112号住居出土遺物 | 335 | 第347図 | 3区151号住居出土遺物 | 413 |
| 第282図 | 3区113号住居 | 337 | 第348図 | 3区153号住居カマド1・2 | 414 |
| 第283図 | 3区113号住居出土遺物 | 338 | 第349図 | 3区151・153号住居掘り方 | 415 |
| 第284図 | 3区114号住居 | 339 | 第350図 | 3区151・153号住居内土坑断面図 | 416 |
| 第285図 | 3区114号住居掘り方と出土遺物(1) | 340 | 第351図 | 3区153号住居内ピット断面図 | 417 |
| 第286図 | 3区114号住居出土遺物(2) | 341 | 第352図 | 3区153号住居出土遺物(1) | 418 |
| 第287図 | 3区114号住居出土遺物(3) | 342 | 第353図 | 3区153号住居出土遺物(2) | 419 |
| 第288図 | 3区115号住居と出土遺物(1) | 343 | 第354図 | 3区153号住居出土遺物(3) | 420 |
| 第289図 | 3区115号住居出土遺物(2) | 334 | 第355図 | 3区153号住居菰編石長幅比グラフ | 422 |
| 第290図 | 3区116・117号住居 | 346 | 第356図 | 3区152・160・166号住居と166号住居出土遺物 | 423 |
| 第291図 | 3区116・117号住居カマドと116号住居出土遺物 | 347 | 第357図 | 3区154号住居 | 424 |
| 第292図 | 3区116・117号住居掘り方 | 348 | 第358図 | 3区154号住居出土遺物 | 425 |
| 第293図 | 3区117号住居出土遺物 | 350 | 第359図 | 3区155号住居と出土遺物 | 426 |
| 第294図 | 3区117号住居菰編石長幅比グラフ | 350 | 第360図 | 3区156号住居と出土遺物 | 427 |
| 第295図 | 3区118号住居 | 351 | 第361図 | 3区157号住居と出土遺物 | 427 |
| 第296図 | 3区119号住居と出土遺物 | 352 | 第362図 | 3区158号住居 | 430 |
| 第297図 | 3区120号住居 | 353 | 第363図 | 3区158号住居掘り方と出土遺物 | 431 |
| 第298図 | 3区121・124号住居と124号住居カマド | 354 | 第364図 | 3区161号住居と出土遺物 | 432 |
| 第299図 | 3区121・124号住居掘り方と121号住居出土遺物 | 355 | 第365図 | 3区162号住居 | 434 |
| 第300図 | 3区124号住居出土遺物(1) | 357 | 第366図 | 3区162号住居掘り方 | 435 |
| 第301図 | 3区124号住居出土遺物(2) | 358 | 第367図 | 3区162号住居内土坑・ピット断面と出土遺物 | 436 |
| 第302図 | 3区122号住居 | 359 | 第368図 | 3区164号住居と出土遺物 | 437 |
| 第303図 | 3区122号住居掘り方と出土遺物 | 360 | 第369図 | 3区164号住居内ピット・土坑断面図 | 438 |
| 第304図 | 3区123号住居と出土遺物 | 362 | 第370図 | 3区167・168号住居 | 439 |
| 第305図 | 3区125号住居 | 363 | 第371図 | 3区168号住居カマド・掘り方と出土遺物 | 440 |
| 第306図 | 3区125号住居出土遺物 | 364 | 第372図 | 3区167号住居出土遺物 | 441 |
| 第307図 | 3区126・127号住居 | 366 | 第373図 | 3区170号住居 | 442 |
| 第308図 | 3区126号住居掘り方と出土遺物 | 367 | 第374図 | 3区170号住居出土遺物 | 443 |
| 第309図 | 3区127号住居掘り方と126号住居カマド | 368 | 第375図 | 3区171号住居 | 445 |
| 第310図 | 3区127号住居カマドと出土遺物 | 369 | 第376図 | 3区172号住居と出土遺物 | 445 |
| 第311図 | 3区128号住居 | 370 | 第377図 | 3区173・174号住居 | 447 |
| 第312図 | 3区129号住居と出土遺物 | 371 | 第378図 | 3区173号住居カマド他と出土遺物 | 448 |
| 第313図 | 3区130～132・143・144号住居と143号住居カマド | 374 | 第379図 | 3区173・174号住居掘り方 | 449 |
| 第314図 | 3区130～132・143・144号住居掘り方 | 375 | 第380図 | 3区174号住居内土坑・ピット断面図 | 450 |
| 第315図 | 3区130・131・143号住居出土遺物 | 376 | 第381図 | 3区174号住居出土遺物(1) | 451 |
| 第316図 | 3区134号住居と出土遺物 | 378 | 第382図 | 3区174号住居出土遺物(2) | 452 |
| 第317図 | 3区135・149号住居 | 379 | 第383図 | 3区174号住居出土遺物(3) | 453 |
| 第318図 | 3区135・149号住居掘り方 | 380 | 第384図 | 3区176号住居と出土遺物 | 455 |
| 第319図 | 3区135・149号住居カマドと149号住居出土遺物 | 381 | 第385図 | 3区177号住居 | 456 |

| | | | | | |
|-------|--|-----|-------|---|-----|
| 第386図 | 3区177号住居出土遺物 | 457 | 第451図 | 3区39号溝と39号溝内ピット群 | 535 |
| 第387図 | 3区177号住居菰編石長幅比グラフ | 458 | 第452図 | 3区39号溝内ピット群断面図 | 536 |
| 第388図 | 3区178号住居 | 459 | 第453図 | 3区40・41・66～73号溝と40号溝出土遺物 | 537 |
| 第389図 | 3区178号住居掘り方 | 460 | 第454図 | 3区49・50号溝 | 540 |
| 第390図 | 3区178号住居出土遺物 | 461 | 第455図 | 3区58・59号溝と58号溝出土遺物 | 541 |
| 第391図 | 3区179号住居と出土遺物 | 462 | 第456図 | 3区60・63・64号溝 | 542 |
| 第392図 | 3区181・182号住居 | 463 | 第457図 | 3区60号溝出土遺物 | 543 |
| 第393図 | 3区185号住居と出土遺物 | 464 | 第458図 | 3区61号溝 | 544 |
| 第394図 | 3区186・187号住居 | 465 | 第459図 | 3区61号溝出土遺物 | 545 |
| 第395図 | 3区1号掘立柱建物 | 466 | 第460図 | 3区1号畠 | 546 |
| 第396図 | 3区43号掘立柱建物 | 466 | 第461図 | 3区1号集石遺構と出土遺物(1) | 547 |
| 第397図 | 3区56号掘立柱建物 | 468 | 第462図 | 3区1号集石遺構出土遺物(2) | 548 |
| 第398図 | 3区57号掘立柱建物 | 469 | 第463図 | 3区1号屋敷全体図 | 551 |
| 第399図 | 3区1～3・8・9号竪穴状遺構と 3・8・9号竪穴状遺構出土遺物 | 470 | 第464図 | 3区1号屋敷掘立柱建物分布図(1) | 552 |
| 第400図 | 3区10号竪穴状遺構と出土遺物 | 471 | 第465図 | 3区1号屋敷掘立柱建物分布図(2) | 553 |
| 第401図 | 3区1～6・14・15・19・30号土坑 | 473 | 第466図 | 3区1号屋敷掘立柱建物分布図(3) | 554 |
| 第402図 | 3区31・32・35・37～39・44・45・53・54・56・58号土坑 | 475 | 第467図 | 3区3号掘立柱建物 | 556 |
| 第403図 | 3区55・71・72・86・116・117・129・131・162～166・181号土坑 | 477 | 第468図 | 3区4A号掘立柱建物 | 557 |
| 第404図 | 3区182～188・190～195・211・212・215号土坑 | 479 | 第469図 | 3区4B号掘立柱建物 | 558 |
| 第405図 | 3区197～206・219号土坑 | 481 | 第470図 | 3区5号掘立柱建物 | 560 |
| 第406図 | 3区208～210・213・214・216～218・220～223号土坑 | 484 | 第471図 | 3区6号掘立柱建物 | 560 |
| 第407図 | 3区224～235・237号土坑 | 485 | 第472図 | 3区7号掘立柱建物 | 561 |
| 第408図 | 3区土坑出土遺物(1) | 486 | 第473図 | 3区9号掘立柱建物 | 561 |
| 第409図 | 3区土坑出土遺物(2) | 487 | 第474図 | 3区10号掘立柱建物 | 564 |
| 第410図 | 3区土坑出土遺物(3) | 488 | 第475図 | 3区11号掘立柱建物 | 564 |
| 第411図 | 3区土坑出土遺物(4) | 489 | 第476図 | 3区12号掘立柱建物 | 565 |
| 第412図 | 3区1・12・13号井戸と13号井戸出土遺物 | 491 | 第477図 | 3区13号掘立柱建物 | 565 |
| 第413図 | 3区ピット(1) | 493 | 第478図 | 3区14号掘立柱建物 | 566 |
| 第414図 | 3区ピット(1)断面図(1) | 494 | 第479図 | 3区15号掘立柱建物 | 566 |
| 第415図 | 3区ピット(1)断面図(2) | 495 | 第480図 | 3区16号掘立柱建物 | 569 |
| 第416図 | 3区ピット(2) | 496 | 第481図 | 3区19号掘立柱建物 | 569 |
| 第417図 | 3区ピット(2)断面図(1) | 497 | 第482図 | 3区17号掘立柱建物 | 570 |
| 第418図 | 3区ピット(2)断面図(2) | 499 | 第483図 | 3区20号掘立柱建物 | 570 |
| 第419図 | 3区ピット(3) | 499 | 第484図 | 3区21号掘立柱建物 | 573 |
| 第420図 | 3区ピット(4) | 500 | 第485図 | 3区22号掘立柱建物 | 574 |
| 第421図 | 3区ピット(5) | 501 | 第486図 | 3区23号掘立柱建物と出土遺物 | 574 |
| 第422図 | 3区ピット(6) | 501 | 第487図 | 3区24・25号掘立柱建物 | 576 |
| 第423図 | 3区ピット(7) | 502 | 第488図 | 3区26・27号掘立柱建物 | 577 |
| 第424図 | 3区ピット(8)とピット出土遺物 | 503 | 第489図 | 3区28号掘立柱建物 | 579 |
| 第425図 | 3区ピット(9) | 504 | 第490図 | 3区29号掘立柱建物 | 580 |
| 第426図 | 3区個別ピット位置図 | 505 | 第491図 | 3区30号掘立柱建物 | 580 |
| 第427図 | 3区ピット(10) | 506 | 第492図 | 3区34号掘立柱建物 | 583 |
| 第428図 | 3区ピット(11) | 507 | 第493図 | 3区35号掘立柱建物 | 583 |
| 第429図 | 3区ピット(12) | 508 | 第494図 | 3区39号掘立柱建物 | 584 |
| 第430図 | 3区2・4号溝 | 510 | 第495図 | 3区40号掘立柱建物 | 584 |
| 第431図 | 3区2号溝出土遺物 | 511 | 第496図 | 3区45号掘立柱建物 | 587 |
| 第432図 | 3区3・5号溝と5号溝出土遺物 | 512 | 第497図 | 3区46号掘立柱建物 | 587 |
| 第433図 | 3区6号溝と出土遺物(1) | 513 | 第498図 | 3区47号掘立柱建物 | 588 |
| 第434図 | 3区6号溝北半部遺物出土状態 | 514 | 第499図 | 3区48号掘立柱建物 | 588 |
| 第435図 | 3区6号溝出土遺物(2) | 515 | 第500図 | 3区49・51号掘立柱建物 | 590 |
| 第436図 | 3区6号溝出土遺物(3) | 516 | 第501図 | 3区50号掘立柱建物 | 592 |
| 第437図 | 3区6号溝出土遺物(4) | 517 | 第502図 | 3区52号掘立柱建物 | 593 |
| 第438図 | 3区6号溝出土遺物(5) | 518 | 第503図 | 3区4号竪穴状遺構 | 594 |
| 第439図 | 3区6号溝出土遺物(6) | 519 | 第504図 | 3区5・6・7号竪穴状遺構 | 595 |
| 第440図 | 3区8号溝 | 522 | 第505図 | 3区7号竪穴状遺構出土遺物 | 596 |
| 第441図 | 3区8号溝出土遺物 | 523 | 第506図 | 3区57・59～63・65・66・115号土坑 | 598 |
| 第442図 | 3区9・10号溝と9号溝出土遺物 | 524 | 第507図 | 3区67・68・70・95・97・110・111・118～120・122号土坑 | 599 |
| 第443図 | 3区10号溝出土遺物 | 525 | 第508図 | 3区123・124・126～128・139・170・178号土坑と 土坑出土遺物 | 600 |
| 第444図 | 3区11・12号溝 | 526 | 第509図 | 3区3～7号井戸と6号井戸出土遺物 | 603 |
| 第445図 | 3区13・15・45・46号溝と15号溝出土遺物 | 527 | 第510図 | 3区9～11号井戸と5・9号井戸出土遺物 | 604 |
| 第446図 | 3区25号溝 | 528 | 第511図 | 3区11号井戸出土遺物 | 605 |
| 第447図 | 3区32・33・35号溝 | 529 | 第512図 | 3区屋敷内ピット(1) | 610 |
| 第448図 | 3区34号溝 | 530 | 第513図 | 3区屋敷内ピット(1)断面図(1) | 611 |
| 第449図 | 3区37・38号溝 | 532 | 第514図 | 3区屋敷内ピット(1)断面図(2) | 612 |
| 第450図 | 3区38号溝出土遺物 | 533 | 第515図 | 3区屋敷内ピット(2) | 613 |

| | | | | | |
|-------|--|-----|-------|---|-----|
| 第516図 | 3区屋敷内ピット(2)断面図(1)と635号ピット出土遺物 | 614 | 第580図 | 3区その他関連ピット(2)断面図(1) | 696 |
| 第517図 | 3区屋敷内ピット(2)断面図(2) | 615 | 第581図 | 3区その他関連ピット(2)断面図(2) | 697 |
| 第518図 | 3区屋敷内ピット(2)断面図(3) | 616 | 第582図 | 3区その他関連ピット(2)断面図(3) | 698 |
| 第519図 | 3区709号ピット出土遺物(1) | 617 | 第583図 | 3区1号溝と出土遺物 | 699 |
| 第520図 | 3区709号ピット出土遺物(2) | 618 | 第584図 | 3区7号溝 | 700 |
| 第521図 | 3区屋敷内ピット(3) | 619 | 第585図 | 3区14号溝と出土遺物 | 701 |
| 第522図 | 3区屋敷内ピット(3)断面図 | 620 | 第586図 | 遺構外出土遺物(1) | 702 |
| 第523図 | 3区17号溝と出土遺物 | 621 | 第587図 | 遺構外出土遺物(2) | 703 |
| 第524図 | 3区16・27号溝 | 622 | 第588図 | 遺構外出土遺物(3) | 704 |
| 第525図 | 3区16・27号溝出土遺物 | 623 | 第589図 | 遺構外出土遺物(4) | 705 |
| 第526図 | 3区18・56号溝と56号溝出土遺物 | 625 | 第590図 | 遺構外出土遺物(5) | 706 |
| 第527図 | 3区19・20・23・24号溝と20号溝出土遺物 | 626 | 第591図 | 遺構外出土遺物(6) | 707 |
| 第528図 | 3区21・22・42A・43号溝 | 628 | 第592図 | 遺構外出土遺物(7) | 708 |
| 第529図 | 3区42B・44・54号溝 | 629 | 第593図 | 遺構外出土遺物(8) | 709 |
| 第530図 | 3区47・48・51・52・55・57号溝 | 630 | 第594図 | 遺構外出土遺物(9) | 710 |
| 第531図 | 3区52号溝出土遺物 | 631 | 第595図 | 住居変遷図(1) | 734 |
| 第532図 | 3区2号区画遺構と西側周辺部 | 633 | 第596図 | 住居変遷図(2) | 735 |
| 第533図 | 3区73～75・77・78・81・83・85・87～89・91・ 92・94号土坑 | 634 | 第597図 | 住居変遷図(3) | 736 |
| 第534図 | 3区93・99～103・105～108・113・114・121号土坑 | 635 | 第598図 | 3区1号屋敷建物変遷案 | 740 |
| 第535図 | 3区130・132・135・136・138・140～142・146～148・ 155・156号土坑 | 638 | 第599図 | 3区1号屋敷全体図 | 741 |
| 第536図 | 3区149・150～153・158・159・161・167～169号土坑 | 639 | 第600図 | 3区2号区画遺構と土坑、出土遺物 | 744 |
| 第537図 | 3区172・174B・175～177・179・180号土坑と出土遺物 | 642 | 第601図 | 在地系土器の参考例 | 745 |
| 第538図 | 3区90・112・134・137・157・160・171号土坑 | 644 | 第602図 | 中世屋敷出土遺物年代および配置図 | 747 |
| 第539図 | 3区90号土坑出土遺物 | 645 | 第603図 | 綿貫牛道遺跡1区1号屋敷 | 749 |
| 第540図 | 3区90・112号土坑出土遺物 | 646 | 第604図 | 綿貫原北遺跡2区1号屋敷内建物分類別分布図 | 750 |
| 第541図 | 3区112・157・160号土坑出土遺物 | 647 | 第605図 | 綿貫原北遺跡3区1号屋敷建物変遷案 | 751 |
| 第542図 | 3区171号土坑出土遺物 | 648 | 第606図 | 綿貫牛道遺跡1区2類建物変遷案 | 752 |
| 第543図 | 3区76・79号土坑(土坑墓)と出土遺物 | 650 | 第607図 | 綿貫伊勢遺跡2区1号屋敷建物の分類と変遷案 | 753 |
| 第544図 | 3区80・82・96・98・109・133・143号土坑 | 653 | 第608図 | 綿貫小林前遺跡P東区中世屋敷(報告書第6・7図編集) | 759 |
| 第545図 | 3区144・145・173・174A号土坑 | 654 | 第609図 | 綿貫地域遺跡配置図 | 760 |
| 第546図 | 3区土坑(火葬跡)出土遺物 | 655 | 第610図 | 綿貫小林前遺跡溝跡113～116・118・119遺構図 (報告書第729図転載) | 761 |
| 第547図 | 3区8号井戸 | 656 | 第611図 | 綿貫小林前遺跡 道跡9(古)・同10遺構図 (報告書第802図転載) | 763 |
| 第548図 | 3区2号区画周辺ピット(1) | 658 | 第612図 | 上滝遺跡B地区全体図(報告書第24図より転載) | 765 |
| 第549図 | 3区2号区画周辺ピット(1)断面図 | 659 | 第613図 | 上滝遺跡B1区土壌群(報告書第45図転載) | 766 |
| 第550図 | 3区2号区画周辺ピット(2)と637号ピット出土遺物 | 660 | | | |
| 第551図 | 3区2号区画周辺ピット(2)断面図 | 661 | | | |
| 第552図 | 3区26号溝と出土遺物 | 662 | | | |
| 第553図 | 3区28号溝と出土遺物(1) | 664 | | | |
| 第554図 | 3区28号溝出土遺物(2) | 665 | | | |
| 第555図 | 3区28号溝出土遺物(3) | 666 | | | |
| 第556図 | 3区28号溝出土遺物(4) | 667 | | | |
| 第557図 | 3区29号溝出土遺物(1) | 668 | | | |
| 第558図 | 3区29・30・31・36号溝と31号溝出土遺物 | 669 | | | |
| 第559図 | 3区29号溝出土遺物(2) | 671 | | | |
| 第560図 | 3区53号溝 | 673 | | | |
| 第561図 | 3区その他周辺掘立柱建物分布図 | 675 | | | |
| 第562図 | 3区31号掘立柱建物 | 676 | | | |
| 第563図 | 3区32号掘立柱建物 | 676 | | | |
| 第564図 | 3区33号掘立柱建物 | 678 | | | |
| 第565図 | 3区37号掘立柱建物 | 678 | | | |
| 第566図 | 3区38号掘立柱建物 | 680 | | | |
| 第567図 | 3区42号掘立柱建物 | 680 | | | |
| 第568図 | 3区44号掘立柱建物 | 682 | | | |
| 第569図 | 3区53号掘立柱建物 | 682 | | | |
| 第570図 | 3区54号掘立柱建物 | 684 | | | |
| 第571図 | 3区55号掘立柱建物 | 684 | | | |
| 第572図 | 3区7～13・20～24・29号土坑 | 686 | | | |
| 第573図 | 3区25・27・33・34・40～43・46・49号土坑 | 687 | | | |
| 第574図 | 3区48・50～52・104・189号土坑と出土遺物 | 689 | | | |
| 第575図 | 3区2号井戸と出土遺物 | 690 | | | |
| 第576図 | 3区その他関連ピット(1)と318号ピット出土遺物 | 692 | | | |
| 第577図 | 3区その他関連ピット(1)断面図(1) | 693 | | | |
| 第578図 | 3区その他関連ピット(1)断面図(2) | 694 | | | |
| 第579図 | 3区その他関連ピット(2)と60・136・166号ピット出土遺物 | 695 | | | |

目 次

| | | | | | |
|------|-------------------|---------|-------|----------------------|---------|
| 第1表 | 周边遺跡一覽 | 19~21 | 第66表 | 3区61号住居出土遺物 | 250 |
| 第2表 | 2区1号住居出土遺物 | 30 | 第67表 | 3区60号住居出土遺物 | 254 |
| 第3表 | 2区2号住居出土遺物 | 32 | 第68表 | 3区73号住居出土遺物 | 255 |
| 第4表 | 2区3号住居出土遺物 | 34 | 第69表 | 3区62号住居出土遺物 | 259・260 |
| 第5表 | 2区4号住居出土遺物 | 36 | 第70表 | 3区63号住居出土遺物 | 260 |
| 第6表 | 2区5号住居出土遺物 | 36 | 第71表 | 3区69・71号住居出土遺物 | 264 |
| 第7表 | 2区6号住居出土遺物 | 39 | 第72表 | 3区70号住居出土遺物 | 267 |
| 第8表 | 2区7号住居出土遺物 | 46 | 第73表 | 3区72号住居出土遺物 | 269 |
| 第9表 | 2区10号住居出土遺物 | 46 | 第74表 | 3区74・75・76号住居出土遺物 | 272 |
| 第10表 | 2区8号住居出土遺物 | 66~69 | 第75表 | 3区81号住居出土遺物 | 276 |
| 第11表 | 2区8号住居非掲載廢棄礫一覽 | 69~71 | 第76表 | 3区84号住居出土遺物 | 279 |
| 第12表 | 2区9号住居出土遺物 | 79 | 第77表 | 3区86・87号住居出土遺物 | 281 |
| 第13表 | 2区11号住居出土遺物 | 85・86 | 第78表 | 3区89・88号住居出土遺物 | 284 |
| 第14表 | 2区12号住居出土遺物 | 92 | 第79表 | 3区90号住居出土遺物 | 288 |
| 第15表 | 2区13号住居出土遺物 | 96・97 | 第80表 | 3区91・92号住居出土遺物 | 292 |
| 第16表 | 2区2号竪穴状遺構出土遺物 | 97 | 第81表 | 3区93号住居出土遺物 | 295 |
| 第17表 | 3区1号住居出土遺物 | 105 | 第82表 | 3区94号住居出土遺物 | 301 |
| 第18表 | 3区2号住居出土遺物 | 106 | 第83表 | 3区95・99・107号住居出土遺物 | 302 |
| 第19表 | 3区4号住居出土遺物 | 113 | 第84表 | 3区96号住居出土遺物 | 307 |
| 第20表 | 3区5号住居出土遺物 | 114 | 第85表 | 3区104号住居出土遺物 | 308 |
| 第21表 | 3区6号住居出土遺物 | 116 | 第86表 | 3区97号住居出土遺物 | 312・313 |
| 第22表 | 3区7・78号住居出土遺物 | 119 | 第87表 | 3区98号住居出土遺物 | 313 |
| 第23表 | 3区82号住居出土遺物 | 121 | 第88表 | 3区100号住居出土遺物 | 317 |
| 第24表 | 3区8号住居出土遺物 | 123 | 第89表 | 3区101号住居出土遺物 | 318 |
| 第25表 | 3区83号住居出土遺物 | 125 | 第90表 | 3区102号住居出土遺物 | 322・323 |
| 第26表 | 3区9号住居出土遺物 | 128・129 | 第91表 | 3区105号住居出土遺物 | 325 |
| 第27表 | 3区9号住居廢棄礫一覽 | 129 | 第92表 | 3区108号住居出土遺物 | 327 |
| 第28表 | 3区10・50号住居出土遺物 | 134 | 第93表 | 3区109号住居出土遺物 | 328 |
| 第29表 | 3区11号住居出土遺物 | 136 | 第94表 | 3区110号住居出土遺物 | 330 |
| 第30表 | 3区12号住居出土遺物 | 138 | 第95表 | 3区111号住居出土遺物 | 331 |
| 第31表 | 3区14号住居出土遺物 | 143・144 | 第96表 | 3区112号住居出土遺物 | 336 |
| 第32表 | 3区16号住居出土遺物 | 149・150 | 第97表 | 3区113号住居出土遺物 | 338 |
| 第33表 | 3区17号住居出土遺物 | 152 | 第98表 | 3区114号住居出土遺物(1) | 342 |
| 第34表 | 3区19号住居出土遺物 | 157 | 第99表 | 3区114号住居出土遺物(2) | 345 |
| 第35表 | 3区20号住居出土遺物 | 160 | 第100表 | 3区115号住居出土遺物 | 345 |
| 第36表 | 3区21・29号住居出土遺物 | 164・165 | 第101表 | 3区116号住居出土遺物 | 349 |
| 第37表 | 3区22号住居出土遺物 | 166 | 第102表 | 3区117号住居出土遺物 | 350 |
| 第38表 | 3区23・24号住居出土遺物 | 174・175 | 第103表 | 3区119号住居出土遺物 | 352 |
| 第39表 | 3区24号住居廢棄礫一覽 | 176 | 第104表 | 3区121号住居出土遺物 | 356 |
| 第40表 | 3区25号住居出土遺物 | 177 | 第105表 | 3区124号住居出土遺物(1) | 358 |
| 第41表 | 3区26号住居出土遺物(1) | 181 | 第106表 | 3区124号住居出土遺物(2) | 361 |
| 第42表 | 3区26号住居出土遺物(2) | 184 | 第107表 | 3区122号住居出土遺物 | 361 |
| 第43表 | 3区27号住居出土遺物 | 186 | 第108表 | 3区123号住居出土遺物 | 362 |
| 第44表 | 3区28号住居出土遺物(1) | 187 | 第109表 | 3区125号住居出土遺物 | 364・365 |
| 第45表 | 3区28号住居出土遺物(2) | 195 | 第110表 | 3区126号住居出土遺物 | 365 |
| 第46表 | 3区30号住居出土遺物 | 197 | 第111表 | 3区127号住居出土遺物 | 369 |
| 第47表 | 3区31号住居出土遺物 | 199 | 第112表 | 3区129号住居出土遺物 | 372 |
| 第48表 | 3区32号住居出土遺物 | 203 | 第113表 | 3区130・131・143号住居出土遺物 | 373 |
| 第49表 | 3区33号住居出土遺物 | 207 | 第114表 | 3区134号住居出土遺物 | 377 |
| 第50表 | 3区34号住居出土遺物 | 208 | 第115表 | 3区149号住居出土遺物 | 381 |
| 第51表 | 3区183号住居出土遺物 | 208 | 第116表 | 3区135号住居出土遺物 | 385・386 |
| 第52表 | 3区38・39・40号住居出土遺物 | 209 | 第117表 | 3区136号住居出土遺物 | 388 |
| 第53表 | 3区43号住居出土遺物 | 216 | 第118表 | 3区137号住居出土遺物(1) | 390 |
| 第54表 | 3区64・44・49号住居出土遺物 | 217 | 第119表 | 3区137号住居出土遺物(2) | 392 |
| 第55表 | 3区45号住居出土遺物 | 223 | 第120表 | 3区138号住居出土遺物 | 393 |
| 第56表 | 3区46号住居出土遺物 | 225 | 第121表 | 3区139・140号住居出土遺物 | 396 |
| 第57表 | 3区47号住居出土遺物 | 228・229 | 第122表 | 3区141号住居出土遺物 | 398 |
| 第58表 | 3区48号住居出土遺物 | 229 | 第123表 | 3区142号住居出土遺物 | 400 |
| 第59表 | 3区51号住居出土遺物 | 235 | 第124表 | 3区145・146号住居出土遺物 | 400 |
| 第60表 | 3区54・65号住居出土遺物 | 239・240 | 第125表 | 3区147号住居出土遺物 | 404 |
| 第61表 | 3区56号住居出土遺物 | 241 | 第126表 | 3区148号住居出土遺物 | 405 |
| 第62表 | 3区57号住居出土遺物 | 244 | 第127表 | 3区169号住居出土遺物 | 407 |
| 第63表 | 3区58号住居出土遺物(1) | 245 | 第128表 | 3区150号住居出土遺物 | 409 |
| 第64表 | 3区58号住居出土遺物(2) | 247 | 第129表 | 3区151号住居出土遺物 | 410 |
| 第65表 | 3区59号住居出土遺物 | 250 | 第130表 | 3区153号住居出土遺物 | 420~422 |
| | | | 第131表 | 3区166号住居出土遺物 | 422 |
| | | | 第132表 | 3区154号住居出土遺物 | 425 |
| | | | 第133表 | 3区155号住居出土遺物 | 427 |

| | | | | | |
|-------|------------------------|---------|-------|---------------------------------|---------|
| 第134表 | 3区156号住居出土遺物と出土遺物 | 427 | 第201表 | 3区26号掘立柱建物計測値 | 578 |
| 第135表 | 3区157号住居出土遺物 | 428 | 第202表 | 3区27号掘立柱建物計測値 | 581 |
| 第136表 | 3区158号住居出土遺物 | 432 | 第203表 | 3区28号掘立柱建物計測値 | 581 |
| 第137表 | 3区161号住居出土遺物 | 432 | 第204表 | 3区29号掘立柱建物計測値 | 581 |
| 第138表 | 3区162号住居出土遺物 | 433 | 第205表 | 3区30号掘立柱建物計測値 | 581 |
| 第139表 | 3区164号住居出土遺物 | 438 | 第206表 | 3区34号掘立柱建物計測値 | 585 |
| 第140表 | 3区167号住居出土遺物 | 441 | 第207表 | 3区35号掘立柱建物計測値 | 585 |
| 第141表 | 3区168号住居出土遺物 | 441 | 第208表 | 3区39号掘立柱建物計測値 | 585 |
| 第142表 | 3区170号住居出土遺物 | 444 | 第209表 | 3区40号掘立柱建物計測値 | 585 |
| 第143表 | 3区172号住居出土遺物 | 444 | 第210表 | 3区45号掘立柱建物計測値 | 585 |
| 第144表 | 3区173号住居出土遺物 | 446 | 第211表 | 3区47号掘立柱建物出土遺物 | 587 |
| 第145表 | 3区174号住居出土遺物(1) | 454 | 第212表 | 3区46号掘立柱建物計測値 | 589 |
| 第146表 | 3区174号住居出土遺物(2) | 455 | 第213表 | 3区47号掘立柱建物計測値 | 589 |
| 第147表 | 3区176号住居出土遺物 | 455 | 第214表 | 3区48号掘立柱建物計測値 | 589 |
| 第148表 | 3区177号住居出土遺物 | 458 | 第215表 | 3区49号掘立柱建物計測値 | 589 |
| 第149表 | 3区178号住居出土遺物 | 462 | 第216表 | 3区50号掘立柱建物計測値 | 589 |
| 第150表 | 3区179号住居出土遺物 | 462 | 第217表 | 3区51・52号掘立柱建物計測値 | 592 |
| 第151表 | 3区185号住居出土遺物 | 464 | 第218表 | 3区7号竪穴状遺構出土遺物 | 594 |
| 第152表 | 3区1号掘立柱建物計測値 | 467 | 第219表 | 3区土坑出土遺物 | 602 |
| 第153表 | 3区43号掘立柱建物計測値 | 467 | 第220表 | 3区11号井戸出土遺物 | 605 |
| 第154表 | 3区56号掘立柱建物計測値 | 468 | 第221表 | 3区井戸出土遺物 | 606 |
| 第155表 | 3区57号掘立柱建物計測値 | 468 | 第222表 | 3区屋敷内ピット計測値 | 607~609 |
| 第156表 | 3区3・8・9・10号竪穴状遺構出土遺物 | 471 | 第223表 | 3区屋敷内ピット出土遺物 | 618 |
| 第157表 | 3区土坑出土遺物 | 489・490 | 第224表 | 3区17号溝出土遺物 | 621 |
| 第158表 | 3区13号井戸出土遺物 | 491 | 第225表 | 3区16・27号溝出土遺物 | 623 |
| 第159表 | 3区ピット計測値(1) | 492 | 第226表 | 3区20・56号溝出土遺物 | 626 |
| 第160表 | 3区ピット計測値(2) | 495 | 第227表 | 3区52号溝出土遺物 | 631 |
| 第161表 | 3区ピット計測値(3) | 498 | 第228表 | 3区土坑出土遺物 | 643 |
| 第162表 | 3区ピット出土遺物 | 503 | 第229表 | 3区土坑(石造物混)出土遺物 | 649 |
| 第163表 | 3区ピット計測値(4) | 504 | 第230表 | 3区76・79号土坑出土遺物 | 650 |
| 第164表 | 3区2・5号溝出土遺物 | 511 | 第231表 | 3区土坑(火葬跡)出土遺物 | 656 |
| 第165表 | 3区6号溝出土遺物 | 519・520 | 第232表 | 3区2号区画周辺ピット計測値 | 657 |
| 第166表 | 3区8号溝出土遺物 | 521 | 第233表 | 3区637号ピット出土遺物 | 661 |
| 第167表 | 3区9・10号溝出土遺物 | 525 | 第234表 | 3区溝出土遺物(1) | 663 |
| 第168表 | 3区15号溝出土遺物 | 526 | 第235表 | 3区溝出土遺物(2) | 672・673 |
| 第169表 | 3区38号溝出土遺物 | 531 | 第236表 | 3区31号掘立柱建物計測値 | 674 |
| 第170表 | 3区40・41・68・70・73号溝出土遺物 | 534 | 第237表 | 3区32号掘立柱建物計測値 | 674 |
| 第171表 | 3区58号溝出土遺物 | 540 | 第238表 | 3区33号掘立柱建物計測値 | 677 |
| 第172表 | 3区60号溝出土遺物 | 543 | 第239表 | 3区37号掘立柱建物計測値 | 677 |
| 第173表 | 3区61号溝出土遺物 | 545 | 第240表 | 3区38号掘立柱建物計測値 | 679 |
| 第174表 | 3区1号畠計測表 | 546 | 第241表 | 3区42号掘立柱建物計測値 | 679 |
| 第175表 | 3区1号集石遺構出土遺物 | 546 | 第242表 | 3区44号掘立柱建物計測値 | 681 |
| 第176表 | 3区1号集石下面(溝)計測表 | 548 | 第243表 | 3区53号掘立柱建物計測値 | 681 |
| 第177表 | 3区掘立柱建物一覧表 | 550 | 第244表 | 3区54号掘立柱建物計測値 | 683 |
| 第178表 | 3区3号掘立柱建物計測値 | 556 | 第245表 | 3区55号掘立柱建物計測値 | 683 |
| 第179表 | 3区4A号掘立柱建物計測値 | 557 | 第246表 | 3区土坑出土遺物 | 689 |
| 第180表 | 3区4B号掘立柱建物計測値 | 558 | 第247表 | 3区2号井戸出土遺物 | 690 |
| 第181表 | 3区5号掘立柱建物計測値 | 562 | 第248表 | 3区その他関連ピット計測値(1) | 691 |
| 第182表 | 3区6号掘立柱建物計測値 | 562 | 第249表 | 3区その他関連ピット出土遺物 | 694 |
| 第183表 | 3区7号掘立柱建物計測値 | 562 | 第250表 | 3区その他関連ピット計測値(2) | 698 |
| 第184表 | 3区9号掘立柱建物計測値 | 562 | 第251表 | 3区1号溝出土遺物 | 699 |
| 第185表 | 3区10号掘立柱建物計測値 | 562 | 第252表 | 遺構外出土遺物 | 711~715 |
| 第186表 | 3区11号掘立柱建物計測値 | 567 | 第253表 | 非掲載遺物(土器、石器、鉄器、木器)数量一覧 | 716~722 |
| 第187表 | 3区12号掘立柱建物計測値 | 567 | 第254表 | 中世・近世遺構陶磁器類非掲載遺物集計表 | 723 |
| 第188表 | 3区13号掘立柱建物計測値 | 567 | 第255表 | 下滝高井前遺跡2区出土人骨歯冠計測値及び比較表 | 725 |
| 第189表 | 3区14号掘立柱建物計測値 | 567 | 第256表 | 下滝高井前遺跡出土人骨・出土獣骨まとめ | 730 |
| 第190表 | 3区15号掘立柱建物計測値 | 567 | 第257表 | 出土した種実 | 731 |
| 第191表 | 3区16号掘立柱建物計測値 | 572 | 第258表 | 住居年代・カマド方位一覧 | 733 |
| 第192表 | 3区17号掘立柱建物計測値 | 572 | 第259表 | 住居カマド方位総括表 | 736 |
| 第193表 | 3区19号掘立柱建物計測値 | 572 | 第260表 | 玉類・石製模造品一覧 | 736 |
| 第194表 | 3区20号掘立柱建物計測値 | 572 | 第261表 | 礫砥石一覧と長幅比グラフ | 736 |
| 第195表 | 3区21号掘立柱建物計測値 | 572 | 第262表 | 建物総括表 | 739 |
| 第196表 | 3区23号掘立柱建物出土遺物 | 573 | 第263表 | 3区遺構別出土遺物年代 | 741 |
| 第197表 | 3区22号掘立柱建物計測値 | 578 | 第264表 | 中世屋敷一覧(国道354号高崎工区) | 748 |
| 第198表 | 3区23号掘立柱建物計測値 | 578 | 第265表 | 中世屋敷内建物総括表(国道354号高崎工区) | 755 |
| 第199表 | 3区24号掘立柱建物計測値 | 578 | 第266表 | 中世屋敷内建物計測値一覧(国道354号高崎工区) | 756・757 |
| 第200表 | 3区25号掘立柱建物計測値 | 578 | 第267表 | 溝113~116・118・119土層注記(報告書542頁転載) | 762 |

第1章 発掘調査の経過と方法

第1節 発掘調査に至る経緯

国道354号高崎玉村バイパスは、高崎駅と県東部の諸都市を結ぶ東毛広域幹線道路(高崎市一邑楽郡板倉町間総延長58.6km)の一部となる全長5.3kmのバイパス道路である。起点は高崎市綿貫町の国道354号(綿貫町北交差点)から終点は佐波郡玉村町大字福島(群馬県道40号藤岡大胡線(バイパス)までの区間である。起点から佐波郡玉村町与六分までは平成23年6月12日に開通し、玉村町与六分(玉村町道を介して群馬県道24号高崎伊勢崎線と接続する)から終点まではそれ以前に開通している。また関越自動車道との交差点では「高崎玉村スマートIC」が建設中であり、平成25年度の完成を目指している。

高崎玉村バイパスの整備は、平成5年度から着手されている。玉村町内の計画路線内における埋蔵文化財発掘調査は、平成8年度から当事業団への委託が開始された。

高崎工区は西部県民局高崎土木事務所の所管事業で、前橋長瀨線から玉村町境まで、井野川右岸の高崎市綿貫町と同左岸の高崎市下滝町・下斎田町の約2kmの区間である。平成16年度と19年度の県教育委員会の試掘調査によって、当該地区には古墳時代から平安時代を主とする集落跡が濃密に存在することが明らかになっていた。

下滝高井前遺跡は高崎市下滝町地内に所在する。高崎駅の東南約7.0km、関越自動車道高崎インターチェンジ

出口から南南東約4.5kmの位置にある。国道354号高崎玉村バイパス道路改築事業に伴って、平成20年度から21年度にわたって発掘調査された。

平成20年度

平成20年9月10日に「平成20年度国道354号高崎玉村バイパス道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査(分割2号)」の委託契約が西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に締結された。履行期間は平成20年9月10日から平成21年3月31日、調査期間は平成20年10月1日から平成21年1月31日とした。平成21年1月9日に「変更委託契約」が締結され、履行期間は変更なく、調査期間を平成20年10月1日から平成21年3月31日に、調査面積は6,693㎡から5,192㎡に改められた。

平成21年度

平成21年8月14日付けで、群馬県西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間で、「埋蔵文化財発掘調査委託契約」が締結された。履行期間は平成21年8月17日から平成22年3月31日、調査期間は平成21年9月1日から平成22年3月31日である。調査面積は4,868㎡である。



第1図 国道354号高崎玉村バイパス路線図(1:60,000)



第2図 遺跡位置図(国土地理院地勢図1:200,000「宇都宮」(平成18年4月1日発行)「長野」(平成10年2月1日発行)使用)

第2節 調査の経過

下滝高井前遺跡1区から3区の調査は、綿貫原北遺跡・綿貫牛道遺跡・綿貫伊勢遺跡の調査と同時に併行して実施した。

下滝高井前遺跡の調査は1・2区を主体に着手、その後3区に移行した。平成20(2008)年10月1日から平成21年3月31日まで実施した。引き続いて4月1日からは綿貫牛道遺跡と綿貫伊勢遺跡の調査を先行するために、一時下滝高井前遺跡の調査は中断し、凍結とした。

平成21年度の調査は、平成21年9月1日から平成22(2010)年3月31日まで実施した。調査は3区である。

以下、下滝高井前遺跡の調査日誌抄を記す。

平成20(2008)年度

- 10月1日 調査準備。高崎土木事務所との打合せ。
- 7日 1区立ち会い(高崎土木、県文化財保護課、事業団)。2区整地作業、3区の表土掘削を開始する。送電線の安全確認(東電)。
- 10日 1区草刈り、トレンチ2箇所設定。2区草刈り、トレンチ1箇所設定。3区重機による掘削作業と遺構確認作業の継続。
- 15日 1区トレンチの図面作成、写真撮影。2区トレンチの図面作成。3区表土掘削と遺構確認作業を行う。
- 16日 2区の表土掘削開始。3区遺構確認作業と湧水対策工事着工。
- 21日 2区表土掘削と遺構確認作業。3区は住居、土坑、ピットの調査を行う。
- 27日 2区表土掘削継続。住居、土坑墓等の調査。3区は1・2号住居の写真撮影を行う。
- 30日 2区遺構確認作業。第1面の全景写真撮影。2号住居と墓の写真撮影。3区は4号住居の図面作成を行う。
- 11月4日 2区住居の写真撮影。3区住居の調査と図面作成を行う。
- 6日 2区第1面を重機による掘削開始。3区は1・5・7・9・10号住居遺物出土状況の写真撮影を行う。

- 12日 2区5・7・12号住居の調査を実施。
- 14日 2区6～11号住居のセクション図、カマドセクション図の作成を行う。
- 18日 事業団の理事・評議員等の視察。
- 20日 1・2区の空撮。2区7・8・11・12号住居の調査を行う。調査工程会議の開催。
- 26日 2区6号住居の土坑やピットの調査、7・10号住居掘り方調査、8号住居遺物取り上げ、11・12号住居は調査継続。
- 12月1日 2区6・10～13号住居の調査を継続する。
- 4日 2区6・11・12号住居のカマド調査、8号住居遺物取り上げ、9・11・12号住居の掘り方調査を行う。
- 8日 2区8号住居遺物出土状況の写真撮影、12号住居の掘り方全景写真、9・11・13号住居の遺物取り上げ作業を行う。
- 10日 2区8号住居の掘り下げ、2区の埋め戻し作業を行う。3区11・12号住居の図面作成。
- 12日 2区8号住居の調査継続。3区11～16号住居の調査を行う。
- 16日 2区8号住居の遺物出土状況の写真撮影、カマドとピットの調査。3区11号住居の全景写真、遺構確認作業を行う。
- 19日 2区8号住居の全景写真撮影。3区12～14号住居の遺物取り上げ作業を行う。
- 25日 2区8号住居の掘り方全景写真撮影。3区15・17・21号住居の遺物出土状況の写真撮影。

平成21(2009)年

- 1月6日 2区8号住居の調査を再開する。
- 7日 本日をもって2区の調査をすべて終了、重機による埋め戻し作業を行う。3区は引き続き住居の調査。
- 13日 3区住居の調査。
- 16日 3区住居の調査を継続する。
- 21日 3区住居、土坑、ピットの調査。調査工程会議を開催する。高崎市議会議員来跡。
- 27日 3区20・21号住居の全景写真撮影。土坑・ピットの図面作成、空撮の準備。
- 29日 3区の空中写真撮影を実施する。
- 2月2日 3区東側の表土掘削を開始する。高崎市教委

第1章 発掘調査の経過と方法

文化財保護課職員20名来跡。

- 4日 3区住居の調査継続。
- 9日 3区住居の掘り方調査、全景写真。ピット群の全景写真撮影を行う。
- 12日 3区13・27号住居掘り方の全景写真撮影。1号掘立建柱建物跡検出状況の写真撮影。土坑、ピットの調査継続。
- 16日 3区23・26・41号住居の全景写真撮影。土坑・ピットの調査を継続する。
- 19日 3区住居の全景写真、遺物取り上げ作業。調査工程会議を開催する。
- 24日 3区住居の掘り方調査を行う。
- 26日 3区住居の調査継続、遺物取り上げ。3区東側表土掘削と遺構確認作業。国道354線高崎玉村バイパス連絡調整会議。
- 27日 調査工程会議。
- 3月2日 3区西側は住居の調査を継続する。東側は溝、土坑、ピットの調査を主体に進める。
- 7日 3区西側は住居、掘立柱建物跡の全景写真、遺物取り上げ作業。東側は溝、ピットの調査を継続する。
- 11日 3区西側は住居床面と掘り方の調査、全景写真、遺物取り上げ作業。東側は住居、竪穴状遺構、ピットの調査と遺物の取り上げ。
- 19日 3区西側は住居の調査を継続。東側は土坑、ピットの調査。
- 25日 3区西側は住居の調査。東側はピットの調査。
- 31日 平成20年度の調査を終了。

平成21(2009)年度

- 9月1日 調査準備に着手。
- 10月1日 土坑・ピットの図面と写真撮影、溝の調査を行う。
- 7日 安全会議。
- 13日 調査区東端にある溝の写真撮影を実施する。
- 16日 調査区上空撮を実施する。
- 20日 土坑出土人骨の取り上げ作業を行う。
- 21日 3区南側調査区の埋め戻しを開始する。以後、11月1日まで行う。
- 11月4日 3区北側調査区の表土掘削を開始する。
- 10日 3区16号溝の全景写真、土坑・ピット群の調査を継続する。
- 13日 3区93～96号住居の掘り下げ、9号井戸、18号溝などの全景写真撮影、土坑・ピット群の掘り下げを継続する。
- 18日 3区94・95・97号住居の遺物出土状況の写真撮影、99号住居の図面作成を行う。11号井戸の写真撮影、土坑、ピット群、溝の調査を継続する。
- 21日 3区93・98号住居の調査、101・102号住居遺物出土状況の写真撮影、105号住居の図面作成。37・38号溝、7号竪穴状遺構の写真撮影、133・134・136号土坑の写真撮影を行う。
- 27日 3区93・97・98・101～103・105号住居の調査、16・27・29・34・52号溝の調査を行う。
- 12月1日 3区94・98号住居のカマド調査、97・102・103・108号住居の写真撮影を行う。10・28・29号溝の全景写真、142・155・156・141・138号土坑の全景写真撮影を行う。



3区調査風景



3区住居調査風景

- 5日 3区94～100・103・104・106～110号住居の掘り方写真撮影。145・161・167・172～174号土坑の写真撮影を行う。空撮を実施。
- 8日 3区106・110号住居のセクション図作成、116・117・122・123・128・131・153・154・170・173・175～178・180号土坑の写真撮影。34号溝とピット群の写真撮影を行う。
- 19日 3区114号住居の掘り下げ、58号溝の掘り下げを行う。
- 平成22(2010)年
- 1月6日 3区112・121～123・125・126・131・135・136号住居の調査、6・59・61号溝の調査、37号土坑の調査を行う。
- 8日 3区112・122・125・126・131・132・135～139号住居の調査、3・5・6・8・59・61号溝、98号土坑の調査を行う。
- 12日 3区65・121・122・131・134・135・137・139・141・145・147号住居の調査、5・6・60号溝、193・198号土坑の調査を行う。
- 14日 高崎市立高南中学校の職場体験中学生4名来跡。
- 15日 2・16・60・112・116・117・120・125・126・128・129・135～137・139・141～143・151～155・160号住居の調査。197・203～204号土坑、溝の調査を行う。
- 20日 本日までに165号住居を確定する。
- 25日 3区125～127・149・162～164号住居の写真撮影を行う。
- 29日 3区126・127・162～164号住居の掘り方の写真撮影、他住居の調査を継続する。
- 2月5日 本日までに174～176号住居までを確定する。
- 8日 177・178号住居を検出する。
- 12日 3区111・171・174・176・178・180号住居、土坑・ピット群の調査を行う。
- 17日 181号住居を検出する。
- 19日 3区34・35・153・171・173・174・177号住居の写真撮影を行う。
- 24日 空撮を実施する。
- 26日 現地説明会の準備作業を行う。
- 3月7日 現地説明会を開催する。
- 11日 3区121・124・153・155・172・173・175・

178・183号住居の調査を行う。

16日 実機による遺跡周辺の空中写真撮影を実施する。

17日 空撮2日目。現場器財撤収作業を行う。

30日 調査資料整備作業終了

第3節 発掘調査の方法

1 グリッドの設定

国道354号高崎玉村バイパスに伴う埋蔵文化財の発掘調査においては、平成8年度の調査開始以来採用しているグリッドの設定方法を当遺跡でも踏襲している。

グリッドの設定は国家座標にもとづき玉村町全域および高崎市内の該当地域を網羅するように、南東隅の座標 $X=30,000$ ・ $Y=-60,000$ を起点とする10km四方の区画を設定し、これを「地区」と呼称した。

次にこの「地区」を1km四方に分割して、南東隅から北方向に1～100の番号を付け「区」（大グリッド）とした。さらに、この「区」を100m四方に分割し、同様に1～100の番号を付け「中グリッド」とした。下滝高井前遺跡1区は「35区・36区」、2区は「25区・26区・35区・36区」、3区は「5区・6区・15区・16区・25区・26区」（中グリッド）に該当している(第3図)。

この「中グリッド」を、さらに5m四方に分割して「小グリッド」を設定した。一つのグリッドの大きさは5m×5mとなる。「小グリッド」には南東隅を起点として、西方向にアラビア数字を「1～20」、北方向にアルファベット「A～T」を付した。発掘調査の実施にあたっては、この「小グリッド」を基本としている。

本報告書で記載するグリッドは、地区・区の表記は省略して基本的に「中グリッド」と「小グリッド」を組み合わせで表記する。たとえば3区18号住居の場合は四つのグリッドにまたがるため、その記載方法は「15R・S-16・17」となる。なお、土坑など小規模な遺構の位置を示すため、グリッド設定の付番を座標軸に読み替えた。例えば、15A+2-3+2とした場合、15区のAラインより北へ2m、3ラインより西へ2mの地番を示している。

2 調査区の設定

発掘調査にあたっては、基準とする区画やグリッドとは別に、任意の調査区に区分している。

下滝高井前遺跡の調査区は東西長約320m、幅約30～45mである。このために井野川と広沢川に挟まれた地区を1区、広沢川左岸から農道までを2区、そして農道東から町道までの間を3区として調査区を設定した(第3・4図)。1区の調査対象面積は1,396㎡、2区の調査対象面積は1,931㎡、3区の調査対象面積は6,733㎡の総計10,060㎡である。

3 調査の方法

表土については重機によって掘削した。その後、人力による遺構確認作業を行い、遺構平面の確認後、埋没土層の確認用ベルトを任意に設定して移植ゴテなどで掘り下げた。遺構の掘削も人力によった。

遺構番号は調査年や調査担当者の変更があることから、遺跡全体の通し番号ではなくて、調査区ごとに1から通し番号を付けた。

遺構測量は、平面図については電子平板によるデジタル測量を、断面図については手実測で行っている。住居・掘立柱建物、土坑などの平面図は1:20を基本とし、溝や畝については1:40とし、土層断面図は1:20で作成した。

遺構写真は、iso400ブローニー版モノクロフィルムを6×7cm判サイズで撮影し、カラー写真はデジタルカメラ(1200万画素)を使用してハードディスク及びDVDによるデータの記録保存をはかった。調査区の全景写真については、ラジオコントロールによるヘリコプターや実機による空中写真撮影を実施した。

4 基本土層

当遺跡は井野川岸に位置しており、1～3区まで堆積状況が大きく異なる。このため、各調査ごとに個別の基本土層を設定した。

1区 東に流れる広沢川に接しており、洪水による堆積がみられる。洪水の影響が大きく、遺構は確認できなかった。

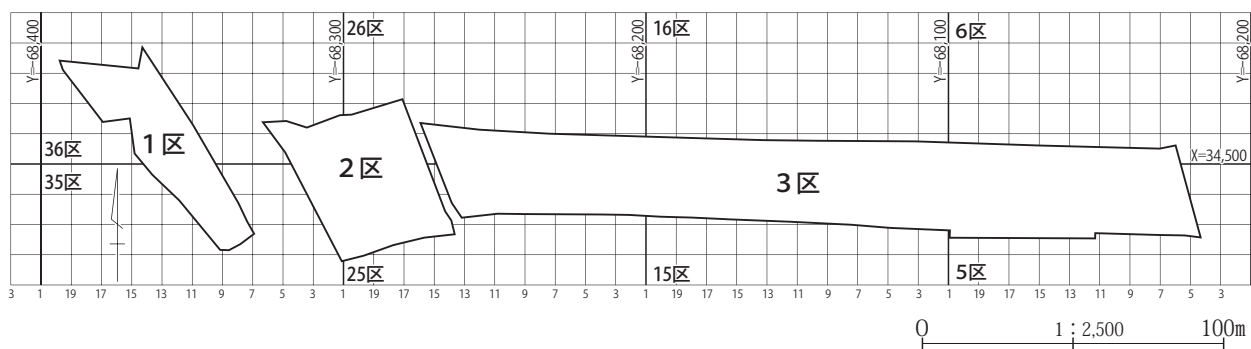
1区基本土層

- I層 灰褐色砂質土 表土
- II層 灰褐色土 やや粘質。下部に小礫少量含む。
- III層 灰褐色粘質土 粗粒砂礫を多く含む。II層より色調暗い。
- IV層 灰褐色砂質土
- V層 灰白色シルト～砂礫 上部と下部に小礫含む。
- V'層 灰褐色粘質土 砂含む。
- VI層 砂層

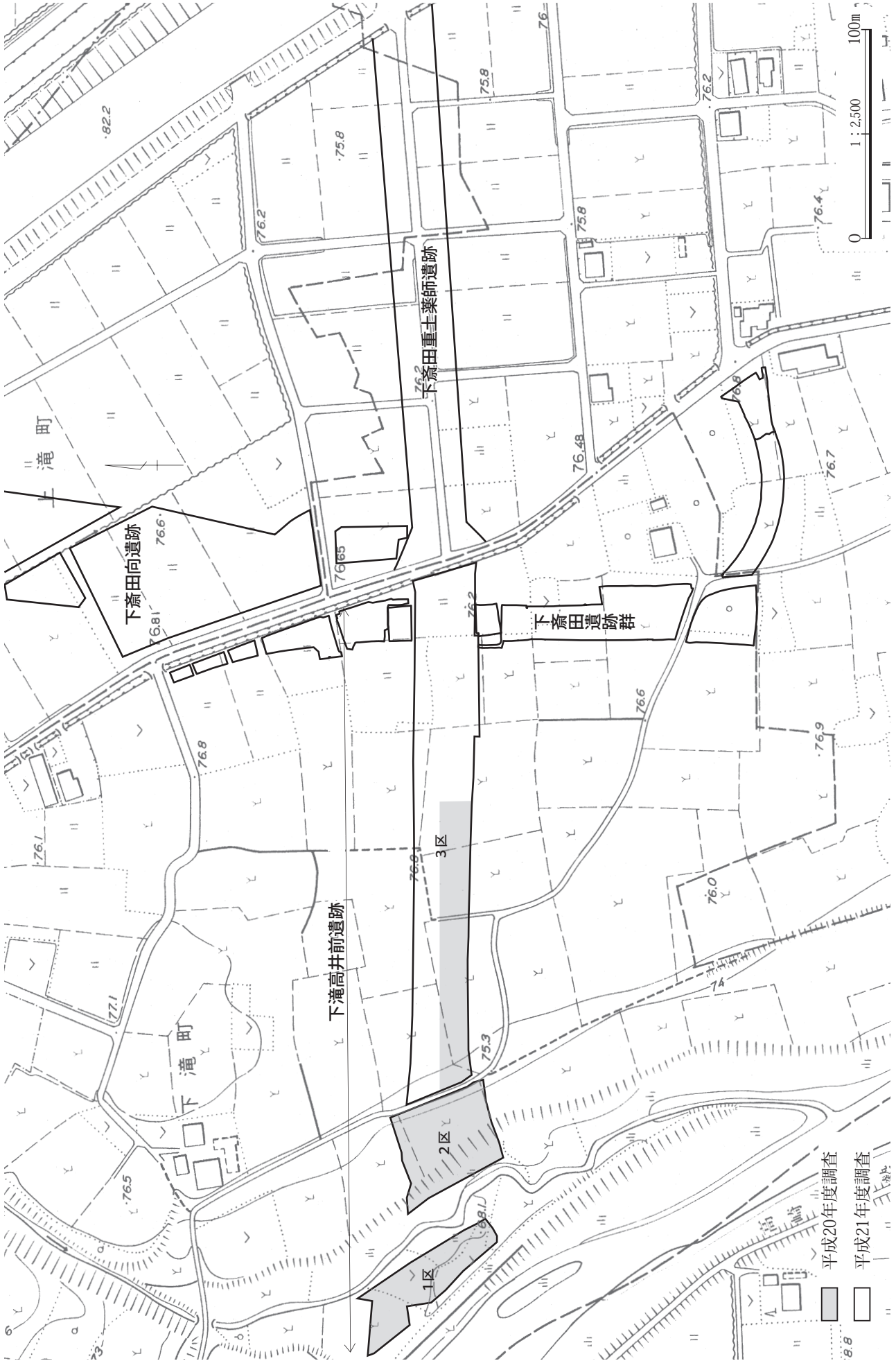
2区 地形は東に向かって緩やかに上がっていくが、現在の耕作や掘削により、遺構確認面まで影響を受けている箇所がある。

2区(調査区南際3号住居基準)基本土層

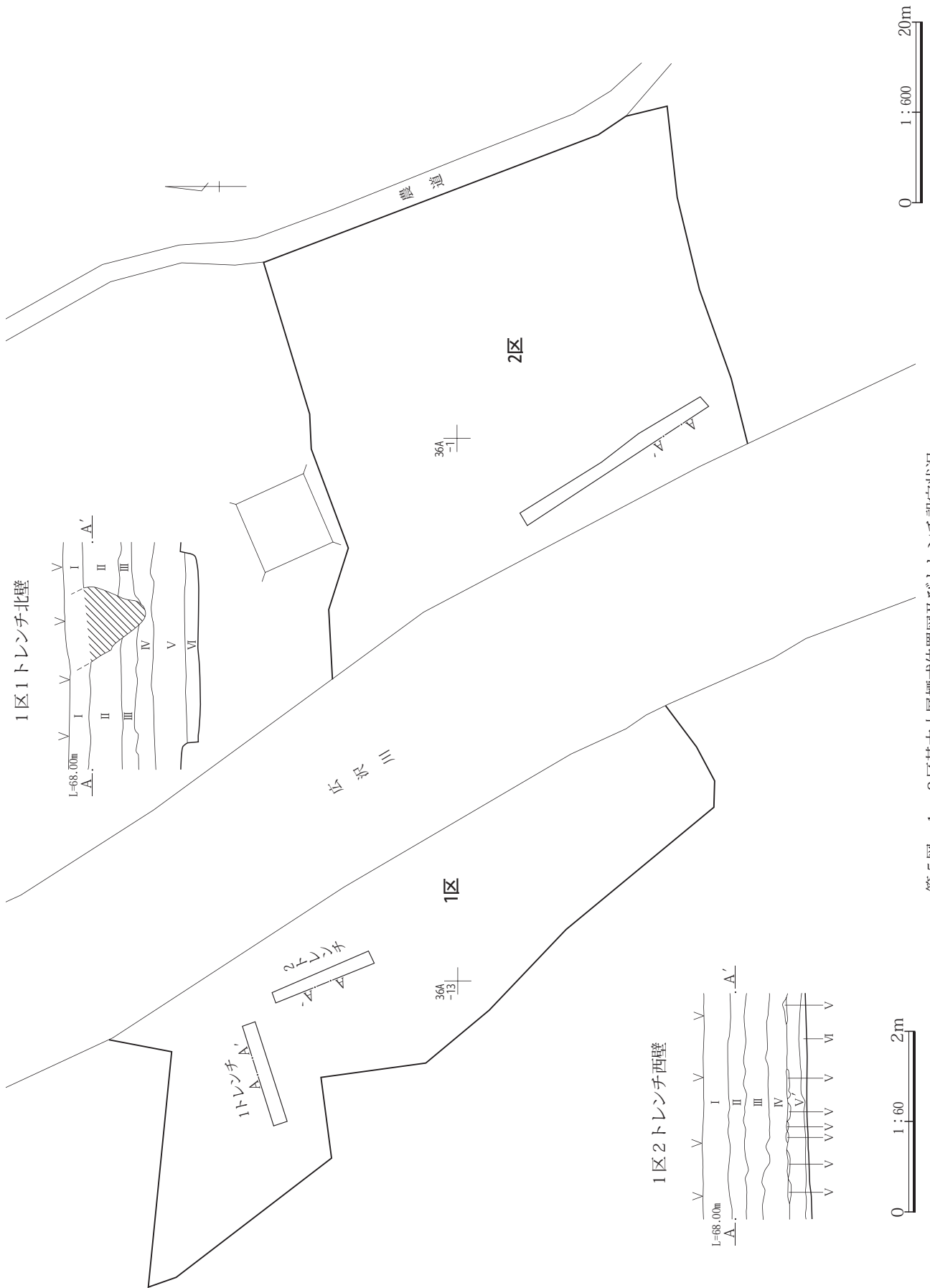
- I層 灰褐色土 現耕作土。浅間A軽石を多量含む。
- II層 暗褐色土 浅間A軽石を少量含む。
- III層 暗褐色土 浅間B軽石を少量含む。第1面確認面。
- IV層 灰褐色粘質土 やや堅くしまる。第2面確認面。
- V層 黄白色粘質土
- VI層 灰褐色粘質土
- VII層 黒褐色粘質土



第3図 グリッド設定図



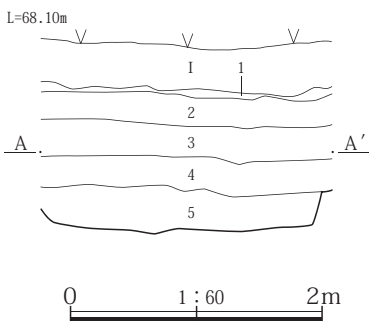
第4図 調査区位置図(高崎市全体図 No.41 昭和54年測量 1:2,500)



第5図 1・2区基本土層標式位置図及びトレンチ設定状況

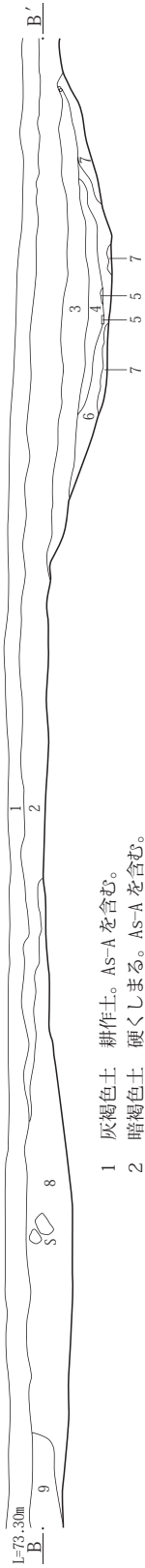


2区トレンチ西壁

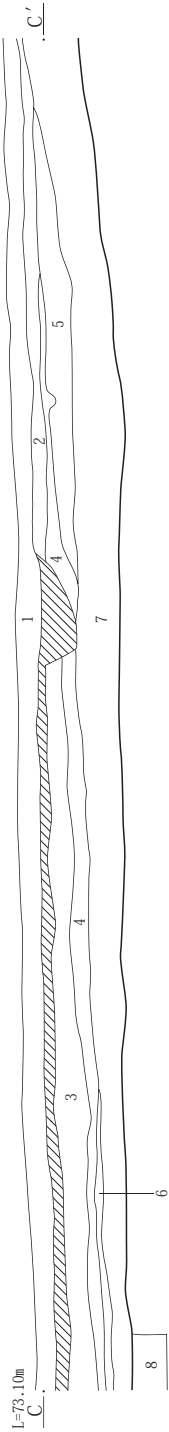


- I 表土
- 1 黒色土 軟らかくて粘性あり。
- 2 暗褐色土 硬くしまる。As-Aを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。As-Aを含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。As-Aは上層よりも少ない。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白石ブロック・小礫を含む。

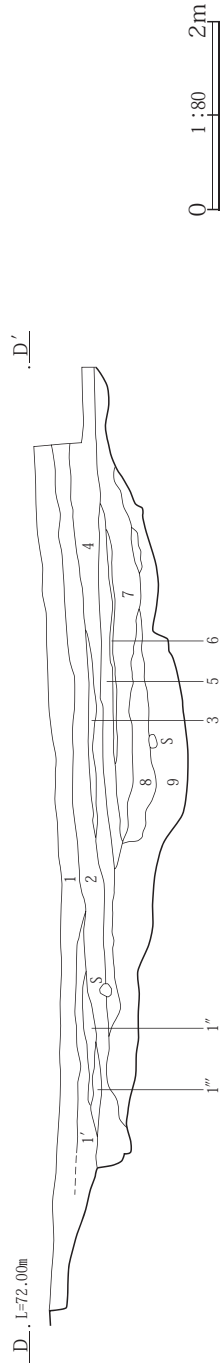
第6図 2区全体図とトレンチ断面図



- 1 灰褐色土 耕作土。As-Aを含む。
- 2 暗褐色土 硬くしまる。As-Aを含む。
- 3 灰褐色土 やや硬くしまる。As-Bを含む。
- 4 黒褐色土 軟らかくでサラサラしている。As-Bを多量に含む。
- 5 As-B 粕川テフラか。
- 6 As-B の流れ込み。
- 7 暗褐色粘質土 やや硬くしまる。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。礫多量に含む。
- 9 暗褐色土 硬くしまる。小礫・白色粒子・炭化物粒子を含む。



- 1 灰褐色土 現耕作土。
- 2 灰褐色土 旧耕作土。
- 3 暗褐色土 堅くしまる。白色軽石含む。
- 4 黄白色土
- 5 灰褐色土 白色粒子含む。
- 6 黄白色土 酸化凝集あり。
- 7 暗褐色土 堅くしまり粘性あり。
- 8 黒褐色粘質土



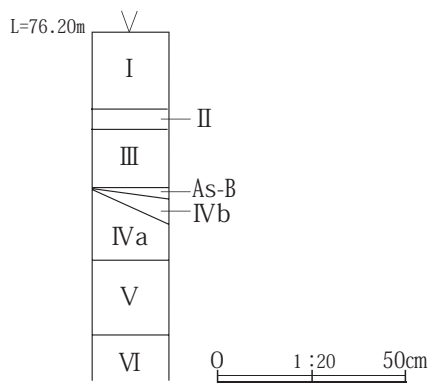
- 1 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。
- 1' 灰褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。1層よりも暗い色調。
- 1'' 灰褐色土 1'層よりもやや明るい色調。
- 1''' 灰褐色土 1'層よりもやや暗い色調。
- 2 灰褐色土 軟らかくしてしまり良い。
- 3 灰褐色土 軟らかくしてしまり良い。酸化鉄分を含む。
- 4 灰褐色土 軟らかくして粘性あり。
- 5 灰褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。
- 6 灰褐色土 3層に似ている。
- 7 灰褐色土 軟らかくして粘性あり。
- 8 灰褐色砂質土 非常に軟らかくしてしまり良い。
- 9 砂礫

第7図 2区トレンチ・北壁・東壁断面図

3区 比較的平坦で安定した土層堆積であるが、東端部は埋没低地があり、上位にAs-Bの一次堆積が見られる。このため、3区東端で39号溝及び70号溝周辺の土層を基準として基本土層模式図を作成した。3区西端部は2区と近く、2区IV・V層を3区IV a・VI層と読み替えれば、ほぼ対応が可能である。なお、70号溝覆土中でAs-B直下の水田が断面確認されたが、平面的な調査はできていない。水田耕作土はIV a層と大差ないが、IV b層として区別した。東端部ではAs-Bを鍵層にその上面を1面として調査し、土坑・溝を検出した。

3区基本土層

- I層 灰褐色土 現耕作土。
- II層 灰褐色土 酸化凝集顕著。水田床土。
- III層 灰褐色土 浅間B軽石を含む。
- As-B
- IV a層 灰褐色土 やや堅くしまる。
- IV b層 灰褐色土 水田耕作土か。
- V層 黄褐色ローム
- VI層 黄白色粘質土



第8図 3区基本土層

第4節 整理作業の方法

報告書作成のための整理作業は、平成22(2010)年4月1日から平成25(2013)年3月31日まで、綿貫牛道遺跡・綿貫原北遺跡・綿貫伊勢遺跡とともに実施し、そして同年4月1日から11月30日まで引き続いて実施した。

出土遺物については調査終了時まで洗浄され、遺跡略号、調査区、調査面、遺構名・グリッド名、遺物Noを注記した。

整理作業においては、遺物を種別・器種別に分類した。そして縄文土器、土師器・須恵器、陶磁器、石器・石製品等のそれぞれについて、接合・復元・写真撮影・実測・トレース作業を実施した。遺物の実測は手作業で実施したが、その一部については長焦点デジタルカメラと三次元計測システムを用いて測定して素図を作成し、素図の点検後図化を行い、トレース素図を作成後、手作業でトレースを行った。トレース図はスキャニングを用いデジタルデータ化して報告書掲載図とした。古銭、金属製品については錆落としの作業を実施後、実測等を行い、防錆措置を行った。

遺構図については平面図と断面図の照合・修正とレイアウト作業を行い、デジタルトレースを行い報告書掲載図とした。

遺構写真については報告書に掲載する写真の選定とレイアウトを行い、調査時に撮影したネガフィルムのスキャニングと版下作成作業を実施した。遺物写真撮影は当事業写真室でデジタルカメラを用いて行い、レイアウトをもとに加工・編集し、図版作成を実施した。

併行して本文・表・土層注記等の原稿執筆を行った。報告書の出稿にあたっては原稿、挿図、写真のいずれもデジタルデータ化を行った。

その後、校正作業を経て、平成26(2014)年1月に『下滝高井前遺跡』として発掘調査報告書(本報告)の刊行を行った。

報告書に掲載資料については、管理台帳作成後、収納作業を行ったが、掲載されなかった遺物については出土地区・遺構ごとに分類して収納作業を行った。

第2章 遺跡の立地と周辺の遺跡

第1節 遺跡の立地

下滝高井前遺跡の所在する高崎市は関東平野の北西縁にあり、平成の大合併によって市域西端は長野県北佐久郡軽井沢町、東端は埼玉県児玉郡上里町に接している。市街地から赤城山・榛名山・妙義山の上毛三山を望むことができる、群馬県西部のいわゆる西毛地区に位置している。市内には、利根川・烏川・碓氷川など、一級河川が流れ、遺跡地のすぐ西側を井野川が南西流して烏川に合流している(第2・9図)。

高崎市域(平成の大合併前)の地形は、高さがほぼそろい浸食が進んで急傾斜となった斜面と、やせ尾根の連なる岩野谷(観音山)丘陵が市域西部にひろがる。榛名山南面の裾野には、相馬ヶ原扇状地と丘陵縁辺部の扇状地がひろがる。市域東部は、東縁を広瀬川、西縁を烏川までとする連続して比較的平坦な高崎・前橋台地、段丘と谷底平野からなる井野川低地帯、烏川・碓氷川流域の氾濫原に区分される。

以下、『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』(平成15(2003)年)と群馬県『土地分類基本調査 高崎』(平成4(1993年))の内容を参考として記述する。

前橋台地の中央付近を流れる井野川流域には、井野川低地帯がひろがっている。この低地帯を境にして、前橋台地の西域を特に高崎台地と呼ぶ場合もある。高崎・前橋台地は、およそ2.1万年前、浅間山の噴火に伴う大規模な山体崩落によって流れ下った前橋泥流と呼ばれる堆積物によって、その基盤が形成されている。

高崎市域で前橋台地に属する地域は、市域の東縁にあたる八幡原町から新保田中町に至る地域、すなわち、井野川の流域に広がる低地帯の東側から利根川の流路までの地域である。台地の基盤を形成する前橋泥流の上位にはローム層や小河川・湿地の堆積物が重なっている(第11図)。

一方、高崎台地では前橋泥流の上に高崎泥流が堆積している。この泥流の下に浅間板鼻黄色軽石(As-YP)が認められることから、高崎泥流の発生時期はおよそ1.1万

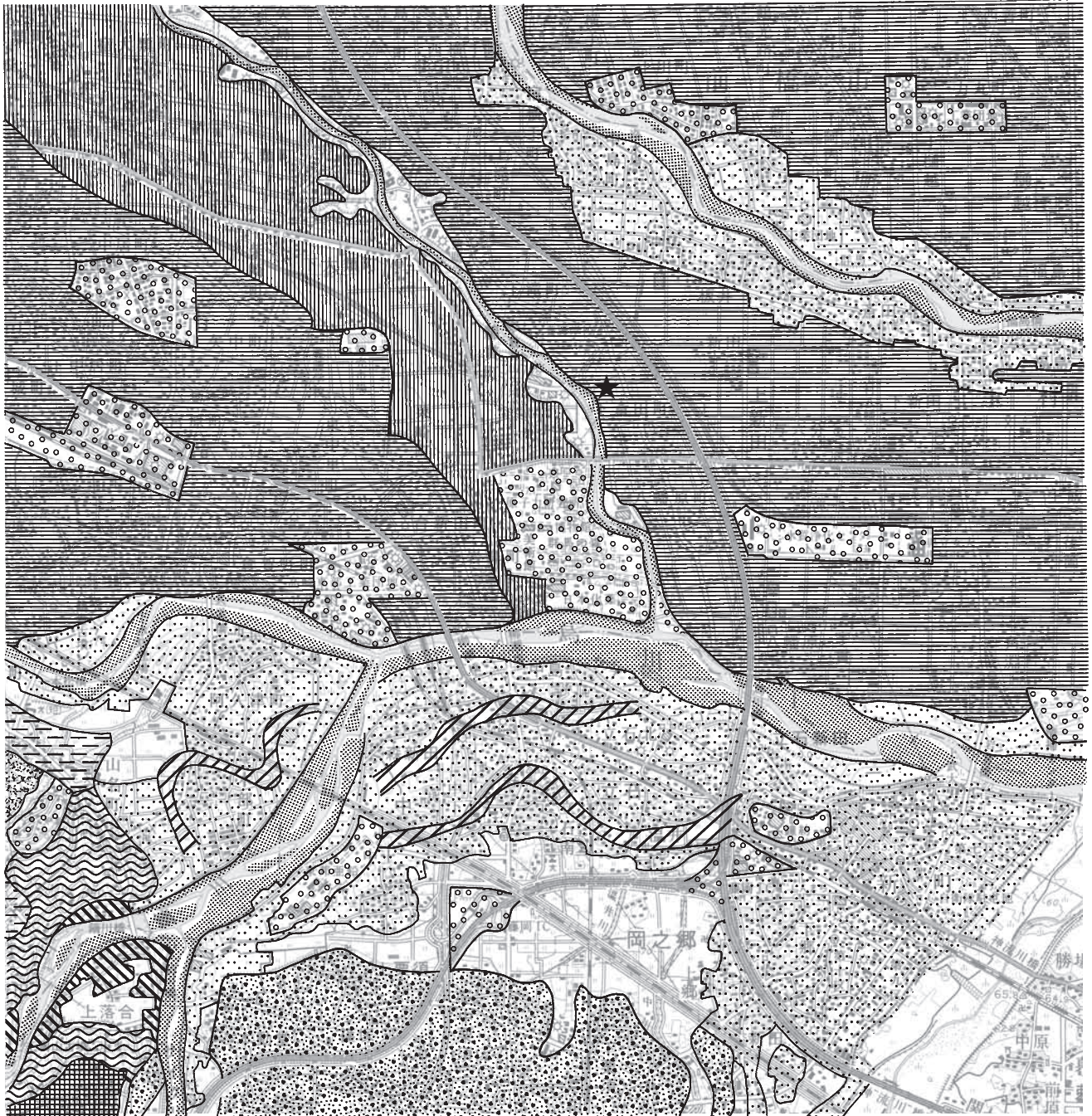
年前の堆積と考えられている。その発生原因は榛名山南西麓から秋間丘陵付近で起きた大きな地震が関係している可能性が指摘されている。台地の上は比較的平坦で洪水などの災害に遭いづらいことから、古墳時代前期にはすでに水田の開発が行われている。

高崎台地と前橋台地は、井野川が形成した河岸段丘により区切られ、井野川低地帯を形成している。この低地帯は、両台地より一段低く幅600~700mで带状に分布する。段丘崖は、岩鼻~栗崎付近で比高10m前後、柴崎付近で3~5mと北西へ比高を減少し、南大類付近で不鮮明になる。この低地帯は前橋泥流堆積後の比較的早い時期に、旧利根川によって形成された地形である。旧利根川は、およそ2.4万年前には総社町辺りから新前橋~染谷川、滝川付近を流れていたとされる。その後、およそ1.7万年前の「陣場岩なだれ」による堆積物が流れ込み、榛名山の裾野からやや遠い井野川下流域を除いて、その姿を消してしまった。埋め立てを免れた現在の井野川低地帯の中は、砂層やシルト層を堆積させる小河川と湿地が広くひろがる環境がつくられた。およそ1.1万年前に、高崎泥流がこの低地帯にも流れ込み、埋め立てが進んだのである。この低地帯の地形を詳細にみると、何段かの段丘面に区分することができる。当遺跡や綿貫観音山古墳がのる段丘は、最も高位にあり広く連続している。この高位段丘には、高崎台地の面と同じく高崎泥流が堆積している(第11図)。井野川を挟んで対岸に位置する下滝高井前遺跡は、標高約76mに立地している。

当遺跡は第10図の分類に従うと前橋高崎台地I面に該当する。調査時に行った土層の観察から得られた基本土層は第8図に示し、第1章第3節で詳述してある。

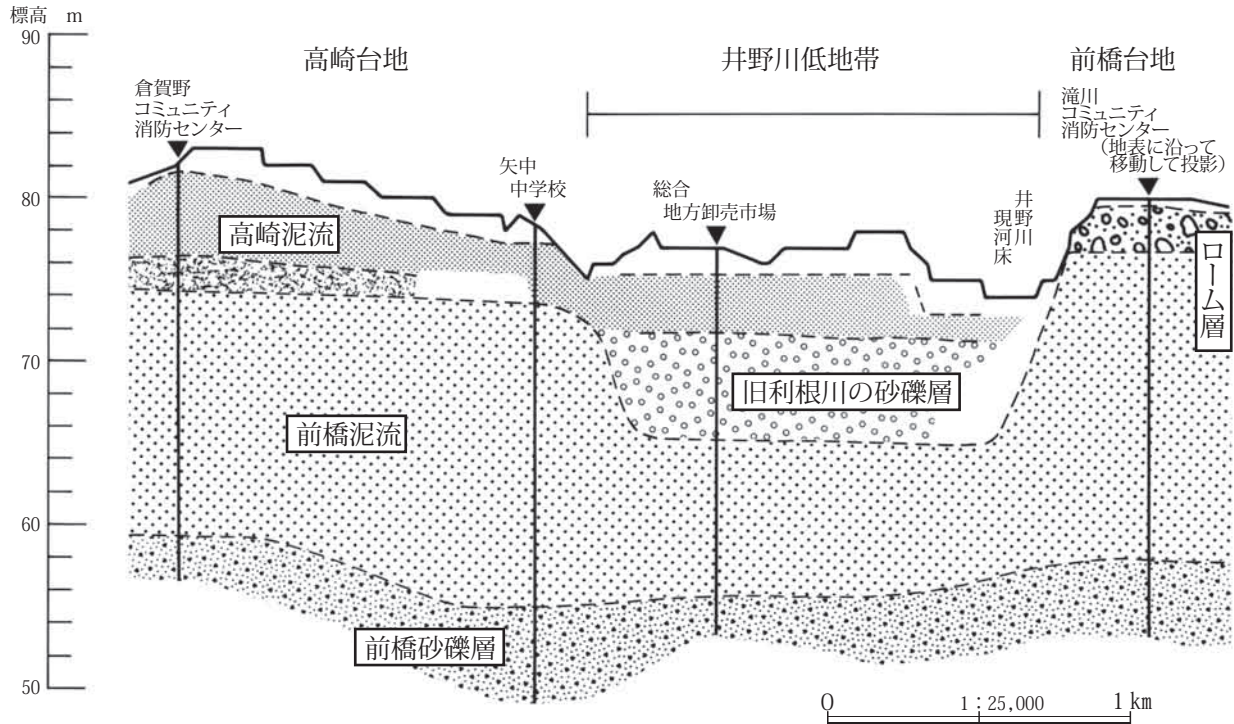


第9図 明治時代前半の周辺地形図(第一軍管地方迅速測図『倉賀野駅』(明治18年測量)を使用)



- | | | | | | |
|--|-------|--|----------|--|-----------|
| | 丘陵 | | 最下位段丘 | | 旧流路跡(旧河道) |
| | 上位段丘 | | 前橋高崎台地Ⅰ面 | | 人工改変地 |
| | 下位段丘 | | 前橋高崎台地Ⅱ面 | | 谷底平野 |
| | 藤岡扇状地 | | 自然堤防 | | 下滝高井前遺跡 |
| | 小扇状地 | | 河原 | | |

第10図 遺跡周辺地形分類図(群馬県『土地分類基本調査 高崎』(1993)年による)



第11図 高崎・前橋台地と井野川低地帯の地下断面図(『新編高崎市史通史編1』p.90の図30を一部改変)

第2節 周辺の遺跡

現在の高崎市は、平成18(2006)年に高崎市と群馬郡下の群馬町・箕郷町・榛名町・倉渕村、多野郡新町との合併、さらに平成21(2009)年に多野郡吉井町との合併で誕生した新市である。

遺跡の所在する高崎市下滝町は、市東部の「滝川地区」にある。井野川下流左岸に位置し、対岸は高崎市の「岩鼻地区」になる。

明治22(1889)年の町村制施行により、周辺10村(下滝村、西横手村、宿横手村、中島村、上滝村、滝村、板井村、下斎田村、八幡原村、宇貫村)が合併し西群馬郡滝川村が成立する。明治29(1896)年に西群馬郡と片岡郡の統合により群馬郡に属した滝川村は、戦後の昭和31(1956)年、京ヶ島村と合併して群南村となった。そして昭和40(1965)年、群南村は高崎市へ編入され現在に至っている。

第12図は高崎市の「滝川地区」と「岩鼻地区」を主体に「大類地区」と「京ヶ島地区」の一部、関越自動車の東に位置する玉村町西端にかけて形成された遺跡の分布図である。遺跡番号の1が当遺跡であり、8までが国道354号高崎玉村バイパス建設に伴って調査された遺跡であ

る。また20～25・30は県道前橋長瀨線と北関東自動車道建設関連で、高崎市に所在する遺跡となる。12～19は関越自動車道関連の遺跡、127～133は北関東自動車道建設関連で前橋市に所在する遺跡、134～136は県道前橋長瀨線建設関連で前橋市に所在する遺跡となる。このように遺跡地周辺は大規模な発掘調査が継続的に行われている。

以下、当遺跡周辺の歴史的環境を時代を追って記述する。なお、文中の遺跡名の後ろに付く〔 〕番号は第12図の遺跡番号に対応している。

1 旧石器時代

当遺跡では旧石器時代の遺物は検出されていないが、遺跡から南西1.9kmの烏川左岸段丘上に立地している岩鼻坂上北遺跡〔52〕から槍先形尖頭器1点が出土している。

2 縄文時代

井野川左岸段丘上の当遺跡では3区において前期諸磯b式期の住居1軒と土器片、続く下斎田重土薬師遺跡



第12図 周辺遺跡の分布図

〔2〕からも同時期の土器片が出土している。

当遺跡から南東2.4kmに位置する八幡原A遺跡〔13〕からも諸磯b式期と思われる住居1軒が検出されている。八幡原稲荷遺跡〔47〕からは前期後半と中期の土器片、下滝梅崎遺跡〔44〕からは縄文時代の可能性のある土坑1基と剥片が出土している。下斎田・滝川A遺跡〔15〕では中期後半加曾利E式の土器片が出土した土坑1基と前期黒浜式、諸磯式の土器片が出土している。滝川C遺跡〔17〕では前期黒浜式の土器が一括出土している。下滝天水遺跡〔20〕からは陥穴と考えられる土坑と早期から中期にかけての土器片、上滝遺跡〔18〕では前期から後期に至る土器片と石鏃が出土している。元島名B遺跡〔19〕は遺構外から中期後半の摩耗した土器片1点のみであった。玉村町域の上新田新田西遺跡〔6〕でも前期と中期の土器片と石鏃など、上新田中道東遺跡〔8〕からは中期後半から後期前半の土器片と石鏃28点、有舌尖頭器4点などが出土している。利根川右岸の前橋台地上では宿横手三波川遺跡〔28〕から石鏃など9点が出土している。

井野川右岸段丘上にあつては、綿貫牛道遺跡〔4〕や綿貫原北遺跡〔5〕から前期と中期の土器片、打製石斧などの石器、綿貫堀米前Ⅱ遺跡〔51〕からも中期後半の土器片、綿貫小林前遺跡〔30〕では打製石斧が出土している。北西約1.1kmの下大類蟹沢遺跡〔37〕からは石鏃やスクレイパーが出土している。いずれも遺構外からの出土である。

このように当遺跡周辺の遺跡分布を見てくると、井野川下流域左岸段丘上に縄文時代の住居が構築されるのは前期の諸磯b式期からと判断される。そして右岸にあつては縄文人の活動の痕跡が認められるものの集落が営まれるほどではなかったようだ。

3 弥生時代

当遺跡からは弥生時代の遺構と遺物は検出されていない。

井野川下流域の当遺跡周辺における弥生時代遺跡の分布は縄文時代と同様に希薄である。井野川と烏川との合流点に近く、両河川の左岸台地上の縁辺部にある八幡原若宮遺跡〔46〕からは、弥生時代中期後半から末に属する土器片が採集されている。

遺跡地の北西約3.7kmの井野川中流右岸では、万相寺遺跡や高崎情報団地I遺跡から後期樽式土器を伴う住居

や方形周溝墓、左岸でも北西約3.5kmの元島名遺跡や鈴ノ宮遺跡のように後期の集落や方形周溝墓が検出され、さらに当遺跡の北北西約2.8kmの利根川右岸の西横手遺跡群〔29〕からも樽式土器片が検出されている。このように弥生時代後期になって井野川中流域には集落や墓域が形成されていることがわかる。

4 古墳時代

当遺跡からは、古墳時代前期と後期の住居が検出されている。

前期の遺跡は弥生時代の遺跡が希薄であった井野川下流域で急激に増加する。古式土師器を伴う、この時期の集落を井野川左岸と右岸ごとに以下に記す。

井野川左岸では当遺跡の南西0.7kmに位置する下斎田遺跡群〔9〕で、方形周溝墓4基が検出されている。同じく北西約1.2kmに位置する下滝天水遺跡〔20〕から住居25軒（その可能性を含めて）が検出されている。下滝梅崎遺跡〔44〕から住居2軒と方形周溝墓1基、下斎田・滝川A遺跡〔15〕から住居3軒・方形周溝墓1基・土坑4基が検出されている。滝川C遺跡〔17〕では住居の検出はなくて土坑と溝、同じく上滝社宮司東遺跡〔40〕も土坑だけの検出であった。上滝遺跡〔18〕では住居3軒・土坑7基・溝1条、元島名下河原遺跡〔33〕からは大溝1条が検出されている。

一方、井野川右岸では、綿貫伊勢遺跡〔3〕で住居125軒、井戸と土坑、溝、綿貫牛道遺跡〔4〕で住居5軒、綿貫原北遺跡〔5〕3軒、綿貫小林前遺跡〔30〕で住居44軒と方形周溝墓1基、井戸と溝が検出されている。このうちの住居1軒から銅鏃が出土した。綿貫遺跡〔49〕では住居6軒と方形周溝墓2基・溝数条、綿貫堀米前Ⅱ遺跡〔51〕では住居3軒と土坑1基、不動山東遺跡〔50〕では住居2軒が検出されている。下大類遺跡〔39〕からは住居、隣接する西の柴崎熊野前遺跡では河川跡（埋没土の中位にAs-Cが堆積）から大量の土器とともに石製勾玉・管玉、ガラス製小玉などが出土している。さらにその南西の高崎台地上に位置する矢中村東（A・B・C）遺跡では14基の周溝墓が検出されている。A～C区をあわせて一つの墓域として捉えることができる。

井野川中流域の左右両岸では元島名遺跡から住居3軒・円形周溝墓7基と方形周溝墓、鈴ノ宮遺跡は住居55

軒・方形周溝墓4基・土坑1基、高崎情報団地遺跡は住居と方形周溝墓、そして大量の遺物が出土した溝が検出されている。

当遺跡の南東約2.2kmに位置する玉村町下郷遺跡〔12〕からは、住居3軒・土坑10基・溝1条・方形周溝墓27基・円形周溝墓2基などが検出されている。なお、外周に溝をもつ竪穴住居(周溝をもつ建物)は、前橋市の横手早稲田遺跡〔134〕5軒、横手湯田遺跡〔128〕7軒、玉村町の上新田中道東遺跡〔8〕2軒、上之手八王子遺跡〔98〕5軒、上之手石塚遺跡〔89〕で1軒検出されている。

当遺跡の北西2.1km、井野川左岸に位置する4世紀前半築造の元島名將軍塚古墳〔54〕は、墳丘長91～96mの前方後方墳である。埋葬施設は粘土槨で小型仿製鏡や石釧が出土、墳丘裾部からは底部穿孔の二重口縁壺が出土した。井野川右岸の古墳としては、当遺跡の西北西方向2.6kmの位置に4世紀後半の築造と考えられている柴崎蟹沢古墳がある。この古墳には正始元年銘のある三角縁神獸鏡など4面の銅鏡が副葬されていた。

4世紀初頭の浅間山C軽石(As-C)が降下する前後の時期に、当遺跡周辺一帯を含む高崎市東部から前橋市南部や玉村町にかけての地域では大規模な開発が進められ、水田耕作地が広げられていった。As-C混土上・下面で水田が検出されているのは、下滝天水遺跡〔20〕・上滝榎町北遺跡〔23〕・宿横手三波川遺跡〔28〕である。

前期の遺跡に比べて中期の遺跡は数少ない。左岸の下滝天水遺跡〔20〕からは一辺約35mの方形区画になる溝が検出されたが、この溝は5世紀の豪族居館に伴う溝と推定されている。元島名下河原遺跡〔33〕では住居5軒が検出された。右岸の不動山東遺跡〔50〕では格子目印目文をもつ韓式土器の甕が出土した5世紀代の住居1軒が検出されている。岩鼻二子山古墳〔63〕や不動山古墳〔62〕の築造の背景に渡来人、渡来系文物との関わりが考えられる。

烏川との合流地点付近の河岸段丘上には若宮八幡北古墳〔58〕が築造されている。墳丘長46.3mの帆立貝式古墳で造り出し部を有する。埋葬主体部は舟形石棺で5世紀後半の築造と考えられている。この古墳の南側、烏川段丘上には若宮・八幡原古墳群が形成されている。井野川下流域の右岸段丘上には綿貫古墳群が形成されている。『上毛古墳総覧』作成時に4基の前方後円墳(南から岩鼻

二子山古墳、不動山古墳、普賢寺裏古墳、綿貫観音山古墳)と17基の円墳の合計21基が確認された。しかし、現在の「群馬の森」一帯にあった、陸軍岩鼻火薬製造所の建設(明治13年)や、その後の敷地拡張に伴い、多くの古墳が壊されていったものと思われる。実際はさらに多くの古墳が段丘上一帯に築造されていたものであろう。

当遺跡の南西約750mに位置する普賢寺裏古墳〔61〕は、墳丘長約80mの前方後円墳である。埋葬施設は竪穴系と考えられること、また墳丘形状から5世紀前半の築造が推定されている。現在の日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所敷地内には、5世紀前半から中頃の築造と考えられている、墳丘長約115mの前方後円墳・岩鼻二子山古墳〔63〕が南方向に前方部を向けて築造されていた。後円部から2基の舟形石棺が出土した。副葬品は五神四獣鏡、鉄製武器・農耕具、石製模造品などが出土している。この古墳は岩鼻火薬製造所の敷地拡張にともなって大正から昭和初期には壊されてしまった。5世紀中葉築造の不動山古墳〔62〕は墳丘長94mで、太田天神山古墳と相似形の築造企画を有する前方後円墳である。主体部には舟形石棺が用いられている。

後期の遺跡は、左岸では下滝赤城遺跡〔43〕から住居5軒、元島名下河原遺跡〔33〕では住居13軒と末期の住居6軒、上滝遺跡〔18〕では住居3軒・土坑4基・溝2条が検出された。八幡原稲荷遺跡〔47〕からは6世紀後半から7世紀後半に属する住居23軒が検出されている。右岸で綿貫伊勢遺跡〔3〕、綿貫牛道遺跡〔4〕、綿貫原北遺跡〔5〕、綿貫小林前遺跡〔30〕では住居10軒弱、不動山東遺跡〔50〕から住居1軒、綿貫堀米前Ⅱ遺跡〔51〕では34軒の住居が検出されている。下大類蟹沢遺跡〔37〕からは住居28軒・溝6条・古墳1基が検出されている。

当遺跡の北西約1.7kmの慈眼寺〔80〕裏境内付近から南東800mにわたり古墳の分布が見られる。6世紀後半の築造で墳丘長47m、複室構造の横穴式石室を有する下滝2号墳(前山古墳)〔55〕や直径40mの御伊勢山古墳〔56〕などがある。

井野川の対岸西南西約700mに位置する綿貫観音山古墳〔60〕は、6世紀後半の築造で綿貫古墳群最後の前方後円墳と考えられている。墳丘長97.5mで二段築成、二重の周堀が巡る。榛名山二ツ岳噴出の角閃石安山岩を積み上げた大型横穴式石室が構築されている。墳丘には円筒

第1表 周辺遺跡一覧

| 番号 | 遺跡名 | 所在 | ○集落・溝等 凸 城館・屋敷 ●墳墓 □水田・畠 △遺物のみ | | | | | | | 参考文献/団：公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
|----|-----------|-------------|-----------------------------------|----|----|-------|-----|----|-----|--|
| | | | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 中世 | 近世 | 近現代 | |
| 1 | 下滝高井前遺跡 | 高崎市下滝町 | ○ | | ○ | ○ | ○●凸 | ○ | | 本報告書 |
| 2 | 下斎田重土葉師遺跡 | 高崎市下斎田町 | △ | | ○ | ○□ | ○ | ○ | | 団『下斎田重土葉師遺跡』2010 |
| 3 | 綿貫伊勢遺跡 | 高崎市綿貫町 | △ | △ | ○ | ○ | ○●凸 | ○ | | 団『綿貫伊勢遺跡』2013 |
| 4 | 綿貫牛道遺跡 | 高崎市綿貫町 | △ | | ○ | ○ | ○●凸 | ○ | | 団『綿貫牛道遺跡』2012 |
| 5 | 綿貫原北遺跡 | 高崎市綿貫町 | △ | | ○ | ○ | ○●凸 | ●□ | | 団『綿貫原北遺跡』2013 |
| 6 | 上新田新田西遺跡 | 玉村町上新田 | △ | | ○ | ○□ | ○□ | □ | | 団『上新田新田西遺跡・上新田赤塚遺跡』2009/同『上新田新田西遺跡』2013 |
| 7 | 上新田赤塚遺跡 | 玉村町上新田 | | | | ○□ | ○ | | | 団『上新田新田西遺跡・上新田赤塚遺跡』2009 |
| 8 | 上新田中道東遺跡 | 玉村町上新田 | △ | | ○● | □ | | ○ | | 団『上新田中道東遺跡』2012 |
| 9 | 下斎田遺跡群 | 高崎市下斎田町 | | | ○● | | ○●凸 | | | 高崎市教育委員会『下斎田遺跡群3』2013 |
| 10 | 下斎田向遺跡 | 高崎市下斎田町 | △ | | ○ | ○□ | | ○ | | 高崎市教育委員会『下斎田遺跡群1』2013/同 |
| 11 | 上滝遺跡群 | 高崎市上滝町 | | | | ○□ | | ○ | | 『下斎田遺跡群2』2013 |
| 12 | 下郷遺跡 | 玉村町八幡原 | | | ○● | | ○凸 | | | 群馬県教育委員会『下郷』1980 |
| 13 | 八幡原A遺跡 | 高崎市八幡原町 | ○ | | | | ○ | ○ | | 団『八幡原A・B遺跡 上滝 元島名A遺跡』1981 |
| 14 | 八幡原B遺跡 | 高崎市八幡原町 | | | △ | △ | ○□ | ○□ | | 団『八幡原A・B遺跡 上滝 元島名A遺跡』1981 |
| 15 | 下斎田・滝川A遺跡 | 高崎市斎田町 | ○ | | ○● | ○ | | ○ | | 団『下斎田・滝川A遺跡 滝川B・C遺跡』1987 |
| 16 | 滝川B遺跡 | 高崎市上滝町 | | | | | | | | 団『下斎田・滝川A遺跡 滝川B・C遺跡』1987 |
| 17 | 滝川C遺跡 | 高崎市上滝町 | △ | | ○ | | | | | 団『下斎田・滝川A遺跡 滝川B・C遺跡』1987 |
| 18 | 上滝遺跡 | 高崎市上滝町 | △ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | 団『八幡原A・B遺跡 上滝 元島名A遺跡』1981 |
| 19 | 元島名B遺跡 | 高崎市元島名町 | △ | | △ | △ | ○ | | | 団『元島名B遺跡・吹屋遺跡』1982 |
| 20 | 下滝天水遺跡 | 高崎市下滝町 | △ | | ○□ | ○□ | ○凸 | □ | | 団『下滝天水遺跡』2004 |
| 21 | 上滝榎町北Ⅲ遺跡 | 高崎市上滝町 | | | □ | | | ○ | | 団『下滝天水遺跡』2004 |
| 22 | 上滝五反畑遺跡 | 高崎市上滝町 | | | ○□ | ○□ | ○ | ○□ | | 団『上滝五反畑遺跡』1997 |
| 23 | 上滝榎町北遺跡 | 高崎市上滝町 | | | □ | □ | ○凸 | ○凸 | | 団『上滝榎町北遺跡』2002 |
| 24 | 宿横手三波川遺跡 | 高崎市宿横手町 | △ | | ○□ | ○□ | ○□ | ○□ | | 団『宿横手三波川遺跡』2001 |
| 25 | 西横手遺跡群 | 高崎市宿横手町 | | | ○□ | ○□ | ○● | ○● | | 団『西横手遺跡群』2001 |
| 26 | 上滝Ⅱ遺跡 | 高崎市上滝町 | | | ○□ | | | ○ | | |
| 27 | 上滝榎町北遺跡 | 高崎市上滝町 | | | ○ | ○ | ○ | □ | | 団『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』2002 |
| 28 | 宿横手三波川遺跡 | 高崎市宿横手町 | | | □ | □ | ○●凸 | □ | | |
| 29 | 西横手遺跡群 | 高崎市宿横手町 | | | □ | ○ | ○ | ○ | | 団『宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群』2003 |
| 30 | 綿貫小林前遺跡 | 高崎市綿貫町 | | | ○ | ○ | ○凸 | ○ | | 団『綿貫小林前遺跡』2006 |
| 31 | 島野環濠遺構群 | 高崎市島野町 | | | | | ○ | | | 『新編高崎市史資料編3中世』1996 |
| 32 | 元島名諏訪北遺跡 | 高崎市元島名町 | | | | □ | | | | 高崎市教育委員会『高崎市内遺跡埋蔵文化緊急発掘調査報告書』1992 |
| 33 | 元島名下河原遺跡 | 高崎市元島名町 | | | ○ | | | | | 『新編 高崎市史資料編2』2010 |
| 34 | 西横手遺跡群(Ⅱ) | 高崎市萩原町・西横手町 | | | □ | □ | □ | | | 高崎市教育委員会『西横手遺跡群(Ⅱ)』1990 |
| 35 | 西横手遺跡群(Ⅰ) | 高崎市萩原町・西横手町 | | △ | ●□ | □ | □ | | | 高崎市教育委員会『西横手遺跡群(Ⅰ)』1989 |
| 36 | 中大類輪具遺跡 | 高崎市中大類町 | | | ○ | ○ | | ○ | | 高崎市教育委員会『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告書』1989 |
| 37 | 下大類蟹沢遺跡 | 高崎市下大類町 | △ | | ○● | ○ | | | | 高崎市教育委員会『下大類蟹沢遺跡』1993 |
| 38 | 下大類・中道下遺跡 | 高崎市下大類町 | | | ○ | ○ | | | | 高崎市教育委員会『下大類・中道下遺跡』2010 |
| 39 | 下大類遺跡 | 高崎市下大類町 | | | ○ | ○ | | | | 高崎市教育委員会『高崎市遺跡分布図』1998 |
| 40 | 上滝社宮司東遺跡 | 高崎市上滝町 | | | ○ | ○ | | | | |
| 41 | 上滝斎田北遺跡 | 高崎市上滝町 | | | □ | □ | | | | 高崎市遺跡調査会『上滝社宮司東・斎田北遺跡・下滝高井前・赤城遺跡』1990 |
| 42 | 下滝高井前遺跡 | 高崎市下滝町 | △ | | △ | △ | | | | |
| 43 | 下滝赤城遺跡 | 高崎市下滝町 | | | ○ | | ○ | | | |
| 44 | 下滝梅崎遺跡 | 高崎市下滝町 | ○ | | ○● | ○ | ○ | | | 高崎市教育委員会『高崎市内小規模埋蔵文化財緊急発掘調査概要』1995 |
| 45 | 八幡原灰塚Ⅱ遺跡 | 高崎市八幡原町 | | | ○● | ○ | ○凸 | | | 高崎市教育委員会『岩鼻坂上北遺跡 八幡原灰塚Ⅱ遺跡 飯塚新田西・雁田遺跡 高崎市内水田遺跡一覧』1994 |
| 46 | 八幡原若宮遺跡 | 高崎市八幡原町 | | △ | ○● | | ○ | ○ | | 高崎市教育委員会『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書17』2003 |
| 47 | 八幡原稻荷遺跡 | 高崎市八幡原町 | △ | | ○ | | ○ | □ | | 『新編 高崎市史資料編2』2010 |
| 48 | 八幡原大畠遺跡 | 高崎市八幡原町 | | ○ | | □ | | | | 高崎市教育委員会『八幡原大畠遺跡・稻荷遺跡』1983 |
| 49 | 綿貫遺跡 | 高崎市綿貫町 | | | ○● | ○ | ○ | | | 高崎市教育委員会『綿貫遺跡』1985 |
| 50 | 不動山東遺跡 | 高崎市綿貫町 | | | ○ | ○ | | | | 不動山東遺跡調査会『不動山東遺跡』1986 |
| 51 | 綿貫堀米前Ⅱ遺跡 | 高崎市綿貫町 | △ | | ○ | ○ | ● | | | 高崎市遺跡調査会『綿貫堀米前Ⅱ遺跡』2000 |
| 52 | 岩鼻坂上北遺跡 | 高崎市岩鼻町 | △ (旧石器) | | ● | | | ○ | | 高崎市教育委員会『岩鼻坂上北遺跡 八幡原灰塚Ⅱ遺跡 飯塚新田西・雁田遺跡 高崎市内水田遺跡一覧』1994 |

第2章 遺跡の立地と周辺の遺跡

| 番号 | 遺跡名 | 所在 | ○集落・溝等 凸 城館・屋敷 ●墳墓 □水田・畠 △遺物のみ | | | | | | | 参考文献/団：公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
|-----|-------------|---------|-----------------------------------|----|----|-------|----|----|--|------------------------------------|
| | | | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 中世 | 近世 | 近現代 | |
| 53 | 乙大応寺遺跡 | 高崎市倉賀野町 | | | ● | | | | | 高崎市教育委員会『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』1991 |
| 54 | 元島名將軍塚古墳 | 高崎市元島名町 | | | ● | | | | | 高崎市教育委員会『高崎市遺跡分布図』1998 |
| 55 | 前山古墳 | 高崎山下澗町 | | | ● | | | | | |
| 56 | 御伊勢山古墳 | 高崎山下澗町 | | | ● | | | | | |
| 57 | 天神山古墳 | 高崎山下澗町 | | | ● | | | | | |
| 58 | 若宮八幡北古墳 | 高崎市八幡原町 | | | ● | | | | | |
| 59 | 稲荷山古墳 | 高崎市綿貫町 | | | ● | | | | | |
| 60 | 綿貫観音山古墳 | 高崎市綿貫町 | | | ● | | | | | |
| 61 | 普賢寺裏古墳 | 高崎市綿貫町 | | | ● | | | | | |
| 62 | 不動山古墳 | 高崎市綿貫町 | | | ● | | | | | |
| 63 | 岩鼻二子山古墳 | 高崎市綿貫町 | | | ● | | | | | |
| 64 | 飯玉山古墳 | 高崎市栗崎町 | | | ● | | | | | |
| 65 | 倉賀野東古墳群大道南群 | 高崎市倉賀野町 | | | ● | | | | | |
| 66 | むじな山古墳 | 高崎市倉賀野町 | | | ● | | | | | |
| 67 | 弁天山古墳 | 高崎市倉賀野町 | | | ● | | | | | |
| 68 | 元島名内出 | 高崎市中大類町 | | | | | 凸 | | | 『新編高崎市史資料編3中世』1996 |
| 69 | 降照屋敷 | 高崎市中大類町 | | | | | 凸 | | | |
| 70 | 下澗館 | 高崎山下澗町 | | | | | 凸 | | | |
| 71 | 下澗屋敷 | 高崎山下澗町 | | | | | 凸 | | | |
| 72 | 下澗田城 | 高崎山下澗町 | | | | | 凸 | | | |
| 73 | 八幡原館 | 高崎市八幡原町 | | | | | 凸 | | | |
| 74 | 灰塚屋敷 | 高崎市八幡原町 | | | | | 凸 | | | |
| 75 | 若宮館 | 高崎市八幡原町 | | | | | 凸 | | | |
| 76 | 堀米屋敷 | 高崎市綿貫町 | | | | | 凸 | | | |
| 77 | 岩鼻陣屋(岩か) | 高崎市岩鼻町 | | | | | 凸 | 凸 | 山崎一『群馬県古城址の研究 上巻』1978 | |
| 78 | 文安の宝塔 | 高崎市綿貫町 | | | | | ● | | 『新編高崎市史資料編3中世』1996 | |
| 79 | 明德元年在銘宝篋印塔 | 高崎市西横手町 | | | | | ● | | 高崎市教育委員会『高崎市遺跡分布図』1998 | |
| 80 | 慈眼寺 | 高崎山下澗町 | | | | | ● | | 『新編高崎市史資料編3中世』1996 | |
| 81 | 陸軍岩鼻火薬製造所 | 高崎市岩鼻町 | | | | | | | ☆ 『陸軍岩鼻火薬製造所の歴史』2007 | |
| 82 | 天神塚Ⅱ遺跡 | 玉村町八幡原 | | | ● | | | | 玉村町教育委員会『角淵伊勢山遺跡・角淵伊勢山Ⅳ遺跡・下郷Ⅱ遺跡・天神塚Ⅱ遺跡・八幡原赤塚遺跡・薬師遺跡』2002 | |
| 83 | 赤城Ⅱ遺跡 | 玉村町八幡原 | | | ○ | ○ | ○ | | 玉村町教育委員会『赤城Ⅱ遺跡』1993 | |
| 84 | 八幡原赤塚遺跡 | 玉村町八幡原 | | | | ○□ | | | 玉村町教育委員会『角淵伊勢山遺跡・角淵伊勢山Ⅳ遺跡・下郷Ⅱ遺跡・天神塚Ⅱ遺跡・八幡原赤塚遺跡・薬師遺跡』2002 | |
| 85 | 八幡原赤塚Ⅱ遺跡 | 玉村町八幡原 | | | | ○ | ○ | ○ | 玉村町教育委員会『赤塚Ⅱ遺跡』2000 | |
| 86 | 稲荷遺跡 | 玉村町八幡原 | | | | ○ | | ○ | 玉村町教育委員会『稲荷遺跡』1999 | |
| 87 | 薬師前遺跡 | 玉村町上之手 | | | | | ○ | | 玉村町教育委員会『薬師前遺跡・薬師前Ⅱ遺跡』2001 | |
| 88 | 薬師前Ⅱ遺跡 | 玉村町上之手 | | | | | ○ | | | |
| 89 | 上之手石塚遺跡 | 玉村町上之手 | | | ○● | ○ | ○ | | 玉村町教育委員会『上之手石塚遺跡』2000 | |
| 90 | 上之手石塚Ⅱ遺跡 | 玉村町上之手 | | | | ○● | | | 玉村町教育委員会『行人塚Ⅱ遺跡・行人塚Ⅳ遺跡・網街道遺跡・網街道遺跡(第2次)・上之手石塚Ⅱ遺跡』2003 | |
| 91 | 上之手石塚Ⅲ遺跡 | 玉村町上之手 | | △ | | ○ | | ○ | 玉村町教育委員会『上之手石塚Ⅲ遺跡』1993 | |
| 92 | 上之手石塚Ⅳ遺跡 | 玉村町上之手 | △ | | | ○ | | | 玉村町教育委員会『上之手石塚Ⅳ遺跡』1993 | |
| 93 | 行人塚遺跡 | 玉村町上之手 | | | | ○ | ○ | ○ | 玉村町教育委員会『神明遺跡・行人塚遺跡・十王堂Ⅲ遺跡・中郷遺跡・松原Ⅱ遺跡・杉山遺跡』2006 | |
| 94 | 行人塚Ⅱ遺跡 | 玉村町上之手 | | | | ○ | | | 玉村町教育委員会『行人塚Ⅱ遺跡・行人塚Ⅳ遺跡・網街道遺跡・網街道遺跡(第2次)・上之手石塚Ⅱ遺跡』2003 | |
| 95 | 行人塚Ⅲ遺跡 | 玉村町上之手 | | | | ○ | | | 玉村町教育委員会『行人塚Ⅲ遺跡』2000 | |
| 96 | 行人塚Ⅳ遺跡 | 玉村町上之手 | | | | ○ | | | 玉村町教育委員会『行人塚Ⅱ遺跡・行人塚Ⅳ遺跡・網街道遺跡・網街道遺跡(第2次)・上之手石塚Ⅱ遺跡』2003 | |
| 97 | 行人塚Ⅴ遺跡 | 玉村町上之手 | | | | ○ | | | 玉村町教育委員会『行人塚Ⅴ遺跡』2001 | |
| 98 | 上之手八王子遺跡 | 玉村町上之手 | | | ○ | ○□ | | | 玉村町教育委員会『上之手八王子遺跡』1991 | |
| 99 | 宇貫遺跡 | 玉村町宇貫 | | | ○ | ○ | ○● | | 玉村町教育委員会『宇貫遺跡』1999 | |
| 100 | 赤城遺跡 | 玉村町宇貫 | | | ○● | | ○ | | 玉村町教育委員会『赤城遺跡』2004 | |
| 101 | 蟹沢遺跡 | 玉村町角淵 | | | | | ○ | ○ | 玉村町教育委員会『蟹沢遺跡』2001 | |
| 102 | 蟹沢Ⅱ遺跡 | 玉村町角淵 | | | | | ○□ | | 玉村町教育委員会『蟹沢Ⅱ遺跡』1993 | |
| 103 | 蟹沢Ⅲ遺跡 | 玉村町角淵 | | | | | ○ | | 玉村町教育委員会『蟹沢Ⅲ遺跡』1993 | |
| 104 | 蟹沢Ⅳ遺跡 | 玉村町角淵 | | | | | ○ | | 玉村町教育委員会『蟹沢Ⅳ遺跡』1993 | |

第2節 周辺の遺跡

| 番号 | 遺跡名 | 所在 | ○集落・溝等 凸 城館・屋敷 ●墳墓 □水田・畠 △遺物のみ | | | | | | | 参考文献/団：公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
|-----|-----------|---------|-----------------------------------|----|----|-------|----|-----|-----|---|
| | | | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 中世 | 近世 | 近現代 | |
| 105 | 角瀨伊勢山遺跡 | 玉村町角瀨 | | | ○● | | | | ○ | 玉村町教育委員会『角瀨伊勢山遺跡・角瀨伊勢山IV遺跡・下郷II遺跡・天神塚II遺跡・八幡原赤塚遺跡・薬師遺跡』2002 |
| 106 | 角瀨伊勢山II遺跡 | 玉村町角瀨 | | | ○● | ○ | | | | 玉村町教育委員会『角瀨伊勢山II遺跡』2000 |
| 107 | 角瀨伊勢山IV遺跡 | 玉村町角瀨 | △ | | ○● | ○ | | | | 玉村町教育委員会『角瀨伊勢山遺跡・角瀨伊勢山IV遺跡・下郷II遺跡・天神塚II遺跡・八幡原赤塚遺跡・薬師遺跡』2002 |
| 108 | 中道西遺跡 | 玉村町上新田 | | | | □ | | | | 玉村町教育委員会『中道西遺跡(第1次・第2次調査)』1996 |
| 109 | 中道西II遺跡 | 玉村町上新田 | | | ○ | ○□ | | | ○ | 玉村町教育委員会『中道東遺跡 中道西II遺跡 蛭堀東遺跡(第2次調査)・中道東II遺跡・中道東II遺跡(第2次調査)』2008 |
| 110 | 中道東遺跡 | 玉村町上新田 | | | ○ | ○□ | ○ | ○ | ○ | |
| 111 | 中道東II遺跡 | 玉村町上新田 | | | ○ | ○□ | ○□ | ○ | ○ | |
| 112 | 蛭堀東遺跡 | 玉村町上新田 | | | ○ | ○□ | ○ | ○ | ○ | |
| 113 | 一本木遺跡 | 玉村町板井 | | | ○ | ○□ | | | ○ | 玉村町教育委員会『一本木遺跡』2004 |
| 114 | 八反田遺跡 | 玉村町板井 | | | | □ | | | | 玉村町教育委員会『玉村町の遺跡』1992 |
| 115 | 天神前遺跡 | 玉村町板井 | | | | ○□ | | | | 玉村町教育委員会『天神前遺跡・大明神遺跡・北小路遺跡』2002 |
| 116 | 天神塚古墳 | 玉村町八幡原 | | | ● | | | | | 玉村町教育委員会『玉村町の遺跡』1992 |
| 117 | 八幡原城 | 玉村町八幡原 | | | | | | 凸 | | 群馬県教育委員会『群馬県の中世城館跡』1988 |
| 118 | 石原屋敷 | 玉村町齋田 | | | | | | 凸 | | |
| 119 | 町田屋敷 | 玉村町齋田 | | | | | | 凸 | | |
| 120 | 温井西屋敷 | 玉村町齋田 | | | | | | 凸 | | |
| 121 | 温井東屋敷 | 玉村町齋田 | | | | | | 凸 | | |
| 122 | 与六屋敷 | 玉村町与六分 | | | | | | 凸 | | |
| 123 | 新井屋敷 | 玉村町上之手 | | | | | | 凸 | | |
| 124 | 字貫館 | 玉村町字貫 | | | | | | 凸 | | |
| 125 | 字貫城 | 玉村町字貫 | | | | | | 凸 | | |
| 126 | 玉村八幡宮 | 玉村町下新田 | | | | | | ○ | | 玉村町教育委員会『玉村町の遺跡』1992 |
| 127 | 横手南川端遺跡 | 前橋市横手町 | | | ○□ | ○□ | ○□ | ○□ | | 団『横手南川端遺跡 横手湯田遺跡』2002 |
| 128 | 横手湯田遺跡 | 前橋市横手町 | △ | △ | ○□ | ○□ | ○□ | ○□ | | |
| 129 | 中村遺跡 | 前橋市鶴光路町 | △ | | ○□ | ○□ | ○ | ○● | | 団『中村遺跡 西田遺跡』2002 |
| 130 | 西田遺跡 | 前橋市鶴光路町 | ○ | | ○□ | ○□ | ○ | ○● | | |
| 131 | 鶴光路榎橋遺跡 | 前橋市鶴光路町 | | | | ○□ | | ○● | | 団『鶴光路榎橋遺跡』2002 |
| 132 | 徳丸高堰遺跡 | 前橋市徳丸町 | | | ○□ | ○□ | | ○●凸 | | 団『徳丸高堰遺跡』2005 |
| 133 | 徳丸仲田遺跡 | 前橋市徳丸町 | ○ | ○ | ○□ | ○□ | | ○●凸 | | 団『徳丸仲田遺跡(1)』2001/『徳丸仲田遺跡(2)』2002 |
| 134 | 横手早稲田遺跡 | 前橋市横手町 | ○ | | ○□ | ○□ | ○□ | ○□ | ○ | 団『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手川端遺跡』2001 |
| 135 | 横手宮田遺跡 | 前橋市横手町 | | | □ | ○□ | □ | ○ | | |
| 136 | 亀里平塚遺跡 | 前橋市亀里町 | | | □ | □ | □ | ○● | | |
| 137 | 下阿内壱町畑遺跡 | 前橋市下阿内町 | | | ○□ | ● | | ○ | | 団『下阿内壱町畑遺跡、下阿内前田遺跡』 |
| 138 | 下阿内前田遺跡 | 前橋市下阿内町 | | | ○□ | ○□ | | ○● | | |
| 139 | 浅間神社古墳 | 前橋市横手町 | | | ● | | | | | 群馬県遺跡台帳 |
| 140 | 新堀城 | 前橋市新堀町 | | | | | | 凸 | | 群馬県教育委員会『群馬県の中世城館跡』1988 |
| 141 | 鎌倉街道 | | | | | | | 道 | | 群馬県教育委員会『歴史の道調査報告書 鎌倉街道』1983 |
| 142 | 佐渡奉行街道 | | | | | | | | 道 | 群馬県教育委員会『歴史の道調査報告書 佐渡奉行街道』1981 |
| 143 | 日光例幣使街道 | | | | | | | | 道 | 群馬県教育委員会『歴史の道調査報告書 日光例幣使街道』1979 |
| 144 | 旧滝川流路 | | | | | | | | ■ | 玉村町町誌編纂委員会『玉村町誌通史編(下巻)』1995 |

埴輪や形象埴輪が樹立され、副葬品には鏡、装身具、武器・武具、馬具、銅製水瓶、須恵器などがある。

6世紀初頭の榛名山二ツ岳降下火山灰層(Hr-FA)下水田は多くの遺跡で確認されている。下滝天水遺跡〔20〕・上滝榎町北Ⅲ遺跡〔21〕・上滝五反畑遺跡〔22〕・上滝榎町北遺跡〔23〕・宿横手三波川遺跡〔28〕・西横手遺跡群〔29〕・西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ〔35・34〕・上滝斎田北遺跡〔41〕、利根川左岸には横手南川端遺跡〔127〕・横手早稲田遺跡〔134〕・横手湯田遺跡〔128〕・横手宮田遺跡〔135〕・亀里平塚遺跡〔136〕などがある。さらに6世紀中葉の榛名山二ツ岳降下軽石層(Hr-FP)下水田が利根川流域で確認されている。右岸側に宿横手三波川遺跡〔28〕・西横手遺跡群〔29〕、左岸側に横手早稲田遺跡〔134〕・横手湯田遺跡〔128〕がある。

5 奈良・平安時代

当遺跡からは8世紀から10世紀代の住居31軒が検出されている。

平安時代に編さんされた『和名類聚抄』によると、上野国には碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽の14郡があった。

当遺跡は、郡の境界地域に位置するため、その帰属は諸説があり定まらないが、那波郡鞆田郷に含まれると考えられている。

奈良・平安時代の遺跡は古墳時代後期と同様の分布を示す。当遺跡周辺から述べると、井野川左岸では上滝遺跡群〔11〕で住居2軒、下斎田向遺跡〔10〕で住居5軒、下滝天水遺跡〔20〕で大集落、元島名下河原遺跡〔33〕で住居20軒、上滝遺跡〔18〕は住居2軒、下斎田・滝川A遺跡〔15〕は住居9軒と土坑、八幡原灰塚Ⅱ遺跡〔45〕は住居1軒である。右岸では、綿貫伊勢遺跡〔3〕で住居83軒、綿貫牛道遺跡〔4〕で住居4軒が検出されている。綿貫原北遺跡〔5〕で住居16軒、綿貫小林前遺跡〔30〕では拠点的な集落が発見されている。両遺跡で連続する大型の区画溝は、11世紀には埋没しており、上位にAs-Bが堆積している。これらの東方に隣接する綿貫遺跡〔49〕で多数の住居と基壇状遺構、溝が検出されている。基壇状遺構は9世紀後半から10世紀前半代までに築造されたと考えられる瓦葺建物であり、綿貫廃寺の存在が想定されている。不動山東遺跡〔50〕は住居2軒、下大類蟹沢遺跡〔37〕は住居72軒・

溝17条である。

周辺地域では、天仁元(1108)年に降下した浅間B軽石層(As-B)直下の水田が検出されている。下斎田重土薬師遺跡〔2〕・上滝遺跡群〔11〕・下斎田向遺跡〔10〕・上滝斎田北遺跡〔41〕・下滝天水遺跡〔20〕・上滝榎町北Ⅲ遺跡〔21〕・上滝五反畑遺跡〔22〕・上滝榎町北遺跡〔23〕・宿横手三波川遺跡〔28〕・西横手遺跡群Ⅰ〔35〕・高崎情報団地Ⅰ遺跡・柴崎遺跡群の東原・富士塚・富士塚前B遺跡と村間・富士塚前A・矢中村東・矢中村東B遺跡・八幡原大畠遺跡〔48〕などである。

6 中世

当遺跡周辺および玉村町域は、鎌倉幕府下で「上野国奉行人」として守護権力を行使した安達氏との関連が深い。安達盛長は、指揮権を上野国内の国衙や寺社にまで及ぼしており、大犯三箇条に規定される守護権力に比べて、より広範な権限を持っていた。上野国奉行人は安達盛長に始まり、景盛－義景－泰盛と継承されていく。安達氏の本拠は幕府内の要人として鎌倉にあったが、上野国内にも基盤を持ち、玉村氏や飽間氏を被官化していった。角淵八幡宮は初代奉行人安達盛長の勧請という伝承がある。当遺跡の南方約1kmに位置する八幡原館〔73〕も、同じく安達屋敷の伝承を持ち、現在でもよく遺構を残している。こうした状況下で、当遺跡と下斎田重土薬師遺跡の間を南北に走る市道を、鎌倉街道〔141〕に当てる説がある(『玉村町誌』通史編上巻図6)。

「蒙古襲来絵詞」では、鎌倉の安達屋敷で厩の別当として働く「左枝五郎」が描かれている。峰岸純夫氏は、「さえだ」氏について玉村御厨内の「さえだ」郷を名字の地とする安達氏家臣とし、この郷を高崎市下斎田(町)に比定している(峰岸2006)。弘安8(1285)年、安達泰盛は霜月騒動により滅亡した。以後、北条得宗家は玉村御厨の多くを編入し、守護権力も獲得していった。

上滝町の慈眼寺〔80〕には、戦没者の供養のため、足利尊氏が五輪塔千基を建立したという江戸時代の記録(「慈眼寺方勤役申上」『新編高崎市誌』資料編4中世2参考資料14、「慈眼寺来由」同参考資料13)があり、境内墓地に今も384基の中世墓石が残る。同記録によれば、尊氏は寺領として綿貫七郷を寄進したという。

関東管領上杉氏と古河公方足利成氏が争った享徳の乱

(享徳3(1455)年～文明14(1483)年)では、当遺跡の南東約3.5kmに位置する玉村町角淵が戦場となり、岩松持国が在陣している。角淵は上野国と武蔵国の境となる烏川を渡る渡河点であり、江戸時代における佐渡奉行街道〔142〕にも受け継がれていった。

享徳の乱において、文明9(1477)年古河公方足利成氏が半年近く陣所とした滝・島名陣は、下滝館〔70〕を中心とする地域に比定されている。周辺には8,000人余の軍勢が張陣したという。この陣内には、八幡原館〔73〕や下斎田城〔72〕、当遺跡周辺が含まれていた可能性が高い。陣の形態を論じた松岡進氏は、滝・島名の陣を「利根川と井野川に挟まれた平地に数キロにわたって連続、あるいは断続していたもの」とし、「陣所が統一的なプランに沿って密集的に配置されるものではなく、「切所」をいくつも挟んで個々に造作された陣所群の疎集ともいべき景観をなしていた」と分析する(松岡2005)。「切所」とは難所の意味であり、他の陣所を指すことも考えられる。松岡氏は、陣の周りに城館跡、特にいわゆる「方形館」が存在する例が少ないことを指摘している。当遺跡3区の中世屋敷は、15世紀後半にも機能しており、焼失家屋など兵火を示す状況は見られないが、陣所の一部として使用された可能性は高いと思われる。

前掲の「慈眼寺来由」では、15代恵胤阿闍梨が関東管領上杉憲政の舎弟で、憲政没落に際して、慈眼寺の仏閣僧坊が兵火により焼失したと伝える。周辺の中世武士では、井野川西岸で綿貫氏の存在が知られるが、16世紀には史料上見られなくなる。16世紀以降、上杉氏と直接結びつくような在地勢力の存在は知られていない。

発掘調査によれば、当遺跡周辺で中世屋敷が集中して発見されている。当遺跡の南に隣接する下斎田遺跡群〔9〕では、当遺跡3区1号屋敷を囲む16号溝の延長部が検出され、屋敷の南東角が明らかとなった。あわせて中世の土坑墓や火葬跡も検出されている。当遺跡の南東約1kmに位置する八幡原B遺跡〔14〕では、一辺40m規模の環濠遺構が調査されている。同じく北西約1.2kmの下滝天水遺跡〔20〕では、下滝館〔70〕の外堀と推定されるA1区4・5号溝の2条が調査された。調査前は、地形変化から堀跡と推定されていたが、調査の結果、出土遺物はほとんど近世であった。現存する堀が水堀として機能している状況に対して、発掘調査された溝は他より先立っ

て埋められたと判断される。溝を含めて館の存続時期は、課題として残された。

そこから北へ約0.8kmの上滝遺跡〔18〕では、複数の環濠遺構が見ついている。なかでも、一辺30m規模の区画遺構は内部に明確な遺構を伴わず、区画溝南辺に2か所の出入り口を持つなど、本遺跡3区2号区画遺構と共通点が多い(第5章第2節3参照)。調査区北端の井戸では、16世紀の内耳土器も出土する。

上滝遺跡に隣接する上滝榎町北遺跡〔23〕では、中世から近世前半に及ぶ屋敷が発見されている。区画の規模は東西約70m・南北約45mで、中央を境に東西に分割される。調査範囲では、西側の区画に掘立柱建物6棟を含むピットが分布するが、東側の区画には井戸や溝のみという特徴がある。

当遺跡から北西へ約3.5kmとやや離れるが、同じく井野川左岸の元島名B遺跡〔19〕では、元島名城の外郭を囲む堀がL字形に、総延長約140mにわたり検出された。出土遺物は14・15世紀である。元島名城の本丸部分と桜屋敷部分は、元島名遺跡として調査され、13～16世紀に及ぶ多量の陶磁器類が出土している。

井野川右岸では、当路線の延長部にあたる綿貫伊勢遺跡〔3〕で、一辺約50m規模の屋敷が検出され、東西幅約35mに区画された部分で、19棟の掘立柱建物が見つかった。建物は主軸方位の違いから、4種類に分類され、5時期の変遷が捉えられている。屋敷の存続時期は、14世紀後半から16世紀に及ぶ。

その西側に隣接する綿貫牛道遺跡〔4〕では、市道を挟んで1・2区にまたがる中世屋敷が発見されている。屋敷の規模は南北約39m、東西約25mである。平面形は南北に長い長方形で、区画溝は四周せず、東辺と西辺が大きく開口している。内部では建物23棟が検出され、主軸方位の違いから5群に分類され、5時期以上の変遷が捉えられている。時期は、14世紀半ばから15世紀半ば頃と考えられる。出土遺物では、瀬戸美濃系の古瀬戸陶器がやや多く出土し、ほぼ完形の天目茶碗(15世紀前半)の出土は特筆される。

その更に西側に隣接する綿貫原北遺跡〔5〕では、14～16世紀にわたる中世屋敷5か所が発見された。1区北端の1号屋敷は、南西端部分の調査となるが、一辺50mを超える屋敷とみられる。区画溝は食い違い、内堀に

相当するものもあるため、複郭構造と推定される。ほかに見つかった屋敷4か所では、2区1号屋敷が一辺約34.5mで建物21棟が建ち、6時期程度の変遷が想定される。3区の屋敷2か所は小規模で、建物敷地は10m規模であり、面積で20㎡を超える建物はほとんどない。

綿貫原北遺跡の西側に接して、北東方向に位置する綿貫小林前遺跡〔30〕では、P東区、P北区にかけて二重の溝に囲まれた屋敷の一角が調査されている。調査範囲では南北規模約22m以上であり、外堀は東方調査区域外へ直線的に延びている。存続時期は出土遺物から14～15世紀代に位置づけられる。建物は1棟のみ復元される。

以上の状況により、当地域は中世屋敷が集中して調査されていることがわかり、こうした成果を総括的にとらえる視点も必要となる。

引用文献

- ・松岡進2005「戦国初期東国における陣と城館」『戦国史研究』第50号
- ・峰岸純夫2006「『蒙古襲来絵詞』に描かれた上野武士」『中世東国の荘園公領と宗教』吉川弘文館26-39頁。

7 近世

下滝村は、江戸時代はじめに高崎藩領であり、慶安2(1649)年には前橋藩領、のち幕府領となり、寛政5(1793)年岩鼻陣屋(77)が設置されると、その支配地となった。

当遺跡の東方約500mを南流する滝川は、滝川用水あるいは備前堀と呼ばれる。慶長9(1604)年総社城主秋元長朝によって完成した当初は、当地域まで導水されていなかった。幕府代官伊奈備前守忠次は当地域の開発を目論み、同15年には前橋市西部から高崎市東部を経て玉村町に至る広範囲な地域を潤すかんがい用水となった。開削工事には、滝川の江原源左衛門や玉村の和田与六も功績を挙げた。当地域への導水は、八幡原堰が利用されている。用水路は途中から自然の河川を使用したと言われる。当遺跡3区東端では用水路を思わせる溝が繰り返し造られ、滝川用水開削以前から用水路が存在した可能性が高い。

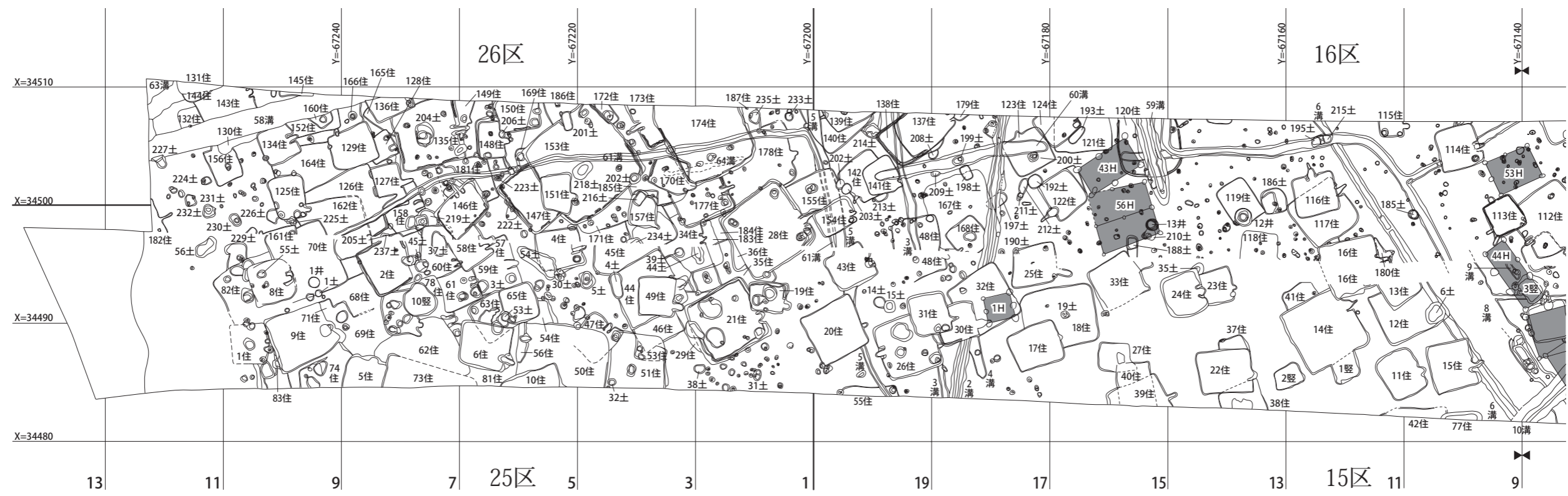
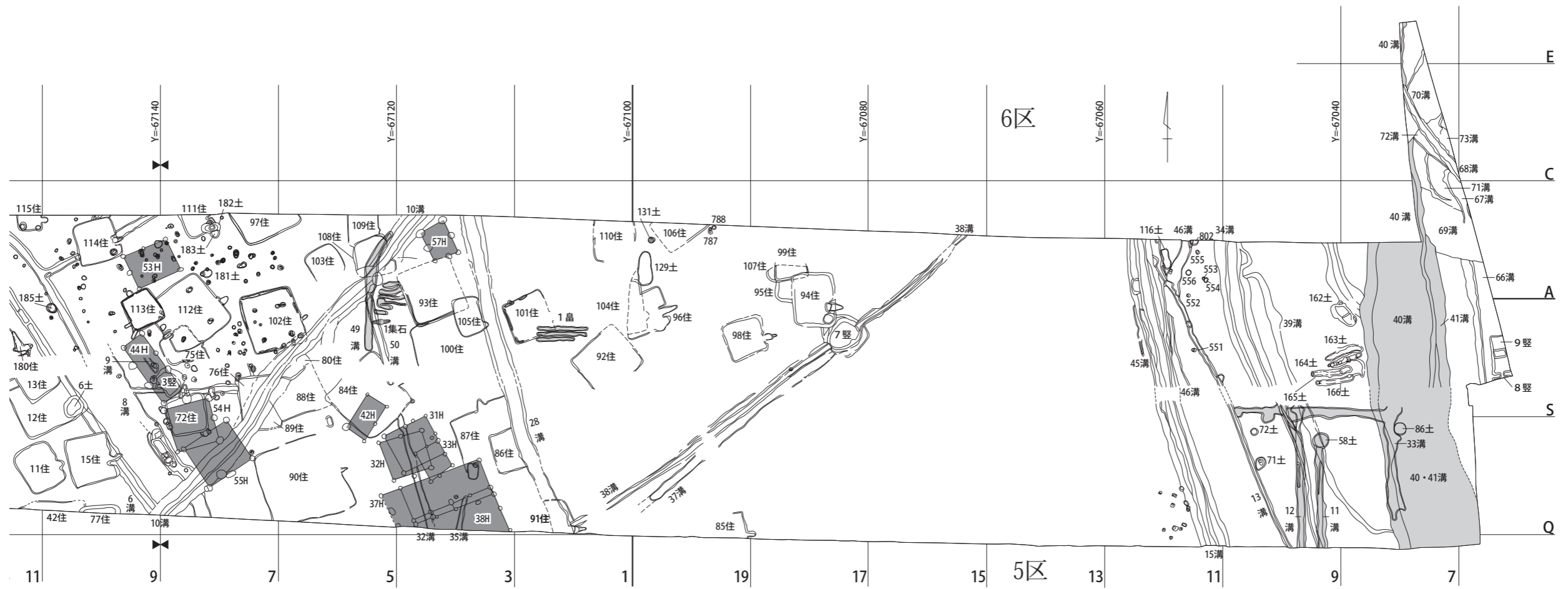
8 近代

当地域は明治元(1868)年に岩鼻県、同4年群馬県、同6年熊谷県、同9年以降群馬県に所属した(第9図)。

当遺跡の南1.5km、現在の日本化薬株式会社高崎工場の敷地内に、明治13(1880)年陸軍の火薬製造所(当時の正式名称は「東京砲兵工廠岩鼻火薬製造所」)〔81〕の建設がはじまった。その後、明治38(1905)年、大正7(1918)年、大正末年から昭和初年、昭和13(1938)年から同14年、同17年に敷地拡張が行われている。

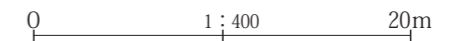
この製造所の建設から敷地拡張によって、綿貫古墳群を構成する前方後円墳の岩鼻二子山古墳や円墳多数が壊されていった。出土遺物の一部は東京国立博物館に収蔵されている。

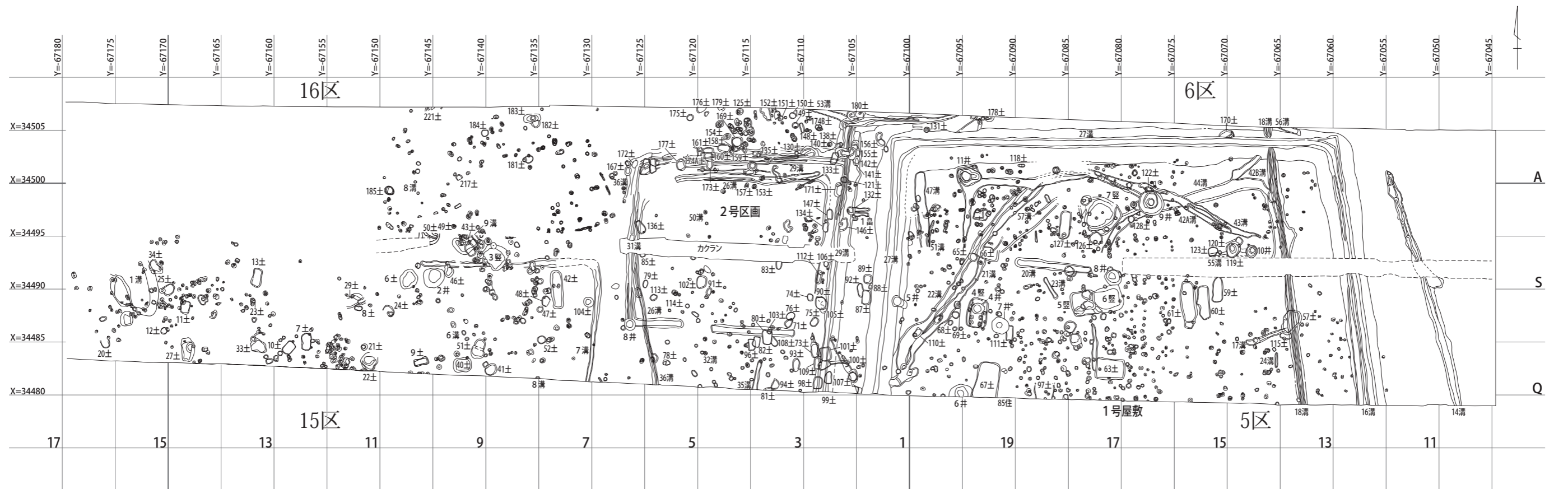
昭和20(1945)年まで存続した製造所は、現在の独立行政法人日本原子力研究開発機構と「群馬の森」(県立公園)、日本化薬株式会社の敷地を含む広大な面積があった。製造所跡は文化庁の近代化遺産総合調査や近代の遺跡調査(詳細調査)の対象となっている。



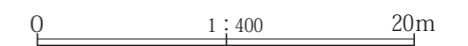
※ 図中の区名称は、中グリッドを表す。

第13図 3区古代・近世遺構全体図





※ 図中の区名称は、中グリッドを表す。



第14図 3区中世区画遺構群全体図

第3章 発掘調査の記録

第1節 遺跡の概要

1 概要

1区(第5図)

西端の井野川と広沢川に挟まれた狭い河岸下位段丘部分である。1区では2本のトレンチによる調査を行ったが、遺構はまったく検出されなかった。

2区(第6図)

調査区の西側三分の一程度のところに段丘崖があり、広沢川に向かって落ち込んでいる。また、北東から南西方向に調査区中央やや北寄りを埋没谷が横断している。調査区西側の低位段丘部分は、トレンチによる調査を行ったが、遺構は検出されなかった。しかし、残りの中位段丘上の緩やかな傾斜地には古墳時代～平安時代の住居や中近世の墓などの遺構が分布している。基本的には浅間B軽石混土層の面が中近世の第1面であり、その下層を第2面として古墳時代～平安時代の遺構が検出されるが、開発により地形の傾斜を均すための削平が行われ、第2面確認面に達しているところもある。遺構の分布は中央の埋没谷によって分けられるが、特に北部の崖に近いところでは古墳時代～平安時代の竪穴住居が重複していた。検出された竪穴住居の中には、カマドの残存状況が良好なものもあった。古墳時代の竪穴住居は大型で正方形に近い形態が多く、平安時代の竪穴住居は長方形で長軸が4m以内となっている。また、中近世の主な遺構では墓や井戸があげられる。墓からは人骨が出土している。

3区(第13・14図)

調査区の全長は約280mに及ぶ。比較的安定した地形で、東端約20mは小谷地地形となる。調査年度は2か年に分かれ、工事工程の都合で、調査区を南北に分割して調査した。このため、遺構確認の齟齬が生じ、住居の一部が未確認となったものもある。

遺構は調査区全体で密に分布するが、時期別に分布範囲が分かれる傾向にある。調査区の東側約100mには、中世の区画遺構が隣接して2か所存在する。このため節を2つに分け、中世区画遺構を第4節とし、それ以外を第3節として扱った。

第3節で扱った遺構と遺物は、縄文時代住居1軒、古墳時代住居132軒、平安時代住居16軒、時期不確定住居30軒と、土坑・溝多数であり、近世以降もここに含んでいる。

第4節は中世区画遺構であり、概要を除き3つの項目に分かれる。1号区画遺構(以下、1号屋敷)は3区の東端に位置し、16・27号溝により南に開く「コ」の字形に囲まれた屋敷である。南側調査区域外に未調査地が延びている。屋敷の規模は一辺40～60m程である。屋敷内部では掘立柱建物39棟ほかが検出されている。

1号屋敷の西側には、29～31号溝によって方形に囲まれた2号区画遺構がある。規模は一辺20m弱である。区画溝とほぼ重なる位置に土坑が集中する様相を示す。特に、火葬跡や土坑墓、石造物などを混入する土坑がやや多く見られ、2号区画遺構の性格に関連する可能性が高い。

中世区画遺構として、1・2号区画遺構以外に、7号溝も区画を形成しており、西限は不明ながら同時期のものに1号溝がある。1号屋敷の東側でも関連する溝があり、全体として区画遺構に関連するその他のものとして、性格づけられる。

第2節 2区の遺構と遺物

1 概要

2区から検出された遺構は、古墳時代～平安時代の竪穴住居13軒、土坑1基、ピット2基で、中近世の遺構としては、竪穴状遺構1基、土坑11基、井戸1基、ピット4基、溝1条である。

なお、竪穴状遺構は調査当初2基であったが、1号竪穴状遺構は、5号住居の埋没土の一部であると判明したため、欠番となった。また土坑では、5～7号土坑が調査の結果、現代の掘り込みであることが確認できたため、欠番となった。

2 竪穴住居

調査区中央に埋没谷があり、住居は南北に分かれている。北側に9軒、南側に4軒である。

1号住居(第15図、P.L. 5・166、第2表)

位置 26D-17グリッド

形状 住居の大半は調査区外であり、さらに傾斜地にあり削平が著しいため、南壁・西壁とも残存状態が悪く、不明。

主軸方位 N-72°-E

規模 面積2.16㎡以上。長軸(東西)2.93m以上、短軸(南北)0.82m以上 残存壁高0cm～30cmを測る。

床面 一部攪乱されているが、貼床が4～8cmの厚さで施されている。

炉 調査範囲では確認できなかった。

貯蔵穴 調査範囲では確認できなかった。

柱穴 調査範囲では確認できなかった。

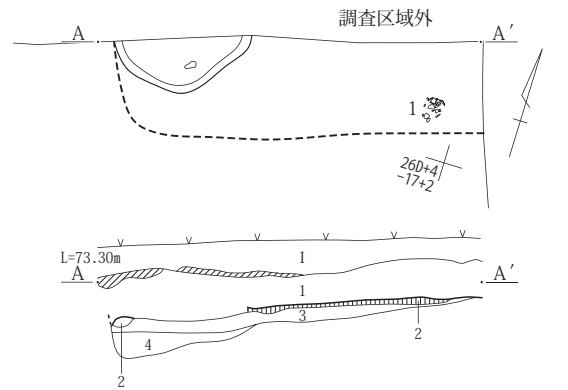
周溝 調査範囲では確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられるが、削平等により不明瞭な点がある。

掘り方 全面に掘り下げる。西側は深く、30cmまで下がる。

遺物 北端床面で土師器壺(1)が出土する。出土量は少ない。

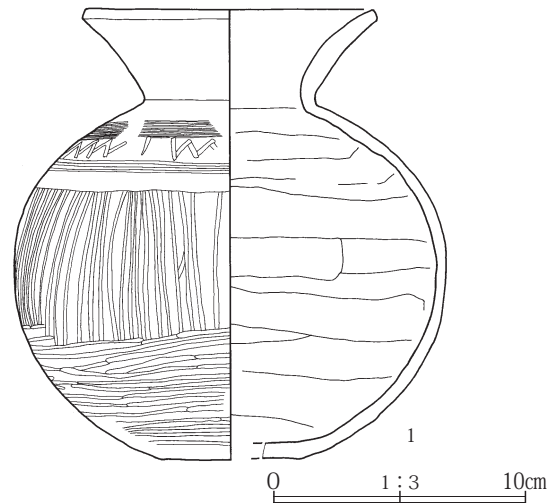
時期 出土遺物から4世紀前半に比定される。



1号住居

- 1 暗褐色土 硬くしまる。小礫・白色粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 黄褐色土 貼床。硬くしまる。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子・白色粒子を含む。
- 4 黒褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。白色粒子・小礫を含む。
- ※ 3、4層は掘り方フク土

0 1:60 2m



第15図 2区1号住居と出土遺物

第2表 2区1号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|----------|-------------|-----------|------------|------------|--------------------|---|--------------------------|
| | | | | 口底 | 高さ | 口径 | | | |
| 第15図 PL.166 | 1 | 土師器 壺 | 床直 1/3 | 口底 5.4 | 高さ 11.2 | 口径 17.7 | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。肩部には横位に櫛描簾状文を2段めぐらし、その間にヘラ状工具による鋸歯文を配す。胴部は中位が縦位、下位が横位にヘラ磨き。内面胴部は横位にナデ。ハケ目(1cmに10本)。 | 口縁部・胴部の2点から図上復元。内外面とも磨耗。 |

2号住居(第16・17図、P.L. 5・6・166、第3表)

位置 25R-17・18グリッド

形状 東西に長い長方形を呈する。

主軸方位 N-82°-E

規模 面積8.85㎡。長軸3.72m、短軸2.76m 残存壁高4cm～12cmを測る。

床面 貼床はないものの、床面は硬化している。

カマド 東壁の南端に設置される。燃烧部は住居の壁を掘り込んで造られ、その中央には支脚として用いられた礫が直立している。全長136cm・燃烧部幅64cmである。

貯蔵穴 北東隅に設置される。円形であるが、南東に段

を持って張り出す。土器・石器のほか、粘土塊が中から出土した。規模は長径96cm・短径76cm・深さ24cmである。貯蔵穴になるものと思われる。

柱穴 確認できなかった。

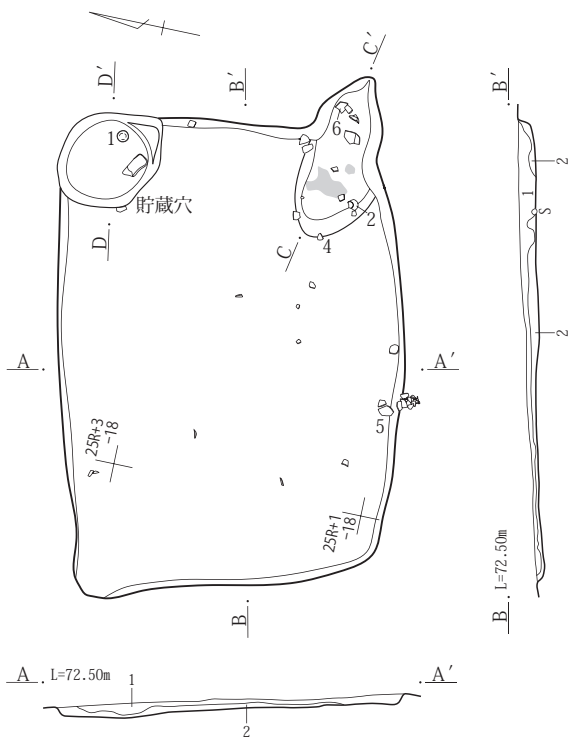
周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。

掘り方 確認できなかった。

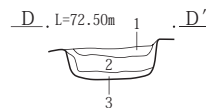
遺物 カマド内から土器片がやや多く出土しているほか、南壁中央付近の内外に集中する箇所がある。住居廃絶時の投げ込みと考えられる。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。



2号住居

- 1 褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。白色軽石・炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。白色粒子・赤褐色土粒子を含む。



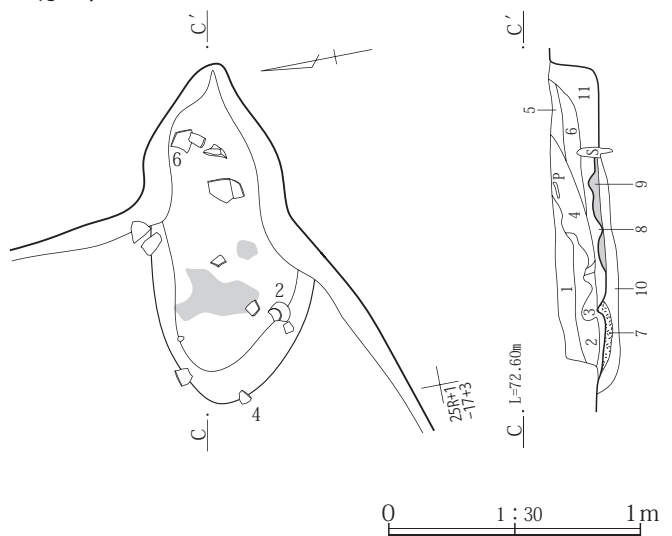
貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロック・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性あり。黒色土ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。黄白色土ブロックを少量含む。

カマド

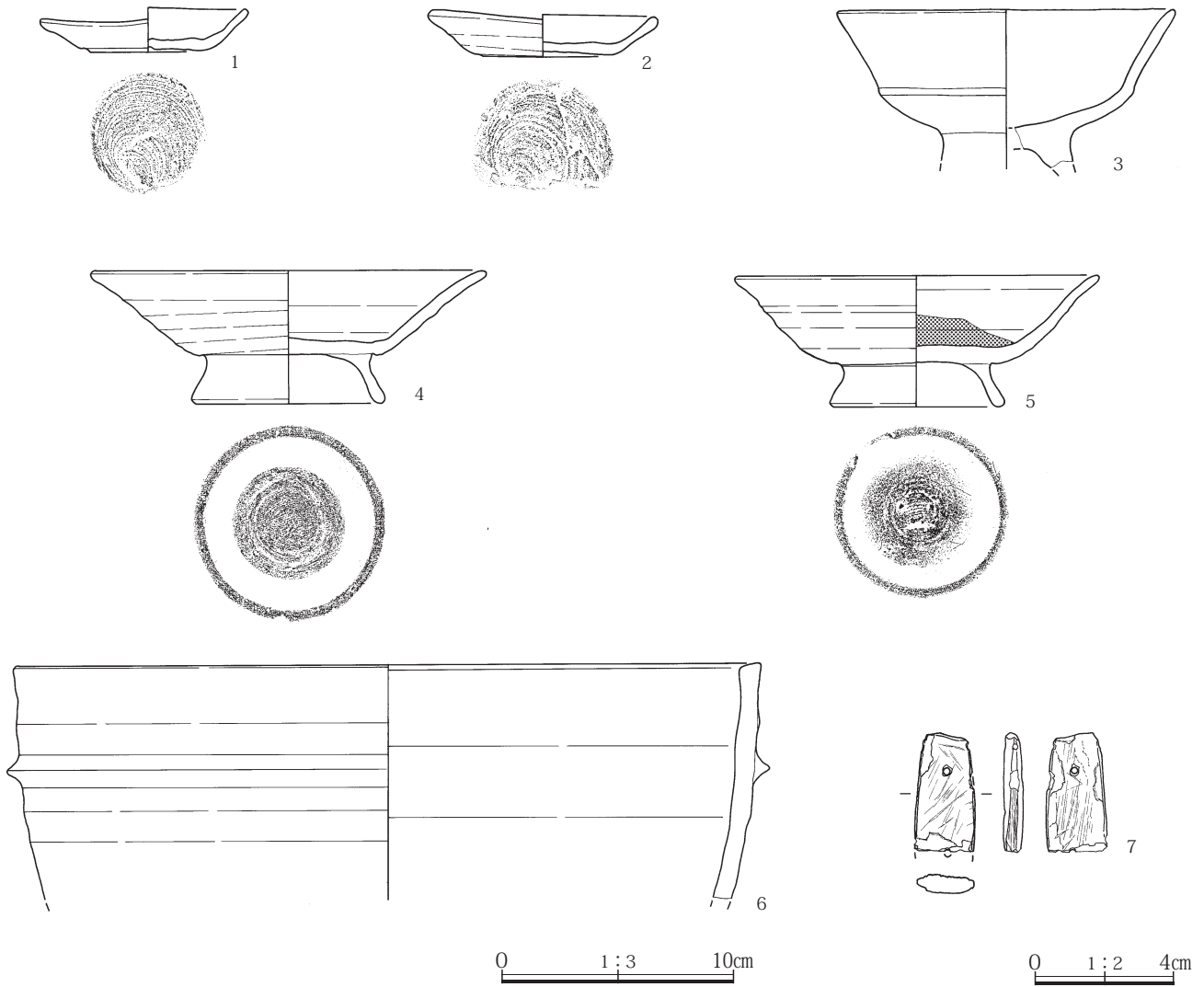
- 1 褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。白色軽石・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまりよい。炭化物・焼土粒子を少量含む。
- 3 黒灰色土 軟らかい。粘性あり。灰・焼土ブロック・炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくしまりよい。焼土ブロック・焼土粒子をやや多量に含む。
- 7 灰
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック・焼土粒子を多量に含む。
- 9 焼土
- 10 灰褐色土 軟らかくしまりよい。粘性あり。焼土・灰を含む。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・ローム粒子を少量含む。

カマド



第16図 2区2号住居

第3章 発掘調査の記録



第17図 2区2号住居出土遺物

第3表 2区2号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|----------------|-----|--------------|-------------------|-----|--------------|----|--------------------|---------------------------|---------------------------------------|----------|
| 第17図 PL.166 | 1 | 須恵器 皿 | 貯蔵穴 完形 | 口底 | 8.6 5.0 | 高 | 1.9 | 細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 | |
| 第17図 PL.166 | 2 | 須恵器 皿 | カマド 4/5 | 口底 | 9.4 5.9 | 高 | 1.8 | 細砂粒・褐色粒/ 酸化焰/橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 | |
| 第17図 | 3 | 土師器 高杯 | 口縁～脚部上位 片 | 口 | 14.1 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 磨滅のため整形痕不明。 | |
| 第17図 PL.166 | 4 | 須恵器 椀 | +8 1/3 | 口底 | 16.4 8.0 | 高台 | 5.7 7.2 | 細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切りか。 | |
| 第17図 | 5 | 須恵器 椀 | 床直 1/2 | 口底 | 15.4 6.4 | 高台 | 5.6 7.2 | 細砂粒/酸化焰/明 黄褐 | ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。 | 内面に煤が付着。 |
| 第17図 | 6 | 須恵器 羽釜 | カマド 口縁部 ～胴部上位片 | 口 | 31.8 | 鏝 | 32.2 | 細砂粒・白色粒/ 酸化焰/にぶい赤 褐 | ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。 | |
| 第17図 | 7 | 石製模造品 剣形? | | 長幅 | (3.4) 1.7 | 厚重 | 0.6 5.5 | 滑石 | 概形を粗く研磨整形して、形状を長方形に整える。径2mmの孔を片側穿孔する。 | |

3号住居(第18・19図、P L. 5～7・166、第4表)

位置 25O・P-16・17グリッド

形状 住居の一部は調査区外のため明確でないが、東西にやや長い長方形と考えられる。

主軸方位 N-77°-E

規模 面積8.24㎡以上。長軸(東西) 3.42m、短軸(南北) 2.62m以上 残存壁高11cm～42cmを測る。

床面 貼床はないものの、床面は硬化している。

カマド 東壁に設置され、調査区の南際にある。燃焼部のおよそ半分と煙道は調査区外にある。燃焼部の構築に

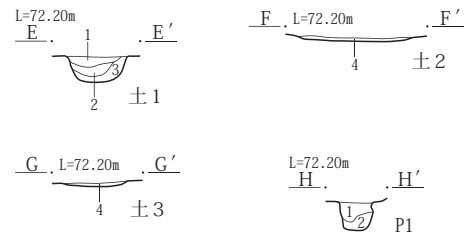
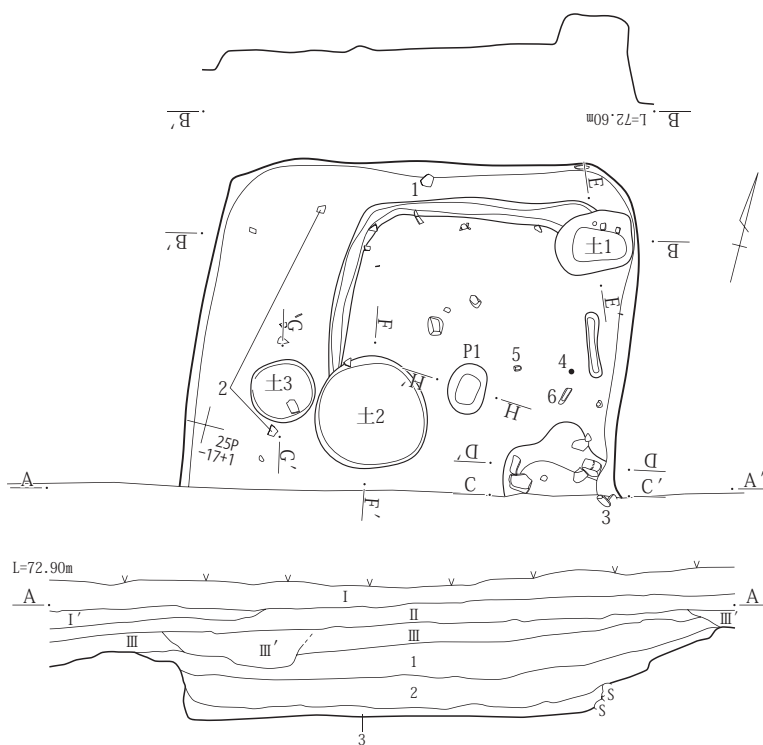
は礫が用いられている。燃焼部の灰層が2層に分かれており、カマドの改築が行われた。

住居内土坑1 北東隅に位置する。東西にやや長い不整形である。規模は長軸66cm・短軸46cm・深さ20cm。貯蔵穴になる可能性がある。

住居内土坑2 中央南寄りに位置する。ほぼ円形である。規模は長径92cm・短径90cm・深さ3cmであり、極めて浅い。

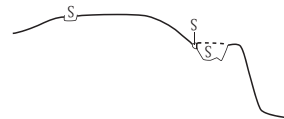
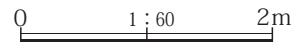
住居内土坑3 土坑2に接している。ほぼ円形である。規模は長径50cm・短径46cm・深さ3cmであり、極めて浅い。

柱穴 1基検出されている。中央やや東寄りに位置する。

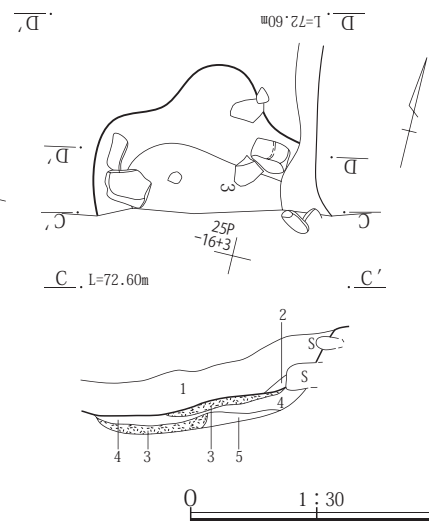


住居内土坑1～3・P1

- 1 灰褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黒褐色土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。
- 3 灰褐色土 軟らかい。粘性あり。炭化物粒子を少量含む。
- 4 灰褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。



カマド



3号住居

(調査区壁面)

III' 暗褐色土 やや硬くしまる。浅間B軽石を多量に含む。

I' やや硬くしまる。粘性あり。白色粒子を含む。

3号住居

1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。炭化物粒子・焼土粒子・白色粒子を含む。

2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・黄白色土ブロックを含む。

3 暗褐色土 軟らかくてしまりよい。粘性あり。焼土粒子・炭化物・灰を含む。

カマド

1 暗褐色土 軟らかくてしまりよい。粘性あり。焼土粒子・炭化物・灰を含む。

2 暗褐色土 軟らかくてしまりよい。粘性あり。焼土粒子を少量含む。

3 灰

4 灰褐色土 軟らかくてしまりよい。灰と焼土の混土層。

5 暗褐色土 やわらかい。粘性あり。ローム粒子を少量含む。

第18図 2区3号住居

第3章 発掘調査の記録

長径40cm・短径30cm・深さ22cmである。

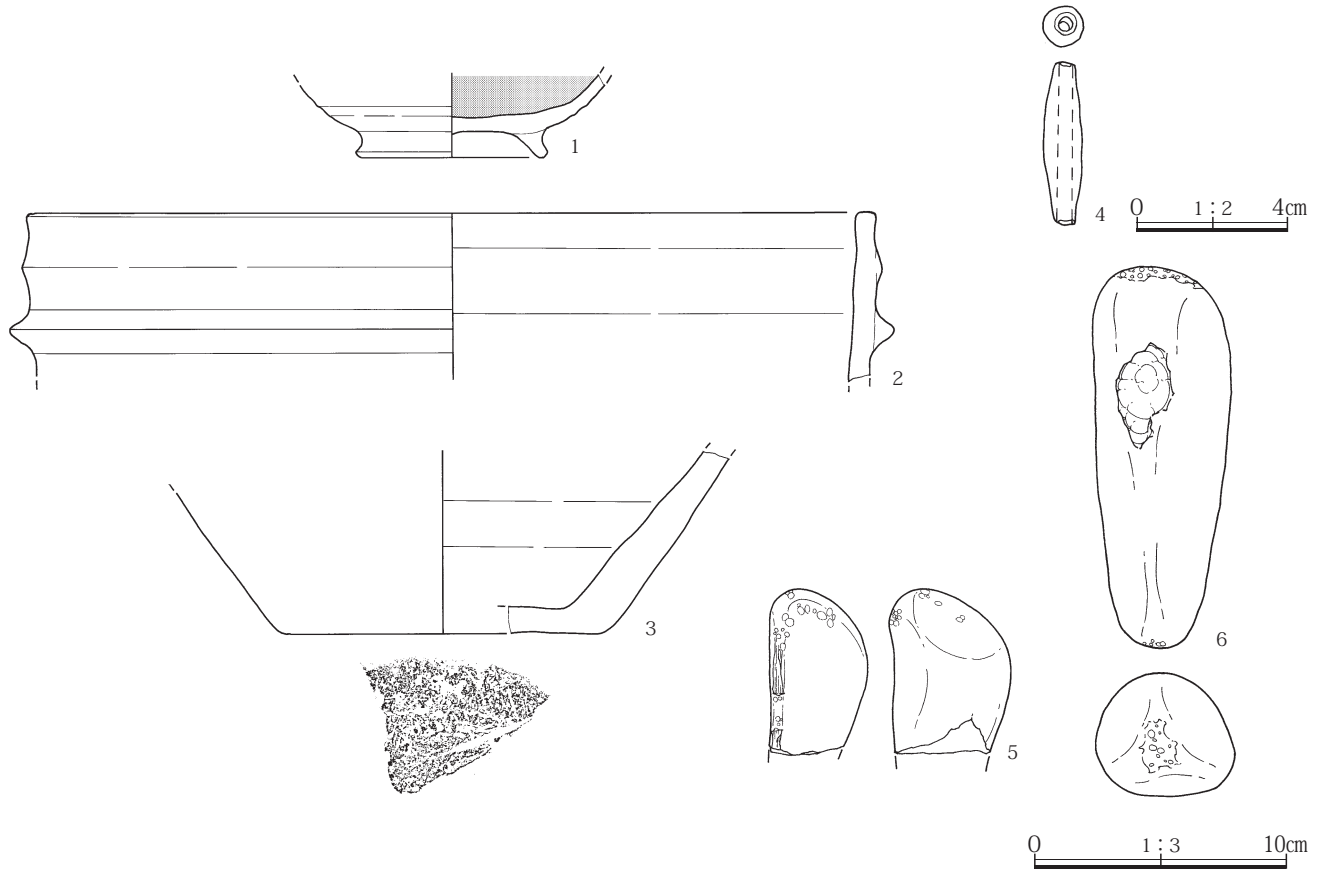
周溝 北壁、西壁と東壁の一部で巡るが、壁より離れた内側を巡っているため、住居の拡張が行われたと考えられ、拡張前の周溝と考える。幅4～18cm、深さは5cm以内である。

埋没土 自然埋没土と考えられる。

掘り方 確認できなかった。

遺物 出土量はあまり多くない。周溝付近からの出土が多いが、集中しているわけではない。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。



第19図 2区3号住居出土遺物

第4表 2区3号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|------------------|--------|--------------|--------|--------------------|-----------------------|--|-----|
| | | | | 底 | 台 | 口 | | | | |
| 第19図 | 1 | 黒色土器 椀 | +2 体部下位 ～底部片 | 底 | 7.2 | 台 | 7.2 | 細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐 | ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。底部は回転後、ナデ。内面黒色処理。 | |
| 第19図 | 2 | 須恵器 羽釜 | +2 口縁部～ 鏝下小片 | 口 | 33.3 | 鏝 | 34.6 | 細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。 | |
| 第19図 | 3 | 須恵器 甕 | カマド 底部～ 胴部下位片 | 底 | 12.6 | | | 細・粗砂粒・角閃・ 長石/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回りか。底部と胴部はへら削り、胴部は器面磨滅で単位など不鮮明。 | |
| 第19図 | 4 | 土製品 土錘 | 床直 完形 | 長 巾 | 4.3 1.1 | 孔 重 | 0.4 3.9 | 微砂粒/良好/浅黄 | 表面はナデ。 | |
| 第19図 PL.166 | 5 | 礫石器 敲石 | +7 | 長 幅 | (6.5) 4.8 | 厚 重 | 3.9 183.7 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部上端に敲打痕があるほか、左辺エッジには面取り整形様の工具痕が残る。 | 棒状礫 |
| 第000図 PL.166 | 6 | 礫石器 敲石 | 床直 | 長 幅 | 15.1 5.5 | 厚 重 | 4.9 645.6 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端を敲打する。全面が被熱して煤け、部分的に剥落している。 | 棒状礫 |

4号住居(第20図、P L. 7・166、第5表)

位置 25P-14グリッド

形状 住居は調査区の南東隅に位置し、調査区外にまで広がるため、不明。

主軸方位 N-14°-W

規模 面積6.95㎡以上。長軸(南北)2.82m以上、短軸(東西)2.32m以上 残存壁高2cm~8cmを測る。

床面 貼床はないものの、床面は硬化している。

カマド 調査区外に所在するものと考えられ、不明。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

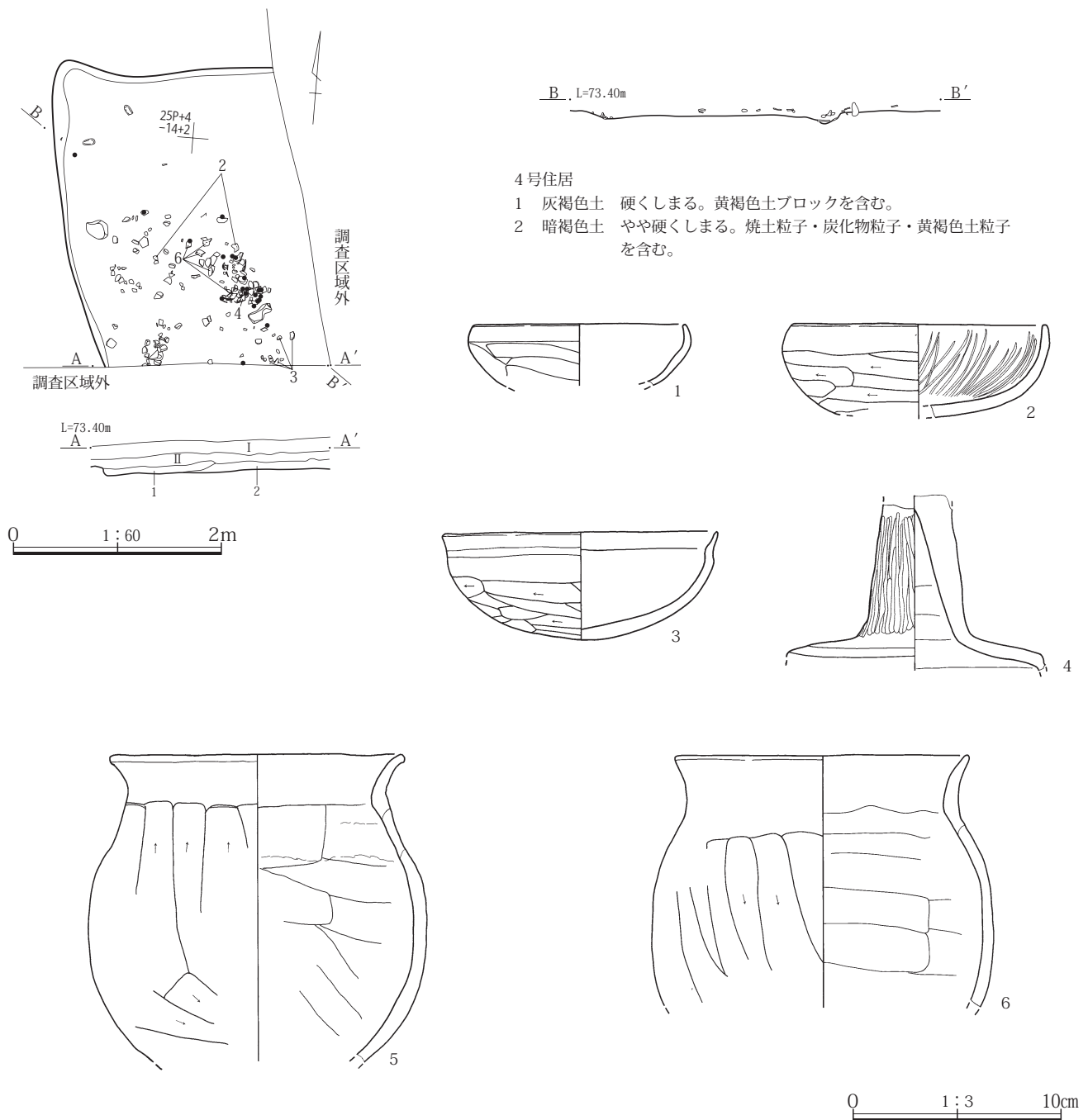
周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられるが、削平により、僅かしか残っていない。

掘り方 確認できなかった。

遺物 多量の土器が出土している。ほとんどは廃棄とみられる。中央南寄りで土器等が集中する箇所がある。

時期 出土遺物から5世紀後半に比定される。



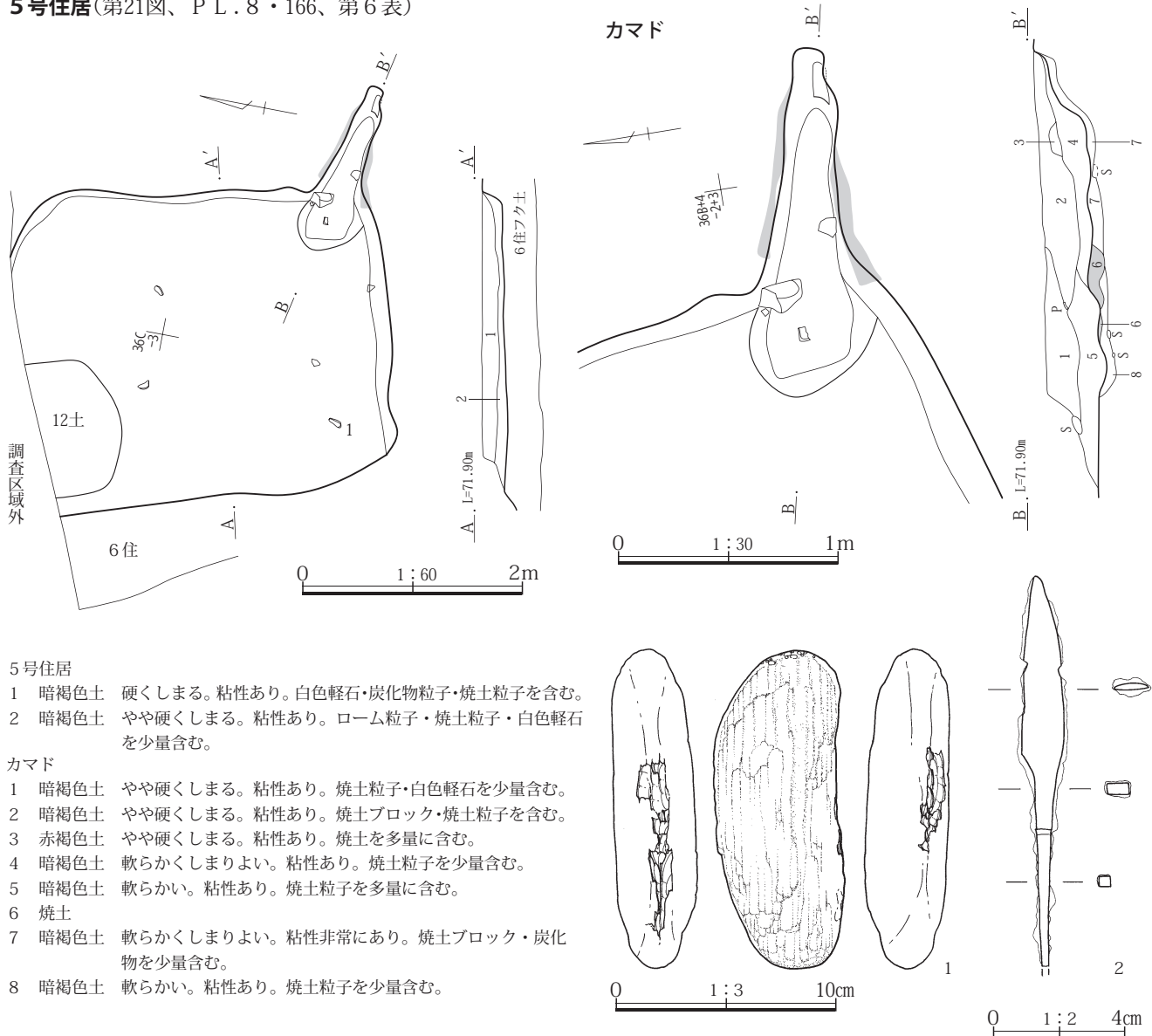
第20図 2区4号住居と出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第5表 2区4号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|-----------|--------------------|-----|------|--------|-----------------------------|---|-----------------|
| | | | | 口 | 高 | 大 | | | |
| 第20図 | 1 | 土師器 杯 | 破片 | □ | 10.0 | | 精選/良好/にぶい 赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面に黒色の 付着物。 |
| 第20図 PL.166 | 2 | 土師器 杯 | 床直 3/4 | □ | 12.0 | 大 12.7 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は 体部から口縁部に放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | |
| 第20図 PL.166 | 3 | 土師器 杯 | +2 1/2 | □ | 13.0 | 高 5.1 | 細砂粒/良好/にぶい 橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ 削り。 | |
| 第20図 PL.166 | 4 | 土師器 高杯 | 床直 脚部~裾 部(端部欠損) | | | | 細砂粒/良好/橙 | 脚部は縦位のヘラ磨き、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナ デ。 | |
| 第20図 | 5 | 土師器 甕 | 口縁部~胴部下 位片 | □ | 13.8 | 胴 16.0 | 細・粗砂粒・角閃・ 長石/良好/にぶい 橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。 | |
| 第20図 PL.166 | 6 | 土師器 甕 | +3 口縁部~ 胴部中位片 | □ | 13.8 | 胴 16.1 | 粗砂粒・片岩/良 好/にぶい橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。 | |

5号住居(第21図、P.L.8・166、第6表)



第21図 2区5号住居と出土遺物

第6表 2区5号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|-----------|-------------|-------------|--------------|--------|--------------------|---------------------------|-----|
| | | | | 長 幅 | 厚 重 | 厚 重 | | | |
| 第21図 PL.166 | 1 | 礫石器 敲石 | +8 | 14.4 5.9 | 3.9 450.1 | | 黒色片岩 | 右辺エッジが敲打され、これに伴い衝撃剥離している。 | 棒状礫 |
| 第21図 PL.166 | 2 | 鉄器 鏃 | ほぼ完形 | 11.8 1.2 | 0.4 8.9 | | | 茎の先端が欠損、錆化が進んでいる。 | |

位置 36B・C-2・3グリッド。6号住居と12号土坑と重複している。6号住居より新しく、12号土坑より古い。
形状 北壁のほとんどは調査区外で、西壁は段丘崖で削平を受けているため不明であるが、残存状況から正方形に近いと考える。

主軸方位 N-75°-E

規模 面積8.46㎡以上。長軸(南北)3.38m以上、短軸(東西)2.75m以上 残存壁高0cm～34cmを測る。

床面 貼床はないものの、床面は硬化している。

カマド 東壁南端部に設置される。燃焼部は住居壁を掘り込んで造られており、煙道も含めて細長く突出する。燃焼部の構築には礫が用いられている。全長158cm・燃焼部幅56cmである。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。

遺物 北東角の床近くで鉄鏝(2)が出土する。出土量は少ない。

時期 住居形状から11世紀前半の可能性がある。

6号住居(第22～25図、P L. 8・9・166、第7表)

位置 36B・C-1～3グリッド。5・13号住居と12号土坑と重複している。5号住居、12号土坑より古く、13号住居より新しい。

形状 北壁は調査区外、西壁は段丘崖による削平のため、全体はわからないが、正方形に近い方形と考える。

主軸方位 N-68°-E

規模 面積32.07㎡以上。長軸(東西)7.01m、短軸(南北)5.25m以上 残存壁高0cm～64cmを測る。

床面 貼床が1～8cmの厚さでほぼ全面に施される。

1号カマド 東壁の2号カマドより北に位置する。煙道部は住居壁を掘り込んで造られており、煙道部を含めて北東に細長く突き出している。燃焼部中央より奥にピット状の掘り込みがあり、支脚が備え付けられていた跡の可能性もある。全長140cm・燃焼部幅25cmである。

2号カマド 1号カマドより南に位置する。1号カマドと同様に燃焼部は住居壁を掘り込んで造られており、1号カマドとほぼ並行して細長く突き出ている。燃焼部天井や煙道部の上面が残存している。しかし、住居壁より内側部分はカマドに関する痕跡が残存していない。1号

カマドよりも古く、造り替えにより撤去されたと考えられる。全長116cm・燃焼部幅50cmである。

1号貯蔵穴 東壁南端よりやや中央に位置する。2号カマドの右袖手前すぐ前にあり、その位置から考えると1号カマドに関係する貯蔵穴である。やや南北に長い楕円形で、長径102cm・短径80cm・深さ59cm。遺物量は少ない。
2号貯蔵穴 南東隅に設置される。円形に近い形状である。2号カマドに関連する貯蔵穴と考えるが、遺物の出土は少ない。長径106cm・短径100cm・深さ53cm。

柱穴 4基検出された。主柱穴はP 2・P 3で、それぞれ南西角、南東角に対応すると考えられる。柱穴の規模(長径・短径・深さ、次の主柱穴との間隔cm)は次のとおりである。

P 1 : 64・46・39、P 2 : 134・116・68・60、P 3 : 104・91・66、P 4 : 28・25・41

周溝 南壁の全面と東壁の2号カマドより南側で検出される。北・西壁は調査区外あるいは削平により確認できない。幅6～20cm、深さ8cm以内。

住居内土坑2 住居内土坑1が1号貯蔵穴に振り替えられたため、欠番となり、住居内土坑2から記述する。中央より南東に位置する。東西にやや長い不整形である。長径156cm・短径132cm・深さ37cm。

住居内土坑3 住居と重複している12号土坑に北端部が壊されている。中央西寄りに位置する。長径218cm以上・短径169cm・深さ36cm。

埋没土 自然埋没土と考えられる。

掘り方 ほぼ全面掘り下げる。深いところで20cm。

遺物 全体的に拡散しているが、住居の東側に多い。菰編石7点は床面より高く全体に分布する。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

7号住居(第26・28～31図、P L. 10・167、第8表)

位置 36A-1グリッド。10号住居と重複している。10号住居より新しい。

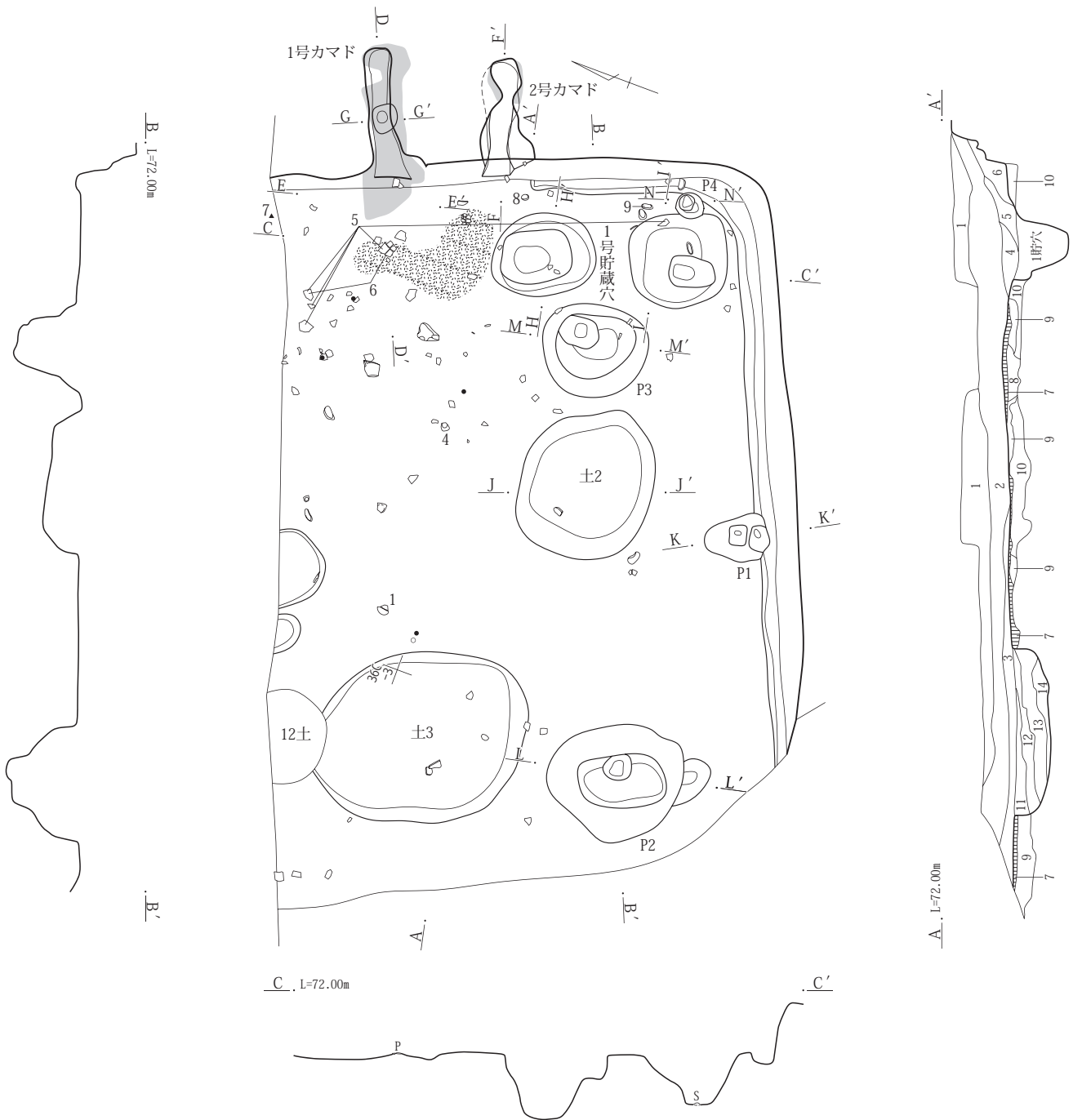
形状 東西に長い長方形を呈する。

主軸方位 N-74°-E

規模 面積10.55㎡。長軸4.02m、短軸3.08m 残存壁高20cm～31cmを測る。

床面 貼床が2～6cmの厚さで施される。

カマド 東壁南端部に設置される。構築には礫が用いられており、袖石が残存し、天井石は落下した状態で検出



6号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子・ローム粒子・炭化物粒子・白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。黄褐色土ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。黄褐色土ブロックを多量、焼土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。炭化物・焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロックを多量、黄褐色土ブロックを含む。
- 7 暗褐色土 貼床。硬くしまる。粘性非常にあり。黄褐色土ブロックを多量、焼土ブロックを含む。

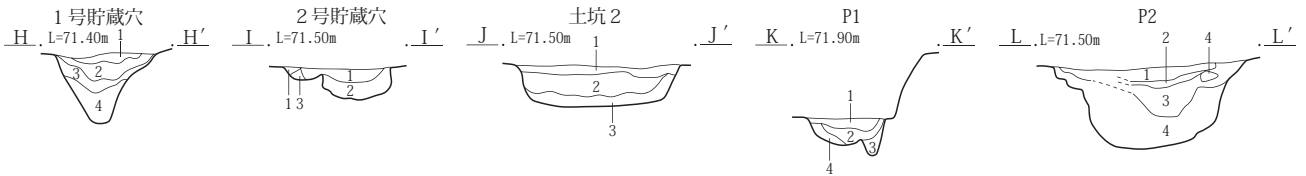
- 8 黄褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。焼土ブロック・炭化物を含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。黄褐色土ブロック・焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。
- 10 黄褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。黄褐色土ブロック・焼土粒子を含む。

住居内土坑3

- 11 暗褐色土 しまる。粘性あり。暗褐色土とロームブロックの混土。
- 12 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 13 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。焼土ブロックを多量、炭化物粒子を含む。
- 14 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ロームブロック・焼土粒子を含む。

0 1:60 2m

第22図 2区6号住居



1・2号貯蔵穴

- 1 暗褐色土 しまる。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。
- 2 暗褐色土 しまる。粘性あり。ロームブロックをやや多量、焼土粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 やわらかい。粘性あり。ロームブロックを多量、暗褐色土ブロックを含む。
- 4 灰褐色土 軟らかい。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子を含む。

住居内土坑2

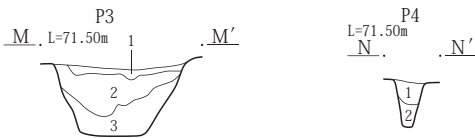
- 1 暗褐色土 硬くしまる。黄褐色土ブロック・黄白色土ブロック・焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロック・焼土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロックを含む。

P 1

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 4 黄褐色土 軟らかい。粘性あり。暗褐色土ブロックを含む。

P 2

- 1 暗褐色土 しまる。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 2 灰褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。炭化物粒子を微量に含む。
- 3 暗褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土ブロックをやや多量、白色粒子を微量に含む。
- 4 黄褐色土 軟らかい。粘性あり。暗褐色土ブロックをやや多量に含む。

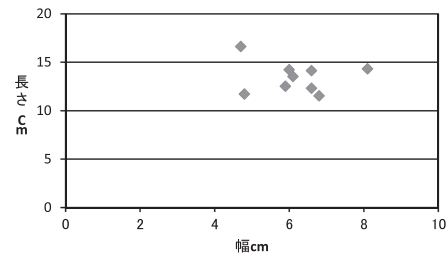
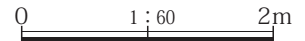


P 3

- 1 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。
- 2 暗褐色土 しまる。粘性あり。ロームブロック・焼土粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかい。粘性あり。暗褐色土ブロックを含む。

P 4

- 1 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性非常にあり。黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。黄褐色土粒子を多量に含む。

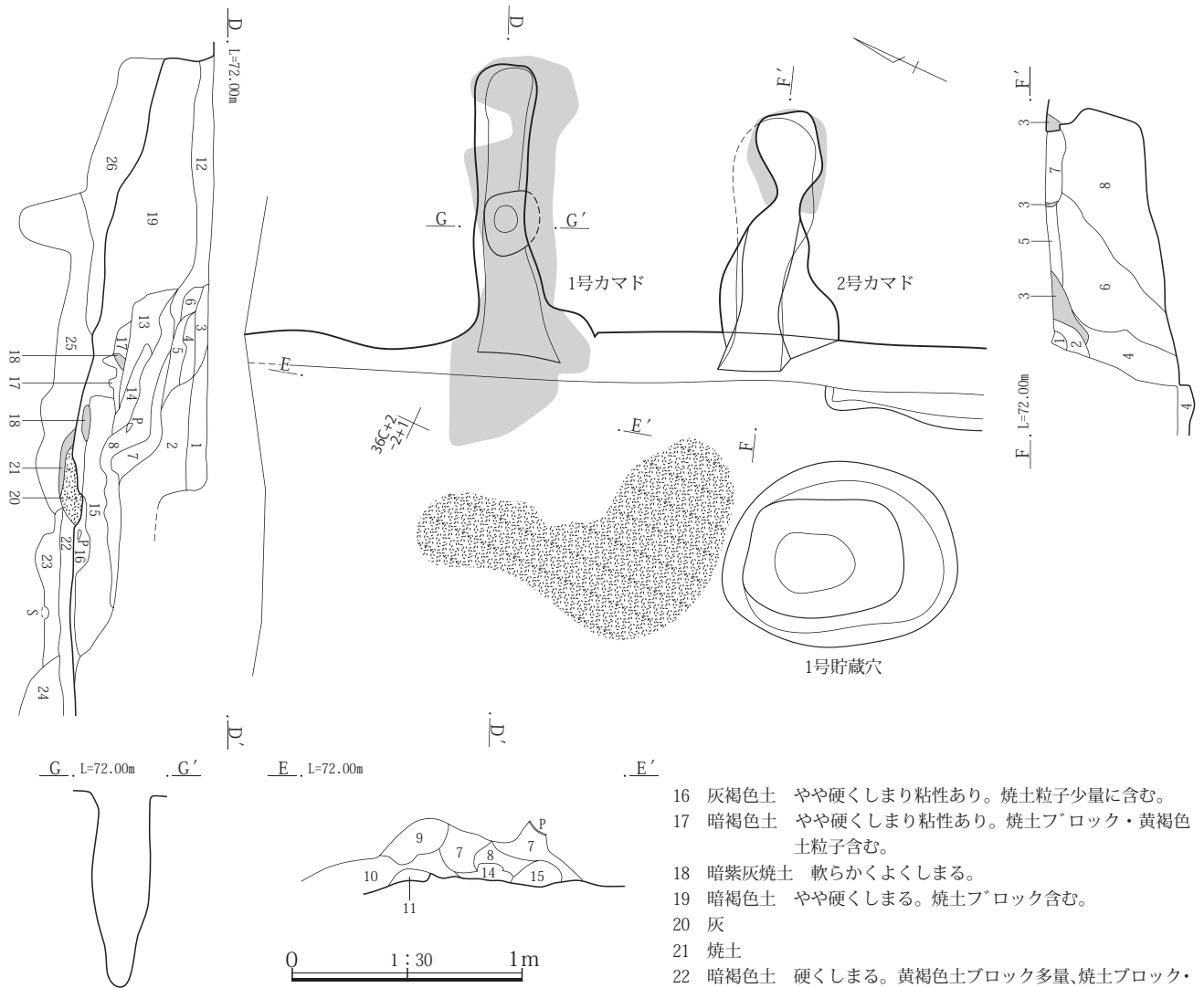


第23図 2区6号住居断面図と菰編石長幅比グラフ

第7表 2区6号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|-------------|--------------------|--------|-------------|--------|--------------|---------------------|--|-----------------------|
| 第25図 PL.166 | 1 | 土師器 杯 | +3 1/3 | 口 | 11.8 | 高 稜 | 3.6 12.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへラ削り。 | |
| 第25図 | 2 | 土師器 杯 | 口縁部～底部片 | 口 | 18.8 | 稜 | 13.8 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへラ削り。 | |
| 第25図 PL.166 | 3 | 須恵器 高杯 | 杯身部口縁部～ 体部片 | 口 | 17.0 | | | 細砂粒/還元焰/褐 灰 | ロクロ整形、回転左回りか。体部上位に刺突文か。外面体部に降灰付着。 | |
| 第25図 | 4 | 土師器 台付甕 | +13 脚部 | | | 脚 | 9.5 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 脚部は甕部に貼付。脚部はへラ削り、裾部は横ナデ。内面脚部はハケ目(1cmに5本)。 | 外面胴部と内面の底部、脚部に煤付着。 |
| 第25図 PL.166 | 5 | 土師器 甕 | +2 口縁部～ 胴部上半片 | 口 | 17.4 | | | 細砂粒多・ガラス 質/良好/橙 | 外面胴部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部は器面磨滅のため不明。内面胴部はへラナデ。 | |
| 第25図 PL.166 | 6 | 土師器 甕 | +11 底部～胴 部下半1/4 | 底 | 4.0 | | | 細砂粒・ガラス質 粒/良好/灰褐 | 内面に輪積み痕が残る。胴部・底部ともへラ削り。内面はへラナデ。 | 外面胴部下位の上半に粘土付着、下半は擦れ。 |
| 第25図 PL.166 | 7 | 石製模造品 不明 | | 長 幅 | 3.1 2.2 | 厚 重 | 0.3 3.75 | 滑石 | 上端側に径2mmの孔2を片側穿孔する。側縁の整形は直線的だが、左辺側は若干弧状を呈するように見える。 | 楕円磔 |
| 第25図 PL.166 | 8 | 礫石器 敲石 | 床直 | 長 幅 | 9.9 7.1 | 厚 重 | 4.5 414.7 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に著しい敲打痕が残る。 | |
| 第25図 PL.166 | 9 | 礫石器 敲石 | +3 | 長 幅 | 11.7 4.8 | 厚 重 | 4.7 413.3 | 溶結凝灰岩 | 上端側小口部に激しい敲打痕がある。 | 菰編石 |
| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 | | | |
| 非掲載 | 10 | 菰編石 | 4.7 | 16.6 | 3.7 | 387.0 | 雲母石英片岩 | | | |
| 非掲載 | 11 | 菰編石 | 5.9 | 12.5 | 4.0 | 443.2 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 12 | 菰編石 | 6.0 | 14.2 | 4.3 | 526.4 | 変質安山岩 | | | |
| 非掲載 | 13 | 菰編石 | 6.6 | 12.3 | 4.5 | 512.4 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 14 | 菰編石 | 6.1 | 13.5 | 3.4 | 415.8 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 15 | 菰編石 | 6.6 | 14.1 | 4.8 | 601.6 | 変質安山岩 | | | |

カマド



1号カマド

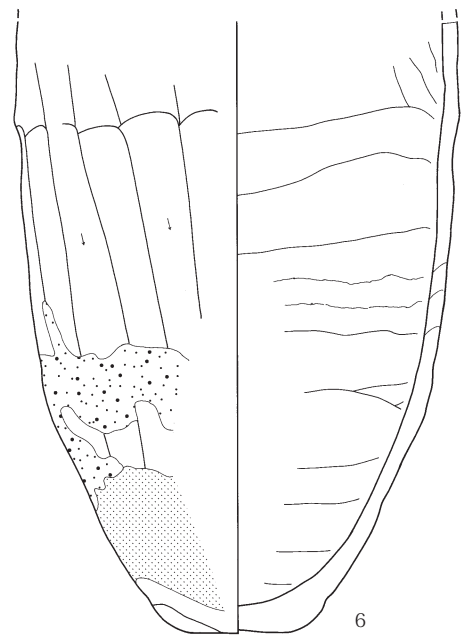
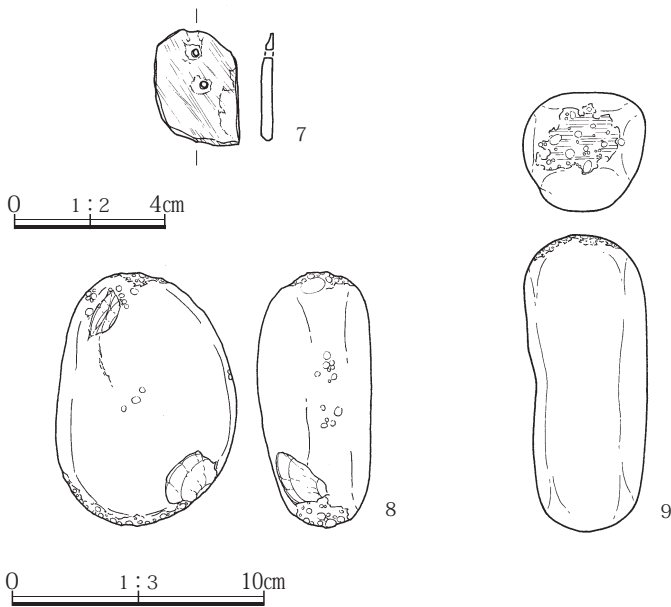
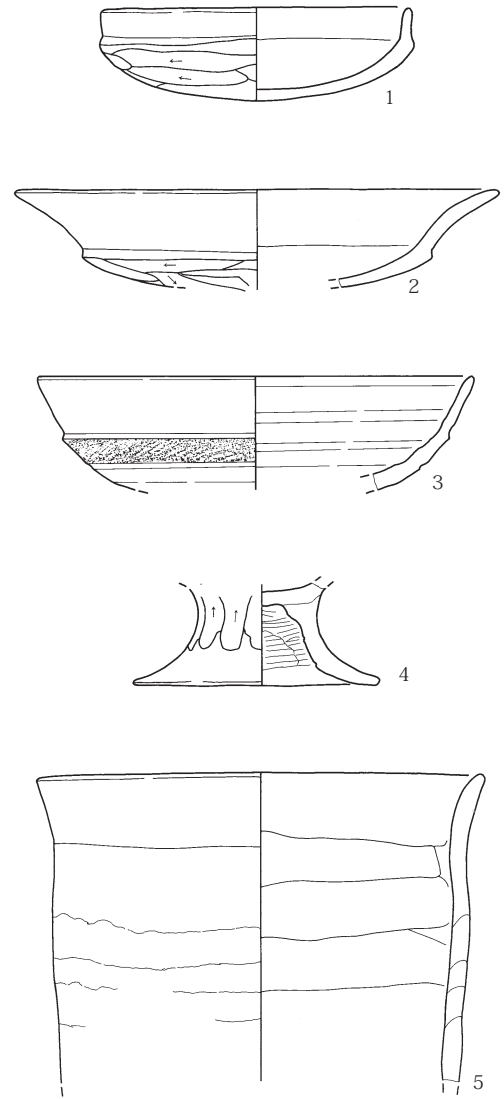
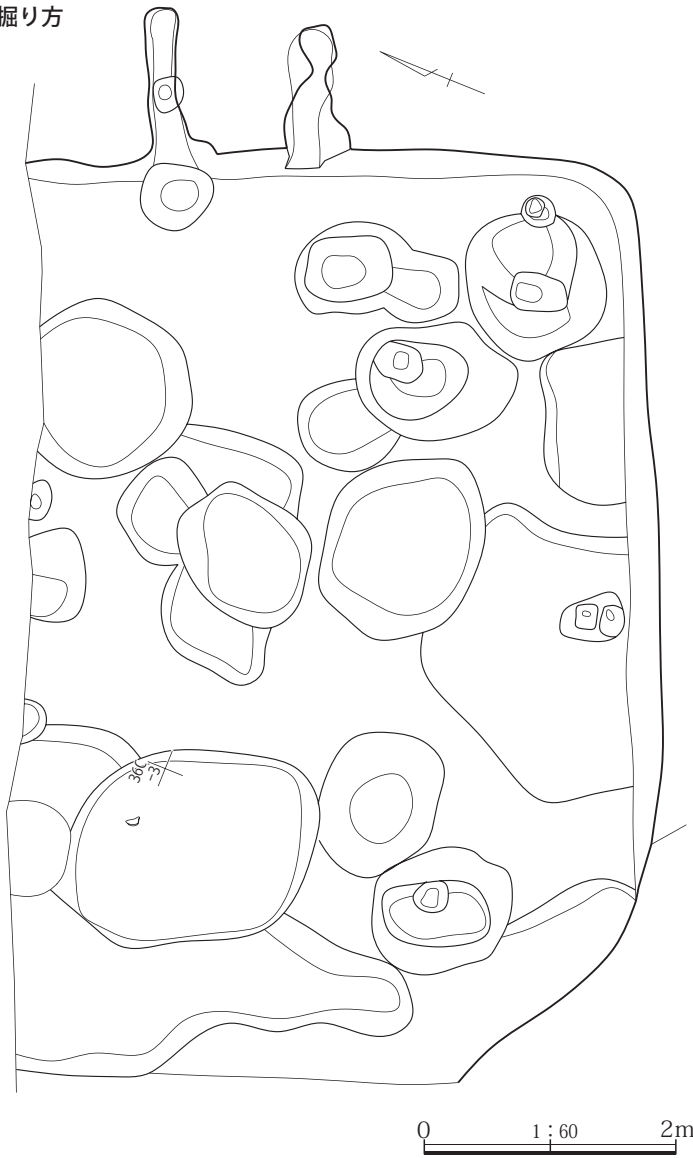
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。焼土粒子・白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。焼土ブロック・焼土粒子を含む。
- 4 赤褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。焼土粒子・黄白色土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子を含む。
- 7 黄褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・黄白色土ブロックを多量に含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。焼土粒子を少量含む。
- 9 赤褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロックを多量、黄白色土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・黄白色土粒子を含む。
- 11 暗褐色土 軟らかく粘性あり。焼土粒子・黄白色土粒子含む。
- 12 赤褐色土 軟らかくよくしまる。焼土多量に含む。
- 13 暗褐色土 軟らかくよくしまる。粘性あり。焼土粒子少量に含む。
- 14 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色土ブロック多量に含む。
- 15 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック・黄褐色土ブロック・白色粒子含む。

2号カマド

- 1 赤褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・白色粒子を少量含む。
- 3 赤褐色土 カマド天井部。焼土主体。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。焼土ブロックを多量、黄褐色土粒子・炭化物を含む。
- 5 暗褐色土 カマド天井部。硬くしまる。粘性非常にあり。焼土ブロック・黄褐色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。焼土ブロック・黄褐色土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。焼土ブロックを多量、黄褐色土粒子を含む。煙出し部分。
- 8 赤褐色土 軟らかい。ボソボソしている。焼土ブロックを多量に含む。

第24図 2区6号住居カマド

掘り方



第25図 2区6号住居掘り方と出土遺物

第3章 発掘調査の記録

された。煙道は舌状に突き出している。全長146cm・燃焼部幅73cm・焚口幅30cm・袖内幅49cmである。

貯蔵穴 カマドに近接したP1が貯蔵穴になるものと思われる。長径38cm・短径28cm・深さ20cmを測る。

柱穴 5基検出された。柱穴の規模(長径・短径・深さcm)は次のとおりである。

P2: 46・30・57、P3: 30・23・35、P4: 42・36・21、P5: 22・18・16、P6: 36・27・39

周溝 全面で検出されるが、東壁は部分的な検出にとど

まる。幅7～13cm、深さ11cm以内。

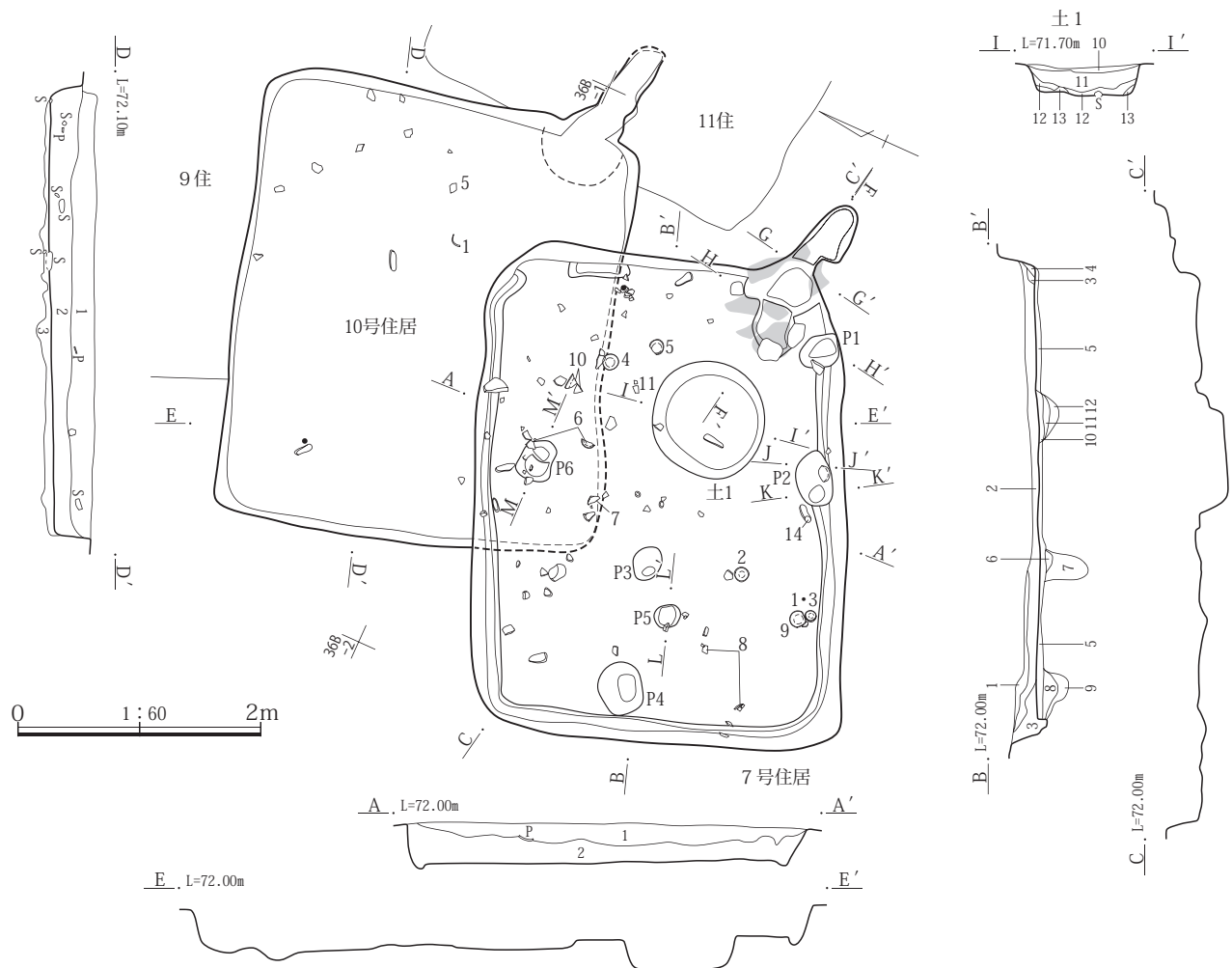
住居内土坑1 中央南東寄りに位置する。ほぼ円形を呈する。長径96cm・短径93cm・深さ24cmである。

埋没土 自然埋没土と考えられる。

掘り方 全面掘り下げる。深いところで10cm。

遺物 出土量は多い。住居内のほぼ全面に広がるが、カマドからの出土は少ない。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。



7号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 貼床。硬くしめる。粘性あり。黄白色土ブロックを多量に含む。

P3

- 6 暗褐色土 非常に軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 非常に軟らかくしまりよい。粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。

P4

- 8 暗褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。黄白色土ブロックを少量含む。
- 9 黄白色土 非常に軟らかい。粘性あり。

住居内土坑1

- 10 暗褐色土 硬くしめる。粘性あり。黄色土粒子・白色粒子を含む。
- 11 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 12 黒褐色土 軟らかい。粘性あり。炭化物粒子・ローム粒子を含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

10号住居

- 1 暗褐色土 硬くしめる。黄褐色土ブロック・白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 硬くしめる。粘性あり。黄褐色土ブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。黄白色土ブロックを含む。

第26図 2区7・10号住居

10号住居(第26～28図、P L.14、第9表)

位置 36A・B-1グリッド。7・9・11号住居と重複

している。7号住居より古く、9・11号住居より新しい。

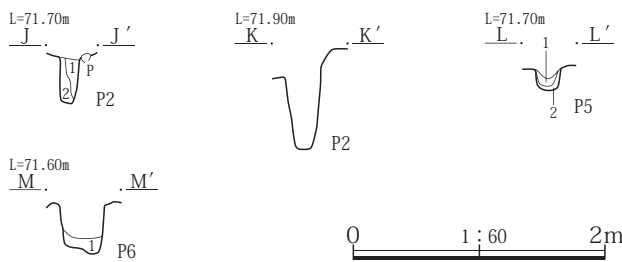
形状 東西にやや長い長方形を呈する。

主軸方位 N-78°-E

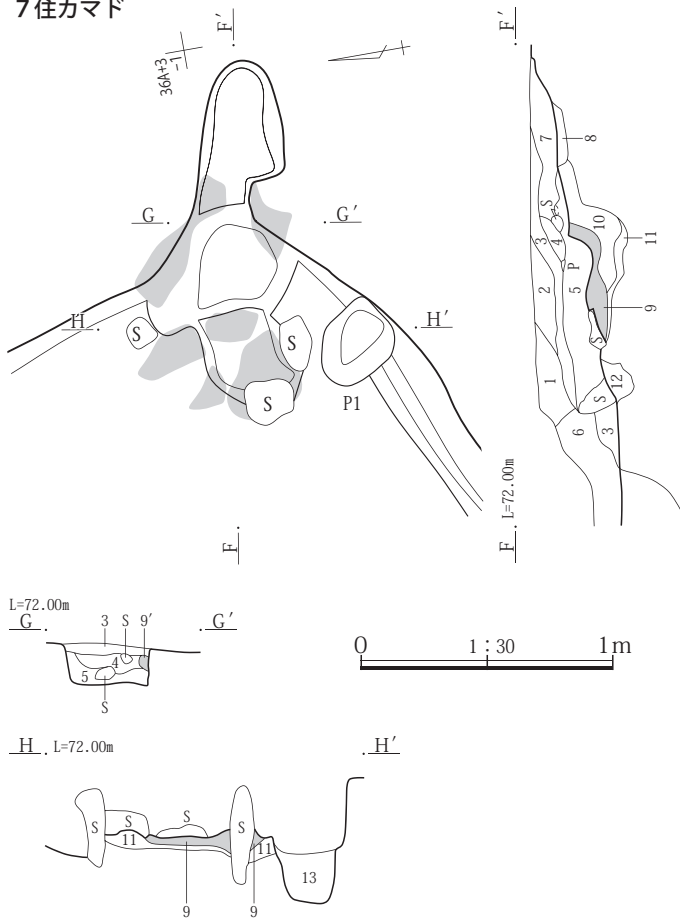
規模 面積10.49㎡。長軸3.71m、短軸3.20m 残存壁
高2～30cmを測る。

床面 貼床が2～22cmの厚さで全面に施される。

カマド 東壁南端に設置される。煙道の残存状況は良く、
先端部は記録できなかったものの、上部まで確認するこ
とができた。煙道はやや南寄りの東に向かって細長く突



7住カマド



き出しており、粘質土で造られている。焚口や袖部の範
囲は推定となっている。全長131cmである。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。

掘り方 全面掘り下げられる。他住居との重複で、不明
な点もあるが、深いところで22cmである。

遺物 出土量はやや少ない。住居内全体に拡散している。
菰編石6点も中央から西半部に点在する。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

P 2

- 1 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

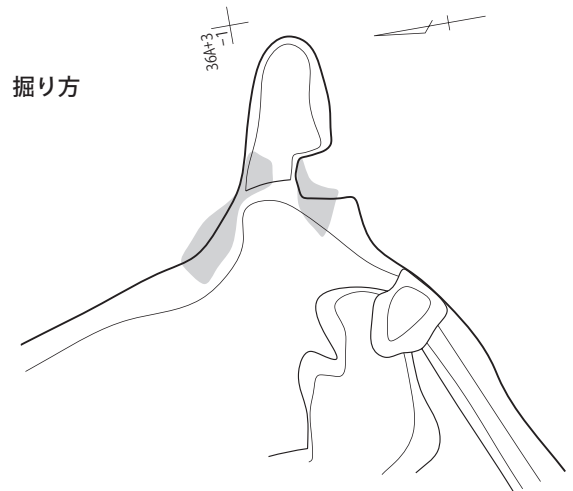
P 5

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

P 6

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子を含む。

掘り方

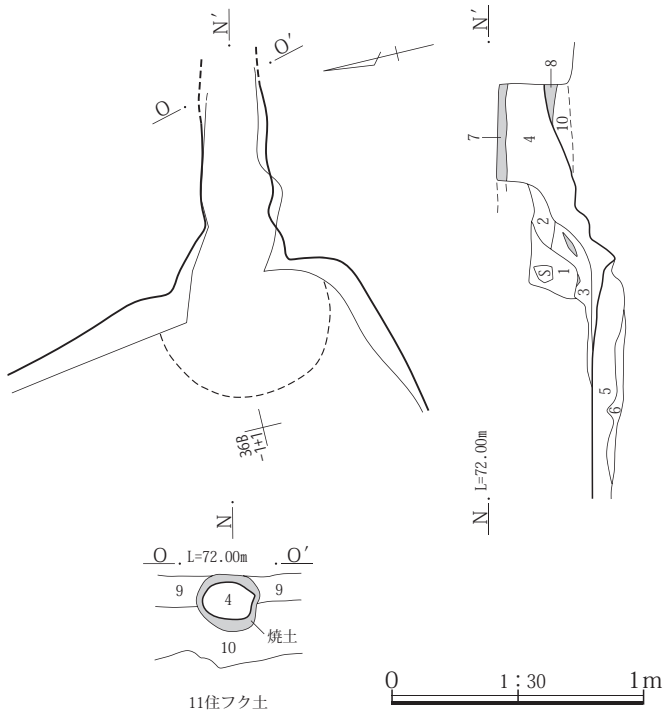


7号住居カマド、P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子を含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかくしてしまりよい。粘性あり。焼土粒子を少量含む。
 - 4 赤褐色土 軟らかくしてしまりよい。粘性あり。焼土ブロックを多量に含む。
 - 5 暗褐色土 軟らかくしてしまりよい。焼土粒子を少量含む。
 - 6 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。ローム粒子を含む。
 - 7 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・焼土粒子を含む。
 - 8 暗褐色土 やわらかい。粘性あり。焼土粒子を少量含む。
 - 9 焼土
 - 9' 焼土ブロック
 - 10 暗褐色土 非常に軟らかい。粘性あり。焼土ブロック・炭化物を含む。
 - 11 灰褐色土 軟らかい。粘性あり。焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
 - 12 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。暗褐色土と黄褐色土の混土。
- P 1
- 13 黒褐色土 軟らかい。粘性あり。ローム粒子を少量含む。

第27図 2区7号住居カマド・ピット

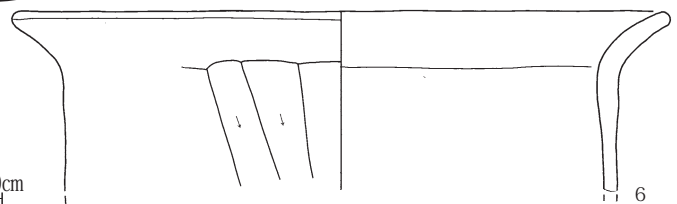
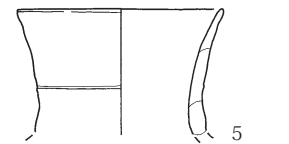
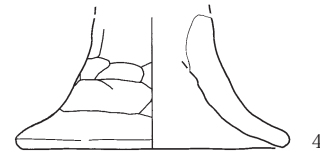
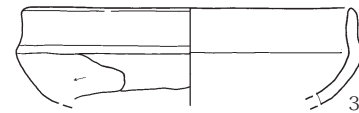
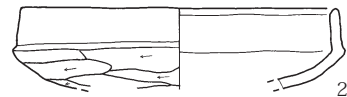
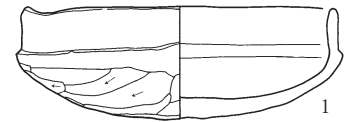
10住カマド



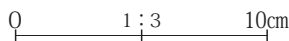
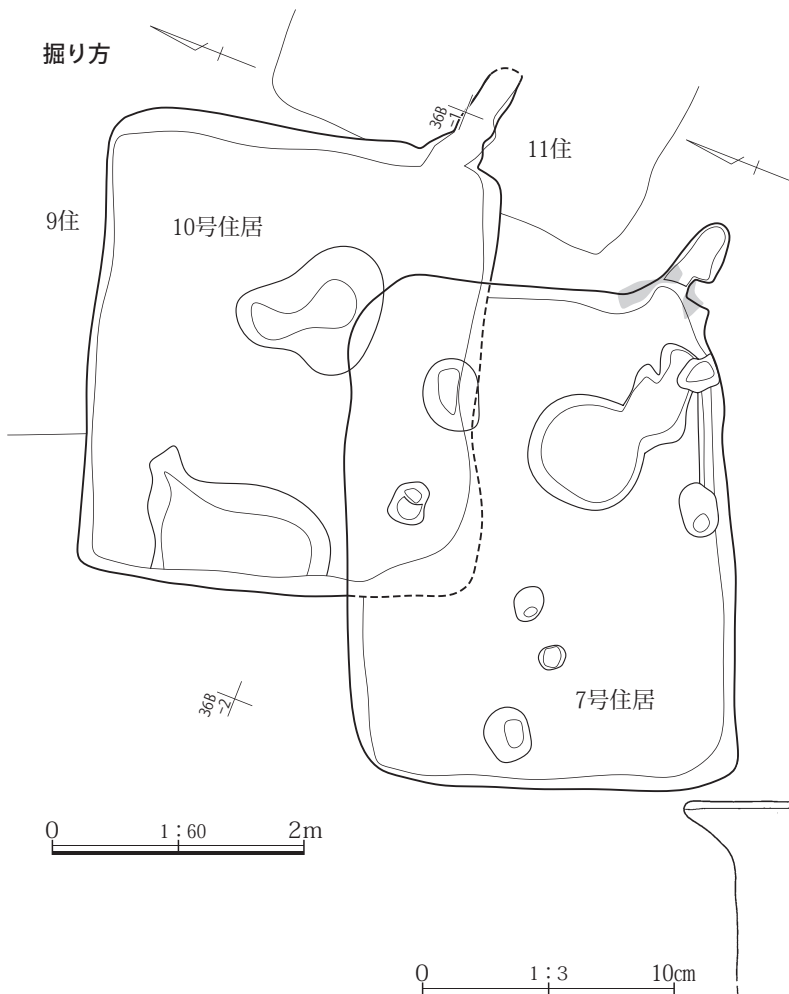
10号住居カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまりよい。粘性あり。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 赤褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。焼土・灰を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・黄褐色土ブロック・炭化物を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 7 赤褐色土 カマド煙道上部。やや硬くしまる。粘性あり。
- 8 赤褐色土 カマド煙道下部。軟らかい。粘性あり。
- 9 暗褐色土 硬くしまる。黄褐色土粒子・白色軽石を多量に含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄褐色土粒子・白色軽石・炭化物を含む。

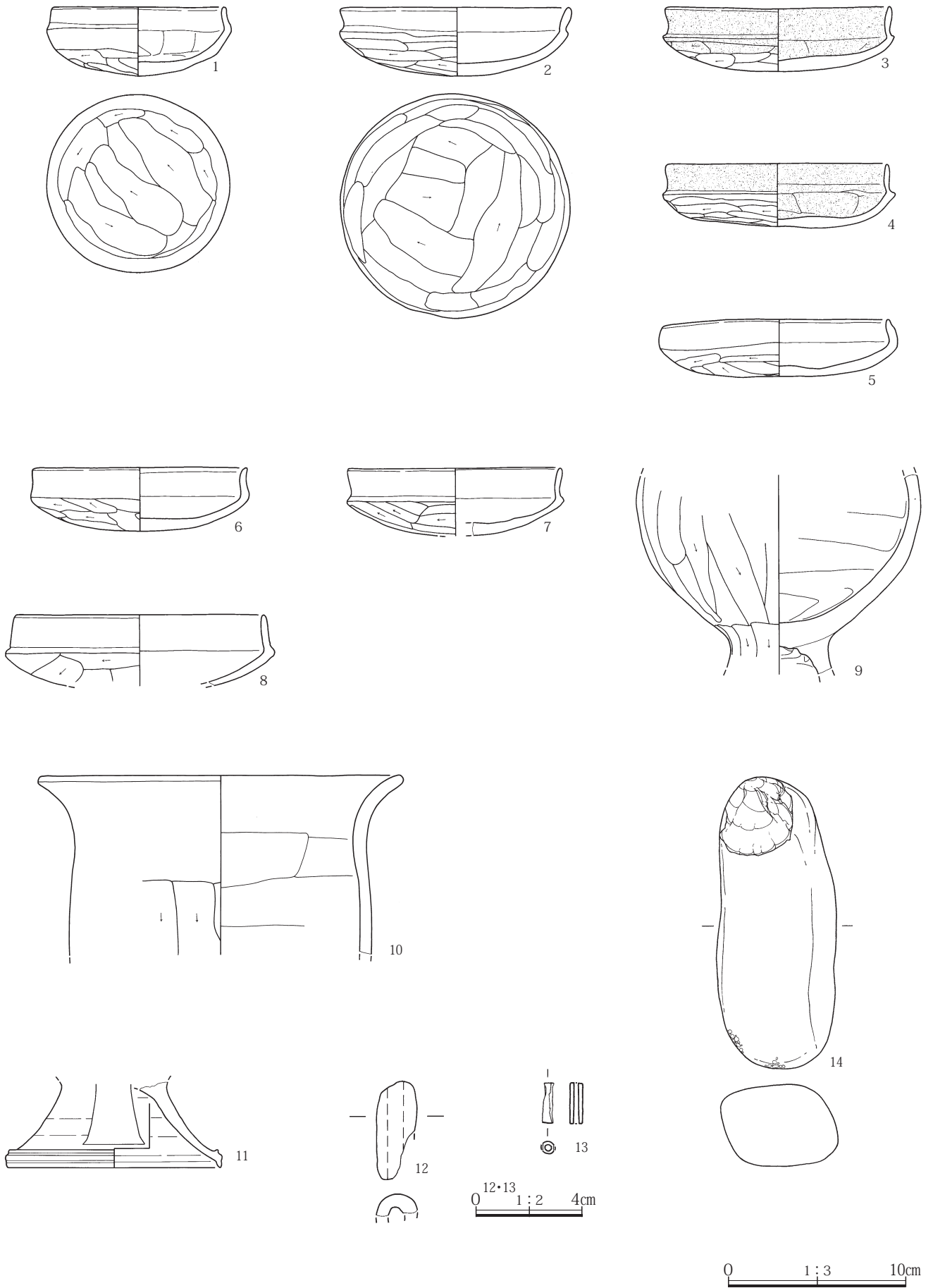
第28図 2区10号住居カマド



掘り方



第29図 2区7・10号住居掘り方と10号住居出土遺物



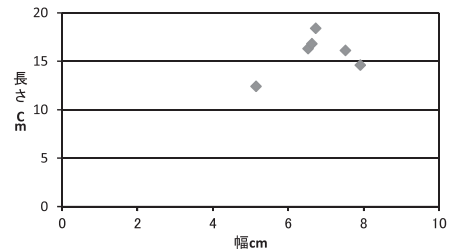
第30図 2区7号住居出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第8表 2区7号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|-------------|-------------------|--------|-------------|--------|--------------------|----------------------|---|
| | | | | 口 | 高さ | 重量 | | | |
| 第30図 PL.167 | 1 | 土師器 杯 | 床直 完形 | □ | 9.5 | 高 稜 | 3.9 10.3 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面の底部から体部はヘラナデ。 |
| 第30図 PL.167 | 2 | 土師器 杯 | +9 完形 | □ | 12.6 | 高 稜 | 3.9 12.7 | 細砂粒・粗砂粒少 /良好/橙 | 内面燻焼成か。口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 |
| 第30図 PL.167 | 3 | 土師器 杯 | 床直 完形 | □ | 12.4 | 高 稜 | 3.6 12.8 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面の底部から体部はヘラナデ。 |
| 第30図 PL.167 | 4 | 土師器 杯 | 床直 口縁部わ ずかに欠損 | □ | 12.2 | 高 稜 | 3.5 13.0 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面の底部から体部はヘラナデ。 |
| 第30図 PL.167 | 5 | 土師器 杯 | +22 5/6 | □ | 12.3 | 高 稜 | 3.1 13.3 | 細・粗砂粒・褐色 粒/良好/明黄褐 | 口縁部横ナデ、稜下にナデ部分が残る、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラナデ。 |
| 第30図 PL.167 | 6 | 土師器 杯 | +16 2/3 | □ | 11.8 | 高 稜 | 3.5 12.2 | 細砂粒多・ガラス 質/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 |
| 第30図 | 7 | 土師器 杯 | +27 0.25 | □ | 11.8 | 稜 | 12.0 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 |
| 第30図 | 8 | 土師器 杯 | +3 1/4 | □ | 13.8 | 稜 | 15.0 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 |
| 第30図 PL.167 | 9 | 土師器 台付甕 | 床直 胴部下半 ～脚部上半 | | | | | 細砂粒多/良好/灰 褐 | 脚部は貼付、胴部から脚部はヘラ削り。内面は胴部、脚部ともヘラナデ。 |
| 第30図 | 10 | 土師器 甕 | +23 口縁部～ 胴部上位片 | □ | 20.0 | | | 細砂粒多/良好/赤 褐 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 |
| 第30図 | 11 | 須恵器 高杯 | +2 脚部片 | | | 脚 | 11.8 | 細砂粒・白色粒/ 還元焰/灰褐 | ロクロ整形、回転方向不明。脚部は杯身に貼付。 |
| 第30図 | 12 | 土製品 土錘 | 一部片 | 長 幅 | 3.6 1.5 | 孔 重 | 0.5 3.7 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 表面はナデ。 |
| 第30図 | 13 | 石製模造品 管玉 | | 長 幅 | 1.5 | 径 重 | 0.5 0.24 | 滑石 | 全面を丁寧に研磨、両側縁を欠損する。下面側の孔は径2mm、上端側の孔は径1.5ミリを測る。 |
| 第30図 PL.167 | 14 | 礫石器 敲石 | 掘り方 | 長 幅 | 16.3 6.6 | 厚 重 | 4.9 841.5 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端を敲打、上端側の小口部にはこれに伴う衝撃剥離が生じている。 |

| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 石材 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) |
|-----|----|-----|---------|-----|------|-----|-------|
| 非掲載 | 15 | 菰編石 | 粗粒輝石安山岩 | 8.9 | 18.0 | 3.0 | 734.5 |
| 非掲載 | 16 | 菰編石 | デイサイト | 7.6 | 16.1 | 4.3 | 770.0 |
| 非掲載 | 17 | 菰編石 | 粗粒輝石安山岩 | 6.7 | 16.8 | 3.9 | 582.6 |
| 非掲載 | 18 | 菰編石 | 変質安山岩 | 6.8 | 18.4 | 4.2 | 816.0 |
| 非掲載 | 19 | 菰編石 | 粗粒輝石安山岩 | 8.0 | 14.6 | 4.4 | 739.6 |



第31図 2区7号住居菰編石長幅比グラフ

第9表 2区10号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|-----------|---------------|-----|------|--------|--------------------|---------------------|------------------------------------|
| | | | | 口 | 高さ | 重量 | | | |
| 第29図 | 1 | 土師器 杯 | +14 1/3 | □ | 12.0 | 高 稜 | 4.3 12.6 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)上半はナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。 |
| 第29図 | 2 | 土師器 杯 | 口縁部～体部片 | □ | 12.3 | 稜 | 13.0 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 |
| 第29図 | 3 | 土師器 杯 | 口縁部～体部片 | □ | 12.7 | 稜 | 13.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 |
| 第29図 | 4 | 土師器 高杯 | 脚部下半～裾部 片 | | | 脚 | 10.2 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/橙 | 脚部はヘラナデ、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナデ。 |
| 第29図 | 5 | 土師器 壺 | +21 口縁部片 | □ | 7.9 | | | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 内面に輪積み痕が残る。口縁部は内外とも横ナデ。 |
| 第29図 | 6 | 土師器 甕 | 口縁部～胴部上 位片 | □ | 25.6 | | | 細砂粒・粗砂粒少 /良好/浅黄橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 |

8号住居(第32～51図、P L .11・12・167～173、第10・11表)

位置 25P・Q-17～19。10・14・15号土坑、4号ピット、1号溝と重複している。10・14・15号土坑、4号ピット、1号溝より古い。

形状 僅かに東西に長いもののほぼ正方形を呈する。

主軸方位 N-75°-E

規模 面積43.94㎡。長軸7.49m、短軸6.86m 残存壁高2cm～88cmを測る。

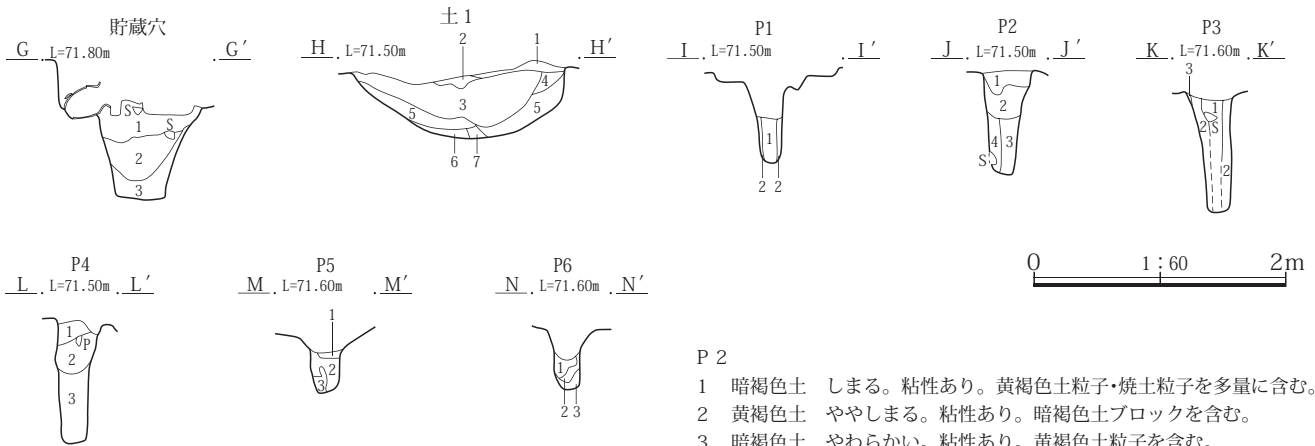
床面 硬化は弱いものの貼床が5～22cmの厚さで全面に施される。

カマド 東壁の南寄りに設置される。天井部と焚口は残存状況が悪く、住居壁外の状況はわからないが、燃烧部は住居内に造られ、煙道だけが住居の外に突き出していたと考えられる。支脚として用いられた礫が燃烧部内の

やや左よりに残存しており、橙色粘質土で固定されていた。全長110cm・燃烧部幅102cm・袖内幅31cm。なお、カマドの北に周溝が途切れ、付近に焼土が広がる箇所がある。残存していないが造り替えられたカマドが存在した可能性がある。

貯蔵穴 調査時当初は柱穴(P 2)として扱われていたが、貯蔵穴であることが判明した。P 2の番号は貯蔵穴の北東にある柱穴をあてる。貯蔵穴は住居南東隅の中央寄りに設置される。円形に近く、底面は平らである。南の立ち上がりから甕が出土している。長径81cm・短径80cm・深さ71cmである。

柱穴 6基検出された。主柱穴はP 1～P 4で、それぞれ住居の角に対応すると考えられる。なお、P 5はP 1とP 2の、P 6はP 2とP 3の中間に位置し、補助柱穴であると考えられる。



貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 黄褐色土 しまる。粘性あり。暗褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。

住居内土坑1

- 1 黄褐色土 硬くしまる。粘性あり。暗褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまる。粘性あり。褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土ブロック・焼土粒子を含む。
- 4 黒褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 5 茶褐色土 やわらかい。粘性あり。黒褐色土ブロック・焼土粒子を含む。
- 6 褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 7 黄褐色土 しまる。粘性あり。

P 1

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。

P 2

- 1 暗褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土粒子・焼土粒子を多量に含む。
- 2 黄褐色土 ややしまる。粘性あり。暗褐色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やわらかい。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。

P 3

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子を微量に含む。
- 3 暗褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。

P 4

- 1 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を微量に含む。

P 5

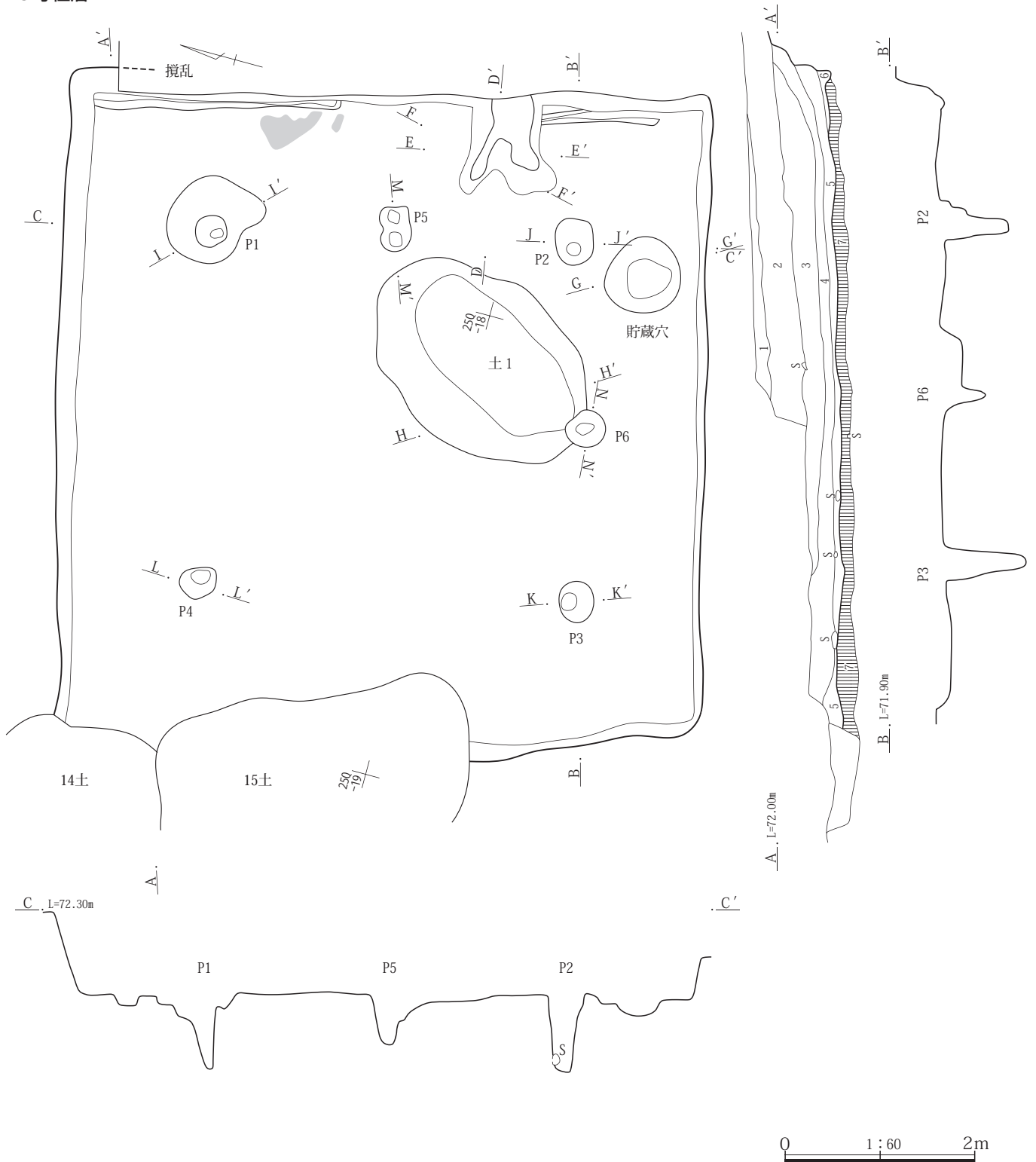
- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 3 黄褐色土 ややしまる。粘性あり。暗褐色土粒子を含む。

P 6

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 黄褐色土 しまる。粘性あり。暗褐色土粒子・小礫を含む。

第32図 2区8号住居内部遺構断面図

8号住居



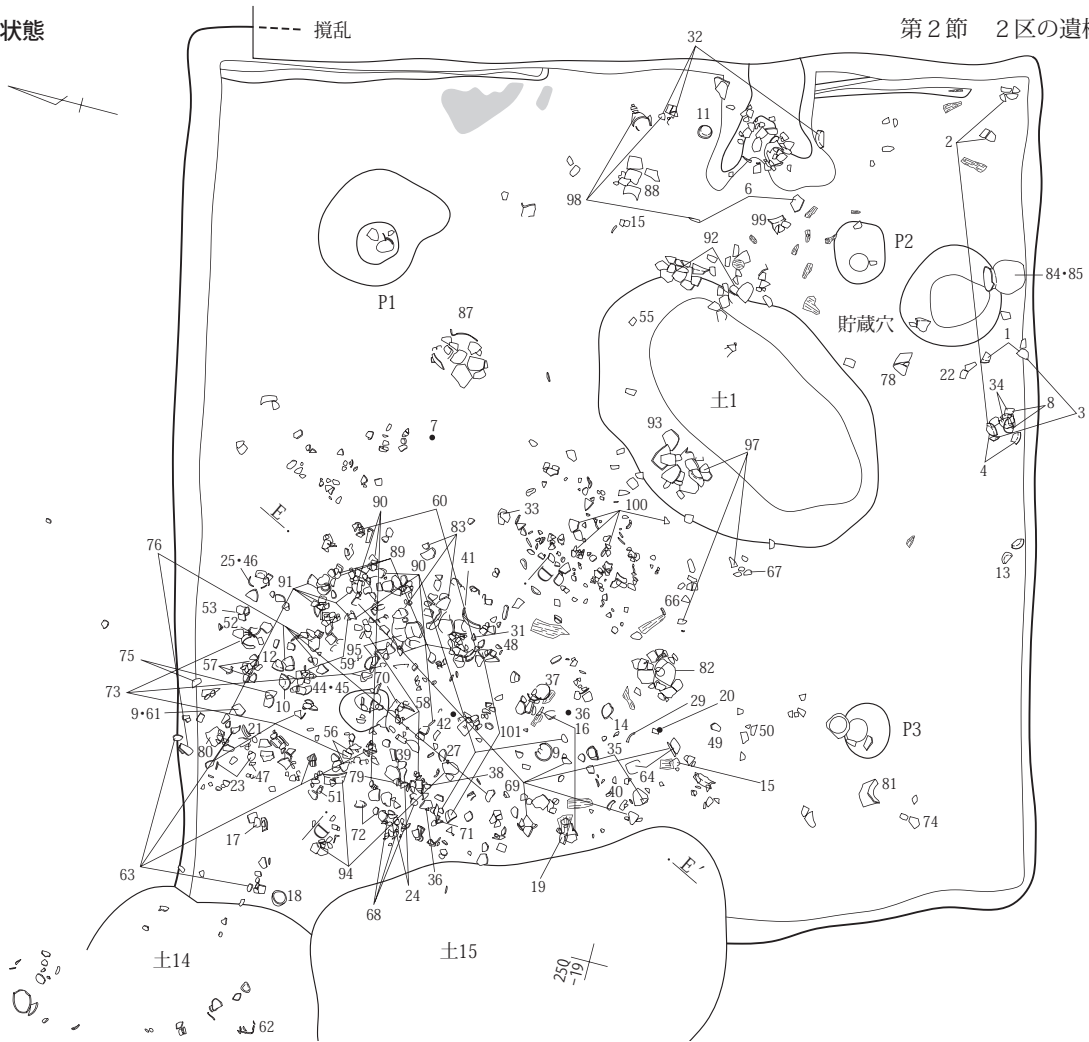
8号住居

- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 やや硬くしまる。黄褐色土ブロック・白色軽石・酸化鉄分を含む。</p> <p>2 暗褐色土 やや硬くしまる。黄褐色土粒子・白色粒子・炭化物粒子を含む。</p> <p>3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロックを多量に含む。</p> | <p>4 暗褐色土 軟らかくてしまりよい。粘性あり。黄褐色土粒子・炭化物を含む。</p> <p>5 暗褐色土 軟らかくてしまりよい。粘性あり。焼土ブロック・炭化物ブロック・黄褐色土ブロックを含む。</p> <p>6 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。焼土粒子、黄褐色土ブロックを含む。</p> <p>7 黄褐色土 貼床。軟らかい。粘性あり。黄褐色土と暗褐色土の混土。</p> |
|---|---|

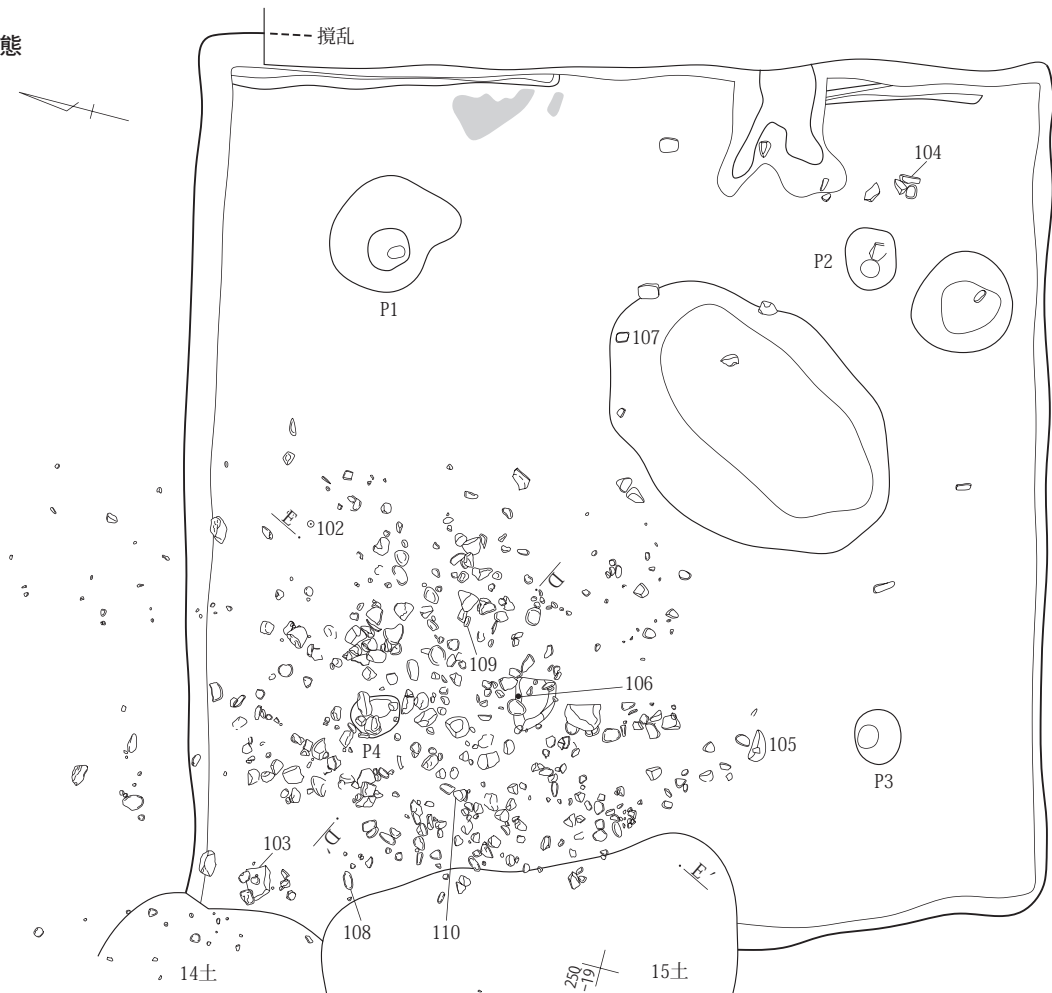
第33図 2区8号住居

土器出土状態

第2節 2区の遺構と遺物



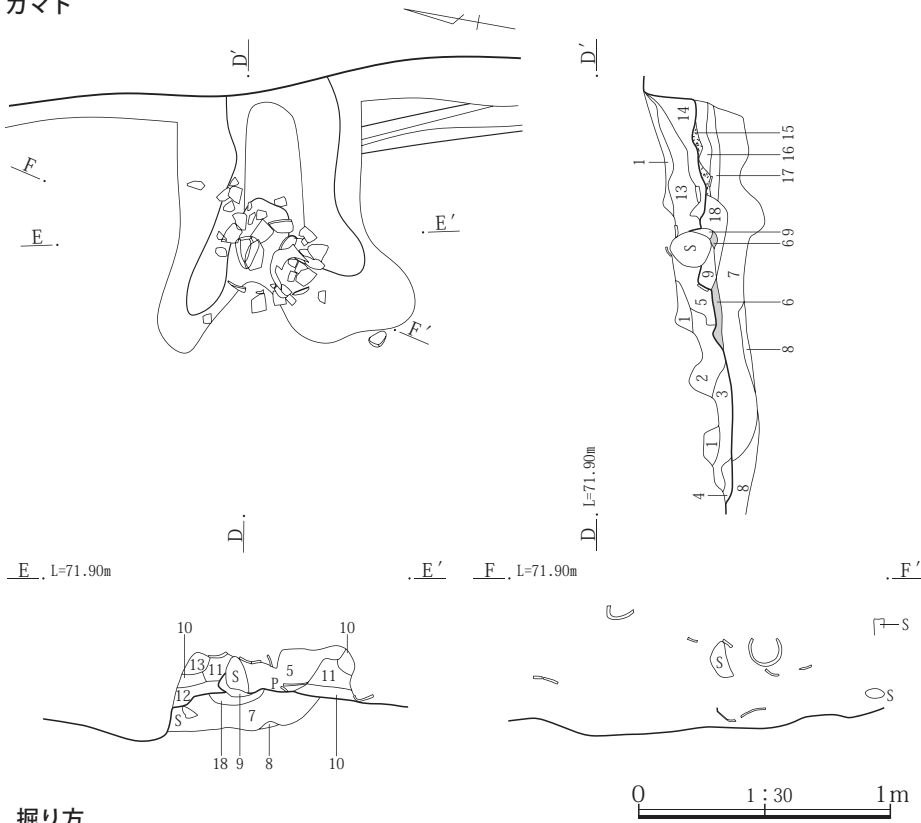
礫出土状態



第34図 2区8号住居土器出土状態・礫出土状態

0 1:60 2m

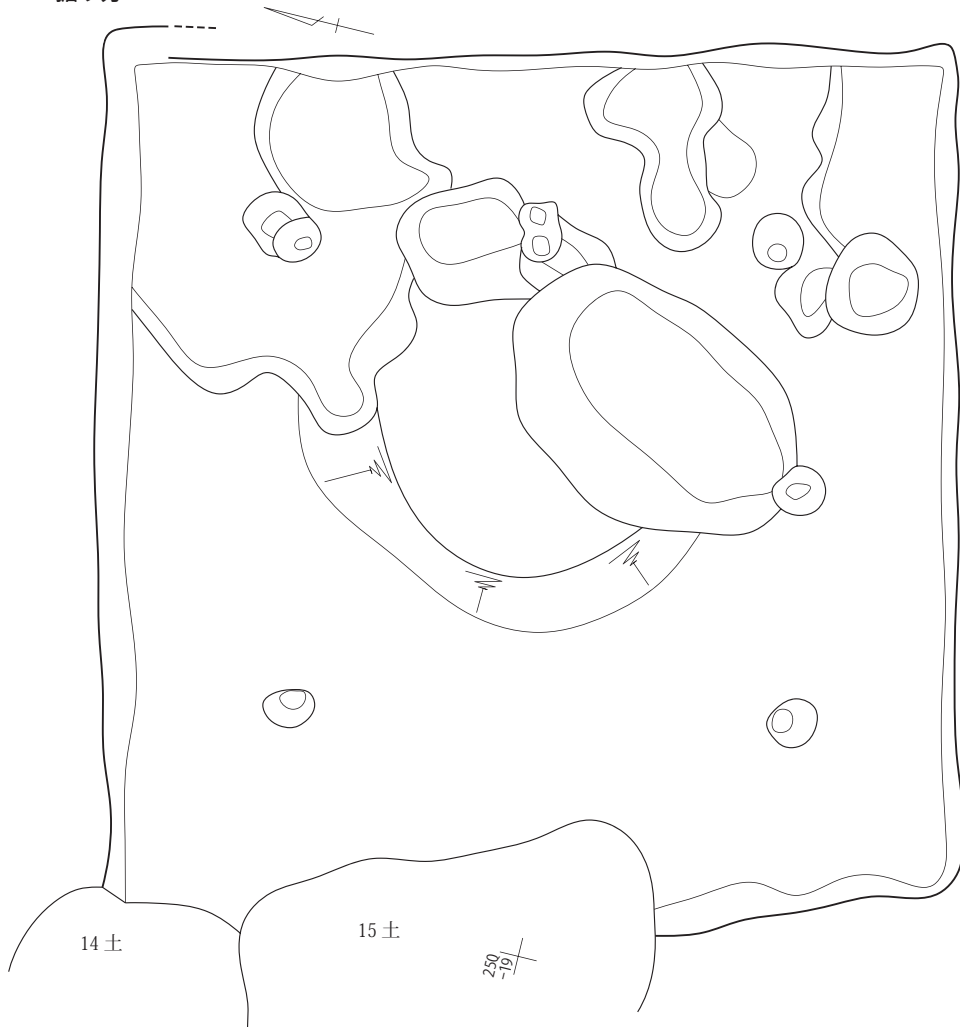
カマド



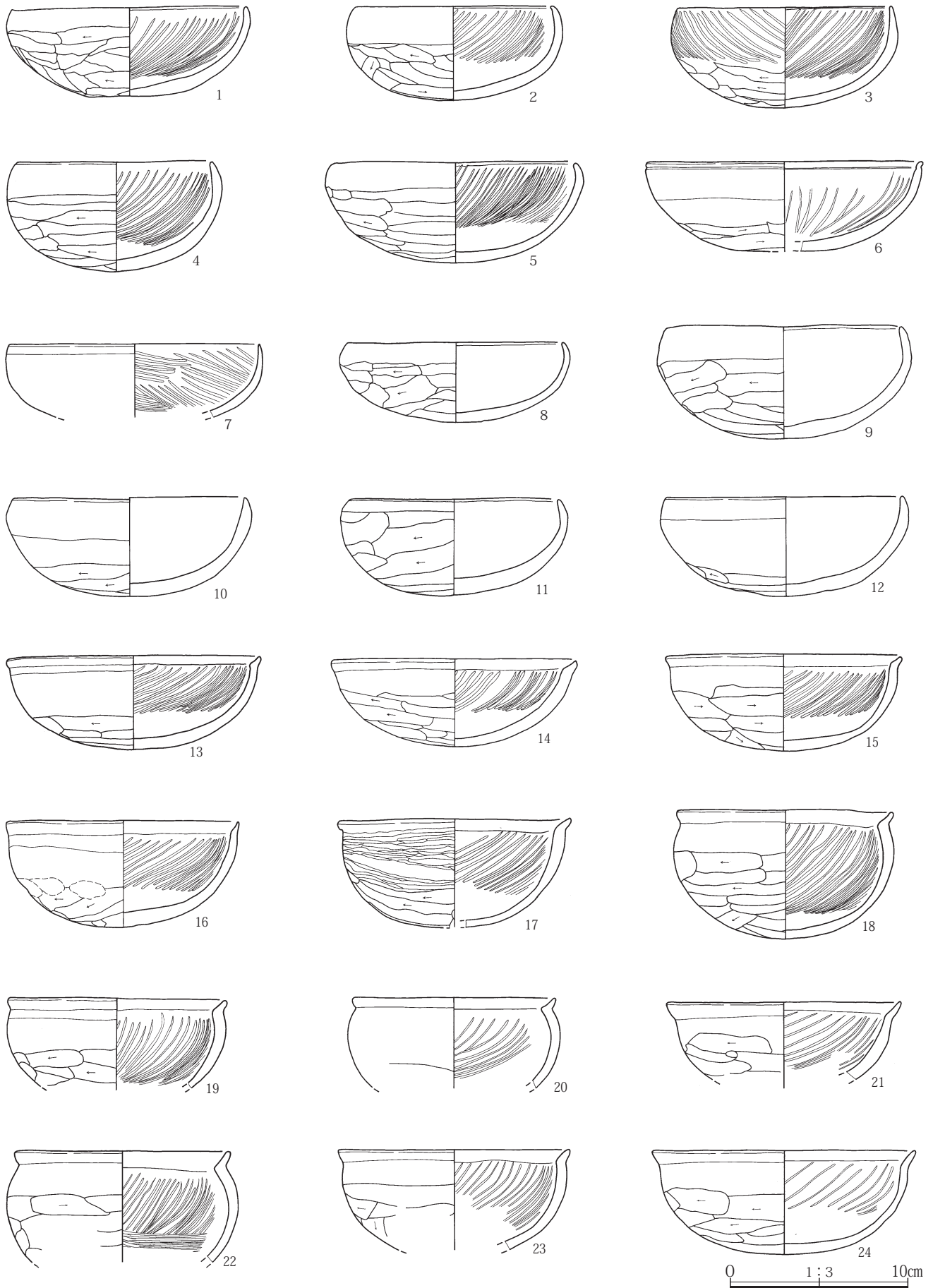
カマド

- 1 暗褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子・焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 4 黄褐色土 しまる。粘性あり。
- 5 灰褐色土 ややしまる。粘性あり。焼土ブロック・炭化物粒子を含む。
- 6 焼土
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・黄白色土ブロックを含む。
- 8 黄白色土 やや硬くしまる。粘性あり。暗褐色土ブロックを少量含む。
- 9 橙色土 軟らかくしまりよい。粘性あり。支脚を固定させる。
- 10 黄白色土 やや硬くしまる。カマド構築材。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロック・焼土ブロック・炭化物を含む。
- 12 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子を多量に含む。
- 13 赤褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・灰を多量に含む。
- 14 灰褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・灰を含む。
- 15 灰
- 16 黄白色土 やや硬くしまる。粘性あり。
- 17 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性あり。
- 18 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック・灰・橙色粘質土ブロックを含む。

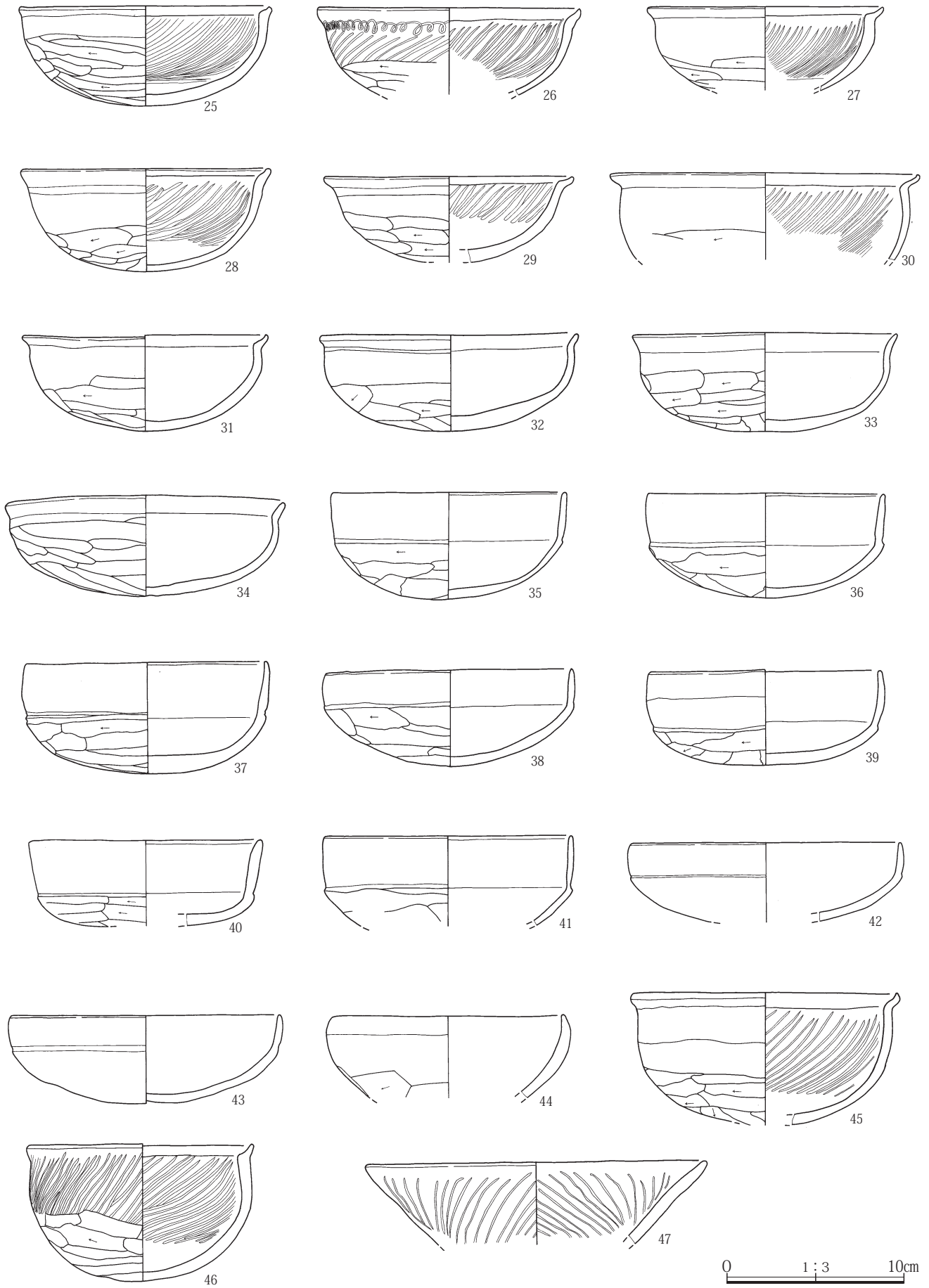
掘り方



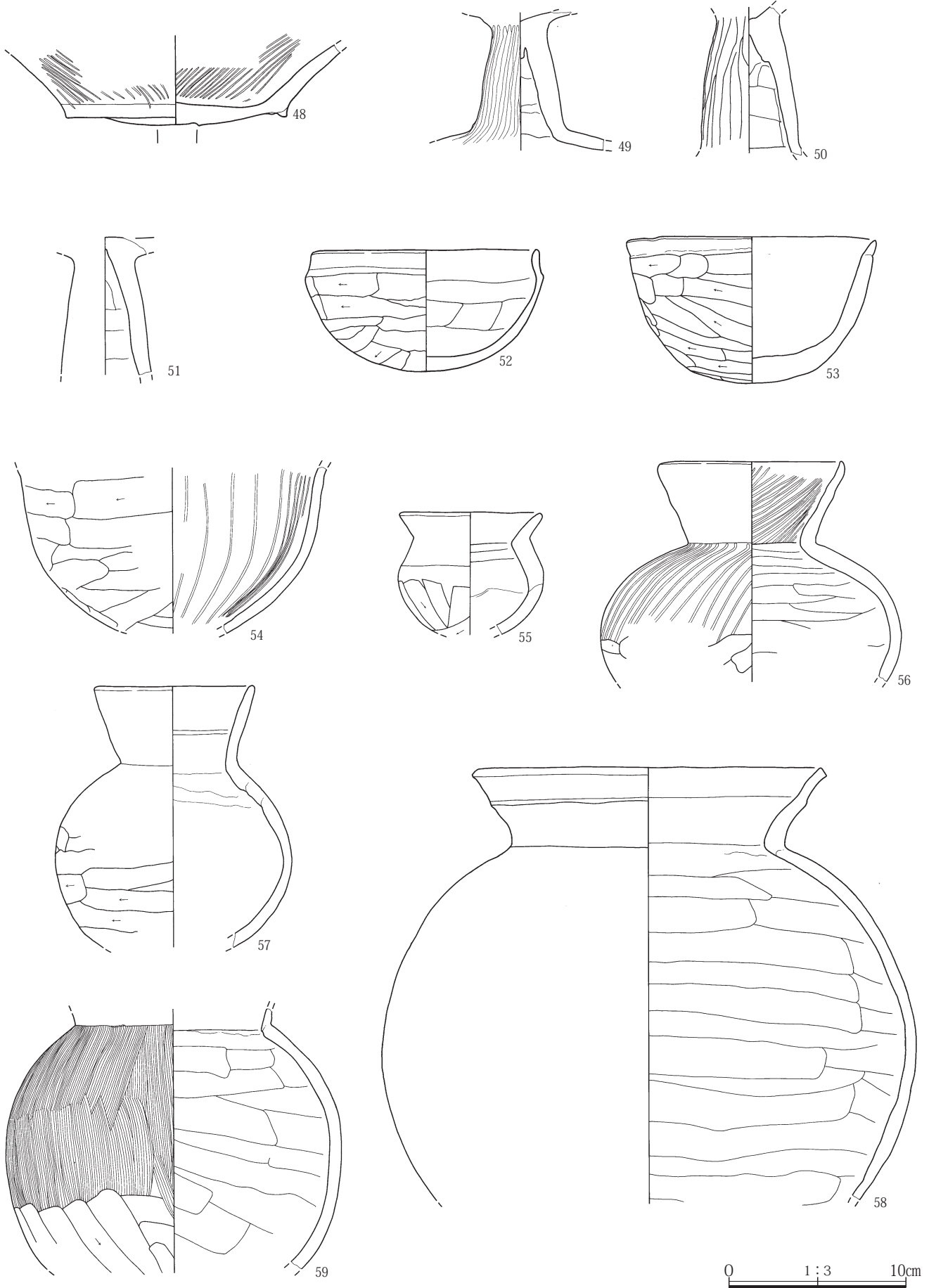
第35図 2区8号住居カマドと掘り方



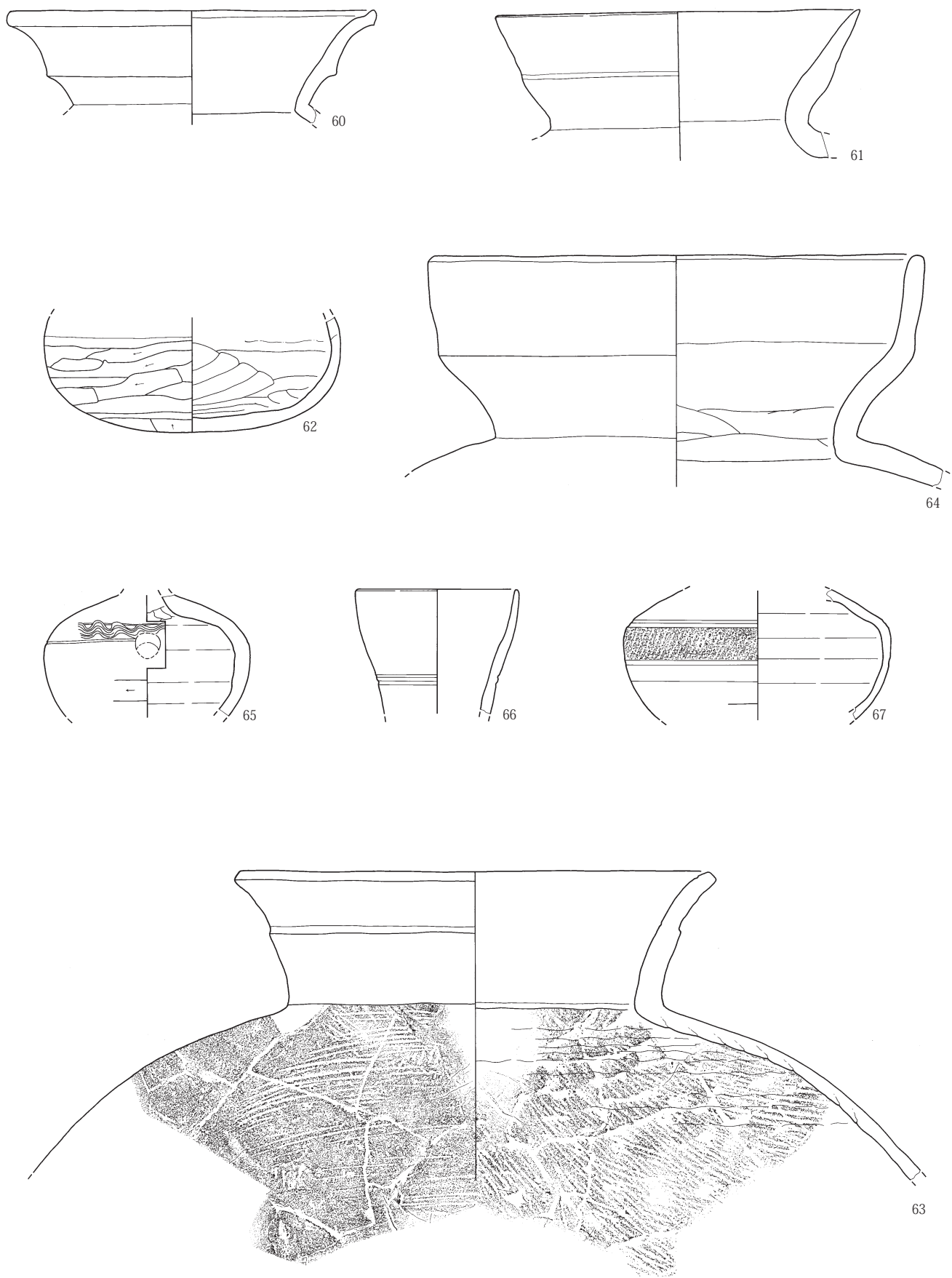
第36図 2区8号住居出土遺物(1)



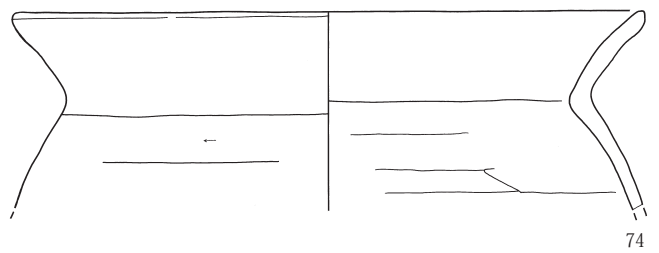
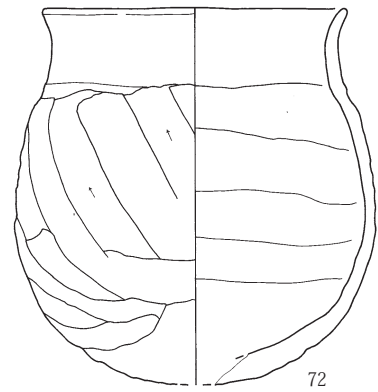
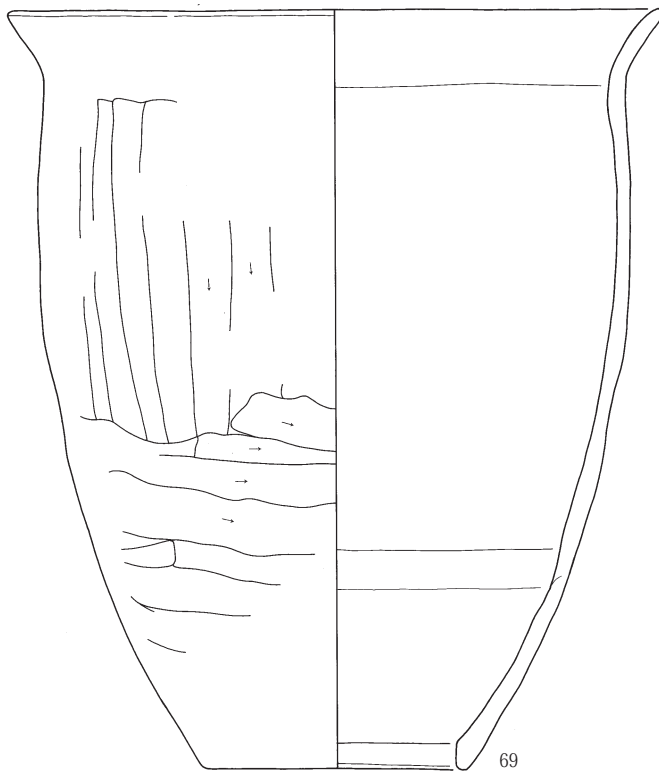
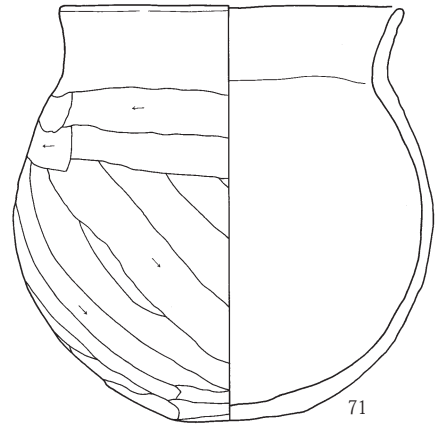
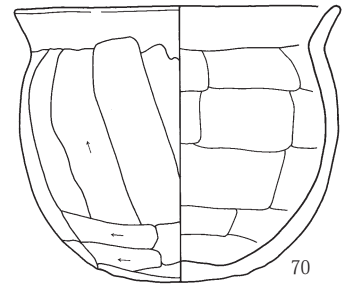
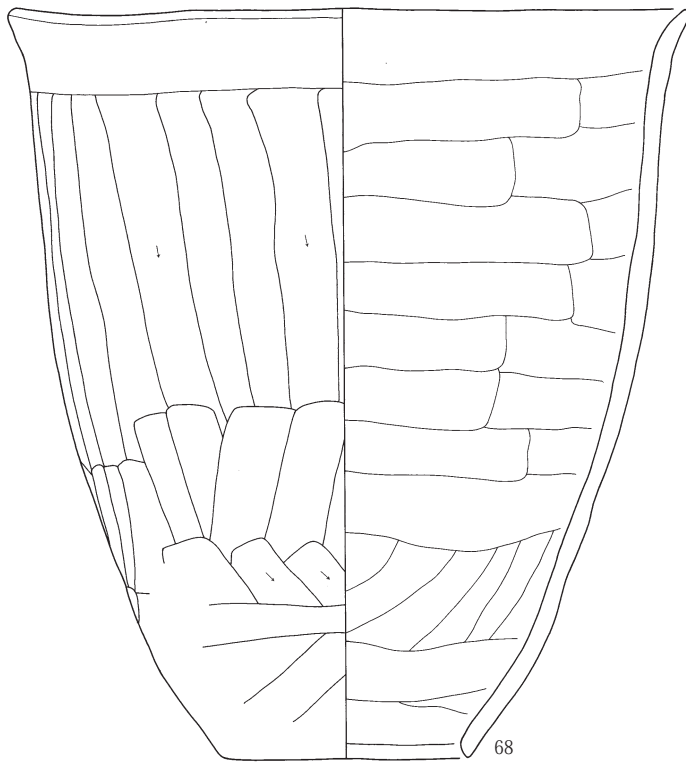
第37図 2区8号住居出土遺物(2)



第38図 2区8号住居出土遺物(3)



第39図 2区8号住居出土遺物(4)

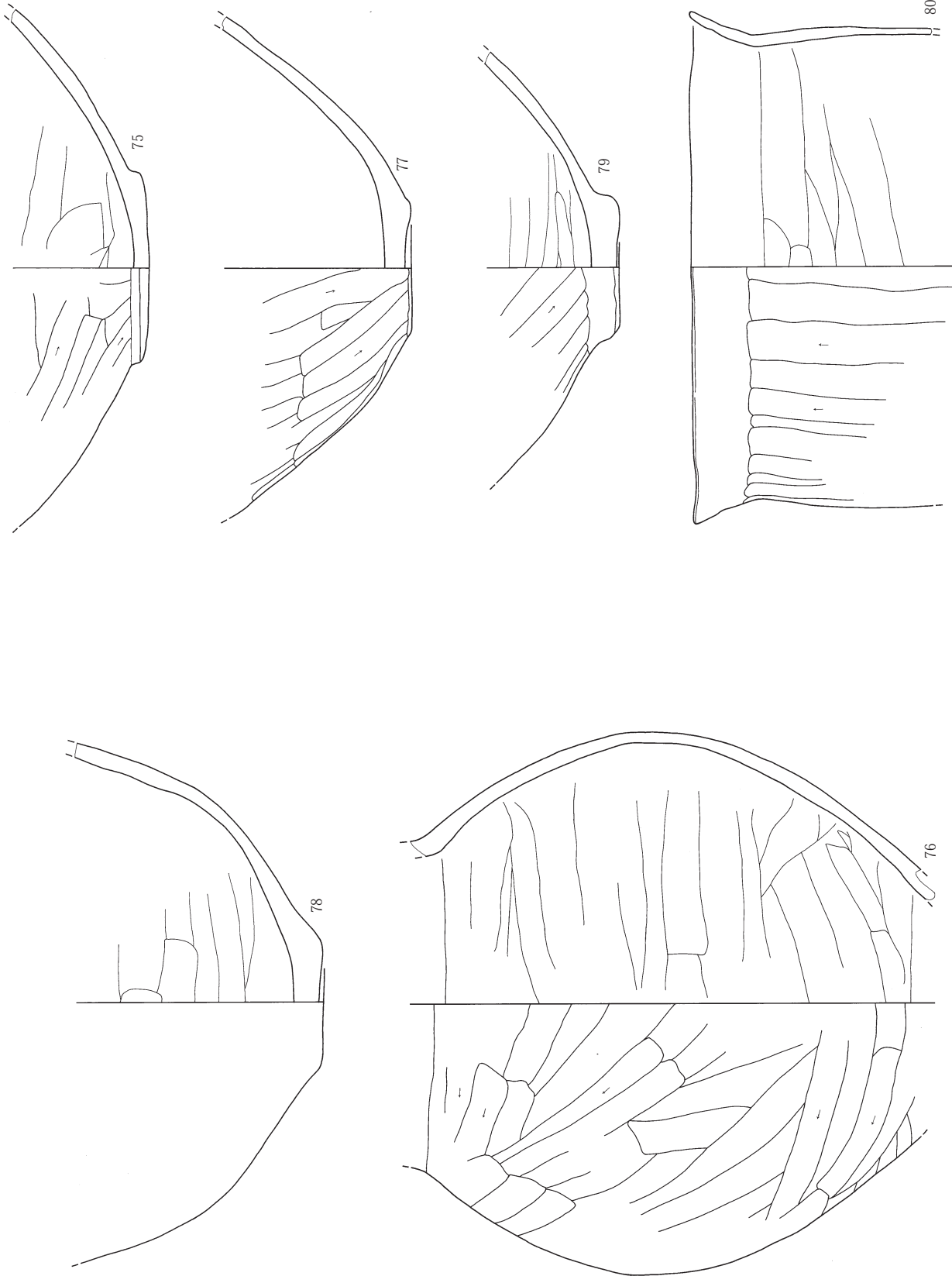


0 1:3 10cm

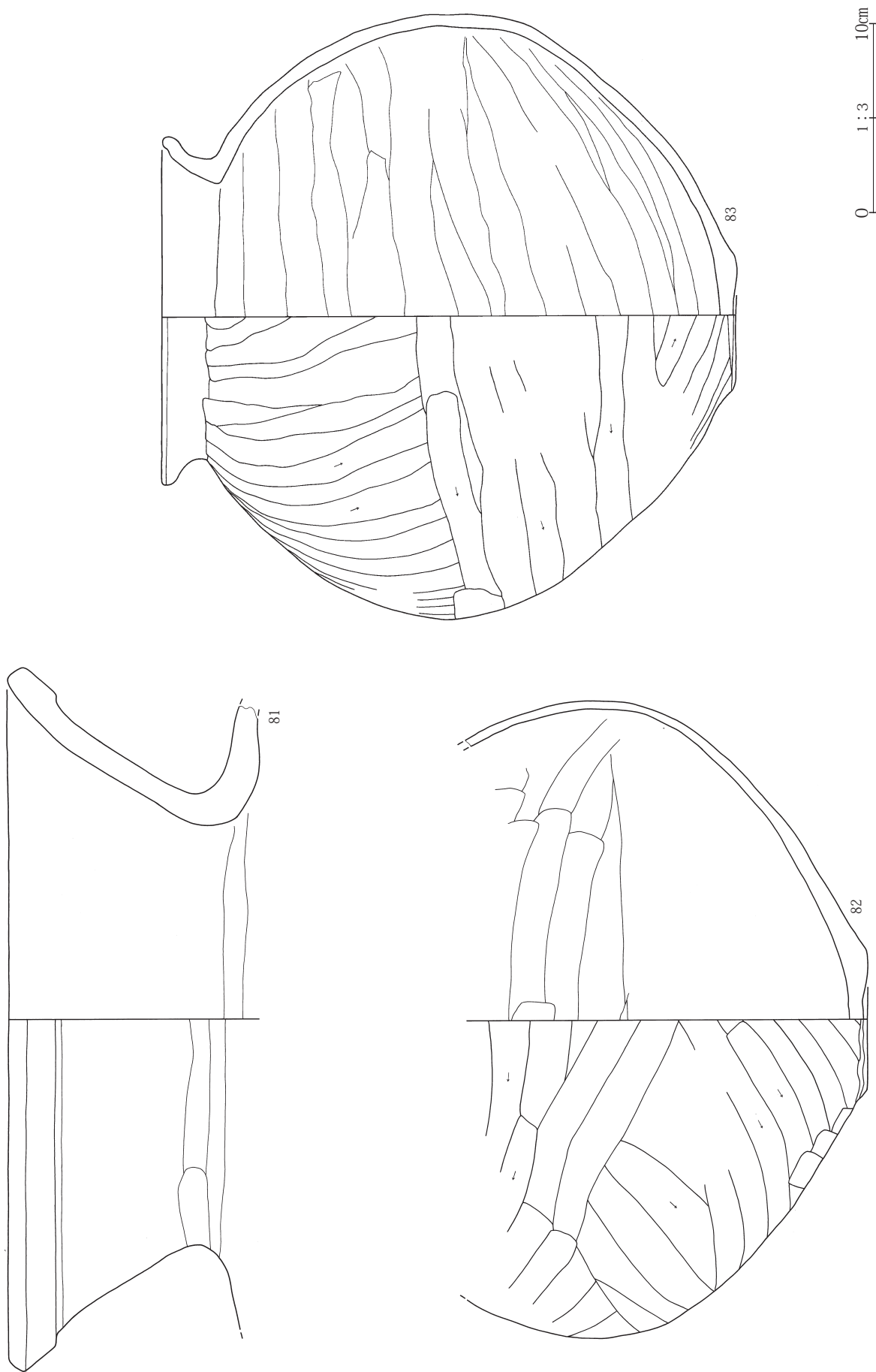
第40図 2区8号住居出土遺物(5)



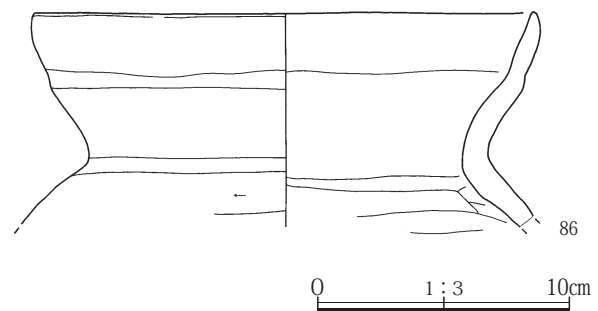
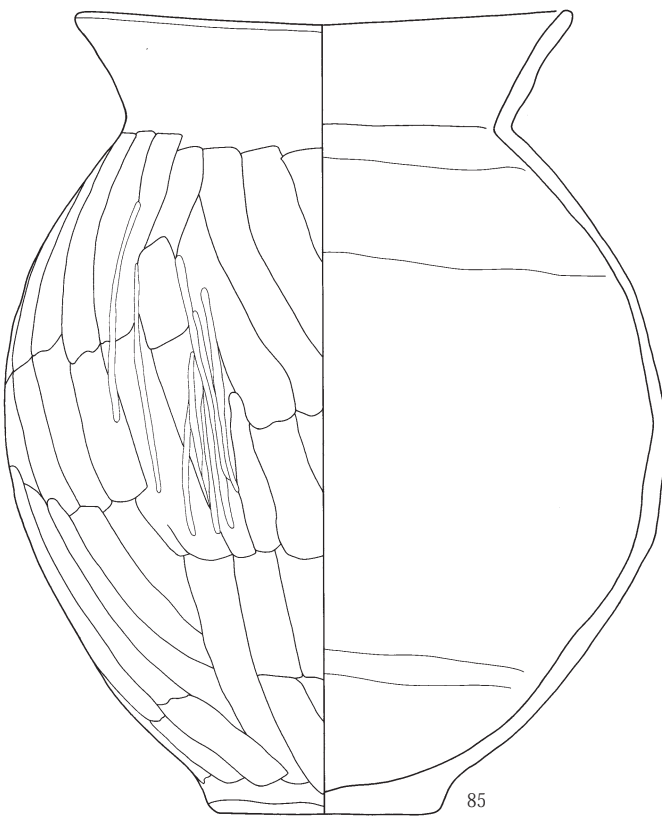
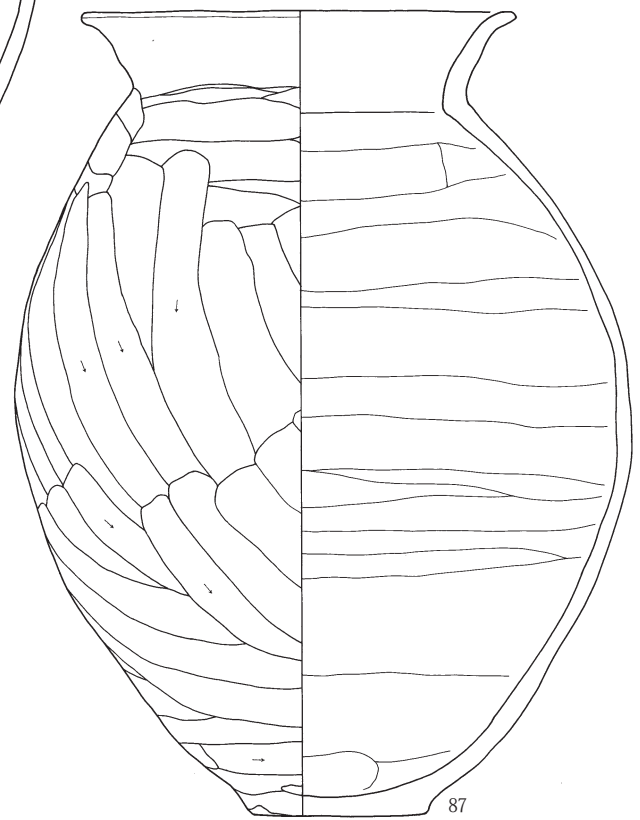
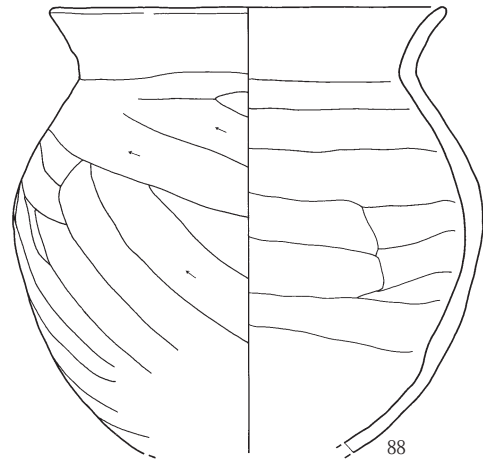
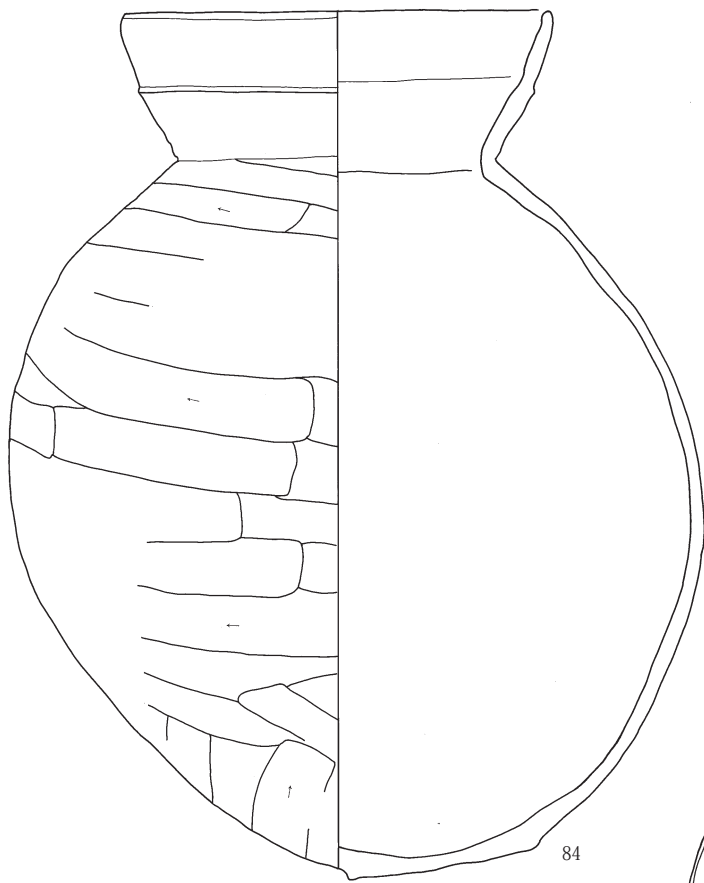
第41図 2区8号住居出土遺物(6)



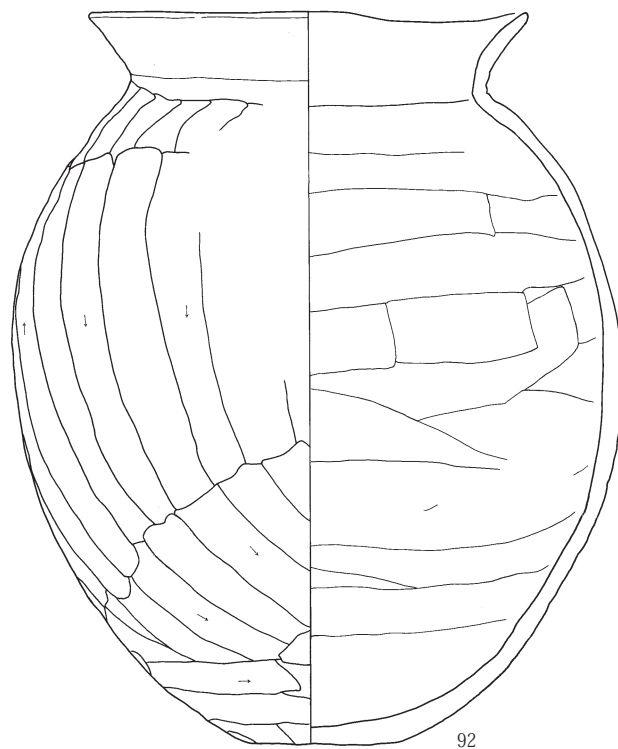
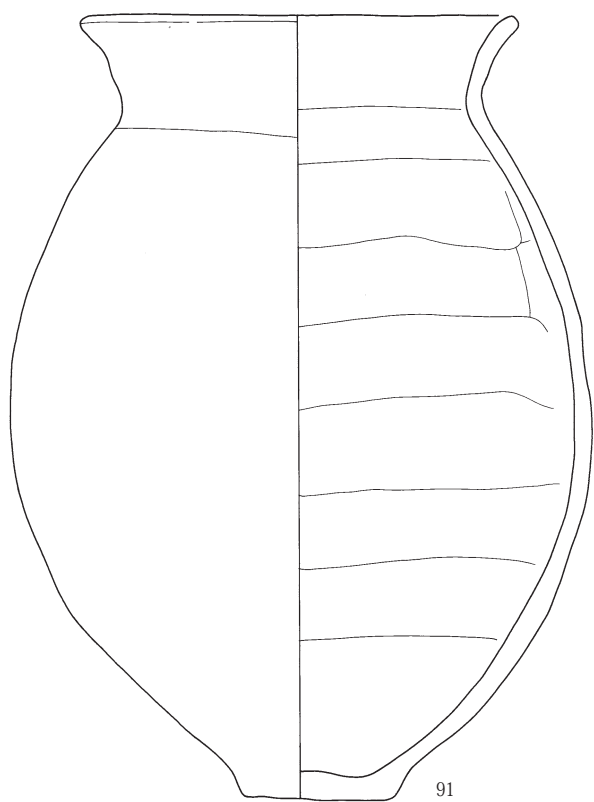
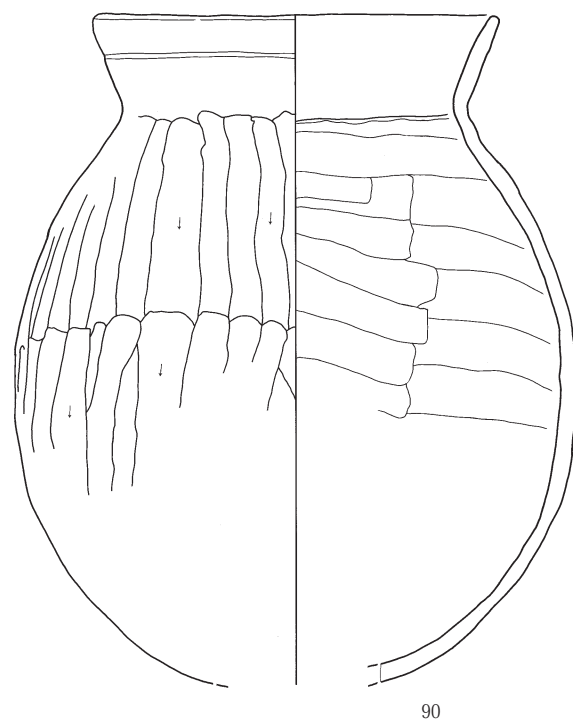
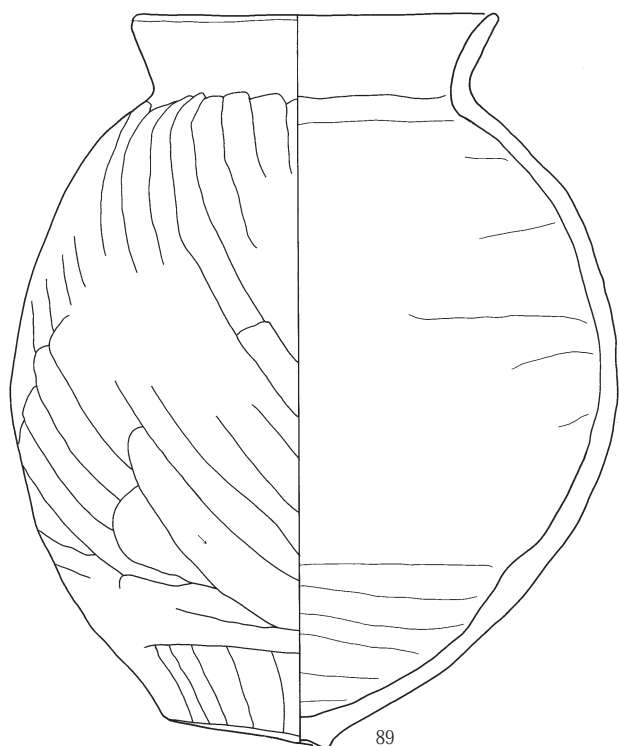
第42図 2区8号住居出土遺物(7)



第43図 2区8号住居出土遺物(8)

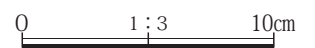
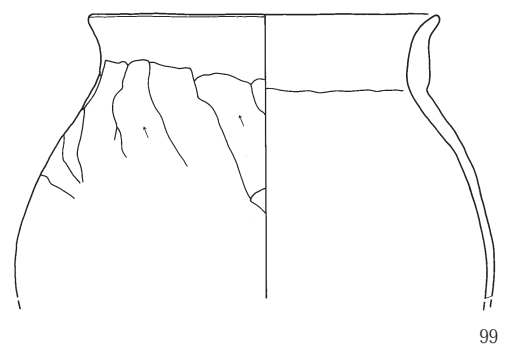
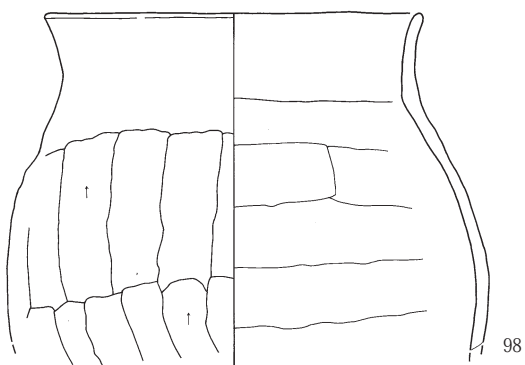
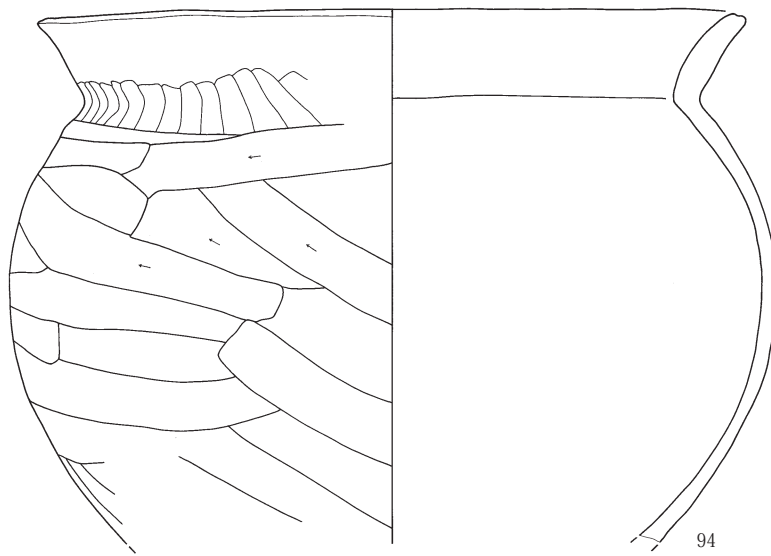
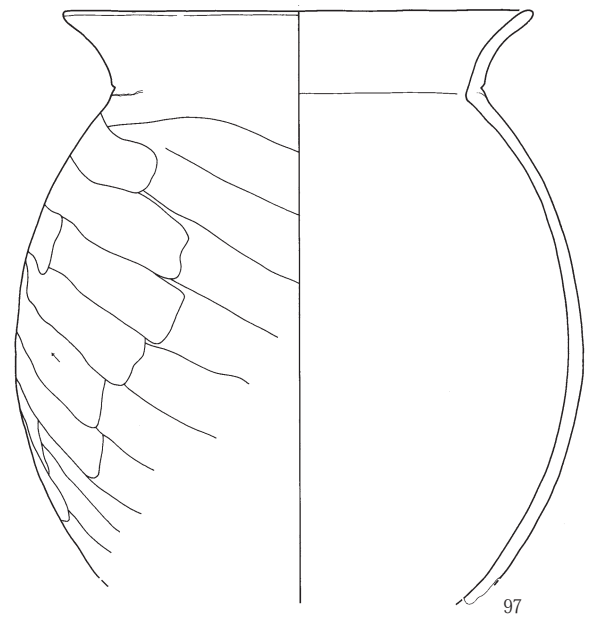
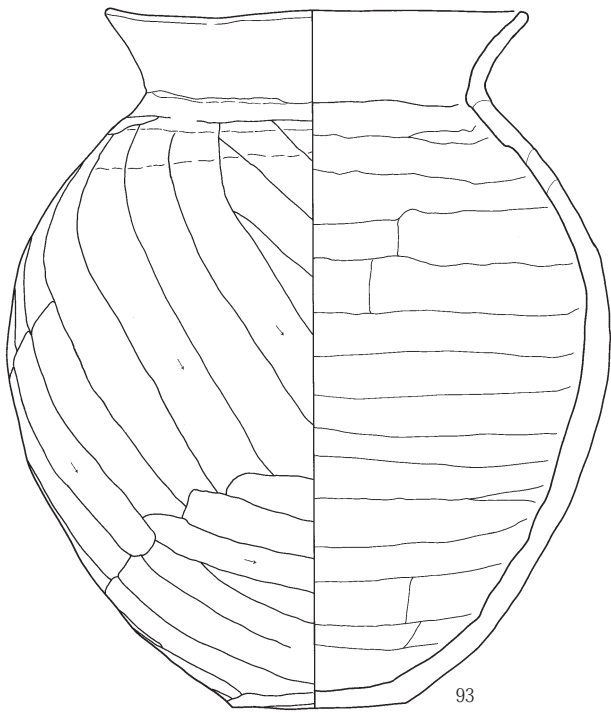


第44図 2区8号住居出土遺物(9)

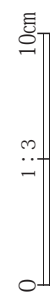
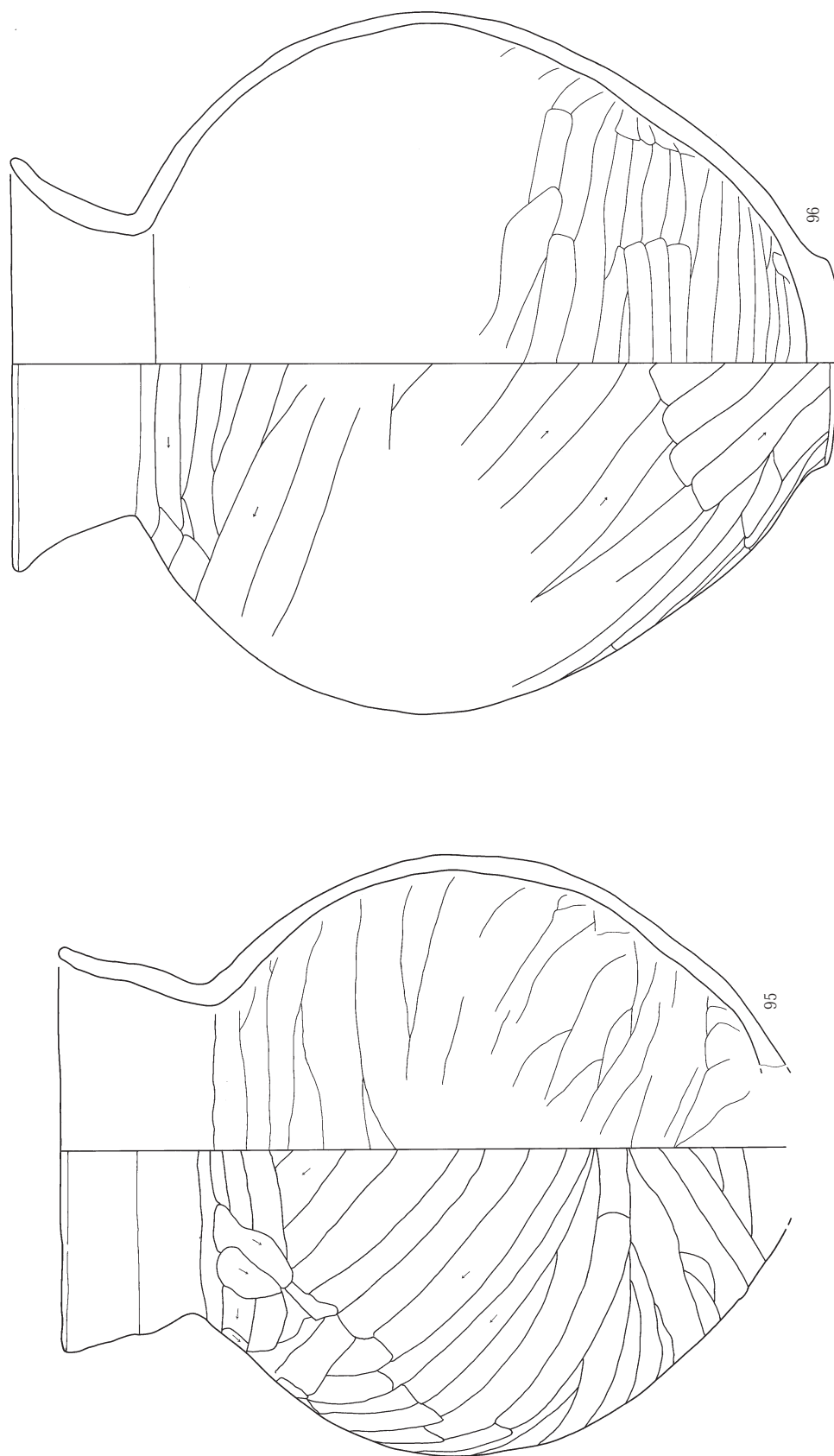


0 1:3 10cm

第45図 2区8号住居出土遺物(10)



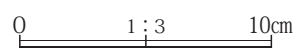
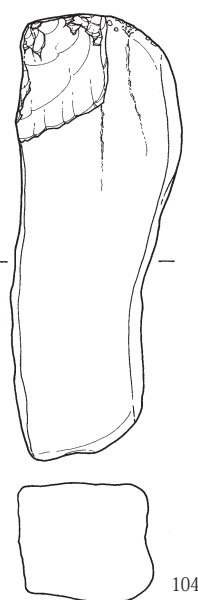
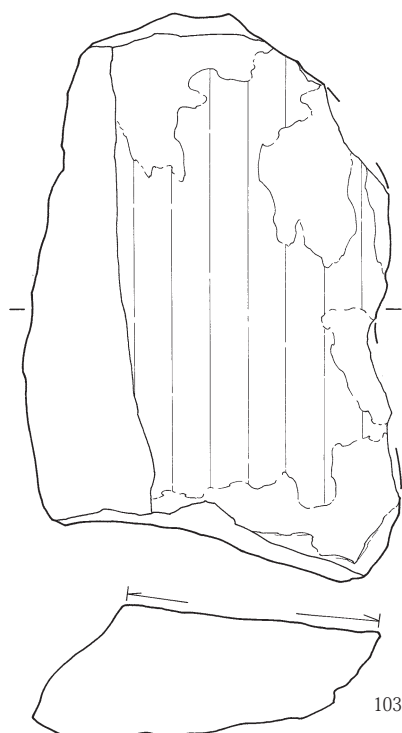
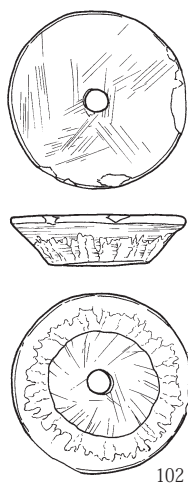
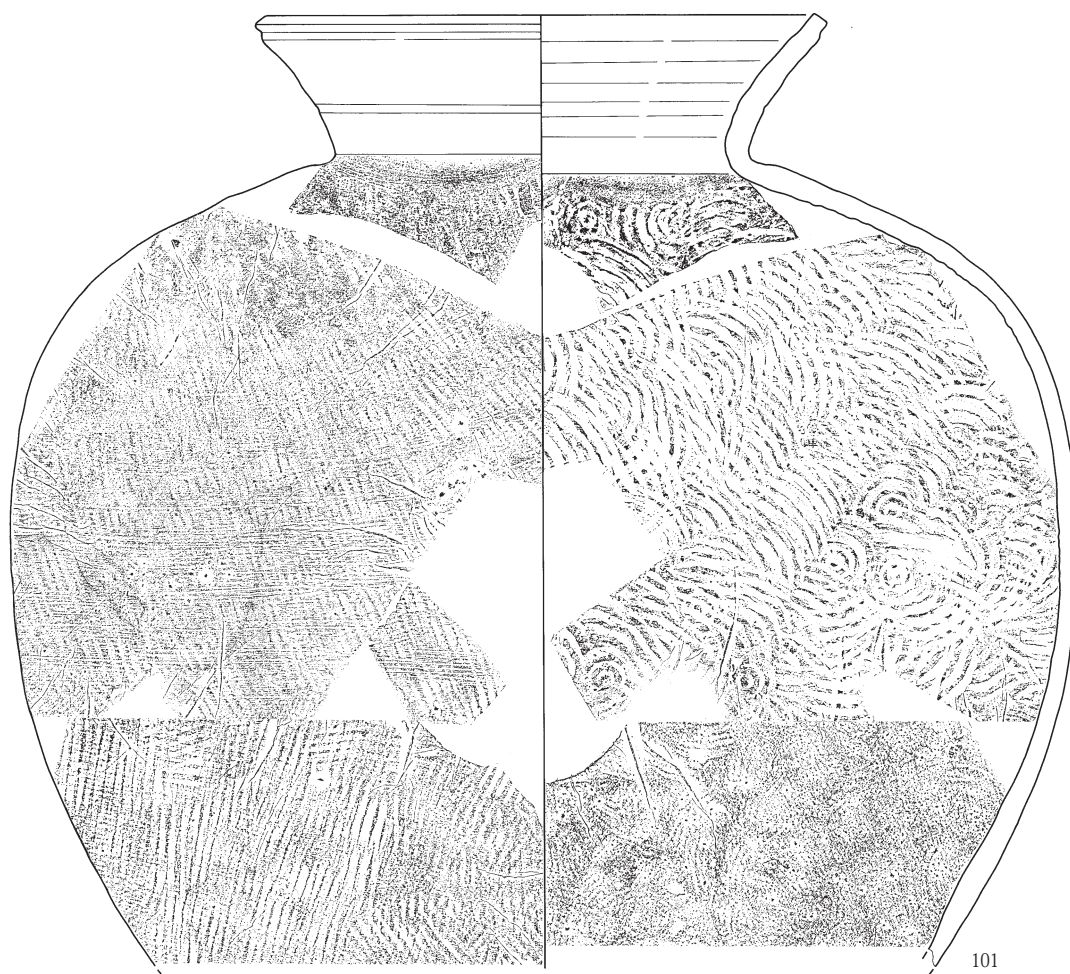
第46図 2区8号住居出土遺物(11)



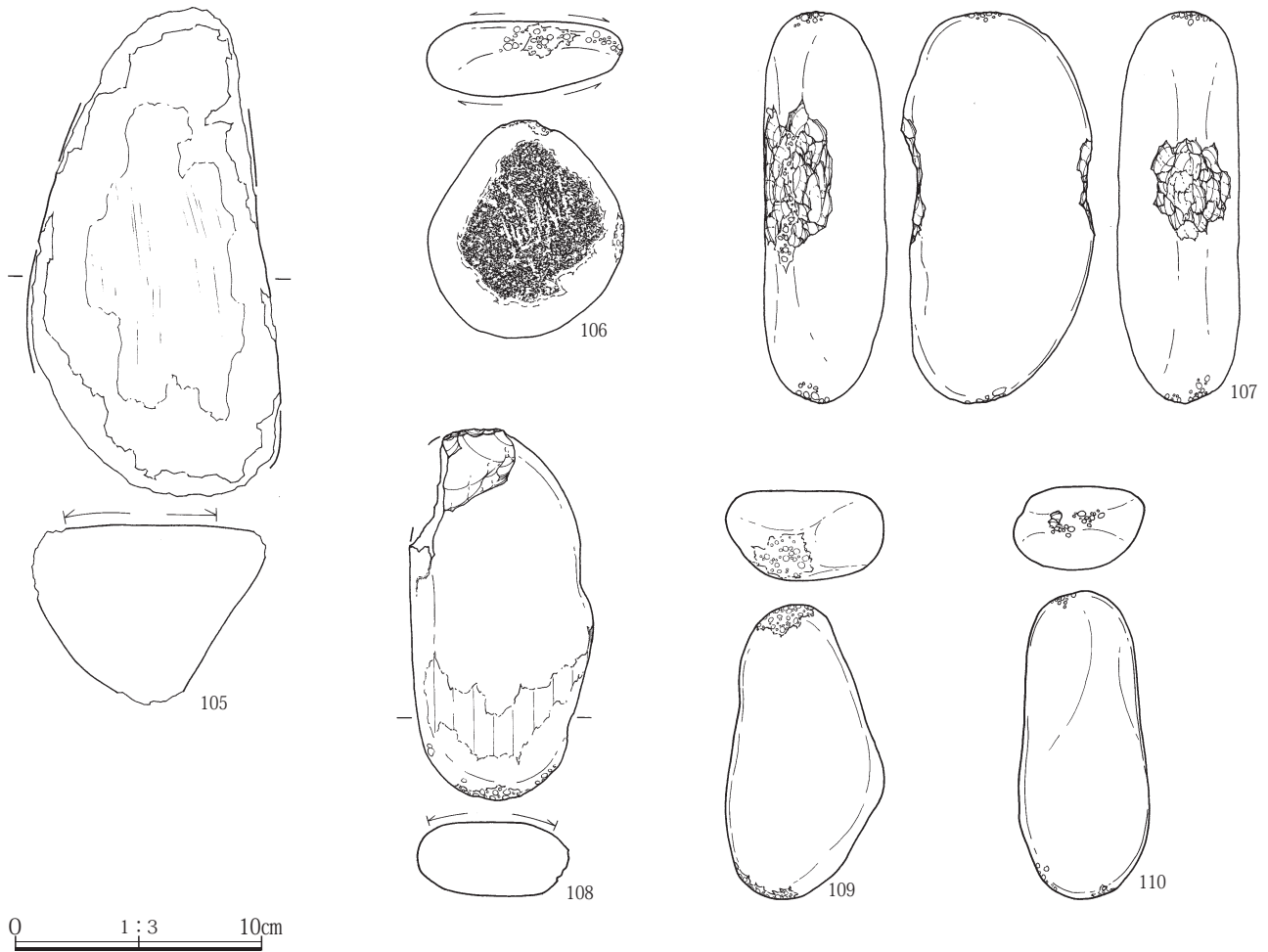
第47図 2区8号住居出土遺物(12)



第48図 2区8号住居出土遺物(13)



第49図 2区8号住居出土遺物(14)



第50図 2区8号住居出土遺物(15)

柱穴の規模(長径・短径・深さ・次の支柱穴との間隔cm)は次のとおりである。

P 1 : 107・86・77・376、P 2 : 49・38・75・372、P 3 : 44・36・95・390、P 4 : 40・32・99・364、P 5 : 46・32・57、P 6 : 42・39・56

周溝 東壁のみで検出されたが、カマドを含む中央部にはない。幅4～11cm、深さは7cm以内。

住居内土坑1 中央よりやや南東に設置される。楕円形に近い形状である。北半分の縁辺部から遺物の出土が多い。長径261cm・短径180cm・深さ78cm。

埋没土 床面近くから土器に混じって多量の礫が廃棄される。土器・礫は住居全面に分布するが、床面近くでは南東隅から中央部に向かって集中するため、北西隅から埋められ始めたと考えられる。

掘り方 全面掘り下げられる。深いところで24cm。

遺物 出土量は極めて多い。カマド周辺から中央部にかけての床面では、土師器甕(84・85・87・92・93・98)が多く分布し、南壁際中央部には土師器杯(4・8・13)が出土する。多くの遺物は礫に混じって北西部に集中するが、床面で出土した遺物との時期差はないため、廃絶とともに埋められたと想定される。床面付近からの出土は北東隅と南西隅付近以外のほぼ全面に広がって出土している。

時期 出土遺物から5世紀末～6世紀前半に比定される。

第3章 発掘調査の記録

第10表 2区8号住居出土遺

| 種 類 PL.No. | No. | 種 類 器 種 | 出土位置 残 存 率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備 考 |
|----------------|-----|------------|-----------------|-----|------|--------|--------------------|---------------------|---|
| 第36図 PL.167 | 1 | 土師器 杯 | +21 口縁部1/4欠損 | □ | 13.2 | 高 最 | 4.9 13.6 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は 体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 PL.167 | 2 | 土師器 杯 | 床直 口縁部1/4欠損 | □ | 10.9 | 高 最 | 5.2 12.1 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は 体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 PL.167 | 3 | 土師器 杯 | +21 一部欠損 | □ | 11.8 | 高 最 | 5.6 12.7 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部は斜放射状へら磨き、体部から底部は手持ちへら削り。 内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 PL.167 | 4 | 土師器 杯 | 床直 口縁部1/5欠損 | □ | 10.9 | 高 最 | 6.0 11.9 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は 体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 PL.167 | 5 | 土師器 杯 | 2/3 | □ | 13.3 | 高 最 | 5.5 14.3 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は 体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 | 6 | 土師器 杯 | +12 1/4 | □ | 15.2 | | | 細砂粒・角閃石/ 良好/明赤褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り。内面は放射状へら磨き。 |
| 第36図 | 7 | 土師器 杯 | +38 口縁部～体部片 | □ | 14.0 | 最 | 14.3 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口唇部は横ナデ、口縁部から体部はナデ。内面は斜放射状 へら磨き。 |
| 第36図 | 8 | 土師器 杯 | 床直 2/3 | □ | 11.9 | 高 最 | 4.4 12.9 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。 |
| 第36図 | 9 | 土師器 杯 | +33 ほぼ完形 | □ | 13.0 | 高 | 6.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は 底部から体部にへらナデ。 |
| 第36図 PL.167 | 10 | 土師器 杯 | 床直 2/3 | □ | 12.9 | 高 最 | 5.5 13.7 | 細砂粒・角閃石/ 良好/明赤褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り。 |
| 第36図 PL.167 | 11 | 土師器 杯 | +32 口縁部1/3欠損 | □ | 11.7 | 高 最 | 5.3 12.6 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は 体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 | 12 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | □ | 13.0 | 高 最 | 5.5 13.8 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。 |
| 第36図 PL.167 | 13 | 土師器 杯 | + 2 完形 | □ | 14.0 | 高 | 5.1 | 細砂粒・片岩/良 好/明赤褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 PL.167 | 14 | 土師器 杯 | +35 1/2 | □ | 13.6 | 高 | 4.8 | 細砂粒・片岩/良 好/橙 | 口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は体 部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 PL.167 | 15 | 土師器 杯 | 床直 2/3 | □ | 13.0 | 高 | 5.3 | 細砂粒・片岩/良 好/橙 | 口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は体 部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 PL.167 | 16 | 土師器 杯 | +32 4/5 | □ | 12.9 | 高 | 5.9 | 細砂粒・片岩/良 好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り、体部中位に指頭痕が残る。内面は体部から口縁部に 斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 | 17 | 土師器 杯 | + 5 4/5 | □ | 12.8 | 高 | 6.0 | 細砂粒・角閃石/ 良好/橙 | 口唇部は横ナデ、口縁部から体部・底部は手持ちへら削り 後、体部上半から口縁部にへら磨き。内面は体部から口縁 部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 PL.167 | 18 | 土師器 杯 | +14 ほぼ完形 | □ | 11.9 | 高 | 7.1 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は体 部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 PL.167 | 19 | 土師器 杯 | +31 口縁部～底部片 | □ | 12.0 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 | 20 | 土師器 杯 | +35 口縁部～体部片 | □ | 11.0 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口唇部は横ナデ、口縁部から体部上半はナデ、下半はへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 | 21 | 土師器 杯 | +50 口縁部～体部片 | □ | 12.9 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 | 22 | 土師器 杯 | +12 口縁部～体部片 | □ | 11.8 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ、体部は手持ちへら削り。内面は体部下位 が横位、体部から口縁部が斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 | 23 | 土師器 杯 | +50 口縁部～体部片 | □ | 12.8 | | | 細砂粒・褐粒/良 好/にぶい黄褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第36図 | 24 | 土師器 杯 | +40 1/3 | □ | 14.4 | 高 | 5.7 | 細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第37図 | 25 | 土師器 杯 | +10 1/4 | □ | 14.0 | 高 | 5.5 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は 体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第37図 | 26 | 土師器 杯 | + 3 口縁部～体部片 | □ | 14.6 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口唇部横ナデ、口縁部に螺旋状へら磨き、体部上半は斜放 射状へら磨き、下半はへら削り。内面は体部から口縁部に 斜放射状へら磨き。 |
| 第37図 | 27 | 土師器 杯 | +38 口縁部～底部片 | □ | 13.0 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口唇部は横ナデ、口縁部から体部上半はナデ、下半はへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第37図 | 28 | 土師器 杯 | 1/5 | □ | 13.8 | 高 | 5.7 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第37図 | 29 | 土師器 杯 | +33 口縁部～底部片 | □ | 13.8 | | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第37図 | 30 | 土師器 杯 | 口縁部～体部片 | □ | 17.1 | | | 細砂粒/良好・外 燻/にぶい黄橙 | 口唇部横ナデ、口縁部から体部上半はナデ、下半はへら削り。 内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 |
| 第37図 PL.167 | 31 | 土師器 杯 | +30 2/3 | □ | 13.6 | 高 | 5.3 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口唇部は横ナデ、口縁部から体部上半はナデ、下半から底 部は手持ちへら削り。 |
| 第37図 PL.167 | 32 | 土師器 杯 | + 5 口縁部1/4欠損 | □ | 14.3 | 高 | 5.4 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持 ちへら削り。 |
| 第37図 | 33 | 土師器 杯 | + 3 口縁部～底部片 | □ | 14.6 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持 ちへら削り。 |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|--------------|--------------------|-----|------|-----------------------|-----------------------------|---|-------------------|
| 第37図 PL.168 | 34 | 土師器 杯 | 床直 ほぼ完形 | □ | 15.4 | 高 5.6 | 細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙 | 口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第37図 PL.168 | 35 | 土師器 杯 | +34 口縁部一部欠損 | □ | 13.1 | 高 5.9 稜 12.8 | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | 内面口唇部に 平坦面をもつ。 |
| 第37図 PL.168 | 36 | 土師器 杯 | +33 3/4 | □ | 13.2 | 高 5.8 稜 13.1 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | 内面口唇部に 平坦面をもつ。 |
| 第37図 PL.168 | 37 | 土師器 杯 | +30 口縁部僅 かに欠損 | □ | 13.5 | 高 6.2 稜 13.4 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第37図 PL.168 | 38 | 土師器 杯 | +40 4/5 | □ | 13.8 | 高 5.3 稜 13.8 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第37図 PL.168 | 39 | 土師器 杯 | +41 3/4 | □ | 12.8 | 高 5.3 稜 12.6 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第37図 | 40 | 土師器 杯 | +38 口縁部～底部片 | □ | 12.8 | 稜 12.1 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第37図 | 41 | 土師器 杯 | +32 口縁部～体部片 | □ | 13.8 | 稜 14.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第37図 | 42 | 土師器 杯 | +38 口縁部～体部片 | □ | 14.8 | 稜 14.8 | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削りか、 器面磨滅のため詳細不明。 | 43と同一個体 か。 |
| 第37図 | 43 | 土師器 杯 | +30 1/3 | □ | 14.8 | 高 4.9 稜 14.8 | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削りか、 器面磨滅のため詳細不明。 | 42と同一個体 か。 |
| 第37図 | 44 | 土師器 椀 | 床直 口縁部～体部片 | □ | 13.0 | 最 13.8 | 細砂粒・褐色色/ 良好/赤褐 | 口縁部横ナデ、体部上～中位ナデ、下位から底部は手持ち ヘラ削り。 | |
| 第37図 PL.168 | 45 | 土師器 椀 | 床直 ほぼ完形 | □ | 14.7 | 高 7.4 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第37図 PL.168 | 46 | 土師器 椀 | +9 3/4 | □ | 12.5 | 高 7.6 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部から体部上半は横ナデ後、斜放射状ヘラ磨き、下半から底 部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第37図 | 47 | 土師器 高杯 | +50 杯身部口縁部片 | □ | 18.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は内外面とも斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第38図 | 48 | 土師器 高杯 | +32 杯身部片 | | | | 細砂粒/良好/橙 | 杯身部口縁部は斜放射状ヘラ磨き、底部はナデ。内面は口 縁部が斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第38図 | 49 | 土師器 高杯 | +18 脚部 | | | | 細砂粒/良好/橙 | 脚部から裾部は縦位のヘラ磨き。内面は脚部がヘラナデ、 裾部は横ナデ。 | |
| 第38図 | 50 | 土師器 高杯 | +42 脚部 | | | | 細砂粒/良好/橙 | 脚部は縦位のヘラ削り。内面は脚部がヘラナデ。 | |
| 第38図 | 51 | 土師器 高杯 | +52 脚部片 | | | | 細砂粒/良好/橙 | 脚部に杯部を貼付か。脚部外面は器面磨滅のため整形不明。 内面はヘラナデ。 | |
| 第38図 PL.168 | 52 | 土師器 鉢 | +5 5/6 | □ | 12.5 | 高 6.7 稜 13.4 | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第38図 | 53 | 土師器 鉢 | +57 2/3 | □ | 13.8 | 高 8.1 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 外面口唇部下に輪積み痕が残る。口唇部は横ナデ、口縁部 から体部・底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第38図 | 54 | 土師器 鉢 | +34 体部片 | | | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面に雑な放射状ヘラ 磨き。 | |
| 第38図 | 55 | 土師器 小型壺 | 住居内土坑1 口縁部～胴部片 | □ | 7.8 | 胴 8.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部～胴部上位は横ナデ、胴部は中位から下位はヘラ削 り。内面胴部はヘラナデか。 | |
| 第38図 | 56 | 土師器 小型壺 | +39 口縁部～胴部片 | □ | 10.0 | 胴 16.7 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部上半は放射状ヘラ磨き、下半はヘラ 削り。内面は口縁部に斜放射状ヘラ磨き、胴部はヘラナデ。 | |
| 第38図 PL.168 | 57 | 土師器 小型丸底壺 | +46 胴部1/3、 底部欠損 | □ | 8.8 | 胴 13.2 | 細砂粒/良好/橙 | 内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部上半はナ デ、下半はヘラ削り。内面胴部はナデ。 | |
| 第38図 PL.168 | 58 | 土師器 壺 | +36 口縁部～胴部下位 | □ | 19.2 | 胴 29.9 | 細砂粒多/良好/赤 褐 | 内面頸部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は器面 磨滅のため不明。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第38図 | 59 | 土師器 壺 | +39 胴部片 | | | 胴 18.7 | 細砂粒/良好/橙 | 胴部上半はハケ目(1cmに9本)下半はヘラ削り。内面は ヘラナデ。 | |
| 第39図 | 60 | 土師器 壺 | +37 口縁部～頸部片 | □ | 19.4 | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部から頸部は横ナデ、外面中位よりやや下位に小凸帯 が巡る。 | |
| 第39図 | 61 | 土師器 壺 | +67 口縁部～頸部片 | □ | 19.6 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、外面中位に段を有す。 | |
| 第39図 | 62 | 土師器 壺 | 底部～胴部下半 | | | | 細砂粒/良好/橙 | 胴部上半はナデ、下半から底部はヘラ削り。内面はヘラナ デ。 | |
| 第39図 PL.169 | 63 | 土師器 壺 | +39 口縁部～ 胴部上位片 | □ | 25.2 | | 細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/浅黄 橙 | 内面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部はハケ目、器 面磨滅のため不鮮明。内面胴部も同様。 | |
| 第39図 PL.168 | 64 | 土師器 壺 | +36 口縁部～ 胴部上位 | □ | 26.2 | | 細砂粒・粗砂粒・ 片岩・角閃石/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は口縁部下位から 胴部にヘラナデ。 | |
| 第39図 PL.168 | 65 | 須恵器 甗 | 肩部～体部下位 | | | | 白色鋳物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。肩部に細い凹線を2条めぐらし 区画内に4本1単位の波状文を配す。体部下位にはヘラ削 りを施す。内面頸部に指頭圧痕。 | |

第3章 発掘調査の記録

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|------------|--------------------------|--------|--------------|------------------------|---------------------------------|--|----------------------------------|
| | | | | 口 | 高 | 胴 | | | |
| 第39図 | 66 | 須恵器 長頸壺 | +62 口縁～頸部片 | 口 | 8.5 | | 白色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り、中位に沈線状の凹線が2条めぐ る。 | 内外面に自然 釉付着。67と 同一個体か。 |
| 第39図 PL.169 | 67 | 須恵器 甕? | +62 肩～胴部中位1/2 | | | | 白色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り、肩部と体部中位に2本1単位の沈線 をめぐらせ区画、区画内に櫛状工具による刺突文を充填する | 肩部に自然釉 厚く堆積。 |
| 第40図 PL.169 | 68 | 土師器 甕 | +42 2/3 | 口 底 | 26.5 9.3 | 高 29.7 | 細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第40図 PL.169 | 69 | 土師器 甕 | +36 口縁部～ 底部1/5片 | 口 底 | 25.8 10.2 | 高 29.8 | 細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。 | |
| 第40図 PL.169 | 70 | 土師器 小型甕 | +77 3/4 | 口 底 | 12.5 6.5 | 高 10.7 | 細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から 胴部はヘラナデ。 | |
| 第40図 PL.169 | 71 | 土師器 小型甕 | +61 ほぼ完形 | 口 底 | 13.3 5.3 | 高 16.3 胴 13.4 | 細砂粒・粗砂粒・片 岩・角閃石/良好/橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り、底部周 囲は器面磨滅。内面は底部から胴部はヘラナデ、単位不鮮明。 | |
| 第40図 PL.169 | 72 | 土師器 小型甕 | +44 2/3 | 口 | 11.8 | 高 胴 14.7 14.1 | 細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面 は底部から胴部はヘラナデ。 | |
| 第41図 | 73 | 土師器 甕 | +32 胴部～底部 | 底 | 7.4 | 胴 55.4 | 細砂粒/良好/浅黄 橙 | 内外面ともハケ目(1cmに5本)。外面胴部はナデ。底部は ヘラ削り。外面は器面磨滅のため不鮮明。 | 2破片から図 上復元。 |
| 第40図 | 74 | 土師器 甕 | +9 口縁部～ 胴部上位片 | 口 | 24.7 | | 細砂粒・角閃石・ 片岩/良好/橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。 | |
| 第42図 | 75 | 土師器 甕 | 床直 底部～胴部下位 | 底 | 9.6 | | 細砂粒・片岩/良 好/褐色 | 底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第42図 | 76 | 土師器 甕 | +30 頸部-胴部下位 | | | | 細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙 | 頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第42図 | 77 | 土師器 甕 | 底部～胴部下位 | 底 | 6.6 | | 細砂粒/良好/橙 | 底部は中ほどがナデ、周囲がヘラ削り、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。 | |
| 第42図 | 78 | 土師器 甕 | 床直 底部～胴 部下位片 | 底 | 5.6 | | 細砂粒・褐粒/良 好/橙 | 底部と胴部はヘラ削り、胴部は器面磨滅のため単位不明。 内面はヘラナデ。 | |
| 第42図 | 79 | 土師器 甕 | +45 底部～胴部下位 | 底 | 6.2 | | 細砂粒多/良好/明 赤褐 | 底部はヘラ削り、周囲は器面磨滅、胴部はヘラ削り。内面 はヘラナデ。 | |
| 第42図 | 80 | 土師器 甕 | +7 口縁部～ 胴部上位片 | 口 | 25.6 | | 細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第43図 | 81 | 土師器 甕 | +24 口縁部～ 胴部上位片 | 口 | 35.5 | | 細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ、頸部はヘラナデ。内面は胴部にヘラナデ。 | |
| 第43図 | 82 | 土師器 甕 | +4 底部～胴部中位 | 底 | 8.0 | 胴 33.3 | 細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙 | 底部ヘラ削りか、摩滅のため不鮮明、胴部はヘラ削り。内 面は底部から胴部にヘラナデ。 | |
| 第43図 PL.170 | 83 | 土師器 甕 | +34 口縁部・ 胴部一部欠損 | 口 底 | 17.8 7.2 | 高 胴 30.1 31.6 | 細砂粒・粗砂粒少 /良好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り、底部周囲は器 面磨滅。内面は底部から胴部はヘラナデ。 | |
| 第44図 PL.170 | 84 | 土師器 甕 | 床直 2/3 | 口 底 | 16.6 7.6 | 高 34.0 | 細砂粒/良好/橙 | 成形時の歪み大。口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削 り。内面は底部から胴部はヘラナデ。 | |
| 第44図 PL.170 | 85 | 土師器 甕 | 床直 ほぼ完形 | 口 底 | 19.2 8.8 | 高 胴 31.4 26.2 | 細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削りで一部にヘラ磨 き、底部もヘラ磨き。内面は底部から胴部がヘラナデ。 | |
| 第44図 PL.171 | 86 | 土師器 甕 | 口縁部～胴部上 位 | 口 | 19.6 | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。 | |
| 第44図 PL.171 | 87 | 土師器 甕 | 床直 7/8 | 口 底 | 16.8 7.5 | 高 胴 31.6 24.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から 胴部にヘラナデ。 | |
| 第44図 PL.169 | 88 | 土師器 甕 | +12 口縁部～ 胴部下位 | 口 | 15.2 | 胴 18.3 | 細砂粒・粗砂粒・片 岩/良好/にぶい 橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。 | |
| 第45図 PL.171 | 89 | 土師器 甕 | +42 2/3 | 口 底 | 14.0 6.7 | 高 胴 28.7 23.9 | 細砂粒/良好/にぶ い黄褐 | 口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から 胴部にヘラナデ。 | |
| 第45図 PL.171 | 90 | 土師器 甕 | +40 口縁部～ 胴部下位 | 口 | 15.7 | 胴 22.0 | 細砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第45図 PL.171 | 91 | 土師器 甕 | +43 2/3 | 口 底 | 16.8 6.0 | 高 胴 30.7 22.8 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り、器面 磨滅のため不鮮明。内面は底部から胴部はヘラナデ。 | |
| 第45図 PL.172 | 92 | 土師器 甕 | 床直 3/4 | 口 底 | 17.0 6.0 | 高 胴 28.7 23.9 | 細砂粒・粗砂粒・ 片岩・長石/良好/橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り、底部 周囲は器面磨滅。内面は底部から胴部はヘラナデ。 | |
| 第46図 PL.172 | 93 | 土師器 甕 | 住居内土坑1 口縁部・胴部一 部欠損 | 口 底 | 16.1 7.0 | 高 胴 27.5 23.5 | 細砂粒・粗砂粒・ 片岩・長石/良好/ にぶい黄橙 | 外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部から 底部はヘラ削り、底部周囲は器面磨滅。内面は底部から 胴部はヘラナデ。 | |
| 第46図 PL.172 | 94 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～ 胴部中位 | 口 | 27.5 | 胴 30.2 | 細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ、頸部はヘラナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。 | |
| 第47図 PL.173 | 95 | 土師器 甕 | +37 口縁部～ 胴部下位 | 口 | 18.0 | 胴 27.2 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。 | |
| 第47図 PL.173 | 96 | 土師器 甕 | +31 口縁～底部 | 口 底 | 18.9 9.3 | 高 胴 37.5 31.9 | 細砂粒・粗砂粒・ 角閃石・長石/良 好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り。底部もヘラ削り。内面 はヘラナデ。器面は磨滅のため不鮮明。 | 2破片から図 上復元。 |
| 第46図 | 97 | 土師器 甕 | +70 口縁～胴 部下位1/2 | 口 | 18.2 | | 粗砂粒多・片岩/ 良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ、胴部は斜位にヘラ削り。内面胴部は横位 にナデと考えられる。 | 内外面とも磨 滅。外面胴部 中位に炭素吸 着。 |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|-----------|-------------------|--------|--------------|-------------------------|------------------------------|---|-------|
| | | | | 口 | 径 | 厚 | | | |
| 第46図 PL.172 | 98 | 土師器 甕 | +2 口縁部～ 胴部上半片 | 口 | 14.6 | | 細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。 | |
| 第46図 PL.172 | 99 | 土師器 甕 | +15 口縁部～ 胴部上半片 | 口 | 13.6 | | 細砂粒・粗砂粒・ 角閃石/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第48図 | 100 | 須恵器 甕 | +58 頸部～底部片 | | | | 細砂粒/酸化焰/橙 | 外面は平行叩き後、胴部上位にカキ目。内面は同心円状ア テ具痕が残る。 | |
| 第49図 | 101 | 須恵器 甕 | +49 口縁部～ 胴部下位片 | 口 | 21.4 | | 粗砂粒・白色粒/ 還元焰/暗灰 | 口縁部はロクロ整形、回転右回りか。胴部は外面に平行叩 き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。 | |
| 第49図 PL.173 | 102 | 石製品 紡輪 | +5 | 径 | 4.7 | 厚 1.4 | 蛇紋岩 | 使用面側の坑周辺が光沢を帯びる。裏面側には放射状の整形痕 が、体部には縦位整形痕が残る。径7mm弱の孔を両側穿孔する。 | 扁平礫 |
| 第49図 PL.173 | 103 | 礫石器 磨石 | 床直 | 長 幅 | 30 19.9 | 厚 重 7.9 6100 | 粗粒輝石安山岩 | 背面側が著しく摩耗する。素材の凹凸は残されているが、 著しく摩耗しており、砥石としての可能性も否定できない。 | 棒状礫 |
| 第49図 PL.173 | 104 | 礫石器 敲石 | +18 | 長 幅 | 17.6 6.8 | 厚 重 4.9 821 | 変質安山岩 | 上端小口部が敲打され、大きく剥落する。 | 棒状礫 |
| 第50図 PL.173 | 105 | 砥石? | +7 | 長 幅 | 26.4 13.4 | 厚 重 9.4 3932.2 | 石英閃緑岩 | 背面側平坦面が弱く研磨されている。礫形状は断面三角形 状を呈する。被熱して剥落が激しい。 | 棒状礫 |
| 第50図 PL.173 | 106 | 石製品 砥石 | +35 | 長 幅 | 8.8 7.8 | 厚 重 3 267.0 | 粗粒輝石安山岩 | 背面側の平坦な礫面に縦位の刃ならし傷が残る。 | 楕円扁平礫 |
| 第50図 PL.173 | 107 | 礫石器 敲石 | 住居内土坑 | 長 幅 | 15.7 7.7 | 厚 重 4.9 853.8 | 変質安山岩 | 両側縁ともエッジを激しく敲打する。敲打は礫中心よりや や上端側に偏り、可能性として紐掛け用の加工ということ も考えておきたい。 | 棒状礫 |
| 第50図 PL.173 | 108 | 礫石器 敲石 | +59 | 長 幅 | 14.9 7.3 | 厚 重 3.2 523.4 | デイサイト | 上端小口部が敲打され、大きく剥落する。 | 棒状礫 |
| 第50図 PL.173 | 109 | 礫石器 敲石 | +25 | 長 幅 | 11.9 6.4 | 厚 重 3.5 384.5 | 粗粒輝石安山岩 | | 棒状礫 |
| 第50図 PL.173 | 110 | 礫石器 敲石 | +38 | 長 幅 | 12.4 5.3 | 厚 重 3.4 310.7 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に弱い敲打痕が残る。 | 棒状礫 |

第11表 2号8号住居非掲載廃棄礫一覧

| 通番 | 礫 形状 | 石材 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 備考 |
|----|---------------|---------|-------|--------|--------|--------|----|
| 1 | 扁平 棒状 礫 | 粗粒輝石安山岩 | 5.8 | 15.0 | 3.6 | 440.7 | |
| 2 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.2 | 15.3 | 3.2 | 438.9 | |
| 3 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.3 | 16.6 | 4.5 | 543 | |
| 4 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.2 | 19.7 | 4.1 | 744.6 | |
| 5 | | 細粒輝石安山岩 | 4.5 | 11.8 | 4.1 | 243.6 | |
| 6 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.5 | 16.9 | 4.6 | 199.5 | |
| 7 | | 溶結凝灰岩 | (6.2) | (8.2) | (5.2) | 355.9 | |
| 8 | | 粗粒輝石安山岩 | (5.0) | (5.5) | 3.6 | 116 | |
| 9 | | 粗粒輝石安山岩 | (7.2) | (12.5) | (4.0) | 502.8 | |
| 10 | | 溶結凝灰岩 | (6.5) | (8.4) | (4.7) | 308.9 | |
| 11 | | 雲母石英片岩 | (7.9) | (14.8) | (3.2) | 566.5 | |
| 12 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.3 | 13.2 | (2.2) | 261.3 | |
| 13 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.1 | 7.7 | 2.8 | 143.6 | 被熱 |
| 14 | 粗粒輝石安山岩 | 5.2 | 6.4 | 2.4 | 119.1 | | |
| 15 | 粗粒輝石安山岩 | 6.0 | 5.9 | 2.4 | 154.9 | | |
| 16 | 粗粒輝石安山岩 | 5.3 | 9.2 | 3.5 | 242.7 | | |
| 17 | 粗粒輝石安山岩 | 4.6 | 5.5 | 2.5 | 98.1 | | |
| 18 | 粗粒輝石安山岩 | 4.0 | 5.5 | 1.7 | 47 | | |
| 19 | 粗粒輝石安山岩 | 5.4 | 5.9 | 3.2 | 132.6 | | |
| 20 | 扁平 板状 礫 | 粗粒輝石安山岩 | 7.8 | 7.7 | 3.7 | 362.3 | |
| 21 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.7 | 10.4 | 3.9 | 381.6 | |
| 22 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.5 | 8.0 | 3.1 | 325 | |
| 23 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.6 | 9.4 | 3.4 | 521.8 | |
| 24 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.1 | 10.4 | 4.2 | 441.8 | |
| 25 | | 粗粒輝石安山岩 | 10.5 | 14.1 | 8.2 | 1891.6 | 被熱 |
| 26 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.9 | 6.7 | 3.1 | 180.3 | |
| 27 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.2 | 7.8 | 3.3 | 186.1 | |
| 28 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.5 | 10.2 | 4.3 | 450.4 | |
| 29 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.0 | 5.6 | 2.7 | 132.2 | |
| 30 | 粗粒輝石安山岩 | 11.5 | 14.4 | 6.8 | 1587.4 | | |
| 31 | 扁平 板状 礫 | 粗粒輝石安山岩 | (4.7) | 6.7 | 2.3 | 119.2 | |
| 32 | | 粗粒輝石安山岩 | (4.6) | (7.2) | (2.9) | 119.3 | |
| 33 | | 粗粒輝石安山岩 | (6.3) | 10.2 | 2.9 | 305.2 | |
| 34 | | 粗粒輝石安山岩 | 3.8 | (6.9) | 2.8 | 116.8 | |
| 35 | | 粗粒輝石安山岩 | (4.6) | (6.7) | (3.2) | 122 | |
| 36 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.6 | 6.5 | (0.9) | 68.5 | 被熱 |
| 37 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.3 | 12.2 | 4.3 | 458.1 | |
| 38 | | 石英閃緑岩 | 6.9 | 13.8 | 3.9 | 497.1 | |
| 39 | | 閃緑岩 | 5.6 | 10.4 | 3.7 | 309.4 | |
| 40 | | 粗粒輝石安山岩 | 3.8 | 4.5 | 2.1 | 47.2 | |
| 41 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.0 | 5.6 | 2.1 | 51.6 | |
| 42 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.0 | 4.5 | 1.9 | 56.8 | |
| 43 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.5 | 6.3 | 1.8 | 70 | |
| 44 | 粗粒輝石安山岩 | 4.8 | 5.5 | 2.4 | 88.4 | | |
| 45 | 粗粒輝石安山岩 | 4.4 | 5.6 | 1.7 | 89.2 | | |
| 46 | 粗粒輝石安山岩 | 5.1 | 7.9 | 2.8 | 148.6 | | |
| 47 | 扁平 楕円 礫 | 粗粒輝石安山岩 | 6.4 | 7.5 | 2.9 | 198.5 | |
| 48 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.0 | 9.4 | 2.7 | 200.2 | |
| 49 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.4 | 6.5 | 3.2 | 204.7 | 被熱 |
| 50 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.1 | 7.1 | 3.2 | 231.9 | |
| 51 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.6 | 9.7 | 2.2 | 243.6 | |
| 52 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.0 | 6.9 | 2.4 | 119.1 | |
| 53 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.9 | 6.0 | 2.3 | 156 | |
| 54 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.0 | 9.3 | 3.0 | 198.7 | |
| 55 | | デイサイト | 5.9 | 9.5 | 3.1 | 207.2 | |
| 56 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.2 | 10.6 | 3.0 | 222.3 | |
| 57 | 粗粒輝石安山岩 | 8.3 | 11.4 | 3.7 | 465 | | |
| 58 | 粗粒輝石安山岩 | 8.4 | 10.8 | 3.8 | 613.3 | | |
| 59 | 溶結凝灰岩 | 8.3 | 12.4 | 2.9 | 459.6 | | |
| 60 | 粗粒輝石安山岩 | 8.4 | 14.8 | 4.4 | 831 | | |

第3章 発掘調査の記録

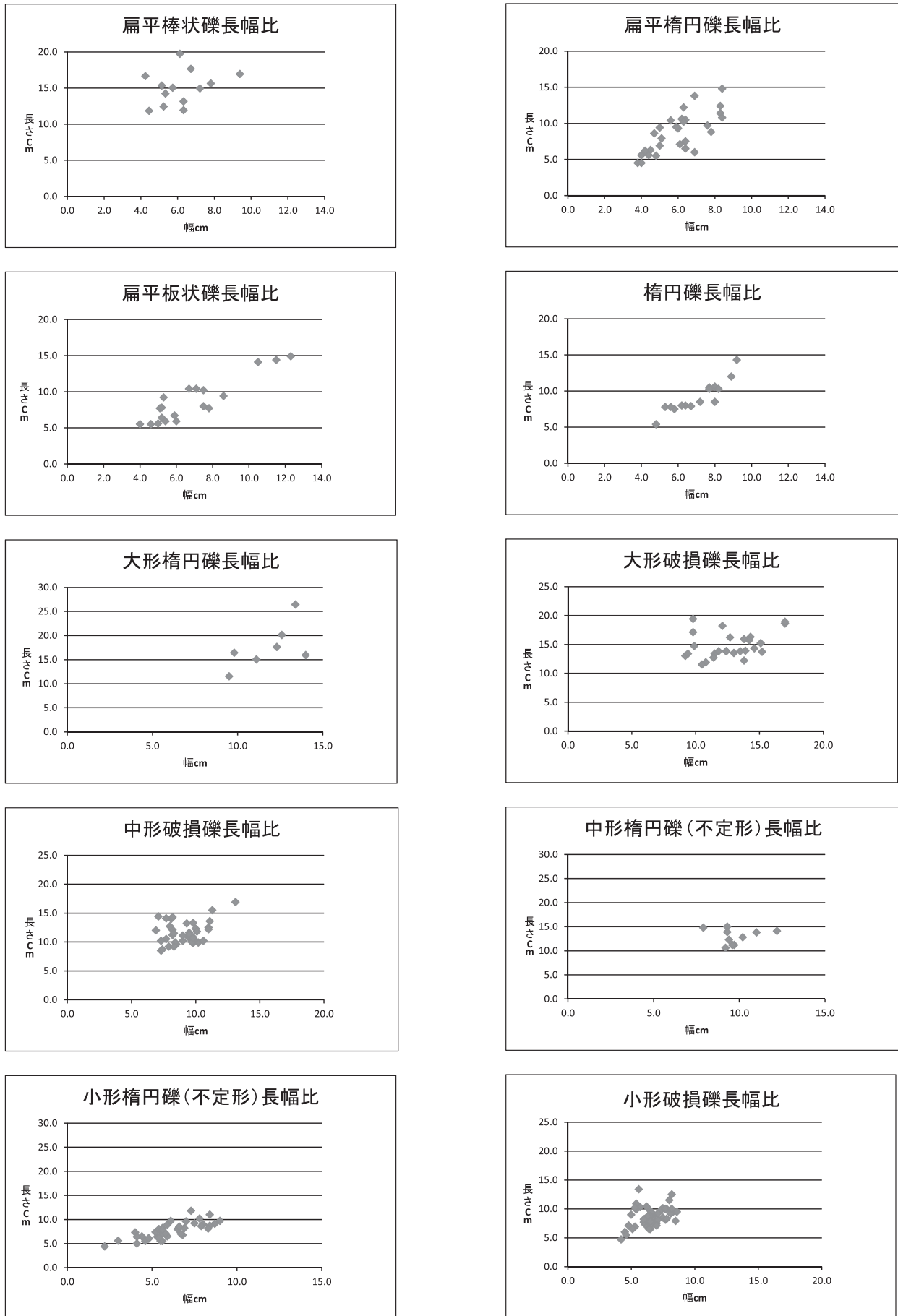
| 通番 | 礫形状 | 石材 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ (g) | 備考 |
|-----|------------|---------|--------|--------|--------|--------|----|
| 61 | 扁平楕円礫 | 粗粒輝石安山岩 | 6.4 | 10.5 | 2.5 | 279 | |
| 62 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.3 | 10.2 | 3.5 | 292.1 | |
| 63 | | 黒色頁岩 | 4.7 | 8.6 | 2.5 | 129.8 | |
| 64 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.1 | (5.1) | 3.1 | 134.6 | |
| 65 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.8 | (6.9) | 3.2 | 185.4 | 被熱 |
| 66 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.4 | (8.3) | 3.3 | 247.7 | 被熱 |
| 67 | | 粗粒輝石安山岩 | (6.1) | (9.8) | 3.6 | 179.5 | 被熱 |
| 68 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.8 | 6.8 | (3.2) | 204.3 | |
| 69 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.2 | 8.9 | (1.7) | 154.5 | |
| 70 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.1 | (6.4) | 2.6 | 156.4 | 被熱 |
| 71 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.7 | (10.3) | 4.0 | 459.7 | 被熱 |
| 72 | | 粗粒輝石安山岩 | (8.1) | (11.5) | 3.2 | 424.5 | |
| 73 | | 粗粒輝石安山岩 | (8.1) | (11.2) | 3.3 | 416.1 | |
| 74 | | 粗粒輝石安山岩 | (6.6) | (8.6) | (3.3) | 221.3 | |
| 75 | 輝緑岩 | (7.1) | (11.7) | (3.8) | 361.1 | | |
| 76 | 円形 | 粗粒輝石安山岩 | 9.2 | 11.6 | 3.3 | 592.1 | |
| 77 | | 石英閃緑岩 | 10.5 | 12.5 | 3.5 | 606 | |
| 78 | 楕円礫 | 粗粒輝石安山岩 | 6.4 | 8.0 | 4.4 | 363.7 | |
| 79 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.7 | 7.9 | 6.5 | 512.2 | |
| 80 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.7 | 10.5 | 6.3 | 545.4 | |
| 81 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.2 | 10.3 | 6.5 | 776.1 | |
| 82 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.2 | 8.5 | 4.7 | 451.8 | |
| 83 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.2 | 8.0 | 5.6 | 392.4 | |
| 84 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.0 | 8.5 | 5.7 | 503.2 | 被熱 |
| 85 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.2 | 14.3 | 5.4 | 1033.3 | 被熱 |
| 86 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.8 | 7.5 | 3.4 | 205.3 | |
| 87 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.3 | 7.8 | 3.3 | 183.7 | |
| 88 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.6 | 7.8 | 4.3 | 223.1 | |
| 89 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.7 | 10.3 | 4.7 | 483.9 | |
| 90 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.8 | 5.4 | 3.7 | 134.7 | |
| 91 | | 砂岩 | (3.7) | (4.5) | (0.9) | 18.2 | |
| 92 | 大形楕円礫 | 粗粒輝石安山岩 | 12.6 | 20.1 | 8.6 | 3166.4 | |
| 93 | | 粗粒輝石安山岩 | 14.0 | 15.9 | 8.8 | 2512.3 | 被熱 |
| 94 | | 石英閃緑岩 | 12.3 | 17.6 | 6.1 | 1920.7 | |
| 95 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.5 | 11.5 | 8.0 | 1142.6 | |
| 96 | | 溶結凝灰岩 | 9.8 | 16.4 | 10.5 | 2218.6 | |
| 97 | | 溶結凝灰岩 | 11.1 | 15.0 | 10.8 | 3413.4 | 被熱 |
| 98 | | 粗粒輝石安山岩 | (17.0) | (13.9) | (8.8) | 3295.5 | |
| 99 | | 粗粒輝石安山岩 | (10.3) | (11.6) | (7.5) | 911 | |
| 100 | | 粗粒輝石安山岩 | 13.9 | (11.6) | (8.6) | 1803.6 | |
| 101 | | 粗粒輝石安山岩 | (12.8) | 19.9 | (10.8) | 3279.8 | 被熱 |
| 102 | | 粗粒輝石安山岩 | (12.6) | (12.9) | (12.0) | 3113 | 被熱 |
| 103 | | 粗粒輝石安山岩 | (15.9) | (12.5) | (14.2) | 4255.7 | 被熱 |
| 104 | | 粗粒輝石安山岩 | (9.5) | (14.5) | (6.0) | 1018.9 | 被熱 |
| 105 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.3 | 15.0 | 5.3 | 1109.5 | 被熱 |
| 106 | 粗粒輝石安山岩 | 9.3 | 13.9 | 8.4 | 1577.6 | 被熱 | |
| 107 | 粗粒輝石安山岩 | 9.2 | 10.6 | 5.8 | 727.5 | 被熱 | |
| 108 | 粗粒輝石安山岩 | 9.7 | 11.2 | 7.0 | 914.9 | | |
| 109 | 粗粒輝石安山岩 | 10.2 | 12.8 | 5.8 | 916.5 | 被熱 | |
| 110 | 粗粒輝石安山岩 | 11.0 | 13.8 | 8.4 | 1642.9 | 被熱 | |
| 111 | 粗粒輝石安山岩 | 9.6 | 11.2 | 7.8 | 1177.6 | | |
| 112 | 粗粒輝石安山岩 | 7.9 | 14.8 | (5.7) | 996.1 | | |
| 113 | 粗粒輝石安山岩 | 8.3 | (12.3) | 6.9 | 939.7 | 被熱 | |
| 114 | 粗粒輝石安山岩 | 6.0 | 12.4 | (5.0) | 514.4 | | |
| 115 | 粗粒輝石安山岩 | (10.5) | (7.8) | 6.2 | 480.9 | | |
| 116 | 粗粒輝石安山岩 | (11.8) | (7.1) | (6.4) | 690 | 被熱 | |
| 117 | 小形楕円礫(不定形) | 粗粒輝石安山岩 | 4.1 | 5.0 | 2.6 | 73.5 | |
| 118 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.4 | 6.5 | 3.3 | 125.1 | |
| 119 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.8 | 6.0 | 2.8 | 100.1 | |
| 120 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.6 | 5.5 | 3.3 | 104.4 | 被熱 |
| 121 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.6 | 5.5 | 3.2 | 137.2 | |
| 122 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.5 | 5.5 | 3.5 | 151.2 | |
| 123 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.3 | 6.4 | 3.0 | 122.9 | |
| 124 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.6 | 7.0 | 3.0 | 171.4 | |
| 125 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.8 | 6.1 | 4.4 | 147.1 | |
| 126 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.2 | 7.4 | 4.0 | 203.1 | 被熱 |
| 127 | 粗粒輝石安山岩 | 5.6 | 8.2 | 4.0 | 241.4 | | |

| 通番 | 礫形状 | 石材 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ (g) | 備考 |
|-----|------------|---------|-------|-------|--------|--------|----|
| 128 | 小形楕円礫(不定形) | 粗粒輝石安山岩 | 5.9 | 6.5 | 4.6 | 205.2 | |
| 129 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.4 | 8.0 | 4.6 | 182.2 | |
| 130 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.8 | 7.1 | 4.5 | 195.7 | |
| 131 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.8 | 6.8 | 4.6 | 264.7 | |
| 132 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.5 | 8.0 | 5.0 | 287.2 | 被熱 |
| 133 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.9 | 8.2 | 4.8 | 342.9 | |
| 134 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.5 | 9.2 | 5.2 | 466.1 | |
| 135 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.0 | 9.0 | 5.2 | 484.4 | |
| 136 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.7 | 9.1 | 4.7 | 469.7 | |
| 137 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.9 | 8.6 | 5.7 | 512.9 | |
| 138 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.4 | 8.7 | 4.5 | 450.9 | |
| 139 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.3 | 11.8 | 5.6 | 674.8 | |
| 140 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.4 | 11.0 | 5.8 | 655.3 | |
| 141 | | 粗粒輝石安山岩 | 3.0 | 5.6 | 2.3 | 41.7 | |
| 142 | 粗粒輝石安山岩 | 2.2 | 4.4 | 1.6 | 22.9 | | |
| 143 | 粗粒輝石安山岩 | 4.0 | 7.3 | 2.7 | 108 | | |
| 144 | 粗粒輝石安山岩 | 5.4 | 6.2 | 2.8 | 104.6 | | |
| 145 | 粗粒輝石安山岩 | 4.1 | 6.4 | 2.6 | 88.1 | | |
| 146 | 粗粒輝石安山岩 | 5.9 | 8.9 | 4.9 | 315.6 | | |
| 147 | 粗粒輝石安山岩 | 5.6 | 7.9 | 5.0 | 238.9 | 被熱 | |
| 148 | 粗粒輝石安山岩 | 7.8 | 10.2 | 5.1 | 596.4 | | |
| 149 | 粗粒輝石安山岩 | 6.1 | 9.7 | 5.0 | 351.5 | | |
| 150 | 粗粒輝石安山岩 | (5.7) | (8.6) | (5.1) | 239 | 被熱 | |
| 151 | 粗粒輝石安山岩 | (4.8) | (8.8) | 3.6 | 232.5 | | |
| 152 | 粗粒輝石安山岩 | 7.9 | (8.2) | 6.3 | 575.8 | | |
| 153 | 粗粒輝石安山岩 | 4.4 | (7.0) | 3.6 | 119.9 | | |
| 154 | 粗粒輝石安山岩 | (6.7) | (4.5) | (2.6) | 86.4 | | |
| 155 | 粗粒輝石安山岩 | (4.4) | (5.3) | 1.5 | 51.5 | | |
| 156 | 粗粒輝石安山岩 | (5.2) | (7.0) | (2.9) | 120.5 | | |
| 157 | 粗粒輝石安山岩 | (4.8) | (5.6) | (5.1) | 151.7 | | |
| 158 | 粗粒輝石安山岩 | 6.1 | (4.5) | 3.9 | 123.4 | | |
| 159 | 粗粒輝石安山岩 | (6.0) | (8.6) | (2.2) | 113.9 | | |
| 160 | 粗粒輝石安山岩 | 5.2 | (7.7) | 3.6 | 143.4 | | |
| 161 | 粗粒輝石安山岩 | (5.6) | (7.0) | 4.1 | 230.3 | | |
| 162 | 粗粒輝石安山岩 | (5.0) | (5.3) | 3.9 | 118.3 | | |
| 163 | 粗粒輝石安山岩 | 5.6 | (5.6) | 3.8 | 199.7 | | |
| 164 | 粗粒輝石安山岩 | (4.1) | (5.9) | 4.7 | 141.8 | 被熱 | |
| 165 | 粗粒輝石安山岩 | (7.1) | (6.5) | (4.8) | 233.9 | | |
| 166 | 粗粒輝石安山岩 | (6.0) | (9.1) | (4.7) | 271.1 | | |
| 167 | 粗粒輝石安山岩 | 7.8 | (7.3) | 5.0 | 345.2 | | |
| 168 | 粗粒輝石安山岩 | (6.1) | (8.0) | (3.8) | 206.9 | 被熱 | |
| 169 | 粗粒輝石安山岩 | (6.1) | (9.7) | 5.0 | 335.7 | 被熱 | |
| 170 | 粗粒輝石安山岩 | (6.6) | (9.1) | (5.7) | 310.1 | | |
| 171 | 粗粒輝石安山岩 | 8.1 | (8.1) | 7.0 | 603.8 | | |
| 172 | 粗粒輝石安山岩 | 5.9 | 7.1 | (4.4) | 177.3 | | |
| 173 | 粗粒輝石安山岩 | (6.7) | 9.0 | 3.6 | 255.7 | | |
| 174 | 大形破損礫 | 粗粒輝石安山岩 | 11.5 | 13.4 | 10.2 | 1764.1 | |
| 175 | | 粗粒輝石安山岩 | 14.3 | 16.3 | 8.9 | 1866.1 | |
| 176 | | 粗粒輝石安山岩 | 12.1 | 18.2 | 7.8 | 1649.5 | 被熱 |
| 177 | | 粗粒輝石安山岩 | 14.2 | 15.7 | 8.0 | 2691.2 | |
| 178 | | 粗粒輝石安山岩 | 14.6 | 14.3 | 8.2 | 1981.3 | |
| 179 | | 粗粒輝石安山岩 | 13.0 | 13.5 | 5.6 | 1026.3 | 被熱 |
| 180 | | 粗粒輝石安山岩 | 13.5 | 13.8 | 9.7 | 2229.8 | |
| 181 | | 粗粒輝石安山岩 | 13.9 | 13.9 | 11.4 | 2536.8 | |
| 182 | | 粗粒輝石安山岩 | 13.8 | 12.2 | 9.6 | 1883.7 | |
| 183 | | 粗粒輝石安山岩 | 15.1 | 15.2 | 6.3 | 1694.5 | |
| 184 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.2 | 13.0 | 9.0 | 1282.1 | |
| 185 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.4 | 13.4 | 6.7 | 1230.8 | |
| 186 | | 粗粒輝石安山岩 | 10.8 | 11.9 | 9.1 | 1718.4 | |
| 187 | | 粗粒輝石安山岩 | 15.2 | 13.7 | 11.1 | 3161.4 | 被熱 |
| 188 | 粗粒輝石安山岩 | 9.8 | 19.4 | 8.7 | 1504.3 | 被熱 | |
| 189 | 粗粒輝石安山岩 | 17.0 | 18.6 | 9.8 | 3920.7 | 被熱 | |
| 190 | 粗粒輝石安山岩 | 17.0 | 18.9 | 15.9 | 3235.1 | 被熱 | |
| 191 | 粗粒輝石安山岩 | 12.7 | 16.2 | 5.9 | 1115.5 | 被熱 | |
| 192 | 粗粒輝石安山岩 | 10.5 | 11.5 | 7.0 | 1243.5 | 被熱 | |
| 193 | 粗粒輝石安山岩 | 11.8 | 13.8 | 7.4 | 1010.2 | | |
| 194 | 粗粒輝石安山岩 | 11.4 | 12.7 | 9.4 | 1560.5 | 被熱 | |
| 195 | 粗粒輝石安山岩 | 9.9 | 14.7 | 6.4 | 869.4 | | |

第2節 2区の遺構と遺物

| 通番 | 礫形状 | 石材 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ (g) | 備考 | |
|-----|---------|---------|---------|------|------|--------|-------|--|
| 196 | 大形破損礫 | 粗粒輝石安山岩 | 12.4 | 13.8 | 8.1 | 1590.9 | 被熱 | |
| 197 | | 粗粒輝石安山岩 | 13.8 | 15.9 | 11.0 | 2634.5 | 被熱 | |
| 198 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.8 | 17.1 | 5.2 | 1582.8 | | |
| 199 | | 粗粒輝石安山岩 | 12.4 | 13.8 | 3.7 | 1198.1 | | |
| 200 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.8 | 13.3 | 6.3 | 846.2 | | |
| 201 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.8 | 9.8 | 6.1 | 578.6 | | |
| 202 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.7 | 10.5 | 6.8 | 510.1 | | |
| 203 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.8 | 10.8 | 8.2 | 976.5 | | |
| 204 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.5 | 9.6 | 5.2 | 442.1 | | |
| 205 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.1 | 14.0 | 4.6 | 617.3 | | |
| 206 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.1 | 14.4 | 5.8 | 557.7 | | |
| 207 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.0 | 10.2 | 5.1 | 688.8 | | |
| 208 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.9 | 9.2 | 5.3 | 441 | | |
| 209 | | 粗粒輝石安山岩 | 10.2 | 9.9 | 5.3 | 453.6 | | |
| 210 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.3 | 13.2 | 7.2 | 840.6 | | |
| 211 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.5 | 10.7 | 9.6 | 872.5 | | |
| 212 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.2 | 12.1 | 6.1 | 800.3 | | |
| 213 | | 粗粒輝石安山岩 | 11.0 | 12.5 | 6.9 | 875.1 | | |
| 214 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.9 | 10.4 | 6.6 | 809.1 | | |
| 215 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.5 | 11.6 | 5.7 | 673.4 | | |
| 216 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.7 | 10.0 | 6.2 | 662.3 | | |
| 217 | | 中形破損礫 | 粗粒輝石安山岩 | 10.0 | 12.3 | 6.8 | 779.8 | |
| 218 | | | 粗粒輝石安山岩 | 9.5 | 10.8 | 3.5 | 323.3 | |
| 219 | 粗粒輝石安山岩 | | 9.5 | 11.3 | 6.8 | 929.1 | 被熱 | |
| 220 | 粗粒輝石安山岩 | | 9.8 | 10.7 | 5.3 | 750.4 | | |
| 221 | 粗粒輝石安山岩 | | 8.4 | 9.9 | 7.8 | 732.2 | | |
| 222 | 粗粒輝石安山岩 | | 10.1 | 11.8 | 7.2 | 968.4 | | |
| 223 | 粗粒輝石安山岩 | | 8.2 | 11.2 | 6.8 | 678.4 | | |
| 224 | 粗粒輝石安山岩 | | 11.3 | 15.5 | 3.2 | 666.6 | | |
| 225 | 粗粒輝石安山岩 | | 7.3 | 10.2 | 7.5 | 812 | 被熱 | |
| 226 | 粗粒輝石安山岩 | | 13.1 | 16.9 | 3.6 | 539.1 | 被熱 | |
| 227 | 粗粒輝石安山岩 | | 7.7 | 14.1 | 5.4 | 467.7 | 被熱 | |
| 228 | 粗粒輝石安山岩 | | 11.0 | 12.2 | 4.9 | 1039.7 | 被熱 | |
| 229 | 粗粒輝石安山岩 | | 8.3 | 11.5 | 7.0 | 694.6 | | |
| 230 | 粗粒輝石安山岩 | | 9.0 | 11.1 | 6.9 | 641.8 | 被熱 | |
| 231 | 粗粒輝石安山岩 | | 7.3 | 8.5 | 6.7 | 545.7 | | |
| 232 | 粗粒輝石安山岩 | | 8.0 | 12.7 | 5.0 | 606.4 | | |
| 233 | 粗粒輝石安山岩 | | 10.6 | 10.2 | 6.7 | 740.9 | | |
| 234 | 粗粒輝石安山岩 | | 8.2 | 14.3 | 5.8 | 985.7 | | |
| 235 | 粗粒輝石安山岩 | | 6.9 | 12.0 | 5.5 | 569.1 | | |
| 236 | 粗粒輝石安山岩 | | 11.1 | 13.6 | 4.5 | 935.5 | | |
| 237 | 粗粒輝石安山岩 | | 8.3 | 9.2 | 6.6 | 541.2 | 被熱 | |
| 238 | 粗粒輝石安山岩 | | 7.4 | 8.7 | 6.4 | 308.4 | | |
| 239 | 小形破損礫 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.0 | 9.0 | 4.2 | 108.6 | |
| 240 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.5 | 6.0 | 3.6 | 108.5 | | |
| 241 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.6 | 5.5 | 3.1 | 107.8 | | |
| 242 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.7 | 8.8 | 3.6 | 152.4 | | |
| 243 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.1 | 7.6 | 1.1 | 93.7 | | |
| 244 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.7 | 8.1 | 3.8 | 176.2 | 被熱 | |
| 245 | | 粗粒輝石安山岩 | 4.8 | 7.1 | 3.0 | 144.9 | | |
| 246 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.1 | 7.3 | 4.3 | 241.7 | | |
| 247 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.5 | 6.5 | 3.7 | 179.4 | | |
| 248 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.3 | 8.0 | 3.4 | 178.5 | | |
| 249 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.1 | 8.3 | 4.6 | 256.4 | | |
| 250 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.7 | 8.7 | 3.4 | 228.8 | | |
| 251 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.5 | 8.1 | 3.8 | 331.2 | | |
| 252 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.0 | 7.7 | 5.1 | 281.7 | | |
| 253 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.4 | 9.9 | 2.8 | 200.4 | | |
| 254 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.2 | 8.3 | 3.5 | 218 | 被熱 | |
| 255 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.7 | 10.3 | 3.6 | 229.7 | | |
| 256 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.6 | 9.4 | 2.5 | 198.5 | | |
| 257 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.1 | 9.8 | 2.0 | 242.9 | | |
| 258 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.5 | 7.5 | 5.7 | 345.9 | 被熱 | |
| 259 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.5 | 7.9 | 3.6 | 190.5 | | |
| 260 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.0 | 7.5 | 4.8 | 314.6 | 被熱 | |
| 261 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.7 | 8.1 | 3.4 | 334.4 | | |
| 262 | 粗粒輝石安山岩 | 6.5 | 8.7 | 6.2 | 436 | | | |

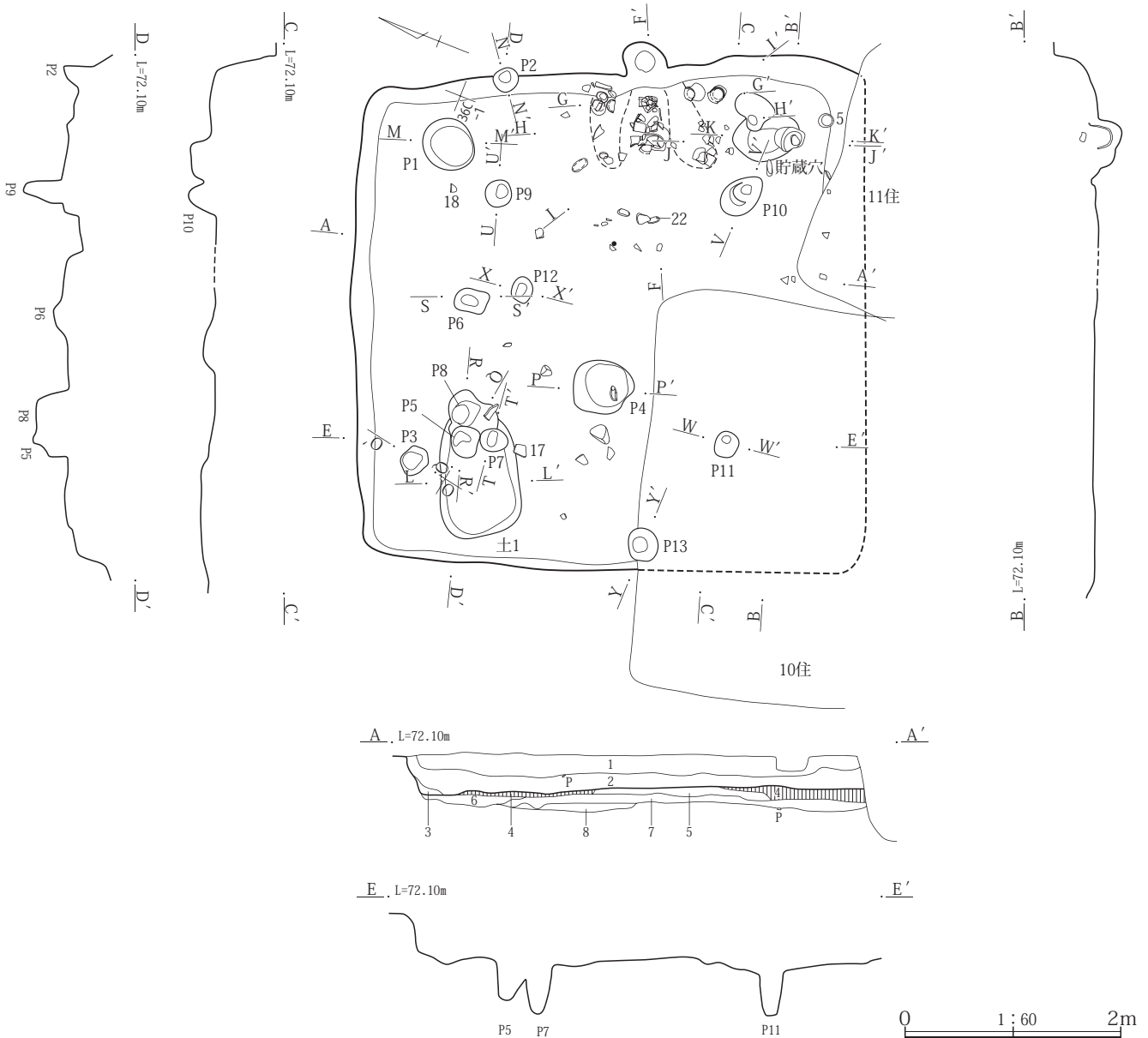
| 通番 | 礫形状 | 石材 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ (g) | 備考 |
|-----|---------|---------|------|------|-------|--------|----|
| 263 | 小形破損礫 | 粗粒輝石安山岩 | 7.8 | 10.0 | 3.3 | 311 | 被熱 |
| 264 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.3 | 9.5 | 3.5 | 378 | |
| 265 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.5 | 8.5 | 3.7 | 300.8 | |
| 266 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.5 | 10.1 | 6.4 | 340.2 | |
| 267 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.3 | 8.7 | 4.7 | 343.3 | |
| 268 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.8 | 8.1 | 6.1 | 422.7 | |
| 269 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.3 | 9.7 | 6.5 | 378.2 | |
| 270 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.6 | 13.4 | 5.6 | 409.8 | |
| 271 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.8 | 8.3 | 6.0 | 354.8 | 被熱 |
| 272 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.7 | 10.0 | 4.9 | 341.2 | |
| 273 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.6 | 9.5 | 5.9 | 552.7 | |
| 274 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.2 | 10.4 | 6.2 | 467.8 | |
| 275 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.7 | 10.0 | 5.8 | 624.9 | |
| 276 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.0 | 11.5 | 5.9 | 573.3 | |
| 277 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.1 | 9.2 | 4.8 | 244.5 | |
| 278 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.4 | 10.9 | 4.1 | 253.8 | |
| 279 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.2 | 12.5 | 2.0 | 254.3 | 被熱 |
| 280 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.7 | 7.4 | 5.9 | 327.5 | |
| 281 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.5 | 7.8 | 2.6 | 187.6 | |
| 282 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.3 | 6.9 | 4.4 | 249.8 | |
| 283 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.0 | 8.2 | 4.0 | 348.3 | |
| 284 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.4 | 6.5 | 5.4 | 234.1 | |
| 285 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.4 | 9.9 | 2.3 | 124.5 | |
| 286 | 粗粒輝石安山岩 | 5.1 | 6.5 | 4.3 | 205.7 | | |
| 287 | 粗粒輝石安山岩 | 5.3 | 10.2 | 3.7 | 234.1 | | |
| 288 | 粗粒輝石安山岩 | 8.2 | 10.0 | 2.3 | 246.9 | | |
| 289 | 粗粒輝石安山岩 | 7.1 | 8.1 | 4.3 | 313.6 | | |
| 290 | 粗粒輝石安山岩 | 4.2 | 4.7 | 3.2 | 95.5 | | |
| 291 | 粗粒輝石安山岩 | 7.0 | 7.1 | 4.5 | 297.6 | 被熱 | |
| 292 | 粗粒輝石安山岩 | 7.1 | 9.2 | 6.5 | 400.1 | 被熱 | |
| 293 | 破損礫+鉄 | 粗粒輝石安山岩 | 19.7 | 26.8 | 16.2 | 6350 | |
| 294 | | 粗粒輝石安山岩 | 12.1 | 12.5 | 10.6 | 1449 | |
| 295 | | 粗粒輝石安山岩 | 10.3 | 14.8 | 8.7 | 608.2 | |
| 296 | | 粗粒輝石安山岩 | 14.1 | 22.3 | 9.6 | 1734.6 | |
| 297 | | 粗粒輝石安山岩 | 14.8 | 15.2 | 10.5 | 1302.5 | |
| 298 | | 粗粒輝石安山岩 | 9.1 | 18.2 | 5.8 | 856.6 | |
| 299 | | 粗粒輝石安山岩 | 7.7 | 13.6 | 7.4 | 701.5 | |
| 300 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.3 | 16.8 | 6.1 | 460.1 | |



第51図 2区8号住居廃棄礫(完形品)長幅比グラフ

9号住居(第52～58図、P L.13・14・174・175、第12表)
位置 26B・C-20、36B・C-1グリッド。10・11号住居と重複している。10・11号住居より古い。
形状 わずかに東西に長いがほぼ正方形を呈する。
主軸方位 N-64°-E
規模 面積18.00㎡。長軸4.84m、短軸4.50m 残存壁高9cm～35cmを測る。

床面 硬化が弱いところもあるが、貼床が2～13cmの厚さで全面に施される。
カマド 東壁中央のやや南に設置される。調査上の問題で、焚口や袖部の位置が推定となっている。燃烧部の大半は住居内に設置されている。天井部の構築には土器が用いられている。支脚として用いられた礫が燃烧部のほぼ中央に直立して残存する。規模は不明だが、天井部の



9号住居

- | | |
|--|--|
| <p>1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子多量、白色軽石・焼土粒子を含む、</p> <p>2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子・白色軽石・炭化物粒子を含む。</p> <p>3 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄白色土ブロックを多量に含む。</p> <p>4 暗褐色土 貼床。軟らかくしまりよい。粘性非常にあり。黄白色土ブロックを多量に含む。</p> | <p>5 暗褐色土 貼床。やや硬くしまる。黄褐色土ブロック・白色粘質土を含む。</p> <p>6 黄褐色土 やや硬くしまる。暗褐色土を含む。</p> <p>7 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。</p> <p>8 黄褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。暗褐色土を含む。</p> |
|--|--|

第52図 2区9号住居

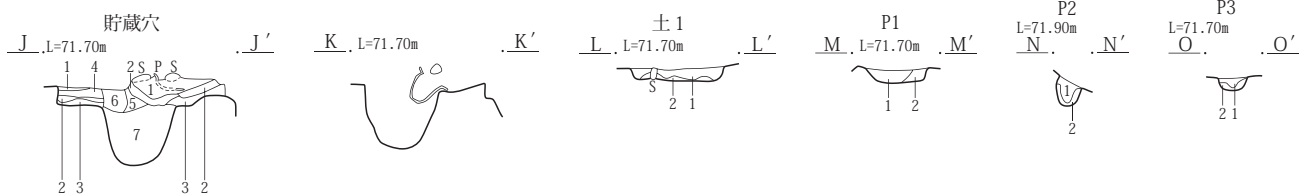
土器の出土状況から焚口幅は35cm程度と考えられる。

貯蔵穴 南東隅よりやや北に設置される。南北に長い楕円形である。甕が中に収まって出土している。長径63cm・短径41cm・深さ46cmである。

柱穴 13基検出されている。このうち、支柱穴と考えられるものはP7・P9・P10・P11である。なお、北西

角の支柱穴は、P7の他に近接するP5・P8も可能性があるが、他の支柱穴の位置からP7を支柱穴と考える。柱穴の規模(長径・短径・深さ・次の支柱穴との間隔cm)は次のとおりである。

P7: 27・22・46・240、P9: 26・26・36・237、P10: 46・30・58・243、P11: 24・21・41・236、P1:



貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。灰褐色土ブロックを含む。
- 3 灰褐色土 軟らかい。粘性あり。暗褐色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。焼土ブロック・炭化物粒子・灰褐色土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。焼土粒子を微量に含む。

住居内土坑1

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ロームブロックをやや多量に含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

P1

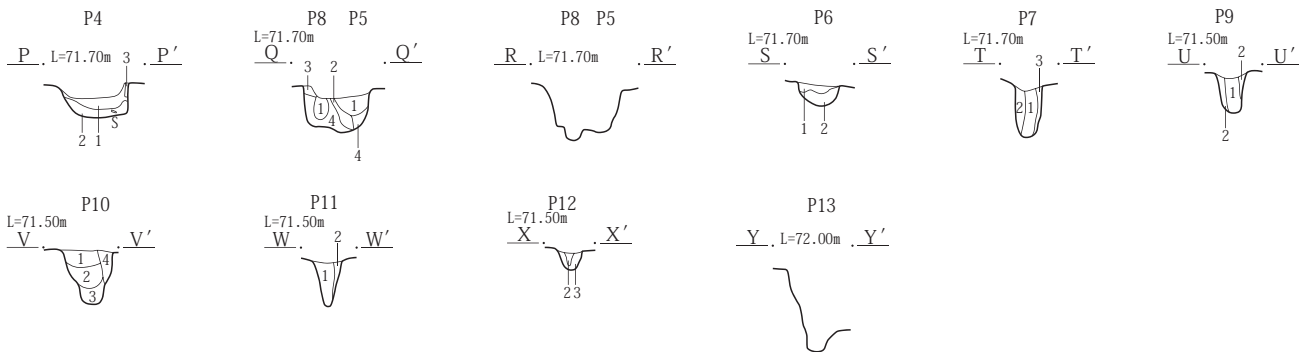
- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。暗褐色土と黄白色土の混土。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性非常にあり。黄白色土ブロックを含む。

P2

- 1 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。

P3

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。黄白色土ブロックを多量に含む。



P4

- 1 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

P5・8

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

P6

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。黄褐色土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。暗褐色土を少量含む。

P7・9

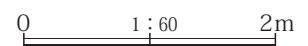
- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 ややしまる。黄褐色土ブロックを多量に含む。

P10・12

- 1 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。黄褐色土粒子・白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 しまる。粘性あり。褐色土ブロック・黄褐色土粒子を含む。

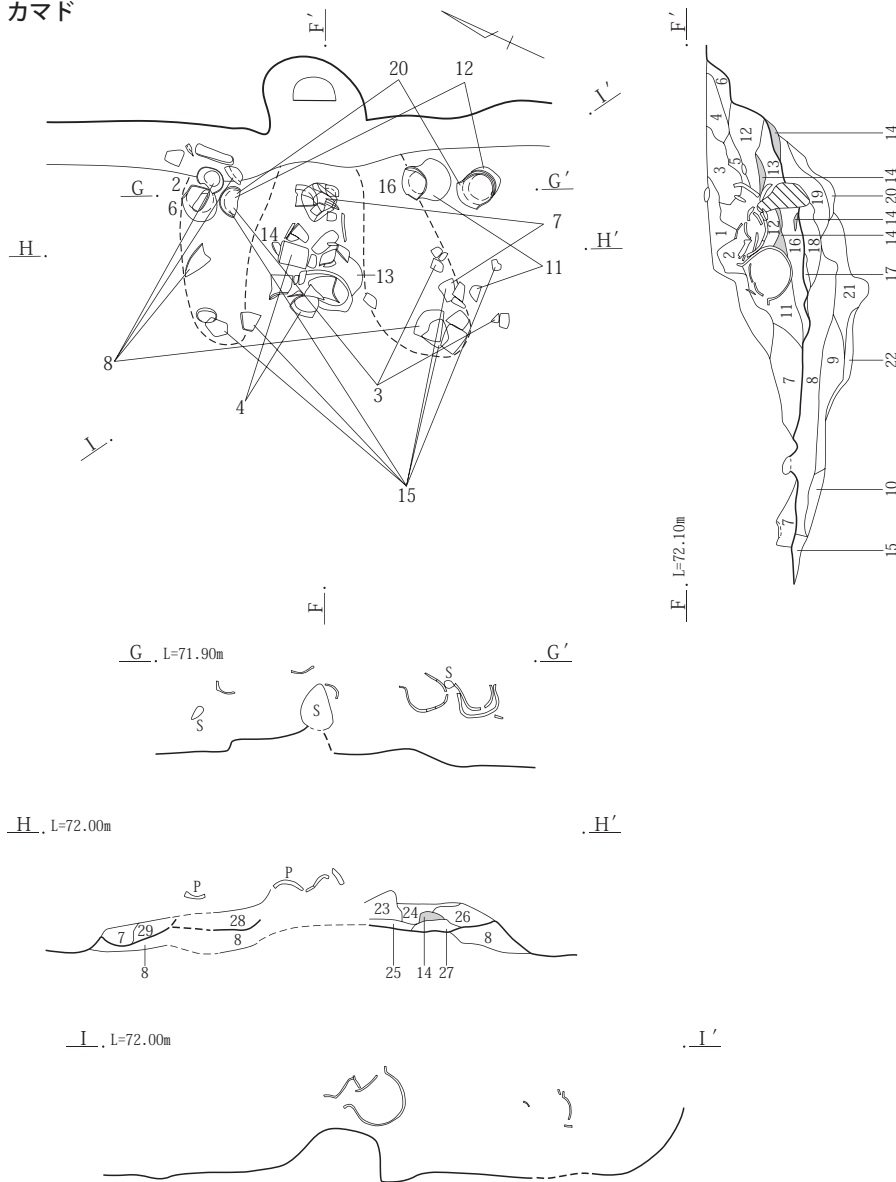
P11

- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ロームブロックを多量に含む。



第53図 2区9号住居断面図

カマド



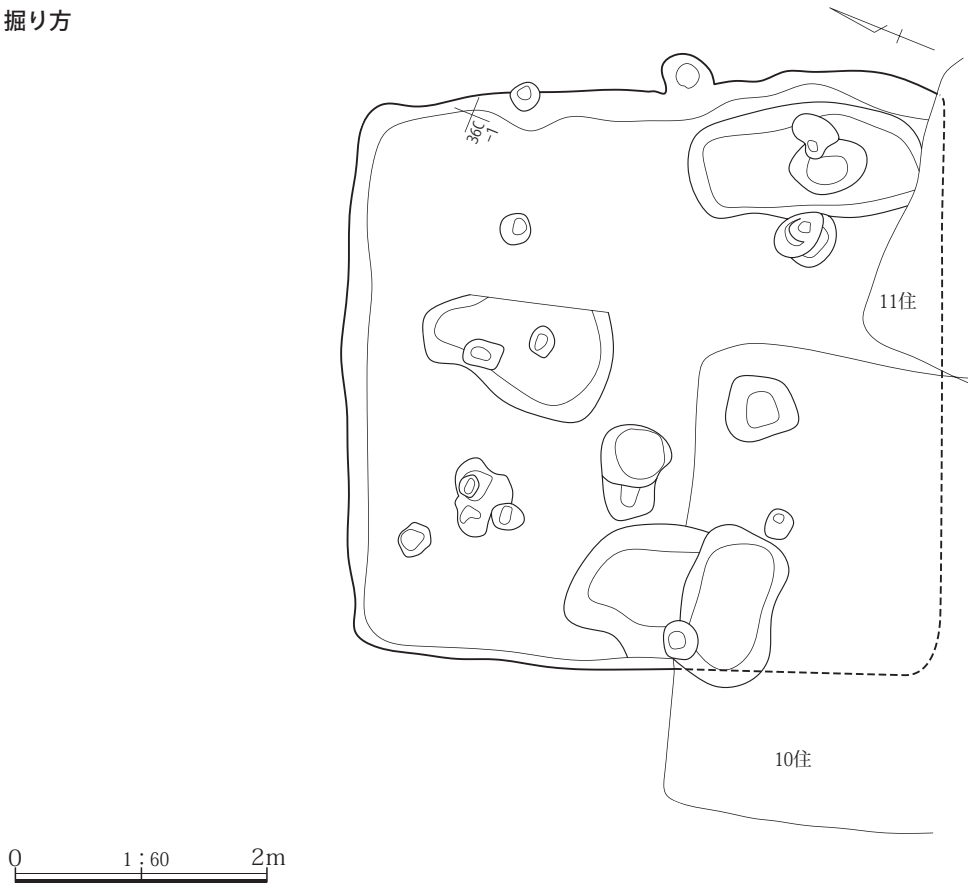
カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・黄白色土粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロック・焼土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロック・焼土粒子を含む。
- 5 灰褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・黄白色土ブロック・炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。焼土粒子・黄白色土粒子を含む。

- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロック・焼土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロック・焼土ブロックをやや多く含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土粒子を多量に含む。
- 11 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。焼土ブロックを多量に含む。
- 12 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロックを多量に含む。
- 13 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性あり。焼土粒子を含む。
- 14 焼土
- 15 暗褐色土 硬くしまる。白色粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 16 灰褐色土 軟らかい。焼土ブロック・灰を多量に含む。
- 17 暗紫色土 焼土ブロックと灰の混土層
- 18 灰褐色土 軟らかい。粘性あり。焼土ブロック・灰・黄白色土ブロックを含む。
- 19 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・黄褐色土粒子・黄白色土粒子を含む。
- 20 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性非常にあり。黄褐色土粒子を多量に含む。
- 21 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄褐色土ブロック・焼土ブロック・灰白色土ブロックを含む。
- 22 暗褐色土 やや硬くしまる。黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 23 灰褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック・灰色土ブロックを多量に含む。
- 24 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子・白色粒子を含む。
- 25 灰褐色土 軟らかくしまりよい。焼土粒子を含む。
- 26 灰褐色土 硬くしまる。焼土ブロック・炭化物・灰色土ブロックを含む。
- 27 灰褐色土 やや硬くしまる。灰色土ブロックを含む。
- 28 黄白色土 カマド構築材。軟らかくしまりよい。
- 29 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄褐色土粒子・白色粒子を含む。

第54図 2区9号住居カマド

掘り方



第 55 図 2 区 9 号住居掘り方

51・46・10、P 2 : 23・21・25、P 3 : 27・26・28、P 4 : 77・56・37、P 5 : 36・28・44、P 6 : 30・23・23、P 8 : 50・34・52、P 12 : 25・20・33、P 13 : 32・29・47
周溝 確認できなかった。

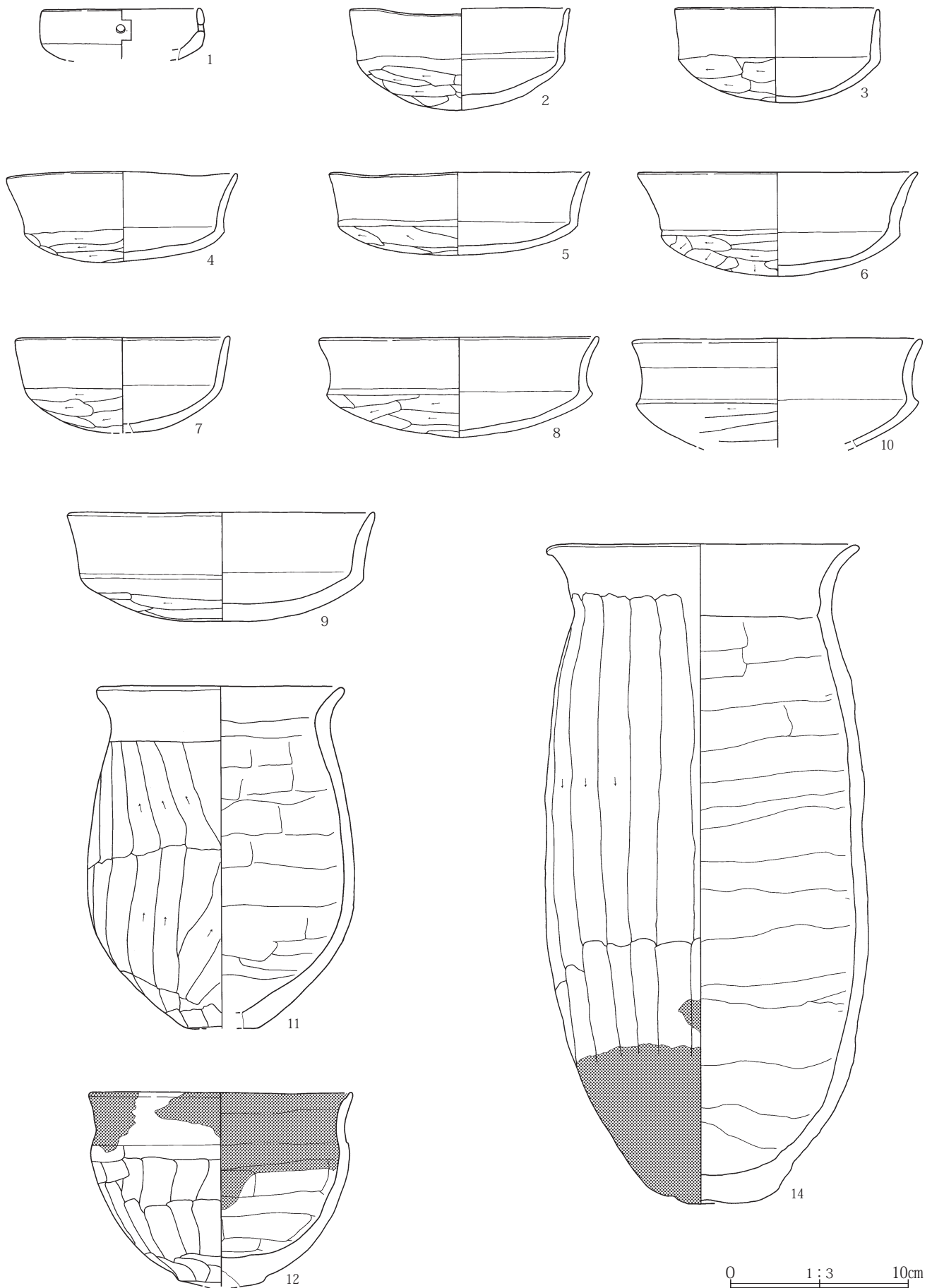
住居内土坑 1 北西隅に設置される。東西に長い不整な楕円形である。遺物の出土は少ない。長径116cm・短径76cm・深さ17cmである。

埋没土 自然埋没土と考えられる。

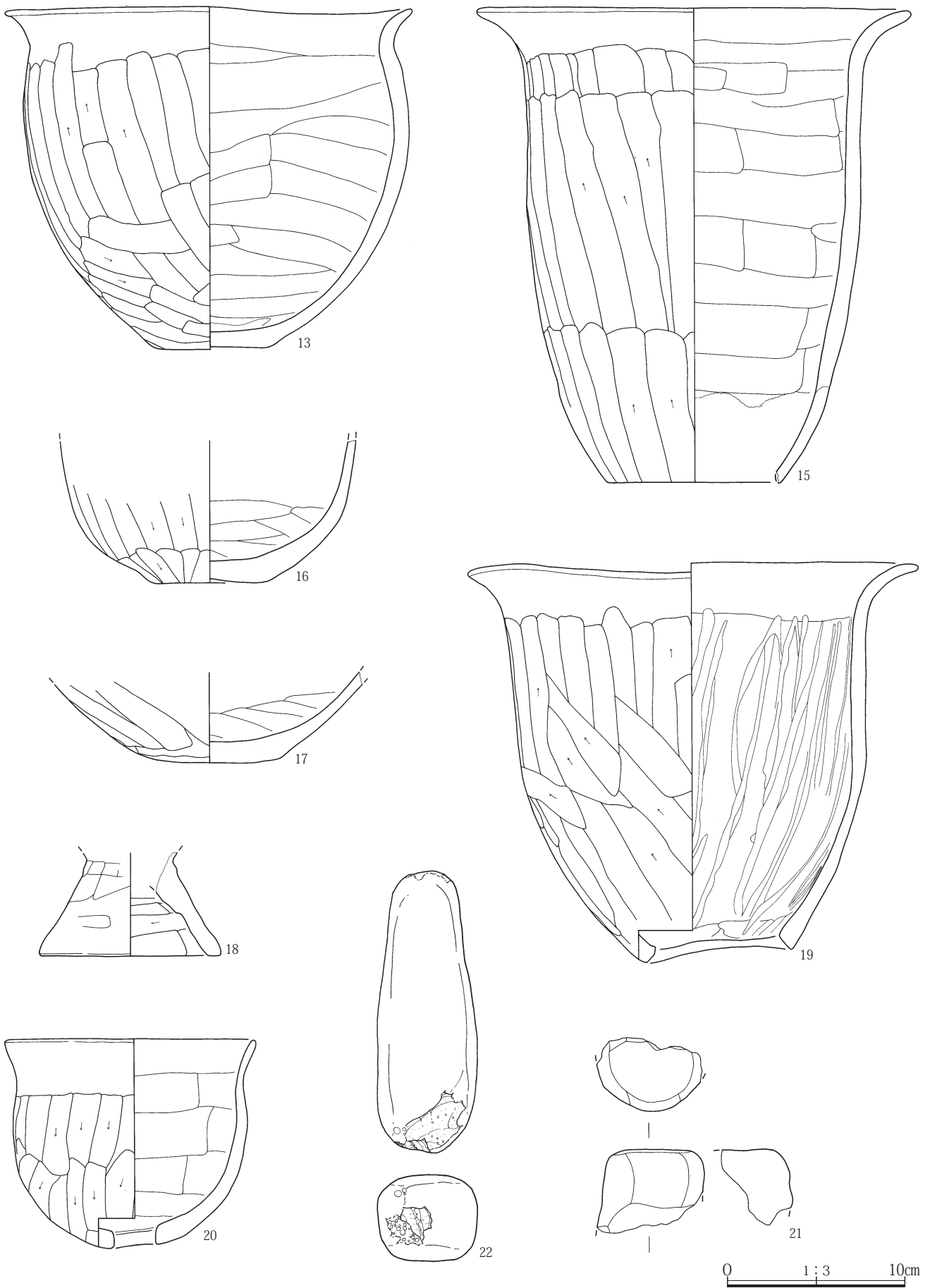
掘り方 全面掘り下げる。貯蔵穴付近のように土坑状に掘り下げられる箇所もあり、深いところで33cm。

遺物 出土量が多いが、大半はカマド及びその周辺である。菰編石7点はカマド前と中央部にやや集中している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。



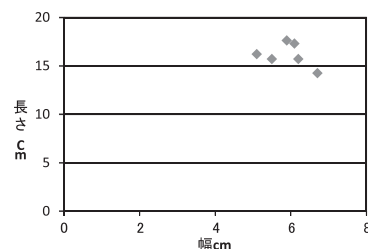
第56図 2区9号住居出土遺物(1)



第57図 2区9号住居出土遺物(2)

第12表 2区9号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|----------------|-----|------------|-------------------|--------|-------------|--------|--------------------|-------------------------|--|-------------------|
| | | | | 口 | 高さ | 底径 | | | | |
| 第56図 PL.174 | 1 | 土師器 杯 | 口縁部～体部片 | 口 | 8.6 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | 口縁部中位に 径0.4mmの透 孔あり。 | |
| 第56図 PL.174 | 2 | 土師器 杯 | カマド 口縁部 わずかに欠損 | 口 | 12.2 | 高 稜 | 5.1 5.3 11.6 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)上半はナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第56図 PL.174 | 3 | 土師器 杯 | カマド 4/5 | 口 | 11.3 | 高 稜 | 5.3 11.4 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第56図 PL.174 | 4 | 土師器 杯 | カマド ほぼ完形 | 口 | 12.7 | 高 稜 | 5.0 11.2 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第56図 PL.174 | 5 | 土師器 杯 | +6 ほぼ完形 | 口 | 14.3 | 高 稜 | 4.6 13.2 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第56図 PL.174 | 6 | 土師器 杯 | カマド 3/4 | 口 | 15.6 | 高 稜 | 5.7 13.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第56図 | 7 | 土師器 杯 | カマド 1/3 | 口 | 11.7 | 高 稜 | 5.2 11.1 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第56図 | 8 | 土師器 杯 | カマド 1/2 | 口 | 15.3 | 高 稜 | 5.5 14.8 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第56図 | 9 | 土師器 杯 | +13 1/3 | 口 | 16.8 | 高 稜 | 6.0 15.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第56図 | 10 | 土師器 | カマド 口縁部 ～底部片 | 口 | 15.8 | 稜 | 15.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第56図 | 11 | 土師器 小型甕 | カマド 2/3 | 口 底 | 13.5 4.0 | 高 胴 | 19.1 14.5 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第56図 PL.174 | 12 | 土師器 鉢 | カマド 底部の 一部欠損 | 口 底 | 14.5 4.8 | 高 胴 | 10.8 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | 内外面の口縁 部に煤が付着。 |
| 第57図 PL.174 | 13 | 土師器 甕 | カマド 口縁部 上半一部欠損 | 口 底 | 22.6 6.4 | 高 胴 | 19.2 | 細・粗砂粒・角閃 雲母/良好/浅黄橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | 内面底部にオ コゲが付着。 |
| 第56図 PL.174 | 14 | 土師器 甕 | カマド ほぼ完形 | 口 底 | 17.1 6.0 | 高 胴 | 36.8 17.8 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、器面磨滅で単位など不鮮明な部分が多い。内面胴部はヘラナデ。 | 胴部下位に煤 が付着。 |
| 第57図 PL.175 | 15 | 土師器 甕 | カマド 1/3 | 口 底 | 23.9 9.6 | 高 胴 | 26.4 | 細・粗砂粒・褐色 粒/良好/にぶい橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第57図 | 16 | 土師器 甕 | カマド 底部～胴部下位 | 底 | 6.2 | | | 細・粗砂粒・褐色 粒/良好/にぶい黄橙 | 底部・胴部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第57図 | 17 | 土師器 甕 | +29 底部～胴部下位 | 底 | 7.6 | | | 細・粗砂粒・褐色 粒/良好/にぶい橙 | 底部・胴部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第57図 | 18 | 土師器 台付甕 | +13 脚部片 | | | 脚 | 9.8 | 細砂粒/良好/赤褐 | 脚部は胴部に貼付。外面は器面磨滅のため整形不鮮明、内面はヘラ削り。 | |
| 第57図 PL.175 | 19 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 口縁部1/3欠損 | 口 底 | 24.8 8.2 | 高 胴 | 22.5 | 細・粗砂粒・白色 粒/良好/にぶい橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ後、やや雑な縦位のヘラ磨き。 | |
| 第57図 PL.174 | 20 | 土師器 甕 | カマド 2/3 | 口 底 | 13.7 2.5 | 高 胴 | 11.7 | 細砂粒/良好/灰褐 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第57図 | 21 | 土製品 支脚 | カマド 上位片 | | | 径 | 5.4 | 細・粗砂粒・白色 粒/良好/にぶい黄橙 | 上面、側面ともヘラナデか。 | |
| 第57図 PL.174 | 22 | 礫石器 敲石 | +6 | 長 幅 | 15.7 5.5 | 厚 重 | 4.9 643.9 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に敲打痕が残る。 | 菰編石 |
| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 | | | |
| 非掲載 | 23 | 菰編石 | 6.7 | 14.3 | 5.0 | 668.4 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 24 | 菰編石 | 6.1 | 17.3 | 3.0 | 534.9 | 変質安山岩 | | | |
| 非掲載 | 25 | 菰編石 | 5.9 | 17.6 | 3.3 | 551.8 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 26 | 菰編石 | 5.1 | 16.2 | 4.8 | 691.0 | 変質玄武岩 | | | |
| 非掲載 | 27 | 菰編石 | 6.2 | 15.7 | 3.3 | 570.7 | 変質玄武岩 | | | |
| 非掲載 | 28 | 菰編石 | (5.7) | (11.5) | (3.5) | 217.6 | 黒色片岩 | | | |



第58図 2区9号住居菰編石長幅比グラフ

11号住居(第59～64図、P L.15・16・175・176、第13表)

位置 26A・B-20～36A・B-1グリッド。9・10号住居と重複している。10号住居跡より古く、9号住居跡より新しい。

形状 東西にやや長い方形を呈する。

主軸方位 N-88°-W

規模 面積10.53㎡。長軸3.92m、短軸3.41m 残存壁

高20cm～63cmを測る。

床面 貼床は検出していないものの、硬化している。

カマド 東壁中央より南に設置される。燃焼部の天井は破壊されているものの、煙道は良好な状態で、上部がほぼ先端まで残存している。煙道は住居壁よりわずかに内側から始まりほぼ東へと突き出ている。断面形は正方形に近い。燃焼部は住居内に造られ、袖部のみが残存して

いるが、焚口付近には天井部の一部が落下した状態で検出されている。袖部の構築には礫が用いられており、左袖に礫が残存している。また、右袖先端には土器が用いられている。全長141cm・燃烧部幅51cm・袖内幅30cm・焚口幅33cmである。

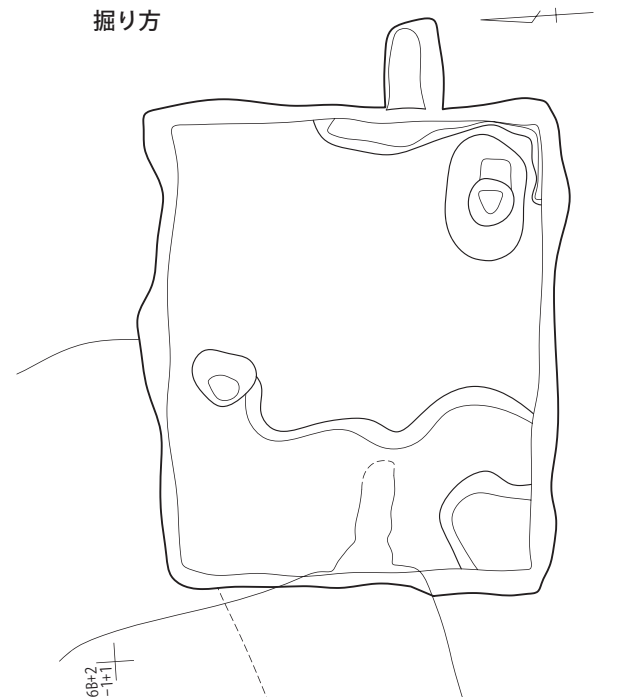
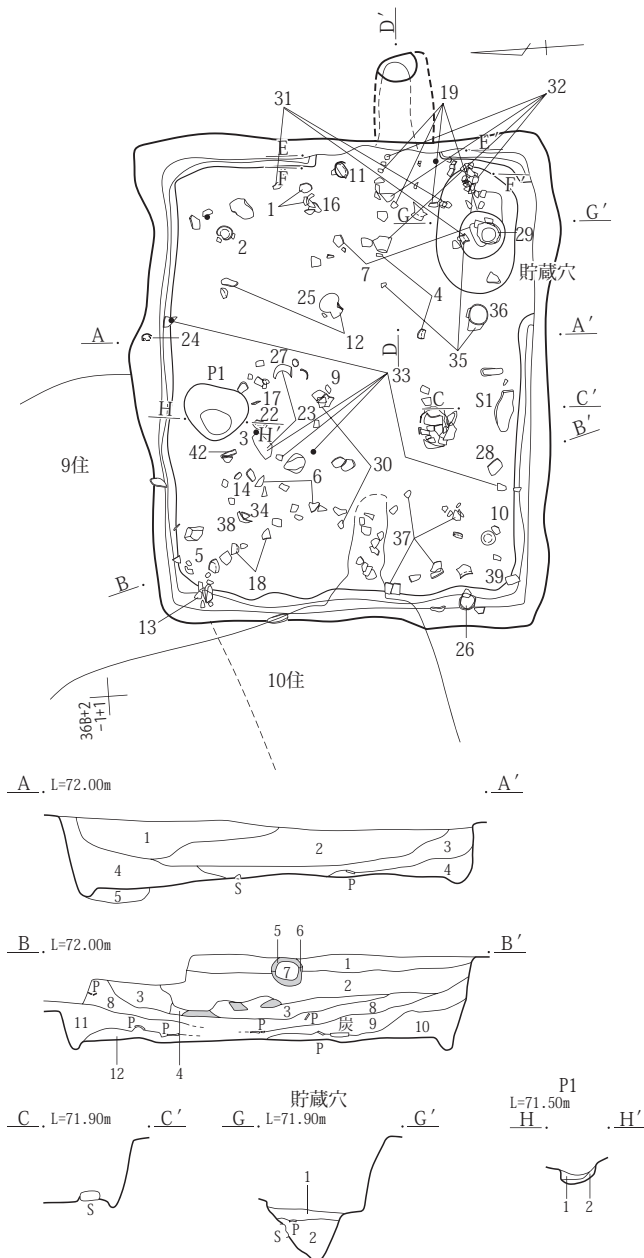
貯蔵穴 南東隅に設置される。東西に長い楕円形である。遺物の出土量は多い。長径100cm・短径62cm・深さ52cmである。

柱穴 1基検出された。P1の長径50cm・短径42cm・深さ27cmである。

周溝 南壁貯蔵穴付近については不明瞭だが、ほぼ全周する。幅6～18cm、深さは11cm以内。

埋没土 住居西側上層は10号住居跡造成時の影響を受けたと考えられる堆積がみられる(1～7層)。他は自然堆積と考えられる。

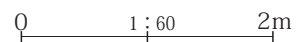
掘り方 南東部ではあまり確認できないが、それ以外で



- 6 赤褐色土 10号住居カマド煙道下部。軟らかい。粘性あり。
- 7 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。黄褐色土粒子・白色軽石・炭化物・焼土粒子を含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。黄褐色土ブロック・炭化物を含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。黄褐色土粒子・炭化物を含む。
- 11 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性非常にあり。灰色土ブロック・炭化物・焼土粒子を含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性非常にあり。灰色土ブロックを多量に含む。

- 貯蔵穴**
- 1 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。焼土ブロック・炭化物ブロック・黄白色土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性非常にあり。焼土粒子・黄白色土粒子を含む。

- P1**
- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。
 - 2 黄褐色土 軟らかい。粘性あり。暗褐色土粒子を含む。



- 11号住居**
- 1 暗褐色土 硬くしめる。黄褐色土粒子・白色軽石を多量に含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。黄褐色土粒子・白色軽石・炭化物を含む。
 - 3 黄褐色土 やや硬くしめる。粘性あり。黄褐色土ブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
 - 4 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。炭化物・焼土粒子を含む。
 - 5 赤褐色土 10号住居カマド煙道上部。やや硬くしめる。粘性あり。

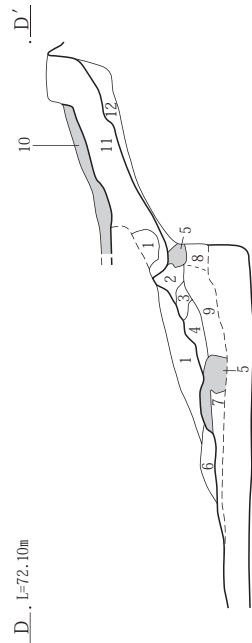
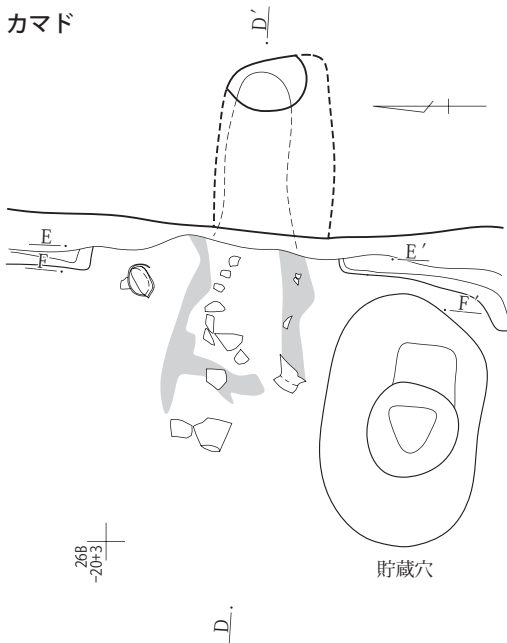
第59図 2区11号住居

は掘り下げられる。深いところで16cm。

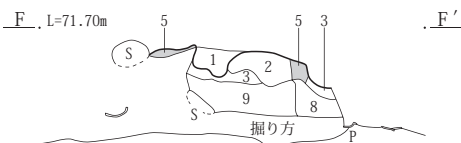
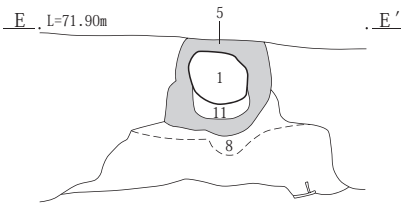
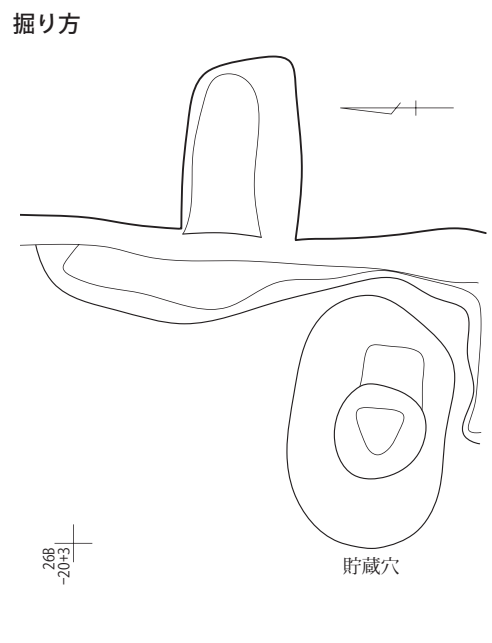
遺物 出土量は多い。カマドや貯蔵穴からの出土も多いが、住居内全体で多く出土する。なお、やや大きくて平坦い礫(S 1)が、南壁のほぼ中央の床面上に設置されており、出入り口の踏み台として用いられた可能性がある。

時期 出土遺物から5世紀末～6世紀前半に比定される。

カマド



掘り方

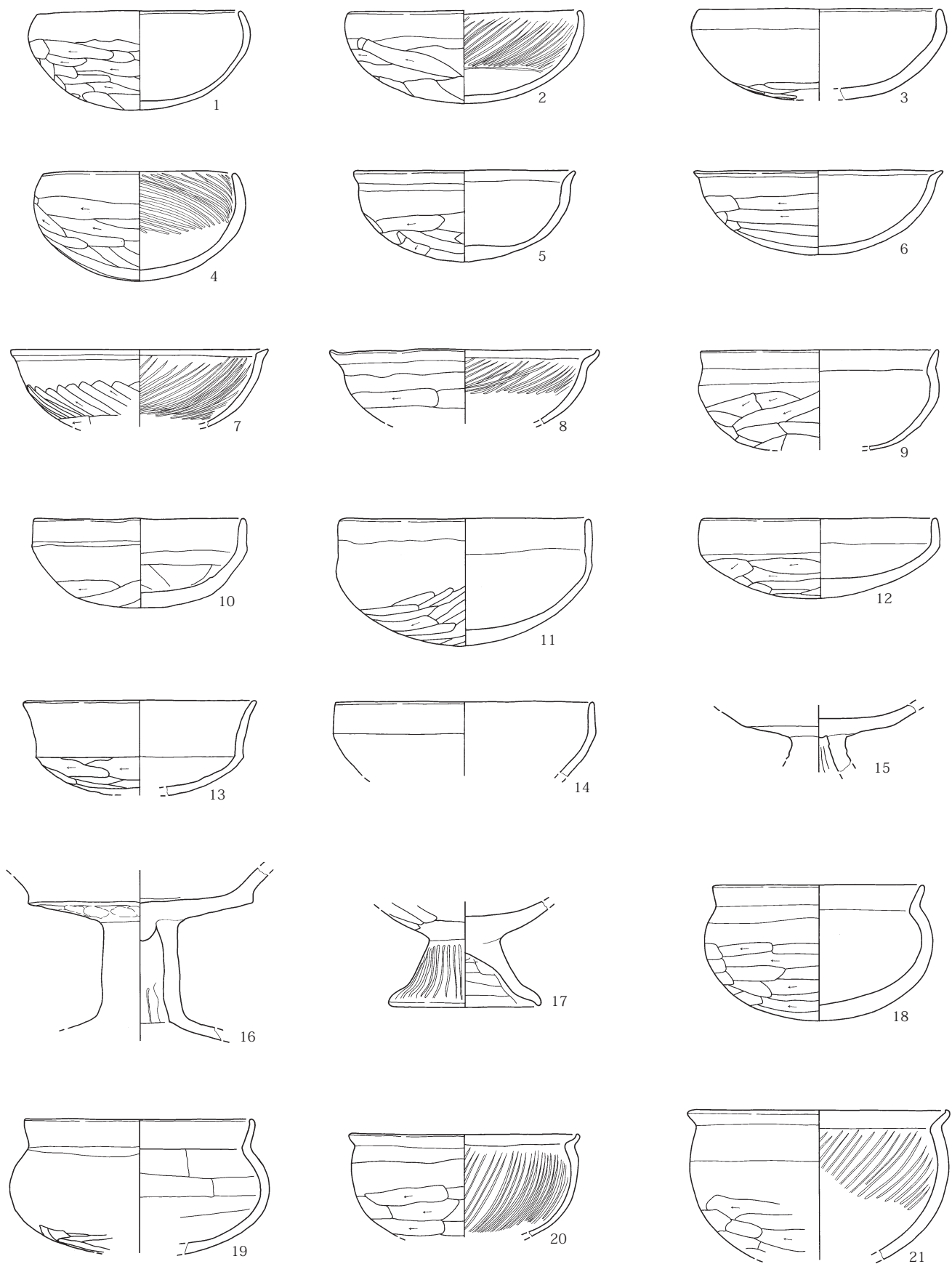


カマド

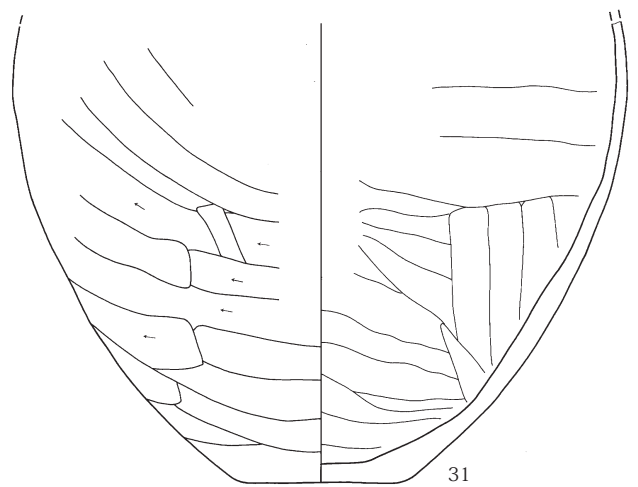
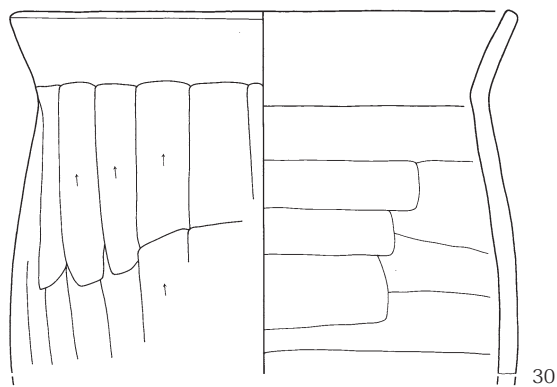
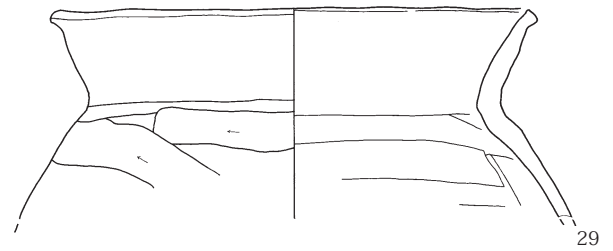
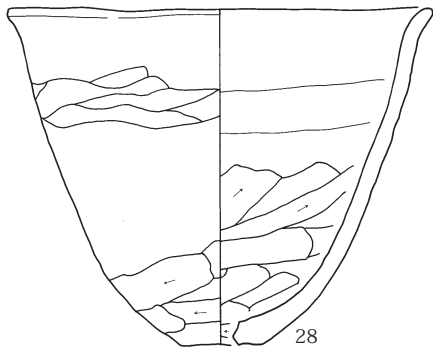
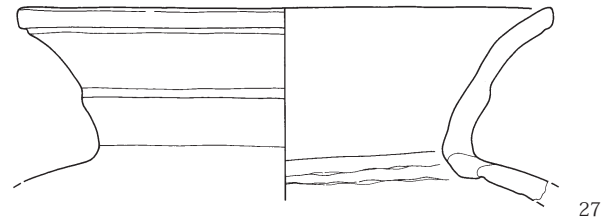
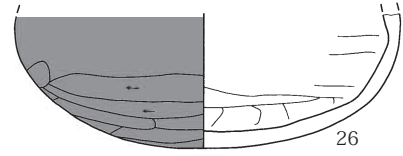
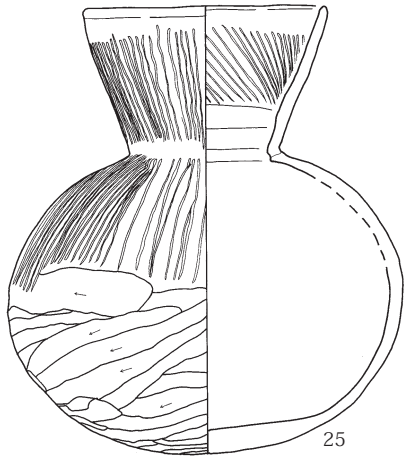
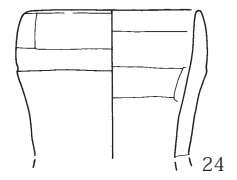
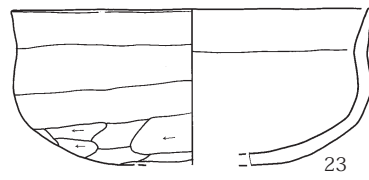
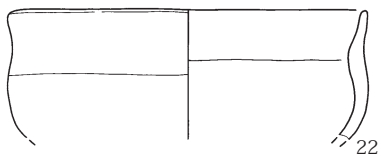
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄褐色土粒子・白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 カマド構築材。やや硬くしまる。
- 3 黄白色土 カマド構築材。やや硬くしまる。粘性非常にあり。
- 4 暗褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。焼土ブロックを多量、黄白色土ブロック・黄褐色土粒子を含む。
- 5 焼土
- 6 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。焼土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。
- 7 灰褐色土 軟らかくしまりよい。粘性あり。焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 8 黄褐色土 カマド構築材。軟らかい。焼土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック多量、黄褐色土粒子を含む。
- 10 焼土 カマド天井部。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量、炭化物・黄褐色土粒子・白色軽石を含む。
- 12 黄褐色土 硬くしまる。暗褐色土ブロック・白色軽石を含む。

0 1:30 1m

第60図 2区11号住居カマド

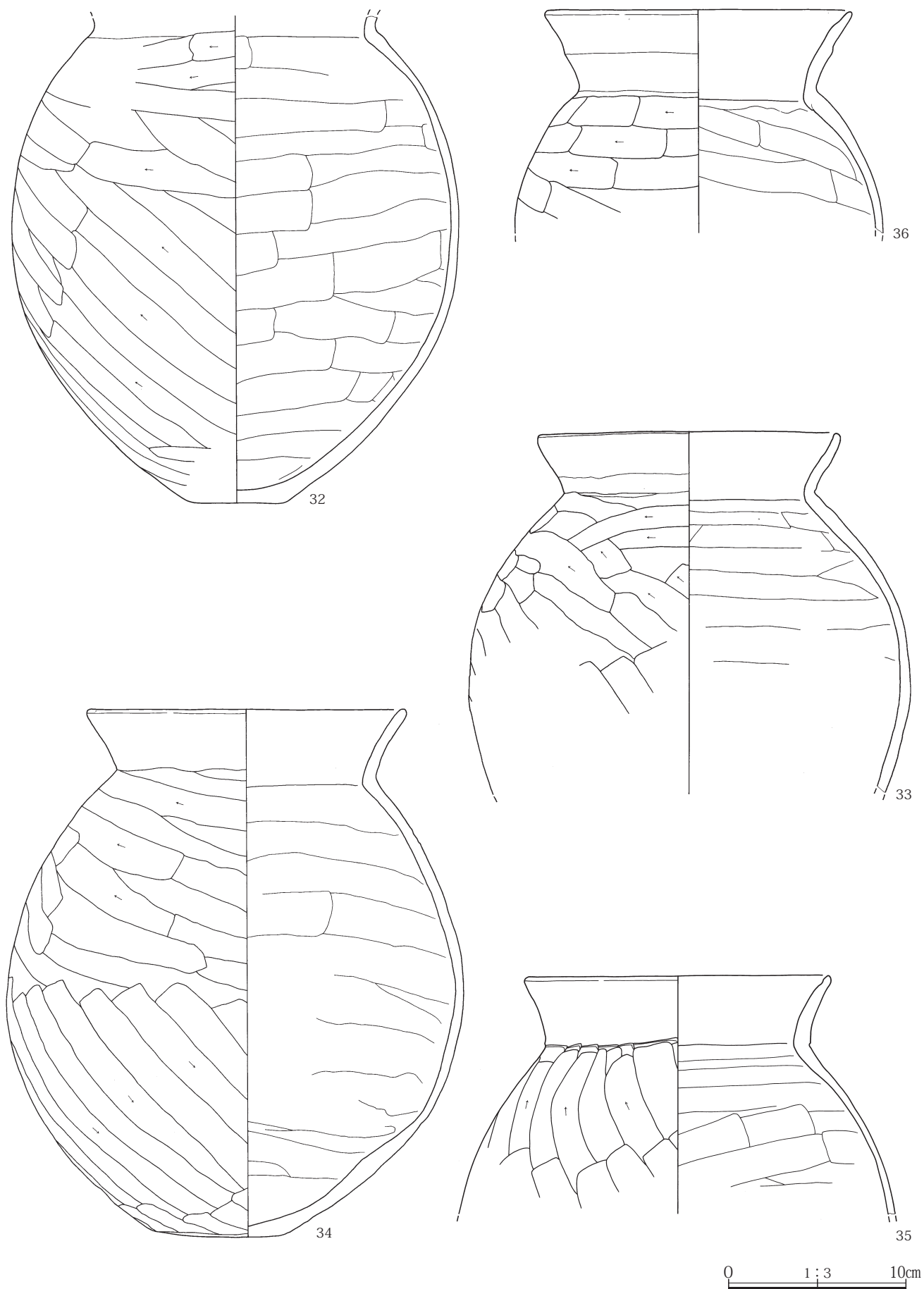


第61図 2区11号住居出土遺物(1)

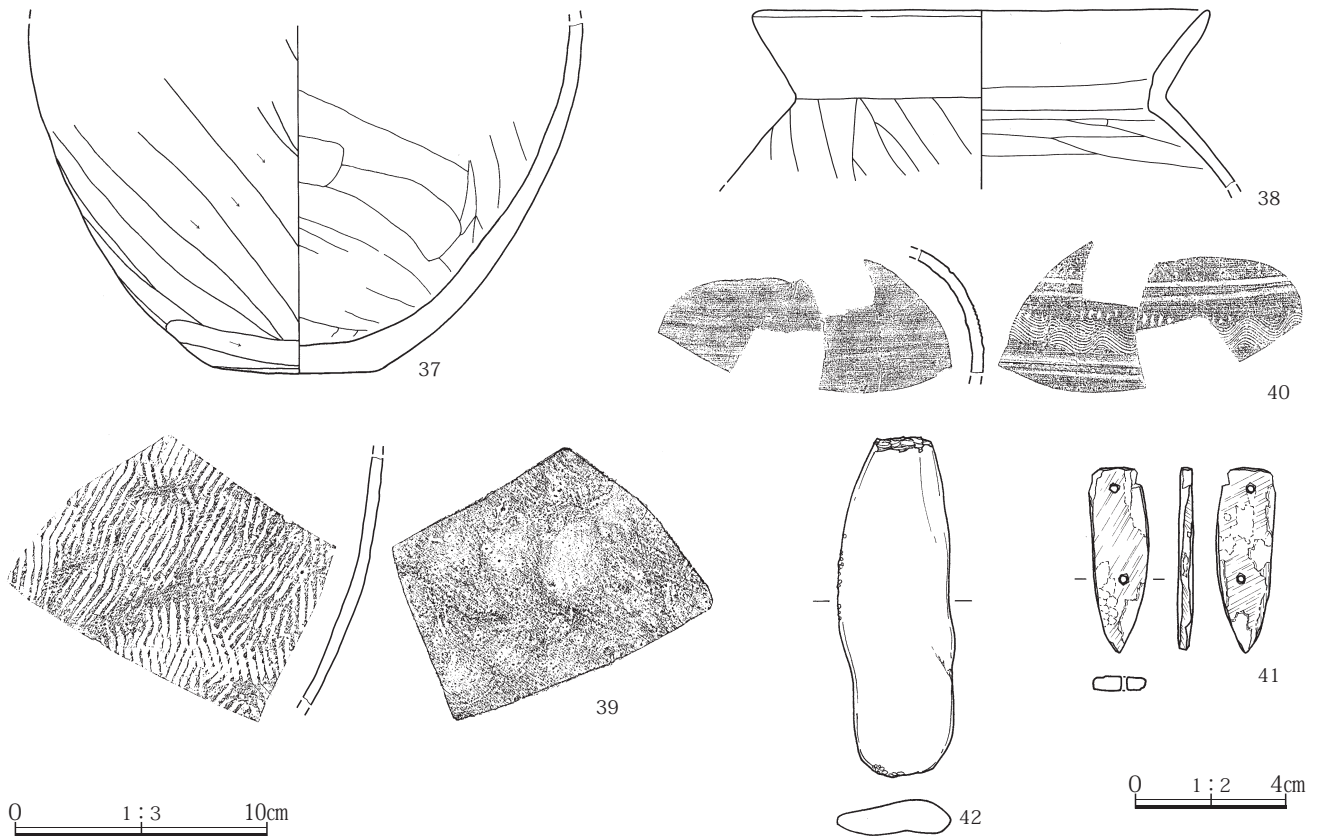


0 1:3 10cm

第62図 2区11号住居出土遺物(2)



第63図 2区11号住居出土遺物(3)



第64図 2区11号住居出土遺物(4)

第13表 2区11号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|----------------|-----|-----------|---------------|-----|----------------|--------------------|------------------|---|-------|
| 第61図 PL.175 | 1 | 土師器 杯 | +17 口縁部わずかに欠損 | 口 | 11.0 最 | 12.0 | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | |
| 第61図 PL.175 | 2 | 土師器 杯 | +15 完形 | 口 | 12.4 高 最 | 5.0 12.9 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | 内湾口縁。 |
| 第61図 | 3 | 土師器 杯 | +8 口縁部片 | 口 | 12.9 最 | 13.6 | 細砂粒・褐色粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第61図 | 4 | 須恵器 杯 | 床直 口縁部~底部片 | 口 | 10.4 高 最 | 6.0 11.4 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第61図 | 5 | 土師器 杯 | +13 1/2 | 口 | 11.8 高 | 4.9 | 細・粗砂粒・褐色粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第61図 PL.175 | 6 | 土師器 杯 | +20 口縁部~体部片 | 口 | 13.4 高 | 4.5 | 細・粗砂粒・角閃・長石/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第61図 PL.175 | 7 | 土師器 杯 | +64 脚部下半~裾部片 | 口 | 14.0 | | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | |
| 第61図 | 8 | 土師器 杯 | 口縁部わずかに欠損 | 口 | 14.4 | | 細砂粒・褐色粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部上半から口縁部に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | |
| 第61図 | 9 | 土師器 杯 | +3 完形 | 口 | 12.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第61図 PL.175 | 10 | 土師器 杯 | +17 口縁部わずかに欠損 | 口 | 11.3 高 稜 | 4.8 11.8 | 細・粗砂粒・角閃/良好/にぶい橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から底部がヘラナデ。 | |
| 第61図 | 11 | 土師器 杯 | カマド 口縁部一部欠損 | 口 | 13.2 高 稜 | 6.8 13.6 | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部上半は横ナデ下半から体部上半はナデ、体部下半から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第61図 PL.175 | 12 | 土師器 杯 | +9 口縁部~体部片 | 口 | 12.6 高 | 4.2 | 細砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第61図 | 13 | 土師器 杯 | +37 口縁部~胸部上位片 | 口 | 12.4 稜 | 11.1 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第61図 | 14 | 土師器 杯 | +25 口縁部わずかに欠損 | 口 | 13.8 稜 | 14.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部(稜下)は器面磨滅のため不明。 | |
| 第61図 | 15 | 土師器 高杯 | 杯身下位~脚部上位 | 底 | 7.8 | | 細砂粒多・粗砂粒微/良好/橙 | 脚部は杯身に貼付。口縁部は横ナデ、底部と脚部はヘラ削りか。内面脚部がナデ。 | |
| 第61図 PL.175 | 16 | 土師器 高杯 | +20 杯身下半~脚部片 | 底 | 12.0 | | 細砂粒/良好/橙 | 杯身はホソ状の突起を脚部に差し込み接合。杯身口縁部は横ナデ、底部には指頭痕が残る、脚部はナデ。内面脚部はヘラナデ。 | |
| 第61図 | 17 | 土師器 高杯 | +8 脚部~底部片 | 脚 | 8.0 | | 細砂粒/良好/橙 | 杯身内面は黒色処理。脚部は貼付、杯身底部はヘラ削り、脚部は縦位のヘラ磨き。内面脚部はヘラナデ。 | |

第3章 発掘調査の記録

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|----------------|-----|-------------|--------------------|--------|-------------|--------|--------------------|----------------------|---|-------------------|
| 第61図 | 18 | 土師器 鉢 | +5 口縁部一部欠損 | 口 | 11.2 | 高 | 7.3 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ 削り。 | 内面口縁部に 薄く煤が付着。 |
| 第61図 | 19 | 土師器 短頸壺 | +12 1/2 | 口 | 12.2 | | | 細砂粒・白色粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、胴部はナデ、胴部下位から底部は手持ちヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第61図 | 20 | 土師器 椀 | 口縁部～体部片 | 口 | 12.2 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ 削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | |
| 第61図 | 21 | 土師器 鉢 | 口縁部～体部片 | 口 | 13.8 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ 削り。内面は体部上半から口縁部に斜放射状ヘラ磨き(暗 文状)。 | |
| 第62図 | 22 | 土師器 鉢 | +7 口縁部～体部片 | 口 | 13.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、器面磨 減のため単位不明。 | |
| 第62図 | 23 | 土師器 椀 | +3 口縁部～底部片 | 口 | 13.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部から体部上位は横ナデ、体部中位はナデ、下位から 底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第62図 | 24 | 土師器 小型壺 | +74 頸部～胴 部上半片 | | | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削りか。内面胴部はヘ ラナデ。 | |
| 第62図 PL.175 | 25 | 土師器 直口壺 | +2 完形 | 口 | 9.3 | 高 胴 | 17.6 15.4 | 細砂粒・白色粒/ 良好/橙 | 口縁部は放射状ヘラ磨き、頸部横ナデ、胴部は上半が放射 状ヘラ磨き、下半から底部はヘラ削り。内面は口縁部が斜 放射状ヘラ磨き、胴部はヘラナデか。 | |
| 第62図 | 26 | 土師器 壺 | +22 底部～胴部下位 | | | 胴 | 15.0 | 細砂粒/良好/にぶ い黄褐 | 外面は赤色塗彩。底部から胴部下位は手持ちヘラ削り、中 位はヘラナデ。内面はヘラナデ。 | |
| 第62図 | 27 | 土師器 壺 | +8 口縁部～頸部片 | 口 | 20.6 | | | 細砂粒/良好/橙 | 内面に輪積み痕が残る。口縁部は内外とも横ナデ、内面胴 部はヘラナデ。 | |
| 第62図 PL.175 | 28 | 土師器 甕 | +37 1/4 | 口 底 | 16.4 3.2 | 高 孔 | 13.2 1.4 | 細・粗砂粒・褐色 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部はヘラ削り、中位は器面磨 減。内面下半はヘラ削り。 | |
| 第62図 PL.176 | 29 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 口縁部 ～胴部上位 | 口 | 18.5 | | | 細砂粒多・白色粒 /良好/にぶい橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘ ラナデ。 | |
| 第62図 | 30 | 土師器 甕 | +7 口縁部～ 胴部上半片 | 口 | 19.5 | | | 細・粗砂粒・褐色 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第62図 | 31 | 土師器 甕 | +10 底部～胴 部中位片 | 底 | 6.7 | 胴 | 24.0 | 細・粗砂粒・片岩・ 長石/良好/橙 | 底部、胴部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第63図 | 32 | 土師器 甕 | カマド 底部～頸部 | 底 | 5.5 | 頸 胴 | 15.6 24.8 | 細砂粒・粗砂粒/ 良好/暗赤褐 | 頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナ デ。 | |
| 第63図 PL.176 | 33 | 土師器 甕 | +2 口縁部～ 胴部中位 | 口 | 16.4 | 胴 | 24.5 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第63図 PL.176 | 34 | 土師器 甕 | +40 口縁部 と胴部一部欠損 | 口 底 | 17.4 7.5 | 高 胴 | 29.4 25.4 | 細・粗砂粒・片岩・ 長石/良好/褐 | 口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラ ナデ。 | |
| 第63図 PL.176 | 35 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～ 胴部上半片 | 口 | 16.8 | | | 細・粗砂粒多/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第63図 PL.176 | 36 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～ 胴部上半片 | 口 | 16.9 | | | 細・粗砂粒多/良 好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第64図 PL.176 | 37 | 土師器 甕 | 床直 底部～胴 部下半 | 底 | 6.6 | | | 細砂粒・多角閃/ 良好/にぶい橙 | 底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第64図 | 38 | 土師器 甕 | +3 口縁部～ 胴部上位片 | 口 | 17.6 | | | 粗砂粒・片岩/良 好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第64図 | 39 | 須恵器 甕 | +20 胴部片 | | | | | 細砂粒・白色粒/ 還元焰/灰褐 | 胴部は外面に平行叩き痕が明瞭に残る。内面の同心円状ア テ具痕は磨滅のためかすかに残る。 | |
| 第64図 PL.176 | 40 | 須恵器 壺 | 胴部片 | | | | | 精選・白色鈹物粒 /還元焰/灰 | 肩部に2条1単位の沈線を2段めぐらし区画、その中に7 条1単位の波状文を配す。ロクロ整形、回転は右回りか。 | 外面に自然釉 付着。 |
| 第64図 | 41 | 石製模造品 剣形 | | 長 幅 | 4.9 1.6 | 厚 重 | 0.4 4.8 | 滑石 | 粗く研磨整形して概形を作出。表裏面とも粗い斜位線条痕 が残る。径2mm弱の孔を片側穿孔する。 | |
| 第64図 PL.176 | 42 | 礫石器 敲石 | +37 | 長 幅 | 13.3 4.6 | 厚 重 | 1.4 137.2 | 緑色片岩 | 小口部両端が敲打され、衝撃剥離する。 | |

12号住居(第65～69図、P L.16・17・177、第14表)

位置 26A・B-19・20グリッド。埋没谷より古い。

形状 僅かに東西に長いがほぼ正方形を呈する。

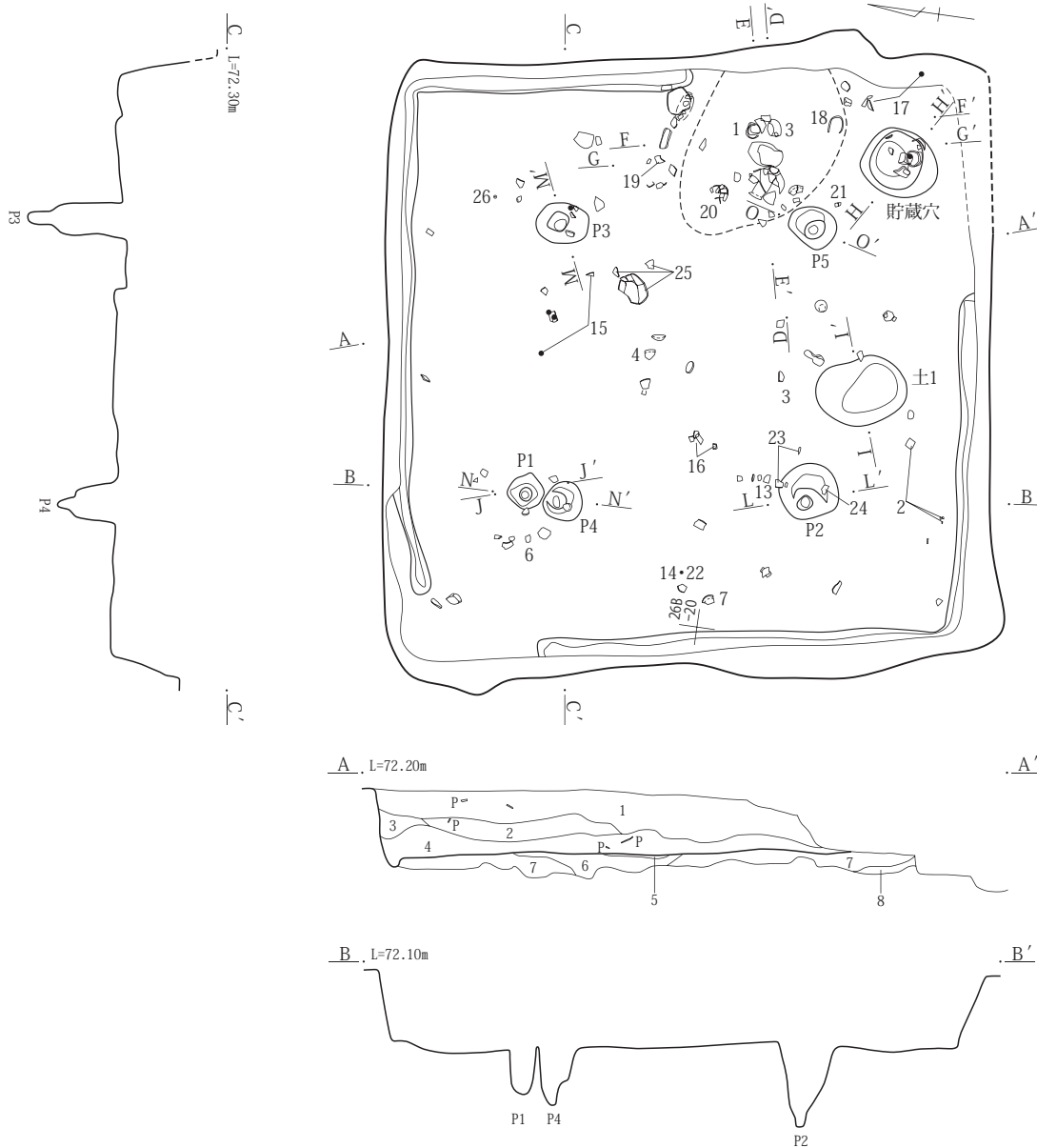
主軸方位 N-81°-E

規模 面積22.82㎡。長軸5.14m、短軸5.01m 残存壁高47cm～58cmを測る。

床面 貼床が9～21cmの厚さで全面に施される。

カマド 東壁中央より南に設置される。燃烧部は住居内に設置され、住居より外への突き出しはほとんど確認できない。袖部の残存状況が悪く、燃烧部の範囲が不明瞭である。天井部の構築には土器が用いられており、土器が落下した状態で出土した。残存全長130cm・燃烧部幅105cmである。

貯蔵穴 南東隅に設置される。ほぼ円形である。深く、



12号住居

- | | |
|---|---|
| 1 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。黄褐色土ブロック・炭化物粒子・白色軽石を含む。 | 5 暗褐色土 貼床。やや硬くしまる。黄褐色土ブロック多量、焼土粒子・灰を含む。 |
| 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。黄褐色土粒子・炭化物粒子を少量含む。 | 6 暗褐色土 貼床。やや硬くしまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを多量、焼土粒子を含む。 |
| 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。 | 7 黄褐色土 貼床。やや硬くしまる。粘性あり。暗褐色土を含む。 |
| 4 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。黄褐色土粒子・焼土粒子・白色軽石・炭化物を含む。 | 8 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロックを含む。 |

0 1:60 2m

第65図 2区12号住居

底面は平らに近い。遺物はやや多く、主に上層から出土する。長径63cm・短径56cm・深さ82cmである。

柱穴 5基検出された。そのうち、主柱穴はP2～P5と考えられるが、P4に近接するP1も主柱穴の可能性もある。他の主柱穴との位置関係から、ここではP4と考える。柱穴の規模(長径・短径・深さ・次の主柱穴との間隔cm)は次のとおりである。

P2 : 52・49・72・234、P5 : 40・38・38・215、P3 : 44・34・79・241、P4 : 33・32・49・222、P1 : 30・30・74

周溝 北西角やカマドに近い東壁中央付近など一部検

出されない箇所があるが、ほぼ全周する。幅5～17cm、深さは11cm以内。

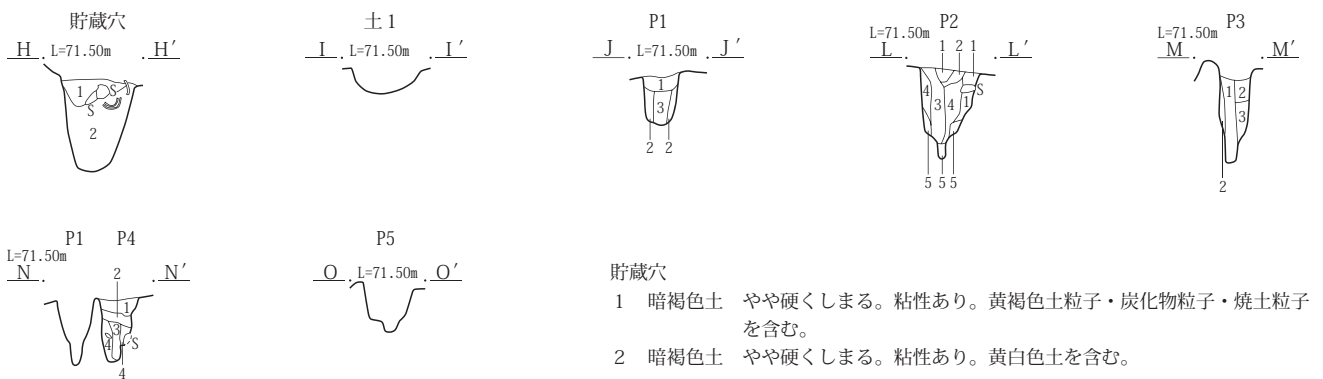
住居内土坑1 南壁中央より西に設置される。南北に長い楕円形である。長径76cm・短径61cm・深さ23cmである。

埋没土 自然埋没土と考えられる。住居南東部は埋没谷によって流失している。

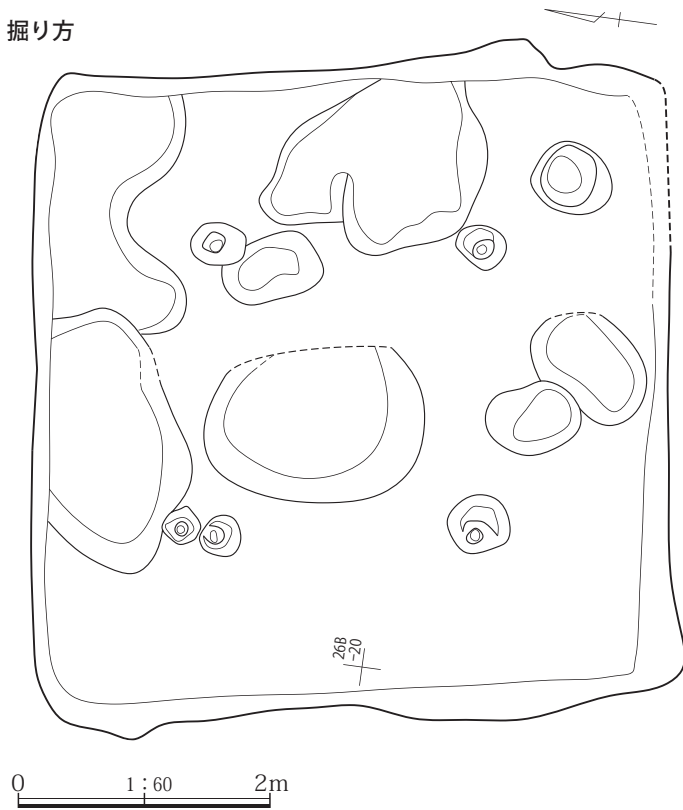
掘り方 全面掘り下げられる。深いところで21cm。

遺物 出土量はやや多い。住居内全体に拡散するが、カマドや貯蔵穴付近が特に多い。

時期 出土遺物から5世紀末～6世紀前半に比定される。



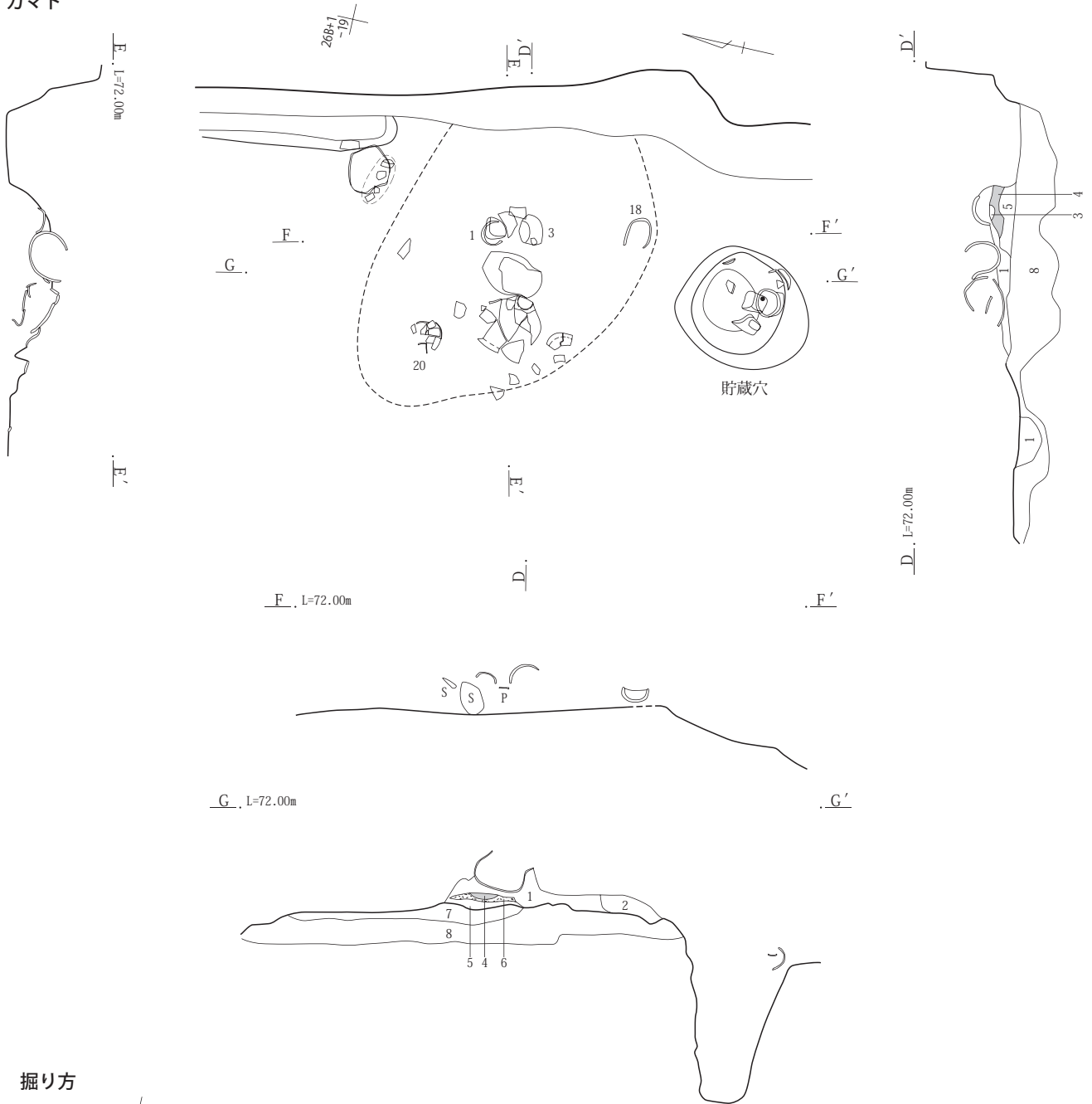
掘り方



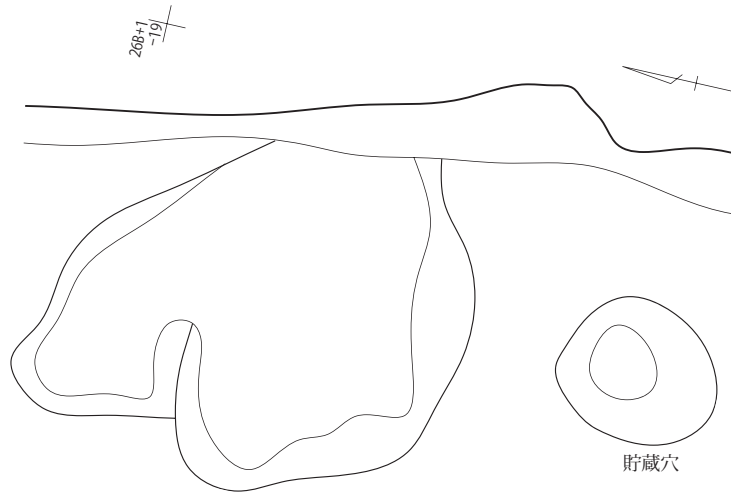
- P1
- 1 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子・焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子・黄褐色土ブロックを含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を微量に含む。
- P2
- 1 黄褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土と暗褐色土の混土。
 - 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。
 - 3 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を微量に含む。
 - 4 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子をやや多く含む。
 - 5 灰褐色土 軟らかい。砂層。
- P3
- 1 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を微量に含む。
 - 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土ブロックをやや多量に含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- P4
- 1 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土。
 - 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を微量に含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
 - 4 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。

第66図 2区12号住居断面図、掘り方

カマド



掘り方

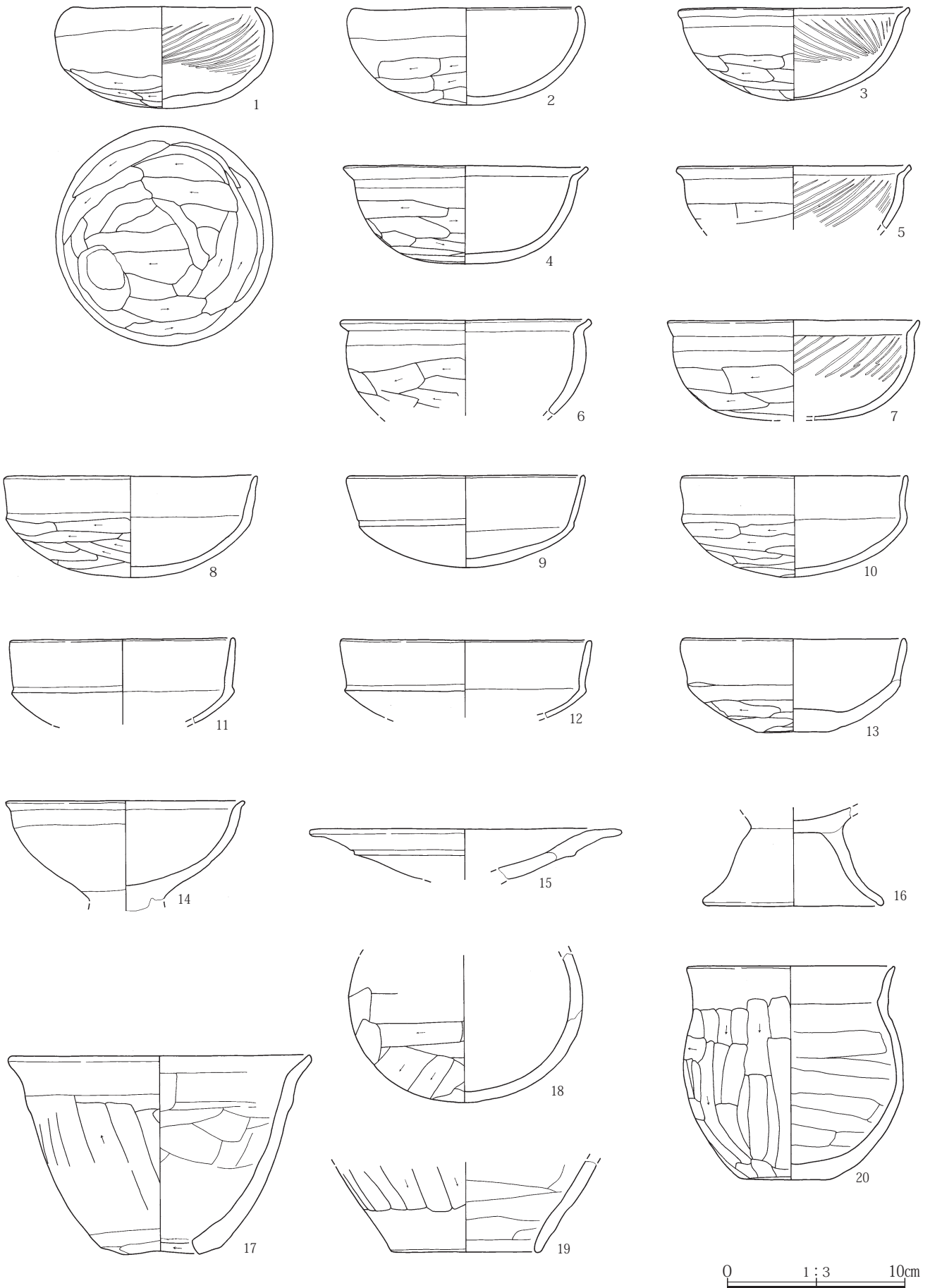


カマド

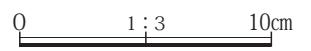
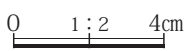
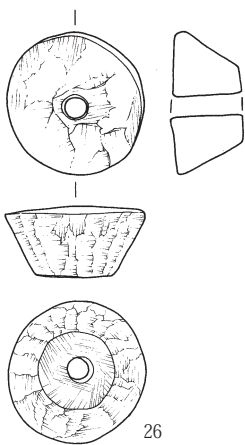
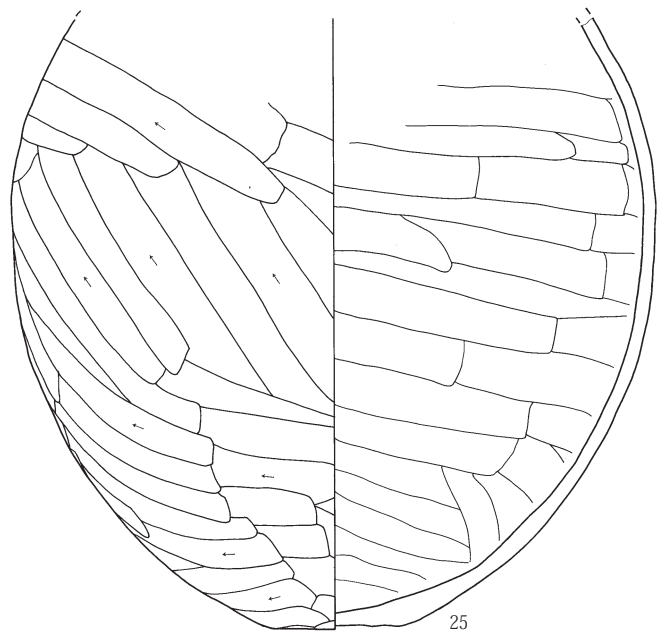
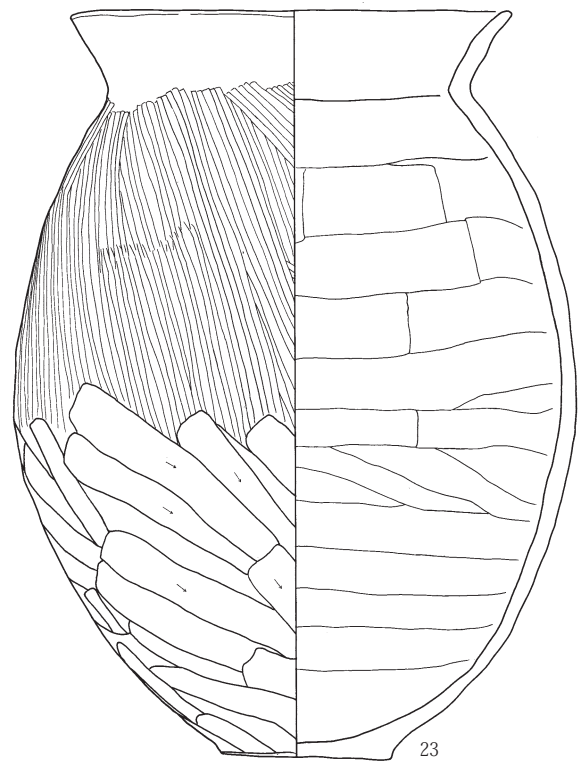
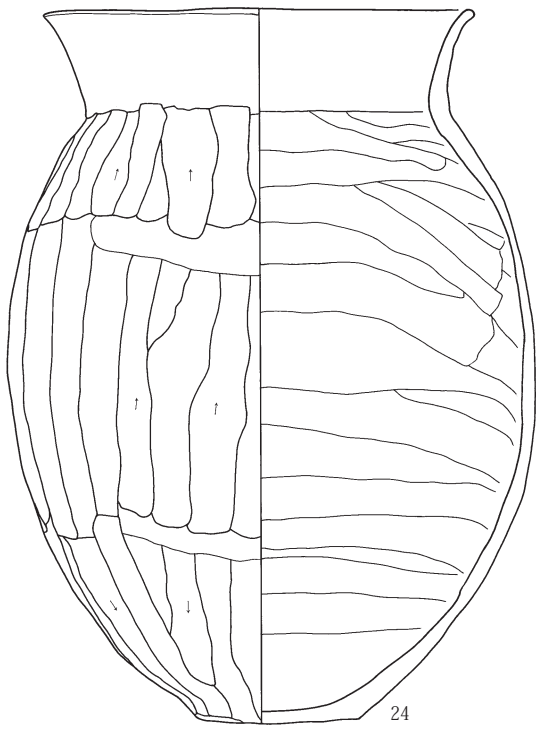
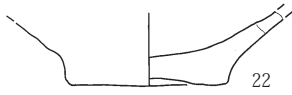
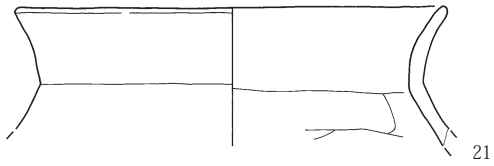
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。黄褐色土ブロック多量、白色軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくしまりよい。焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
- 4 焼土
- 5 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性あり。焼土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。
- 6 灰
- 7 暗褐色土 軟らかくしまり悪い。粘性あり。黄白色土ブロック・焼土粒子を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロックと暗褐色土の混土。

0 1:30 1m

第67図 2区12号住居カマド



第68図 2区12号住居出土遺物(1)



第69図 2区12号住居出土遺物(2)

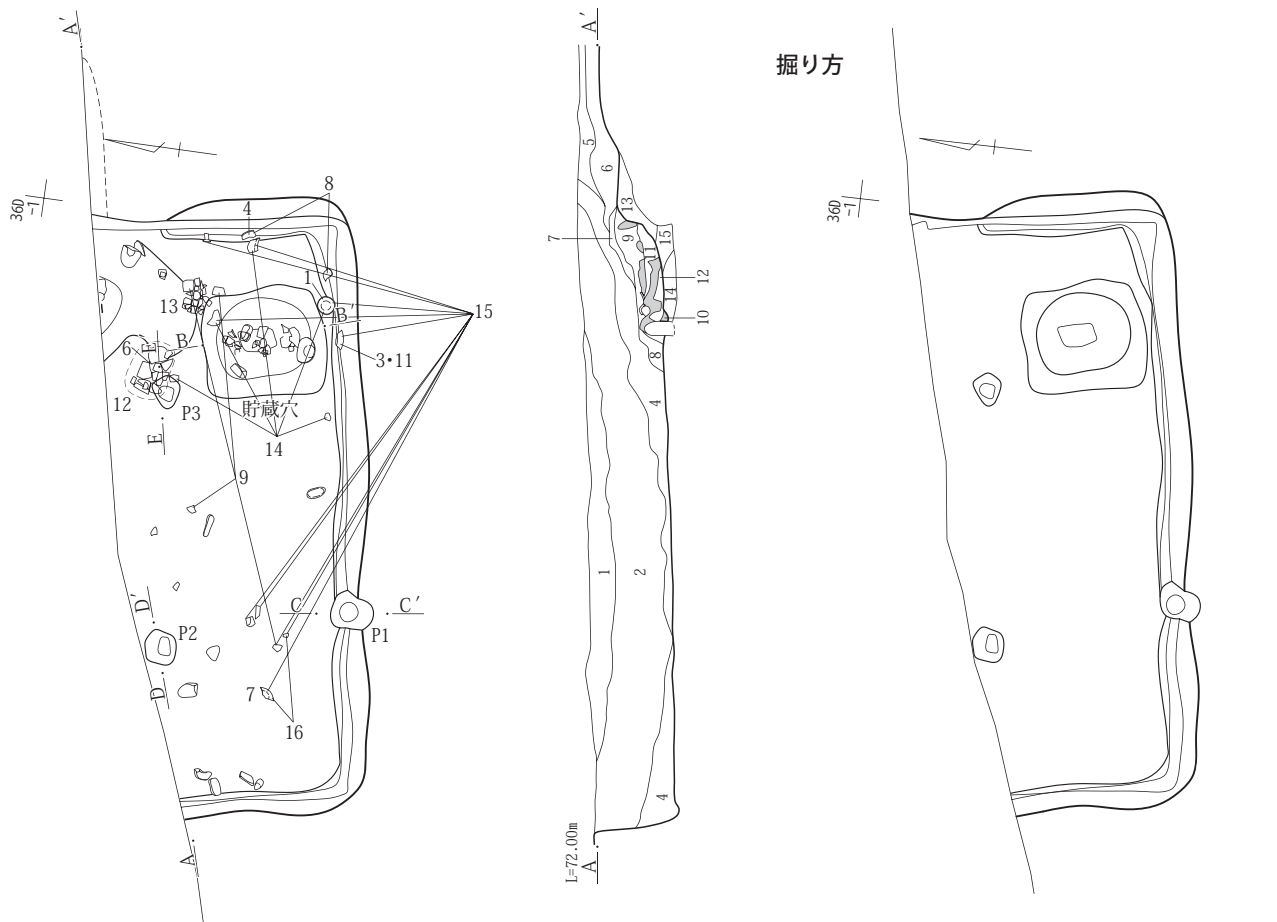
第3章 発掘調査の記録

第14表 2区12号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|----------------|-----|------------|---------------------|--------|-------------|--------|--------------------|----------------------------|--|---------------------------------|
| | | | | 口 | 高 | 最 | | | | |
| 第68図 PL.177 | 1 | 土師器 杯 | カマド ほぼ完形 | 口 | 10.3 | 高 最 | 5.6 12.0 | 細砂粒・白色粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | 体部下位に径 2.5×2.0cmの 穿孔、使用時。 |
| 第68図 PL.177 | 2 | 土師器 杯 | +12 2/3 | 口 | 12.5 | 高 最 | 5.4 13.2 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第68図 PL.177 | 3 | 土師器 杯 | カマド ほぼ完形 | 口 | 12.7 | 高 | 5.0 | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部上半に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | |
| 第68図 | 4 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | 口 | 13.4 | 高 | 5.5 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第68図 | 5 | 土師器 杯 | 口縁部～体部片 | 口 | 12.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面体部に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | |
| 第68図 | 6 | 土師器 杯 | +11 口縁部～体部片 | 口 | 13.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第68図 | 7 | 土師器 杯 | +30 口縁部～底部片 | 口 | 13.8 | 高 | 5.5 | 細砂粒・褐色粒・ ガラス質粒/良好/ 橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面体部に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | |
| 第68図 PL.177 | 8 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 ほぼ完形 | 口 | 13.9 | 高 稜 | 5.5 13.7 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第68図 PL.177 | 9 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 2/3 | 口 | 13.0 | 高 稜 | 5.1 12.0 | 細砂粒・白色粒/ 良好/明赤褐 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため削りの単位不明。 | |
| 第68図 PL.177 | 10 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 ほぼ完形 | 口 | 12.4 | 高 稜 | 5.5 12.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第68図 | 11 | 土師器 杯 | 口縁部～体部片 | 口 | 12.4 | 稜 | 12.4 | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不鮮明。 | |
| 第68図 | 12 | 土師器 杯 | カマド 口縁部～体部片 | 口 | 13.8 | 稜 | 13.4 | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不鮮明。 | |
| 第68図 | 13 | 土師器 杯 | +31 1/3 | 口 底 | 12.2 3.8 | 高 | 5.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第68図 | 14 | 土師器 高杯 | +17 杯身部2/5 | 口 底 | 13.2 5.0 | | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 脚部は貼付、底部にホゾ状の差し込み。口縁部は横ナデ、体部と底部は器面磨滅のため不明。 | |
| 第68図 | 15 | 土師器 高杯 | 床直 杯身部 | 口 | 17.2 | | | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 口縁部横ナデ、底部はヘラ削り後ナデか、器面磨滅のため不鮮明。 | |
| 第68図 | 16 | 土師器 台付甕 | +28 脚部 | 底 | 5.4 | 脚 | 9.8 | 細砂粒/良好/橙 | 脚部は貼付、内外面とも横ナデ。 | |
| 第68図 | 17 | 土師器 甕 | +9 口縁部～ 胴部下位1/4 | 底 | 4.2 | | | 細砂粒/良好/橙 | 底部はナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第68図 | 18 | 土師器 埴か | カマド 底部～胴部片 | | | 胴 | 13.2 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/橙 | 外面胴部に輪積み痕が残る。底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデか、器面磨滅で不鮮明。 | |
| 第68図 | 19 | 土師器 甕 | +20 底部～胴 部下位片 | 底 | 9.4 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄褐 | 胴部はヘラ削り後、底部周囲をナデ。内面はヘラナデ。 | |
| 第68図 PL.177 | 20 | 土師器 小型甕 | カマド 胴部一部欠損 | 口 底 | 11.5 5.0 | 高 胴 | 11.5 12.2 | 細砂粒/良好/褐灰 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第69図 | 21 | 土師器 甕 | +21 口縁部～ 胴部上位片 | 口 | 16.8 | | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削りか。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第69図 | 22 | 土師器 甕 | +17 底部 | 底 | 6.3 | | | 細砂粒/良好/橙 | 底部は中央がナデ周辺はヘラ削り、胴部はヘラ削り、器面磨滅のため単位など不明。 | |
| 第69図 PL.177 | 23 | 土師器 甕 | +31 ほぼ完形 | 口 底 | 16.8 6.6 | 高 胴 | 29.5 21.8 | 細砂粒多/良好/に ぶい橙 | 口縁部は横ナデ、胴部は上半がハケ目(1cmに5本)、下半と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第69図 PL.177 | 24 | 土師器 甕 | +40 口縁部～ 胴上半1/4欠 | 口 底 | 16.6 6.2 | 高 胴 | 28.1 20.7 | 細・粗砂粒・角閃 /良好/灰黄褐 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り部分的にナデ、底部もヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第69図 | 25 | 土師器 甕 | +7 底部～胴 部上位片 | 底 | 5.0 | 胴 | 25.0 | 細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐 | 底部、胴部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第69図 PL.177 | 26 | 石製品 紡輪 | 床直 | 径 | 3.60 | 厚 重 | 1.9 32.7 | 滑石 | 使用面に粗い整形痕を残す。その他の部位の研磨痕も新鮮で、未使用状態に近い。 | |

13号住居(第70～73図、P L.17・18・178・179、第15表)
位置 36C-1グリッド。6号住居、2号墓、1号ピットと重複している。6号住居、2号墓、1号ピットより古い。
形状 北側は調査区外のため不明。
主軸方位 N-79°-E
規模 面積7.97㎡以上。長軸(東西)4.90m、短軸(南北)2.02m以上 残存壁高10cm～64cmを測る。
床面 貼床はない。硬化している。
カマド 東壁の調査区際付近を中心としたところに設置

される。燃焼部は住居内に設置されていると考えられるが、検出された箇所では、袖部の残存状況は悪い。調査区壁面に礫が直立しているが、袖石と考えられる。また、構築材には礫が用いられている。検出範囲での全長157cm・燃焼部幅76cmである。
貯蔵穴 住居の南東隅に設置される。やや不整形だが南北に長い長方形を呈する。遺物の量は多い。長軸96cm・短軸86cm・深さ78cmである。
柱穴 3基検出された。P2・P3は主柱穴と考えられる。P1は南壁内の中央よりやや西にあるが、位置から

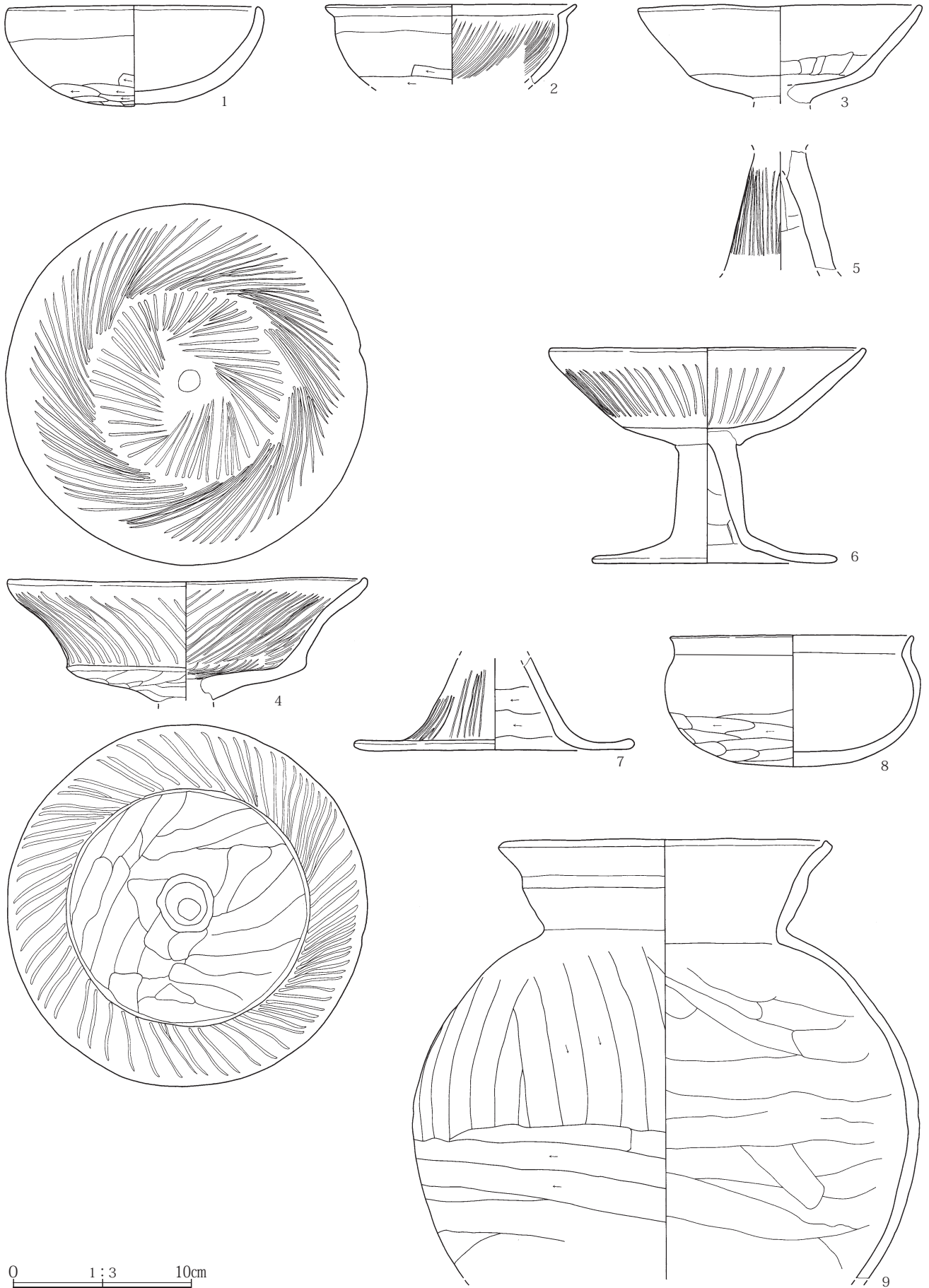


13号住居

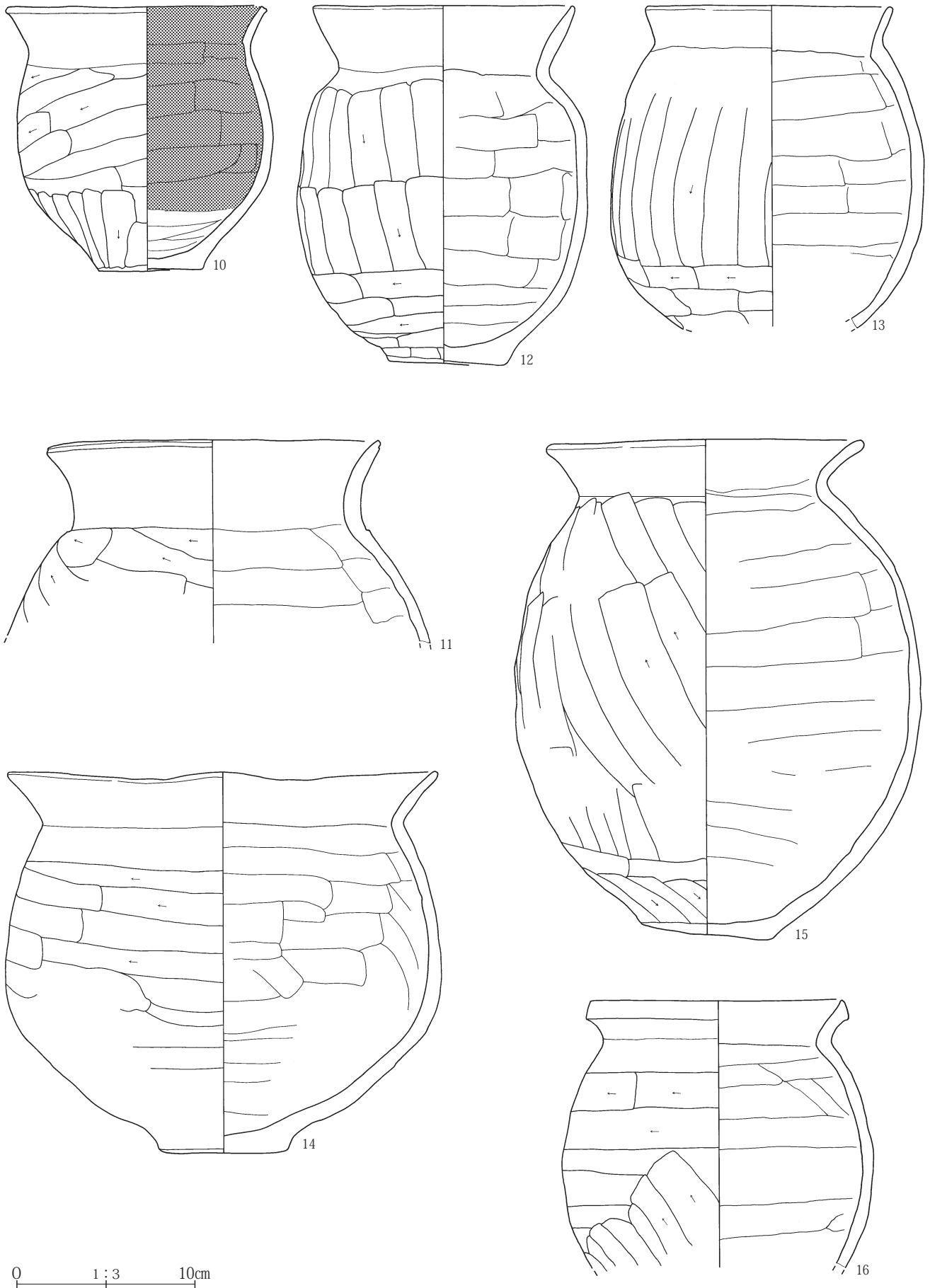
- | | |
|--|--|
| <p>1 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。ロームブロック・焼土粒子・白色粒子を含む。</p> <p>2 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子を含む。</p> <p>3 暗褐色土 硬くしまる。黄褐色土ブロック・白色軽石を含む。</p> <p>4 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子を含む。</p> <p>カマド</p> <p>5 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。黒褐色土ブロック・黄褐色土粒子・焼土粒子を含む。</p> <p>6 暗褐色土 しまる。さらさらしている。焼土ブロックを含む。</p> <p>7 暗褐色土 しまる。粘性あり。ロームブロックを含む。</p> <p>8 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。焼土粒子・炭化物粒子を含む。</p> | <p>9 黄褐色土 カマド構築材。軟らかくしまりよい。焼土ブロックを含む。</p> <p>10 焼土</p> <p>11 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性あり。焼土ブロック・黄褐色土粒子を含む。</p> <p>12 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性非常にあり。焼土ブロック・炭化物・黄褐色土粒子を含む。</p> <p>13 灰褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。黄白色土ブロック・焼土粒子を含む。</p> <p>14 黄褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。黄白色土ブロックを多量に含む。</p> <p>15 暗褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。</p> |
|--|--|

0 1:60 2m

第70図 2区13号住居



第71図 2区13号住居出土遺物(1)



第72図 2区13号住居出土遺物(2)

考えて、出入口施設に関連する掘り込みの可能性がある。
柱穴の規模(長径・短径・深さ・次の主柱穴との間隔cm)
は次のとおりである。

P 2 : 30・22・42・212、P 3 : 26・22・55、P 1 : 34
・30・94

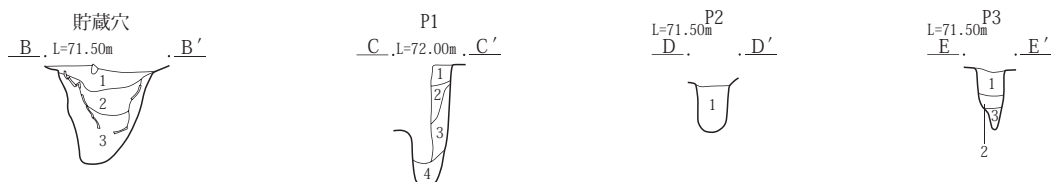
周溝 カマド以外の検出範囲では、全周する。幅 5～
12cm、深さ 7 cm以内。

埋没土 自然埋没土と考えられる。

掘り方 部分的に掘り下げられるところがあるが、深い
ところで10cmである。

遺物 出土量はやや多い。特にカマド及び貯蔵穴付近で
集中している。

時期 出土遺物から 5 世紀後半に比定される。



貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。黄褐色土粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。

P 1

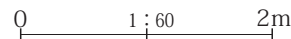
- 1 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ロームブロックをやや多量に含む。
- 4 黒褐色土 軟らかい。粘性あり。ローム粒子を少量含む。

P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。

P 3

- 1 暗褐色土 軟らかくしまりよい。粘性あり。黄褐色土粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。
- 3 黄白色土 軟らかい。粘性あり。



第73図 2区13号住居貯蔵穴・ピット断面図

第15表 2区13号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|-----------|---------------------|--------|--------------|------------------------|-----------------------------|--|--------------------|
| 第71図 PL.178 | 1 | 土師器 椀 | +3 完形 | 口 | 13.8 | 高 5.5 最 14.2 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。 | |
| 第71図 PL.000 | 2 | 土師器 杯 | 口縁部～体部片 | 口 | 13.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部はへら削り後、上半をナデ。内面体部は斜放射状へら磨き(暗文状)。 | 内斜口縁。 |
| 第71図 PL.178 | 3 | 土師器 高杯 | +21 杯身部 | 口 底 | 15.6 10.0 | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 脚部は杯身底部にホゾ状に貼付。口縁部は横ナデ。底部はへらナデか。内面は口縁部下位と底面にへらナデ。 | |
| 第71図 PL.178 | 4 | 土師器 高杯 | +33 杯身部 | 口 底 | 19.7 13.0 | | 細・粗砂粒・白色 粒/良好/橙 | 脚部は杯身底部にホゾ状に貼付。口縁部は横ナデ後、斜放射状へら磨き(暗文状)、底部はへらナデ。内面は口縁部と底面に斜放射状へら磨き(暗文状)。 | |
| 第71図 PL.000 | 5 | 土師器 高杯 | 脚部片 | | | | 細砂粒/良好/橙 | 外面はへら削り後、縦位のへら磨き、内面はへらナデ。 | |
| 第71図 PL.178 | 6 | 土師器 高杯 | +2 裾部2/3欠損 | 口 底 | 17.5 8.4 | 高 脚 12.0 13.4 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/橙 | 脚部は杯身底部にホゾ状に貼付。口縁部は横ナデ後、放射状へら磨き(暗文状)。底部はへら削りか。脚部は器面磨滅のため不鮮明。内面は杯身部に放射状へら磨き(暗文状)。脚部はへらナデ。 | |
| 第71図 PL.178 | 7 | 土師器 高杯 | +49 脚部下 半～裾部片 | | | 脚 15.6 | 細砂粒/良好/に ぶい橙 | 脚部から裾部に縦位のへら磨き、内面は脚部がへら削り、裾部は横ナデ。 | |
| 第71図 PL.178 | 8 | 土師器 鉢 | +19 2/3 | 口 大 | 13.3 14.2 | 高 7.3 | 細砂粒/良好/赤 褐 | 口縁部から体部上半は器面剥落や磨滅のため詳細不明、体部から底部は手持ちへら削り。 | |
| 第71図 PL.000 | 9 | 土師器 壺 | 床直 口縁部～ 胴部中位 | 口 | 17.8 | 胴 28.0 | 細・粗砂粒・角閃 石/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部は上半は縦位、下半は横位のへら削り。内面胴部はへらナデ。 | |
| 第72図 PL.178 | 10 | 土師器 甕 | 掘り方 ほぼ完形 | 口 底 | 14.0 5.6 | 高 胴 14.5 14.1 | 細砂粒/良好/暗 赤褐 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面胴部はへらナデ。 | 内面の口縁部から胴部中位に煤が付着。 |
| 第72図 PL.178 | 11 | 土師器 甕 | +21 口縁部～ 胴部上位 | 口 | 18.3 | | 細砂粒多・褐色粒/ 良好/橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。 | |
| 第72図 PL.178 | 12 | 土師器 甕 | 床直 ほぼ完形 | 口 底 | 14.2 6.2 | 高 胴 19.8 16.0 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、頸部下にナデ、胴部と底部はへら削り。内面胴部はへらナデ。 | |
| 第72図 PL.179 | 13 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～ 胴部下位 | 口 | 13.4 | 胴 17.0 | 細・粗砂粒・片岩・ 長石/良好/にぶい 橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り、上位は器面磨滅で単位不明。内面胴部はへらナデ。 | |

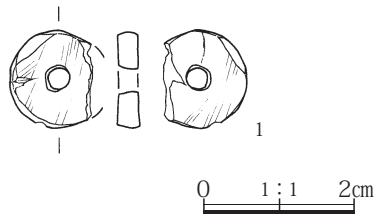
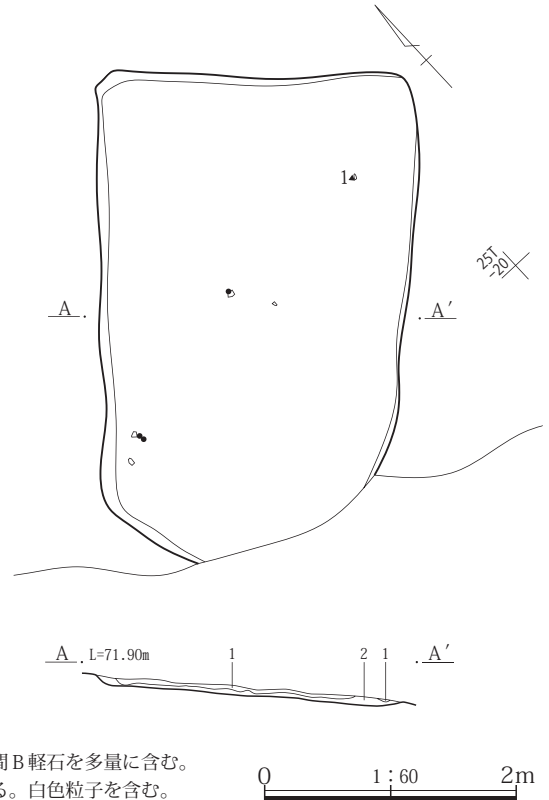
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|----------|-------------------|-------------------|-------------------|---|----------------------------|---|----|
| | | | | 口底 | 高 | 胴 | | | |
| 第72図 PL.179 | 14 | 土師器 甕 | 床直 1/3 | 口底 23.8 7.2 | 高 21.2 23.8 | 胴 | 細砂粒・褐色粒/ 良好/橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、頸部下はナデが残る、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第72図 PL.179 | 15 | 土師器 甕 | +3 一部欠損 | 口底 17.2 7.2 | 高 27.4 22.3 | 胴 | 粗砂粒・角閃・長 石/良好/にぶい黄 橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部、底部ともヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第72図 | 16 | 土師器 甕 | +41 口縁部～ 胴部下位片 | 口底 13.8 | 高 17.1 | 胴 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部から頸部下は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |

3 竪穴状遺構

2号竪穴状遺構(第74図、P L.18、第16表)

位置 25S・T-20グリッド

一部が段丘崖により削平されている。南西部分は丸みを帯びる可能性があるが、北東部分は角を持ち、長方形に近い形状である。残存する深さも浅い。底面はほぼ平らで、地形に沿って南西部分が低くなっている。埋没土の上層は浅間B軽石混土層で、自然埋没土と考えられる。遺物は少量出土するが、流れ込みと考えられる。規模は長軸389cm・短軸254cm・深さ9cmを測る。



第74図 2区2号竪穴状遺構と出土遺物

第16表 2区2号竪穴状遺構出土遺物

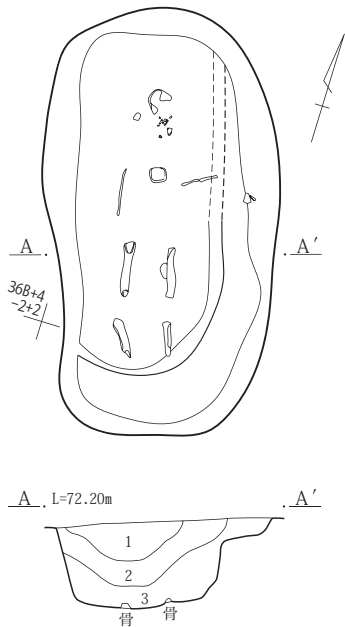
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|-------------|-------------|-----|-------------|----|---|----------|----|
| | | | | 径 | 厚 | 重 | | | |
| 第74図 PL.179 | 1 | 石製模造品 白玉 | +5 | 1.3 | 0.3 0.49 | 滑石 | 上・下面とも比較的丁寧に研磨する。体部整形は粗く面取り様で、形状を整える程度。 | 扁平碟 | |

4 墓

1号墓(第75図、P L.18)

位置 36B・C-2グリッド

規模は長軸225cm・短軸127cm・深さ45cmを測る。やや不整形であるが、北西-南東に長い長方形を呈する。主軸方向はN-20°-W。掘り込みは東壁がやや緩やかである。底面はほぼ平らに掘り込まれ、頭部を北にして伸展葬で埋葬されている。人骨の遺存状態はやや良好で、頭蓋骨から大腿骨までの大きめのものが残存している。鑑定の結果(第4章第1節)30歳代の女性の土葬人骨とされる。遺物は東壁の立ち上がり付近から少量出土するが、流れ込みの可能性もある。時期は不明だが、中世以降であろう。



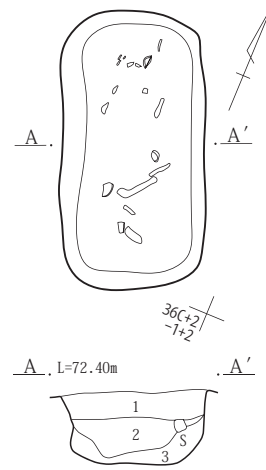
1号墓

- 1 黒褐色土 しまる。砂質土。灰褐色土ブロックをやや多量に含む。
- 2 灰褐色土 しまる。砂質土。
- 3 暗褐色土 しまる。砂質土。褐色土ブロックをやや多量に含む。

2号墓(第75図、P L.18)

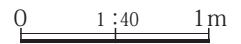
位置 36C-1グリッド

規模は長軸147cm・短軸77cm・深さ38cmを測る。北西-南東に長い長方形を呈し、壁の立ち上がりはやや急である。主軸方向はN-21°-W。底面はほぼ平らに掘り込まれ、頭部を北にして足の膝を西に向けて緩く折り曲げた状態で埋葬されている。人骨の遺存状態はやや良好で、頭蓋骨から大腿骨までの大きめのものが残存している。鑑定の結果(第4章第1節)40歳代の男性の土葬人骨とされる。遺物は人骨周辺の底面から少量出土するが、重複する13号住居の遺物の可能性が高い。時期は不明だが、中世以降であろう。



2号墓

- 1 暗褐色土 硬くしまる。白色粒子多量、灰褐色土ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 しまる。砂質土。灰褐色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ロームブロックを少量含む。



第75図 2区1・2号墓

5 土坑

本時期の土坑は浅間B軽石混土層を覆土としており、掘り込みがⅢ層より始まることから中世以降である。

1号土坑(第76図、P L.18)

位置 26C-20グリッド

円形を呈する。極めて浅く、壁の立ち上がりは不明。埋没土は浅間B軽石混土層より上層に堆積する暗褐色土。規模は長径73cm・短径70cm・深さ5cm。遺物は出土しなかった。

2号土坑(第76図、P L.18)

位置 26C-20グリッド

僅かに東西に長い、ほぼ円形を呈する。底面はほぼ平らで、壁は斜めに立ち上がる。埋没土は浅間B軽石混土層である。規模は長径118cm・短径101cm・深さ33cm。遺物は出土しなかった。

3号土坑(第76図、P L.18)

位置 26C-20グリッド

ほぼ円形を呈する。底面はほぼ平らで、壁は垂直ぎみに立ち上がる。埋没土は浅間B軽石混土層である。規模は長径113cm・短径109cm・深さ21cm。遺物は出土しなかった。

4号土坑(第76図、P L.19)

位置 26A-20グリッド

ほぼ円形を呈する。底面はほぼ平らで、壁は斜めに立ち上がる。埋没土は浅間B軽石混土層である。規模は長径79cm・短径77cm・深さ15cm。遺物は出土しなかった。

8号土坑(第76図、P L.19)

位置 25T・26A-16グリッド

やや不整の円形を呈する。底面は平らであるが、地形と同様に西に傾斜している。壁は斜めに立ち上がる。埋没土には白色粒子を多量に含む黒褐色土があることから中世以降と考える。規模は長径120cm・短径104cm・深さ11cm。遺物は出土しなかった。

9号土坑(第76図、P L.19)

位置 25Q-17グリッド

やや南北に長い楕円形を呈する。底面はほぼ平らであり、壁は斜めに立ち上がる。埋没土は浅間B軽石混土層である。規模は長径93cm・短径81cm・深さ6cm。遺物は出土しなかった。

10号土坑(第76図、P L.19)

位置 25Q-18グリッド

やや南北に長い楕円形を呈する。底面はほぼ平らであり、壁は垂直ぎみに立ち上がる。埋没土は浅間B軽石混土層である。規模は長径73cm・短径62cm・深さ9cm。遺物は出土しなかった。

11号土坑(第76図、P L.19)

位置 26C-19グリッド

僅かに東西に長いものの円形を呈する。断面形はV字に近く、底面付近には礫が詰まっている。埋没土は、中央に柱の跡が残り、底面を根固めの礫が密集し、その上はロームブロック等の混じる土で固めている。柱自体は残存していないが、その痕跡から直径約40cmの柱であったと考えられ、抜き取られた痕跡はない。また、周辺には同様の土坑はなく、建物であったかどうかも含めて、本土坑の性格は不明である。規模は長径216cm・短径202cm・深さ182cmを測る。

12号土坑(第77図、P L.19)

位置 36C-3グリッド

北部分が調査区外にあり、全容がわからない。検出部分では円形に近い角がある。掘り込みは円筒形であり、底面はほぼ平らである。埋没土にはロームブロックなどが混じるが、Ⅲ層を掘り込んで造られており、中世以降に属する。規模は径124cm以上・深さ103cmを測る。

13号土坑(第76図、P L.19)

位置 26B-19・20グリッド

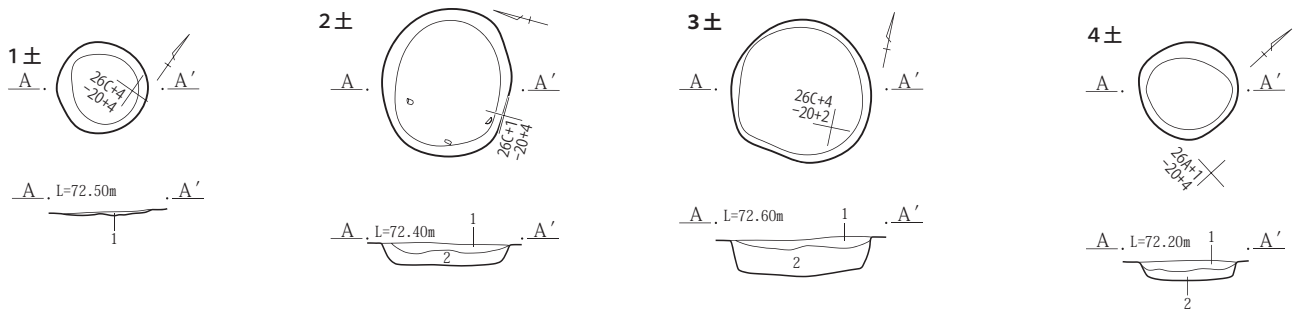
遺構確認が困難な土層であったことから、南部分の立ち上がりが確認できていないが、不整な円形を呈する。底面はほぼ平らで、壁は斜めに立ち上がる。埋没土は暗褐色土で、掘り込み面から、この時期と考えた。規模は長径102cm以上・短径84cm・深さ33cmを測る。

14号土坑(第77図、P L.20)

位置 25Q-19グリッド

南端が15号土坑と重複して壊されているが、南北に長い不整形な楕円形を呈する。底面は凹凸が多く、整っていない。壁は斜めに立ち上がる。埋没土に炭化物が混じる。規模は長軸208cm以上・短軸144cm・深さ20cmを測る。

第3章 発掘調査の記録

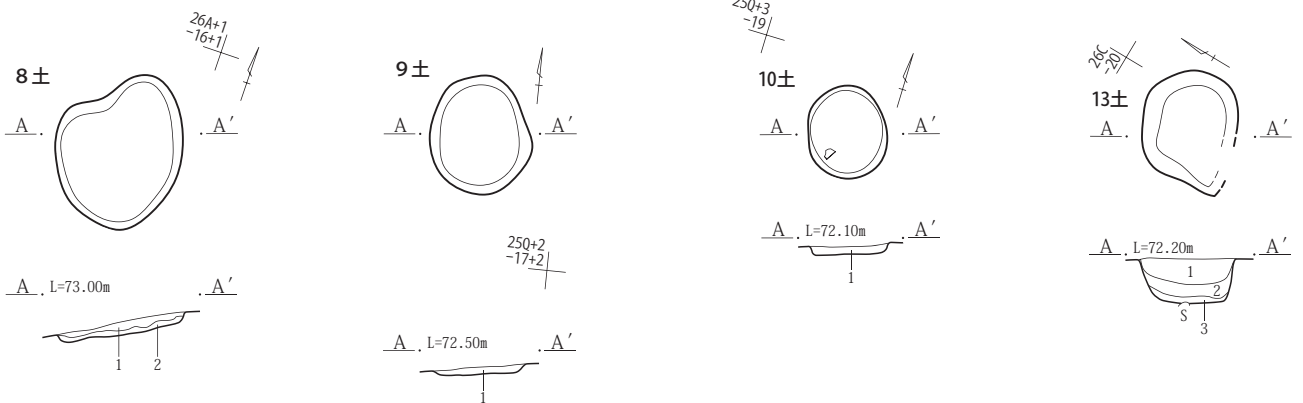


1～3号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子・炭化物粒子・茶褐色土ブロックを含む。
- 2 灰褐色土 軟らかい。さらさらしている。浅間B軽石多量、茶褐色土ブロックを少量含む。

4号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。浅間B軽石を少量含む。



8号土坑

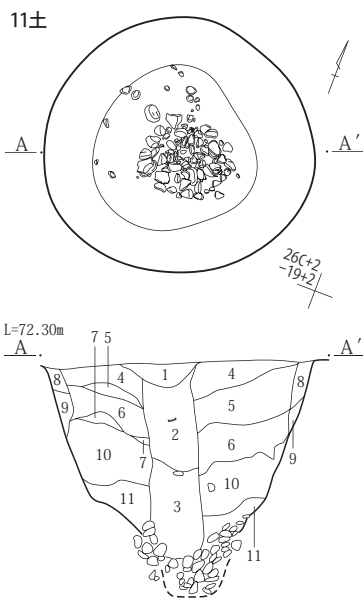
- 1 黒褐色土 硬くしまる。白色粒子・暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。白色粒子を含む。

9・10号土坑

- 1 灰褐色土 さらさらしている。浅間B軽石多量、暗赤褐色土ブロックを少量含む。

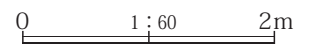
13号土坑

- 1 暗褐色土 硬くしまる。炭化物・焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。炭化物・焼土粒子を多量に含む。
- 3 茶褐色土 やや硬くしまる。



11号土坑

- 1 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を微量に含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ロームブロックをやや多量、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかい。粘性非常にあり。ローム粒子少量、炭化物・礫を含む。
- 4 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子少量、白色粒子・炭化物粒子を微量に含む。
- 5 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ロームブロックをやや多量、炭化物粒子を微量に含む。
- 6 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。ロームブロックを多量、炭化物粒子を微量に含む。
- 7 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。
- 8 暗褐色土 硬くしまる。
- 9 褐色土 硬くしまる。白色粒子を微量に含む。
- 10 黄褐色土 ややしまる。粘性あり。ロームブロック多量、暗褐色土ブロックをやや多量に含む。
- 11 黄褐色土 しまる。ロームブロックを多量含む。



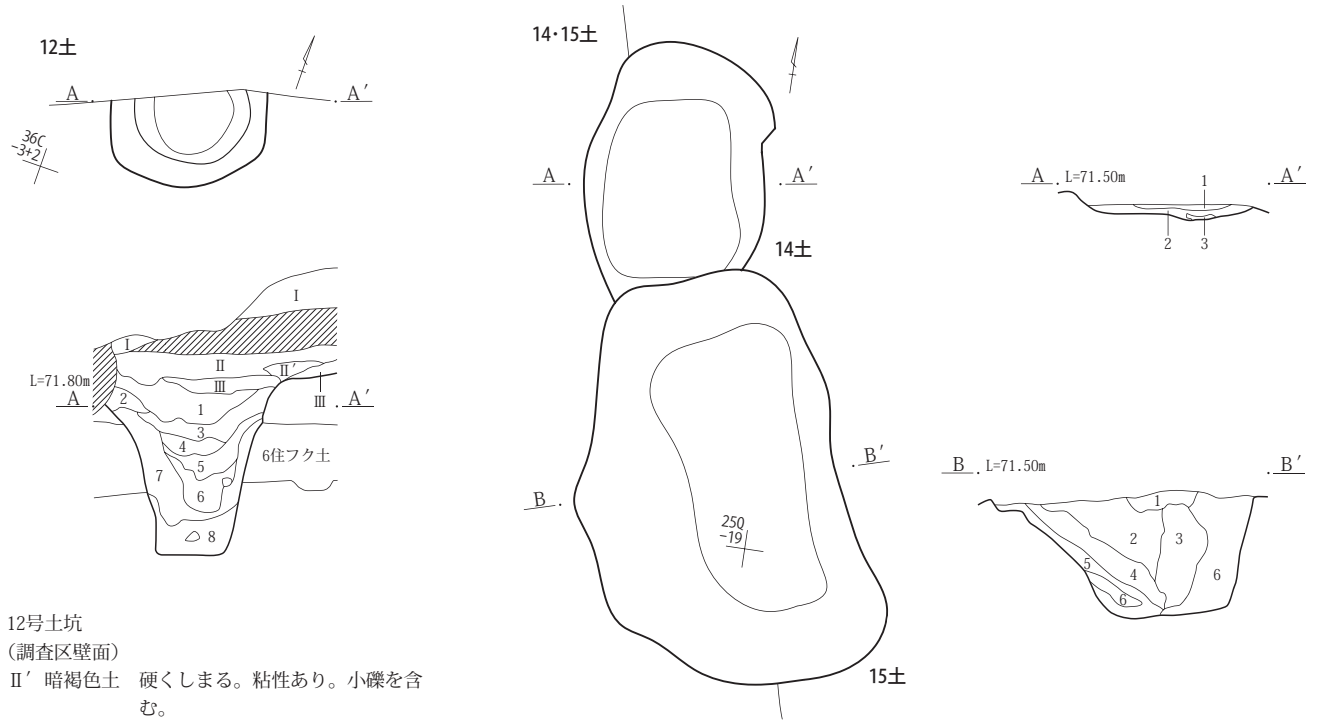
第76図 2区土坑(1)

15号土坑(第77図、P L.20)

位置 25P・Q-18・19グリッド

南北に長い不整形な楕円形を呈する。底面はやや凹凸がある。壁は斜めに立ち上がる。埋没土は様々な土層がブロックとして混じっており、短時間で埋め戻されたと考えられる。

えられる。時期は、埋没土の状況から、近世以降と考えられる。規模は長軸332cm・短軸206cm・深さ101cmを測る。遺物の多くは、重複している8号住居のものと考えられる。



12号土坑

(調査区壁面)

II' 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。小礫を含む。

- 1 暗褐色土 しまる。砂質土。ロームブロックをやや多量、黄褐色土粒子を微量に含む。
- 2 暗褐色土 しまる。砂質土。黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土 しまる。砂質土。暗褐色土ブロックをやや多量、ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 しまる。粘性あり。黒褐色土ブロックをやや多量に含む。
- 5 黒褐色土 ややしまる。暗褐色土ブロックを微量に含む。
- 6 黒褐色土 ややしまる。砂質土。黒褐色土とロームブロックの混土。
- 7 黒褐色土 砂質土。暗褐色土ブロックをやや多量、ローム粒子少量含む。
- 8 暗褐色土 しまる。粘性あり。ロームブロックを少量含む。

14号土坑

- 1 暗褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 しまる。粘性あり。黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 炭化物層 軟らかい。粘性あり。

15号土坑

- 1 灰褐色土 しまる。粘性あり。暗褐色土ブロック・酸化鉄層を含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 3 褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子・酸化鉄層を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 5 黒褐色土 軟らかい。粘性あり。暗褐色土ブロック・黄褐色土粒子を含む。
- 6 黄褐色土 軟らかい。粘性あり。暗褐色土ブロックを含む。

第77図 2区土坑(2)

6 井戸

1号井戸(第78図、P L.20)

位置 25T-19・20グリッド

確認面形状と規模 円形。長径110cm・短径107cm

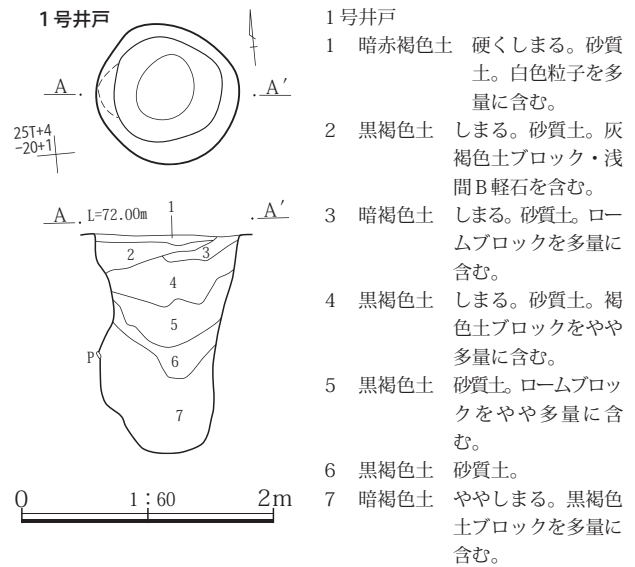
底面形状と規模 楕円形。長径53cm・短径44cm

断面形 円筒形。深さ172cm

埋没状況 下層は黒褐色土ブロックの混ざる暗褐色土で一気に埋め、中～上層もロームブロックなどが混ざる土で埋めていることから、人為的な埋没土と考える。

遺物 出土していない。

時期 不明。

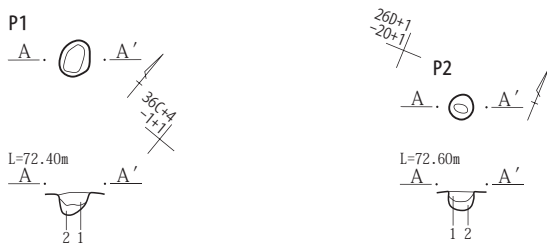
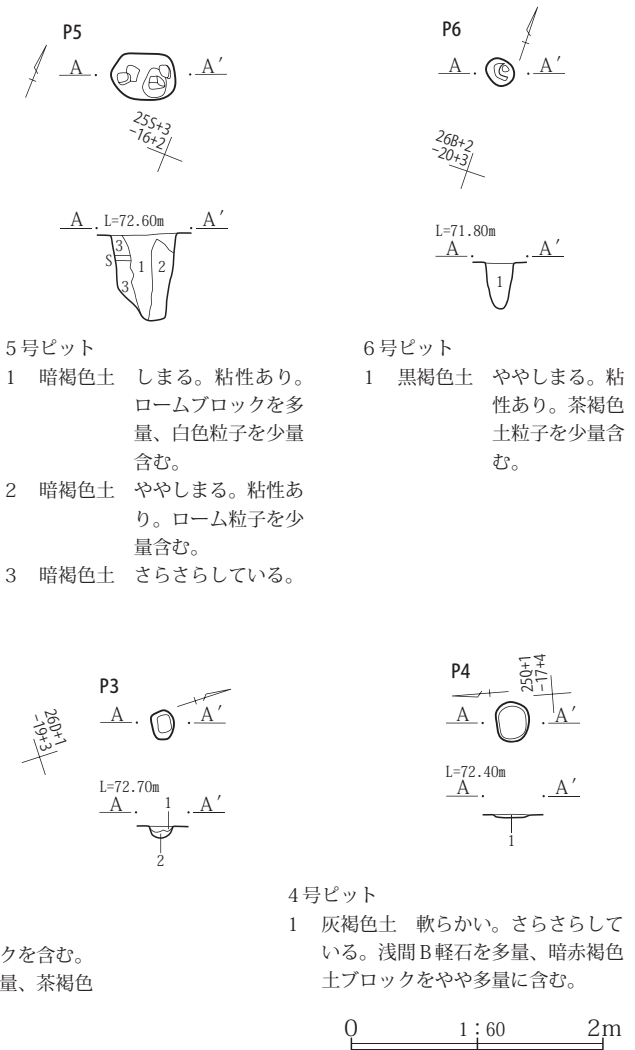


第78図 2区1号井戸

7 ピット

1～4号ピットは1面で確認され、埋没土は浅間B軽石混土層である。2・3号ピットは比較的近い距離にあり、ほぼ同規模であるが、他にピットがなく、掘立柱建物として検討ができない。

5・6号ピットは、2面で確認されたことから古墳時代～平安時代に比定する。しかし、遺物等がなく、孤立したピットであり、性格等は不明である。

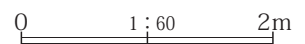


1～3号ピット

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。炭化物粒子・茶褐色土ブロックを含む。
- 2 灰褐色土 軟らかい。さらさらしている。浅間B軽石を多量、茶褐色土ブロックを少量含む。

4号ピット

- 1 灰褐色土 軟らかい。さらさらしている。浅間B軽石を多量、暗赤褐色土ブロックをやや多量に含む。



第79図 2区1～6号ピット

8 溝

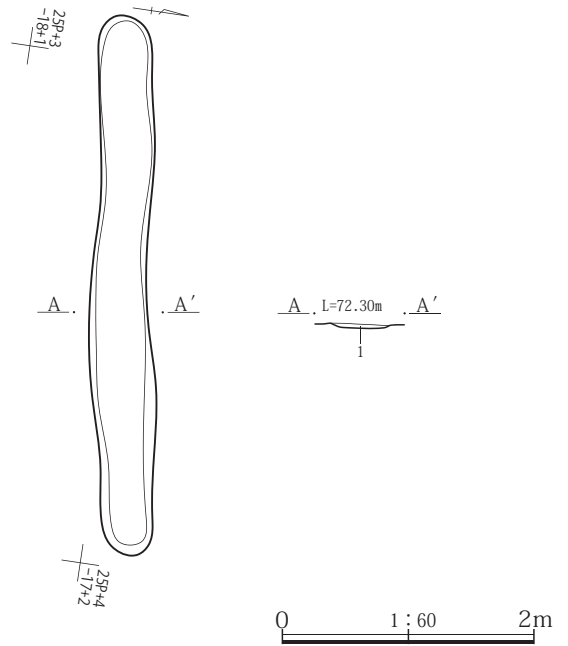
1号溝(第80図、P L .20)

位置 25P-17・18グリッド

平面形態は、ほぼ直線状。断面形は逆台形と考えられるが極めて浅い。規模は長さ4.29m・幅52cm・深さ8cmを測る。走行方位はN-81°-E。遺物は出土しなかった。確認面から中近世に比定される。

1号溝

1 暗褐色土 硬くしまる。砂質土。灰褐色土ブロック多量、白色粒子を少量含む。



第80図 2区1号溝

第3節 3区の遺構と遺物(1)

1 概要

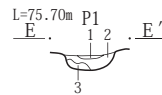
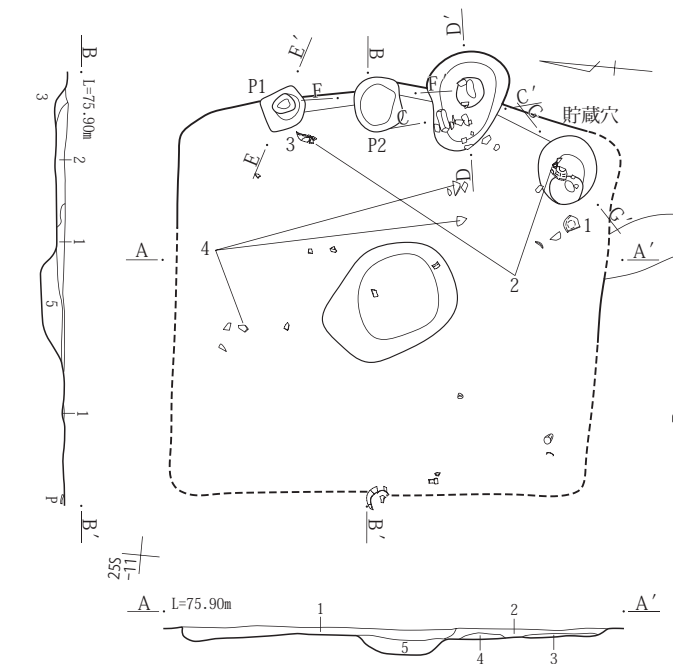
3区では調査区全体に、縄文時代から平安時代に及ぶ
 竪穴住居179軒が検出され、それに伴う土坑・溝も多く
 分布している。調査区の東半部では、これと重複して中
 世の区画遺構2か所(うち1か所は屋敷)とその関連遺構
 群が検出されたため、分離して次節で扱うこととした。
 ここでは、縄文時代から平安時代の遺構と、近世以降を
 主に扱うこととする。なお、時期不明の遺構は、区画遺
 構内に属する場合、基本的に次節とし、それ以外は本節
 で扱う。

2 竪穴住居

3区から調査の段階で179軒の住居が検出されている。
 分布は調査区全域にわたるが、とりわけ西側に密集して
 いる。個々の住居番号は調査区ごとに付けた番号をその
 まま使用したが、整理作業の過程を経て欠番となったも
 のもある(凡例参照)。時代別では、縄文時代1軒、4・
 5世紀代の住居10軒(うち1軒は6世紀まで)、6世紀代
 の住居は53軒(うち3軒は7世紀まで)、7世紀代の住居
 38軒、古墳時代の住居17軒、8世紀代の住居7軒、9世
 紀代の住居8軒、10世紀代の住居13軒、時期不明29軒で
 ある。

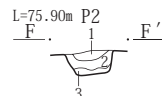
(1)住居

1号住居(第81・82図、P.L.22・179、第17表)



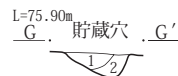
P 1

- 1 暗褐色土 やや軟らかくてしまり良い。
- 2 暗褐色土 やや軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を少量含む。
- 3 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。



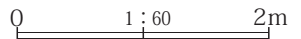
P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや軟らかくてしまり良い。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物をやや多く含む。



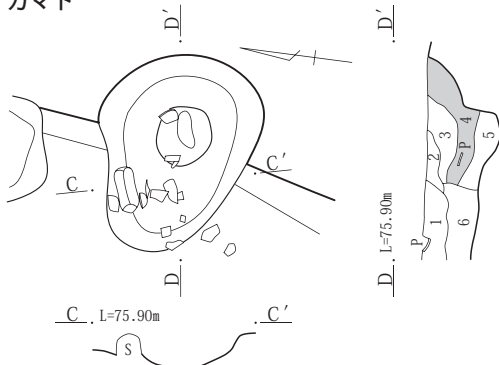
貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや軟らかくしまらない。黄白色土・黄褐色土ブロックを多く含む。



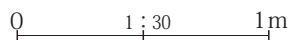
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色軽石、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 やや軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

カマド



カマド

- 1 黄褐色土 硬くしまる。ロームブロックを多量に、焼土粒子を少量含む。
- 2 茶褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 3 黒褐色土 硬くしまる。焼土ブロック、ロームブロックを含む。
- 4 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量に、ローム粒子を含む。
- 5 黒褐色土 やや軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、ロームブロックを少量含む。
- 6 黒褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土ブロックを含む。



第81図 3区1号住居

位置 25R-10グリッド。

重複 なし。

形状 掘り込みは明瞭ではないが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-88°-E

規模 推定面積は9.91㎡。長辺(南北)3.37m、短辺(東西)3.23m、壁高はほとんど確認することはできなかったが、カマド周辺で約5cmほど残っていた。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されている。規模は長さ80cm、焚き口部の幅38cmである。カマド中央部から検出されたピットは支脚用のピットの可能性がある。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径55cm・短径46.5cm・深さ21.5cmの楕円形を呈する。土器片が出土している。

柱穴 ピット2基が検出されたが柱穴にはならない。P1は長径34cm・短径31cm・深さ29cm、埋没土は3層に分かれた。P2は長径43cm・短径36cm・深さ19cmを測り、埋没土は3層に分かれた。

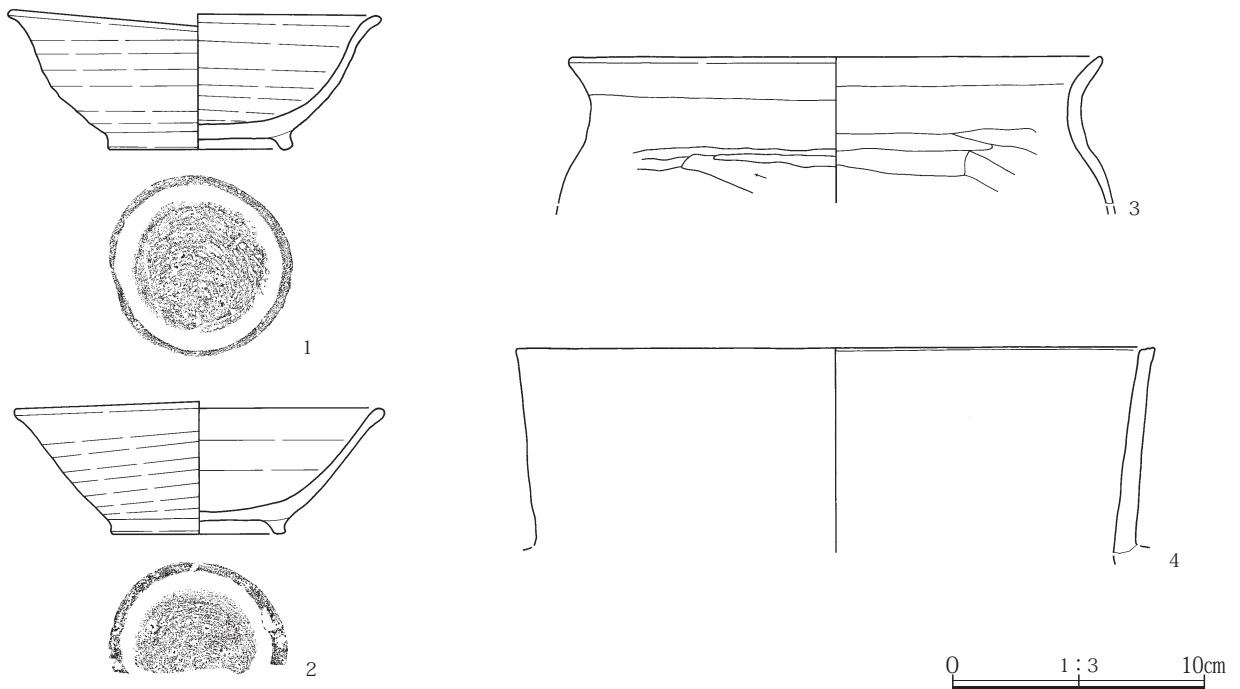
周溝 確認できなかった。

埋没土 確認面がほぼ床面であったために埋没土をほとんど検出することはできなかった。

掘り方 深さは5cm~10cmほどである。1層から4層は掘り方の埋没土になる。床面のほぼ中央から土坑が検出された。長径108cm・短径83cm・深さ6~15cmの楕円形を呈する。

出土遺物 全体的に遺物量は少ない。カマドと貯蔵穴周辺からの出土である。

時期 出土遺物から9世紀第4四半期に比定される。



第82図 3区1号住居出土遺物

第17表 3区1号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|-------------|--------------------|--------|-------------|----------|----------------------|-----------------------------------|----------|
| 第82図 PL.179 | 1 | 須恵器 高台付椀 | +9 3/4 | 口 底 | 14.5 7.0 | 高 5.5 | 粗砂粒・片岩/還元 焰・軟質/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は、底部切り離し後の付け高台。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第82図 | 2 | 須恵器 高台付椀 | +5 1/2 | 口 底 | 7.2 5.8 | 高 5.1 | 粗砂粒/還元焰軟 質/灰 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第82図 | 3 | 土師器 甕 | +8 口縁部~ 胴部上位 | 口 | 20.8 | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内面黒色に変色。 |
| 第82図 | 4 | 土師器 甕? | +20 口縁部片 | 口 | 24.8 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。 | |

2号住居(第83～85図、P.L.22・23・179、第18表)

位置 25S・T-7・8グリッド。

重複 68・158・162号住居より後出。7号住居と接する。

形状 住居南東部分に壁の不明瞭な箇所が認められるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-81°-E

規模 面積15.39㎡。長辺(北東～南西)、短辺(北西～南東)ともに4.4m、残存壁高は20cm。

床面 ほぼ平坦である。貼床にしている。

カマド 東壁中央やや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ144cm、焚き口部の幅61cmである。土器が出土している。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 ピット5基を検出した。このうちP1～P4までの4基が支柱穴になる。P1は長径31.5cm・短径27cm・深さ24cm、P2は長径31cm・短径28.5cm・深さ37cm、P3は長径36cm・短径32cm・深さ28.5cm、P4は長径53cm・短径37.5cm・深さ53.5cmである。P5は長径30.5cm・短径28cm・深さ26cmを測る。P1-P2間の距離は1.9m、P2-P3間距離2.15m、P3-P4間距離2m、P4-P1間距離2.35mを測る。

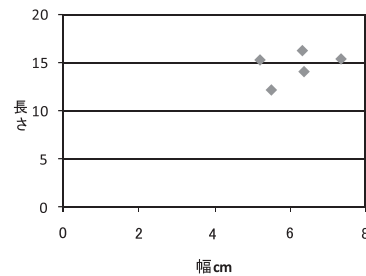
周溝 幅2.5cm～18.5cmの周溝が東壁のカマド南側を除いて検出されている。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居埋没土、5層は貼床、6～9層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に掘り下げられている。土坑2基が掘り方調査時にP1とP4の間から検出された。土坑1は長径・短径ともに100cm・深さ30cmのほぼ円形を呈する。土坑2は長径130cm・短径100cm・深さ20cmの不整形を呈する。

出土遺物 全体的に遺物量は少ない。土師器甕(第85図4)はカマドの構築材に使われ、奥壁に別個体(非掲載)も出土している。菰編石は5点出土し、住居南東隅床面に集中する。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

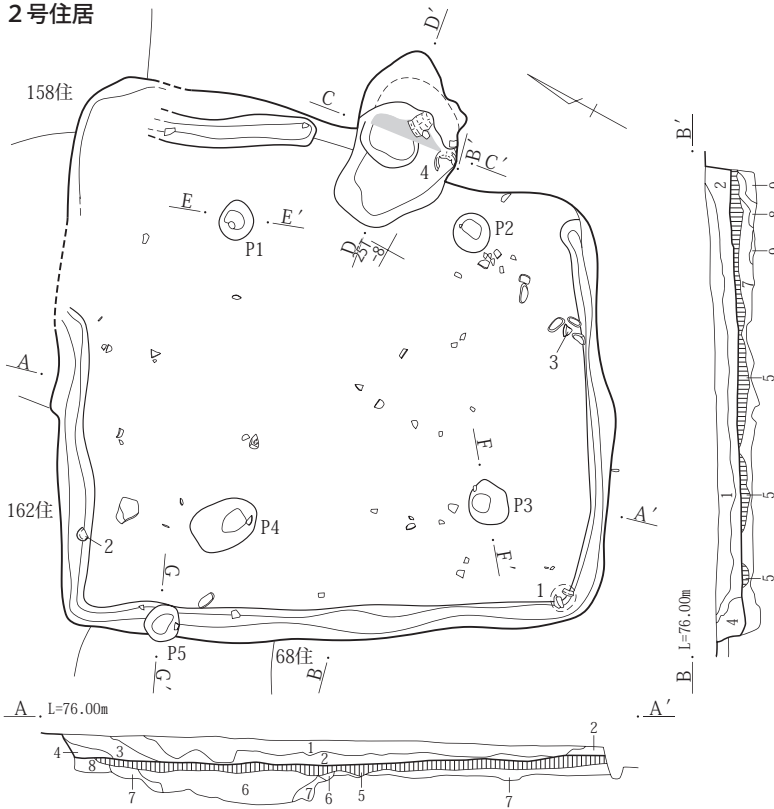


第83図 3区2号住居菰編石長幅比グラフ

第18表 3区2号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|--------------|--------------|------|--------------|--------|------------|--------------------|---------------------------------------|------------------------|
| | | | | 口 | 高さ | 厚 | 重さ(g) | | | |
| 第85図 | 1 | 土師器 杯 | 床直 1/4 | 口 | 9.8 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちへら削り。内面はナデと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第85図 PL.179 | 2 | 土師器 杯 | +11 口縁一部欠 | 口 | 11.4 | 高 | 4.0 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。黒色の付着物、漆塗りか。 |
| 第85図 | 3 | 土師器 杯 | 床直 1/4 | 口 | 13.6 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちへら削り。内面はへらナデ。 | 外面底部に炭素吸着、内外面とも磨滅。 |
| 第85図 PL.179 | 4 | 土師器 甕 | カマド 底部欠損 | 口 | 17.9 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位に3回に分けてへら削り。最下位は縦横位。 | 被熱・脆弱・内外面炭素吸着。 |
| 第85図 | 5 | 石製模造品 剣形? | | 長幅 | (3.4) 1.7 | 厚 重 | 0.6 5.5 | 滑石 | 概形を粗く研磨整形して、形状を長方形に整える。径2mmの孔を片側穿孔する。 | |
| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 | 備考 | | |
| 非掲載 | 6 | 菰編石 | 5.2 | 15.1 | 4.1 | 549.9 | 変質安山岩 | | | |
| 非掲載 | 7 | 菰編石 | 6.3 | 14.0 | 3.5 | 468.8 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 8 | 菰編石 | 6.3 | 15.9 | 4.2 | 567.2 | 雲母石英片岩 | | | |
| 非掲載 | 9 | 菰編石 | 7.3 | 15.2 | 4.9 | 787.2 | 変質安山岩 | | | |
| 非掲載 | 10 | 菰編石 | 5.5 | 12.0 | 2.1 | 243.4 | 雲母石英片岩 | | | |

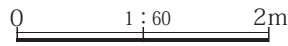
2号住居



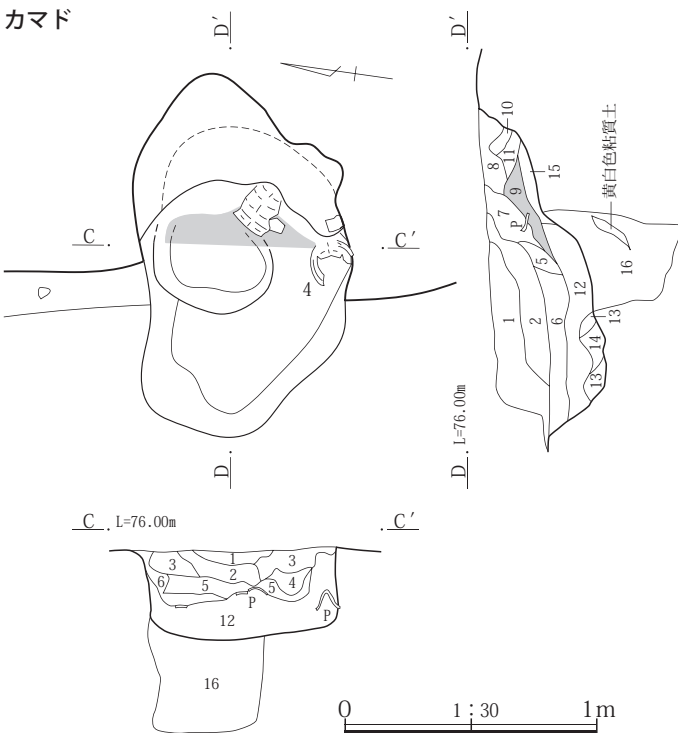
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を多量に、炭化物を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。1、2層より暗い色調。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子を多量に、白色軽石、焼土粒子を含む。貼床。
- 6 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームを多量に、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 7 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 8 黄褐色土 硬くしまる。ローム主体で、白色粒子、炭化物粒子を含む。
- 9 褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土ブロックを多量に含む。

- P 1
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
 - 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

- P 3
- 1 灰褐色土 ややしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- P 5
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 - 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で暗褐色土を少量含む。



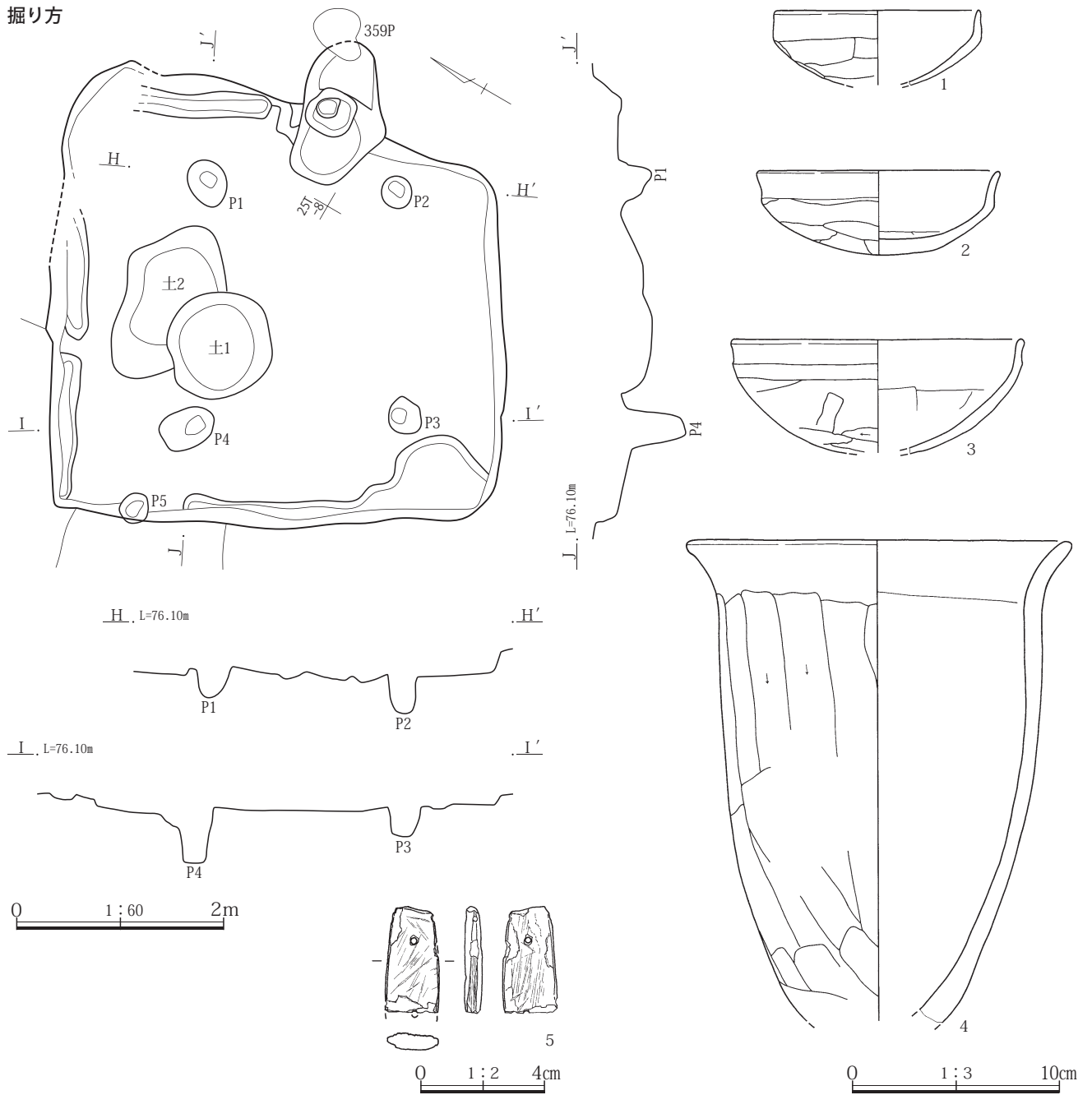
カマド



- カマド
- 1 暗褐色土 住居の1層と同じ。
 - 2 暗褐色土 住居の2層と同じ。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり、ロームブロック、焼土ブロック含む。
 - 4 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土を多量に、ローム粒子を含む。
 - 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、灰を含む。
 - 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、炭化物を含む。
 - 7 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームを多量に、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
 - 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を多量に含む。
 - 9 焼土
 - 10 黄褐色土 軟らかくてしまり悪い。ロームを主体に暗褐色土を含む。
 - 11 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
 - 12 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、黄白色土ブロックを多量に含む。
 - 13 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色土主体。
 - 14 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、黄白色土粒子を含む。
 - 15 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックをやや多く含む。
 - 16 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土を含む。

第84図 3区2号住居

掘り方



第85図 3区2号住居掘り方と出土遺物

4号住居(第86～89図、P L.23・24・180、第19表)

平成20年度・21年度に分かれて調査された。

位置 25S・T-4・5グリッド。

重複 54号土坑より前出。14号住居と接する。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-72°-E

規模 推定面積は11.43㎡。長辺(東西)3.78m、短辺(南北)3.44m、残存壁高は25cmである。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁のほぼ中央に設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ123cm、焚き口部の幅15cm、片袖は明瞭に残っていた。支脚となる石が出土している。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径68.5cm・短径59cm・深さ43.5cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居埋没土で、4層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に浅い掘り下げが行われている。掘り方の深さは約5cmである。住居中央部にやや大きな掘り込みが認められる。

出土遺物 床面上から埋没土にかけて遺物の出土が多い。土師器甕(第87図7、第88図9)・甑(第88図11)が住居中央部でまとまって出土している。石製模造品勾玉(第89図16)は中央部南西寄りでも出土する。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

5号住居(第90図、P L.25、第20表)

位置 25Q・R-8グリッド。

重複 62・69・73・74号住居と重複している。

形状 調査区外に延びているために形状は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は7.56㎡。長辺(東西)3.37m、短辺(南北)3.01m、残存壁高は15cmである。

床面 ほぼ平坦である。貼床が認められる。

カマド 調査範囲から検出されていないが、断面図に黄白色粘質土が認められることから調査区外にカマドの存

在が予想される。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と考えられる。1～3層は住居埋没土で、4層は貼床、5～7層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さは約6～31cmを測る。ピット3基が検出された。P1は長径41.5cm・短径28.5cm・深さ30cm、P2は長径27.5cm・短径26cm・深さ31.5cm、P3は長径39cm・短径36.5cm・深さ11cm、住居西壁下から長径83cm・短径78cm・深さ13.5cmの土坑が検出されている。

出土遺物 床直上から散漫に出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

6号住居(第91・92図、P L.25・26・181、第21表)

位置 25R-6・7、25S-6グリッド。

重複 56・62・63号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-100°-E

規模 面積は13.91㎡。長辺(東西)4.42m、短辺(南北)3.87m、残存壁高は17～25cmである。

床面 ほぼ平坦である。貼床にしている。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ148cm、焚き口部の幅44cmである。袖石2個が残っている。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

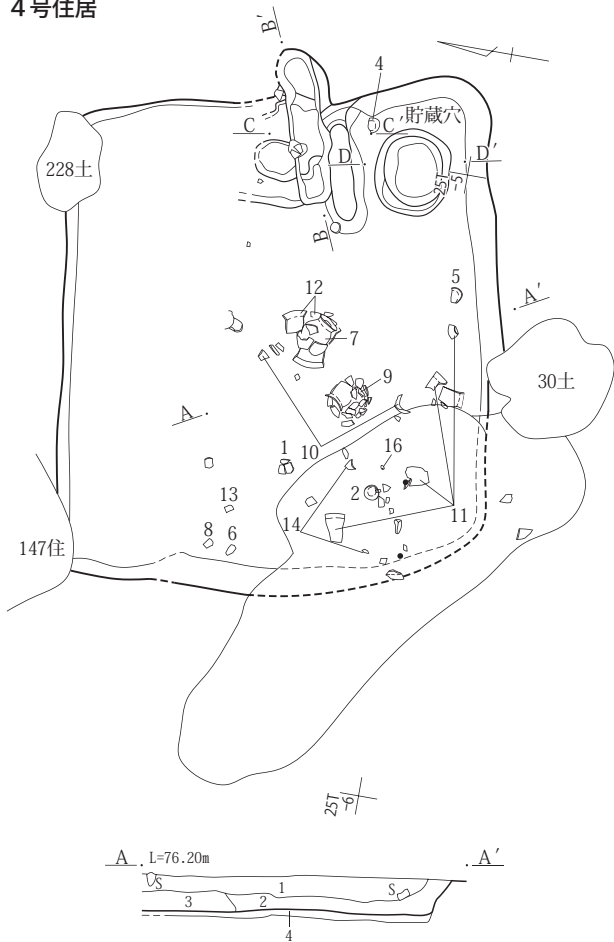
埋没土 自然埋没土と考えられる。1～4層は住居埋没土で、5層は貼床になる。6～13層は掘り方充填土である。

掘り方 住居の北半分で深く掘り下げられて凹凸が激しい。掘り方の深さは約6～35cmを測る。

出土遺物 床直上から散漫に出土している。カマド周辺からも出土している。

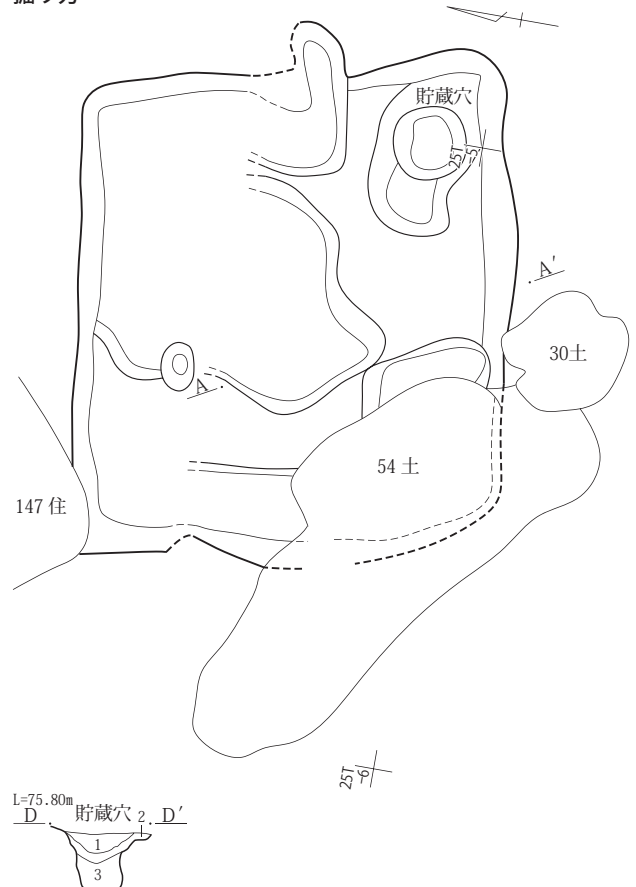
時期 出土遺物から8世紀前半に比定される。

4号住居

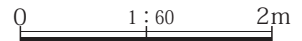


- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色粒子を含む。
- 2 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に、炭化物を少量含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

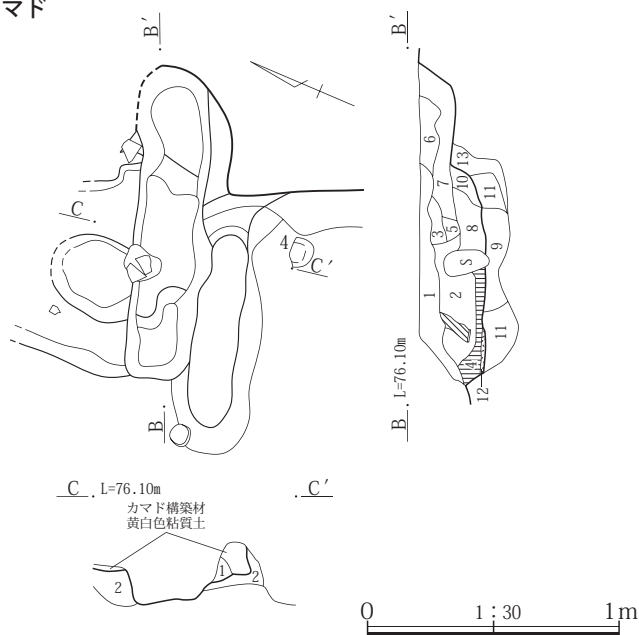
掘り方



- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。ローム粒子をごく少量含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームと暗褐色土の混土。



カマド



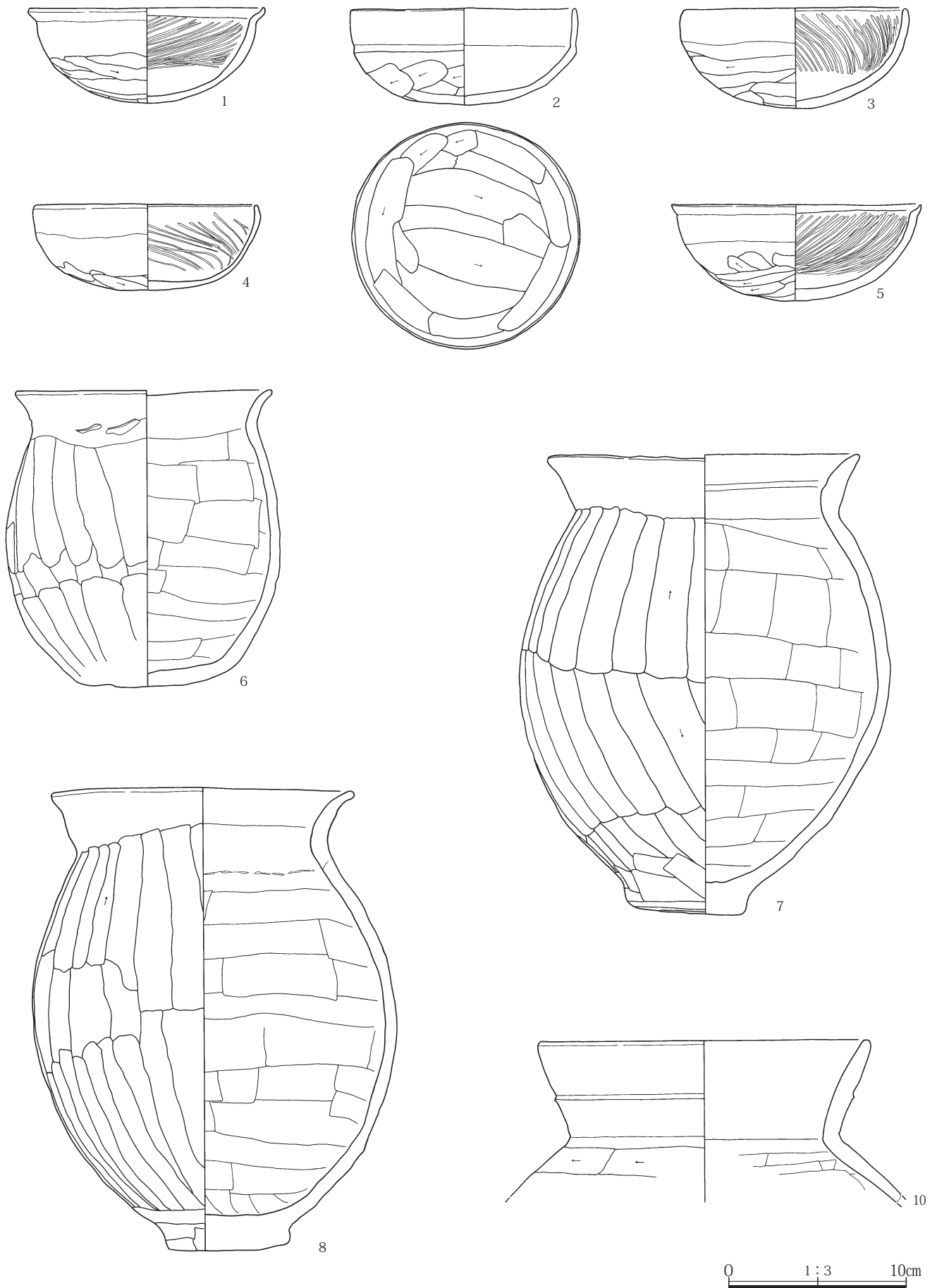
カマド(B-B')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を多量に含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームを多量に、焼土粒子を含む。
- 4 赤褐色土 軟らかい。焼土を多量に、ローム粒子を含む。
- 5 黄白色土 軟らかくて粘性あり。黄白色土と暗褐色土の混土。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。上層よりも暗い色調。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土を多量に、ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 9 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土粒子、灰を含む。
- 10 黄褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土を主体とする。
- 11 暗褐色土 軟らかくてしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 12 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。灰を主体とする。
- 13 黄褐色土 やや硬くしまる。カマド構築材。

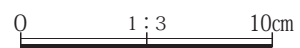
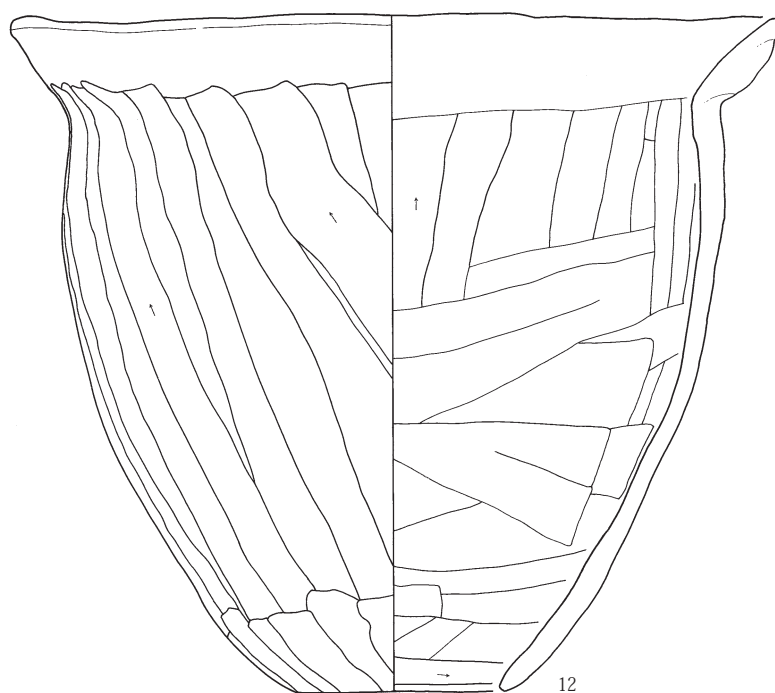
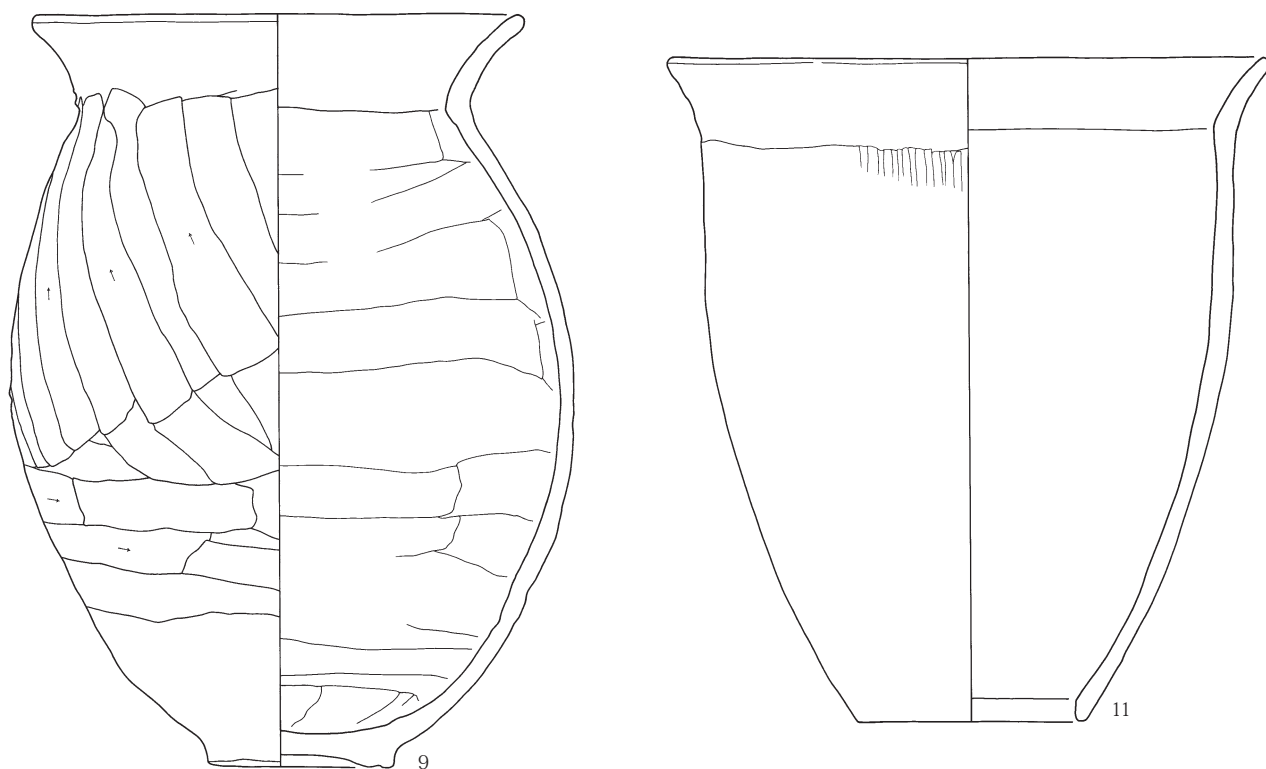
カマド(C-C')

- 1 褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を多量にローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。住居掘り方フク土。

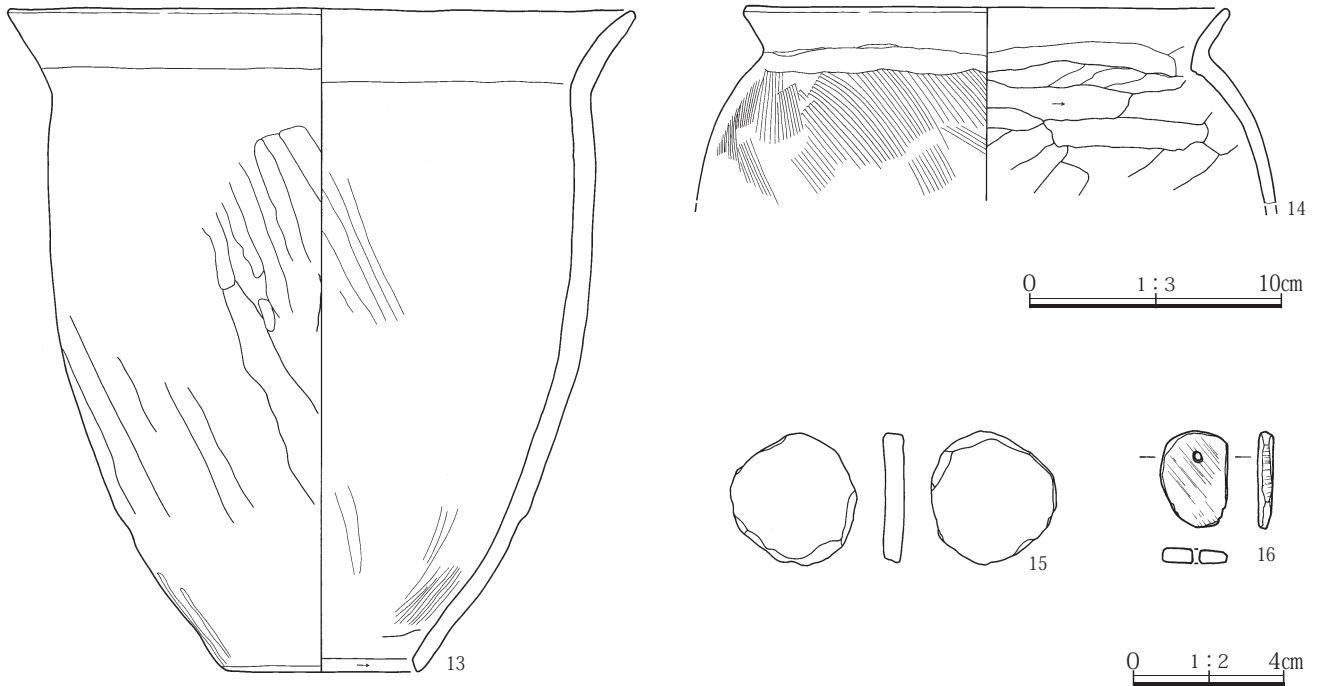
第86図 3区4号住居



第87図 3区4号住居出土遺物(1)



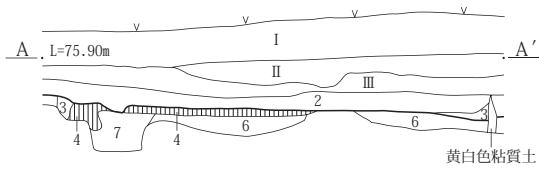
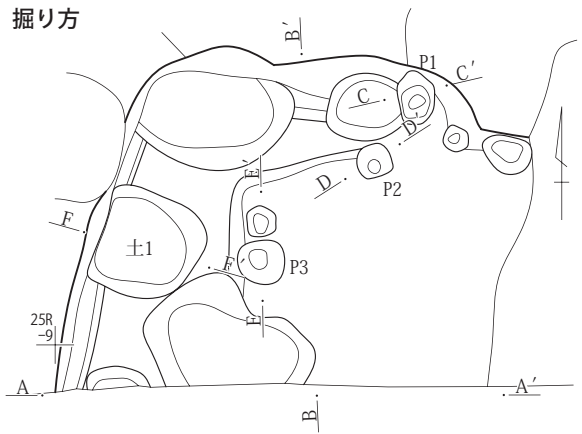
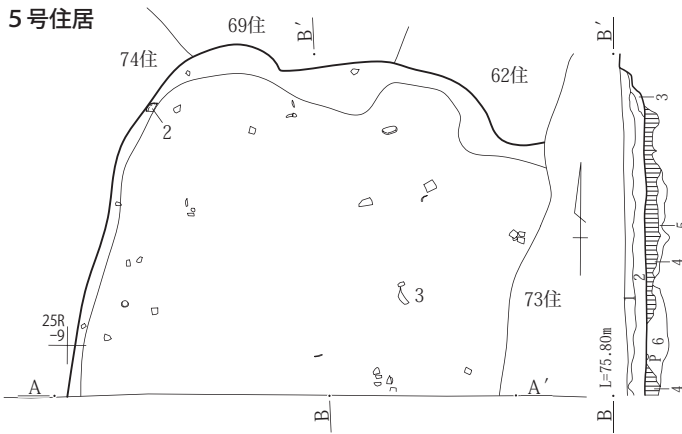
第88図 3区4号住居出土遺物(2)



第89図 3区4号住居出土遺物(3)

第19表 3区4号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|----------------|-----|-------------|---------------|--------|-------------|--------|--------------------|---------------------|---|--------------------|
| | | | | 口 | 高 | 底 | | | | |
| 第87図 | 1 | 土師器 杯 | +20 1/3 | 口 | 13.0 | 高 | 5.3 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上位がナデ、下位から底部は手持ちヘラ削り。内面上半は斜放射状にヘラ磨きを充填。下半はナデ。 | 外面底部中央に炭素吸着・黒斑状。 |
| 第87図 PL.180 | 2 | 土師器 杯 | +5 完形 | 口 | 12.3 | 高 稜 | 5.4 12.4 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)上位はナデ、中位から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第87図 PL.180 | 3 | 土師器 杯 | 口縁部僅かに 欠損 | 口 | 12.2 | 高 最 | 5.6 12.8 | 細砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第87図 PL.180 | 4 | 土師器 杯 | +2 2/3 | 口 | 12.2 | 高 最 | 4.7 12.6 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第87図 PL.180 | 5 | 土師器 杯 | +6 2/3 | 口 | 13.7 | 高 | 5.4 | 細砂粒/良好/赤褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第87図 PL.180 | 6 | 土師器 小型甕 | 掘り方 ほぼ完形 | 口 | 14.0 | 高 | 16.6 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。底部は平底であるが、ほとんど剥離。 | 被熱。下半部に炭素吸着・変色。 |
| 第87図 PL.180 | 7 | 土師器 甕 | +4 完形 | 口 底 | 17.2 6.4 | 高 | 25.7 | 小礫・粗砂粒/良好 /橙 | 口縁部は横ナデ。胴部下位は短く、上位・中位は長くヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。外面の一部に炭素吸着・黒斑状。 |
| 第87図 | 8 | 土師器 甕 | 床直 完形 | 口 底 | 16.5 6.7 | 高 | 25.6 | 小礫・粗砂粒/良好 /橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は3回に分けて縦位にヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面胴部に炭素吸着・煤と黒斑状。 |
| 第88図 PL.180 | 9 | 土師器 甕 | +5 胴部一部欠損 | 口 底 | 18.8 7.3 | 高 胴 | 29.6 22.0 | 細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ、胴部は上位から中位と底部はヘラ削り、下位はナデ。内面は底部から胴部はヘラナデ。 | |
| 第87図 | 10 | 土師器 甕 | +6 口縁部～胴部片 | 口 | 18.2 | | | 粗砂粒・片岩/良好 /橙 | 口縁部は中位に弱い稜を持つ横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第88図 PL.180 | 11 | 土師器 甕 | +7 4/5 | 口 底 | 23.2 8.8 | 高 孔 | 26.1 8.4 | 細砂粒/良好/浅黄 橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ。胴部は内外面とも器面磨滅のため単位不明。 | |
| 第88図 PL.181 | 12 | 土師器 甕 | +4 完形 | 口 底 | 29.8 8.3 | 高 | 26.6 | 小礫・粗砂粒/良好 /明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は上位から下位は縦位に長くヘラ削り。最下位にも縦位にヘラ削り。内面胴部上半部はヘラ削りを残す。以下は横位のヘラナデか。最下位に横位のヘラ削り。 | 外面炭素吸着・黒斑状。 |
| 第89図 | 13 | 土師器 甕 | 掘り方 1/4 | 口 底 | 24.4 7.4 | 高 | 26.0 | 粗砂粒/良好/赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り後、上位は縦位にヘラナデ。下位は縦位にヘラ磨き。内面胴部全体に縦位の磨きか。下端はヘラ削り。接点を有さない2点の破片から作図。 | 内外面炭素吸着・磨滅。 |
| 第89図 | 14 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～胴部片 | 口 | 18.8 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。肩部は右下に向けて斜横のハケ目(1cmに6本)。内面胴部最上位に指ナデ。以下は横位にヘラ削り。 | 被熱の為か外面炭素吸着。 |
| 第89図 | 15 | 土製品 土製円板 | 完形 | 口 | 3.5 | 厚 | 0.5 | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 外面はヘラ削り、内面はナデを施した胴部破片の周縁を二次調整している。 | |
| 第89図 PL.181 | 16 | 石製模造品 勾玉 | 床直 | 長 幅 | 2.6 1.8 | 厚 重 | 0.4 2.97 | 滑石 | 概形を円盤状に整えているが、右辺側のみ直線的に整形する。径2mm弱の孔を片側穿孔する。表裏面とも斜向する粗い線条痕を残す。 | |



- I 表土 浅間A軽石を多量に含む。
- II 暗褐色土 やや硬くしまる。白色軽石をやや多く含み、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- III 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。1層より暗い色調。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 硬くしまる。黄白色粘性土ブロック、ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色粒子とロームブロックを含む。
- 6 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。

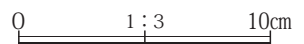
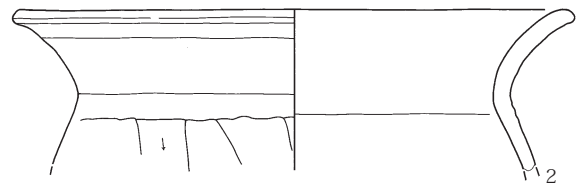
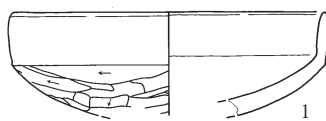
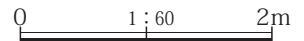


- P 1
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- P 2
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を含む。



- P 3
- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘質あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘質あり。黄白色粘質土粒子を多量に、焼土粒子を含む。

- 住居内土坑 1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

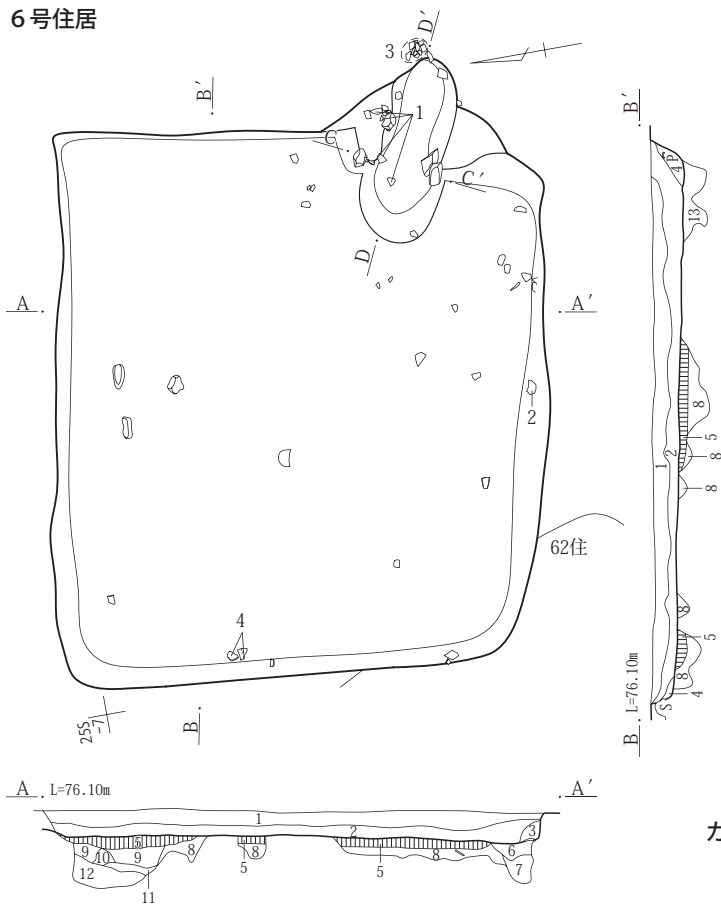


第90図 3区5号住居と出土遺物

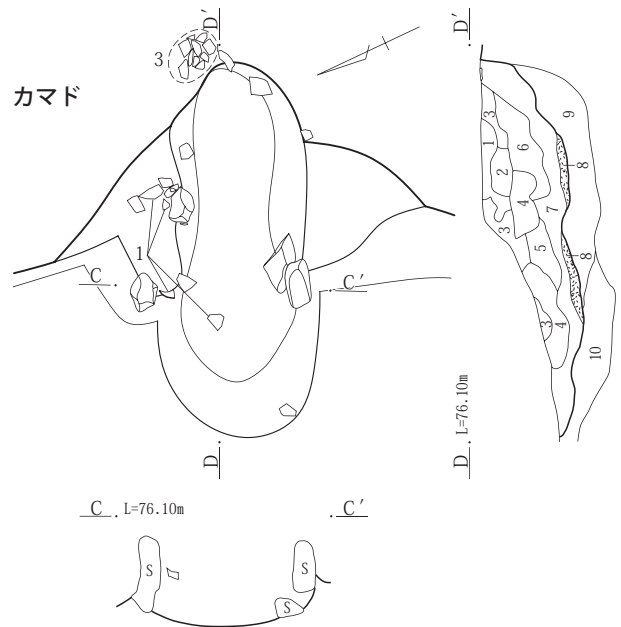
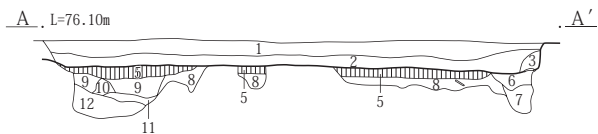
第20表 3区5号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|--------------|-----|------|--------------------|--|---------------|
| 第90図 | 1 | 土師器 杯 | +5 1/3 | □ | 12.3 | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも黒色。漆塗りか。 |
| 第90図 | 2 | 土師器 甕 | +11 口縁~胴部上位片 | □ | 21.4 | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は3回に分けて横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | やや被熱。 |

6号住居

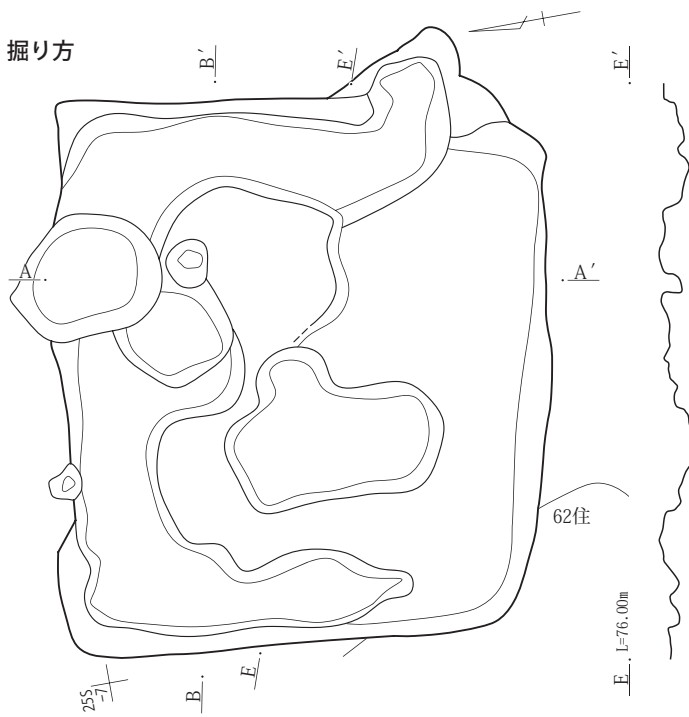


- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。1層よりも暗い色調。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子をやや多く含む。
- 4 黒褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子を多量に含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多量に、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土粒子を含む。
- 10 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 12 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。



- カマド
- 1 暗褐色土 やや硬くしまりサラサラしてる。白色粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子を含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子、焼土粒子を含む。
 - 4 黄白色粘質土 白色軽石を含む。カマド天井の崩落。
 - 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。白色軽石、焼土粒子を含む。
 - 6 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土を多量に含む。
 - 7 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック、炭化物、白色軽石を含む。
 - 8 灰
 - 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を多量に含む。
 - 10 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

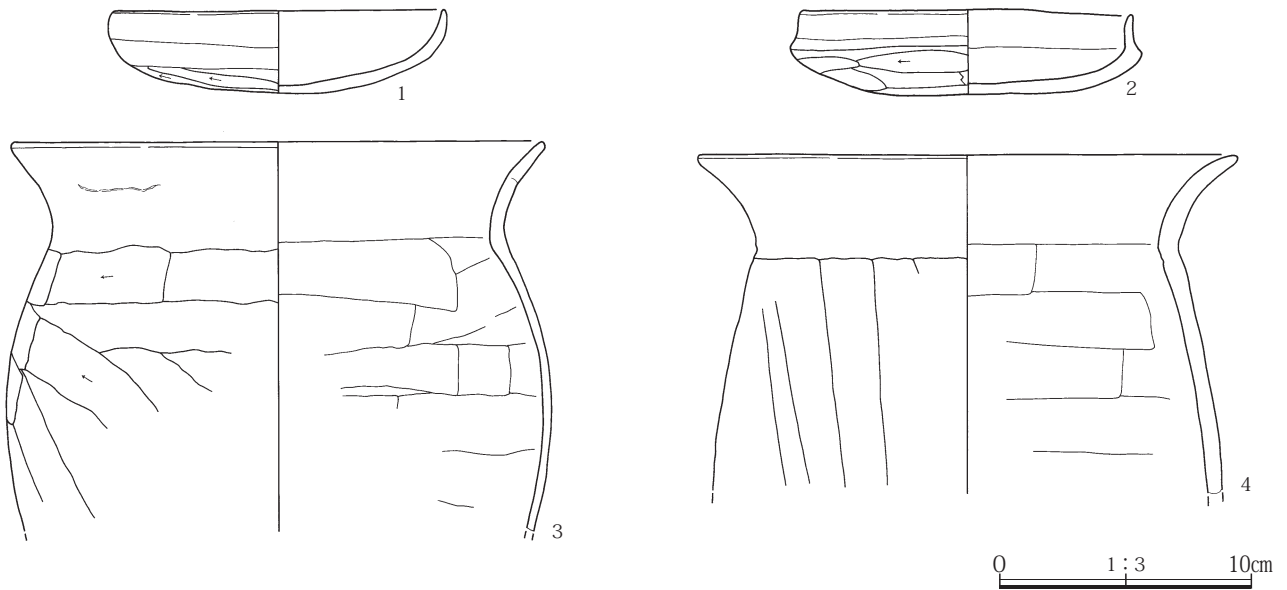
掘り方



0 1:60 2m

0 1:30 1m

第91図 3区6号住居



第92図 3区6号住居出土遺物

第21表 3区6号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|----------|---------------|-----|------|--------|--------------------|----------------------|---|
| 第92図 PL.181 | 1 | 土師器 杯 | カマド 3/4 | 口 | 13.0 | 高 | 3.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。 |
| 第92図 PL.181 | 2 | 土師器 杯 | +10 2/3 | 口 | 12.9 | 高 稜 | 3.3 13.8 | 細砂粒・ガラス質/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 |
| 第92図 | 3 | 土師器 甕 | カマド 口縁~胴部片 | 口 | 20.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位、斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。被熱・変色。 |
| 第92図 | 4 | 土師器 甕 | +9 口縁~胴部 | 口 | 20.8 | | | 細砂粒・雲母/良好/ /にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。内外面とも一部に炭素吸着。 |

7号住居(第93～95図、P L.26・181、第22表)

位置 25R・S-7・8グリッド。

重複 10号竪穴状遺構より前出。2・62・78号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-98～122°-E

規模 面積9.98㎡。長辺(南北)3.75m、短辺(東西)3.05m、残存壁高は4～27cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。床面調査時に検出された土坑1は長径92cm・短径66cm・深さ29cmの楕円形を呈する。

カマド 東壁の南隅に2基設置される。カマド1の燃焼部は壁を掘り込んで構築され、規模は長さ73cm、焚き口部の幅61cmである。袖石が据えられている。この袖石はカマド2と共通するものであり、そのあり方から判断するとカマド2構築の後にカマド1が構築されたものと思われる。埋没土は1～3・5～9・11層、12・13層は掘り方埋没土になる。7層は焼土である。カマド2の規模は長さ152cm、焚き口部の幅31cmである。煙道と煙り出しの穴が残っていた。確認面の煙り出しの穴の大きさは

長径35cm・短径23cmの楕円形を呈する。

貯蔵穴 床面南西隅から検出されたP1が貯蔵穴になるものと思われる。長径77.5cm・短径72.5cm・深さ34cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 明瞭な柱穴は確認できなかった。P2は長径45cm・短径41.5cm・深さ21cm、P3は長径95cm・短径68cm・深さ21.5cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～5層が住居埋没土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられていて凹凸が激しい。

出土遺物 床面で土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

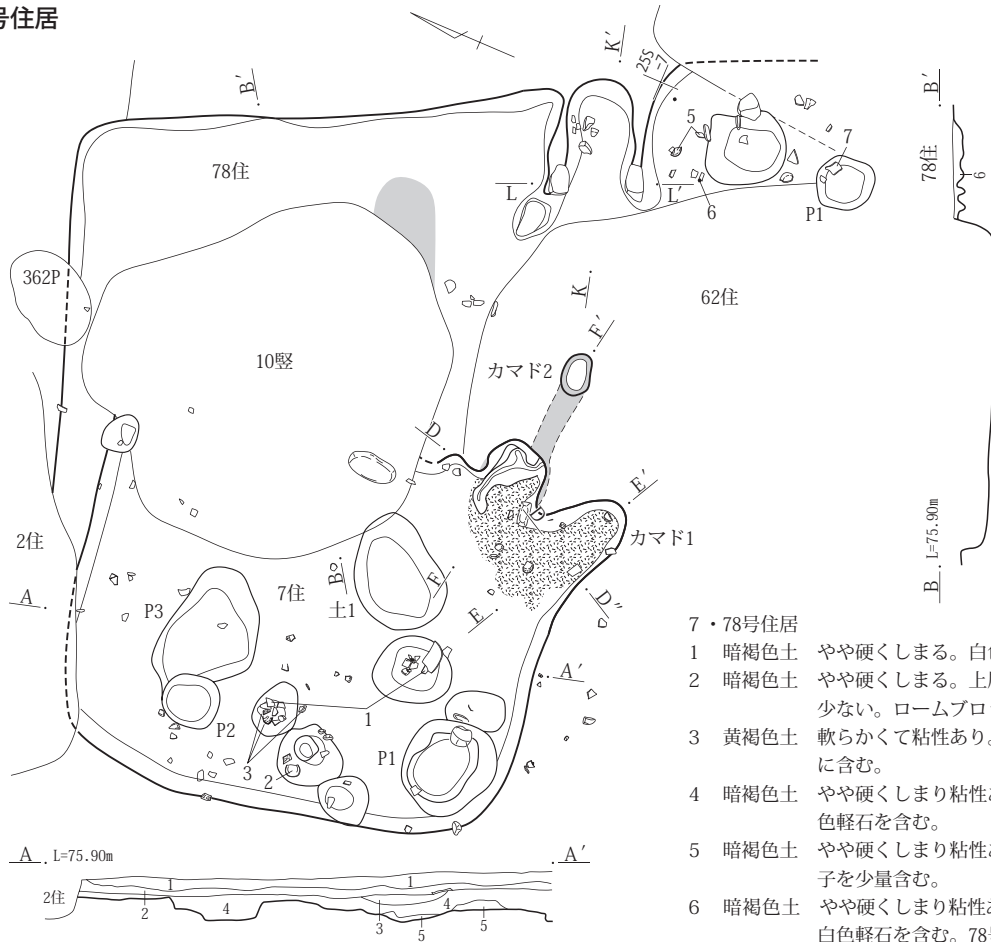
78号住居(第93～95図、P L.73・181、第22表)

位置 25R・S-7グリッド。

重複 10号竪穴状遺構より前出。2・7・59・62号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 重複が激しくて全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

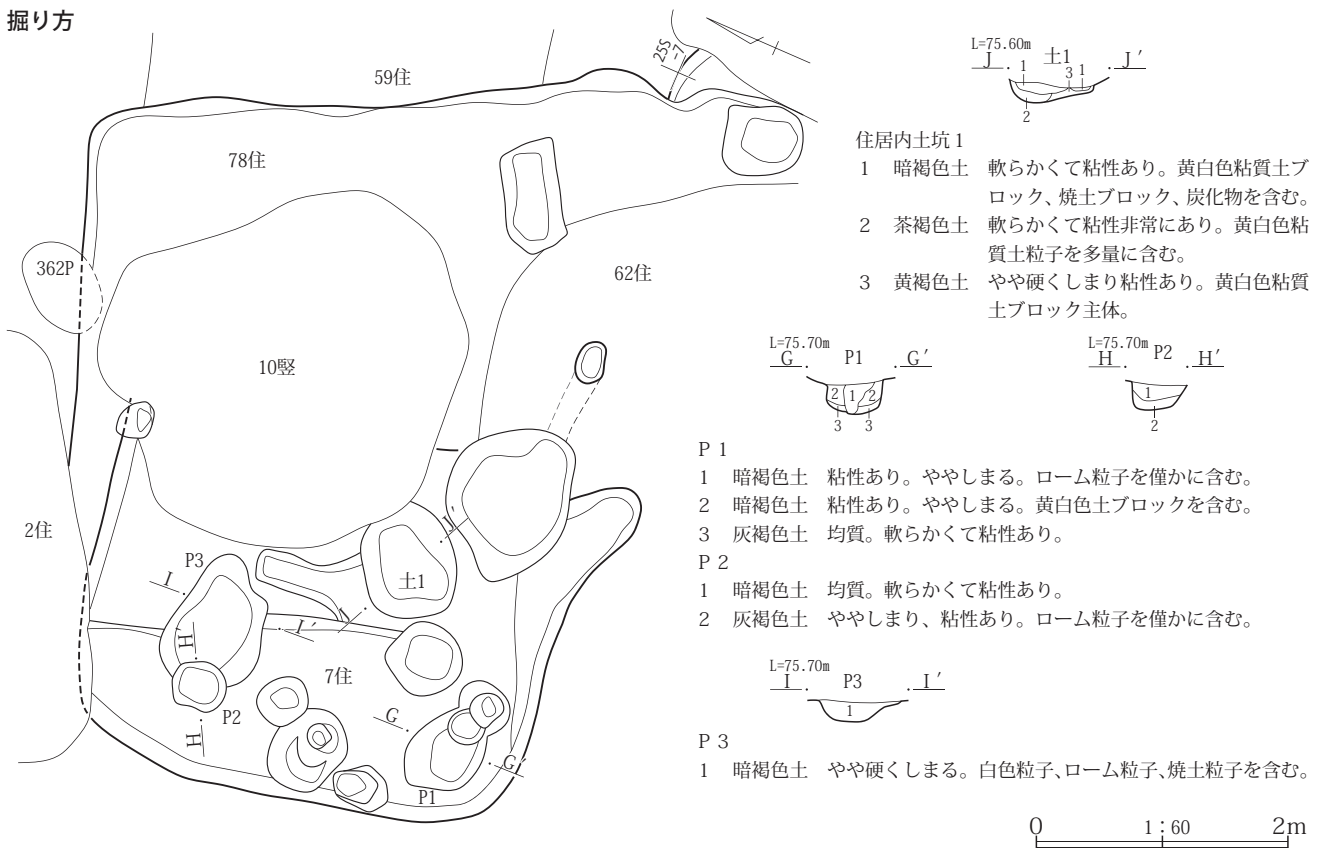
7・78号住居



7・78号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。上層よりも白色粒子の混入が少ない。ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に白色軽石を含む。78号住居掘り方フク土。

掘り方



住居内土坑 1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 2 茶褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を多量に含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック主体。

P 1

- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。ローム粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを含む。
- 3 灰褐色土 均質。軟らかくて粘性あり。

P 2

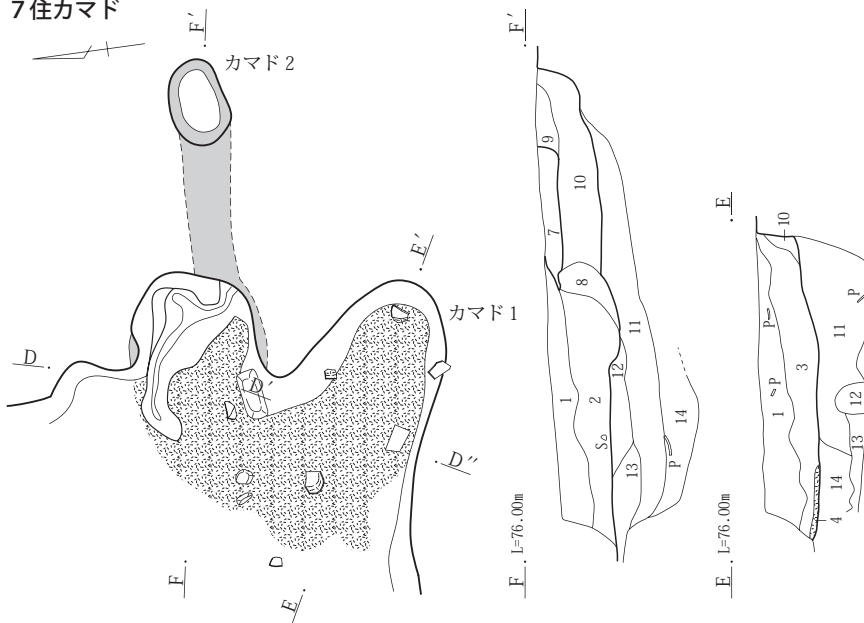
- 1 暗褐色土 均質。軟らかくて粘性あり。
- 2 灰褐色土 ややしまり、粘性あり。ローム粒子を僅かに含む。

P 3

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子、ローム粒子、焼土粒子を含む。

第93図 3区7・78号住居

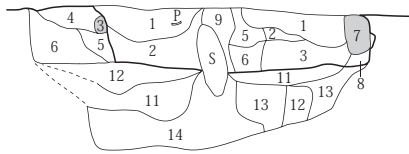
7住カマド



カマド1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子、焼土粒子、ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色土を多量に含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 4 灰
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまりよい。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土、炭化物粒子を含む。上層よりも暗い色調。
- 7 焼土化した地山
- 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土ブロック、白色粒子を含む。
- 10 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を少量含む。

D, L=76.00m カマド2 D' カマド1 D''

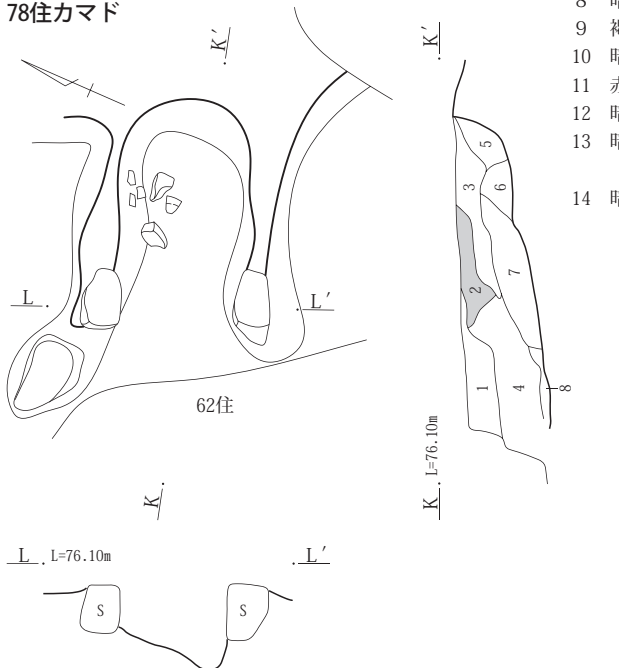


- 11 褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、ローム粒子を含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。炭化物粒子、ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ローム粒子を含む。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。

カマド2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多量に、焼土ブロック、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ローム粒子、炭化物を含む。
- 3 焼土
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 7 灰褐色土 焼土主体。カマド天井部。
- 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、炭化物粒子をごく少量含む。
- 9 褐色土 焼土ブロックを多量に、白色軽石を含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量に、白色軽石を少量含む。
- 11 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。灰、焼土を多量に白色軽石を含む。
- 12 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色軽石、焼土粒子を少量含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。焼土ブロック、ローム粒子を少量含む。

78住カマド



78号住居カマド

- 1 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を含む。
- 2 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量に含む。
- 3 褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ロームブロック、白色粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 8 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを多量に含む。

第94図 3区7・78号住居カマド

主軸方位 N-72°-E

規模 現状での長辺(北西~南東)6m、短辺(北東~南西)3m、残存壁高をほとんど確認することはできなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁に設置される。燃烧部は床面を掘り込んで構築され、規模は長さ100cm、焚き口部の幅40cmである。両袖を含めた幅は90cmである。袖石が据えられている。埋没土の2層は天井部の崩落の可能性がある。

貯蔵穴 カマドの南から検出された土坑が貯蔵穴になるものと思われる。長径62cm・短径58cmの楕円形を呈する。

柱穴 明瞭な柱穴を確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 ほとんど確認することはできなかった。

掘り方 全体的に浅く掘り下げられていて凹凸が激しい。

出土遺物 床直上から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

8号住居(第96~98図、P.L.27・181、第24表)

位置 25S・T-9・10グリッド。

重複 70・82号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

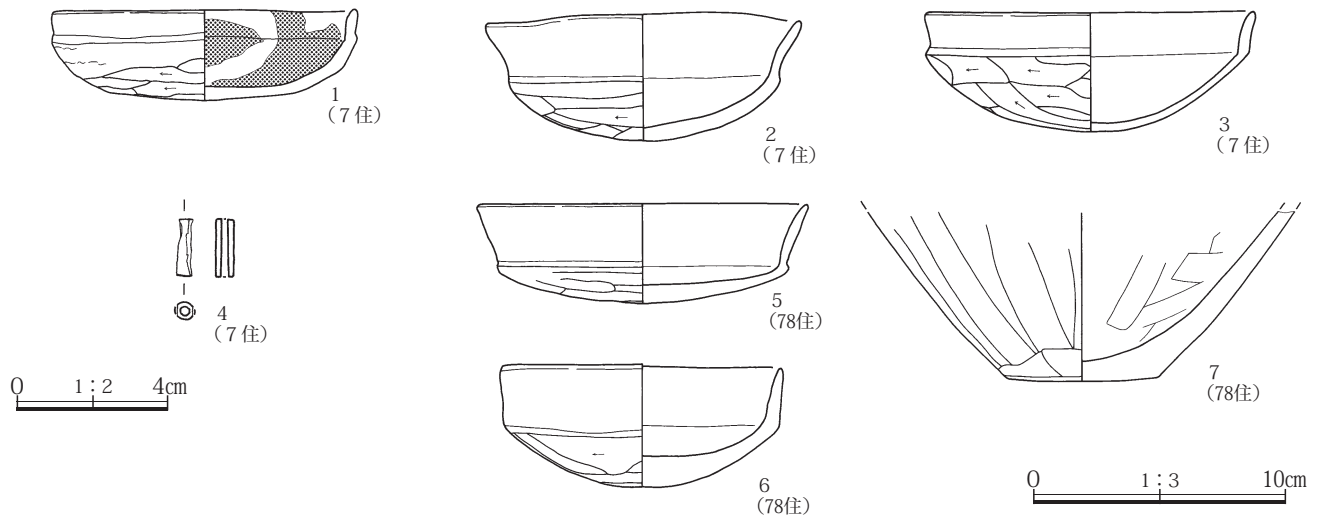
主軸方位 N-71°-E

規模 推定面積は11.70㎡。長辺(南北)3.67m、短辺(東西)3.64m、残存壁高をほとんど確認することはできなかった。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁のほぼ中央に設置される。燃烧部は床面を掘り込んで構築され、規模は長さ83cm、焚き口部の幅49cm、袖を含めた幅は99cmである。埋没土3層下面から多量の土器片が出土し、また高坏の脚部が支脚として検出されている。5~9層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 カマドの周辺から確認できなかったが、住居南西隅の土坑が貯蔵穴になる可能性がある。長径53cm・短径43.5cm・深さ36cmを測り、埋没土中から土器が出土し

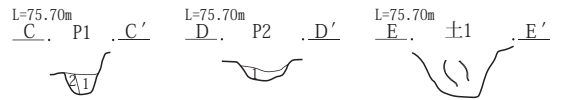
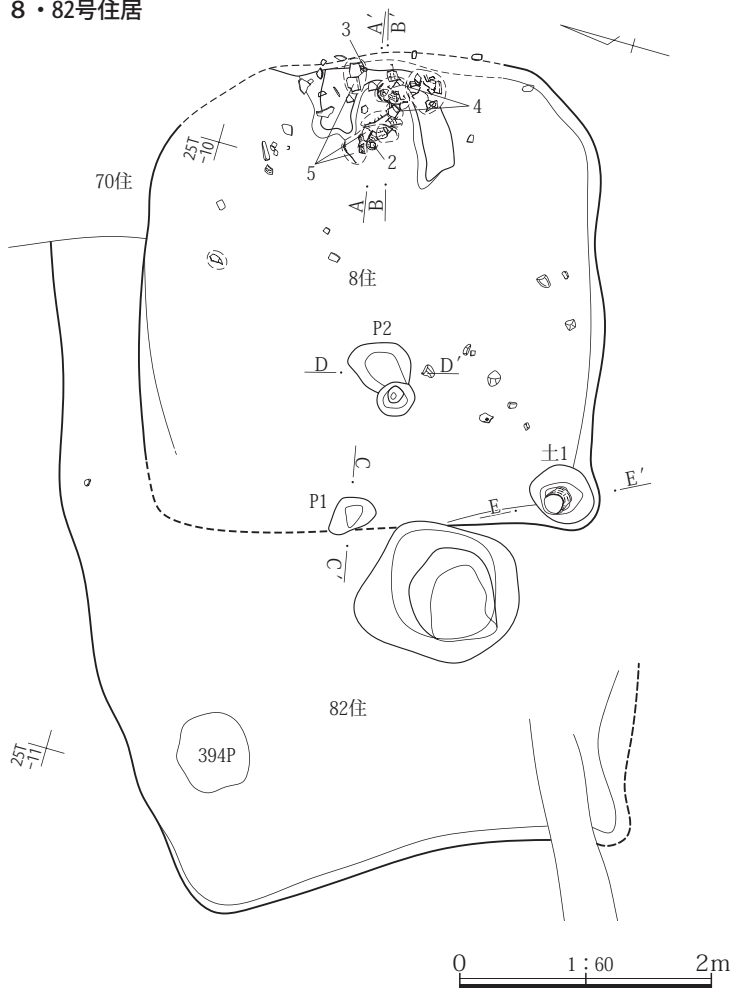


第95図 3区7・78号住居出土遺物

第22表 3区7・78号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|----------------|-----|-----------|---------------------|--------|------|--------|--------------------|-------------------|---|-----------------|
| | | | | 口 | 高 | 高 | | | | |
| 第95図 PL.181 | 1 | 土師器 杯 | 7住 床直 2/3 | 口 | 11.8 | 高 | 3.5 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。稜下にナデの部分を残す。内面はナデ。 | 内外面に煤付着。器面やや磨耗。 |
| 第95図 PL.181 | 2 | 土師器 杯 | 7住 床直 3/4 | 口 | 12.2 | 高 | 4.9 10.8 | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第95図 PL.181 | 3 | 土師器 杯 | 7住 掘り方 3/5 | 口 | 12.8 | 高 | 4.6 21.7 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第95図 | 4 | 石製品 管玉 | 7住 | 長 幅 | 1.5 | 径 重 | 0.5 0.24 | 滑石 | 全面を丁寧に研磨、両側縁を欠損する。下面側の孔は径2mm、上端側の孔は径1.5mmを測る。 | |
| 第95図 | 5 | 土師器 杯 | 78住 +16 1/3 | 口 | 12.8 | 高 | 3.9 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第95図 PL.181 | 6 | 土師器 杯 | 78住 +10 1/2 | 口 | 11.0 | 高 | 4.8 10.8 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第95図 | 7 | 土師器 甕 | 78住 P1内底 部~胴部下位片 | 口 底 | 6.0 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 胴部は縦位に、最下位は横にヘラ削り。内面はヘラナデ。 | 被熱・変質・変色。 |

8・82号住居



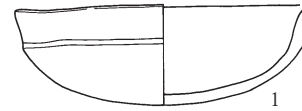
P 1

1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロックを含む。

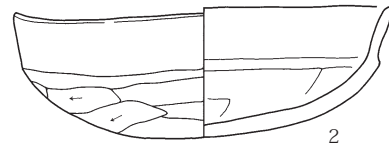
2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。

P 2

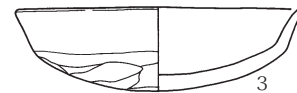
1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。



1

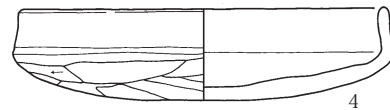
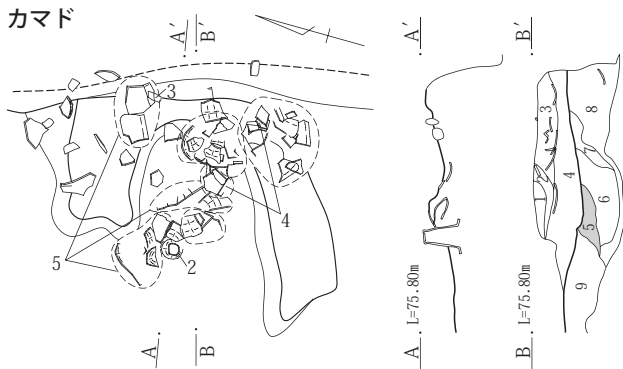


2

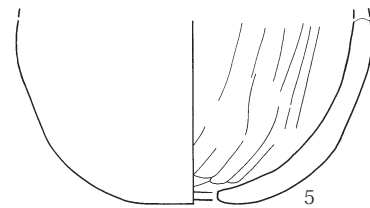


3

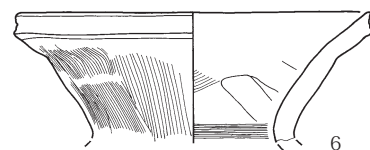
カマド



4



5



6

8号住居カマド

1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を含む。

2 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム、焼土粒子を含む。

3 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物、白色軽石を含む。

4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土ブロック、灰、炭化物を多量に含む。

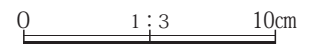
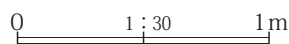
5 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土を多量にロームブロックを含む。

6 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土ブロックを含む。

7 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。

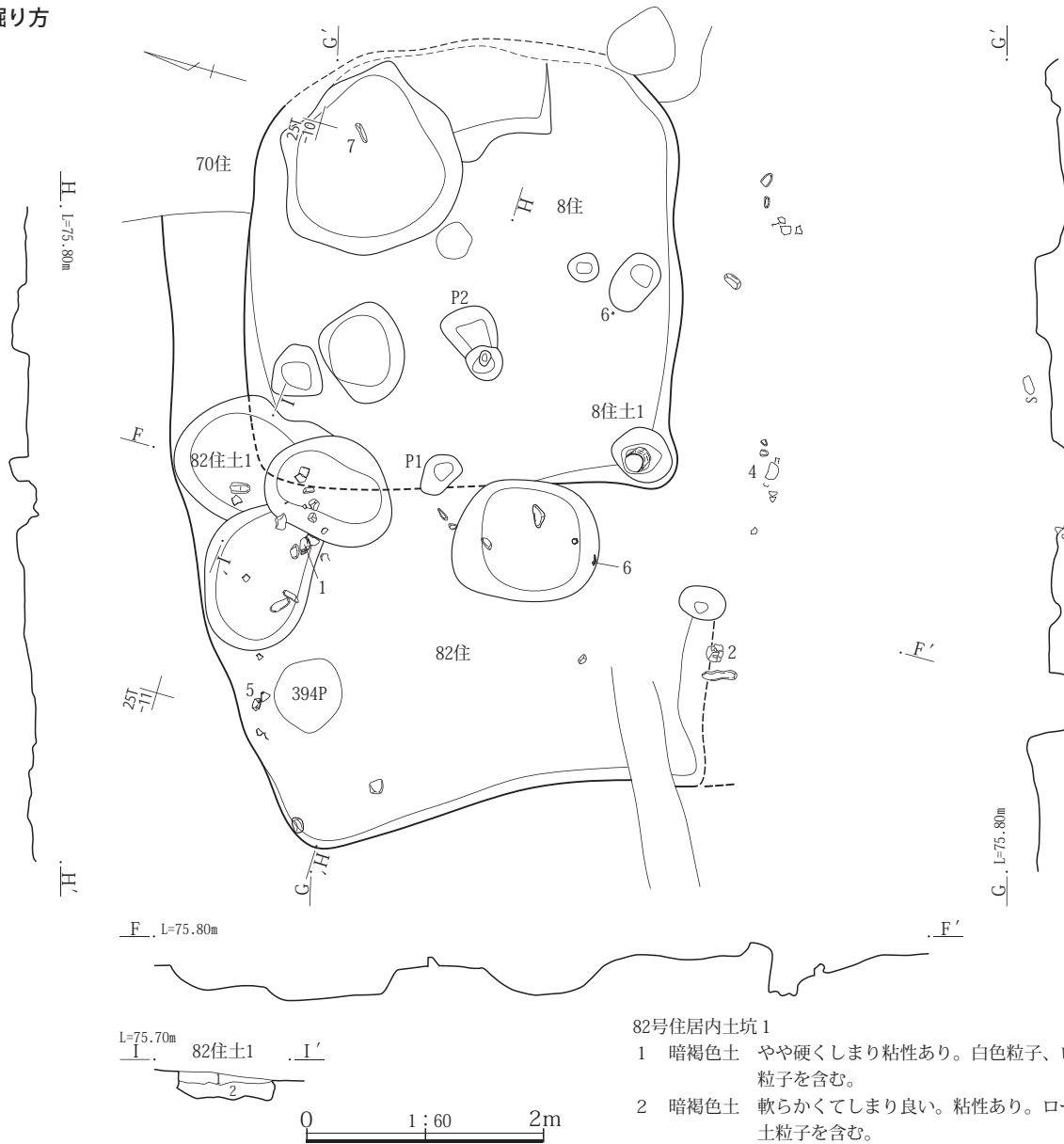
8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。

9 黄褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土ブロック、灰を含む。



第96図 3区8・82号住居と82号住居出土遺物

掘り方

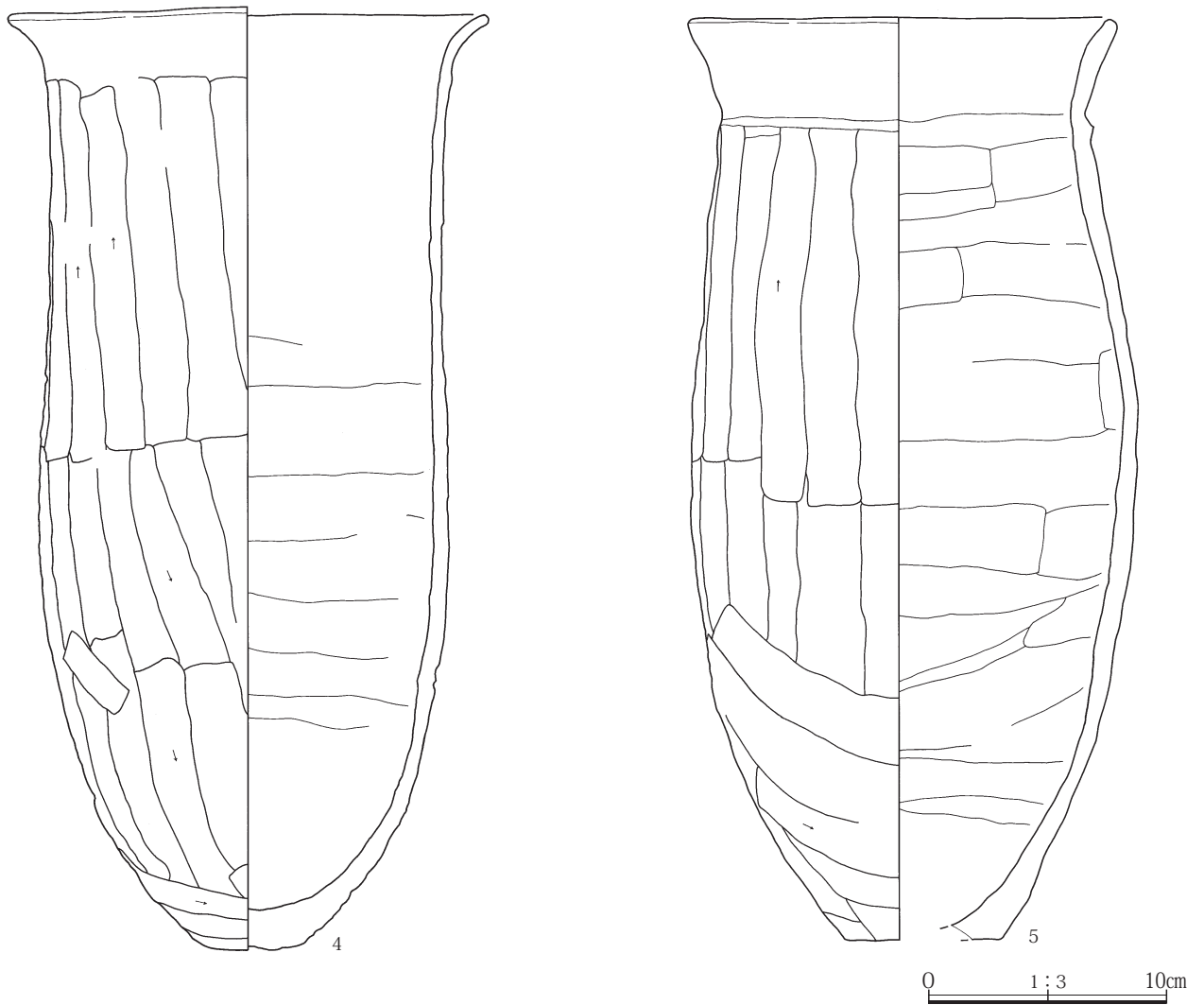
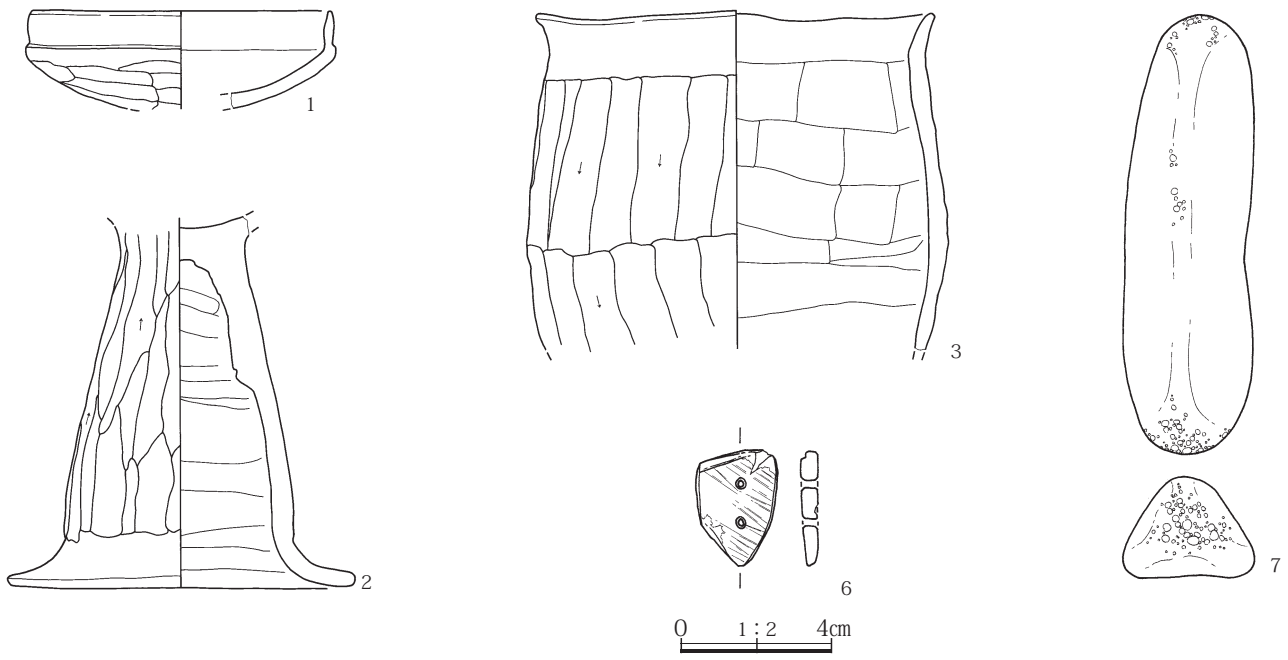


- 82号住居内土坑1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子、ローム粒子、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。

第97図 3区8・82号住居掘り方

第23表 3区82号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|----------------|-----|------------|-----------------|--------------------------|-------------------------------|--|----------------------------|
| 第96図 PL.181 | 1 | 土師器 杯 | 掘り方 3/5 | □ 11.4 高稜 3.9 11.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。 | |
| 第96図 PL.181 | 2 | 土師器 杯 | 掘り方 口縁部1/3欠損 | □ 14.7 高稜 5.1 14.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。内面は底部から体部にへらナデ。 | |
| 第96図 | 3 | 土師器 杯 | 1/4 | □ 11.0 高 3.3 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 外面口縁部と 内面は漆塗り ・器面磨滅。 |
| 第96図 | 4 | 土師器 杯 | 掘り方 1/3 | □ 14.4 底 15.0 | 高 3.6 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 内面底部は漆 塗りか。 |
| 第96図 | 5 | 土師器 有孔鉢 | 掘り方 体部~底部片 | 底 4.0 | 粗砂粒/良好/橙 | 底部に小孔を穿つ。胴部はへら削りか。内面は縦位にへらナデ。 | |
| 第96図 | 6 | 土師器 壺 | 口縁部~頸部片 | □ 13.7 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口唇部は横ナデ。口縁部には斜縦のハケ目。内面口縁部は斜のハケ目。頸部に細かなハケ目。 | |



第98図 3区8号住居出土遺物

第24表 3区8号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|----------------|-----|-------------|------------------|-----|-------------|--------|--------------------|-----------------|---|---------------------|
| 第98図 PL.181 | 1 | 土師器 甕 | +5 胴部一部欠損 | 口底 | 18.8 7.3 | 高 胴 | 29.6 22.0 | 細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ、胴部は上位から中位と底部はヘラ削り、下位はナデ。内面は底部から胴部はヘラナデ。 | |
| 第98図 PL.181 | 2 | 土師器 高杯 | カマド 脚部 | | | 脚 | 13.5 | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 脚部は縦位のヘラ身削り、裾部は横ナデ、内面は上位がナデ、中位から下位はヘラナデ。 | |
| 第98図 PL.181 | 3 | 土師器 甕 | カマド 口縁部 ～胴部中位 | 口 | 15.5 | 胴 | 16.5 | 細砂粒・褐粒/良好/にぶい橙 | 口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第98図 PL.182 | 4 | 土師器 甕 | カマド 2/3 | 口底 | 19.4 4.5 | 高 胴 | 39.2 | 小礫・粗砂粒多/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位に2回に分けてヘラ削り。最下位は斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。外面胴部の一部炭素吸着・黒斑状。 |
| 第98図 PL.182 | 5 | 土師器 甕 | カマド 底部～胴部一部欠 | 口底 | 17.4 6.3 | 高 胴 | 38.4 | 小礫・粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部上位から中位は縦位に2回に分けてヘラ削り。下位は斜位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第98図 PL.181 | 6 | 石製模造品 剣形 | 掘り方 | 長幅 | 3.1 2.2 | 厚重 | 0.5 4.92 | 滑石 | 概形を剣先状に整える。径2mm弱の孔を片側穿孔する。 | 扁平礫 |
| 第98図 PL.181 | 7 | 礫石器 敲石 | 掘り方 | 長幅 | 18.2 5.1 | 厚重 | 3.7 484.9 | 変質安山岩 | 小口部両端の敲打痕が残る。断面三角形を呈する。 | 扁平礫 |

ている。

柱穴 ピット2基が検出されたが、柱穴にはならない。

P1は長径39.5cm・短径27cm・深さ16.5cm、P2は長径62.5cm・短径42cm・深さ9cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 床面直上の検出のために埋没土を確認することはできなかった。

出土遺物 カマドから多量の土器片、床面全体から散漫に出土している。土師器高杯脚部(第98図2)は支脚として利用される。土師器甕(同4)はカマド奥壁で、(同5)は左袖の構築に使われている。

掘り方 全体的にやや凹凸が激しい。掘り方の深さは約10～30cmを測る。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

82号住居(第96・97図、P L.74・181、第23表)

位置 25S・T-10、25S-11グリッド。

重複 8号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 重複が激しくて形状は不明である。

主軸方位 不明。

規模 現状では東西に5.5m、南北2.96m確認できる。

床面 ほとんど確認することはできなかった。

カマド 確認できなかった。壊されてしまったものと思われる。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 床面直上の検出のために埋没土を確認することはできなかった。

出土遺物 床面で土器片が散漫に出土している。

掘り方 全体的にやや凹凸が激しい。掘り方の深さは約10～30cmを測る。土坑1基が検出されている。土坑1

は現状で長径125cm・短径94cm・深さ22.5cmを測る。埋没土は2層に分かれた。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

9号住居(第99～104図、P L.27・28・182、第26・27表)

位置 25R・S-9・10グリッド。

重複 83号住居より後出で、71・79号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-50°-E

規模 面積は21.98㎡。長辺(北東～南西)6.03m、短辺(北西～南東)4.9m、残存壁高は5～20cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面を確認できなかった。

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ139cm、焚き口部の幅98cmである。残存状況は悪かった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 明瞭な主柱穴を確認することはできなかった。

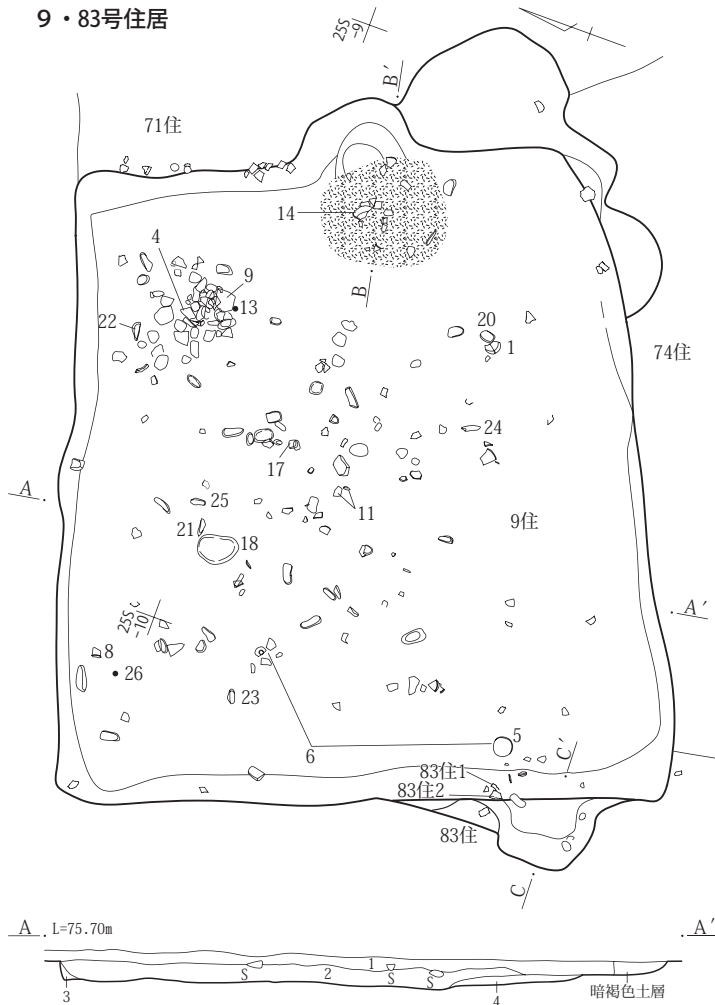
周溝 確認できなかった。

埋没土 投棄された礫は床面より高いものが目立ち、壁際に分布しないため、やや埋まった状態で捨てられている。北東隅から中央部に向かって捨てられる。

掘り方 全体的にやや凹凸が激しい。掘り方の深さは約5～20cmを測る。掘り方調査時にピット3基を検出した。P1は長径42cm・短径25cm・深さ15cm、P2は長径28cm・短径20cm・深さ18cm、P3は長径48cm・短径47cm・深さ12.5cmを測る。

出土遺物 埋没土に多量に礫が廃棄され、その中に土器片が混入する。一部完形品(第101図1・5)も含まれており、すべて投棄されたものではない。廃棄礫として扱っ

9・83号住居



たものは39点あり、うち敲石10点(掲載5点)、磨石2点(掲載1点)が含まれる。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

83号住居(第99・100図、P.L.74、第25表)

位置 25R-10グリッド。

重複 9号住居より前出で、重複により大部分消滅する。

形状 不明。

74住 主軸方位 カマドの方位はN-98°-W。

規模 不明。

床面 確認できなかった。

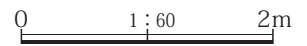
カマド 現状で煙道方向78cm、焚き口部の幅53cmである。

埋没土は4層に分かれ、3層は焼土である。

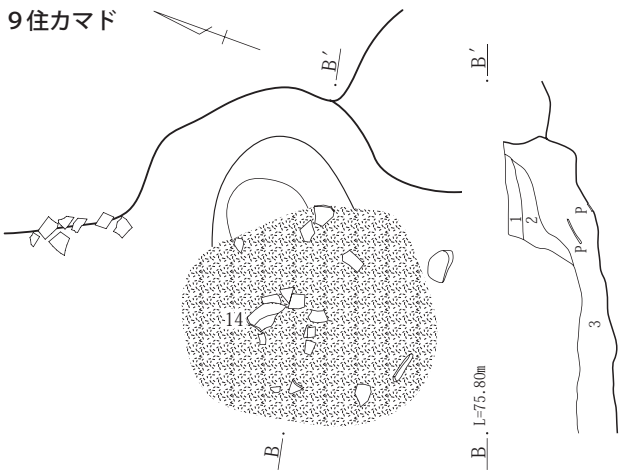
貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 確認面から床面までが浅いため観察できなかった。

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子、炭化物、焼土粒子を含む。また礫を多量に含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。上層よりも暗い色調。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。1、2層に比べ暗い色調。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。



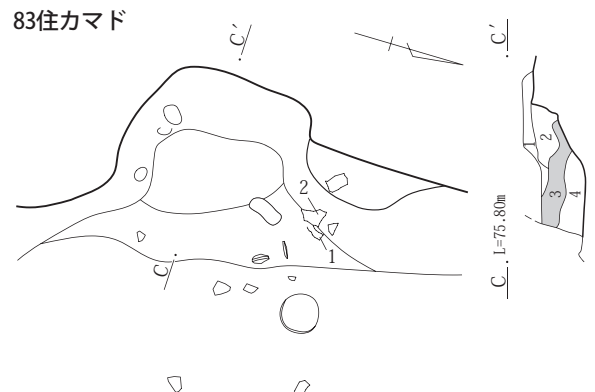
9住カマド



9号住居カマド

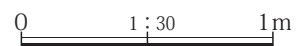
- 1 暗褐色土 やや硬い。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。

83住カマド



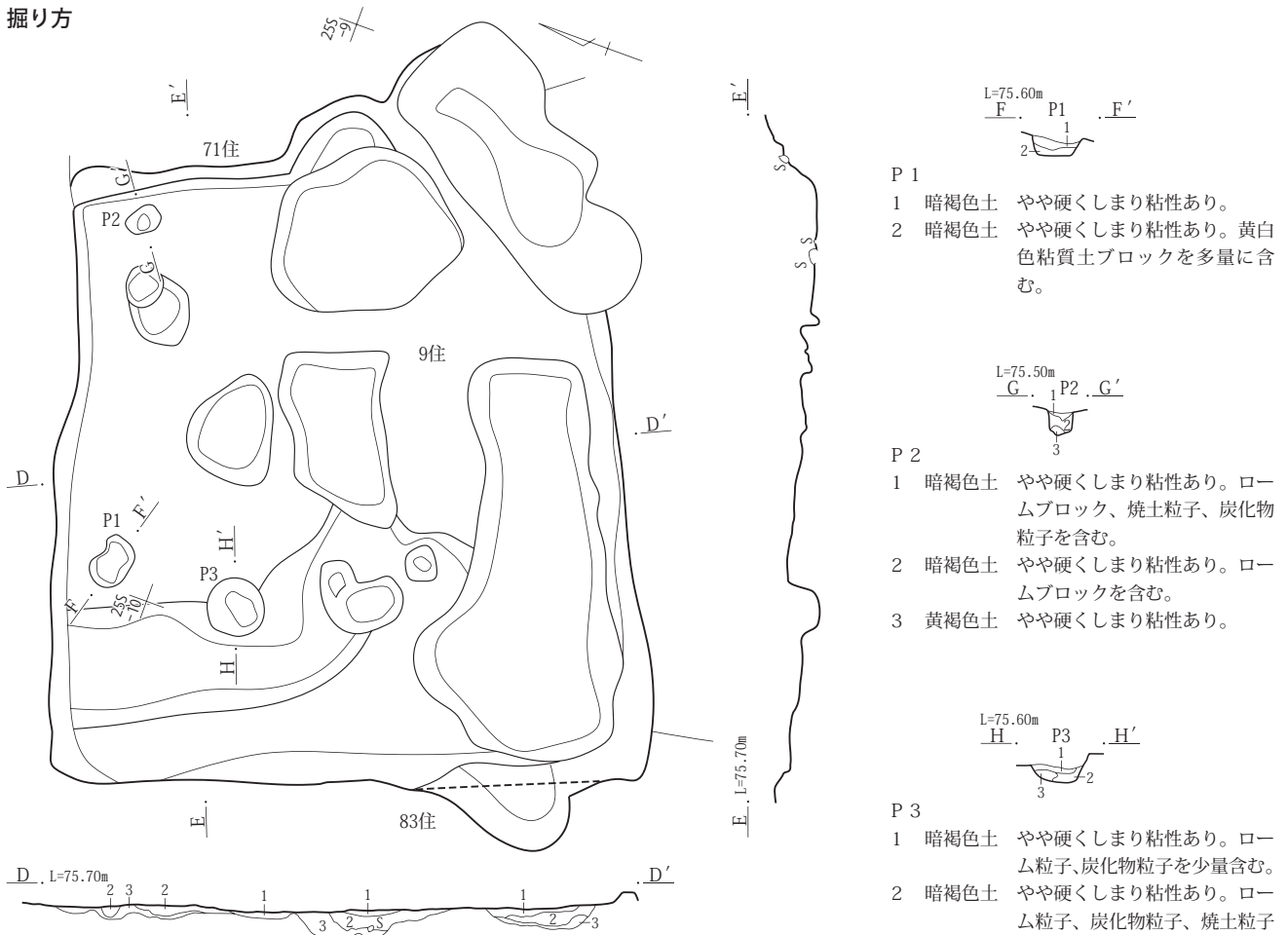
83号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームを主体に、焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 3 焼土 暗褐色土、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。



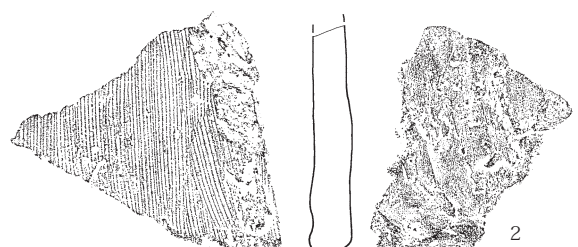
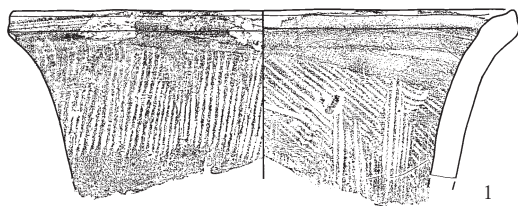
第99図 3区9・83号住居とカマド

掘り方



9号住居掘り方

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土粒子、炭化物粒子、白色粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。



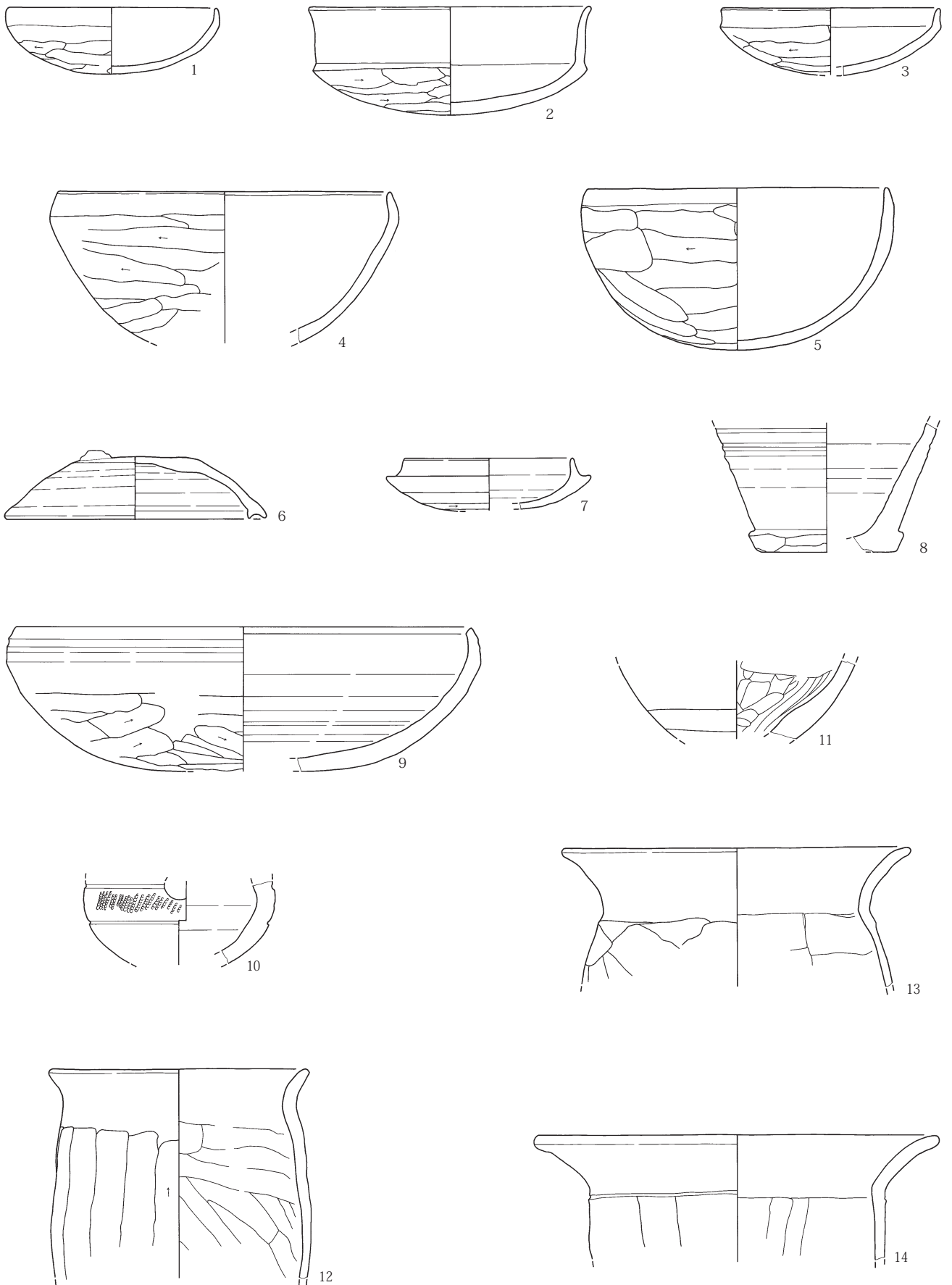
0 1:60 2m

0 1:3 10cm

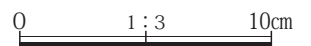
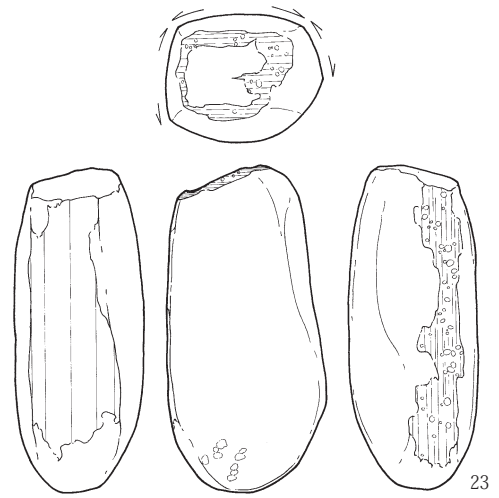
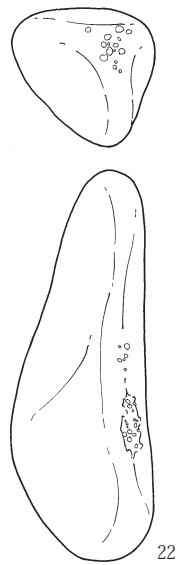
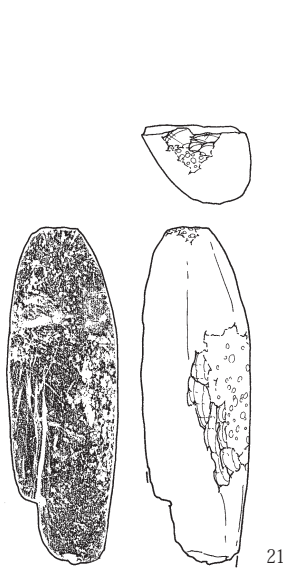
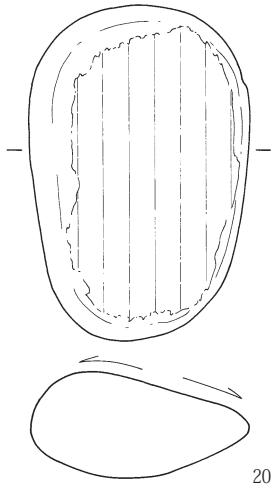
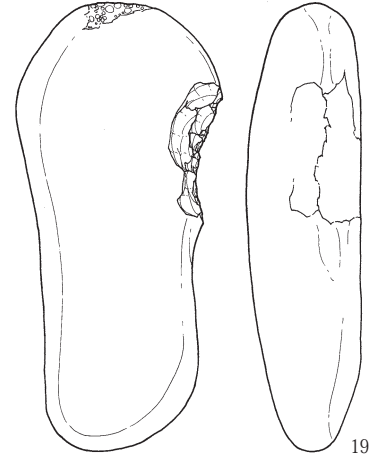
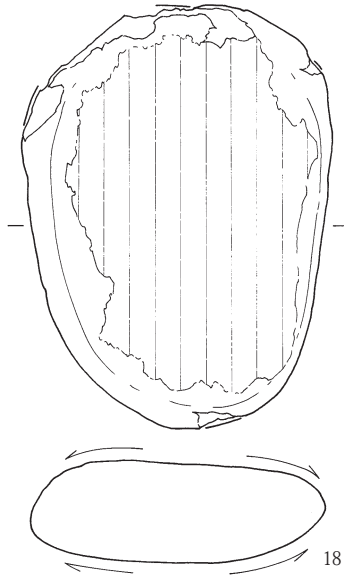
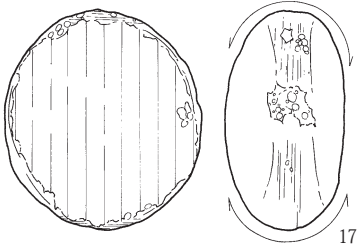
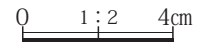
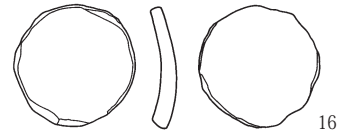
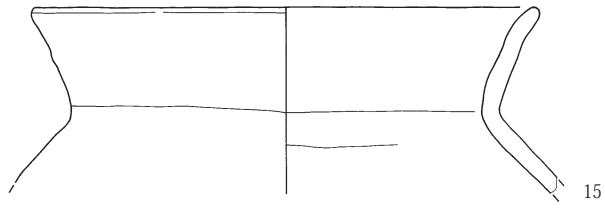
第100図 3区9・83号住居掘り方と83号住居出土遺物

第25表 3区83号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|-------------|-----|----------------------|--|----------|
| 第100図 | 1 | 埴輪 円筒 | カマド 口縁部片 | | 粗砂粒・片岩/良好 /橙 | 口縁部は短く外反して立ち上がる。外面は縦ハケ(1cmに10本)後、口縁部を横ナデ。残存下端にも突帯貼付後の横ナデ。内面は斜横ハケ後、縦方向のハケ、ナデ。 | 内面にヘラ記号。 |
| 第100図 | 2 | 埴輪 円筒 | カマド 基底部片 | | 小礫・粗砂粒・片岩 /良好/明赤褐 | 外面は縦ハケ(1cmに14本)。内面縦位に指ナデ。 | |



第101図 3区9号住居出土遺物(1)



第102図 3区9号住居出土遺物(2)

出土遺物 カマド周辺から少量の土器片が出土している。第100図1・2とともに埴輪である。

時期 出土遺物から古墳時代以降である。

10号住居(第105～107図、P.L.28・29・183、第28表)

位置 25Q・R-5・6グリッド。

重複 50号住居より後出。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-66°-E

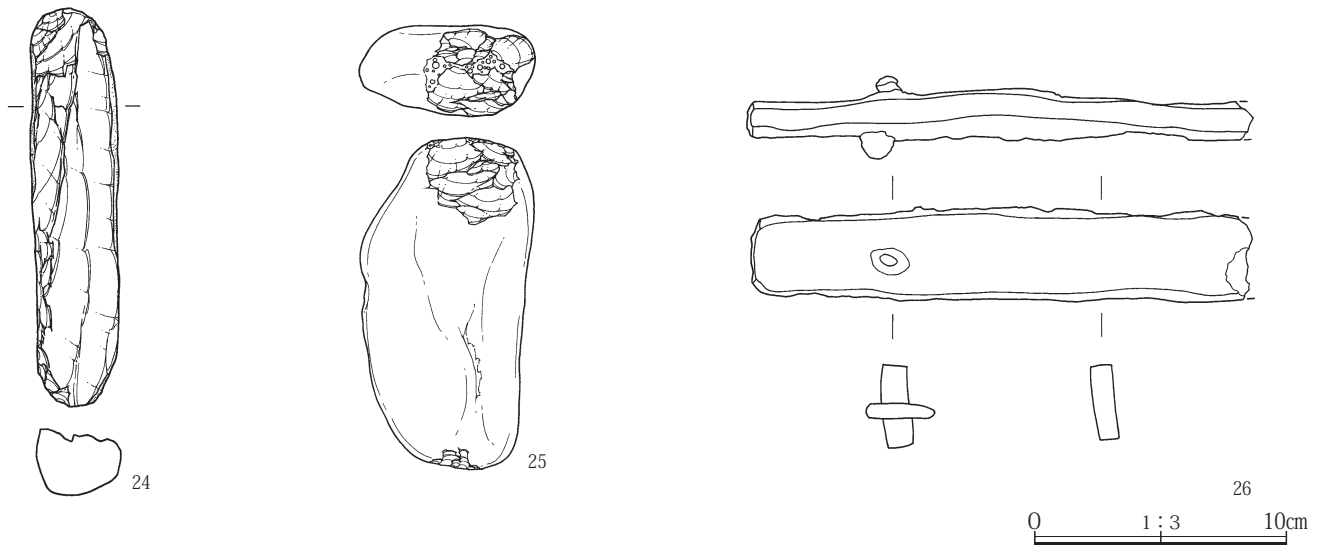
規模 現状での面積は5.19㎡。現状での長辺(北東～南西)5.07m、短辺(北西～南東)2.03m、残存壁高は南壁で確認すると10～30cmを測る。

床面 やや凹凸がある。貼床である。

カマド 東壁に設置される。南壁のセクションによって確認することができた。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。3層からが住居埋没土になり、11層は貼床、13～15層は掘り方充填土になる。



第103図 3区9号住居出土遺物(3)

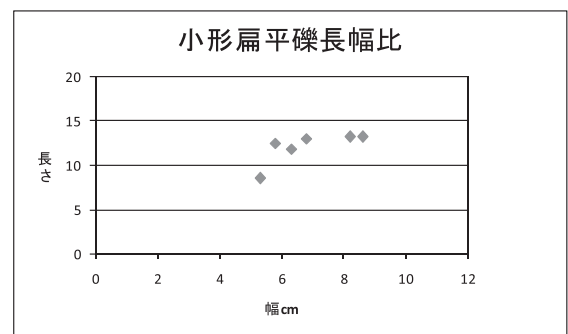
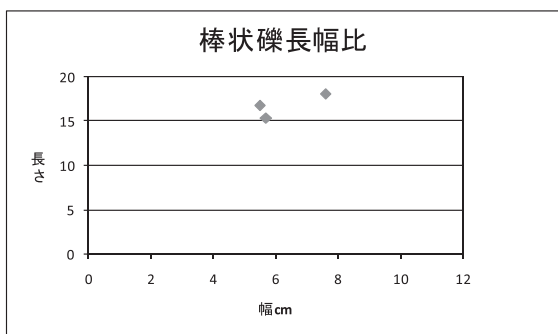
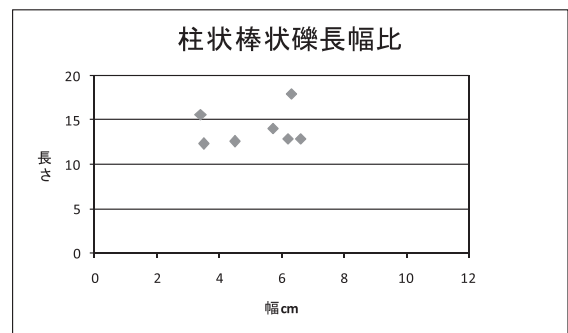
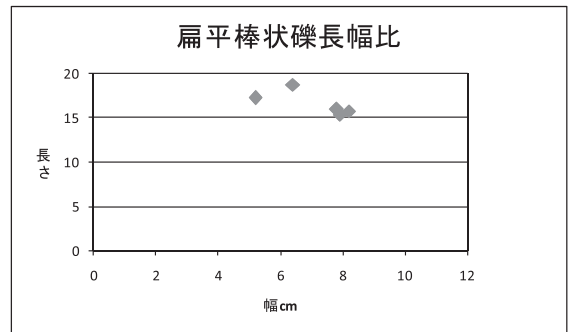
第26表 3区9号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|----------------|-----|------|---|--------------------|------------------|---|--------------|
| 第101図 PL.182 | 1 | 土師器 杯 | 床直 完形 | 口 | 11.2 | 高 | 3.6 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。体部にナデの部分を残す。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第101図 | 2 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 15.2 | 高 | 5.8 | 赤色粘土粒/良好/橙 | 器形やや歪む。口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第101図 | 3 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 11.8 | 高 | 3.6 | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 器形やや歪む。口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第101図 | 4 | 土師器杯 | +22 口縁～底部片 | 口 | 18.0 | | | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第101図 PL.182 | 5 | 土師器 鉢 | +19 完形 | 口 | 16.1 | 高 | 8.7 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 口縁部内外面炭素吸着。 |
| 第101図 PL.182 | 6 | 須恵器 杯蓋 | +4 3/4 | 口 | 14.0 | 高 | 3.7 | 黒色鈹物粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ切り後、ヘラナデ。 | 天井部に窯体の一部付着。 |
| 第101図 | 7 | 須恵器 杯身? | 1/4 | 口 | 9.0 | | | 細砂粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。 | |
| 第101図 | 8 | 須恵器 鉢 | +26 底部～胴部中位 | 底 | 7.8 | | | 細砂粒/還元焰/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。底部は受け部状に突出。残存上位に凹線が3条めぐる。底部はヘラ削り。 | |
| 第101図 | 9 | 須恵器 鉢 | +21 1/4 | 口 | 24.6 | | | 黒色鈹物粒/還元焰・やや軟質/灰 | 口唇部直下に凹線がめぐる。ロクロ整形、回転は右回りか。体部下位から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第101図 | 10 | 須恵器 壺 | 体部 | | | | | 黒色鈹物粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転は左回りか。体部中央に2条の沈線をめぐらし、その間に櫛状工具による刺突文を連続する。直径1.6cmの孔を穿つ。 | |
| 第101図 | 11 | 須恵器 壺 | +20 胴部下位片 | | | | | 黒色鈹物粒発泡/還元焰/灰 | ロクロ整形。外面は回転ヘラ削り。内面はナデ。 | 外面に自然釉付着。 |
| 第101図 | 12 | 土師器 小型甕 | 口縁～胴部中位片 | 口 | 13.8 | | | 粗砂粒多・片岩/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部上位は横位に、中位は斜横位にヘラナデ。 | |
| 第101図 | 13 | 土師器 甕 | +22 口縁～胴部片 | 口 | 18.6 | | | 細砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | |
| 第101図 | 14 | 土師器 甕 | カマド 口縁～胴部片 | 口 | 21.6 | | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面に炭素吸着。 |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-------------|---------------|-----|-----------------|----|--------------------|------------------|--|
| 第102図 | 15 | 土師器 甕 | +18 口縁~胴部片 | 口 | 19.6 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。内面胴部は横位にヘラナデ。外面胴部磨滅。 |
| 第102図 | 16 | 土製品 土製円板 | 完形 | 口 | 3.2 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 杯の底部と考えられる。破片の周縁を丁寧に二次調整している。 |
| 第102図 PL.182 | 17 | 礫石器 磨石 | +8 | 長幅 | 8.6 7.7 | 厚重 | 4.7 448.6 | 粗粒輝石安山岩 | 表裏面とも著しく摩耗するほか、側縁に著しい敲打痕が残る。属性的に縄文期磨石の可能性も否定できない。 |
| 第102図 PL.182 | 18 | 石製品 砥石 | +25 | 長幅 | 33.2 24.4 | 厚重 | 8.5 9898 | 粗粒輝石安山岩 | |
| 第102図 PL.182 | 19 | 礫石器 敲石 | +16 | 長幅 | 17.7 8.2 | 厚重 | 4.1 944.4 | 粗粒輝石安山岩 | 上端側小口部・右辺エッジを敲打する。右辺エッジは敲打され、激しく破損する。 |
| 第102図 PL.182 | 20 | 礫石器 磨石 | 床直 | 長幅 | 13.2 8.6 | 厚重 | 4.5 750.0 | 粗粒輝石安山岩 | |
| 第102図 PL.183 | 21 | 石製品 砥石 | +20 | 長幅 | (13.3) (4.3) | 厚重 | 3.1 232.7 | 変玄武岩 | 背面側に縦位の刃ならし傷があるほか、右辺エッジに激しい敲打痕がある。上端小口部には裏面側破損面を覆う打痕が残る。 |
| 第102図 PL.183 | 22 | 礫石器 敲石 | +18 | 長幅 | 15.4 5.7 | 厚重 | 5.4 550.6 | 流紋岩 | 表裏面とも激しく研磨されている。多孔質石材だが、研磨されたことで、石の目が潰れた状態にある。 |
| 第102図 PL.183 | 23 | 礫石器 磨石? | +11 | 長幅 | 12.9 6.2 | 厚重 | 565 6.1 | 粗粒輝石安山岩 | 上端側小口部が敲打されているほか、背面側・礫稜部に敲打痕が残されている。 |
| 第103図 PL.183 | 24 | 礫石器 敲石 | 床直 | 長幅 | 15.6 3.4 | 厚重 | 2.6 212.4 | 黒色片岩 | 両側縁とも敲打・摩耗痕が著しい。特に、左辺側は激しく使い込まれ、平坦面が形成されている。 |
| 第103図 PL.183 | 25 | 礫石器 敲石 | +20 | 長幅 | 136.8 | 厚重 | 3.6 467.8 | 粗粒輝石安山岩 | 上端小口部に敲打痕がある。破損方向から見て、敲打時に破損した可能性が高い。 |
| 第103図 PL.183 | 26 | 鉄器 大刀 | +20 茎片 | 長幅 | (13.2) 2.5 | 厚重 | (1.1) 92.0 | | 大刀茎か? 目釘が残る。錆化は激しい。 |

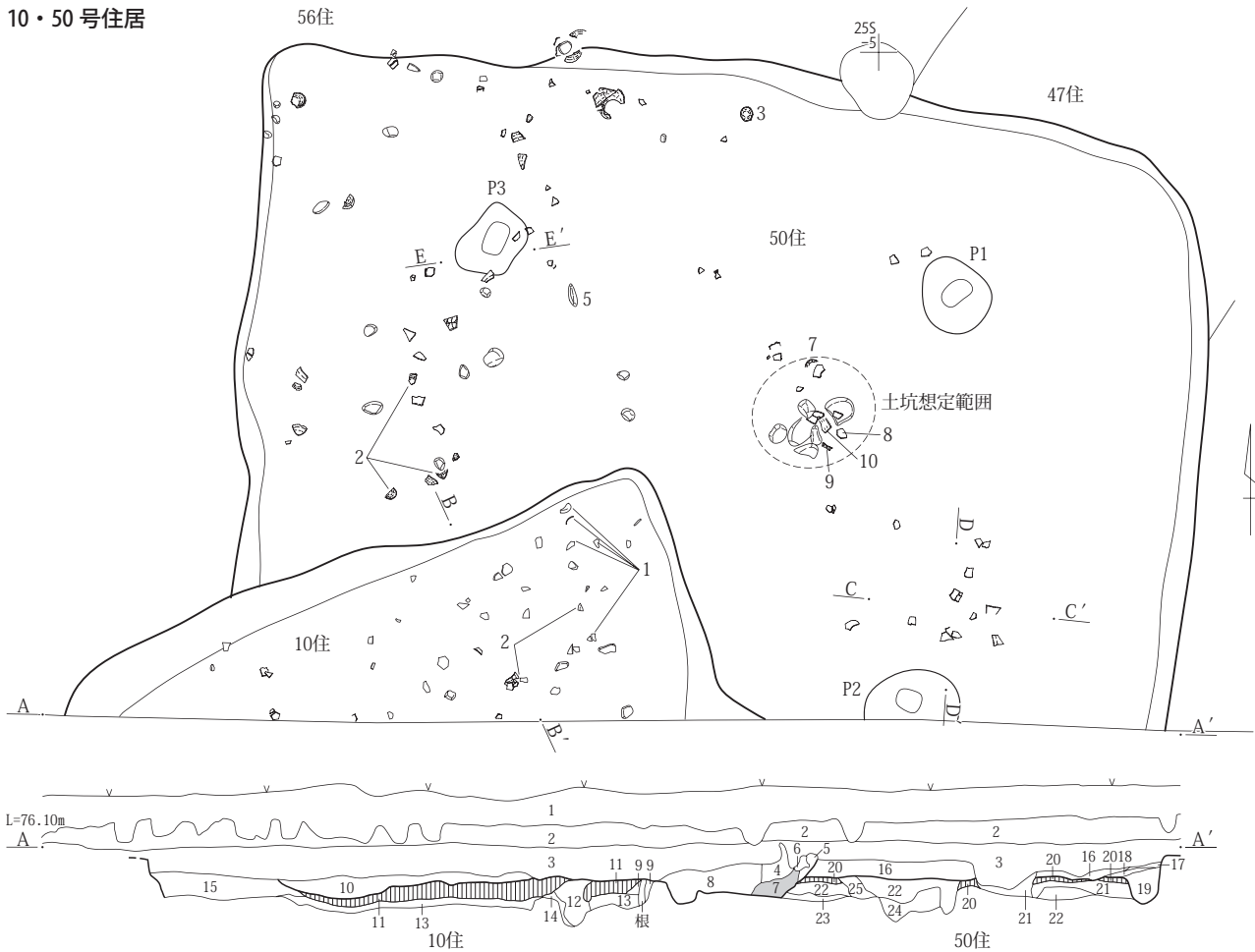
第27表 3区9号住居廃棄礫一覽

| 通番 | 礫形状 | 石材 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 備考 |
|----|---------------|-------------|---------|--------|--------|--------|-------|
| 1 | 扁平 | 変質安山岩 | 7.8 | 15.9 | 4.1 | 700.9 | 敲石 |
| 2 | 棒状 礫 | 変質安山岩 | 7.9 | 15.3 | 3.7 | 683.7 | 敲石 |
| 3 | | 溶結凝灰岩 | 8.2 | 15.7 | 4.6 | 860.8 | - |
| 4 | 柱状 礫 | 雲母石英片岩 | 5.2 | 17.2 | 3.2 | 349 | - |
| 5 | | 砂質頁岩 | 3.5 | 12.3 | 2.8 | 172.8 | - |
| 6 | | 砂岩 | 4.5 | 12.6 | 3 | 281 | - |
| 7 | 棒状 礫 | 角閃石安山岩 | 6.3 | 18 | 3.1 | 472.5 | - |
| 8 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.6 | 12.9 | 3.9 | 874.9 | - |
| 9 | 棒状 礫 | 砂岩 | 8 | (13.3) | 5.2 | 863.2 | - |
| 10 | | ひん岩 | 7.6 | 18.1 | 4.9 | 984.8 | - |
| 11 | 小形 棒状 礫 | 砂岩 | 5.5 | 16.8 | 5.3 | 645.9 | - |
| 12 | | かこう岩 | 4.6 | 9.9 | 3.7 | 239.3 | - |
| 13 | 小形 扁平 礫 | 石英閃緑岩 | 5.1 | 12.3 | 3.1 | 350.3 | - |
| 14 | | 粗粒輝石安山岩 | (5.3) | (7.9) | (4.9) | 284.7 | - |
| 15 | 小形 扁平 礫 | 粗粒輝石安山岩 | (4.1) | (9.1) | (4.0) | 231 | - |
| 16 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.3 | 8.5 | 2.4 | 185.3 | - |
| 17 | 小形 扁平 礫 | 流紋岩 | 6.3 | 11.8 | 3.2 | 302.9 | - |
| 18 | | 雲母石英片岩 | 5.8 | 12.5 | 2.5 | 265.4 | - |
| 19 | 小形 扁平 礫 | 溶結凝灰岩 | 8.2 | 13.2 | 4.2 | 684.5 | - |
| 20 | | 粗粒輝石安山岩 | (6.5) | (6.4) | (1.5) | 89.5 | - |
| 21 | 小形 扁平 礫 | 粗粒輝石安山岩 | (6.2) | (10.1) | (2.8) | 253.2 | - |
| 22 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.3 | 7.4 | 3.8 | 195.6 | - |
| 23 | 大形 礫 | 粗粒輝石安山岩 | 10.3 | 13.3 | 9.5 | 1701 | - |
| 24 | 不明 | 粗粒輝石安山岩 | 10.5 | 19.6 | 9.6 | 3062.6 | - |
| 25 | | 粗粒輝石安山岩 | (8.3) | (9.5) | (4.8) | 454.7 | - |
| 26 | 不明 | 粗粒輝石安山岩 | (12.2) | (17.1) | 7.7 | 1963.3 | - |
| 27 | | 扁平礫 (破片) | 粗粒輝石安山岩 | (7.8) | (13.3) | (2.7) | 396.6 |



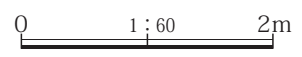
第104図 3区9号住居廃棄礫(完成品)長幅比グラフ

10・50号住居



- 1 表土 浅間A軽石を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまる。浅間A軽石、焼土粒子、白色軽石を含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 10号住居(A-A')
- 4 褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を多量に含む。
 - 5 褐色土 軟らかい。ローム粒子、焼土粒子を含む。
 - 6 黄褐色土 やや硬くしまる。カマド構築材。
 - 7 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、焼土ブロックを多量に、灰を含む。
 - 8 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土ブロックを含む。
 - 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土粒子を含む。
 - 10 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 11 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックと暗褐色土の混土。貼床。
 - 12 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子を少量含む。ピットフク土。
 - 13 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを少量含む。掘り方フク土。
 - 14 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。掘り方フク土。
 - 15 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に、炭化物粒子、焼土粒子を含む。掘り方充填土。

- 50号住居(A-A')
- 16 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
 - 17 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
 - 18 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
 - 19 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、ローム粒子を多量に炭化物を含む。
 - 20 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、灰を含む。貼床。
 - 21 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
 - 22 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。掘り方フク土。
 - 23 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。灰を多量にローム粒子を含む。掘り方フク土。
 - 24 黄褐色土 軟らかくてしまり悪い。粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。掘り方フク土。
 - 25 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。掘り方充填土。



第105図 3区10・50号住居

第3節 3区の遺構と遺物(1)

12層はピット埋没土になるものと思われる。

掘り方 北壁と東壁周辺がやや浅く、中央が掘り窪められている。掘り方の深さは約10～20cmを測る。

出土遺物 床面から埋没土にかけて住居全体で散漫に土器片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

50号住居(第105～108図、P L.57・183、第28表)

位置 25Q・R-4・5グリッド。

重複 56号住居より後出で、10号住居より前出。47号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 多数の住居と重複していることと、調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。**主軸方位** N-96°-E

規模 現状での面積は32.74㎡。長辺(東西)7.64m、短辺(南北)は現状4.91m、残存壁高は発掘区の南壁で確認すると30cmを測る。

床面 やや凹凸がある。貼床である。

カマド 明瞭なカマドは認められなかった。P 2に近接して黄白色粘質土と焼土、炭化物の堆積が、長径(東西)1.4m、短径(南北)1.05mの範囲で、東壁寄りの床面に認められた。(断面C・D)

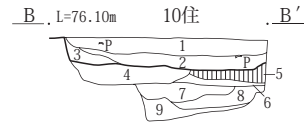
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 主柱穴となるピット3基が検出されている。P 1は長径65cm・短径54cm・深さ39.5cm、P 2は長径74.5cm・短径は現状で42cm・深さ35cm、P 3は長径57cm・短径43cm・深さ36cmを測る。もう1基の柱穴は10号住居構築時に壊されてしまったものであろう。P 1-P 2間の距離は3.25m、P 1-P 3間距離は3.75mを測る。

周溝 使用面調査時には明瞭な痕跡を確認できなかったが、掘り方調査時に東壁・北壁・西壁下で確認できた。幅18～25cm、深さ7cmを測る。

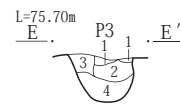
埋没土 自然埋没土と思われる。3～7・9層が住居埋没土になり、8層は貼床になる。10～13層は掘り方充填土である。

掘り方 壁から主柱穴の間まで凹凸が激しいが、主柱穴の内側は平坦である。掘り方の深さは約12～20cmを測る。掘り方調査時に2基のピットと2基の土坑を検出した。P 4は長径34cm・短径27cm・深さ35.5cm、P 5は長径51.5cm・短径43cm・深さ28cm、土坑1は長径96.5cm・



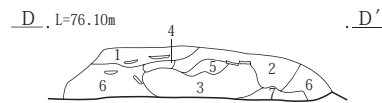
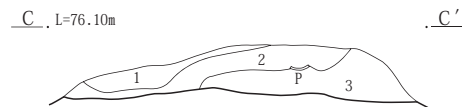
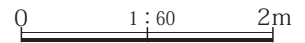
10号住居(B-B')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。1層よりも暗い色調。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 5 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。貼床。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、ロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 9 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。

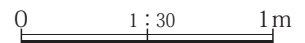


P 3

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。

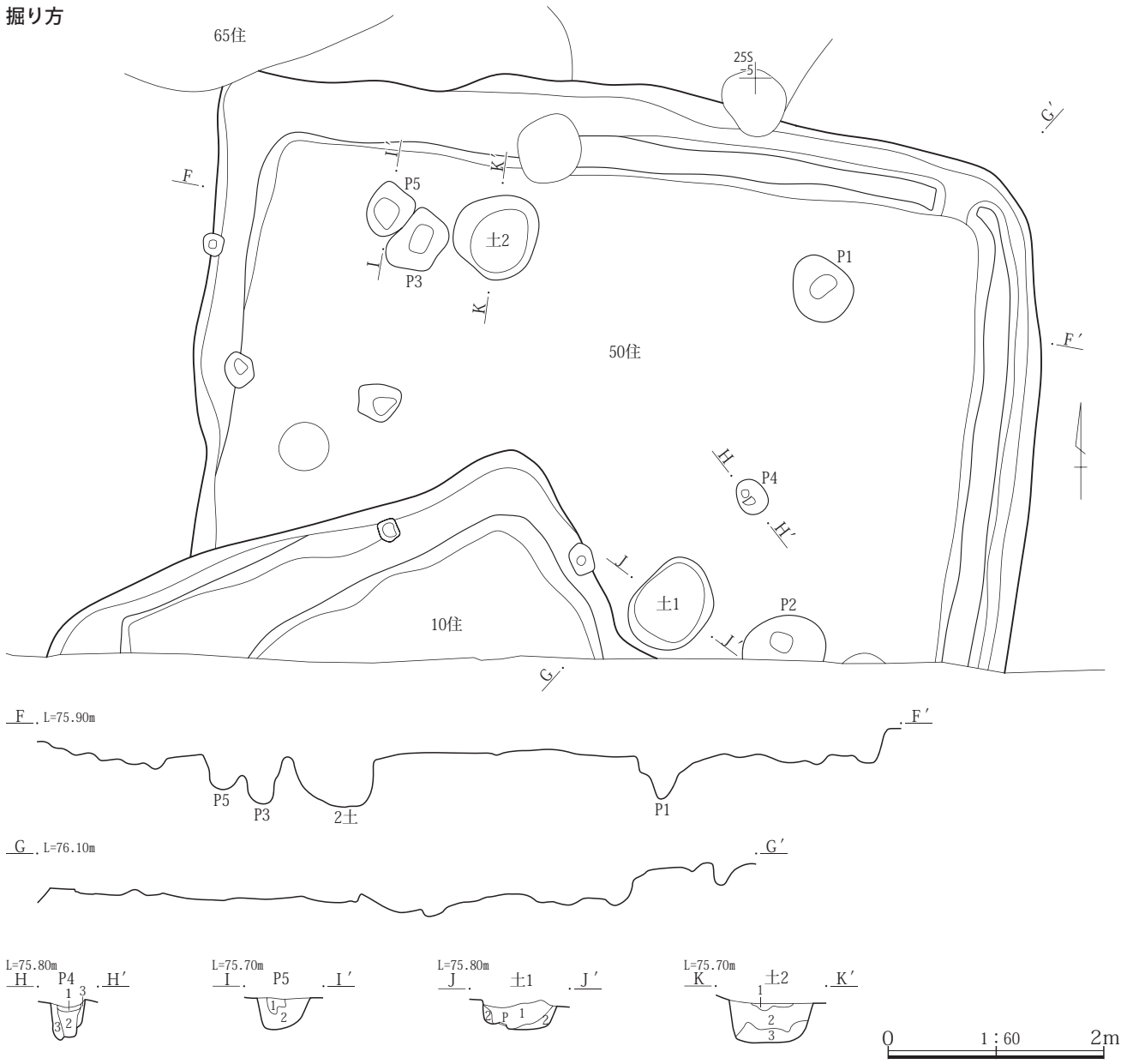


- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 4 黄白色粘質土 やや硬くしまる。焼土粒子を含む。カマド構築材。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロックを多量に、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を多量に含む。



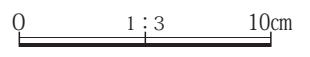
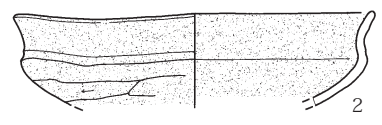
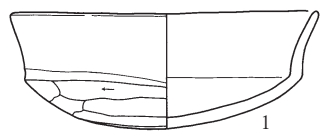
第106図 3区10・50号住居断面図

掘り方

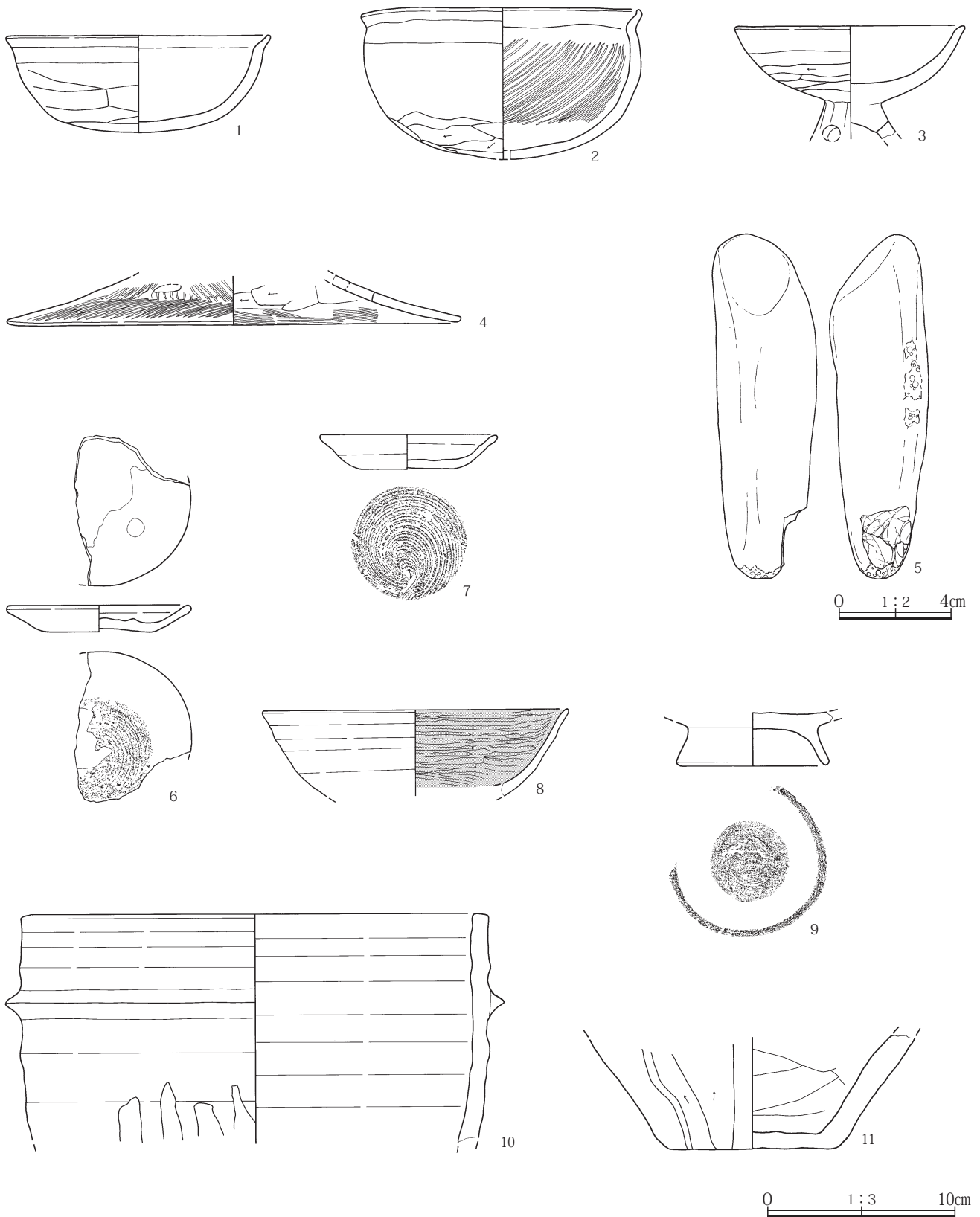


- P 4**
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- P 5**
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を多量に含む。

- 50号住居内土坑 1**
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 50号住居内土坑 2**
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を多量に含む。
 - 3 黒褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を少量含む。



第107図 3区10・50号住居掘り方と10号住居出土遺物



第108図 3区50号住居出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第28表 3区10・50号住居出土遺物

3区10号住居

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|---------------|-----|------|---|--------------------|-------------------|---|----------|
| 第107図 PL.183 | 1 | 土師器 杯 | 10住 +4 4/5 | 口 | 11.9 | 高 | 4.6 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第107図 | 2 | 土師器 杯 | 10住 床直 1/5 | 口 | 14.0 | | | 細砂粒/良好/黄褐 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。体部にナデの部分を残す。内面はナデ。 | 内外面は漆塗り。 |

3区50号住居

| | | | | | | | | | | |
|-----------------|----|-----------|------------------|----|-------------|----|--------------|-----------------------|---|------------------------------|
| 第108図 | 1 | 土師器 杯 | 50住 1/4 | 口 | 13.8 | 高 | 5.1 | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部とその直下の体部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面ナデ。 | 外面の一部に炭素吸着。 |
| 第108図 | 2 | 土師器 碗か | 50住 +6 3/4 | 口 | 14.6 | 高 | 8.0 | 細砂粒・粗砂粒・褐 粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上位～中位はナデ、下位から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第108図 | 3 | 土師器 高杯 | 50住 +4 脚部下半欠損 | 口 | 12.0 | | | 細砂粒/良好/橙 | 杯身部は口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。脚部は縦位のヘラ削り。 | 脚部に透孔が3ヶ所。 |
| 第108図 | 4 | 土師器 高杯 | 50住 カマド 脚部下位片 | 底 | 23.8 | | | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 外面の残存部分で2回に分けて斜位にヘラ磨き。内面は上位にヘラ削り、ナデ。下位にハケ目。 | 円形の透孔は5単位か。 |
| 第108図 PL.183 | 5 | 礫石器 敲石 | 50住 +7 | 長幅 | 18.1 5.2 | 厚重 | 5.0 681.3 | 珪質頁岩 | 下端側小口部が敲打されているほか、右辺エッジに敲打痕が残る。 | |
| 第108図 | 6 | 須恵器 杯 | 50住 1/3 | 口底 | 9.4 5.2 | 高 | 1.4 | 不明/不明/灰 | 坩堝として使用されたと考えられる。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | 内面に融解した金属状附着物。被熱の為、変色・変形・変質。 |
| 第108図 PL.183 | 7 | 須恵器 杯 | 50住 +3 完形 | 口底 | 9.2 5.0 | 高 | 1.8 | 細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 | |
| 第108図 | 8 | 黒色土器 碗 | 50住 +12 1/3 | 口 | 16.0 | | | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。内面黒色処理。横位にヘラ磨き。 | 割れた後、被熱。 |
| 第108図 | 9 | 須恵器 碗 | 50住 +11 高台部 | 底 | 7.6 | | | 細砂粒・黒色鈹物 粒/酸化焰/灰黄褐 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。 | |
| 第108図 | 10 | 須恵器 羽釜 | 50住 +5 口縁～胴部片 | 口 | 23.6 | | | 粗砂粒/酸化焰/明 黄褐 | ロクロ整形。成形後、断面三角形の鏝を貼付。 | |
| 第108図 | 11 | 土師器 土釜 | 50住 底部～胴部下位 | 底 | 9.0 | | | 粗砂粒多/良好/暗 褐 | 胴部は縦位にヘラ削り。底部は砂目。内面は斜横位にヘラナデ。 | 被熱・脆弱。 |

短径68cm・深さ24.5cmの楕円形、土坑2は長径81.5cm・短径76.5cm・深さ36cmの楕円形を呈する。

出土遺物 古墳時代のものと平安時代のものに分かれる。前者は住居内に分散するため、住居に帰属していよう。後者の須恵器杯(第108図7)、同碗(同9)、黒色土器碗(同8)、須恵器羽釜(同10)はほぼ同じ部分にまとまって出土する。円礫も混じる。状況から土坑が重複していたと想定されるが、形態・規模は不明である。床面に掘り込みはないため、埋没土中に作られている。

時期 出土遺物から住居は5世紀後半に比定される。第108図6～11の遺物は想定される土坑のもので、時期は10世紀後半に比定される。

11号住居(第109・110図、P L .29・183、第29表)

位置 15Q・R-10・11グリッド。

重複 なし。

形状 隅丸方形を呈する。

主軸方位 N-61°-E

規模 面積11.67㎡。長辺(北西～南東)4.14m、短辺(北

東～南西)3.45m、残存壁高は25～30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。試掘トレンチによって一部壊されている。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ57cm、焚き口部の幅62cmである。埋没土5層と9層に灰の堆積が認められた。10～12層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径38cm・短径36cm・深さ20cmを測る。

柱穴・周溝 確認できなかった。

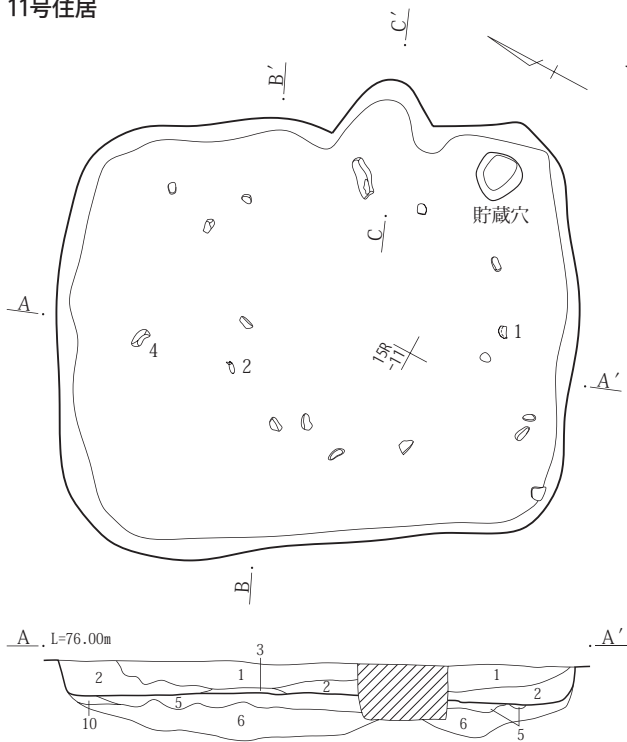
埋没土 自然埋没土と思われる。1～4層が住居埋没土になり、5～10層は掘り方充填土である。

掘り方 床面の北側半分が凹凸が顕著で、中央部で深くなっている。掘り方の深さは10～40cmを測る。

出土遺物 床面から埋没土にかけて住居全体で散漫に土器片が出土している。石製剣形模造品(第110図3)は埋没土から出土する。

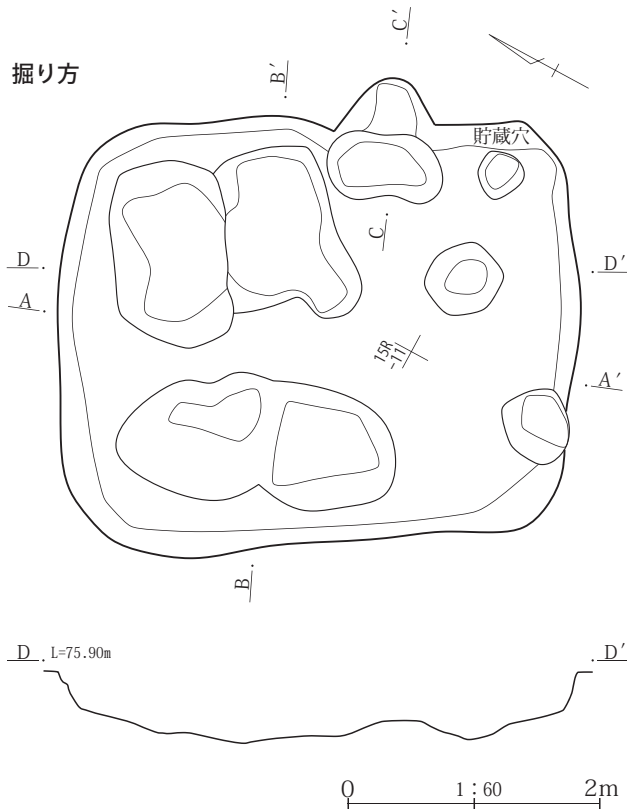
時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

11号住居

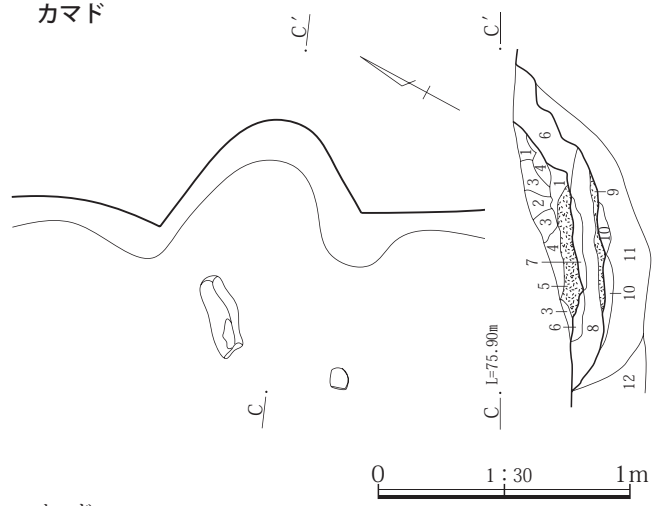


- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色土ブロック、黄白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色土粒子を含む。
- 4 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。黄褐色土粒子を少量含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 6 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 7 黄白色粘質土
- 8 灰褐色粘質土
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 10 黄褐色粘質土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を含む。

掘り方

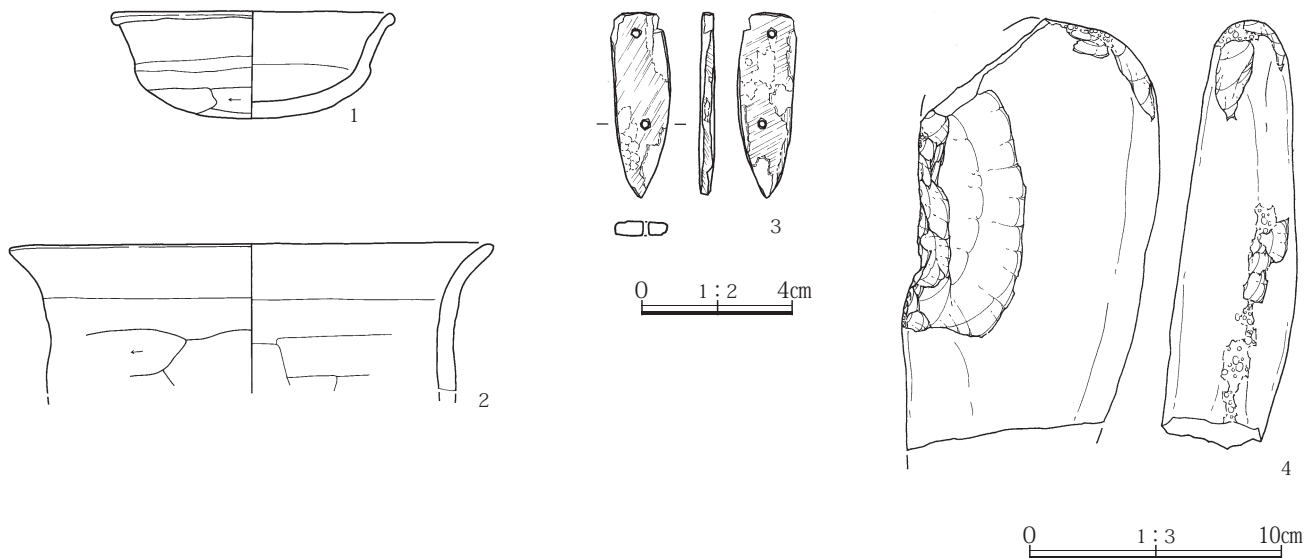


カマド



- 1 橙色焼土 粘性あり。ややしまる。横褐色土粒子を含む。
- 2 灰褐色土 粘性あり。ややしまる。炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 3 黄褐色土 粘性あり。軟らかい。焼土粒子、灰を含む。
- 4 灰褐色土+灰ブロック 粘性あり。軟らかい。
- 5 灰 粘性あり。軟らかい。
- 6 暗褐色土 非常に軟らかく粘性あり。焼土ブロック、黄白色土ブロックを多量に含む。
- 7 黄白色土 非常に軟らかく粘性あり。カマド構築材。
- 8 暗褐色土 非常に軟らかく粘性あり。黄白色土ブロック、焼土ブロック、灰を含む。
- 9 灰 焼土ブロックを含む。
- 10 黄白色粘質土 非常に軟らかい。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む。

第109図 3区11号住居



第110図 3区11号住居出土遺物

第29表 3区11号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-------------|----------------------|--------|----------------|--------|--------------------|---------------|---|---------|
| 第110図 | 1 | 土師器 杯 | +14 1/2 | 口 | 11.0 | 高 | 4.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は外方に丸く肥厚する。口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 外面磨滅顕著。 |
| 第110図 | 2 | 土師器 甕 | +7 口縁~胴 部上位1/4 | 口 | 18.8 | | | 細砂粒・軽石/良好/明黄褐 | 口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は横位にへら削り。内面胴部は横位にへらナデ。 | |
| 第110図 | 3 | 石製模造品 剣形 | | 長 幅 | 4.9 1.6 | 厚 重 | 0.4 4.8 | 滑石 | 粗く研磨整形して概形を作出。表裏面とも粗い斜位線条痕が残る。径2mm弱の孔を片側穿孔する。 | |
| 第110図 PL.183 | 4 | 礫石器 敲石 | +7 | 長 幅 | (17.0) 10.2 | 厚 重 | 5.4 1173.3 | 粗粒輝石安山岩 | 上端側小口部・両側縁が激しく敲打されている。左側縁エッジは敲打され、大きく破損している。 | 棒状礫 |

12号住居(第111・112図、P L .30、第30表)

位置 15R・S-10・11グリッド。

重複 13号住居、6号土坑、6号溝より前出。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-62°-E

規模 現状での面積は17.81㎡。長辺(北東~南西)5.76m、短辺(北西~南東)4.67m、残存壁高は10~16cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1~4層が住居埋没土になり、5~7層は掘り方充填土である。

掘り方 床面中央やや西寄りから土坑が検出された。長径130cm・短径120cm・深さ30~43cmの楕円形を呈する。

底面は凹凸がある。掘り方の深さは10cmを測る。

出土遺物 床面から散漫に土器片が出土している。掲載遺物はすべて6号溝と重複し、土師器甕(第111図2~4)は時期が一致する。状況から第111図1の土師器杯が住居に帰属する可能性が高い。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

13号住居(第111図、P L .30)

位置 15S-10・11グリッド。

重複 12号住居、6号溝より後出。

形状 排水のための掘削溝によって壊されてしまったが、方形を呈するものと思われる。

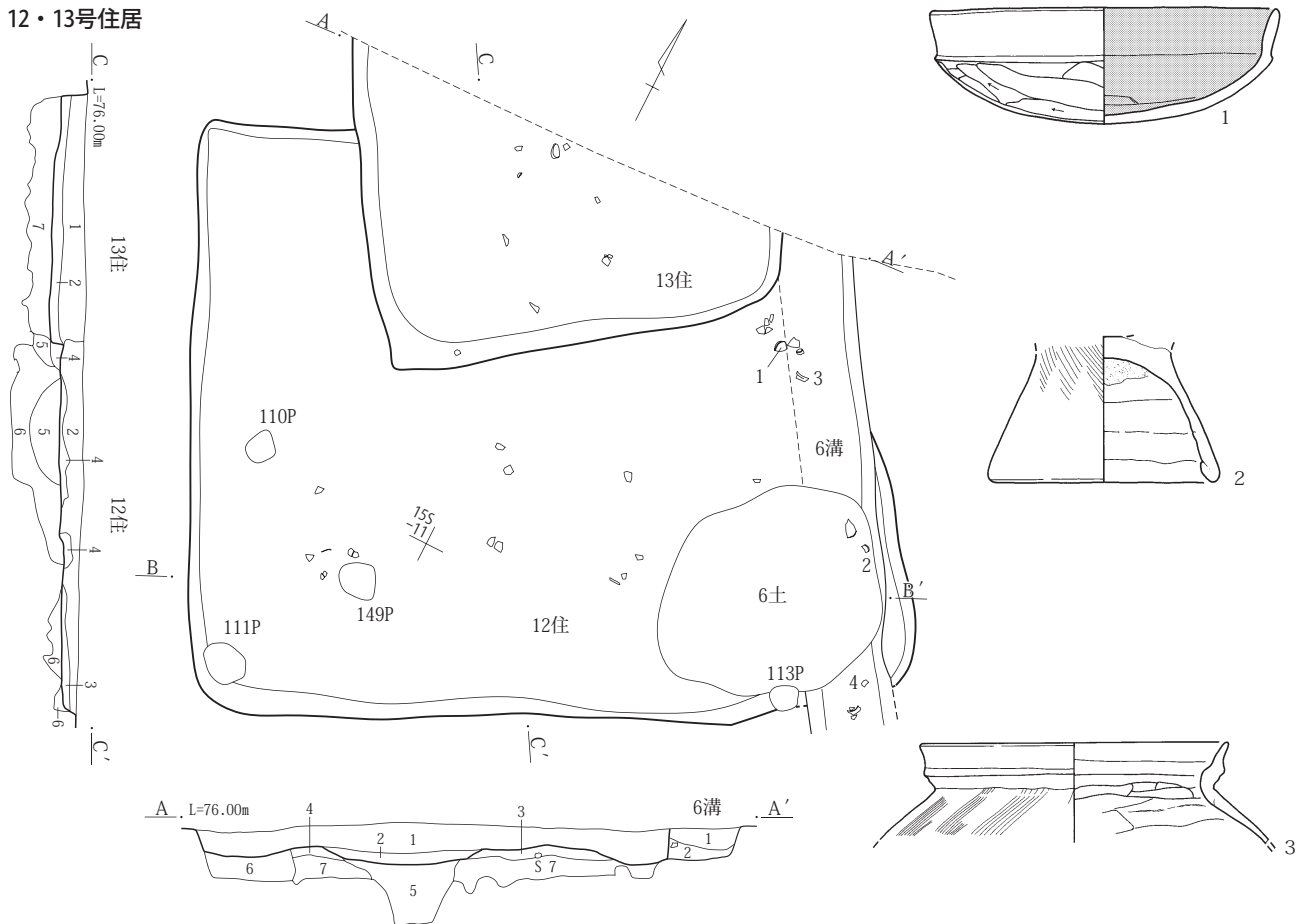
主軸方位 不明。

規模 現状での面積は4.52㎡、現状での長辺(北東~南西)3.27m、短辺(北西~南東)2.7m、残存壁高は16~28cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

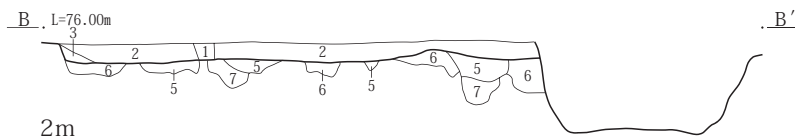
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

12・13号住居



13号住居

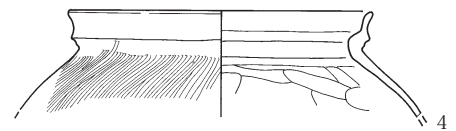
- | | |
|---|--|
| <p>1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。</p> <p>2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子を含む。</p> <p>3 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。</p> <p>4 黄白色粘質土 やや硬くしまる。</p> <p>5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子、炭化物を含む。</p> | <p>6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。</p> <p>7 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。</p> <p>6号溝</p> <p>1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、炭化物粒子を含む。</p> <p>2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性有り、ロームブロック、炭化を含む。</p> |
|---|--|



0 1:60 2m

12号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。浅間B軽石を含む。ピットフク土。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄褐色ブロック、白色粒子を含む。
- 3 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。
- 4 黒褐色土 やや硬くしまり良い。粘性あり。黄褐色土ブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土を含む。
- 6 黄褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。ロームブロックと暗褐色土の混土。
- 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、黄白色粘質土を多量に含む。



0 1:3 10cm

第111図 3区12・13号住居と12号住居出土遺物

掘り方



第112図 3区12・13号住居掘り方

第30表 3区12号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|------------|----------------|-----|------|---|--------------------|---------------------|---|
| 第111図 | 1 | 土師器 杯 | +9 1/4 | 口 | 13.6 | 高 | 4.5 | 細砂粒・雲母/良好/ にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 内面黒色・炭素吸着。 |
| 第111図 | 2 | 土師器 台付甕 | +9 台部1/3 | 底 | 8.6 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 外面はナデ。上位にハケ目。内面底部に砂目粘土で補填。 脚部は指ナデ。 |
| 第111図 | 3 | 土師器 台付甕 | +20 口縁~胴部上位 | 口 | 12.0 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部左下に1cmあたり7本のハケ目。内 面頸部にへら削り。胴部は指ナデ。 |
| 第111図 | 4 | 土師器 台付甕 | 口縁~胴部上位 | 口 | 11.8 | | | 粗砂粒/良好/浅黄 橙 | 口縁部は横ナデ。胴部左下に1cmあたり8本のハケ目。内 面胴部は指ナデ。 |

埋没土 自然埋没土と思われる。1～2層が住居埋没土になり、3～7層は掘り方充填土である。

掘り方 床面全体を掘り下げている。底面は凹凸がある。掘り方の深さは11～23cmを測る。

出土遺物 非常に少ない。床面から散漫に土器片が出土している。

時期 非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

14号住居(第113～117図、P L.30・31・183、第31表)

位置 15R・S-11～13グリッド。

重複 41号住居より後出で、16号住居より前出。1号竪穴状遺構と重複するが新旧関係不明。

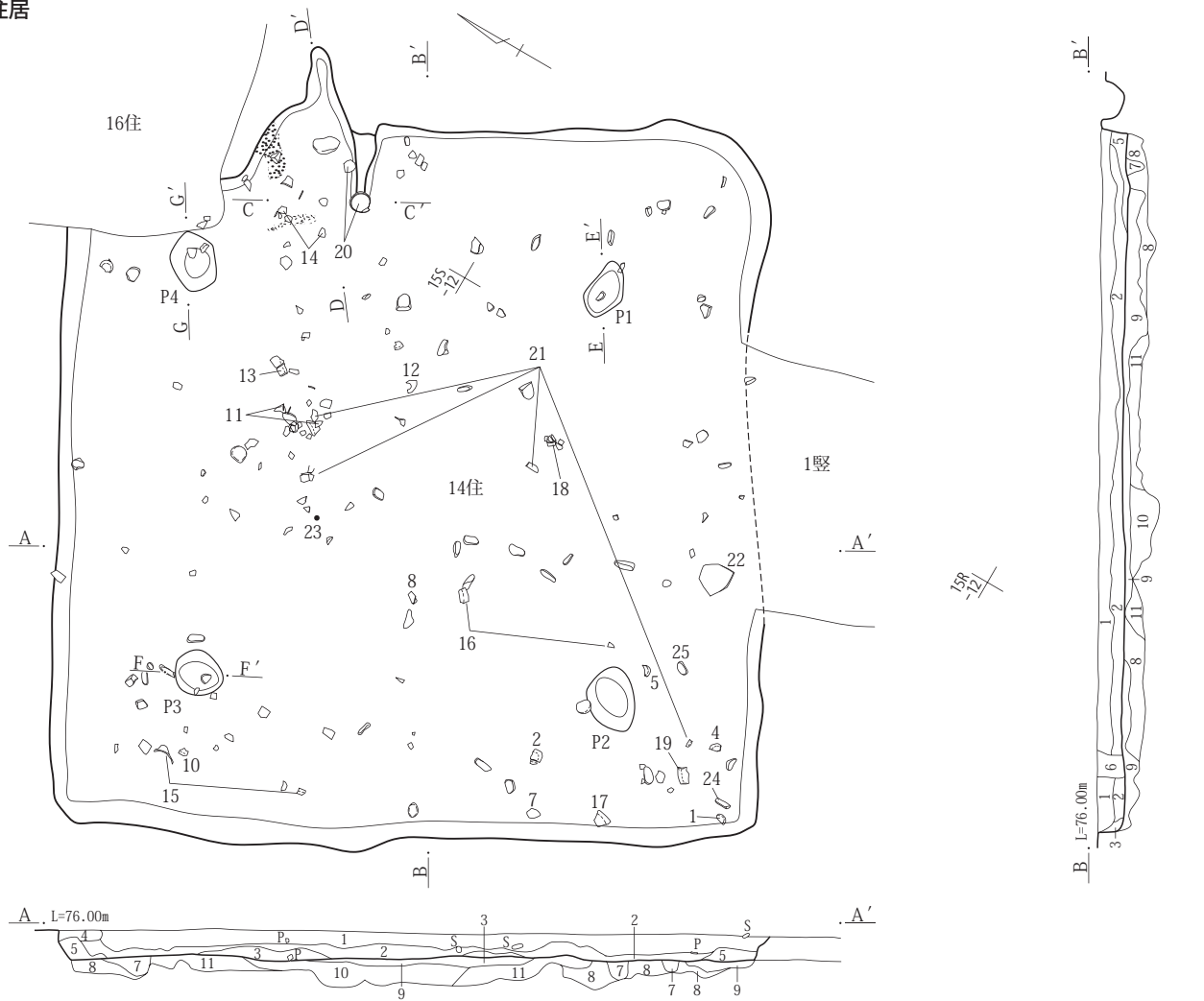
形状 方形を呈する。

主軸方位 N-59°-E

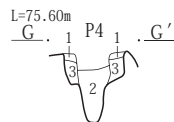
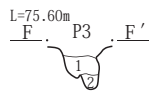
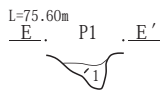
規模 現状での面積は30.41㎡。長辺(北東～南西)6.02m、短辺(北西～南東)5.86m、残存壁高は20～24cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

14号住居



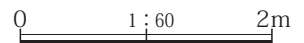
- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。炭化物粒子、焼土粒子、ローム粒子を含む。</p> <p>2 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黒褐色ブロック、黄褐色土粒子を含む。</p> <p>3 黒褐色土 粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを含む。</p> <p>4 暗褐色土 サラサラしている。硬くしまる。白色粒子、ローム粒子を多く含む。</p> <p>5 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。黄褐色土ブロックを含む。</p> <p>6 黒褐色土 粘性あり。軟らかい。黄白色土粒子を含む。</p> | <p>7 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。</p> <p>8 黄白色粘質土 やわらかい。暗褐色土を含む。</p> <p>9 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。</p> <p>10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。</p> <p>11 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。</p> |
|---|---|



- P 1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

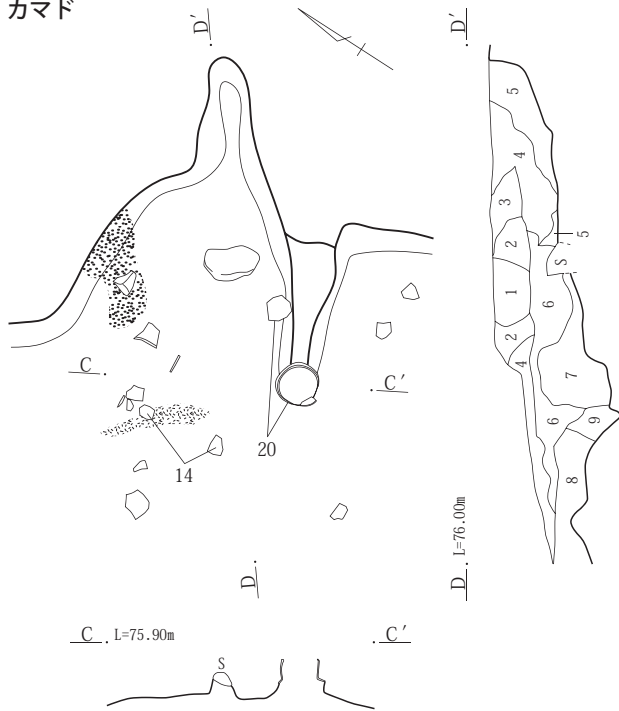
- P 3
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色土ブロックを含む。

- P 4
- 1 黄白色粘質土 やや硬くしまる。
- 2 暗褐色土 P1と同じ。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。



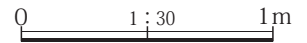
第113図 3区14号住居

カマド

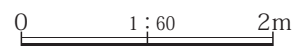
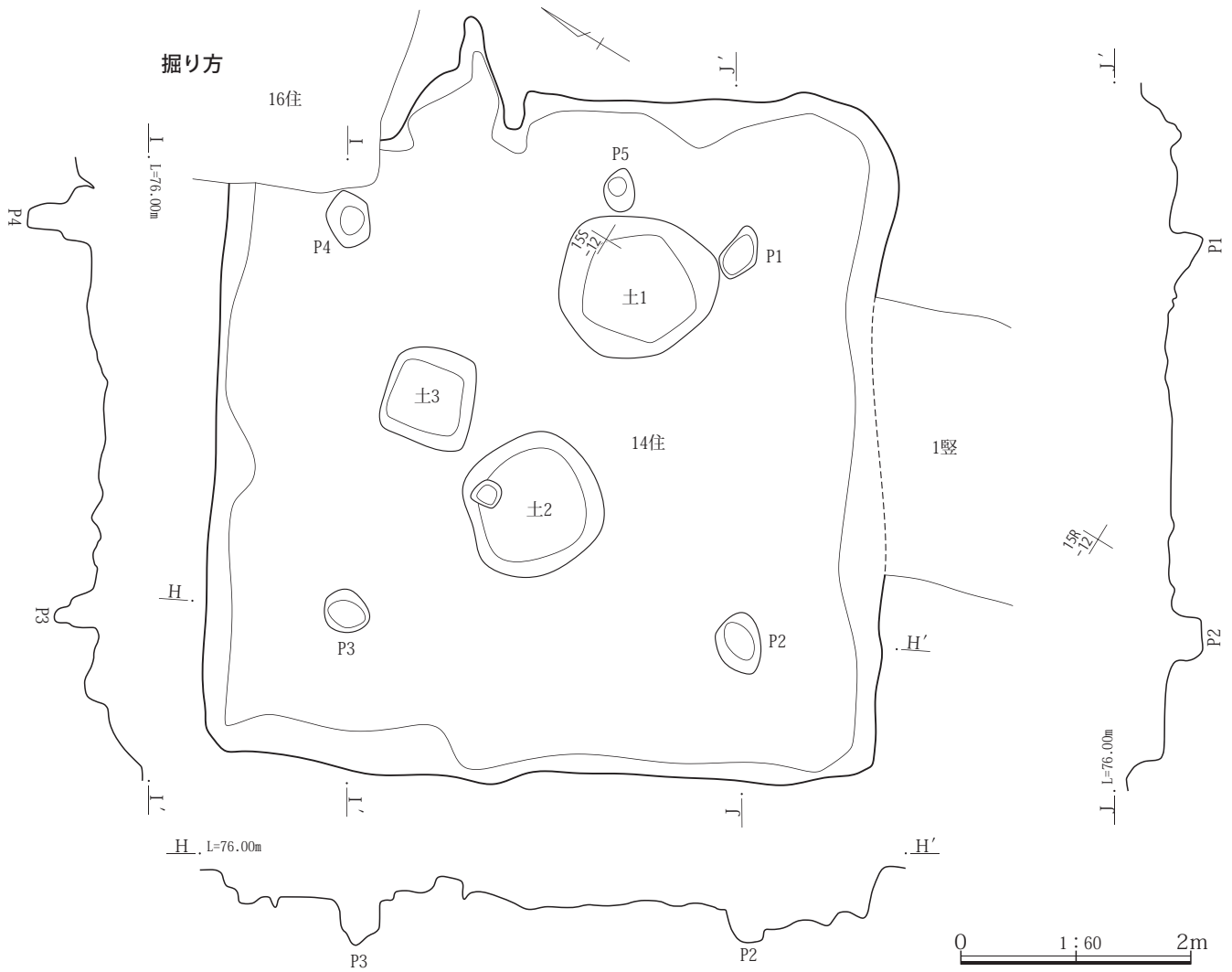


カマド

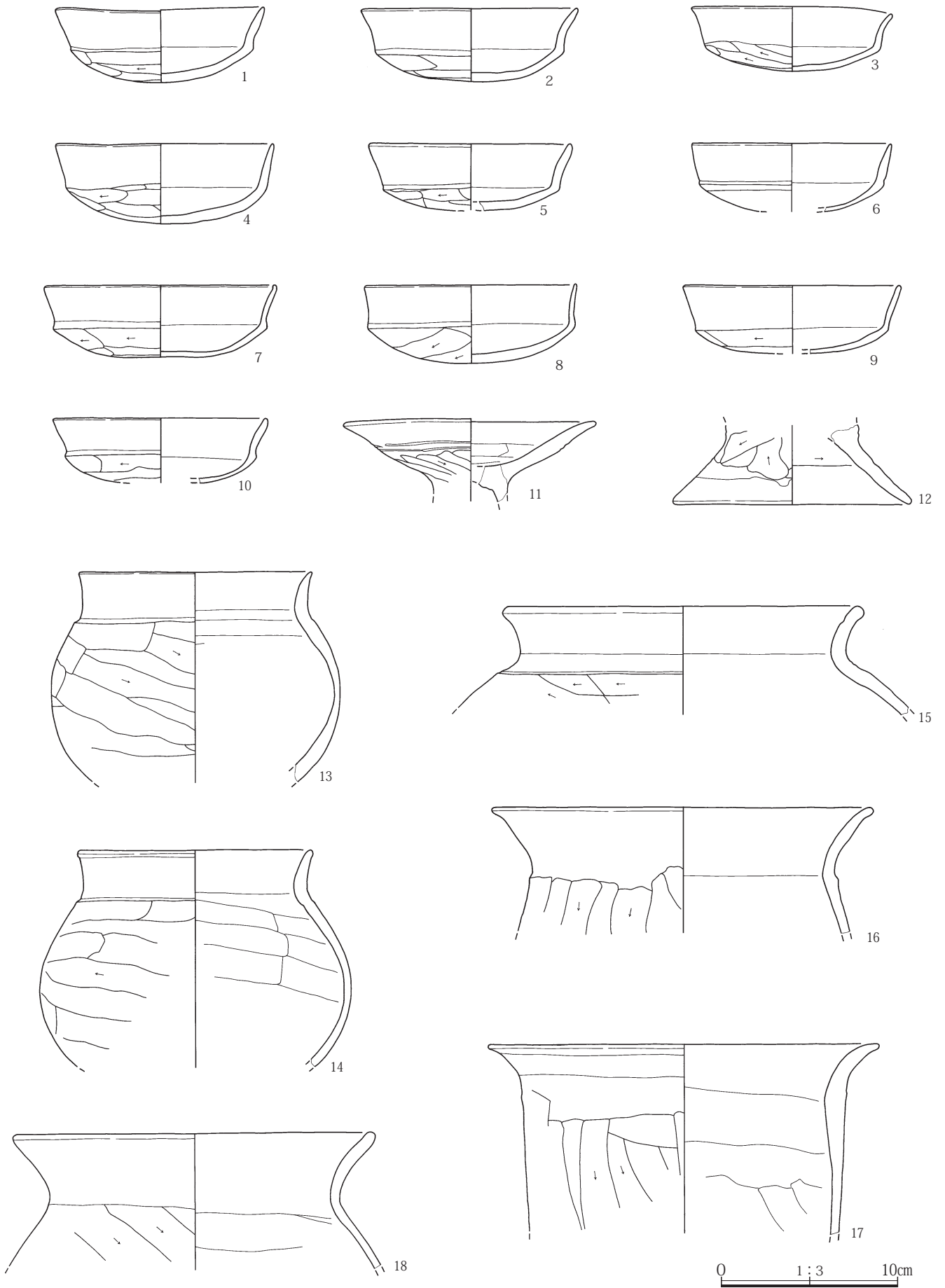
- 1 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子、焼土粒子、黄白色土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、黄白色ブロック、灰を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 5 黄褐色土 やや硬く粘性あり。カマド構築材。
- 6 黄白色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色土ブロックを多量に、焼土粒子、炭化物を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄褐色土の大ブロックを含む。
- 9 黄褐色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土ブロックを含む。



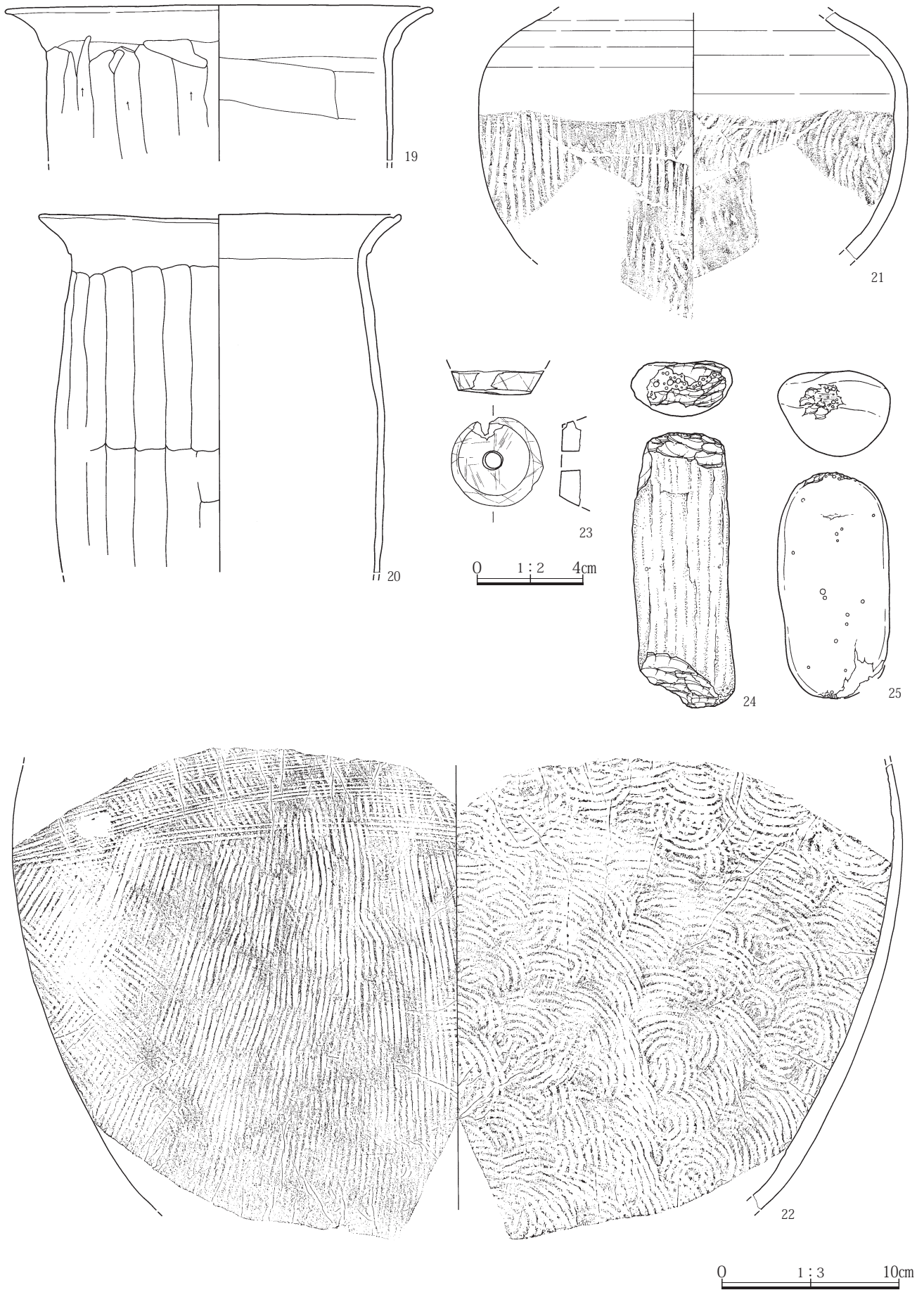
掘り方



第114図 3区14号住居カマドと掘り方



第115図 3区14号住居出土遺物(1)



第116図 3区14号住居出土遺物(2)

カマド 東壁の中央やや北寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ136cm、焚き口部の幅90cmである。袖に甕が逆位で据えられ、支脚となる石も残されている。1～3層は天井の崩落部になる可能性がある。8・9層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 主柱穴となるピット4基が検出されている。P1は長径48.5cm・短径30cm・深さ19cm、P2は長径53.5cm・短径38cm・深さ24cm、P3は長径41.5cm・短径36cm・深さ26cm、P4は長径49cm・短径35cm・深さ42cmを測る。P4の1層は根固めの粘質土になる。P1-P2間の距離は3.4m、P2-P3間距離3.5m、P3-P4間距離3.4m、P4-P1間距離は同じく3.4mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～5層が住居埋没土になり、9～13層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。掘り方調査時に主柱穴間の内側から3基の土坑状掘り込みと1基のピットを検出した。P5は長径34cm・短径25cm・深さ25cm。土坑1は長径135cm・短径130cm・深さ16cmの楕円形、土坑2は長径117cm・短径116cm・深さ20cmの隅丸方形、土坑3は長径85cm・短径77cm・深さ3cmの方形を呈する。掘り方の深さは約10～25cmを測る。

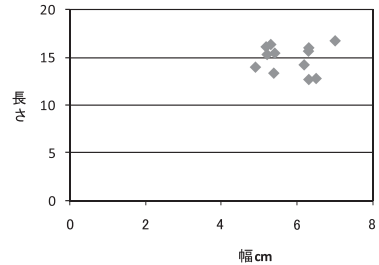
出土遺物 床面全域で土器片が出土している。菰編石10点も住居全体に散在する。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

第31表 3区14号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|--------------------|-----|------|---|--------------------|-----------------------------|--|-------------|
| 第115図 PL.183 | 1 | 土師器 杯 | 床直 完形 | 口 | 11.6 | 高 | 4.2 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 PL.183 | 2 | 土師器 杯 | +12 4/5 | 口 | 12.0 | 高 | 4.15 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 PL.183 | 3 | 土師器 杯 | +21 3/4 | 口 | 11.1 | 高 | 3.6 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 PL.183 | 4 | 土師器 杯 | +10 3/5 | 口 | 12.1 | 高 | 4.45 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 | 5 | 土師器 杯 | +4 1/2 | 口 | 11.2 | | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面やや磨滅。 |
| 第115図 | 6 | 土師器 杯 | 床直 1/2 | 口 | 5.6 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 | 7 | 土師器 杯 | +20 1/4 | 口 | 12.8 | 高 | 4.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 | 8 | 土師器 杯 | +7 2/5 | 口 | 11.8 | 高 | 4.4 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 | 9 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 12.0 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 | 10 | 土師器 杯 | +11 1/4 | 口 | 11.8 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 | 11 | 土師器 高杯 | +3 杯部1/2 | 口 | 14.0 | | | 細砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶい 黄橙 | 口縁部は横ナデ。体部は斜位にヘラ削り。内面は下位に指ナデ。 | 内外面炭素吸着。 |
| 第115図 | 12 | 土師器 台付甕 | +17 台部1/2 | 台 | 13.2 | | | 粗砂粒/良好/赤褐 | 裾部に粗雑な横ナデ、付着した粘土痕を押し延ばしている。これより上位はヘラ削り。内面上位にヘラ削り、以下は横撫で。 | 被熱。 |
| 第115図 | 13 | 土師器 小型甕 | +9 口縁～胴 部中位1/3 | 口 | 13.0 | | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位、斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第115図 | 14 | 土師器 小型甕 | カマド 口縁～ 胴部中位1/3 | 口 | 13.0 | | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位、斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | |
| 第115図 | 15 | 土師器 甕 | +10 口縁～胴 部上位1/3 | 口 | 19.8 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部はナデ。 | |
| 第115図 | 16 | 土師器 甕 | +5 口縁～胴 部上位1/4 | 口 | 21.2 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面の一部に炭素吸着。 |
| 第115図 | 17 | 土師器 甕 | +7 口縁～胴 部上位片 | 口 | 21.8 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は3回以上に分けて横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位を基本に丁寧なナデ。 | |
| 第115図 | 18 | 土師器 甕 | +6 口縁～胴 部上位片 | 口 | 20.0 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | |
| 第116図 | 19 | 土師器 甕 | +7 口縁～胴 部上位片 | 口 | 23.8 | | | 粗砂粒・軽石/良好 /にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にナデ。 | |
| 第116図 PL.183 | 20 | 土師器 甕 | カマド 口縁～胴部 | 口 | 19.8 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位に2回ヘラ削り。内面胴部はヘラナデと考えられる。 | 内面磨滅。 |
| 第116図 | 21 | 須恵器 甕 | +7 肩部～胴部片 | | | | | 白色鋳物粒/還元 焰やや軟質/灰白 | 紐作り後、叩き整形。肩部はクロコ整形による横ナデ。胴部は平行叩き目。内面は青海波状のアテ具痕。 | |
| 第116図 | 22 | 須恵器 甕 | +7 胴部片 | | | | | 白色・黒色鋳物粒/ 還元焰/灰白 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目に横位のカキ目を複数段重ねる。内面は同心円文状のアテ具痕。 | |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|-------------|-----------|---------------------|---------------|---------|--------------------|--|-----|
| | | | | 径幅 | 3.3 厚重 | (0.9) 12.3 | | | | |
| 第116図 PL.183 | 23 | 石製品 紡輪 | 掘り方 | | | | | 滑石 | 使用面を破損して欠く。紡輪底面の研磨は粗く面を整える程度、体部に縦位整形痕が残る。紡輪孔は径7mm前後。 | |
| 第116図 PL.183 | 24 | 礫石器 敲石 | +8 | 長幅 5.4 | 15.4 厚重 398.5 | 3.1 | | 雲母石英片岩 | 小口部両端が激しく敲打され、大きく剥落する。 | 菰編石 |
| 第116図 PL.183 | 25 | 礫石器 敲石 | +7 | 長幅 6.3 | 12.6 厚重 562.7 | 4.8 | | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に敲打痕がある。 | 菰編石 |
| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 | | | |
| 非掲載 | 26 | 菰編石 | 6.2 | 14.2 | 4.2 | 505.7 | 変質安山岩 | | | |
| 非掲載 | 27 | 菰編石 | 4.9 | 14.1 | 4.7 | 471.8 | 溶結凝灰岩 | | | |
| 非掲載 | 28 | 菰編石 | 5.2 | 15.3 | 6.1 | 770.1 | 石英閃緑岩 | | | |
| 非掲載 | 29 | 菰編石 | 5.2 | 16.1 | 3.8 | 450.9 | 砂岩 | | | |
| 非掲載 | 30 | 菰編石 | 6.3 | 16 | 3.9 | 540.7 | 黒色片岩 | | | |
| 非掲載 | 31 | 菰編石 | 6.3 | 15.6 | 4.3 | 578.2 | 溶結凝灰岩 | | | |
| 非掲載 | 32 | 菰編石 | 7 | 16.7 | 4.4 | 829.8 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 33 | 菰編石 | 6.5 | 12.7 | 2.9 | 393.1 | 雲母石英片岩 | | | |



第117図 3区14号住居菰編石長幅比グラフ

15号住居(第118・119図、P L .32)

位置 15Q・R-9・10グリッド。

重複 6号溝より後出か。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-73°-E

規模 面積は13.74㎡。長辺(南北)4.15m、短辺(東西)4.02m、残存壁高は10～28cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ78cm、焚き口部の幅115cmである。埋没土は1～6層、7層は灰、8～10層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 床面の東南隅から検出された。長径100cm・短径90cm・深さ8cmの方形を呈する。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2、4～7層が住居埋没土になり、8～14層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。床面の中央から北東にかけて土坑状の掘り込みが目立つ。掘り方調査時にピット4基を検出した。P1は長径30cm・短径22cm・深さ19cm、P2は長径39cm・短径25cm・深さ14cm、P3は長径26cm・短径20.5cm・深さ17cm、P4は長径58.5cm・短径31.5cm・深さ32cmを測る。掘り方の深さは約8～30cmを測る。

出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。

時期 非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

16号住居(第120～122図、P L .32・33・184、第32表) 調査は2年次に分かれた。このため排水溝の掘削によって調査できなかった箇所が存在する。

位置 15S・T-11・12グリッド。

重複 14・180号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-75°-E

規模 推定面積は20.2㎡。長辺(東西)5.05m、短辺(南北)4.75m、調査区の壁で確認した壁高は40cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。カマド前から床面中央部にかけて明瞭な硬化面が認められた。

カマド 東壁のほぼ中央に設置される。燃烧部の多くは壁を掘り込んで構築され、規模は長さ111cm、焚き口部の幅40cmである。片側の袖を確認できた。埋没土1～10層、4層は焼土である。掘り方充填土は11～17層である。

貯蔵穴 床面の東南隅に土坑になるとと思われる遺構が検出された。現状では長径70cm・短径20cm・深さ24cmを測る。この遺構が貯蔵穴になるものと思われる。排水溝を掘削した箇所にその大部分は存在したものであろう。

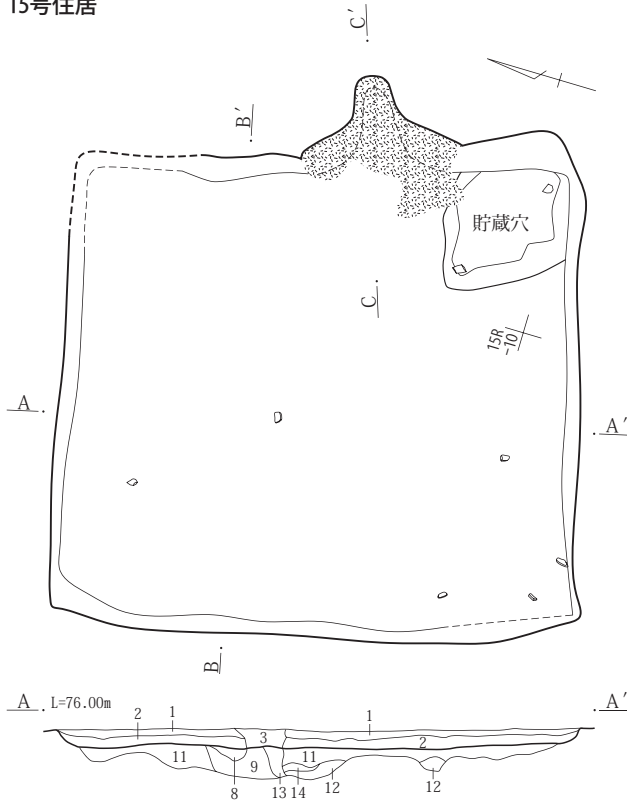
柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。3～5層が住居埋没土になり、6層はカマド天井の崩落土、7～9層はカマド埋没土である。12層は貼床になる。14・15層は床下土坑の埋没土になり、10・11・13層は掘り方充填土になる。

掘り方 180号住居と重複しているために明瞭ではない。
 出土遺物 住居北西部を除く埋没土全体に散在する。

時期 第122図3・4、6～10の出土遺物から8世紀前半に比定される。

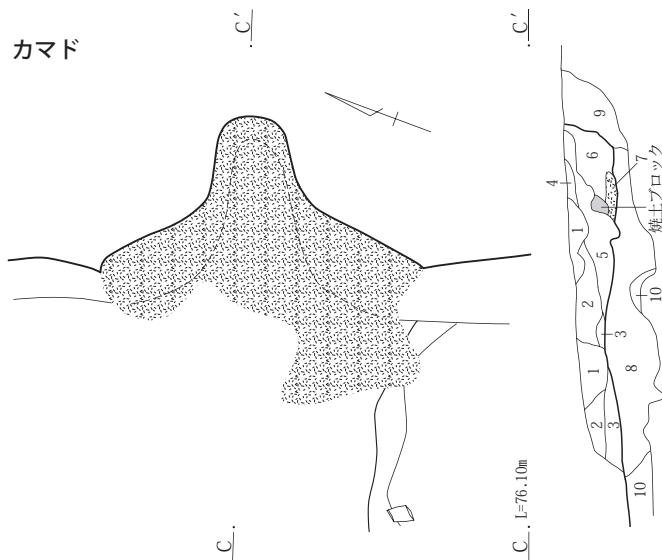
15号住居



- 1 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。黄褐色土粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黒褐色土ブロック、黄褐色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかい。サラサラしている。
- 4 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 6 黄褐色土 軟らかい。ロームブロックを多量に含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 10 暗褐色土 非常に軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 13 暗褐色土 やわらかい。黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 14 黄白色粘質土 軟らかい。暗褐色土を少量含む。

0 1:60 2m

カマド



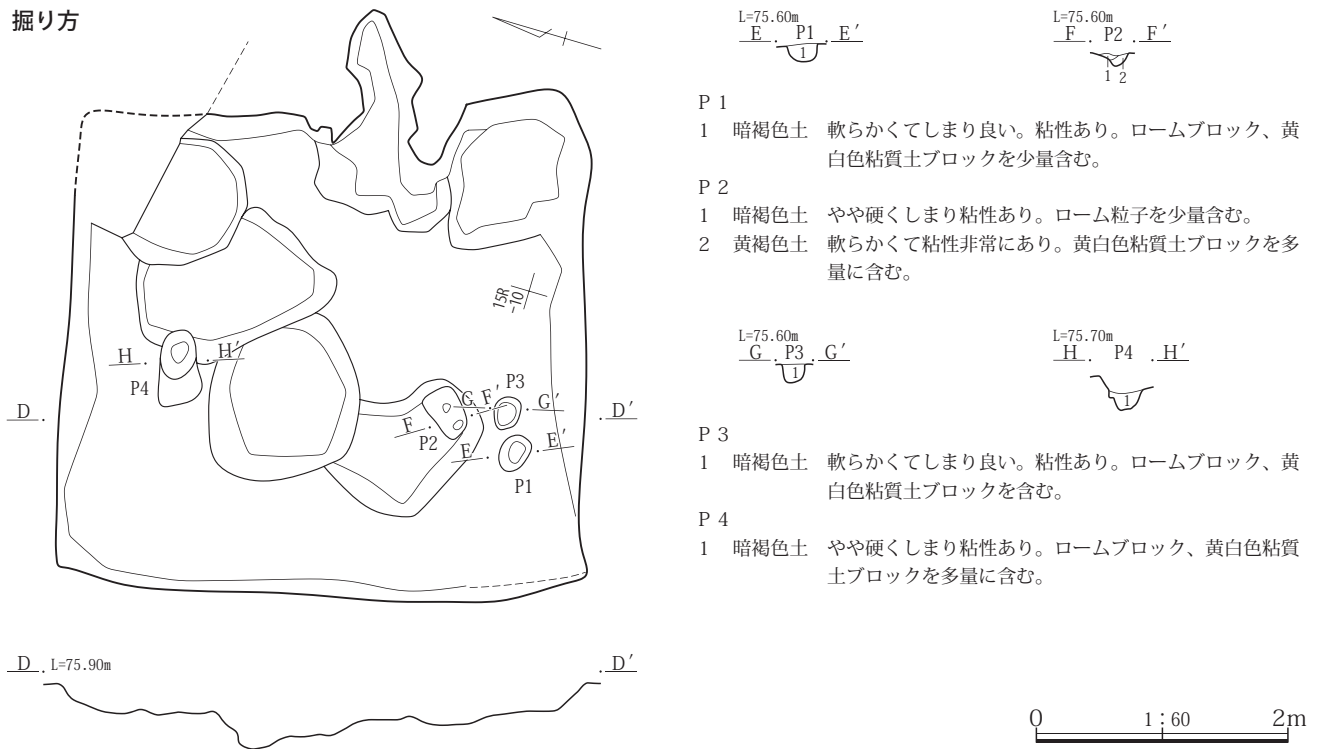
カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、黄白色土ブロックを含む。
- 2 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、黄白色土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを多量に含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロックを多量に、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 7 灰
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、黄白色土粒子を含む。
- 10 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

0 1:30 1m

第118図 3区15号住居

掘り方



第119図 3区15号住居掘り方

180号住居(第120・123図、P L .121)

位置 15T-11グリッド。

重複 16号住居より前出。

形状 不明。

主軸方位 N-61°-E

規模 現状では長辺(南北)2.59m。短辺(東西)0.87m、調査区の壁で確認した壁高は55cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。22・23層は180号住居の貼床になるものと思われる。土圧によって全体的に沈下しているものと考えられる。

カマド 東壁に設置される。燃烧部の多くは壁を掘り込んで構築され、規模は長さ77cm、焚き口部の幅43cmである。袖石2個が残されていた。埋没土1～5層、掘り方充填土は6～8層である。

貯蔵穴 カマドの南から検出された。現状では長径57cm・短径23cm・深さ11cmを測る。埋没土から土器が出土している。貯蔵穴の半分ほどは排水溝の掘削で壊されてしまった。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。18～21層が住居埋没

土になり、22・23層は貼床になる。24～27層は床下土坑の埋没土に、28・29層は掘り方充填土になる。

掘り方 16号住居と重複しているために明瞭ではない。

出土遺物 カマド周辺から出土している。

時期 非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

17号住居(第124・125図、P L .33・184、第33表)

位置 15R・S-16・17グリッド。

重複 18号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-68°-E

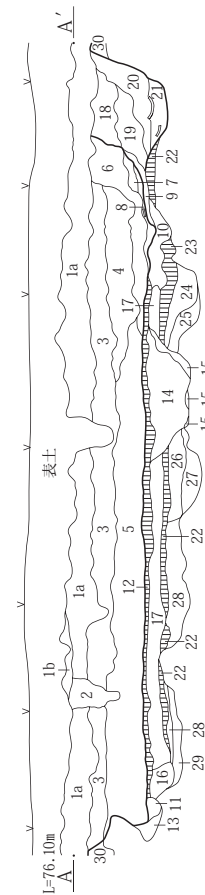
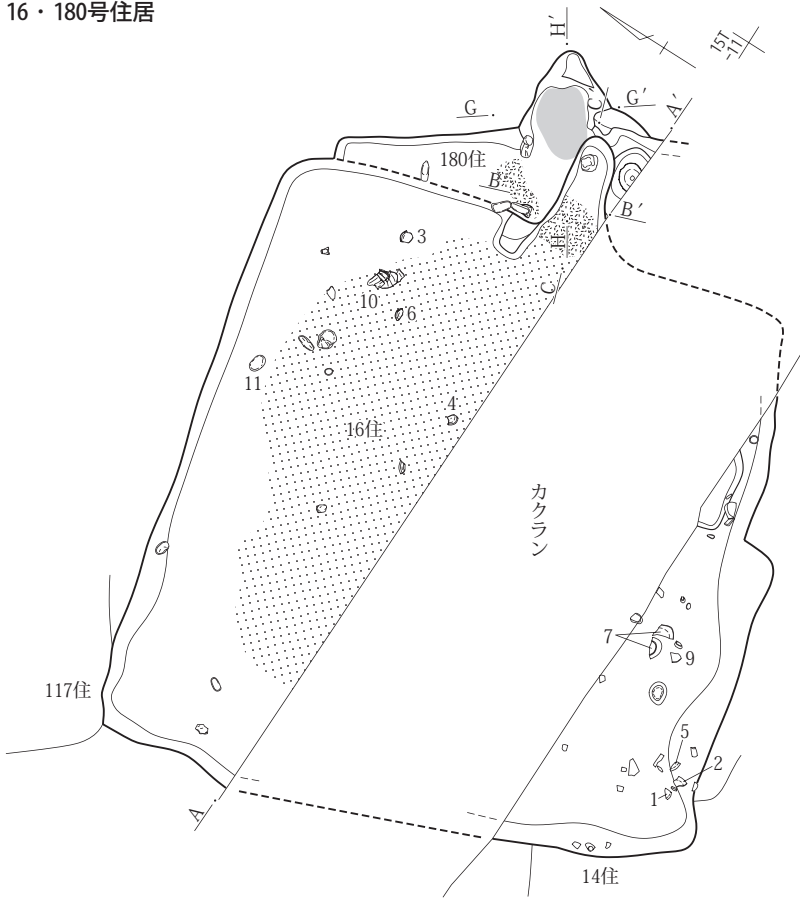
規模 面積は13.57㎡。長辺(北東～南西)4.33m、短辺(北西～南東)3.66m、残存壁高は7～12cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁の中央に設置される。燃烧部の多くは床面を掘り込んで構築され、規模は長さ31cm、焚き口部の幅50cmである。袖石1個が残されていた。埋没土1～3層になる。

焼土 床面の中央部からやや南寄りに検出された。長径46cm・短径28cm・深さ10cmを測る。埋没土は3層に分か

16・180号住居



0 1:60 2m

16・180号住居

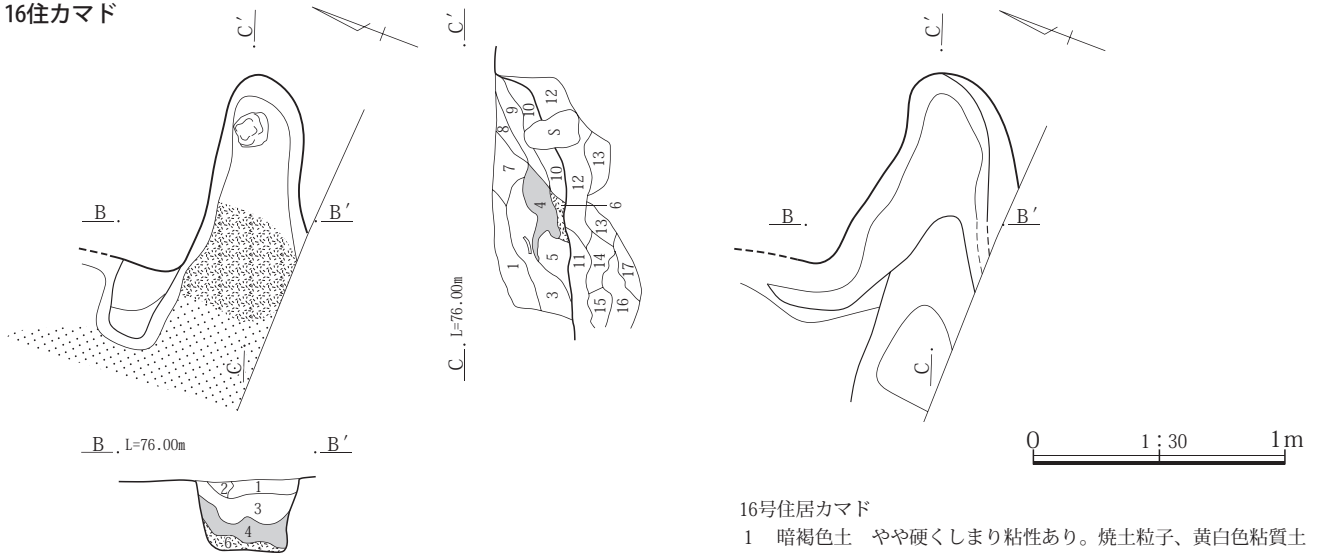
- 1a 暗褐色土 しまりやや弱く粘性あり。白色粒子、淡褐色粒子(浅間B軽石か)、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。
- 1b 暗褐色土 1a層と同じだが2層にかぶさる層のため分層。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまり粘性あり。白色粒子を少量、浅間B軽石の混入多い。
- 30 ローム漸移層
- 16号住居
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子、ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。灰褐色粘質土ブロック、灰褐色粘質土粒子、焼土ブロック、焼土粒子を含む。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。
- 6 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。焼土粒子、焼土ブロックが不均質に下層に含まれる。カマド天井崩落土。
- 7 暗褐色土 やや軟らかくしまり粘性あり。焼土粒子、焼土ブロックを含む。灰褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 8 黒褐色土 軟らかくしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロックを少量、木炭、灰を主体。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。灰褐色粘質土ブロック主体。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。カマド掘り方ク土。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。
- 12 暗褐色土 しまり非常に硬い。粘性あり。ロームブロックを多量に含む。貼床。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を微量含む。
- 14 黒褐色土 やや軟らかくしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。床下土坑。
- 15 灰褐色粘質土 土坑の底面に貼られた粘土。

180号住居

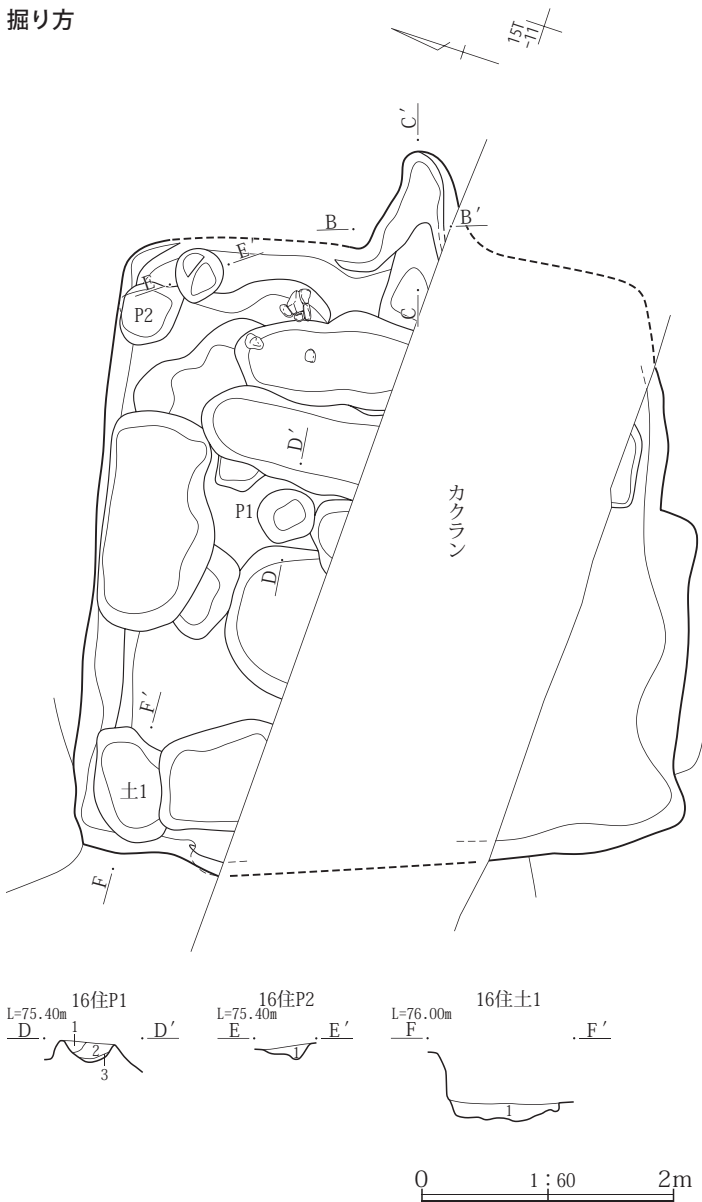
- 16 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを少量含む。掘り方ク土。
- 17 暗褐色土 やや軟らかくしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 18 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子を多量に、灰褐色粘質土ブロックを含む。焼土ブロック、焼土粒子、ロームブロックを少量含む。
- 19 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子、灰褐色粘質土ブロック、焼土ブロック、焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。
- 20 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子を多量に、ロームブロック、ローム粒子を少量、焼土ブロックを微量含む。
- 21 暗褐色土 やや軟らかくしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を微量含む。貯蔵穴か。
- 22 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロック。貼床。
- 23 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを不均質に含む。貼床。
- 24 暗褐色土 やや軟らかくしまり粘性あり。ロームブロックを含む。焼土粒子を微量含む。床下土坑。
- 25 黒褐色土 やや軟らかくしまり粘性あり。粘土ブロック、同粒子を少量含む。床下土坑。
- 26 暗褐色土 やや軟らかくしまり粘性あり。粘質土ブロックを多く含む。床下土坑。
- 27 黒褐色土 やや軟らかくしまり粘性あり。粘質土ブロックを微量含む。床下土坑。
- 28 暗褐色土 やや軟らかくしまり粘性あり。粘質土ブロック、粘質土粒子を含む。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。
- 29 暗褐色土 軟らかくしまり粘性あり。粘質土ブロック主体。

第120図 3区16・180号住居

16住カマド



掘り方



16号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土ブロック、白色粒子を含む。
- 2 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを含む。カマド構築材。
- 3 暗白色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 焼土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、灰を含む。
- 6 灰 軟らかくて粘性非常にあり。
- 7 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を少量、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 8 暗褐色土 しまり強い。炭化物粒子を少量、焼土粒子を含む。
- 9 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子を多く含む。
- 10 黒褐色土 焼土粒子を微量含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、焼土粒子を少量、炭化物粒子、灰を含む。
- 12 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 13 暗褐色土 しまり弱い。炭化物粒子を多く、焼土粒子を含む。
- 14 暗褐色土 しまり弱い。灰を多く含む。
- 15 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、灰を含む。
- 16 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 17 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック含む。

P 1

- 1 黒褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 しまり強い。ローム粒子を微量含む。
- 3 黒褐色土 1層よりローム粒子を多く含む。

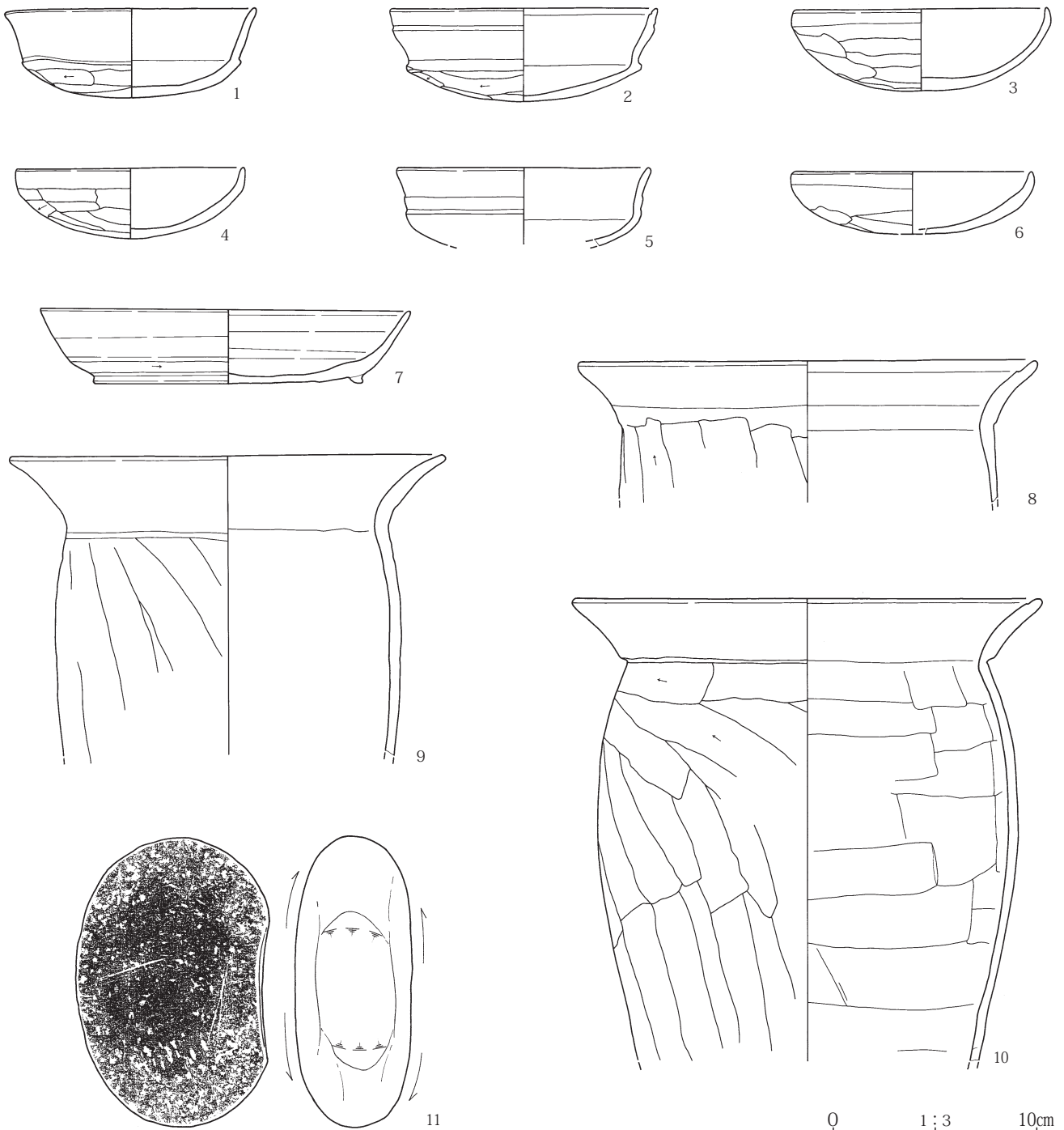
P 2

- 1 暗褐色土 粘土粒子を多く含む。

住居内土坑 1

- 1 黒褐色土 しまり強い。粘土粒子を含む。

第121図 3区16号住居カマドと掘り方



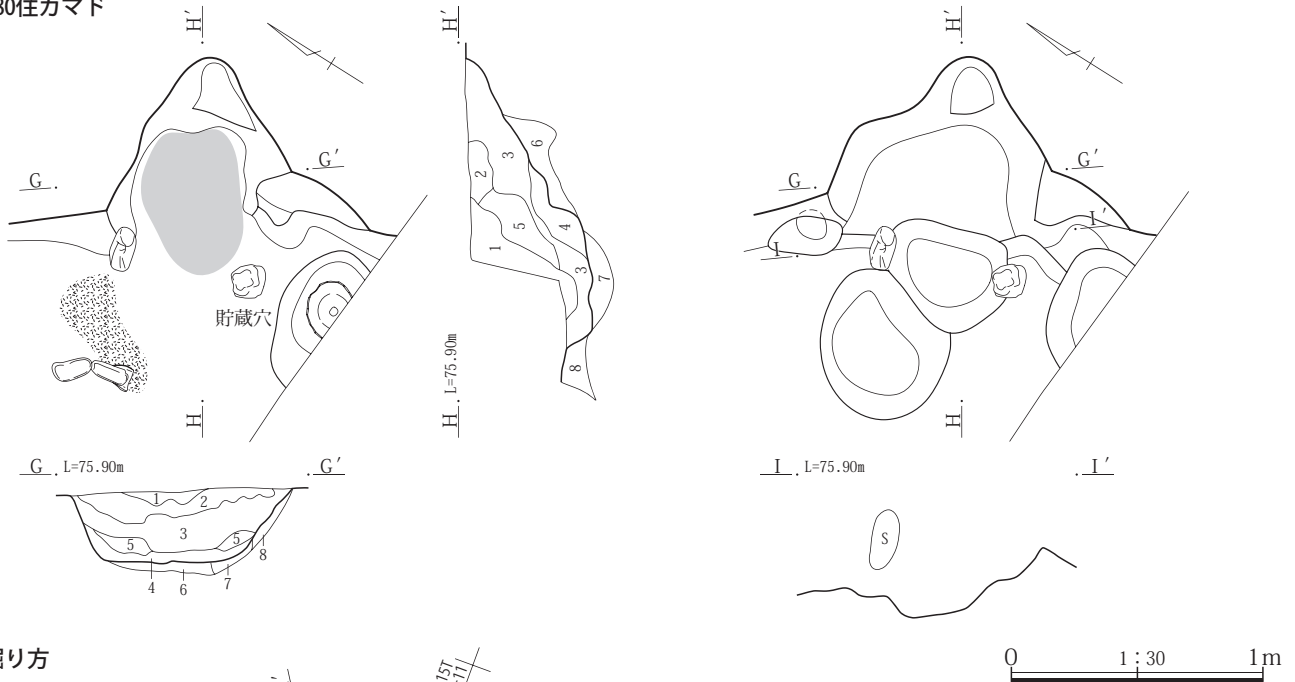
第122図 3区16号住居出土遺物

第32表 3区16号住居出土遺物

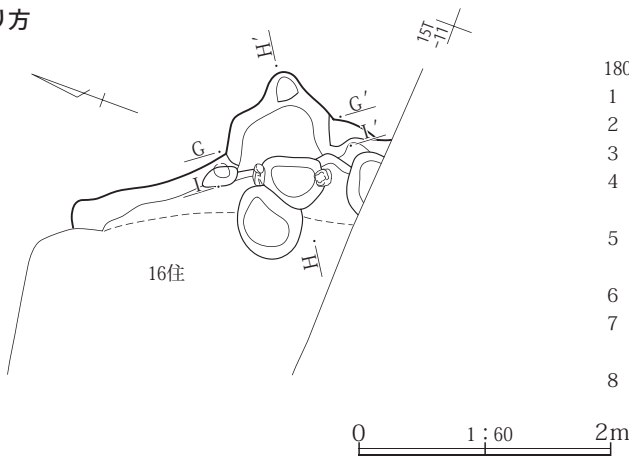
| 挿 図 PL.No. | No. | 種 類 種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土・焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備 考 |
|------------------|-----|-------------|---------------|-----|------|---|----------------------------|---|-------------------------|
| 第122図 PL.184 | 1 | 土師器 杯 | +34 3/4 | □ | 12.1 | 高 | 4.3 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内面炭素吸着。 |
| 第122図 | 2 | 土師器 杯 | +30 | □ | 12.8 | 高 | 4.5 細砂粒/良好/浅黄 橙 | 口縁部中位に稜を有する横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。 内面はナデ。 | 外面底部、炭素 吸着・黒斑状。 |
| 第122図 | 3 | 土師器 杯 | +5 1/2 | □ | 12.2 | 高 | 3.9 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にわずかにナデ の部分を残す。内面はナデ。 | 外面やや磨 滅。 |
| 第122図 | 4 | 土師器 杯 | +16 1/3 | □ | 11.0 | 高 | 3.4 粗砂粒・細砂粒/良 好/にぶい橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部の一 部に炭素吸着。 |
| 第122図 | 5 | 土師器 杯 | +33 口縁~体部片 | □ | 12.2 | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第122図 | 6 | 土師器 杯 | +30 1/3 | □ | 11.6 | 高 | 3.0 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分 を残す。内面はナデ。 | 外面炭素吸着 ・内外面とも 磨滅。 |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|---------------|-------------------|---------------------|----------------------|--|---------------|----|
| | | | | 口底 | 高さ | 口径 | | | |
| 第122図 PL.184 | 7 | 須恵器 皿 | +12 完形 | 17.8 13.0 | 3.6 | 黒色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。体部下位に回転へら削り。高台部は底部切り離し後、回転へら削り。へらナデ後の付け高台。 | 内面磨耗。 | |
| 第122図 | 8 | 土師器 甕 | 口縁～胴部片 | 22.0 | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ。胴部は斜縦位にへら削り。内面胴部は丁寧なへらナデ。 | 被熱・変色。 | |
| 第122図 | 9 | 土師器 甕 | +35 口縁～胴部片 | 20.8 | | 粗砂粒・細砂粒/良 好/にぶい黄橙 | 口縁部横ナデ。胴部は斜縦位にへら削り。内面胴部は丁寧なナデ。 | 被熱。内外面とも炭素吸着。 | |
| 第122図 | 10 | 土師器 甕 | +33 口縁～胴部片 | 22.4 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ。胴部上位は斜横位にへら削り。中位以下は斜縦位にへら削り。内面胴部は横位にへらナデ。 | 被熱。 | |
| 第122図 PL.184 | 11 | 石製品 砥石 | +31 | 長幅 14.1 9.4 | 厚重 5.7 1083.8 | デイサイト | 表裏面とも研磨され光沢を帯び、明瞭な線痕が残る。側面の使用が特徴的で、右側面が激しく研ぎ減る。 | 礫砥石 | |

180住カマド



掘り方



180号住居カマド

- 1 黒褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を多量に、炭を含む。
- 2 黒褐色土 しまり弱い。焼土粒子、炭化物粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロック、ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 黒褐色土 しまり弱い。焼土粒子、炭化物粒子を多量に、ロームブロックを含む。
- 6 黒褐色土 しまり弱い。焼土粒子、炭化物粒子を多量に含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を少量含む。

第123図 3区180号住居カマドと掘り方

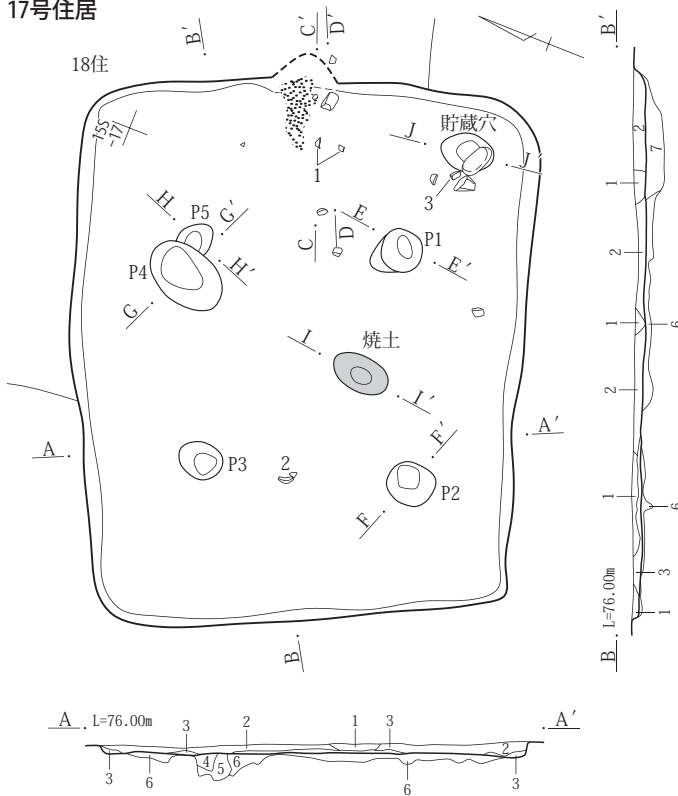
れ、焼土・炭化物を多量に含んでいる。

貯蔵穴 床面の東南隅から検出された。長径43.5cm・短径31cm・深さ20cmを測る。上面から礫が検出されたが、蓋石の可能性がある。

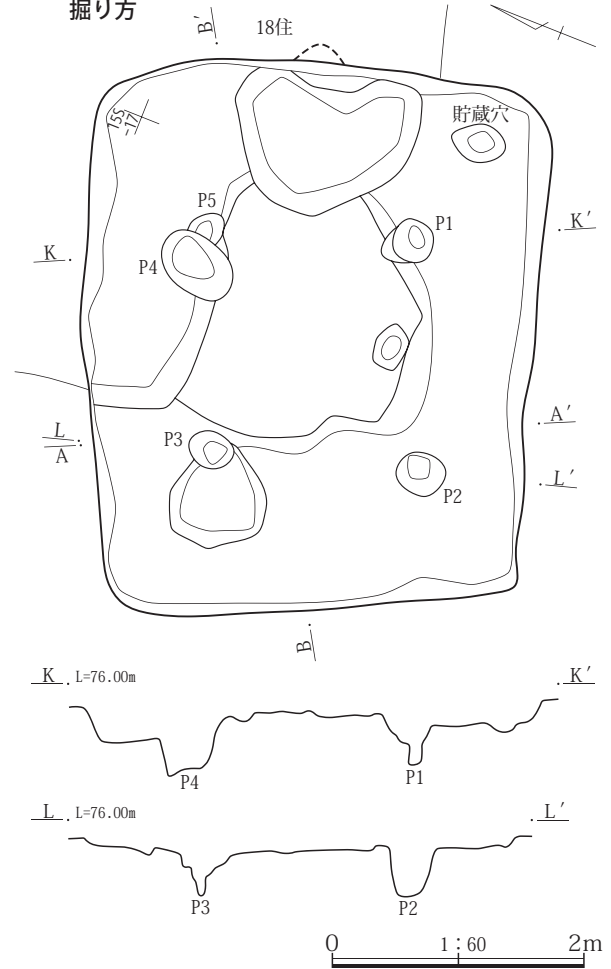
柱穴 支柱穴となるピット4基が検出されている。P1は長径44cm・短径35.5cm・深さ23cm、P2は長径

39.5cm・短径35.5cm・深さ39cm、P3は長径36.5cm・短径29cm・深さ19cm、P5は長径26cm・短径22cm・深さ26cmを測る。P4は長径64cm・短径43.5cm・深さ41cmを測るが、その後の検討によって18号住居の主柱穴になることが判明した。P1-P2間の距離1.85m、P2-P3間距離1.65m、P3-P5間距離1.75m、P5-P1

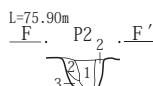
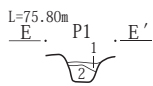
17号住居



掘り方

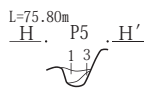
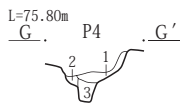


- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロックを多量に、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 6 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。暗褐色土主体にロームとの混土。

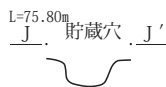
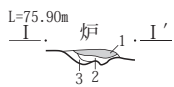


- P 1
- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土ブロックを多く含む。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを含む。

- P 2
- 1 黒褐色土 粘性あり。軟らかい。黄白色土粒子を含む。
 - 2 黒褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土粒子を含む。
 - 3 黄白色土 粘性あり。軟らかい。暗褐色土ブロックを含む。

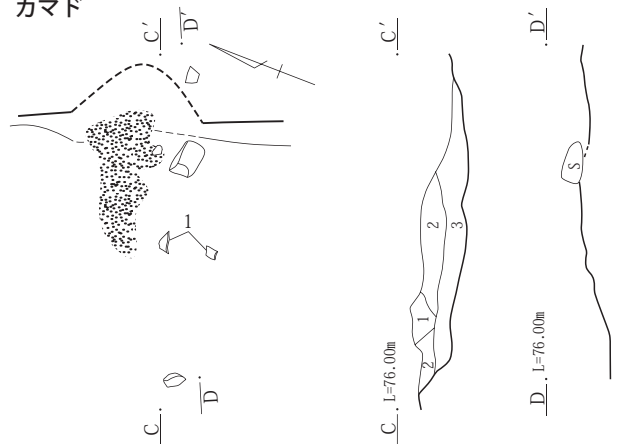


- P 4・P 5
- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。褐色土ブロックを含む。
 - 3 黒褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土を含む。



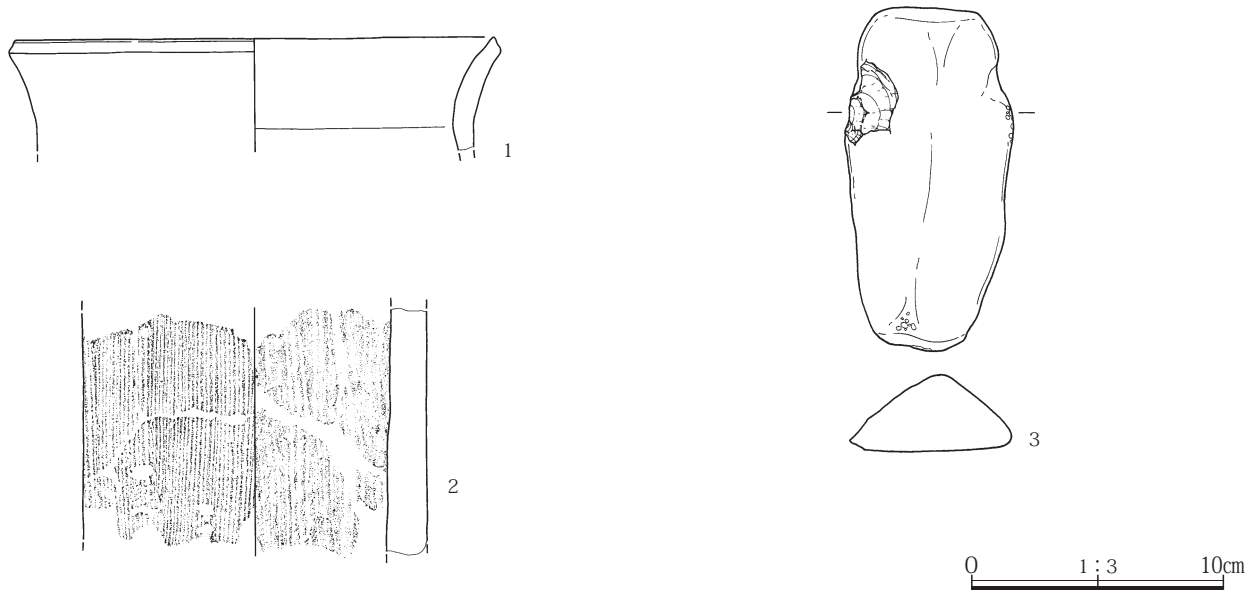
- 炉
- 1 褐色土 やや硬くしまる。焼土、炭化物を多量に含む。
 - 2 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。灰、焼土を含む。
 - 3 黄褐色土 軟らかい。ローム主体。

カマド



- カマド
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色土ブロック、焼土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色土ブロック、焼土粒子を少量含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。

第124図 3区17号住居



第125図 3区17号住居出土遺物

第33表 3区17号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|-------------|--------|-------------|--------|---------------------|---|---------------------------------------|-----|
| 第125図 | 1 | 土師器 甕 | カマド 口縁部片 | 口 | 18.8 | | 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/淡黄 | 口唇部は平坦面を有する。口縁部は横ナデ。 | | |
| 第125図 | 2 | 埴輪 形象 | 掘り方 基部片 | | | | 小礫・粗砂粒/酸化 焰/橙 | 直径に大きな変化が見られない事から基部の破片と考えられる。外面は縦ハケ(2cmあたり14本)。内面にハケ目の上に一部ナデを重ねる。 | 外面の一部に 炭素吸着。 | |
| 第125図 PL.184 | 3 | 礫石器 敲石 | 掘り方 | 長 幅 | 13.6 6.6 | 厚 重 | 340 6.5 | 粗粒輝石安山岩 | 上端側小口部に近い両側縁を敲打、使用する。礫形状は断面三角形形状を呈する。 | 棒状礫 |

間距離は1.7mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土になり、6・7層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に凹凸が激しいが、床面中央部を残して四周を掘り下げている。掘り方の深さは約5～13cmを測る。

出土遺物 カマド周辺や貯蔵穴周辺から土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀代に比定される。

18号住居(第126・127図、P L.33・34)

位置 15R・S-16・17グリッド。

重複 17号住居より前出。

形状 隅丸方形を呈する。

主軸方位 N-80°-E

規模 現状での面積は23.58㎡。長辺(東西)6.28m、短辺(南北)5.23m、残存壁高は5cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

炉 支柱穴(P 1～P 4)の内側でP 4に近接して構築されている。規模は長径50cm・短径33cm・深さ10cmである。

埋没土 1～3層、4層は住居掘り方充填土になる。

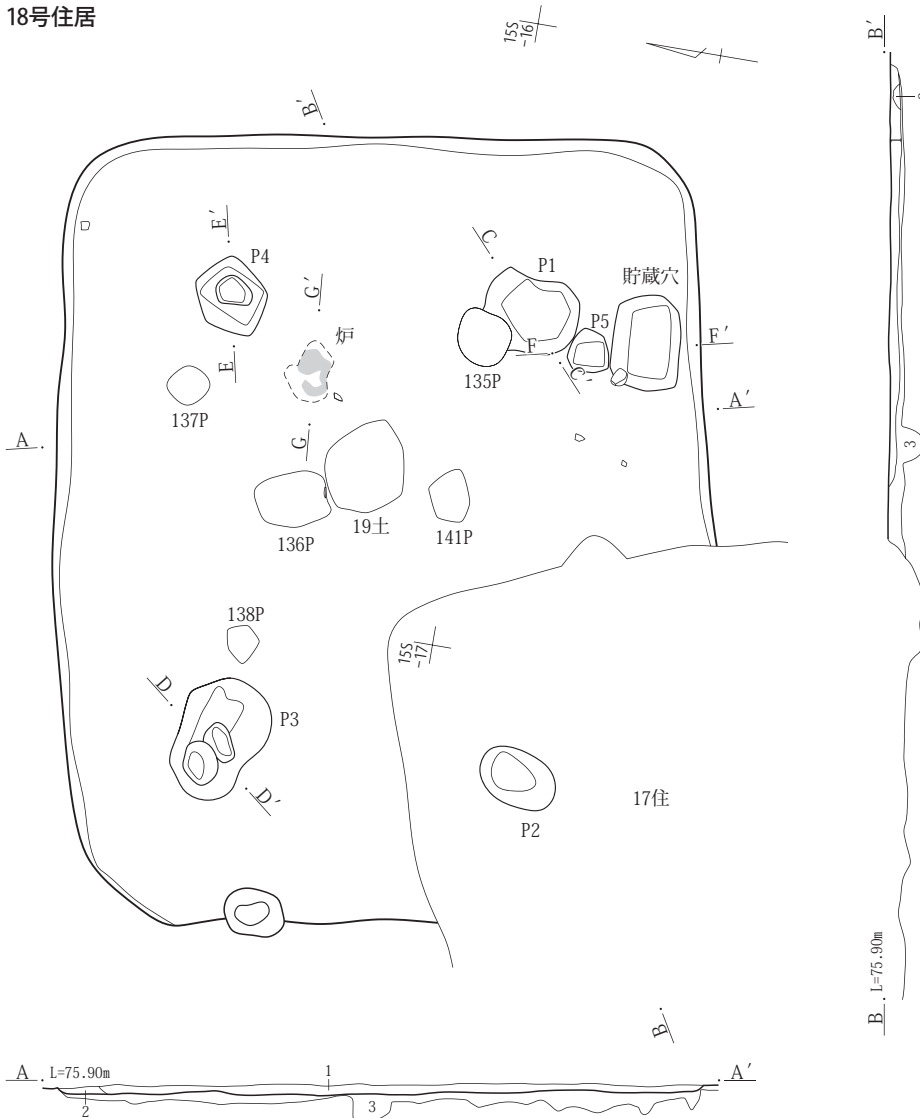
貯蔵穴 床面の南東、南壁に接して検出された。長径76.5cm・短径53.5cm・深さ29cmの隅丸方形を呈する。埋没土は2層に分かれた。

支柱穴 支柱穴となるピット4基が検出されている。P 1は長径76cm・短径58.5cm・深さ34cm、P 2は長径64cm・短径43.5cm・深さ41cm、P 3は長径100cm・短径68cm・深さ37cm、P 4は長径62.5cm・短径52cm・深さ36cmを測る。いずれも規模が大きく30cm以上の深さをもっている。P 5はP 1と貯蔵穴の間から検出された。長径34.5cm・短径33cm・深さ38cmを測る。P 1-P 2間の距離3.65m、P 2-P 3間距離2.5m、P 3-P 4間距離3.7m、P 4-P 1間距離は2.5mを測る。

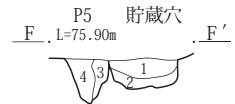
周溝 確認できなかった。

埋没土 確認面から床面まで浅いために明瞭ではないが、自然埋没土と思われる。1・2層が住居埋没土になり、3層は掘り方充填土である。

18号住居

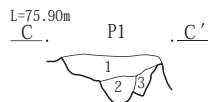


- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、白色粒子を含む。
- 2 茶褐色土 軟らかい。ロームを多量に含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。



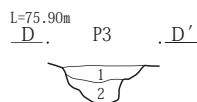
貯蔵穴・P5

- 1 暗褐色土 粘性あり。しまる。白色粒子を含む。
- 2 黒褐色土 粘性あり。ややしまる。ロームブロック、黄白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 粘性あり。しまる。ローム粒子を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 粘性あり。しまる。ローム粒子、焼土粒子を含む。



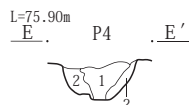
P1

- 1 暗褐色土 粘性あり。しまる。ローム粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。しまる。ロームブロックをモザイク状に含む。
- 3 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。ローム粒子を含む。



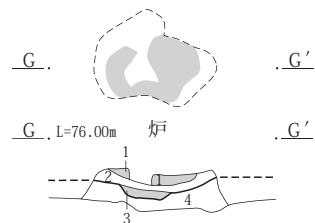
P3

- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。しまる。ロームブロックをモザイク状に含む。



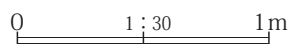
P4

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄白色粘質土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土との混土。



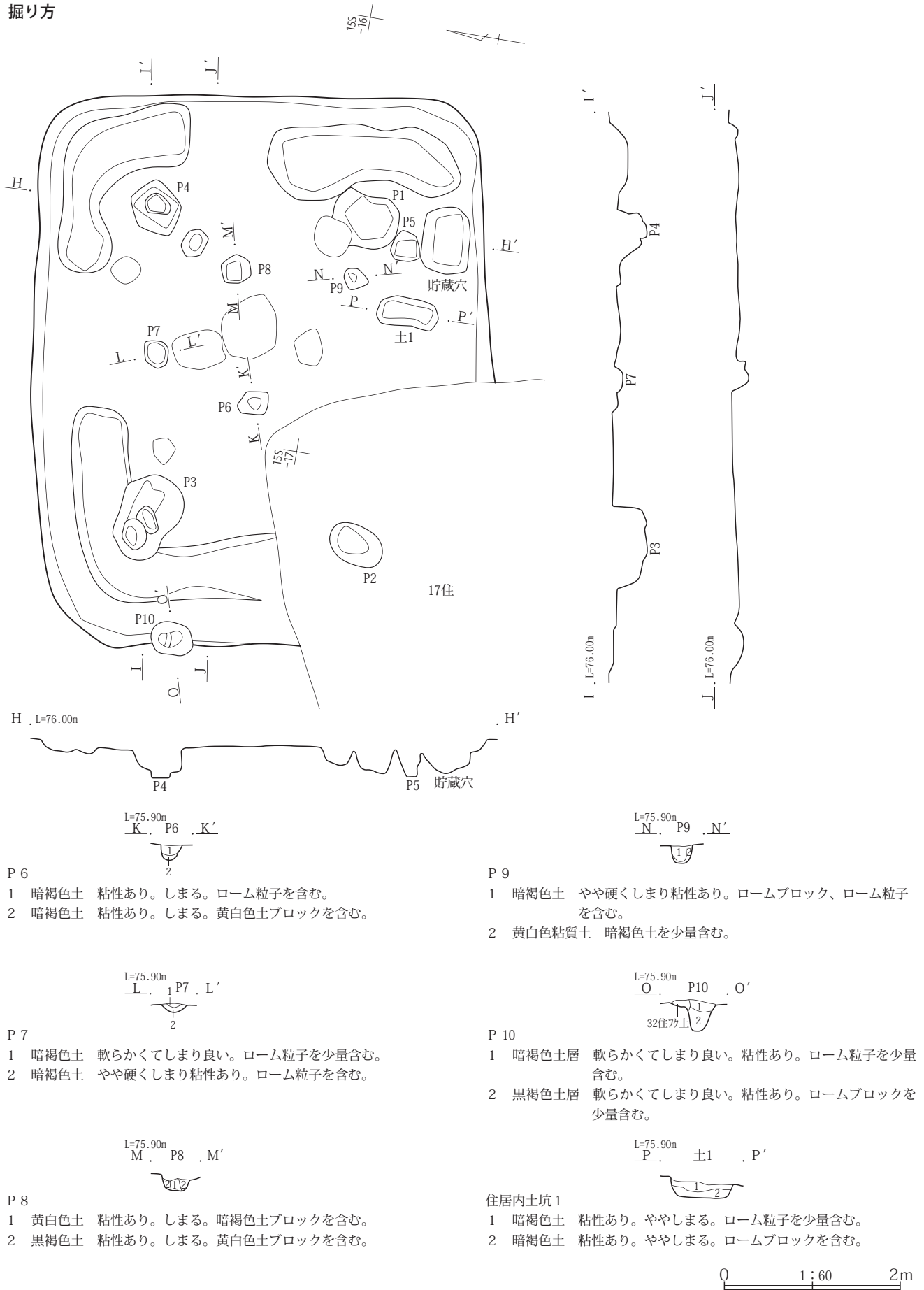
炉

- 1 焼土 硬くしまる。
- 2 黄白色粘質土 硬くしまる。
- 3 焼土 軟らかくてしまり良い。下層に炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。住居掘り方充填土。



第126図 3区18号住居

掘り方



第127図 3区18号住居掘り方

掘り方 住居の四隅を中心に掘り下げている。掘り方の深さは約5～16cmを測る。掘り方調査時に5基のピットと土坑1基が検出された。P6は長径34cm・短径26cm・深さ24cm、P7は長径35cm・短径29cm・深さ11.5cm、P8は長径32.5cm・短径31.5cm・深さ19cm、P9は長径28.5cm・短径25cm・深さ22cm、P10は長径47.5cm・短径36.5cm・深さ37.5cmを測る。土坑1は長径69cm・短径29cm・深さ31cmを測る。

出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。

時期 非掲載とした出土遺物・住居形態から概ね古墳時代前期に比定される。

19号住居(第128・129図、P L .34・35・184、第34表)

位置 25S-1・2グリッド。

重複 21・35号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-103°-E

規模 面積7.09㎡。長辺(東西)3.35m、短辺(南北)2.59m、残存壁高は30～38cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。床面調査時にピット1基と土坑2基を検出した。P1は長径38.5cm・短径27.5cm・深さ11cmを測る。土坑1は長径142.5cm・短径120.5cm・深さ34cm、土坑2は長径88cm・短径61cm・深さ17cmを測る。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築され、規模は長さ107cm、焚き口部の幅41cmである。袖石2個が残っていた。埋没土1～10層、6層は焼土、8層は灰層になる。11層は掘り方充填土である。埋没土中から多量の土器片が出土している。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 東壁から北壁にかけて検出されている。幅15～30cm、深さ7cmを測る。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層が住居埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは約5～10cmを測る。

出土遺物 カマドから土器片が出土している。

時期 出土遺物から10世紀前半に比定される。

20号住居(第130～132図、P L .35・184、第35表)

位置 15R・S-20、25R・S-1グリッド。

重複 5号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-64°-E

規模 面積19.78㎡。長辺(北東～南西)4.79m、短辺(北西～南東)4.55m、残存壁高は8～15cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ59cm、焚き口部の幅28cmである。残存状況は悪かった。埋没土1～3層、4～6層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径48.5cm・短径39cm・深さ26.5cmの楕円形を呈する。埋没土は2層に分かれた。

柱穴 支柱穴となるピット4基が検出されている。P1は長径39.5cm・短径35cm・深さ50cm、P2は長径41cm・短径38.5cm・深さ33cm、P3は長径35cm・短径34.5cm・深さ39cm、P4は長径30.5cm・短径27cm・深さ44cmを測る。P1-P2間の距離2.35m、P2-P3間距離2.3m、P3-P4間距離2.45m、P4-P1間距離も2.45mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～5層が住居埋没土になり、6～11層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。掘り方調査時に西壁よりから土坑状の掘り込みが連続して検出された。中央部付近から検出されたものは長径120cm・短径100cm・深さ45cmを測る。掘り方の深さは約13～23cmを測る。

出土遺物 土器片はカマド周辺や住居南東部にやや集中する。菰編石は20点とやや多く、住居西半部床面に散在する。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

21号住居(第133～136図、P L .36・37・184、第36表)

位置 25R・S-1～3グリッド。

重複 29・66号住居より後出で、19号住居より前出。

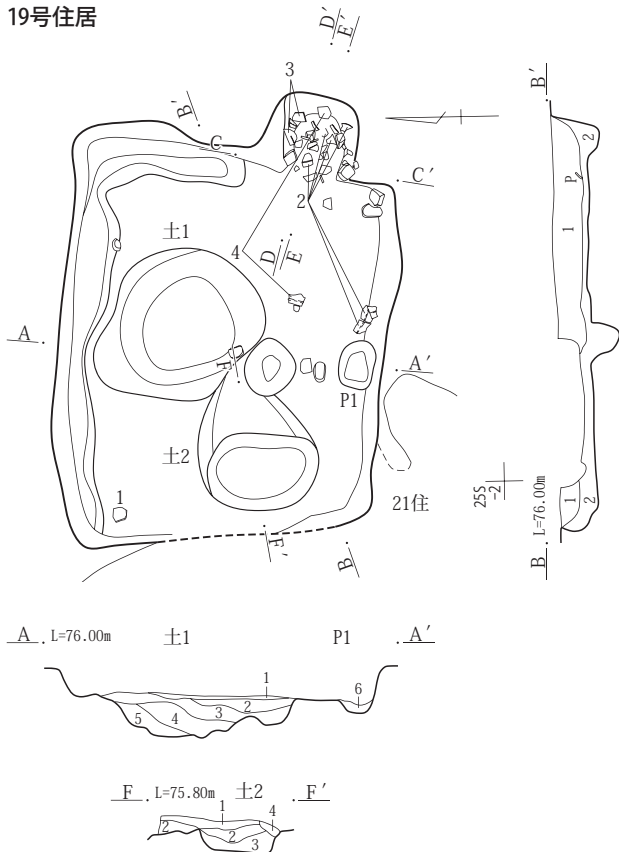
形状 方形を呈する。

主軸方位 N-62°-E

規模 面積29.35㎡。長辺(北東～南西)5.8m、短辺(北西～南東)5.7m、残存壁高は40cmを測る。

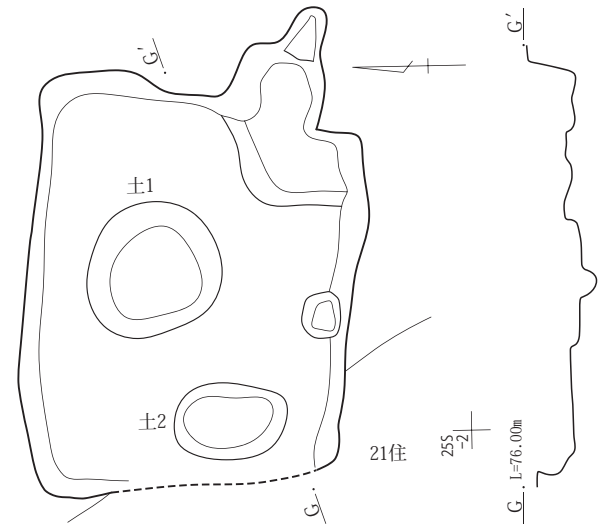
床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。床下土坑が2基検出された。土坑1は長径176.5cm・短

19号住居



- 住居内土坑2
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色土ブロックを含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色土ブロックを多く含む。
 - 4 暗褐色土 軟らかい。黄白色土粒子を少量含む。

掘り方

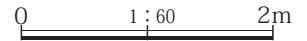


(B-B')

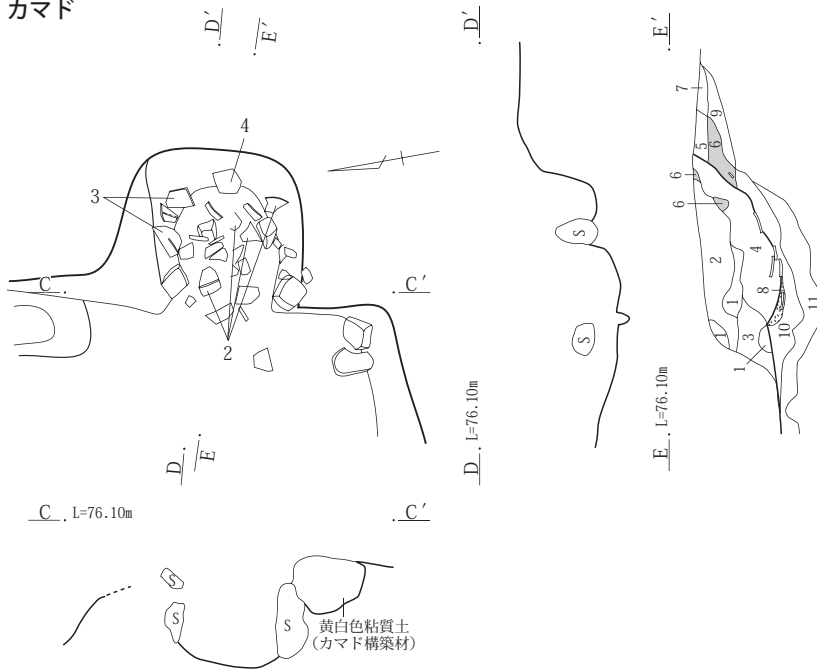
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。

住居内土坑1・P1 (A-A')

- 1 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。焼土粒子、炭化物粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土粒子、黄白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒子を僅かに含む。

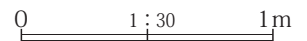


カマド

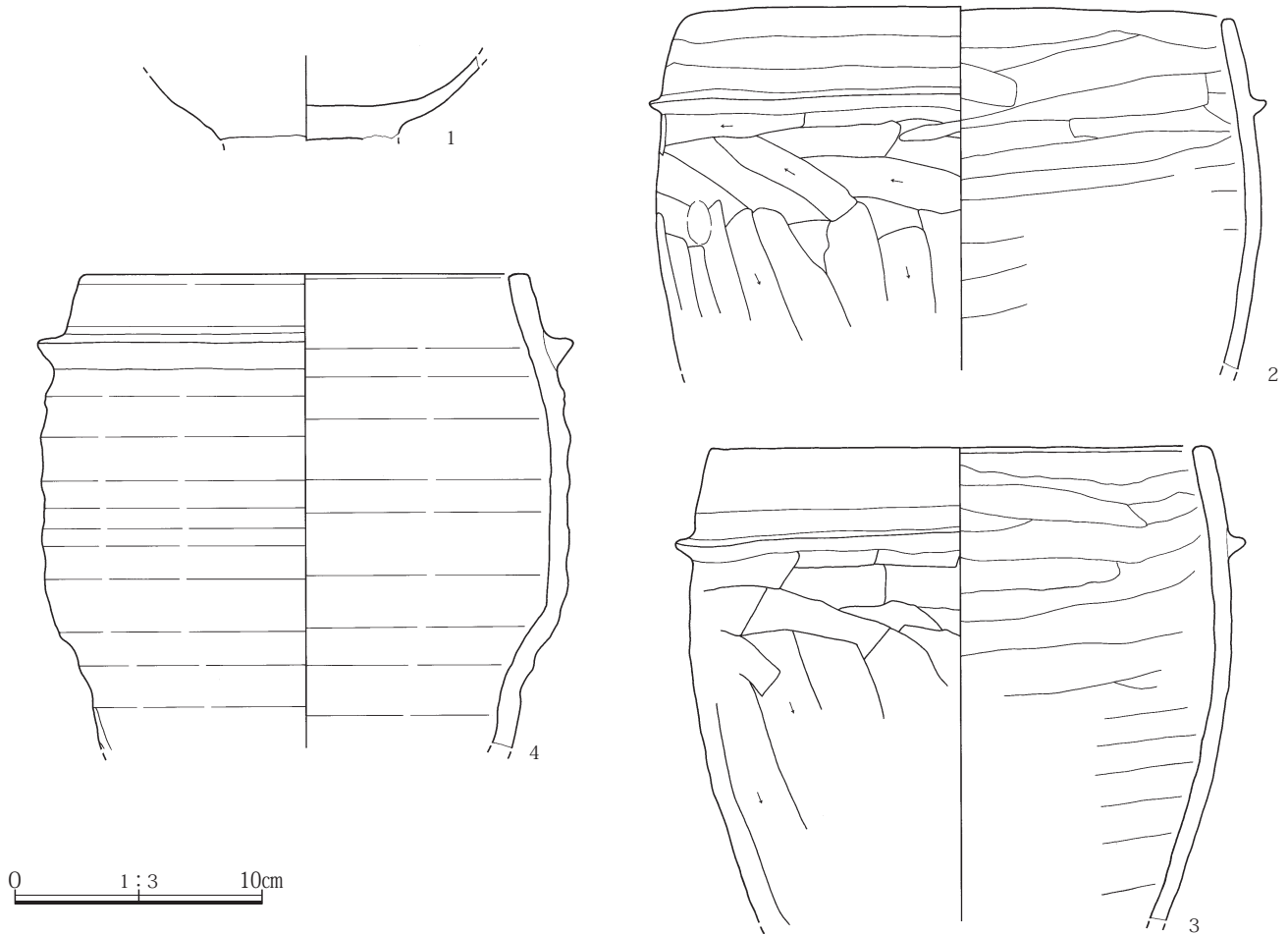


カマド

- 1 黄白色粘質土 カマド構築材。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土を多量に含む。
- 6 焼土
- 7 暗褐色土 軟らかく粘性あり。焼土粒子を多量に含む。
- 8 灰
- 9 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を多量に含む。
- 10 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。灰を多量に、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ローム粒子を含む。



第128図 3区19号住居



第129図 3区19号住居出土遺物

第34表 3区19号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|------------------|-----|------|--------------------|---|--------------|
| 第129図 | 1 | 土師器 台付鉢 | +16 体部下位 | | | 細砂粒/良好/橙 | 体部内面はナデ。台部は剥落後の二次利用か。 | 内外面とも被熱・磨滅 |
| 第129図 PL.184 | 2 | 土師器 羽釜 | +16 口縁～胴部中位 | 口 | 21.7 | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。鐔は断面三角形で貼付後、周囲に横ナデ。胴部は上位が横位、斜横位にヘラ削り。中位は斜縦位にヘラ削り。内面口縁部から胴部は横位にナデ。 | 外面炭素吸着。 |
| 第129図 | 3 | 土師器 羽釜 | カマド 口縁～ 胴部下位片 | 口 | 18.0 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 鐔は貼付。口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | 内外面の一部に炭素吸着。 |
| 第129図 | 4 | 須恵器 羽釜 | 床直 口縁～胴 部下位片 | 口 | 17.8 | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転は右回り。成形は粗雑である。鐔は貼付。下位には一部縦位にヘラナデ。 | 内面の一部に炭素吸着。 |

径143cm・深さ12.5cm、土坑2は長径217cm・短径178cm・深さ15cmを測る。

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁の一部を掘り込んで構築され、規模は長さ70cm、焚き口部の幅46cmである。袖を含めた幅は65cmになる。カマド前面の床には広範囲に灰の分布が認められた。埋没土は1～7・10・11層、8層は焼土、9層は灰層になる。12層は掘り方充填土になる。

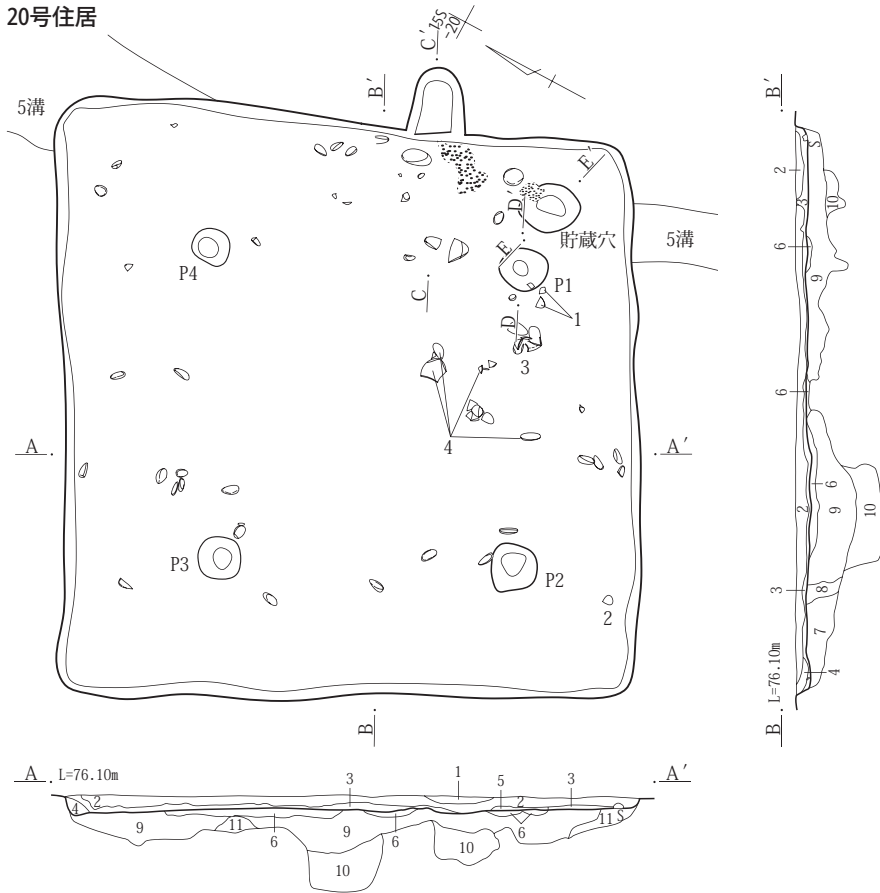
貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径99.5cm・短径87cm・深さ24.5cmを呈する。埋没土中から土器が出土

している。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 主柱穴となるピット4基が検出されている。P1は長径54.5cm・短径46cm、P2は長径34.5cm・短径26.5cm、P3は長径39.5cm・短径27.5cm・深さ14.5cm、P4は長径53.5cm・短径51.5cm・深さ34cmを測る。P5は長径27cm・短径24cm・深さ25.5cm、P6は長径30.5cm・短径28cm・深さ33.5cmである。P1-P2間の距離2.9m、P2-P3間距離3m、P3-P4間距離3.1m、P4-P1間距離は2.8mを測る。

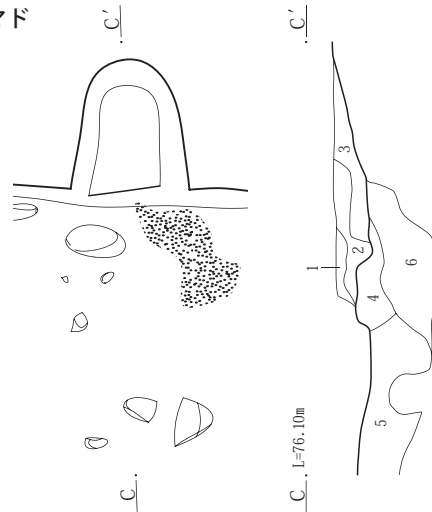
周溝 ほぼ全周しているが、北西の隅が途切れている。

20号住居



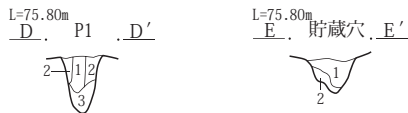
- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土粒子、白色粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 均質。粘性あり。軟らかい。
- 5 黄褐色土 粘性あり。しまる。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、白色粒子を含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。

カマド



カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、白色粒子をごく少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を多量に、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックと暗褐色土の混土。

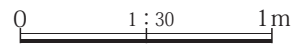
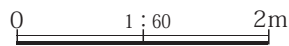


P 1

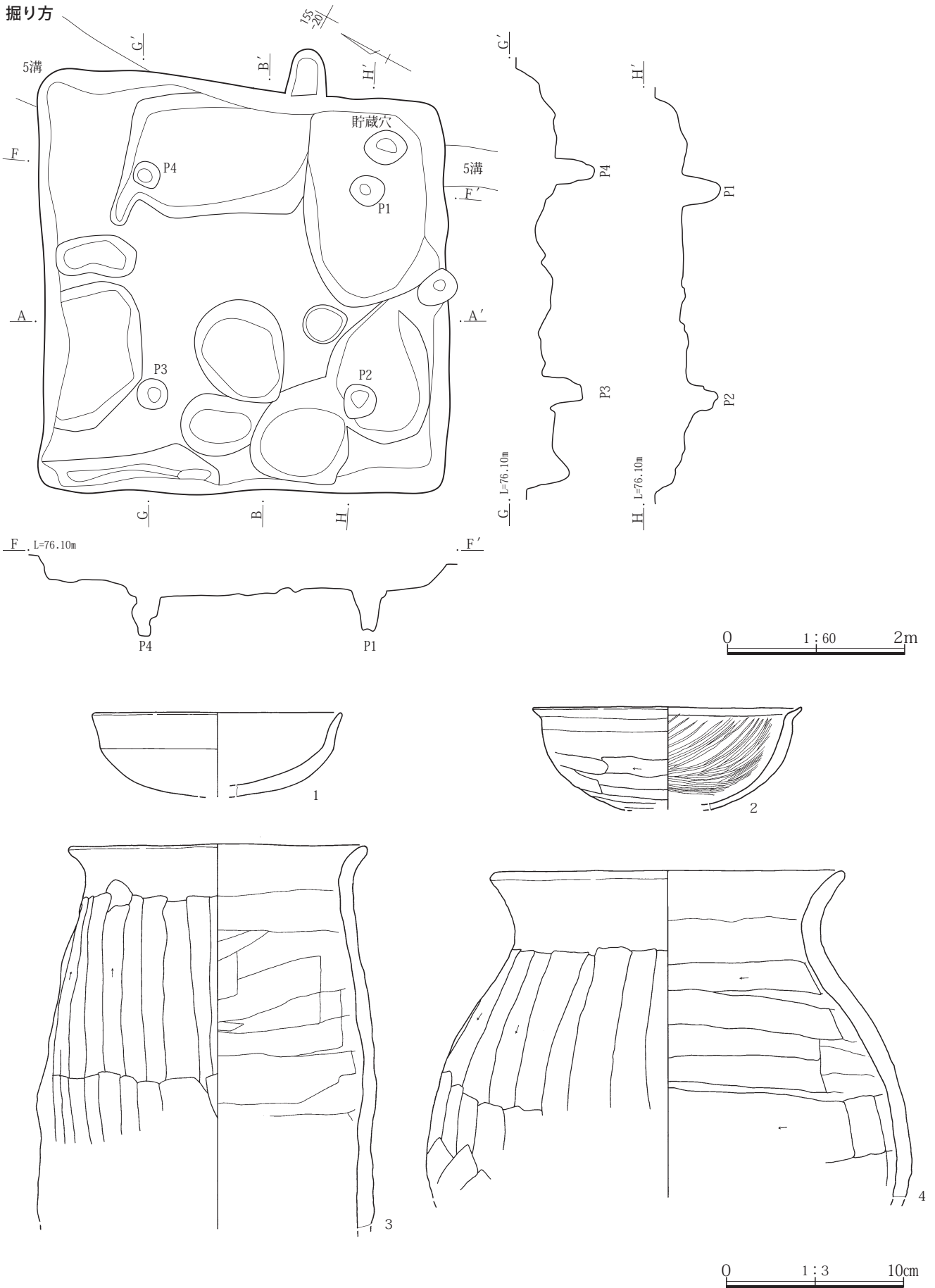
- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 ややしまる。黄白色土ブロック、黄褐色土粒子を多く含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを含む。



第130図 3区20号住居

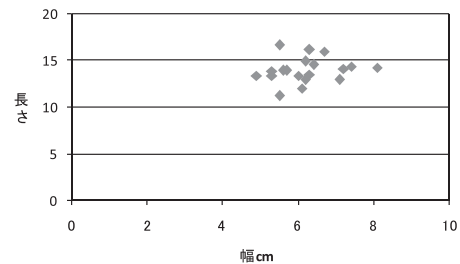


第131図 3区20号住居掘り方と出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第35表 3区20号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|---------------|--------|-------|-------|---------|---------------------|---|----------------------------|
| | | | | 口 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | | | |
| 第131図 PL.184 | 1 | 土師器 杯 | +3 1/2 | 口 | 13.8 | | | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/黒褐 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちへら削りと考えられる。 | 炭素吸着、内 外面とも磨滅。 |
| 第131図 PL.184 | 2 | 土師器 杯 | 床直 1/4 | 口 | 14.9 | | | 細砂粒/良好/赤褐 | 口縁部とその直下の体部は横撫で。体部の上位にはナデの部分を残すが、以下底部まで手持ちへら削り。内面はナデの上に斜放射状にへら磨き。 | 外面の一部に 炭素吸着。 |
| 第131図 | 3 | 土師器 甕 | 床直 口縁～胴部中位 | 口 | 16.3 | | | 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は2回、縦位にへら削り。内面は横位にへらナデ。 | 被熱・変色。 |
| 第131図 | 4 | 土師器 甕 | 床直 口縁～胴部片 | 口 | 19.6 | | | 粗砂粒多・黒色 粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横撫で。胴部上位は縦位・中位は縦位と斜横位のへら削り。内面胴部は横位のへらナデ。一部はへら削り。 | 被熱のため、 変質・変色。 一部炭素吸着 |
| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 | | | |
| 非掲載 | 5 | 菰編石 | 7.2 | 14.1 | 4.5 | 675.7 | 溶結凝灰岩 | | | |
| 非掲載 | 6 | 菰編石 | 7.4 | 14.3 | 3.2 | 514.2 | 溶結凝灰岩 | | | |
| 非掲載 | 7 | 菰編石 | 4.9 | 13.3 | 5 | 431 | 溶結凝灰岩 | | | |
| 非掲載 | 8 | 菰編石 | 5.5 | 16.6 | 4.9 | 429 | かこう岩 | | | |
| 非掲載 | 9 | 菰編石 | 5.5 | 11.2 | 3.5 | 340.7 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 10 | 菰編石 | 5.7 | 13.9 | 4.3 | 438.3 | 変質安山岩 | | | |
| 非掲載 | 11 | 菰編石 | 6.4 | 14.5 | 4.5 | 599.2 | 変質安山岩 | | | |
| 非掲載 | 12 | 菰編石 | 5.3 | 13.8 | 3 | 323.2 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 13 | 菰編石 | 7.1 | 12.9 | 3.7 | 523.9 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 14 | 菰編石 | 6.2 | 12.9 | 3.6 | 432.5 | 細粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 15 | 菰編石 | 5.3 | 13.3 | 5 | 480.5 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 16 | 菰編石 | 6.2 | 14.9 | 5 | 685 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 17 | 菰編石 | 6.7 | 15.9 | 5.1 | 661.1 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 18 | 菰編石 | 8.1 | 14.2 | 4.8 | 893 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 19 | 菰編石 | 5.6 | 13.9 | 4.4 | 581.8 | 変質安山岩 | | | |
| 非掲載 | 20 | 菰編石 | 6 | 13.3 | 4.3 | 449.5 | 溶結凝灰岩 | | | |
| 非掲載 | 21 | 菰編石 | 6.3 | (12.3) | 4.2 | 477.8 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 22 | 菰編石 | (6.6) | (15.2) | (4.3) | 577.3 | 変質安山岩 | | | |
| 非掲載 | 23 | 菰編石 | 6.9 | (13.0) | 4.7 | 441.4 | 粗粒輝石安山岩 | | | |
| 非掲載 | 24 | 菰編石 | 7.3 | (11.7) | 3.4 | 348 | 粗粒輝石安山岩 | | | |



第132図 3区20号住居菰編石長幅比グラフ

幅3～27cm、深さ11cmである。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～4層が住居埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。主柱穴間の内側では土坑状の掘り込みが顕著である。掘り方の深さは約10～40cmを測る。

出土遺物 カマド前面や貯蔵穴周辺から土器片がやや多く出土している。貯蔵穴内から第135図12の須恵器平瓶が出土する。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

29号住居(第133・134・136図、P L.36・37、第36表)

位置 25R-2・3グリッド。

重複 21号住居より前出。

形状 不明。

主軸方位 不明。

規模 現状で南北4.25m。東西2.5m、残存壁高は23cmを確認できる。

床面 不明。

炉・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層が住居埋没土になる。

掘り方 壁際がかなり掘り込まれている。深さは約47cmを測る。

出土遺物 S字状口縁台付甕が壁際から出土している。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

22号住居(第137・138図、P L.37、第37表)

位置 15Q・R-13・14グリッド。

重複 37・38号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-85°-E

規模 面積15.63㎡。長辺(東西)4.68m、短辺(南北)3.73m、残存壁高は6～13cmを測る。

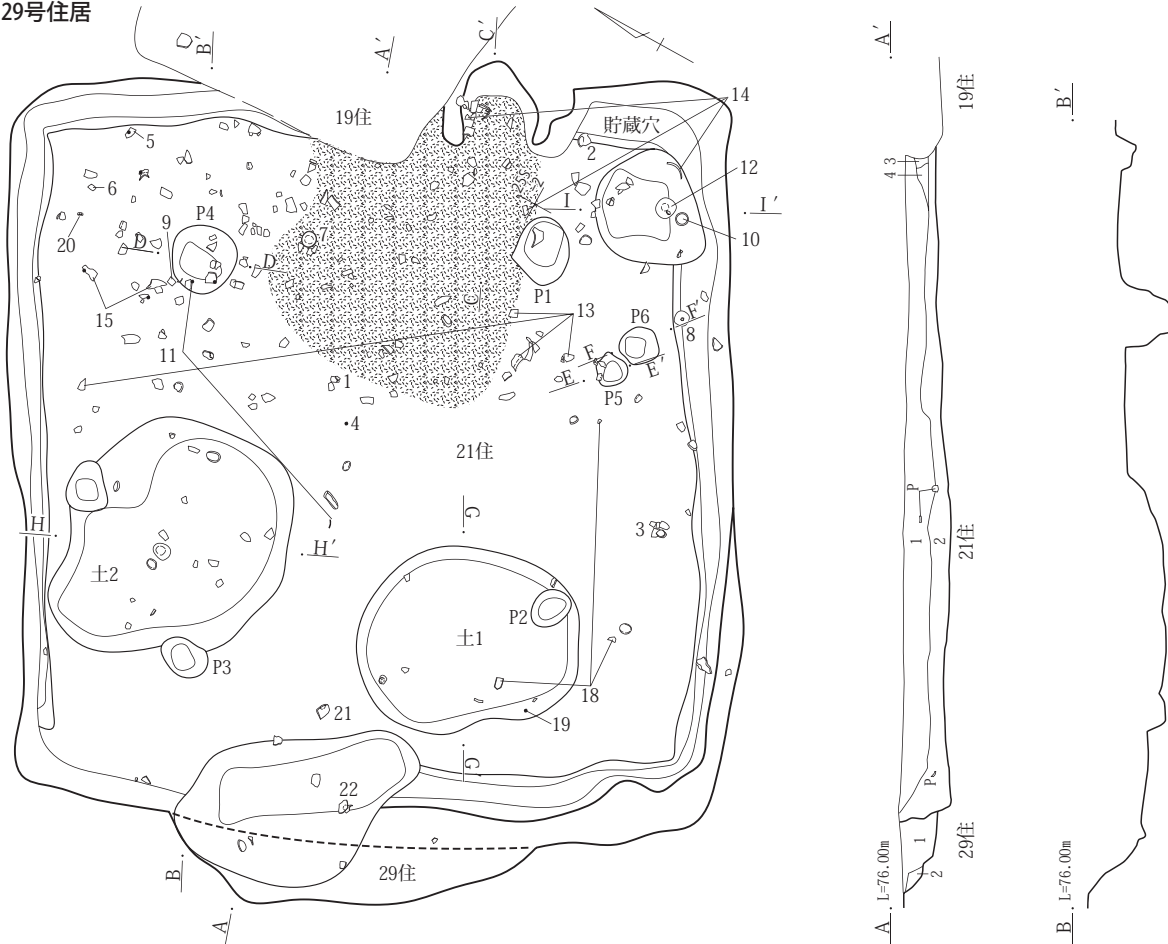
床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁の一部を掘り込んで構築され、規模は長さ143cm、焚き口部の幅66cmである。カマド前面の床には、やや広範囲に灰の分布が認められた。埋没土は2～6層、6層は灰層である。7層は掘り方充填土になる。埋没土中から土器片が出土している。1層はピット埋没土になる。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土

21・29号住居

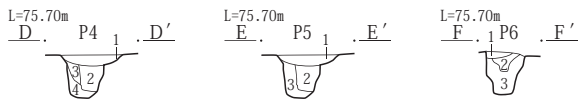


21号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。
- 4 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。灰を主体に焼土ブロック、ロームブロックを含む。

29号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色軽石、ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 茶褐色土 軟らかい。ロームを多量に含む。壁の崩れ。



P 4

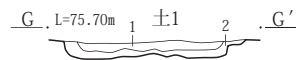
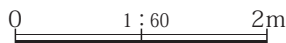
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロックを含む。

P 5

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。灰褐色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロックを含む。

P 6

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を含む。
- 2 灰褐色土 軟らかい。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、黄白色土ブロックを含む。



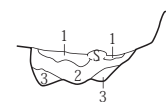
住居内土坑 1

- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 灰褐色土 粘性あり。ややしまる。炭化物粒子を少量含む。



住居内土坑 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロック、炭化物、焼土粒子を含む。

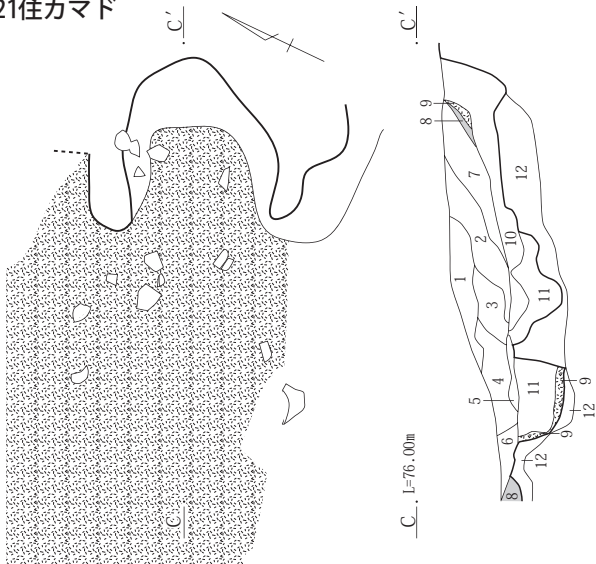


貯蔵穴

- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土粒子を多く、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 灰褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土ブロックを多く含む。

第133図 3区21・29号住居

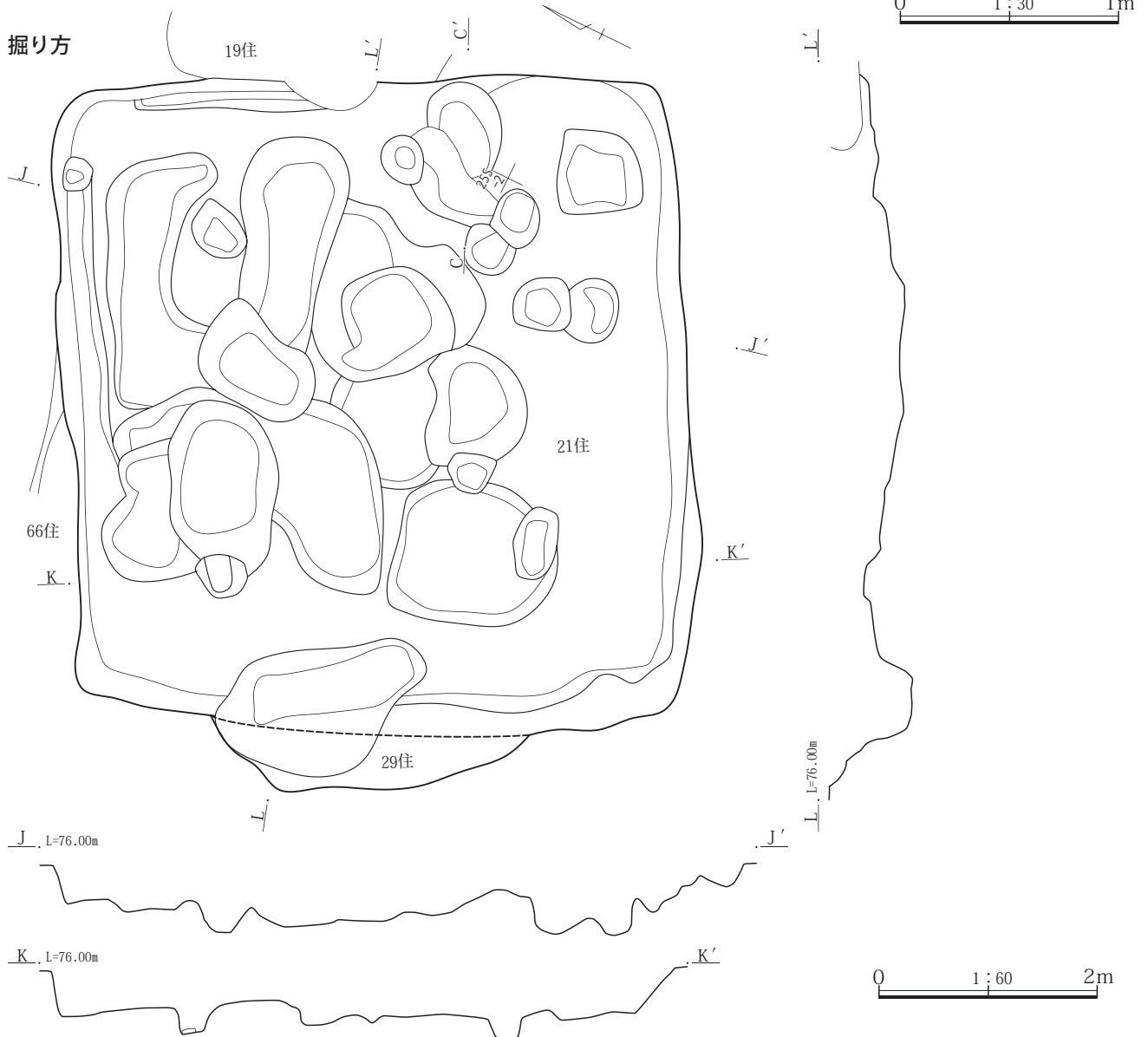
21住カマド



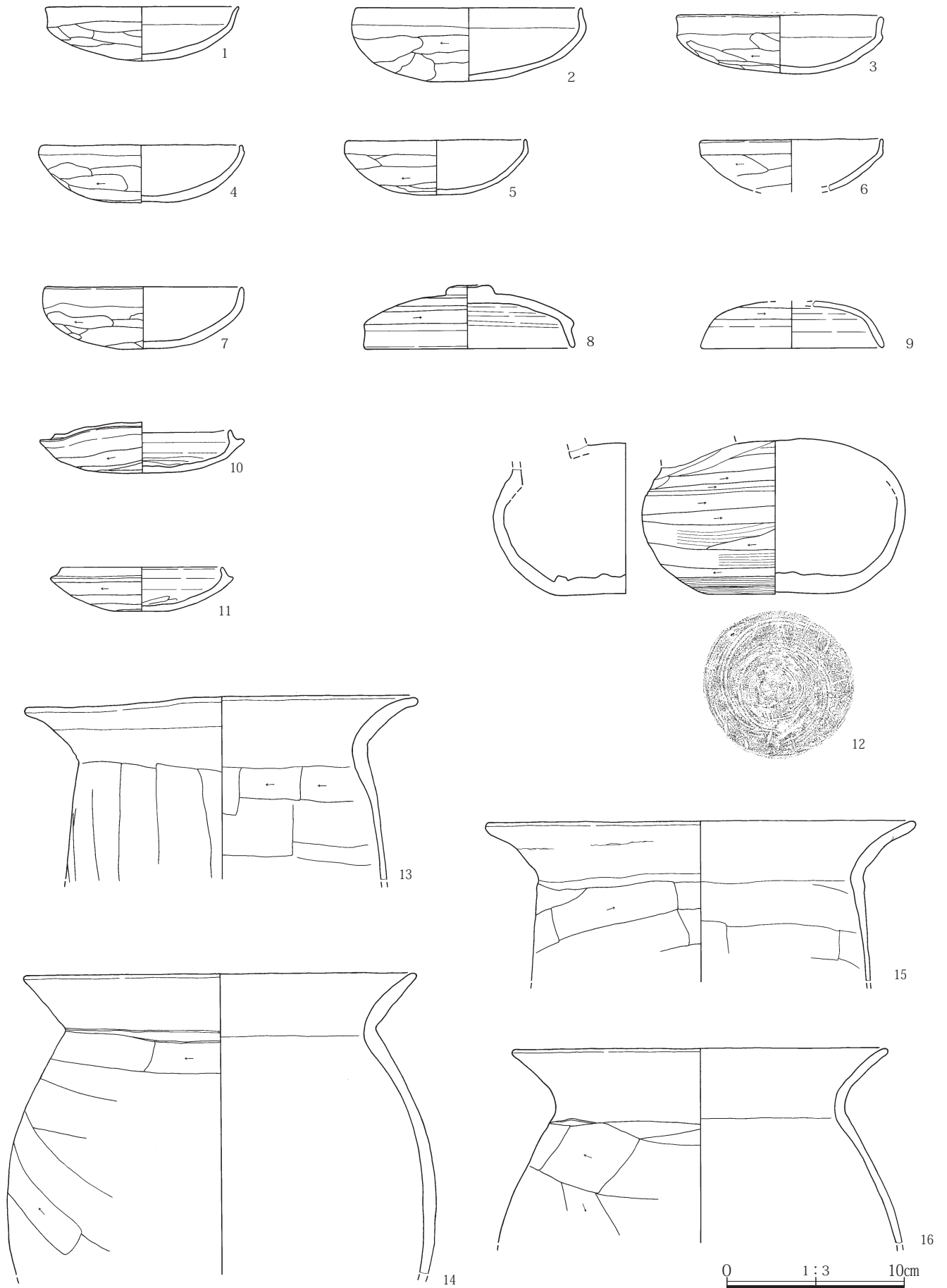
カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子を含む。
- 2 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。灰を多量に、ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。炭化物、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 5 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 7 茶褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子を多量に、黄白色粘質土粒子、白色軽石を含む。
- 8 焼土
- 9 灰
- 10 褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土、灰を多量に含む。
- 11 灰褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。灰を多量に、焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 12 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを主体とする層。

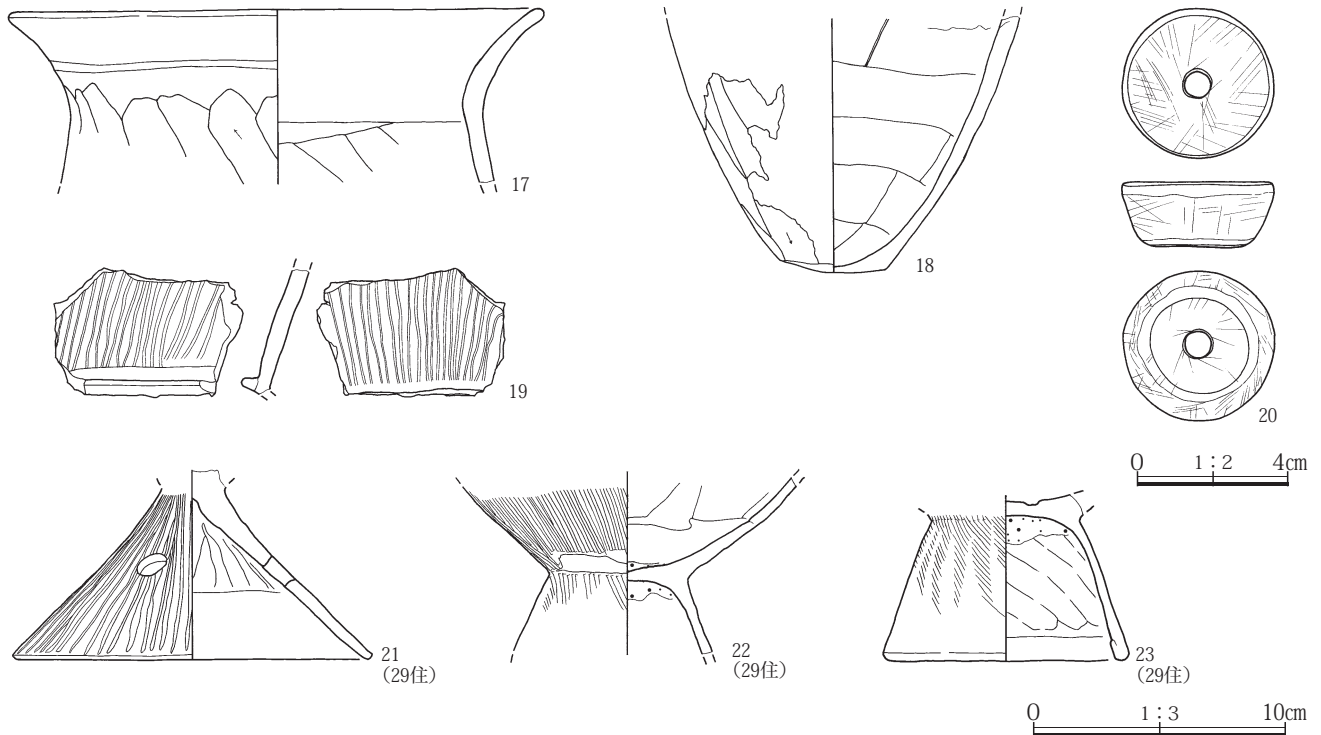
掘り方



第134図 3区21号住居カマドと21・29号住居掘り方



第135図 3区21号住居出土遺物



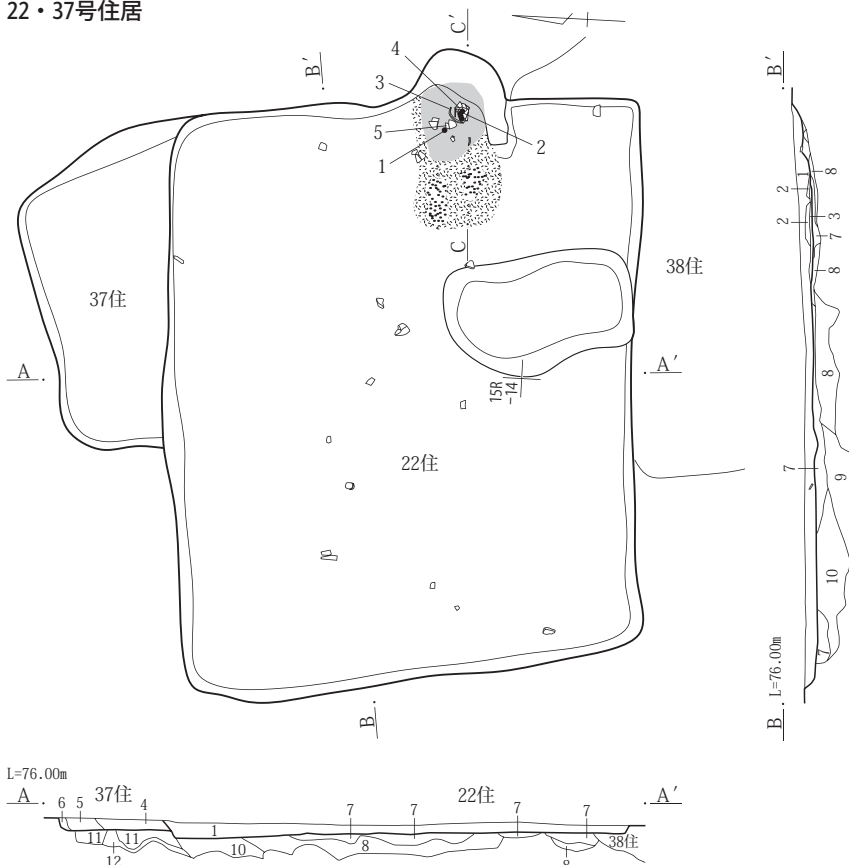
第136図 3区21・29号住居出土遺物

第36表 3区21・29号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|-------------------|-----|------|-------|--------------------|--|-----------------------|
| | | | | 口 | 高 | | | | |
| 第135図 PL.184 | 1 | 土師器 杯 | 21住 床直 3/4 | 口 | 10.7 | 高 3.0 | 粗砂粒/良好/灰 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。外面底部炭素吸着・黒斑状。 |
| 第135図 PL.184 | 2 | 土師器 杯 | 21住 +8 口縁一部欠 | 口 | 12.4 | 高 4.1 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。外面底部炭素吸着。 |
| 第135図 | 3 | 土師器 杯 | 21住 床直 1/2 | 口 | 11.2 | | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。稜下にわずかにナデの部分を残す。内面はナデ。 | 外面底部・炭素吸着。 |
| 第135図 | 4 | 土師器 杯 | 21住 +2 1/3 | 口 | 11.0 | 高 3.2 | 粗砂粒少/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。稜下にわずかにナデの部分を残す。内面はナデ。 | 外面底部・炭素吸着。 |
| 第135図 | 5 | 土師器 杯 | 21住 +25 口縁~底部片 | 口 | 10.0 | 高 3.0 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第135図 | 6 | 土師器 杯 | 21住 +16 口縁~底部片 | 口 | 10.0 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第135図 PL.184 | 7 | 土師器 杯 | 21住 床直 完形 | 口 | 10.8 | 高 3.4 | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分を残す。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第135図 PL.184 | 8 | 須恵器 蓋 | 21住 床直 完形 | 口 | 11.5 | 高 3.5 | 粗砂粒/還元焰・やや軟質/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。天井部の大半に回転ヘラ削り。 | 摘み磨耗・外面磨滅。 |
| 第135図 | 9 | 須恵器 杯蓋 | 21住 +23 1/3 | 口 | 10.0 | | 粗砂粒/還元焰/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。 | |
| 第135図 PL.184 | 10 | 須恵器 杯身 | 21住 貯蔵穴 完形 | 口 | 9.7 | 高 2.8 | 白色鉍物粒/還元焰/灰 | 器形は大きく歪んでいる。ロクロ整形、回転右回り。底部の大半に回転ヘラ削り。 | |
| 第135図 | 11 | 須恵器 杯身 | 21住 +6 1/3 | 口 | 9.0 | 高 2.4 | 粗砂粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。外面底部は回転ヘラ削り。内面は指ナデ。 | |
| 第135図 PL.184 | 12 | 須恵器 平瓶 | 21住 貯蔵穴 3/4 | 底 | 8.0 | | 白色鉍物粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転は右回り。肩部は丸みをもって内彎、天井部もふくらむ。天井部中心に粘土板を貼り、肩部寄りに口縁部を取り付けている。口縁部接合部周辺は横ナデ。天井部は回転ヘラ削り。肩部にめぐる1条の沈線を挟んで体部にも部分的に回転ヘラ削り。地にはカキ目が施されている。底部にもカキ目。 | 外面に自然釉付着。 |
| 第135図 | 13 | 土師器 甕 | 21住 +7 口縁~胴部片 | 口 | 21.7 | | 粗砂粒・軽石/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。内面口唇部の直下に凹線がめぐる。胴部は縦位にヘラ削り。内面は横位にヘラ削り。 | 被熱・磨滅。 |
| 第135図 | 14 | 土師器 甕 | 21住 +9 口縁~胴部片 | 口 | 21.8 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部はヘラナデと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第135図 | 15 | 土師器 甕 | 21住 +23 口縁~胴部片 | 口 | 23.6 | | 粗砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ、輪積み痕を残す。胴部は斜横位、左下から右上にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第135図 | 16 | 土師器 甕 | 21住 口縁~胴部片 | 口 | 20.6 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位に幅広のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第136図 | 17 | 土師器 甕 | 21住 口縁~胴部片 | 口 | 20.6 | | 粗砂粒・雲母/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位にヘラ削り。内面は斜位にヘラナデ。 | |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-----------------------|-----|------|-------------------|--------------------|---|-----------------|
| | | | | 底 | 径幅 | 厚重 | | | |
| 第136図 | 18 | 土師器 甕 | 21住 + 4 底部~胴部下位 | 底 | 4.2 | | 粗砂粒/良好/灰黄 褐 | 胴部は斜縦位にヘラ削り。底部もヘラ削り。内面は横位に ヘラナデ。 | 外面は炭素吸着・粘土付着。 |
| 第136図 | 19 | 土師器 不明 | 21住 内土坑1 破片 | | | | 細砂粒/良好/橙 | 器種、部位不明。内外面ともナデの上に縦位にヘラ磨き。 | 内面やや磨滅。 |
| 第136図 PL.184 | 20 | 石製品 紡輪 | 21住 + 6 | 径幅 | 4.0 | 厚重 1.7 43.7 | 蛇紋岩 | 使用面側には整形時の線條痕が残されているが、裏面側や 側面は光沢が全面を覆い整形痕は不明瞭である。径7mmの 孔を両側穿孔する。 | |
| 第136図 | 21 | 土師器 高杯 | 29住 脚部2/3 | 底 | 13.8 | | 細砂粒/良好/明黄 褐 | 透孔は円形で3単位配置される。外面は縦位にヘラ磨き。 内面上半部は絞り痕にナデを重ねる。下半部は横ナデ。 | 外面の一部に 炭素吸着。 |
| 第136図 | 22 | 土師器 台付甕 | 29住 胴部下位~脚台 部上半 | | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 胴部は斜左上にハケ目(1cmに7本)。脚台部は斜右下にハ ケ目。部分的にナデ。内面底部と脚台部天井部に砂目粘土 付着。胴部はヘラナデ。脚台部は指ナデ。 | 外面炭素吸着 、煤か。 |
| 第136図 | 23 | 土師器 台付甕 | 29住 脚台部1/2 | 底 | 9.2 | | 細砂粒/良好/灰黄 褐 | 外面は斜右下にハケ目(1cmに8本)。一部にナデを重ねる。 内面は斜位の指ナデ。底部と脚台部の天井部に砂目粘土貼 付。 | |

22・37号住居



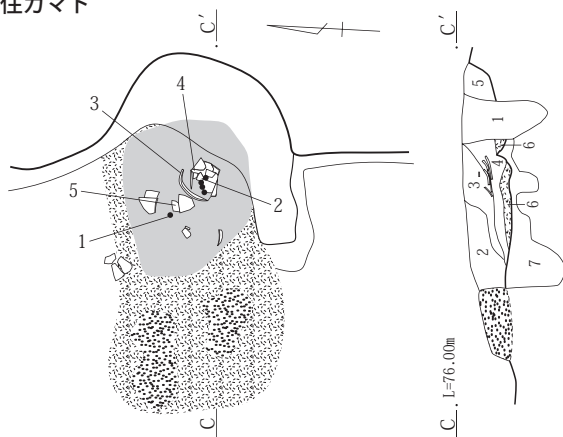
22号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム
粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまる。白色粒子を少
量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を
含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム
ブロックを含む。
- 8 茶褐色土 やや硬くしまる。ロームと暗褐色
色土の混土。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム
ブロックを多量に含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム
ブロック、白色軽石を含む。

37号住居

- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム
粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子をごく少
量含む。
- 6 茶褐色土 やや硬くしまる。
- 11 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あ
り。ロームブロックを含む。
- 12 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あ
り。ロームと暗褐色土の混土。

22住カマド



22号住居カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。ピット
フク土。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、黄白色土
粒子を含む。
- 3 茶褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、黄白色
土粒子を含む。
- 4 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土を多量に灰を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを少量含む。
- 6 灰
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質
土ブロックを含む。

第137図 3区22・37号住居と22号住居カマド

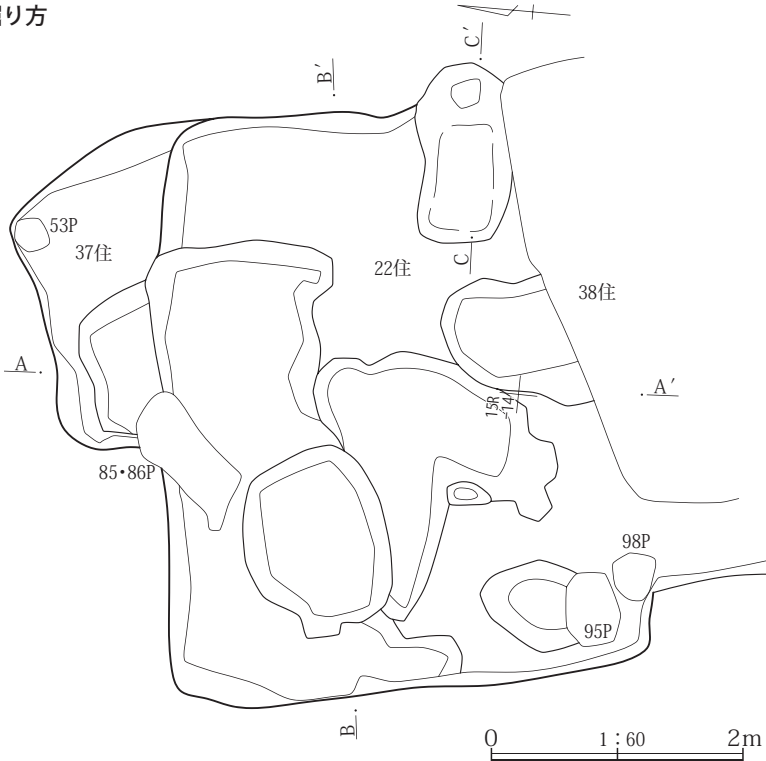
になる。7～10層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。掘り方の深さは約8～30cmを測る。

出土遺物 カマドに集中して出土している。

時期 出土遺物から8世紀後半に比定される。

掘り方



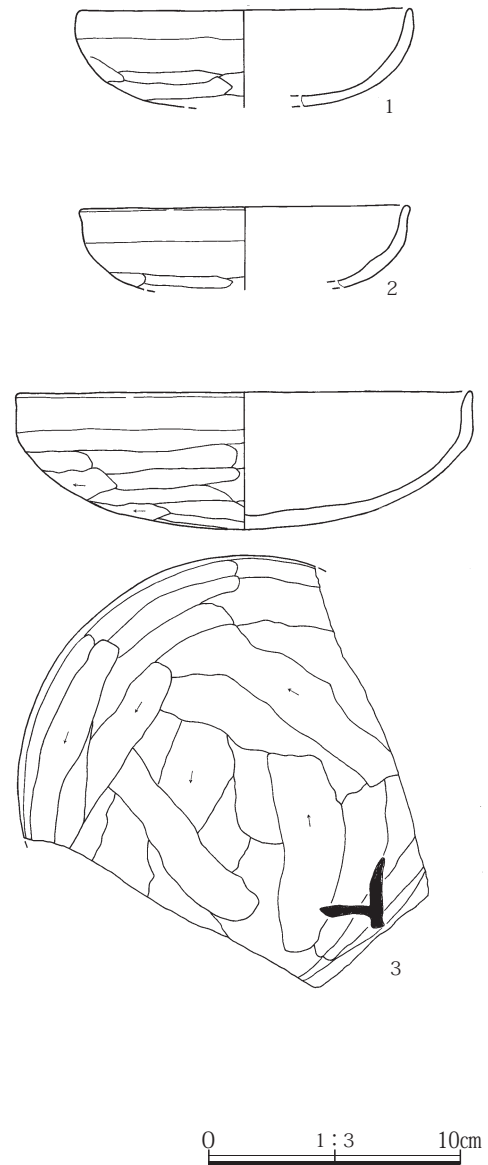
37号住居(137・138図、P L.48)

位置 15R-13・14グリッド。

重複 22号住居より前出。

形状 不明。

主軸方位 不明。



第138図 3区22・37号住居掘り方と22号住居出土遺物

第37表 3区22号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|--------------|-----|------------|------------------|-----|------|--------------------|------------------|---|---------------|
| 第138図 | 1 | 土師器 杯 | カマド 口縁～体部片 | □ | 13.0 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分 を残す。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第138図 | 2 | 土師器 杯 | カマド 口縁～体部片 | □ | 12.8 | | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間に幅広くナデ の部分を残す。内面はナデ。 | 外面やや炭素 吸着。 |
| 第138図 | 3 | 土師器 大型杯 | カマド 1/2 | □ | 17.8 | 高 5.4 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面 底部に墨書「人」か。 | 墨書 |
| 第138図 | 4 | 土師器 甕 | カマド 口縁～ 胴部上位片 | □ | 19.0 | | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位にヘラ削り。内面は横位に ヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第138図 | 5 | 土師器 甕 | カマド 口縁～ 胴部上位片 | □ | 24.8 | | 細砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面は横位にヘ ラナデ。 | 被熱。 |

規模 現状での面積は2.02㎡。長辺(東西)2.57m、短辺(南北)1.21m、残存壁高は10cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。4～6層が住居埋没土になる。11・12層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さは約10～20cmを測る。

出土遺物 出土しなかった。

時期 不明。

23号住居(第140・141図、P L .38、第38表)

位置 15S-13・14グリッド。

重複 24号住居より後出。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-78°-E

規模 現状での面積は6.69㎡。長辺(南北)2.93m、短辺(東西)2.8m、残存壁高は8～12cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。中央近くから土坑が検出されている。長径113.5cm・短径102.5cm・深さ24.5cmを測る。

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁の一部を掘り込んで構築され、規模は長さ31cm、焚き口部の幅31cmである。埋没土は1～4層、3層は灰層になる。5層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。ピットが1基検出された。長径30cm・短径27.5cm・深さ31cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～4層が住居埋没土になる。5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。住居西部分の掘り込みがやや深い。掘り方の深さは約7～12cmを測る。掘り方調査時にピット2基を検出した。P 2は長径39cm・短径36cm・深さ18.5cm、P 3は長径38.5cm・短径21cm・深さ21cmを測る。

出土遺物 出土量は少なく、カマドをふくめて全体に分散する。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

24号住居(第139～146図、P L .38・39・185・186、第38・39表)

位置 15S-14・15グリッド。

重複 23号住居より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-71°-E

規模 面積9.74㎡。長辺(南北)3.76m、短辺(東西)3.43m、残存壁高は36cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ78cm、焚き口部の幅47cmである。埋没土は1～3層、4・5層は掘り方充填土になる。2層は灰層、3層は焼土主体になる。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。ピットが1基検出された。長径30cm・短径27.5cm・深さ31cmを測る。

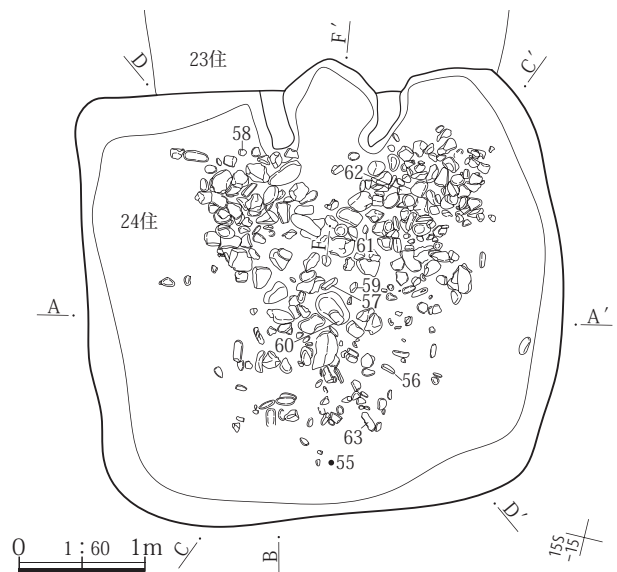
周溝 確認できなかった。

埋没土 住居の廃絶後、埋没土が流入してすり鉢状になったところに、礫が一括廃棄されたものと判断される。1～6層が住居埋没土になる。7～10層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは約10～50cmを測る。

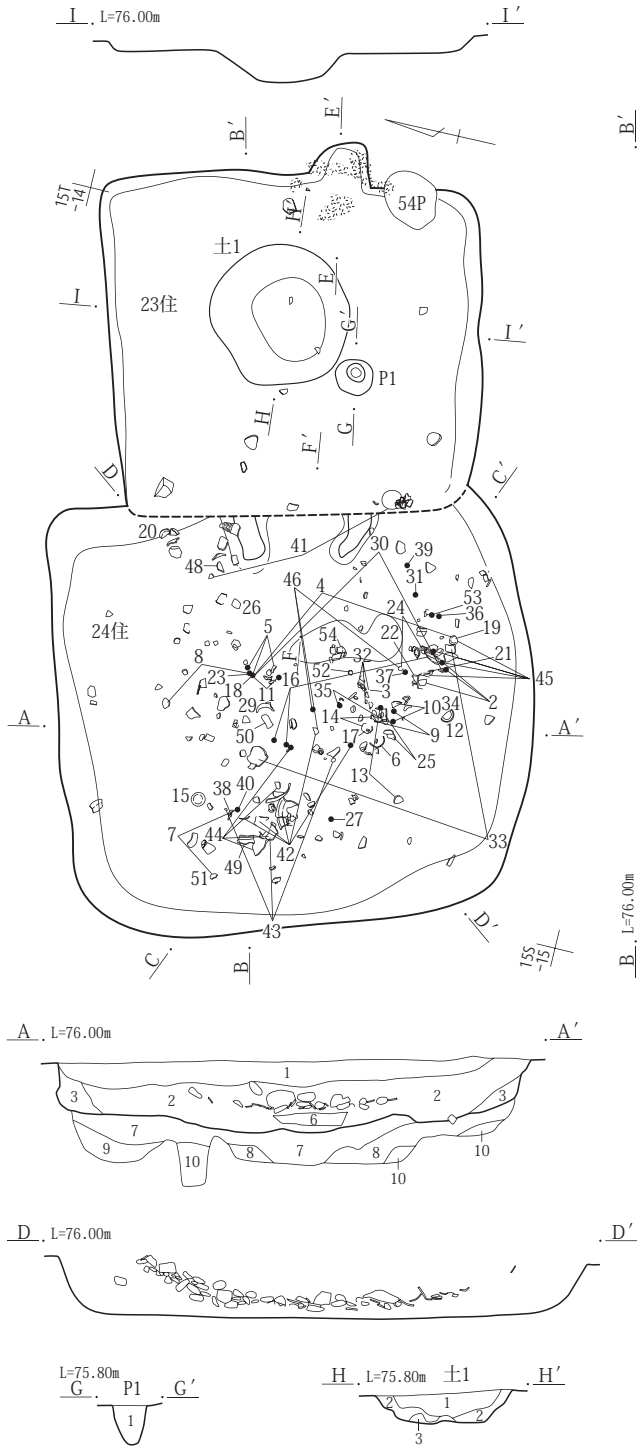
出土遺物 2層の埋没土中から多量の礫と土器片が出土している。礫の出土位置は住居中央部で床上約7cm、壁に近づくと30～40cm床上からの出土である。廃棄礫としたものは59点で、うち敲石14点(掲載5点)、砥石3点(掲載2点)が含まれる。石材では雲母石英片岩と粗粒輝石安山岩が多い。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

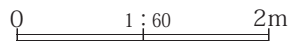


第139図 3区24号住居礫出土状態

23・24号住居



- P 1
- 1 黒褐色土 粘性あり。ややしまる。ローム粒子を僅かに含む。
- 住居内土坑 1
- 1 黒褐色土 粘性あり。しまる。黄白色土粒子、焼土粒子を少量含む。
 - 2 黒褐色土 粘性あり。しまる。暗褐色土ブロック、黄白色土粒子を含む。
 - 3 黒褐色土 粘性あり。しまる。黄白色土ブロックを含む。



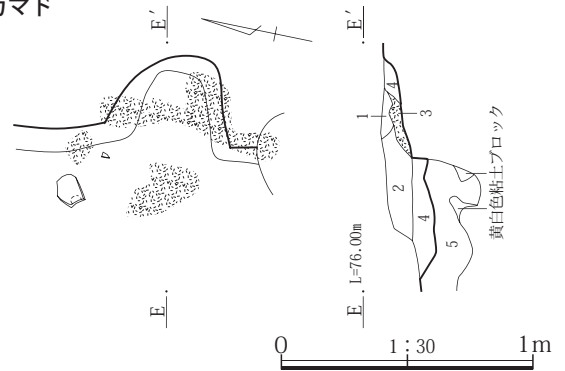
23号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、黄白色土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色土粒子を多量に含む。明るい色調。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

24号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。炭化物、焼土粒子、白色粒子、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子、ローム粒子を少量含む。1、2層よりもやや暗い色調。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 5 黄白色粘質土 カマド構築材。
- 6 黄白色土 やや硬くしまる。暗褐色ブロック、炭化物粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロック、炭化物を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、黄白色土粒子を含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色土粒子を少量含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロック、ロームブロックを含む。

23住カマド

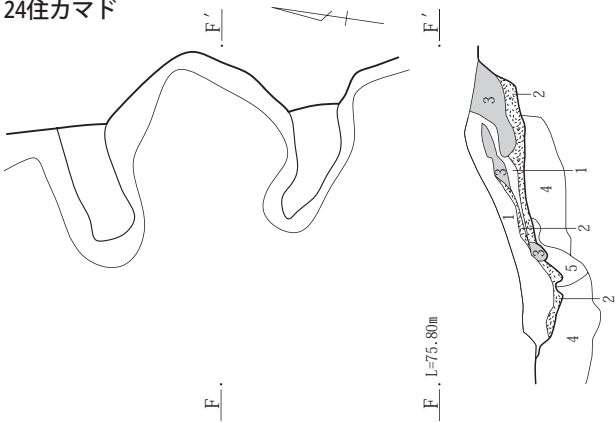


23号住居カマド

- 1 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土を多量に、ローム粒子、炭化物、灰を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子をごく少量含む。
- 3 灰
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、ローム粒子、白色粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

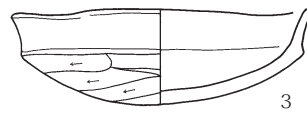
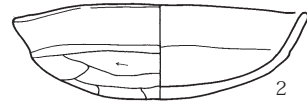
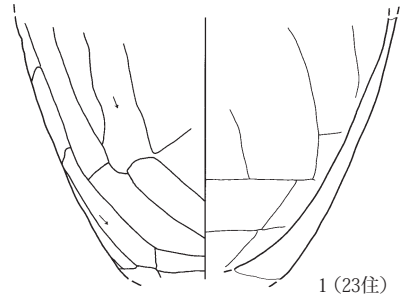
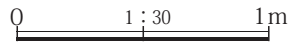
第140図 3区23・24号住居と23号住居カマド

24住カマド

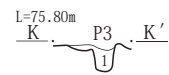
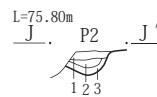
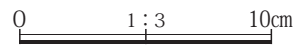
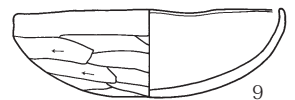
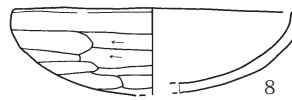
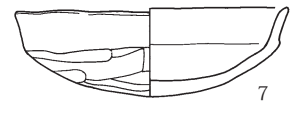
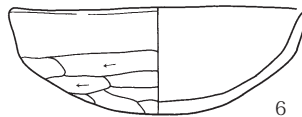
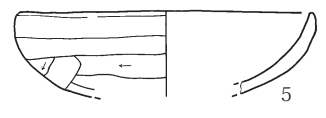
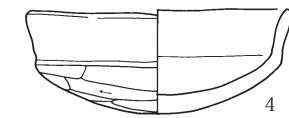
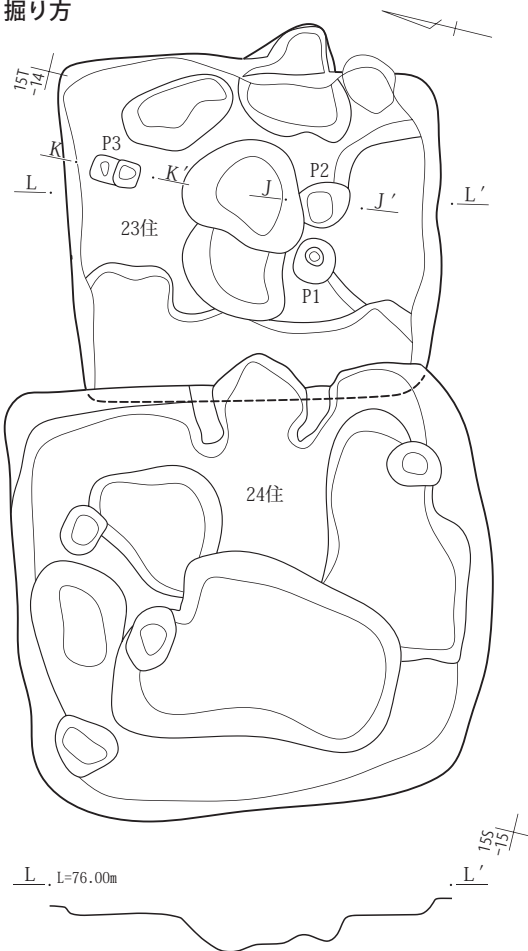


24号住居カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 2 灰
- 3 赤褐色土 やや硬い。焼土主体の層。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色土ブロック、焼土粒子、炭化物を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色土粒子、焼土粒子を含む。



掘り方

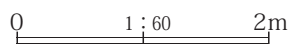


P 2

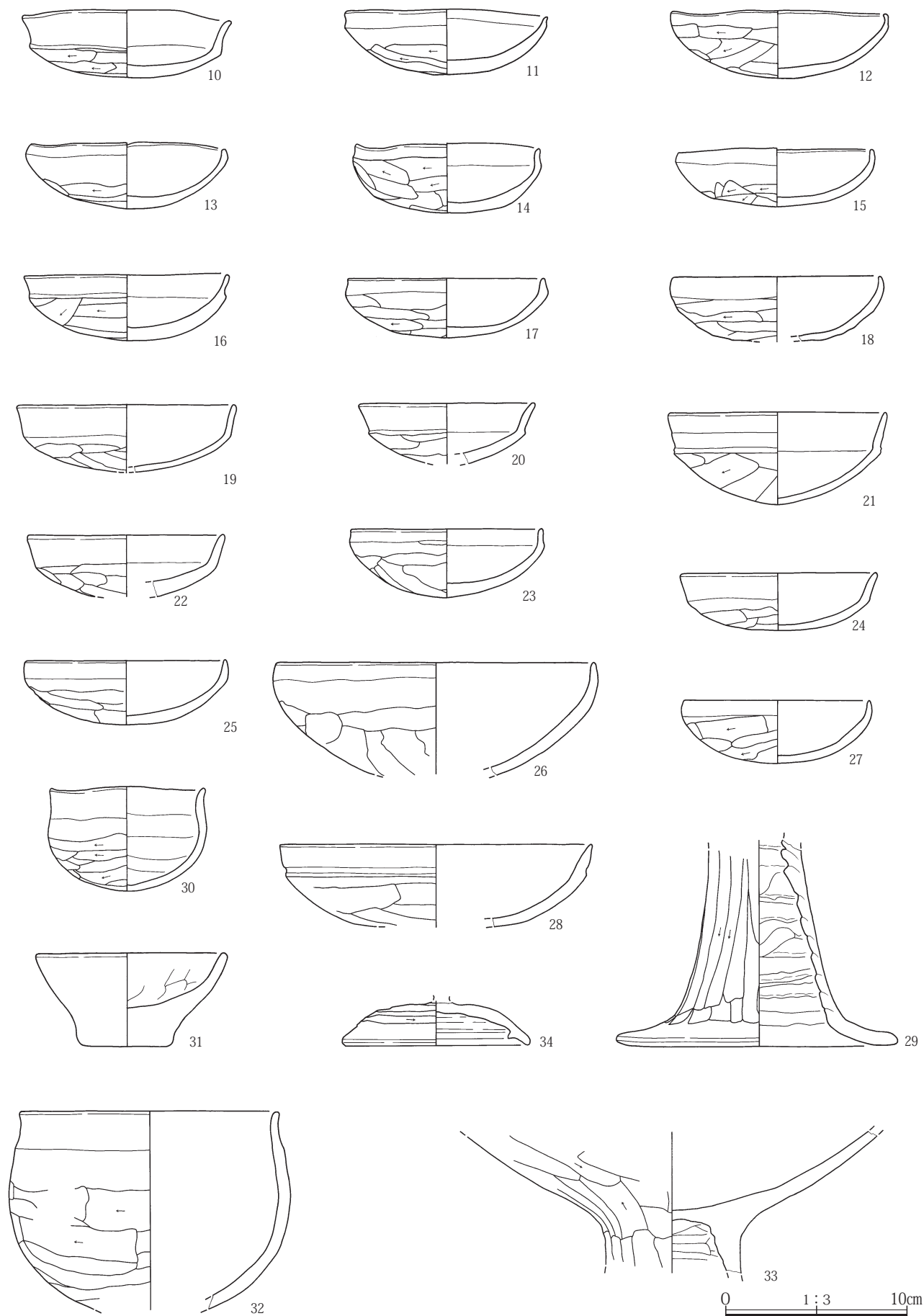
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色土ブロック・同粒子を多く含む。

P 3

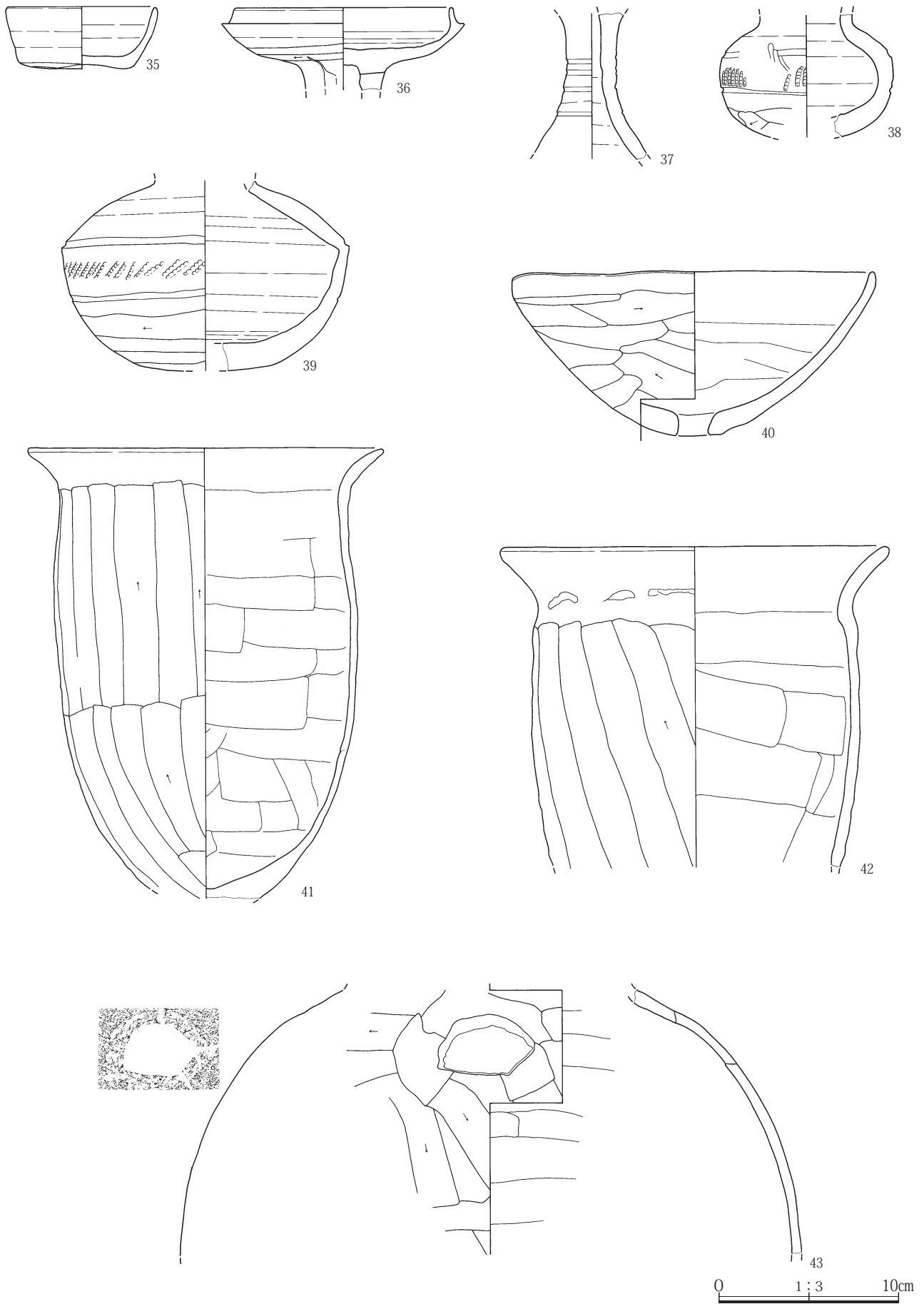
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。



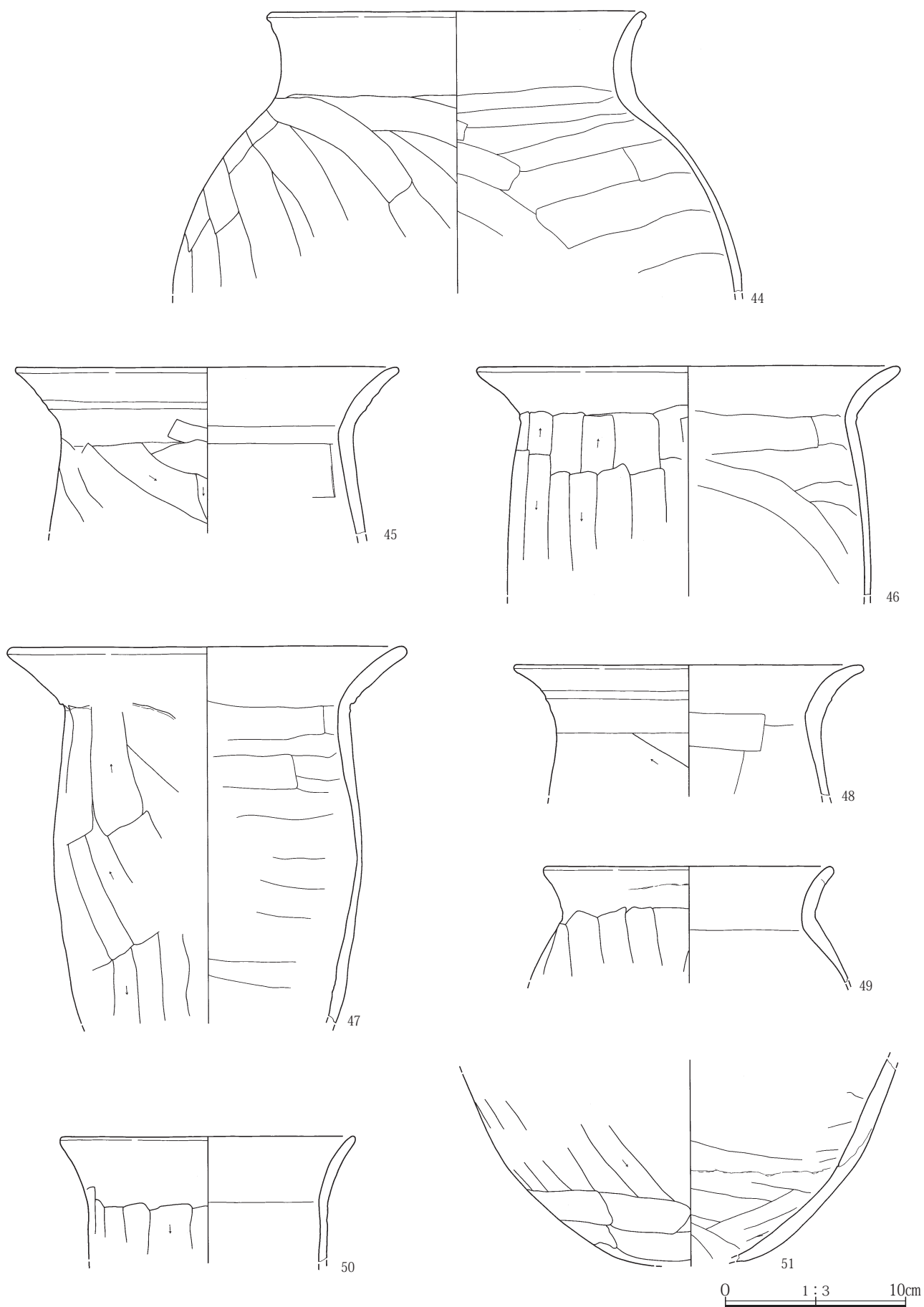
第141図 3区24号住居カマド、23・24号住居掘り方と出土遺物(1)



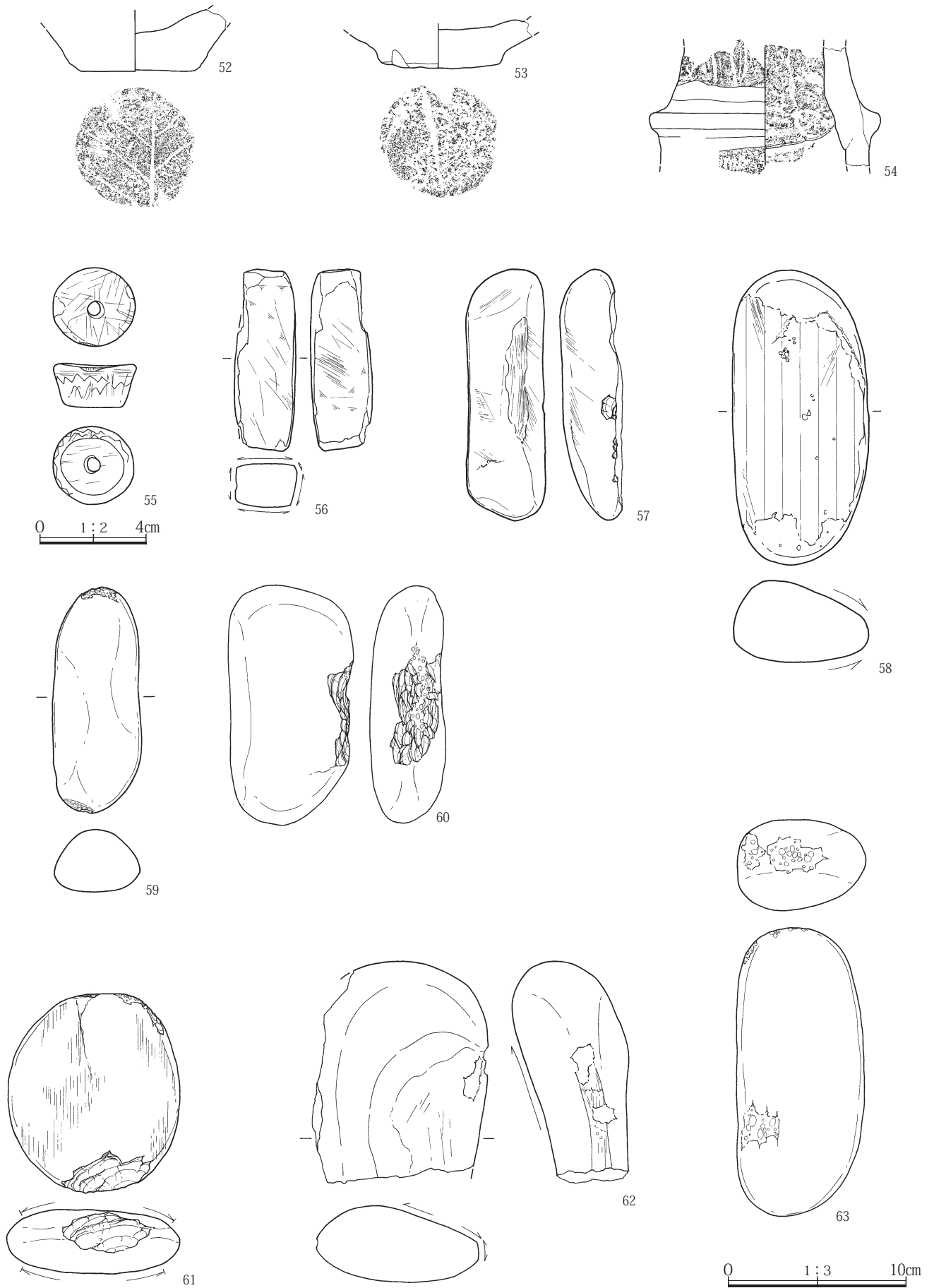
第142図 3区24号住居出土遺物(2)



第143図 3区24号住居出土遺物(3)



第144図 3区24号住居出土遺物(4)



第145図 3区24号住居出土遺物(5)

第3章 発掘調査の記録

第38表 3区 23・24号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|-------------------------|--------|-------------|--------|--------------------|--|---|----------------------------------|
| | | | | | | | | | | |
| 第141図 | 1 | 土師器 甕 | 23住 +5 胴部下位1/2 | | | | 細砂粒/良好/明黄 褐 | 外面最下位は横位、それ以上は斜縦位にヘラ削り。内面は 横位・斜縦位にヘラナデ。底部は接合部分から剥落してい る。 | | |
| 第141図 PL.185 | 2 | 土師器 杯 | 24住 +15 ほぼ完形 | □ | 11.4 | 高 稜 | 3.7 10.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第141図 PL.185 | 3 | 土師器 杯 | 24住 床直 ほぼ完形 | □ | 11.5 | 高 稜 | 3.8 11.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第141図 PL.185 | 4 | 土師器 杯 | 24住 床直 4/5 | □ | 10.1 | 高 稜 | 4.1 9.7 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第141図 PL.185 | 5 | 土師器 杯 | 24住 床直 3/4 | □ | 11.5 | 高 最 | 11.8 | 細砂粒・褐粒/良好 /にぶい橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ 削り。 | |
| 第141図 PL.185 | 6 | 土師器 杯 | 24住 床直 3/4 | □ | 11.5 | 高 稜 | 4.1 10.8 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第141図 PL.185 | 7 | 土師器 杯 | 24住 床直 2/3 | □ | 10.5 | 高 稜 | 3.4 10.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第141図 PL.185 | 8 | 土師器 杯 | 24住 床直 3/4 | □ | 10.9 | 高 最 | 3.4 11.1 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第141図 PL.185 | 9 | 土師器 杯 | 24住 床直 口縁部僅かに欠 | □ | 10.3 | 高 最 | 3.4 10.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第142図 PL.185 | 10 | 土師器 杯 | 24住 床直 口縁部僅かに欠 | □ | 11.2 | 高 稜 | 3.6 10.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第142図 PL.185 | 11 | 土師器 杯 | 24住 床直 口縁部1/4欠損 | □ | 10.8 | 高 稜 | 3.5 11.0 | 細砂粒多/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)は上半がナデ、下半から底部は 手持ちヘラ削り。 | |
| 第142図 PL.185 | 12 | 土師器 杯 | 24住 床直 完形 | □ | 11.6 | 高 最 | 3.6 3.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第142図 PL.185 | 13 | 土師器 杯 | 24住 床直 ほぼ完形 | □ | 10.4 | 高 最 | 3.6 11.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ 削り。 | |
| 第142図 PL.185 | 14 | 土師器 杯 | 24住 床直 3/4 | □ | 9.8 | 高 稜 | 3.7 10.1 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第142図 PL.185 | 15 | 土師器 杯 | 24住 +4 完形 | □ | 10.3 | 高 最 | 3.2 10.9 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ 削り。 | |
| 第142図 PL.185 | 16 | 土師器 杯 | 24住 +5 4/5 | □ | 11.0 | 高 稜 | 3.5 10.7 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第142図 | 17 | 土師器 杯 | 24住 床直 1/2 | □ | 10.6 | 高 | 3.2 | 細砂粒少/良好/に ぶい橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部炭素 吸着。 |
| 第142図 | 18 | 土師器 杯 | 24住 床直 1/4 | □ | 11.2 | | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部の一 部に炭素吸着。 |
| 第142図 | 19 | 土師器 杯 | 24住 +30 1/2 | □ | 11.8 | 高 | 3.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともや や磨滅。 |
| 第142図 | 20 | 土師器 杯 | 24住 +10 1/3 | □ | 9.4 | | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第142図 | 21 | 土師器 杯 | 24住 +15 1/4 | □ | 11.8 | 高 | 5.0 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、中位に弱い稜。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。 | 外面やや磨滅。 |
| 第142図 | 22 | 土師器 杯 | 24住 +13 1/3 | □ | 10.6 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面やや磨 滅。 |
| 第142図 | 23 | 土師器 杯 | 24住 床直 1/2 | □ | 10.4 | 高 | 3.7 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面やや磨 滅。 |
| 第142図 | 24 | 土師器 杯 | 24住 +15 1/2 | □ | 10.6 | 高 | 3.1 | 粗砂粒少/良好/に ぶい橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第142図 | 25 | 土師器 杯 | 24住 床直 3/4 | □ | 10.9 | 高 | 3.5 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第142図 | 26 | 土師器 杯 | 24住 +20 1/4 | □ | 17.2 | | | 精選/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。体部上位 にナデの部分を残すか。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第142図 | 27 | 土師器 杯 | 24住 床直 1/4 | □ | 10.0 | 高 | 3.4 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第142図 | 28 | 土師器 盤 | 24住 1/4 | □ | 16.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 をわずかに残す。内面はナデ。 | |
| 第142図 PL.185 | 29 | 土師器 高杯 | 24住 +4 脚部 | | | 脚 | 15.1 | 細砂粒・白粒/良好 /橙 | 内面に輪積み痕が残る。脚部は縦位のヘラ削り、裾部は横 ナデ。内面脚部はヘラナデ。 | |
| 第142図 PL.185 | 30 | 土師器 小型鉢 | 24住 床直 完形 | □ | 8.3 | 高 | 5.6 | 細砂粒/やや軟質/ 橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ 削り。 | |
| 第142図 | 31 | 土師 鉢 | 24住 +20 3/4 | □ 底 | 10.1 4.9 | 高 | 5.1 | 細砂粒/良好・やや 軟質/淡黄 | 口縁部から体部は丁寧なナデ。一部に輪積み痕を残す。底 部もナデ。内面は指ナデ。 | |
| 第142図 | 32 | 土師器 鉢 | 24住 床直 1/3 | □ | 14.0 | | | 細砂粒/良好/橙 | 器形やや歪む。口縁部は横ナデ。直下の体部にナデの部分 を残す。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部は炭 素吸着・黒斑 状。 |
| 第142図 | 33 | 土師器 台付鉢 | 24住 床直 体部下位～台部 上片 | | | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 体部は斜横位のヘラ削り。脚台部は縦位のヘラナデ。内面 体部は丁寧なナデ。脚台部はヘラによる調整。 | 台部欠損後、 割れ口を再調 整して再利用 か。 |
| 第142図 PL.185 | 34 | 須恵器 杯蓋 | 24住 床直 摘み欠損 | □ | 9.8 | 摘 | 1.1 | 細砂粒/還元焰/灰 | 口縁部整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中ほどま で回転ヘラ削り。 | |

第3節 3区の遺構と遺物(1)

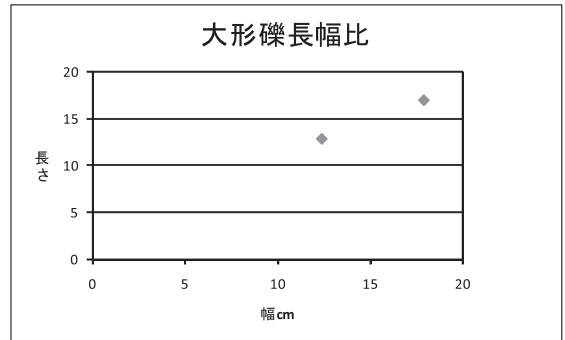
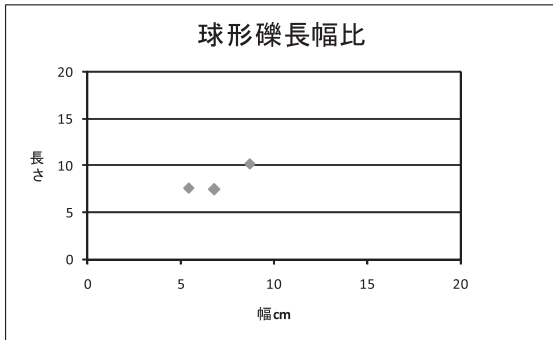
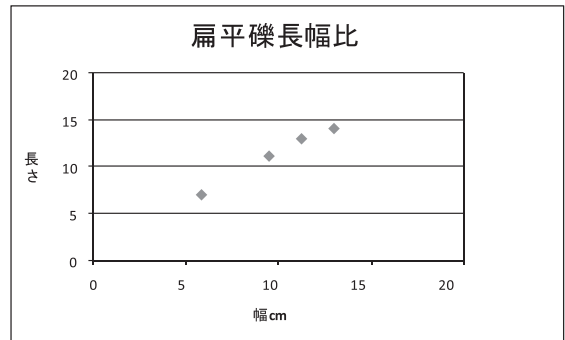
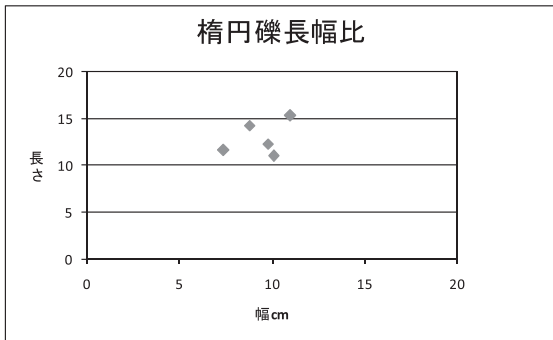
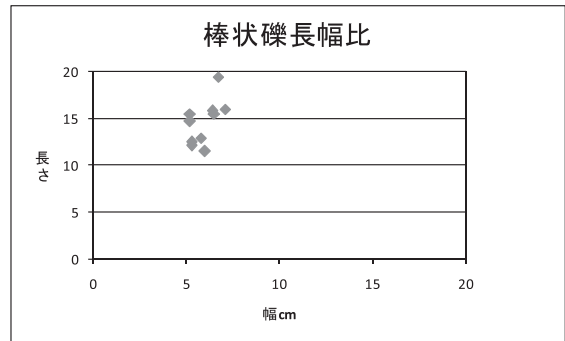
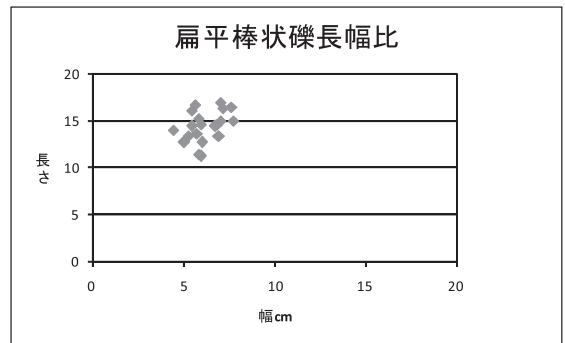
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-----------------------|-----|-------------|--------------------|-----------------------|--|--------------------------------|
| | | | | 口径 | 高さ | 底径 | | | |
| 第143図 PL.185 | 35 | 須恵器 杯 | 24住 床直 口縁部2/3欠損 | 口底 | 8.2 6.4 | 高 3.4 | 細砂粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第143図 | 36 | 須恵器 高杯 | 24住 +17 杯部片 | 口 | 11.8 | | 白色鈹物粒/還元 焰/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。体部中位に回転ヘラ削り。脚の透孔は3単位。 | |
| 第143図 | 37 | 須恵器 高杯 | 24住 床直 脚部上位 | | | | 細砂粒/還元焰・軟 質/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。中位に凹線が4条めぐる。 | |
| 第143図 | 38 | 須恵器 甕 | 24住 床直 胴1/4 | | | | 白色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転右回りか。体部中央に凹線を2条めぐらし、その区画内に櫛状工具による刺突文を連続して列する。底部は弱いヘラ削り。 | 体部に自然釉厚く付着。 |
| 第143図 | 39 | 須恵器 瓶 | 24住 +5 底部~肩部1/3 | | | | 粗砂粒少・黒色鈹 物粒少/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転は右回り。体部下位から底部に回転を伴うヘラ削り。肩部と体部上位に2条の凹線をめぐらし、その間に櫛状工具による列点文を1段を充填する。 | 肩部に自然釉厚く付着。 |
| 第143図 PL.185 | 40 | 土師器 甕 | 24住 床直 ほぼ完形 | 口底 | 19.9 3.8 | 高 9.0 1.8 | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 鉢形を呈し、底部に直径1.7cm程の少孔を穿たれている。口縁部は横ナデ。以下は斜横位のヘラ削り。内面は丁寧なナデ。 | |
| 第143図 PL.185 | 41 | 土師器 甕 | 24住 +5 底部欠損 | 口 | 19.2 | | 粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦に2回に分けヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面胴部下半に炭素吸着。 |
| 第143図 PL.185 | 42 | 土師器 甕 | 24住 床直 口縁部~胴上半部 | 口 | 21.0 | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 被熱のため変質。器面の磨滅顕著。 |
| 第143図 PL.186 | 43 | 土師器 甕 | 24住 床直 肩部~胴部中位片 | | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 外面は縦位あるいは横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 縦5.7cm横4.5cmの焼成後の穿孔が見られる。 |
| 第144図 PL.186 | 44 | 土師器 甕 | 24住 床直 上半部2/3 | 口 | 20.4 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面胴部は斜横位のヘラナデ。外面に粉の圧痕。 | 外面の一部に炭素吸着。 |
| 第144図 | 45 | 土師器 甕 | 24住 +20 口縁~胴部上位1/2 | 口 | 20.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第144図 | 46 | 土師器 甕 | 24住 床直 口縁~胴部上位1/3 | 口 | 23.0 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部は斜横位・横位のヘラナデ。 | |
| 第144図 | 47 | 土師器 甕 | 24住 口縁~胴部中位 | 口 | 21.4 | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位に3回に分けてヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 内外面とも被熱・炭素吸着。 |
| 第144図 | 48 | 土師器 甕 | 24住 +17 口縁~胴部上位片 | 口 | 19.0 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は斜位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱の為、変色・変質。 |
| 第144図 | 49 | 土師器 甕 | 24住 +10 口縁~胴部上位片 | 口 | 15.6 | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は縦位にヘラ削り、頸部にヘラ状工具が強く当たった痕跡。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第144図 | 50 | 土師器 甕 | 24住 床直 口縁~胴部上位片 | 口 | 16.0 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第144図 | 51 | 土師器 甕 | 24住 +5 底部~胴部下位 | | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 胴部外面、最下位は横位、これより上は斜縦位のヘラ削り。内面は横位・斜横位のヘラナデ。 | 外面炭素吸着・黒斑状。器面磨滅。底部の孔(焼成後)は旧事か？ |
| 第145図 | 52 | 土師器 甕 | 24住 床直 底部 | 底 | 6.4 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 底部外面に木葉痕。 | 器面磨滅。 |
| 第145図 | 53 | 土師器 甕 | 24住 +22 底部 | 底 | 6.7 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 底部の内外面ともに指ナデ。 | |
| 第145図 | 54 | 埴輪 大刀形 | 24住 床直 破片 | | | | 小礫・粗砂粒/酸化 焰・良好/明赤褐 | 大刀の柄から鞘口部分の破片。2cmあたり本のハケ目を縦位に施した後、断面台形の突帯貼付。周囲に横ナデ。内面は指ナデ。 | |
| 第145図 PL.186 | 55 | 石製品 紡輪 | 24住 +14 | 径幅 | 3.0 0 | 厚重 1.6 22.6 | 蛇紋岩 | 体部側面に鋸歯文を線刻する。手ズレ等に起因する光沢痕は弱い。径6mmの孔を両側穿孔する。 | 棒状扁平礫 |
| 第145図 PL.186 | 56 | 石製品 砥石 | 24住 +30 | 長幅 | 10.1 3.4 | 厚重 3 147.1 | 砥沢石 | 各面ともよく使い込まれ光沢を帯びているが、左側面の光沢は弱い。裏面側に刃ならし傷が集中する。 | 切り砥石 |
| 第145図 PL.186 | 57 | 石製品 砥石 | 24住 床直 | 長幅 | 144.4 | 厚重 3.5 327.7 | 黒色頁岩 | 小口部両端に著しい敲打痕がある。 | 扁平棒状礫 |
| 第145図 PL.186 | 58 | 石製品 砥石? | 24住 +20 | 長幅 | 16.4 7.6 | 厚重 4.6 799.3 | デイサイト | 表裏面とも弱く摩耗、背面側に斜向する線条痕がある。 | 扁平棒状礫 |
| 第145図 PL.186 | 59 | 礫石器 敲石 | 24住 +5 | 長幅 | 12.7 5 | 厚重 3.5 342.7 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に著しい敲打痕がある。 | 扁平棒状礫 |
| 第145図 PL.186 | 60 | 礫石器 敲石 | 24住 床直 | 長幅 | 13.4 6.9 | 厚重 4.3 567.3 | 変質安山岩 | 右辺側エッジを激しく敲打する。 | 扁平棒状礫 |
| 第145図 PL.186 | 61 | 礫石器 敲石 | 24住 床直 | 長幅 | 11.1 9.6 | 厚重 3.6 541.7 | 砂岩 | 上下両端を敲打する。下端側小口に敲打に伴う衝撃剥離痕が生じている。 | 扁平礫 |
| 第145図 PL.186 | 62 | 石製品 砥石 | 24住 +18 | 長幅 | 12.3 9.8 | 厚重 6.5 886.3 | デイサイト | 右側面が激しく研ぎ減り、平坦面が形成されるほか、背面右辺側が弱い研磨面が広がる。 | 楕円礫 |
| 第145図 PL.186 | 63 | 礫石器 敲石 | 24住 +18 | 長幅 | 16 7.1 | 厚重 5 837.8 | 溶結凝灰岩 | 上端側小口部・背面左辺側が激しく敲打されている。 | 棒状礫 |

第3章 発掘調査の記録

第39表 3区24号住居廃棄礫一覧

| 番号 | 礫形状 | 石材 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 備考 |
|----|---------|---------|-------|--------|--------|--------|----|
| 1 | 扁平棒状礫 | 雲母石英片岩 | 7 | 15 | 3.5 | 590 | |
| 2 | | 雲母石英片岩 | 5.8 | 15.2 | 2.4 | 343.3 | |
| 3 | | 雲母石英片岩 | 5.9 | 11.2 | 3.2 | 417.8 | |
| 4 | | 変質安山岩 | 6 | 12.7 | 3.4 | 337.5 | |
| 5 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.9 | 13.4 | 3.2 | 377.2 | |
| 6 | | 変質安山岩 | 5.7 | 13.6 | 3.3 | 398.8 | |
| 7 | | 変質安山岩 | 5.9 | 14.6 | 2.6 | 356.6 | |
| 8 | | 雲母石英片岩 | 5.2 | 13.4 | 3 | 332.9 | |
| 9 | | 雲母石英片岩 | 5.4 | 16.1 | 3.2 | 418 | |
| 10 | | 雲母石英片岩 | 5.4 | 14.4 | 3.2 | 428.2 | |
| 11 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.8 | 11.4 | 3.3 | 322.8 | |
| 12 | | 変質安山岩 | 5.6 | (11.0) | (4.3) | 422.3 | |
| 13 | | 粗粒輝石安山岩 | (5.9) | (10.2) | (3.2) | 287.7 | |
| 14 | | 変質安山岩 | (6.7) | (9.2) | (2.4) | 232.4 | |
| 15 | | 変質安山岩 | (6.7) | (7.5) | (3.2) | 238 | |
| 16 | | 緑色片岩 | 4.9 | 15.3 | (3.4) | 435.2 | |
| 17 | 棒状礫 | 粗粒輝石安山岩 | 6.5 | 15.5 | 5.2 | 773.7 | 被熱 |
| 18 | | 珉質頁岩 | 6.7 | 19.4 | 5.2 | 1020.6 | |
| 19 | | 流紋岩 | 5.8 | 12.9 | 4.2 | 423.6 | |
| 20 | | 溶結凝灰岩 | 6 | 11.5 | 5.4 | 451.2 | |
| 21 | | 流紋岩 | 5.2 | 14.7 | 5.1 | 551.2 | 被熱 |
| 22 | | 粗粒輝石安山岩 | 6.4 | 15.8 | 5.7 | 809.3 | |
| 23 | | 黒色頁岩 | 5.3 | 12.5 | 3.9 | 448.8 | 被熱 |
| 24 | | ひん岩 | 5.2 | 15.5 | 3.3 | 415.8 | |
| 25 | | 変質安山岩 | 5.3 | 12.1 | 4.9 | 418.2 | |
| 26 | | 閃緑岩 | (5.3) | (10.2) | (3.7) | 358.4 | |
| 27 | 細粒輝石安山岩 | 5.2 | 14 | (3.5) | 374.2 | | |
| 28 | 扁平礫 | 粗粒輝石安山岩 | 12.9 | 14.1 | | 761.9 | 被熱 |
| 29 | | 粗粒輝石安山岩 | 5.8 | 7.1 | 1.3 | 72.8 | |
| 30 | | 粗粒輝石安山岩 | 11.2 | 13 | 3.1 | 581.9 | |
| 31 | 楕円礫 | 石英閃緑岩 | (5.9) | (8.6) | (2.7) | 237.6 | |
| 32 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.8 | 14.3 | 6.5 | 1148.9 | |
| 33 | | デイサイト | 10.1 | 11 | 4.9 | 715.2 | 被熱 |
| 34 | | アプライト | 7.4 | 11.6 | 5.8 | 673.5 | |
| 35 | 変質安山岩 | 11 | 15.3 | 5.9 | 1474.6 | | |

| 番号 | 礫形状 | 石材 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 備考 |
|----|-----|---------|--------|--------|--------|--------|----|
| 36 | 球形礫 | 粗粒輝石安山岩 | 6.8 | 7.4 | 5.4 | 377.5 | |
| 37 | | 石英閃緑岩 | 5.4 | 7.6 | 4.2 | 264.9 | |
| 38 | | 粗粒輝石安山岩 | 8.7 | 10.2 | 6.4 | 733.8 | |
| 39 | 大形礫 | 粗粒輝石安山岩 | 12.4 | 17.9 | 9.2 | 3159.5 | 被熱 |
| 40 | | 石英閃緑岩 | 12.8 | 16.9 | 8.3 | 2589.3 | 被熱 |
| 41 | | 粗粒輝石安山岩 | (12.0) | (12.3) | (9.7) | 3655.1 | 被熱 |
| 42 | | 粗粒輝石安山岩 | (19.1) | (31.8) | (10.7) | 7650 | 被熱 |



第146図 3区24号住居廃棄礫(完成品)長幅比グラフ

25号住居(第147～149図、P.L.40、第40表)

位置 15S・T-16・17グリッド。

重複 190号土坑と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-101°-E

規模 面積12.19㎡。長辺(東西)3.74m、短辺(南北)3.4m、残存壁高は15cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築され、規模は長さ82cm、焚き口部の幅41cmである。埋没土は1～10層、11～14層は掘り方充填土になる。3層は焼土で多量に堆積していた。9層は灰層である。焼土とともに埴輪片が出土している。支脚の礎が残されていた。

貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴を確認できなかったが、P1とした遺構が該当する可能性もある。P1は長径42.5cm・短径39.5cm・深さ37cmを測る。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 ピット2基が検出された。P2は長径50.5cm・短径38.5cm・深さ43cm、P3は長径44cm・短径40cm・深さ33cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 確認面から床面まで浅かったが、自然埋没土と思われる。3・4層が住居埋没土になる。

掘り方 確認できなかった。

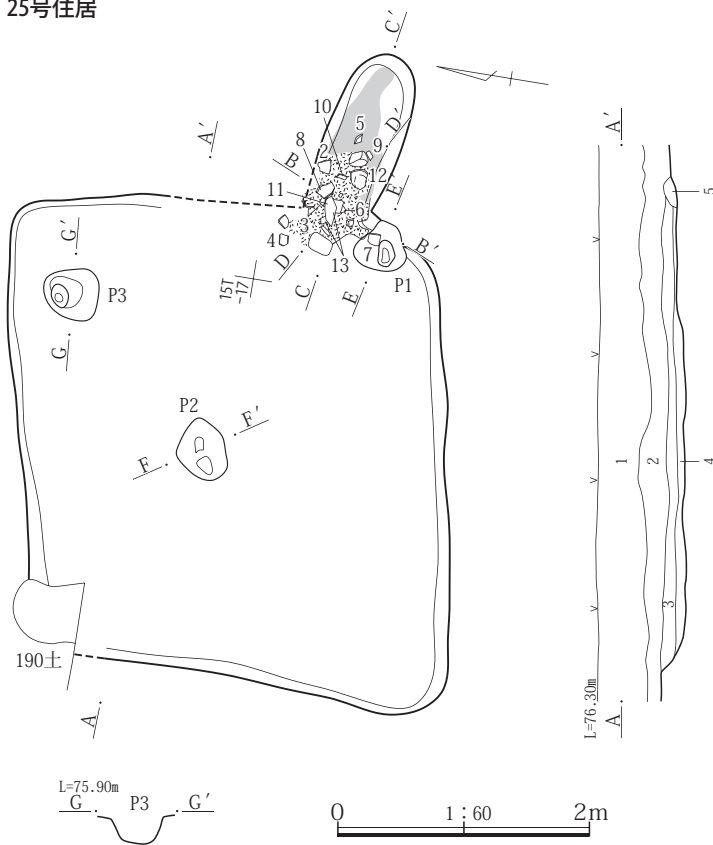
出土遺物 カマドから埴輪片(第148・149図2～14)が出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降である。

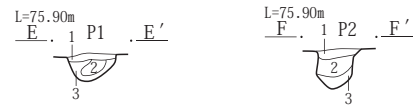
第40表 3区25号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|-----------|--------------------|-----|------|------------------------|--|--------------------------|
| 第148図 | 1 | 土師器 杯 | 口縁～底部片 | 口 | 13.0 | 粗砂粒少/良好/赤褐 | 口唇部は磨滅。口唇直下に小さな段を有する。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第148図 | 2 | 埴輪 形象 | カマド 底部片 | | | 粗砂粒/普通/橙 | 外面は縦ハケ(2cmに10本)内面は丁寧なナデ。 | 3と類似。 |
| 第148図 | 3 | 埴輪 形象 | カマド 底部片 | | | 粗砂粒/良好/明赤褐 | 径が一定であることから基部の底部寄り破片の可能性ある。朝顔形埴輪の可能性もあるか。外面は縦ハケ(2cmに10本)内面ハケ目の上に丁寧なナデ。 | |
| 第148図 | 4 | 埴輪 円筒 | カマド 底部片 | | | 粗砂粒・片岩/普通/明赤褐 | 外面は縦ハケ(2cmに7本)後、ヘラ状工具押圧による底部調整。内面は縦ハケ。底部近くに指頭圧痕。 | |
| 第148図 | 5 | 埴輪 円筒 | カマド 破片 | | | 粗砂粒・片岩/普通/明赤褐 | 外面は縦ハケ(2cmに8本)内面は縦ハケの上にナデを重ねる。部位不明。 | |
| 第148図 | 6 | 埴輪 朝顔形 | カマド 頸部～ 胴部上位1/3 | | | 粗砂粒・チャート・ 片岩/普通/橙 | 外面は縦ハケ(2cmに9本)後、断面台形の突帯貼付。内面肩部は斜横位、胴部は縦位のナデ。 | 被熱 |
| 第148図 | 7 | 埴輪 朝顔形 | カマド 頸部～胴部上位 | | | 粗砂粒・輝石または 角閃石/普通/橙 | 外面は縦ハケ(2cmに9本)、胴部ではV字方向に施す。突帯は頸部では突出度低い。肩部のそれも低い。断面台形。胴部に円形の透孔を配する。内面肩部は斜横位、胴部は斜縦位のナデ。 | 被熱・煤付着。 |
| 第149図 | 8 | 埴輪 円筒 | カマド 胴部～基部1/3 | | | 粗砂粒・片岩/普通/ 明赤褐 | 外面は縦ハケ(2cmに7本)後、突帯貼付。周辺に横ナデ。内面は縦位にナデ。胴部に円形と考えられる透孔の一部残存。 | 被熱か器面の一部剥離。 |
| 第149図 | 9 | 埴輪 円筒 | カマド 破片 | | | 粗砂粒・片岩/普通/ にぶい黄橙 | 外面は縦ハケ(2cmに8本)内面は縦ハケ。 | |
| 第149図 | 10 | 埴輪 形象? | カマド 破片 | | | 粗砂粒・片岩/普通/ 橙 | 小径であることから形象埴輪の可能性が考えられる。部位不明。外面縦ハケ(2cmに11本)。内面はナデ。 | |
| 第149図 | 11 | 埴輪 形象 | カマド 破片 | | | 粗砂粒・片岩/普通/ 明黄褐 | 扁平で板状の破片、家形埴輪の基部と考えられる。外面は縦ハケ(2cmに9本)後、底部寄りに横に延びる突帯貼付。周辺に横ナデ。内面は丁寧なナデ。器面調整後、斜ハケ。 | |
| 第149図 | 12 | 埴輪 円筒 | カマド 底部片か | | | 粗砂粒・片岩/普通/ 明赤褐 | 外面は縦ハケ(2cmに7本)後、断面M字形の突帯貼付。周辺部は横ナデ。内面は縦ハケ・ナデ。 | 内外面煤付着。 |
| 第149図 | 13 | 埴輪 円筒? | カマド 胴部片か | | | 粗砂粒・片岩/普通/ 赤褐 | 外面は縦ハケ(2cmに10本)後、断面M字形の突帯貼付。周辺部は横ナデ。内面は外面と異なるハケ目。 | 残存上位段にヘラ状工具刺突による小孔が貫通する。 |
| 第149図 | 14 | 埴輪 円筒? | 胴部片 | | | 小礫・粗砂粒・片岩/ 普通/にぶい赤褐 | 突帯に近い部位。外面は縦ハケ(2cmに9本)、内面は外面の工具と異なる縦ハケ。円形と考えられる透孔の一部残存。 | |

25号住居



- 1 表土 浅間A軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子をごく少量含む。
- 4 黒褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。



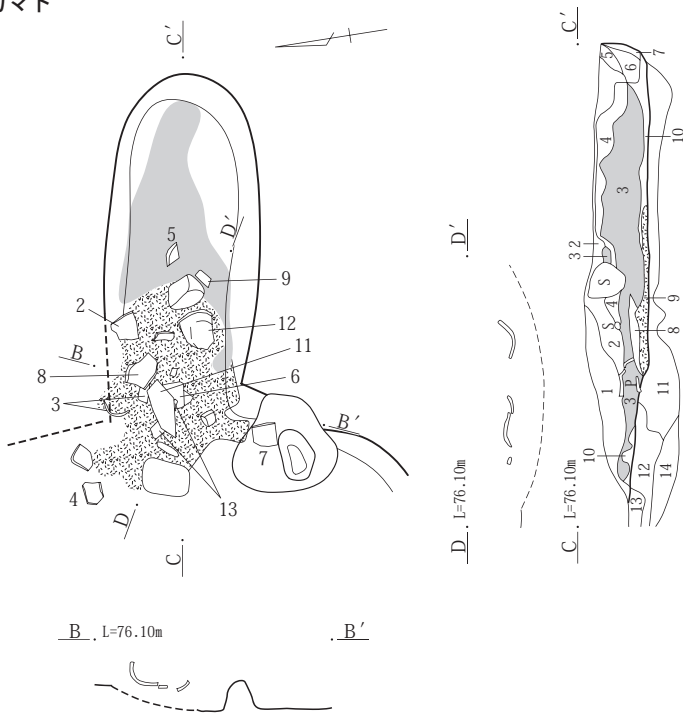
P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子と黄白色土粒子を含む。

P 2

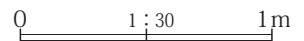
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土 やや硬くしまる。黄白色土ブロックを含む。

カマド

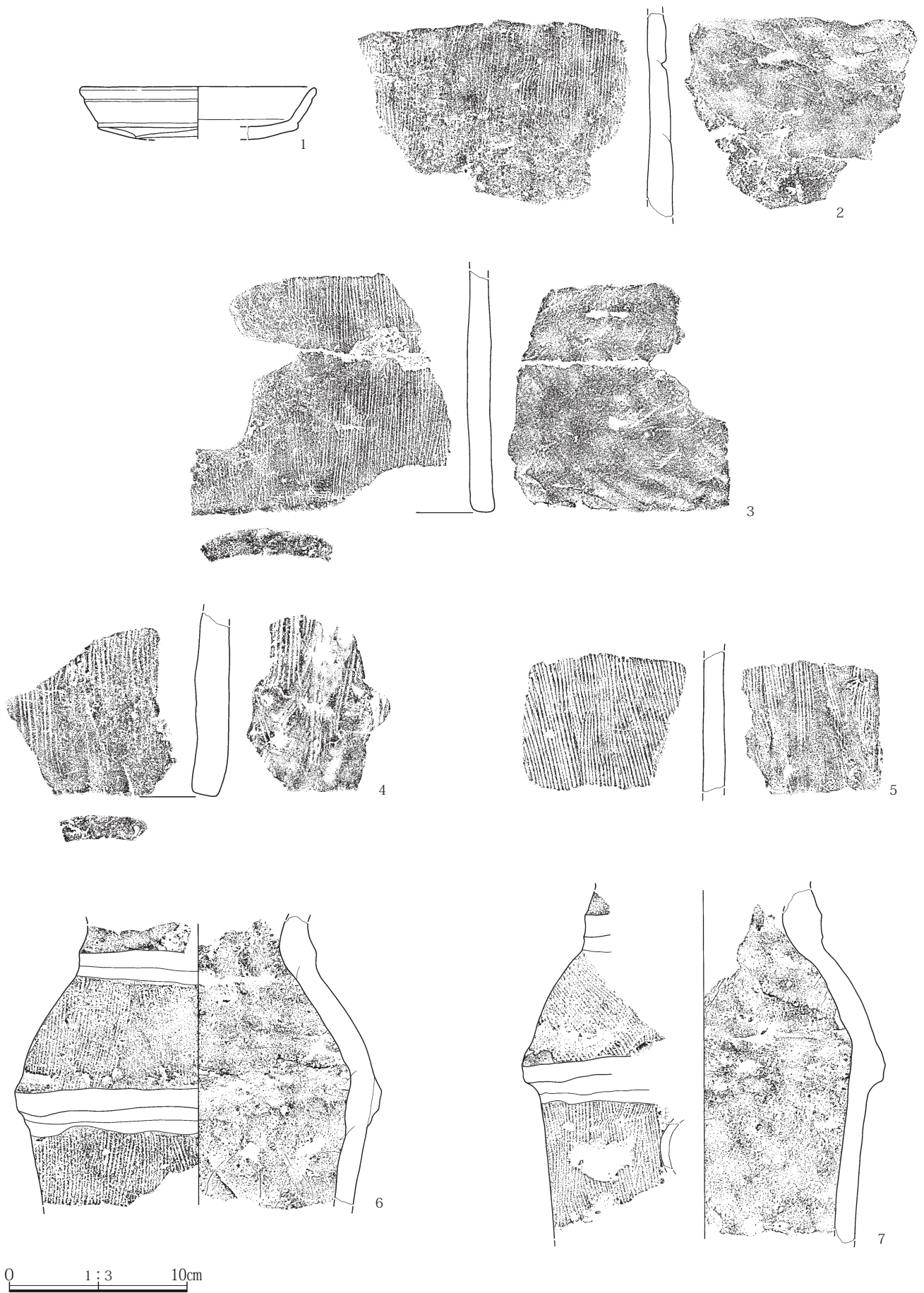


カマド

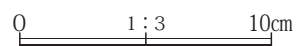
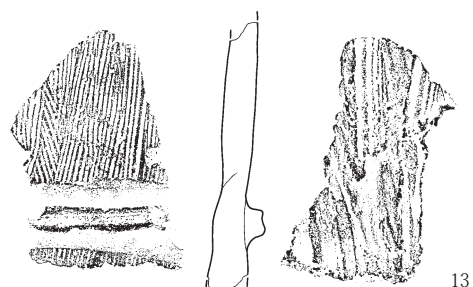
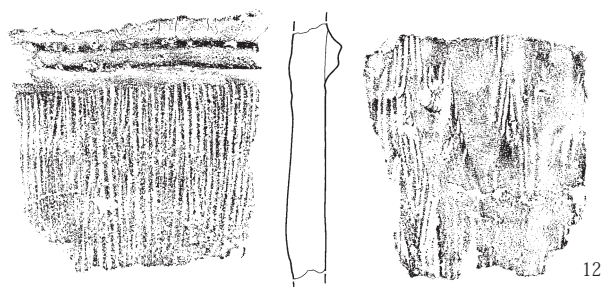
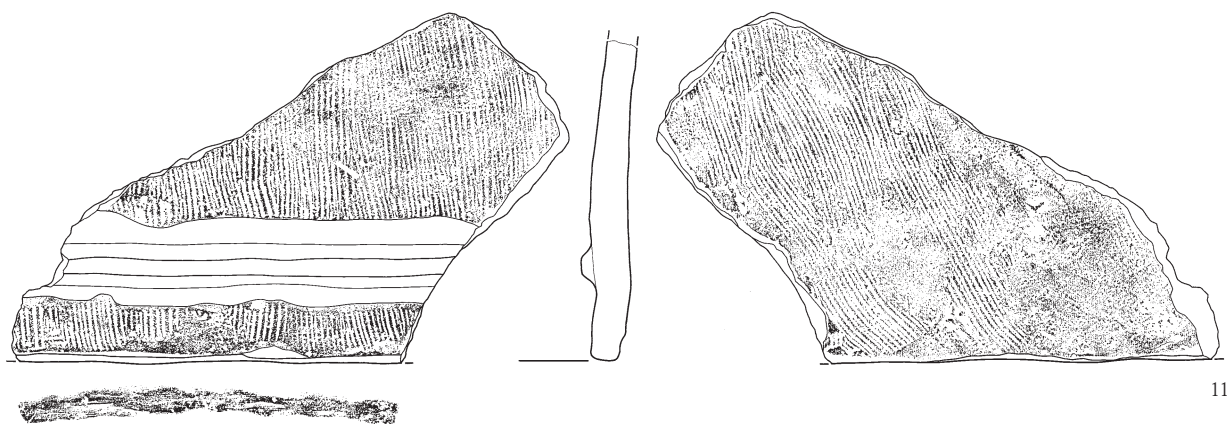
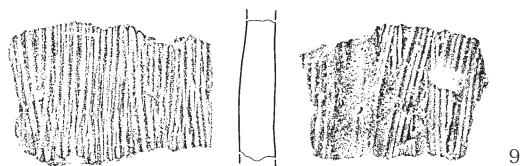
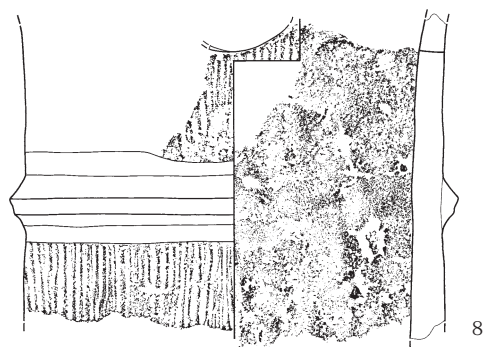
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、黄白色土ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色土ブロックを多量に含む。
- 3 焼土
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄白色土ブロックを含む。
- 6 黒色土 軟らかい。焼土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 9 灰
- 10 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子を含む。
- 11 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 12 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 14 暗褐色土 軟らかい。ロームブロックを含む。上層よりも明るい色調。



第147図 3区25号住居



第148図 3区25号住居出土遺物(1)



第149図 3区25号住居出土遺物(2)

26号住居(第150～154図、P L .40～42・186、第41・42表)

位置 15R-18、15R・S-19グリッド。

重複 30・31号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-112°-W

規模 現状での面積は21.74㎡。長辺(南北)5.17m、短辺(東西)4.85m、残存壁高は15～18cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。床下土坑が2基検出された。土坑1は長径90cm・短径86.5cm・深さ26.5cm、土坑3は長径190cm・短径149cm・深さ17.5cmを測る。

カマド1 西壁の中央に設置される。燃烧部は床面から壁の一部を掘り込んで構築され、規模は長さ127cm、焚き口部の幅44cmである。袖を含めた幅は74cmになる。支脚の礫が残されていた。カマド前面の床にはやや広い範囲に灰の分布が認められた。1～8層はカマド埋没土、5層は焼土、9層は袖、11～13層は掘り方充填土になる。

カマド2 東壁の南寄りから検出された。燃烧部は壁を掘り込んで構築され、現状の長さ50cm、幅27cmを測る。1～3層はカマド埋没土、4・5層は掘り方充填土になる。3層には焼土ブロックが多量に含まれていた。カマド1構築前の古いカマドになるものと思われる。

貯蔵穴 カマド2に伴う貯蔵穴が検出された。床面の南東隅に位置している。長径105.5cm・短径86cm・深さ10～33.5cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。カマド1に伴う貯蔵穴は明瞭ではないが、P5とした遺構が該当しそうである。長径55cm・短径33cm・深さ10.5cmの楕円形を呈する。

柱穴 主柱穴となるピット7基が検出されている。そ

の配置状況から見ると、P1～P4のグループとP6・7・9・3のグループに分離できそうである。P1は長径32.5cm・短径29.5cm・深さ21cm、P2は長径38.5cm・短径35cm・深さ18cm、P3は長径55cm・短径54.5cm・深さ26cm、P4は長径45cm・短径44.5cm・深さ25cmを測る。P3は掘り方調査の段階で2基のピットの可能性があることから、掘り方図にあるP3南東の掘り込みが該当しそうである。このピットの深さは20cmを測る。これらのピットがカマド2に伴う主柱穴になりそうである。P1-P2間の距離2.35m、P2-P3間距離2.2m、P3-P4間距離2.15m、P4-P1間距離は2.1mを測る。

P6は長径37.5cm・短径32.5cm・深さ25cm、P7は長径40cm・短径39cm・深さ18cm、P9は長径26cm・短径24cm・深さ18cm、P3は長径55cm・短径54.5cm・深さ26cmである。これらのピットがカマド1に伴う主柱穴になるものと思われる。P6-P7間の距離2.25m、P7-P9間距離2.1m、P9-P3間距離2.3m、P3-P6間距離は2.1mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～4層が住居埋没土、5～7層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。主柱穴間の内側から土坑状の掘り込みが顕著である。掘り方の深さは約6～30cmを測る。

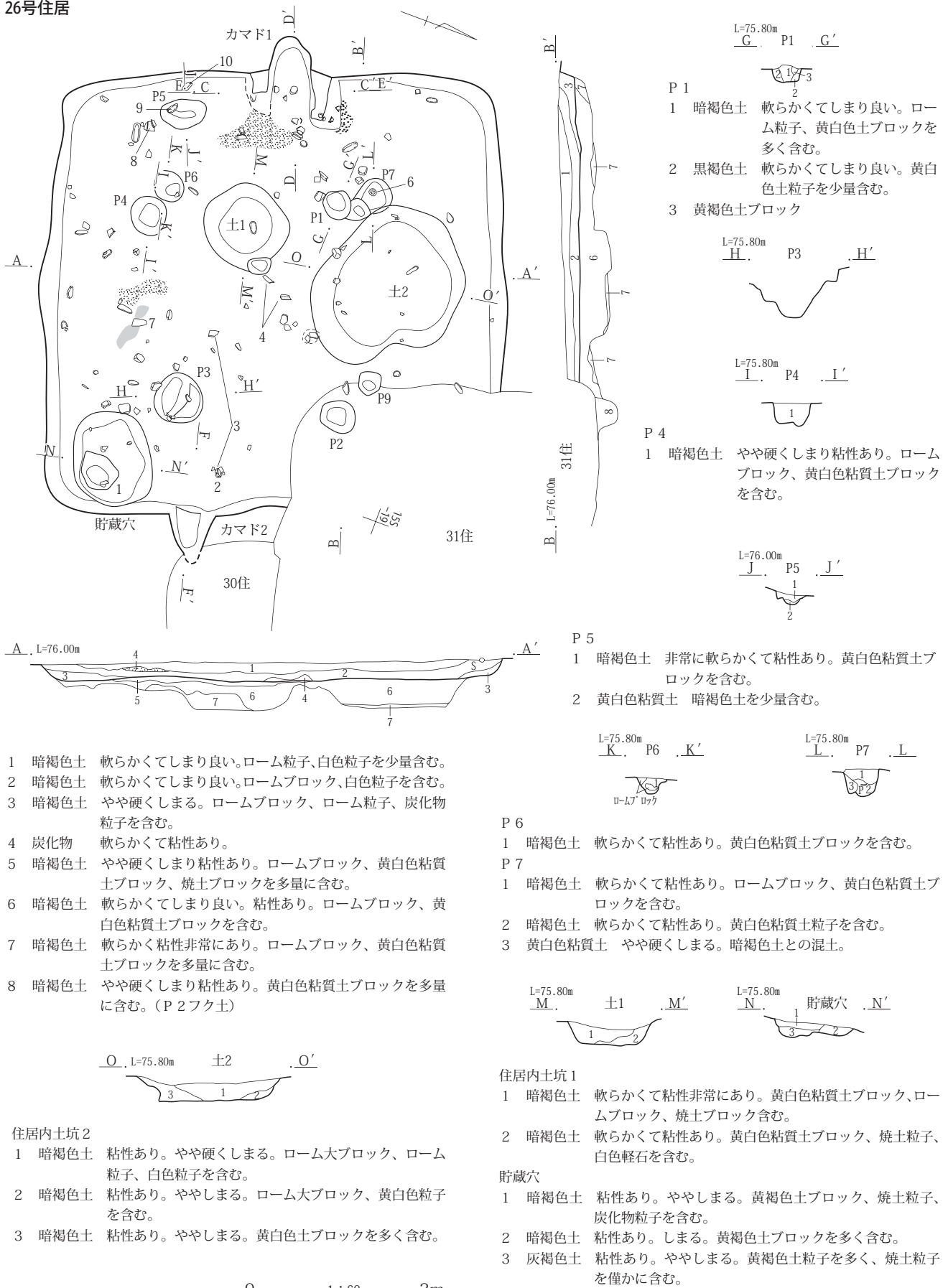
出土遺物 埋没土中から土器片が出土している。第154図1～6は混入である。菰編石11点は住居埋没土全体に散乱していた。

時期 当住居は建て替えが行われている。出土遺物から10世紀前半に比定される。

第41表 3区26号住居出土遺物(1)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|------------|--------------------|-----|------|--------------------|---|-------------|
| 第154図 | 1 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 口縁～底部片 | □ | 12.8 | | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第154図 | 2 | 土師器 杯 | 掘り方 1/4 | □ | 12.0 | | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第154図 | 3 | 土師器 鉢 | 掘り方 口縁～体部 | □ | 22.0 | | 口縁部は横ナデ。弱い沈線状の区画を挟んで体部に続く。体部は斜位のハケ目が見られるが、斜位にヘラ削りを施す部分もある。 | 内面炭素吸着・黒斑状。 |
| 第154図 | 4 | 土師器 甕 | +6 口縁～胴部 | □ | 19.6 | | 口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削りと考えられる。内面は横位にヘラナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第154図 | 5 | 土師器 壺 | 口縁1/4 | | | | 口縁部は頸部からやや外傾ぎみに立ち上がった後、大きく段をなし、再び外反する口縁部上段は、斜縦位にヘラ磨き。内面は横位にヘラ磨き。下段には一部ハケ目が残る。 | |
| 第154図 | 6 | 土師器 台付甕 | 掘り方 胴部下 位～脚台部上半 | | | | 胴部は斜左上にハケ目(1cmに6本)。脚台部は斜右下にハケ目。一部これをナデ消す。内面は斜縦位に指ナデ。底面と脚台部天井部に砂目粘土付着。 | |

26号住居



- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、白色粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 炭化物 軟らかくて粘性あり。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを多量に含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 7 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。(P2フク土)

- 住居内土坑2
- 1 暗褐色土 粘性あり。やや硬くしまる。ローム大ブロック、ローム粒子、白色粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。ローム大ブロック、黄白色粒子を含む。
 - 3 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを多く含む。

- L=75.80m G' P1 G'
-
- P 1
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、黄白色土ブロックを多く含む。
 - 2 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色土粒子を少量含む。
 - 3 黄褐色土ブロック

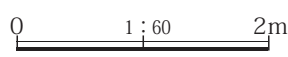
- L=75.80m H' P3 H'
-
- L=75.80m I' P4 I'
-
- P 4
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

- L=76.00m J' P5 J'
-
- P 5
- 1 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 2 黄白色粘質土 暗褐色土を少量含む。

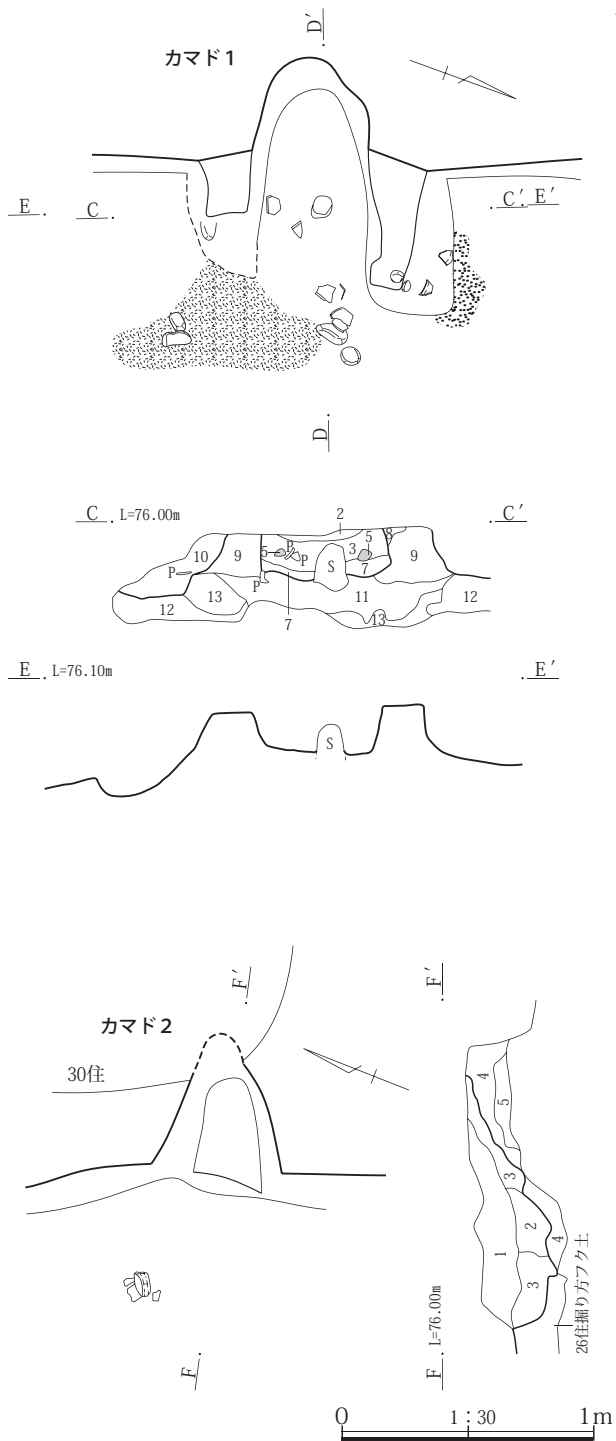
- L=75.80m K' P6 K'
-
- L=75.80m L' P7 L'
-
- P 6
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- P 7
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
 - 3 黄白色粘質土 やや硬くしまる。暗褐色土との混土。

- L=75.80m M' 土1 M'
-
- L=75.80m N' 貯蔵穴 N'
-
- 住居内土坑1
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、ロームブロック、焼土ブロック含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。

- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄褐色土ブロックを多く含む。
 - 3 灰褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土粒子を多く、焼土粒子を僅かに含む。



第150図 3区26号住居



カマド 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 黄白色粘質土 カマド構築材。
- 5 焼土
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、白色軽石を少量含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 8 褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土粒子を含む。
- 9 黄白色粘質土 カマドの袖。
- 10 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。白色粒子、黄白色土粒子を含む。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 12 暗褐色土 軟らかい。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 13 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体の層。

カマド 2

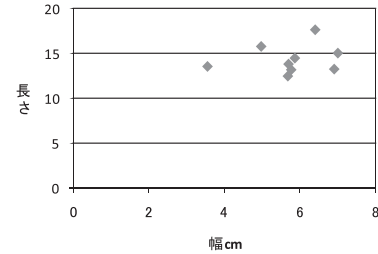
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを多量に含む。
- 4 褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土ブロックを多量に、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 軟らかく粘性あり。焼土粒子、灰、黄白色粘質土ブロックを含む。

第151図 3区26号住居カマド1・2

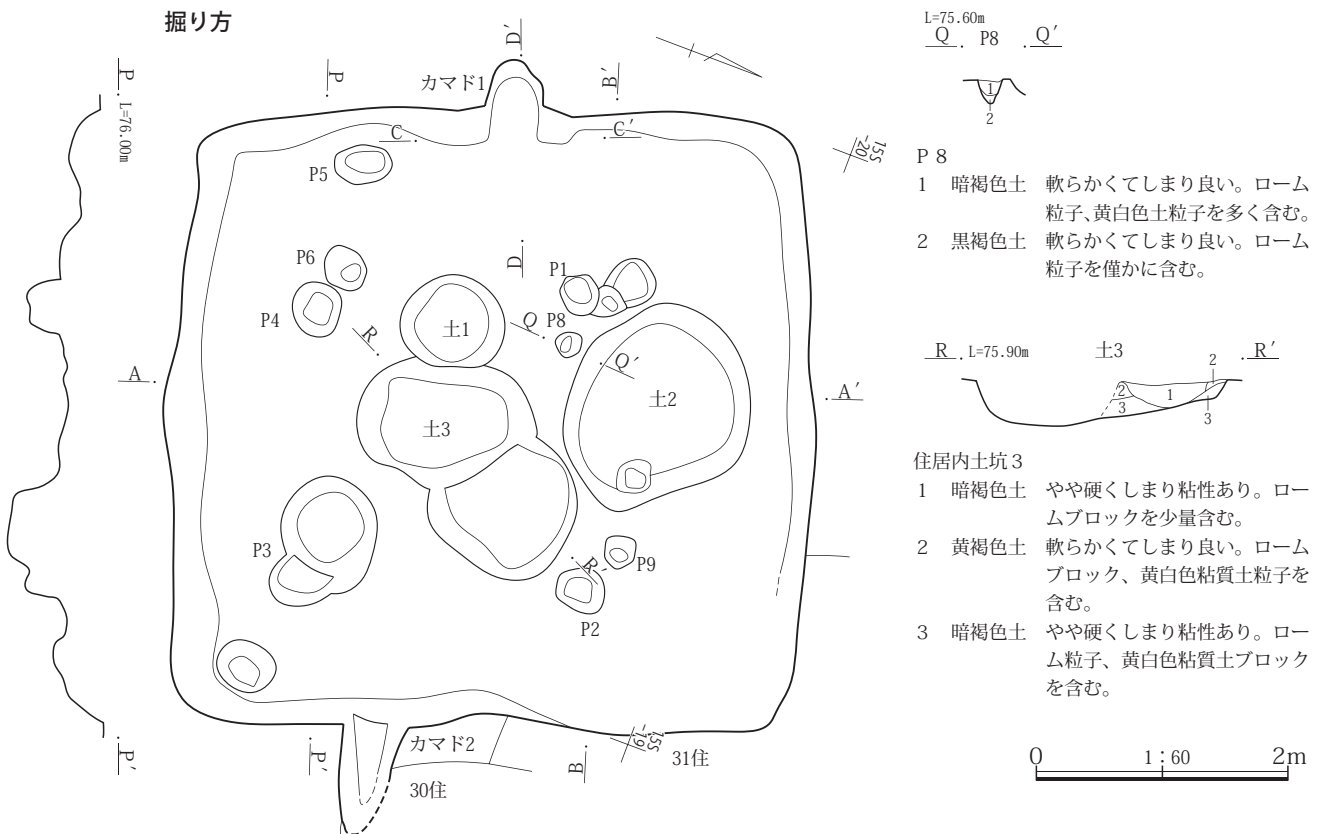
第3章 発掘調査の記録

第42表 3区26号住居出土遺物(2)

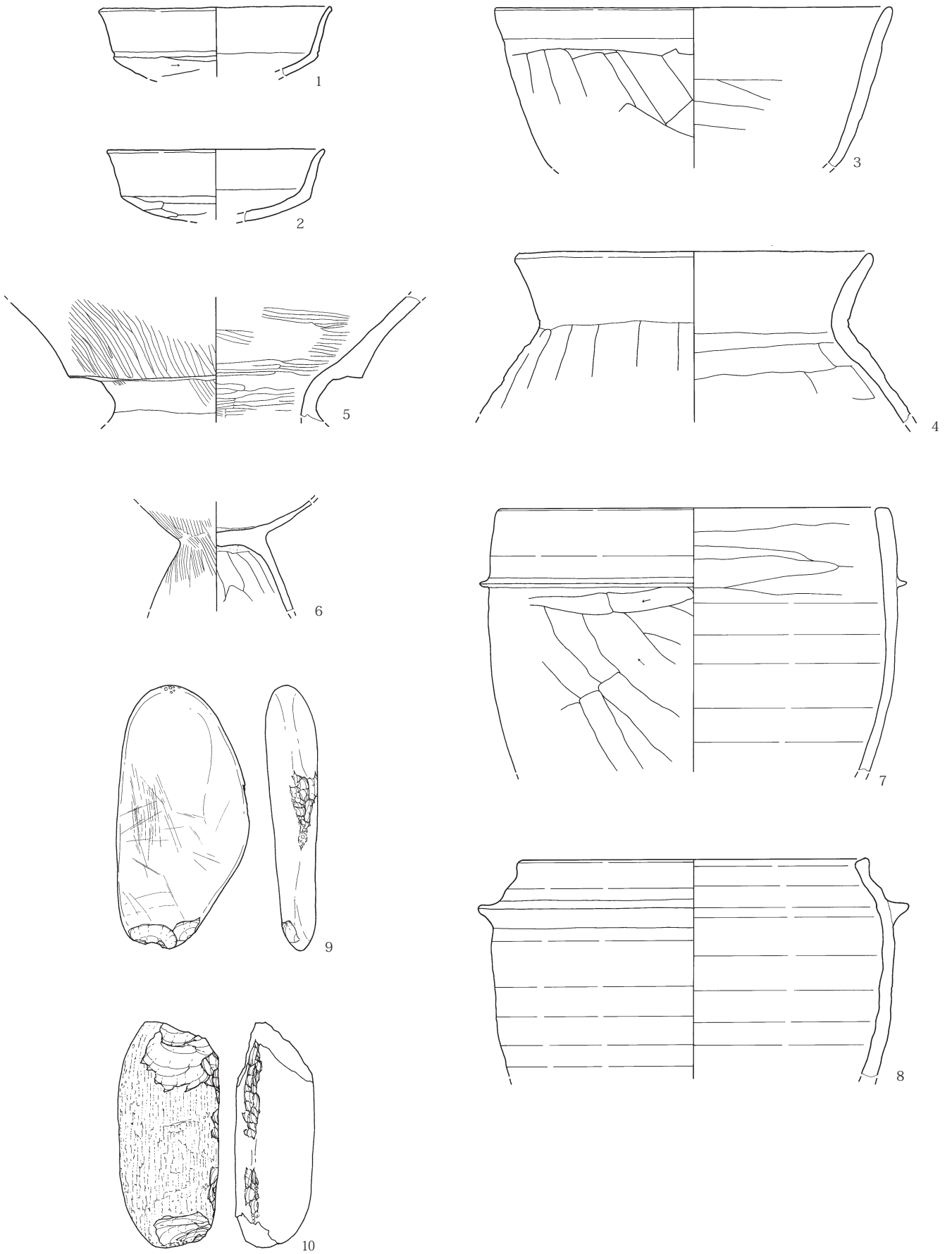
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|---------------|------|-------------|--------------------|--------------------|--|------------|
| | | | | 口 | 長さ | 厚さ | | | |
| 第154図 | 7 | 須恵器 羽釜 | 床直 口縁~胴部 | 口 | 21.8 | | 粗砂粒/酸化焰/橙 | ロクロ整形。断面三角形の鏝は成形後、貼付。口縁部は横ナデ。胴部は斜位のヘラ削り。 | 被熱。 |
| 第154図 | 8 | 須恵器 羽釜 | +19 口縁~胴部片 | 口 | 19.2 | | 粗砂粒/酸化焰/褐灰 | ロクロ整形、回転右回り。成形後、断面三角形の鏝貼付。 | 内外面炭素吸着煤か。 |
| 第154図 PL.186 | 9 | 礫石器 敲石 | P 5内 | 長幅 | 14.7 7.4 | 厚重 2.7 253.5 | デイサイト凝灰岩 | 小口部下端・右辺エッジの敲打痕が残る。背面側には粗い線条痕が残されているが、風化状態が異なり、後出的なキズかもかもしれない。 | 棒状礫 |
| 第154図 PL.186 | 10 | 礫石器 敲石 | + 9 | 長幅 | 12.6 5.6 | 厚重 4.5 451.6 | 雲母石英片岩 | 小淵部両端が激しく敲打され、大きく剥落するほか、両側縁に敲打痕が残る。被熱して煤けた礫を用いる。 | 菰編石 |
| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 | 備考 | |
| 非掲載 | 11 | 菰編石 | 4.9 | 15.8 | 3.3 | 433.7 | 雲母石英片岩 | | |
| 非掲載 | 12 | 菰編石 | 6.9 | 15 | 2.8 | 409.4 | 変質安山岩 | | |
| 非掲載 | 13 | 菰編石 | 5.7 | 13.2 | 3.2 | 375.7 | 変質安山岩 | | |
| 非掲載 | 14 | 菰編石 | 6.3 | 17.6 | 5.3 | 738.5 | 変質安山岩 | | |
| 非掲載 | 15 | 菰編石 | 5.8 | 14.5 | 4.1 | 569.2 | 雲母石英片岩 | | |
| 非掲載 | 16 | 菰編石 | 6.8 | 13.3 | 3.3 | 404 | 流紋岩 | | |
| 非掲載 | 17 | 菰編石 | 3.5 | 13.6 | 4.7 | 322.6 | 変質安山岩 | | |
| 非掲載 | 18 | 菰編石 | 5.6 | 13.9 | 3.4 | 433 | 変質安山岩 | | |
| 非掲載 | 19 | 菰編石 | (4.1) | 16.6 | 4.2 | 441.3 | 雲母石英片岩 | | |



第152図 3区26号住居菰編石長幅比グラフ



第153図 3区26号住居掘り方



第154図 3区26号住居出土遺物

27号住居(第155図、P L.42・43、第43表)

位置 15R-15・16グリッド。

重複 40号住居より後出と思われる。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-93°-E

規模 面積6.36㎡。長辺(東西)2.74m、短辺(南北)2.45m、残存壁高は3~6cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。床下土坑が検出された。長径136cm・短径117cm・深さ29cmを測る。

カマド 東壁の南から検出された。燃燒部は壁を掘り込んで構築され、現状の長さ107cm、幅100cmを測る。1~3層はカマド埋没土で1層は灰層になる。底面下の2・3層は重複する40号住居の掘り方充填土になる。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

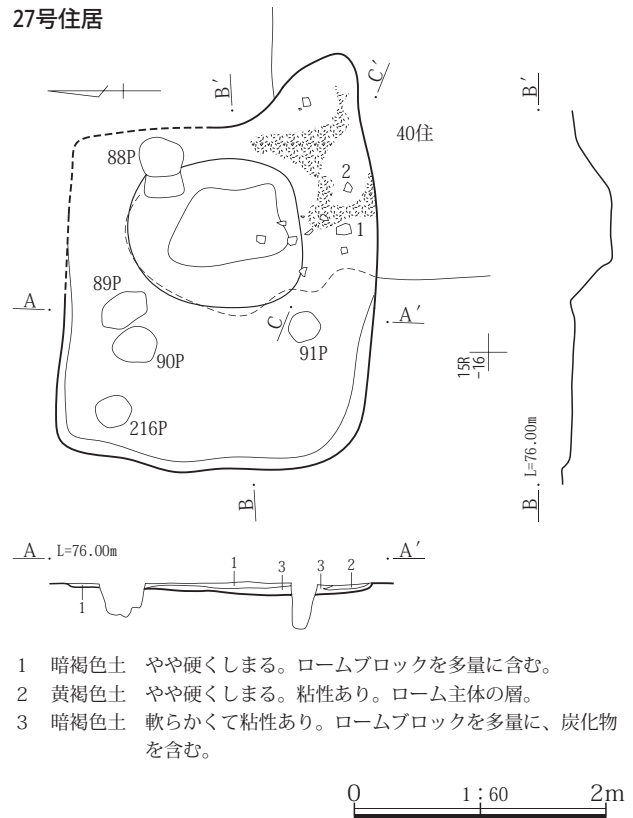
埋没土 自然埋没土と思われる。1~3層が住居埋没土になる。

掘り方 確認できなかった。

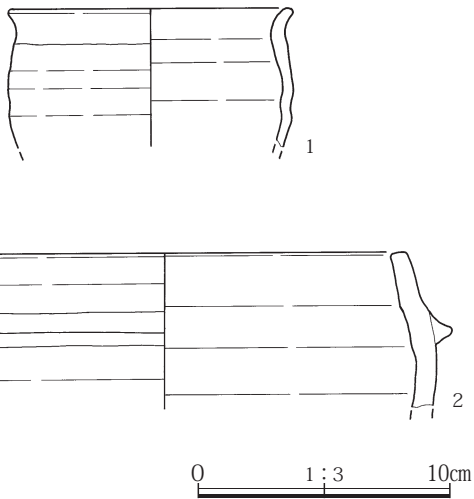
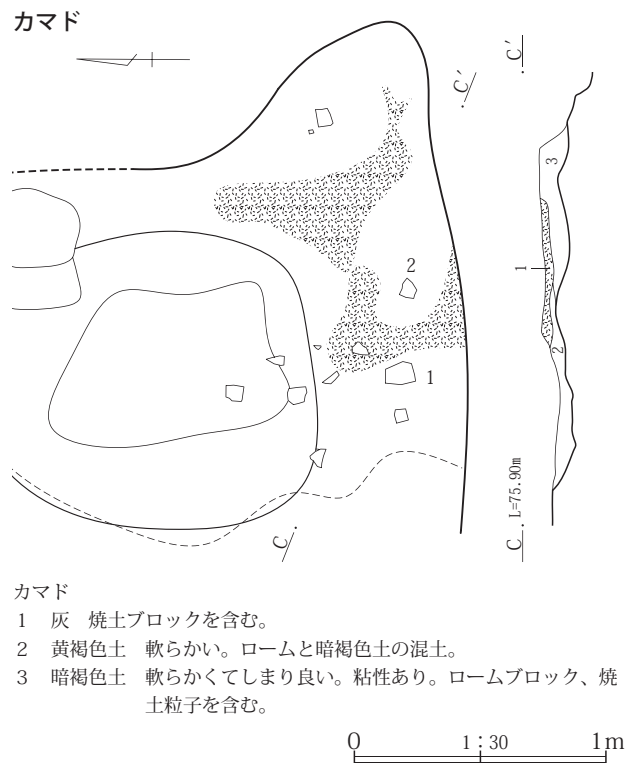
出土遺物 カマド周辺から土器片が少量出土している。

時期 出土遺物から10世紀前半に比定される。

27号住居



カマド



第155図 3区27号住居と出土遺物

第43表 3区27号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|-------------|---------------|-----|------|--------------------|-----------------------------|-----------------|
| 第155図 | 1 | 須恵器 小型甕か | +4 口縁~胴部片 | □ | 10.8 | 粗砂粒少/酸化焰/ にぶい橙 | ロクロ整形、回転右回り。 | 内外面の一部 に煤付着。 |
| 第155図 | 2 | 須恵器 羽釜 | カマド 口縁~胴部片 | □ | 18.4 | 粗砂粒/還元焰/灰 白 | ロクロ整形、回転右回りか。成形後、断面三角形の鏝貼付。 | |

28号住居(第156～162図、PL.43・47・48・187・188、第44・45表)

位置 25S・T-1・2、26A-1・2グリッド。

重複 35・36・184号住居より後出で、154号住居より前出。177・178号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 隅丸方形を呈する。 **主軸方位** N-57°-E

規模 面積37.42㎡。長辺(北西～南東)6.52m、短辺(北東～南西)6.46m、残存壁高は45cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。主柱穴の内側は全体的に硬化。

カマド 東壁の中央やや南に設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築され、規模は長さ170cm、焚き口部の幅49cmである。袖を含めた幅は100cmになる。袖には土師器甕(第160図20・21)が使用されている。また支脚の礫が残されていた。カマド前面の床にはやや広い範囲に灰の分布が認められた。1～13層はカマド埋没土、6層は焼土主体1で13層は灰層である。14・15層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径67.5cm・短径54cm・深さ24cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 主柱穴となるピット4基が検出されている。P1は長径90cm・短径67cm・深さ60cm、P2は長径53.5cm・短径50cm・深さ49cm、P3は長径92.5cm・短径57.5cm・

深さ43cm、P4は長径87cm・短径73cm・深さ56cmを測る。いずれも規模が大きく深い。P1-P2間の距離4.4m、P2-P3間距離4.6m、P3-P4間距離4.4m、P4-P1間距離は4.5mを測る。

周溝 全周していたものと思われるが、南壁と西壁下では確認できなかった。幅4～18cm、深さ10cmを測る。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土、4～8層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。主柱穴間の内側を残しながら北・西壁下を掘り下げている。ピット3基と土坑2基を検出した。P5は長径41cm・短径38cm・深さ57cm、P6は長径79cm・短径56cm・深さ37cm、P7は長径34cm・短径32.5cm・深さ42.5m、土坑2は長径137.5cm・短径98cm・深さ31cm、土坑3は長径142cm・短径99cm・深さ30cmを測る。掘り方の深さは約15～23cmを測る。

出土遺物 カマドや貯蔵穴周辺からまとまった土器が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

35号住居(第156・158図、P.L.47・48)

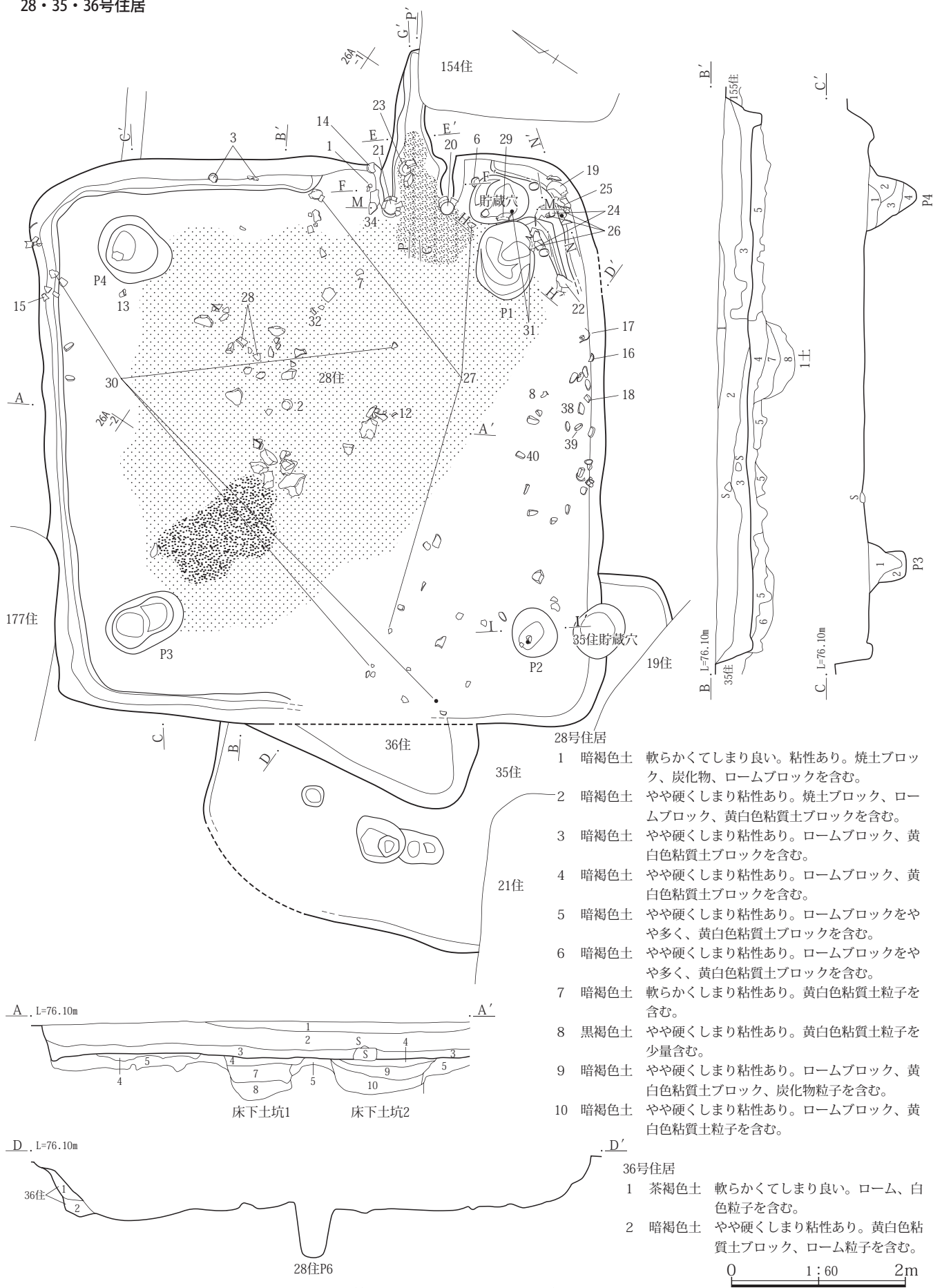
位置 25S-1・2、25T-2グリッド。

重複 21・183・184号住居より後出で、19・28号住居よ

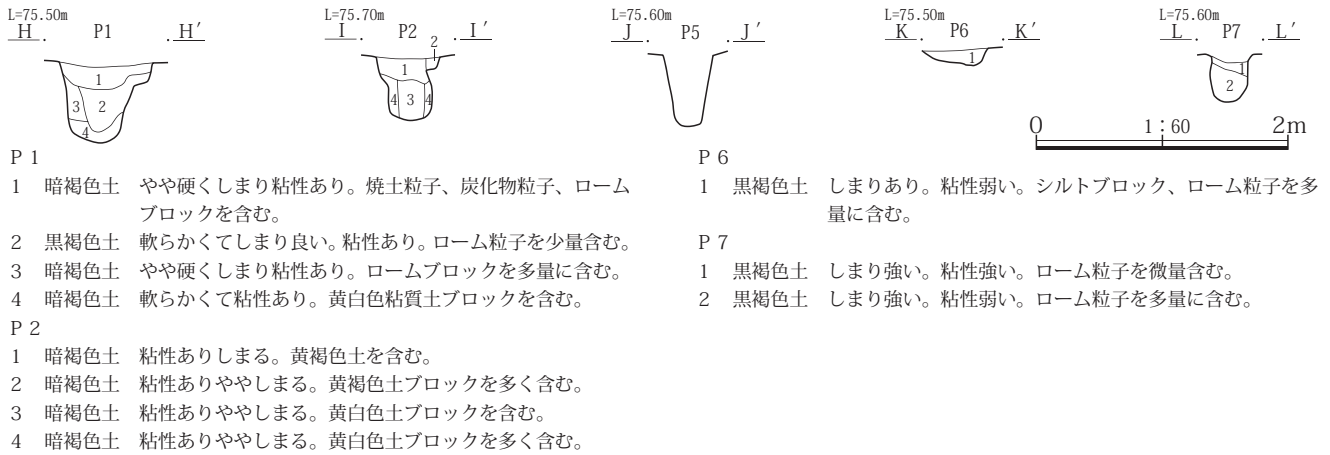
第44表 3区28号住居出土遺物(1)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|-------------|-----|------|--------------------|-----------------------|--|
| 第159図 PL.187 | 1 | 土師器 杯 | 床直 3/4 | □ | 11.8 | 高 4.45 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面底部炭素吸着。 |
| 第159図 PL.187 | 2 | 土師器 杯 | 床直 完形 | □ | 11.7 | 高 4.4 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面とも磨滅。 |
| 第159図 PL.187 | 3 | 土師器 杯 | 床直 完形 | □ | 11.5 | 高 4.15 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面とも磨滅。 |
| 第159図 PL.187 | 4 | 土師器 杯 | +5 1/2 | □ | 11.4 | 高 4.1 | 精選・赤黒色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面ともやや磨滅。 |
| 第159図 PL.187 | 5 | 土師器 杯 | 1/2 | □ | 11.0 | 高 4.0 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面ともやや磨滅。 |
| 第159図 | 6 | 土師器 杯 | 床直 2/3 | □ | 12.2 | 高 4.0 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/にぶい橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面とも磨滅。 |
| 第159図 | 7 | 土師器 杯 | +20 2/3 | □ | 11.5 | 高 4.0 | 精選/良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面とも磨滅。 |
| 第159図 | 8 | 土師器 杯 | +4 1/3 | □ | 11.8 | 高 3.5 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面とも磨滅。 |
| 第159図 | 9 | 土師器 杯 | 1/2 | □ | 13.9 | 高 4.5 | 精選/良好/にぶい 橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面口縁部、内面口縁部から体部に黒色の付着物・漆塗りか。 |
| 第159図 | 10 | 土師器 杯 | 1/3 | □ | 18.8 | 高 9.1 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面底部炭素吸着。 |
| 第159図 | 11 | 土師器 椀 | 1/2 | □ | 12.8 | | 精選・黒色鈹物粒 少/良好/橙 | 口縁部横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面とも磨滅。 |
| 第159図 | 12 | 土師器 高杯 | +9 杯部 | □ | 20.5 | | 粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙 | 口縁部は斜め上に向けて立ち上がり、杯部は深みを有する。口縁部はナデの上に斜位のヘラ磨き。内面口縁部も横位にヘラ磨きが施される。内面磨滅。 |
| 第159図 | 13 | 土師器 高杯 | +13 脚部中位 | | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/にぶい橙 | 外面縦位に丁寧なヘラ削り。内面上位は斜縦位、下半は横位に幅広くヘラ削り。 |
| 第159図 | 14 | 土師器 高杯 | 杯部1/3 | □ | 20.7 | | 細砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は斜横方向に外反する。口縁部下位で稜をなして体部に続く。外面横ナデ。内面も横ナデ。 |

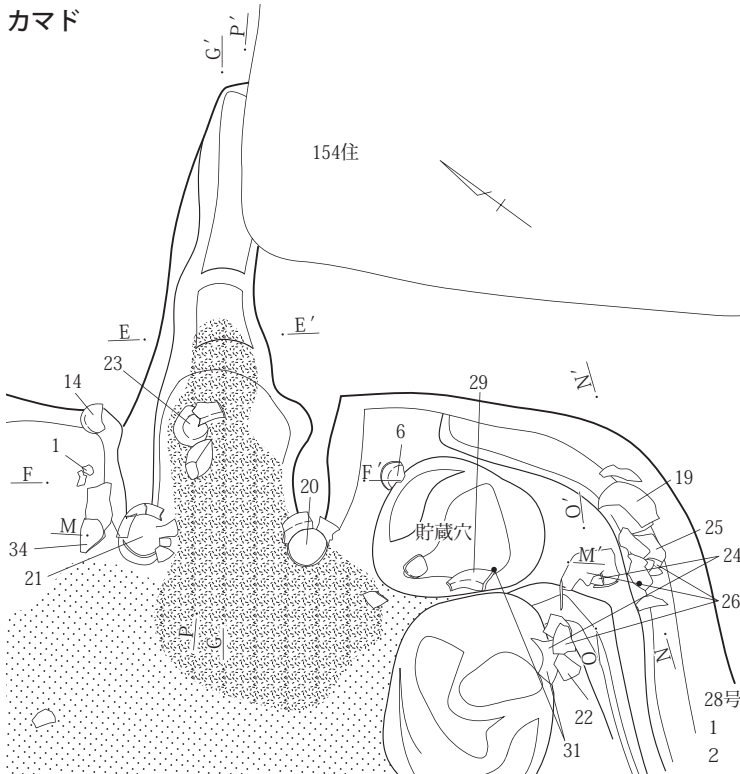
28・35・36号住居



第156図 3区28・35・36号住居



カマド

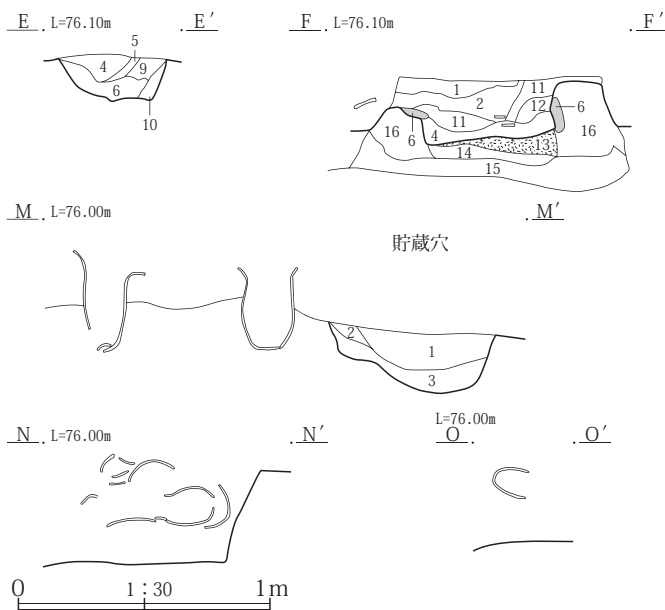


28号住居カマド

- 1 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を多量に、焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土 しまり弱い。焼土粒子を含む。
- 3 褐色土 しまり弱い。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱い。焼土ブロックを多く、焼土粒子、ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 5 褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを含む。
- 6 赤褐色土 しまりやや弱い。焼土ブロック主体の層。炭化粒子を含む。
- 7 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を少量、焼土粒子を含む。
- 8 暗褐色土 しまり弱い。焼土粒子、軽石粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、ローム粒子、炭化粒子を含む。
- 10 黒褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を微量含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。
- 12 黒褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量含む。
- 13 灰
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、灰、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 15 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 16 にぶい黄橙色土

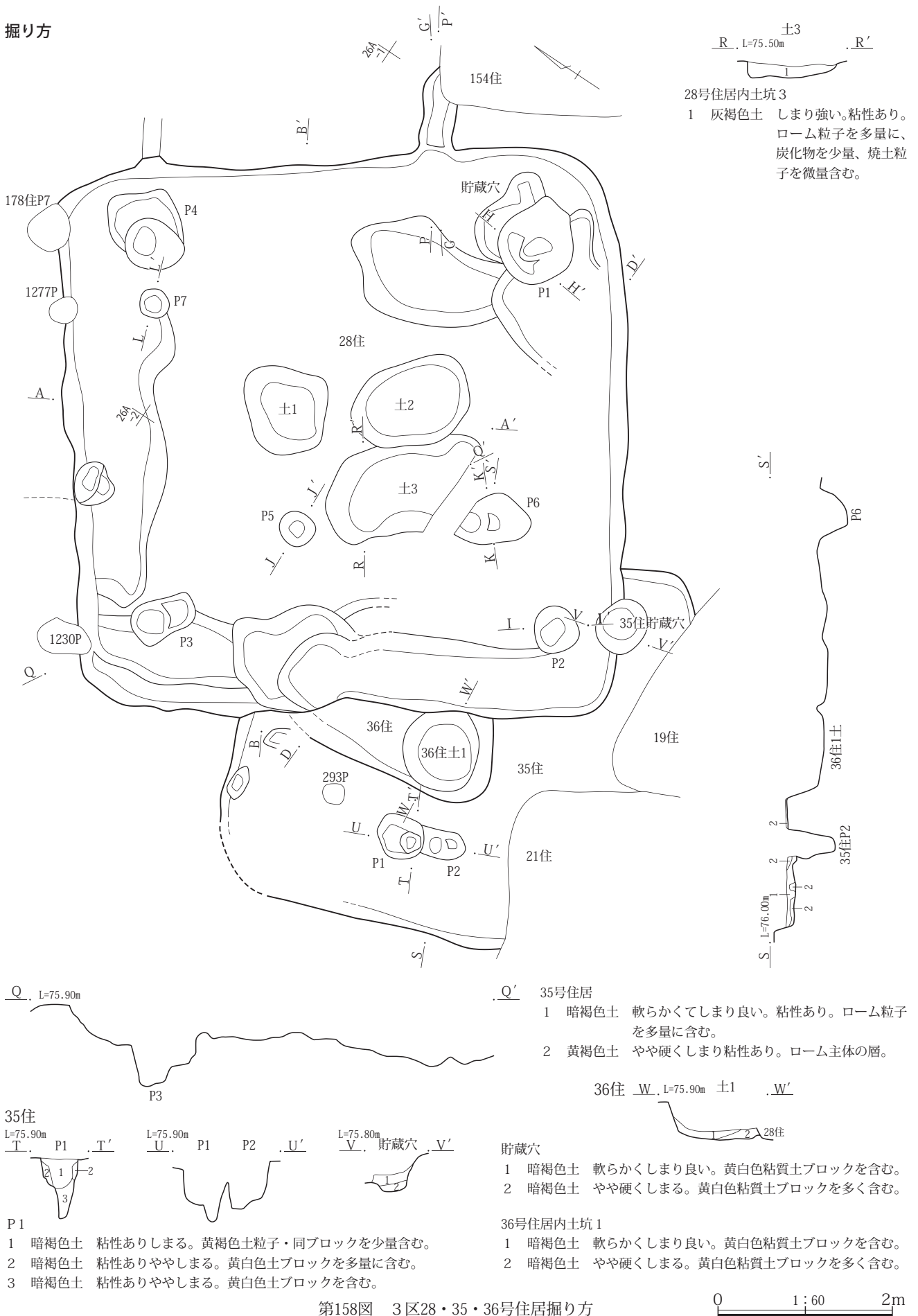
28号住居貯蔵穴

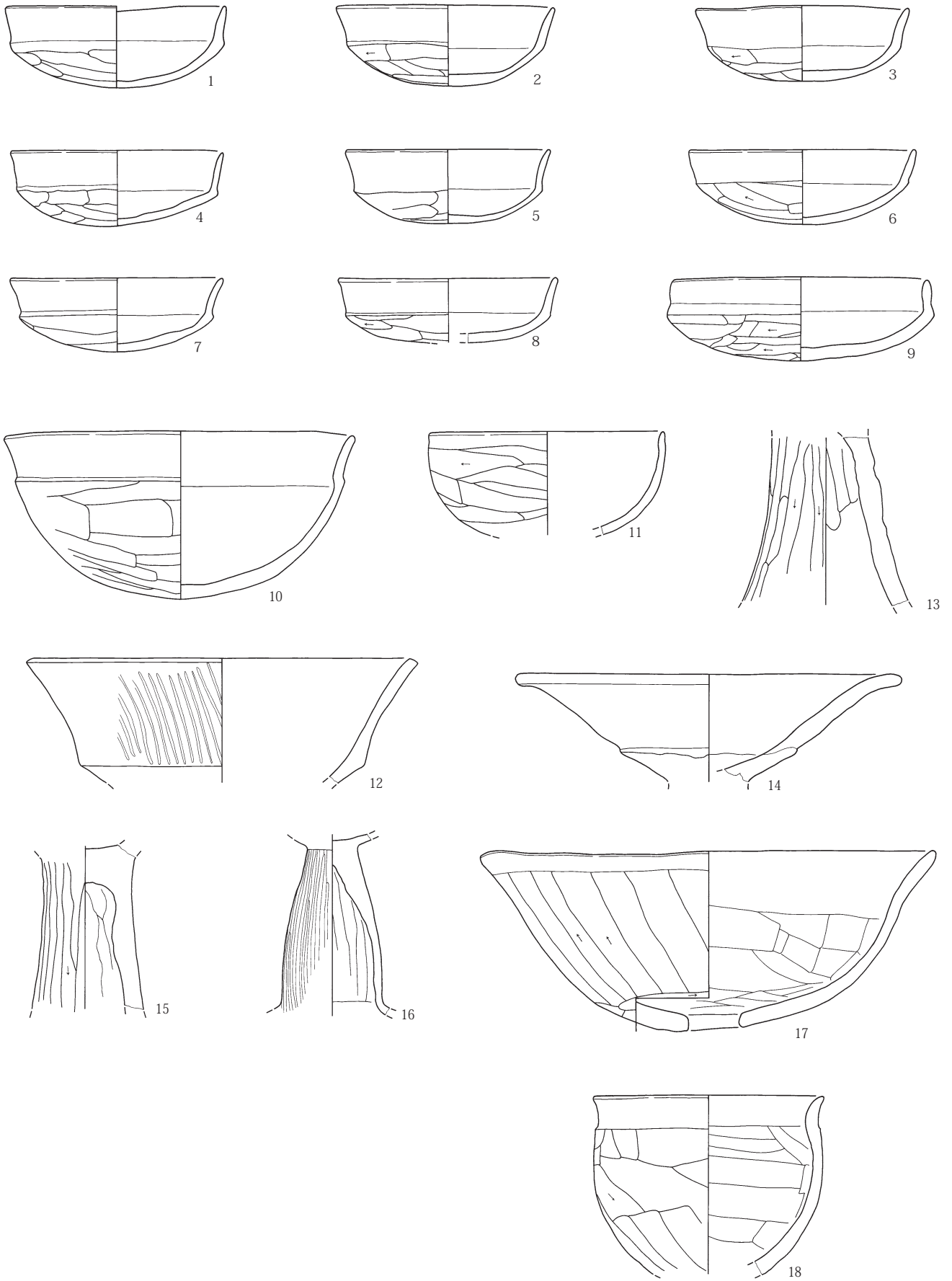
- 1 褐色土 しまり強く粘性弱い。ローム粒子多量、焼土粒子微量、炭化物少量に含む。
- 2 暗褐色土 しまり強く粘性ない。ローム粒子ごく多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまり強く粘性やや強い。ローム粒子少量に含む。



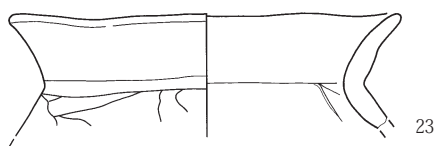
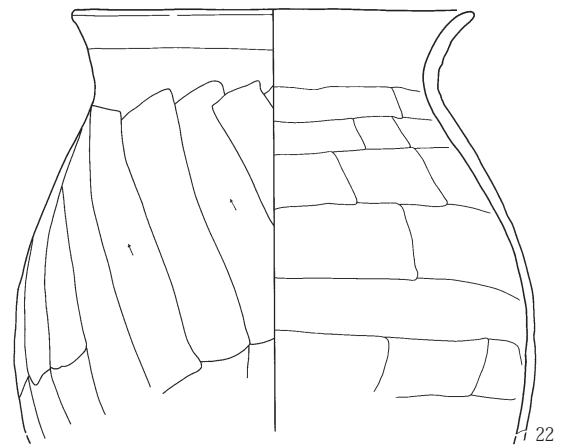
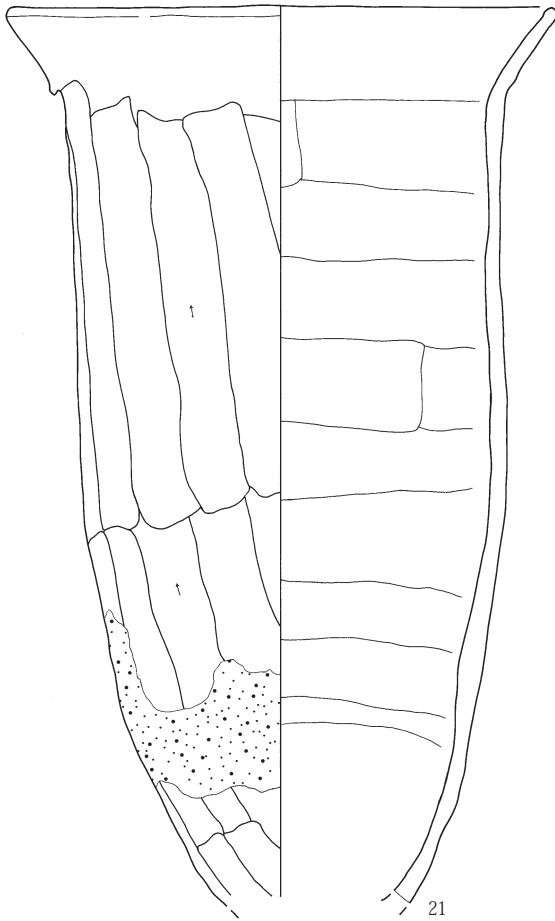
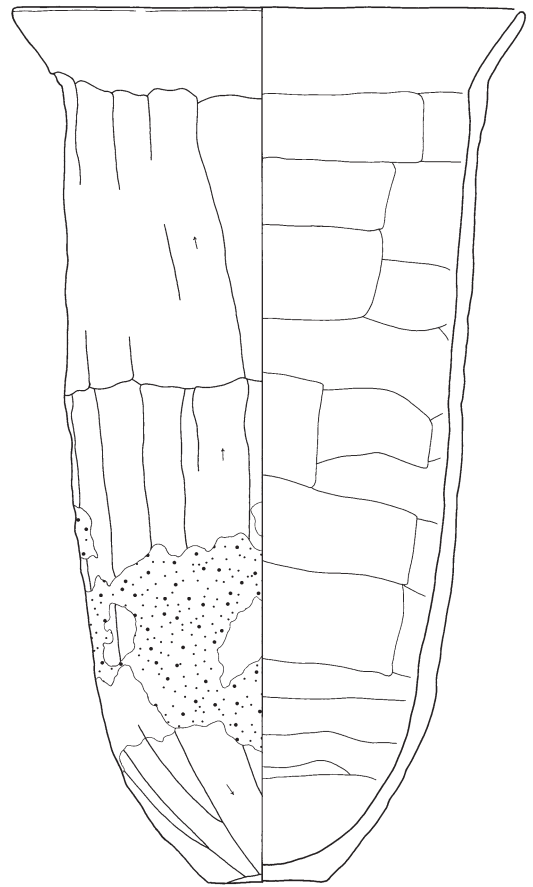
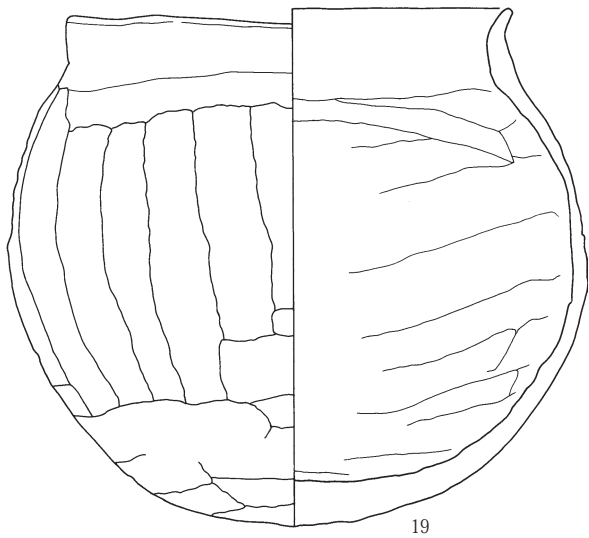
第157図 3区28号住居カマドとピット断面図

掘り方



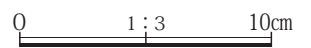
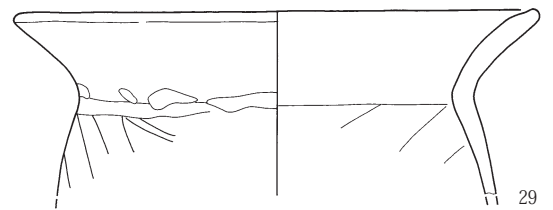
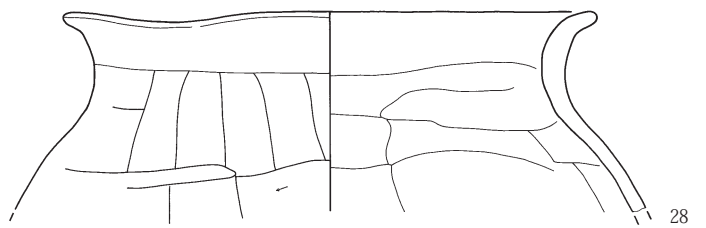
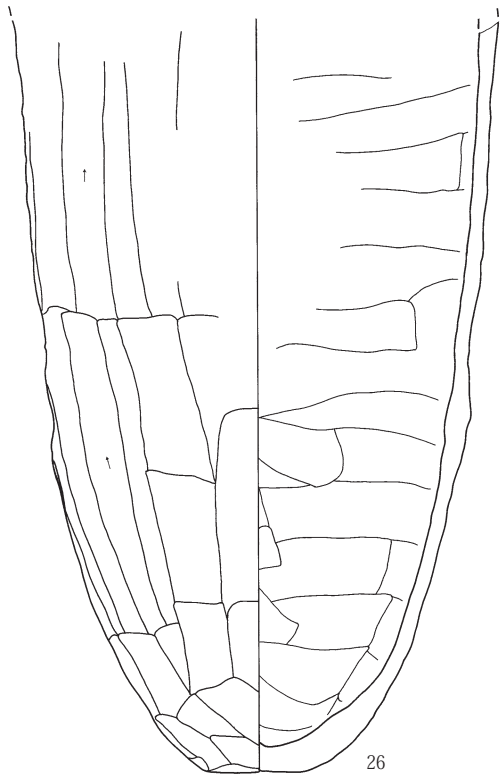
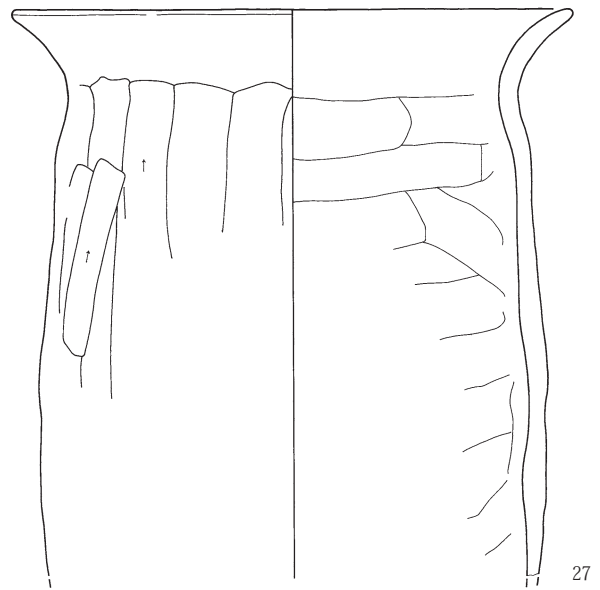
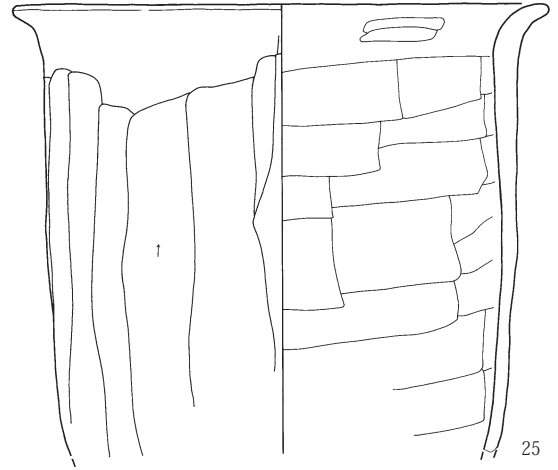
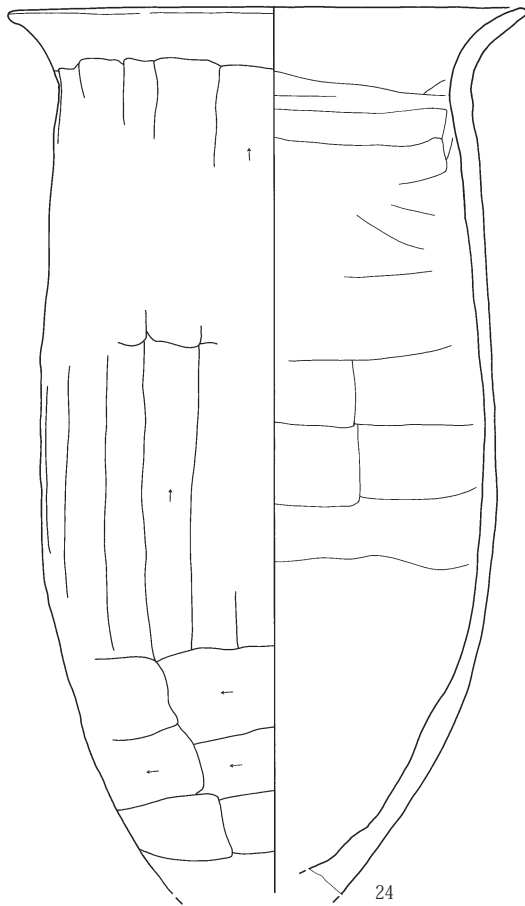


第159図 3区28号住居出土遺物(1)

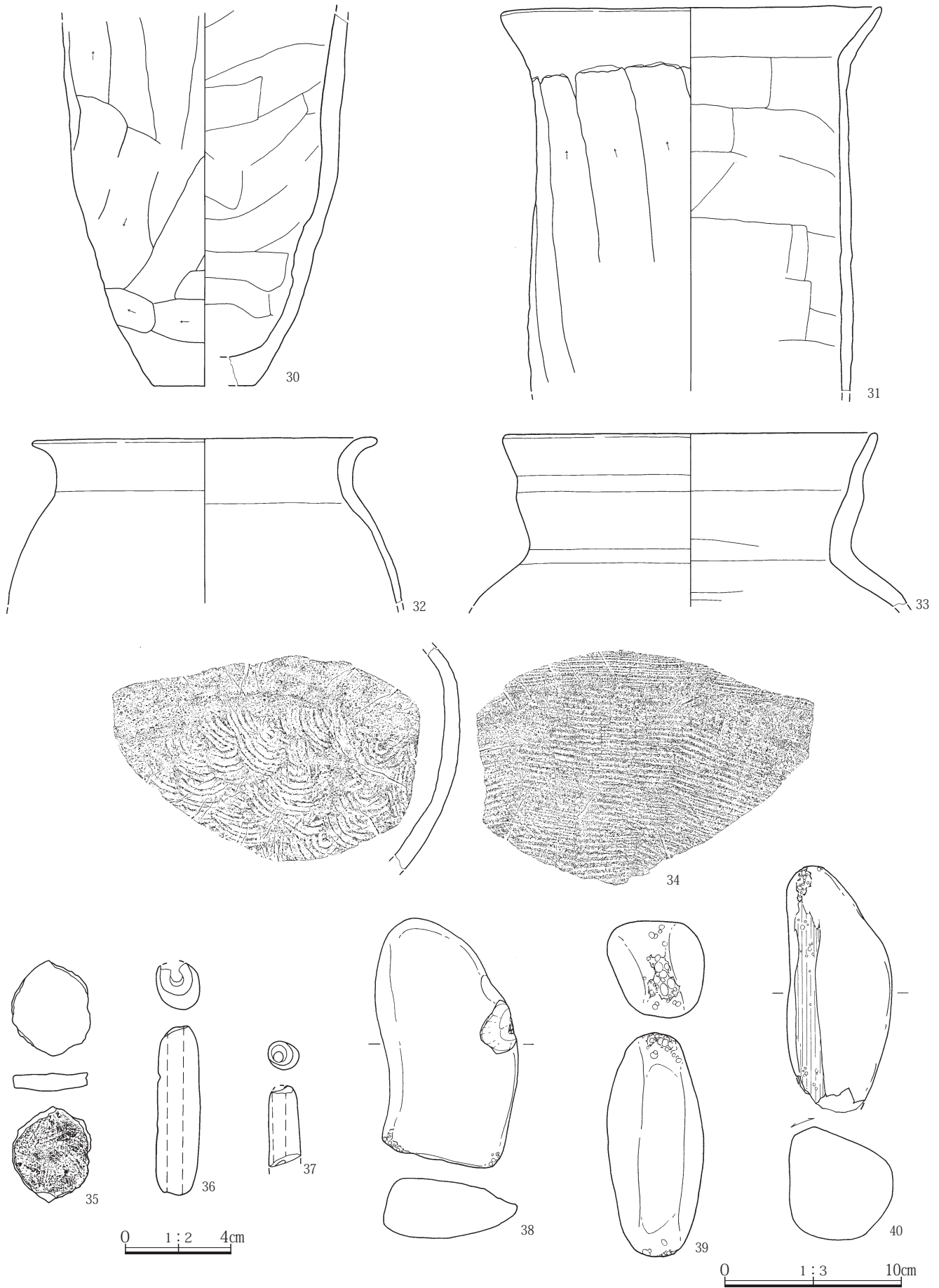


0 1:3 10cm

第160図 3区28号住居出土遺物(2)



第161図 3区28号住居出土遺物(3)



第162図 3区28号住居出土遺物(4)

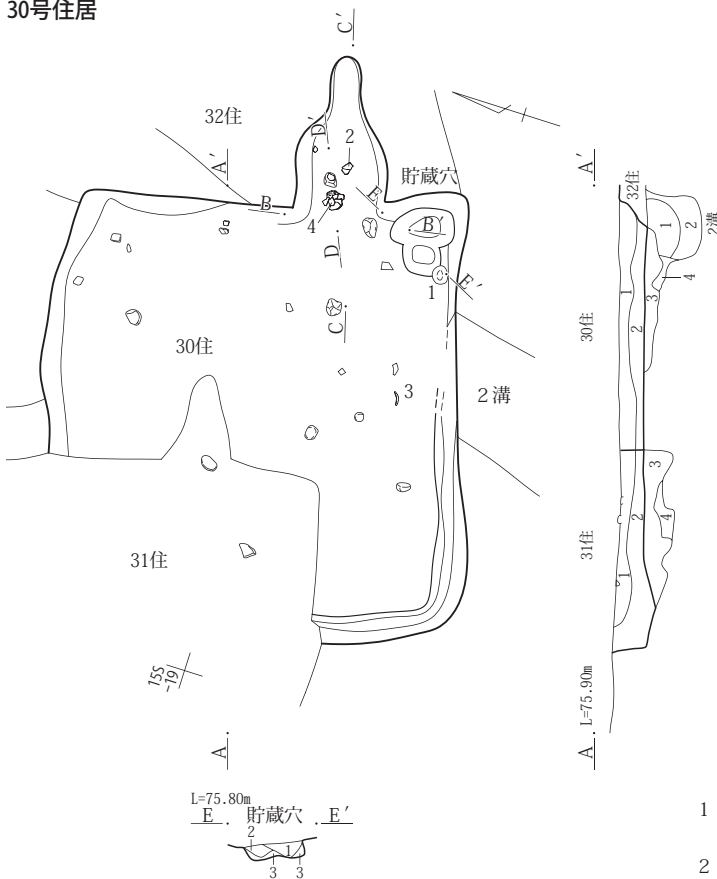
第45表 3区 28号住居出土遺物(2)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-------------|-------------------|--------|-------------|--------|---------------------|-----------------------------|---|------------------------|
| | | | | | | | | | | |
| 第159図 | 15 | 土師器 高杯 | +24 脚部上半 | | | | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 外面縦位に丁寧なヘラ削り。内面は縦位にヘラナデ。 | | |
| 第159図 | 16 | 土師器 高杯 | +13 脚部上半~中位 | | | | 精選・粗砂粒少/良 好/にぶい橙 | 外面縦位にヘラ磨き。内面は縦位にナデ。上位にしぼり痕。 | | |
| 第159図 PL.187 | 17 | 土師器 有孔鉢 | 床直 1/2 | 口 底 | 24.7 4.0 | 高 孔 | 9.8 2.8 | 粗砂粒/良好/橙 | 鉢形を呈し、底部に直径2.7cm程の孔を穿つ。口縁部は横ナデ。以下は体部上位から中位が斜縦位。下位が斜横位にヘラ削り。内面は横位に丁寧なヘラナデ。 | 内面黒色処理か。 |
| 第159図 | 18 | 土師器 小型甕 | +4 1/2 | 口 | 12.5 | | | 粗砂粒多/良好/に ぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部上半は横位・斜横位。下半は斜位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 被熱・磨滅。 |
| 第160図 PL.187 | 19 | 土師器 甕 | 床直 胴部一部欠 | 口 | 17.2 | 高 | 20.3 | 小礫・粗砂粒/良好 /橙 | 口縁部の形状は歪む。口縁部は横ナデ。胴部上位から中位は縦位のヘラ削り。下位から底部は横位のヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面とも磨滅・外面炭素吸着。 |
| 第160図 PL.187 | 20 | 土師器 甕 | カマド 3/4 | 口 底 | 19.7 4.4 | 高 | 34.3 | 小礫・粗砂粒・片岩 /良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は4回に分けて縦位・斜縦位にヘラ削り。底部に木葉痕。内面胴部下位に丁寧なナデ。上位・中位は横位にヘラナデ。 | 被熱・炭素吸着・胴部欠損後も二次利用したか。 |
| 第160図 PL.187 | 21 | 土師器 甕 | カマド 底部欠損 | 口 | 21.2 | | | 小礫・粗砂粒/良好 /橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は3回に分けて斜縦位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 内面の一部に粘土付着・全体に磨滅。 |
| 第160図 | 22 | 土師器 甕 | 床直 口縁~胴 部下半1/2 | 口 | 15.6 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は斜縦位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 被熱の為炭素吸着。 |
| 第160図 | 23 | 土師器 小型甕 | カマド 口縁~胴部上位 | 口 | 15.2 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面炭素吸着・胴部欠損後も二次利用したか。 |
| 第161図 PL.188 | 24 | 土師器 甕 | 床直 口縁~胴 部下位1/2 | 口 | 19.9 | | | 小礫・粗砂粒・片岩 /良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は上位・中位は縦位に下位は横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱・外面炭素吸着。下半部外面は磨滅。 |
| 第161図 | 25 | 土師器 甕 | 床直 口縁~胴部片 | 口 | 20.6 | | | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第161図 | 26 | 土師器 甕 | 床直 底部~胴 部上位2/3 | 底 | 4.1 | | | 粗砂粒多/良好/橙 | 胴部中位から下位は縦位・最下位は斜位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ | |
| 第161図 | 27 | 土師器 甕 | 床直 口縁~胴部片 | 口 | 21.6 | | | 小礫・粗砂粒/良好 /橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ | 外面胴部炭素吸着・黒斑状。 |
| 第161図 | 28 | 土師器 甕 | 床直 口縁~肩部2/5 | 口 | 20.6 | | | 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 磨滅。 |
| 第161図 | 29 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 口縁~胴部片 | 口 | 20.2 | | | 細砂粒・角閃石か 輝石/良好/にぶい 黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱・外面炭素吸着。 |
| 第162図 | 30 | 土師器 甕 | 床直 胴中位~1/3 | 底 | 5.6 | | | 粗砂粒多/良好/に ぶい橙 | 胴部最下位に横位、それ以上は斜縦位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部は横位、斜横位のヘラナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第162図 | 31 | 土師器 甕 | 床直 口縁~胴 部中位2/3 | 口 | 21.1 | | | 粗砂粒多/良好/に ぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 器面被熱のため変色・変質。 |
| 第162図 | 32 | 土師器 甕 | +8 口縁~胴 部上位片 | 口 | 19.0 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第162図 | 33 | 土師器 甕 | 口縁~胴部上位 片 | 口 | 20.5 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は中位に稜を有する横ナデ。胴部はヘラ削り、ヘラナデ。 | 壺の可能性もあるか。 |
| 第162図 | 34 | 須恵器 甕 | +6 胴部片 | | | | | 白色鈹物粒/還元 焰/灰 | 紐づくり後叩き整形。外面残存部上位にカキ目。以下は平行叩き目。内面残存上位に横位のナデ。以下は同心円文状のアテ具痕を残す。 | |
| 第162図 | 35 | 土製品 土製円盤 | 完形 | 長 巾 | 3.6 2.9 | 厚 | 0.7 | 細砂粒/良好/灰黄 褐 | 甕などの胴部破片の割口を再調整し、円形に加工している。外面にハケ状のナデ。内面に指ナデ。 | 炭素吸着。 |
| 第162図 | 36 | 土製品 土錘 | 1/2 | 長 巾 | 6.3 1.6 | 厚 重 | 1.8 13.6 | 赤黒色粘土粒/良 好/橙 | 長軸方向に半裁されたような残存状況。両小口面とも絞られるように細くなる。 | 磨滅。 |
| 第162図 | 37 | 土製品 土錘 | 端部欠損 | | | | 2.8 | 精選/良好/灰黄褐 | 直径5ミリほどの芯に粘土を添えて成形している。横断面は卵形を呈し孔は中心を外している。小口面のヘラ切りは見られない | 炭素吸着。 |
| 第162図 PL.188 | 38 | 礫石器 敲石 | +27 | 長 幅 | 13.9 7.4 | 厚 重 | 3.3 496.9 | 粗粒輝石安山岩 | 右辺側エッジが敲打され、これに伴う衝撃剥離痕がある。 | 棒状礫 |
| 第162図 PL.188 | 39 | 礫石器 敲石 | +22 | 長 幅 | 12.5 5.4 | 厚 重 | 3.4 529.0 | 溶結凝灰岩 | 小口部両端衣敲打痕が残る。 | 棒状礫 |
| 第162図 PL.188 | 40 | 石製品 砥石? | 床直 | 長 幅 | 13.8 6.5 | 厚 重 | 5.8 746.4 | 粗粒輝石安山岩 | 背面側の礫稜部が研磨され、平坦面が形成されている。上端側小口部に敲打痕が残る。 | 礫砥石 |

り前出。34・36号住居と重複するが新旧関係不明。
形状 部分的に検出されたために不明であるが、方形を呈するものと思われる。
主軸方位 不明。
規模 推定長辺(南北)5.13m。短辺(東西)4.49m、残存壁高は6~14cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 確認できなかったが、貯蔵穴の存在から東壁に設置されていたものと思われる。
貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径64cm・短径55cm・深さ40cmの楕円形を呈する。
柱穴 ピット1基検出されているが、柱穴にはならない。P1は長径100cm・短径50cm・深さ40cmを測る。

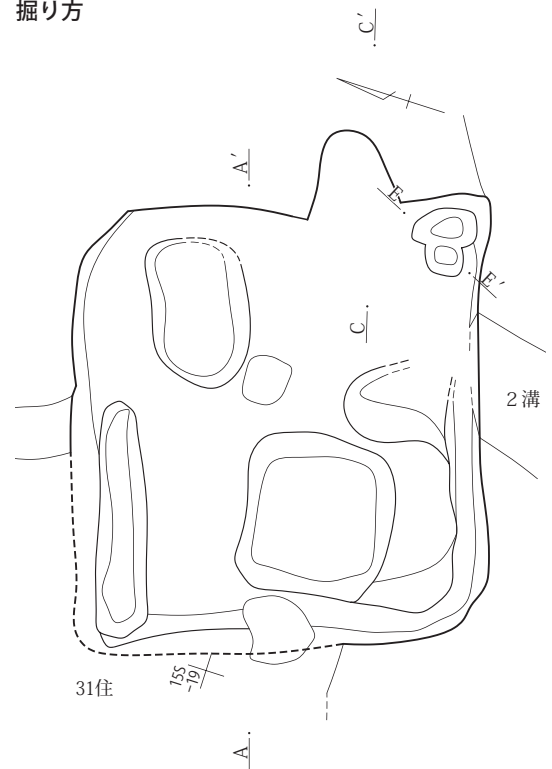
30号住居



貯蔵穴

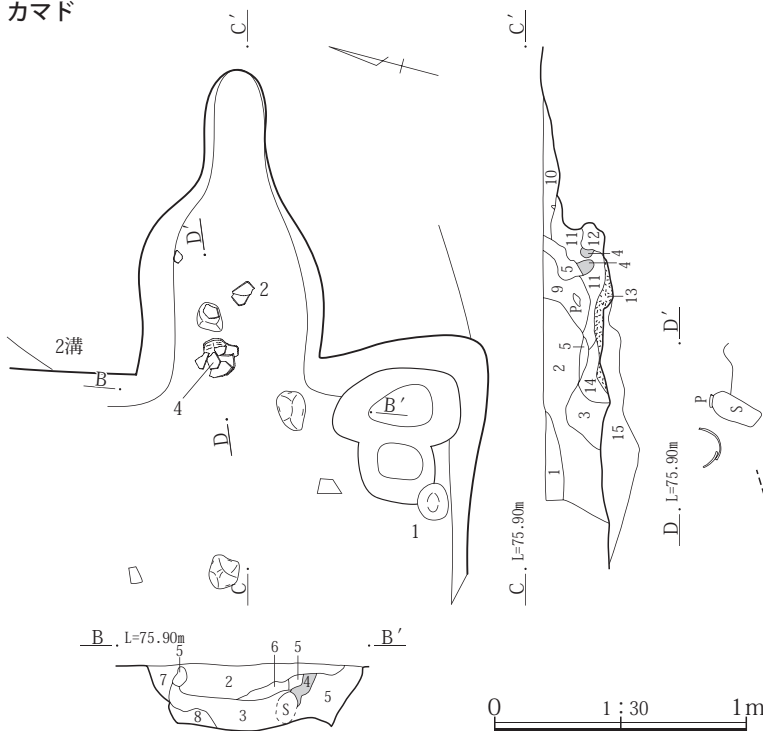
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、黄白色土、黄白色粘質土粒子を含む。
- 3 黄褐色土 硬くしまる。暗褐色土を少量含む。

掘り方



- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 非常に軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 黄褐色土 非常に軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。

カマド



カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 4 焼土
- 5 黄褐色粘質土 カマド構築材。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 7 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 8 灰褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。灰を多量に、焼土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、白色粒子を含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を多量に含む。
- 12 黄白色粘質土 やや硬くしまる。暗褐色土を含む。
- 13 灰
- 14 暗褐色土 軟らかく粘性あり。焼土を多量に、灰を含む。
- 15 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、灰を含む。

第163図 3区30号住居

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。重複が激しく十分に観察することはできなかった。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。

出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。

時期 非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

36号住居(第156・158図、P L .47・48)

位置 25 S・T-2グリッド。

重複 28号住居より前出で、35号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 部分的に検出されたために不明である。

主軸方位 不明。

規模 現状で南北2.1m、東西1.12m、残存壁高は30cmを測る。床面 ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1層は住居埋没土、2層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。土坑1基が検出された。長径103cm・短径86cm・深さ14cmを測る。

出土遺物 ほとんど遺物は出土していない。

時期 時期不明。

30号住居(第163・164図、P L .44・188、第46表)

位置 15 R・S-18グリッド。

重複 26・32号住居、2号溝より後出で、31号住居より前出。4号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈する。主軸方位 N-77°-E

規模 推定面積10.884㎡。長辺(北東~南西)3.5m、短辺(北西~南東)3.24m、残存壁高は14cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築され、現状の長さ123cm、幅71cmを測る。袖石1個と支脚の礫が残されていた。1~14層はカマド埋没土、15層は掘り方になる。4層は焼土、5層はカマド構築材、13層は灰層である。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径53.5cm・短径50.5cm・深さ12.5cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 確認できなかった。

周溝 南壁から西壁の一部、北壁の一部で検出された。幅4~40cm、深さ8cmを測る。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層が住居埋没土、3・4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。掘り方の深さは約7~23cmを測る。

出土遺物 カマドや床面から土器片が出土している。

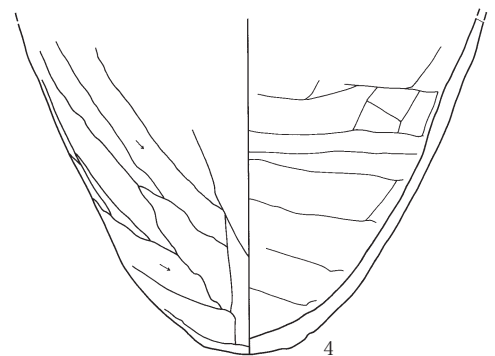
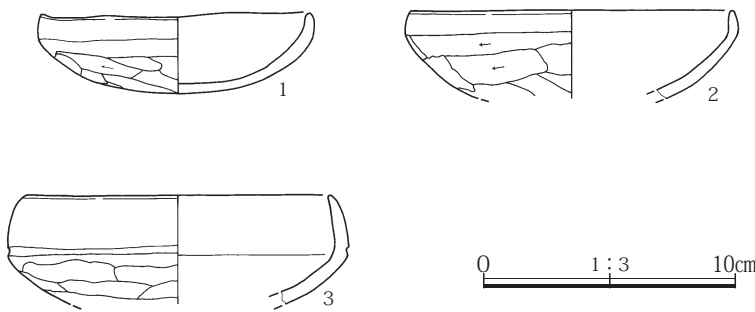
時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

31号住居(第165・166図、P L .44・45・188、第47表)

位置 15 R・S-18・19グリッド。

重複 26・30号住居より後出。

形状 方形を呈する。主軸方位 N-76°-E

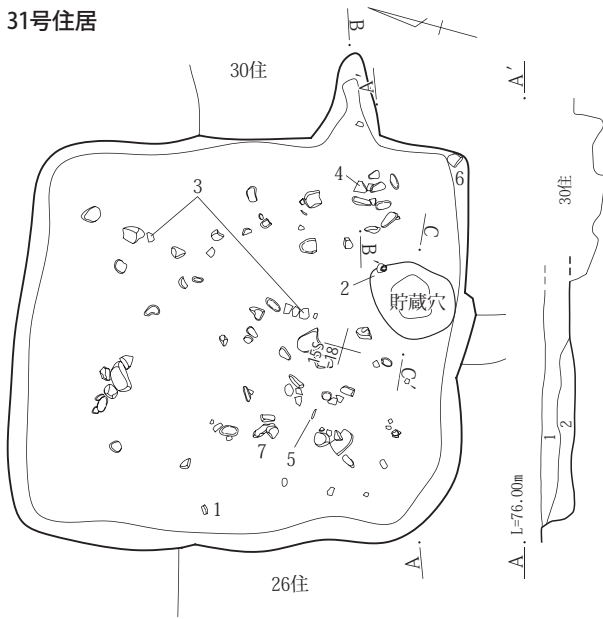


第164図 3区30号住居出土遺物

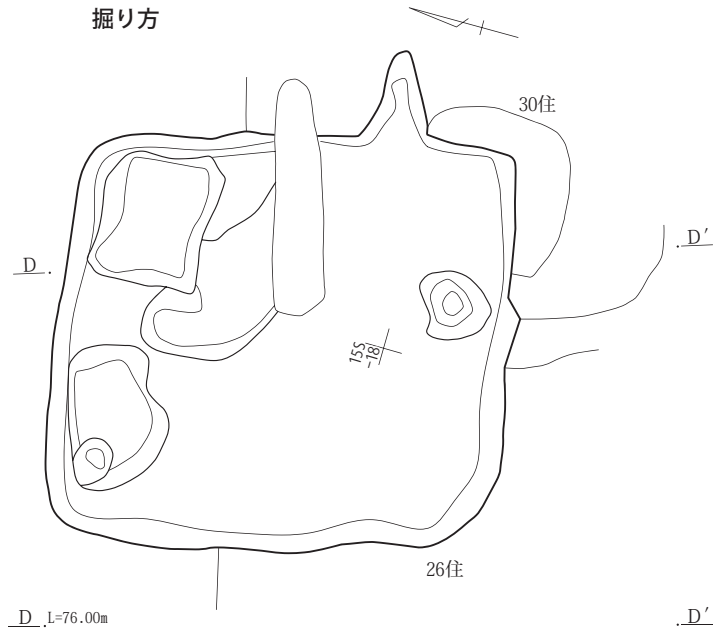
第46表 3区30号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|---------------|-----|------|-----------------------|--------------------|-----------------------------------|---------------|
| 第164図 PL.188 | 1 | 土師器 杯 | 床直 完形 | 口 | 10.6 | 高 3.1 最 10.8 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第164図 | 2 | 土師器 杯 | カマド 1/4 | 口 | 12.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面の一部に炭素吸着。 |
| 第164図 | 3 | 土師器 杯 | 掘り方 1/4 | 口 | 12.0 | | 細砂粒/良好/黒褐 | 口縁部横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面炭素吸着・黒色。 |
| 第164図 | 4 | 土師器 甕 | カマド 底部~胴部片 | | | | 粗砂粒・軽石/良好/黒褐 | 胴部は斜縦位にヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面被熱・炭素吸着・黒色。 |

31号住居



掘り方

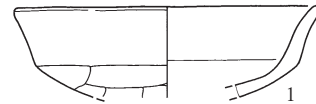
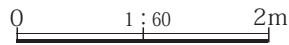


- 1 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、白色粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。

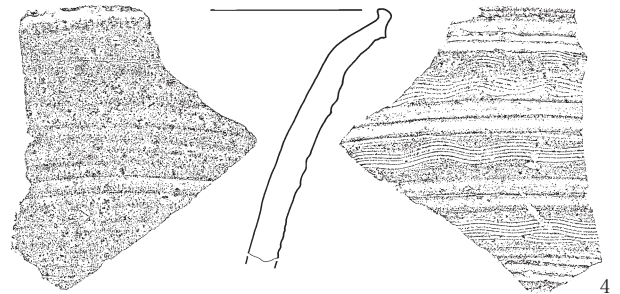
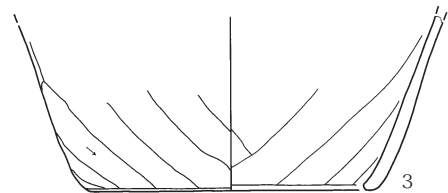
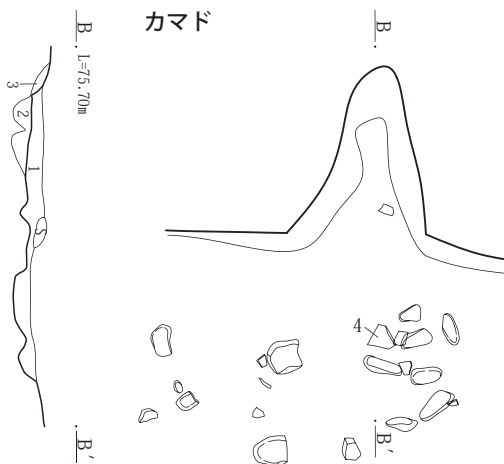


貯蔵穴

- 1 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄白色粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。黄白色土ブロックを含む。

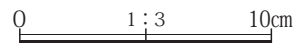
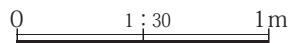


カマド



カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくして粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。



第165図 3区31号住居と出土遺物(1)

規模 面積9.96㎡。長辺(南北)3.63m、短辺(東西)3.22m、残存壁高は26cmを測る。

床面 ほぼ平坦。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築され、現状の長さ75cm、幅41cmを測る。1層はカマド埋没土、2・3層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 南壁下の中央近くに位置している。長径75cm・短径56.5cm・深さ27cmの楕円形を呈する。埋没土は2層に分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 埋没の早い段階から礫が投棄され始める。1・2層は住居の埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。掘り方の深さは約5～10cmを測る。

出土遺物 埋没土中や床面から土器片が出土している。

廃棄礫は住居全体でやや多く出土する。

時期 26号住居(10世紀後半)より後代である。出土遺物から7世紀前半に比定される。

32号住居(第167～169図、P L.45・46・188、第48表)

位置 15R～T-17・18グリッド。

重複 2号溝より後出で、30号住居より前出。

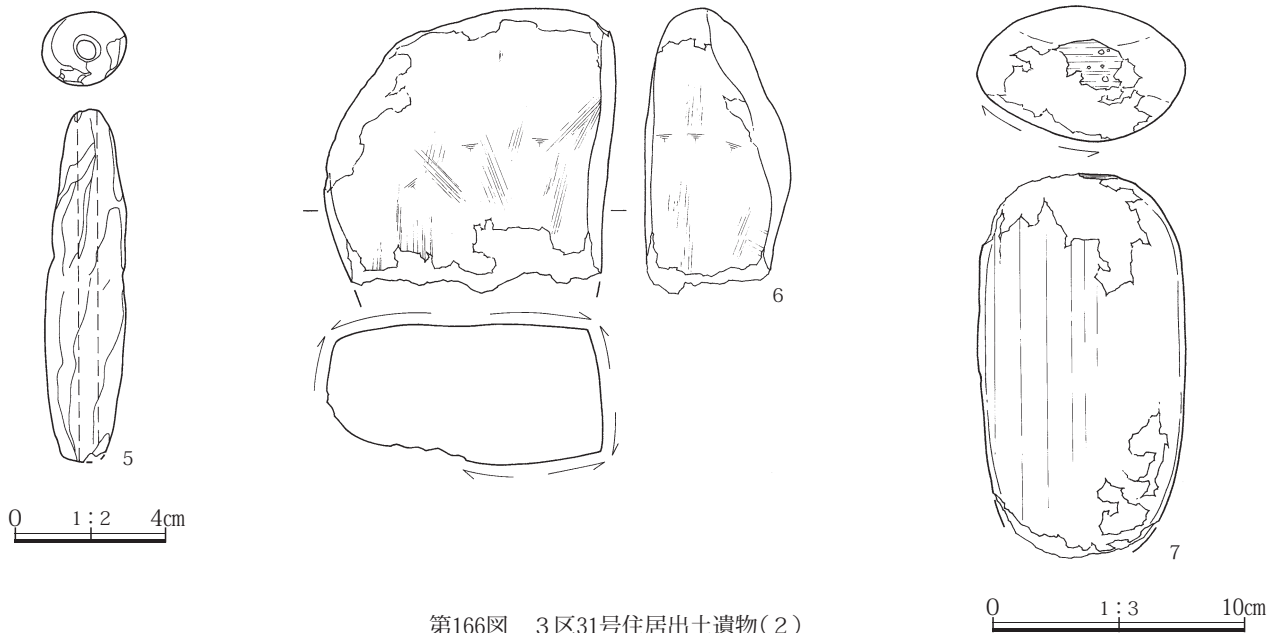
形状 隅丸方形を呈する。

主軸方位 N-60°-E

規模 現状での面積は18.39㎡。長辺・短辺ともに4.94m、残存壁高は7cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。

カマド 東壁の南に設置される。燃烧部は床面を掘り込んで構築され、規模は明瞭ではないが焼土・粘土の範囲から長さ125cm、幅は60cmになる。1・3・4層はカマド埋没土、2層はカマド構築材になる。5～7層は掘り方充填土になる。

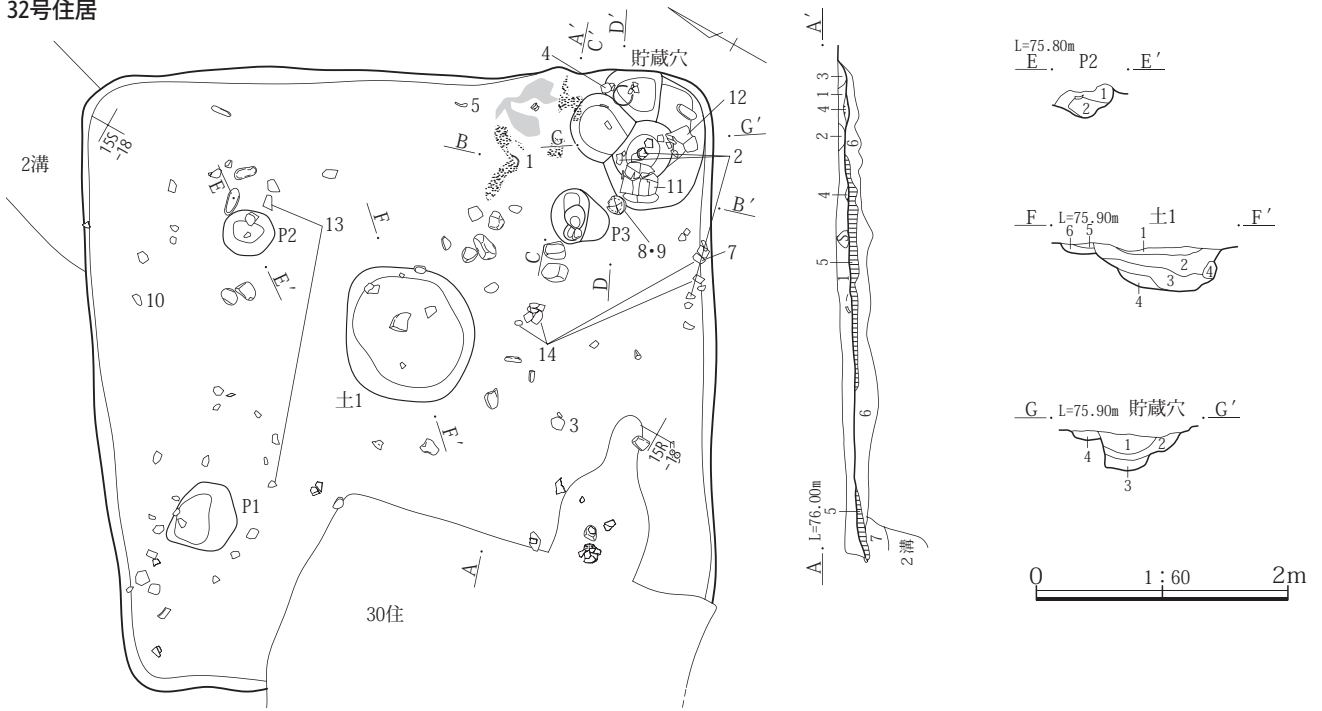


第166図 3区31号住居出土遺物(2)

第47表 3区31号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|----------------|--------|----------------|--------------------|----------------------|---|-------------|
| 第165図 | 1 | 土師器 杯 | +9 1/4 | 口 | 11.7 | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第165図 | 2 | 土師器 高杯 | +24 杯部～脚部上位 | | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 杯部の口縁部は横ナデ。体部はヘラ削り後、ナデ。脚部ヘラナデ。内面杯部は横ナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第165図 | 3 | 土師器 甕 | 床直 底部～胴部片 | 底 | 11.6 | | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 外面は斜位にヘラ削り。下端はヘラ削り。内面は斜位にヘラナデ。 | 外面の一部に炭素吸着。 |
| 第165図 | 4 | 須恵器 甕 | +19 口縁片 | | | | 粗砂粒/還元焰/灰 | 2条1単位の沈線により区画された中に波高の低い波状文を配する。紐作り後ロクロ成形、横ナデ。 | |
| 第166図 | 5 | 土製品 土錘 | +9 端部一部欠 | 長中 | 9.3 2.2 | 厚 1.9 0.5 | 精選/良好/橙 | 小口面を持たない断面楕円形。器面に押圧を加え成形後ナデ。 | |
| 第166図 PL.188 | 6 | 石製品 砥石 | +14 | 長 幅 | (11.1) 11.2 | 厚 5.8 1003.2 | デイスait | 各面とも激しく使い込まれ、光沢を帯びる。特に、両側縁が激しく研ぎ減る傾向がある。 | 礫砥石 |
| 第166図 PL.188 | 7 | 礫石器 敲石 | +3 | 長 幅 | 15.1 8.2 | 厚 5.3 994.3 | 花崗岩 | 背面側が弱く摩耗するほか、小口部上端は敲打摩耗して平坦面が形成されている。 | |

32号住居



- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 黄白色粘質土 カマド構築材。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。
- 4 灰
- 5 貼床
- 6 暗褐色土 黄褐色土大ブロックを含む。やや硬くしまる。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。掘り方充填土。

P 2

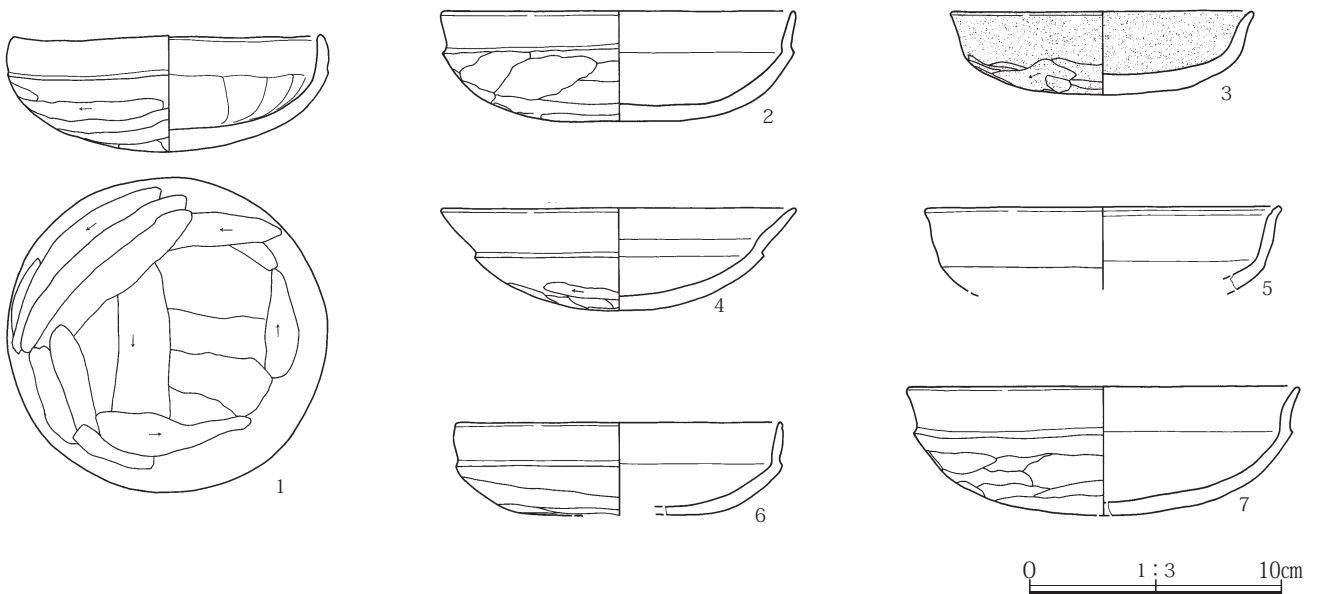
- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 黄白色粘質土ブロックを含む。

住居内土坑1

- 1 暗褐色土 粘性あり。硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。硬くしまる。ローム大ブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 粘性あり。軟らかい。ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄白色土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 粘性あり。しまる。ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 粘性あり。しまる。ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。軟らかくてしまり良い。ローム粒子、黄白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 灰褐色土 粘性あり。軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色土粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 粘性あり。しまる。ローム粒子、白色粒子を多く含む。



第167図 3区32号住居と出土遺物(1)

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径111cm・短径106cm・深さ32cmの楕円形を呈する。上層からややまとまった土器が出土している。埋没土は3層である。

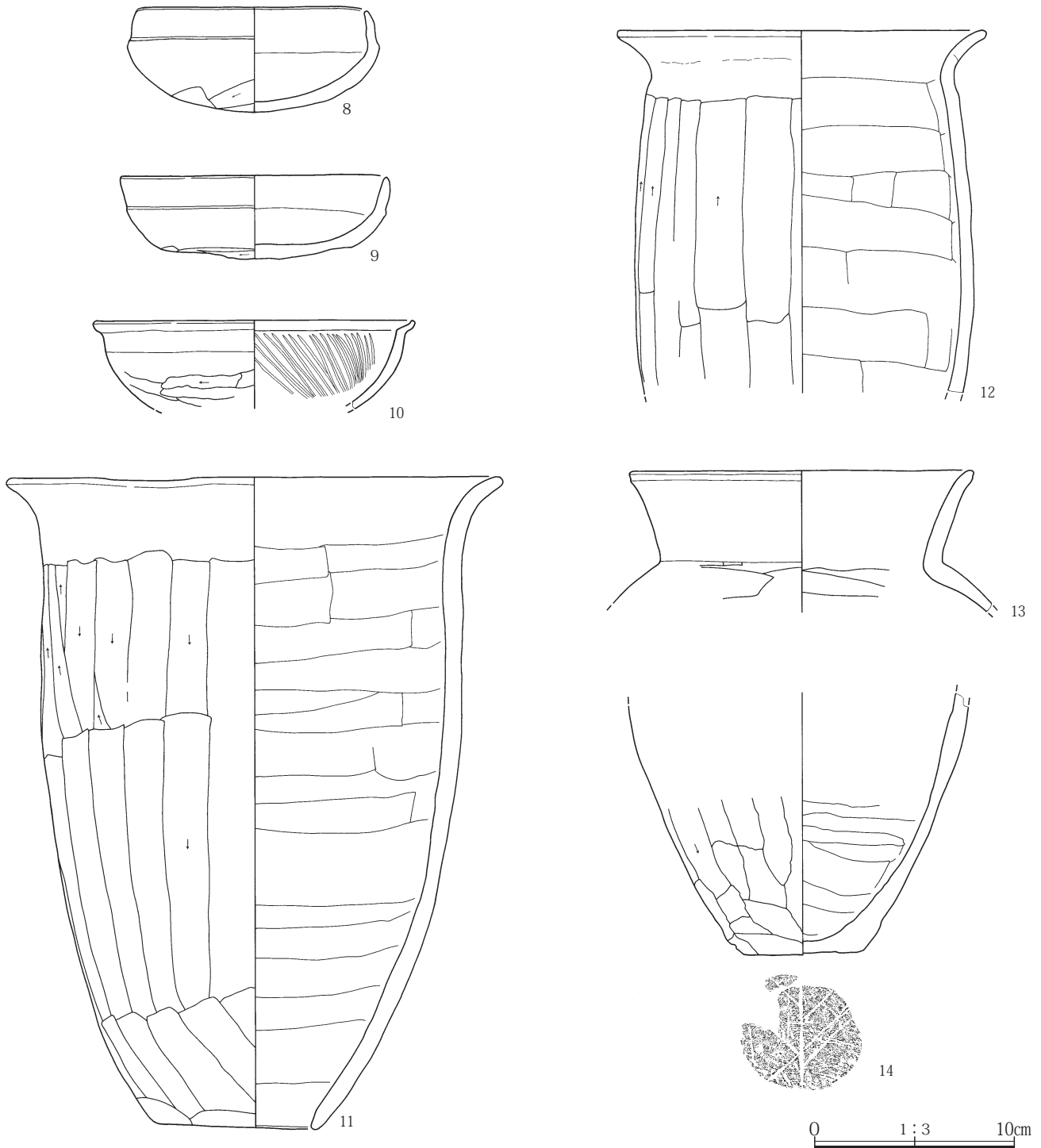
柱穴 主柱穴となるピット3基が検出されている。P1は長径53.5cm・短径49.5cm・深さ19cm、P2は長径41cm・短径36cm・深さ21cm、P3は長径46cm・短径45cm・深さ31cmを測る。4個目のピットは30号住居によって壊されてしまったものと思われる。P1-P2間

の距離は2.3m、P2-P3間の距離は2.6mを測る。

周溝 確認できなかった。

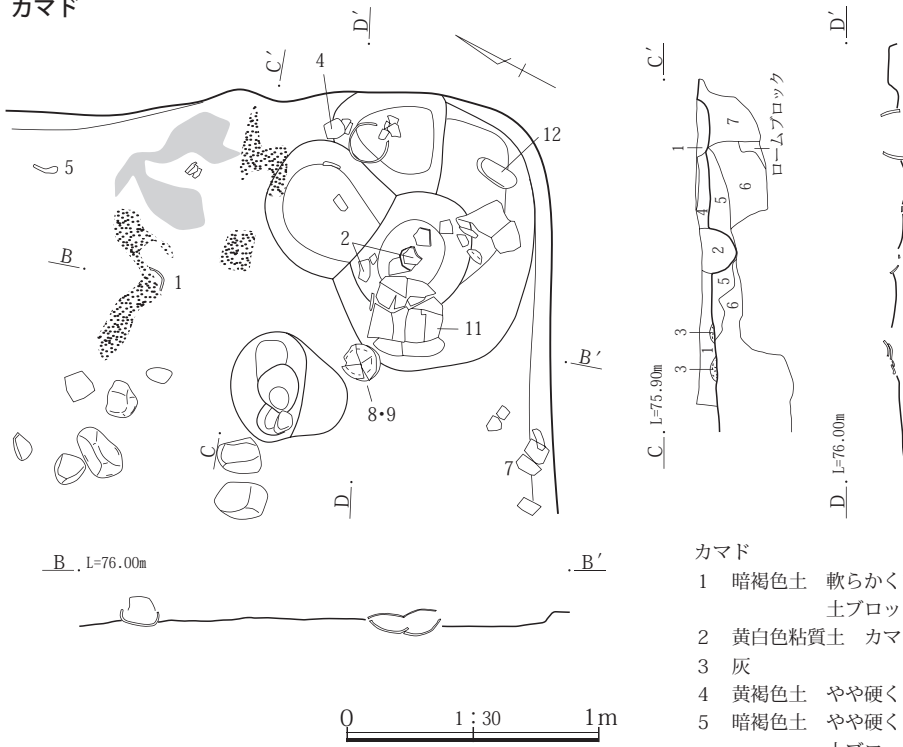
埋没土 自然埋没土と思われる。1~4層が住居埋没土、5層は貼床、6・7層は掘り方充填土になる。8~10層は2号溝の埋没土である。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。主柱穴間の内側をやや残すようにして壁の周辺を掘り下げている。掘り方の深さは約7~17cmを測る。土坑が検出された。土坑1



第168図 3区32号住居出土遺物(2)

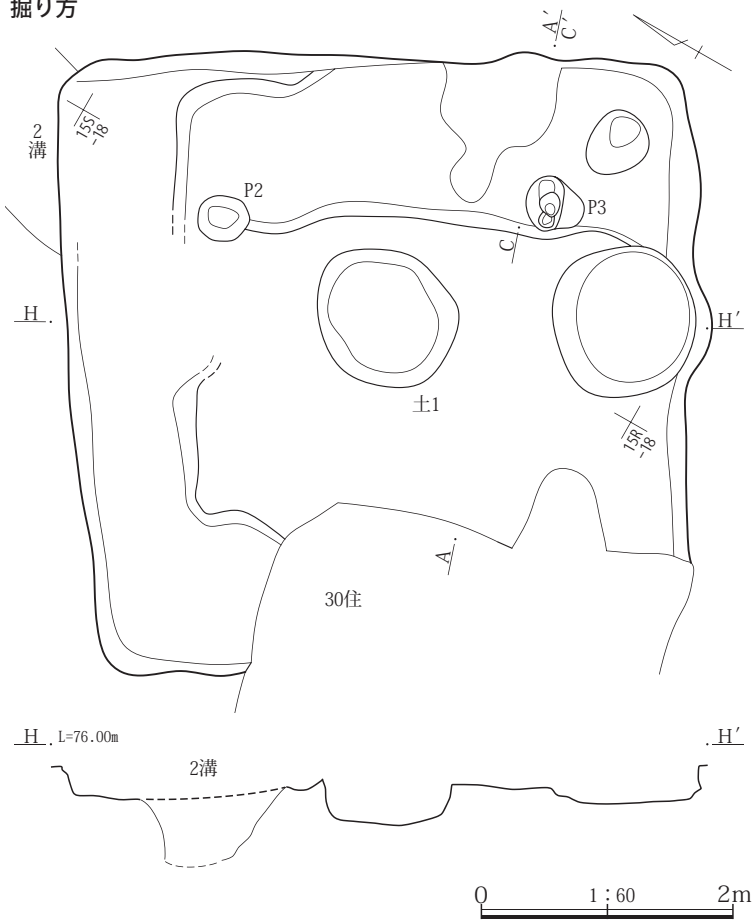
カマド



カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 2 黄白色粘質土 カマド構築材。
- 3 灰
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、灰を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロックを含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。

掘り方



第169図 3区32号住居カマドと掘り方

第48表 3区32号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|------------------|--------|-------------|--------|--------------------|------------------------|---|-------------------|
| 第167図 PL.188 | 1 | 土師器 杯 | カマド 完形 | □ | 11.8 | 高 稜 | 4.6 12.6 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)は上半がナデ、下半から底部は 手持ちヘラ削り。内面は底部から体部がヘラナデ。 | |
| 第167図 | 2 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | □ | 13.8 | 高 | 4.3 | 粗砂粒/良好/褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面炭素吸 着・やや磨滅。 |
| 第167図 | 3 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | □ | 11.8 | 高 | 3.2 | 細砂粒少/良好/に ぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面漆塗り ・やや磨滅。 |
| 第167図 | 4 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | □ | 13.8 | 高 | 4.0 | 粗砂粒/良好/灰褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分 を残す。内面はナデ。 | 内外面黒色・ 漆塗りか。 |
| 第167図 | 5 | 土師器 杯 | 床直 1/4 | □ | 13.8 | | | 細砂粒/良好/褐灰 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面炭素吸 着・磨滅。 |
| 第167図 | 6 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 1/3 | □ | 12.6 | | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。体部にはナデ部 分を残すか。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第167図 | 7 | 土師器 杯 | 床直 1/2 | □ | 15.2 | 高 | 5.0 | 粗砂粒少/良好/灰 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面炭素吸 着。 |
| 第168図 PL.188 | 8 | 土師器 杯 | 床直 口縁部1/2欠損 | □ | 11.3 | 高 稜 | 5.2 12.5 | 細砂粒/良好/褐灰 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)はナデ、底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第168図 PL.188 | 9 | 土師器 杯 | 床直 5/6 | □ | 13.1 | 高 稜 | 4.1 12.8 | 細砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)はナデ、底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第168図 | 10 | 土師器 杯 | 床直 口縁部～体部片 | □ | 15.6 | | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部と体部上位は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘ ラ削り。内面は斜放射線状にヘラ磨き。 | |
| 第168図 PL.188 | 11 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 口縁・ 胴部一部欠 | □ 底 | 24.1 8.3 | 高 | 32.4 | 小礫・粗砂粒多/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部外面は3回に分けて縦位のヘラ削り。 最下位は横位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ、最 下位にヘラ削り。 | 内外面ともや や磨滅。 |
| 第168図 | 12 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 口縁～胴部 | □ | 18.2 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。わずかに輪積み痕を残す。胴部は縦位に ヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱・変色・ 変質。 |
| 第168図 | 13 | 土師器 甕 | +3 口縁～胴部1/4 | □ | 16.8 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部斜横位にヘラ削り。内面胴部はヘラ 削り。 | |
| 第168図 | 14 | 土師器 甕 | 床直 底部～胴部片 | 底 | 6.1 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 胴部は斜縦位、横位のヘラ削り。底部は木葉痕にヘラ削り を加える。内面胴部は横位のヘラナデ。 | |

は長径118.5cm・短径106cm・深さ35cmを測る。

出土遺物 カマド右脇から貯蔵穴上面で土師器甕などが
まとも出土している。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

33号住居(第170図、P L.46・188、第49表)

位置 15S・T-15・16グリッド。

重複 1号溝より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-60°-E

規模 推定面積は15.77㎡。長辺(北東～南西)4.3m、短
辺(北西～南東)3.96m、残存壁高は30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。3～5・10～12層が
住居埋没土、6～9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。住居中央部からピッ
ト3基を検出した。P1は長径45cm・短径34cm・深さ
24cm、P2は長径35.5cm・短径30.5cm・深さ18cm、P3
は長径37cm・短径32cm・深さ18.5cmを測る、掘り方の深
さは約5～16cmを測る。

出土遺物 床面から少量の土器片が散漫に出土してい
る。

時期 出土遺物から古墳時代前期かと思われる。

34号住居(第171・172図、P L.47・189、第50表)

位置 25S・T-2・3グリッド。

重複 176・177号住居より前出で、183号住居より後出。

35・64号住居、44号土坑と重複するが新旧関係不明。

形状 重複がはげしいために全容は不明であるが、方形
を呈するものと思われる。

主軸方位 N-74°-E

規模 現状では長辺(南北)4m、短辺(東西)3.3m、残存
壁高は30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。

カマド 東壁に設置される。燃烧部は床面を掘り込んで
構築され、規模は長さ60cm、幅は47cm、袖を含めた幅は
66cmである。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

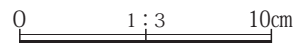
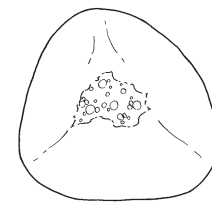
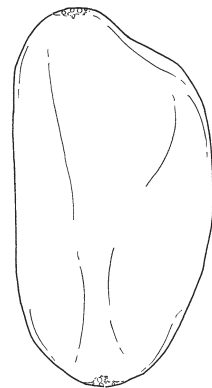
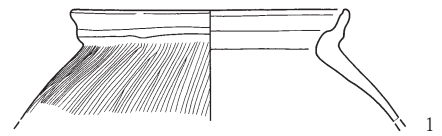
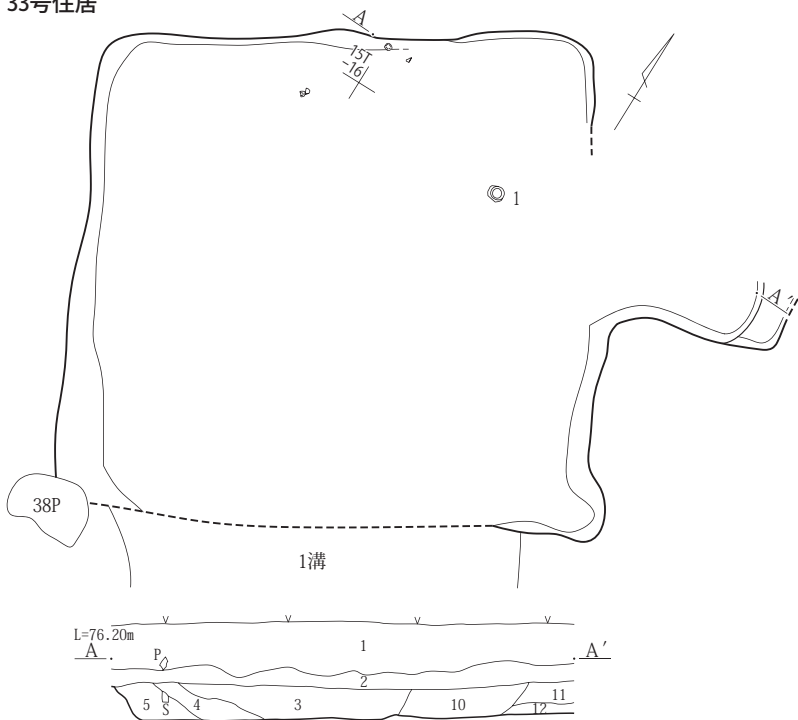
埋没土 自然埋没土と思われる。1～5層が住居埋没土、
6・8層は貼床になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。掘り方の深さは約5
～15cmを測る。

出土遺物 床面から土器片が出土している。

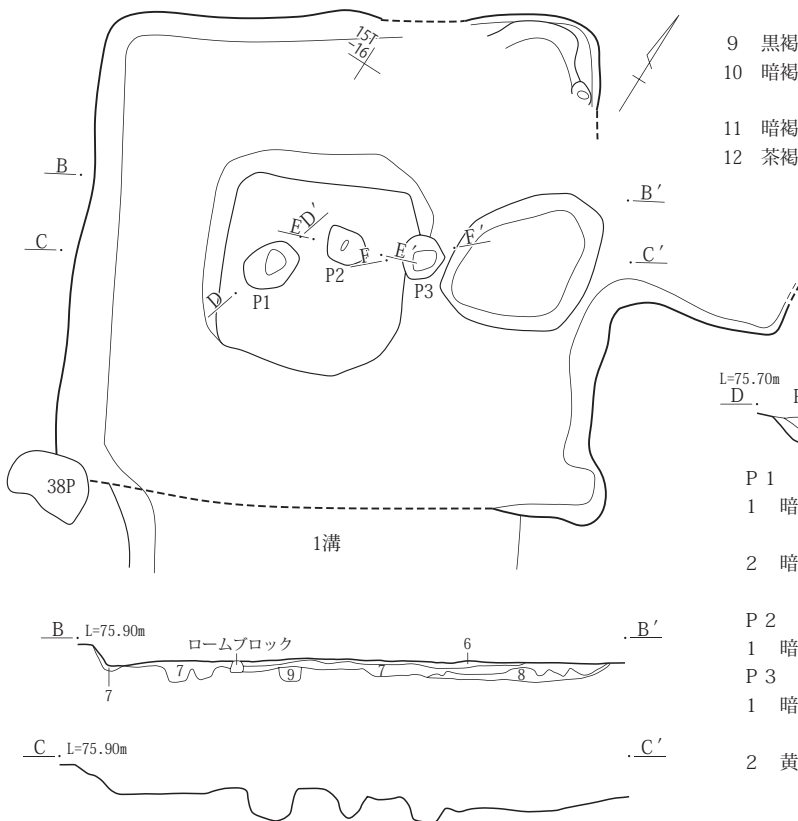
時期 出土遺物から6世紀前半期に比定される。

33号住居

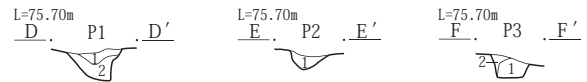


- 1 表土
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

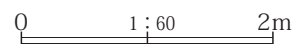
掘り方



- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 9 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 10 暗褐色土 軟らかい。ロームブロック、白色軽石を含む。上層よりも明るい色調。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまる。白色粒子、ローム粒子を少量含む。
- 12 茶褐色土

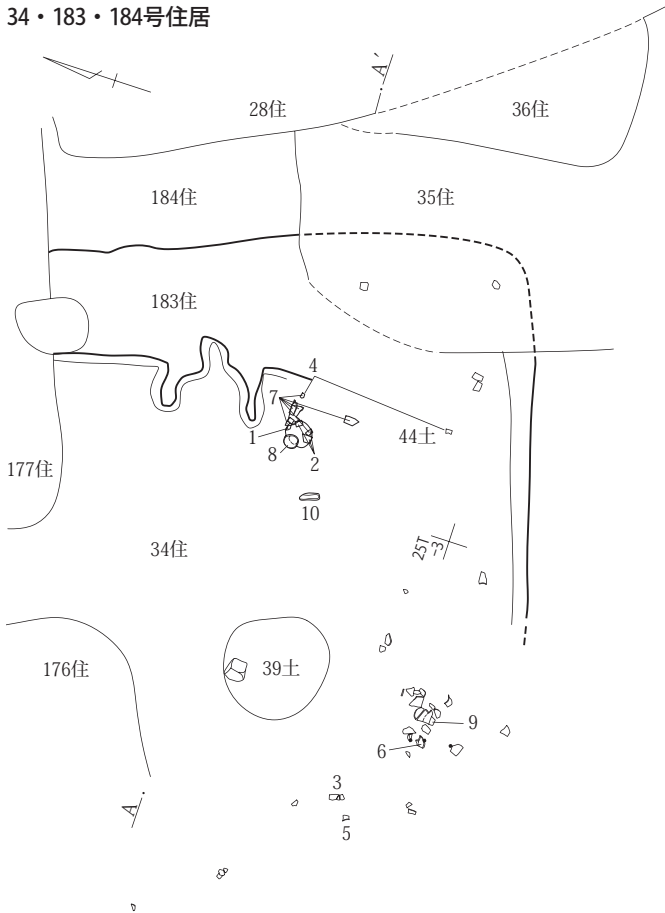


- P 1
 - 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。1層よりも暗い色調。
- P 2
 - 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。
- P 3
 - 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 2 黄白色粘質土 硬くしまる。

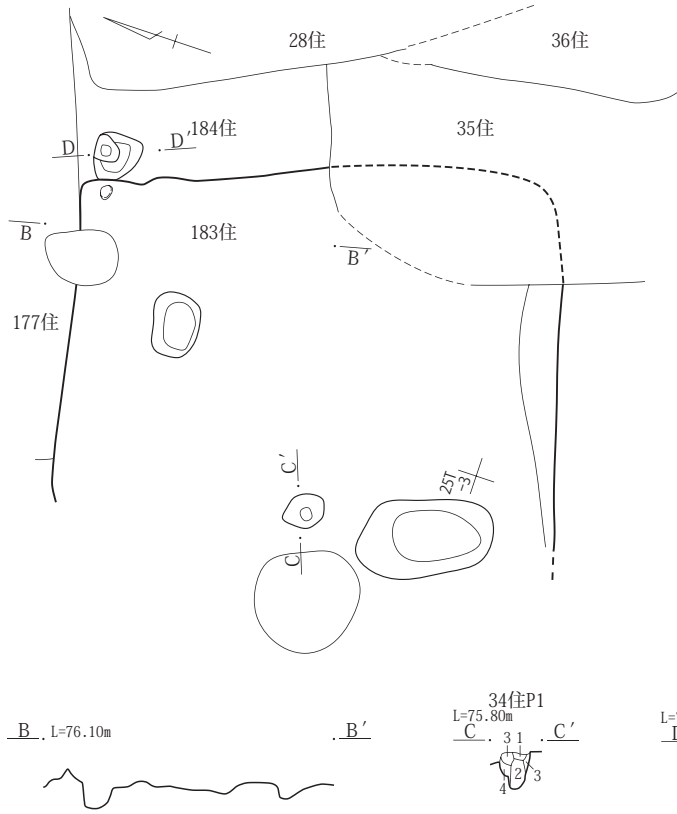


第170図 3区33号住居と出土遺物

34・183・184号住居



掘り方



34・35・183号住居

- I 表土 浅間A軽石を多量に含む。
 - IIa 暗灰褐色土 しまり強い。浅間B軽石を含む。
- 35号住居
- 1 暗褐色土 しまり強い。粘性あり。ローム粒子を微量含む。
 - 2 褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
 - 3 暗褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
 - 4 暗褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
 - 5 黒褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を微量含む。貼床。
 - 6 黒褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。貼床。
 - 7 暗褐色土 しまり強い。粘性なし。掘り方充填土。
- 183号住居
- 1 褐色土 しまりあり。粘性なし。
 - 2 暗褐色土 しまりあり。粘性なし。
 - 3 黒色土 しまり弱い。粘性なし。
 - 4 褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
 - 5 黒褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
 - 6 明褐色土 しまりあり。粘性弱い。ロームブロックを多量に含む。

34号住居

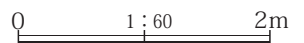
- 1 褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子、炭化物を微量含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
- 3 褐色土 しまり弱い。粘性なし。
- 4 暗褐色土 しまり強い。粘性なし。ロームブロックを含む。
- 5 褐色土 しまり強い。粘性なし。ロームブロックと焼土粒子を少量、ローム粒子を多量に含む。
- 6 明褐色土 しまり強い。粘性弱い。ロームブロックを多量に含む。
- 7 暗褐色土 しまり弱い。粘性なし。
- 8 黒褐色土 しまり非常に強い。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。上面硬化。貼床。
- 9 灰褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。

34住P1

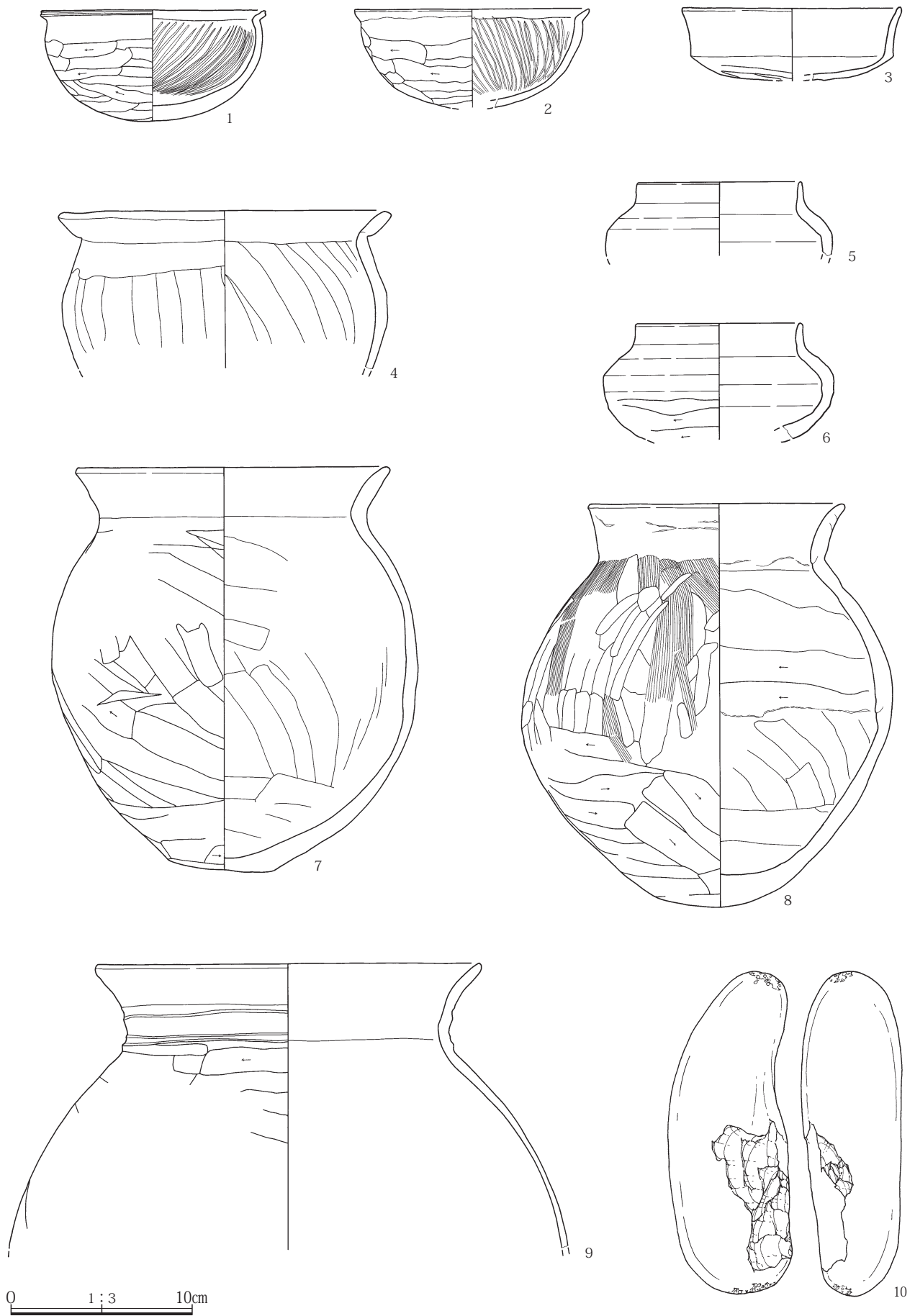
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 3 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

184住居P2

- 1 黒褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
- 2 明褐色土 しまり強い。粘性あり。シルトブロック主体。黒色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりあり。粘性強い。シルト粒子を少量含む。
- 4 褐色土 ロームシルト粒子を少量含む。



第171図 3区34・183・184号住居



第172図 3区34号住居出土遺物

第49表 3区33号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|--------------|--------|-------------|--------|--------------------|--|----------------|-----|
| | | | | 口 | 10.8 | | | | | |
| 第170図 | 1 | 土師器 台付甕 | 床直 口縁~肩部片 | 口 | 10.8 | | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。頸部から肩部左下のハケ目(1cmに7本)。 内面肩部はナデ。指頭による押さえ。 | 内外面とも炭 素吸着。 | |
| 第170図 PL.188 | 2 | 礫石器 敲石 | | 長 幅 | 14.9 7.8 | 厚 重 | 7.5 1144 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に敲打痕がある。 | 棒状礫 |

183号住居(第171・173図、P.L.47・189、第51表)

位置 25T-2グリッド。

重複 184号住居より後出で、34・35号住居より前出。

形状 重複が激しいために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 発掘区の断面から観察すると、東西2.7m、残存壁高は37cmを測る。

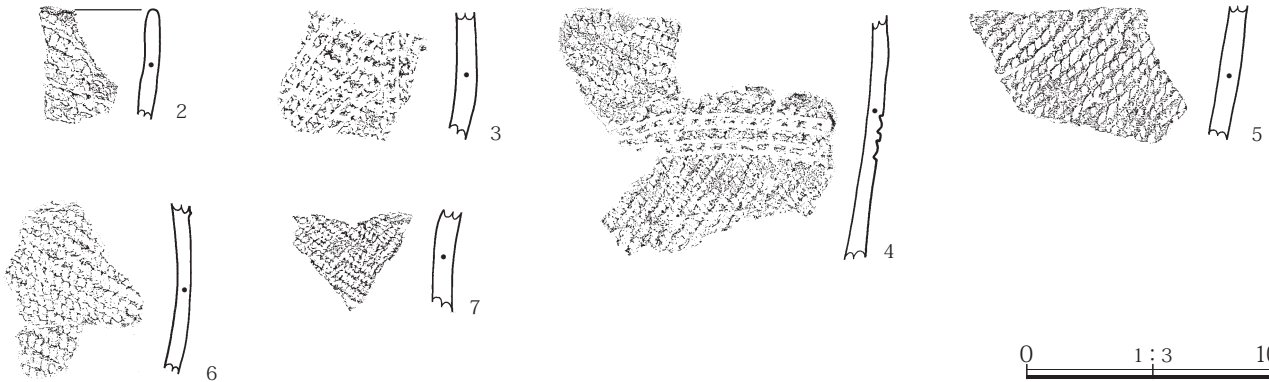
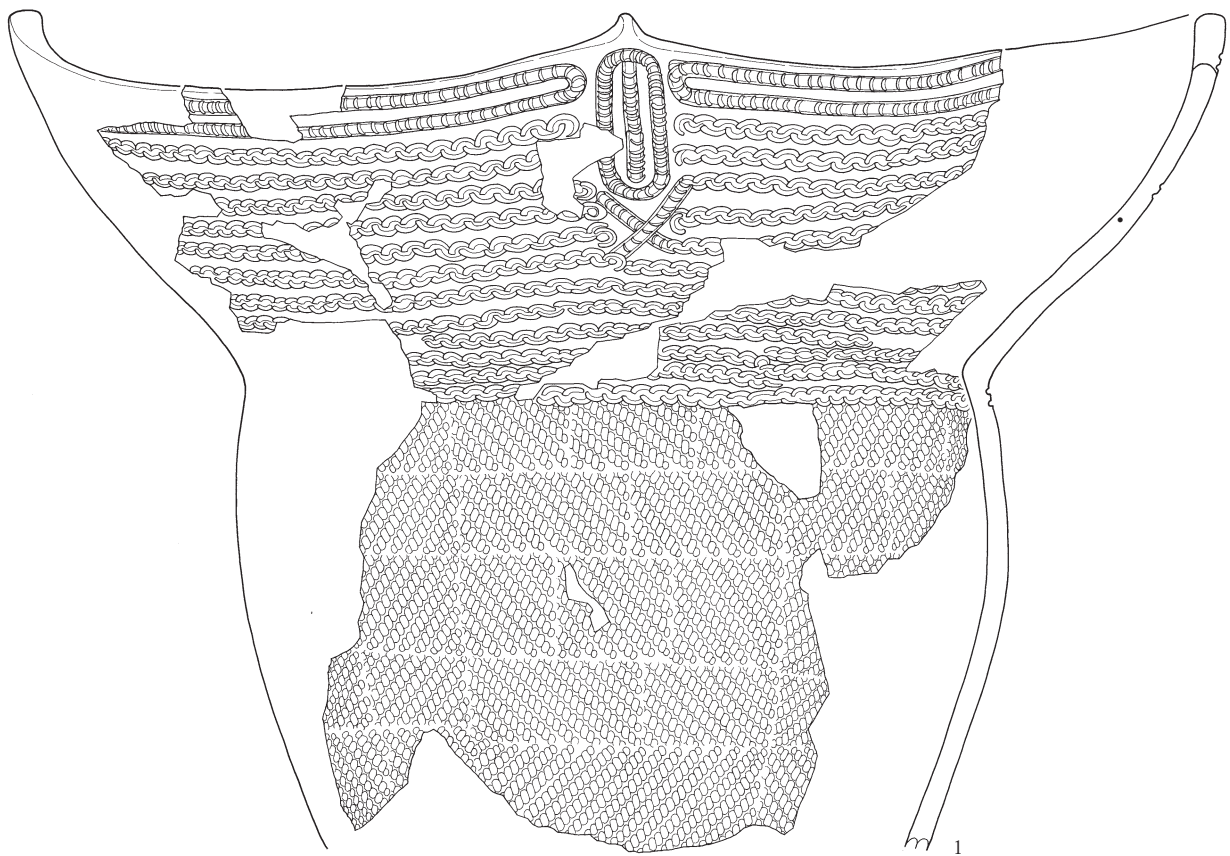
床面 ほぼ平坦である。

炉 確認できなかった。

柱穴 確認できなかったが、断面にピット1基が検出されている。

埋没土 自然埋没土と思われる。1~4層が住居埋没土、5・6層はピットと周溝の埋没土になる。

出土遺物 埋没土から少量出土した。



0 1:3 10cm

第173図 3区183号住居出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第50表 3区34号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|----------------|--------|--------------|--------|--------------------|------------------|--|------------|
| 第172図 PL.189 | 1 | 土師器 杯 | +17 5/6 | 口 | 12.1 | 高 | 6.0 | 細砂粒・褐粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部に斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第172図 | 2 | 土師器 杯 | +3 1/4 | 口 | 12.8 | | | 粗砂粒・赤色粘土粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部上半はナデ。下半から底部は手持ちヘラ削り。内面体部に斜放射状ヘラ磨き(暗文状)。 | |
| 第172図 | 3 | 土師器 杯 | +16 1/4 | 口 底 | 11.8 11.0 | | | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第172図 | 4 | 土師器 鉢 | 床直 口縁～胴部上位1/4 | 口 | 17.4 | | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。肩部も横ナデ。胴部は縦位のヘラナデ。内面頸部に輪積み痕を残す。胴部は斜位のヘラナデ。 | |
| 第172図 | 5 | 須恵器 小型壺 | +16 口縁～胴部上位片 | 口 | 8.8 | | | 細砂粒/還元焰・やや軟質/灰 | ロクロ整形、回転右回り。 | |
| 第172図 | 6 | 須恵器 小型壺 | +25 口縁～胴部下位片 | 口 | 8.9 | | | 細砂粒/還元焰不良/灰黄褐 | ロクロ整形、回転右回り。胴部に回転ヘラ削り。 | |
| 第172図 PL.189 | 7 | 土師器 甕 | 床直 2/3 | 口 底 | 16.9 5.9 | 高 | 21.9 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位にあまり規則性のないヘラ削り。ナデに近く砂粒はほとんど動いていない。底部はヘラ削り。内面上位は横位の中位以下は斜位のヘラナデ。 | 外面胴部炭素吸着。 |
| 第172図 PL.189 | 8 | 土師器 甕 | +6 完形 | 口 | 13.9 | 高 | 21.8 | 粗砂粒/良好/浅黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部上半は肩部から上位に斜縦位にハゲ目(1cmに10本)。中位も同様の工具でナデを施す。下半は横位・斜位にヘラ削り。内面胴部は上位から中位は横位の、中位は斜位のヘラナデ。下位は横位のヘラ削り。 | 被熱・外面に煤付着。 |
| 第172図 | 9 | 土師器 甕 | +11 口縁～胴部上位1/3 | 口 | 20.8 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。中位に弱い稜。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。内面胴部はヘラナデか。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第172図 PL.189 | 10 | 礫石器 敲石 | +19 | 長 幅 | 17.6 6.6 | 厚 重 | 4.4 903.9 | 粗粒輝石安山岩 | 右辺エッジが激しく敲打され、大きく変形している。 | 扁平礫 |

第51表 3区183号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|-------------|-----|--|--|--------------------|----------|--|-----|
| 第173図 PL.189 | 1 | 縄文土器 深鉢 | 口縁～胴部片 | | | | | 繊維 | 大波状口縁の大型深鉢土器。波頂下に爪形刺突をもつ平行沈線で縦位の楕円文とX字文、口縁下に同様の平行沈線で横位の長楕円文を描き、口縁部文様に横位のコンパス文を数段巡らせる。括れ部以下の胴部には、L RとR Lによる羽状縄文を施す。 | 黒浜式 |
| 第173図 PL.189 | 2 | 縄文土器 深鉢 | 口縁部片 | | | | | 繊維 | 直立ぎみの平口縁で、口縁以下にR Lの縄文を施す。 | 黒浜式 |
| 第173図 PL.189 | 3 | 縄文土器 深鉢 | 胴部片 | | | | | 繊維 | 胴部上半に爪形刺突をもつ平行沈線を縦位および斜位に施して米字状の文様を描き、地文にR Lの縄文を施す。 | 黒浜式 |
| 第173図 PL.189 | 4 | 縄文土器 深鉢 | 胴部片 | | | | | 繊維 | 胴部に爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、地文にL RとR Lによる羽状縄文を施す。 | 黒浜式 |
| 第173図 PL.189 | 5 | 縄文土器 深鉢 | 胴部片 | | | | | 繊維 | 胴部にL Rの縄文を施す。 | 黒浜式 |
| 第173図 PL.189 | 6 | 縄文土器 深鉢 | 胴部片 | | | | | 繊維 | 括れ部以下の胴部にR Lの縄文を施す。 | 黒浜式 |
| 第173図 PL.189 | 7 | 縄文土器 深鉢 | 胴部片 | | | | | 繊維 | 胴部に0段多条のL RとR Lによる羽状縄文を施す。 | 黒浜式 |

時期 出土遺物から黒浜期(縄文時代前期)に比定される。

184号住居(第171図、P L.47)

位置 25T-2グリッド。

重複 28・35・177・183号住居より前出。

形状 重複が激しいために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 不明。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかったが、掘り方調査時にピット1基が検出されている。長径40cm・短径35cm・深さ38cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 重複がはげしくほとんど確認することはできなかった。

掘り方 やや凹凸がある。

出土遺物 ほとんど出土していない。

時期 時期不明。

38号住居(第174図、P L. 49・190、第52表)

位置 15Q・R-13、15Q-14グリッド。
重複 22号住居より前出。
形状 調査区外に延びるために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。
主軸方位 不明。
規模 現状での面積は7.13㎡。長辺(北東～南西)3.68m、短辺(北西～南東)3m、残存壁高は調査区の南壁で確認すると30～45cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。3～6層が住居埋没土、7～10層は掘り方充填土になる。
掘り方 床面中央部を掘り下げている。ピット2基が検出された。P1は長径51.5cm・短径44.5cm・深さ9cm、P2は長径45.5cm・短径41cm・深さ10.5cmを測る。掘り方の深さは約10～25cmを測る。

出土遺物 壁際からの遺物の出土は少ない。棒状礫がやや目立つ。
時期 出土遺物から古墳時代に比定される。

39号住居(第175・176図、P L. 49・50・190、第52表)

位置 15Q-14～16、15R-15グリッド。
重複 40号住居と重複するが新旧関係不明。
形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。
主軸方位 N-61°-E
規模 現状での面積は9.45㎡。長辺(北東～南西)4.78m、短辺(北西～南東)3.29m、残存壁高は調査区南壁で25～30cmを測る。 **床面** やや凹凸がある。硬化面は

あまり認められなかった。
カマド 東壁に設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、規模は長さ106cm、幅は23cmである。1～11層はカマド埋没土、5層は灰層、9層は焼土主体である。12～16層は掘り方充填土になる。
貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。
埋没土 自然埋没土と思われる。3～5層が住居埋没土、6～10層は掘り方充填土になる。
掘り方 全体的にやや凹凸がある。掘り方の深さは約5～33cmを測る。
出土遺物 住居中央部の埋没土からやや多く土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

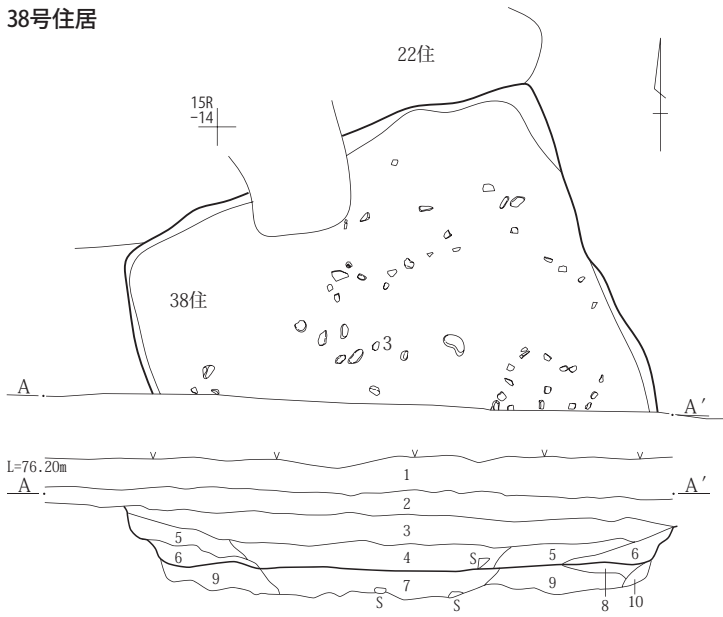
40号住居(第175・176図、P L. 50、第52表)

位置 15R-15グリッド。
重複 27号住居より前出か。39号住居と重複するが新旧関係不明。
形状 重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。
主軸方位 不明。
規模 現状での面積は4.36㎡、長辺(東西)2.96m、短辺(南北)2m、残存壁高は7cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。
埋没土 自然埋没土と思われる。1層が住居埋没土、2・3層は掘り方充填土になる。
掘り方 全体的にやや凹凸がある。掘り方の深さは約15～22cmを測る。
出土遺物 ほとんど出土していない。
時期 時期不明。

第52表 3区38・39・40号住居出土遺物

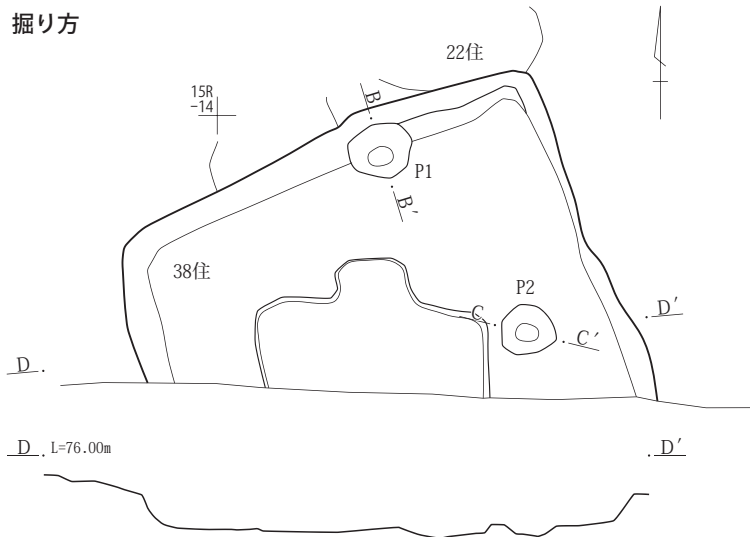
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|------------------|--------|------------|------------------------|----------------------|--|-------|
| | | | | 口 | 高 | 厚 重 | | | |
| 第174図 | 1 | 土師器 杯 | 38住 1/4 | 口 | 8.8 | 高 3.9 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第174図 | 2 | 土師器 壺 | 38住 口縁1/4 | 口 | 9.8 | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 内外面とも丁寧なナデの上に斜放射状にヘラ磨き。 | |
| 第174図 | 3 | 土師器 甕 | 38住 掘り方 底部片 | 底 | 6.0 | | 粗砂粒・細砂粒多 /やや不良/淡黄 | 外面はナデ、ヘラ削り。内面は指ナデ。底部に木葉痕。 | |
| 第174図 PL.190 | 4 | 石製品 砥石 | 38住 | 長 幅 | (8.7) 9 | 厚 重 7.7 701.0 | 粗粒輝石安山岩 | 平坦な背面側礫面に斜行する粗い刃ならし傷がある。 | 板状礫 |
| 第175図 | 1 | 土師器 高杯 | 39住 +11 脚部上半 | | | | 精選・細砂粒少/ 良好/橙 | 杯部をホゾ状に差し込む。内面しぼり。縦位のナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第175図 PL.190 | 2 | 土師器 甕 | 39住 口縁部～ 胴部上半 | 口 | 12.7 | | 細砂粒・白粒/良 好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削りか、器面磨滅のため不鮮明。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第175図 | 3 | 土師器 甕 | 40住 底部片 | 底 | 6.2 | | 粗砂粒/良好/灰白 | 胴部は縦位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |

38号住居

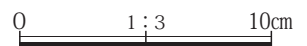
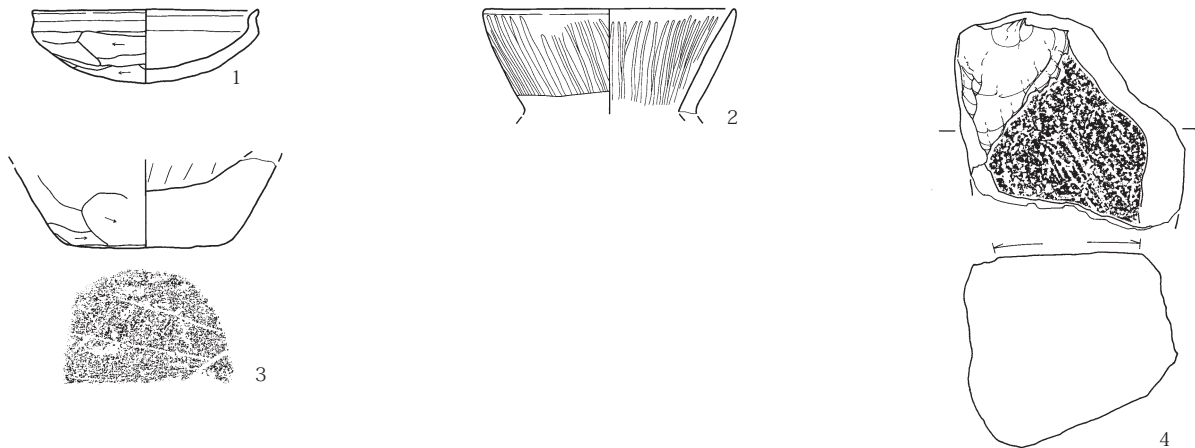
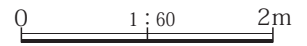


- 1 耕作土 浅間A軽石含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。浅間A軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子、炭化物粒子を含む。
- 8 黄白色粘質土 やや硬くしまる。
- 9 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、暗褐色土の混土。
- 10 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子を含む。

掘り方

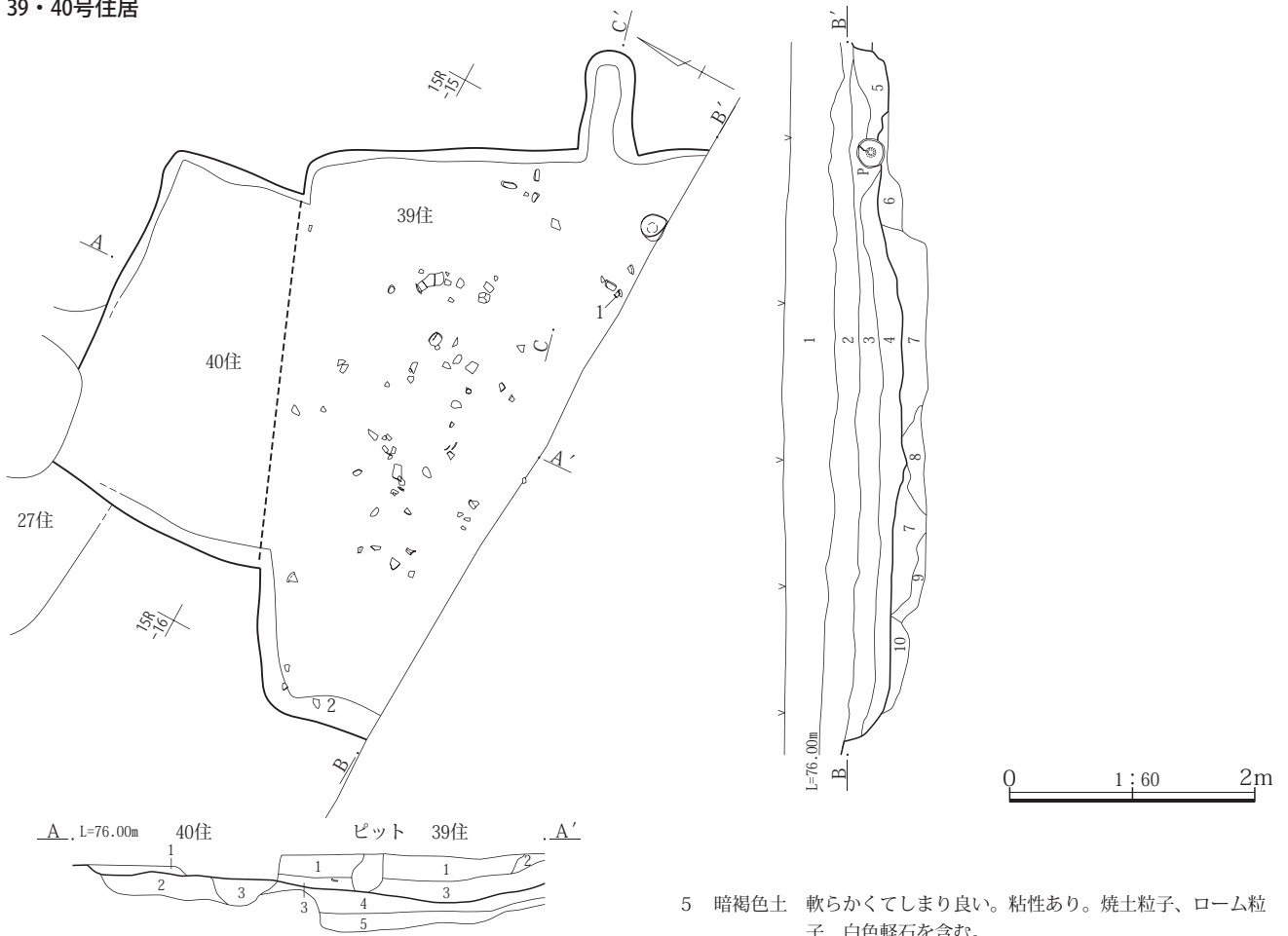


- P 1
- 1 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物を多量に含む。
- P 2
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。



第174図 3区38号住居と出土遺物

39・40号住居



39号住居(A-A')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 黄白色粘質土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。

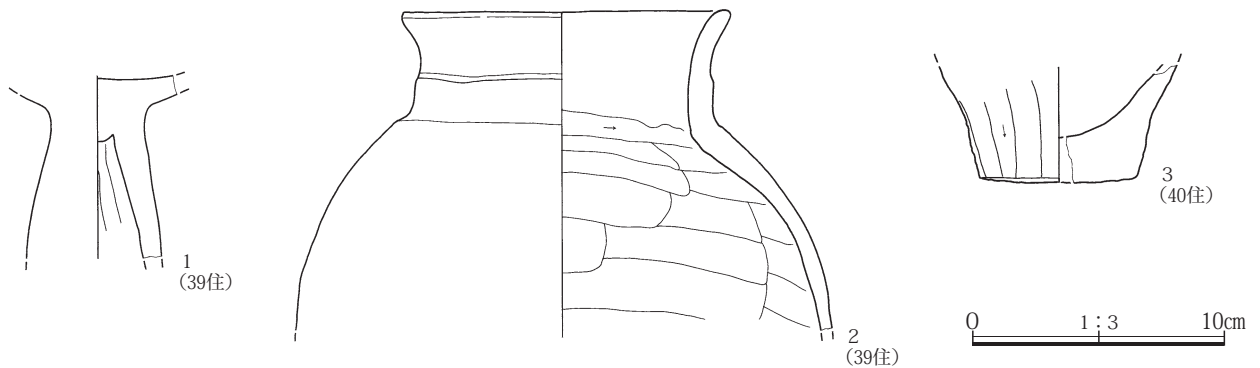
39号住居(B-B')

- 1 耕作土 浅間A軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む。

- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ロームブロック、焼土粒子、灰を多量に含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 8 黄白色粘質土 やや硬くしまる。暗褐色土を含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

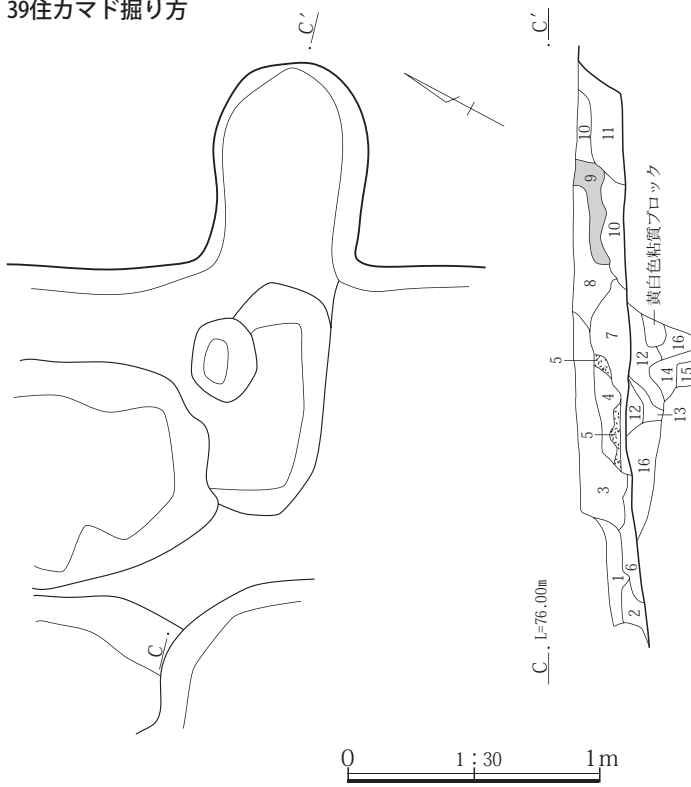
40号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを少量含む。



第175図 3区39・40号住居と出土遺物

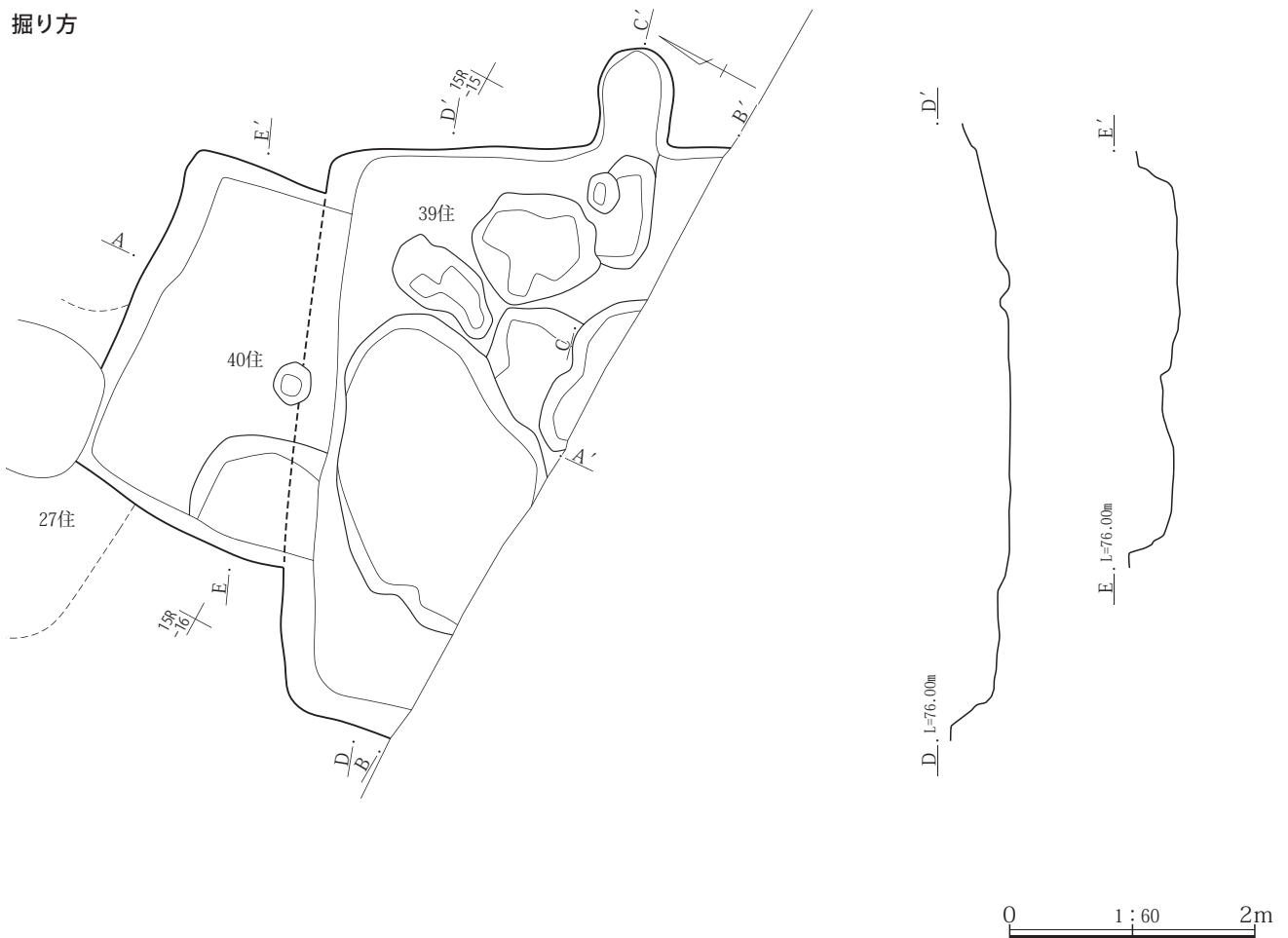
39住カマド掘り方



カマド

- 1 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 4 灰褐色土 非常に軟らかく粘性あり。焼土ブロック、灰を多量に含む。
- 5 灰
- 6 黄褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土ブロックを含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 8 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物を含む。
- 9 赤褐色土 非常に軟らかく粘性あり。焼土を多量に含む。
- 10 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロックを含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。焼土ブロックを含む。10層より暗い色調。
- 12 褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。焼土ブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 13 暗褐色土 非常に軟らかく粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 14 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 15 黄白色粘質土 やや硬くしまる。暗褐色土を少量含む。
- 16 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。

掘り方



第176図 3区39・40号住居掘り方

41号住居(第177図、P L. 51)

位置 15S-12・13グリッド。

重複 14号住居より前出。

形状 14号住居に壊されているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-57°-E

規模 現状での面積は4.04㎡。長辺(北東~南西)2.97m、短辺(北西~南東)1.53m、残存壁高は11cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。一部に貼床が認められた。

カマド 東壁に設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築され、現状での長さ57cmを測るが、その痕跡は不明瞭

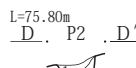
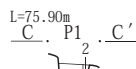
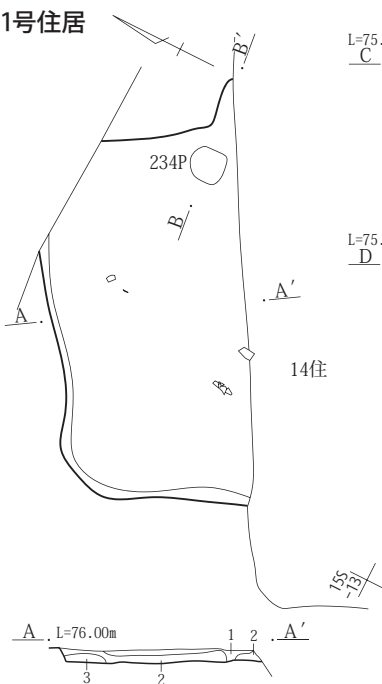
である。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1~3層が住居埋没土になる。

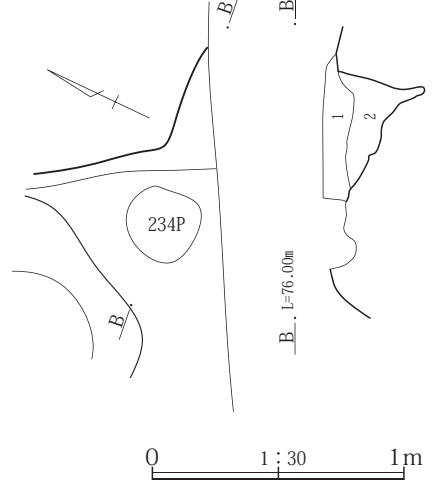
掘り方 全体的にやや凹凸がある。土坑2基とピット3基を検出した。土坑1は長径123cm・短径102cm・深さ27cm、土坑2は長径117.5cm・短径104cm・深さ26.5cmを測り、2層は住居の貼床となっていた。P1は長径32cm・短径26cm・深さ25cm、P2は長径40.5cm・短径33cm・深さ19cm、P3は長径46cm・短径33.5cmを測る。

41号住居



- | | |
|--------|------------------------------------|
| P 1 | |
| 1 暗褐色土 | 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。 |
| 2 暗褐色土 | 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。 |
| P 2 | |
| 1 暗褐色土 | 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を多量に含む。 |
| 2 黄褐色土 | 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を少量含む。 |
| 1 暗褐色土 | 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、白色粒子を含む。 |
| 2 暗褐色土 | 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を多量に、白色軽石を含む。 |
| 3 黄褐色土 | 軟らかい。ローム主体の層。 |

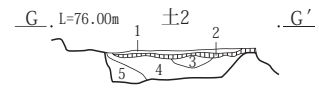
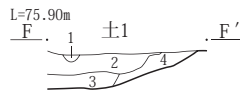
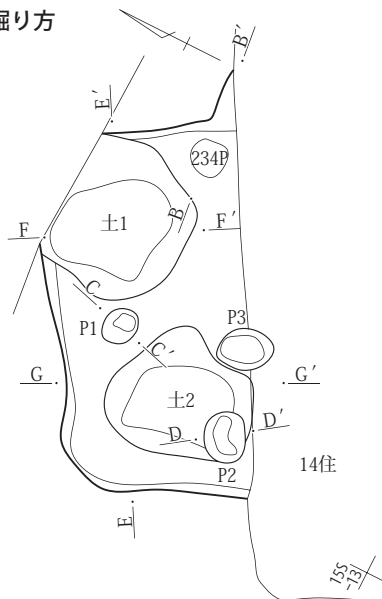
カマド



カマド

- | | |
|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。 |
| 2 黒褐色土 | 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を少量含む。 |

掘り方



住居内土坑1

- | | |
|--------|--|
| 1 黒褐色土 | 軟らかくてサラサラしている。浅間B軽石を少量含む。 |
| 2 暗褐色土 | 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。 |
| 3 暗褐色土 | 非常に軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。 |
| 4 黄褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に白色軽石を含む。 |

住居内土坑2

- | | |
|--------|--|
| 1 暗褐色土 | 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。 |
| 2 暗褐色土 | 硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。貼床。 |
| 3 黄褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。 |
| 4 暗褐色土 | 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。 |
| 5 黄褐色土 | 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。 |

第177図 3区41号住居

出土遺物 床面でわずかに土器片が出土している。
時期 非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

42号住居(第178図、P L .51)

位置 15Q-10・11グリッド。

重複 22号土坑より前出で、9号土坑と重複するが新旧関係不明。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は3㎡。長辺(東西)5.78m、短辺(南北)0.81m、残存壁高は発掘区南端の壁で確認すると23cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 P1とP2が当遺構に伴うピットと思われる。P1は長径59cm・短径57cm・深さ31cm、P2は現状で長径

45cm・短径30cm・深さ30cmを測る。P1は住居埋没後も柱が残っていた可能性がある。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～8・11層が住居埋没土になる。9・10・12・13層はピット埋没土になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。掘り方の深さは浅く2～4cmであった。

出土遺物 ほとんど遺物は出土していない。

時期 時期不明。

43号住居(第179・180図、P L .51・52、第53表)

位置 15S・T-19・20グリッド。

重複 5号溝と重複するが新旧関係不明。

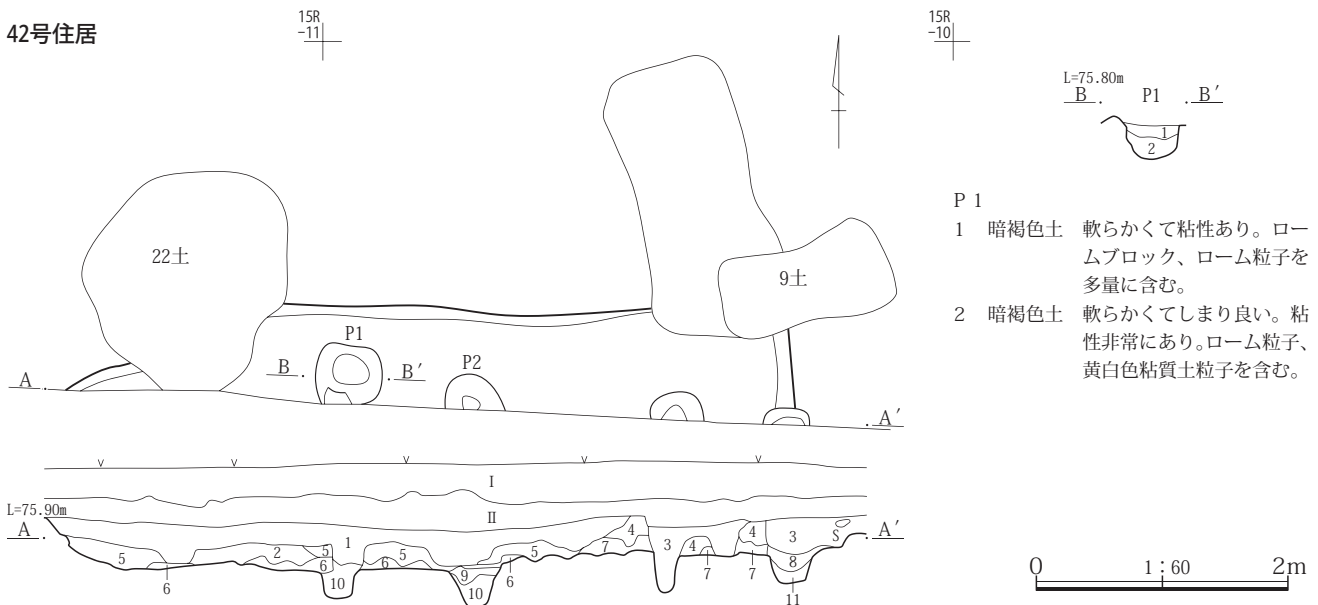
形状 方形を呈する。

主軸方位 N-63°-E

規模 面積10.68㎡。長辺(北東～南西)3.59m、短辺(北西～南東)3.37m、残存壁高は20cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

42号住居

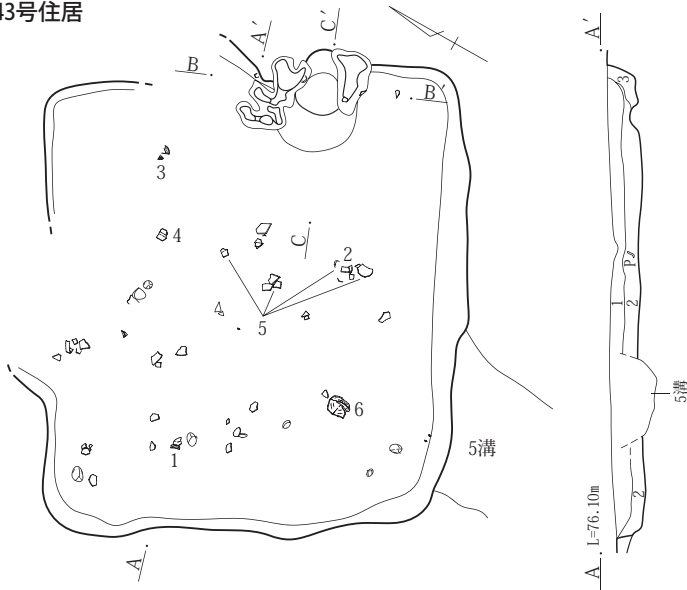


- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、白色軽石を含む。
 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。浅間B軽石を少量含む。
 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を含む。
 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
 6 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。

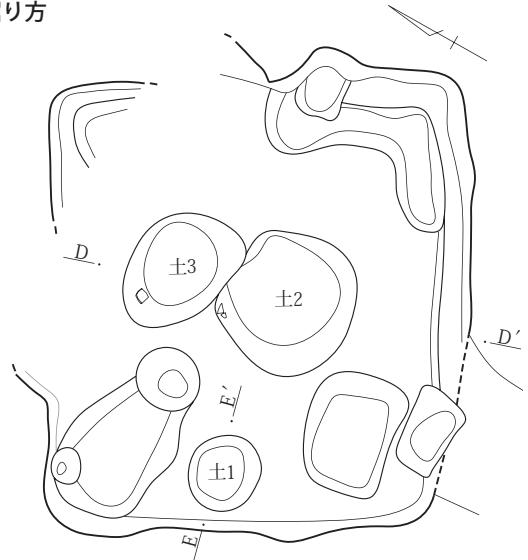
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームに暗褐色土が混じる。
 8 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。浅間B軽石を少量含む。8層より暗い色調。
 9 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 10 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 11 暗褐色土 非常に軟らかい。ロームブロックを多量に含む。

第178図 3区42号住居

43号住居



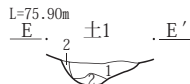
掘り方



15/20

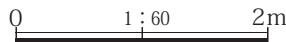
15/20

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

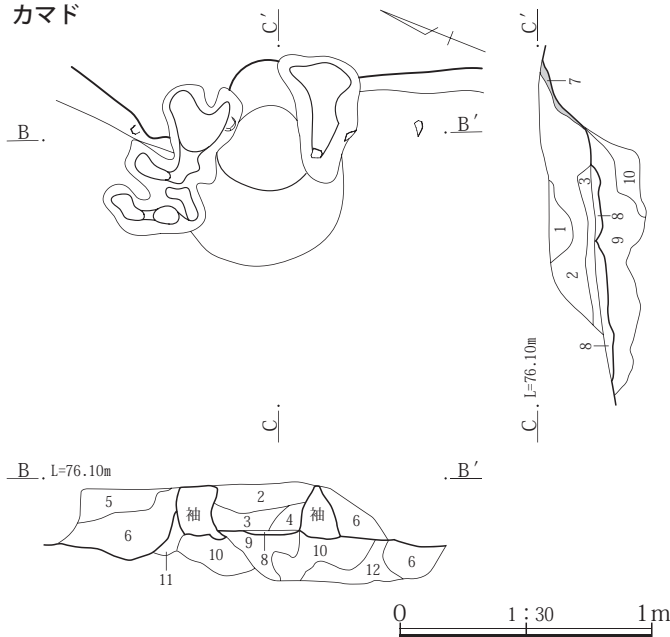


土1

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ローム粒子を少量含む。
- 2 黄白色粘質土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、暗褐色土を含む。



カマド



掘り方

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物、焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白軽石を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。ロームブロック、ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 5 黄白色粘質土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土ブロックを含む。

カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土ブロックを多量に、白色粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子をやや多く含む。
- 7 赤褐色土 軟らかい。焼土を多量に含む。
- 8 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、灰、ローム粒子を含む。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 10 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。袖の崩れ。
- 12 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ローム粒子を多量に含む。

第179図 3区43号住居

カマド 東壁の中央やや南寄りに設置される。燃焼部は床を掘り込んで構築され、現状の長さ81cm、幅64cm、袖を含めた幅は90cmを測る。1～4・8層はカマド埋没土、9～12層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴を検出することはできなかった。

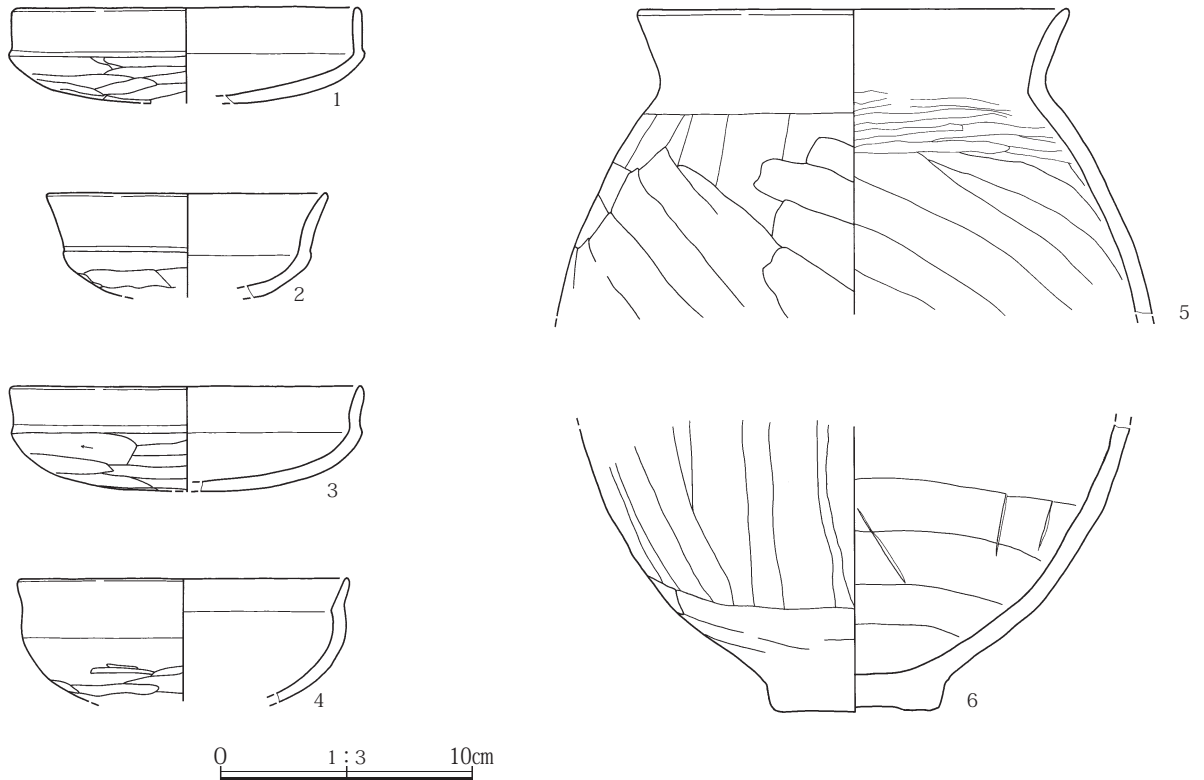
柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。床面中央部と西壁近くから土坑が検出された。土坑1は長径62cm・短径56.5cm・深さ22.5cm、土坑2は長径111cm・短径102cm・深さ31cm、土坑3は長径105cm・短径76cm・深さ46cmを測る。掘り方の深さは約4～16cmを測る。

出土遺物 埋没土中や床面から土器片がまとまりなく出土している。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。



第180図 3区43号住居出土遺物

第53表 3区43号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|-------------------|--------|--------------------|--|-------------------------------------|
| 第180図 | 1 | 土師器 杯 | +25 1/4 | □ 13.4 | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 口縁部内外面 は漆塗りか。 |
| 第180図 | 2 | 土師器 杯 | +7 1/4 | □ 10.9 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第180図 | 3 | 土師器 杯 | 床直 1/4 | □ 13.7 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 口縁部は内外 面漆塗りか。 底部外面には 炭素吸着。 |
| 第180図 | 4 | 土師器 杯 | +12 1/4 | □ 12.7 | 精選/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部～体部上位は横ナデ。体部は丁寧なナデ。一部磨き。底部は手持ちヘラ削り。 | 内外面ともや 炭素吸着。 |
| 第180図 | 5 | 土師器 甕 | +3 口縁～胴 部上位1/4 | □ 16.6 | 細砂粒/良好/明黄 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部最上位は縦位のナデ。以下は斜横のヘラ削り。内面胴部最上位は横位のヘラ磨き。以下は斜横のヘラナデ。 | 内外面とも炭 素吸着。 |
| 第180図 | 6 | 土師器 甕 | 床直 底部～胴 部中位1/3 | 底 6.0 | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 胴部は縦位にヘラナデ。最下位は横位、一部にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | |

44号住居(第181～184図、P L.53・54・190、第54表)

位置 25R～T-3・4グリッド。

重複 45・46・64号住居より後出で、49号住居より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-59°-E

規模 面積は25.04㎡、長辺(北東～南西)5.1m、短辺(北西～南東)4.98m、残存壁高は23～26cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁の南寄りから検出された。燃焼部は壁を掘り込んで構築され、現状の長さ118cm、焚き口部の幅69cm、袖を含めた幅は125cmを測る。1～7層はカマド埋没土、8～17層は掘り方充填土になる。6・14層は灰層である。カマド底面には支脚の礫が残り、袖の先端には土師器甕が据えられていた。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径77.5cm・短径66cm・深さ35cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 主柱穴となるピット4基が検出されている。P1は長径59.5cm・短径47cm・深さ44cm、P2は長径62cm・短径55.5cm・深さ45cm、P3は長径46.5cm・短径40cm・深さ45cm、P4は長径51cm・短径45cm・深さ53cmを測る。いずれも規模が大きく深い。P1-P2間の距離は3.3m、P2-P3間の距離3m、P3-P4間の距離3.15m、P4-P1間の距離は3.1mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層が住居埋没土、3・4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。北壁近くから土坑2基、またピット2基が検出された。土坑2は長径131.5cm・短径115cm・深さ30cm、土坑3は長径149cm・短径116cm・深さ41cmを測る。P5は長径33.5cm・短径23.5cm・深さ37cm、P6は長径26.5cm・短径21cm・深さ21cmである。掘り方の深さは約7～20cmを測る。

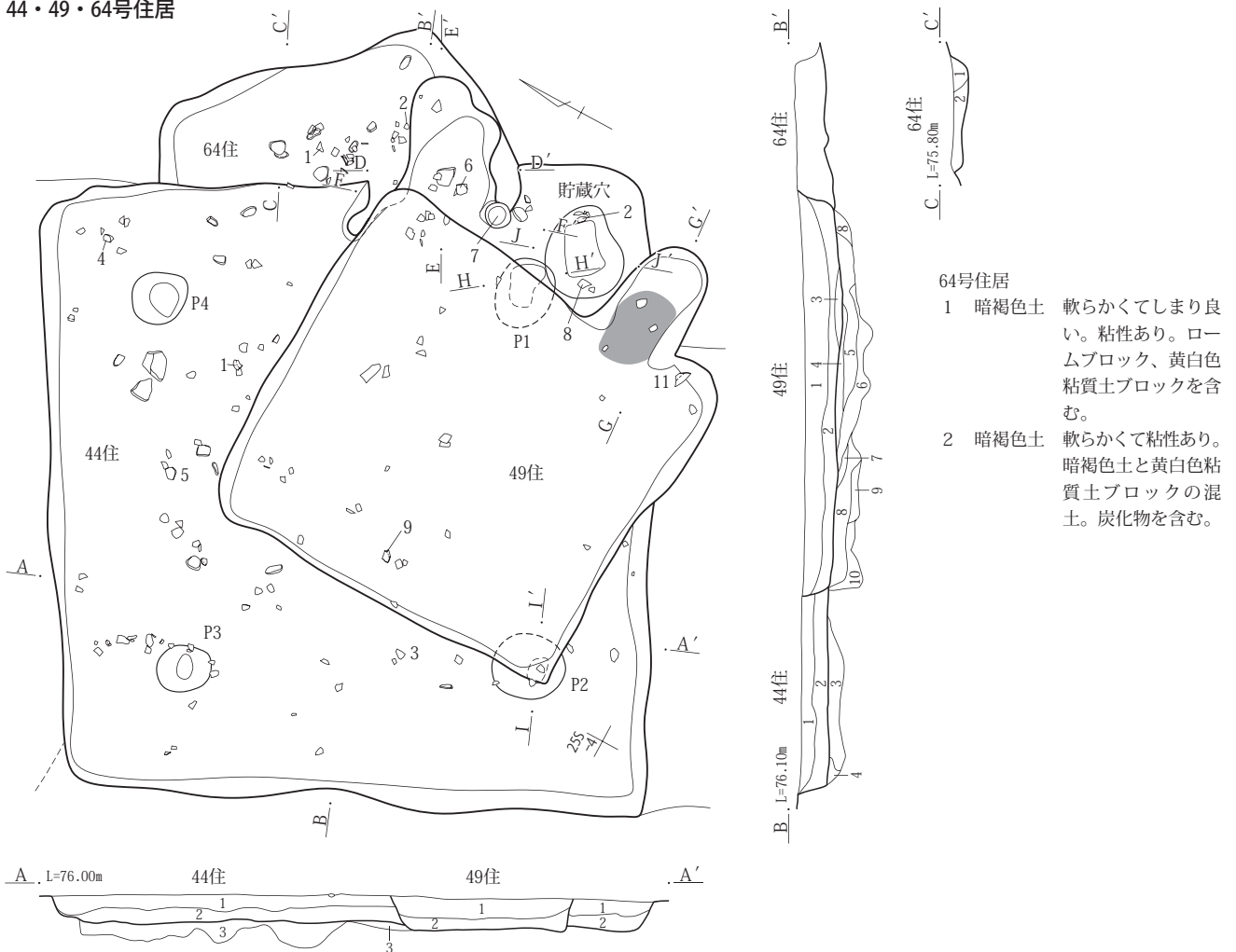
出土遺物 床面から土器片が出土している。土師器甕は、いずれもカマド内やその周辺から出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

第54表 3区64・44・49号住居出土遺物

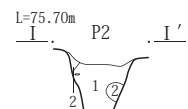
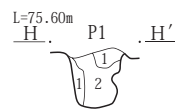
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|---------------------|--------|---------------------------------|---|----------------------------|
| 第183図 | 1 | 土師器 鉢 | 64住 +15 口縁～体部上位 | 口 19.7 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は2回に分けて横ナデ。体部はヘラ削り。 | 口縁部内外面 塗漆りか。 |
| 第183図 | 2 | 土師器 甕か | 64住 底部～胴部下位 | 底 7.7 | 細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい橙 | 胴部外面はヘラ磨き。底部はナデ。内面胴部はヘラナデ。 | |
| 第184図 | 1 | 土師器 杯 | 44住 +5 1/3 | 口 11.4 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第184図 | 2 | 土師器 杯 | 44住 貯蔵穴 1/4 | 口 14.0 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第184図 | 3 | 土師器 高杯? | 44住 +16 脚部片 | 底 8.4 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 裾部は横ナデ。内面上位はヘラ削り。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第184図 | 4 | 土師器 壺? | 44住 床直 底部片 | 底 6.4 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙 | 底部はヘラナデ。 | 外面炭素吸着。 |
| 第184図 | 5 | 土師器 甕 | 44住 掘り方 底部～胴部片 | 底 6.0 | 粗砂粒/良好/橙 | 胴部最下位は横位・その上は斜縦位のヘラ削り。底部はナデ。内面胴部はヘラナデ。 | 器面磨滅・底 部外面炭素吸 着・黒班状。 |
| 第184図 | 6 | 土師器 甕 | 44住 カマド 底部～胴部下位片 | 底 4.0 | 粗砂粒/良好/橙 | 胴部外面は斜位・横位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。 | 被熱のため変 色。 |
| 第184図 PL.190 | 7 | 土師器 甕 | 44住 カマド 口縁～胴部下位 | 口 21.3 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は3回に分けて斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱・内外面 やや磨滅・炭 素吸着 |
| 第184図 | 8 | 須恵器 甕 | 44住 貯蔵穴破片 | | 白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰・や や軟質/灰白 | ロクロ整形。横位にカキ目を施した後、把手を貼付。把手は先端が欠損。把手の左下にナデ。内面に横位のナデ。 | |
| 第184図 | 9 | 土師器 鉢 | 49住 +20 口縁～胴部1/4 | 口 10.0 | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第184図 | 10 | 須恵器 瓶か | 49住 口縁部片 | | 細砂粒/還元焰・や や不良/灰黄褐 | 外面に乱れた波状文が2段配される。 | 炭素吸着。 |
| 第184図 | 11 | 土師器 甕 | 49住 +7 口縁～胴部上位片 | 口 21.8 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦横位のヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 内外面とも炭 素吸着。 |

44・49・64号住居

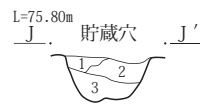


- 44号住居
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかい。ロームブロックと暗褐色土の混土。
 - 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。

- 49号住居
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
 - 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。
 - 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
 - 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土、暗褐色土の混土。
 - 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、炭化物を含む。
 - 8 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、炭化物粒子を含む。
 - 9 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
 - 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

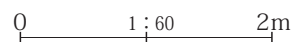


- 44号住居P 1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 44号住居P 2
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
 - 2 黄白色土 硬くしまる。暗褐色土を僅かに含む。

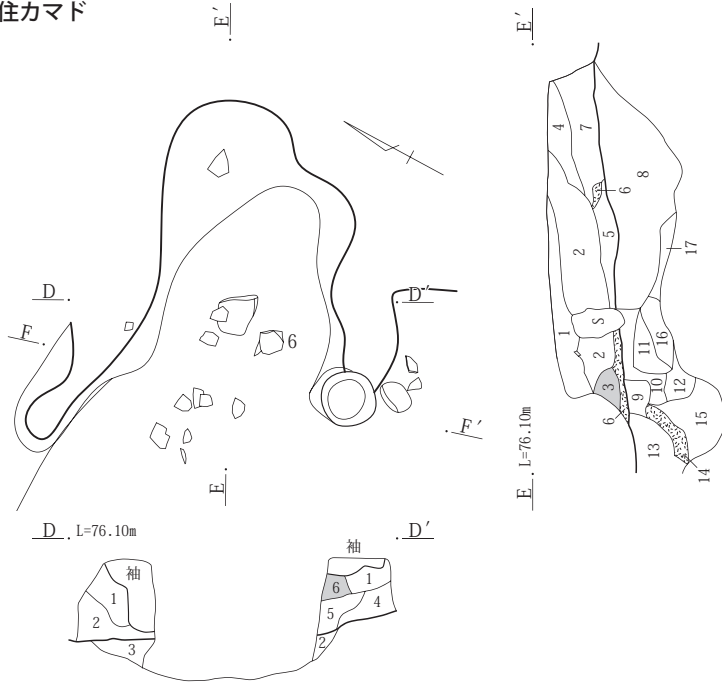


- 44号住居貯蔵穴
- 1 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を含む。
 - 3 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ロームブロックを多重に含む。

第181図 3区44・49・64号住居



44住カマド



44号住居カマド(D-D')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 軟らかい。黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを含む。
- 6 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを多量に含む。

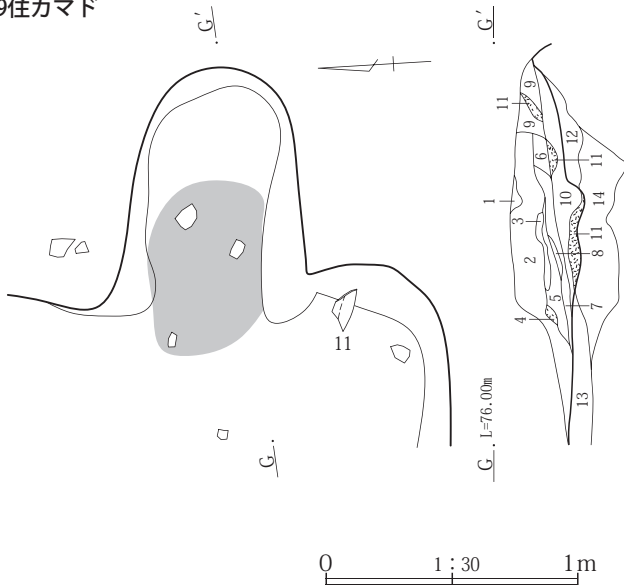
F., L=76.10m



44号住居カマド(E-E')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色軽石、ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、灰を含む。
- 3 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土、黄白色粘質土との混土。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色粘質土ブロック、白色軽石、焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色粘質土粒子を含む。
- 6 灰
- 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子、白色軽石を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に、暗褐色土、焼土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを多量に、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土ブロックを含む。
- 12 黄褐色土 非常に軟らかく粘性あり。黄白色粘質土を主体に焼土ブロックを含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 14 灰 焼土ブロックを含む。
- 15 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを多量に、黄白色粘質土粒子を含む。
- 16 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 17 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。

49住カマド

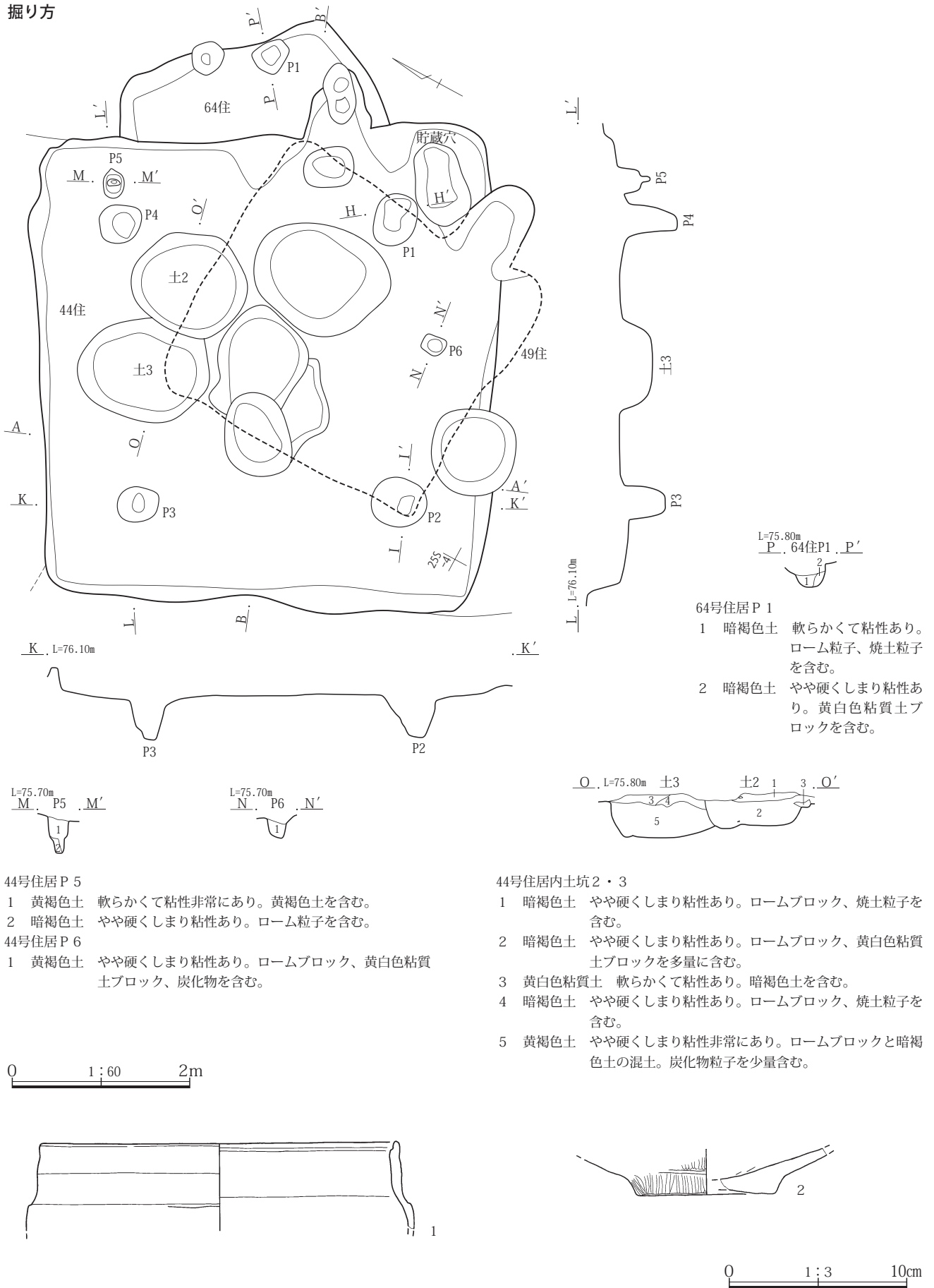


49号住居カマド

- 1 黄白色粘質土 硬くしまる。カマド構築材。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 黄白色粘質土 やや硬くしまる。暗褐色土、焼土粒子を少量含む。
- 4 灰
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 6 黄白色粘質土 やや硬くしまる。焼土粒子を少量含む。カマド構築材。
- 7 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 8 灰褐色土 やや硬くしまる。カマド構築材。
- 9 褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 10 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、炭化物を含む。
- 11 灰
- 12 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、ローム粒子を多量に、灰を含む。
- 13 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

第182図 3区44・49号住居カマド

掘り方



L=75.80m
P. 64住 P1 . P'

64号住居 P 1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

44号住居 P 5

- 1 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。

44号住居 P 6

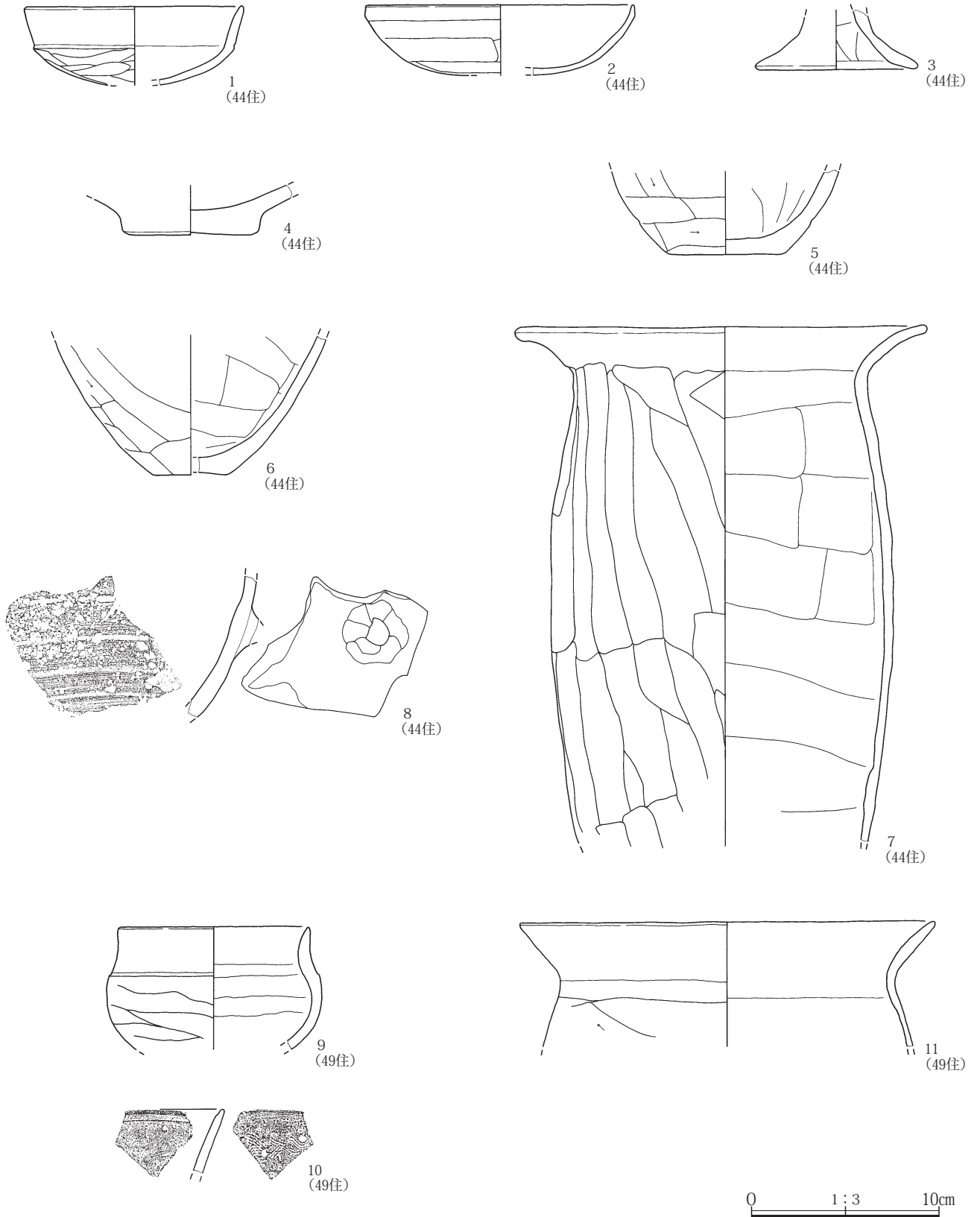
- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物を含む。

44号住居内土坑 2・3

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 3 黄白色粘質土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。ロームブロックと暗褐色土の混土。炭化物粒子を少量含む。

第183図 3区44・49・64号住居掘り方と64号住居出土遺物

第3節 3区の遺構と遺物(1)



第184図 3区44・49号住居出土遺物

49号住居(第181～184図、P L .53、第54表)

位置 25S-3グリッド。

重複 44・46・64号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-93°-E

規模 面積は9.81㎡。長辺(南北)3.45m、短辺(東西)3.03m、残存壁高は23～30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁の南寄りから検出された。燃焼部は壁を掘り込んで構築され、現状の長さ100cm、焚き口部の幅42cmを測る。1～11層はカマド埋没土、12～14層は掘り方充填土になる。4・11層は灰層である。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土、4～10層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。しかし44号住居との重複もありそのあり方は明瞭ではない。掘り方の深さは約13～30cmを測る。

出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

64号住居(第181・183図、P L .65・66、第54表)

位置 25S・T-3グリッド。

重複 44・49号住居より前出。

形状 全容は不明であるが方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は2.24㎡。長辺(北東～南西)2.64m、短辺(北西～南東)1.45m、残存壁高は30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。ピット1基が検出された。P1は長径40cm・短径38cm・深さ14cmを測る。掘り方の深さは約7～13cmを測る。

出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から古墳時代に比定される。

45号住居(第185・186図、P L .53、第55表)

位置 25S-4、25T-3・4グリッド。

重複 44号住居より前出。

形状 全容は不明であるが隅丸方形を呈するものと思わ

れる。**主軸方位** 不明。

規模 現状での面積は8.3㎡、長辺(東西)5.73m、短辺(南北)2.52m、残存壁高は10cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 確認できなかった。長さ48cm、幅18cmの焼土の堆積が西壁の近くに認められた。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 明瞭な柱穴は確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1層が住居埋没土、2～5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。土坑1基、ピット3基が検出された。土坑は長径102cm・短径52.5cm・深さ13cmを測る。P1は長径36.5cm・短径28cm・深さ18.5cm、P2は長径30cm・短径28.5cm・深さ20.5cm、P3は長径35.5cm・短径31.5cm・深さ17cmを測る。掘り方の深さは約5～30cmを測る。

出土遺物 中央部床面から土器片がややまとまって出土する。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

46号住居(第187図、P L .53・54・190、第56表)

位置 25R・S-3、25R-4グリッド。

重複 44・49・51号住居より前出で、53号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 全容は不明であるが方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は6.99㎡。長辺(北東～南西)4.03m、短辺(北西～南東)2.94m、残存壁高は10cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

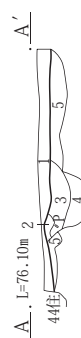
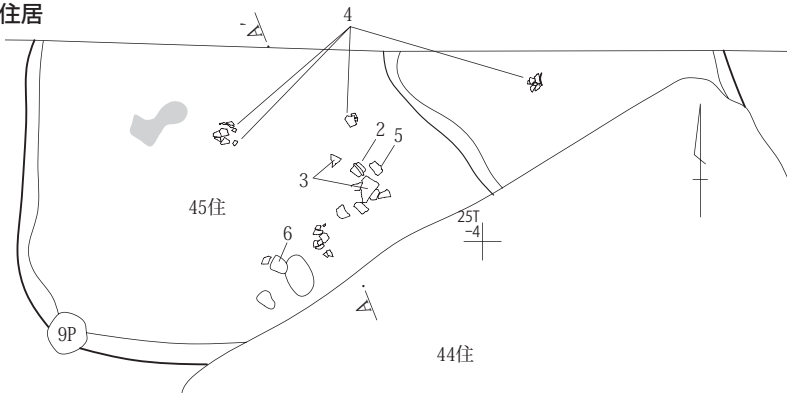
カマド 確認できなかったが、貯蔵穴と柱穴のあり方から考えると東壁に設置されていたものと思われる。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径83.5cm・短径82cm・深さ35cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 主柱穴となるピット2基が検出されている。P1は長径37.5cm・短径36.5cm・深さ20cm、P2は長径37cm・短径29cm・深さ25cmを測る。P1-P2間の距離は2mを測る。

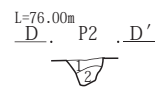
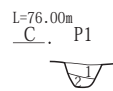
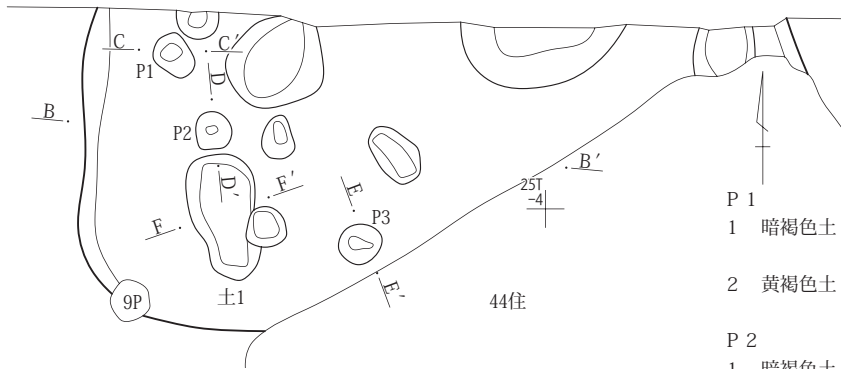
第3節 3区の遺構と遺物(1)

45号住居



- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、灰を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子、ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。

掘り方

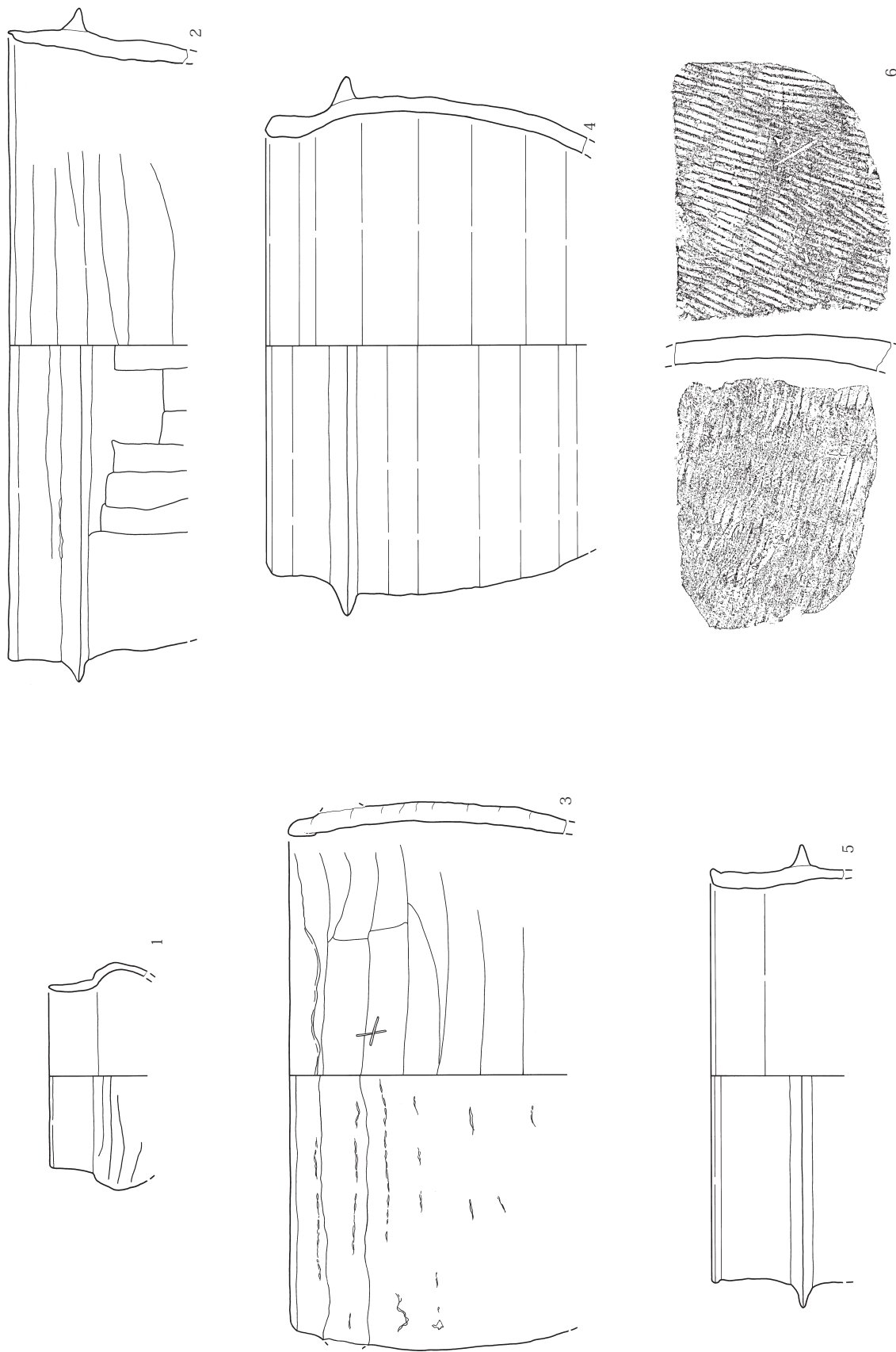


- P 1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
 - 2 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。
- P 2
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- P 3
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 住居内土坑 1
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色粒子を含む。
 - 2 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体に暗褐色土を含む。

第185図 3区45号住居

第55表 3区 45号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|------------|----------------|-----|------|--------------------|---|------------|
| 第186図 | 1 | 土師器 小型壺 | 口縁~胴部上位片 | □ | 8.9 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第186図 | 2 | 土師器 羽釜 | + 5 口縁~胴部上位片 | □ | 31.0 | 粗砂粒/良好/灰褐 | 口縁部は横ナデ。成形後、断面三角形の鑊を貼付。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部は強い調子でヘラナデ、やや粗雑。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第186図 | 3 | 土師器 羽釜 | + 5 口縁~胴部中位1/4 | □ | 24.0 | 粗砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位に弱いナデを施すが、輪積み痕が消されず残る。鑊は剥落。内面胴部は横位にナデ。内面ヘラで「十」か。 | 被熱・内面磨滅。 |
| 第186図 | 4 | 須恵器 羽釜 | 床直 口縁~胴部片 | □ | 11.4 | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形。成形後、断面三角形の鑊を貼付。 | |
| 第186図 | 5 | 須恵器 羽釜 | 口縁部片 | □ | 20.2 | 粗砂粒/酸化焰/橙 | ロクロ整形。成形後、断面三角形の鑊を貼付。 | |
| 第186図 | 6 | 須恵器 甗 | 床直 胴部片 | | | 白色鋳物粒/還元 焰/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き痕。内面は平行アテ具痕。内面はあまり磨耗は見られないが、割れ口の一部が再調整されている部分もあり、皿などに二次利用された可能性もあるか。 | |



第186図 3区45号住居出土土遺物

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土、4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。掘り方の深さは約8～15cmを測る。

出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から5世紀後半に比定される。

47号住居(第188～190図、P L.55・190・191、第57表)

位置 25R・S-4グリッド。

重複 51号住居より前出で、50号住居と重複するが新旧46号住居

関係不明。

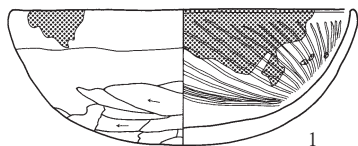
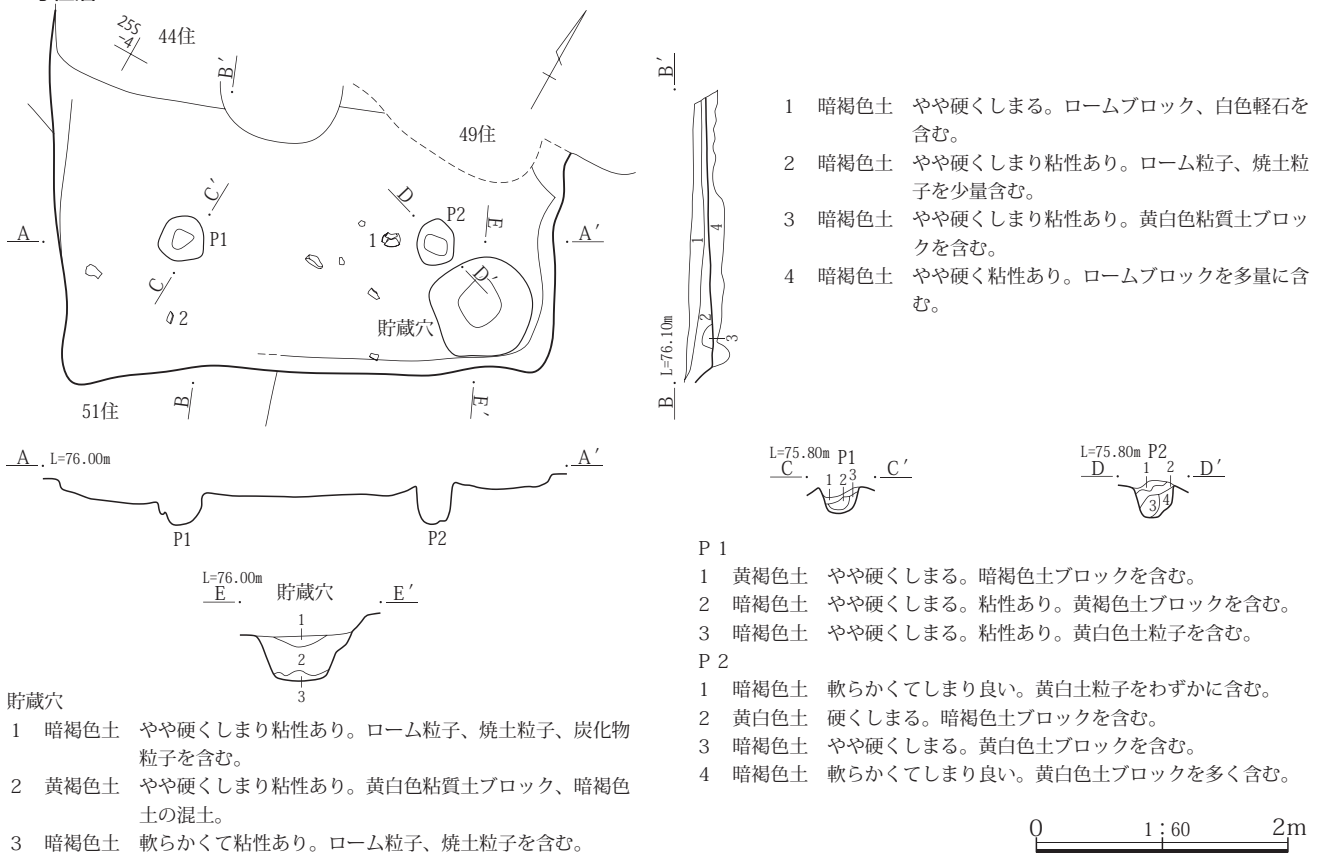
形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-36°-E

規模 面積は9.1㎡。長辺(北東～南西)3.55m、短辺(北西～南東)3.25m、残存壁高は10cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁のほぼ中央から検出された。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、現状の長さ90cm、焚き口部の幅20cm、袖を含めた幅は64cmを測る。1～7層はカ



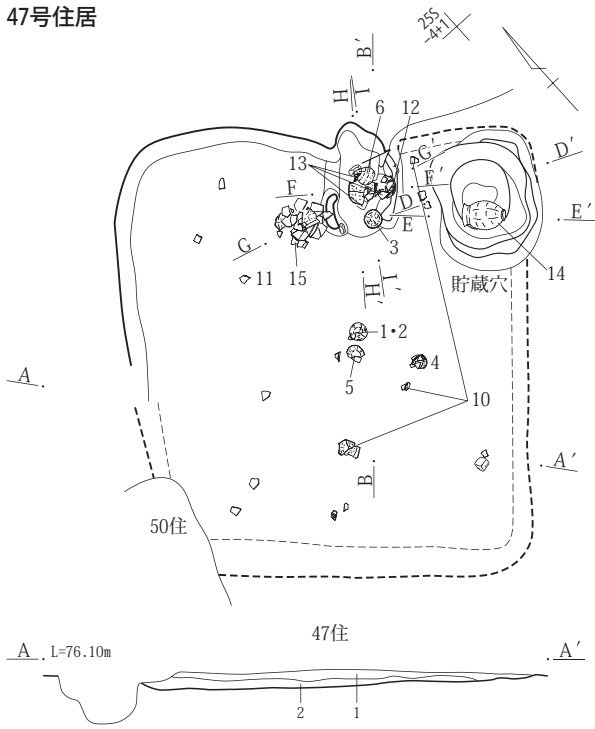
0 1:3 10cm

第187図 3区46号住居と出土遺物

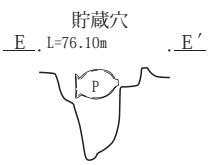
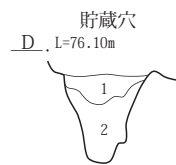
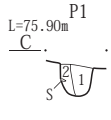
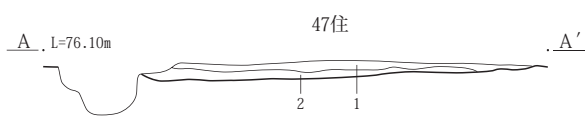
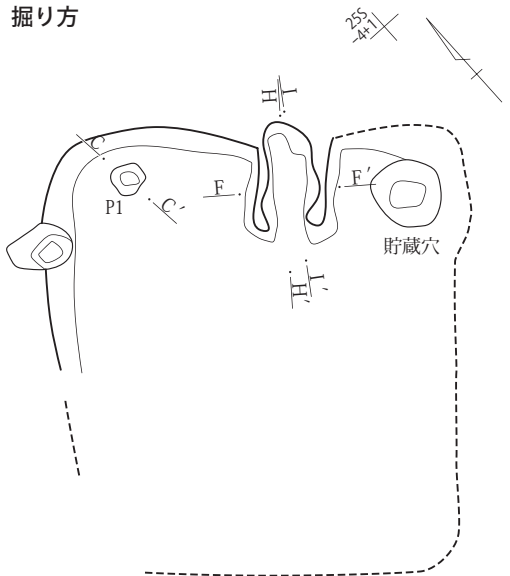
第56表 3区46号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|----------------|-----|------|---|-----------------------|---|---------|
| 第187図 PL.190 | 1 | 土師器 杯 | +5 口縁部1/2欠損 | 口 | 13.4 | 高 | 5.3 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。 | 内外面煤付着。 |
| 第187図 | 2 | 土師器 甕 | +10 底部～胴部片 | 底 | 7.0 | | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 胴部はヘラ削り、ナデ。底部はナデ。内面胴部はナデ。 | |

47号住居



掘り方



47号住居

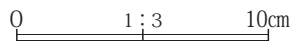
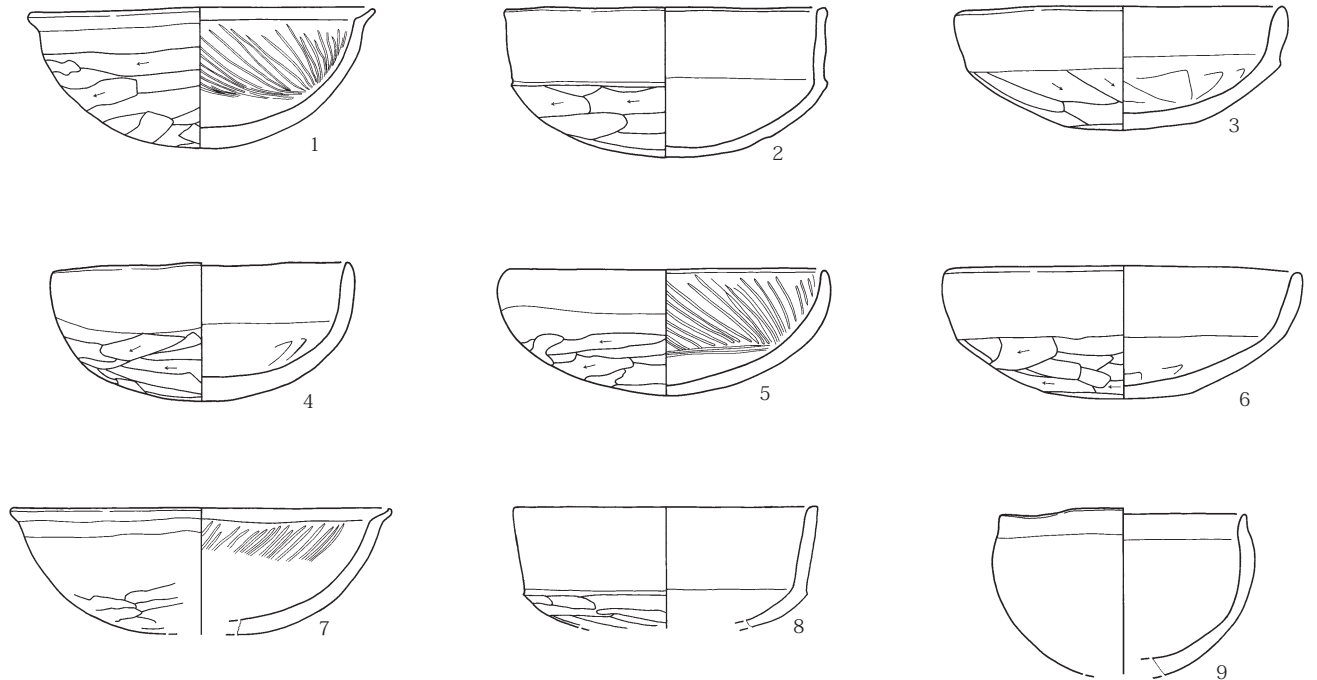
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い粘性あり。ロームブロックを多量に、ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量に、ロームブロックを含む。カマドフク土。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、白色粒子を含む。

P 1

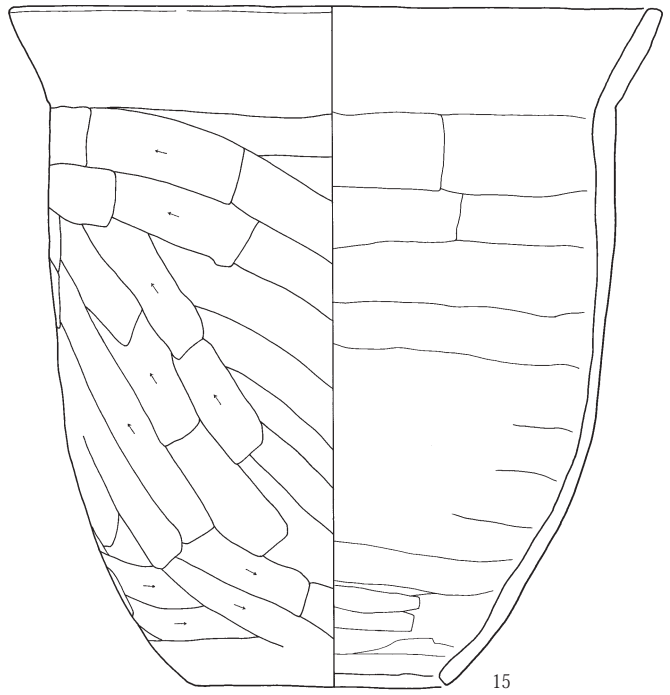
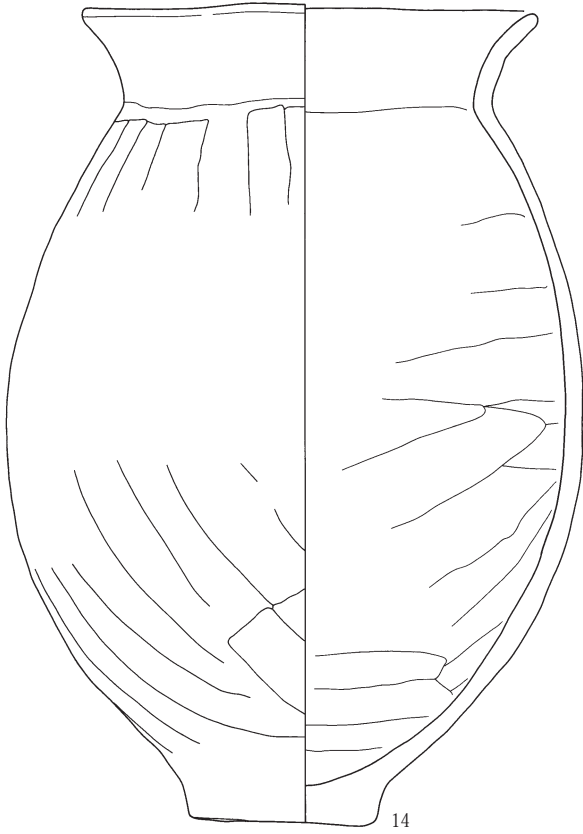
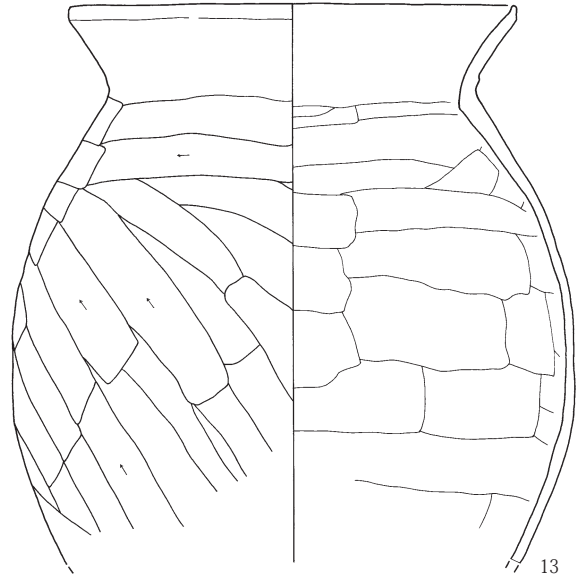
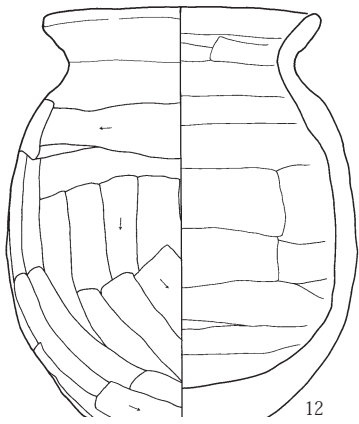
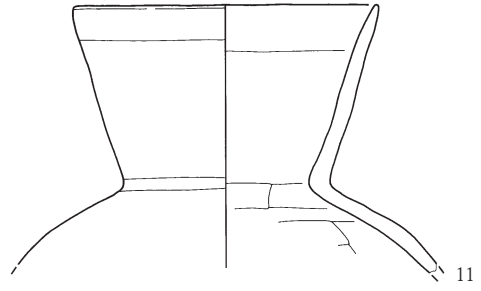
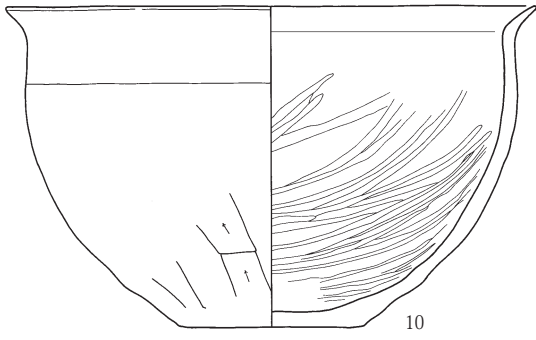
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 硬くしまる。ロームブロックを多量に含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。



第188図 3区47号住居と出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第189図 3区47号住居出土遺物(2)

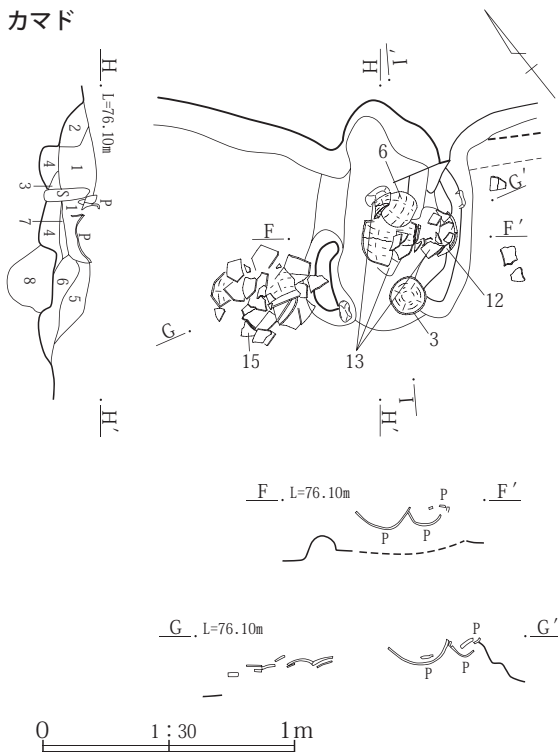
マド埋没土、8層は掘り方充填土になる。カマド底面には支脚の礫が残り、袖の先端には袖石が据えられていた。
貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径100cm・短径80cm・深さ70cmの楕円形を呈する。埋没土は2層に分かれた。埋没土上層から土師器の完形の甕が出土している。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～5層が住居埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。

出土遺物 カマド内で土師器杯(第188図3)、土師器甕
カマド



(第189図12・13)、カマド袖左で土師器甕(同15)が出土する。貯蔵穴内ではほぼ完形の土師器甕(同14)が出土する。その他中央部でややまとまりがある。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

48号住居(第191～193図、P L.56・191、第58表)

位置 15S・T-18・19グリッド。

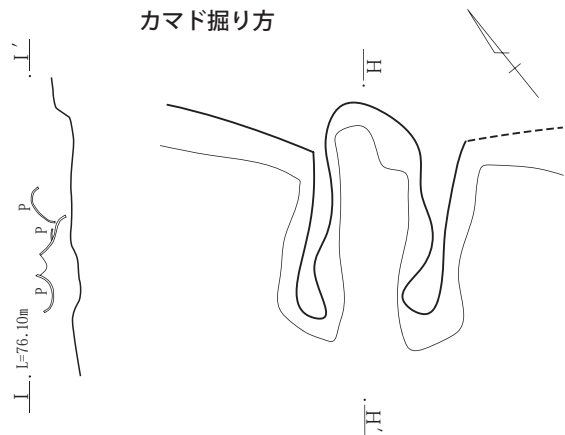
重複 167号住居、3号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 確認面から床面まで浅かったために不明瞭であったが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-78°-E

規模 推定面積は19.8㎡。長辺(南北)4.83m、短辺(東西)

カマド掘り方



カマド

- 1 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土を多量に、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 3 黄白色粘質土 やや硬くしまる。支脚の押さえ。
- 4 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子をやや多く含む。
- 7 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土を多量に、ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 8 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

第190図 3区47号住居カマド

第57表 3区47号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|-------------|--------|-------------|--------|--------------------|------------------------------|--|---------|
| | | | | 口 | 高 | 底 | | | | |
| 第188図 PL.190 | 1 | 土師器 杯 | +3 口縁一部欠 | 口 | 13.5 | 高 | 5.6 | 粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐 | 内斜口縁。口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り、間にナデの部分を残す。内面に撫で後、底部上半に放射状へら磨き。 | 内面やや磨滅。 |
| 第188図 PL.190 | 2 | 土師器 杯 | +3 完形 | 口 | 12.4 | 高 稜 | 5.9 12.9 | 細砂粒・白粒/良好 /橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。 | |
| 第188図 PL.190 | 3 | 土師器 杯 | カマド ほぼ完形 | 口 底 | 12.7 5.9 | 高 稜 | 4.9 12.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。 | |
| 第188図 PL.190 | 4 | 土師器 杯 | +3 4/5 | 口 | 11.5 | 高 | 5.4 | 細砂粒・褐粒/良好 /にぶい褐 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちへら削り。内面は底部から体部にへらナデ。 | |
| 第188図 PL.190 | 5 | 土師器 杯 | +10 3/4 | 口 | 12.5 | 高 最 | 4.9 13.1 | 細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 赤褐 | 口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちへら削り。内面は体部から口縁部に斜放射状へら磨き。 | |
| 第188図 PL.190 | 6 | 土師器 杯 | カマド ほぼ完形 | 口 底 | 13.7 5.4 | 高 稜 | 5.2 12.9 | 細砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。 | |
| 第188図 | 7 | 土師器 杯 | 口縁～体部 | 口 | 14.8 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部と体部最上位は横ナデ。体部にはナデの部分を残す。底部はナデに近い手持ちへら削り。内面体部は斜放射状にへら磨き。 | 内面磨滅。 |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-------------------|-----|-------------|------------------------|----------------------|---|
| 第188図 | 8 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 12.0 | | 粗砂粒少/良好/に ぶい赤褐 | 口唇部の先端は平坦面をなす。口縁部は横ナデ。底部は丁寧な手持ちヘラ削り。内面はナデ。 |
| 第188図 PL.190 | 9 | 土師器 小鉢 | 1/3 | 口 | 9.6 | | 粗砂粒多/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部はヘラ削りと考えられる。 |
| 第189図 | 10 | 土師器 鉢 | 床直 1/4 | 口底 | 20.6 7.0 | 高 12.6 | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 外面は磨滅、著しく整形不明。外面胴部下位のヘラ削り。底部ヘラ削り。内面はナデの上に斜位のヘラ磨き。 |
| 第189図 | 11 | 土師器 埴 | +4 口縁～体 部上位片 | 口 | 12.0 | | 細砂粒/良好/にぶ い黄褐 | 口縁部は横ナデ。体部はナデか。内面体部は横位にヘラナデ。 |
| 第189図 PL.190 | 12 | 土師器 小型甕 | カマド 2/3 | 口底 | 10.6 6.4 | 高 16.8 胴 13.7 | 細砂粒/良好/浅黄 橙 | 口縁部は横ナデ、頸部はナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部・頸部までヘラナデ。 |
| 第189図 PL.190 | 13 | 土師器 甕 | カマド 口縁部 ～胴部下位片 | 口 | 19.4 | 胴 22.0 | 細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 |
| 第189図 PL.191 | 14 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 口縁一部欠 | 口底 | 17.6 7.0 | 高 32.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位・斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位、斜縦位のナデ。 |
| 第189図 PL.191 | 15 | 土師器 甕 | +9 胴部一部欠損 | 口底 | 24.9 9.8 | 高 26.7 孔 9.8 | 細砂粒・角閃石・褐 粒/良好/赤褐 | 口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 |

第58表 3区 48号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|------------------|-----|------|--------------------|----------------------|--|
| 第192図 | 1 | 土師器 土釜 | カマド 口縁～ 胴部中位片 | 口 | 28.8 | | 粗砂粒/良好/橙 | 外面は不定方向のナデ。内面は横位のナデ。 |
| 第192図 | 2 | 形象埴輪 馬形 | カマド 脚下位 | 底 | 10.5 | | 細砂粒・褐粒/良好 /橙 | 外面は縦位のハケ目(2cm7本)、底面はヘラナデ。内面はヘラナデ。 |
| 第193図 PL.191 | 3 | 形象埴輪 馬形 | カマド 脚中位 | | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 外面は縦位のハケ目(2cm11本)、内面はヘラナデ。 |
| 第193図 PL.191 | 4 | 形象埴輪 不明 | カマド 基部片 | 底 | 12.2 | | 細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐 | 外面は縦位のハケ目(2cm13本)、底面はヘラナデ。内面もハケ目。 |
| 第193図 | 5 | 埴輪 形象 | カマド 基部片 | | | | 粗砂粒・片岩/良好 /明赤褐 | 小径で大きな変化が無いことから形象埴輪の基部の可能性 がある。外面は縦ハケ(2cmに12本)。内面は縦ハケ。 |
| 第193図 | 6 | 埴輪 円筒 | カマド 基底部破片 | | | | 粗砂粒・海綿骨針/ 良好/明赤褐 | 外面は縦ハケ(2cmに6本)。底部近くはヘラ状工具押圧に よる底部調整。基部粘土板の重ねは下から見て右を上にする。 内面は縦ハケ、ナデ。 |
| 第193図 | 7 | 埴輪 円筒 | カマド 基底部破片か | | | | 粗砂粒・海綿骨針/ 良好/明赤褐 | 外面は縦ハケ(2cmに8本)。内面は縦ハケに縦位のナデを 重ねる。 |
| 第193図 | 8 | 埴輪 円筒? | カマド 破片 | | | | 小礫・粗砂粒・片岩 /普通/橙 | 外面は縦ハケ(2cmに8本)。内面はナデか。形象埴輪の基 部の可能性もあるか |
| 第193図 | 9 | 埴輪 円筒 | カマド 破片 | | | | 小礫・粗砂粒・片岩 /普通/明赤褐 | 外面は縦ハケ(2cmに6本)。内面は縦位のナデ。 |

4.06m、残存壁高は5cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央部に硬化面、カマドの前面から床面中央部にかけて炭化物の堆積が認められた。

カマド 東壁の南寄りから検出された。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、現状の長さ97cm、焚き口部の幅47cm、袖を含めた幅は90cmを測る。1～4層はカマド埋没土、1・2層は灰層と焼土である。土器片が多く出土している。袖石と袖の先端には土師器甕が据えられていた。

貯蔵穴 カマド周辺から明確な貯蔵穴は確認できなかったが、北東隅に位置する1号土坑とした遺構が貯蔵穴になる可能性もある。長径66.5cm・短径58.5cm・深さ10cmの楕円形を呈する。

柱穴 明瞭な主柱穴は不明であるが、ピット9基が検出されている。P1は長径35.5cm・短径29cm・深さ33cm、P2は長径24.5cm・短径20cm・深さ32cm、P3は長径

40cm・短径38.5cm・深さ37cm、P4は長径58cm・短径50cm・深さ35cm、P5は長径44.5cm・短径42.5cm・深さ30cm、P6は長径37cm・短径35cm・深さ19.5cm、P7は長径29cm・短径29cm・深さ16cm、P8は長径39cm・短径36.5cm・深さ35cm、P9は長径36.5cm・短径33cm・深さ60cmを測る。P5・P9の2つは柱穴になる可能性もあるが、これに対応するピットは検出されていない。

周溝 確認できなかった。

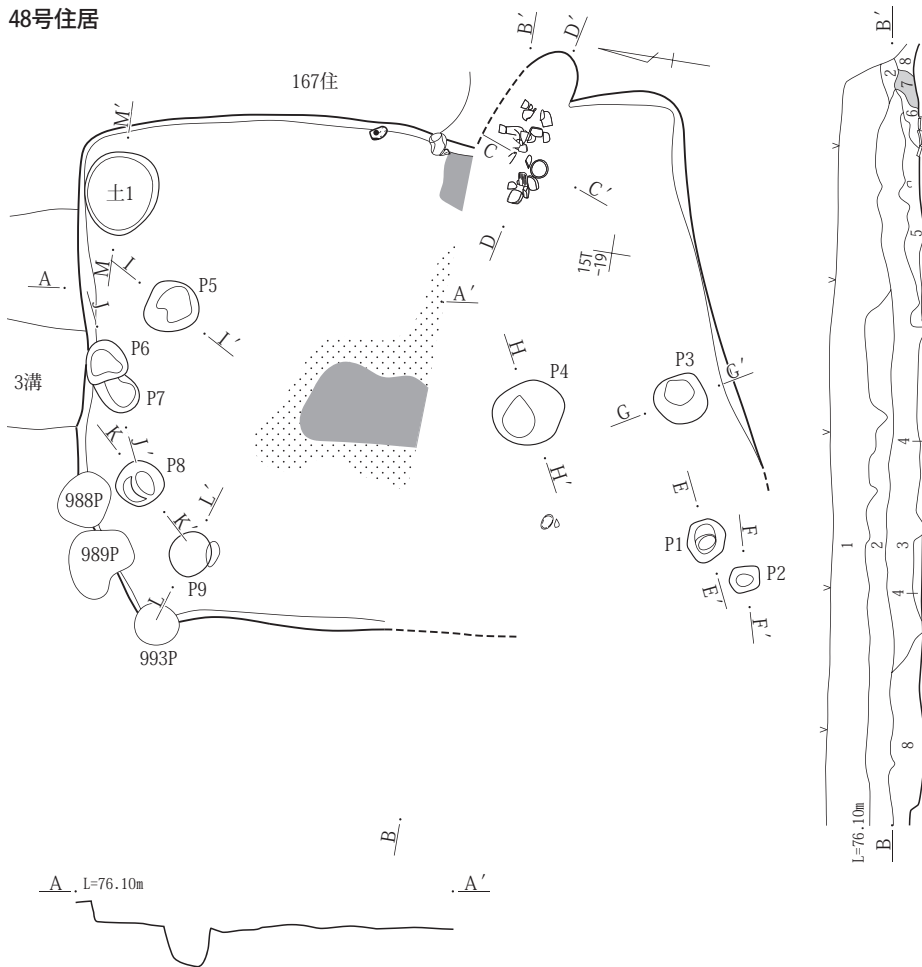
埋没土 自然埋没土と思われる。セクションB-B'の3～8層が住居埋没土になる。7層はカマドの焼土である。

掘り方 全体的に凹凸がある。土坑1基、ピット1基が検出された。土坑2は長径88.5cm・短径67cm・深さ68cm、P10は長径50cm・短径45cm・深さ28cmである。掘り方の深さは約5cmを測る。

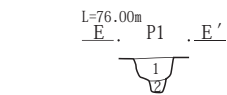
出土遺物 カマド周辺で埴輪片がまとめて出土している。

時期 出土遺物から古墳時代以降である。

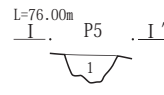
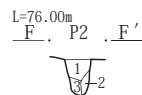
48号住居



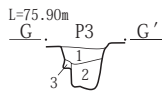
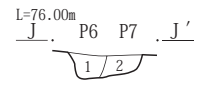
- 1 表土 浅間A軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子、白色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を含む。2層よりも暗い色調。
- 4 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 6 黄白色粘質土 やや硬い。焼土を多量に含む。カマド構築材。
- 7 赤褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、焼土粒子を多量に含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。



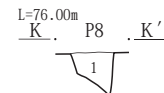
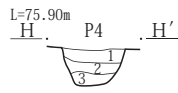
- P 1
- 1 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 - 2 黒褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を僅かに含む。
- P 2
- 1 暗褐色土 ややしまり粘性あり。ローム粒子を僅かに含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
 - 3 黒褐色土 軟らかくてしまらない。



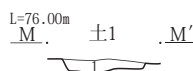
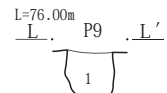
- P 5
- 1 暗褐色土 浅間B軽石は含まず。炭化物粒子を微量含む。
- P 6・P 7
- 1 黒褐色土 浅間B軽石混土。ローム粒子、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 浅間B軽石は含まず。ローム粒子を含む。



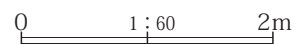
- P 3
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色細粒を僅かに含む。
 - 2 黒褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を僅かに含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多く含む。
- P 4
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロックを含む。
 - 3 暗褐色土 しまらない。ローム粒子を少量含む。



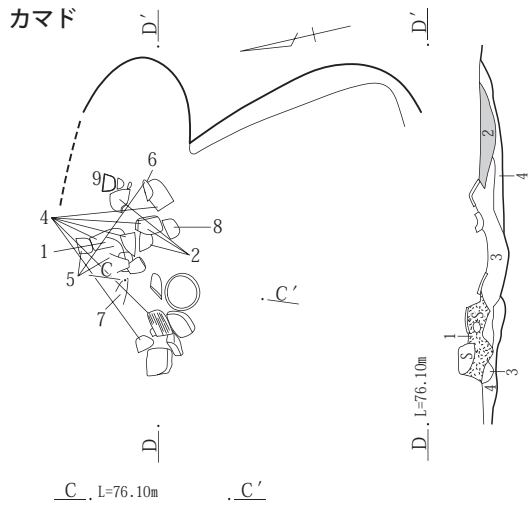
- P 8
- 1 暗褐色土 浅間B軽石は含まず。
- P 9
- 1 暗褐色土 浅間B軽石は含まず。



- 住居内土坑 1
- 1 暗褐色土 浅間B軽石は含まず。ローム粒子を含む。軽石粒子を少量含む。

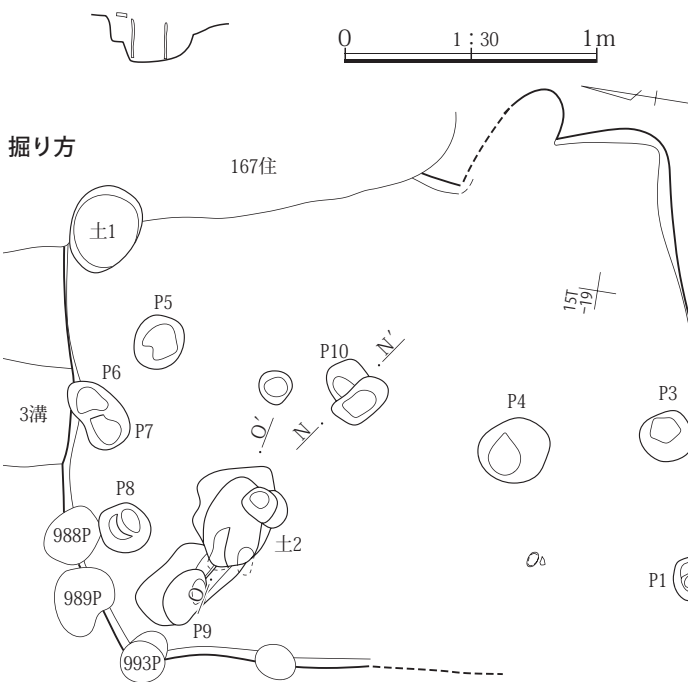


第191図 3区48号住居

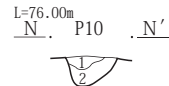


カマド

- 1 灰
- 2 焼土
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、灰、ロームブロックを含む。
- 4 黄白色粘質土 やや硬い。焼土を多量に含む。カマド構築材。

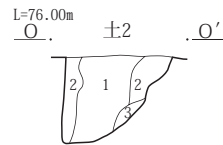


掘り方



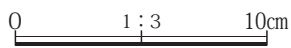
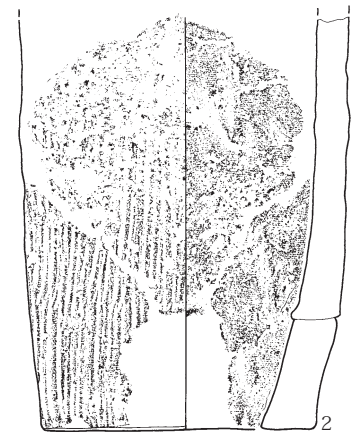
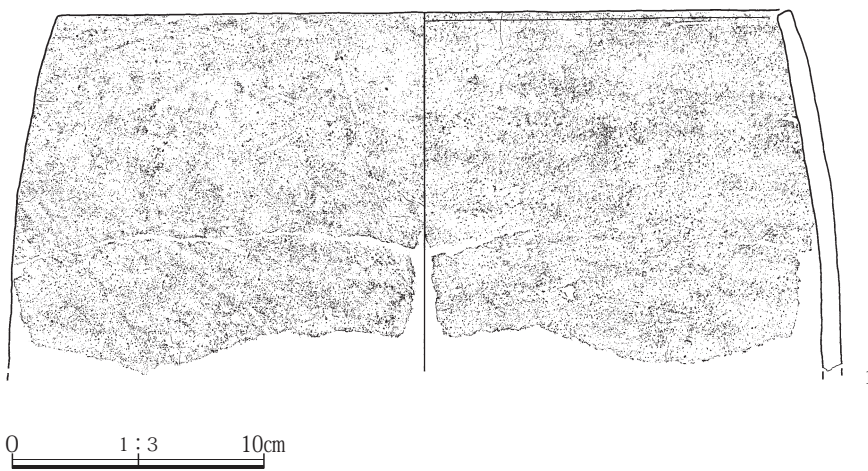
P10

- 1 暗褐色土 浅間B軽石は含まず。
- 2 暗褐色土 浅間B軽石は含まず。ローム粒子を含む。

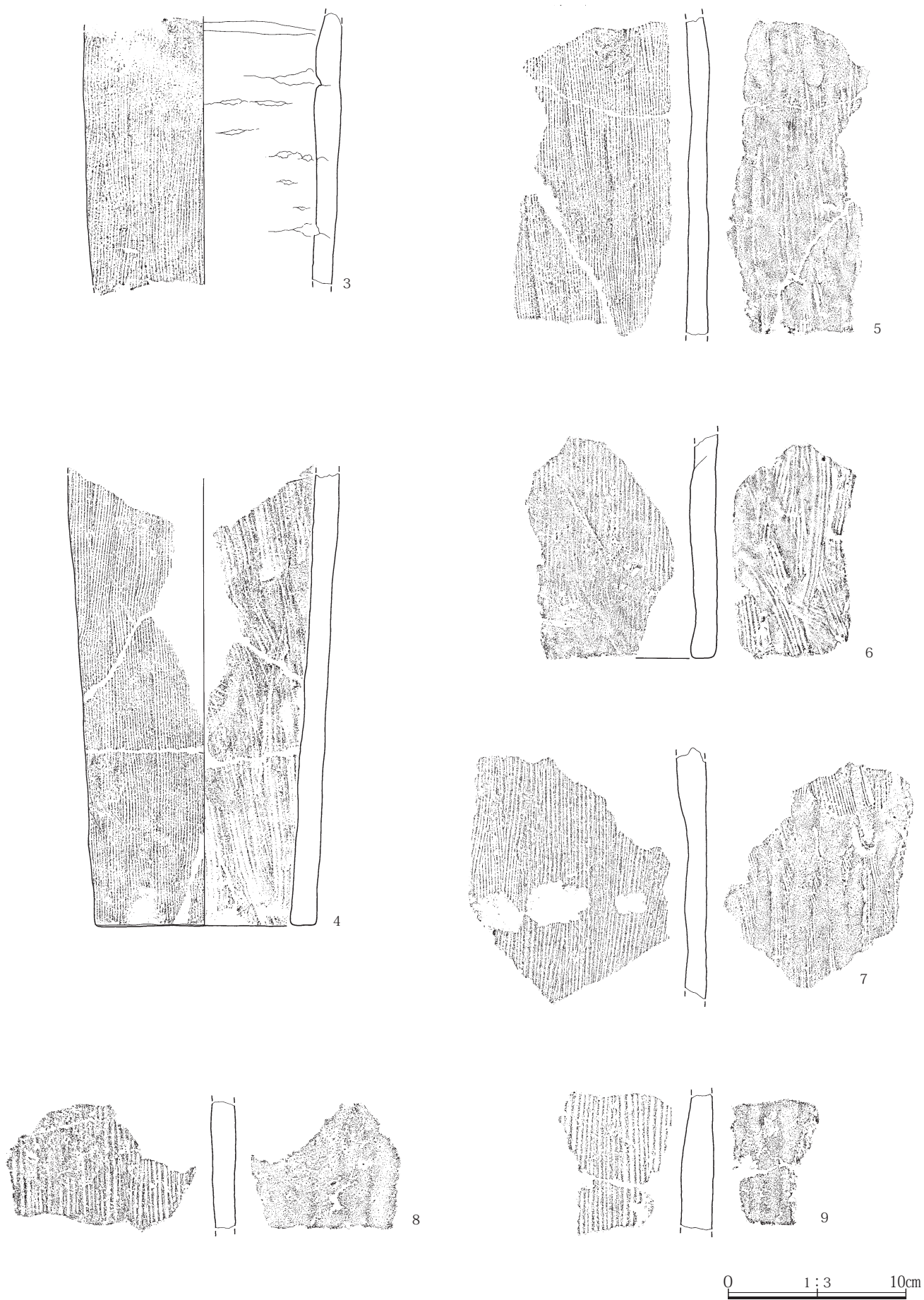


住居内土坑2

- 1 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く含む。



第192図 3区48号住居カマド・掘り方と出土遺物(1)



第193図 3区48号住居出土遺物(2)

51号住居(第194・195図、P L .57・58、第59表)

位置 25Q・R-3・4グリッド。

重複 46・47号住居より後出で、53号住居、32号土坑と重複するが新旧関係不明。

形状 調査区外に延びていることや、確認面から床面まで浅かったために不明瞭であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。**主軸方位** N-96°-E

規模 現状での面積は20.37㎡。長辺(東西)5.02m、短辺(南北)4.82m、残存壁高は3~5cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁中央の内側から検出された。燃焼部は床面を掘り込んで構築されているが、不明瞭である。現状の長さ85cm、焚き口部の幅47cm、袖を含めた幅は74cmを測る。1層は焼土主体、2層は掘り方充填土である。支脚の礫が残っていた。土器片が出土している。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 明瞭な支柱穴は不明であるが、ピット3基が検出されている。P1は長径58cm・短径50cm・深さ20cm、P2は長径23cm・短径20cm・深さ21cm、P3は長径52.5cm・短径42cm・深さ23.5cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 ほとんど検出することはできなかった。1層は住居埋没土、2~5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。土坑1基、ピット3基が検出された。土坑1は長径105.5cm・短径72.5cm・深さ65cm、P4は長径28cm・短径27cm・深さ16cm、P5は長径27cm・短径26cm・深さ31cm、P6は長径30cm・短径27cm・深さ41cmである。掘り方の深さは約5~15cmを測る。

出土遺物 カマド周辺や床面にややまとまって土器片が出土している。

時期 出土遺物から9世紀代に比定される。

53号住居(第196図、P L .58)

位置 25R-3・4グリッド。

重複 46・51号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 重複が激しいために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 計測不能である。残存壁高は15cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。

掘り方 全体的に凹凸がある。

出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。

時期 時期不明。

54号住居(第197~199図、P L .58・59・191、第60表)

位置 25R・S-5グリッド。

重複 65号住居より後出で、56号住居より前出。

形状 重複が激しいために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状では、東西2.55m、南北2.16m、残存壁高は11cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁から検出された。燃焼部は床面を掘り込んで構築されているが、不明瞭である。現状の長さ70cm、幅40cmを確認できる。1~3層・5層はカマド埋没土、6・7層は掘り方充填土である。4層は50号住居の埋没土になる。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置しているものと思われる。長径60cm・短径58cm・深さ41cmの楕円形を呈する。埋没土は5層に分かれた。

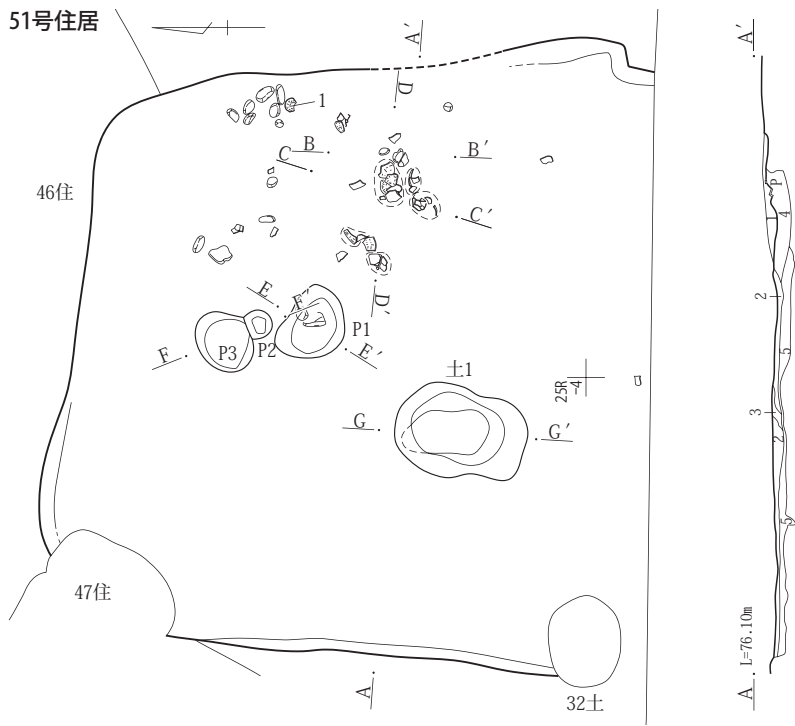
柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1層が住居埋没土、2~4層は掘り方充填土、5・6層はピット埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。ピット1基が検出された。P1は長径58cm・短径50cm・深さ45cmを測る。

出土遺物 カマド周辺や床面から土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。



51号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。茶褐色土ブロック、焼土粒子、ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

P 1

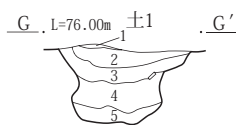
- 1 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で、暗褐色土を含む。

P 2

- 1 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。

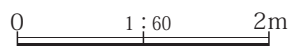
P 3

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。

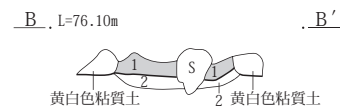
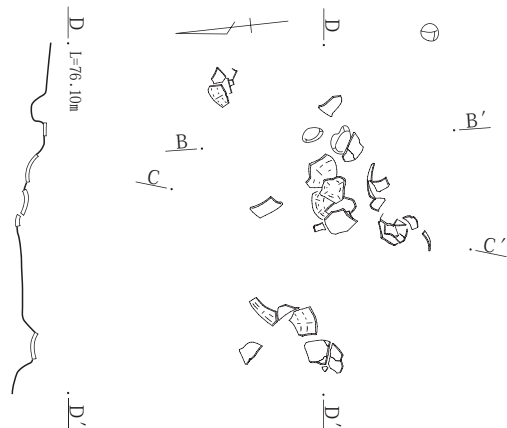


住居内土坑1

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

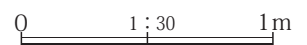


カマド



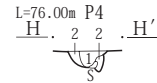
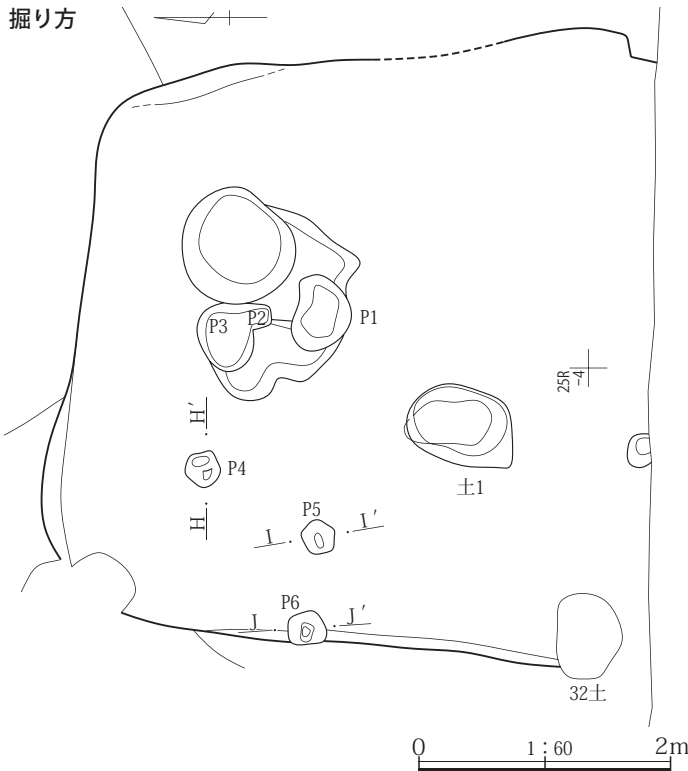
カマド

- 1 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土を多量に黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、灰を含む。

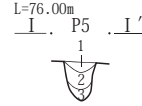


第194図 3区51号住居

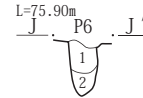
第3節 3区の遺構と遺物(1)



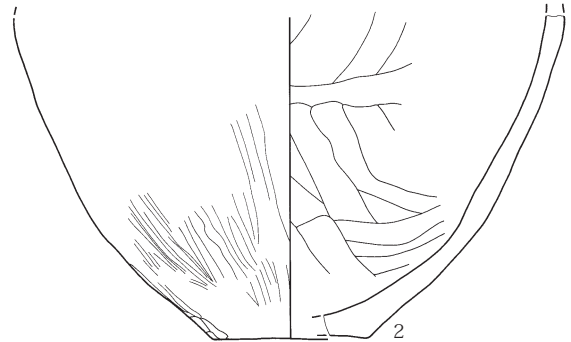
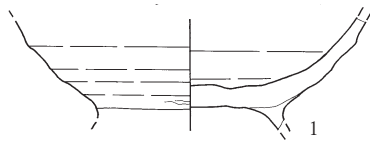
- P 4
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。



- P 5
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 非常に軟らかい。ローム粒子をごく少量含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を含む。



- P 6
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。1層よりも暗い色調。



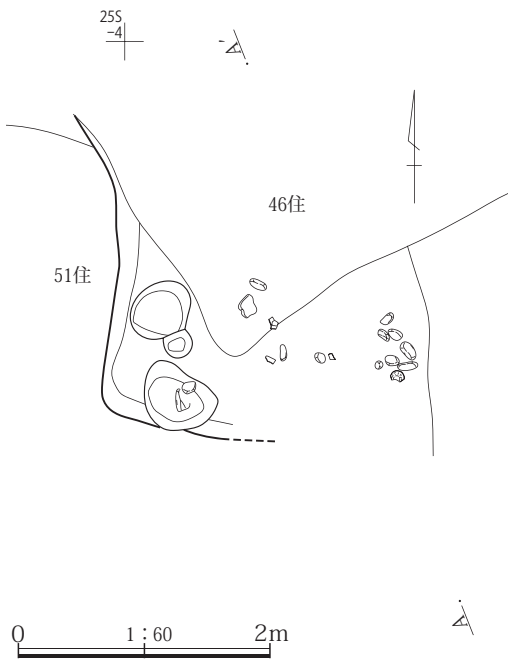
0 1:3 10cm

第195図 3区51号住居掘り方と出土遺物

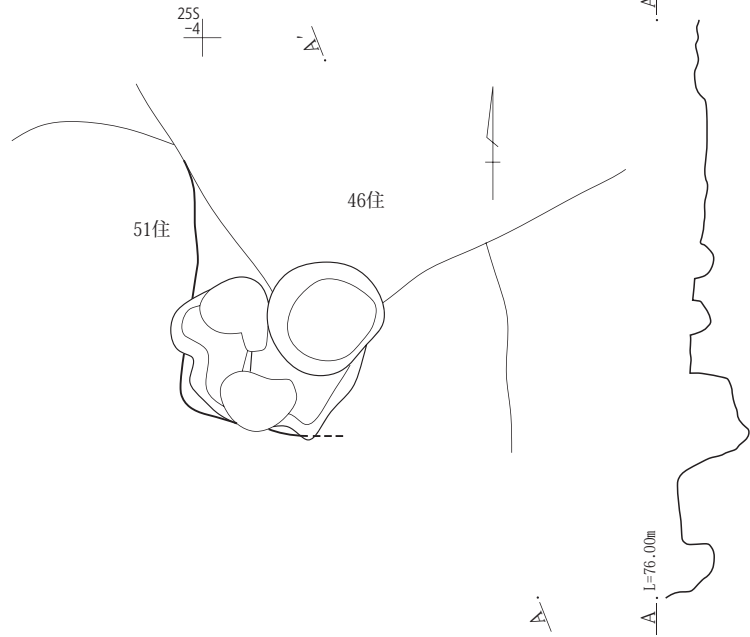
第59表 3区51号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|----------------|-----|-----|--|----------------------|--|----------------|
| | | | | 底 | 7.4 | | | | |
| 第195図 | 1 | 須恵器 椀 | 体部～高台部片 | 底 | 7.4 | | 粗砂粒・雲母/酸化 焰/にぶい黄褐 | ロクロ整形、回転は右回り。高台部は底部切り離し後の付け高台。 | 内面は炭素吸着、黒色処理か。 |
| 第195図 | 2 | 土師器 甕 | 底部～胴部下半 1/2 | 底 | 6.2 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 胴部は中位がヘラナデか。下位はヘラナデの上に縦位の磨き。内面胴部は斜位・横位にヘラナデ。 | |

53号住居



掘り方



第196図 3区53号住居

65号住居(第197～199図、P L .64～66・191・192、第60表)

位置 25S-5・6グリッド。

重複 54・56・57号住居、53号土坑より前出。

形状 隅丸方形を呈する。

主軸方位 N-17°-W

規模 面積は8.2㎡。長辺(北西～南東)3.21m、短辺(北東～南西)2.97m、残存壁高は17～30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央から北西にかけて炭化物の堆積が認められた。

炉 炭化物の分布が認められた部分に炉があったものと考えられる。床面の明瞭な掘り窪みは認められなかった。

貯蔵穴 南西隅に位置する1号土坑とした遺構が貯蔵穴になる可能性がある。長径71cm・短径66cm・深さ36cmの楕円形を呈する。

柱穴 明瞭な主柱穴は不明である。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～9層が住居埋没土、10層は掘り方充填土になる。

掘り方 やや凹凸がある。ピット2基が検出された。

P 1は長径31cm・短径28cm・深さ7.5cm、P 2は長径37cm・短径28cm・深さ19cmである。掘り方の深さは約4～10cmを測る。

出土遺物 床面から土師器台付甕(第198図7～10)が出土している。

時期 出土遺物から4世紀代に比定される。

55号住居(第200図、P L .59)

位置 15Q-19・20グリッド。

重複 218号ピット、5号溝より前出。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は3.26㎡、東西4.65m、南北0.8m、残存壁高は20cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 確認できなかった。

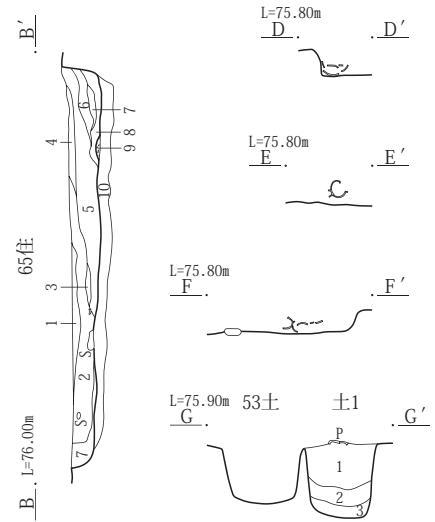
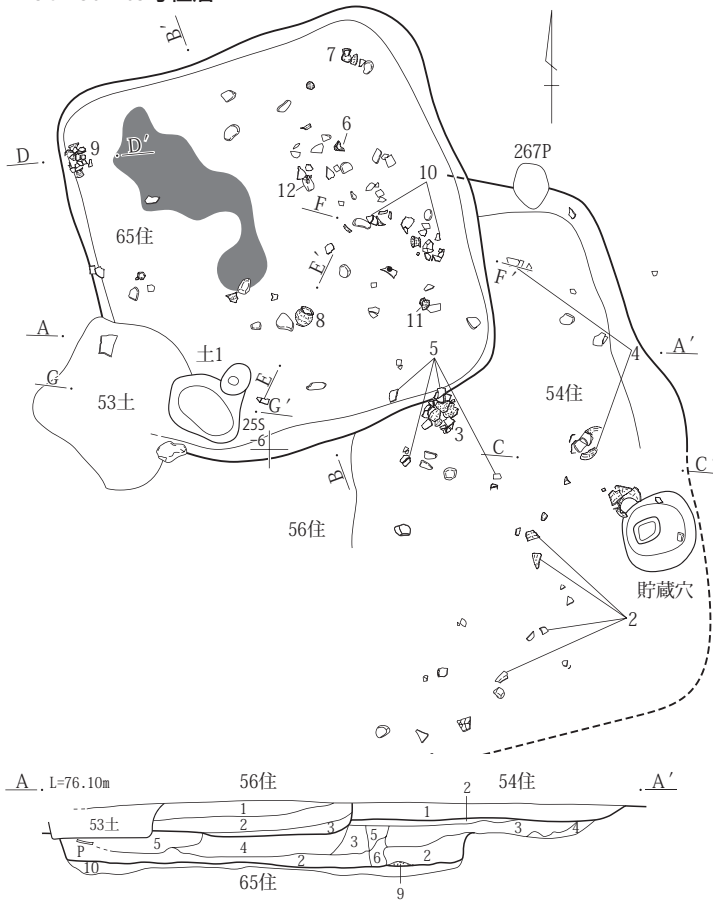
貯蔵穴 北東隅から検出された土坑1が貯蔵穴になる可能性がある。長径63.5cm・短径54cm・深さ23cmの楕円形を呈する。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。3・4層が住居埋没土になる。

掘り方 明瞭な掘り方は確認できなかった。

54・56・65号住居



65号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、炭化物、白色粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、白色粒子を含む。
- 6 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量、炭化物粒子を含む。
- 7 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームを多量に、暗褐色土を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物を含む。
- 9 炭化物
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に、炭化物、灰を含む。

54号住居

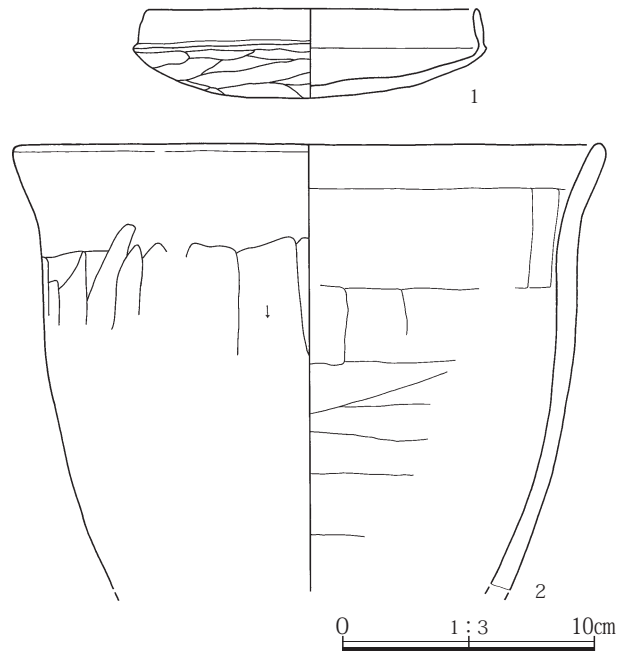
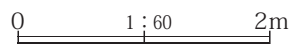
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、白色粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 軟らかい。ロームを多量に、暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、白色粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土粒子を多量に含む。

56号住居

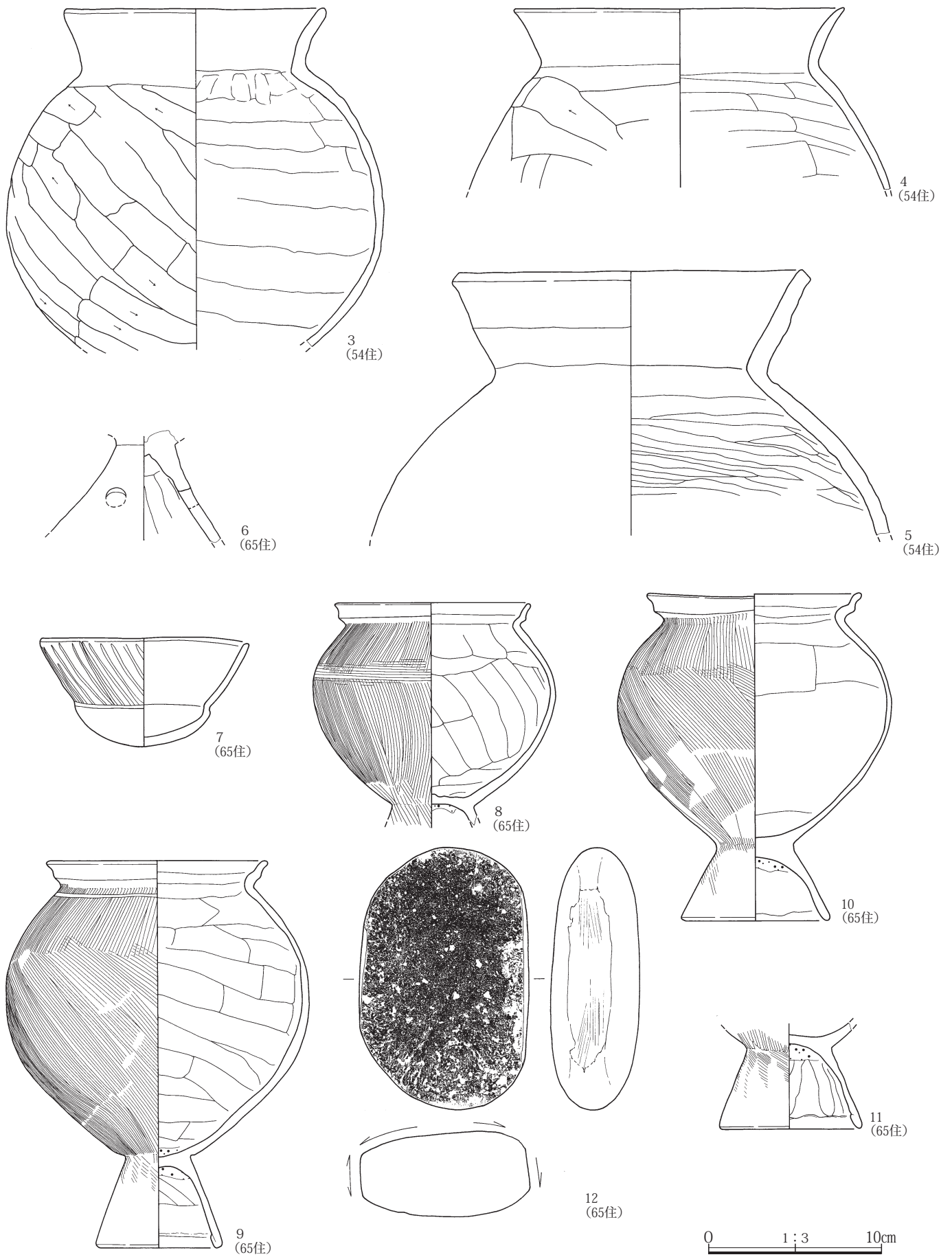
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子、焼土粒子を含む。1層よりもやや暗い色調。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。

65号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

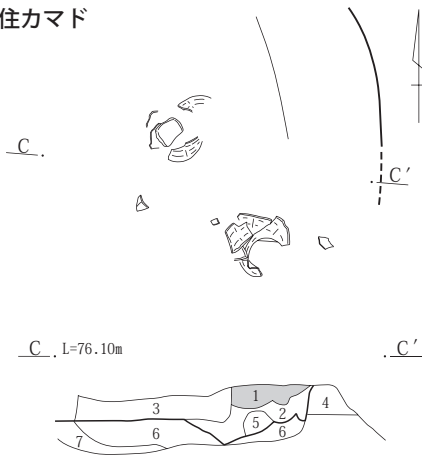


第197図 3区54・56・65号住居と54号住居出土遺物(1)



第198図 3区54・65号住居出土遺物(2)

54住カマド

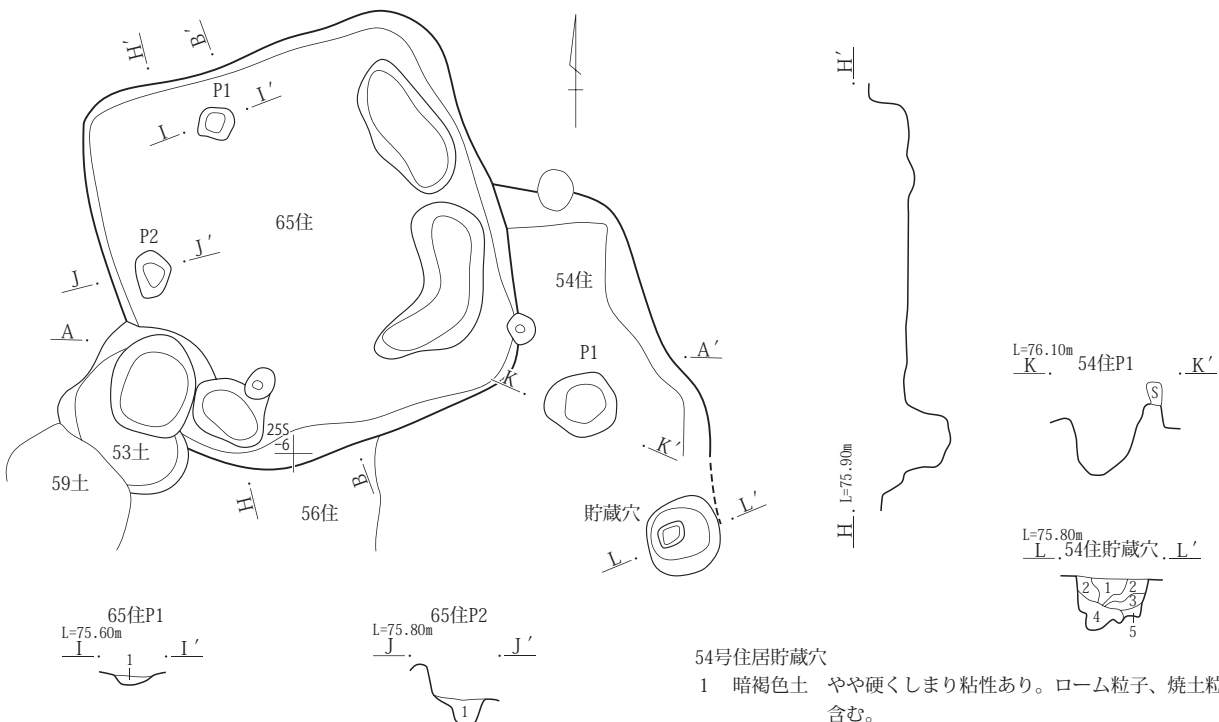


54号住居カマド

- 1 焼土
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。2層よりも暗い色調。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石、焼土粒子を含む。50号住居フク土。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームを多量に含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。



掘り方



65号住居P1・P2

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

54号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。



第199図 3区54・65号住居掘り方と54号住居カマド

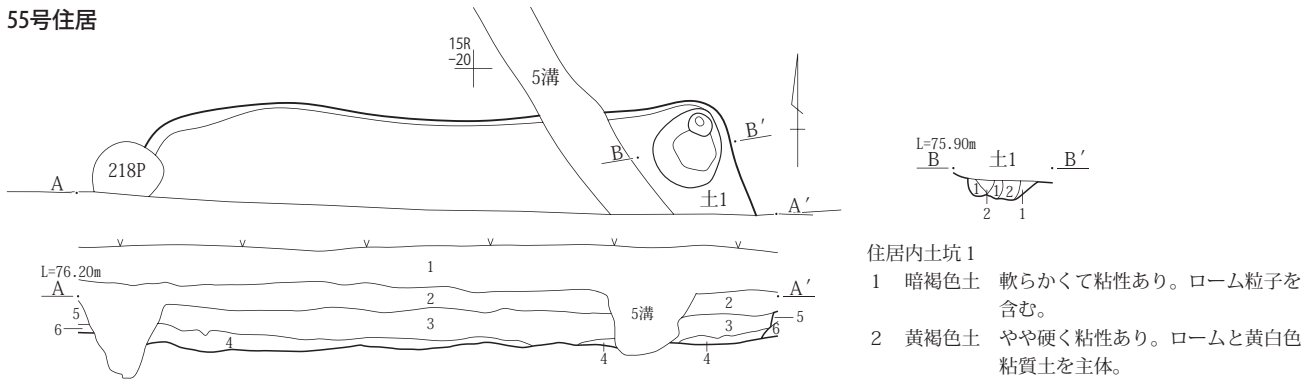
第60表 3区54・65号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|-------------------|-----|------|---|--------------------|----------------|---|-----------------|
| | | | | 口 | 高 | 径 | | | | |
| 第197図 | 1 | 土師器 杯 | 54住 1/3 | 口 | 12.9 | 高 | 3.4 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面口縁部と内面黒色、漆塗り。 |
| 第197図 | 2 | 土師器 甑 | 54住 床直 口縁~胴部上半 | 口 | 22.5 | | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。炭素吸着。 |
| 第197図 PL.191 | 3 | 土師器 甗 | 54住 床直 口縁-胴部下位 | 口 | 14.6 | | | 粗砂粒・細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は2回に分けて斜位のヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。頸部近くは指頭圧痕を残す。 | 外面中位に炭素吸着。 |
| 第197図 | 4 | 土師器 甗 | 54住 床直 口縁~胴部上半 | 口 | 18.8 | | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | |

第3章 発掘調査の記録

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-----------------------|-----|-------------|---------------------|----------------------|--|------------------|
| 第198図 PL.191 | 5 | 土師器 甕 | 54住 床直 口縁~胴部 | 口 | 19.6 | | 細砂粒/良好/赤褐色 | 口縁部は中位に弱い稜を有する、横ナデ。胴部は横位に丁寧なヘラナデ。内面胴部は斜横位に1単位の幅が狭いヘラナデ。 | 内外面の一部に炭素吸着・黒斑状。 |
| 第198図 | 6 | 土師器 高杯 | 65住 床直 脚部上半 | | | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 透孔は3単位の配される。外面は縦位にヘラ磨き。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第198図 PL.191 | 7 | 土師器 埴 | 65住 +15 口縁部1/3欠損 | 口 | 11.7 | 高頸 6.2 | 細砂粒・粗砂粒・褐色 粒/良好/橙 | 口縁部は放射状ヘラ磨き、胴部から底部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。内面胴部はナデ。 | |
| 第198図 PL.191 | 8 | 土師器 台付甕 | 65住 +6 口縁部1/3・脚部欠損 | 口底 | 11.0 4.7 | 胴 13.8 | 細砂粒/良好/浅黄橙 | 口縁部横ナデ、胴部から脚部はハケ目(7本)、胴部中位上に横位のハケ目。内面は胴部がヘラナデ、脚部側底面に砂粒を多く含め粘土貼付。 | |
| 第198図 PL.192 | 9 | 土師器 台付甕 | 65住 床直 2/3 | 口脚 | 12.4 6.6 | 高胴 22.2 17.3 | 細砂粒/良好/浅黄橙 | 脚部は内側に折り返し。口縁部横ナデ、胴部から脚部はハケ目(6本)後、頸部下に凹線が1条巡る。内面は胴部がヘラナデ、胴部・脚部の底面に砂粒を多く含め粘土貼付。 | |
| 第198図 PL.192 | 10 | 土師器 台付甕 | 65住 床直 2/3 | 口脚 | 11.8 8.0 | 高胴 18.7 15.6 | 細砂粒/良好/浅黄橙 | 脚部は内側に折り返し。口縁部横ナデ、胴部から脚部はハケ目(8本)。内面は胴部がヘラナデ、脚部側底面に砂粒を多く含め粘土貼付。 | |
| 第198図 | 11 | 土師器 台付甕 | 65住 +13 脚台部~底部下半 | 底 | 7.9 | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 胴部はハケ目(1cmに6本)。台部は斜位にハケ目(1cmに10, 11本)後、一部にナデを重ねる。内面底部と台部天井部に砂目粘土を貼付。以下は縦位のナデ。 | 内面台部炭素吸着。 |
| 第198図 PL.192 | 12 | 石製品 砥石 | 65住 +11 | 長幅 | 15.0 9.7 | 厚重 5.0 1080.9 | デイスait | 裏面側を除く各面が光沢を帯びる。特に、両側面が激しく使い込まれ、平坦面が形成されている。 | 礫砥石 |

55号住居



55号住居

- 1 表土 浅間A軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしめる。白色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、白色粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしめる。白色粒子を含む。やや暗い色調。
- 6 茶褐色土 やや硬くしめる。

第200図 3区55号住居

出土遺物 ほとんど出土していない。

時期 時期不明。

56号住居(第201図、P L .25・192、第61表)

位置 25R-5・6、25S-5グリッド。

重複 54・65号住居より後出で、50号住居、53号土坑より前出。81号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 重複が激しくて全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-95°-E

規模 面積は不明。現状で南北4.22m、東西1.12m、残存壁高は23cmを測る。

床面 現状ではほぼ平坦である。

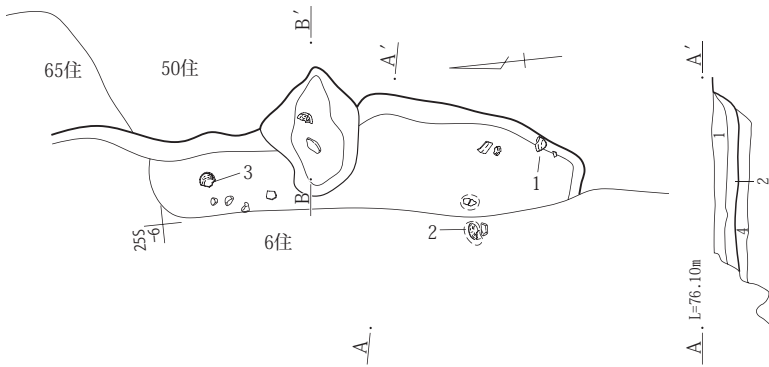
カマド 東壁の中央やや南寄りに位置している。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ102cm、焚き口の幅42cmを測る。1~4・6層がカマド埋没土、7層は掘り方充填土になる。5層は別遺構の埋没土になるものと思われる。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層が住居埋没土、4層は掘り方充填土になる。

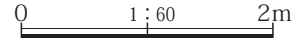
掘り方 ほぼ平坦である。掘り方の深さは約4~10cmを測る。

56号住居

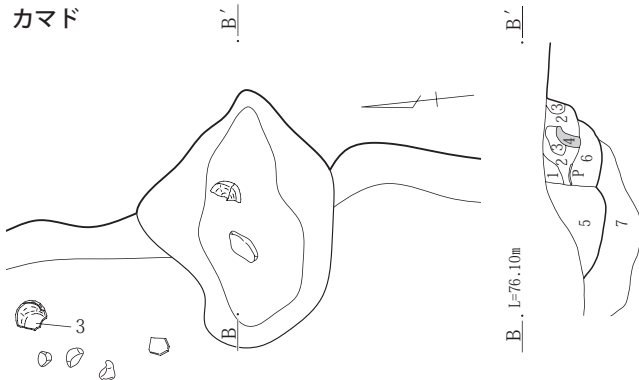


56号住居(※第 図を参照)

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子、焼土粒子を含む。1層よりもやや暗い色調。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。



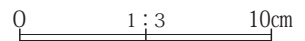
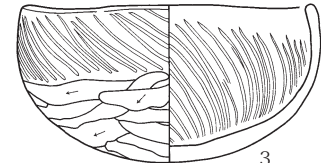
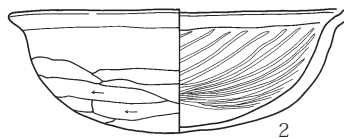
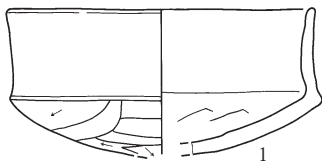
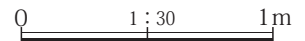
カマド



カマド

- 1 茶褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 3 黄白色粘質土 やや硬くしまる。焼土粒子を含む。
- 4 焼土
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。掘り方フク土。

※5は別遺構のフク土か？



第201図 3区56号住居と出土遺物

第61表 3区56号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|--------------|--------|----------------|--------------------|--|----|
| 第201図 PL.192 | 1 | 土師器 杯 | + 8 1/2 | 口 11.8 | 稜 12.7 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部にヘラナデ。 | |
| 第201図 PL.192 | 2 | 土師器 杯 | 底部を僅かに欠 損 | 口 13.2 | 底 4.8 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に斜放射状ヘラ磨き。 | |
| 第201図 PL.192 | 3 | 土師器 杯 | 3/4 | 口 11.2 | 底最 6.2 11.9 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ後斜放射状ヘラ磨き、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は斜放射状ヘラ磨き。 | |

出土遺物 カマド周辺から土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

57号住居(第202～204図、P L.59～61・192、第62表)

位置 25S-5・6、25T-6グリッド。

重複 58・59・63・65号住居より前出。

形状 重複が激しいが方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-70°-E

規模 現状での面積は12㎡。東西3.55m、南北4.35mを
確認でき、残存壁高は15～23cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。一部貼床。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁のほぼ中央に位置している。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ107cm、焚き口部の幅70cm、袖を含めた幅は84cmを測る。1～6層はカマド埋没土、6層は焼土である。7・8層は掘り方充填土である。土師器高坏(第204図3)が逆位に置かれて支脚として使用されている。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径92cm・短径

88.5cm・深さ60cmの楕円形を呈する。ややまとまって土器が出土している。

柱穴 明瞭な支柱穴は不明である。

周溝 確認できなかった。

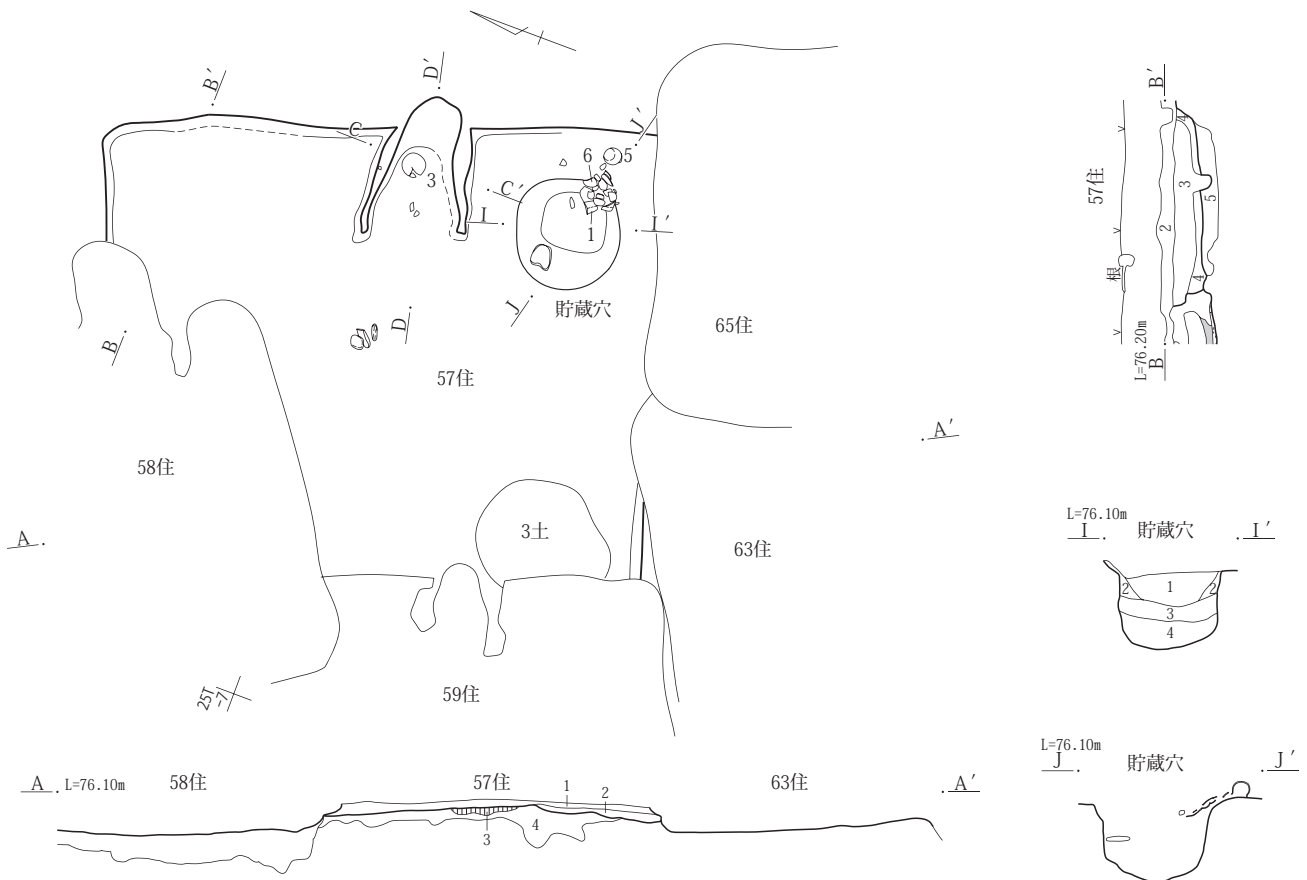
埋没土 自然埋没土と思われる。セクションA-A' 1・2層とセクションB-B'の3・4層が住居埋没土、同様にセクションA-A' 4層とセクションB-B'の5層が掘り方充填土になる。セクションA-A'で部分的に貼床(3層)が認められた。

掘り方 全体的に凹凸がある。ピット4基が検出され

た。P 1は長径47cm・短径37cm・深さ33cm、P 2は長径27cm・短径20cm・深さ13cm、P 3は長径24cm・短径22cm・深さ8cm、P 4は長径38.5cm・短径33cm・深さ24cmである。ただしP 2はその位置から判断するとカマド袖石の抜き取り痕の可能性もある。掘り方の深さは約5~32cmを測る。

出土遺物 カマド内で土師器高杯(第204図3)、貯蔵穴の東側で土師器杯・鉢・甕(同1・5・6)がまとまって出土する。

時期 出土遺物から5世紀第後半に比定される。



57号住居(A-A')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまる。貼床。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

57号住居(B-B')

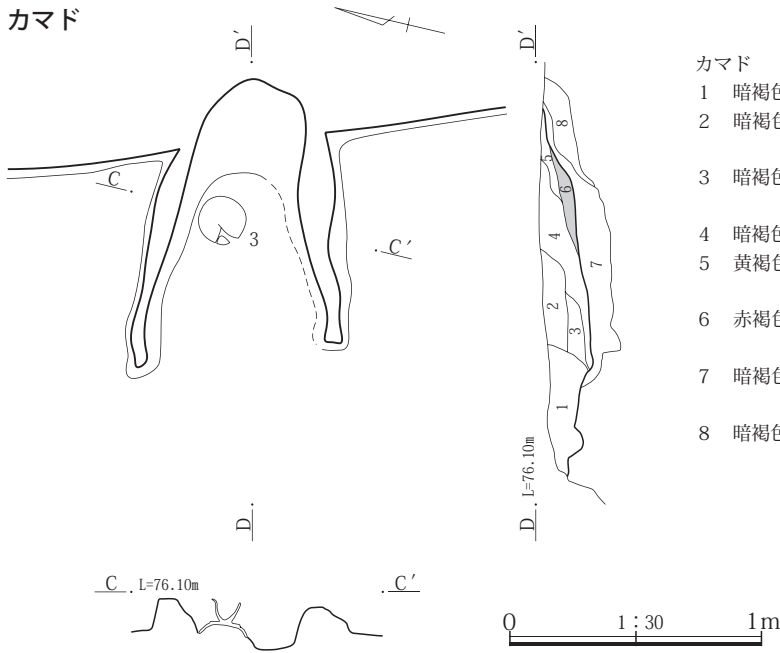
- 1 表土 浅間A軽石を含む。
- 2 暗褐色土 浅間A軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。掘り方充填土。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを多量に含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。

第202図 3区57号住居

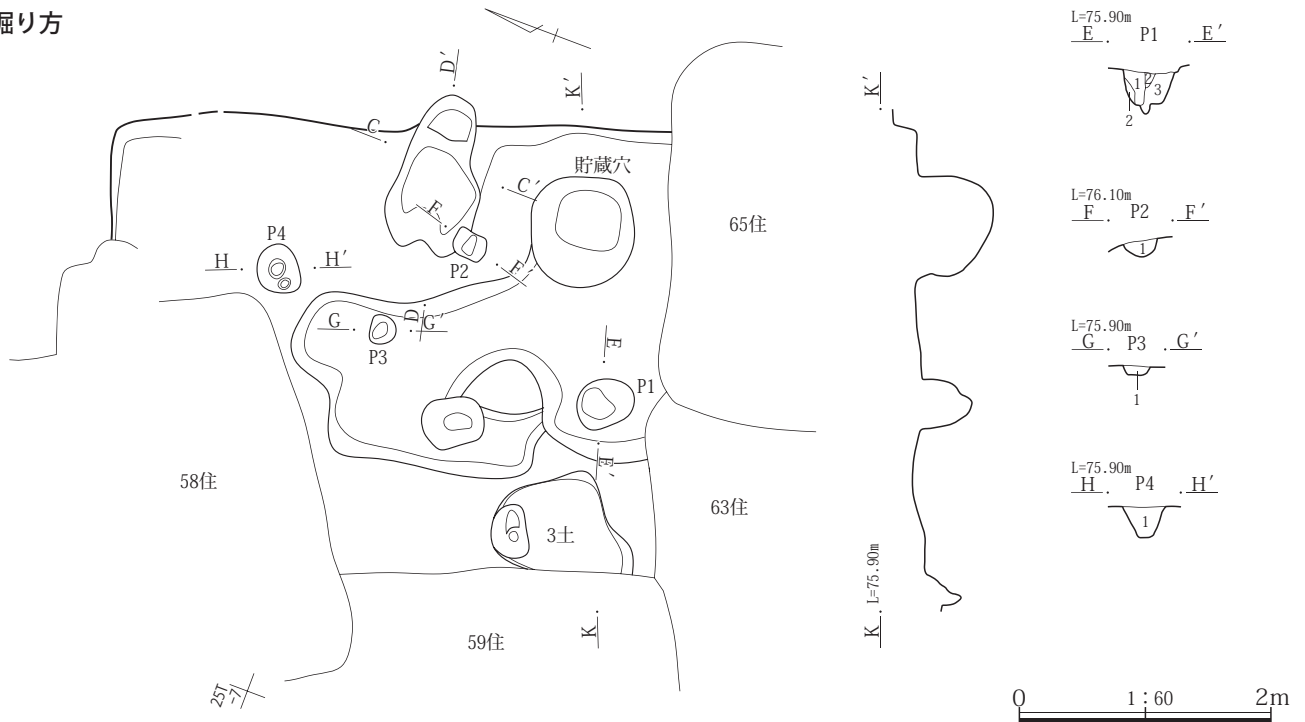
カマド



カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ローム粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、灰を少量含む。やや暗い色調。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを多量に、焼土粒子を含む。
- 6 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土を多量に、ロームブロックを含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を少量含む。

掘り方



P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 2 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を多量に含む。

P 2

- 1 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。ローム粒子を含む。

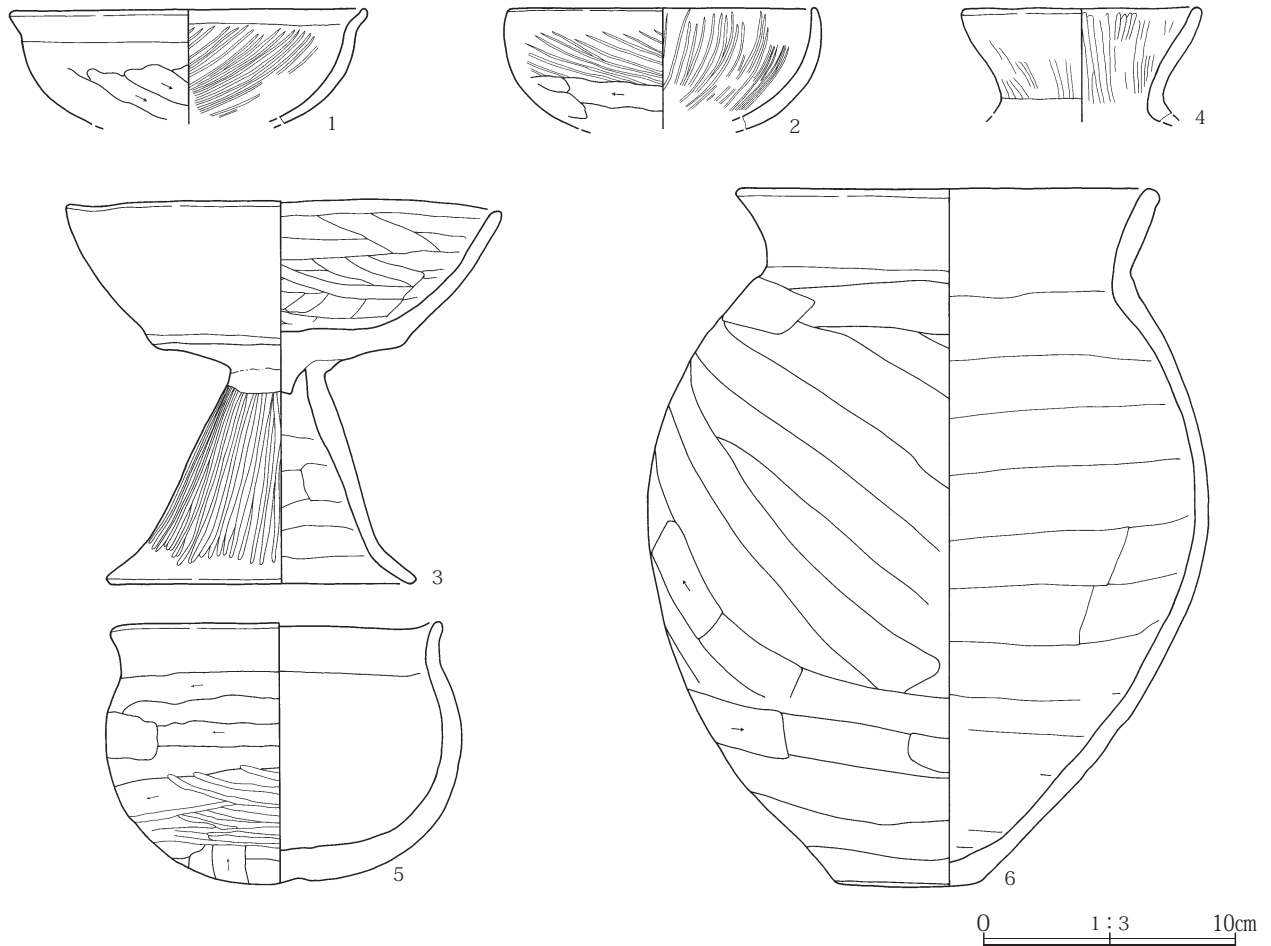
P 3

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を多量に含む。

P 4

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を多量に含む。

第203図 3区57号住居カマドと掘り方



第204図 3区 57号住居出土遺物

第62表 3区 57号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-------------|-----------------------|-----|-------------|--------------------|--------------------|--|----------------|
| 第204図 | 1 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 口縁部～体部 | 口 | 13.8 | | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部上位はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面は斜放射状にヘラ磨き。 | |
| 第204図 | 2 | 土師器 杯 | 口縁部～体部 | 口 | 12.0 | | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部から体部上位は横ナデ後、斜位にヘラ磨き。以下は手持ちヘラ削り。内面は放射状にヘラ磨き。 | |
| 第204図 PL.192 | 3 | 土師器 高杯 | カマド 脚部下半の大半 を欠損 | 口底 | 16.8 9.8 | 高脚 15.0 11.8 | 細砂粒/良好/橙 | 杯身部と脚部はホゾ状差し込みで接合。杯身部口縁部は横ナデ、底部はナデ、脚部は縦位のヘラ磨き、裾部は横ナデ。内面は杯身、脚部ともヘラナデ。 | |
| 第204図 | 4 | 土師器 壺 | 口縁1/4 | 口 | 9.0 | | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 内外面とも縦位にヘラ磨き。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第204図 PL.192 | 5 | 土師器 小型甕か | +4 口縁部1/5欠損 | 口 | 12.7 | 高胴 10.2 13.9 | 細砂粒/良好/赤褐 | 口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り後胴部下位にヘラ磨き。内面胴部はヘラナデか、器面剝離のため単位不明。 | |
| 第204図 PL.192 | 6 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 3/4 | 口 | 16.3 | 高 27.5 | 粗砂粒・細砂粒/良 好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ、胴部は数回に分けて斜横位のヘラ削り。底部はナデ。内面胴部はヘラナデ。 | 外面上半部を中心に炭素吸着。 |

58号住居(第205～207図、PL.60・61・192・193、第63・64表)

位置 25S・T-6、25T-7グリッド。

重複 57・59号住居より後出で、60・146号住居より前出。

形状 隅丸方形を呈する。

主軸方位 N-58°-E

規模 現状での面積は7.8㎡。長辺(北西～南東)3.05m、短辺(北東～南西)2.95m、残存壁高は25cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。

カマド 東壁の中央から南寄りに設置している。焼成部は壁を掘り込んで構築され、長さ125cm、焚き口部の幅53cm、袖を含めた幅は112cmを測る。袖に土師器甕が2個据えられている。

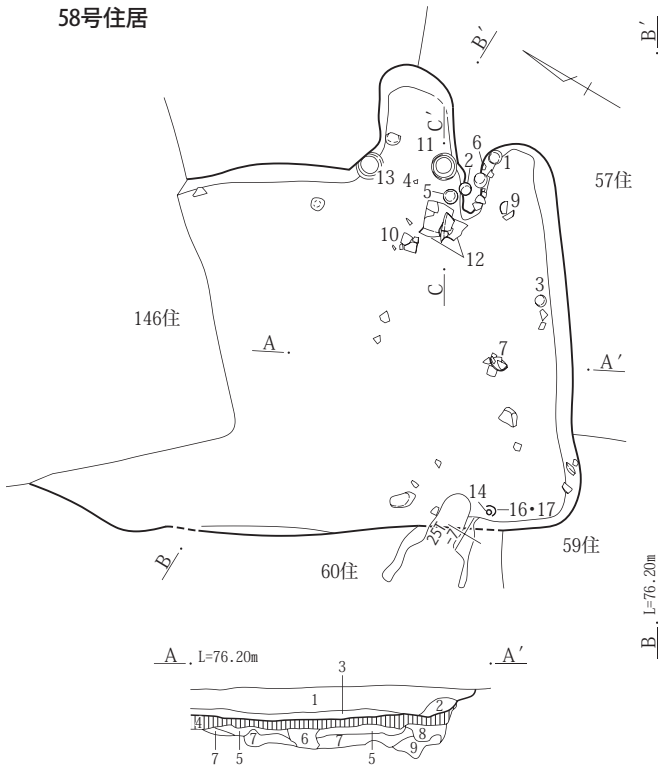
貯蔵穴・柱穴・周溝 検出できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土、

4層は貼床、5～9層が掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。ピット1基が検出された。
 長径42cm・短径31.5cm・深さ34cmである。掘り方の深さは約15～35cmを測る。

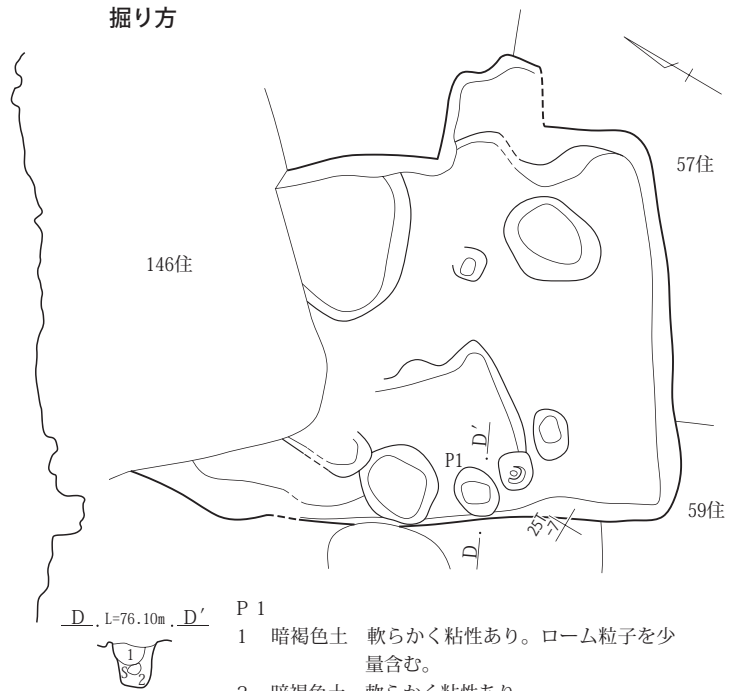
58号住居



出土遺物 カマドから土師器甕や杯が出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

掘り方

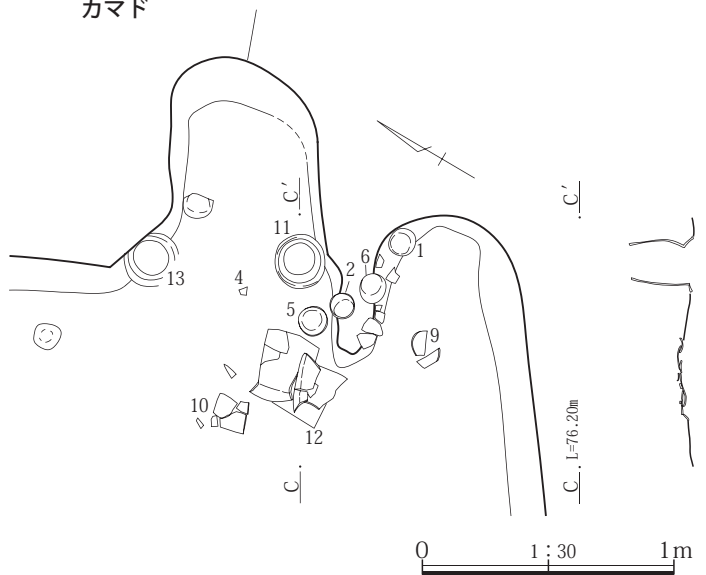


- P 1
 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。

58号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子、炭化物を含む。明るい色調。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。貼床。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を少量含む。暗い色調。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。ロームを主体に暗褐色土を含む。

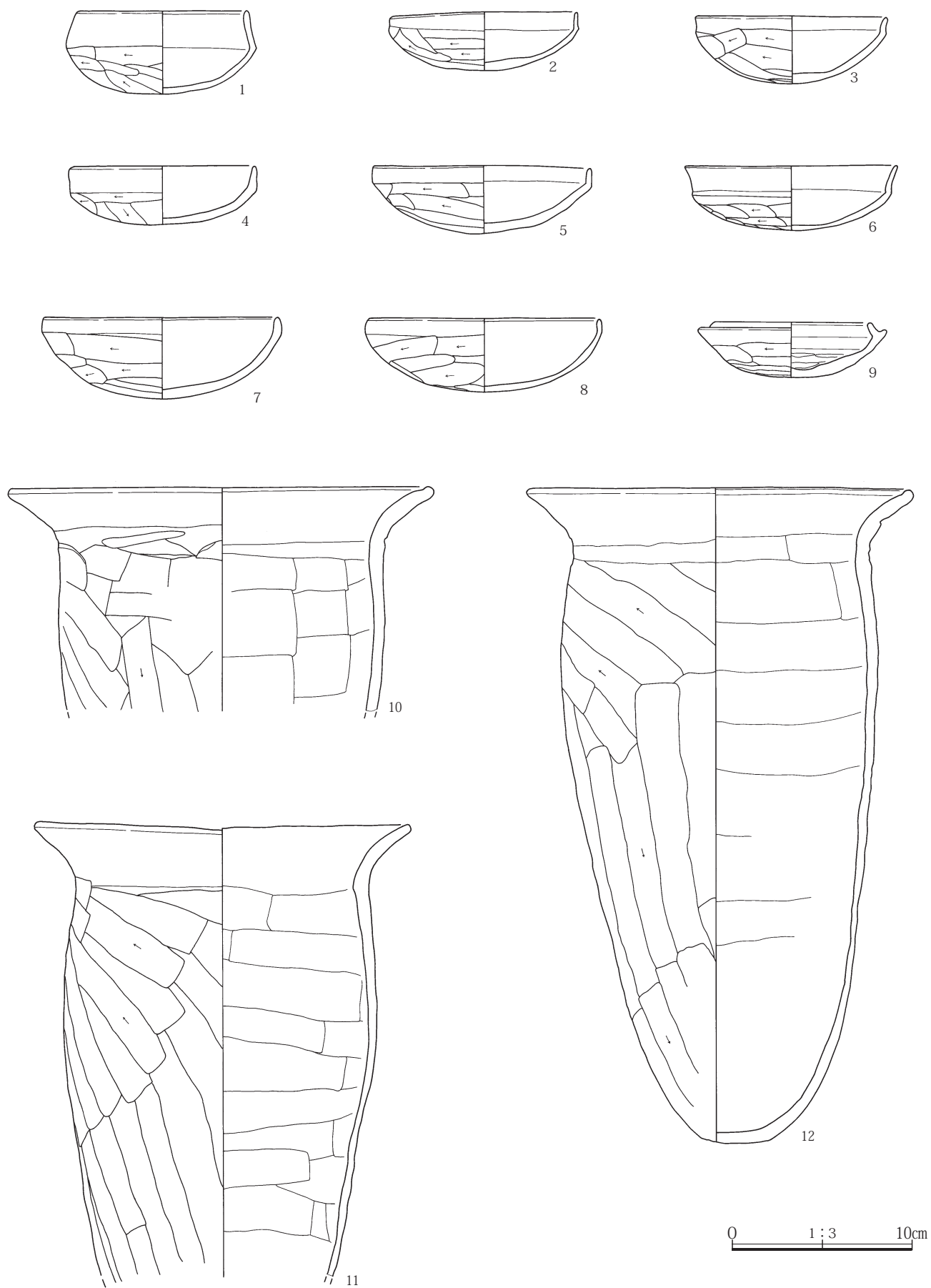
カマド



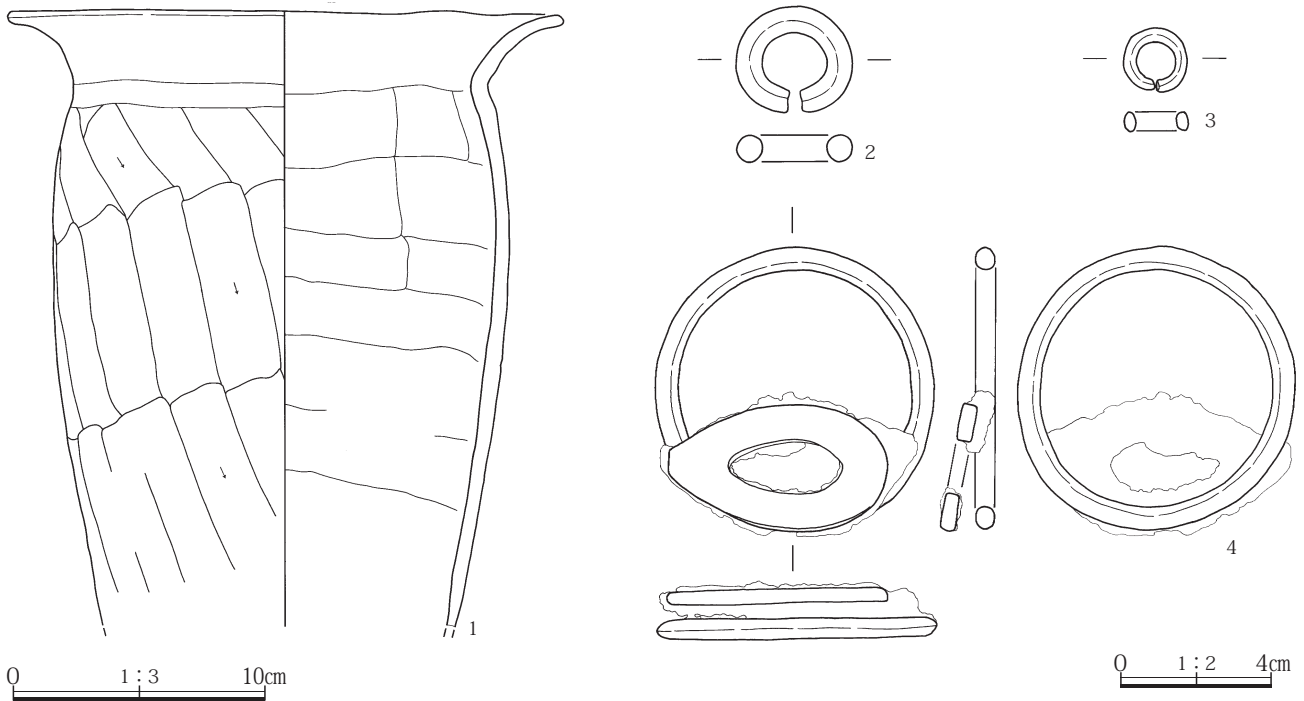
第205図 3区58号住居

第63表 3区58号住居出土遺物(1)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|-------------|-----|-------------------------------|---------------------|----------------------------|----|
| 第206図 PL.192 | 1 | 土師器 杯 | 床直 完形 | □ | 9.2 高 4.5 稜 10.4 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第206図 PL.192 | 2 | 土師器 杯 | カマド 完形 | □ | 10.1 高 3.2 稜 10.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第206図 PL.192 | 3 | 土師器 杯 | +3 完形 | □ | 10.3 高 3.7 稜 10.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第206図 PL.192 | 4 | 土師器 杯 | カマド 3/4 | □ | 10.1 高 3.2 | 細砂粒・粗砂粒・褐 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | |



第206図 3区58号住居出土遺物(1)



第207図 3区 58号住居出土遺物(2)

第64表 3区 58号住居出土遺物(2)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|------------------|--------|----------------|-----------------------|-------------------------------|--|----------------------------|-----------|
| 第206図 PL.193 | 5 | 土師器 杯 | カマド 完形 | 口 | 11.8 | 高 3.7 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | | |
| 第206図 PL.193 | 6 | 土師器 杯 | カマド 完形 | 口 | 11.5 | 高 3.5 稜 11.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | | |
| 第206図 PL.193 | 7 | 土師器 杯 | 床直 完形 | 口 | 12.7 | 高 4.4 最 13.0 | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ、一部横ナデ下にナデ部分が残る、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | | |
| 第206図 PL.193 | 8 | 土師器 杯 | カマド 3/4 | 口 | 12.6 | 高 4.0 最 13.0 | 細砂粒・粗砂粒/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | | |
| 第206図 PL.193 | 9 | 須恵器 杯身 | +32 一部欠 | 口 底 | 8.6 1.9 | 高 2.95 | 粗砂粒少/還元焰/ 灰白 | ロクロ整形、回転右回り。底部に粗雑な回転ヘラ削り。 | | |
| 第206図 | 10 | 土師器 甕 | カマド 口縁～ 胴部上位片 | 口 | 23.0 | | 細砂粒・軽石/良好 /にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部最上位は横位、以下は斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面被熱・変色。 | |
| 第206図 PL.193 | 11 | 土師器 甕 | カマド 口縁～胴部下位 | 口 | 20.3 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部は2回斜縦位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 内外面とも磨滅・粘土付着。 | |
| 第206図 PL.193 | 12 | 土師器 甕 | カマド 2/3 | 口 底 | 20.9 3.8 | 高 36.1 | 細砂粒多・軽石/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ、胴部上位は斜位・中位以下は縦位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 被熱のため変色。 | |
| 第207図 PL.193 | 13 | 土師器 甕 | 口縁～胴部中位 | 口 | 21.5 | | 細砂粒多・軽石・赤 色粘土粒/良好/に ぶい橙 | 口縁部・頸部は横ナデ。胴部は3回に分けて斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 被熱のため変色・変質。外面の一部の炭素吸着。 | |
| 第207図 PL.193 | 14 | 金属製品 金環 | +4 完形 | 径 幅 | 3.0×2.8 0.7 | 厚 0.7 | 0.7 20.4 | //金銅製 | 表面は錆化しているが、比較的良好な状態。 | |
| 第207図 PL.193 | 15 | 金属製品 金環 | 完形 | 径 幅 | 1.8×1.7 0.6 | 厚 0.5 | 4.7 | //金銅製 | 一部に金箔が残る。錆化は進んでいるが良好な残存状態。 | |
| 第207図 PL.193 | 16 | 鉄器 鏝 | +2 ほぼ完形 | 長 幅 | 5.8 3.3 | 厚 0.4 | 63.0 | | 錆化が著しい、錆で銅鏝に付着。 | 重さは17を含む。 |
| 第207図 PL.193 | 17 | 銅製品 銅釧? | +2 完形 | 長 幅 | 7.4 0.6 | 厚 0.5 | 63.0 | | 外縁中位はやや鋭角をなす。 | 重さは16を含む。 |

59号住居(第208・209図、P L .61・62・194、第65表)

位置 25S-6・7グリッド。

重複 57号住居より後出で、58・60・61号住居より前出。

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-69°-E

規模 東西・南北ともに現状3.1m、残存壁高は5cmを

測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁のほぼ中央に設置されているものと思われる。燃烧部は床面を掘り込んで構築され、長さ82cm、焚き口部の幅20cm、袖を含めた幅は58cmを測る。1～8層

はカマド埋没土、9層は掘り方充填土になる。7層は焼土、8層は灰層である。

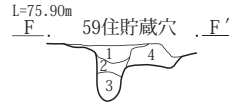
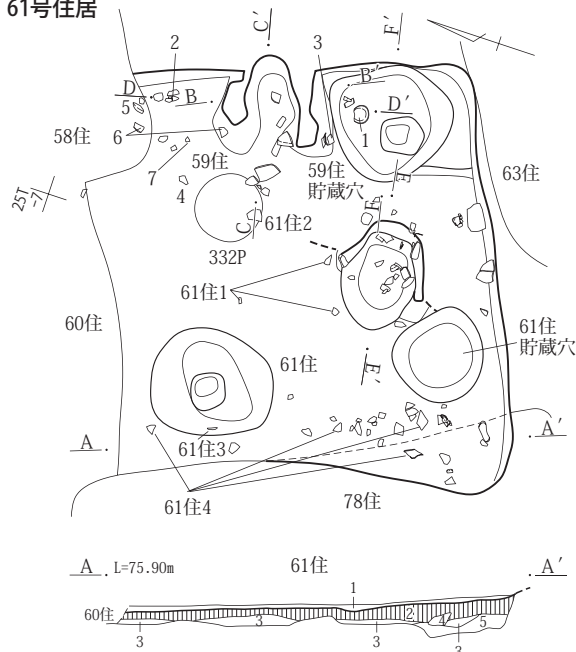
貯蔵穴 床面の南東隅、カマドに接して構築されている。長径98cm、短径92.5cm、深さ44cmの楕円形を呈する。2

段に掘り込まれている。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 埋没土をほとんど確認することはできなかったが、自然埋没土と思われる。

59・61号住居

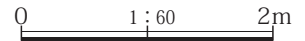


59号住居貯蔵穴

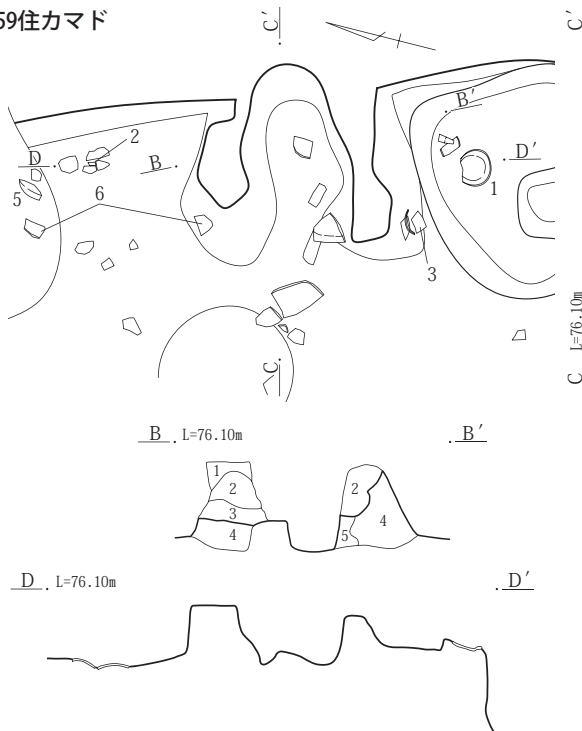
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 2 褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。ロームを多量に、焼土粒子を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。

61号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。貼床。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 4 黄褐色土 やや硬い。ローム主体で暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。



59号カマド

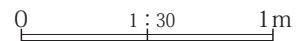


59号住居カマド(C-C')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、炭化物粒子、白色粒子を含む。
- 2 黄白色粘質土 やや硬くしまる。焼土ブロックを含む。カマド構築材。
- 3 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土を多量に、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、白色粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかい。焼土ブロック、灰を含む。
- 6 黄褐色土 軟らかい。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土、灰を含む。
- 7 焼土
- 8 灰
- 9 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多量に含む。

カマド(B-B')

- 1 暗褐色土 ロームブロック、焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 硬くしまる。焼土粒子、白色軽石を含む。カマド袖。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多量に、白色軽石、焼土粒子を含む。(C-C'の9層に該当)
- 5 黄褐色土 やや硬くしまる。

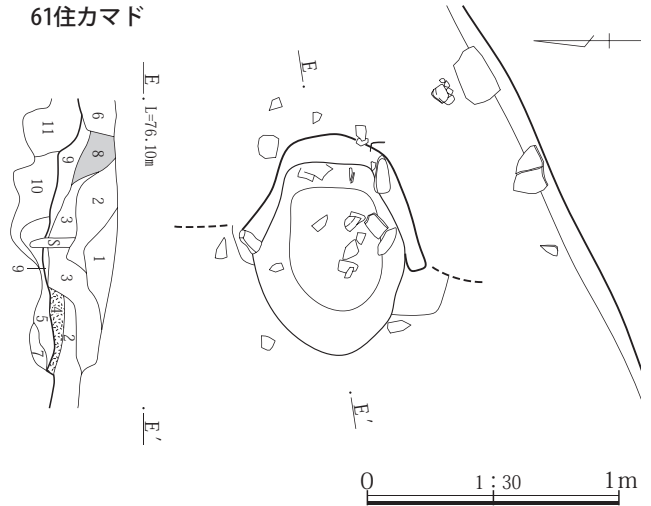


第208図 3区59・61号住居と59号住居カマド

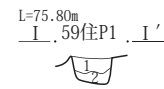
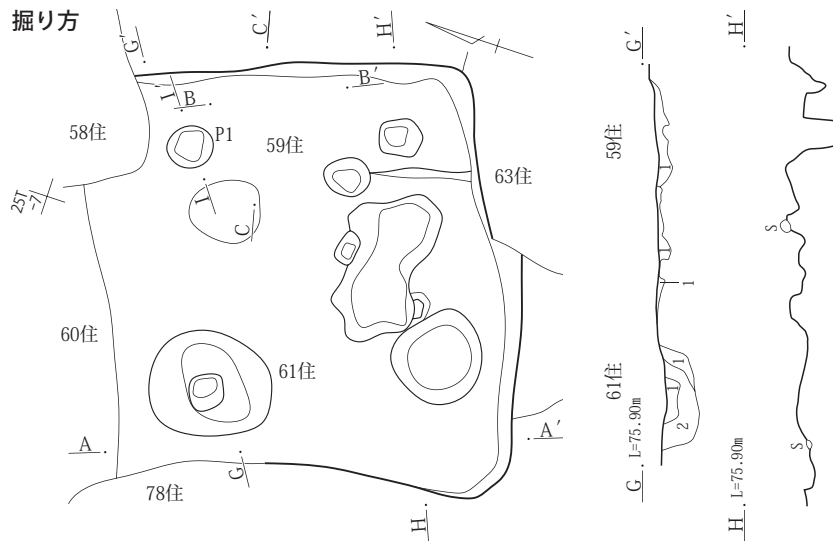
61号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロックを多量に、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 4 灰
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 8 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土主体に、暗褐色土を含む。
- 9 褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量に、白色粒子を含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 11 暗褐色土 暗褐色土と黄白色粘質土の混土。

61住カマド

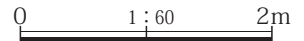


掘り方



59号住居 P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロック、灰を含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを主体に、暗褐色土を含む。

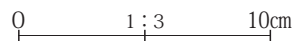
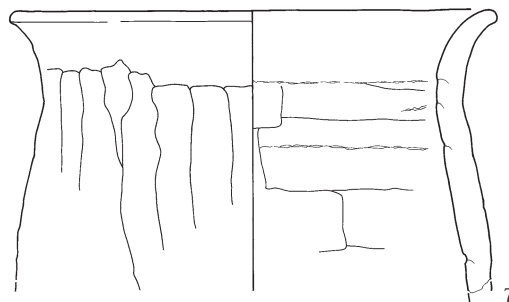
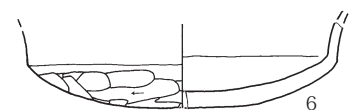
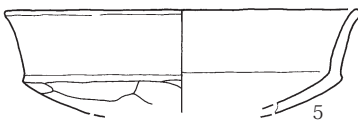
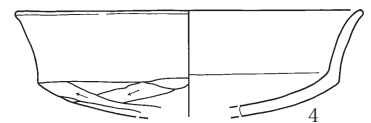
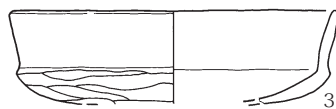
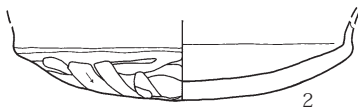
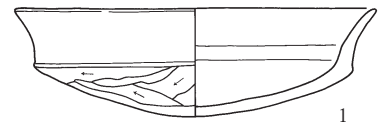


59号住居(掘り方)

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多量に、焼土ブロックを含む。

61号住居

- 1 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。

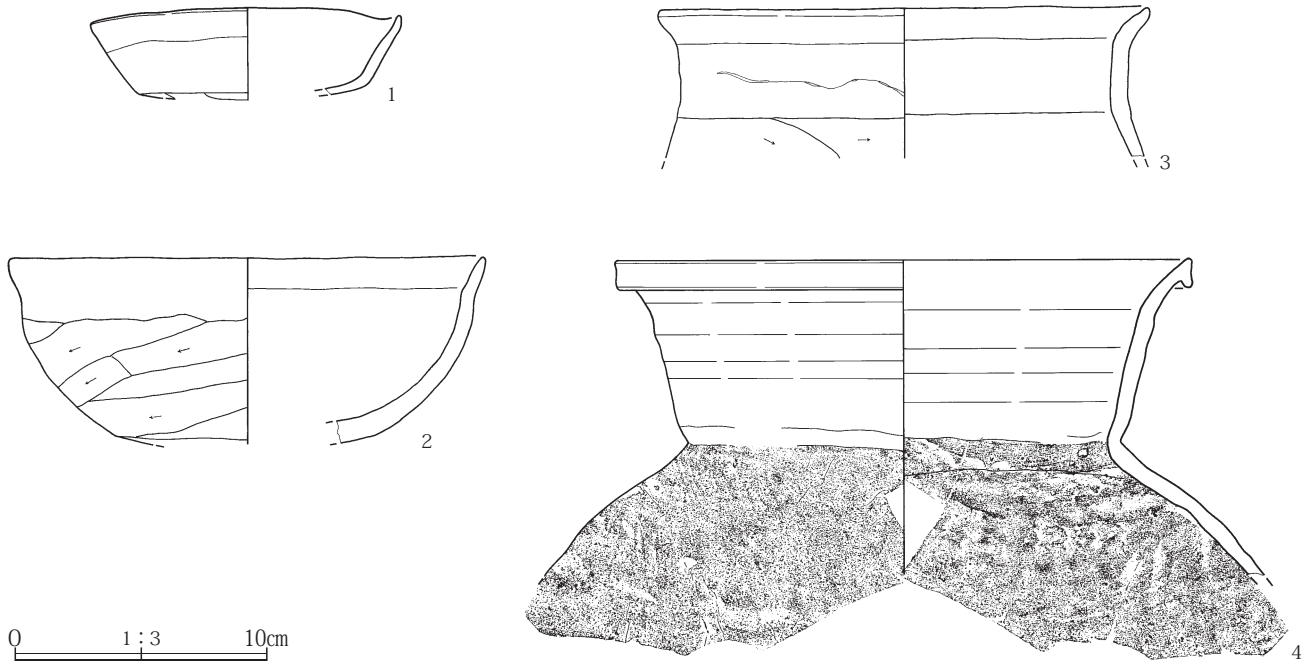


第209図 3区59・61号住居掘り方、61号住居カマドと59号住居出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第65表 3区59号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|-----------------|-----|------|---|--------------------|--------------------|--------------------------------------|-------------------|
| 第209図 PL.194 | 1 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 口縁一部欠 | □ | 13.9 | 高 | 4.2 | 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | |
| 第209図 | 2 | 土師器 杯 | 床直 底部～体部 | | | | | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は丁寧な手持ちへら削り。内面はナデ。 | |
| 第209図 | 3 | 土師器 杯 | +3 1/4 | □ | 12.7 | | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。底部は丁寧な手持ちへら削り。内面はナデ。 | 外面底部の一部に炭素吸着。 |
| 第209図 | 4 | 土師器 杯 | +8 1/4 | □ | 13.4 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 底部内面炭素吸着。 |
| 第209図 | 5 | 土師器 杯 | 床直 1/4 | □ | 13.8 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄褐 | 口縁部は横ナデ。底部は丁寧な手持ちへら削り。内面はナデ。 | 内面炭素吸着 ・黒色処理か。 |
| 第209図 | 6 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | | | | | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。底部は丁寧な手持ちへら削り。内面はナデ。 | 内面炭素吸着 ・黒色処理か。 |
| 第209図 | 7 | 土師器 甗 | 床直 口縁～胴 部上位片 | □ | 18.6 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にへら削り。内面胴部は横位 にへらナデ。 | 内外面炭素吸着。 |

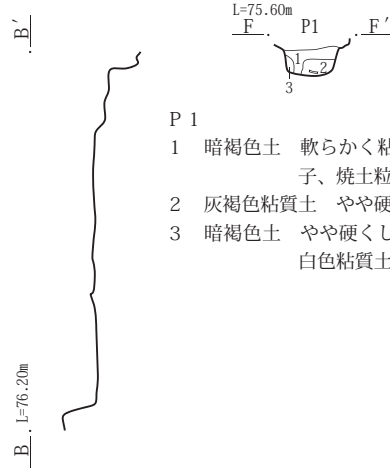
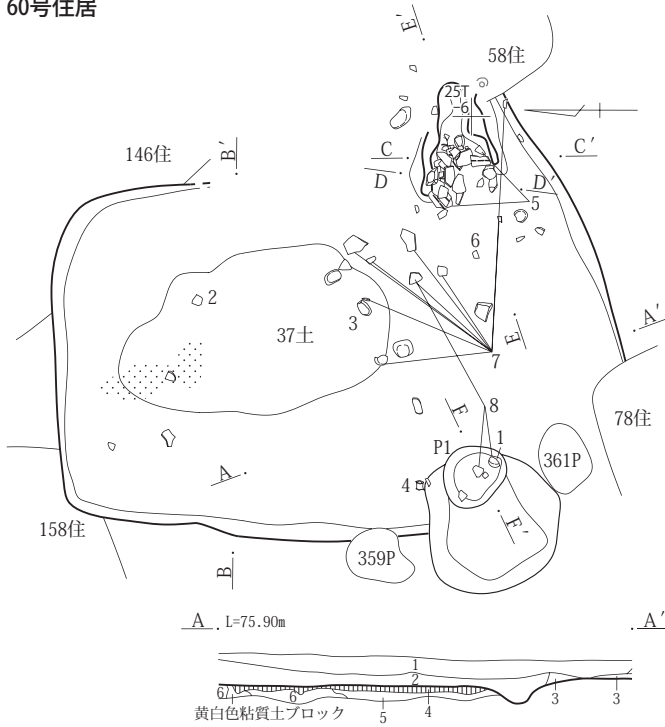


第210図 3区61号住居出土遺物

第66表 3区61号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|-----------------|-----|------|--|--------------------|------------------|---|------------------|
| 第210図 PL.194 | 1 | 土師器 杯 | 床直 3/4 | □ | 12.1 | | | 粗砂粒/良好/黄褐 | 歪みが著しい。口縁部は横ナデ。体部はナデ、型肌を残す。 底部は手持ちへら削り。内面はナデ | |
| 第210図 | 2 | 土師器 鉢 | +10 口縁～底部1/4 | □ | 18.6 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちへら削り。内面は ナデ。 | 外面体部に黒色 の付着物。 |
| 第210図 | 3 | 土師器 甗 | 床直 口縁～胴部 | □ | 19.1 | | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。中位に輪積み痕を残す。胴部は横位・斜 横位のへら削り。内面胴部は横位のへらナデ。 | |
| 第210図 | 4 | 須恵器 甗 | 床直 口縁～肩部片 | □ | 22.3 | | | 白色鉍物粒/還元 焰/灰 | 紐作り。口縁部は歪み波打つ。口縁部は横ナデ。紐作り後、 胴部は叩き整形。平行叩き痕を横ナデにより消す。内面胴 部は接合痕を指頭による押圧、その上にナデを重ねる。ア テ具痕は見られない。 | |

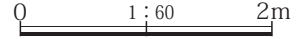
60号住居



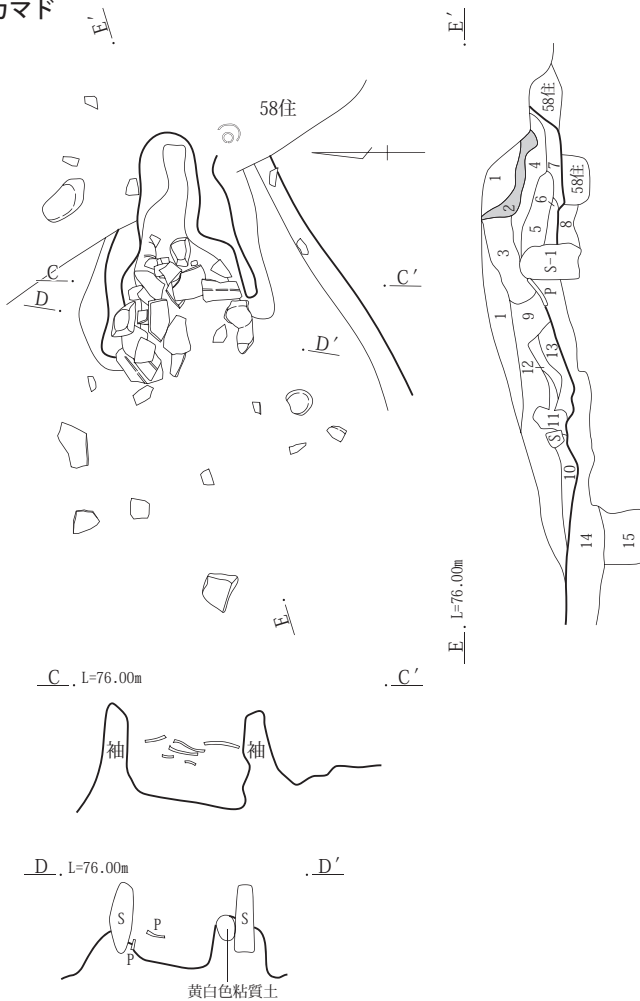
- P 1
- 1 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
 - 2 灰褐色粘質土 やや硬くしまる。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

60号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、炭化物、焼土粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 硬くしまる。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。貼床。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土 やわらかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

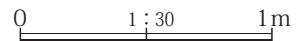


カマド



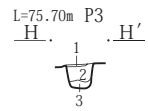
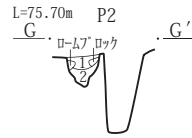
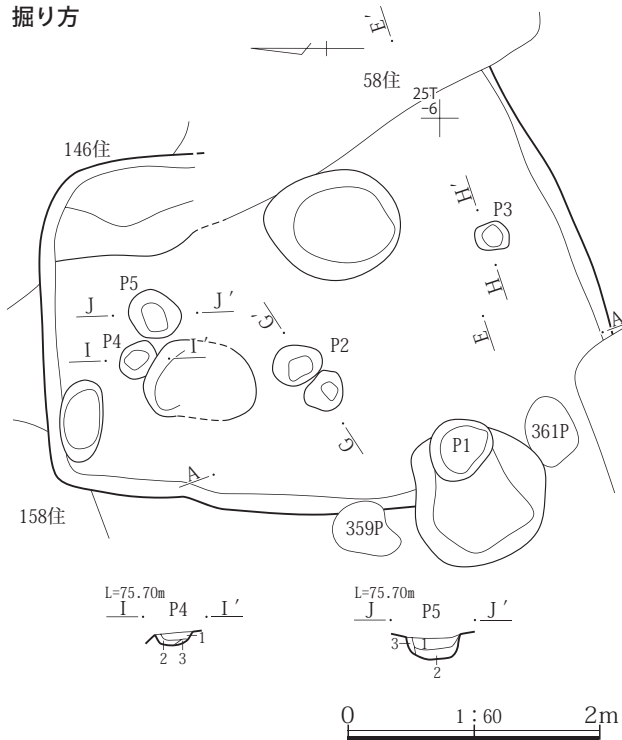
カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 焼土
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ローム粒子、白色粒子を含む。
- 4 褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックを多量に、白色粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土ブロック、灰を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、灰、ロームブロックを含む。
- 7 灰褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 9 灰褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土ブロック、炭化物粒子、白色粒子を含む。
- 10 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を含む。
- 11 黄白色粘質土 カマド構築材。
- 12 褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ローム粒子を含む。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 15 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を多量に含む。

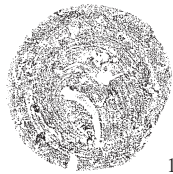


第211図 3区60号住居

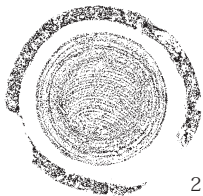
掘り方



- P 2
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- P 3
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多量に、焼土粒子を少量含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- P 4
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。炭化物粒子、ローム粒子を含む。
 - 2 褐色土 軟らかく粘性ややあり。ローム粒子を多く含む。
 - 3 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロックを含む。
- P 5
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。炭化物粒を含み、ローム粒子を多く含む。
 - 2 褐色土 やや硬くしまり、ローム粒子、ロームブロックを多く含む。粘性ややあり。
 - 3 黄褐色土 軟らかい。焼土粒を少量含み、ローム粒子、ロームブロックを非常に多く含む。



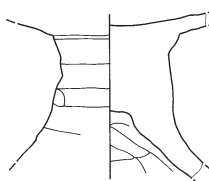
1



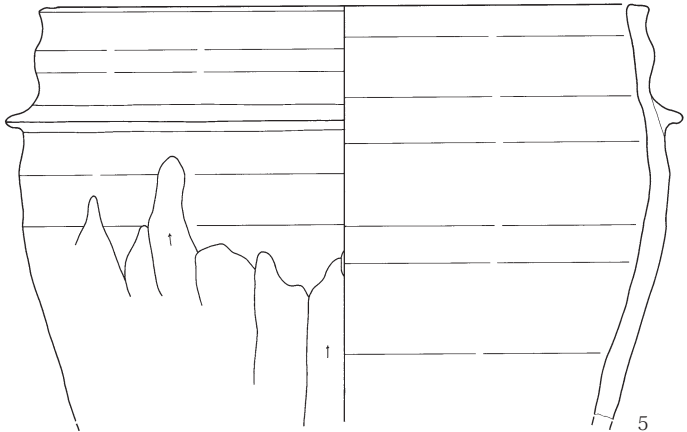
2



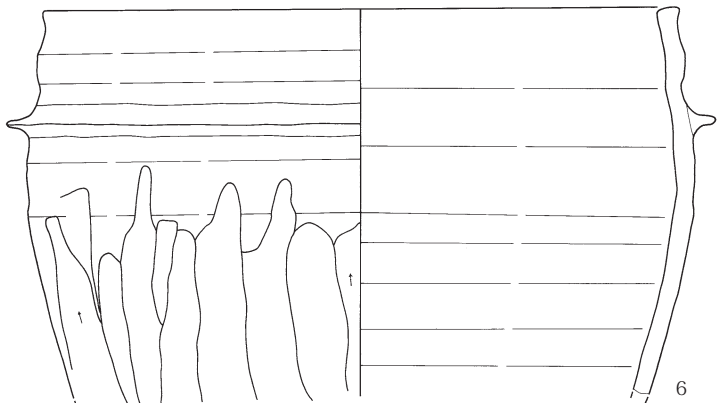
3



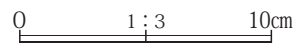
4



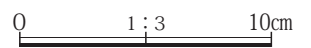
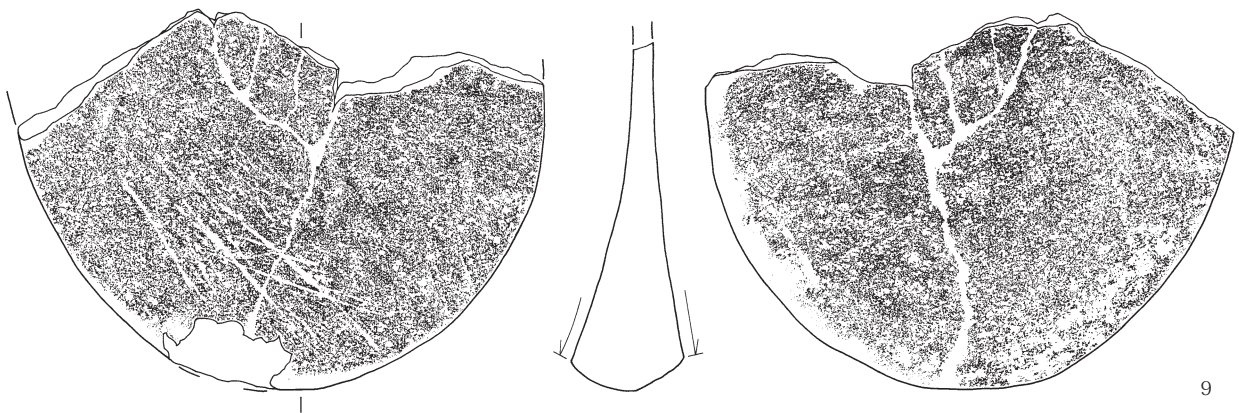
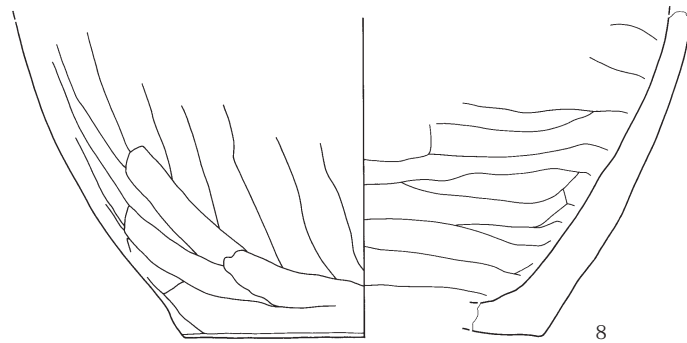
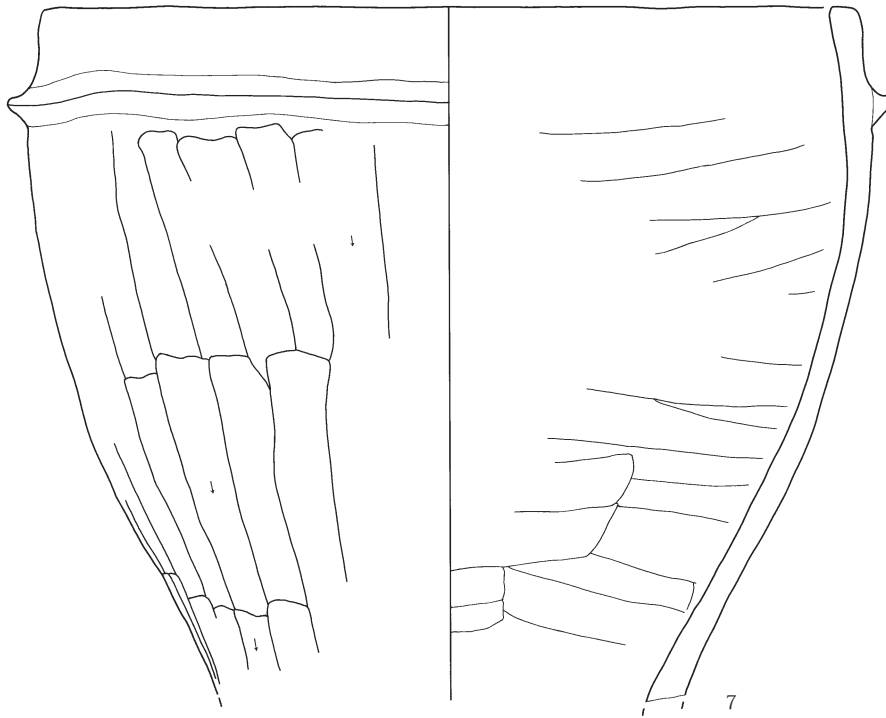
5



6



第212図 3区60号住居掘り方と出土遺物(1)



第213図 3区60号住居出土遺物(2)

掘り方 全体的に凹凸がある。ピット1基が検出された。長径37cm・短径33.5cm・深さ20.5cmである。

出土遺物 カマド周辺や床面から土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

61号住居(第208～210図、P.L.61～63・194、第66表)

位置 25S-6・7グリッド。

重複 59号住居内部でカマド・貯蔵穴が確認され後出であるが、住居の範囲は確認できていない。60号住居より前出で、78号住居と重複するが新旧関係不明。

形状・主軸方位 不明。

規模 不明、残存壁高は確認できなかった。

床面 やや凹凸がある。貼床である。

カマド 燃焼部は床面を掘り込んで構築されているものと思われる。現状の長さ88cm、焚き口部の幅36cm、袖を含めた幅は67cmを測る。支脚の礫が残されていた。1～4層、6・8・9層はカマド埋没土、5・7・10・11層は掘り方充填土になる。4層は灰層である。

貯蔵穴 カマドの南西に接して構築されている。長径72cm、短径70cm、深さcmの楕円形を呈する。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 埋没土をほとんど確認することはできなかった。

掘り方 全体的に凹凸がある。土坑が検出された。長径98cm・短径85cm・深さ25cmを測る。掘り方の深さは5～10cmを測る。

出土遺物 カマド周辺や貯蔵穴の周辺から土器片が出土している。

時期 出土遺物から9世紀後半に比定される。

60号住居(第211～213図、P.L.61～63、第67表)

位置 25S・T-6・7グリッド。

重複 58・59・61号住居より後出で、60号住居より前出。78号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 重複が激しいために不明な部分があるが、隅丸長方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-85°-E

規模 長辺(南北)4.51m、短辺(東西)2.68m、残存壁高は25cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。

カマド 東壁の南に設置している。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ91cm、焚き口部の幅42cm、袖を含めた幅は59cmを測る。1～7・9～13層はカマド埋没土、8・14・15層は掘り方充填土である。袖石2個と支脚の礫が残されている。土器片の出土も多かった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。西壁近くからピット1基を検出した。長径52cm・短径48cm・深さ21cmを測る。

第67表 3区60号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|----------------------|--------|------------------|--------|--------------------|----------------------|--|-------------------|
| 第212図 | 1 | 須恵器 杯 | P1内 3/4 | 口 底 | 9.4 6.4 | 高 | 1.5 | 粗砂粒・赤黒色粘土粒/酸化焰/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り後、無調整。 | |
| 第212図 | 2 | 須恵器? 椀 | +4 高台部 | 底 | 7.6 | 台 | 7.6 | 粗砂粒/酸化焰/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転は右回り。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。 | 内面に煤状の付着物。 |
| 第212図 | 3 | 須恵器 椀 | +2 高台部 | 底 | 5.0 | 台 | 5.6 | 粗砂粒/酸化焰/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転は右回り。高台部は付け高台。 | |
| 第212図 | 4 | 土師器 高杯 | 床直 脚部上半 | | | | | 粗砂粒/良好/橙 | 粗雑な成形。外面は横位にナデ。内面はナデ。 | |
| 第212図 | 5 | 須恵器 羽釜 | カマド 口縁部～胴部 1/6 | 口 | 22.4 | | | 粗砂粒/酸化焰/明赤褐 | ロクロ整形。口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。 | 被熱・内面の一部黒色・付着物か。 |
| 第212図 | 6 | 須恵器 羽釜 | 床直 口縁部～ 胴部1/5 | 口 | 24.5 | | | 粗砂粒・白色鈹物粒/酸化焰/明赤褐 | ロクロ整形。口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。 | 被熱 |
| 第213図 PL.194 | 7 | 土師器 甑 | 床直 口縁～胴部下位 1/2 | 口 | 30.0 | | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位に3回ヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面は部分的に炭素吸着・黒斑状。 |
| 第213図 | 8 | 土師器 土釜 | 床直 底部～胴 部下半片 | 底 | 14.0 | | | 粗砂粒・白色鈹物粒/良好/橙 | 胴部は斜縦・斜横のヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第213図 PL.194 | 9 | 石製品 砥石 | | 長 幅 | (14.9) (20.8) | 厚 重 | 4.9 891.9 | 軽石 | 表裏面とも激しく使い込まれ、石皿状に大きく窪む。背面側には刃ならし傷が残る。 | 礫砥石 |

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土、4層は貼床、5・6層が掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。ピット4基が検出された。P2は長径63.5cm・短径37.5cm・深さ24.5cm、P3は長径27.5cm・短径22.5cm・深さ19.5cm、P4は長径32.5cm・短径26cm・深さ10cm、P5は長径41.5cm・短径36cm・深さ17cmである。掘り方の深さは約5～10cmを測る。

出土遺物 カマド内と住居中央部でまとめて土器片が出土している。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

62号住居(第214～217図、P.L.63～65・70・194、第69表)

位置 25R-6～8、25S-7グリッド。

重複 6・73号住居より前出で、5・7・78号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 重複が激しくて全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 長辺(北東～南西)推定6m、短辺(南北)5.6m、残存壁高は10～28cmを測る。

床面 やや凹凸がある。部分的に貼床である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁か北壁に設置されていたものと思われるが、重複する住居に壊されていると思われる。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径68cm・短径57cm・深さ15cmを測る。炭化物粒子・焼土粒子を含む。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 主柱穴4基を検出した。P1は長径68.5cm・短径55cm・深さ37cm、P2は長径36.5cm・短径35cm・深さ30cm、P3は長径42.5cm・短径37cm・深さ23cm、P4は長径64cm・短径37cm・深さ40cmを測る。北壁側の2基が大きくて深い。P1-P2間の距離は3m、P2-P3

間距離3.2m、P3-P4間距離2.95m、P4-P1間の距離は3.15mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層が住居埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸があるが、主柱穴に囲まれた範囲がより掘り下げられている。ピット14基が検出された。P5は長径26cm・短径20cm・深さ15cm、P6は長径45cm・短径36cm・深さ29cm、P7は長径24cm・短径21cm・深さ7cm、P8は長径58cm・短径54cm・深さ24cm、P9は長径38cm・短径29cm・深さ20cm、P10は長径30cm・短径29cm・深さ22cm、P11は長径28cm・短径25cm・深さ25cm、P12は長径30cm・短径25cm・深さ21cm、P13は長径56cm・短径48cm・深さ29cm、P14は長径49cm・短径46cm・深さ23cm、P15は長径32cm・短径28cm・深さ30cm、P16は長径31cm・短径27cm・深さ28cm、P17は長径40cm・短径34cm・深さ14cm、P18は長径45cm・短径42cm・深さ10cmである。掘り方の深さは約12～37cmを測る。

出土遺物 住居全体で埋没土中や床面から土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

73号住居(第214・215図、P.L.70・194、第68表)

位置 25Q・R-6～8グリッド。

重複 62号住居より後出で、5号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は11.84㎡。北西～南東7.47m、北東～南西2.87m、残存壁高は25cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

第68表 3区73号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|----------------|-----|------|---|--------------------|-------------------|--|----------------|
| 第215図 | 1 | 土師器 杯 | 掘り方 1/4 | 口 | 12.2 | 高 | 4.3 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。 | 内面磨滅・底部外面炭素吸着。 |
| 第215図 | 2 | 土師器 小型甕 | 掘り方 口縁～胴部上位 | 口 | 10.8 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、胴部は横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第215図 PL.194 | 3 | 礫石器 敲石 | 掘り方 | 長幅 | 15.9 | 厚 | 3.8 | デイサイト | 下端側小口部に近い右辺エッジに敲打痕がある。部分的に被熱して煤けるほか、ひび割れる。 | |



62号住居(B-B')

- 1 褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子、炭化物をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。

73号住居(B-B')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。1、2層よりも暗い色調。

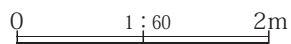
73号住居(A-A')

- I 表土 浅間A軽石を多量に含む。
- II 暗褐色土 やや硬くしまる。白色軽石をやや多く含み、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土ブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロック、炭化物をやや多く含む。
- 6 灰褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 7 黄白色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。暗褐色土を少量含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、灰をやや多く、ローム粒子を含む。

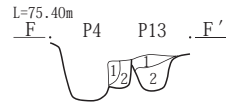
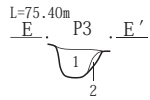
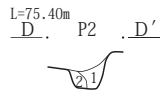
L=75.60m
C. 貯蔵穴 .C'

62号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。



第214図 3区62・73号住居



62号住居 P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。

62号住居 P 3

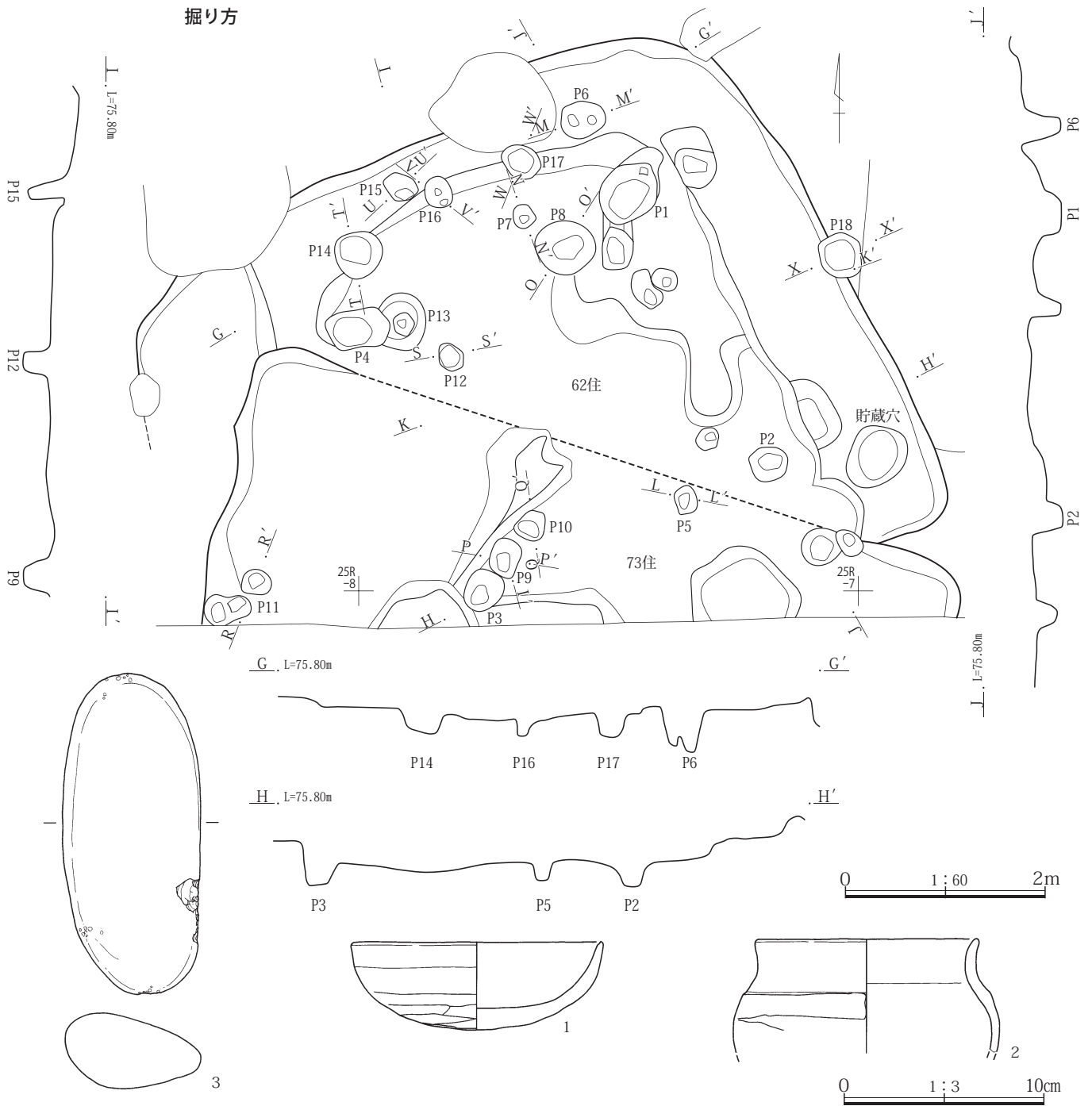
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を多量に含む。

62号住居 P 4

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を含む。

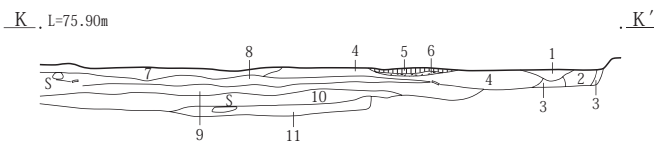
62号住居 P 13

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を少量含む。



第215図 3区62・73号住居掘り方と73号住居出土遺物

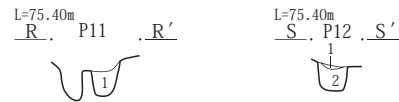
第3章 発掘調査の記録



62号住居(K-K')

- 1 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、灰を含む。
- 2 茶褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体で暗褐色土、焼土粒子を含む。
- 4 褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土ブロック、灰を多量に含む。
- 5 茶褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロック、焼土ブロック、灰を多量に含む。貼床。
- 6 灰
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 10 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土を主体に、暗褐色土、焼土ブロックを含む。
- 11 暗褐色土 硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、灰を多量に、焼土ブロックを含む。

※ 4層と5層はほぼ同一層。

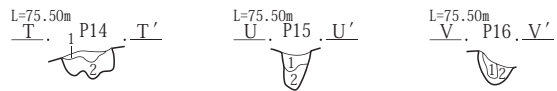


62号住居 P 11

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。

62号住居 P 12

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を少量含む。1層よりも暗い色調。



62号住居 P 14

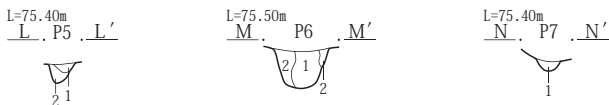
- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土粒子、炭化物粒子を含む。

62号住居 P 15

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色粘質土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を少量含む。

62号住居 P 16

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を少量含む。



62号住居 P 5

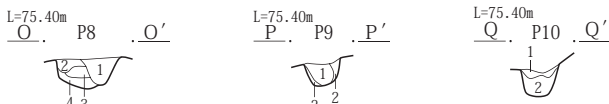
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

62号住居 P 6

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土粒子、炭化物粒子を含む。

62号住居 P 7

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。



62号住居 P 8

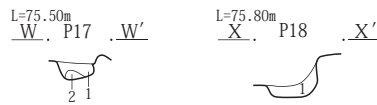
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

62号住居 P 9

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。

62号住居 P 10

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。

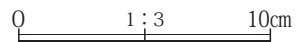
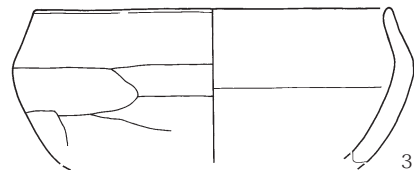
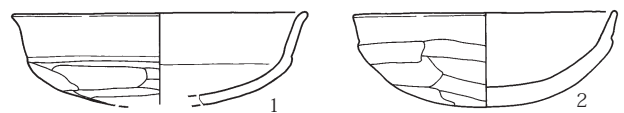
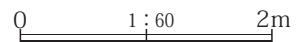


62号住居 P 17

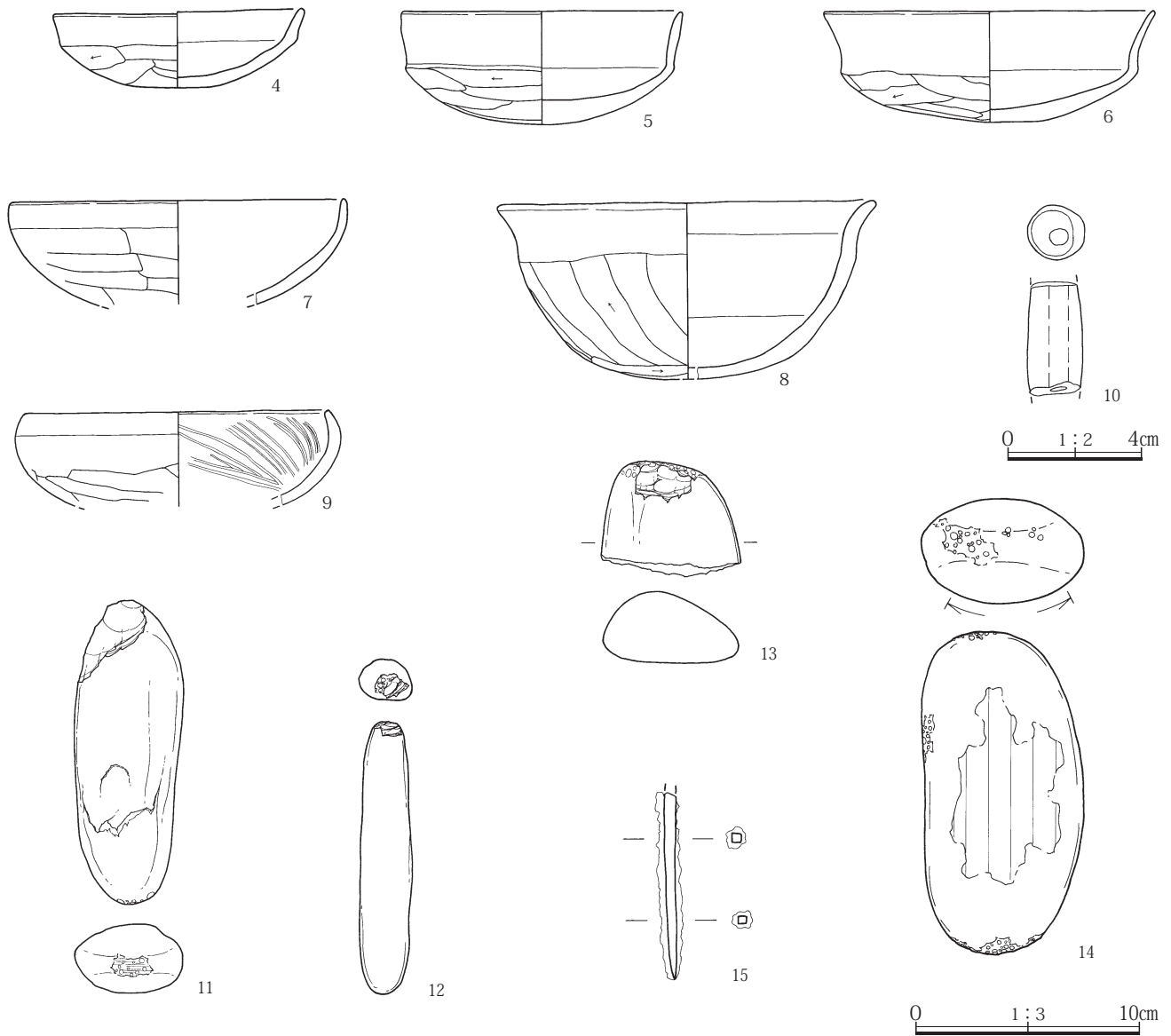
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子を多量に、焼土粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまる。暗褐色土を含む。

62号住居 P 18

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土粒子を含む。



第216図 3区62号住居断面図と出土遺物(1)



第217図 3区62号住居出土遺物(2)

第69表 3区62号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|-----------------|-----|------|--------------------|-----------------------------|--|-------------------|
| 第216図 | 1 | 土師器 杯 | +16 1/4 | □ | 11.4 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第216図 | 2 | 土師器 杯 | +12 3/4 | □ | 10.2 | 高 3.7 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第216図 | 3 | 土師器 杯 | +24 1/4 | □ | 13.9 | | 細砂粒・赤色粘土 粒・雲母/良好/明 赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第217図 PL.194 | 4 | 土師器 杯 | +11 完形 | □ | 11.0 | 高 3.4 | 粗砂粒・細砂粒/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデと考 えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第217図 PL.194 | 5 | 土師器 杯 | 掘り方 完形 | □ | 12.3 | 高 5.0 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は丁寧な手持ちヘラ削り。内面はナ デ。 | 外面底部炭素 吸着・黒斑状。 |
| 第217図 PL.194 | 6 | 土師器 杯 | 掘り方 3/4 | □ | 14.4 | 高 4.9 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は丁寧な手持ちヘラ削り。内面はナ デ。 | 外面底部炭素 吸着・黒斑状。 |
| 第217図 | 7 | 土師器 杯 | 掘り方 口縁～底部片 | □ | 14.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第217図 | 8 | 土師器 鉢 | +13 口縁～底部1/3 | □ | 16.5 | | 精選・片岩/良好/ にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。体部は斜位にヘラ削り。底部はヘラ削り。 内面は横位にナデ。 | |
| 第217図 | 9 | 土師器 杯 | 床直 口縁～底部1/4 | □ | 13.4 | | 精選・赤黒色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面は斜放射状にヘラ磨き。 | |
| 第217図 | 10 | 土製品 土錘 | 掘り方 1/2 | 巾 | 1.7 | 厚 1.7 重 10.42 | 細砂粒/良好/橙 | 両端欠損。外面は丁寧なナデ。 | |

第3章 発掘調査の記録

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|-------------|--------------|--------|--------------|--------------------|-------------------------------------|-----|
| | | | | 長 | 幅 | 厚 重 | | | |
| 第217図 PL.194 | 11 | 礫石器 敲石 | 掘り方 | 13.5 4.9 | 厚 重 | 32.0 2.1 | 緑色片岩 | 小口両端を敲打する。上端側小口部には敲打に伴う衝撃剥離痕が生じている。 | 扁平礫 |
| 第217図 PL.194 | 12 | 礫石器 敲石 | 掘り方 | 12.0 2.2 | 厚 重 | 1.8 81.1 | 黒色片岩 | 上端側小口部が敲打され、衝撃剥離痕が生じている。 | |
| 第217図 PL.194 | 13 | 礫石器 敲石 | 掘り方 | (5.1) 6.2 | 厚 重 | 3.2 124.7 | 粗粒輝石安山岩 | 上端側小口部に敲打痕、衝撃剥離痕が残る。 | |
| 第217図 PL.194 | 14 | 礫石器 敲石 | | 14.3 7.2 | 厚 重 | 4.7 654.9 | 粗粒輝石安山岩 | 背面側中央に弱い光沢痕があるほか、小口部両端に敲打痕が残る。 | |
| 第217図 PL.194 | 15 | 鉄器 釘 | 掘り方 頭部欠損 | (5.5) 3.5 | 厚 重 | 3.5 (3.4) | | 錆化が激しい。 | |

カマド・貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 明瞭な柱穴を確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

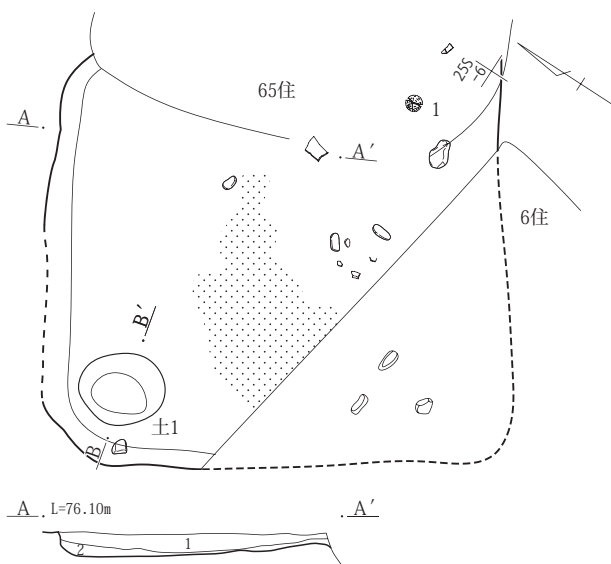
埋没土 自然埋没土と思われる。1～3・9層が住居埋没土なる。

掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは約7～25cmを測る。

出土遺物 住居全体の床面でまとまりなく、土器片が出土している。

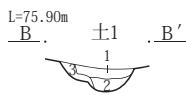
時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

63号住居(第218図、P L .64・65・195、第70表)



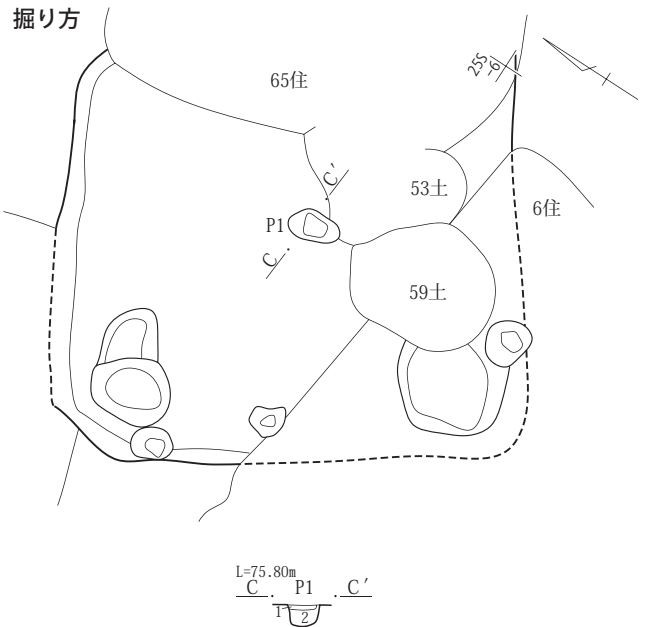
63号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子、炭化物を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。



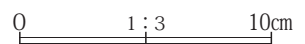
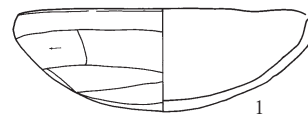
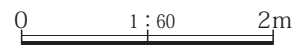
住居内土坑1

- 1 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石、焼土粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。



P 1

- 1 茶褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を少量含む。

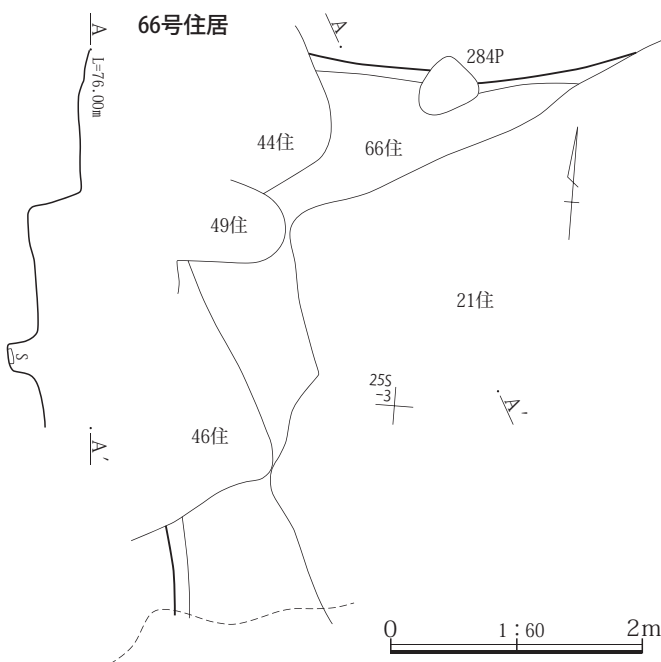


第218図 3区63号住居と出土遺物

第70表 3区63号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|-------------|------|-------------|---|--------------------|-------------------------|----|
| | | | | 口 | 高 最 | 重 | | | |
| 第218図 PL.195 | 1 | 土師器 杯 | ほぼ完形 | 11.5 | 4.0 11.7 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | |

位置 25R・S-6グリッド。
重複 57号住居より後出で、6・65号住居より前出。
形状 重複がはげしいため全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。
主軸方位 不明。
規模 現状での面積は8.75㎡、一辺3.27mを確認でき、残存壁高は20cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。床面の中央部から西壁にかけて硬化面が認められた。
カマド 確認できなかった。
貯蔵穴 床面の北西隅から土坑が検出された。1号土坑は長径68.5cm・短径57.5cm・深さ18cmの楕円形を呈する。その位置から判断すると貯蔵穴になるものと思われる。
柱穴 明瞭な主柱穴は不明である。
周溝 確認できなかった。
埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層が住居埋没土になる。
掘り方 不明。住居中央部からピット1基を検出した。長径41.5cm・短径24.5cm・深さ17cmを測る。
出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。
時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。
66号住居(第219図、P L.36・37)
位置 25R-3、25S-2・3グリッド。
重複 21・49号住居より前出で、44・46号住居と重複するが新旧関係不明。

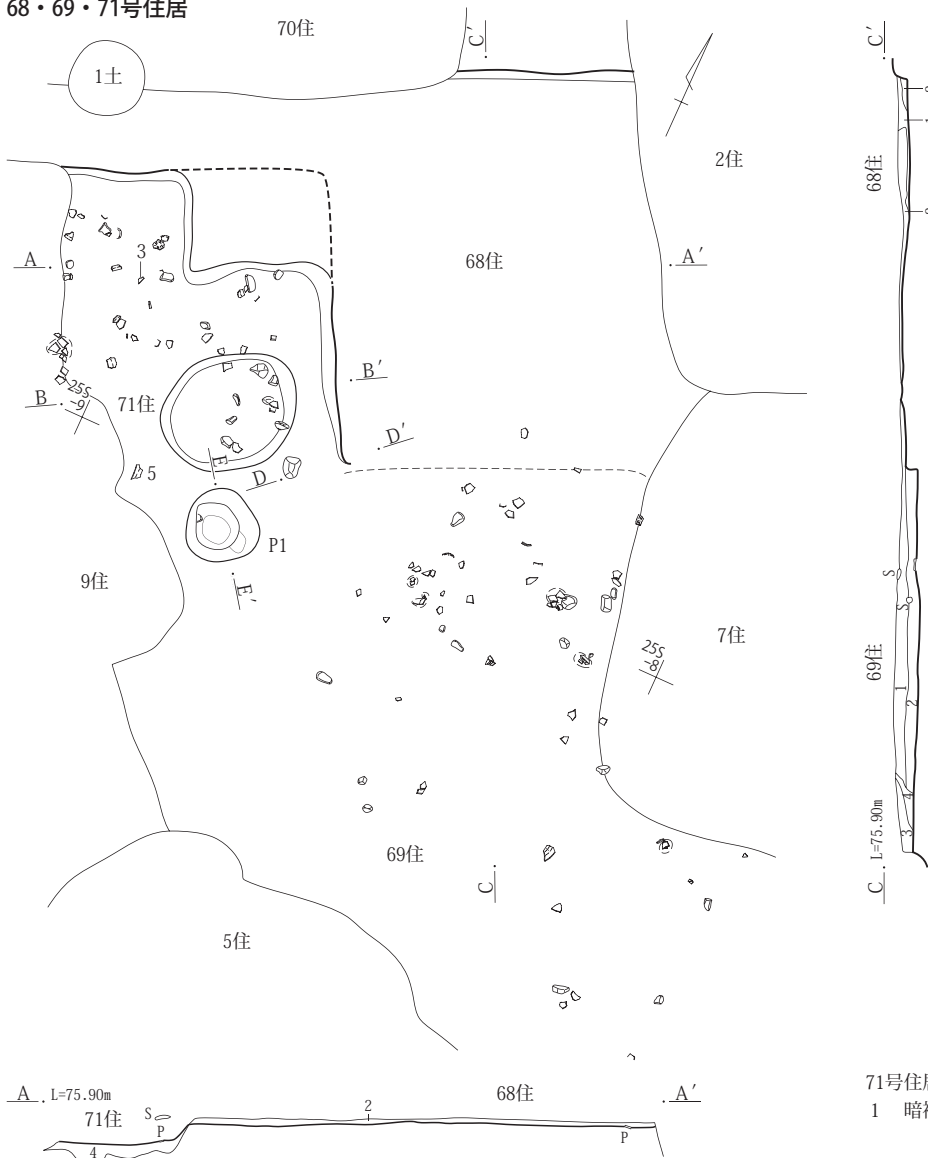


第219図 3区66号住居

形状 重複がはげしいために不明である。
主軸方位 不明。
規模 不明、残存壁高は5cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。
埋没土 ほとんど検出することはできなかった。
掘り方 不明。
出土遺物 ほとんど出土していない。
時期 時期不明。
68号住居(第220・221図、第71表)
位置 25S-8・9グリッド。
重複 2号住居より前出で、7・69・70・71号住居と重複するが新旧関係不明。
形状 重複がはげしいために形状は不明である。
主軸方位 不明。
規模 現状では、東西3.7m、南北2.5mを確認でき、残存壁高は2cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。
埋没土 ほとんど床面での検出のために確認することはできなかった。
掘り方 全体的にほぼ平坦である。掘り方の充填土は1・2層で、深さは3～8cmを測る。
出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。
時期 時期不明。

69号住居(第220・221図、P L.67、第71表)
位置 25R・S-8グリッド。
重複 5・7・9・68・71号住居と重複するが新旧関係不明。
形状 重複がはげしいために形状は不明である。
主軸方位 不明。
規模 現状で一辺約4mを確認でき、残存壁高は確認できていない。
床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。
埋没土 ほとんど床面での検出のために確認することはできなかった。
掘り方 全体的にほぼ平坦である。掘り方の充填土は1～4層で、深さは4～19cmを測る。

68・69・71号住居

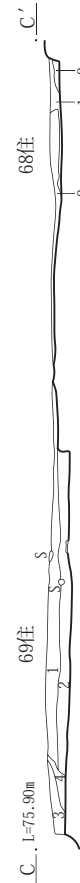


68号住居(C-C')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 硬くしまる。ロームブロックを多量に、白色軽石、炭化物粒子、焼土粒子を含む。

69号住居(C-C')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。



L=75.90m
E E' 71住P1 E'



71号住居P1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを主体に暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

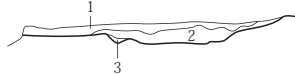
68号住居(A-A')

- 2 黄褐色土 硬くしまる。ロームブロックを多量に、白色軽石、炭化物粒子、焼土粒子を含む。

71号住居掘り方(A-A')

- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土粒子、炭化物を含む。

B L=75.90m 71住 B'



71号住居(B-B')

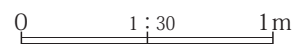
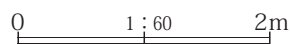
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。

L=75.90m D 71住カマド D'



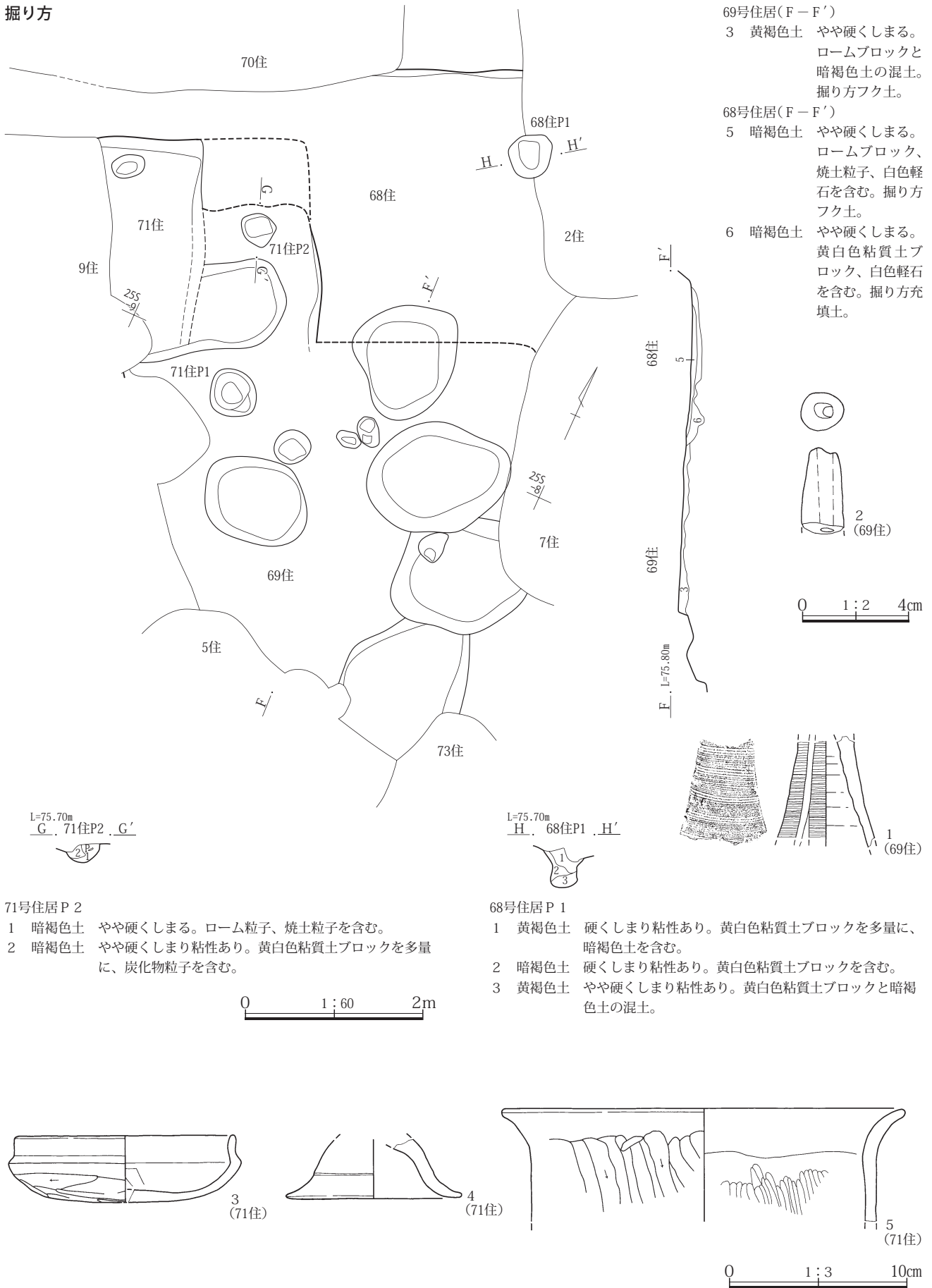
71号住居カマド

- 1 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ロームブロック、灰を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土ブロック、白色粒子を含む。炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を含む。



第220図 3区68・69・71号住居

掘り方



第221図 3区68・69・71号住居掘り方と69・71号住居出土遺物

出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。

時期 時期不明。

71号住居(第220・221図、P L .67・69、第71表)

位置 25R・S-8、25S-9グリッド。

重複 9・68・69号住居と重複するが新旧関係不明。

形状・主軸方位 不明。

規模 現状で一辺約2.15mを確認でき、残存壁高は確認できていない。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 土坑に接して焼土の分布が認められた。カマド本体は削平されてしまって全容は不明である。焚き口部の検出にとどまった。

貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴を確認できなかったが、土坑1基が検出されている。長径111cm・短径90cm・深さ10cmを測る。

柱穴 確認できなかった。ピット1基を検出した。長径58.5cm・短径57.5cm・深さ84cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 ほとんど床面での検出のために確認することはできなかった。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。掘り方の充填土は4層で、深さは10cmを測る。

出土遺物 床面から全体的に土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

70号住居(第222～224図、P L .68・195、第72表)

位置 25S-8・9、25S・T-9・10グリッド。

重複 8・161・162号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈する。

主軸方位 不明。

規模 長辺(北西～南東)推定6m、短辺(北東～南西)5.11m、残存壁高は6cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 床面の南西隅に位置している。長径59cm・短径52cm・深さ29cmを測る。炭化物・焼土を含む。

柱穴 支柱穴4基を検出した。P1は長径52cm・短径23.5cm、P2は長径69cm・短径(33)cm、P3は長径51cm・短径43cm・深さ38cm、P4は長径48.5cm・短径32cm・深さ38cmを測る。P1-P2間の距離は3.6m、P2-P3間距離2.65m、P3-P4間距離3.35m、P4-P1間の距離は3.25mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～4層が住居埋没土、6層は貼床、5・7～12層は掘り方充填土である。

掘り方 全体的に凹凸があるが、支柱穴に囲まれた範囲がより掘り下げられている。ピット2基が検出された。P5は長径51cm・短径48cm・深さ43.5cm、P6は長径78.5cm・短径70.5cm・深さ24cmを測る。土坑1は長径81cm・短径64cm・深さ16cm、土坑2は長径119cm・短径113cm・深さ24cmを測る。掘り方の深さは5～28cmを測る。

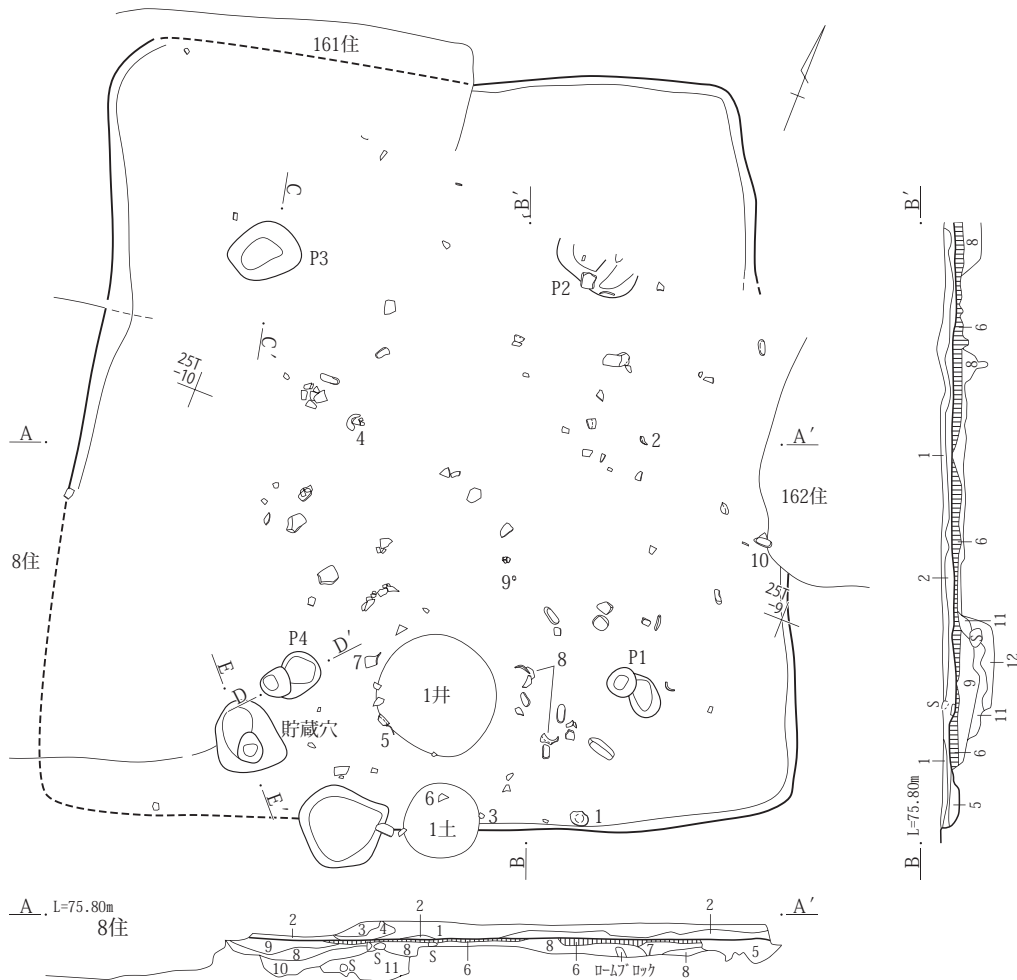
出土遺物 中央部から南半部にやや遺物の集中がみられる。石製模造品有孔円盤(9)は中央部で出土する。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

第71表 3区69・71号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|------------|-------------------|-----|------|-----------------------|---|--|
| 第221図 | 1 | 須恵器 高杯 | 69住 脚部片 | | | 白色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。透孔は長方形を呈し3ヶ所に配されたと考えられる。外面は全体にカキ目を施す。 | |
| 第221図 | 2 | 土製品 土錘 | 69住 1/2 | 巾 | 1.6 | 厚 1.4 重 6.04 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 一方の小口部分が残存する。 |
| 第221図 | 3 | 土師器 杯 | 71住 床直1/4 | 口 | 12.0 | 高 3.6 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。稜の下に一部ナデ部分。内面横位にへらナデ。 |
| 第221図 | 4 | 土師器 台付甕 | 71住 台部1/2 | | | 台 9.4 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 裾部は横ナデ。 内外面とも磨滅。被熱炭素吸着。 |
| 第221図 | 5 | 土師器 甕 | 71住 床直口縁 ～胴部上位 | 口 | 22.2 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のへら削り。内面胴部は横位のナデ後、縦位のへら磨き。 |

70号住居



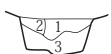
P 3

- 1 暗褐色土 硬くしまる。ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまる。暗褐色土、白色粒子を少量含む。

P 4

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子を少量含む。

L=75.50m
貯蔵穴 E-E'



貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。

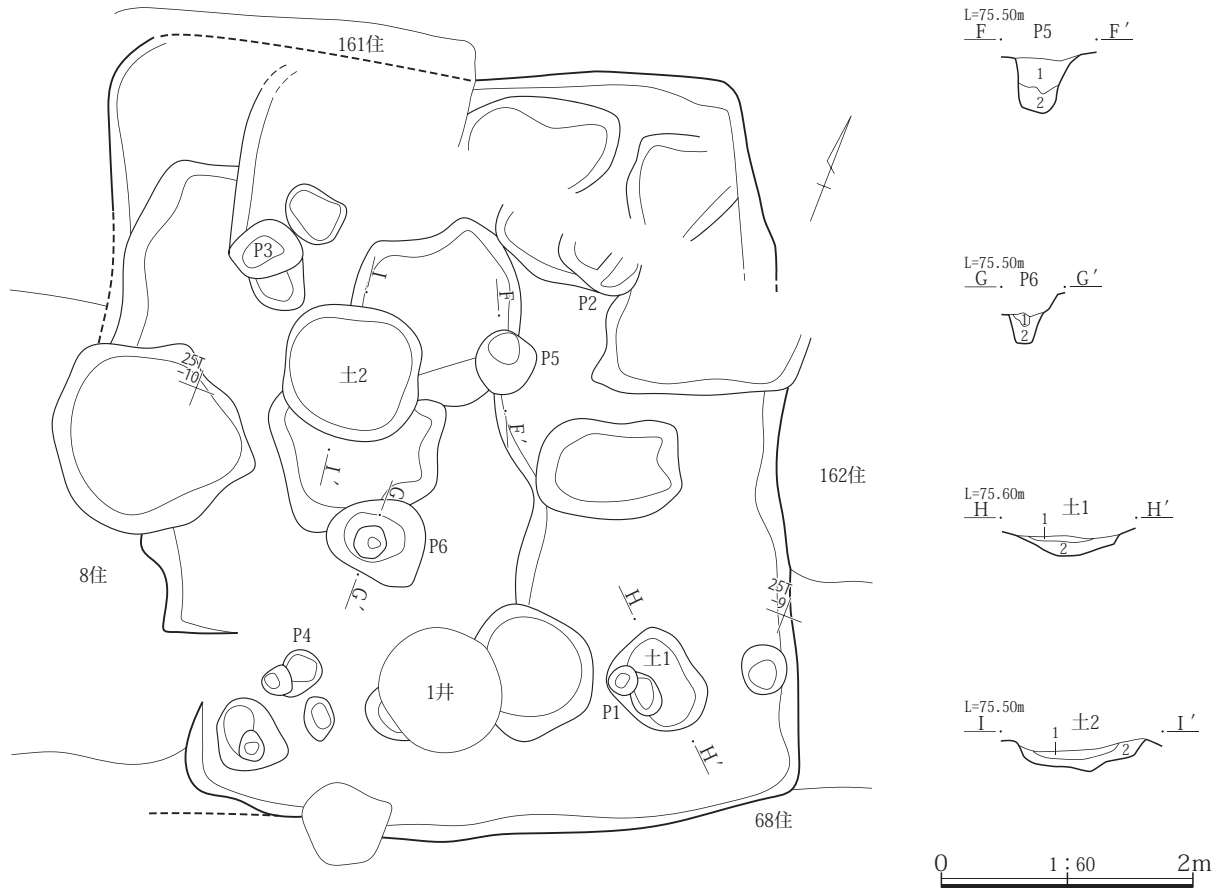
70号住居

- 1 褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬い。焼土ブロック、ローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬い。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子、炭化物、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。貼床。
- 7 黄褐色土 硬くしまる。ロームブロックを主体に、暗褐色土、焼土粒子を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多量に、暗褐色土、白色軽石を含む。
- 10 黄褐色土 硬くしまり粘性非常にあり。ロームと暗褐色土の混土。炭化物粒子を少量含む。
- 11 暗褐色土 硬くしまり粘性非常にあり。ロームを多量に、焼土ブロック、炭化物を少量含む。
- 12 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土、炭化物を含む。



第222図 3区70号住居

掘り方



P 5

- 1 暗褐色土 粘性あり。やや硬くしまる。ローム粒子を多く含む。
- 2 黒褐色土 粘性あり。しまる。ローム粒子を少量含む。

P 6

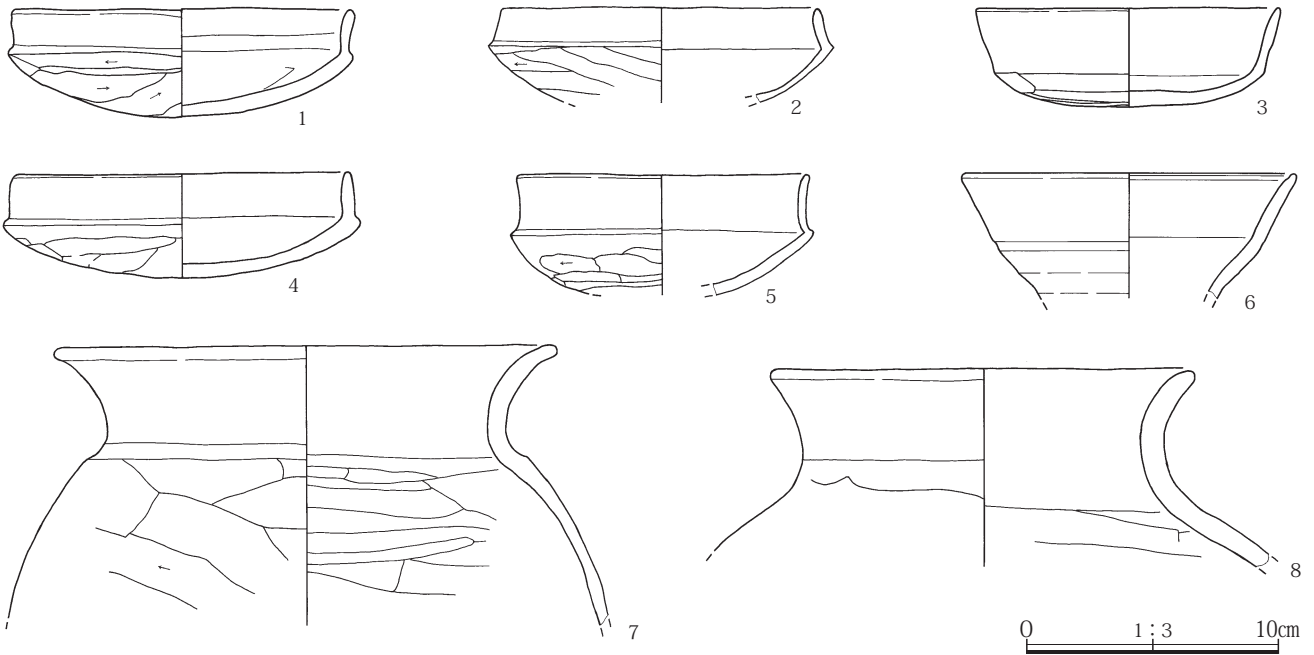
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。

住居内土坑1

- 1 暗褐色土 ややしまる。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ややしまる。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。

住居内土坑2

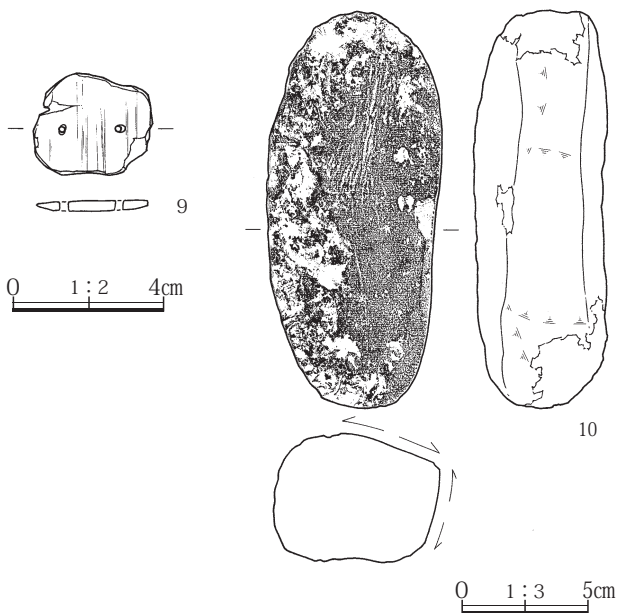
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を多く焼土粒子を少量含む。



第223図 3区70号住居掘り方と出土遺物(1)

第72表 3区70号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|---------------|-------------------|--------|-------------|--------|--------------------|-----------------------------|--|----------------------------------|
| | | | | 口 | 高さ | 厚 | | | | |
| 第223図 PL.195 | 1 | 土師器 杯 | +13 口縁部1/2欠損 | 口 | 13.2 | 高 稜 | 4.2 13.6 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。内面底部にヘラナデ。 | |
| 第223図 | 2 | 土師器 杯 | 掘り方 口縁~底部1/4 | 口 | 12.3 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面は丁寧なナデ。 | 炭素吸着。 |
| 第223図 | 3 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 11.8 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/にぶい橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第223図 | 4 | 土師器 杯 | 床直 1/2 | 口 | 13.0 | 高 | 4.1 | 粗砂粒/良好/灰黄 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面口縁部に 煤付着。内外 面とも炭素吸 着。 |
| 第223図 | 5 | 土師器 杯 | 掘り方 口縁~底部1/3 | 口 | 11.3 | | | 精選/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は丁寧な手持ちヘラ削り。稜下に一部ナデの部分を残す。内面はナデ。 | 外面底部、炭 素吸着。 |
| 第223図 | 6 | 須恵器 甕 | 床直 口縁~頸部片 | 口 | 12.9 | | | 白色鈹物粒・黒色 鈹物粒発泡/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。口縁部から頸部への移行部に沈線がめぐる。 | 内外面に自然 釉付着。 |
| 第223図 | 7 | 土師器 甕 | +5 口縁~胴 部上位1/4 | 口 | 19.4 | | | 小礫・粗砂粒・片岩 良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第223図 | 8 | 土師器 甕 | 床直 口縁~胴 部上位 | 口 | 16.3 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第224図 PL.195 | 9 | 石製模造品 有孔円盤 | +13 | 長 幅 | 2.7 3.1 | 厚 重 | 0.3 4.95 | 滑石 | 外縁の整形は粗く、概形を整える。表裏面とも縦位の粗い線条痕を残す。径2mm弱の孔を両側穿孔する。 | |
| 第224図 PL.195 | 10 | 石製品 砥石 | +15 | 長 幅 | 15.6 6.9 | 厚 重 | 5.3 828.1 | デイサイト | 背面側・右側面が砥面として使用されている。背面側に縦位の刃ならし傷が残る。 | 礫砥石 |



第224図 3区70号住居出土遺物(2)

72号住居(第225・226図、P L .69・70、第73表)

位置 15R・S-8グリッド。

重複 7号溝より前出。

形状 隅丸方形を呈する。

主軸方位 N-8°-W

規模 面積9.26㎡。長辺(東西)3.42m、短辺(南北)3.4m、
残存壁高は30~35cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかつた。

カマド 北壁のほぼ中央に設置され、燃焼部は床面から

壁を掘り込んで構築されている。長さ164cm、焚き口の幅51cmを測る。支脚の礫が残されている。5層は灰層である。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1~3層が住居埋没土になり、4層は掘り方充填土、5・6層は土坑2の埋没土、7層は土坑1の埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。ピット1基と土坑2基が検出された。P1は長径31cm・短径28.5cm・深さ16cm、土坑1は長径72.5cm・短径68cm・深さ28.5cm、土坑2は長径83cm・短径78.5cm・深さ24cmを測る。掘り方の深さは約10~25cmを測る。

出土遺物 カマド周辺から土器片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

74号住居(第227図、P L .70・71、第74表)

位置 25R-8、25Q・R-9グリッド。

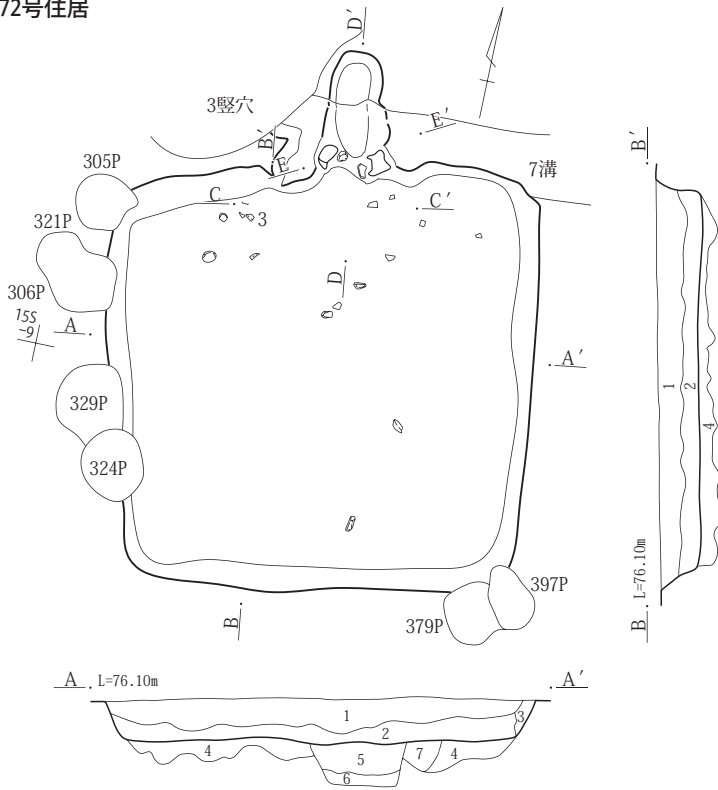
重複 5号住居より前出で、9号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 重複と路線外に延びているために全容は不明である。発掘時は74号住居と79号住居と2軒の重複と考えて調査を進めたが、同一住居になるものとわかった。このために79号住居は欠番となる。

主軸方位 不明。

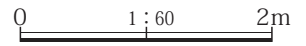
規模 現状での面積は12.1㎡。北東~南西5.74m、北西~南東は現状3m、残存壁高は発掘区の南壁で10cmを確

72号住居

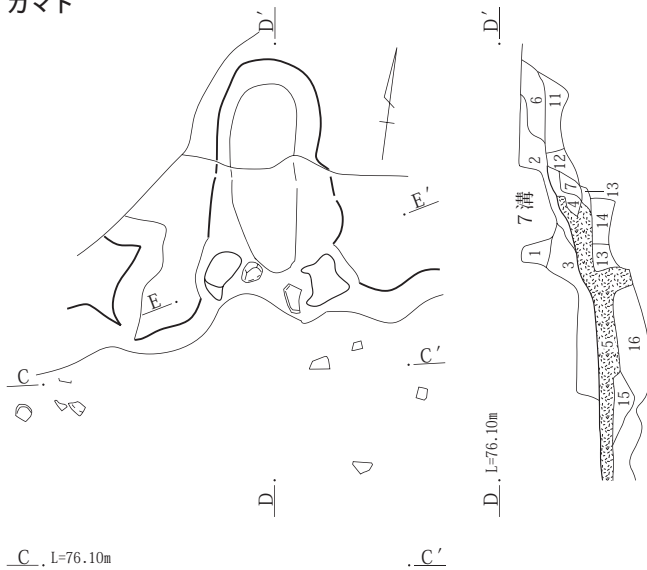


72号住居

- 1 暗褐色土 粘性あり。やや硬くしまる。白色細粒、黄色細粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。やや硬くしまる。ローム粒子、黄白色土粒子、白色細粒を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量、炭化物粒子を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄褐色土大ブロック、黄白色土大ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄褐色土ブロック、黄白色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。黄褐色土ブロック、黄白色土大ブロックを含む。
- 7 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄白色土粒子を多く含む。

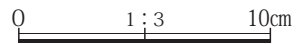
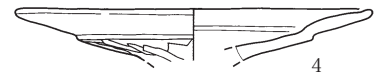
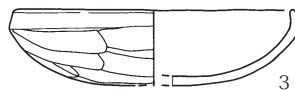
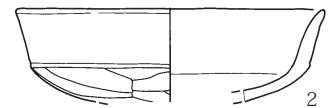
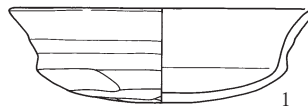
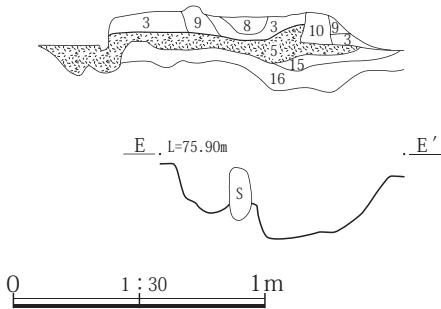


カマド



カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。白色細粒、ローム粒子を含む。
- 2 灰褐色土 粘性あり。軟らかい。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 粘性あり。しまり良い。焼土ブロック、ローム粒子を含む。
- 4 灰褐色土 粘性あり。軟らかい。黄白色土ブロックを含む。
- 5 灰 粘性あり。軟らかい。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。
- 7 褐色土 粘性あり。軟らかい。
- 8 黄褐色土 粘性あり。軟らかい。焼土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 しまる。黄褐色土ブロックを多く含む。
- 10 黄褐色土 しまる。暗褐色土ブロックを含む。
- 11 暗褐色土 軟らかい。ロームブロックを少量含む。
- 12 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子を少量含む。
- 13 灰褐色土 粘性あり。ややしまる。ロームブロック、黄白色土ブロックを含む。
- 14 褐色土 粘性あり。ややしまる。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 15 暗褐色土 粘性あり。やや硬くしまる。ロームブロック、黄白色土粒子を含む。
- 16 黒褐色土 粘性あり。ややしまる。黄白色土ブロックを多く含む。

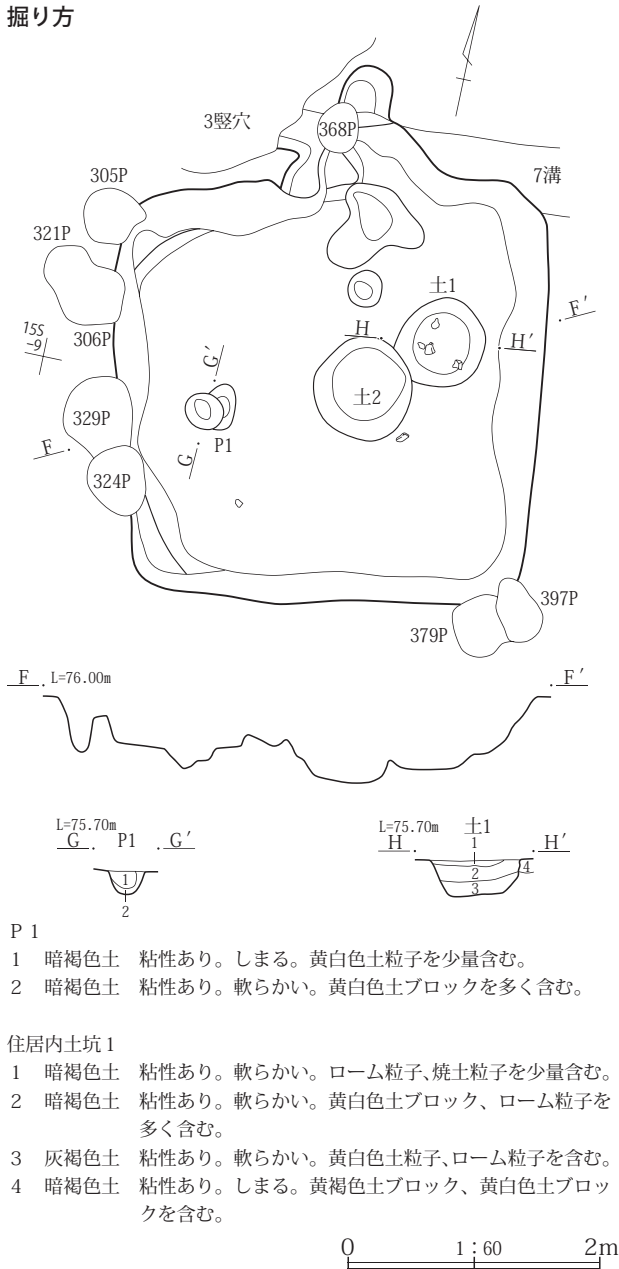


第225図 3区72号住居と出土遺物

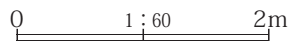
第73表 3区72号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|--------------|-----|-----------|-------------|-----|------|---|--------------------|-----------------------|---------------------------------|------------|
| 第225図 | 1 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 11.8 | 高 | 3.7 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/にぶい黄橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第225図 | 2 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 12.0 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/にぶい黄橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第225図 | 3 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | 口 | 10.8 | | | 細砂粒/良好/にぶい 橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第225図 | 4 | 土師器 高杯 | 口縁部分 | 口 | 13.6 | | | 精選・細砂粒少/良 好/にぶい黄橙 | 口縁部横ナデ、体部は不定方向にヘラ削り。内面体部は丁寧なナデ。 | 内面炭素吸着・黒色。 |

掘り方



- P 1
- 1 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄白色土粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。黄白色土ブロックを多く含む。
- 住居内土坑 1
- 1 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。黄白色土ブロック、ローム粒子を多く含む。
 - 3 灰褐色土 粘性あり。軟らかい。黄白色土粒子、ローム粒子を含む。
 - 4 暗褐色土 粘性あり。しまる。黄褐色土ブロック、黄白色土ブロックを含む。



第226図 3区72号住居掘り方

認できる。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 東壁に近接した土坑 2 が貯蔵穴になる可能性がある。長径107.5cm・短径98.5cm・深さ27cmの楕円形を呈する。焼土粒子と炭化物粒子を含んでいる。土坑 1 は長径104cm・短径90cm・深さ31cmの楕円形を呈する。

柱穴 P 1 と P 2 が主柱穴になるものと思われる。P 1 は長径31cm・短径29cm・深さ29cm、P 2 は長径34cm・短径29cm・深さ13.5cmを測る。P 1 - P 2 間の距離は2.6mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。セクションA-A'の2層が住居埋没土になり、3～5層は掘り方充填土になる。セクションB-B'は掘り方だけの充填土である。

掘り方 全体的に凹凸がある。ピット 2 基が検出された。P 3 は長径45cm・短径41cm・深さ27cm、P 4 は長径31.5cm・短径29.5cm・深さ41cmを測る。掘り方の深さは約7～28cmを測る。

出土遺物 土坑 2 から集中して土器片が出土し、全体的に少ない。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

75号住居(第228図、P L.71・72、第74表)

位置 15S・T-8グリッド。

重複 112号住居より前出。

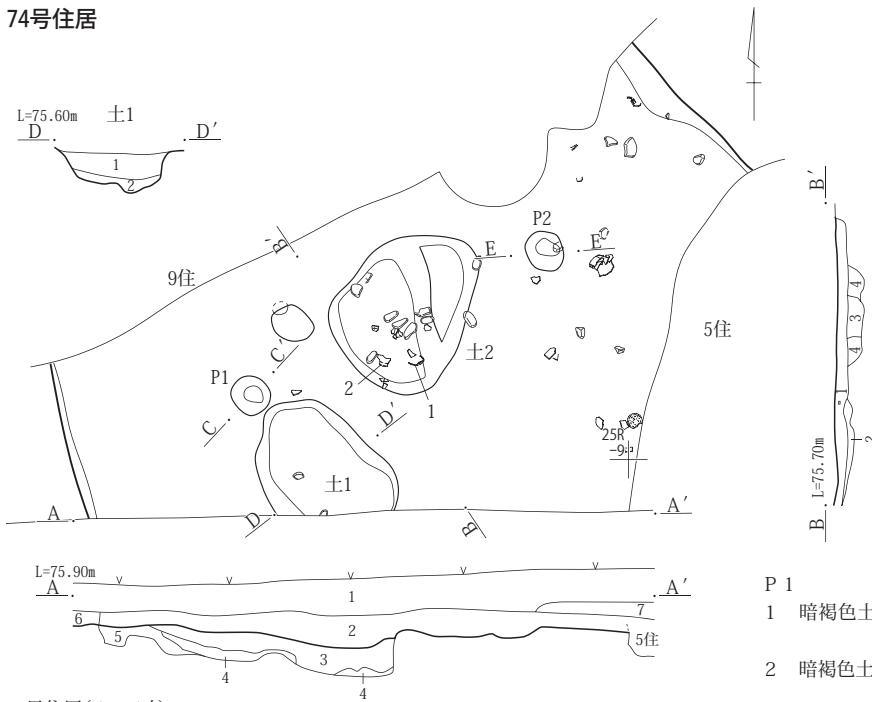
形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-54°-E

規模 現状では長辺(北西～南東)3.52m、短辺(北東～南西)3.07m、残存壁高は4～15cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。中央部から北部分にかけて硬化面が認められた。

74号住居

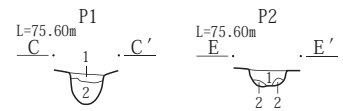


74号住居(A-A')

- 1 表土 浅間A軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬い。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 黄白色粘質土 やや硬くしまる。暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬い。ロームブロックを多量に含む。
- 7 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子、焼土ブロック、白色軽石を含む。

74号住居(B-B')

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックと暗褐色土の混土。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。



P 1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを多量に、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

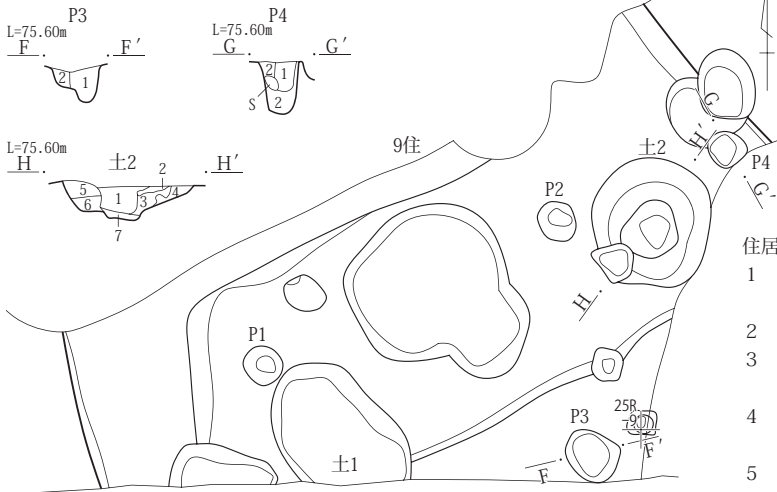
P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子、白色粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。

住居内土坑 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、炭粒を含む。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を少量含む。

掘り方



P 3

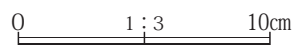
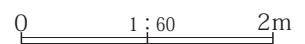
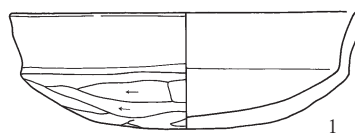
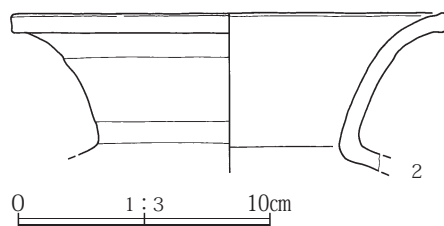
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を多量に、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を含む。

P 4

- 1 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

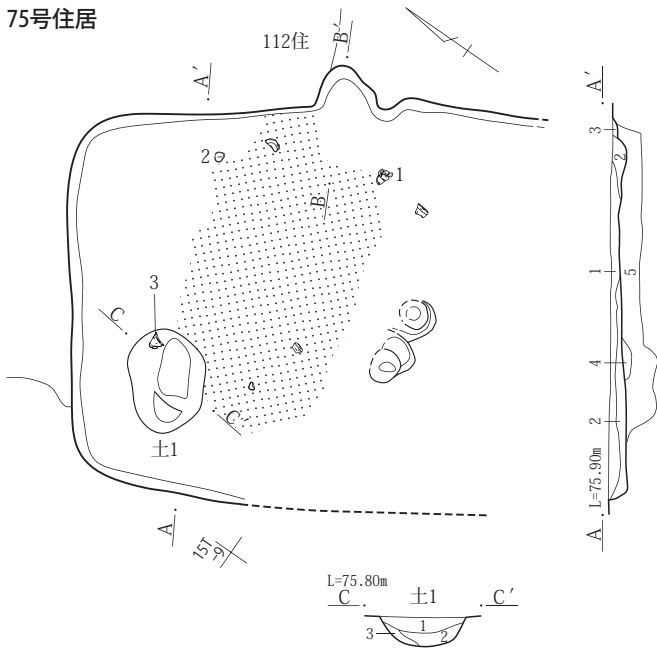
住居内土坑 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を少量含む。
- 5 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 7 灰褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子を少量含む。

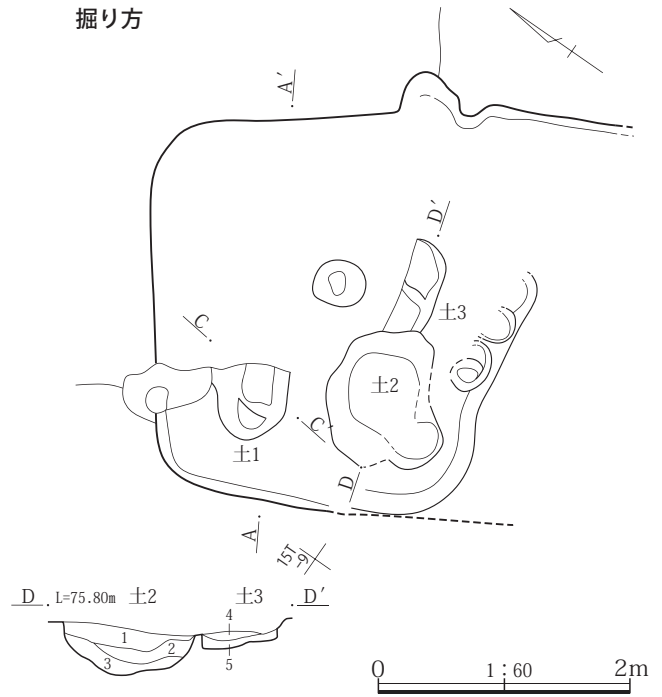


第227図 3区74号住居と出土遺物

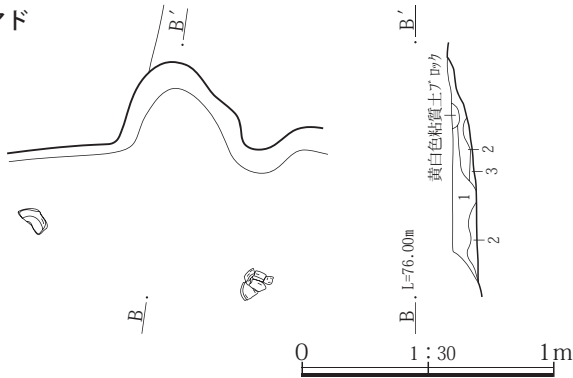
75号住居



掘り方

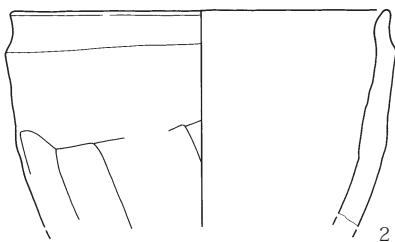
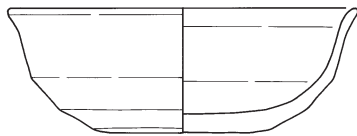


カマド



カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。炭化物、灰を多量に、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を含む。



75号住居

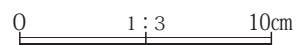
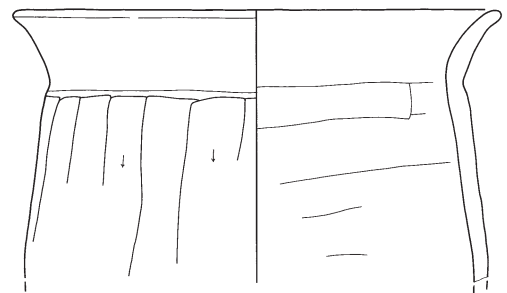
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。
- 4 黒褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。

住居内土坑1

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 3 黄白色土 やや硬く粘性あり。焼土粒子、暗褐色土を含む。

住居内土坑2・3

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多量に、ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。



第228図 3区75号住居と出土遺物

カマド 東壁のほぼ中央に設置され、燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。長さ38cm、焚き口の幅50cmを測る。

貯蔵穴 床面北西隅から検出された土坑1が貯蔵穴になるものと思われる。長径83cm・短径57cm・深さ25cmを測る。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土になり、4・5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。土坑2基が検出された。土坑2は長径114cm・短径61cm・深さ38.5cm、土坑3は長径cm・短径cm・深さ19.5cmを測る。掘り方の深さは約13～24cmを測る。

出土遺物 床面から土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から9世紀代に比定される。

76号住居(第229図、P L .72・73・195、第74表)

位置 15R・S-6・7グリッド。

重複 7・10号溝より前出。80号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 南北4.7m、残存壁高は29cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。2・3層が住居埋没土になり、4～7層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。北西部に円形や楕円形の掘り込みが認められる。掘り方の深さは約8～35cmを測る。

出土遺物 北西部に残存する程度であった。

時期 出土遺物から時期比定できない。

80号住居(第229図、P L .73)

位置 15S-6・7グリッド。

重複 10号溝より前出で、76号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 全容は不明であるが、方形を呈するものであろうか。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は2.91㎡。一辺(東西)2.53m、南北は現状1.67m、残存壁高は17～27cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。

掘り方 全体的に凹凸がある。

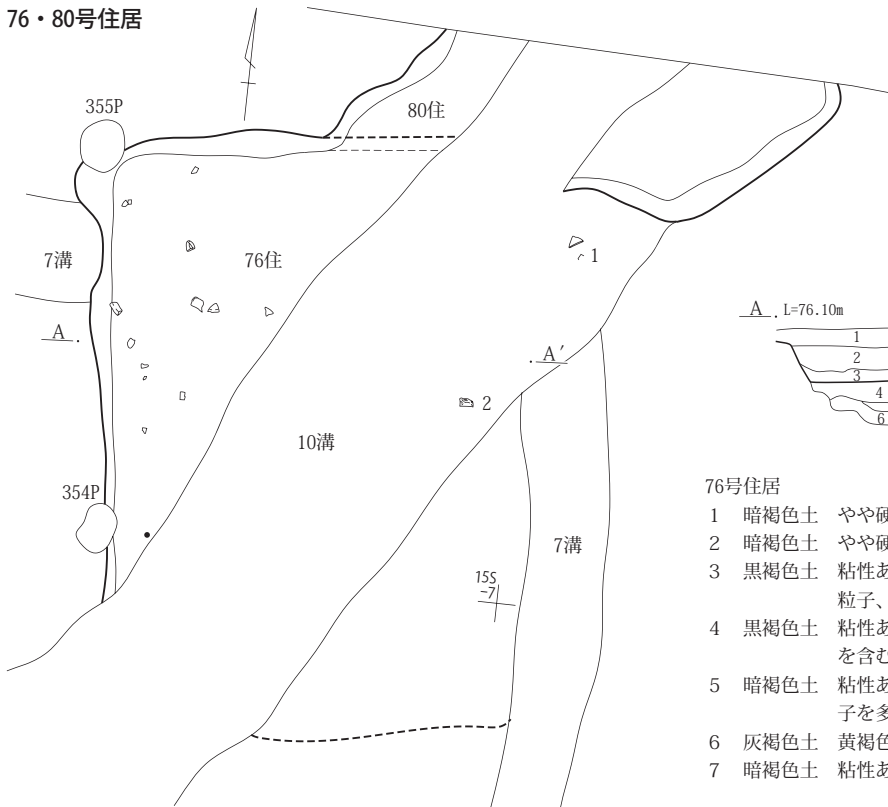
出土遺物 ほとんど出土していない。

時期 時期不明。

第74表 3区74・75・76号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|--------------------------|--------|-------------|--------|--------------------|--------------|---|---------------|
| | | | | 口 | 高さ | 底 | | | | |
| 第227図 | 1 | 土師器 杯 | 74住 内土坑2 1/3 | 口 | 13.5 | 高 | 4.5 | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも漆塗り。 |
| 第227図 | 2 | 土師器 壺 | 74住 内土坑2 口縁1/4 | 口 | 16.8 | | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口唇部は先端を外方に向ける。口縁部は横ナデ、中位に弱い段。 | |
| 第228図 | 1 | 須恵器 杯 | 75住 +6 1/2 | 口 底 | 13.6 5.0 | 高 | 4.9 | 粗砂粒/酸化焰/灰黄褐 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整。体部は回転ヘラ削り後、ナデ調整。 | 内外面とも炭素吸着、煤か。 |
| 第228図 | 2 | 土師器 台鉢 | 75住 +4 口縁～胴部上位 片 | 口 | 14.6 | | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削りか。同一個体と考えられる胴部下半から脚台部の破片が出土しているが、接点が無く図化できなかった。 | 被熱のため脆弱・炭素吸着。 |
| 第228図 | 3 | 土師器 甕 | 75住 内土坑1 口縁～胴部上位 片 | 口 | 18.4 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱・変質。 |
| 第229図 PL.195 | 1 | 土師器 杯 | 76住 1/2 | 口 | 11.6 | 高 稜 | 4.3 12.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第229図 | 2 | 須恵器 杯 | 76住 1/4 | 口 底 | 13.6 8.0 | 高 | 3.0 | 粗砂粒少/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転は右回り。底部回転ヘラ削り後、手持ちヘラ削り。 | 内面磨耗。 |

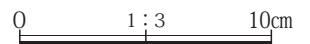
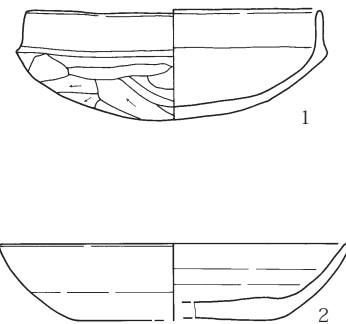
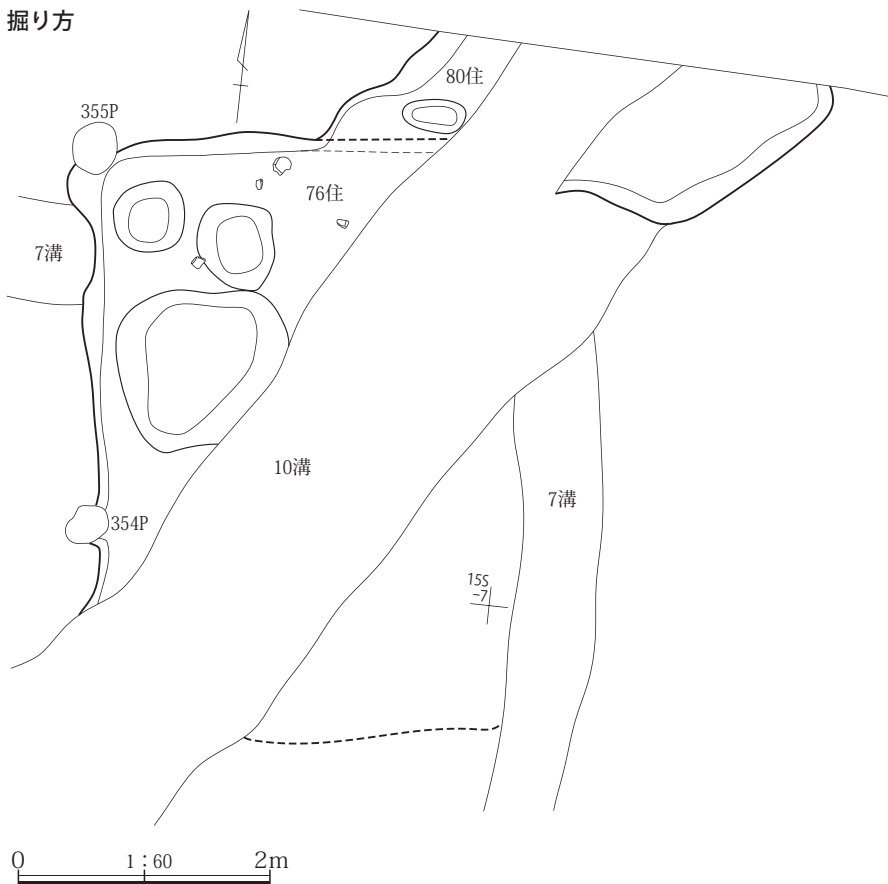
76・80号住居



76号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。白色細粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。白色細粒子、ローム粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 粘性あり。やや硬くしまり良い。ローム粒子、黄白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 黒褐色土 粘性あり。ややしまる。ロームブロック、黄白色土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 粘性あり。ややしまる。黄褐色土ブロック、黄白色土粒子を多く含む。
- 6 灰褐色土 黄褐色土ブロック、黄白色土ブロックを多量に含む。
- 7 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。黄白色土粒子を少量含む。

掘り方



第229図 3区 76・80号住居と76号住居出土遺物

77号住居(第230図、P L.73)

位置 15Q-9・10グリッド。

重複 77号ピットと重複するが新旧関係不明。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は0.88㎡。東西3.48m、南北は現状0.7m、残存壁高は発掘区の南壁で10cmを確認できる。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 ピット2基を検出したが支柱穴にはならないものと思われる。P1は一辺37cm・深さ30cm、P2は一辺40cm・深さ24cmを測る。

周溝 確認できなかった。

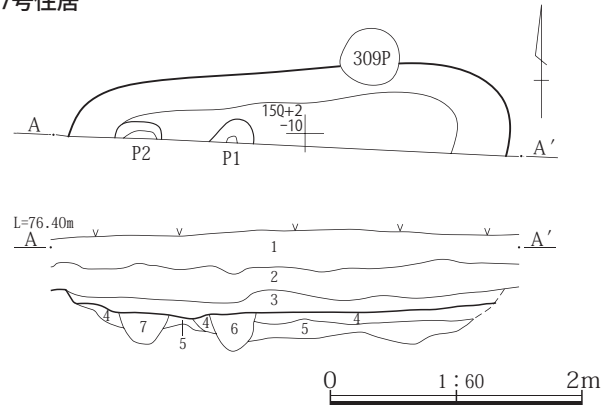
埋没土 自然埋没土と思われる。3層が住居埋没土になり、4・5層は掘り方充填土になる。6層はP1の埋没土、7層はP2の埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは約5～27cmを測る。

出土遺物 ほとんど出土しなかった。

時期 時期不明。

77号住居

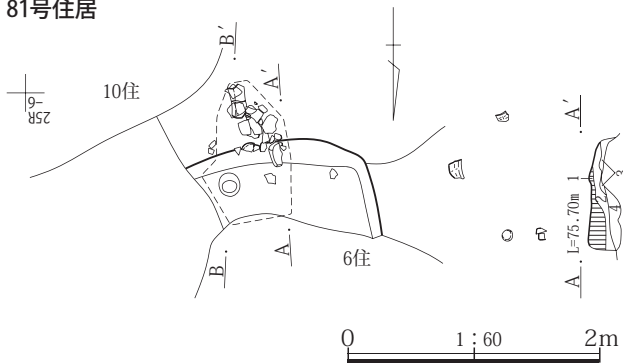


77号住居

- 1 耕作土
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。黄細粒を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 ややしまる。ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 ややしまる。褐色土ブロック、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗褐色土 しまる。ローム粒子、黄細粒を含む。(P1フク土)
- 7 暗褐色土 粘性あり。軟らかい。ロームブロックを含む。(P2フク土)

第230図 3区77号住居

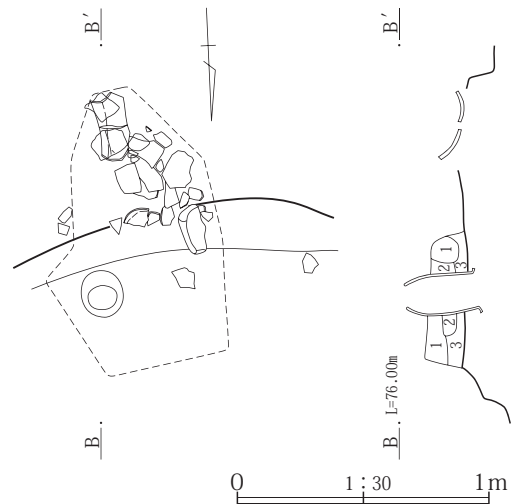
81号住居



81号住居

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。貼床。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。

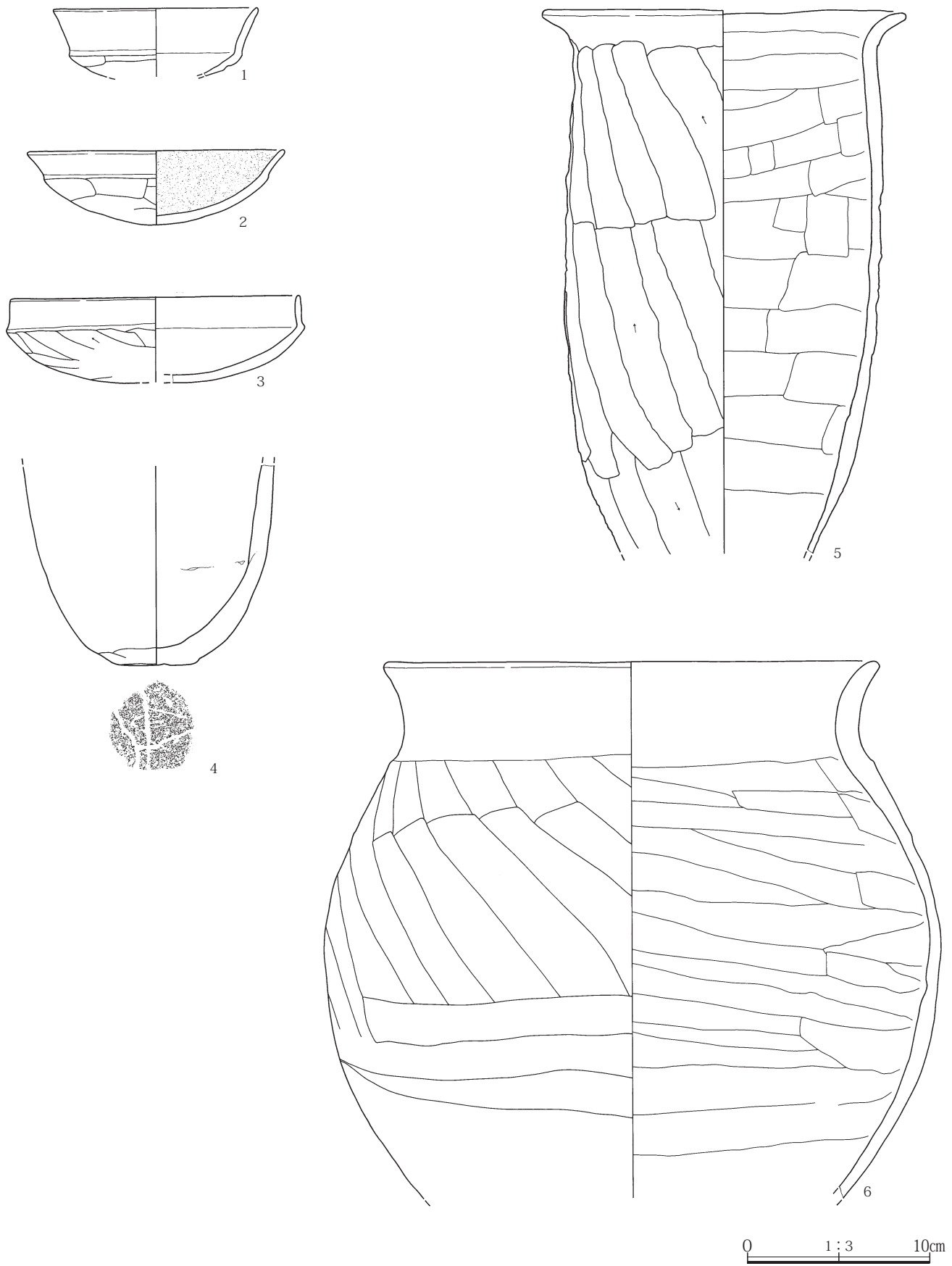
カマド



カマド

- 1 黄白色粘質土 やや硬くしまる。カマド構築材。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを多量に、黄白色粘質土ブロックを含む。

第231図 3区81号住居



第232図 3区81号住居出土遺物

第75表 3区81号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|-------------|-----|------|--------------------|----------------------|---|---------------------|
| 第232図 | 1 | 土師器 杯 | +4 1/4 | 口 | 11.0 | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第232図 | 2 | 土師器 杯 | カマド 1/4 | 口 | 13.8 | | 精選・細砂粒少/ 良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面口縁部と内面全面漆塗り。器面磨耗。 |
| 第232図 | 3 | 土師器 杯 | カマド 1/3 | 口 | 15.6 | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明黄褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第232図 | 4 | 土師器 甕 | カマド 1/4 | 底 | 4.3 | | 細砂粒多/良好/ 明赤褐 | 胴部外面は縦にヘラ削り。底部に木葉痕。胴部内面はナデと考えられる。 | 外面煤付着・内外面とも被熱のため変質。 |
| 第232図 PL.195 | 5 | 土師器 甕 | +6 底部欠損 | 口 | 19.1 | | 粗砂粒・赤黒粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は3回に分けて斜縦位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 被熱・赤色に変色。 |
| 第232図 | 6 | 土師器 甕 | カマド 1/3 | 口 | 26.6 | | 粗砂粒多・赤黒色 粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部上位から中位上半は斜位、中位以下は横位、下位は斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面の一部に炭素吸着・内外面とも磨滅。 |

81号住居(第231・232図、P L.74・195、第75表)

位置 25Q・R-6グリッド。

重複 6・10・56号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 カマドとその周辺のみを検出のために全容は不明である。

主軸方位・規模 不明。

床面 ほぼ平坦である。貼床面での検出である。

カマド 袖としての甕が伏せられた状態で出土している。1～3層はカマド埋没土になる。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 1層は貼床であるために埋没土は不明である。2～4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは約7cmを測る。

出土遺物 土師器甕(第232図5)が倒置されていた。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

84号住居(第233・234図、P L.74・75、第76表)

位置 15R-4・5、15S-4～6、15T-5グリッド。

重複 36号溝より前出で、32号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈する。

主軸方位 主柱穴と貯蔵穴の位置から判断すると、N-45°-E。

規模 面積は28.88㎡。長辺(北東～南西)5.82m、短辺(北西から南東)5.57m、残存壁高は5～8cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 排水溝掘削のために壊されてしまったが、東壁に設置されていたものと思われる。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径79.5cm・短径44cm・深さ43.5cmを測る。焼土粒子を含む。

柱穴 主柱穴P1・P6・P8の3基を検出した。1基は排水溝によって壊されてしまったものと思われる。P1は長径63cm・短径46cm・深さ50cm、P6は長径40cm・短径39cm・深さ56cm、P8は長径62cm・短径43cm・深さ18cmを測る。西壁寄りのピットが深い。P1-P6間の距離は3.25m、P1-P8間の距離は3.2mを測る。この他にP2・P3・P4・P5・P7の5基のピットを検出した。P2は長径39.5cm・短径36cm・深さ18.5cm、P3は長径31cm・短径27cm・深さ19cm、P4は長径47cm・短径46cm・深さ19cm、P5は長径27cm・短径22cm・深さ20cm、P7は現状で長径30cm・短径28.5cm・深さ11.5cmである。

周溝 確認できなかった。

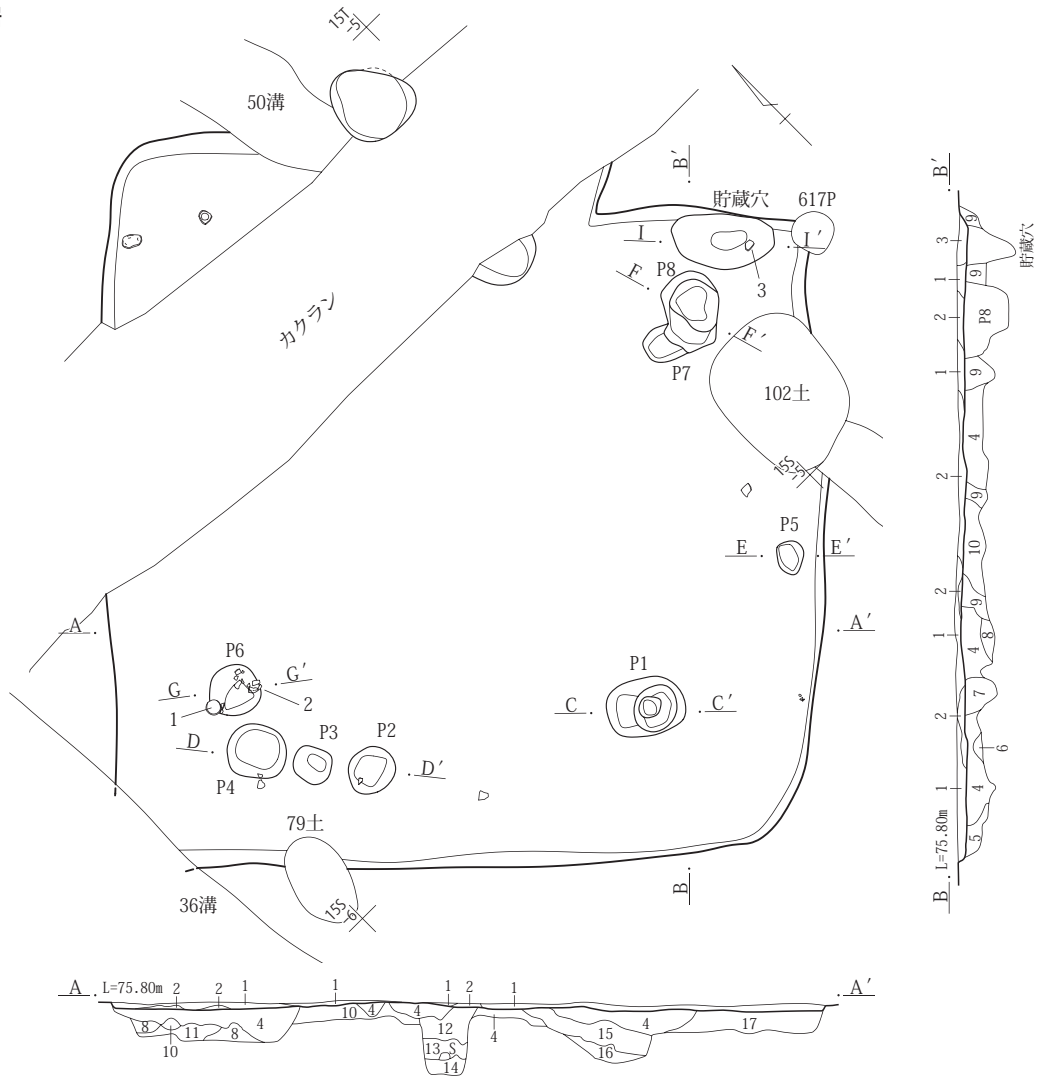
埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層が住居埋没土になる。4～11・15・16層は掘り方充填土、12～14層はP9の埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸があるが、主柱穴に囲まれた範囲の外側がやや掘り下げられている。ピット1基と土坑3基が検出された。P9は長径58.5cm・短径45cm・深さ53.5cm、土坑1は長径113cm・短径110cm・深さ34cm、土坑2は長径103cm・短径98cm・深さ43.5cm、土坑3は長径120cm・短径111.5cm・深さ25cmである。掘り方の深さは12～40cmを測る。

出土遺物 貯蔵穴及びP6周辺に集中する。

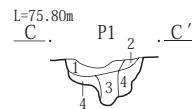
時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

84号住居



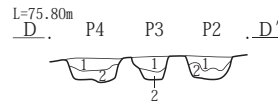
84号住居

- 1 暗褐色土 ローム粒子、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、軽石を含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 5 褐色土 しまり強い。白色軽石を含む。
- 6 褐色土 しまり強い。ロームブロックを含む。
- 7 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロックを多く、ロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロック、ロームブロックを含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや強い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 10 赤褐色土 しまり強い。粒子粗い。軽石を多く含む。
- 11 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロック、軽石、暗褐色粘土ブロックを含む。
- 12 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、白色粘土ブロックを含む。
- 13 暗褐色土 12層に近いがより粘土ブロック、ロームブロックが少ない。
- 14 黒褐色粘質土 しまりやや強い。
- 15 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、軽石を含む。
- 16 暗褐色土 15層に近いがよりロームブロックが少ない。
- 17 暗褐色土 しまり強い。粒子粗い。白色軽石を多く含む。



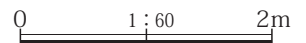
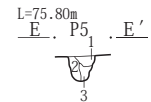
P 1

- 1 暗褐色土 ローム粒子、軽石を微量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、白色粘土ブロックを多く含む。



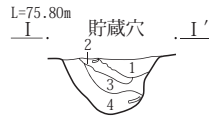
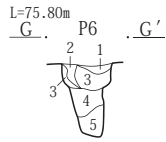
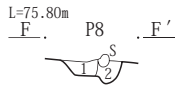
P 2・P 3・P 4

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- P 5
- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。
 - 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を微量含む。



第233図 3区84号住居

第3章 発掘調査の記録

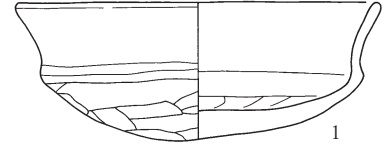


P 8

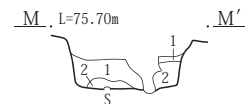
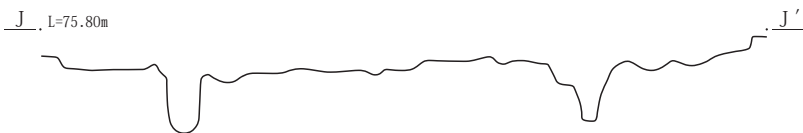
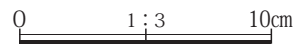
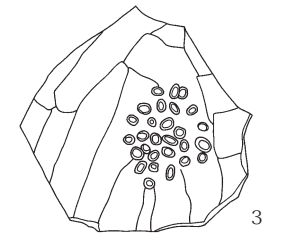
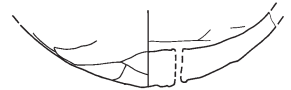
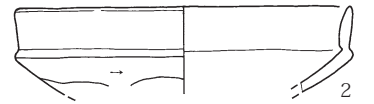
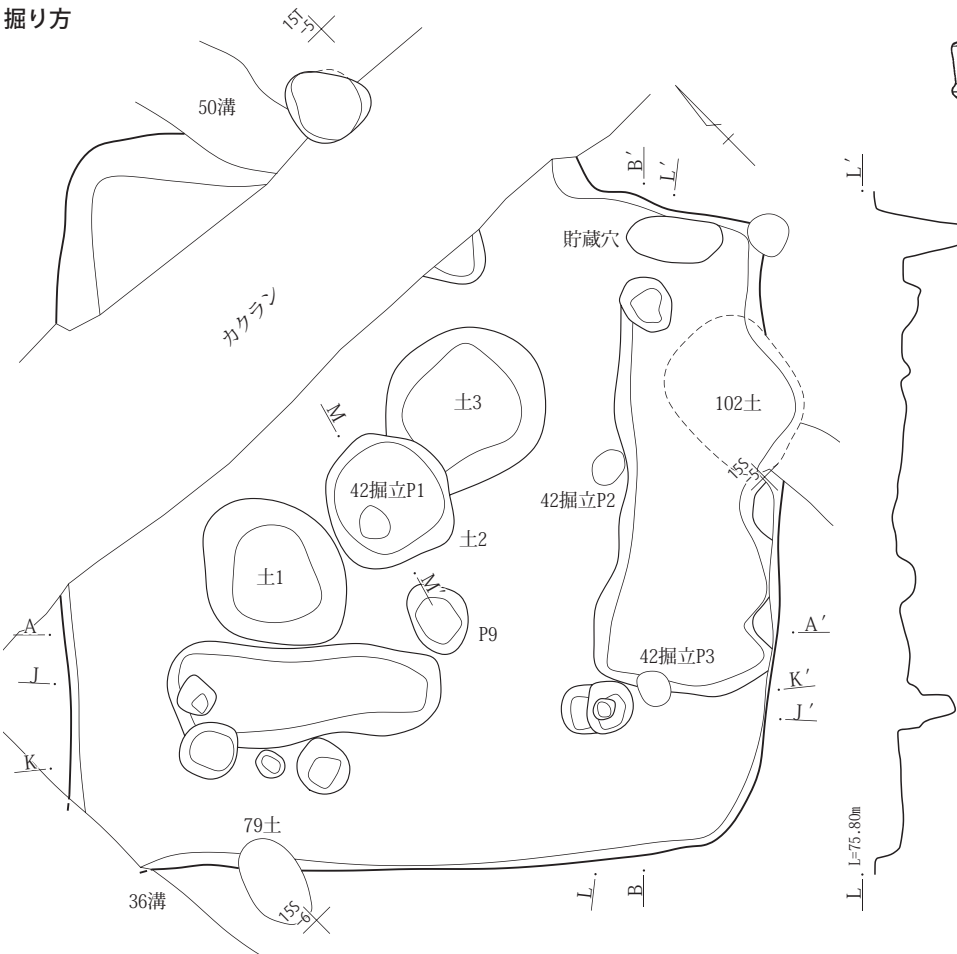
- 1 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを少量含む。
- P 6
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。
 - 4 黄白色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土を少量含む。
 - 5 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。暗褐色土を含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子を微量、ロームブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 白色粘土ブロック、ローム粒子を含む。

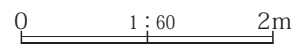


掘り方



84号住居内土坑2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性有り。ロームブロック、黄白色土ブロックを含む。
- 2 灰褐色土 硬くしまり粘性有り。黄白色土ブロックを多量に含む。



第234図 3区84号住居掘り方と出土遺物

第76表 3区84号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|--------------|-----|----------|--------------|-----|------|---|--------------------|----------------------------|---|----------------|
| | | | | 口 | 高 | 深 | | | | |
| 第234図 | 1 | 土師器 杯 | 床直 3/4 | 口 | 14.0 | 高 | 5.4 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい赤 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラ ナデの痕跡を残す。 | 外面の一部炭 素吸着。 |
| 第234図 | 2 | 土師器 杯 | 床直 口縁~底部片 | 口 | 13.0 | | | 精選・細砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第234図 | 3 | 土師器 甌 | 貯蔵穴 底部片 | | | | | 細砂粒/良好/橙 | 焼成前の小孔、28孔を穿つ。外面ナデに近いヘラ削り。内 面はヘラナデ。 | |

85号住居(第235図、P L.74・75)

位置 5P・Q-18・19グリッド。

重複 67号土坑と重複するが新旧関係不明。

形状 調査区外に延びているために詳細は不明である
が、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-76°-E

規模 現状での面積は2.62㎡。長辺(南北)2.23m、短辺
(東西)1.58m、残存壁高は34cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかつ

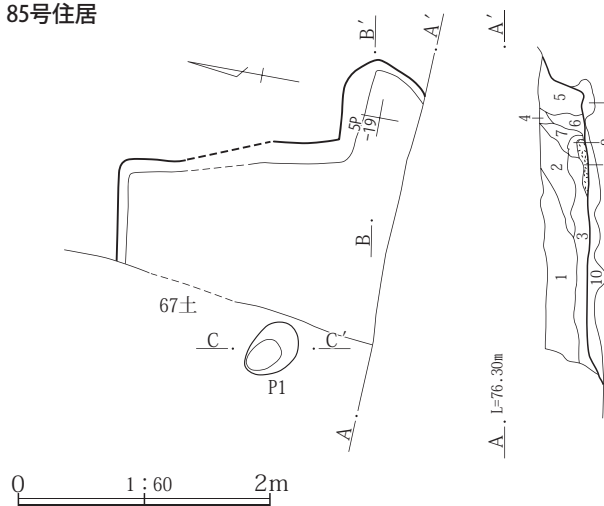
た。

カマド 東壁に設置されている。燃焼部は壁を掘り込
んで構築されていて、長さ80cm、焚き口の幅は現状で57cm
を測る。1~3層はカマド埋没土、4層は灰層になる。5・
6層は掘り方充填土、7~9層は別遺構の埋没土になる。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1~9層が住居埋没土
になる。10・11層は掘り方充填土になる。

85号住居

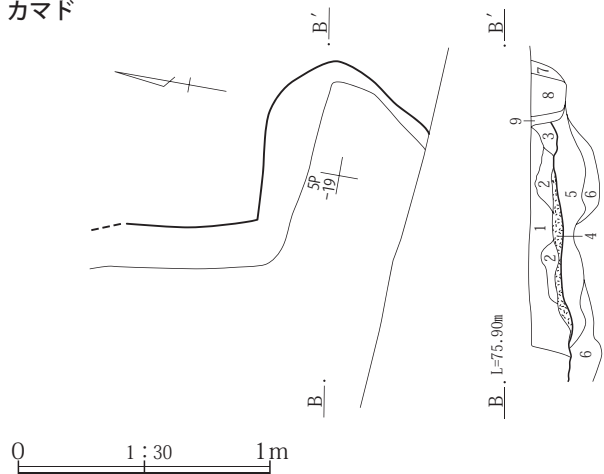


- L=75.70m
C. P1 .C' P1
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白
色粘質土粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。黄白
色粘質土ブロックを含む。

85号住居

- 1 暗褐色土 しまりやや強い。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや強い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
炭化物粒子を微量含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。砂粒、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 しまり強い。白色軽石、炭化物粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を微量含む。
- 7 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロックを多く含む。
- 8 黄白色粘質土 カマド構築材。
- 9 灰
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 11 茶褐色土 やや硬くしまる。ロームを含む。

カマド

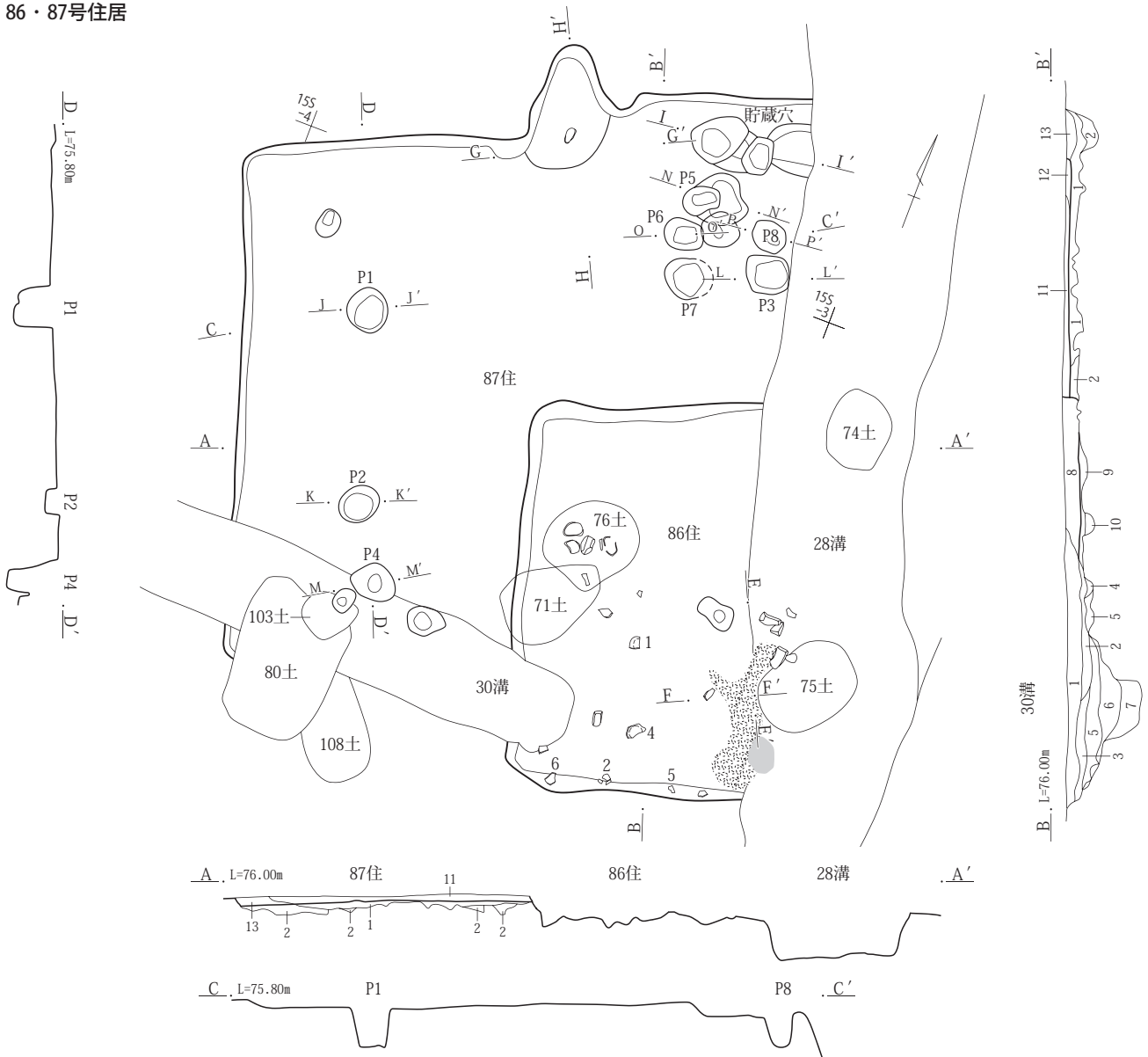


カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒
子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、炭化物、黄白色粘
質土粒子を含む。
- 3 黄白色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 4 灰
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを少量含む。
- 6 茶褐色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量
含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。
- 9 暗褐色土 7層に近似。

第235図 3区85号住居

86・87号住居



86・87号住居、30号溝(A-A') (B-B')

- 1 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 1層に近いが、ローム粒子が少ない。
- 3 黒褐色土 1層に近いがしまりやや強い。ローム粒子を含む。
- 4 黒褐色土 しまりやや強い。ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 7 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 8 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量、軽石を微量含む。
- 9 黒褐色土 しまりやや強い。ローム粒子を含む。
- 10 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。
- 11 黒褐色土 しまりやや弱い。軽石を含む。ローム粒子を多く含む。
- 12 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック含む。
- 13 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、焼土粒子、軽石を含む。

87号住居掘り方

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。黄白色粘質土ブロック、暗褐色土の混土。

0 1:60 2m

L=75.80m
J. P1 J'



87号住居 P 1

- 1 暗褐色土 しまりやや強い。ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを含む。

L=75.80m
K. P2 K'



87号住居 P 2

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。

L=75.70m
L. P3 L'



87号住居 P 3

- 1 黒褐色土 しまり強い。ローム粒子を多く含む。
- 2 褐色土 しまり強い。ローム主体の層。

L=75.80m
M. P4 M'



87号住居 P 4

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

L=75.80m
N. P5 N'



L=75.80m
O. P6 O'



L=75.80m
P. P8 P'



87号住居 P 5~P 8

- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、ロームブロックを含む。

第236図 3区86・87号住居

掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは5～10cmを測る。

出土遺物 床面全体から土器片が散漫に出土している。

時期 非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

86号住居(第236～238図、P L.76・195、第77表)

位置 15R-2・3グリッド。

重複 87号住居より後出で、71・76号土坑、28・30号溝より前出。

形状 重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は6.79㎡。長辺(南北)3.61m、短辺(東西)は現状2.46m、残存壁高は11cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁に構築されていたものと思われる。住居南東隅からの炭化物出土がカマドの存在をうかがわせる。炭化物の範囲は南北138cm、東西30cmの範囲である。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。7層が住居埋没土になり、8～10層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的にやや凹凸がある。P1・P2のピット2基が検出されたが、これらは87号住居に伴うピットである。掘り方の深さは約7～11cmを測る。

出土遺物 床面全体から土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から10世紀前半に比定される。

87号住居(第236～238図、P L.76、第77表)

位置 15R-3・4、15S-3グリッド。

重複 86号住居、28・30号溝より前出。

形状 重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-24°-E

規模 現状での面積は16.7㎡。現状での長辺(北東～南西)5.19m、短辺(北西～南東)4.63m、残存壁高は5cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 北壁の中央に構築されているものと思われる。燃烧部は壁を掘り込んで構築されていて、長さ110cm、焚き口の幅は現状で59cmを測る。1～7層はカマド埋没土になる。

貯蔵穴 カマドの東、床面の北東部分から検出された。長径77cm・短径48cm・深さ25cmの楕円形を呈する。1～4層が埋没土になり、5～8層はピットの埋没土になる。

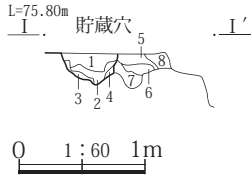
柱穴 主柱穴は当初、P1・P4・P7になると思われたが、掘り方の調査によってP12・P14・86号住居P2・P6が該当するものと思われる。P12は長径35cm・短径30cm・深さ44cm、P14は長径23cm・短径18cm・深さ40cm、86号住居P2は長径38.5cm・短径31cm・深さ11.5cm、P6は長径33cm・短径31.5cm・深さ50cmを測る。P12-P14間の距離は3.45m、P14-P2間距離3.4m、P2-P6間距離3.45m、P6-P12間の距離は3.5mを測る。

周溝 確認できなかった。

第77表 3区86・87号住居出土遺物

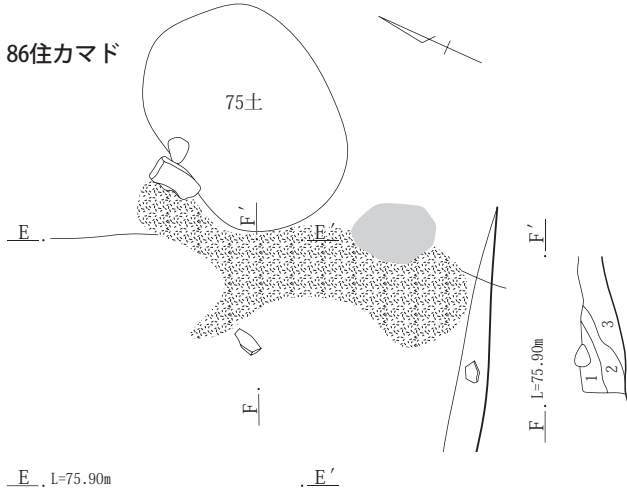
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-----------------------|--------|-------------|---|-----------------------------|--|-----------------------|
| | | | | 口 底 | 14.0 7.5 | 高 | | | |
| 第237図 PL.195 | 1 | 灰釉陶器 段皿 | 86住 床直 1/3 | 口 底 | 14.0 7.5 | 高 | 3.6 精選/還元焰/灰白 | ロクロ整形、回転は右回り。体部に回転ヘラ削り。高台部は底部切り離し後の付け高台。 | 釉は内外面口縁部に薄く施す。虎溪1号窯式。 |
| 第237図 PL.195 | 2 | 須恵器 杯 | 86住 +18 底部片 | 底 | 5.2 | | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | |
| 第237図 | 3 | 須恵器 碗 | 86住 高台部 | | | 台 | 7.4 粗砂粒/酸化焰/橙 | ロクロ整形、回転右回り。 | |
| 第237図 | 4 | 灰釉陶器 壺 | 86住 床直 胴 部下位～底部2/3 | 底 | 15.6 | | 精選/還元焰/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。胴部は回転ヘラ削り。高台部は断面台形で低い。 | 外面に釉がたれている。 |
| 第237図 | 5 | 灰釉陶器 瓶 | 86住 +15 破片 | | | | 精選/還元焰/灰白 | ロクロ整形、外面は回転ヘラ削り。内面はロクロ目。 | 内面黒色漆付着。 |
| 第237図 | 6 | 須恵器 羽釜 | 86住 +15 口縁～胴部片 | 口 | 21.0 | | 粗砂粒・白色鉱物 粒/酸化焰/にぶい 黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。罫は断面三角形、成形後に貼付。 | |
| 第238図 | 1 | 土師器 杯 | 87住 口縁～底部片 | 口 | 12.8 | | 細砂粒/良好/灰黄 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面漆塗り。 |

87号住居貯蔵穴



- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 3 黄白色粘質土 やや硬くしまり粘性非常にあり。暗褐色土を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、白色軽石、黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、白色軽石を含む。

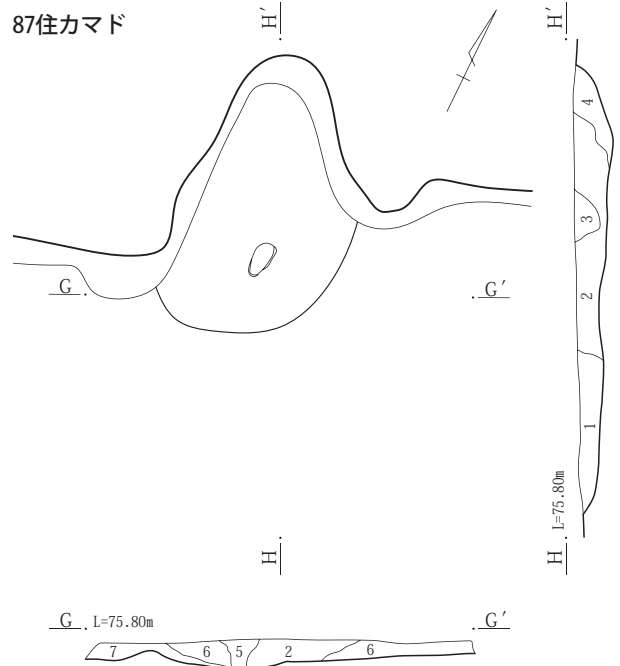
86住カマド



86号住居カマド

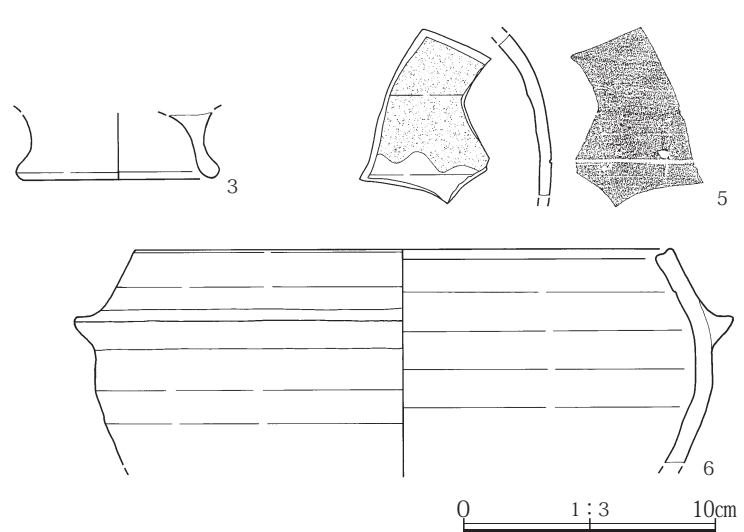
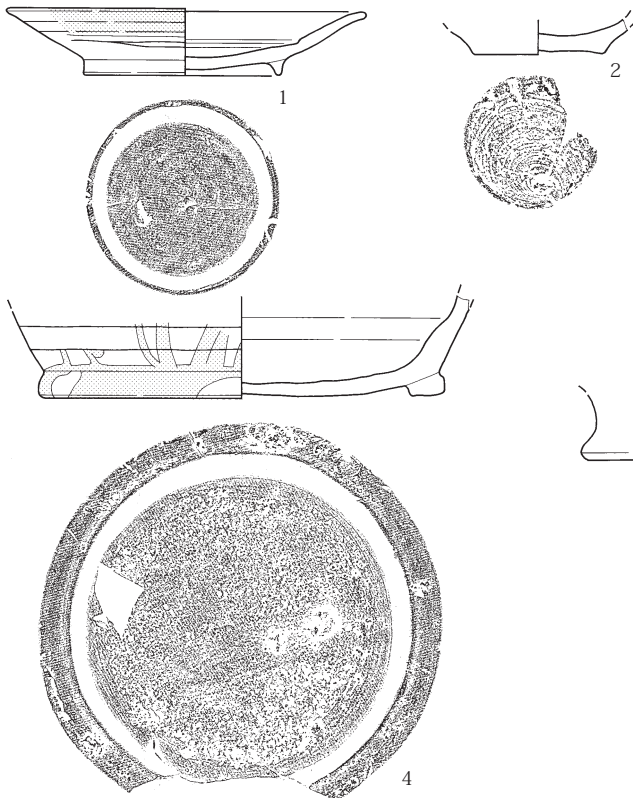
- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。白色軽石を少量含む。
- 4 黒色土 炭層。

87住カマド



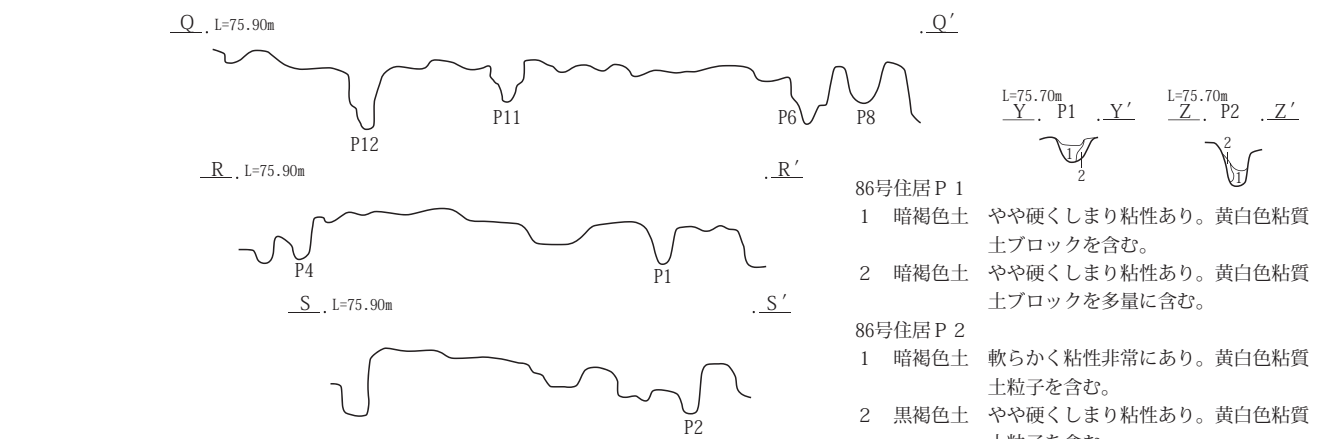
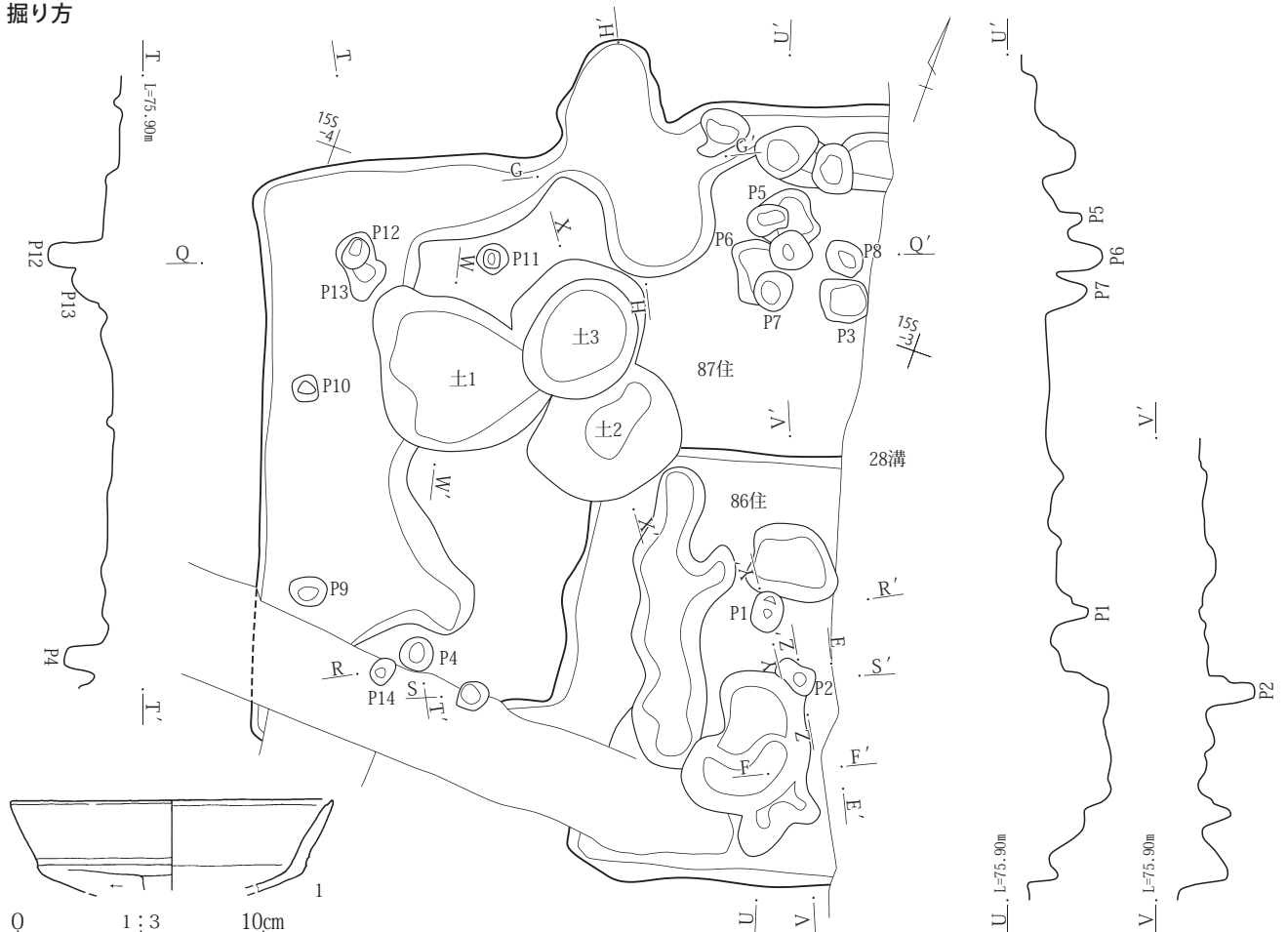
87号住居カマド

- 1 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を多く、焼土粒子を微量、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、白色軽石、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや強い。焼土粒子多量、灰、粘土ブロック含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子含む。
- 5 黒褐色土 粘性強い。焼土粒子を微量、ローム粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや強い。白色軽石、焼土粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや強い。ローム粒子を多く含む。



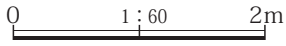
第237図 3区86・87号住居カマドと86号住居出土遺物

掘り方



- 86号住居 P 1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 86号住居 P 2
- 1 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を含む。
 - 2 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 住居内土坑 2・3
- 1 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子を少量、ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
 - 2 暗褐色土 しまりやや強い。ロームブロック、白色軽石を含む。
 - 3 暗褐色土 1層に近いが、よりロームブロックが少ない。
 - 4 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、ローム粒子、白色粘土ブロックを多く、ロームブロックを含む。
 - 5 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、白色軽石を含む。
 - 6 灰褐色土 しまり強い。粒子粗い。ローム粒子、焼土ブロックを少量含む。
 - 7 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、焼土ブロック、ロームブロックを含む。
 - 8 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを含む。焼土粒子を微量含む。
- 住居内土坑 1
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、白色軽石を含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。ロームブロック、焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。暗い色調。
 - 4 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを少量含む。
 - 5 黒褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

第238図 3区86・87号住居掘り方と87号住居出土遺物



埋没土 自然埋没土と思われる。3・4・23～25層が住居埋没土になり、掘り方充填土は1・2層になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。ピットと土坑3基が検出された。土坑1は長径155.5cm・短径125cm・深さ34.5cm、土坑2は長径121cm・短径103.5cm・深さ33.5cm、土坑3は長径115cm・短径109.5cm・深さ40cmを測る。掘り方の深さは約5～20cmを測る。

出土遺物 床面全体から土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

88号住居(第239・241図、P L.77・195、第78表)

位置 15R・S-6グリッド。

重複 89号住居、7・31・36号溝より前出で、10号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 重複が激しいために詳細は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 不明、残存壁高は13cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 床面からピット7基が検出された。このうちのP4とP7が支柱穴になりそうである。P4は長径37cm・短径32.5cm・深さ31.5cm、P7は長径35cm・短径34.5cm・深さ34cmを測る。P4-P7間の距離は2.7mを測る。その他のP1は長径34cm・短径30cm・深さ19cm、P2は長径38.5cm・短径35cm・深さ32cm、P3は

長径38.5cm・短径38cm・深さ17cm、P5は長径33.5cm・短径31cm・深さ20cm、P6は長径36.5cm・短径33cm・深さ28cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 確認面から床面まで浅いために明瞭ではないが、自然埋没土と思われる。1層が住居埋没土になり、2層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。土坑が検出された。長径125cm・短径114cm・深さ13～20cmを測る。掘り方の深さは約5～20cmを測る。

出土遺物 埋没土中から土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

89号住居(第239～241図、P L.77、第78表)

位置 15R・S-6・7グリッド。

重複 88号住居より後出で、7号溝より前出。10号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 10号溝によって壊されているために詳細は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-60°-E

規模 不明、残存壁高は17cmを測る。

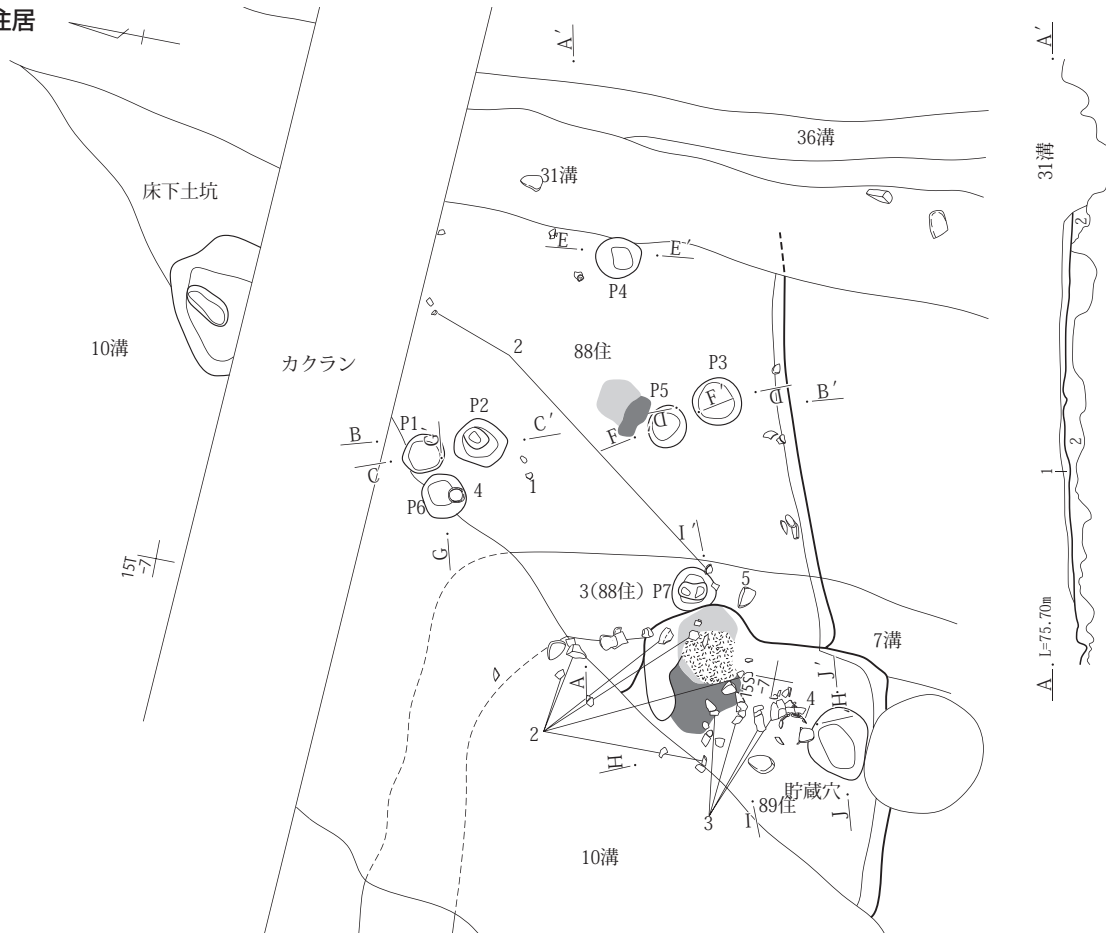
床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁に構築されている。燃焼部は壁を掘り込んで構築され、長さ95cm、焚き口の幅58cmを測る。1～13層はカマド埋没土になり、13層は灰層である。灰層上に礫1個が出土したが、支脚になる可能性がある。14・15層は掘り方充填土である。

第78表 3区89・88号住居出土遺物

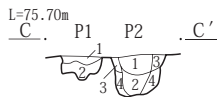
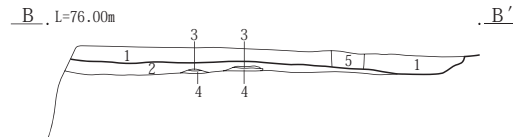
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|--------------------|-----|--------------|-----|----------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------|
| | | | | 口 | 高 | 厚重 | | | | |
| 第240図 | 1 | 須恵器 蓋 | 89住 天井部1/3 | | 摘 | 2.4 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰白 | ロクロ整形、回転は右回り。天井部は幅広く回転ヘラ削り。 | | |
| 第240図 | 2 | 土師器 甕 | 89住 カマド 口縁～胴部下半 | 口 | 20.6 | | 細砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位・斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面炭素吸着。 | |
| 第240図 | 3 | 土師器 甕 | 89住 カマド 1/3 | 口 | 22.0 | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部最上位は横位、以下は縦位のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。接合部分はヘラ削り。 | 外面胴部に粘土附着。 | |
| 第240図 | 4 | 土師器 甕 | 89住 カマド 口縁～胴部下半 | 口 | 20.7 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部上半は横位・斜位。下半は縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面胴部上位に煤附着。 | |
| 第241図 | 1 | 土師器 杯 | 88住 +6 1/4 | 口 | 10.8 | | 粗砂粒少/良好/に ぶい黄褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 | |
| 第241図 PL.195 | 2 | 須恵器 杯身 | 88住 床直 1/2 | 口 | 11.2 | 高 | 3.2 | 白色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転は左回り。底部に回転ヘラ削り。 | 外面底部に自然軸附着。 |
| 第241図 | 3 | 須恵器 杯 | 88住 床直 底部片 | 底 | 7.8 | | 白色・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰 | ロクロ整形、回転は右回り。体部下位は回転ヘラ削り。底面は回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。 | | |
| 第24図 PL.195 | 4 | 土師器 鉢 | 88住 +9 口縁一部欠 | 口 | 11.7 | 高 | 9.1 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面体部は横位にヘラナデ。 | 口縁部から体部上位に黒色の付着物。底部外面炭素吸着・黒班状。 |
| 第24図 PL.195 | 5 | 礫石器 敲石 | 88住 床直 | 長幅 | 17.0 12.2 | 厚重 | 6.0 1872.4 | 粗粒輝石安山岩 | 背面側中央付近に著しい敲打痕があるほか、右側縁中央に敲打痕が残る。 | |

88・89号住居



88号住居

- 1 暗褐色土 ローム粒子、白色軽石、炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、白色軽石、暗褐色の砂粒を含む。
- 3 黒褐色土 炭化物を含む。
- 4 黒褐色土 炭化物ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 1層に比べしまり弱い。焼土粒子を少量含む。



88号住居 P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。

88号住居 P 3

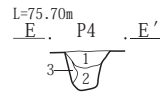
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

P 6

- 1 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色ブロックを含む。

88号住居 P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、白色軽石を少量、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 黄白色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土を含む。



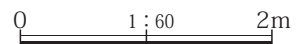
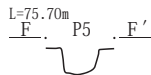
88号住居 P 4

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。炭化物粒子、白色軽石、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。



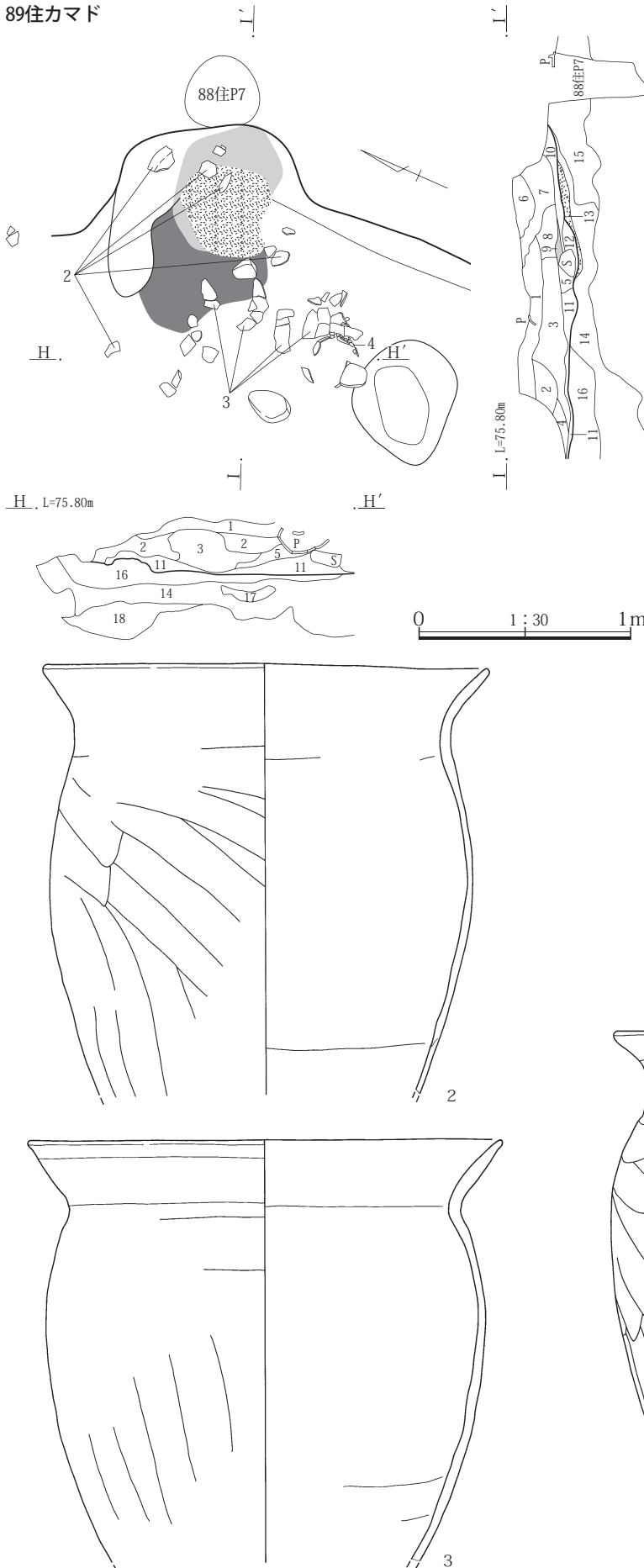
89号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。



第239図 3区88・89号住居

89住カマド

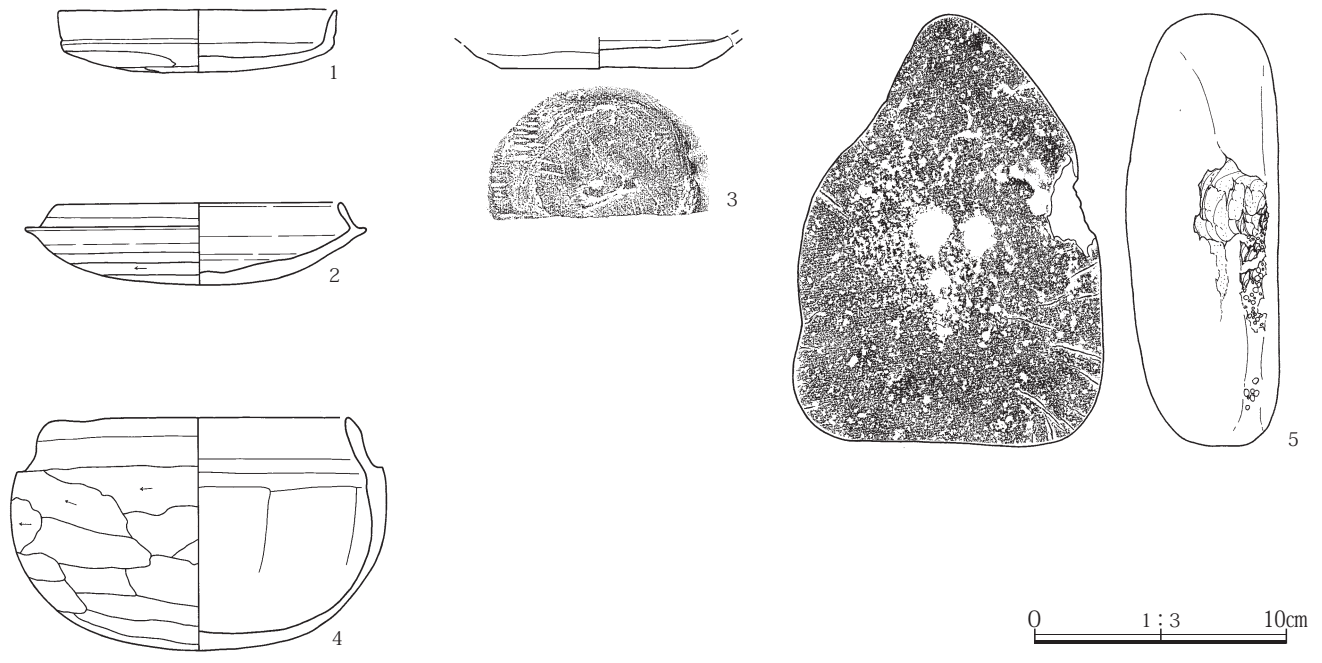
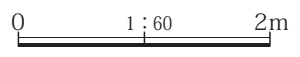
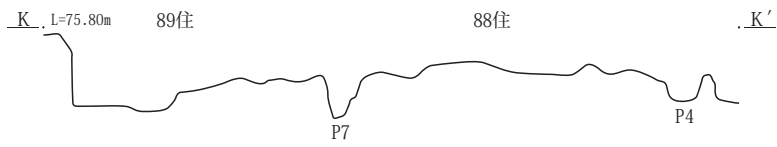
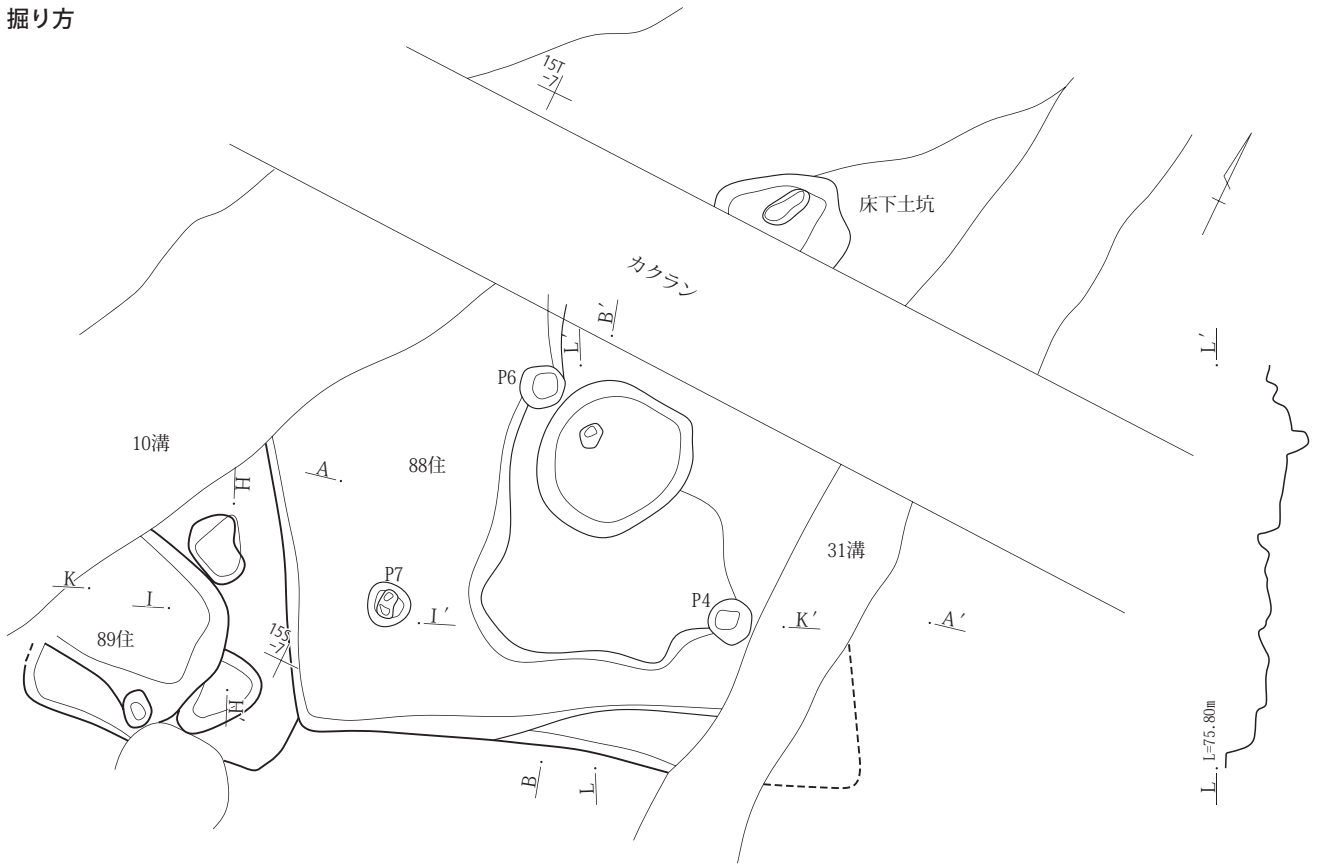


89号住居カマド

- 1 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 6 灰褐色土 硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 7 黄白色粘質土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 8 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を多量に、焼土粒子を含む。
- 9 赤褐色土 やや硬い。焼土を主体に黄白色粘質土を含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、灰、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 12 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、灰を含む。
- 13 灰 焼土ブロックを含む。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土ブロックを含む。
- 15 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む。
- 16 暗褐色土 軟らかくしてしまり良い。ロームブロックをやや多く含む。
- 17 灰褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物を含む。
- 18 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物を多量に、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

第240図 3区89号住居カマドと出土遺物

掘り方



第241図 3区88・89号住居掘り方と88号住居出土遺物

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径59cm・短径50.5cm・深さ31cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。

掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは約20～42cmを測る。

出土遺物 カマド及び周辺に集中する。

時期 出土遺物から8世紀後半～9世紀初頭に比定される。

90号住居(第242～244図、P L.78・79・195、第79表)

位置 15Q・R-5～7グリッド。

重複 8井戸、7・31・36号溝より前出。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-73°-E

規模 現状での面積は43.54㎡。長辺(東西)7.27m、短辺(南北)7.05m、残存壁高は5cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁のほぼ中央に設置され、燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。焚き口部を36号溝によって壊されているが、長さ1.26m、焚き口の幅20cm、袖を含んだ幅は50cmを測る。1・2層はカマド埋没土、4・5層は住居埋没土に、3・6・8層は掘り方充填土、7層はカマド袖になる。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。36号溝によって壊されているが、長径67cm・短径58cm・深さ34cmを測る。

焼土粒子を含む。

柱穴 支柱穴4基(P 2・3・5・6)を検出した。P 2は長径57cm・短径43cm・深さ56cm、P 3は長径33cm・短径30cm・深さ25cm、P 5は長径27cm・短径20cm・深さ50cm、P 6は長径53cm・短径38cm・深さ25cmを測る。西壁側の2基が深い。P 2-P 3間の距離は3.8m、P 3-P 6間距離4.25m、P 6-P 5間距離3.7m、P 5-P 2間の距離は4.25mを測る。P 1は長径45cm・短径43cm・深さ30cm、P 4は長径22cm・短径20cm・深さ28cmを測る。

周溝 北壁から西壁、南壁下から検出した。幅5.5～26cmを測る。東壁はその半分が溝によって壊されていることなどから確認できなかった。

埋没土 確認面から床面までが浅かったために全体的に埋没土を確認することはできなかった。

掘り方 全体的に凹凸があるが、支柱穴に囲まれた範囲がより掘り下げられている。ピット6基と土坑3基が検出された。P 7は長径36cm・短径34cm・深さ18cm、P 8は長径28cm・短径22cm・深さ23cm、P 9は長径43cm・短径31cm・深さ26cm、P 10は長径25cm・短径22cm・深さ10cm、P 11は長径33cm・短径29cm・深さ7cm、P 12は長径42cm・短径34cm・深さ33cm。土坑1は長径169cm・短径145cm・深さ39cm、土坑2は長径227cm・短径139cm・深さ42cm、土坑3は長径355cm・短径195cm・深さ40cmを測る。掘り方の深さは約7～41cmを測る。

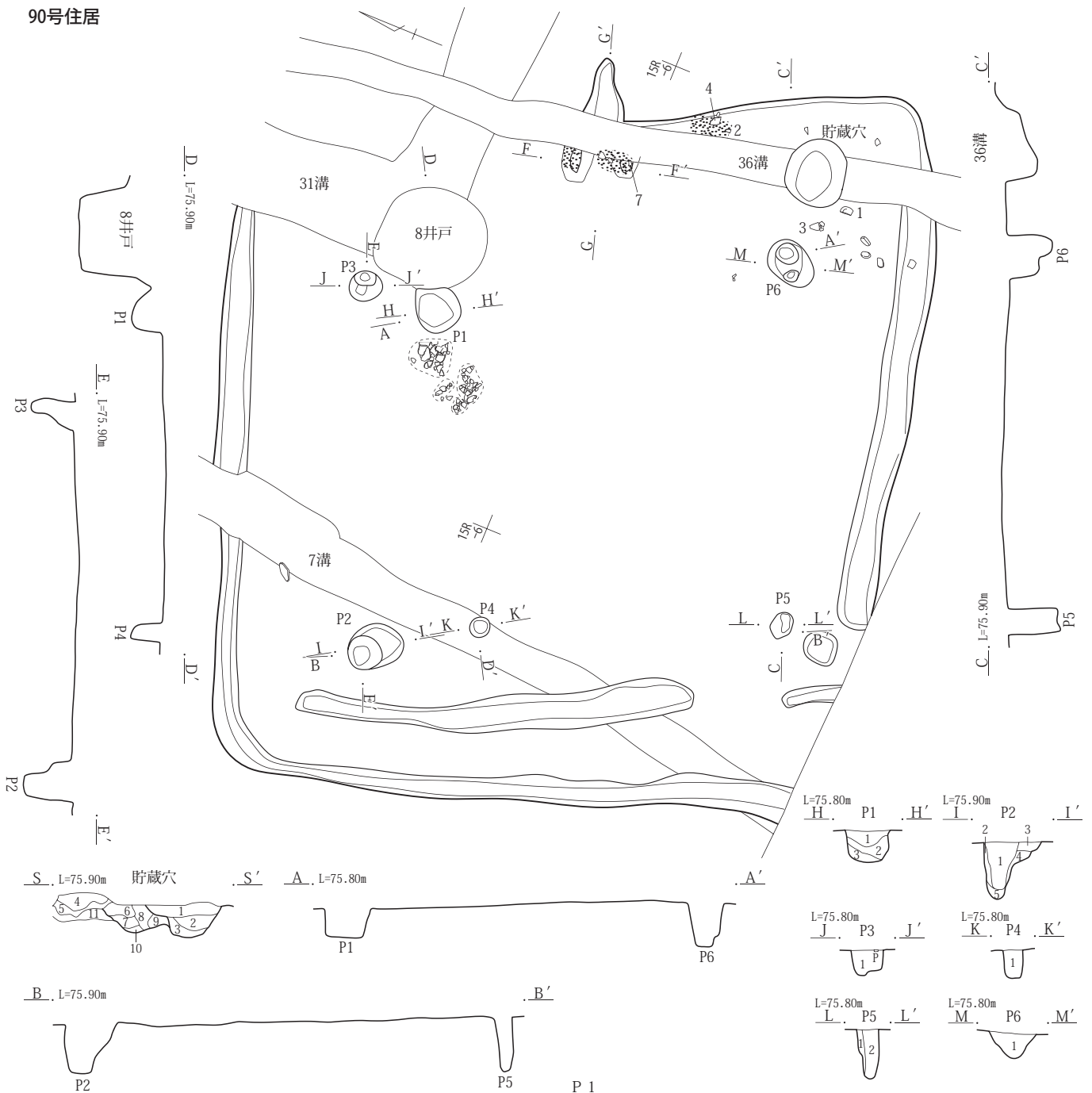
出土遺物 カマド及び貯蔵穴、P 1周辺に集中する。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

第79表 3区90号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|--------------|-----|------|---|--------------------|--------------------|--|---------------------|
| | | | | 口 | 高 | 深 | | | | |
| 第243図 PL.195 | 1 | 土師器 杯 | +4 1/2 | 口 | 12.4 | 高 | 4.1 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅・外面底部炭素吸着。 |
| 第243図 PL.195 | 2 | 土師器 杯 | カマド 1/2 | 口 | 11.4 | 高 | 4.0 | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅・外面底部炭素吸着。 |
| 第243図 | 3 | 土師器 杯 | +3 1/3 | 口 | 12.4 | 高 | 3.9 | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は2回に分けて横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。口縁部外面は漆塗りか。 |
| 第243図 | 4 | 土師器 杯 | カマド 1/3 | 口 | 12.9 | 高 | 4.2 | 細砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第243図 | 5 | 土師器 杯 | 1/3 | 口 | 13.3 | | | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第243図 | 6 | 土師器 埴 | 口縁～胴部上位片 | 口 | 11.8 | | | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。中位に弱い稜を有する。胴部はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第243図 | 7 | 土師器 甕 | カマド 口縁～胴部上位片 | 口 | 19.6 | | | 細砂粒/良好/にぶい黄褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部はナデの上に磨きを重ねるか。 | 甕の可能性もあるか。 |

90号住居



90号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、白色粘土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子を微量、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子を含む。白色粘土ブロックを多く含む。
- 6 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、白色粘土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、白色粘土粒子を含む。焼土粒子を少量含む。
- 8 黒褐色土 しまりやや強い。焼土粒子を微量、ローム粒子を含む。
- 9 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや強い。ローム粒子を少量含む。
- 11 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、軽石を含む。

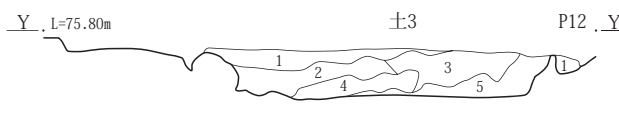
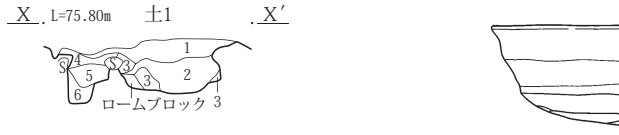
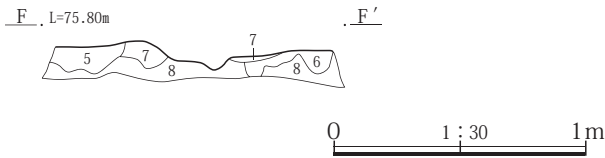
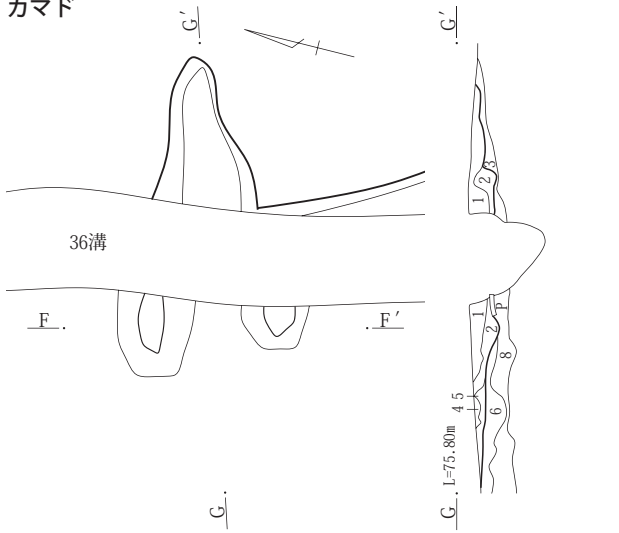
P 1

- 1 暗褐色土 粘性やや強い。炭化物粒子、焼土粒子を微量、軽石を少量、ローム粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック含む。焼土粒子を微量、軽石を少量含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック、軽石を多く含む。
- P 2
- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
 - 3 暗褐色土 軽石を含む。焼土粒子を微量含む。
 - 4 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを含む。
 - 5 黒褐色土 硬くしまり粘性あり。暗褐色土ブロックを含む。
- P 3
- 1 暗褐色土 ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- P 4~6
- 1 黒褐色土 粘土ブロックを含む。
 - 2 黒褐色土 しまりやや弱い。

0 1:60 2m

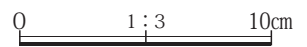
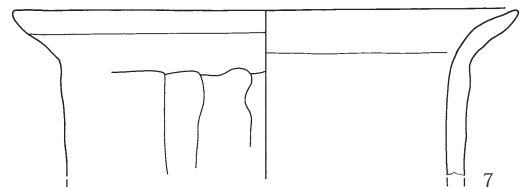
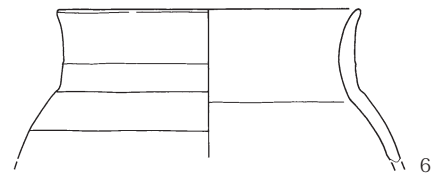
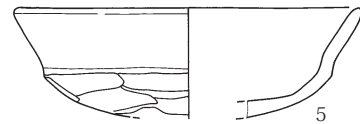
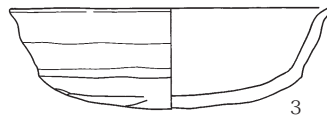
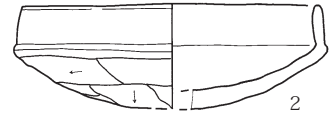
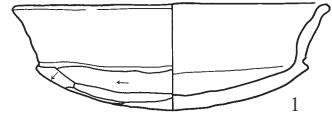
第242図 3区90号住居

カマド



カマド

- 1 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土ロームを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子をやや多く含む。
- 4 灰色土 やや硬くしまり粘性あり。灰、焼土を含む。
- 5 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 7 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子を含む。カマド袖。
- 8 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。

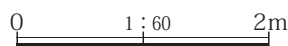


住居内土坑1

- 1 灰褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、ロームブロック、暗褐色土の混土。
- 2 黄白色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロック、暗褐色土を含む。
- 3 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、ロームブロックを含む。
- 5 黒褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

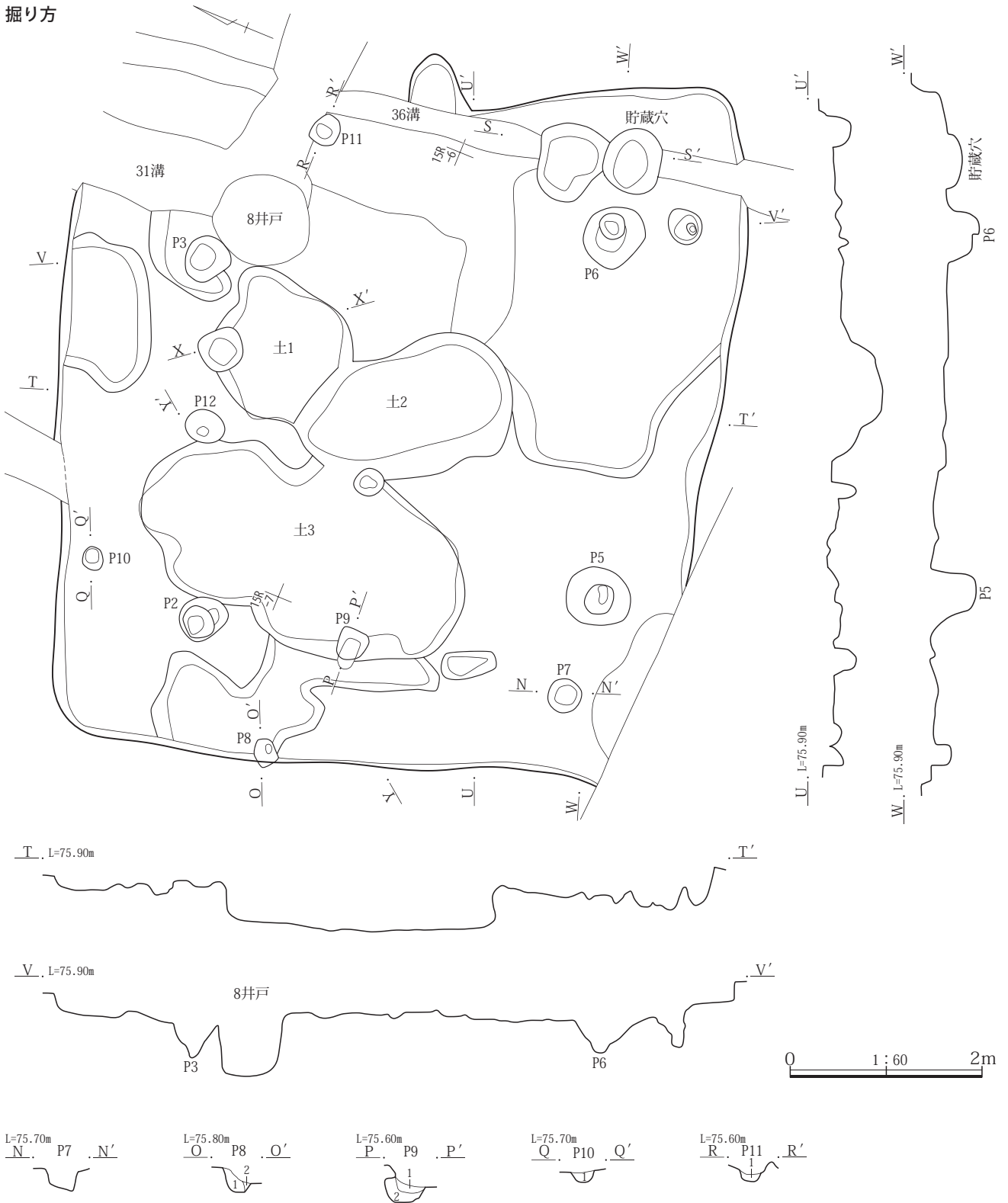
住居内土坑3

- 1 黒褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。大粒のロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 灰褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。焼土ブロック、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を多量に、ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。大粒のロームブロックを含む。



第243図 3区90号住居カマド・住居内土坑と出土遺物

掘り方



- P 8
- 1 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームを多量に含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- P 9
- 1 黒褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロックを少量含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロックをやや多く含む。

- P 10
- 1 黄白色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土を含む。
- P 11
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

第244図 3区90号住居掘り方

91号住居(第245図、P L.78・79・195、第80表)

位置 15Q-1・2グリッド。
重複 107号土坑、28・29号溝より前出。
形状 調査区外に延びているために詳細は不明であるが、方形を呈するものと思われる。
主軸方位 N-87°-E
規模 現状で東西1.65m、南北2.8m、残存壁高は47cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。
カマド 東壁に設置され、燃焼部は壁を掘り込んで構築されている。長さ97cm、焚き口の幅25cmを測る。
貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。
埋没土 自然埋没と思われる。1～7層は住居埋没土、8・9層は掘り方充填土になる。
掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは約12～20cmを測る。
出土遺物 床面全体に土器片が点在している。
時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

92号住居(第246・247図、P L.79・80・196、第80表)

位置 5S・T-20、15S・T-1、15S-2グリッド。
重複 27号溝より前出で、住居中央部を壊されている。
形状 部分的な検出のために詳細は不明であるが、方形を呈するものと思われる。
主軸方位 不明。
規模 現状で北東～南西4.91m、北西から南東4.43m、残存壁高は55cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 確認できなかった。27号溝によって壊されてしまったものと思われる。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径82.5cm・短径50cm・深さ38cmの楕円形を呈する。埋没土は6層に分かれた。底面から20cmの所で土器片がまとまって出土している。

柱穴 ピット2基が検出されている。P1は長径52cm・短径37.5cm・深さ40cm、P2は長径26.5cm・短径25cm・深さ39cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没と思われる。1～6層は住居埋没土、7～9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは約3～16cmを測る。

出土遺物 貯蔵穴からまとまって出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

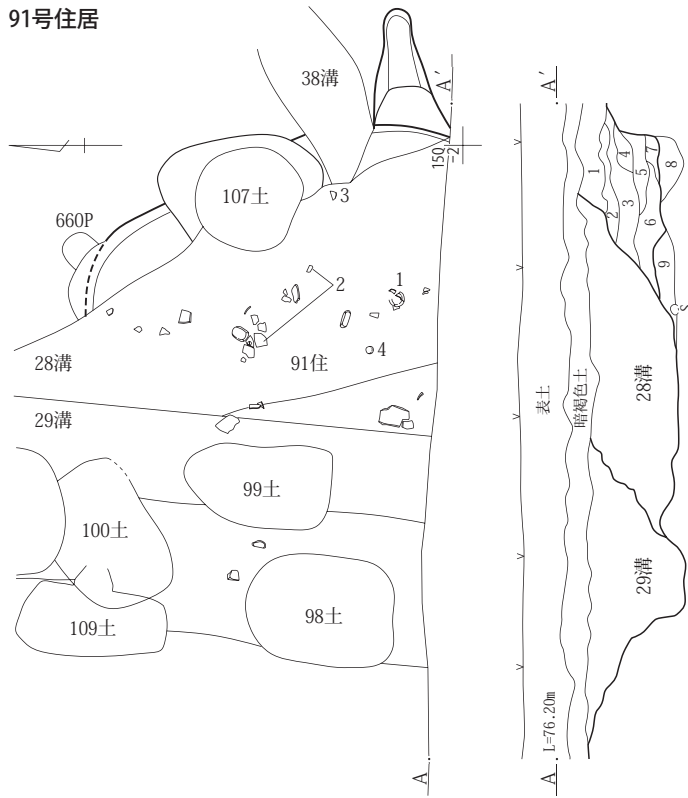
93号住居(第248・249図、P L.80・196、第81表)

位置 15T・16A-3・4グリッド。
重複 153・157号土坑、26・29号溝より前出で、住居北半分を壊されている。100・105号住居と重複するが新旧関係不明。
形状 部分的な検出のために詳細は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。
主軸方位 N-68°-E
規模 現状で北東～南西4m、北西～南東2.92m、残存壁高は18cmを測る。

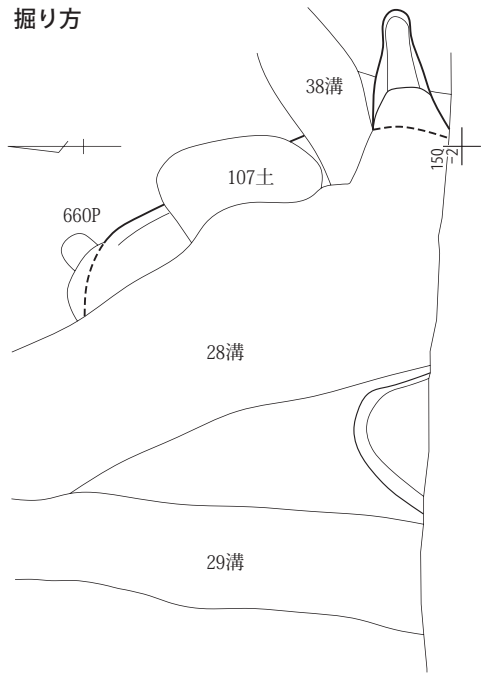
第80表 3区91・92号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-----------------|--------|------|---|------|---------------------|--|---------------------------|
| | | | | 口 | 11.8 | 高 | 4.5 | | | |
| 第245図 PL.195 | 1 | 土師器 杯 | 91住 +4 完形 | 口 | 11.8 | 高 | 4.5 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第245図 PL.195 | 2 | 土師器 甌 | 91住 床直 2/3 | 口 底 | 22.2 | 高 | 22.6 | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部最下位に斜位のヘラ削り。それ以上は縦位のヘラ削り。一部はヘラナデ、ヘラ磨き状を呈する部分もある。内面上位は横位、それ以上は縦位にヘラ磨き。最下位は横位のヘラ削り。 | 外面は広範囲に炭素吸着。 |
| 第245図 | 3 | 土師器 甕 | 91住 +9 1/4 | 口 | 20.6 | | | 小礫・粗砂粒多/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面被熱・変色。 |
| 第245図 PL.195 | 4 | 土師器 手捏ね | 91住 +17 ほぼ完形 | 口 底 | 6.4 | 高 | 2.4 | 粗砂粒・雲母/良好 /にぶい黄橙 | 内外面とも指頭によるつまみ、ナデ。 | 内外面の一部に炭素吸着。 |
| 第246図 PL.196 | 1 | 土師器 甌 | 92住 床直 3/4 | 口 底 | 25.3 | 高 | 28.6 | 粗砂粒・白色軽石/ 良好/灰白 | 口縁部は横ナデ。胴部は2回に分けて縦位にヘラ削り。内面上位は横位のナデの上に磨きが施されていたと考えられるが器面の磨滅により一部確認のみ。下半は斜縦位にヘラ削りか。最下位は横位にヘラ削り。 | 被熱の為か内外面とも磨滅顕著。 |
| 第247図 PL.196 | 2 | 土師器 杯 | 92住 床直 1/3 | 口 | 12.8 | 高 | 3.0 | 粗砂粒少/良好/に ぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも漆塗り。 |
| 第247図 PL.196 | 3 | 土師器 甕 | 92住 床直 2/3 | 口 底 | 22.5 | 高 | 32.5 | 細砂粒多・赤色粘 土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。底部はナデ。内面は横位のヘラナデ。 | 内外面ともやや磨滅・外面底部周辺炭素吸着・黒班状。 |

91号住居



掘り方

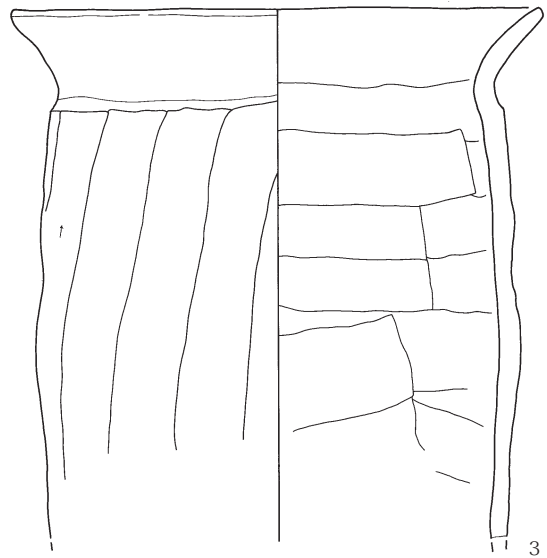
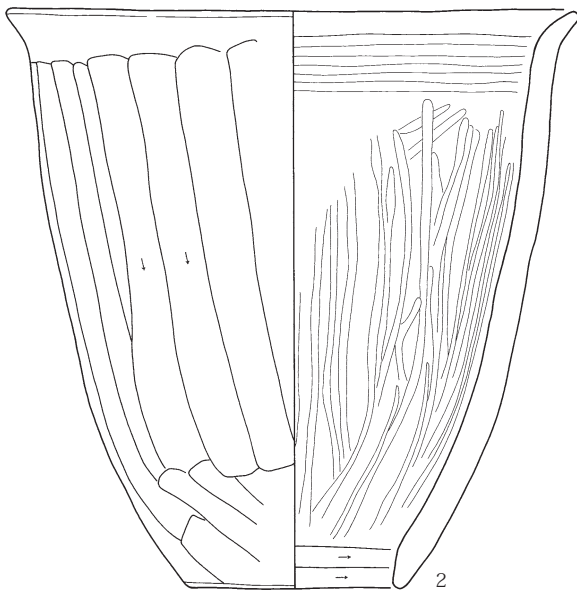
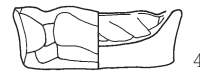
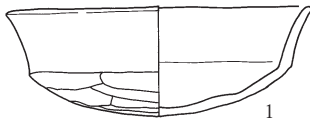


91号住居

- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。白色粘土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 4 褐色粘質土 しまり強い。

- 5 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土 粘土と暗褐色土の互層。
- 7 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子を含む。

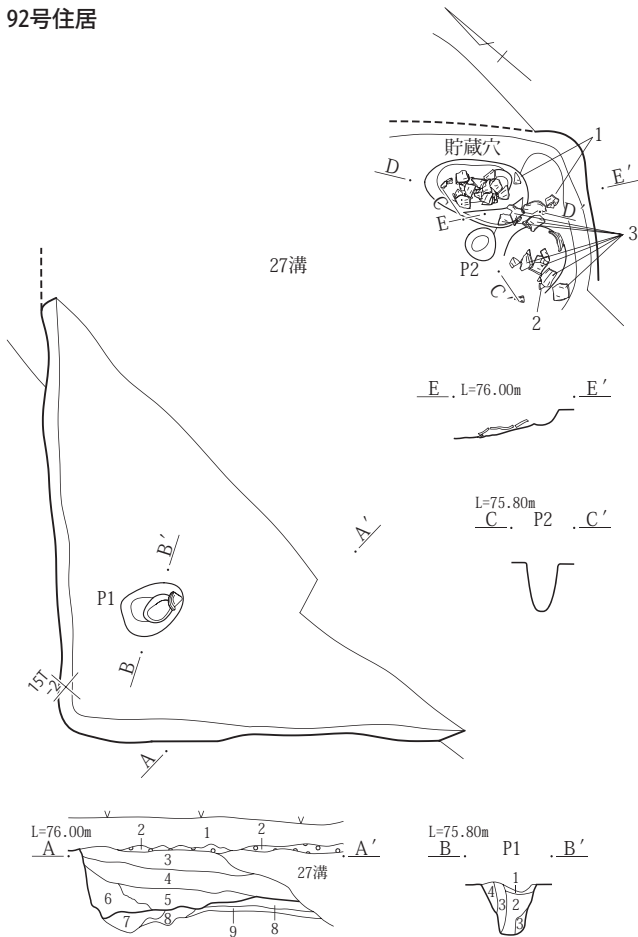
0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第245図 3区91号住居と出土遺物

92号住居



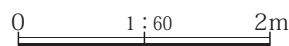
92号住居

- 1 暗褐色土 硬くしめる。白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 浅間B軽石主体の層。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 5 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、白色軽石を少量含む。
- 6 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。
- 7 黒色土 軟らかく粘性非常にあり。ロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 9 茶褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロックを含む。

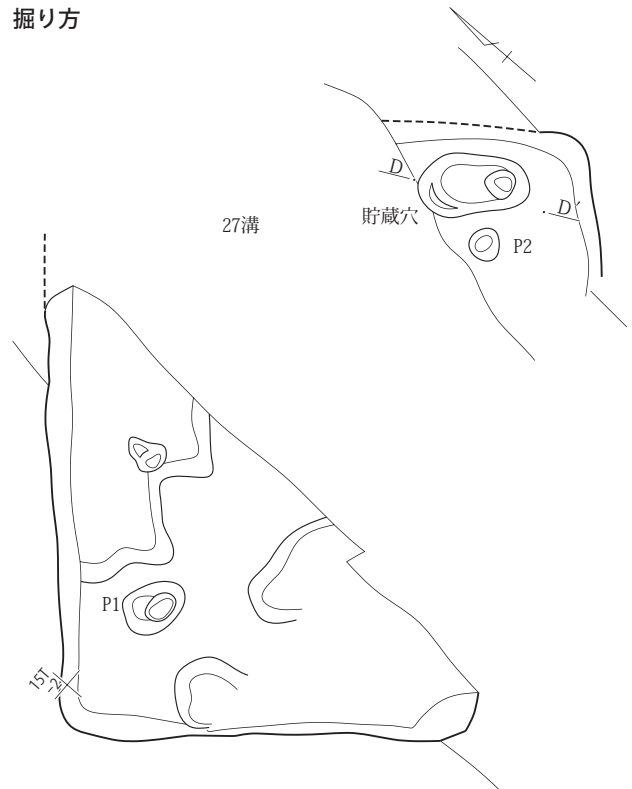


貯蔵穴

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。暗い色調。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 4 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

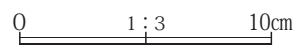
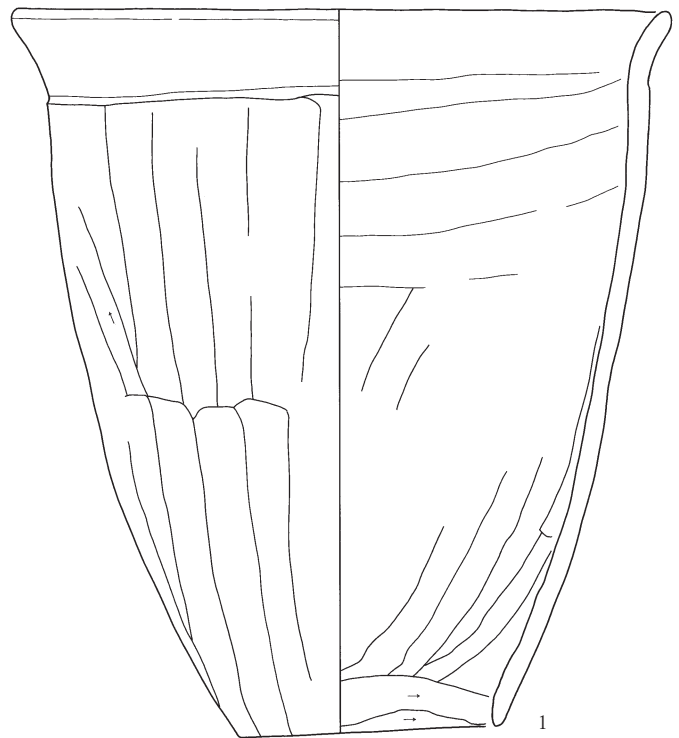


掘り方

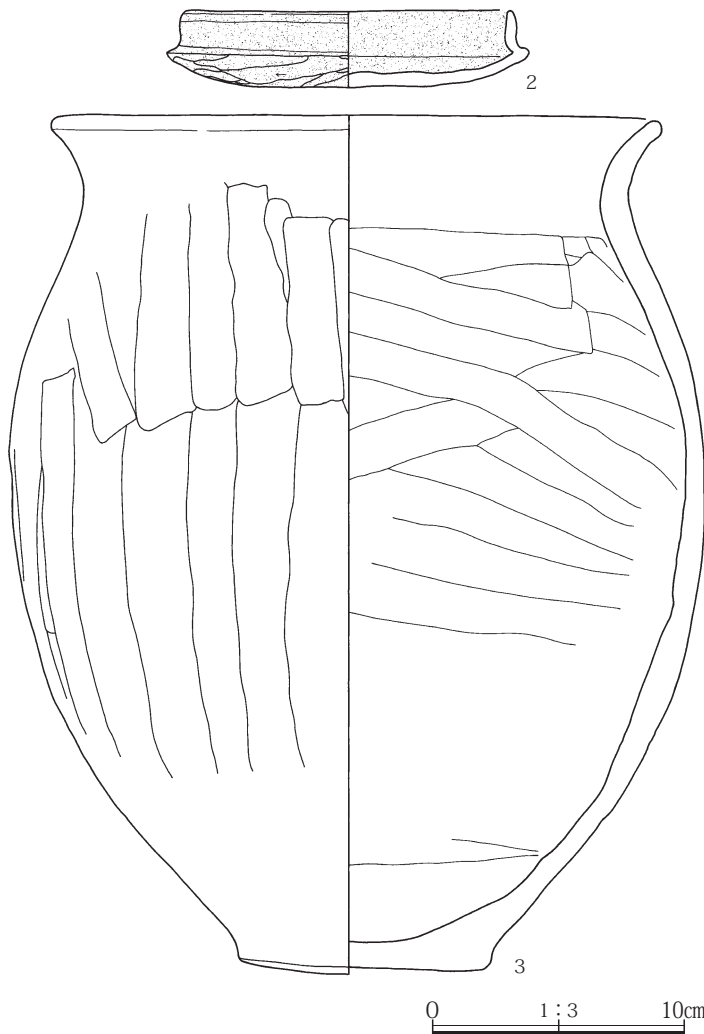


P 1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 3 黄白色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。暗褐色土と黄白色粘質土ブロックの混土。
- 4 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。



第246図 3区92号住居と出土遺物(1)



第247図 3区92号住居出土遺物(2)

床面 ほぼ平坦である。P 1・P 2の内側を中心に硬化面が認められた。

カマド 東壁の南寄りから焼土の堆積が認められたが、この部分がカマドに該当するものと思われる。焼土の範囲は長さ60cm・幅40cmを測る。カマド本体は溝によって壊されてしまったが、掘り方の規模は長さ104cm、幅18cmを測る。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径49cm・短径44cm・深さ28cmの楕円形を呈する。埋没土は2層に分かれた。

柱穴 ピット3基が検出されている。P 1は長径44cm・短径42cm・深さ33.5cm、P 2は長径53cm・短径34cm・深さ48.5cm、P 3は長径54cm・短径45.5cm・深さ44cmを測る。主柱穴のもう1基は29号溝によって壊されてしまったものと思われる。P 1-P 2間の距離、P 1-P 3間の距離はともに2.25mを測る。

周溝 南壁・西壁下から検出された。幅4~10cm、深さ10cmを測る。全周していたものと思われる。

埋没土 自然埋没と思われる。1~3層は住居埋没土、4~9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。掘り方の深さは約6~44cmを測る。

出土遺物 床面全体から土器片が散漫に出土している。菰編石が床面の南西隅からまとまって出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

94号住居(第250~252図、P L .80・81・84・196・197、第82表)

位置 5 T・6 A-17・18グリッド。

重複 95・99号住居より後出で、43号溝より前出。

形状 隅丸方形を呈する。

主軸方位 N-88°-E

規模 長辺(南北)4.66m、短辺(東西)3.57m、残存壁高は35cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面の中央部を中心に硬化面が認められる。

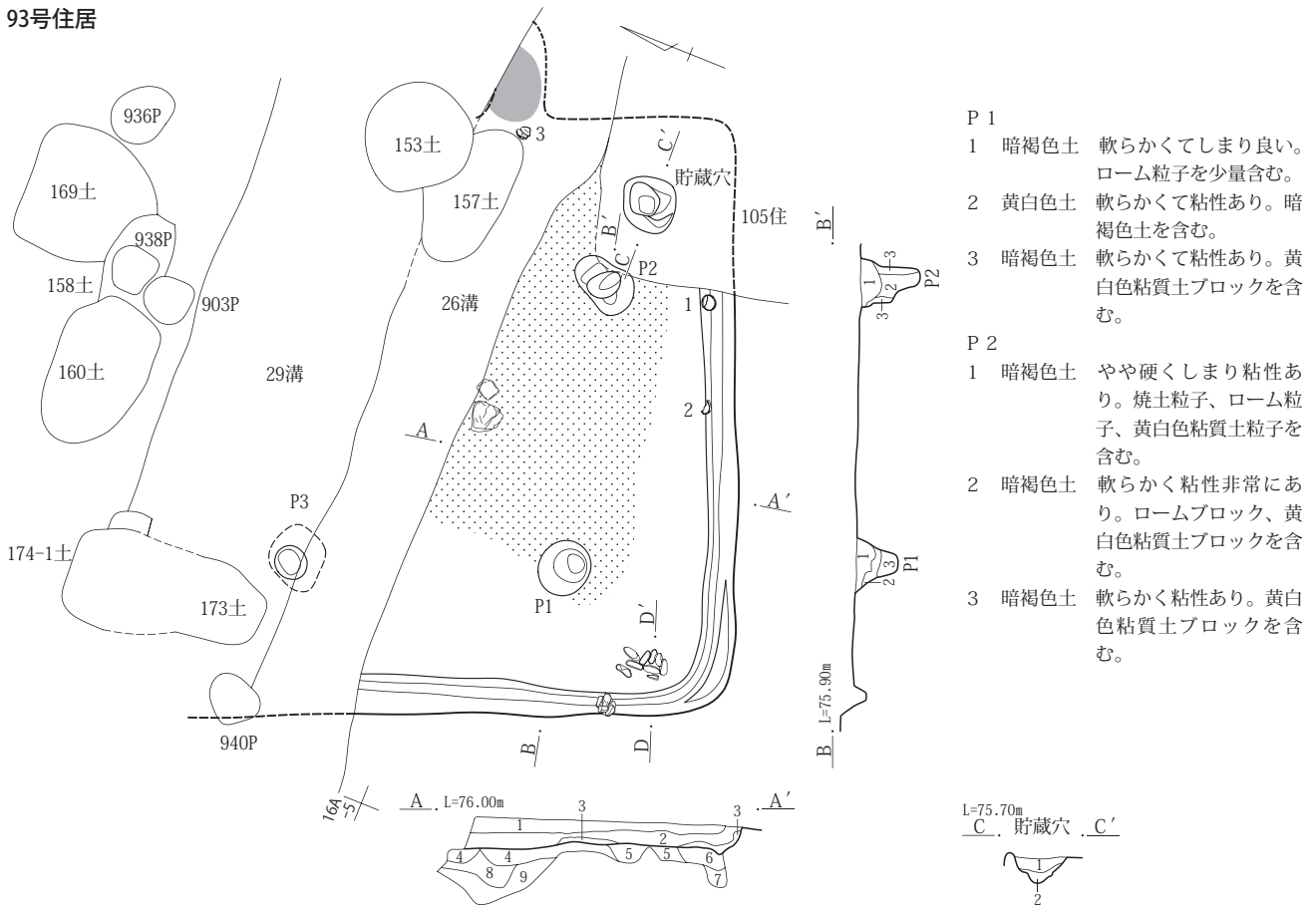
カマド 東壁の中央やや南寄りに構築されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ152cm、焚き口部の幅51cm、袖を含めた幅は80cmを測る。1・2・4~9層はカマド埋没土、10・12~14層は掘り方充填土になる。3層はカマド袖、9層は灰層、11層は焼土である。

貯蔵穴1 床面の南東隅に位置している。長径104cm・短径83cm・深さ46cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれ、1層は炭化物層である。

第81表 3区93号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|--------------|-----|------|---|---------------------------|-----------------------------|--------------|
| | | | | 口 | 高 | 深 | | | |
| 第248図 PL.196 | 1 | 土師器 杯 | +7 完形 | □ | 11.2 | 高 | 3.2 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも漆塗るか。 |
| 第248図 PL.196 | 2 | 土師器 杯 | +5 2/3 | □ | 12.6 | | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも漆塗るか。 |
| 第248図 | 3 | 土師器 杯 | +3 2/3 | □ | 12.8 | 高 | 3.2 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面は横ナデ。 | 内面底部中央に布目圧痕。 |
| 第248図 | 4 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 口縁~体部 | □ | 11.2 | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。 | 外面やや磨滅。 |

93号住居



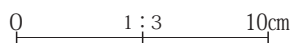
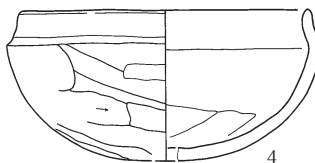
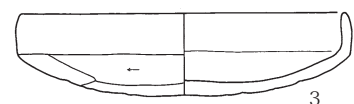
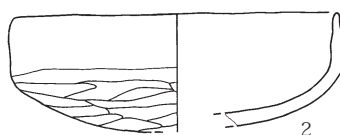
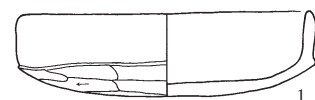
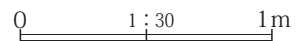
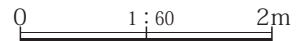
- P 1
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子を少量含む。
 - 2 黄白色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- P 2
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

93号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロック、黒色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、軽石、焼土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 4層より色調弱い。
- 9 暗褐色土 4層よりしまり弱い。

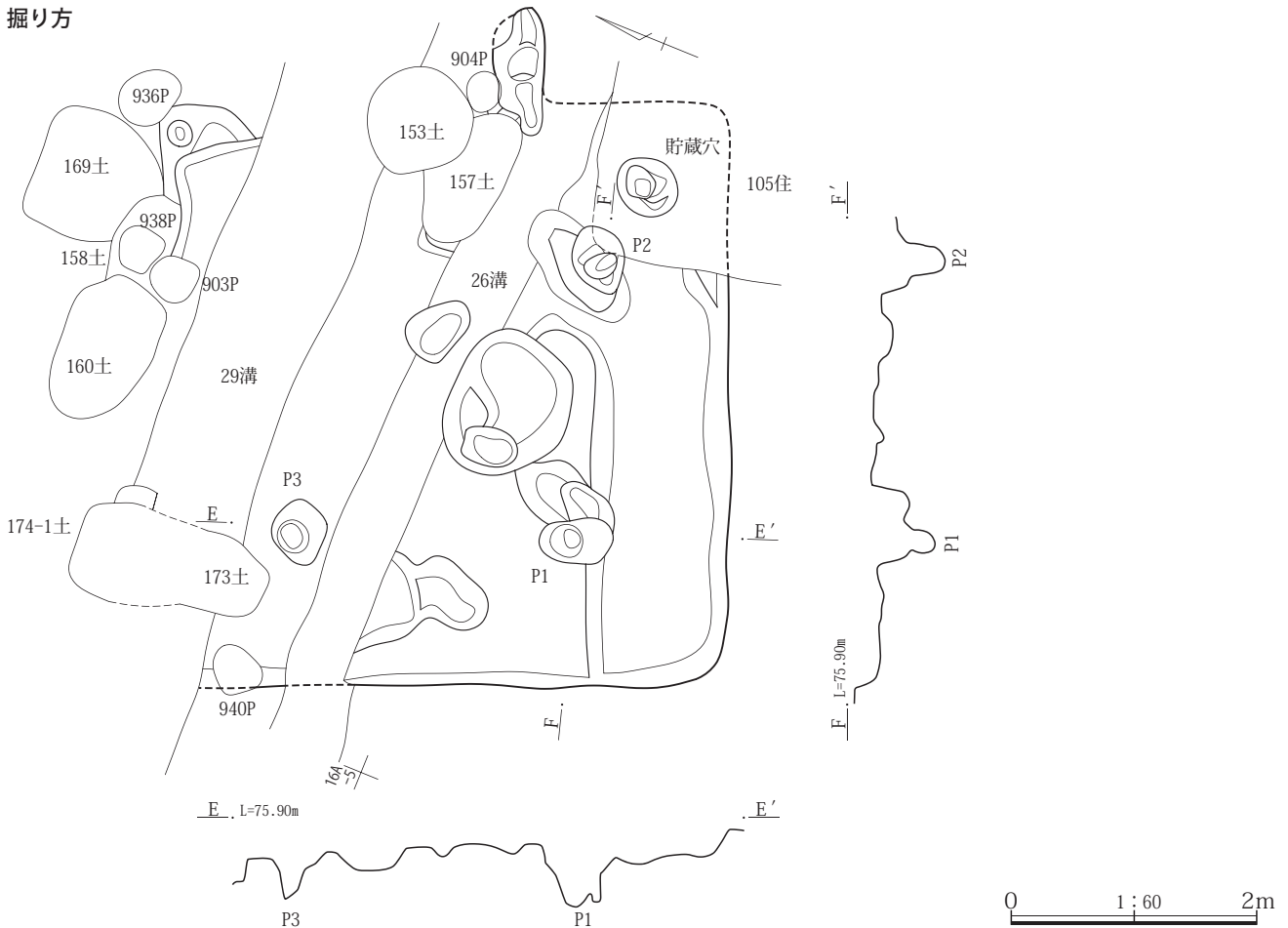
貯蔵穴

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。



第248図 3区93号住居と出土遺物

掘り方



第249図 3区93号住居掘り方

貯蔵穴2 床面の南東隅に位置している。貯蔵穴1と重複している。掘り方調査時に検出された。長径47cm・短径37.5cm・深さ25cmの楕円形を呈する。埋没土は1層に分かれた。

住居内土坑1 西壁下の北よりから検出された。長径74cm・短径71cm・深さ31cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没と思われる。1～4層は住居埋没土、5～13層は掘り方充填土になる。

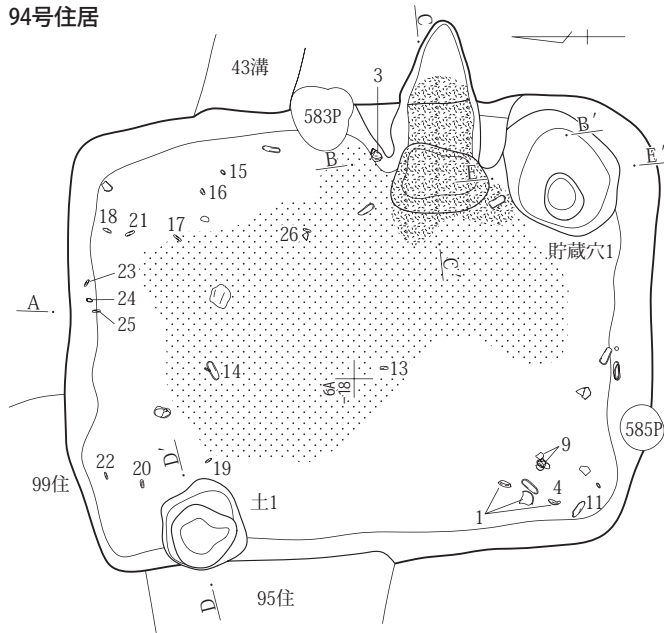
掘り方 全体的に凹凸がある。ピット6基と土坑4基が検出された。P1は長径38cm・短径34cm・深さ24cm、P2は長径38cm・短径29.5cm・深さ22cm、P3は長径42cm・短径37cm・深さ22cm、P4は長径38cm・短径32.5cm・深さ39cm、P5は長径34cm・短径28.5cm・深さ27cm、P6は長径27cm・短径24.5cm・深さ16cmを測る。このうちP4とP6はカマド袖石の抜き取り痕の可能性

がある。P2から須恵器蓋が出土した。土坑2は長径129cm・短径112cm・深さ38cm、土坑3は長径67.5cm・短径48cm・深さ26cm、土坑4は長径84cm・短径75.5cm・深さ47cm、土坑5は長径97cm・短径93cm・深さ22cmを測る。掘り方の深さは約8～48cmを測る。

出土遺物 床面の南西隅と北東部に土器片がやや集中して出土する。P2から須恵器蓋(第251図6)が出土した。中央部から北辺までの床面に土錘17点(第251・252図11～27)が出土することは特筆される。

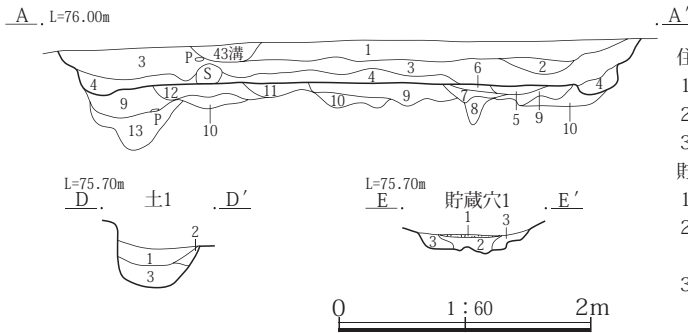
時期 出土遺物から8世紀後半に比定される。

94号住居



94号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含み、焼土ブロックを含む。
- 5 褐色粘質土 ローム主体。
- 6 暗褐色土 しまり強い。やや粘性あり。ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 粘質土。ロームブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。ロームブロックを多く含む。
- 11 褐色粘質土 ローム主体。
- 12 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 13 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを少量含む。



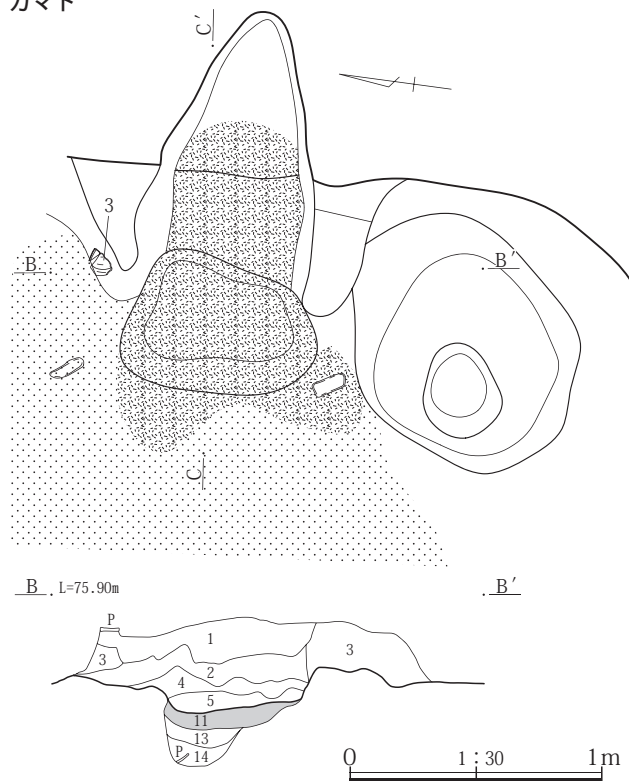
住居内土坑1

- 1 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 3 黒褐色粘質土

貯蔵穴1

- 1 炭化物 焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロックを少量含む。

カマド



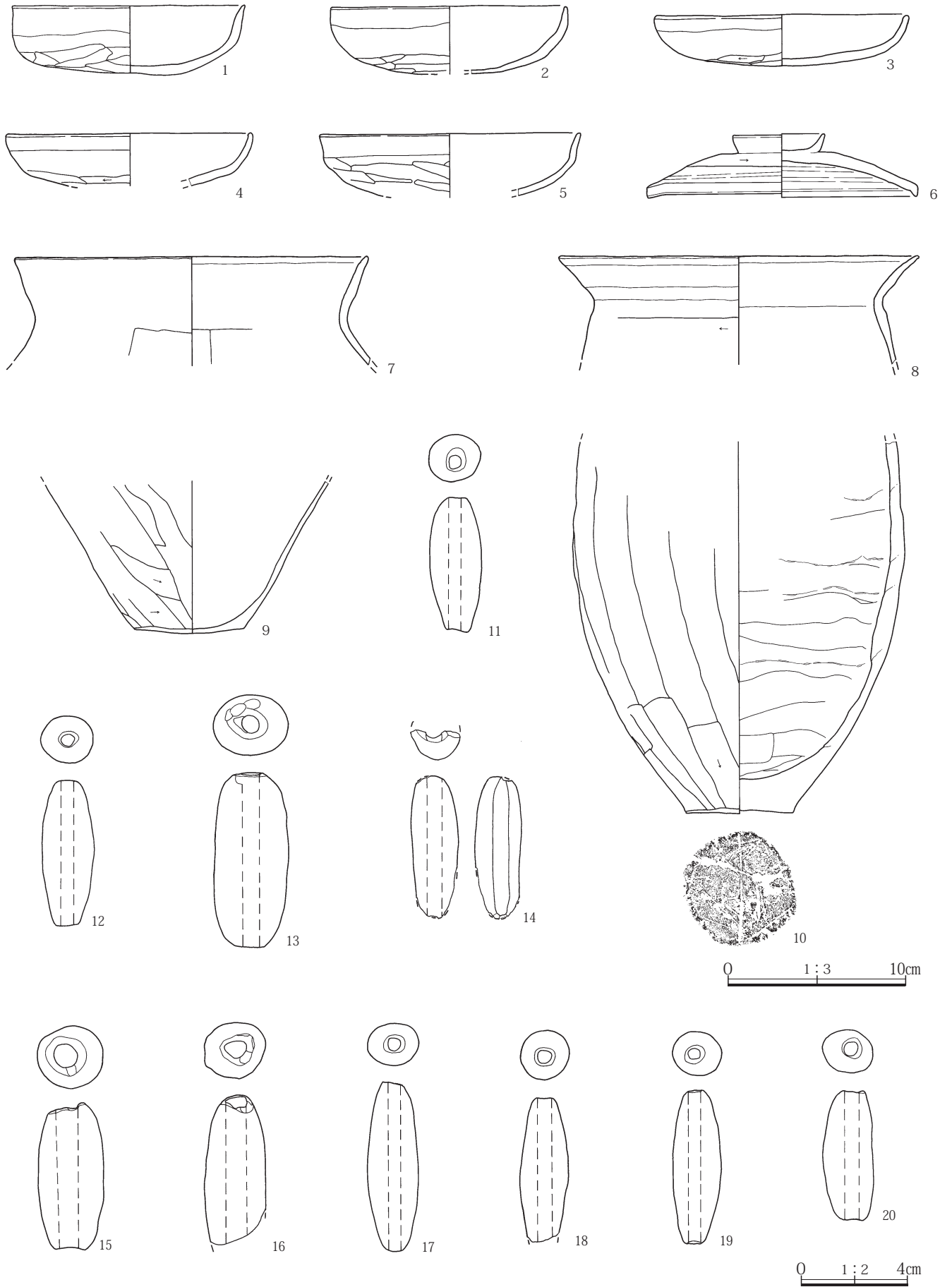
カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物を少量、白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 黄白色粘質土 やや硬くしまる。焼土ブロックを含む。天井の崩落土。
- 5 黄白色粘質土 軟らかい。焼土、灰、炭化物を多量に含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物、黄白色粘質土粒子を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。

- 9 灰
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に、焼土粒子、炭化物を少量含む。
- 11 赤褐色土 軟らかく粘性非常にあり。焼土を多量に、炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 12 暗褐色土 非常に軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 13 黄白色土 やや硬く、粘性非常にあり。暗褐色土を含む。
- 14 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物を含む。

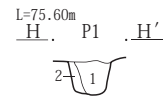
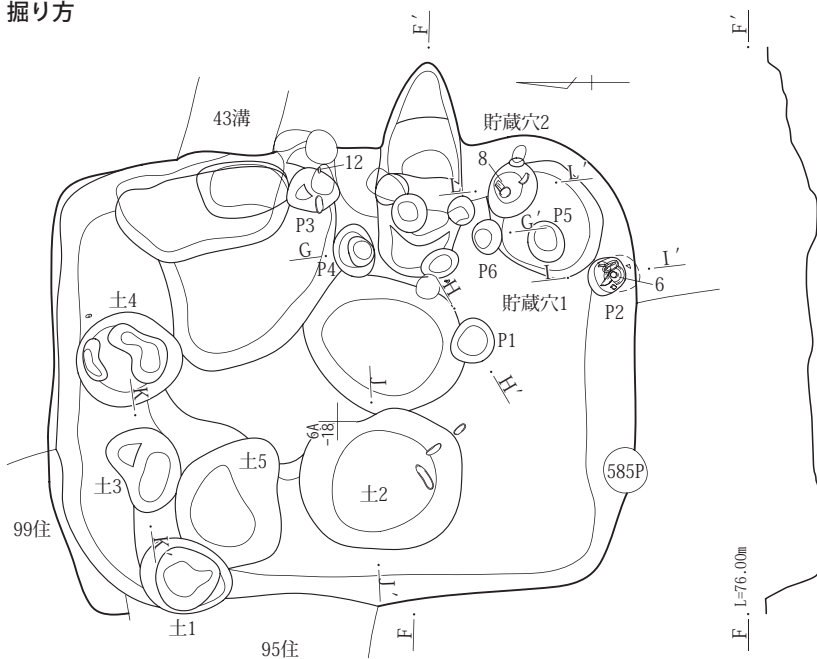
第250図 3区94号住居

第3節 3区の遺構と遺物(1)

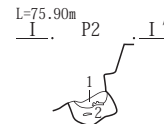


第251図 3区94号住居出土遺物(1)

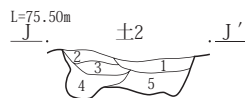
掘り方



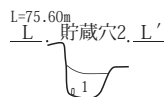
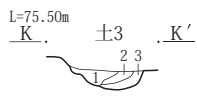
- P 1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を含む。



- P 2
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロック、焼土ブロックを含む。



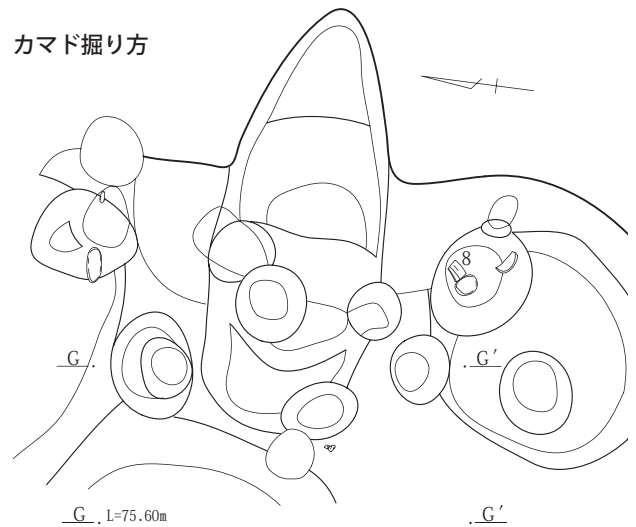
- 住居内土坑2
- 1 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
 - 2 褐色粘質土 暗褐色ブロックを多く含む。
 - 3 褐色粘質土 2層に近いが、より暗褐色ブロックが少ない。
 - 4 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多く含む。
 - 5 黒褐色土 粘質土。ロームブロックを含む。



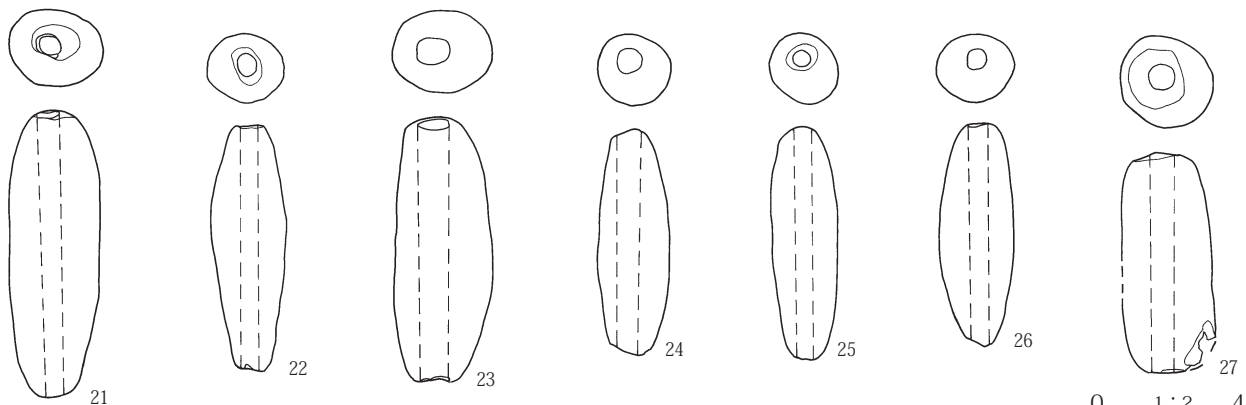
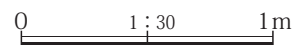
- 住居内土坑3
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 2 黄白色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。

- 貯蔵穴2
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックの混土。

カマド掘り方



- カマド掘り方
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。



第252図 3区94号住居掘り方と出土遺物(2)

第82表 3区 94号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|------------------------|--------|---------------|-------------------------|----------------------------|---|--|
| | | | | 口 | 高 | 重 | | | |
| 第251図 PL.196 | 1 | 土師器 杯 | +4 完形 | 口 | 12.7 | 高 3.9 | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。 | 外面口縁部の 一部に炭素吸 着。 |
| 第251図 | 2 | 土師器 杯 | 1/2 | 口 | 13.0 | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ、型肌を残す。底部は手持ち ヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭 素吸着。内面 磨耗。 |
| 第251図 | 3 | 土師器 杯 | +21 1/4 | 口 | 14.0 | 高 2.8 | 細砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ、型肌を残す。底部は手持ち ヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭 素吸着・やや 磨滅。 |
| 第251図 | 4 | 土師器 杯 | +4 口縁～底部片 | 口 | 13.6 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。 | 内外面ともや や磨滅。 |
| 第251図 | 5 | 土師器 杯 | 口縁～底部片 | 口 | 14.4 | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 一部に炭素吸 着・やや磨滅。 |
| 第251図 PL.196 | 6 | 須恵器 杯蓋 | P2内 3/4 | 口 | 15.0 | 高 5.0 | 細砂粒/還元焰/灰 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ、型肌を残す。底部は手持ち ヘラ削り。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第251図 | 7 | 土師器 甕 | 口縁～胴部上位 片 | 口 | 19.5 | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面胴部は横位 にナデ。 | |
| 第251図 | 8 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 口縁～ 胴部上位片 | 口 | 19.0 | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面胴部は横位 にヘラナデ。 | |
| 第251図 | 9 | 土師器 甕 | +9 胴部下位 ～底部1/2 | 底 | 6.1 | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 胴部外面は斜位・斜縦位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内 面は丁寧なナデ。 | 底部周辺炭素 吸着。 |
| 第251図 | 10 | 土師器 甕 | 内土坑1 胴部中位～底部 1/2 | 底 | 6.0 | | 小礫・粗砂粒多/良 好/橙 | 胴部外面は縦に2回に分けてヘラ削り。底部はナデ。木葉痕。 内面胴部は横位のヘラナデ。輪積み痕消しきれず残る。 | 内外面とも被 熱のため変色 。外面の一部 に炭素吸着、 黒班状。 |
| 第251図 PL.196 | 11 | 土製品 土錘 | +17 完形 | 長 巾 | 5.0 1.9 | 孔 重 0.4 515.49 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい 黄褐 | 小口に面を有さない。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |
| 第251図 PL.196 | 12 | 土製品 土錘 | P3内 完形 | 長 巾 | 5.4 1.9 | 孔 重 0.5 17.28 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい 黄橙 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅。 |
| 第251図 PL.196 | 13 | 土製品 土錘 | 床直 完形 | 長 巾 | 6.5 2.7 | 孔 重 0.6 43.9 | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 平面形は長紡錘形を呈する。一方の小口に工具痕が見られ る。 | 器面磨滅。 |
| 第251図 PL.196 | 14 | 土製品 土錘 | +8 1/2 | 長 巾 | 5.3 1.7 | 孔 重 0.5 58.33 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/灰黄褐 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |
| 第251図 PL.196 | 15 | 土製品 土錘 | +17 完形 | 長 巾 | 5.5 2.4 | 孔 重 0.8 32.04 | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 平面形は長紡錘形を呈する。一方の小口に工具痕が見られ る。 | 器面磨滅。 |
| 第251図 PL.196 | 16 | 土製品 土錘 | +16 一部欠 | 長 巾 | 5.6 2.3 | 孔 重 0.7 23.33 | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 小口の一方は欠損(旧事の可能性もあるか)。 | 器面磨滅。 |
| 第251図 PL.196 | 17 | 土製品 土錘 | +27 完形 | 長 巾 | 6.3 1.85 | 孔 重 0.45 18.22 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい 黄橙 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |
| 第251図 PL.196 | 18 | 土製品 土錘 | +22 一部欠 | 長 巾 | (1.8) 1.85 | 孔 重 0.55 14.94 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/灰黄褐 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |
| 第251図 PL.197 | 19 | 土製品 土錘 | +4 完形 | 長 巾 | 5.7 1.8 | 孔 重 0.45 15.65 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/黒褐 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |
| 第251図 PL.197 | 20 | 土製品 土錘 | +7 完形 | 長 巾 | 4.8 1.85 | 孔 重 0.5 14.50 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい 黄橙 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |
| 第252図 PL.197 | 21 | 土製品 土錘 | +5 完形 | 長 巾 | 7.6 2.4 | 孔 重 0.6 40.14 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい 黄橙 | 小口に面を有さない。 | 器面磨滅。 |
| 第252図 PL.197 | 22 | 土製品 土錘 | +10 完形 | 長 巾 | 6.5 1.95 | 孔 重 0.45 20.01 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/灰黄褐 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |
| 第252図 PL.197 | 23 | 土製品 土錘 | +21 完形 | 長 巾 | 7.0 2.6 | 孔 重 0.8 40.81 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい 黄橙 | 小口に面を有さない。 | 器面磨滅。 |
| 第252図 PL.197 | 24 | 土製品 土錘 | 床直 完形 | 長 巾 | 6.0 1.9 | 孔 重 0.6 19.46 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/灰黄褐 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |
| 第252図 PL.197 | 25 | 土製品 土錘 | 床直 完形 | 長 巾 | 6.2 1.8 | 孔 重 0.45 19.59 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/灰黄褐 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |
| 第252図 PL.197 | 26 | 土製品 土錘 | +2 完形 | 長 巾 | 5.8 2.0 | 孔 重 0.5 17.80 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい 黄橙 | 平面形は長紡錘形を呈する。小口に面を有さない。 | 器面磨滅。 |
| 第252図 PL.197 | 27 | 土製品 土錘 | 4/5 | 長 巾 | 5.8 2.3 | 孔 重 0.6 31.34 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/灰 | 形状は筒状を呈する。 | 器面磨滅・炭 素吸着。 |

95号住居(第253図、P L .81・84、第83表)

位置 5 T・6 A-18グリッド。
重複 94・99号住居、43号溝より前出。
形状 部分的な検出のために詳細は不明である。
主軸方位 不明。
規模 現状では南北1.97m、東西1.88m、残存壁高は20cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。
埋没土 自然埋没と思われる。1・2層は住居埋没土、3～5層は掘り方充填土になる。
掘り方 全体的に掘り下げている。掘り方の深さは約10～20cmを測る。
出土遺物 ほとんど出土していない。
時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

99号住居(第253図、P L .84、第83表)

位置 6 A-18グリッド。
重複 94・95号住居、27号溝より前出で、107号住居と重複するが新旧関係不明。
形状 部分的な検出のために詳細は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。
主軸方位 不明。
規模 現状では東西2.85m、南北1.71m、残存壁高は30cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。貼床である。
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。
埋没土 自然埋没と思われる。1層は貼床、2～6層は掘り方充填土になる。
掘り方 全体的に凹凸がある。ピット1基と土坑1基が

検出された。P 1は長径54.5cm・短径43cm・深さ52cm、土坑1は長径201cm・短径91cm・深さ29cmの不整形を呈する。埋没土から土器と礫が出土している。
出土遺物 土坑埋没土中から土器が出土している。
時期 出土遺物から8世紀後半に比定される。

107号住居(第253図、P L .81・84、第83表)

位置 6 A-18グリッド。
重複 27号溝より前出で、99号住居と重複するが新旧関係不明。
形状 部分的な検出のために詳細は不明である。
主軸方位 不明。
規模 不明。残存壁高は17cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 詳細は不明である。

掘り方 認められなかった。

出土遺物 ほとんど出土せず、99号住居出土遺物と不明である。

時期 不明。

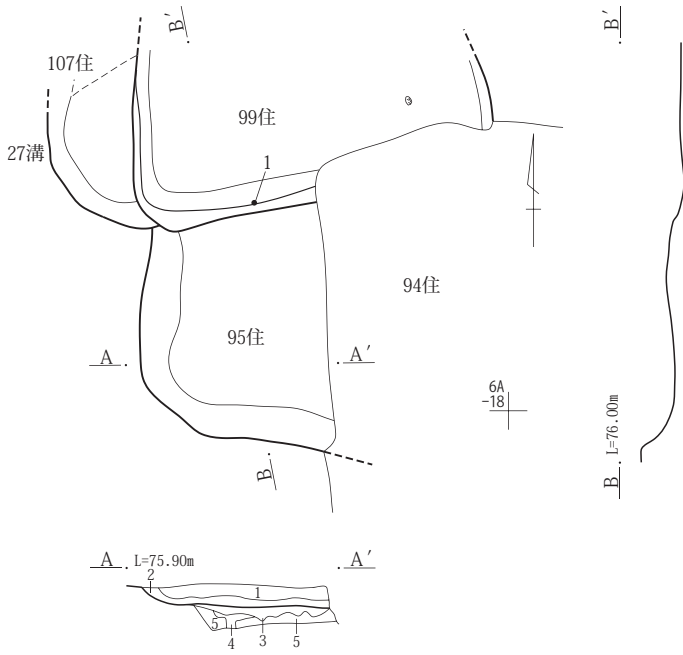
96号住居(第254～256図、P L .81・83・197、第84表)

位置 5 T・6 A-20グリッド。
重複 104号住居、27号溝より前出。
形状 重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。
主軸方位 N-69°-E
規模 現状での面積は6.42㎡。長辺(北東～南西)3.93m、短辺(北西～南東)3.43mを確認でき、残存壁高は30～40cmを測る。

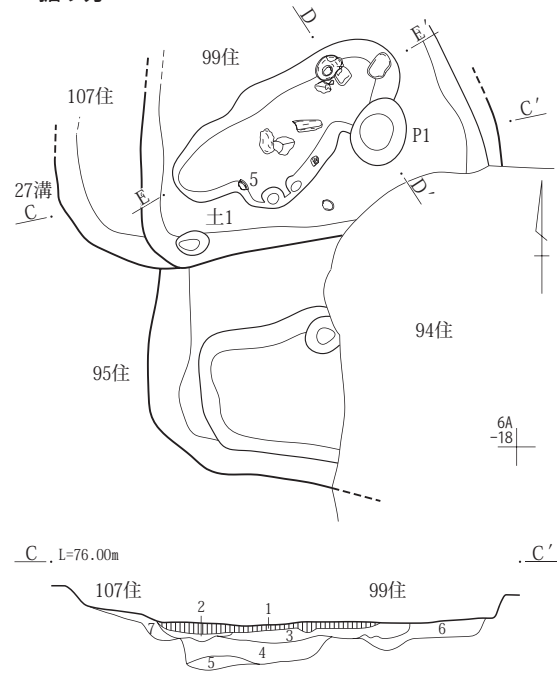
第83表 3区95・99・107号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|------------|-------------------|-----|------|-------|----------------------|--|---------------|
| 第253図 | 1 | 土師器 杯 | 95住 口縁～底部片 | 口 | 13.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第253図 | 2 | 須恵器 小型壺 | 95住 破片 | 口 | 5.0 | | 黒色鉾物粒/還元 焰/褐灰 | ロクロ整形、回転右回りか。胴部に回転ヘラ削りか。 | |
| 第253図 | 3 | 土師器 杯 | 99住 +25 2/5 | 口 | 10.0 | 高 4.4 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部上位にナデ部分を残すが、以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面の一部黒色・漆塗りか。 |
| 第253図 | 4 | 土師器 杯 | 99住 1/5 | 口 | 14.0 | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 器形歪む。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面ナデ。一部に指頭圧痕を残す。 | |
| 第253図 | 5 | 土師器 杯 | 99住 内土坑1 1/4 | 口 | 13.8 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は中位に稜を有する、横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面炭素吸着。 |
| 第253図 | 6 | 土師器 杯 | 99・107住 1/6 | 口 | 12.6 | | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。上位にナデの部分を残す。内面はナデ。 | 炭素吸着。 |
| 第253図 | 7 | 土師器 杯 | 99・107住 口縁～底部片 | 口 | 15.8 | | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第253図 | 8 | 土師器 杯 | 99・107住 口縁～底部片 | 口 | 12.0 | | 粗砂粒・細砂粒/良 好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |

95・99・107号住居



掘り方

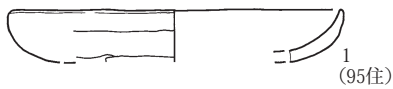
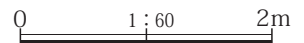
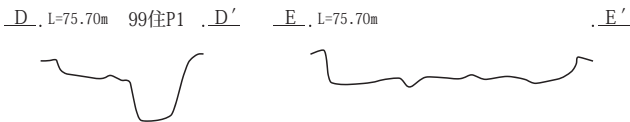


95号住居

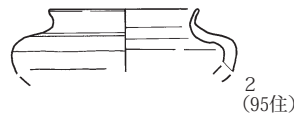
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土ブロックを少量含む。1層よりも暗い色調。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。暗い色調。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

99号住居掘り方

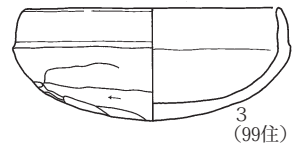
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。貼床。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。暗い色調。
- 3 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を多量に含む。
- 5 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 7 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。(107住掘り方充填土)



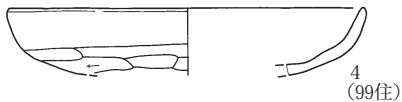
1 (95住)



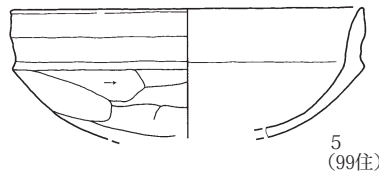
2 (95住)



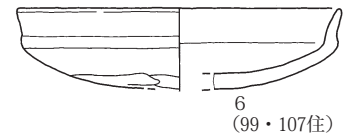
3 (99住)



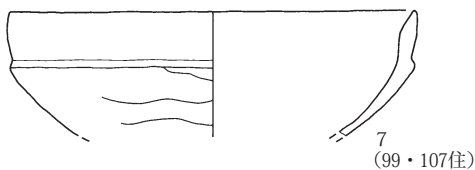
4 (99住)



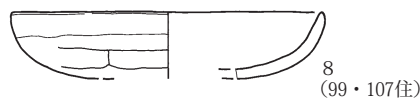
5 (99住)



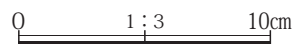
6 (99・107住)



7 (99・107住)

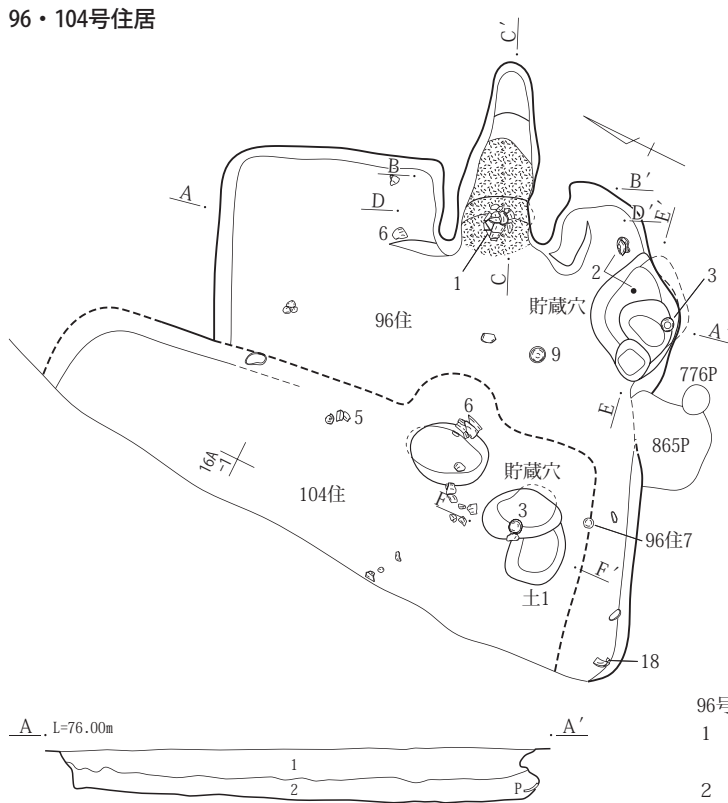


8 (99・107住)

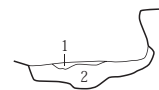


第253図 3区95・99・107号住居と出土遺物

96・104号住居



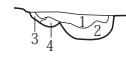
L=76.00m
E. 96住貯蔵穴 E'



貯蔵穴

- 1 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

L=75.70m
F. 104住土1 F'

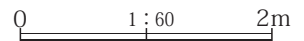


104号住居住居内土坑1

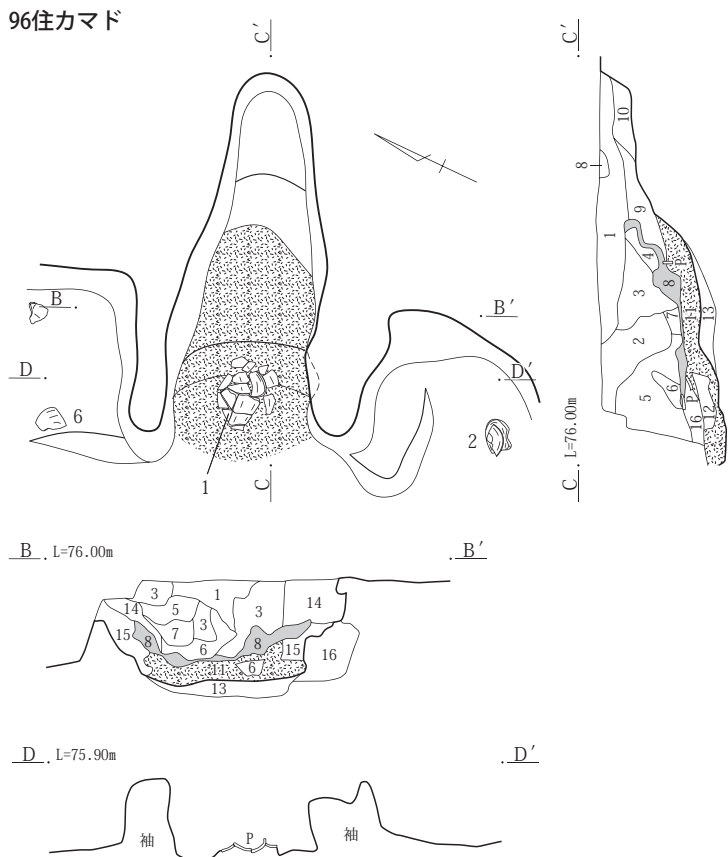
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物を含む。1層より暗い色調。
- 3 赤褐色土 軟らかく粘性非常にあり。焼土を主体に暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。焼土粒子、黄白色粒子を含む。

96号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を多量に、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。1層よりも暗い色調。

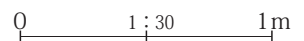


96住カマド



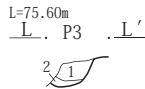
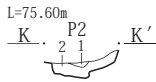
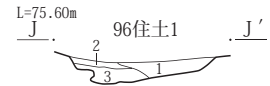
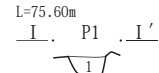
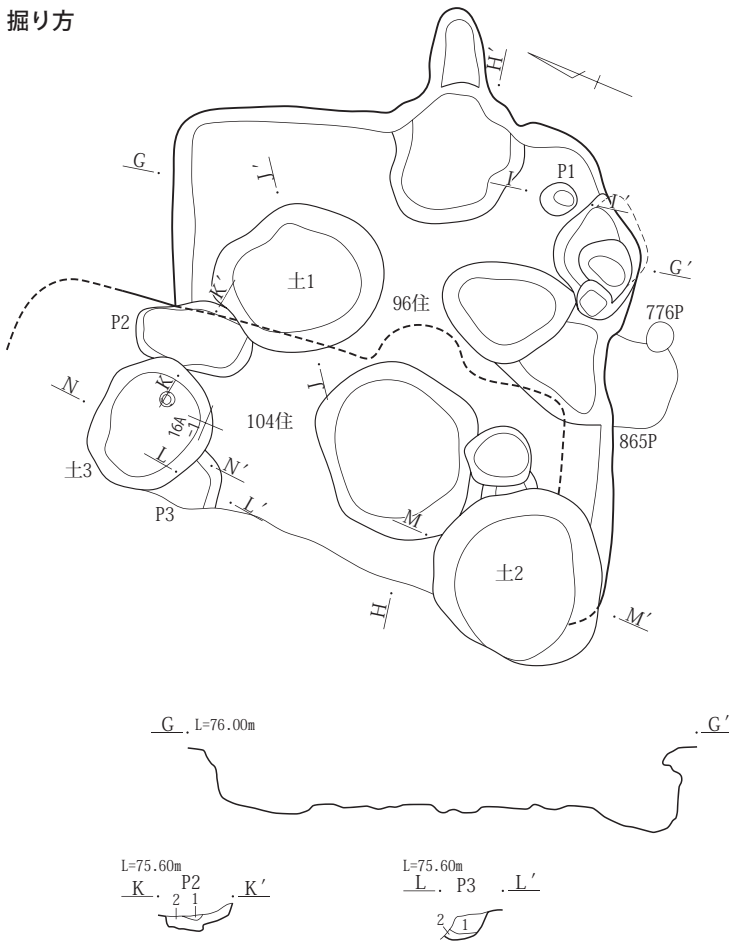
カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、同粒子を多量に含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を少量含む。
- 6 黄白色粘質土 やや硬く粘性あり。焼土ブロックを少量含む。
- 7 黄白色土 やや硬く粘性あり。焼土粒子、暗褐色土を含む。
- 8 焼土 黄白色粘質土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を含む。
- 10 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 11 灰
- 12 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 15 黄白色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子を少量含む。
- 16 黄白色粘質土 やや硬くしまる。カマド袖。



第254図 3区96・104号住居と96号住居カマド

掘り方



96号住居 P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

96号住居内土坑 1

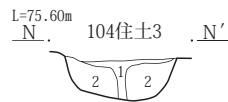
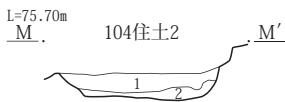
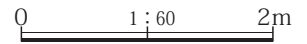
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄白色土 やや硬く粘性あり。暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

104号住居 P 2

- 1 灰褐色土 やや硬くしまる。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

104号住居 P 3

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 2 黄白色土 軟らかくて粘性あり。



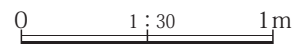
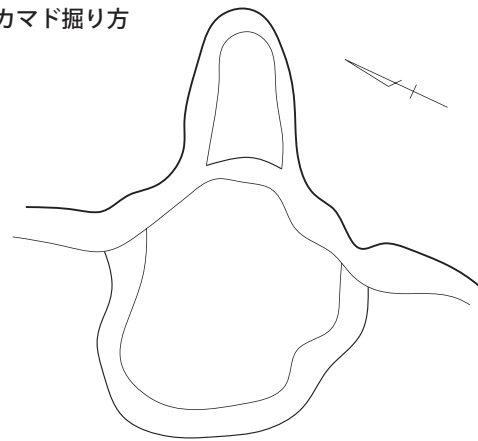
104号住居内土坑 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、暗褐色土の混土。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

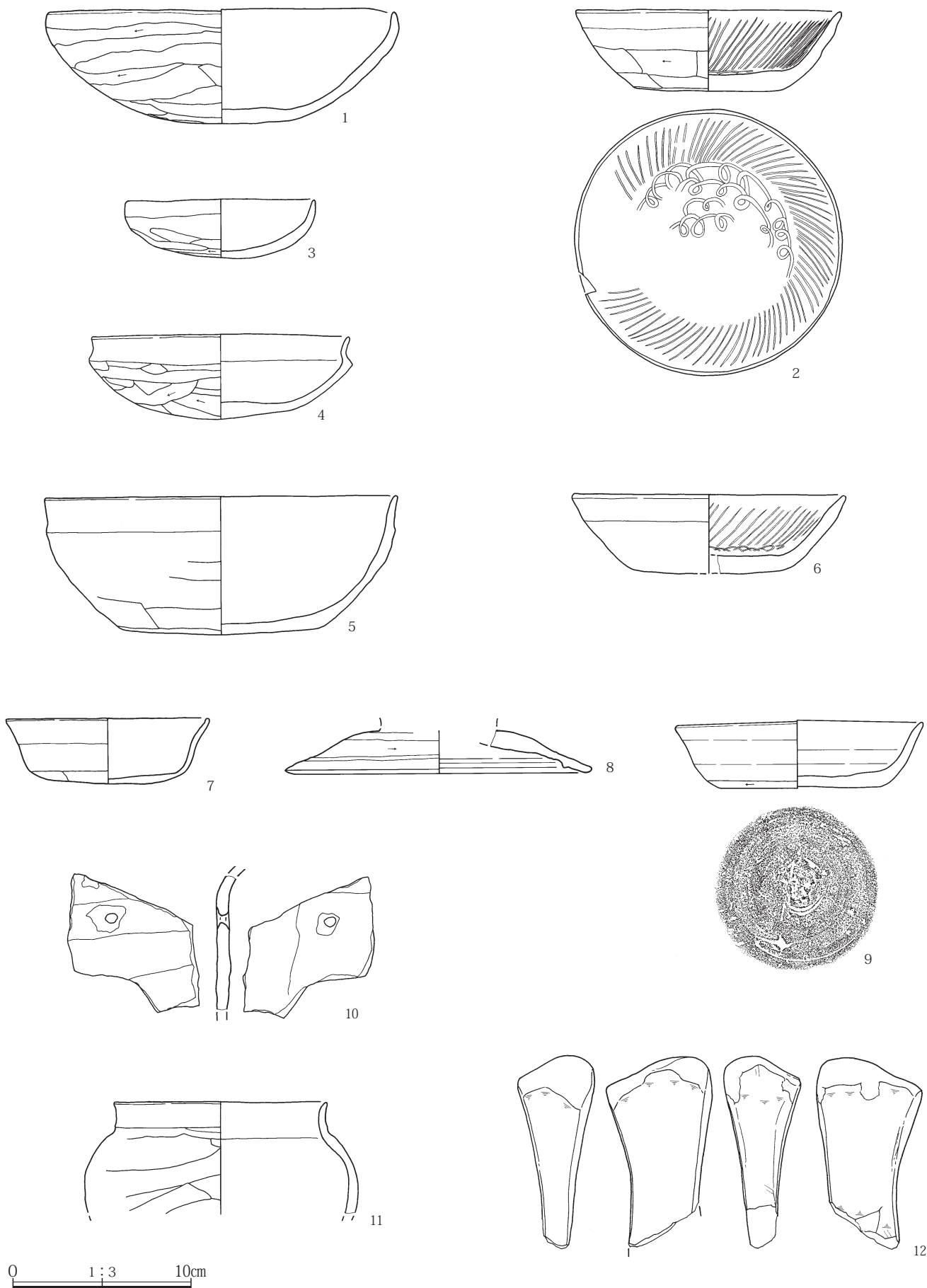
104号住居内土坑 3

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子を少量、黄白色粘質土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。

96住カマド掘り方



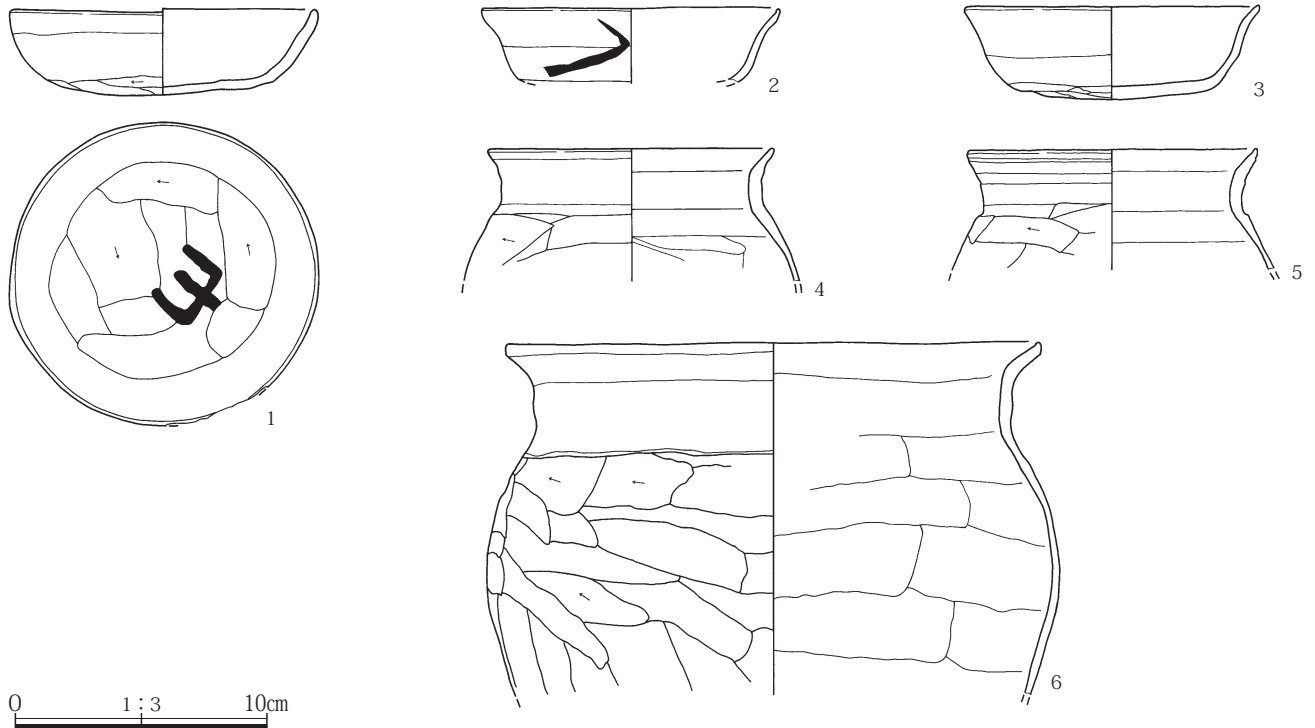
第255図 3区96・104号住居掘り方



第256図 3区96号住居出土遺物

床面 ほぼ平坦である。あまり硬化面は認められなかった。
 カマド 東壁の中央やや南寄りに構築されている。燃焼

部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ156cm、焚き口部の幅53cm、袖を含めた幅は74cmを測る。1～12・14・15層はカマド埋没土、13層は掘り方充填土になる。



第257図 3区 104号住居出土遺物

第84表 3区 96号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|----------------|--------|---------------|---------------------|------------------------|--|--------------------------------|
| 第256図 PL.197 | 1 | 土師器 杯 | カマド 3/4 | 口 | 19.2 | 高 6.3 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外とも面磨滅。 |
| 第256図 PL.197 | 2 | 土師器 杯 | 床直 ほぼ完形 | 口 底 | 14.7 8.4 | 高 4.5 | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部上位はナデ。下位はヘラ削り。内面の口縁部は放射状に、底部は螺旋状にヘラ状工具による暗文。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第256図 PL.197 | 3 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 完形 | 口 | 10.4 | 高 3.3 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | |
| 第256図 PL.197 | 4 | 土師器 杯 | 1/3 | 口 | 14.2 | 高 4.6 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第256図 | 5 | 土師器 杯? | 1/4 | 口 底 | 19.4 11.6 | 高 7.6 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。体部上位にナデ、以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第256図 | 6 | 土師器 杯 | 床直 1/4 | 口 底 | 15.2 8.6 | 高 4.3 | 精選・細砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。内面に斜放射状暗文と螺旋状暗文を配する。 | 内外面とも磨滅顕著。 |
| 第256図 | 7 | 土師器 杯 | + 7 1/4 | 口 | 11.1 | 高 3.7 | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第256図 | 8 | 須恵器 杯蓋 | + 5 1/3 | 口 | 16.8 | | 黒色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。外面天上部の大半を回転ヘラ削り。内面は指ナデ。 | 外面に自然釉付着。 |
| 第256図 PL.197 | 9 | 須恵器 杯 | 床直 完形 | 口 底 | 13.6 8.8 | 高 3.75 | 白色鈹物粒/還元 焰/褐灰 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り。体部最下位にも回転ヘラ削り。 | 内面磨耗顕著。 |
| 第256図 | 10 | 土師器 甕 | 胴部上位片 | | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 外面は縦位にヘラナデ。内面横位にヘラナデ。頸部直下に焼成後の穿孔。 | 内面に孔を穿孔する際に生じた剥離面も他の器面同様に炭素吸着。 |
| 第256図 | 11 | 土師器 小型甕 | 口縁～胴部上位 1/3 | 口 | 11.8 | | 細砂粒・黒色鈹物粒 /良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第256図 PL.197 | 12 | 石製品 砥石 | | 長 幅 | (10.6) 5.9 | 厚 重 4.3 263.5 | 砂岩 | 四面使用。各面とも激しく使い込まれ、概形は糸巻状を呈している。下端側を大きく破損する。 | 切り砥石 |

16層はカマド袖、8層は焼土、11層は灰層である。燃焼部の中央から土器がまとまって出土している。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径102cm・短径70cm・深さ33cmの楕円形を呈する。埋没土は2層に分かれ、土器が出土している。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没と思われる。1・2層は住居埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。ピット1基と土坑1基が検出された。P1は長径29.5cm・短径27cm・深さ23cm、土坑1は長径137.5cm・短径117cm・深さ21.5cmを測る。掘り方の深さは約7～26cmを測る。

出土遺物 カマドや貯蔵穴に集中して土器が出土している。

時期 出土遺物から8世紀前半に比定される。

104号住居(第254・255・257図、P.L.81・83・197、第85表)

位置 5T・6A-20、15T・16A-1グリッド。

重複 96号住居より後出で、27号溝より前出。

形状 重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-77°-E

規模 推定長辺(南北)4.5m、短辺(東西)1.64mを確認でき、残存壁高は1～20cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。あまり硬化面は認められなかった。

カマド 東壁に設置されていたものと思われる。

貯蔵穴 床面の南東隅に位置している。長径62.5cm・短径39cm・深さ32cmの楕円形を呈する。土器が出土している。

住居内土坑1 貯蔵穴と重複して検出された。土坑1は長径44cm・短径39cm・深さ21cmを測る。埋没土は4層に

分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没と思われるが、詳細は不明である。

掘り方 全体的に凹凸がある。ピット2基と土坑2基が検出された。P2は長径95cm・短径56.5cm・深さ15.5cm、P3は長短不明で深さ19cm、土坑2は長径145cm・短径135cm・深さ26cm、土坑3は長径107cm・短径91cm・深さ34.5cmを測る。掘り方の深さは5～19cmを測る。

出土遺物 貯蔵穴周辺から土器片が出土している。

時期 出土遺物から9世紀後半に比定される。

97号住居(第258～260図、P.L.81・82・197・198、第86表)

位置 16A-7、16B-6・7グリッド。

重複 なし

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は9.39㎡。長辺(北東～南西)5.07m、短辺(北西～南東)3.31m、残存壁高は10～17cmを測る。

床面 やや凹凸がある。部分的に硬化面が認められた。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 ピット2基を検出した。主柱穴になるものと思われる。P1は長径26cm・短径25cm・深さ47cm、P2は長径51.5cm・短径40cm・深さ29cmを測る。P1-P2間の距離は2.6mを測る。

周溝 確認できなかった。

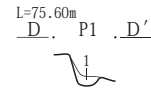
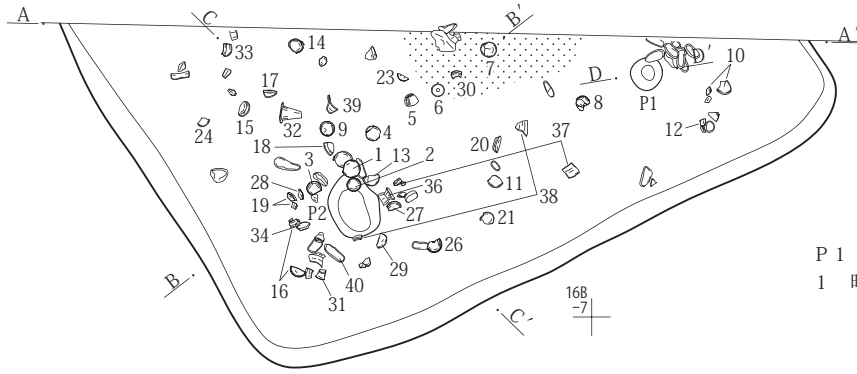
埋没土 自然埋没と思われる。2～7層は住居埋没土、8～18層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸が激しい。土坑1基が検出された。土坑1は長径129.5cm・短径119cm・深さ66cmを測る。掘

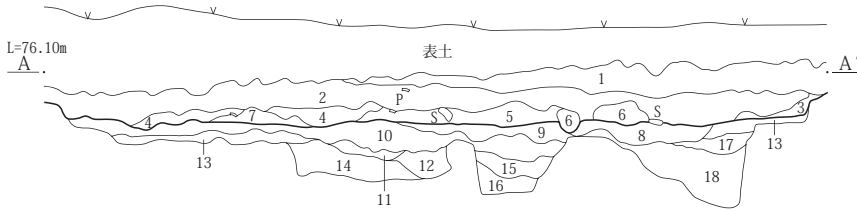
第85表 3区104号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-------------------|-----|------|---|--------------------|-----------------|---|
| 第257図 PL.197 | 1 | 土師器 杯 | ほぼ完形 | □ | 11.8 | 高 | 3.4 | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。型肌の痕跡を残す。底部は 手持ちへら削り。外面底部中央に墨書「口」?巾?草? |
| 第257図 PL.197 | 2 | 土師器 杯 | 口縁～体部 | □ | 11.5 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。外 面口縁部墨書か「口」 |
| 第257図 PL.197 | 3 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 口縁一部欠 | □ | 11.5 | 高 | 3.6 | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。体部もナデ。底部は手持ちへら削り。体 部以下に型肌の痕。内面は指押さえの上にナデ。 |
| 第257図 | 4 | 土師器 費 | 口縁～肩部片 | □ | 11.0 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にへら削り。内面胴部は横位 のへらナデ。 |
| 第257図 | 5 | 土師器 小型費 | 床直 口縁～胴 部上位1/4 | □ | 11.0 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にへら削り。内面胴部は横位 にへらナデ。 |
| 第257図 | 6 | 土師器 費 | +19 口縁～胴 部下位片 | □ | 20.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は3回に分けて横ナデ。胴部上位は横位、斜横位に、 中位は縦位にへら削り。内面胴部は横位のへらナデ。 |

97号住居



P 1
1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を含む。

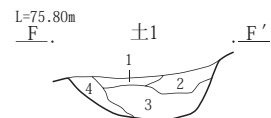
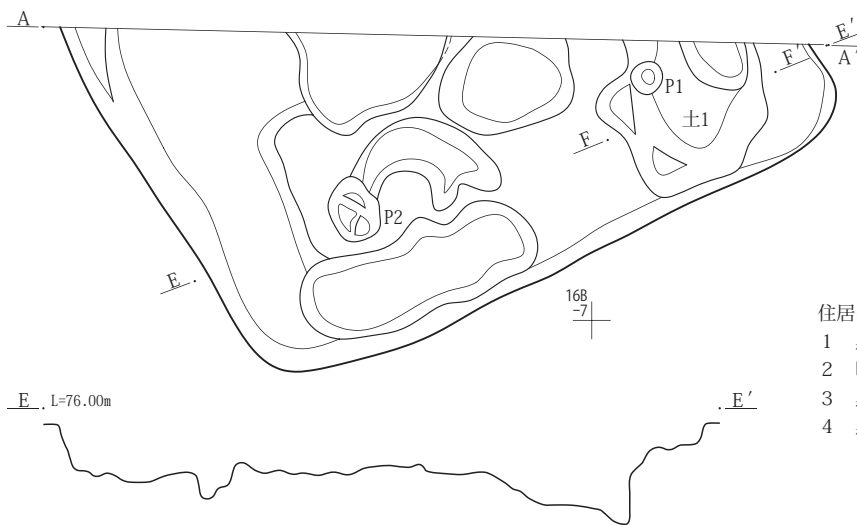


97号住居

- | | |
|--|---|
| <p>1 暗褐色土 しまり強い。表土が部分的に混在。</p> <p>2 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、ローム粒子を少量、軽石を微量含む。</p> <p>3 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。</p> <p>4 黒褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を微量、ローム粒子を少量含む。</p> <p>5 黒褐色土 しまりやや弱い。白色軽石を少量含む。</p> <p>6 暗褐色土 しまり強い。白色粘土粒を多く含む。</p> <p>7 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。</p> <p>8 黒褐色土 しまりやや弱い。白色軽石を少量、焼土粒子を微量含む。</p> | <p>9 暗褐色土 ロームブロックを多量、軽石を含む。</p> <p>10 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、ローム粒子、軽石を含む。</p> <p>11 暗褐色土 10層よりロームブロックを多く含む。</p> <p>12 暗褐色土 10層より軽石を多く含む。</p> <p>13 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く、赤褐色土ブロックを含む。</p> <p>14 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、白色粘土ブロックを多く含む。</p> <p>15 暗褐色土 10層に白色粘土ブロックが加わる。</p> <p>16 暗褐色土 10層より色調が濃い。</p> <p>17 暗褐色土 しまり強い。灰褐色粘質土を含む。</p> <p>18 灰褐色土 しまり強い。赤褐色土粒子を含む。</p> |
|--|---|

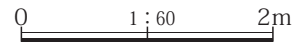


掘り方

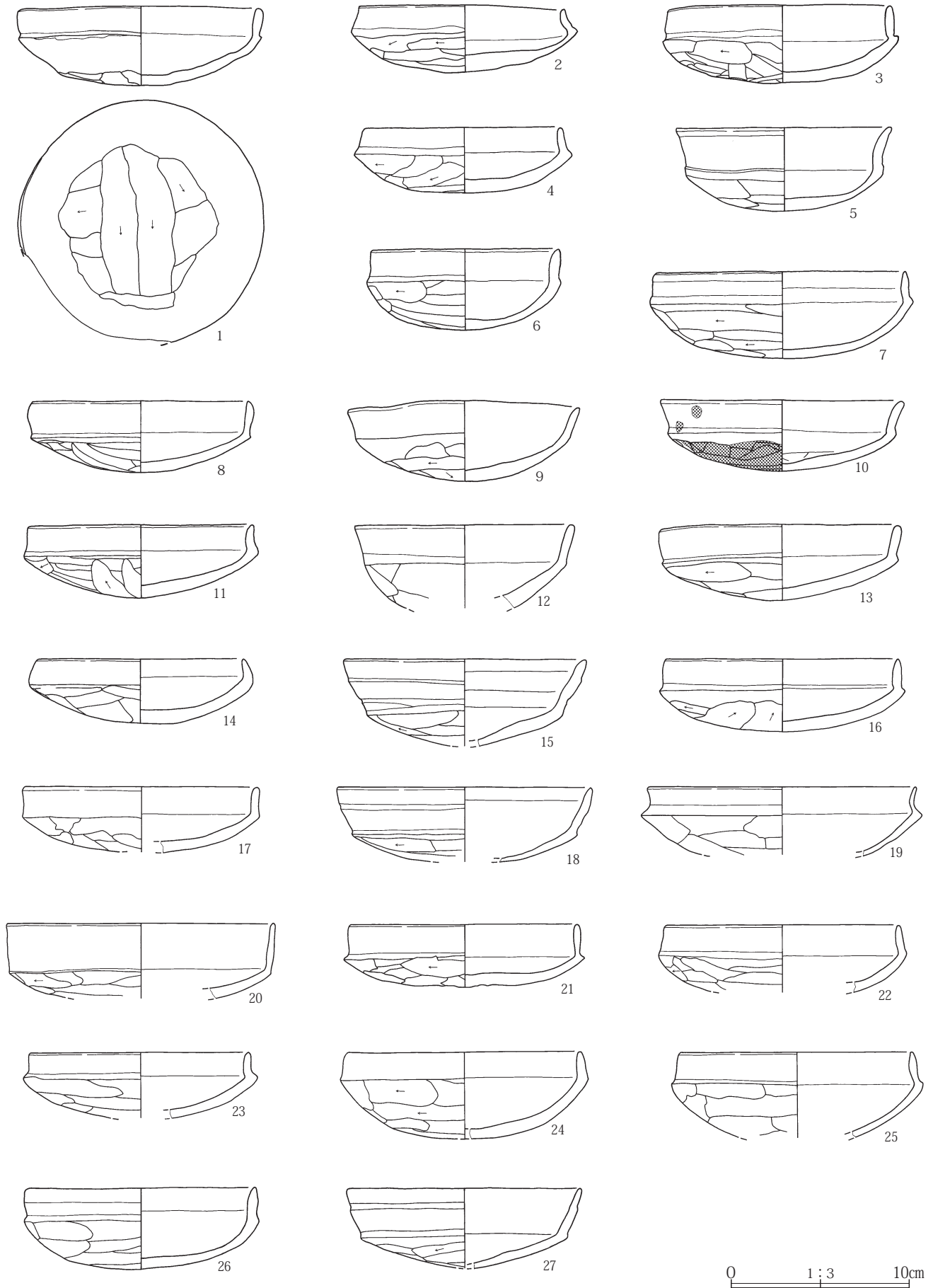


住居内土坑 1

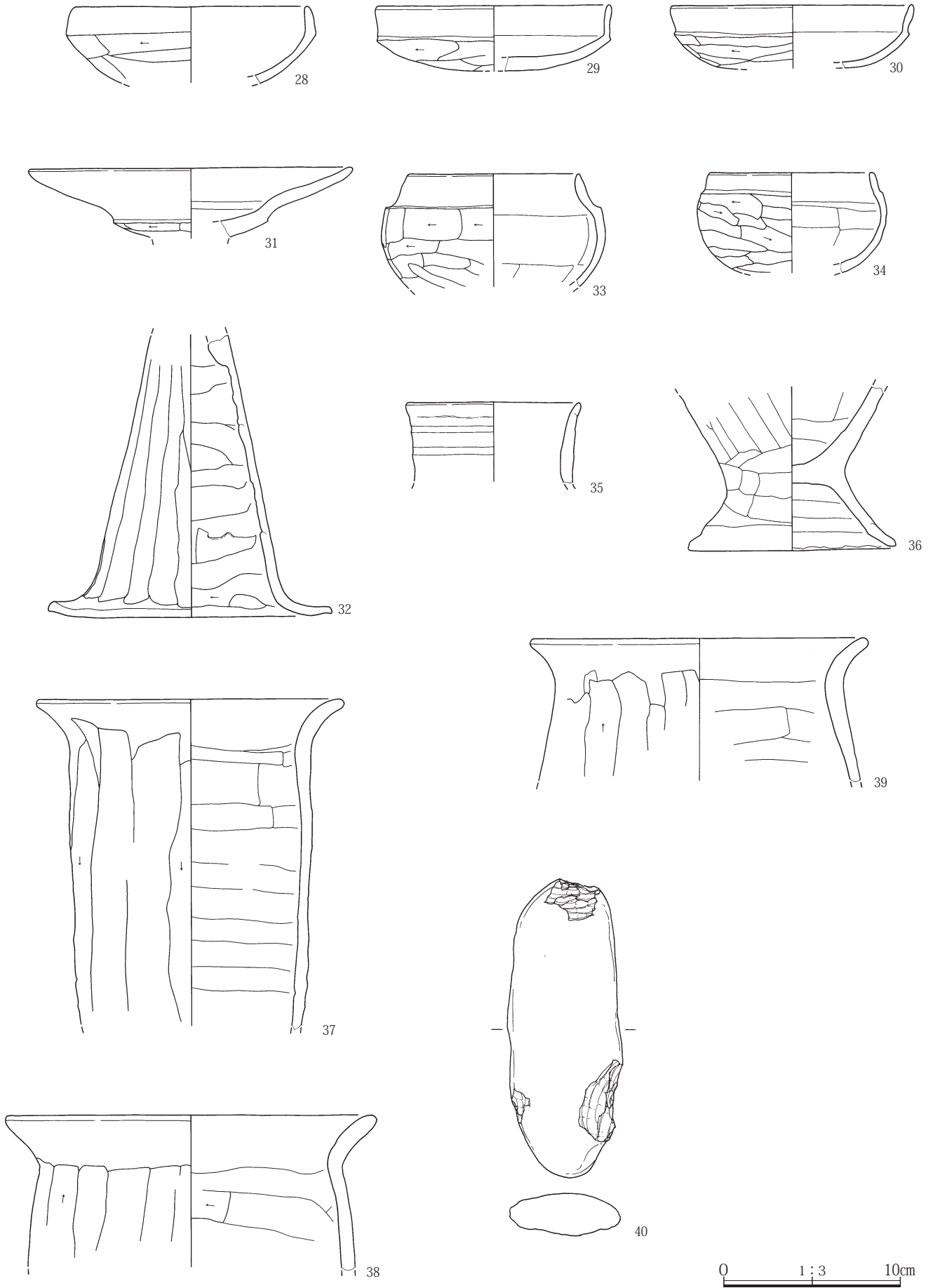
| |
|---|
| <p>1 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を微量含む。</p> <p>2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。</p> <p>3 黒褐色土 しまりやや弱い。</p> <p>4 黒褐色土 白色粘土ブロックを含む。軽石を微量含む。</p> |
|---|



第258図 3区97号住居



第259図 3区97号住居出土遺物(1)



第260図 3区97号住居出土遺物(2)

第3章 発掘調査の記録

第86表 3区 97号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|---------------|-----|-------------|---|------------------------------|--|--------------------------------|
| 第259図 PL.197 | 1 | 土師器 杯 | +17 口縁一部欠 | 口底 | 13.2 8.7 | 高 | 4.4 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は中央寄りのみ手持ちヘラ削り。稜下に幅広くナデの部分を残す。内面はナデ。 | |
| 第259図 PL.197 | 2 | 土師器 杯 | P 2内 完形 | 口 | 11.4 | 高 | 3.7 粗砂粒・雲母/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部はナデに近い手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部の一部に炭素吸着。 |
| 第259図 PL.197 | 3 | 土師器 杯 | +13 口縁1/3欠 | 口 | 12.2 | 高 | 4.2 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部炭素吸着・内面磨耗。 |
| 第259図 PL.197 | 4 | 土師器 杯 | +10 完形 | 口 | 10.8 | 高 | 3.6 粗砂粒・雲母/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部に炭素吸着。 |
| 第259図 PL.197 | 5 | 土師器 杯 | +20 1/3 | 口 | 12.0 | 高 | 4.6 精選・赤色粘土粒/良好/橙 | 口唇部外方に稜をなす。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第259図 PL.197 | 6 | 土師器 杯 | +6 完形 | 口 | 10.3 | 高 | 4.4 粗砂粒・雲母/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや炭素吸着。 |
| 第259図 PL.197 | 7 | 土師器 杯 | 床直 完形 | 口 | 13.6 | 高 | 4.8 粗砂粒・白色鈹物粒/良好/橙 | 口縁部は中位に弱い変換点を有する横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第259図 PL.197 | 8 | 土師器 杯 | +18 1/3 | 口 | 12.0 | 高 | 3.9 粗砂粒少/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部炭素吸着・黒斑状。 |
| 第259図 PL.198 | 9 | 土師器 杯 | +16 完形 | 口 | 12.8 | 高 | 4.4 粗砂粒・白色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は中央寄りに手持ちヘラ削り。口縁部との間は丁寧なナデ。 | |
| 第259図 PL.198 | 10 | 土師器 杯 | 床直 2/3 | 口 | 13.4 | 高 | 3.9 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。口縁部との間にわずかにナデの部分あり。内面底部はヘラ状工具の痕跡明瞭。外面煤付着。 | |
| 第259図 PL.198 | 11 | 土師器 杯 | +21 2/3 | 口 | 12.2 | 高 | 4.0 粗砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面口縁部と内面に漆塗り。外面底部は炭素吸着・黒斑状。 |
| 第259図 PL.198 | 12 | 土師器 杯 | +6 2/3 | 口 | 12.0 | | 細砂粒多/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は深みを有する手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第259図 PL.198 | 13 | 土師器 杯 | +13 ほぼ完形 | 口 | 13.1 | 高 | 4.1 粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面炭素吸着、黒色処理か。 |
| 第259図 PL.198 | 14 | 土師器 杯 | +6 口縁一部欠 | 口 | 11.4 | 高 | 3.5 粗砂粒・白色鈹物粒・雲母/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は内傾して立ち上がる、横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第259図 PL.198 | 15 | 土師器 杯 | +25 1/2 | 口 | 13.3 | | 粗砂粒・雲母/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は中位にも稜を有する、横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第259図 PL.198 | 16 | 土師器 杯 | +10 3/4 | 口 | 12.8 | 高 | 4.0 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。口縁部との間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | 内面炭素吸着。 |
| 第259図 | 17 | 土師器 杯 | +17 1/4 | 口 | 12.8 | | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。周縁部はヘラナデ状。内面はナデ。 | 内外面に炭素吸着。 |
| 第259図 | 18 | 土師器 杯 | +26 1/4 | 口 | 14.0 | | 細砂粒/良好/にぶい黄褐 | 有段口縁。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第259図 | 19 | 土師器 杯 | +15 1/4 | 口 | 14.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面口縁部は漆塗り、内面にも塗布か。 |
| 第259図 | 20 | 土師器 杯 | +15 1/4 | 口 | 14.8 | | 細砂粒少/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面に漆塗りか。 |
| 第259図 | 21 | 土師器 杯 | +23 2/3 | 口 | 12.6 | 高 | 3.5 細砂粒・雲母/良好/赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内面底部中央に指頭圧痕 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第259図 | 22 | 土師器 杯 | +20 1/4 | 口 | 13.0 | | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。稜下にわずかにナデ部分を残す。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第259図 | 23 | 土師器 杯 | +6 1/3 | 口 | 12.2 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面やや磨滅。 |
| 第259図 | 24 | 土師器 杯 | +14 1/4 | 口 | 13.0 | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面やや磨滅。 |
| 第259図 | 25 | 土師器 杯 | 1/3 | 口 | 13.0 | | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内面全面と外面口縁部漆塗り。 |
| 第259図 PL.198 | 26 | 土師器 杯 | +20 口縁1/3欠 | 口 | 12.6 | 高 | 4.5 粗砂粒・白色鈹物粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面口縁部と内面に漆塗り。口唇部に工具の当たった痕跡を残す。 |
| 第259図 PL.198 | 27 | 土師器 杯 | +14 1/2 | 口 | 12.9 | | 小礫・粗砂粒多/良好/明赤褐 | 口縁部は中位に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第260図 | 28 | 土師器 杯 | +16 1/3 | 口 | 13.0 | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面やや磨滅。 |
| 第260図 | 29 | 土師器 杯 | +19 1/2 | 口 | 13.0 | | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面の一部やや炭素吸着。 |
| 第260図 | 30 | 土師器 杯 | +15 1/4 | 口 | 13.4 | | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第260図 | 31 | 土師器 高杯 | +20 杯部1/4 | 口 | 17.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。稜下はヘラ削り。内面は横ナデ。 | 外面やや磨滅。 |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|---------------------|-----|-------------|----|-----------------------------|---|----------------------------|
| 第260図 PL.198 | 32 | 土師器 高杯 | +4 脚部 | 底 | 15.9 | | 粗砂粒/良好/橙 | 裾部は横ナデ。これ以外は縦位に丁寧なヘラ削り。内面裾部を除き横位に粗雑なヘラ削り。 | 残存する上位 外面は炭素吸着・変色・粘土付着。 |
| 第260図 | 33 | 土師器 鉢 | +9 1/4 | 口 | 9.6 | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部は手持ちヘラ削り。内面体部はヘラナデ。 | 外面の一部に 炭素吸着。 |
| 第260図 | 34 | 土師器 鉢 | +14 1/4 | 口 | 9.0 | | 細砂粒少/良好/明 赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部以下は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面やや炭素 吸着。 |
| 第260図 | 35 | 土師 器壺 | 口縁部片 | 口 | 9.6 | | 細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙 | 口縁部中位に小稜2ヶ所、横ナデ。 | 内面やや磨滅。 |
| 第260図 | 36 | 土師器 台付甕 | +5 台部~胴下位 | | | 台 | 11.6 小礫・粗砂粒・雲母 /良好/黄褐 | 外面胴部は縦位・横位のナデ。台部は横位のナデ。内面は横位のナデ。 | 外面の一部に 煤付着。 |
| 第260図 | 37 | 土師器 甕 | +14 口縁部~ 胴部中位1/4 | 口 | 16.8 | | 粗砂粒多・片岩/良 好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ後、胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面炭素吸着、 一部に煤。 |
| 第260図 | 38 | 土師器 甕 | +13 口縁~胴 上位1/3 | 口 | 20.4 | | 粗砂粒少/軽石/良 好/黄褐 | 口縁部は横ナデ、胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。一部にヘラ削り。 | 外面炭素吸着。 |
| 第260図 | 39 | 土師器 甕 | +13 口縁~胴上位 | 口 | 18.6 | | 細砂粒・黄色軽石/ 良好/明黄褐 | 口縁部は横ナデ、一部に縦位のヘラナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | |
| 第260図 PL.198 | 40 | 礫石器 敲石 | +19 | 長幅 | 16.7 6.4 | 厚重 | 2.3 387.9 雲母石英片岩 | 上端側小口・下端側稜側縁が敲打され、衝撃剥離する。 | |

第87表 3区98号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|----------------|-----|--------------|----|-------------------------------|---|--------------|
| 第261図 PL.198 | 1 | 土師器 杯 | 床直 完形 | 口底 | 12.1 9.6 | 高 | 3.4 細砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ、その下に指頭圧痕を残す。 | |
| 第261図 PL.198 | 2 | 土師器 鉢 | 床直 1/3 | 口底 | 18.6 10.6 | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。体部は横位に手持ちヘラ削り。底部はヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第262図 PL.198 | 3 | 須恵器 杯蓋 | 口縁部1/6 | 口 | 15.7 | | 粗砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転は右回り。天井部中心よりに回転ヘラ削り。 | |
| 第262図 | 4 | 須恵器 杯 | カマド 完形 | 口底 | 13.0 6.3 | 高 | 3.7 小礫・粗砂粒・白色 鈹物粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整。 | |
| 第262図 PL.198 | 5 | 須恵器 杯 | 内土坑4 1/2 | 口底 | 13.0 5.8 | 高 | 4.35 粗砂粒少/還元焰/ 灰白 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整。 | |
| 第262図 | 6 | 須恵器 杯 | カマド 2/5 | 口底 | 12.4 8.0 | | 粗砂粒/還元焰/灰 白 | ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し後、ヘラ削りと考えられる。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第262図 | 7 | 須恵器 杯 | 1/4 | 口底 | 12.0 5.8 | 高 | 3.1 白色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | |
| 第262図 PL.198 | 8 | 土師器 台付甕 | +2 3/4 | 口 | 13.0 | | 細砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 脚台部の裾部欠損後、二次調整して利用か。口縁部は横ナデ、胴部上半は横位、斜横位、下半は斜位のヘラ削り。脚台部の基部にナデ、以下は横位のナデ。内面胴部は横位のナデ。脚台部内面は横ナデ。 | 外面炭素吸着。 |
| 第262図 | 9 | 土師器 甕 | カマド 口縁部~胴部片 | 口 | 20.8 | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ、下半のナデは粗雑。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。 | |
| 第262図 | 10 | 礫石器 敲石 | 床直 | 長幅 | 19.9 6.5 | 厚重 | 6.0 955 変質安山岩 | 上端側小口部に敲打痕がある。 | |

り方の深さは5~51cmを測る。

出土遺物 P2周辺に土器片がやや多く出土し、東隅近くの床面に菰編石7点が出土する。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

98号住居(第261・262図、P.L.82・84・85・198、第87表)

位置 5S-19、5T-18・19グリッド。

重複 21・22号溝より前出か。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-77°-E

規模 面積は9.3㎡。長辺(北東~南西)3.55m、短辺(北西~南東)3.33m、残存壁高は20~23cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。カマド前面から床面中央やや南

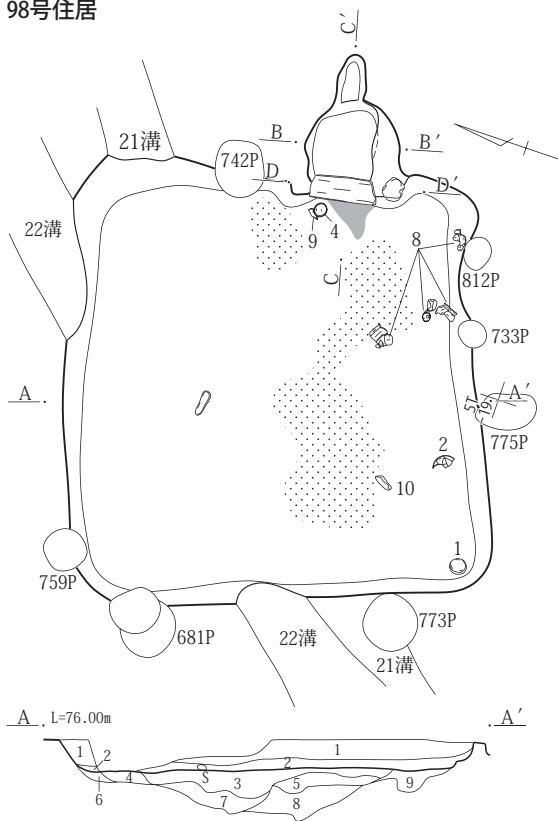
寄りに硬化面は認められる。

カマド 東壁の中央やや南寄りに構築されている。燃焼部の多くは壁を掘り込んで構築され、長さ122cm、焚き口部の幅42cm、袖を含めた幅は70cmを測る。1~9・11層はカマド埋没土、10・12層は掘り方充填土になる。9層は灰層、11層は焼土である。焚き口部には天井石が残り、土器が出土している。

貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴は確認できなかったが、掘り方調査時にカマド前面南東隅から浅い掘り込みが検出された。長径100cm・短径77cm・深さ2~8cmの不整形を呈する。貯蔵穴の可能性は否定できない。

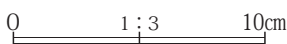
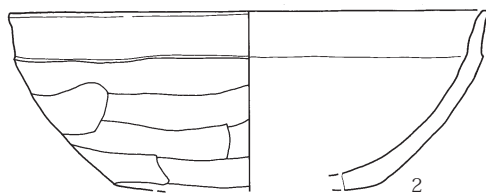
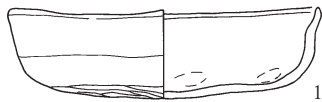
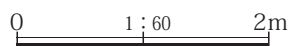
柱穴・周溝 確認できなかった。

98号住居

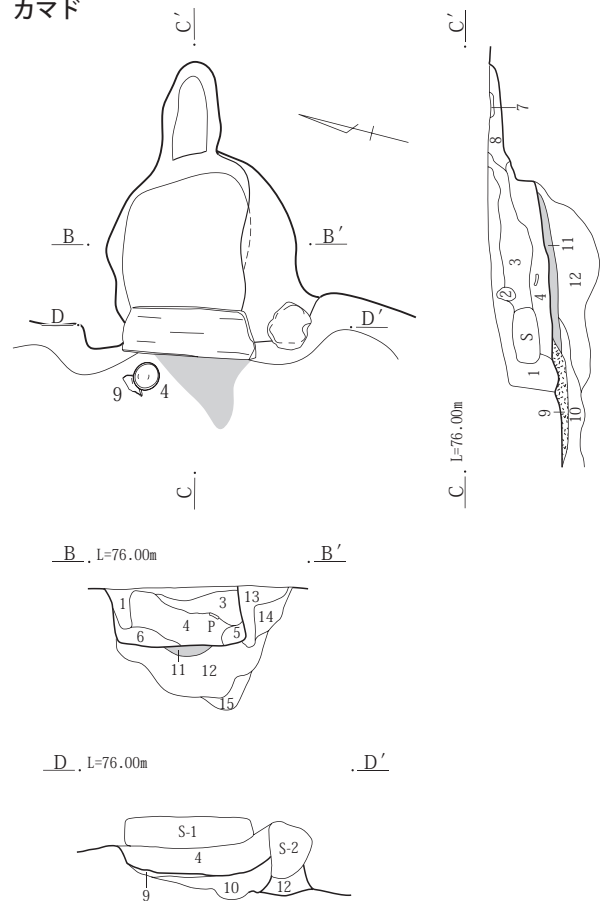


98号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。炭化物粒子を微量、ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 しまり強い。ローム層主体。暗褐色土を含む。
- 6 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を微量含む。
- 7 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 8 褐色土 ローム主体の層。
- 9 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを多く含む。

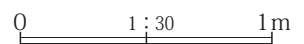


カマド



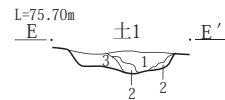
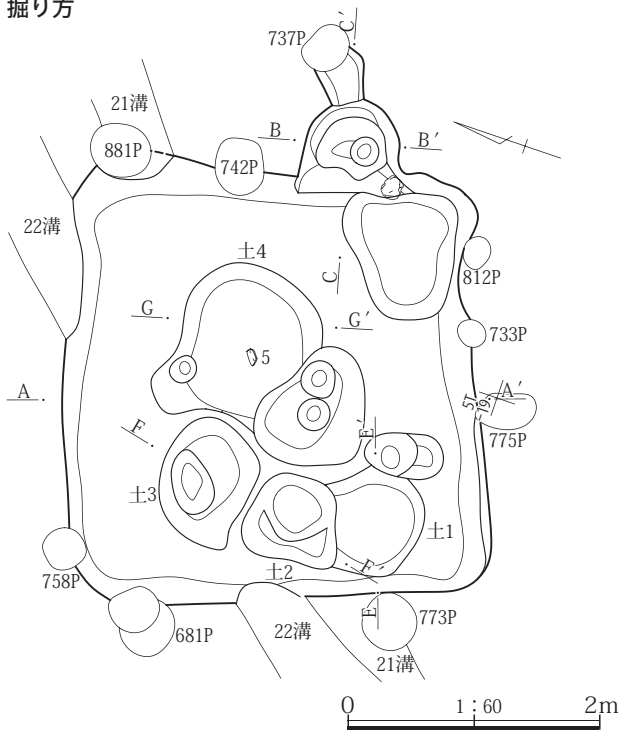
カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
- 2 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 5 黄白色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、暗褐色土を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物を含む。
- 7 赤褐色土 軟らかく粘性あり。焼土を主体に、ローム粒子、暗褐色土を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 9 灰
- 10 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 11 焼土 炭化物を含む。
- 12 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 13 黄白色粘質土 やや硬くしまり粘性あり。カマド構築材。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 15 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。



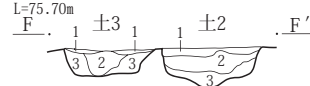
第261図 3区98号住居と出土遺物(1)

掘り方



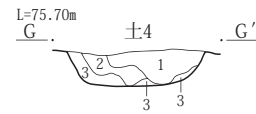
住居内土坑1

- 1 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を含む。焼土粒子を微量含む。



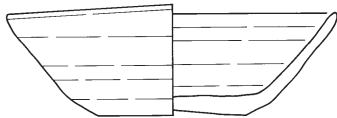
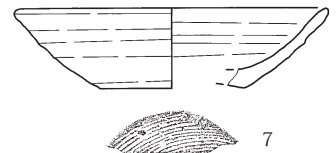
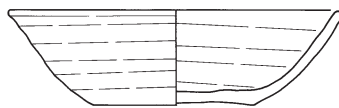
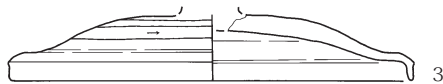
住居内土坑2・3

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子、軽石を多く含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。

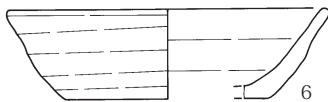


住居内土坑4

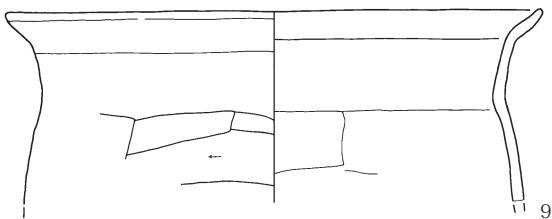
- 1 暗褐色土 しまり弱い。炭化物粒子、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 1層より色調が濃い。
- 3 黒褐色土 粘質土。ローム粒子、ロームブロックを含む。



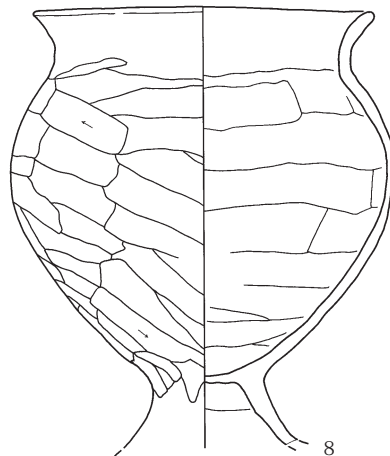
5



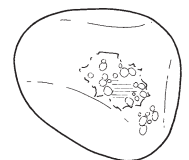
6



9



8



10

0 1:3 10cm

第262図 3区98号住居掘り方と出土遺物(2)

埋没土 自然埋没と思われる。1・2層は住居埋没土、3～9層は掘り方充填土になる。

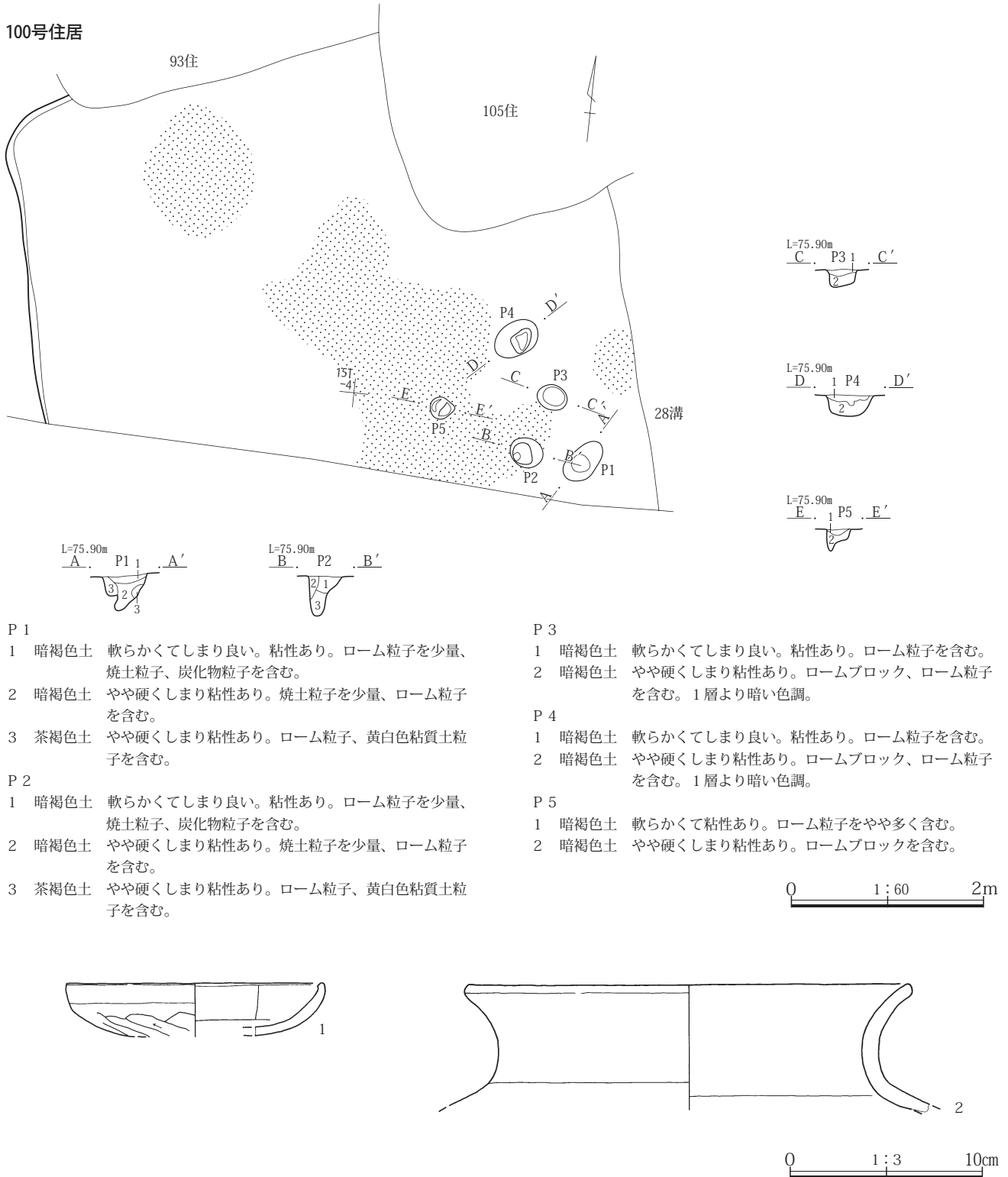
掘り方 住居中央部を中心に凹凸がある。土坑4基が検出された。土坑1は長径88cm・短径72cm・深さ18cm、土坑2は長径85cm・短径80cm・深さ29cm、土坑3は長径105.5cm・短径81cm・深さ31cm、土坑4は長径146cm・短

径106cm・深さ27.5cmを測る。掘り方の深さは8～42cmを測る。

出土遺物 カマドや南半部に集中して出土する。

時期 出土遺物から9世紀後半に比定される。

100号住居(第263・264図、P L .85、第88表)



第263図 3区100号住居と出土遺物

位置 15S・T-3・4グリッド。

重複 105号住居より前出で、93号住居、28号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 重複していることと排水溝設定のための掘削によって全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は21.78㎡。長辺(北東～南西)6.17m、短辺(北西～南東)3.49m、壁高は確認できなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面東側を中心に硬化面が認められる。

カマド・貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかったが、ピット5基が検出された。P1は長径50cm・短径29cm・深さ33.5cm、P2は長径35cm・短径31cm・深さ41cm、P3は長径32cm・短径26cm・深さ17.5cm、P4は長径49.5cm・短径35cm・深さ37cm、P5は長径22.5cm・短径21cm・深さ22.5cmを測る。

周溝 確認できなかった。

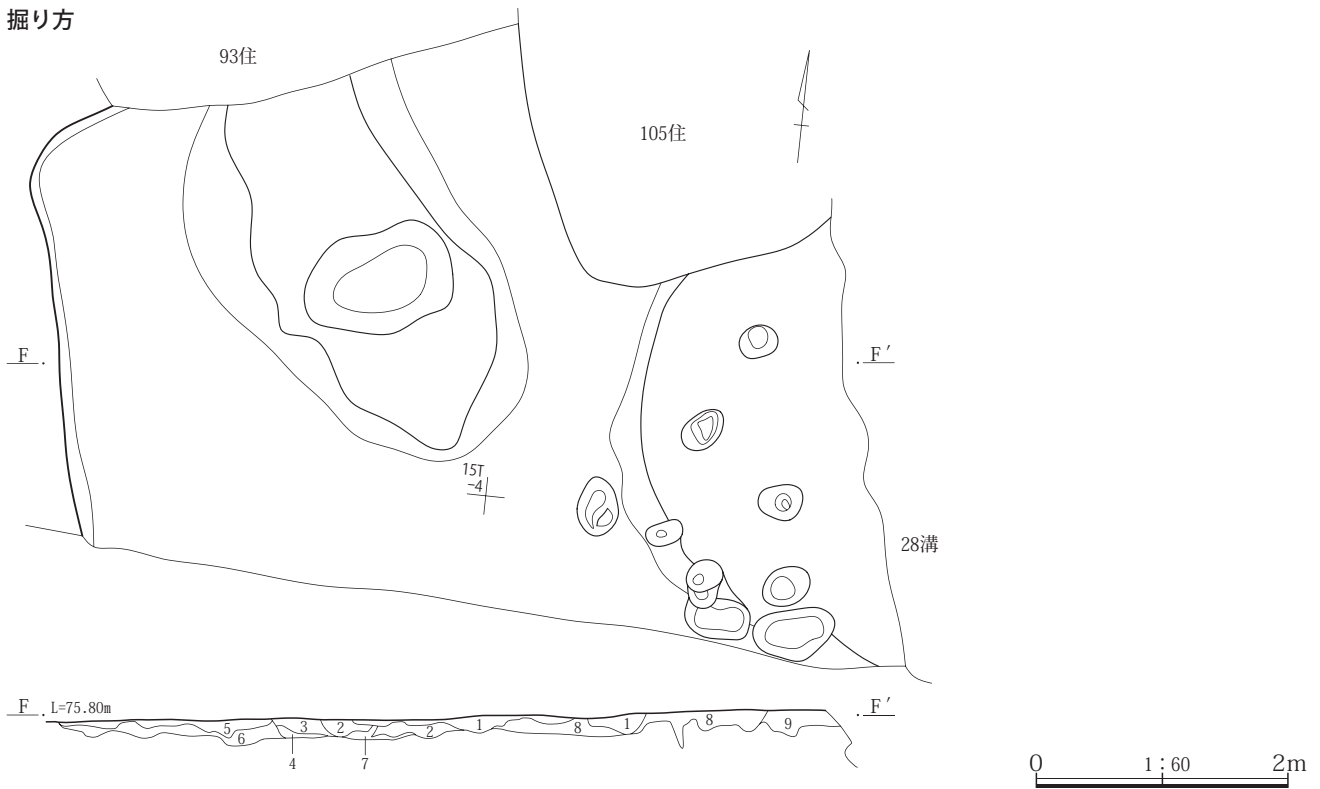
埋没土 床面での検出のために埋没土は確認できなかった。1～9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り込んでいる。掘り方の深さは10～16cmを測る。

出土遺物 床面全体から土器片が散漫に出土している。

時期 出土遺物から8世紀代に比定される。

掘り方



- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。 | 6 黄褐色土 やや硬く粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を少量含む。 |
| 2 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。 | 7 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。 |
| 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。 | 8 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームを含む。 |
| 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。 | 9 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームを多量に含む。 |
| 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。 | |

第264図 3区100号住居掘り方

第88表 3区100号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|---------------|--------|-----------------------|---|----------|
| 第263図 | 1 | 土師器 杯 | 1/6 | □ 13.0 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分を残す。内面口縁部はヘラナデ痕を残す。 | |
| 第263図 | 2 | 土師器 甕 | 口縁部～胴部上 位片 | □ 22.6 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |

101号住居(第265図、P L .86・87・198、第89表)

位置 15T-2・3、16A-2グリッド。
重複 29号溝より前出。
形状 方形を呈する。
主軸方位 N-70°-E
規模 現状での面積は12.18㎡。長辺(南北)3.68m、短辺(東西)3.61m、壁高は26cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。床面中央部から東側を中心に硬化面が認められる。
カマド・貯蔵穴・柱穴 確認できなかった。
周溝 部分的に検出できた。幅4.5～12.5cm、深さ2～6cmである。
埋没土 自然埋没と思われる。1～4層は住居埋没土、5・6層は掘り方充填土になる。
掘り方 住居中央部を掘り込んでいる。掘り方の深さは6～20cmを測る。

102号住居(第266～268図、P L .86・87・199、第90表)

位置 15T・16A-6・7グリッド。
重複 10号溝と重複するが新旧関係不明。
形状 方形を呈する。

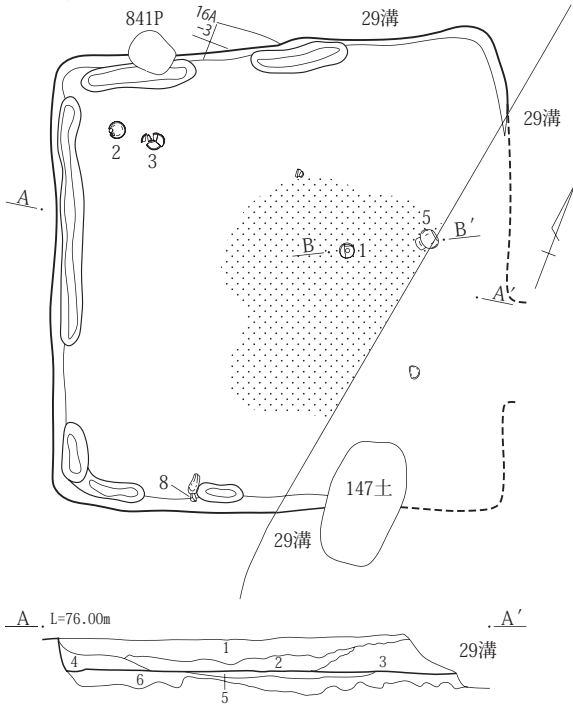
主軸方位 N-52°-E

規模 面積は22.4㎡、長辺(南北)5.07m、短辺(東西)4.69m、壁高は8～15cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。貼床である。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。
カマド 東壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ70cm、幅30cmを測る。袖は明瞭ではない。
貯蔵穴 P 9が貯蔵穴になる。長径48cm・短径39cm・深さ24cmの楕円形を呈する。埋没土は2層に分かれた。
柱穴 主柱穴4基が検出された。P 1は長径38cm・短径33.5cm・深さ26cm、P 2は長径54.5cm・短径41cm・深さ39cm、P 3は長径51.5cm・短径46cm・深さ25cm、P 4は長径41cm・短径35cm・深さ38cmを測る。P 1-P 2間、P 2-P 3間、P 3-P 4間、P 4-P 5間の距離はいずれも2.5mである。P 5は長径28.5cm・短径24cm・深さ18.5cm、P 6は長径24cm・短径22.5cm・深さ21cm、P 7は長径39.5cm・短径31cm・深さ15cm、P 8は長径51.5cm・短径46cm・深さ35cm、P 10は長径47.5cm・短径38cm・深さ22cmを測る。
周溝 途切れている箇所もあるが、全周していたものと思われる。幅15～23cmを測る。
埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3層は貼床になる。4～7層は掘り方充填土になる。8層

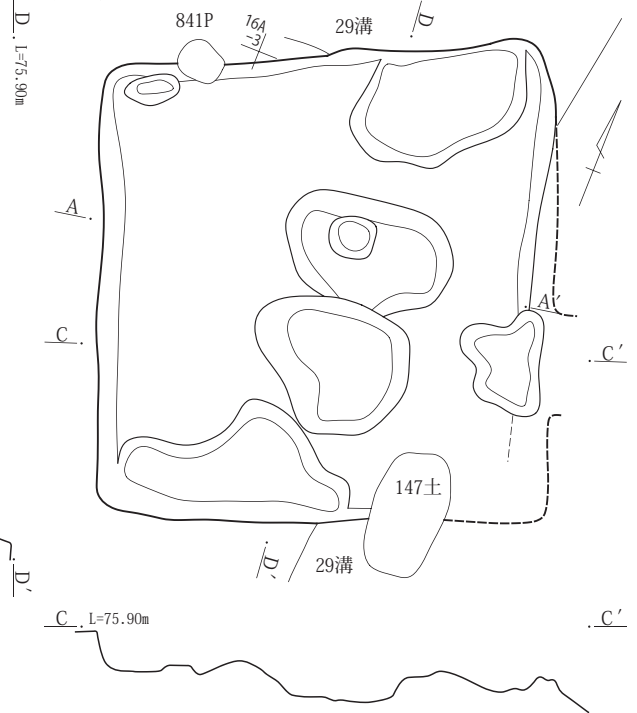
第89表 3区101号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | | |
|--------------|-----|-----------|-------------|-----|--------------|--------------------|--------------|--------------------|--|----------------------------|
| 第265図 | 1 | 土師器 杯 | 床直完形 | 口 | 11.6 | 高 | 4.8 | 精選・赤色粘土粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は中位に弱い稜を有する横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面ナデと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第265図 | 2 | 土師器 杯 | +3 ほぼ完形 | 口 | 12.0 | 高 | 4.1 | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第265図 | 3 | 土師器 杯 | 床直完形 | 口 | 11.7 | 高 | 4.3 | 粗砂粒/良好/褐 | 口唇部先端は内側にそげた平坦面をなす。口縁部は横ナデ。底部はヘラ削り。内面はナデ。 | 外面口縁部と内面は漆塗るか。外面底部は炭素吸着。 |
| 第265図 | 4 | 土師器 杯 | 1/6 | 口 | 12.8 | | | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は中位に稜を有する。底部への移行部分にも小さな稜が重なる横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着・黒色処理か。 |
| 第265図 | 5 | 土師器 埴 | 床直完形 | 口底 | 9.0 8.5 | 高 | 14.0 | 粗砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位に2回に分けてヘラ削り。底部もヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅 |
| 第265図 | 6 | 土師器 鉢? | 底部片 | 底 | 3.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 外面はナデ。内面はヘラナデ。 | 内面に炭素吸着。小型のミニチュア土器の可能性あるか。 |
| 第265図 | 7 | 須恵器 壺 | 肩部片 | | | | | 白色鈹物料/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回りか。肩部の沈線区画内に櫛状工具による刺突文を連続する。 | |
| 第265図 | 8 | 石製品 砥石 | +4 | 長幅 | (9.6) 4.1 | 厚重 | 3.6 127.6 | 流紋岩 | 四面使用。表裏面とも激しく研ぎ減る。上端側破損は使用時に溯り、下端側破損と時間差がある。 | 切り砥石 |

101号住居



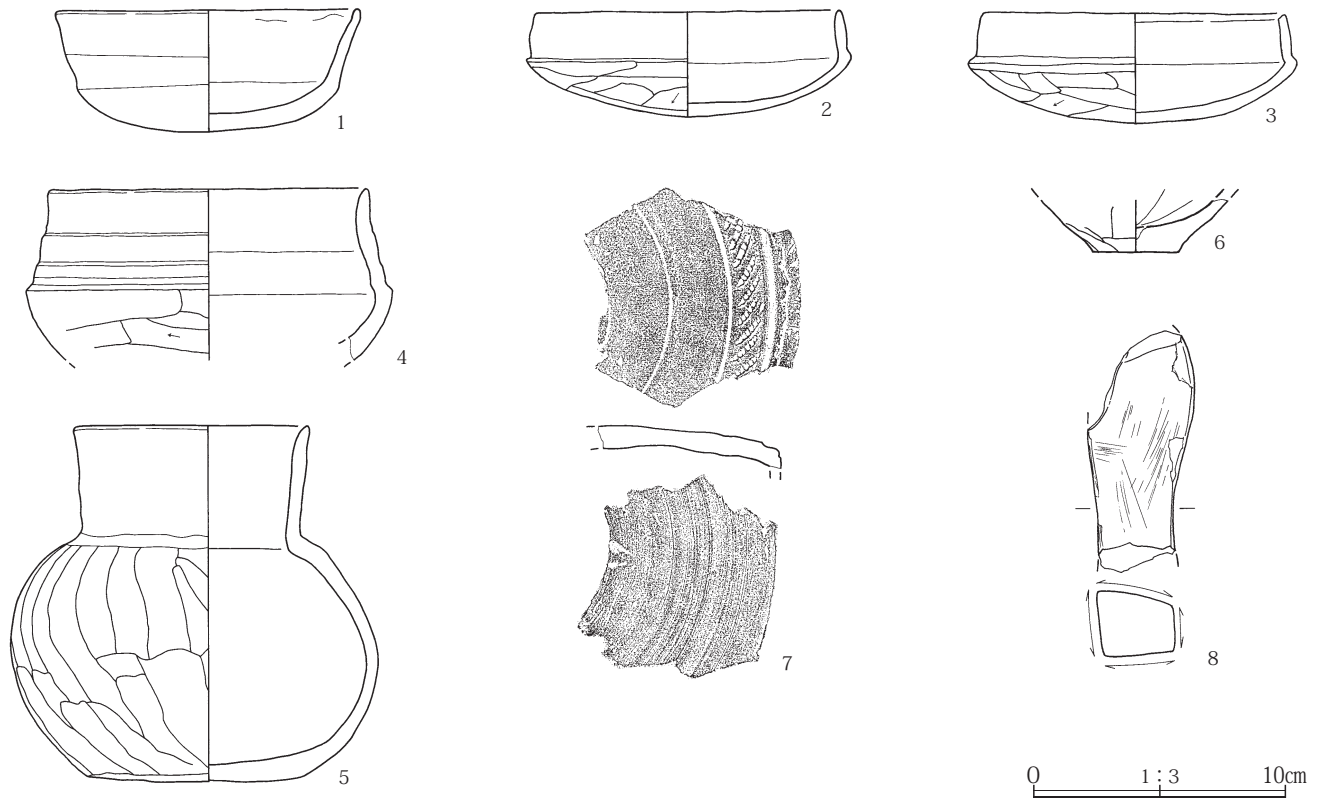
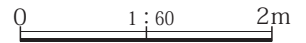
掘り方



101号住居

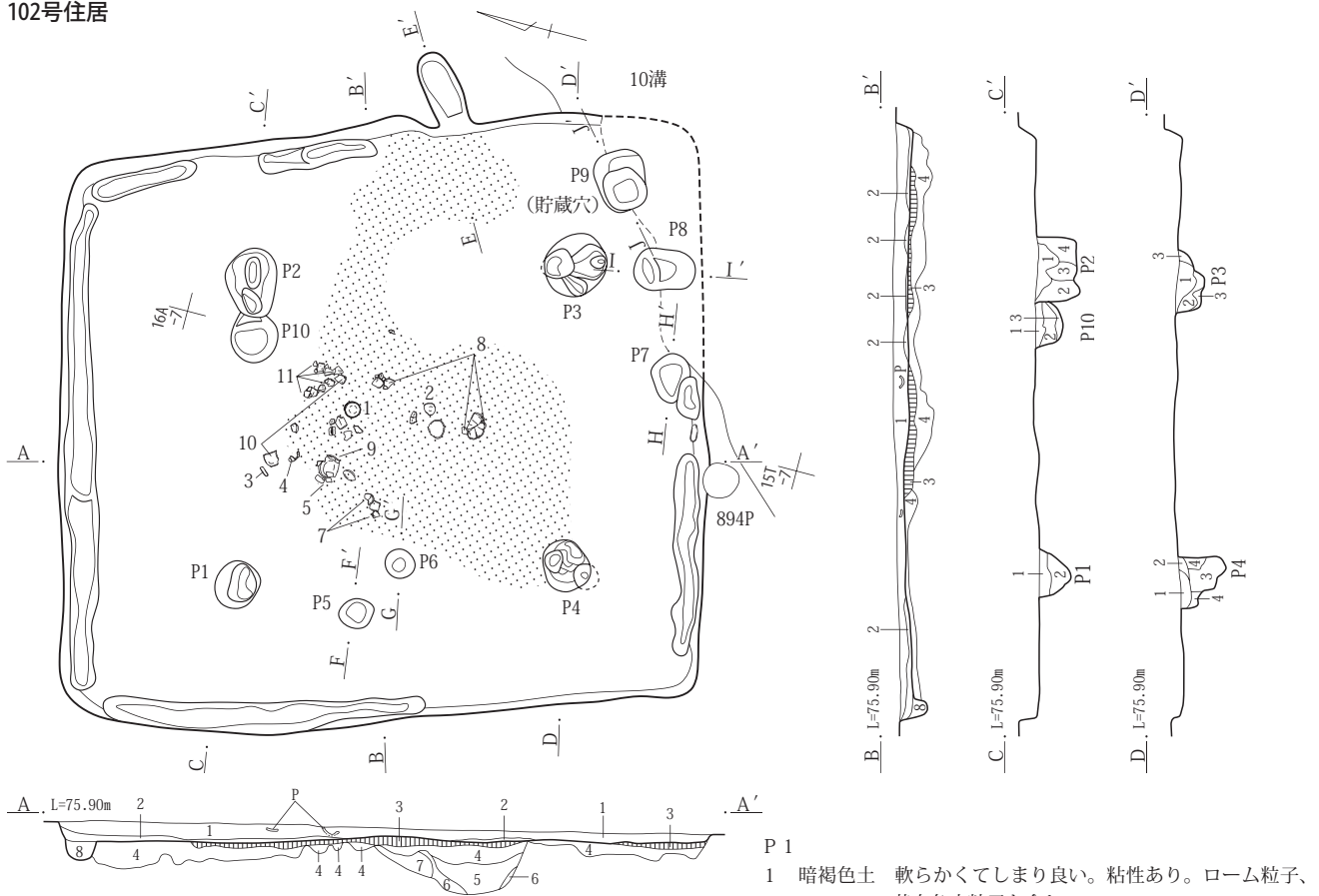
- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量、軽石を微量含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量、軽石を微量含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、炭化物粒子を少量、白色粘土、白色粘土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 硬くしまる。暗褐色土とロームとの混土。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

B, L=75.90m B'



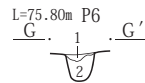
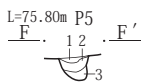
第265図 3区101号住居と出土遺物

102号住居



102号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。暗褐色土、ロームブロック、黄白色粘質土の混土。貼床。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 6 灰褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 7 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。



P 5

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。1層よりも暗い色調。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

P 6

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。1層よりも暗い色調。

P 1

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、黄白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色土ブロックを含む。

P 2

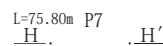
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色土ブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色土ブロックを含む。

P 3

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。1層より暗い色調。
- 3 茶褐色土 軟らかく粘性あり。ローム主体の層。

P 4

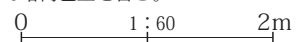
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 2 黄白色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。暗褐色土を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 4 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。



P 7

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 黄褐色土 軟らかい。ローム主体で暗褐色土を含む。

第266図 3区102号住居



カマド



P 8

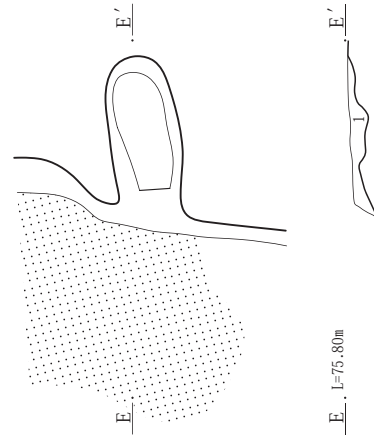
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

P 9(貯蔵穴)

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

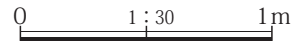
P 10

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。1層より暗い色調。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

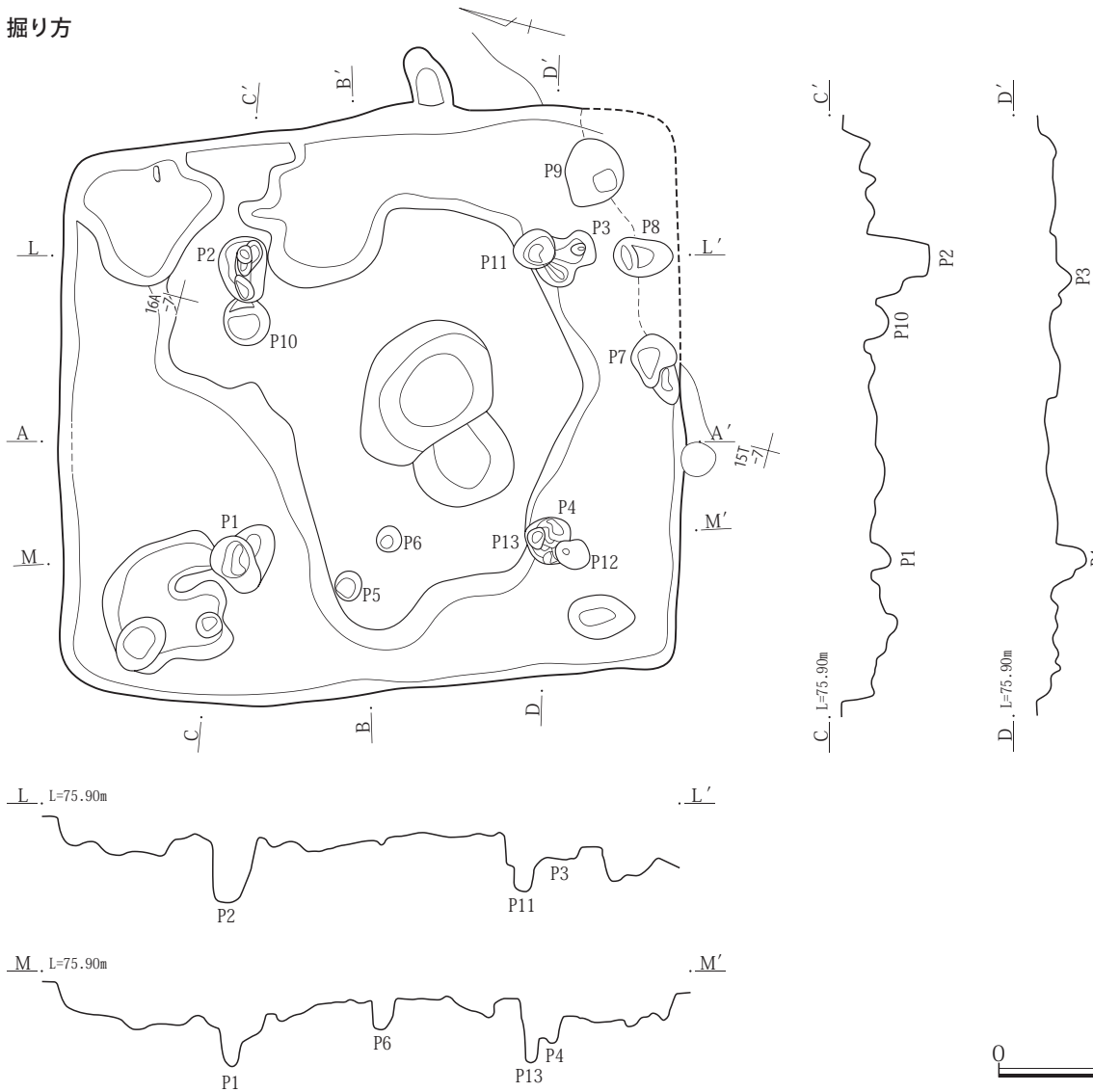


カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

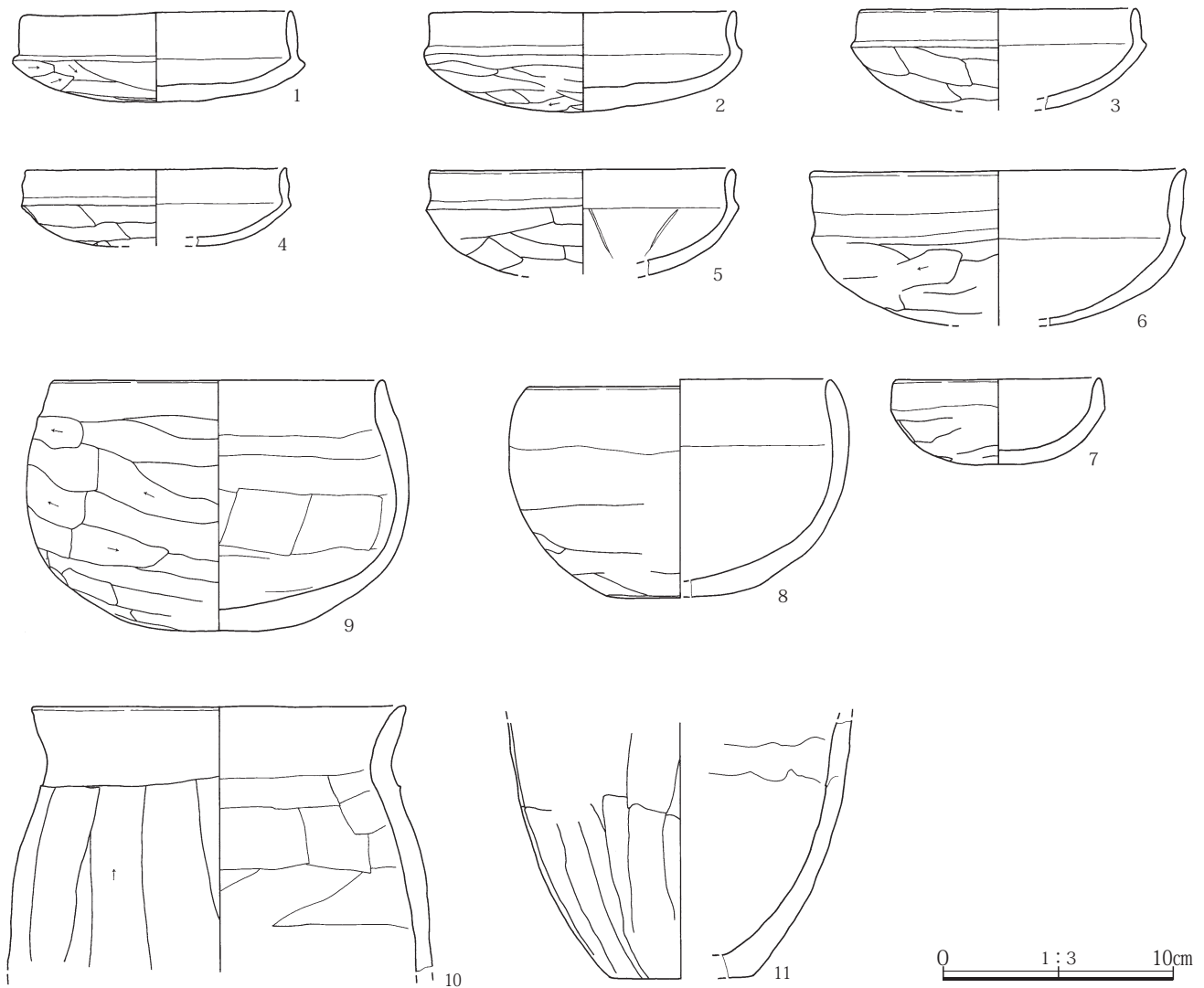


掘り方



第267図 3区102号住居カマドと掘り方

第3章 発掘調査の記録



第268図 3区102号住居出土遺物

第90表 3区102号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|--------------------|--------|-------------|---|--------------------|---------------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 第268図 PL.199 | 1 | 土師器 杯 | +5 口縁一部欠 | 口 | 11.5 | 高 | 3.8 | 粗砂粒・雲母/良好/ にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部はヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第268図 PL.199 | 2 | 土師器 杯 | +2 2/3 | 口 | 13.0 | 高 | 4.3 | 粗砂粒少/良好/ にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内面底部に布目痕。 | 外面口縁部と内面に漆塗り。 |
| 第268図 | 3 | 土師器 杯 | +6 1/4 | 口 | 11.7 | | | 粗砂粒少/良好/灰 黄褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも黒色、漆塗りか。 |
| 第268図 | 4 | 土師器 杯 | +13 1/5 | 口 | 11.0 | | | 粗砂粒少/良好/明 赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面炭素吸着。 |
| 第268図 | 5 | 土師器 杯 | +7 1/3 | 口 | 13.0 | | | 細砂粒/良好/ にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。工具痕明瞭。 | 内面炭素吸着。煤か。 |
| 第268図 | 6 | 土師器 杯 | 1/2 | 口 | 16.0 | | | 細砂粒/良好/ にぶい黄褐 | 口縁部は横ナデ。中位に弱い稜。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着・変色。 |
| 第268図 | 7 | 土師器 杯 | 床直 1/2 | 口 | 8.8 | 高 | 3.6 | 細砂粒/良好/ にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着・変色。 |
| 第268図 PL.199 | 8 | 土師器 鉢 | +2 3/4 | 口 底 | 13.0 7.0 | 高 | 9.3 | 粗砂粒/良好/ にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。体部は横位にヘラ削り。下位は斜横位、内面横位にヘラナデ。 | 内外面とも炭素吸着・磨滅。 |
| 第268図 PL.199 | 9 | 土師器 鉢 | +5 1/3 | 口 | 14.0 | 高 | 10.7 | 粗砂粒/良好/灰 黄褐 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は横位にヘラ削り。内面体部は横位にヘラナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第268図 | 10 | 土師器 甕 | +6 口縁~胴部上位 片 | 口 | 16.0 | | | 粗砂粒・白色軽石/ 良好/ にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 被熱のため変質・変色。一部に炭素吸着・黒斑状。 |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|--------------------|-----|-----|--|-----------------------|--|--------------------------------------|
| 第268図 | 11 | 土師器 甕 | +7 底部~胴部下位 片 | 底 | 6.2 | | 粗砂粒・白色軽石/ 良好/にぶい黄橙 | 胴部は縦のヘラ削り、一部ナデ状。底部に木葉痕か。内面 胴部はヘラナデと考えられる。 | 被熱・外面に 煤付着。第268 図10と同一個 体か。 |

は周溝の埋没土である。

掘り方 全体的に掘り下げているが、住居中央部をやや掘り残している。深さは3～40cmを測る。

出土遺物 中央部でまとまって土器片が出土している。床面からやや高いものが多く、埋没過程で廃棄された可能性もある。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

103号住居(第269図、P L .87)

位置 16A-5・6グリッド。

重複 31号溝より前出。

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は6.9㎡、長辺(北東~南西)2.89m、短辺(北西~南東)2.24m、壁高は10～14cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。床面西部を中心に硬化面が認められる。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～4層は住居埋没土、5層は貼床になる。6～9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さは3～26cmを測る。

出土遺物 埋没土中から土器片が少量出土している。

時期 非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

105号住居(第270図、P L .88・199、第91表)

位置 15T-3・4、16A-3グリッド。

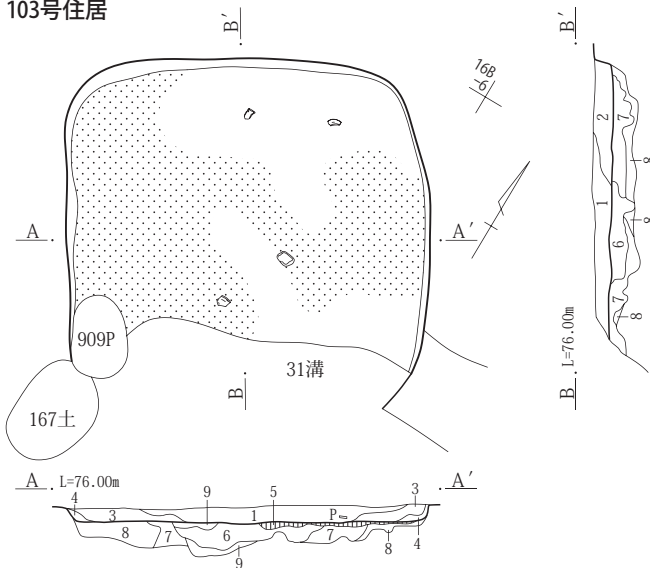
重複 93・100号住居より後出で、28号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 隅丸方形を呈する。

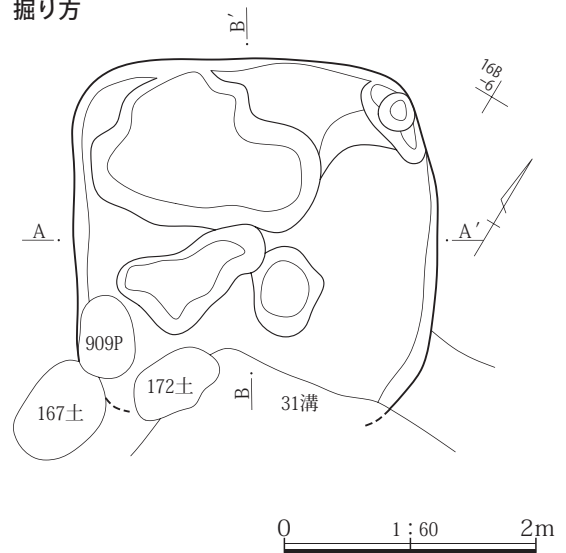
主軸方位 N-76°-E

規模 面積は6.6㎡。長辺(南北)3.36m、短辺(東西)2.33m、壁高は30cmを測る。

103号住居



掘り方



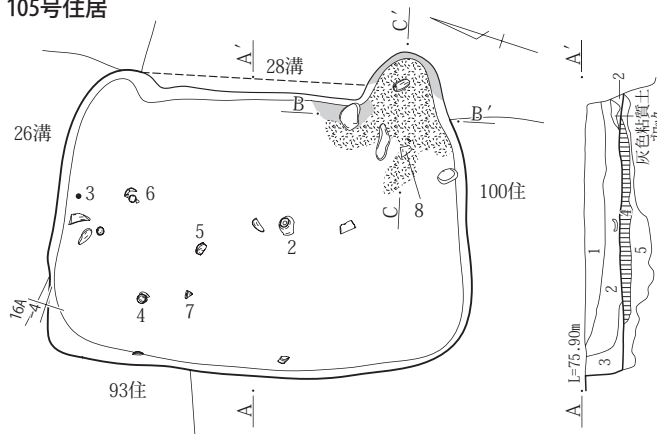
103号住居

- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を多く、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を多く、白色軽石を含む。炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多く含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。貼床。

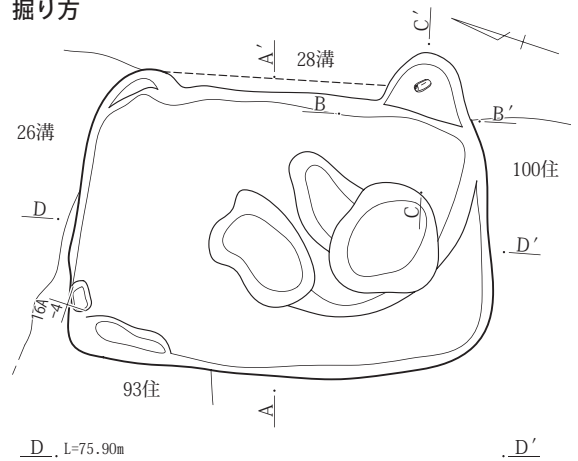
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 8 黄白色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を少量含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を少量含む。

第269図 3区103号住居

105号住居



掘り方



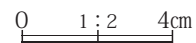
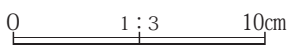
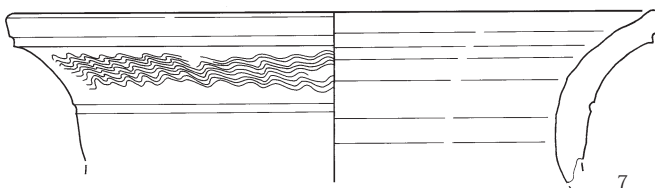
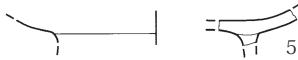
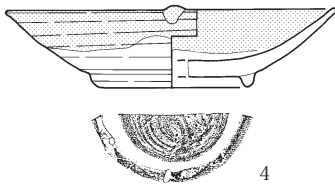
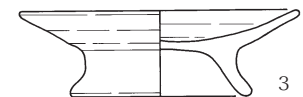
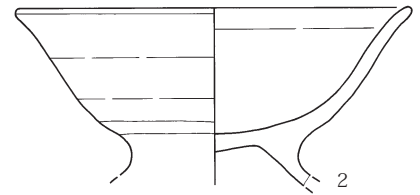
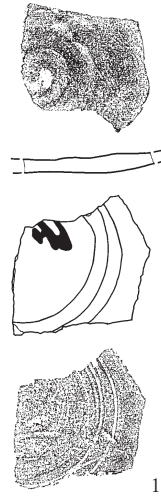
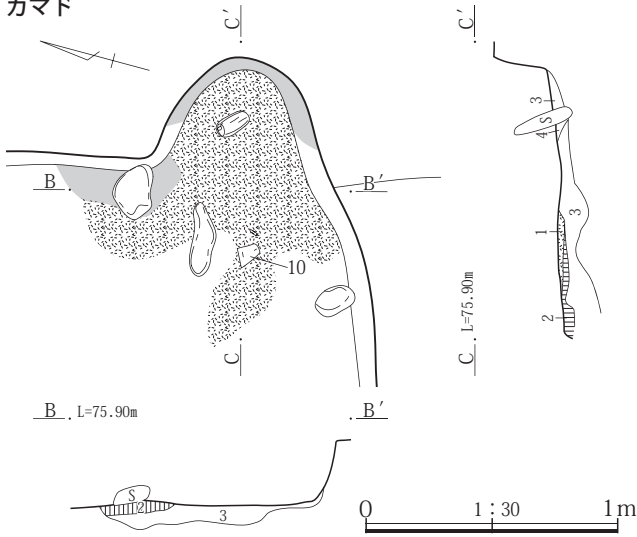
105号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。貼床。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

カマド

- 1 灰 軟らかくて粘性あり。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。貼床。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロック、炭化物を含む。

カマド



第270図 3区105号住居と出土遺物

第91表 3区 105号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-------------|--------------|--------|-------------|--------|-----------------------------|---|--------------|
| | | | | | | | | | |
| 第270図 PL.199 | 1 | 須恵器 杯 | 底部片 | | | | 白色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転は左回り。底部は回転ヘラ削り調整。 | 外面中央に墨書「口」。 |
| 第270図 | 2 | 須恵器 椀 | +13 3/4 | 口 | 15.4 | | 粗砂粒/還元焰・や や軟質/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部切り離し後の付け高台。 | 内面やや炭素吸着。 |
| 第270図 PL.199 | 3 | 須恵器 皿 | 床直 3/4 | 口 底 | 10.8 6.8 | 高 | 3.35 黒色鈹物粒/還元 焰/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部切り離し後の付け高台。 | 皿部内面に黒色の付着物。 |
| 第270図 PL.199 | 4 | 灰釉陶器 輪花皿 | 床直 1/2 | 口 底 | 12.8 5.8 | 高 | 3.2 精選・夾雑物少/還 元焰/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。口唇部の輪花数は4輪花である。高台部は低く、底部回転糸切り後の付け高台。釉は口唇部に漬け掛け。 | 大原2号窯式 |
| 第270図 | 5 | 緑釉陶器 皿 | 床直 底部-体部片 | 底 | 8.0 | | 精選/還元焰・軟質 /オリーブ灰 | ロクロ整形、回転方向不明。高台部を伴う。底部外面を含む内外面に緑釉を施釉。 | |
| 第270図 PL.199 | 6 | 緑釉陶器 皿 | 床直 3/5 | 口 底 | 11.6 6.3 | 高 | 1.95 細砂粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部切り離し後の付け高台。内面皿部に条線を残す。釉は高台内部を含め全面施釉。 | |
| 第270図 | 7 | 須恵器 甕 | +6 口縁部片 | 口 | 25.2 | | 白色鈹物粒/還元焰・や や軟質/にぶい橙 | 紐作り後、ロクロ整形。中位に沈線がめぐり、その上位に波高の低い8条1単位の波状文を1段配す。 | |
| 第270図 PL.199 | 8 | 土製品 土鍾 | 床直 ほぼ完形 | 長 巾 | 3.3 0.95 | 孔 重 | 0.3 2.72g 粗砂粒/良好/灰 | 小型。平面は長紡錘形。小口に面を有さない。 | 炭素吸着。 |

床面 ほぼ平坦である。貼床としている。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁の南隅に設置されている。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ60cm、幅60cmを測る。支脚の礫と袖の礫が残されている。1層は灰層、2層は住居の貼床、3層は掘り方充填土である。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～3層は住居埋没土、4層は貼床、5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが、住居南壁寄りがやや深い。深さは7～16cmを測る。

出土遺物 床面中央部及び北半部に点在して土器片が出土している。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

106号住居(第271図、P L.88)

位置 6B-19・20グリッド。

重複 27・52号溝より前出。

形状 調査区外に延びているために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積5.7㎡。長辺(北東～南西)2.6m、短辺(北西～南東)2.05m、壁高は35cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面が認められた。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 住居の東端から検出された。現状での長径50cm、短径35cm、深さ10cmを測る。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～4層は52号溝の埋没土になる。5～9層は住居埋没土、10層は貯蔵穴の埋没土である。11層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げは浅い。深さは3～10cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 不明。

108号住居(第272・273図、P L.89・199、第92表)

位置 16A・B-5グリッド。

重複 29・31号溝より前出で、109号住居、10号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

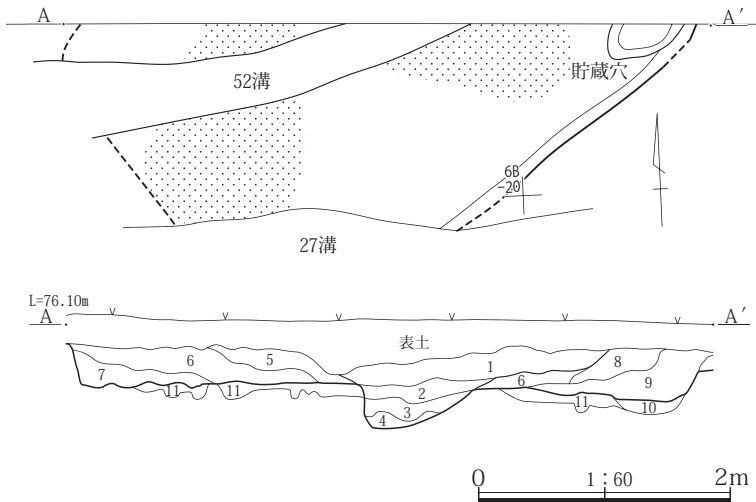
主軸方位 不明。

規模 現状での面積8.6㎡。長辺(北東～南西)3.43m、現状の短辺(北西～南東)3.13m、壁高は32cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。床面中央部から北壁寄りにかけて硬化面が認められた。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

106号住居



52号溝

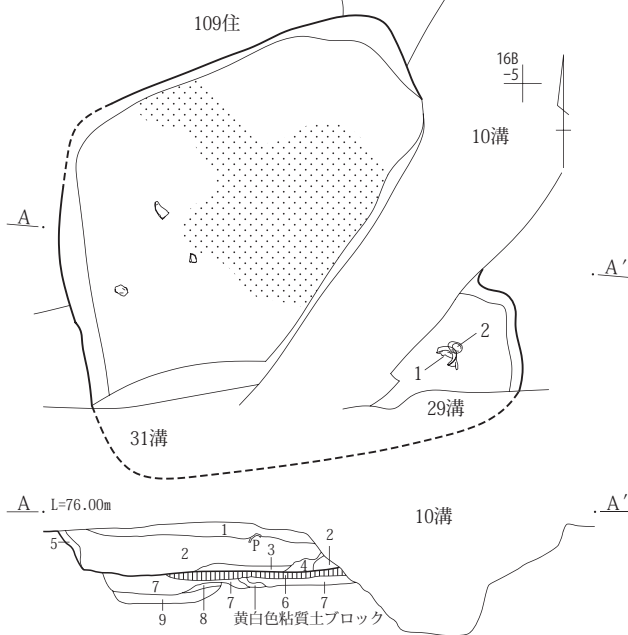
- 1 暗褐色土 しまりやや強い。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや強い。ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや強い。軽石、ロームブロックを含む。
- 4 灰褐色土 しまりやや強い。焼土ブロックを多く含む。

106号住居

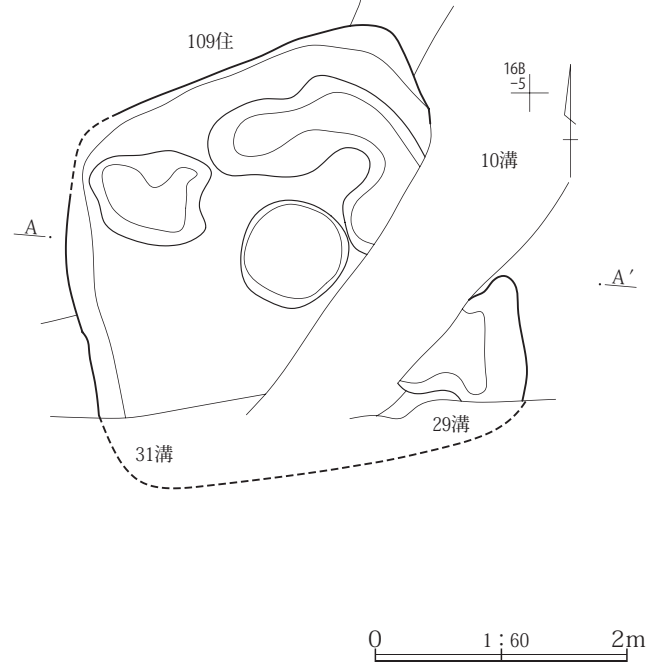
- 5 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を微量、ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 7 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を多く、白色軽石を少量含む。
- 9 暗褐色土 8層より、ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 10 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。貯蔵穴フク土。
- 11 褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。

第271図 3区106号住居

108号住居



掘り方



108号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。2層よりも暗い色調。
- 4 灰褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を少量含む。

- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。貼床。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。

第272図 3区108号住居

埋没土 自然埋没土である。1～5層は住居埋没土、6層は貼床、7～9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げは浅い。深さは3～22cmを測る。

出土遺物 南東隅の埋没土中から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀代かと思われる。

109号住居(第274図、P L.88、第93表)

位置 16A・B-5グリッド。

重複 108号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-87°-E

規模 現状での面積5.2㎡、長辺(東西)2.66m、現状の短辺(南北)2.28m、壁高は14cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁に設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ70cm、幅30cmを測る。残存状況は悪い。1～4層はカマド埋没土、5・6層は掘り方充填土である。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。4層は住居埋没土、5・6

層は土坑埋没土、7層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さは10～18cmを測る。

出土遺物 埋没土から少量の土器が出土する。

時期 出土遺物から古墳時代に比定される。

110号住居(第275・276図、P L.88・199、第94表)

位置 6B-20、16A・B-1グリッド。

重複 27・52・53号溝より前出。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は8.2㎡、長辺(南北)3.55m、短辺(東西)3.5m、壁高は25～35cmを測る。

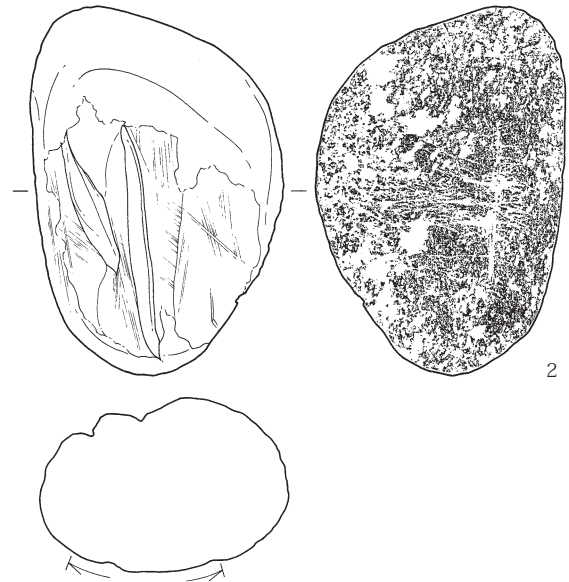
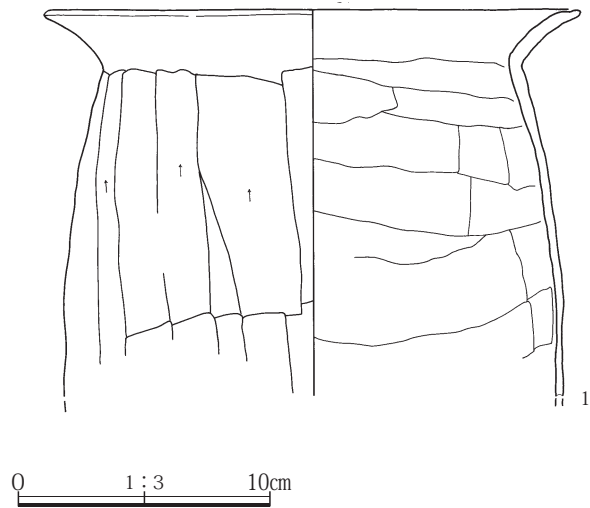
床面 やや凹凸がある。床面中央部にかけて硬化面が認められる。南壁下から土坑が検出された。土坑1は長径61.5cm・短径40cm・深さ18cmを測る。

カマド・貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 明瞭な主柱穴を検出することはできなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3～10層は掘り方充填土になる。11～15層は52号溝の埋



第273図 3区108号住居出土遺物

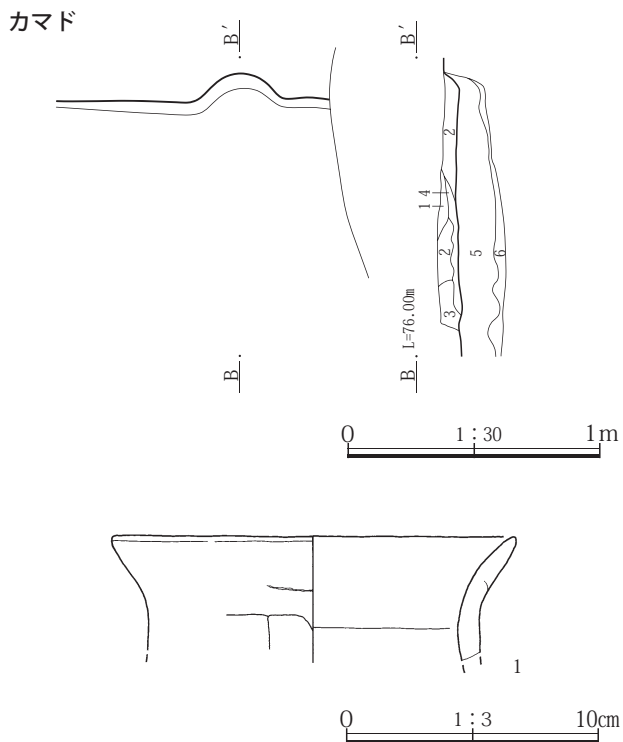
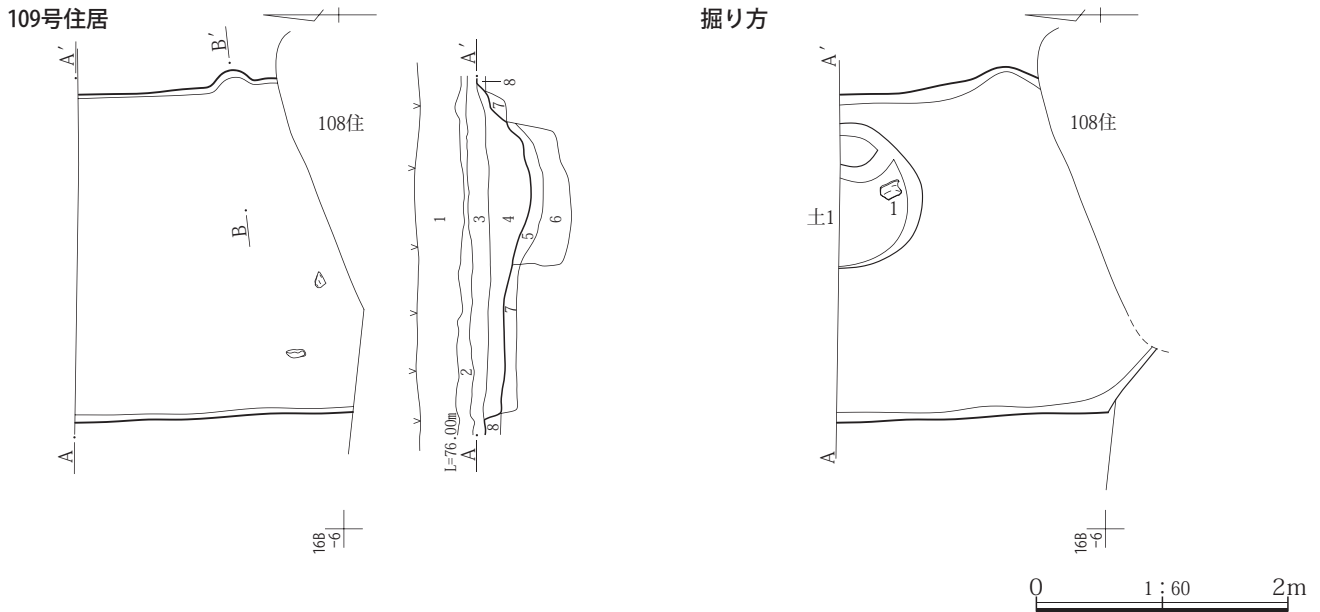
第92表 3区108号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|--------------------|--------|-------------|--------|--------------------|--|---------------------------------------|-----|
| 第273図 | 1 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～ 胴部中位1/2 | 口 | 20.8 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位に2回に分けてヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱・炭素吸着。 | |
| 第273図 PL.199 | 2 | 石製品 砥石 | 床直 | 長 幅 | 14.5 9.9 | 厚 重 | 7.2 591.4 | ニツ岳軽石 | 背面側に断面V字状を呈する溝状の研磨痕があるほか、裏面に横位線条痕がある。 | 礫砥石 |

没土、16層は53号溝の埋没土である。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さは13～30cmを測る。ピット2基と土坑2基が検出された。P1は長径35cm・短径31cm・深さ27cm、P2は長径58cm・短径

41.5cm・深さ11.5cmを測る。土坑2は長径74cm・短径57cm・深さ27cm、土坑3は長径120cm・短径72cm・深さ27cmを測る



109号住居

- 1 耕作土
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロック、白色軽石をやや多く含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 7 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。暗褐色土を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。

カマド

- 1 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土を主体に炭化物粒子、暗褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土をやや多く含む。

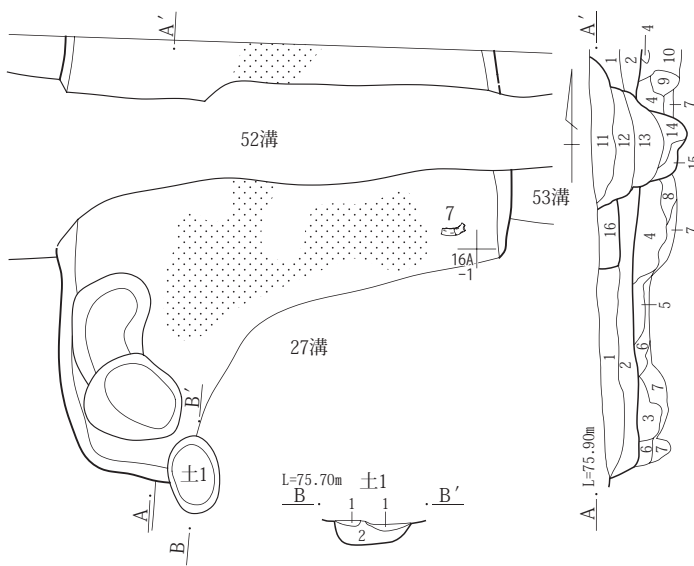
第274図 3区109号住居と出土遺物

第93表 3区109号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|---------------|--------|--------------------|----------------------------------|-----|
| 第274図 | 1 | 土師器 甕 | 内土坑1 口縁～胴部 | 口 15.5 | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |

出土遺物 内土坑やピットから土器が出土している。

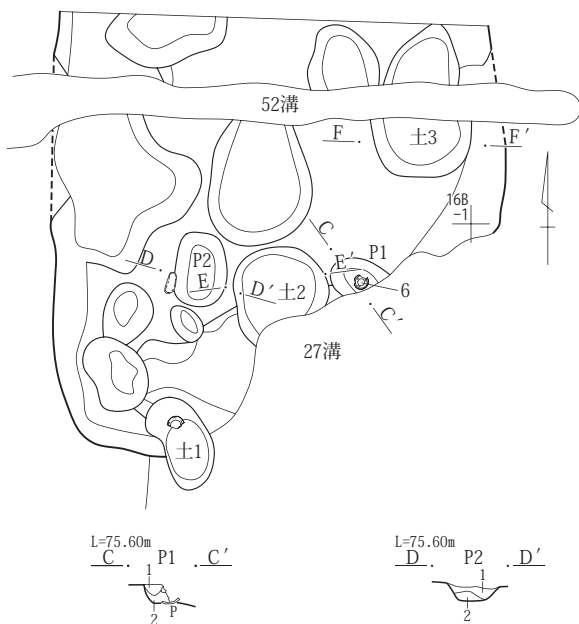
時期 出土遺物から9世紀前半に比定される。



住居内土坑1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物を含む。
- 2 茶褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。焼土ブロック、炭化物、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。

掘り方



P 1

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性あり。焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性あり。焼土粒子を多量に、黄白色粘質土ブロックを含む。

P 2

- 1 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。炭化物、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

110号住居

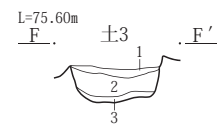
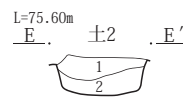
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を含む。全体的に灰色の色調。
- 3 灰褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 軟らかく粘性あり。炭化物粒子、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 7 灰褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土を主体に暗褐色土を含む。
- 8 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。

52号溝

- 11 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、砂利を含む。
- 12 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 14 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロックを含む。
- 15 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。を含む。

53号溝

- 16 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。白色粒子を少量含む。

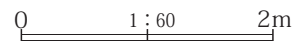


住居内土坑2

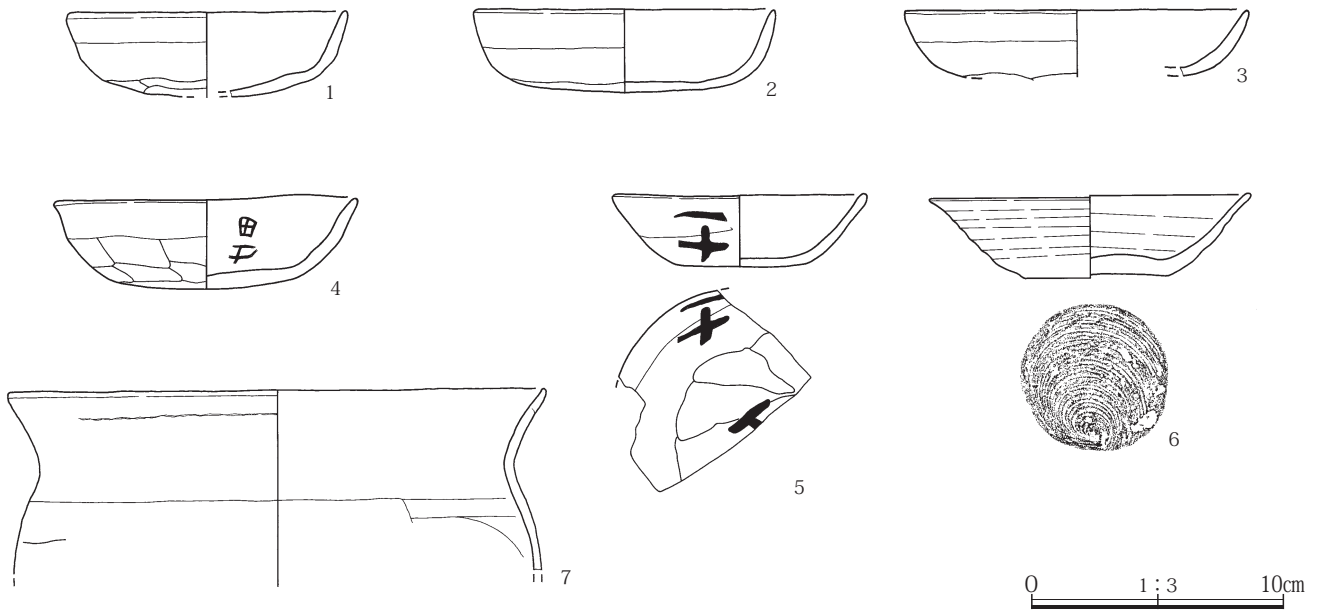
- 1 暗褐色土 軟らかく粘性非常にあり。焼土粒子、炭化物、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 2 黒褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

住居内土坑3

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 3 黄白色土 軟らかくて粘性非常にあり。暗褐色土を含む。



第275図 3区110号住居



第276図 3区110号住居出土遺物

第94表 3区110号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|---------------|-----------------|-------|--|---------------------|---|----------|
| | | | | 口 | 高 | | | | |
| 第276図 | 1 | 土師器 杯 | 1/3 | 口 10.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。型肌の状況を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第276図 | 2 | 土師器 杯 | 1/5 | 口 11.6 | 高 3.3 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第276図 | 3 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 13.3 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第276図 PL.199 | 4 | 土師器 杯 | 1/2 | 口 11.8 | 高 3.5 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内面口縁部に墨書「□□」。 | |
| 第276図 PL.199 | 5 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 9.7 底 5.0 | 高 2.8 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。墨書、外面口縁部「干」か。底部「口」 | |
| 第276図 PL.199 | 6 | 須恵器 杯 | 1 P内 口縁一部欠 | 口 12.4 底 5.6 | 高 3.2 | | 白色・黒色鉱物粒/ 還元焰/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。体部は回転糸切り後、無調整。 | |
| 第276図 | 7 | 土師器 甕 | 床直 口縁~胴部 | 口 20.8 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ、輪積痕を残す。胴部は横位にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | |

111号住居(第277図、P L.88～90・199、第95表)

位置 16B-8グリッド。

重複 183号土坑より前出。

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-57°-E

規模 現状での面積は3.8㎡。長辺(北東～南西)2.6m、短辺(北西～南東)2.45m、壁高は23～56cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。

カマド 東壁のほぼ中央に設置されているものと思われる。燃烧部は壁を掘り込んで構築されており、長さ60cm、現状の幅30cm、袖を含めた幅は50cmを測る。

貯蔵穴 183号土坑に壊されているため、現状では長径45cm・短径40cm・深さ26cmを測る。埋没土は2層に分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

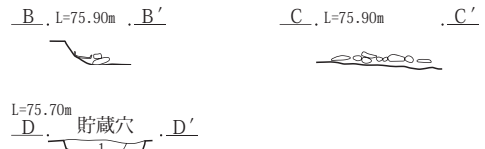
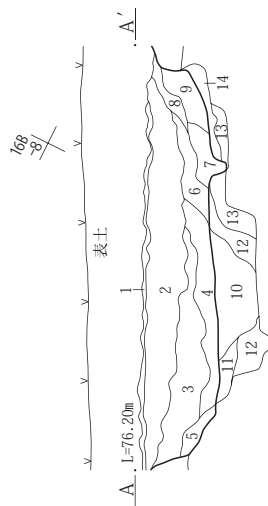
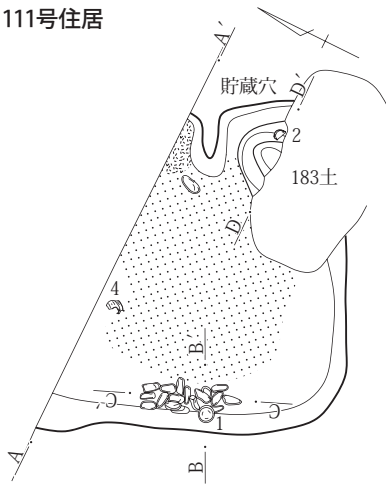
埋没土 自然埋没土である。2～9層は住居埋没土、10～14層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが、住居中央部で深い。深さは14～43cmを測る。ピット1基が検出された。長径41cm・短径31cm・深さ18cmを測る。

出土遺物 西壁下から土師器杯(第277図1)と菰編石が17点出土している。全体として遺物の出土は少ない。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

111号住居



貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

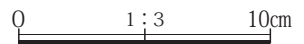
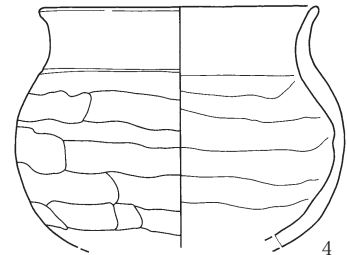
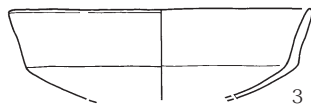
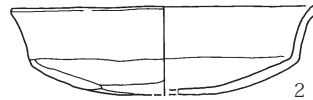
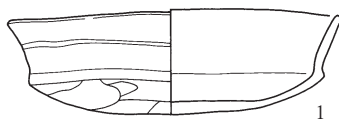
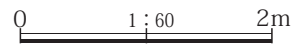
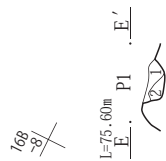
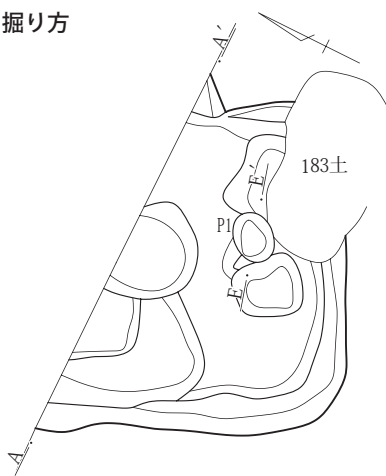
111号住居

- 1 純層に近い浅間A軽石層。
- 2 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、白色軽石を少量、ローム粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子を微量、ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 3層に近いが炭化物を含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロック、焼土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロックを多量に、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 8 暗褐色土 しまり強い。白色粘土粒子を多く、焼土粒子を含む。
- 9 暗褐色土 しまり強い。白色粘土ブロックを多く含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量、ロームブロックを含む。
- 12 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
- 13 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く含む。
- 14 黒褐色土 しまり弱い。粘土粒子を含む。

P1

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を含む。

掘り方

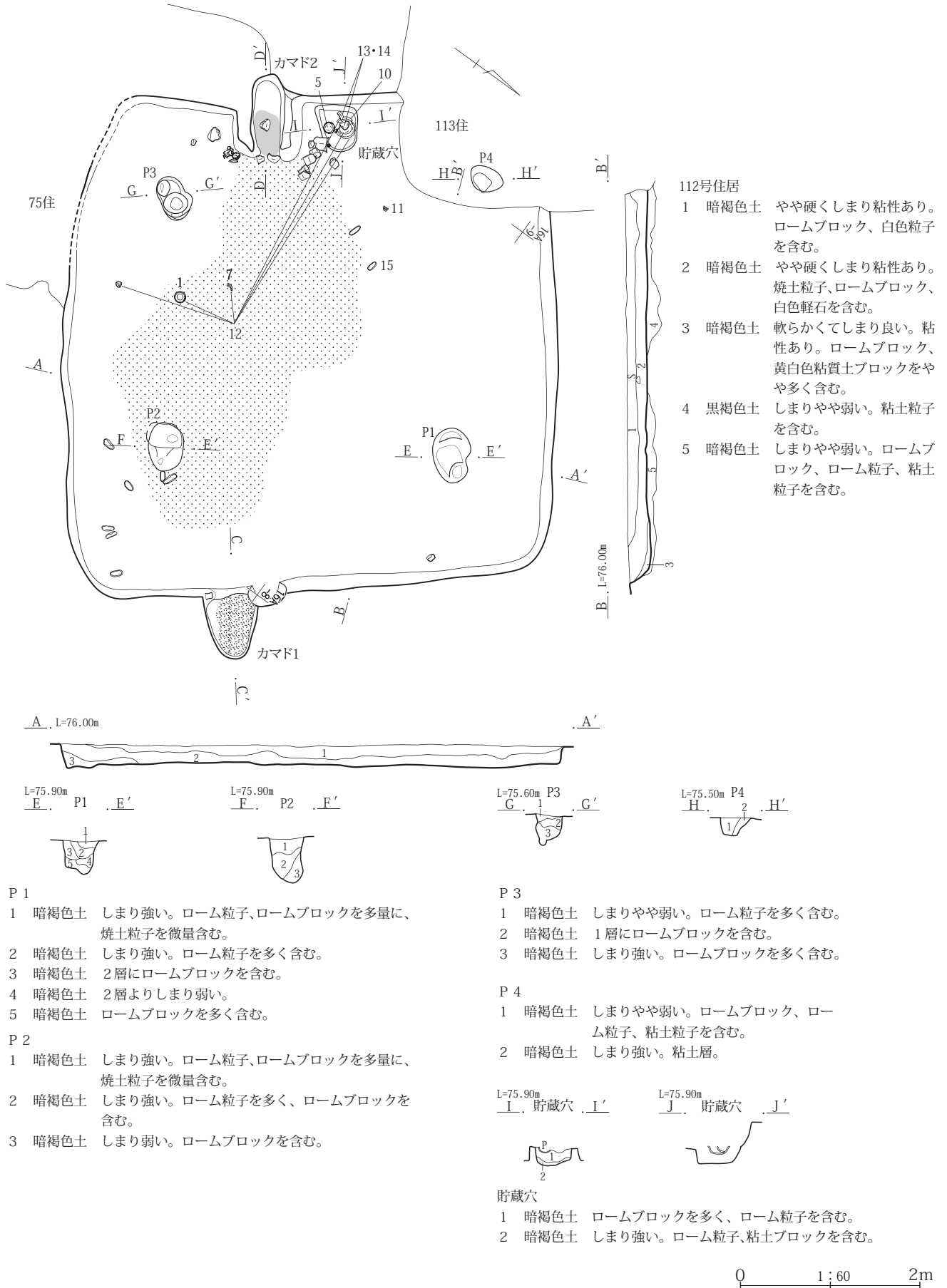


第277図 3区111号住居と出土遺物

第95表 3区111号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|---------------|-----|------|---|--------------------|-------------------|--------------------------------------|-------------------|
| 第277図 PL.199 | 1 | 土師器 杯 | +6 完形 | □ | 12.9 | 高 | 4.1 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。中位に弱い稜を有する。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第277図 | 2 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 1/2 | □ | 11.8 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第277図 | 3 | 土師器 杯 | 1/4 | □ | 11.8 | | | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨耗。 |
| 第277図 PL.199 | 4 | 土師器 小型甕 | 床直 口縁~胴部下位 | □ | 10.6 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位に手持ちヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面とも磨滅。外面下端炭素吸着。 |

112号住居(第278~281図、P L .71・90・199・200、第96表)



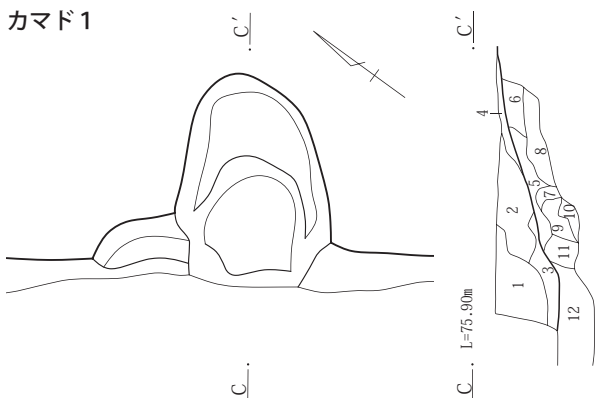
第278図 3区112号住居

位置 15T・16A-7~9グリッド。
重複 75号住居より後出で、113号住居より前出。
形状 方形を呈する。
主軸方位 N-127°-W
規模 面積は25.2㎡。長辺(北東~南西)5.54m、短辺(北西~南東)5.39m、壁高は20~25cmを測る。
床面 ほぼ平坦である。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。
カマド 東壁と西壁からカマドが検出された。カマド1は東壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃烧部は壁を掘り込んで構築されており、長さ80cm、幅57cmを測る。カマド2は西壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ100cm・焚き口部の幅20cm・袖を含めた幅は75cmを測る。支脚の礫が残されていた。カマド1が古く、カマド2が新しい。
貯蔵穴 カマド2に近接して検出された。長径53cm・短

径45cm・深さ18cmの楕円形を呈する。上層から遺物が出土している。
柱穴 主柱穴4基が検出された。P1は長径61cm・短径42.5cm・深さ36cm、P2は長径54cm・短径39cm・深さ50cm、P3は長径50cm・短径29.5cm・深さ35cm、P4は長径33cm・短径28cm・深さ20cmを測る。P1-P2間の距離3.2m、P2-P3間距離2.7m、P3-P4間距離3.5m、P4-P5間の距離は3.1mである。
周溝 確認できなかった。
埋没土 自然埋没土である。1~3層は住居埋没土、4・5層は掘り方充填土になる。
掘り方 全体的に掘り下げているが、住居中央部でやや深い。深さは5~14cmを測る。ピットは10基検出された。P5は長径43.5cm・短径43cm・深さ27cm、P6は長径43cm・短径40cm・深さ37cm、P7は長径41.5cm・短径36cm・深さ37.5cm、P8は長径46cm・短径35.5cm・深さ51cm、P9は長径87.5cm・短径72cm・深さ22cm、P10は

掘り方

カマド1

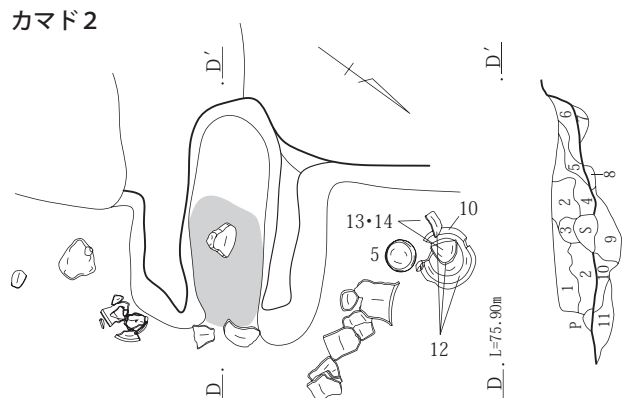


カマド1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子、ロームブロックを含む。
- 2 黄白色粘質土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を少量、黄白色粘質土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 5 黒褐色土 しまりやや弱い。炭化粒子を多く、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや弱い。炭化粒子、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 7 黄褐色土 ロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。砂質土、焼土粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 10 暗褐色土 4層にロームブロックを含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロックを少量、ロームブロックを含む。
- 12 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、焼土粒子、粘土ブロックを含む。

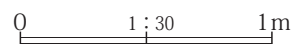
使用面

カマド2



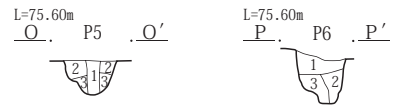
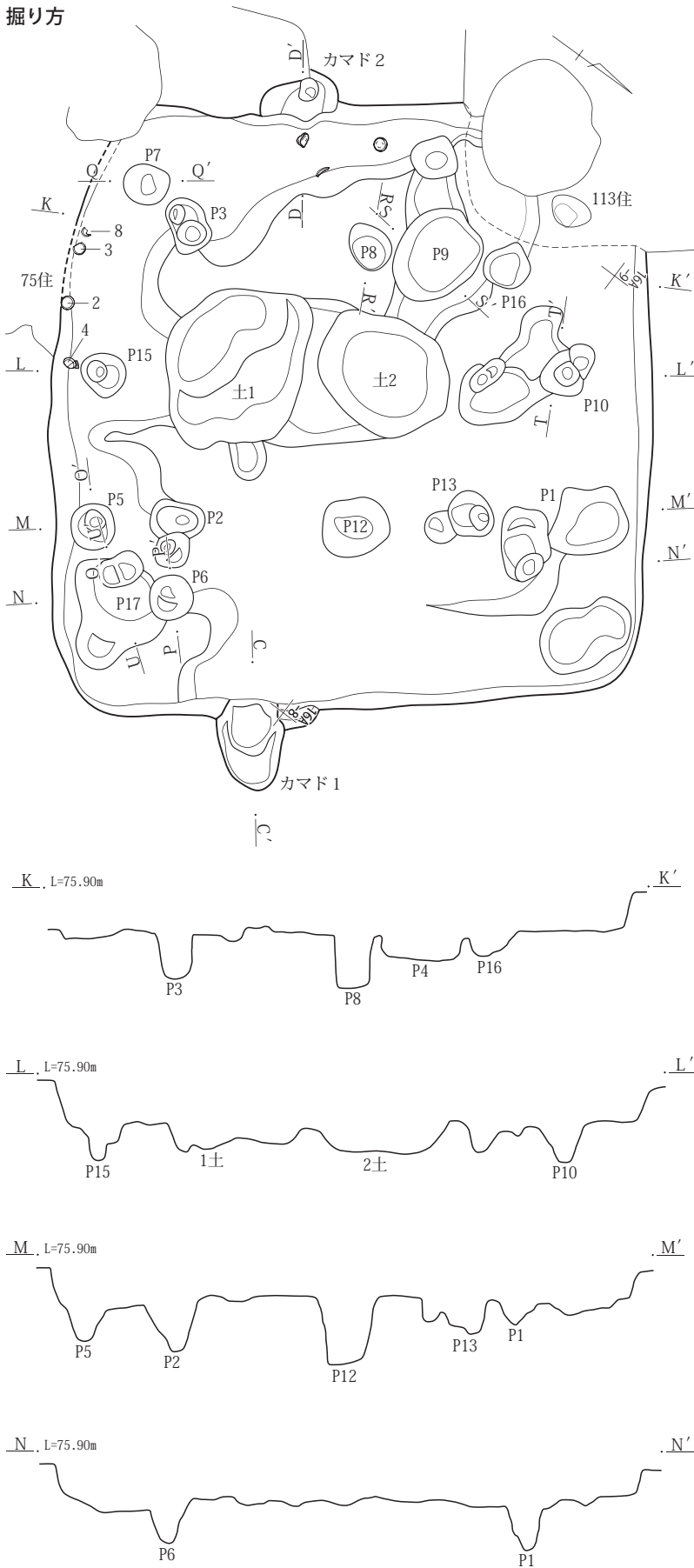
カマド2

- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、ロームブロックを多量に、白色粘土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、焼土粒子を多量に、炭化物粒子を少量、軽石を含む。
- 3 暗褐色土 粘土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子を多量に、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土 4層より焼土粒子を多く含む。
- 6 黒褐色土 しまり強い。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 7 黒褐色土 しまり弱い。焼土粒子を微量含む。
- 8 褐色土 しまり強い。焼土粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を多量に、炭化物粒子、灰色粘土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや弱い。
- 11 暗褐色土 4層より粘土粒子を多く含む。

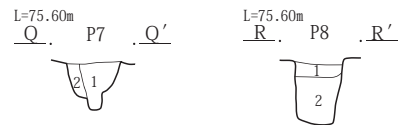


第279図 3区112号住居カマド1・2

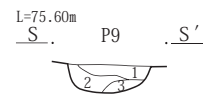
掘り方



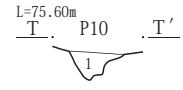
- P 5
- 1 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
 - 2 黒褐色土 1層よりローム粒子が多く、ロームブロックを含む。
 - 3 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを少量含む。
- P 6
- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、ロームブロックを多く、焼土粒子を微量含む。
 - 2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を多く含む。
 - 3 暗褐色土 2層にロームブロックを含む。



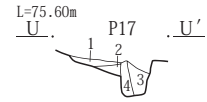
- P 7
- 1 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
 - 2 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- P 8
- 1 黒褐色土 しまり強い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
 - 2 黒褐色土 1層よりロームブロックを多く含む。



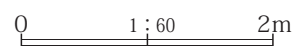
- P 9
- 1 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
 - 3 暗褐色土 粘土ブロックを含む。



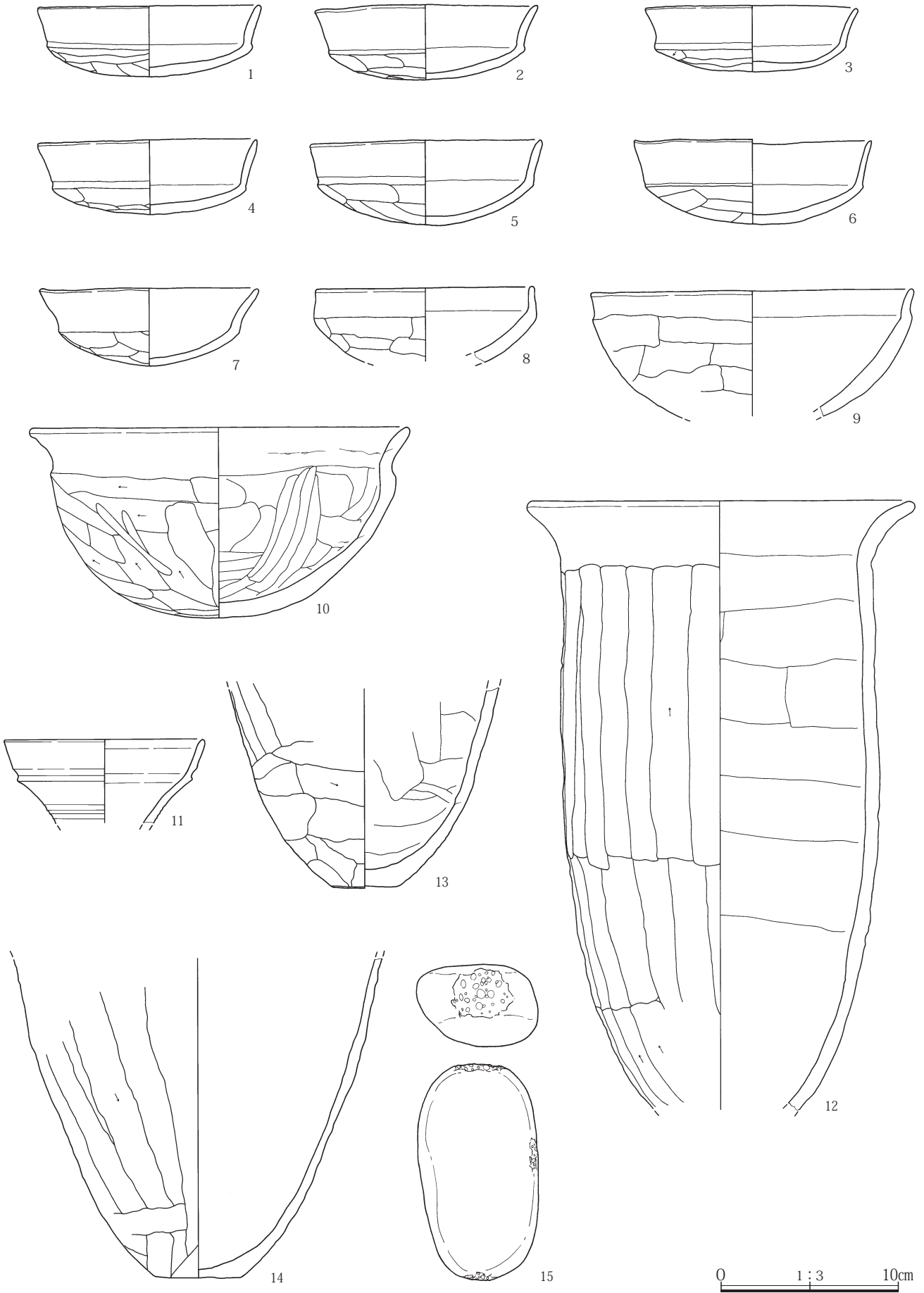
- P 10
- 1 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。



- P 17
- 1 黒褐色土 しまりやや弱い。
 - 2 暗褐色土 1層より色調明るい。
 - 3 黒褐色土 しまりやや弱い。粘性強い。ロームブロックを含む。
 - 4 黒褐色土 しまりやや弱い。粘性あり。ローム粒子を含む。



第280図 3区112号住居掘り方



0 1:3 10cm

第281図 3区112号住居出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第96表 3区112号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|---------------|-----|-------------|----|--------------------|----------------------------|---|-------------------------|
| | | | | 口 | 高 | 厚 | | | | |
| 第281図 PL.199 | 1 | 土師器 杯 | 床直 ほぼ完形 | 口 | 12.2 | 高 | 3.9 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第281図 PL.199 | 2 | 土師器 杯 | 掘り方 完形 | 口 | 12.2 | 高 | 4.1 | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第281図 PL.199 | 3 | 土師器 杯 | 掘り方 完形 | 口 | 11.8 | 高 | 3.6 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第281図 PL.199 | 4 | 土師器 杯 | 完形 | 口 | 12.0 | 高 | 4.1 | 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部の一部に炭素吸着。 |
| 第281図 PL.199 | 5 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 完形 | 口 | 12.8 | 高 | 4.7 | 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第281図 PL.199 | 6 | 土師器 杯 | 4/5 | 口 | 13.2 | 高 | 4.7 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 器形大きく歪む。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第281図 | 7 | 土師器 杯 | +6 1/2 | 口 | 12.0 | 高 | 4.3 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第281図 | 8 | 土師器 杯 | 掘り方 1/3 | 口 | 12.0 | | | 粗砂粒/良好/褐灰 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着・黒色・やや磨滅。 |
| 第281図 | 9 | 土師器 鉢 | 口縁～胴部片 | 口 | 17.8 | | | 粗砂粒/良好/灰黄 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着・磨滅。 |
| 第281図 PL.199 | 10 | 土師器 鉢 | 貯蔵穴 口縁一部欠 | 口 | 20.9 | 高 | 10.7 | 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙 | 口縁部は横ナデ、内面に輪積み痕を残す。体部から底部は横位、斜横位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ、一部縦位のナデを重ねる。 | 内外面漆塗りか。 |
| 第281図 | 11 | 須恵器 甕 | +15 口縁部片 | 口 | 11.0 | | | 白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回りか。頸部に沈線が2条がめぐる。 | |
| 第281図 PL.200 | 12 | 土師器 甕 | 床直 3/4 | 口 | 21.0 | | | 粗砂粒・片岩多/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部3回に分けて縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 内面やや磨滅。 |
| 第281図 | 13 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 底部～胴部片 | 底 | 3.8 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 胴部下位は斜縦位、最下位は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。 | 被熱・外面炭素吸着。 |
| 第281図 | 14 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 底部～胴部片 | 底 | 5.0 | | | 小礫・粗砂粒・片岩 /良好/明赤褐 | 胴部は斜縦位にヘラ削り。 | 内外面とも磨滅・外面の一部に炭素吸着・黒斑状。 |
| 第281図 PL.199 | 15 | 礫石器 敲石 | +18 | 長幅 | 12.1 6.7 | 厚重 | 4.6 553.2 | 溶結凝灰岩 | 小口部両端・右辺エッジに敲打痕が残る。 | 扁平礫 |

長径57cm・短径41cm・深さ22cm、P12は長径61.5cm・短径52cm・深さ60cm、P13は長径44.5cm・短径40.5cm・深さ30cm、P15は長径42cm・短径37.5cm・深さ32cm、P16は長径43cm・短径38cm・深さ33cmを測る。P8とP12は支柱穴の中間に位置している。

出土遺物 カマドや貯蔵穴周辺からまとまって土器が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

113号住居(第282・283図、PL.71・91・200、第97表)

位置 15T-8・9、16A-9グリッド。

重複 112号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-122°-E

規模 面積は8.1㎡。長辺(北西～南東)3.11m、短辺(北東～南西)2.96m、壁高は25～37cmを測る。

床面 やや凹凸がある。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。

カマド 床面の南東隅と南西隅から検出された。カマド

1は南西隅に設置されている。燃烧部は壁を掘り込んで構築されており、長さ84cm、幅32cmを測る。カマド2は南東隅に設置されている。燃烧部は床面を掘り込んで構築されており、長さ55cm・焚き口部の幅20cm・袖を含めた幅は64cmを測る。4層は焼土、5層は灰層になる。カマド1が古く、カマド2が新しい。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 全周していたものと思われる。幅6～18cm、深さ5～8cmを測る。

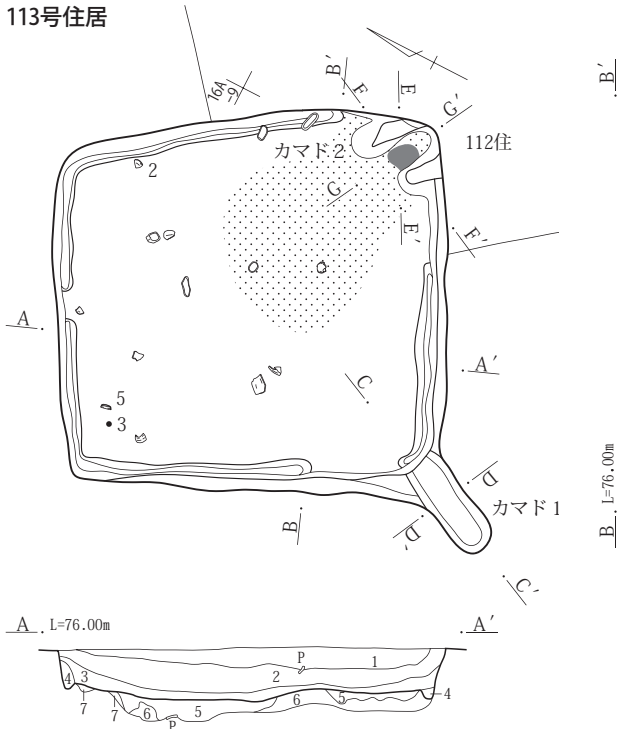
埋没土 自然埋没土である。1～4層は住居埋没土、5～8層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが、住居中央部でやや掘深い。深さは5～30cmを測る。

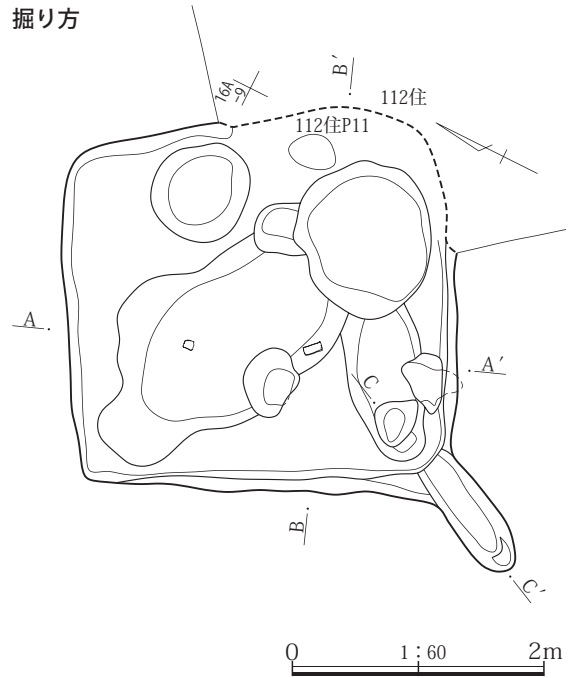
出土遺物 北西隅の埋没土中にややまとまって、ほかに床面全体から散漫に土器片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

113号住居



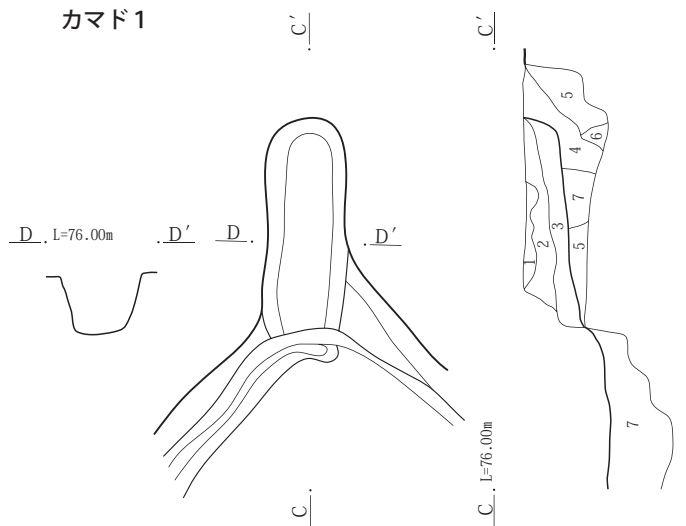
掘り方



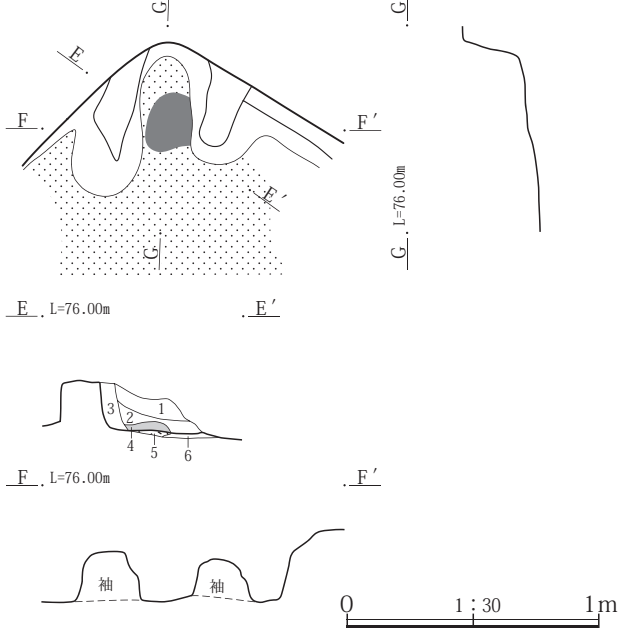
113号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、白色軽石をやや多く含む。
- 3 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 4 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、粘土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 しまり強い。粘土ブロック、粘土粒子を含む。
- 7 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロックを多量、粘土粒子を含む。

カマド1



カマド2



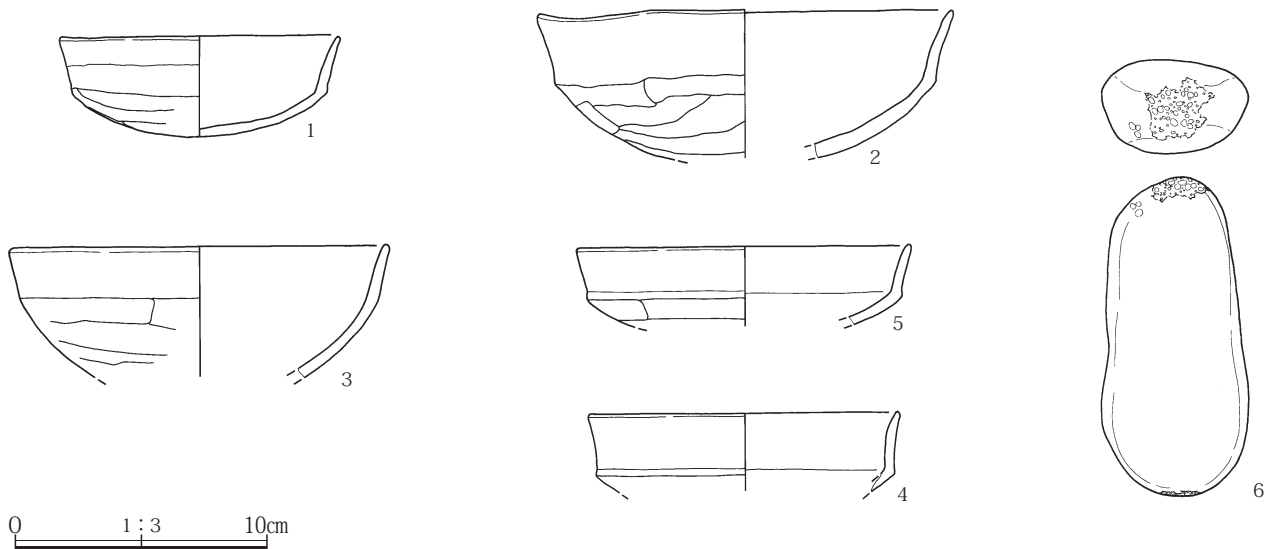
カマド1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、白色粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 軟らかい。焼土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量含む。
- 5 黒褐色土
- 6 黒褐色土 ローム粒子を含む。
- 7 褐色土 ロームブロックを含む。

カマド2

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 4 焼土
- 5 灰
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土粒子を多量に、焼土粒子を含む。

第282図 3区113号住居



第283図 3区113号住居出土遺物

第97表 3区113号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|---------------|-----|------|----|--------------------|-----------------------|---------------------------|----------|
| | | | | 口 | 高 | 厚 | | | | |
| 第283図 | 1 | 土師器 杯 | 1/2 | 口 | 10.8 | 高 | 3.9 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第283図 | 2 | 土師器 杯 | +17 1/3 | 口 | 16.2 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第283図 | 3 | 土師器 杯 | +20 口縁～体部片 | 口 | 14.8 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第283図 | 4 | 土師器 杯 | 口縁～底部片 | 口 | 12.0 | | | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第283図 | 5 | 土師器 杯 | +19 口縁～体部片 | 口 | 13.0 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第283図 PL.200 | 6 | 礫石器 敲石 | | 長幅 | 12.6 | 厚重 | 3.7 389.8 | 溶結凝灰岩 | 小口部両端に敲打痕が残る。 | |

114号住居(第284～287図、P L .91・92・200・201、第98・99表)

位置 16A・B-9・10グリッド。

重複 8号溝より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-75°-E

規模 面積は11.5㎡。長辺(北東～南西)3.68m、短辺(北西～南東)3.56m、壁高は21～25cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。

カマド 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ115cm、焚き口部の幅45cm、袖を含めた幅は90cmを測る。支脚の礫と、袖に土師器甕(第286図9・10)が残されていた。焚き口部分に置かれていた土師器甕(同11)も出土している。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径62.5cm・短径55cm・深さ40cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～5層は住居埋没土、6～16層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが、住居中央部から西部でやや深い。深さは10～31cmを測る。

出土遺物 カマドや貯蔵穴周辺からまとめて土師器甕(第285～287図7～13)が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

115号住居(第288・289図、P L .92・201、第100表)

位置 16B-10・11グリッド。

重複 なし

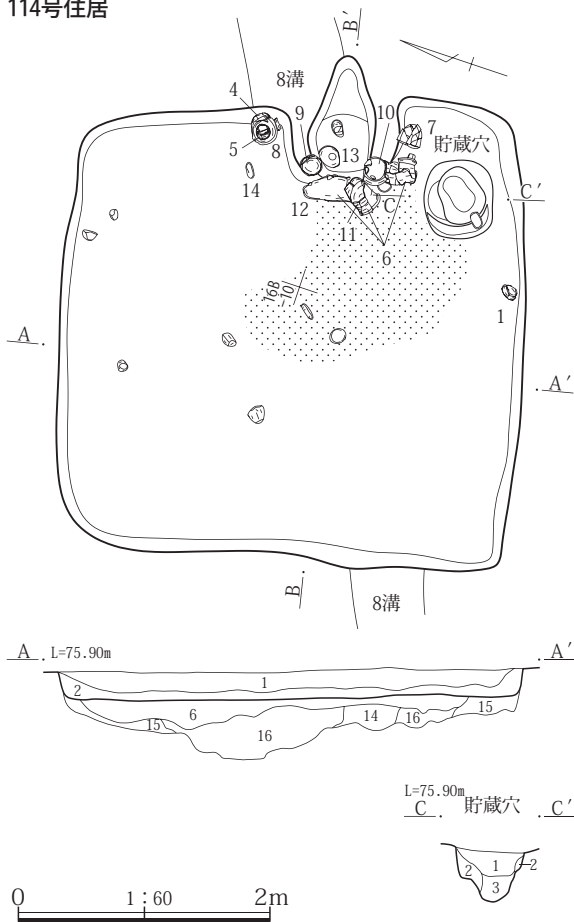
形状 調査区外にのびているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-85°-E

規模 面積は2.5㎡。長辺(南北)2.11m、短辺(東西)1.34m、壁高は30～35cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面全体にかけて硬化面が認め

114号住居



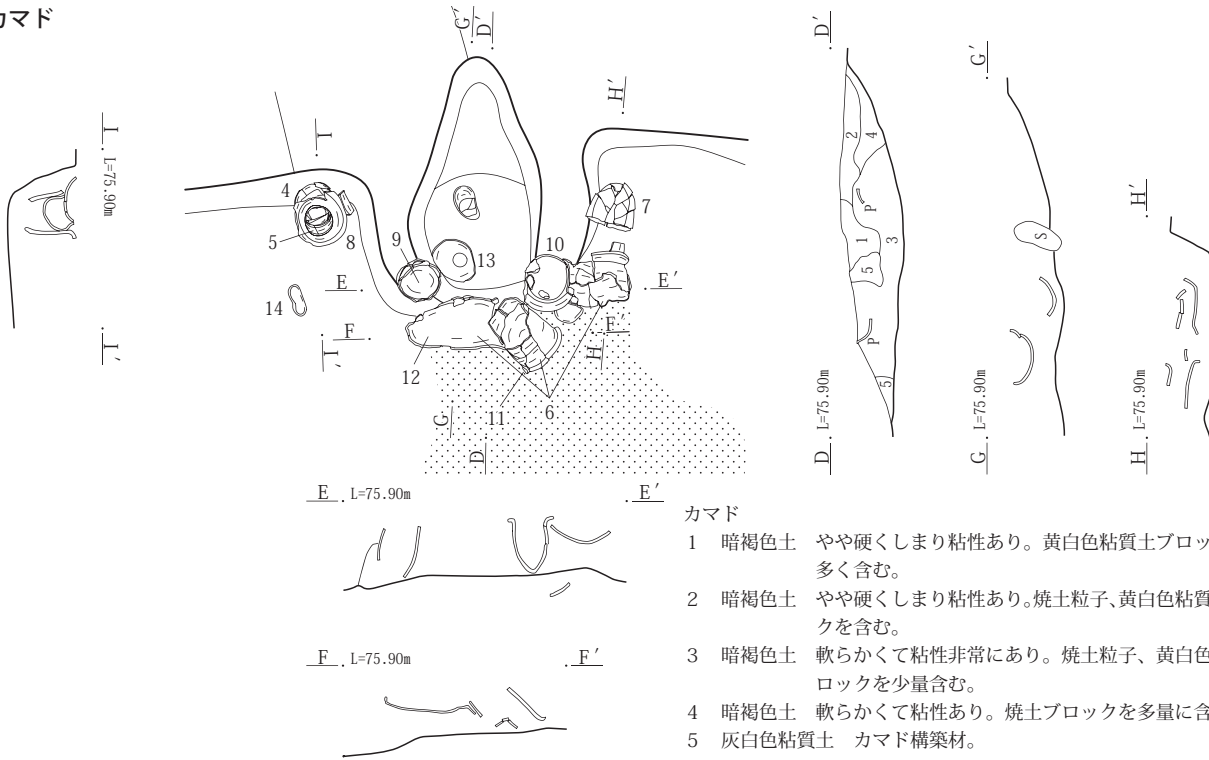
114号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。
- 4 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物を含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや弱い。白色粘土粒子、ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を多く、灰、炭化物粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 2層より粘土粒子が多い。
- 9 暗褐色土 しまり弱い。
- 10 褐色土 しまり弱い。
- 11 赤褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を含む。
- 12 暗褐色土 しまり強い。粘土粒子、焼土粒子を多く、灰を含む。
- 13 暗褐色土 しまり強い。粘土ブロックを多く含む。
- 14 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロック、ロームブロック、粘土粒子、ローム粒子を含む。
- 15 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 16 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、粘土粒子を多く、粘土ブロックを含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

カマド

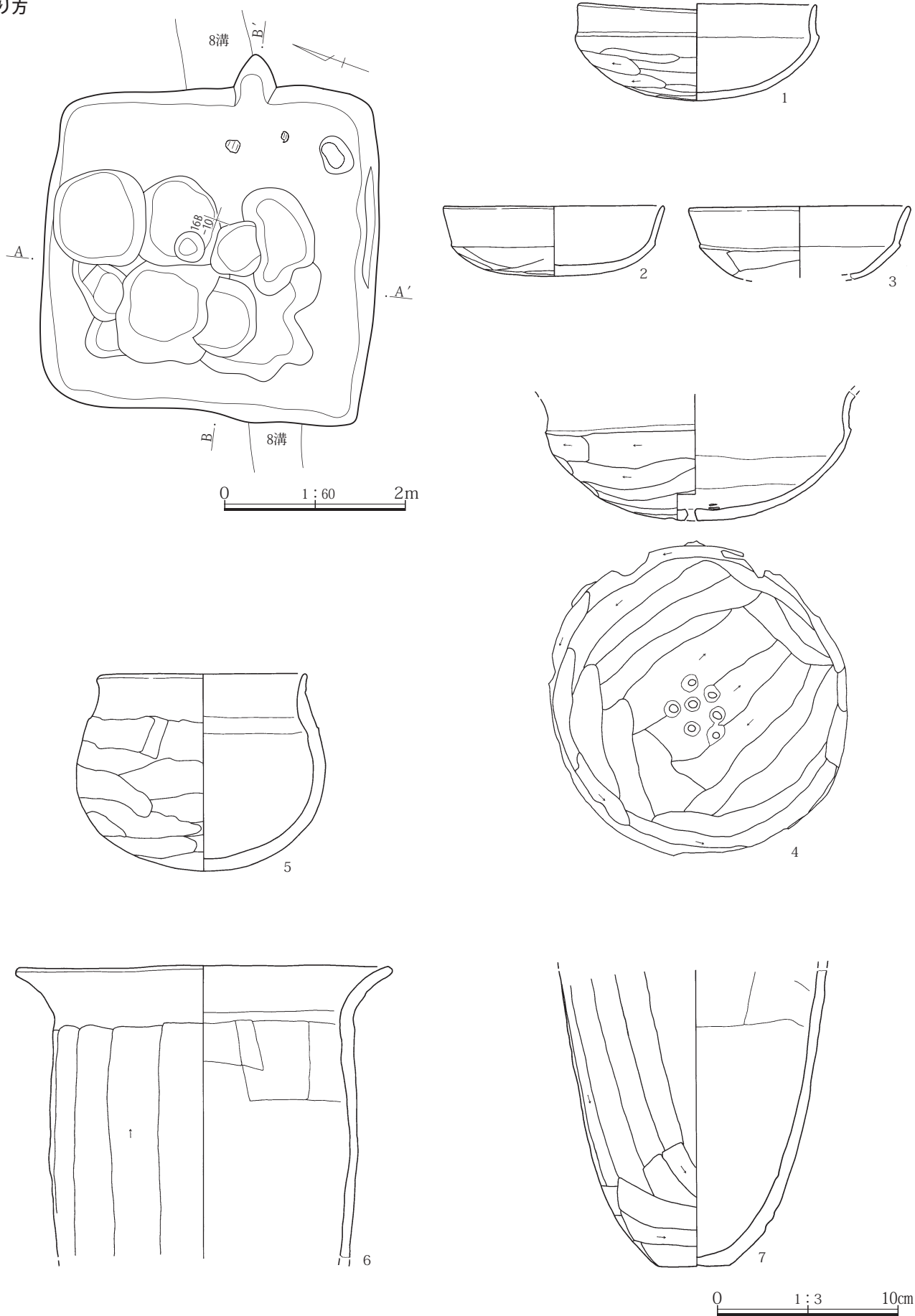


カマド

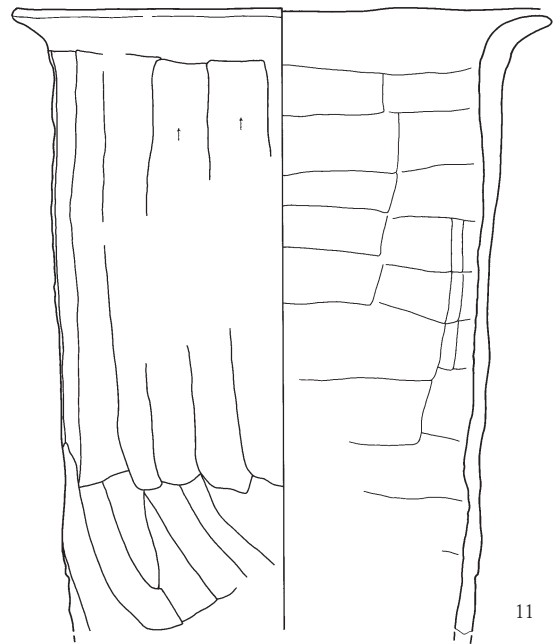
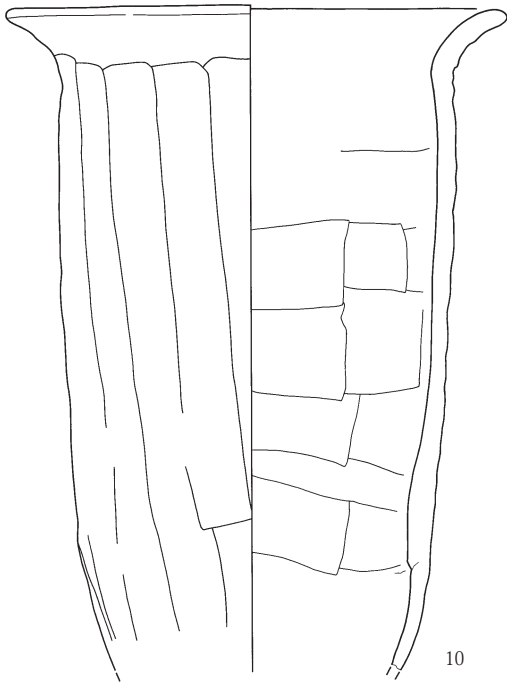
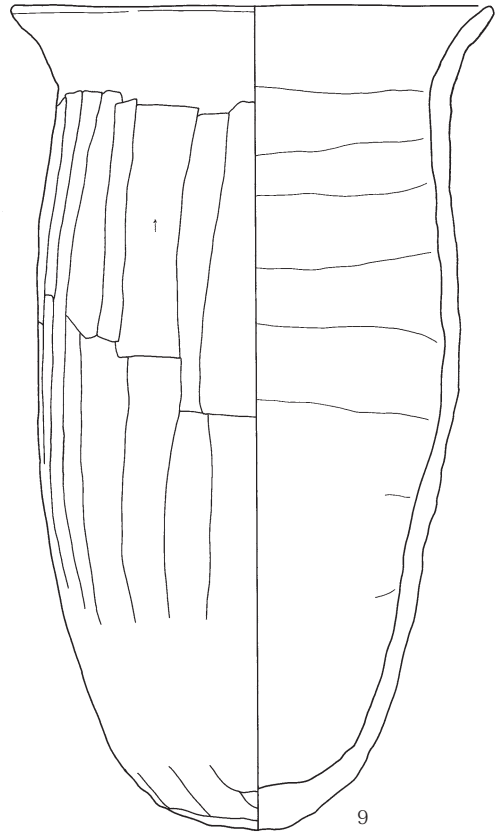
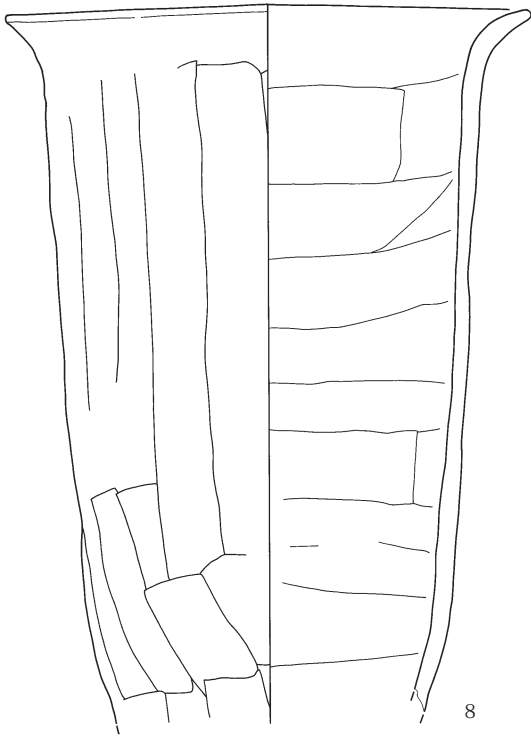
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを多量に含む。
- 5 灰白色粘質土 カマド構築材。

第284図 3区114号住居

掘り方

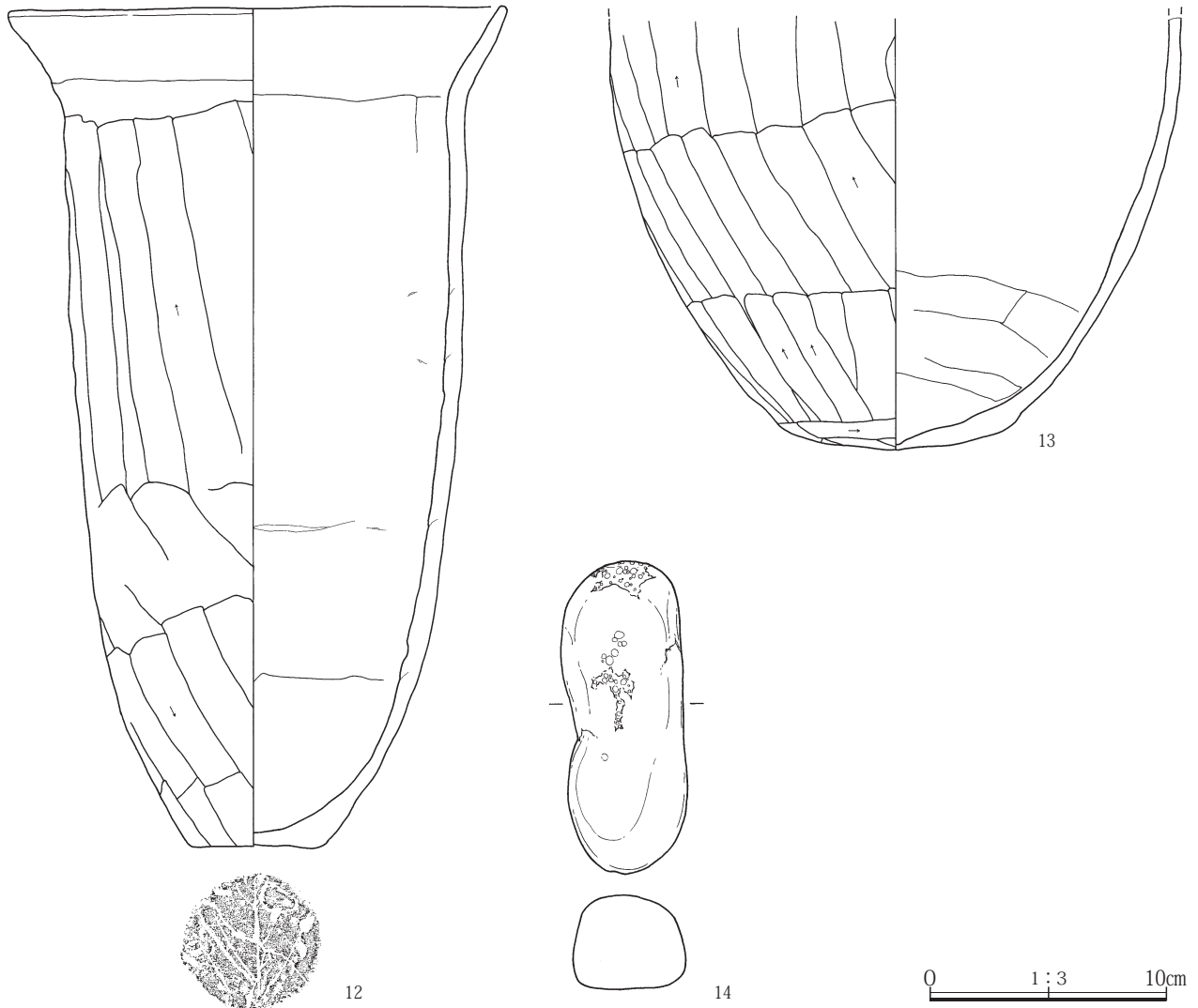


第285図 3区114号住居掘り方と出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第286図 3区114号住居 出土遺物(2)

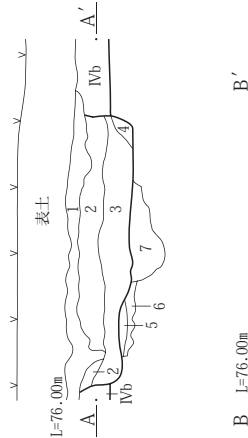
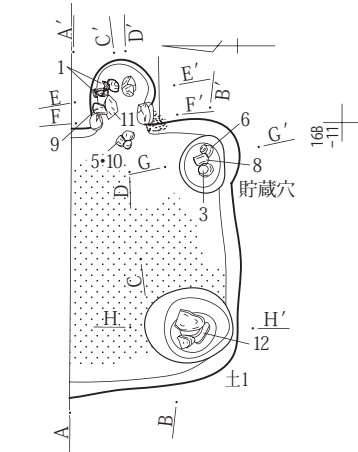


第287図 3区114号住居出土遺物(3)

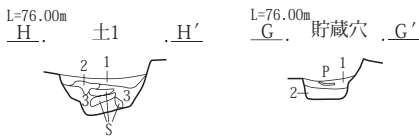
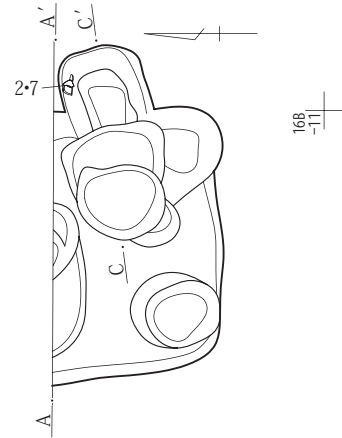
第98表 3区114号住居出土遺物(1)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|--------------|--------|-------------|---|--------------------|-------------------|---|---------------------------------|
| | | | | 口 | 高 | 底 | | | | |
| 第285図 PL.200 | 1 | 土師器 杯 | +18 1/2 | 口 | 12.7 | 高 | 5.3 | 精選・粗砂粒少/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部上位の一部に布目状の痕跡。外面底部は炭素吸着・黒斑状。 |
| 第285図 | 2 | 土師器 杯 | 2/3 | 口 | 12.0 | 高 | 3.8 | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第285図 | 3 | 土師器 杯 | 口縁～体部片 | 口 | 12.0 | | | 精選・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第285図 PL.200 | 4 | 土師器 鉢か | +23 口縁部欠 | | | | | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部中央に焼成前に直径4mm前後の小孔を7孔穿孔。 | |
| 第285図 PL.200 | 5 | 土師器 小型甕 | +13 口縁一部欠 | 口 | 11.2 | 高 | 10.8 | 精選・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部から底部は横位のヘラ削り。内面胴部はナデと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第285図 | 6 | 土師器 甕 | カマド 口縁～胴部 | 口 | 20.2 | | | 粗砂粒多/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り、内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面胴部に炭素吸着。 |
| 第285図 | 7 | 土師器 甕 | カマド 底部～胴部 | 底 | 4.2 | | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 胴部下位は斜横位、他は縦位のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面胴部に炭素吸着。 |
| 第286図 | 8 | 土師器 甕 | +6 2/3 | 口 | 20.3 | | | 粗砂粒多/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は数回に分けて縦位にヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面炭素吸着、一部剥離。 |
| 第286図 PL.200 | 9 | 土師器 甕 | カマド 2/3 | 口 底 | 18.8 4.8 | 高 | 32.4 | 粗砂粒多・チャートか/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は最下位は斜位、他は2回に分けて縦位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 全体被熱により変色・底部周辺炭素吸着。 |
| 第286図 PL.200 | 10 | 土師器 甕 | カマド 2/3 | 口 | 19.0 | | | 粗砂粒多/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面炭素吸着・内外面磨滅。 |

115号住居



掘り方



貯蔵穴

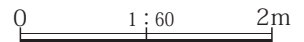
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、ロームブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームブロックを少量含む。

住居内土坑1

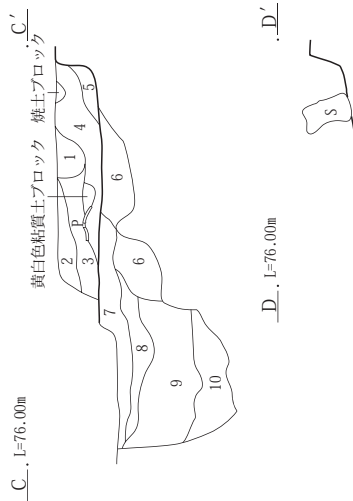
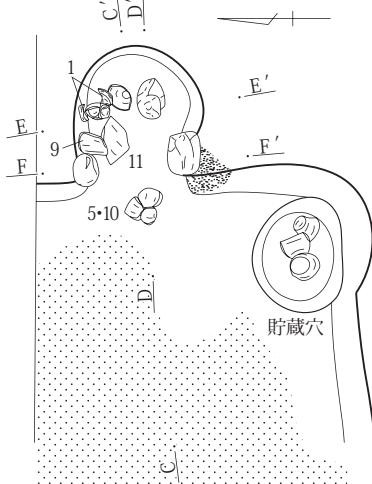
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 2 黄白色粘質土
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

115号住居

- 1 暗褐色土 しまり弱い。浅間B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 しまりは1層より強い。ローム粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを含む。ローム粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 3層に近いがよりロームブロックが多い。
- 5 暗褐色土 しまり硬く粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや硬く粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや硬く粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、シルトブロック、シルト粒子を多く含む。

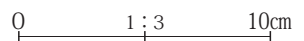
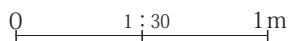
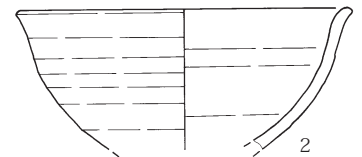
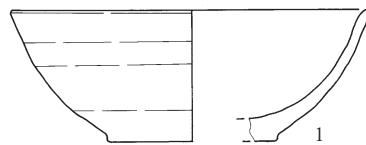
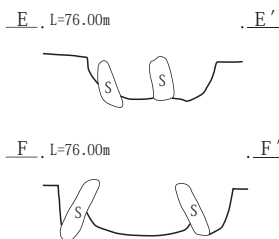


カマド

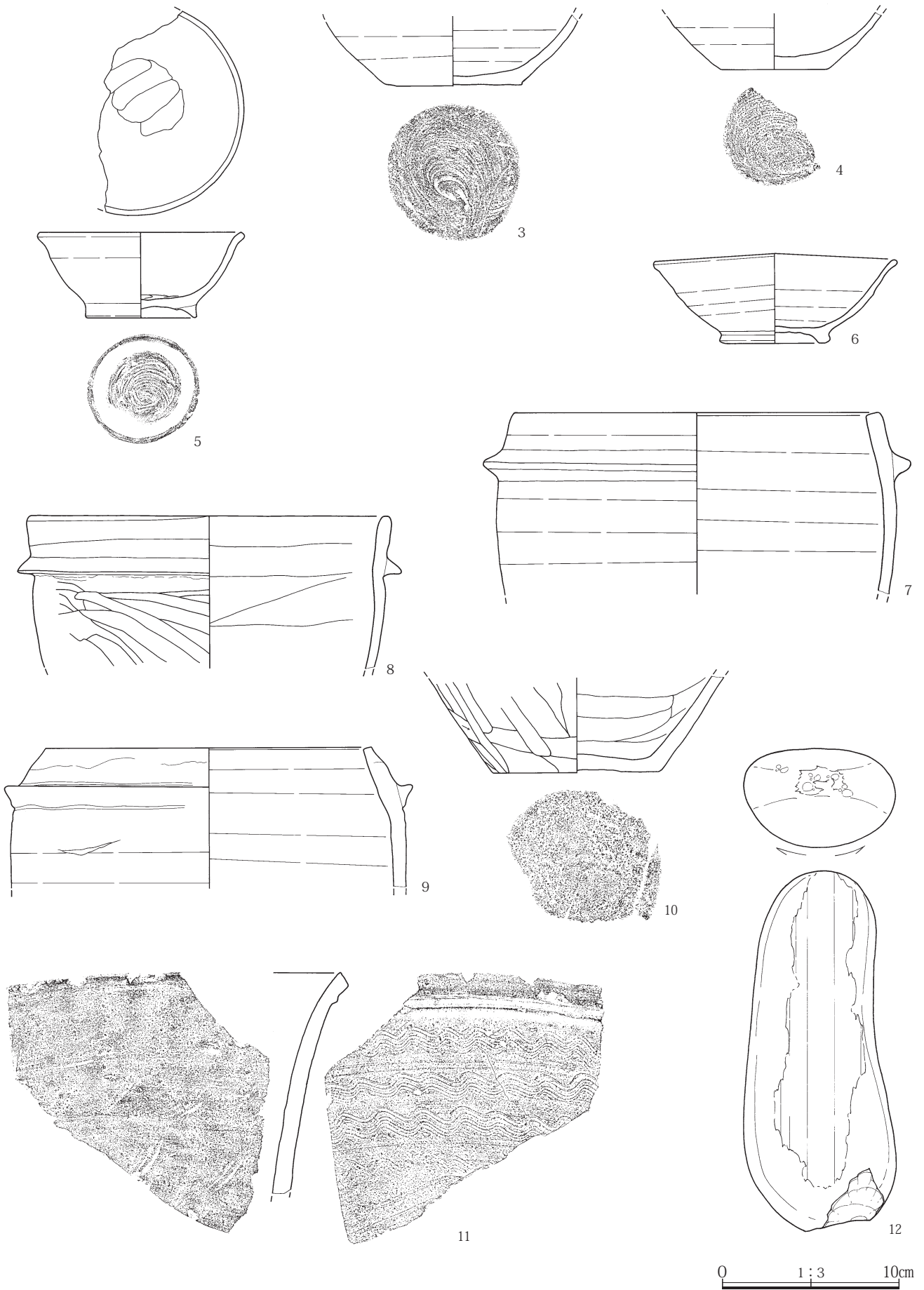


カマド

- 1 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。炭化物、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子を多く、ローム粒子を含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子を多く、ローム粒子を含む。



第288図 3区115号住居と出土遺物(1)



第289図 3区115号住居出土遺物(2)

られる。南西隅から土坑1が検出された。長径170cm・短径60cm・深さ32.5cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれ、礫が出土している。

カマド 東壁に設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築されており、長さ70cm、焚き口部の幅30cmを測る。支脚の礫と袖石3個が残されていた。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径46cm・短径36cm・深さ15cmの楕円形を呈する。埋没土は2層に分かれ、土器が出土している。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。2～4層は住居埋没土、7～9層は掘り方充填土になる。

掘り方 住居中央部からカマド付近でやや深い。深さは5～20cmを測る。

出土遺物 カマドや貯蔵穴、土坑1からまとめて土器が出土している。

時期 出土遺物から10世紀前半に比定される。

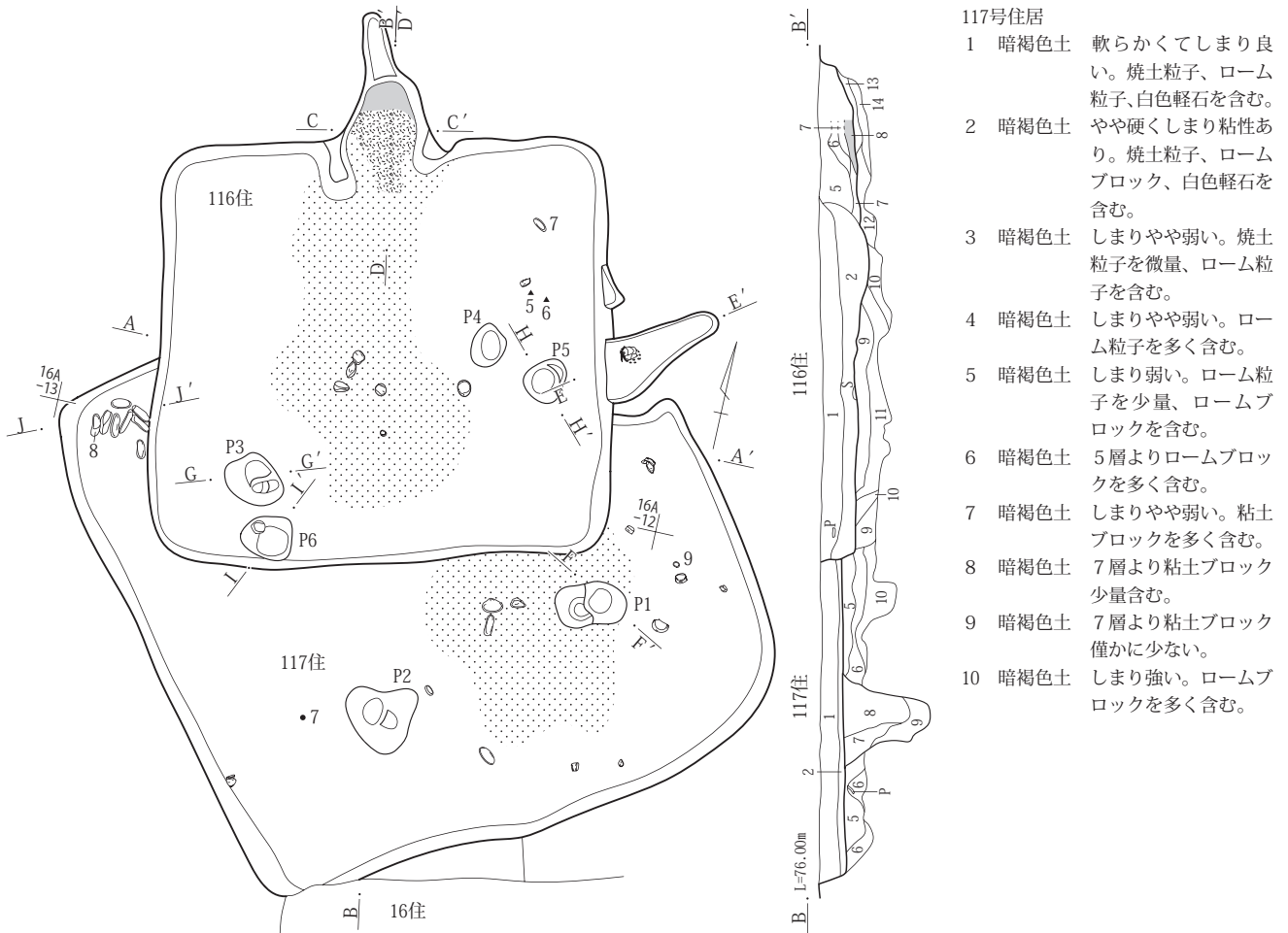
第99表 3区114号住居出土遺物(2)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|--------------|-----|-------------|------------------------|--------------------|--|-------------|
| 第286図 | 11 | 土師器 甕 | 口縁～胴部中位 | 口 | 20.8 | | 粗砂粒多/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は2回に分けて縦位のヘラ削り、内面胴部は横位のヘラナデ。 | |
| 第287図 PL.201 | 12 | 土師器 甕 | カマド 1/2 | 口底 | 20.6 5.2 | 高 35.2 | 粗砂粒多/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は4回に分けて斜縦位のヘラ削り、底部外面に木葉痕。内面胴部は横位のナデ。 | 被熱のため変色・変質。 |
| 第287図 | 13 | 土師器 甕 | カマド 底部～胴部 | 底 | 10.0 | | 粗砂粒/良好/橙 | 胴部は数回に分けてヘラ削り。底部もヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 底部外面炭素吸着。 |
| 第287図 PL.201 | 14 | 礫石器 敲石 | +9 | 長幅 | 13.1 5.3 | 厚 4.0 重 468.6 | 石英閃緑岩 | 小口部上端・背面側中央を著しく敲打する。 | |

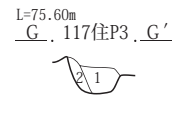
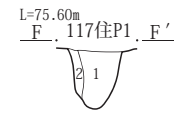
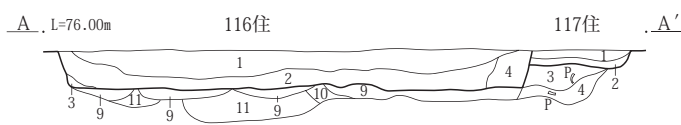
第100表 3区115号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|--------------------|-----|-------------|-------------------------|--------------------|--|---------------|
| 第288図 | 1 | 須恵器 杯 | カマド 1/3 | 口 | 13.8 | | 粗砂粒/酸化焰/橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | |
| 第288図 | 2 | 須恵器 杯 | カマド掘り方 1/6 | 口 | 12.9 | | 粗砂粒/酸化焰/橙 | ロクロ整形、回転右回り。 | 内面炭素吸着。 |
| 第289図 | 3 | 須恵器 杯 | 貯蔵穴 底部～胴部下半 | 底 | 7.6 | | 粗砂粒/酸化焰/橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第289図 | 4 | 須恵器 杯 | 底部～胴部下半 1/2 | 底 | 6.0 | | 粗砂粒/酸化焰/橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第289図 PL.201 | 5 | 須恵器 椀 | カマド 2/3 | 口底 | 11.2 6.2 | 高 4.8 | 細砂粒/酸化焰/浅黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。底部内面中央に、粘土塊をナデ付け成形後の器面を補正した痕跡あり。 | 器面磨滅。 |
| 第289図 PL.201 | 6 | 須恵器 椀 | 貯蔵穴 2/3 | 口底 | 13.4 6.0 | 高 4.6 | 粗砂粒多・片岩/還元焰/灰 | 歪み顕著。ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。 | 内外面とも炭素吸着・黒色。 |
| 第289図 | 7 | 須恵器 羽釜 | カマド掘り方 口縁～胴部上位片 | 口 | 20.4 | | 粗砂粒・軽石/酸化焰/にぶい黄橙 | ロクロ整形、断面三角形の鏝は成形後の貼付。 | 被熱。 |
| 第289図 | 8 | 土師器 羽釜 | 貯蔵穴 口縁～ 胴部上位片 | 口 | 20.0 | | 粗砂粒/酸化焰/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。 | 被熱。 |
| 第289図 | 9 | 須恵器 羽釜 | カマド 口縁～ 胴部上位片 | 口 | 18.2 | | 粗砂粒/酸化焰/明赤褐 | ロクロ整形、外面口縁部・胴部に輪積み痕を残す。 | 被熱。 |
| 第289図 | 10 | 須恵器 羽釜 | カマド 底部～胴部1/4 | 底 | 9.2 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 胴部下位は斜縦位のヘラ削り。最下位は斜横位のヘラ削り。底部は砂目底。内面胴部はヘラナデ。 | 被熱・内外面とも炭素吸着。 |
| 第289図 | 11 | 須恵器 甕 | カマド 口縁部片 | | | | 白色鈹物粒/還元焰/灰 | 紐作り後、ロクロ整形。内外面とも横ナデ。6条1単位の波状文を4段配すが、最下段はナデ消されている。 | |
| 第289図 | 12 | 礫石器 敲石 | 内土坑1 | 長幅 | 271 1.4 | 厚 7.5 重 3068.2 | デイサイト | 小口部両端に敲打痕が残る。特に、下端側が激しく敲打、これに伴う衝撃剥離痕が生じている。背面側は部分的に目が潰れる程度に、弱く摩耗する。被熱。 | |

116・117号住居

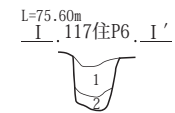
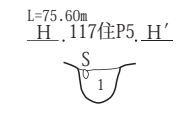


- 117号住居
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
 - 3 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を微量、ローム粒子を含む。
 - 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多く含む。
 - 5 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を少量、ロームブロックを含む。
 - 6 暗褐色土 5層よりロームブロックを多く含む。
 - 7 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロックを多く含む。
 - 8 暗褐色土 7層より粘土ブロック少量含む。
 - 9 暗褐色土 7層より粘土ブロック僅かに少ない。
 - 10 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。

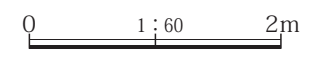
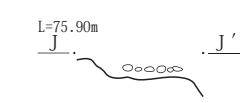


- 116号住居
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。炭化物粒子、焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 3 黄褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ローム主体の層。
 - 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
 - 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
 - 7 黄白色粘質土 やや硬い。カマド構築材。
 - 8 焼土
 - 9 暗褐色土 しまりやや弱い。白色粘土粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。
 - 10 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、焼土粒子を含む。
 - 11 暗褐色土 ローム粒子を含む。
 - 12 黒褐色土 焼土粒子を少量、炭化粒子を微量、ローム粒子を含む。
 - 13 黒褐色土 しまり弱い。下部に灰層。焼土粒子を多く含む。
 - 14 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを含む。

- P 1
- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。
 - 2 暗褐色土 1層よりローム粒子が少ない。
- P 3
- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。

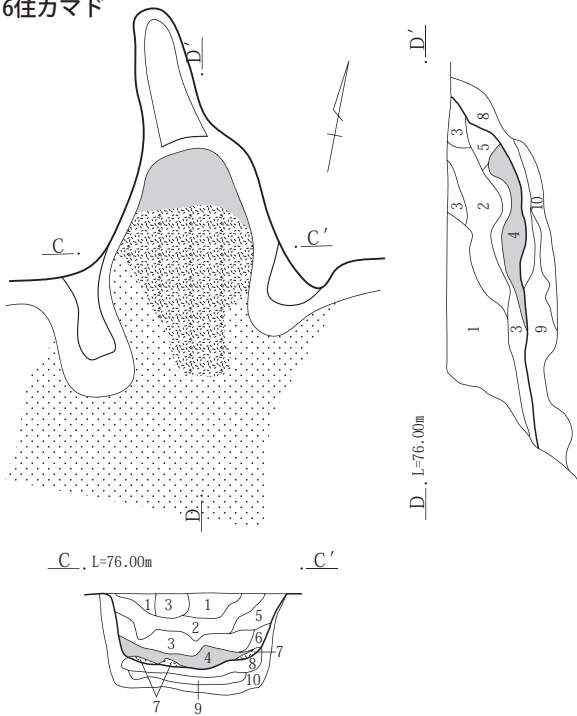


- P 5
- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を少量含む。
- P 6
- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。



第290図 3区116・117号住居

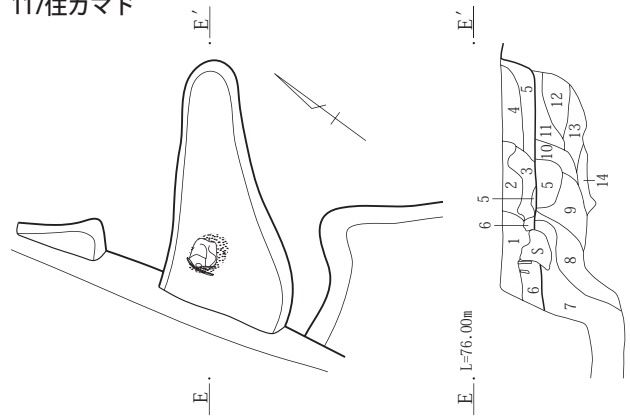
116住カマド



カマド

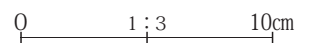
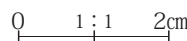
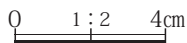
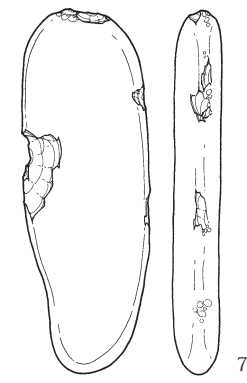
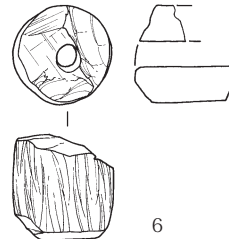
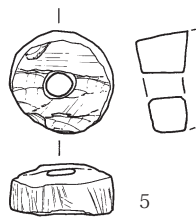
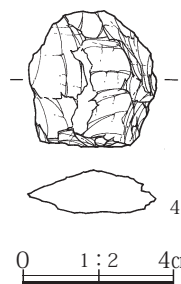
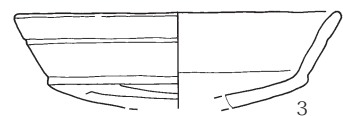
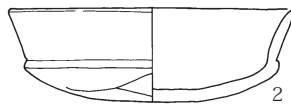
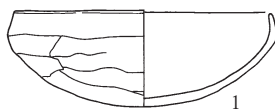
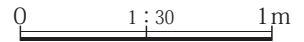
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 3 黄白色粘質土 やや硬い。カマド構築材。
- 4 焼土
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックをやや多く、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 6 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土、灰、黄白色粘質土の混土。
- 7 灰
- 8 黒褐色土 しまり弱い。焼土粒子を多く含む。下部に灰。
- 9 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを含む。
- 10 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。

117住カマド



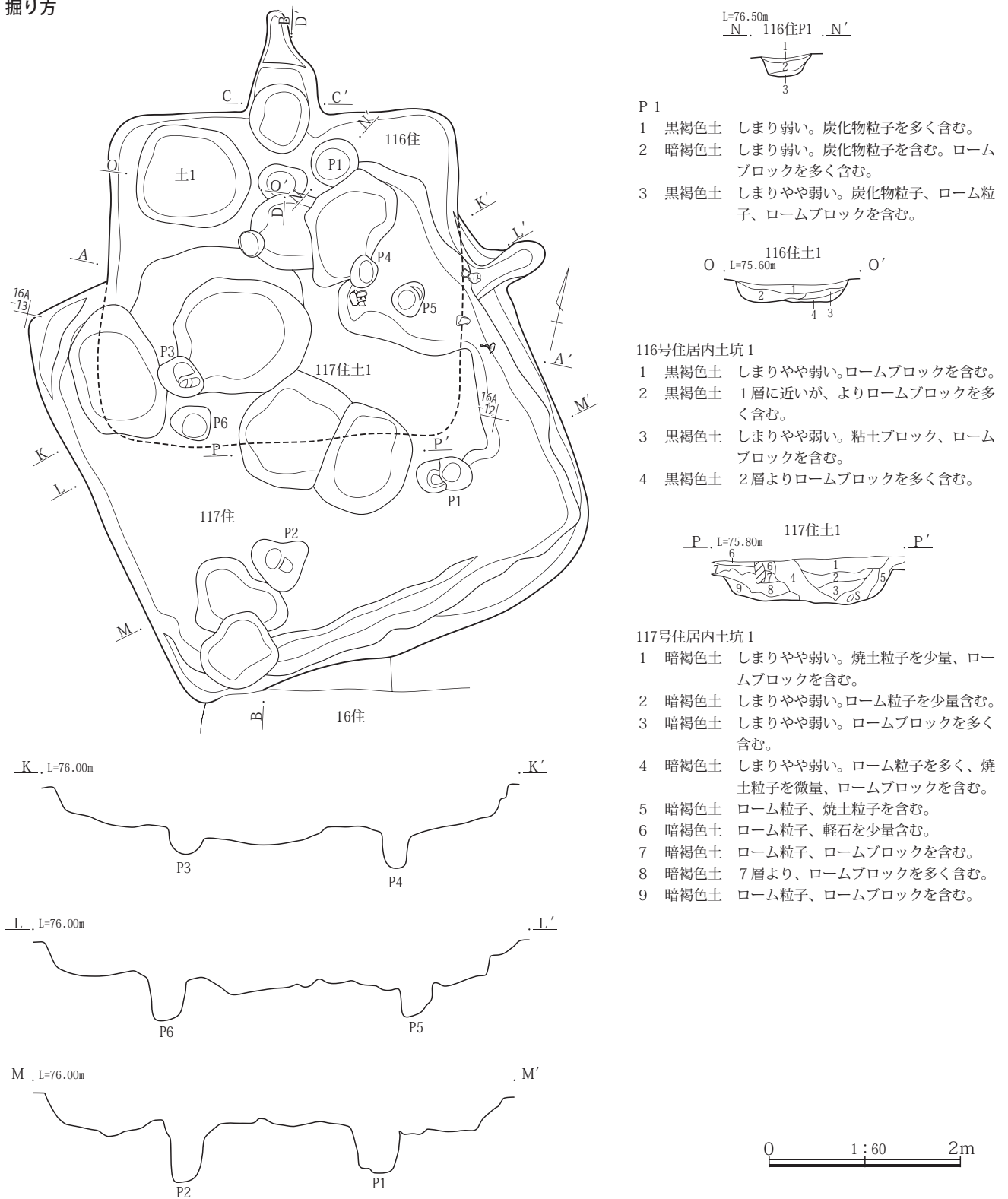
カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄白色粘質土 カマド構築材。
- 3 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土を主体に暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロックをやや多く含む。
- 5 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。焼土ブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子、ロームブロックを少量含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 9 暗褐色土 8層よりしまり弱い。
- 10 赤褐色土 3層より焼土粒子多い。
- 11 赤褐色土 3層より焼土粒子少ない。
- 12 赤褐色土 3層にローム粒子を含む。
- 13 赤褐色土 10層より焼土粒子少ない。
- 14 黒褐色土 しまり弱い。ローム粒子を少量含む。



第291図 3区116・117号住居カマドと116号住居出土遺物

掘り方



第292図 3区116・117号住居掘り方

116号住居(第290～292図、P L .93・94・201、第101表)

位置 15T・16A-12グリッド。

重複 117号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-14°-W

規模 面積は11.6㎡。長辺(北東～南西)3.7m、短辺(北西～南東)3.47m、壁高は28cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。

カマド 北壁のほぼ中央に設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ145cm、焚き口部の幅50cm、袖を含めた幅は100cmを測る。3層はカマドの天井部の崩落土、4層は焼土である。8～10層は掘り方充填土である。

貯蔵穴 掘り方調査時に検出されたP 1が貯蔵穴になる可能性がある。長径50.5cm・短径48.5cm・深さ22.5cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～5層は住居埋没土、6～8層はカマド埋没土、9～14層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さは10～28cmを測る。土坑1が検出された。長径119cm・短径102.5cm・深さ22.5cmを測る。

出土遺物 床面東壁寄りから少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

117号住居(第290～294図、P L .93・94・201、第102表)

位置 15T・16A-11・12グリッド。

重複 116号住居より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-51°-E

規模 長辺(北東～南西)4.76m、短辺(北西～南東)4.72m、壁高は14～23cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央より南側に硬化面が認められる。

カマド 東壁の中央からやや北寄りに設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築されており、長さ110cm、幅52cm、袖を含めた幅は80cmを測る。支脚の礫が残されていた。

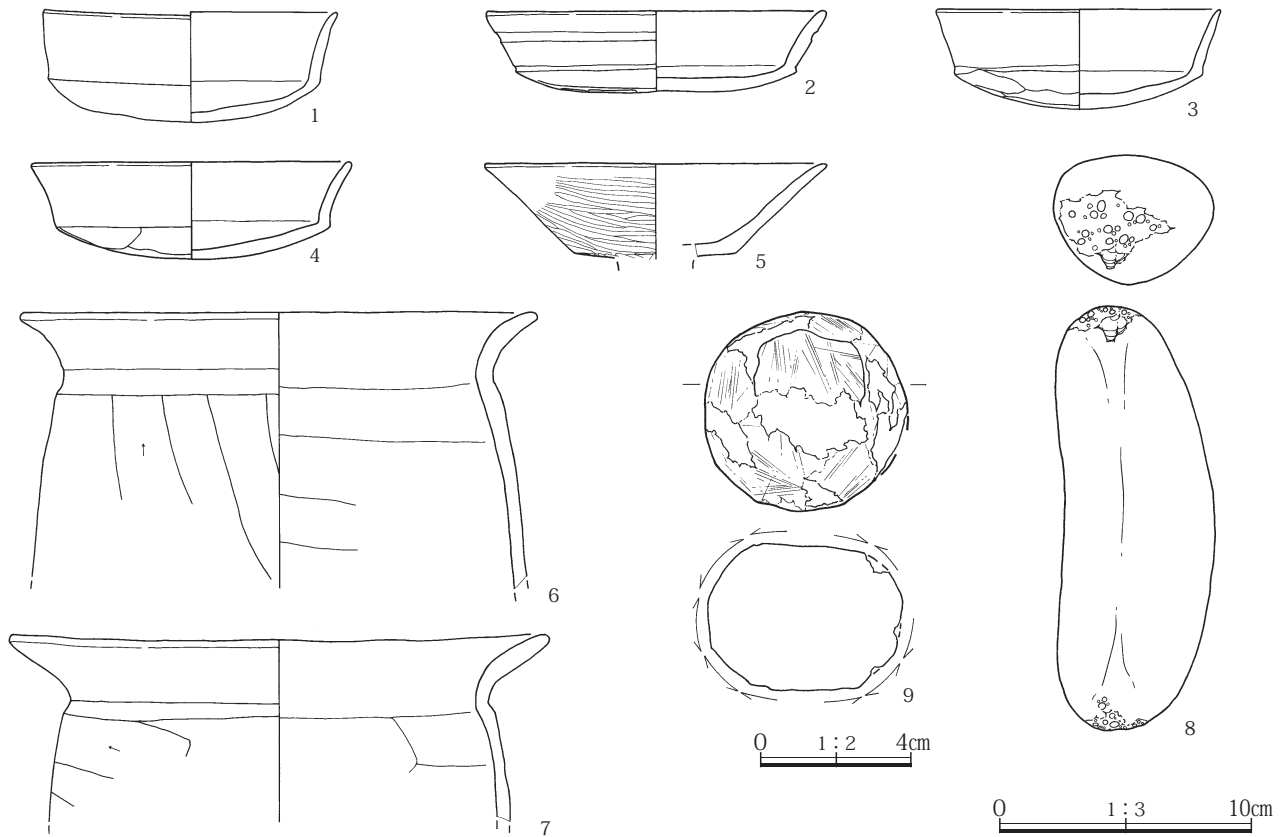
貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴を検出することはできなかった。

柱穴 支柱穴4基が検出された。P 1は長径58cm・短径35cm・深さ46cm、P 2は長径59cm・短径57cm・深さ23.5cm、P 3は長径45cm・短径39cm・深さ21.5cm、P 4は長径32cm・短径27cm・深さ40cmを測る。P 1-P 2間の距離2.1m、P 2-P 3間距離2.1m、P 3-P 4間距離2.5m、P 4-P 1間の距離は2.25mである。P 5は長径37cm・短径33cm・深さ23.5cm、P 6は長径42cm・短径37cm・深さ43cmを測る。

第101表 3区116号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-------------|-------------|-----|-------------|----|--------------------|---------------|---|-----------------------|
| | | | | 口 | 高 | 厚 | | | | |
| 第291図 PL.201 | 1 | 土師器 杯 | 2/3 | 口 | 10.1 | 高 | 3.8 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面やや磨滅。外面底部炭素吸着・黒班状。 |
| 第291図 | 2 | 土師器 杯 | 1/3 | 口 | 11.2 | 高 | 3.6 | 精選・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第291図 | 3 | 土師器 杯 | 1/6 | 口 | 12.6 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部中位に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも黒色。 |
| 第291図 PL.201 | 4 | 素材剥片? | | 長幅 | 3.6 3.4 | 厚重 | 1.2 16.24 | 滑石 | 表裏面とも摩耗して稜線が不明瞭だが、可能性として石製模造品類の素材とすることができるかもしれない。 | 剥片 |
| 第291図 PL.201 | 5 | 石製模造品 白玉 | +35 | 径幅 | 1.4 | 厚重 | 0.7 1.58 | 滑石 | 上面は折り取り後に粗く研磨、体部には粗い縦位整形痕が残る。下面側を破損する。 | 扁平礫 |
| 第291図 PL.201 | 6 | 石製模造品 白玉 | +21 | 径幅 | 1.4 | 厚重 | 1.3 16.2 | 滑石 | 上・下面を粗く研磨、体部に粗い縦位整形痕が残る。 | |
| 第291図 PL.201 | 7 | 礫石器 敲石 | +3 | 長幅 | 14.8 5.0 | 厚重 | 1.9 203.7 | 雲母石英片岩 | 小口部上端・両側縁を敲打する。 | 扁平棒状礫 |

第3章 発掘調査の記録

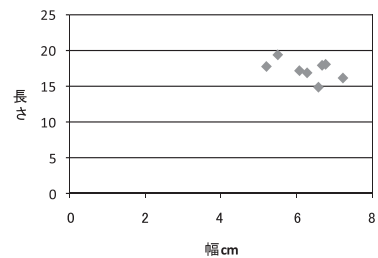


第293図 3区117号住居出土遺物

第102表 3区117号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|---------------------|--------|-------------|----------|----------------------------|---|------------------------------------|-------|
| 第293図 PL.201 | 1 | 土師器 杯 | +4 2/3 | 口 | 11.4 | 高 4.4 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削りと考えられるが、 整形の単位は不明。 | 内外面とも磨 滅。 | |
| 第293図 | 2 | 土師器 杯 | 1/2 | 口 | 13.2 | 高 3.1 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部中位に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちへら削り。 内面はナデ。 | | |
| 第293図 PL.201 | 3 | 土師器 杯 | 1/2 | 口 | 11.0 | 高 3.9 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部の平面形は楕円形。口縁部は横ナデ。底部は手持ち へら削り。内面はナデ。 | | |
| 第293図 | 4 | 土師器 杯 | 1/3 | 口 | 12.4 | 高 3.8 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 | |
| 第293図 | 5 | 土師器 高杯 | 杯部片 | 口 | 13.4 | | 精選・赤黒色粘土 粒/良好/橙 | 杯部口縁部は横位に体部は縦位にへら磨き。内面は丁寧な ナデか。 | | |
| 第293図 | 6 | 土師器 甕 | 口縁~胴部 | 口 | 20.0 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のへら削り。内面胴部は横位 のへらナデ。 | | |
| 第293図 | 7 | 土師器 甕 | 床直 口縁部~胴部 1/2 | 口 | 21.0 | | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にへら削り。内面は横位に へらナデ。 | 被熱・内面黒 色。 | |
| 第293図 PL.201 | 8 | 礫石器 敲石 | +10 | 長 幅 | 16.7 6.1 | 厚 重 | 5.0 731.7 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部上端・両側縁を敲打する。礫形状は断面三角形状を 呈する。 | 扁平棒状礫 |
| 第293図 PL.201 | 9 | 石製品 河床礫 | +2 | 長 幅 | 5.3 5.3 | 厚 重 | 3.9 60.1 | ニッ岳軽石 | 全面を面取り整形する。整形意図については不明。 | |

| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 | 備考 |
|-----|----|-----|-----|------|-----|-------|--------|-----|
| 非掲載 | 10 | 菰編石 | 7.2 | 16.8 | 3.9 | 808.9 | 砂岩 | 敲石? |
| 非掲載 | 11 | 菰編石 | 6.3 | 16.9 | 2.9 | 510.5 | 雲母石英片岩 | |
| 非掲載 | 12 | 菰編石 | 6.7 | 18 | 4 | 705.8 | 黒色片岩 | |
| 非掲載 | 13 | 菰編石 | 5.2 | 17.7 | 3.8 | 571.4 | 変質安山岩 | |
| 非掲載 | 14 | 菰編石 | 6.1 | 17.2 | 3.7 | 622.3 | 変質安山岩 | |
| 非掲載 | 15 | 菰編石 | 6.8 | 18.1 | 3.5 | 665.5 | 黒色片岩 | |
| 非掲載 | 16 | 菰編石 | 6.6 | 14.9 | 3.6 | 524.7 | 変質安山岩 | |
| 非掲載 | 17 | 菰編石 | 5.5 | 19.4 | 4 | 773.3 | 緑色片岩 | |



第294図 3区117号住居菰編石長幅比グラフ

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3～6・10層は掘り方充填土になる。7～9層はP2の埋没土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが、住居中央部でやや深い。深さは15～44cmを測る。床面中央部から土坑1が検出された。長径120cm・短径95cm・深さ48cmを測る。

出土遺物 土器は北壁寄りややまとまりがある。北西隅の床面から菰編石7点がまとまって出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

118号住居(第295図、P L.95)

位置 15T-13グリッド。

重複 191号土坑より前出。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-92°-E

規模 長辺(東西)3.15m、現状での短辺(南北)2.31m、壁高は25cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央部に硬化面が認められる。中央部から土坑が検出された。191号土坑は床下土坑になるものと思われる。現状の規模は長径120cm、短径40cm、深さ43cmを測る。

カマド 東壁に設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されており、現状での長さ65cmを測る。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

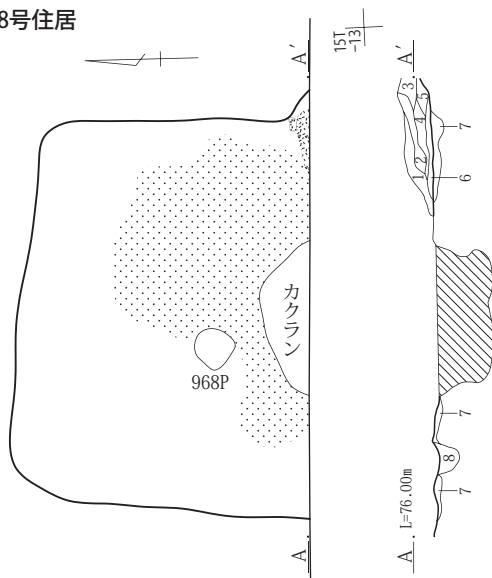
埋没土 自然埋没土である。1～7・13層は住居埋没土になるが、4～7・13層はカマドの埋没土である。8～12層は191号土坑の埋没土、14・15層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に浅い。深さは5～14cmを測る。北壁の中央下からピット1基が検出された。P1は長径32.5cm・短径30cm・深さ24cmを測る。

出土遺物 ほとんど出土していない。

時期 不明。

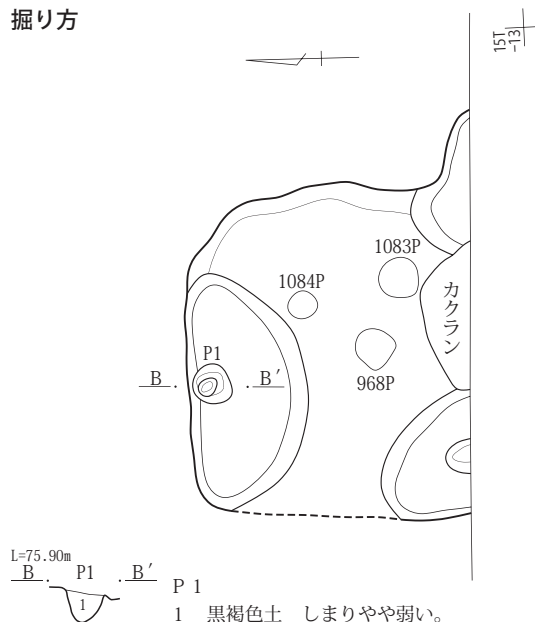
118号住居



118号住居

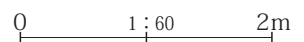
- 1 暗褐色土 ローム粒子を多量、炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多量に、焼土粒子を微量、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。

掘り方



- 5 黒褐色土 しまり強い。焼土粒子、炭化物粒子を多量に含む。
- 6 黒色土 しまり軟らかい。粘性あり。焼土ブロック、灰を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色粒子を微量含む。
- 8 黒褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。住居に伴うものではない。

第295図 3区118号住居



119号住居(第296図、P.L.94・95、第103表)

位置 15T・16A-13・14グリッド。

重複 12号井戸より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-34°-W

規模 面積は9.7㎡。長辺(北西~南東)3.82m、短辺(北東~南西)2.84m、壁高は7cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。南

壁近くからピット1基が検出された。P1は長径29cm・短径26cm・深さ10cmを測る。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

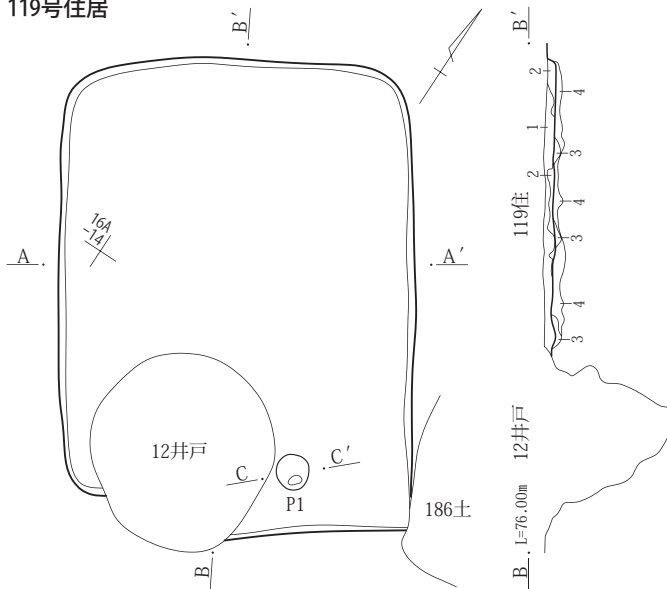
埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3・4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に浅い。深さは3~13cmを測る。

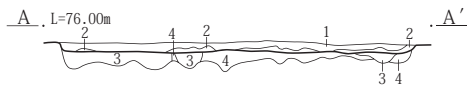
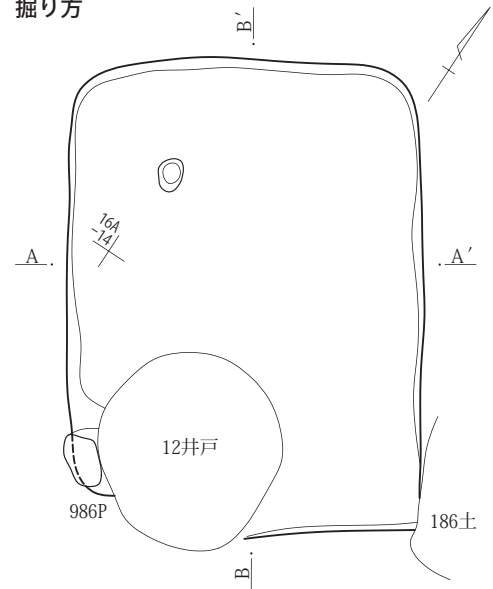
出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 出土遺物から古墳時代に比定される。

119号住居



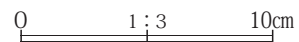
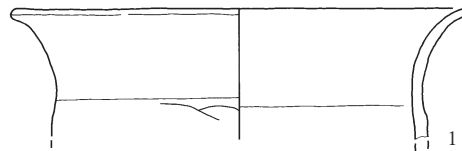
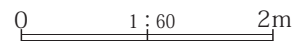
掘り方



L=75.80m P1 P1
C C' 1 黒褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。

119号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックをやや多く含む。1層よりも明るい色調。
- 3 黒褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。
- 4 褐色土 しまり弱い。軽石を含む。



第296図 3区119号住居と出土遺物

第103表 3区119号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|-------------|--------|--------------------|------------------|----------|
| 第296図 | 1 | 土師器 甕 | 口縁部~胴部片 | □ 17.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部はヘラナデ。 | 内外面とも磨滅。 |

120号住居(第297図、P L .95)

位置 16A・B-14・15グリッド。

重複 8・59号溝より前出。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は22.67㎡。現状での長辺(東西)5.4m、短辺(南北)5.02m、壁高は確認できなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマドまたは炉・貯蔵穴・柱穴 確認できなかった。

周溝 全周しているものと思われる。幅3.5～13.5cm、深さ4cmを測る。

埋没土 確認できなかった。1層は周溝の埋没土になる。

掘り方 確認できなかった。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 不明。

121号住居(第298・299図、P L .96・201、第104表)

位置 16A・B-15・16グリッド。

重複 124号住居より前出。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は9.7㎡。長辺(東西)4.89m、短辺(南北)2.93m、壁高は20cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・炉 調査区域内では確認できなかった。

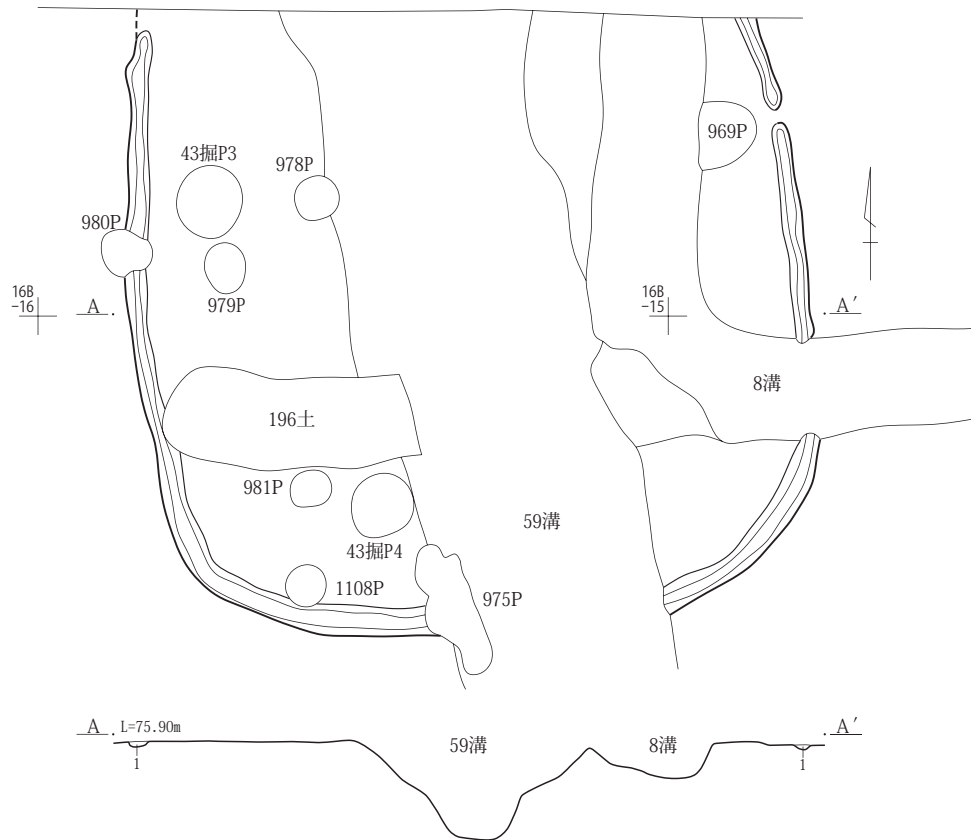
貯蔵穴 調査区域内では確認できなかった。

柱穴 支柱穴2基が検出された。P1は長径43cm・短径34cm・深さ35cm、P2は長径42cm・短径37cmを測る。P1-P2間の距離は3.75mである。

周溝 確認できなかった。

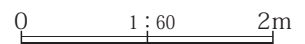
埋没土 自然埋没土である。15～17層は住居埋没土、18層は掘り方充填土になる。7～9層はP2の埋没土になる。

120号住居



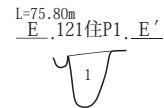
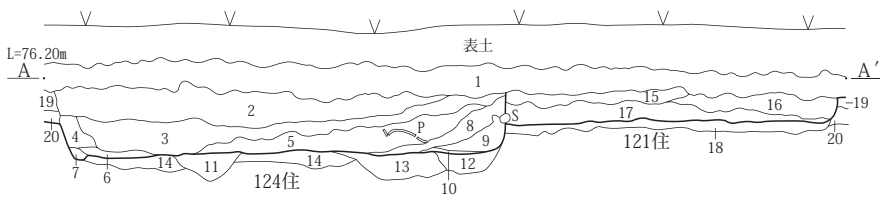
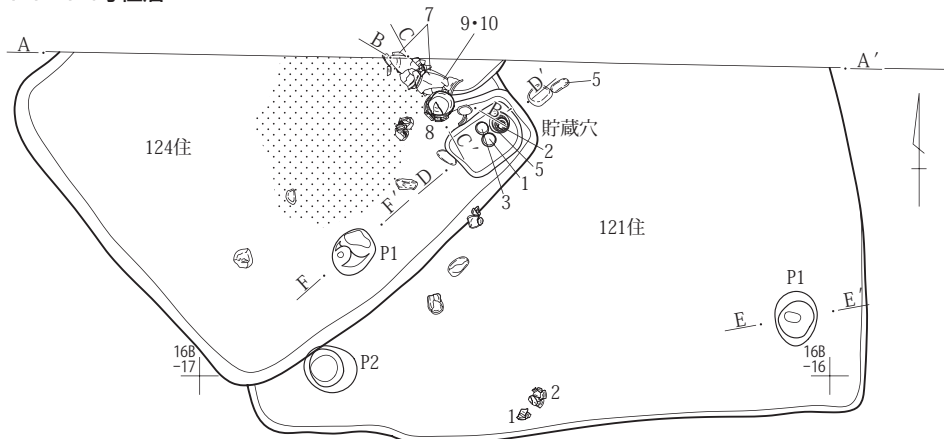
120号住居

1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、軽石を含む。



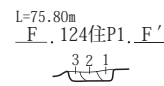
第297図 3区120号住居

121・124号住居



121号住居P 1

1 黒褐色土 しまり強い。粘土ブロック、粘土粒子を多く含む。



124号住居P 1

1 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。
 2 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く含む。
 3 黒褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを含む。

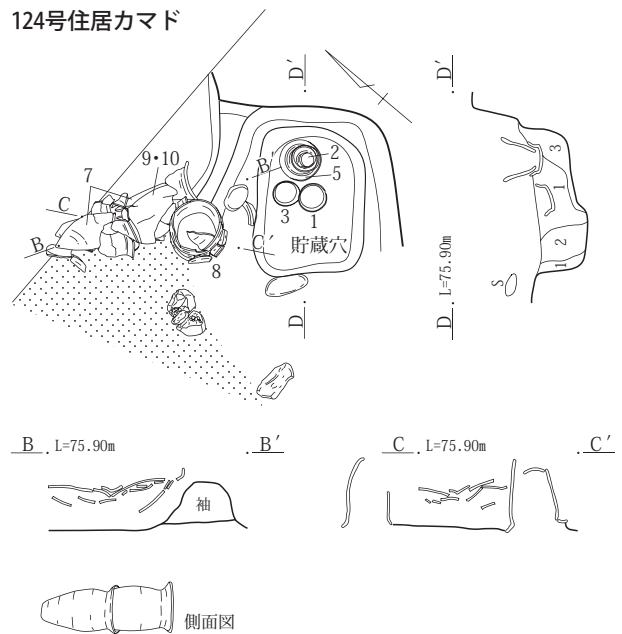
124号住居

- 1 暗褐色土 しまりやや軟らかい。粘性あり。白色粒子少量、焼土粒子を微量含む。暗灰色土が斑に混ざる。
- 2 暗褐色土 しまりやや軟らかい。粘性あり。白色粒子を多量に、ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや軟らかい。粘性あり。白色粒子を多量に、ローム粒子、ロームブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや硬く粘性あり。白色粒子、ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや硬く粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、白色粒子を少量含む。カマド崩落土を多く含む。
- 6 暗褐色土 やや軟らかく粘性あり。白色粒子を多量に、ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 7 暗褐色土 やや軟らかく粘性あり。白色粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 やや硬く粘性あり。白色粒子、焼土粒子を少量含む。カマド崩落土。
- 9 暗褐色土 やや軟らかく粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を微量含む。
- 10 黒褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を微量含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや軟らかい。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 12 暗褐色土 しまり軟らかい。粘性あり。
- 13 暗褐色土 しまりやや軟らかい。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 14 暗褐色土 しまりやや硬い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。

121号住居

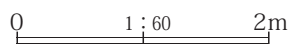
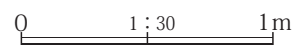
- 15 暗褐色土 しまりやや軟らかい。粘性あり。白色粒子を少量、ローム粒子を微量含む。
- 16 暗褐色土 しまりやや軟らかい。粘性あり。白色粒子を少量、ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 17 暗褐色土 しまりやや軟らかい。粘性あり。白色粒子、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 18 暗褐色土 しまりやや硬い。粘性あり。ロームブロック、白色粒子を含む。
- 19 暗褐色土層 しまりやや硬い。粘性あり。白色粒子を微量含む。
- 20 ローム漸移層

124号住居カマド



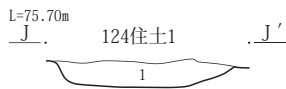
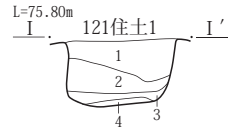
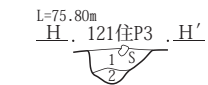
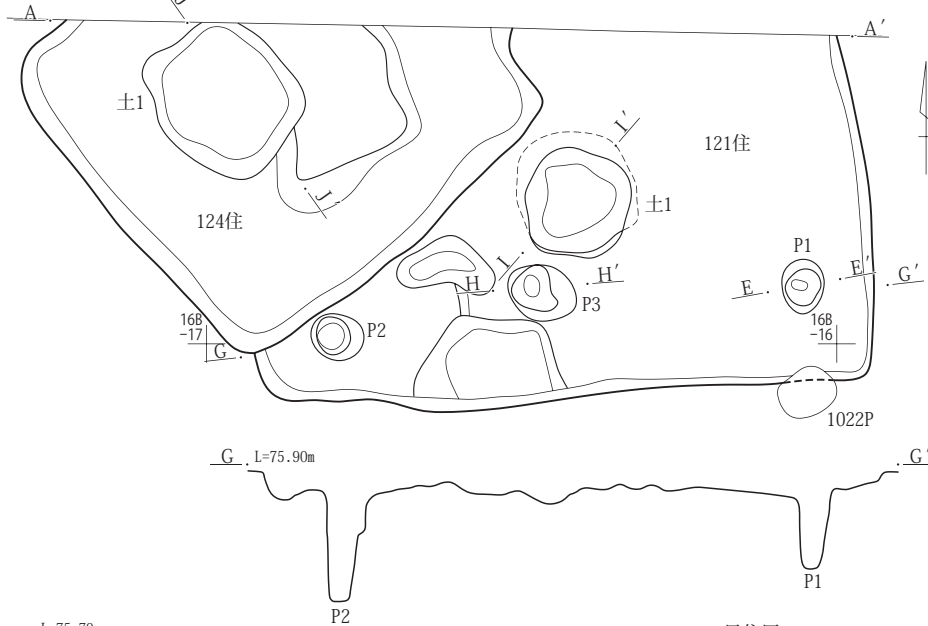
124号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を多く、焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。白色粘土ブロック、白色粘土粒子を含む。



第298図 3区121・124号住居と124号住居カマド

掘り方



121号住居 P 3

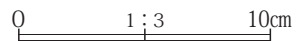
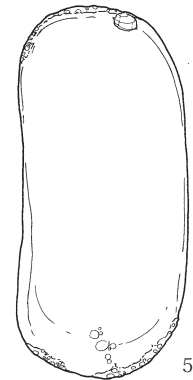
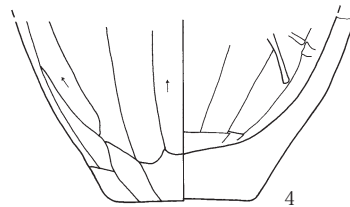
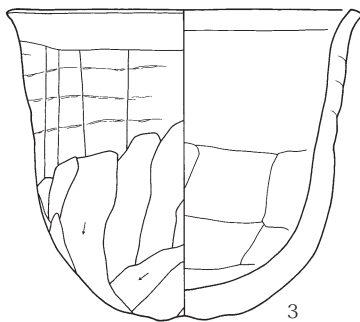
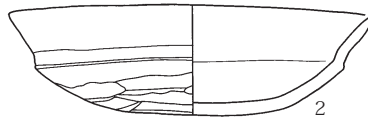
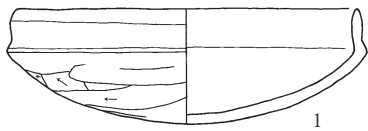
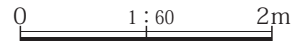
- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を多く含む。

121号住居内土坑 1

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 4 褐色土 しまり強い。白色粘土ブロックを含む。

124号住居内土坑 1

- 1 暗褐色土 しまりやや軟らかく粘性あり。ロームブロックを多量に含む。



第299図 3区121・124号住居掘り方と121号住居出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第104表 3区121号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|-------------|--------|-------------|--------|--------------------|-------------------|---|-------------------------|
| | | | | | | | | | | |
| 第299図 PL.201 | 1 | 土師器 杯 | 床直 2/3 | 口 | 13.3 | 高 | 4.5 | 粗砂粒少/良好/に ぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面口縁部と 内面は漆塗り か。 |
| 第299図 PL.201 | 2 | 土師器 杯 | 床直 3/4 | 口 | 14.2 | 高 | 4.3 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面ナデと考え られる。 | |
| 第299図 PL.201 | 3 | 土師器 鉢 | 1/3 | 口 | 13.2 | 高 | 12.2 | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。体部は縦位、斜縦位にナデに近いヘラ削り。 内面横にヘラナデ。 | 被熱の為か炭 素吸着・外面 磨滅。 |
| 第299図 | 4 | 土師器 甕 | 底部～胴部下位 | 底 | 5.6 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 胴部は斜縦位にヘラ削り。底部はヘラ削り・ヘラナデ。内 面胴部はヘラナデ。 | 内外面とも炭 素吸着。 |
| 第299図 PL.201 | 5 | 礫石器 敲石 | +4 | 長 幅 | 14.6 6.7 | 厚 重 | 4.1 559.1 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に敲打痕。特に、上端側小口部は激しく敲打さ れ、礫形状が変形している。 | 扁平棒状礫 |

掘り方 全体的に浅く掘り下げている。深さは2～10cmを測る。土坑1基とピット1基が検出された。土坑1は長径91cm・短径87cm・深さ52.5cmを測る。埋没土は4層に分かれた。P3は長径57.5cm・短径44.5cm・深さ28cmを測る。P1とP2のほぼ中間から検出された。埋没土は2層に分かれた。

出土遺物 南壁寄りです師器杯(第299図1・2)が出土する。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

124号住居(第298～301図、P L .96～99・202・203、第105・106表)

位置 16B-16・17グリッド。

重複 121号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-50°-E

規模 現状の面積は6.6㎡。長辺(北東～南西)3.21m、短辺(北西～南東)3.08m、壁高は45～57cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。

カマド 東壁に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されている。カマドには土師器甕が袖や焚き口天井部の構築材に使用されている。8層はカマド天井部の崩落土である。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径58cm・短径42.5cm・深さ23cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。上層から土器が出土している。

柱穴 確認できなかった。南壁に近接してピット1基が検出された。長径30.5cm・短径28.55cm・深さ8.5cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。2～7層は住居埋没土、8

～10層はカマド埋没土、11～14層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さは5～20cmを測る。土坑1が検出された。長径117cm・短径107.5cm・深さ19.5cmを測る。

出土遺物 カマドや貯蔵穴から土師器杯・甕がまとまって出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

122号住居(第302・303図、P L .96・97・203、第107表)

位置 15T・16A-16・17グリッド。

重複 123号住居、43号掘立柱建物P1と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈する。北東部は一段高い。

主軸方位 N-124°-W

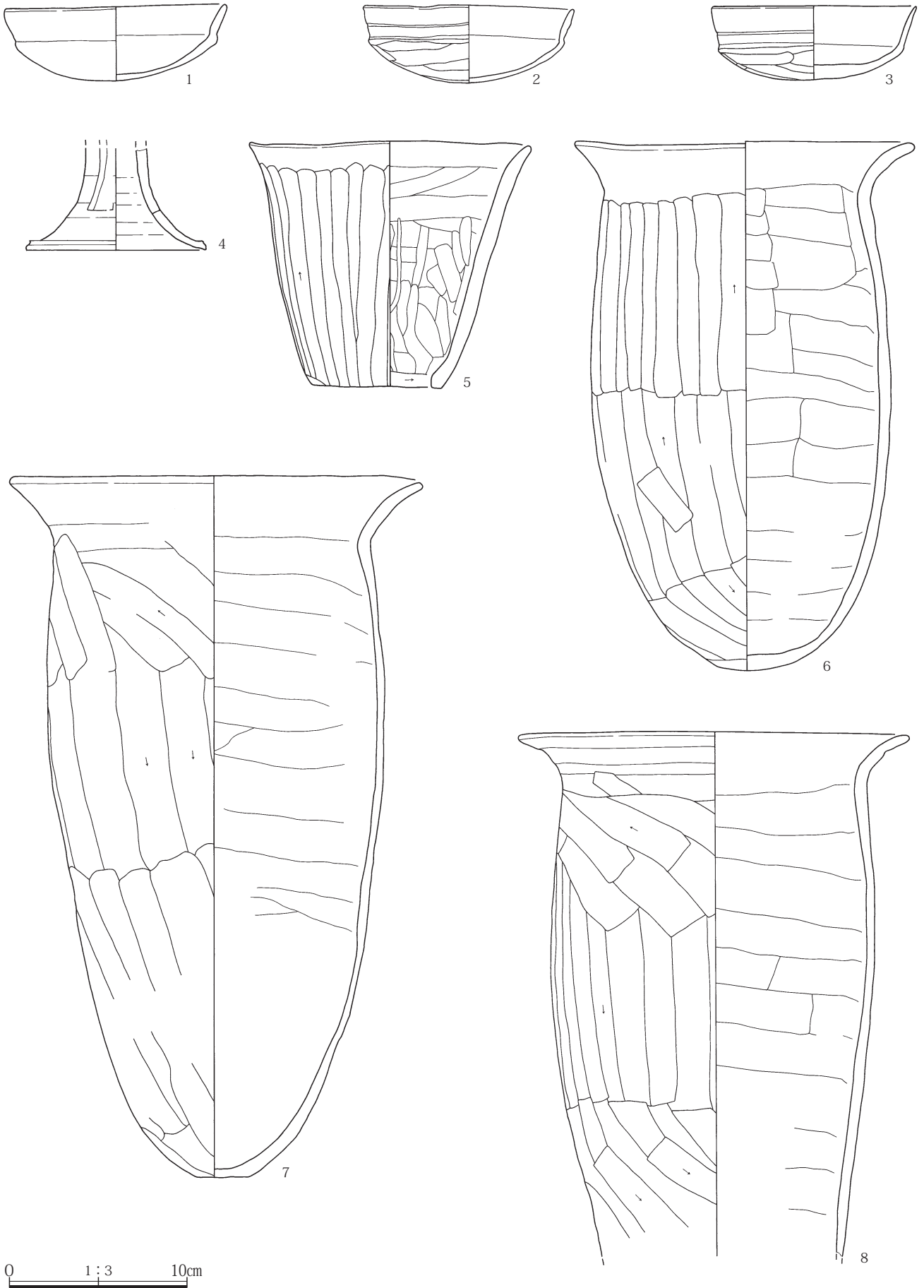
規模 面積11.3㎡。長辺(北西～南東)3.27m、短辺(北東～南西)3.27m、壁高は13～33cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。

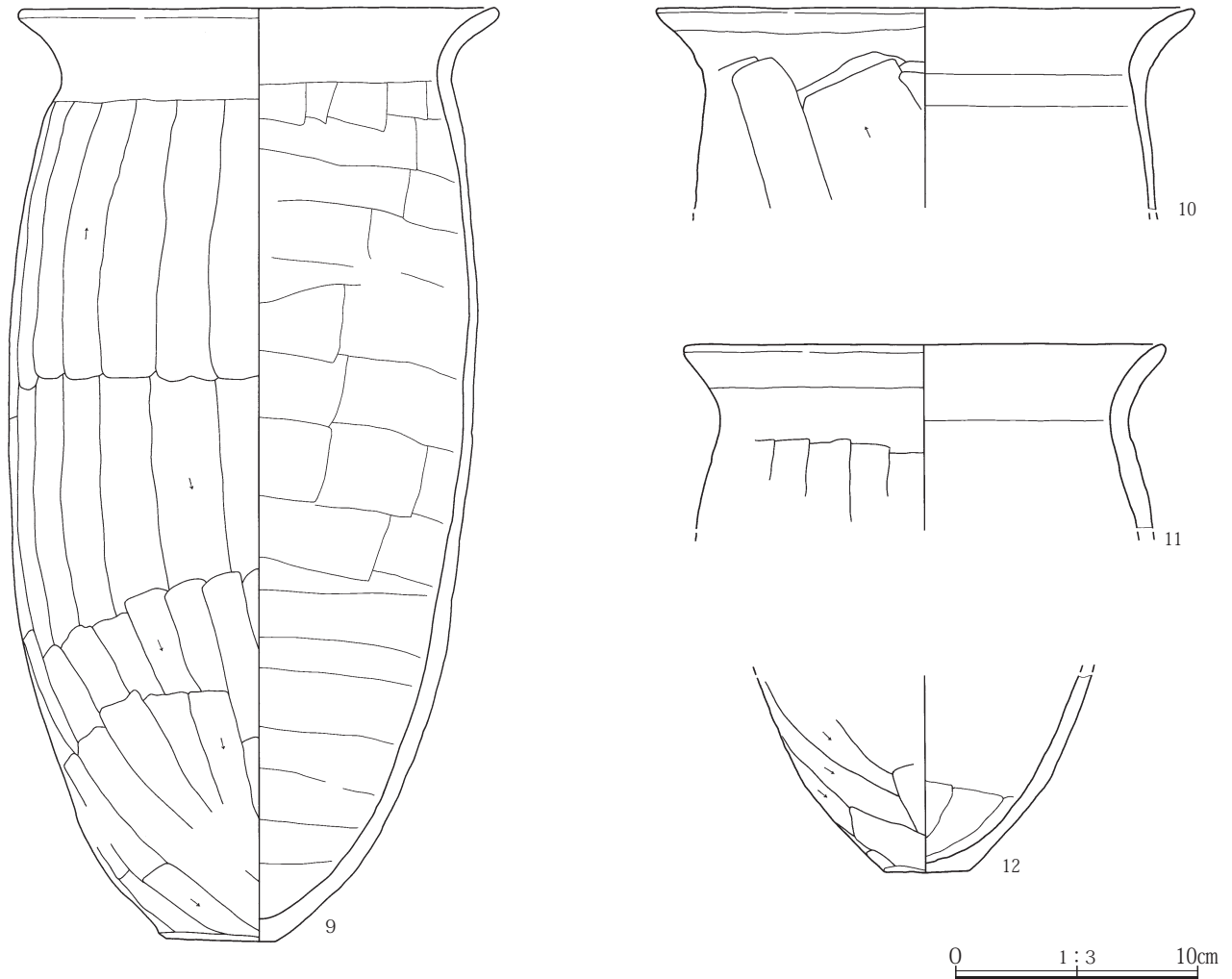
カマド 西壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ183cm、焚き口部の幅63cm、袖を含めた幅は105cmを測る。支脚として土師器の杯が残されていた。5層はカマド天井部の崩落土の可能性もある。6層は焼土、22～29層は掘り方充填土になる。

貯蔵穴 床面の南西隅から検出された。長径83cm・短径59cm・深さ21cmの楕円形を呈する。

柱穴 P1～P3が検出された。P1は長径53cm・短径37.5cm・深さ39cm、P2は長径47.5cm・短径35cm・深さ45cm、P3は長径59cm・短径38cm・深さ50cmを測る。



第300図 3区124号住居土遺物(1)

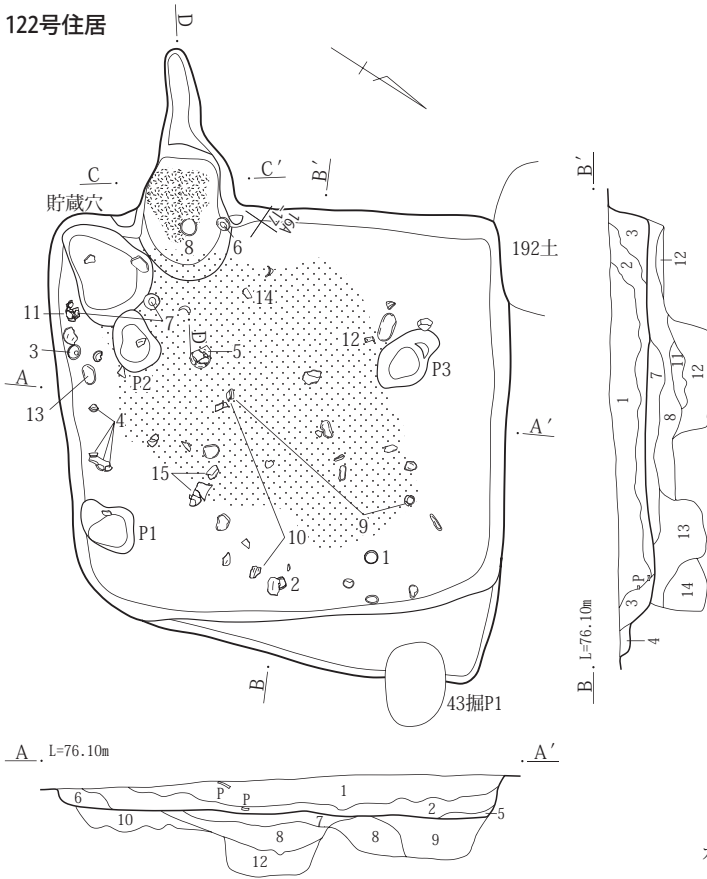


第301図 3区124号住居出土遺物(2)

第105表 3区 124号住居出土遺物(1)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|-----------------|--------|-------------|---|--------------------|-----------------|--|-------------------------------|
| | | | | 口 | 高 | 底 | | | | |
| 第300図 PL.202 | 1 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 完形 | 口 | 12.3 | 高 | 4.1 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削りと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第300図 PL.202 | 2 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 口縁一部欠 | 口 | 11.6 | | | 粗砂粒・細砂粒/良好/橙 | 口縁部は2回に分けて横ナデ。中位に弱い稜を有する。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第300図 PL.202 | 3 | 土師器 杯 | 貯蔵穴 口縁一部欠 | 口 | 12.3 | 高 | 4.1 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削りと考えられる。 | 外面の一部に炭素吸着・器面磨滅。 |
| 第300図 | 4 | 須恵器 器台 | 脚部下位1/4 | 底 | 10.0 | | | 白色鈹物粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。脚部に長方形あるいは長三角形の透孔を3ヶ所に配す。 | |
| 第300図 PL.202 | 5 | 土師器 甌 | 貯蔵穴 完形 | 口 底 | 15.6 7.2 | 高 | 13.7 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位の丁寧なへら削り。内面胴部上位は横位、中位以下は縦位のへらナデ。最下位と下端面はへら削り。 | 外面の一部に炭素吸着・黒班状。 |
| 第300図 PL.202 | 6 | 土師器 甕 | 口縁・胴部一部欠 | 口 | 18.6 | 高 | 29.4 | 粗砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部上~中位は縦位の、下位は斜位のへら削り。内面は横位のへらナデ。 | 胴部外面炭素吸着。被熱の炭素吸着。やや磨滅。 |
| 第300図 PL.202 | 7 | 土師器 甕 | カマド 3/4 | 口 底 | 22.5 3.0 | 高 | 39.0 | 粗砂粒多・細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は4回に分けて斜縦位のへら削り。底部はへら削り。内面胴部は横位のへらナデ。 | 外面胴部下位に黒色の付着物。内外面底部に炭素吸着・黒班状。 |
| 第300図 PL.202 | 8 | 土師器 甕 | カマド 口縁部~胴部下位3/4 | 口 | 21.5 | | | 粗砂粒多/良好/にぶい橙 | 口縁部は4回に分けて横ナデ。胴部上位は斜位、中位は縦位、下位は斜位のへら削り。内面胴部は横位のへらナデ。 | 内外面とも被熱の為変色。 |
| 第301図 PL.203 | 9 | 土師器 甕 | カマド 胴部一部欠損 | 口 底 | 19.3 4.5 | 高 | 38.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は5回に分けて斜縦位のへら削り。内面胴部は横位のへらナデ。 | 内外面底部周辺炭素吸着・黒班状。外面全体に被熱・変色。 |

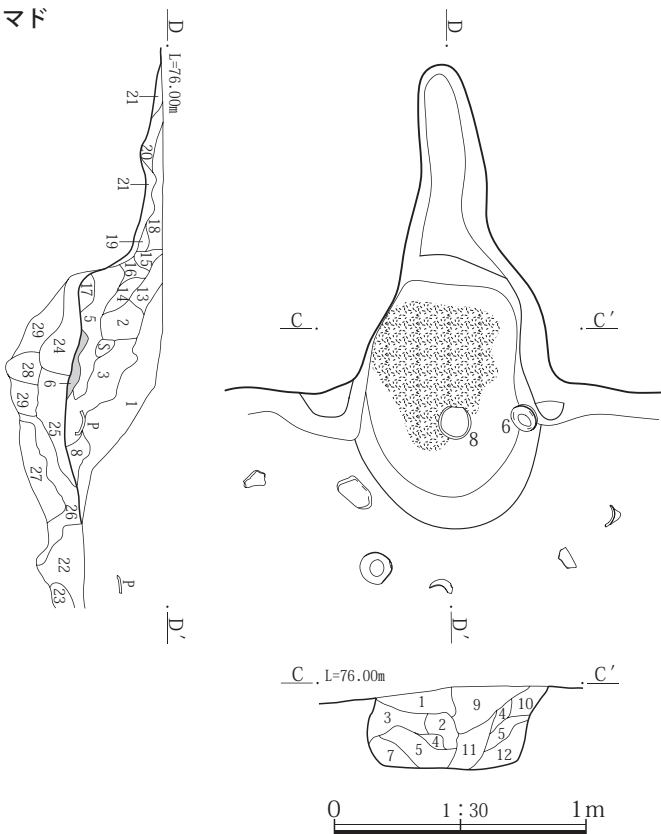
122号住居



122号住居

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石、炭化物粒子を少量、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を少量、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。明るい色調。
- 5 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを少量含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子を含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、粘土粒子、ロームブロックを含む。
- 9 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、粘土ブロックを多く含む。
- 11 暗褐色土 12層よりロームブロックを少量含む。
- 12 暗褐色土 9層よりロームブロックと粘土ブロックの径が大きい。
- 13 暗褐色土 しまり強い。粘土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 14 暗褐色土 しまり強い。粘土ブロックを含む。

カマド

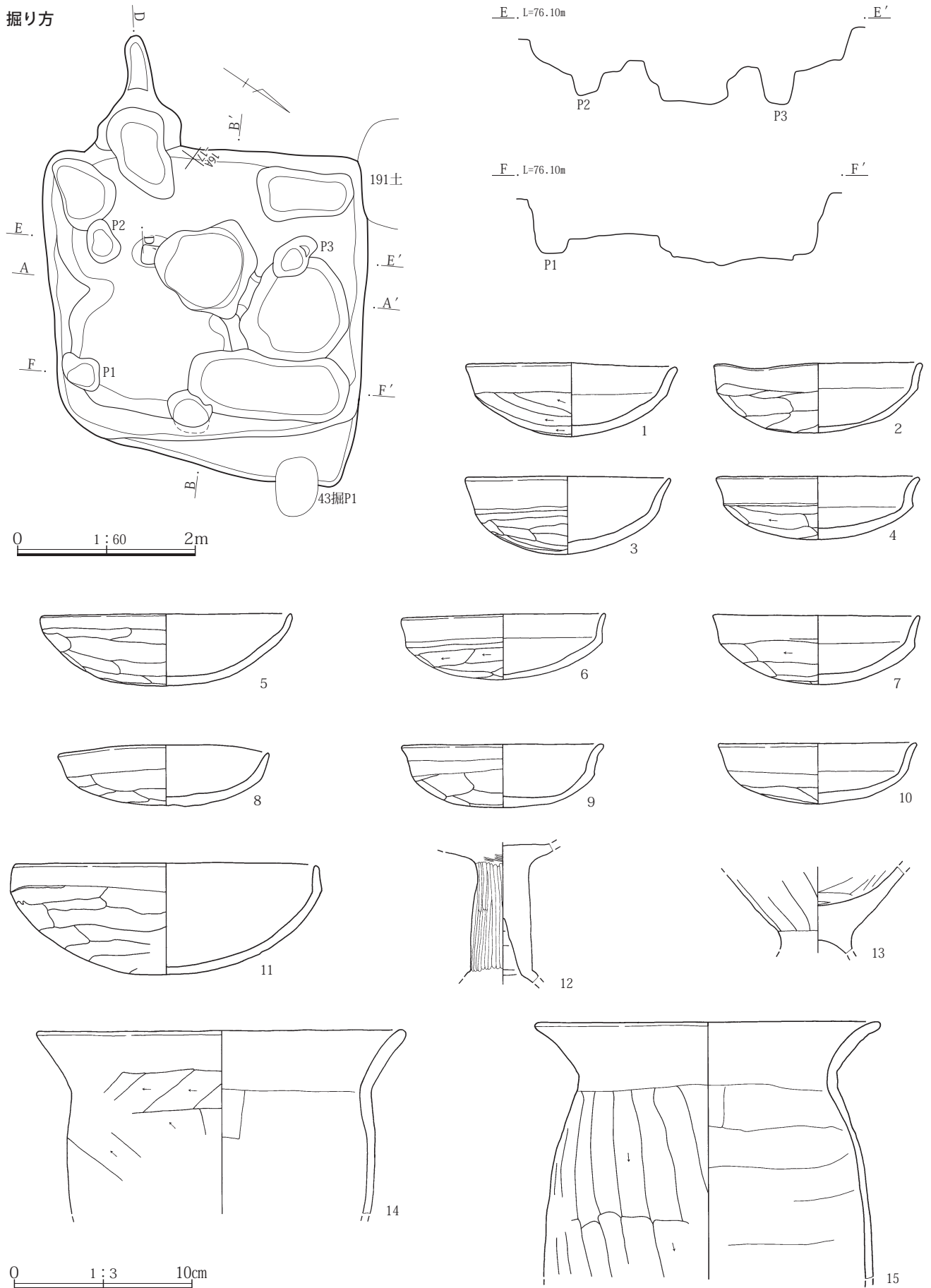


カマド

- 1 暗褐色土 しまり強い。白色軽石、焼土粒子を少量、ローム粒子を含む。
- 2 褐色土 しまり強い。焼土粒子を少量、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 1層よりローム粒子少ない。
- 4 褐色土 しまり強い。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 5 褐色土 しまり強い。粘性強い。ロームブロック主体。
- 6 焼土
- 7 黒褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、炭化物ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 10 褐色土 しまり強い。粘土ブロックを含む。
- 11 褐色土 しまり強い。焼土ブロックを含む。
- 12 赤褐色土 しまり強い。焼土ブロックを含む。
- 13 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 14 赤褐色土 しまり強い。炭化物粒子を多く、焼土ブロックを含む。
- 15 赤褐色土 しまり強い。焼土ブロックを含む。
- 16 赤褐色土 14層より焼土粒子少ない。
- 17 暗褐色土 しまりやや弱い。炭化物粒子を少量含む。
- 18 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 19 褐色土 粘土ブロックを含む。
- 20 黒褐色土 焼土粒子を含む。
- 21 黒褐色土 焼土粒子を微量含む。
- 22 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子が層状に堆積しているのがみられる。炭層あり。
- 23 黒褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 24 黒褐色土 しまり強い。ローム粒子、粘土粒子、焼土粒子、炭化物粒子、灰を含む。
- 25 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を含む。
- 26 黒褐色土 23層よりロームブロックが少ない。
- 27 黒褐色土 26層に焼土粒子を少量含む。
- 28 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多量に、焼土粒子を少量含む。
- 29 黒褐色土 24層より焼土粒子少ない。

第302図 3区122号住居

掘り方



第303図 3区122号住居掘り方と出土遺物

第106表 3区124号住居出土遺物(2)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|----------------|-----|------|--|---------------------|--------------------------------------|----------|
| 第301図 | 10 | 土師器 甕 | カマド 口縁~胴部片 | 口 | 21.8 | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位 のヘラナデ。 | 内外面炭素吸着。 |
| 第301図 | 11 | 土師器 甕 | 口縁~胴部片 | 口 | 19.4 | | 細砂粒・片岩/良好/ にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部はヘラ ナデ。 | |
| 第301図 | 12 | 土師器 甕 | カマド 底部片~胴部片 | 底 | 3.4 | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 胴部は斜位のヘラ削り。底部はナデ。内面胴部はヘラナデ。 | 内面磨滅。 |

第107表 3区122号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-------------------|-----|------|-------|--------------------|--|----------------------------|
| 第303図 PL.203 | 1 | 土師器 杯 | +12 完形 | 口 | 11.6 | 高 4.1 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第303図 PL.203 | 2 | 土師器 杯 | 床直 口縁一部欠 | 口 | 11.4 | 高 3.9 | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 器形は歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。 | |
| 第303図 PL.203 | 3 | 土師器 杯 | +10 口縁一部欠 | 口 | 11.3 | 高 4.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともや や磨滅。 |
| 第303図 PL.203 | 4 | 土師器 杯 | +3 完形 | 口 | 11.2 | 高 3.5 | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第303図 PL.203 | 5 | 土師器 杯 | +4 完形 | 口 | 13.8 | 高 4.0 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデと考 えられる。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第303図 PL.203 | 6 | 土師器 杯 | カマド 口縁一部欠 | 口 | 11.3 | 高 3.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内面磨耗・底 部外面炭素吸 着・黒斑状。 |
| 第303図 PL.203 | 7 | 土師器 杯 | 床直 完形 | 口 | 11.4 | 高 3.8 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面ナデと考 えられる。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第303図 PL.203 | 8 | 土師器 杯 | カマド 口縁一部欠 | 口 | 11.7 | 高 3.4 | 細砂粒/良好/橙 | 器形は歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデと考えられる。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第303図 | 9 | 土師器 杯 | 床直 2/3 | 口 | 11.2 | 高 3.4 | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部中位に弱い稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ 削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第303図 | 10 | 土師器 杯 | 床直 2/3 | 口 | 10.9 | 高 3.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第303図 PL.203 | 11 | 土師器 杯 | +12 1/2 | 口 | 16.6 | 高 6.1 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は ナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第303図 | 12 | 土師器 高杯 | +20 杯部下位 ~脚部中位 | | | | 粗砂粒/良好/橙 | 脚部外面は縦位のヘラ磨き。内面はヘラ削り。 | |
| 第303図 | 13 | 土師器 台付甕 | +11 胴部下位 | | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 外面は丁寧なヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第303図 | 14 | 土師器 甕 | +16 口縁~胴部片 | 口 | 20.4 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位に粗雑なヘラ削り。内面はヘ ラナデ。 | 被熱。 |
| 第303図 PL.203 | 15 | 土師器 甕 | +5 口縁~胴部 | 口 | 19.0 | | 粗砂粒多/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部は横位 のヘラナデ。 | 外面炭素吸着 ・煤か。 |

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1~6層は住居埋没土、8~10層はカマド埋没土、7~12層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に土坑状の掘り込みが認められる。深さは15~50cmを測る。床面中央部の土坑は長径110cm・短径106cm・深さ43cmを測る。

出土遺物 カマド及び前面から土師器杯(第303図5~8)が出土する。土師器杯は南壁寄りややまとまりがある。ほか全体に埋没土からまとまりなく出土する。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

123号住居(第304図、P L.97、第108表)

位置 16A・B-16・17グリッド。

重複 200土坑、60号溝より前出で、124号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-28°-W

規模 面積11.6㎡。長辺(北東~南西)3.64m、短辺(北西~南東)3.4m、壁高は5~8cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 北壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ50cm、焚き口部の幅50cmを測る。残存状況は悪い。

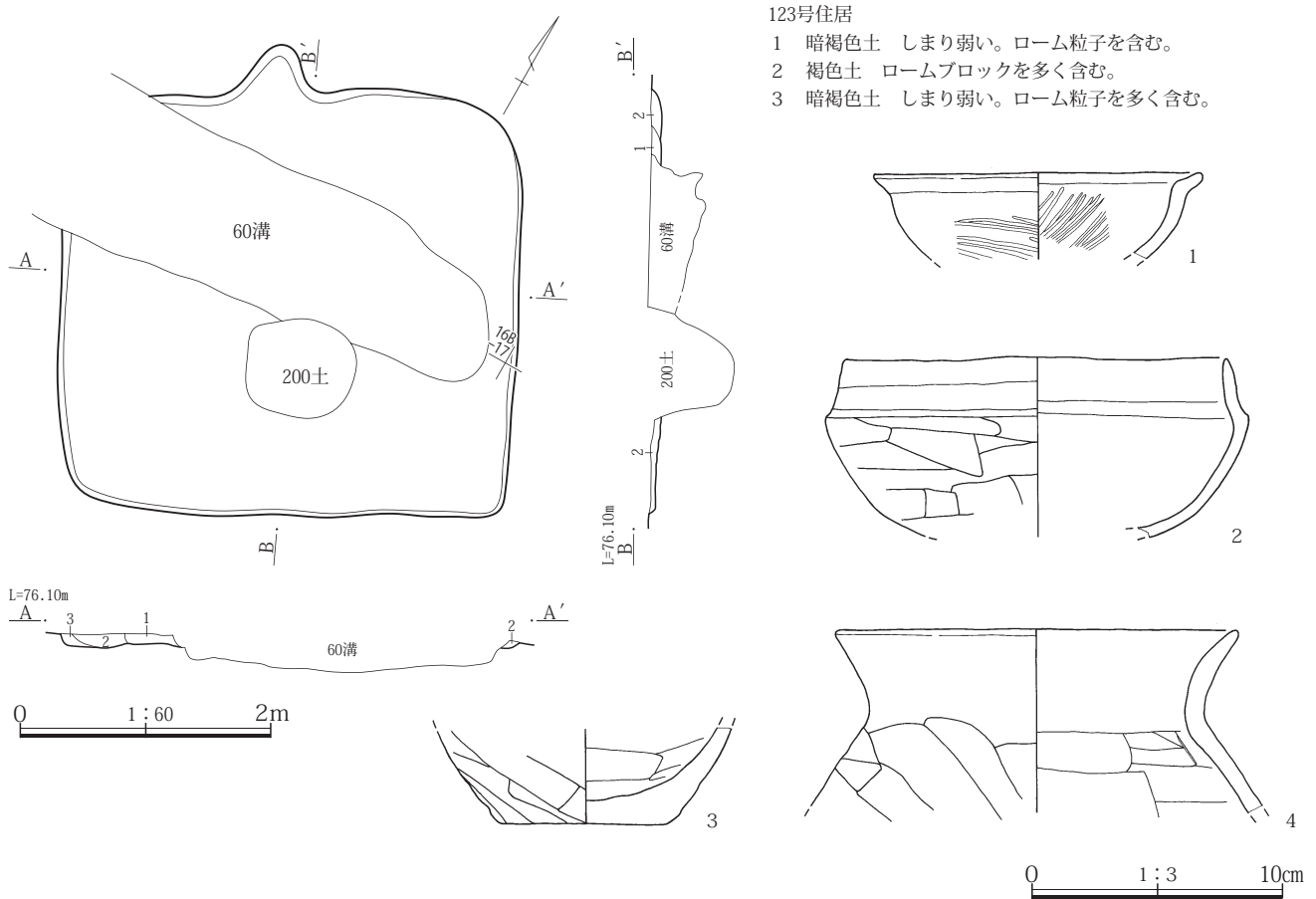
貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1~3層は200号土坑の埋没土、4~6層は住居埋没土になる。

掘り方 確認できなかった。

出土遺物 埋没土から少量の遺物が出土する。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。



123号住居

- 1 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を多く含む。

第304図 3区123号住居と出土遺物

第108表 3区123号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|-------------|--------|--------------------|-----------------------------------|---------------|
| 第304図 | 1 | 土師器 杯 | 口縁～体部片 | 口 13.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部は斜位にヘラ磨き。内面は斜放射状にヘラ磨き。 | |
| 第304図 | 2 | 土師器 杯 | 1/5 | 口 15.0 | 精選/良好/にぶい 赤褐 | 口縁部中位に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 被熱・変色・両面とも磨滅。 |
| 第304図 | 3 | 土師器 甕 | 底部～胴部下位 | 底 6.5 | 粗砂粒/良好/にぶい 黄褐 | 胴部は斜位にヘラ削り。底部はヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第304図 | 4 | 土師器 甕 | 口縁～胴部2/3 | 口 15.8 | 粗砂粒・片岩/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面磨滅。 |

125号住居(第305・306図、P L .98・99・115・203、第109表)

位置 25 T・26 A-9・10グリッド。

重複 162～164号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-85°-E

規模 面積は9.4㎡。長辺(南北)3.79m、短辺(東西)2.85m、壁高は5～18cmを測る。

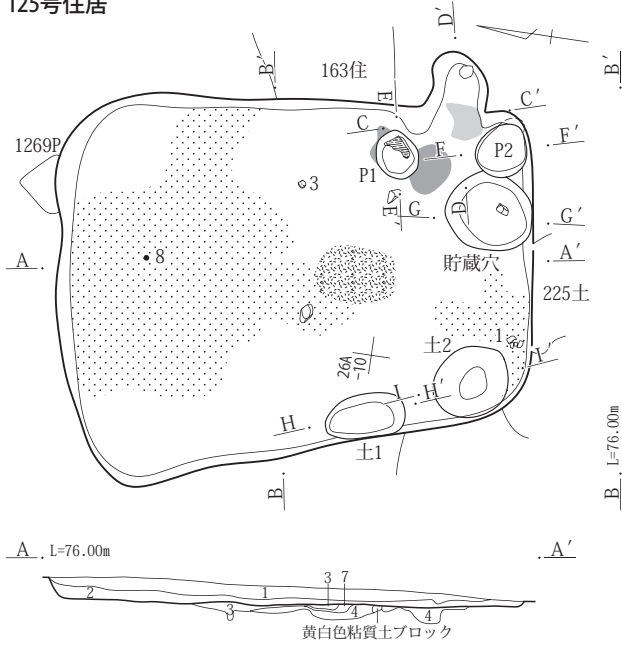
床面 ほぼ平坦である。床面の北部と南部にかけて硬化面が認められる。土坑1・土坑2が検出された。土坑1は長径64cm・短径35cm・深さ11cm、土坑2は長径

63.5cm・短径35.5cm・深さ32.5cmを測る。

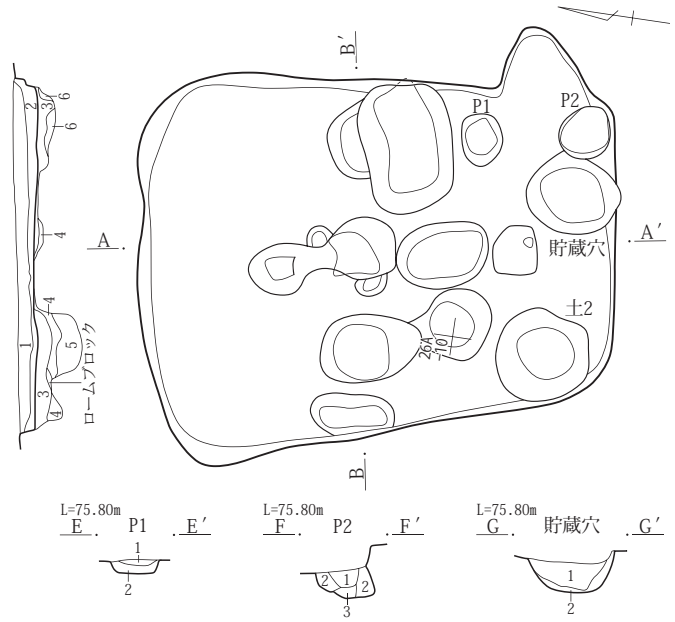
カマド 東壁の南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築され、長さ80cm、焚き口部の幅40cmを測る。1～6層はカマド埋没土、5層は焼土、6層は灰層になる。7・8層は掘り方になる。P1とP2は袖石の抜き取り穴になる可能性がある。P1は長径38.5cm・短径32.5cm・深さ11.5cm、P2は長径44.5cm・短径40cm・深さ22.5cmを測る。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径70cm・短径62.5cm・深さ27.5cmの楕円形を呈する。埋没土は2層に

125号住居



掘り方



125号住居

- 1 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロック、白色軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 6 黄白色粘性土 やや硬くしまり、暗褐色土を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土を多量に、炭化物を含む。

住居内土坑1

- 1 暗褐色土 硬くしまり粘性少しあり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。

住居内土坑2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石、炭化物粒子を少量、ロームブロックを含む。

P1

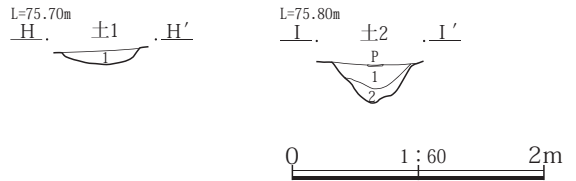
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、灰を含む。
- 2 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロックを多量に、灰、黄白色粘質土ブロックを含む。

P2

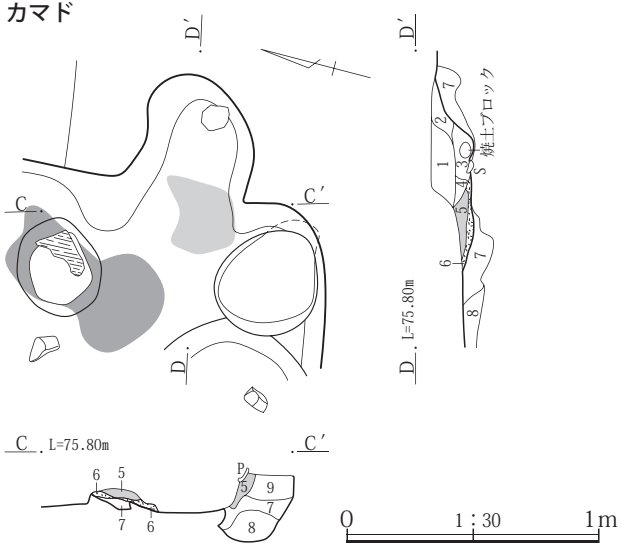
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、黄白色粘質土ブロックを多量に、暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。



カマド



カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ロームブロック、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 3 灰褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、焼土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を多量に含む。
- 5 焼土
- 6 灰
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子、白色軽石を含む。

第305図 3区125号住居

分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

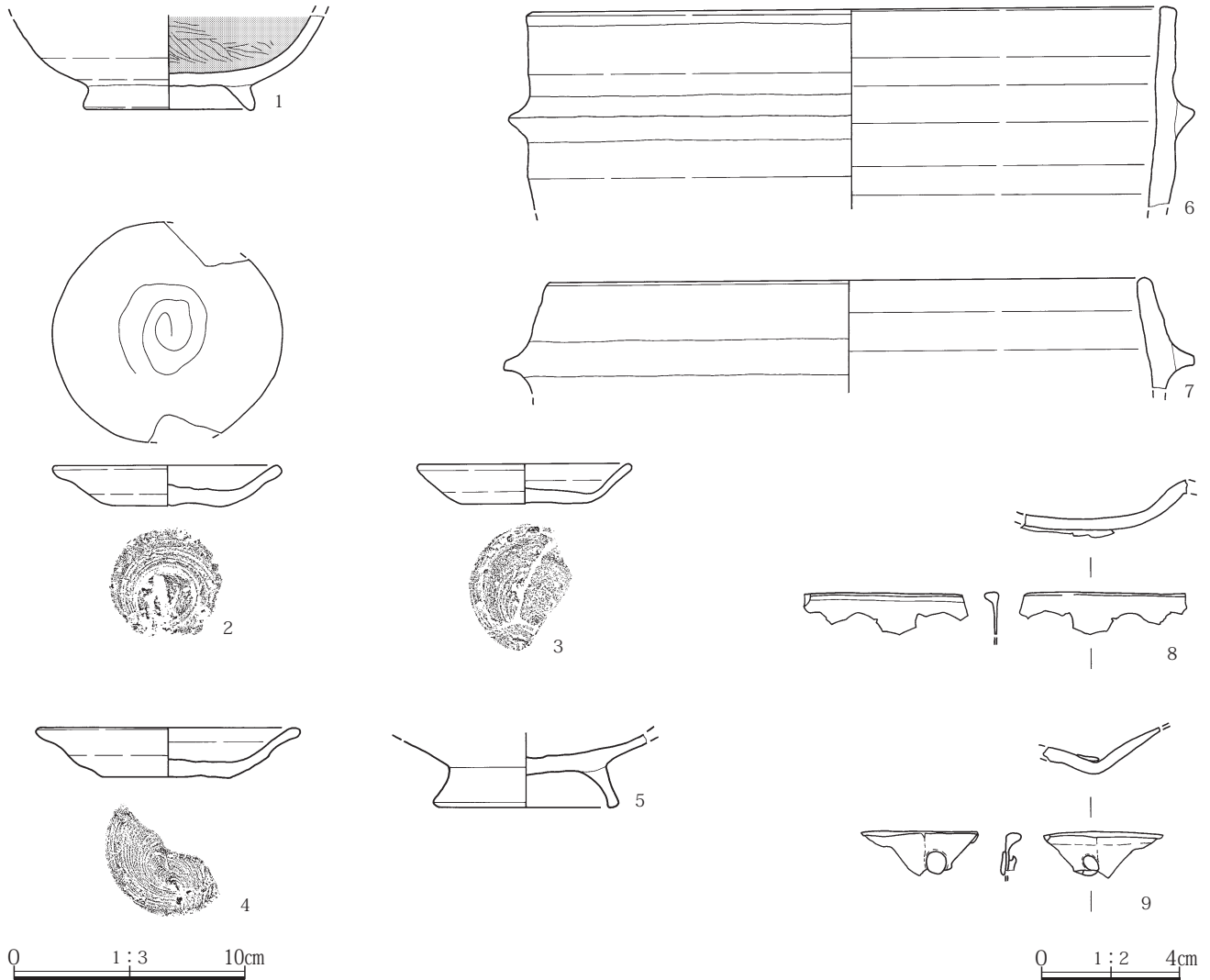
埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3～6層は掘り方充填土になる。

掘り方 住居中央部から南側にかけて掘り下げられ。深

さは5～14cmを測る。

出土遺物 カマド周辺から少量の土器片が出土している。中央北寄りでは銅鏡の可能性のある不明金属器(第306図8・9)が出土する。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。



第306図 3区125号住居出土遺物

第109表 3区125号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|------------------|-----|-------------|---|--------------------|--|------------------------------------|-----------------|
| | | | | 底 | 高 | | | | | |
| 第306図 | 1 | 黒色土器 椀 | 床直 1/4 | 底 | 7.0 | | 細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転は右回りか。内面黒色処理、横位・斜横 位にへら磨き。高台部は付け高台。 | 被熱のため変 質。 | |
| 第306図 PL.203 | 2 | 須恵器 杯 | 一部欠 | 口底 | 9.5 4.8 | 高 | 1.8 | 粗砂粒/酸化焰/浅 黄 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整。 | 内外面の一部 炭素吸着。 |
| 第306図 PL.203 | 3 | 須恵器 杯 | +5 1/2 | 口底 | 9.0 5.0 | 高 | 1.7 | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第306図 | 4 | 須恵器 杯 | 掘り方 1/4 | 口底 | 10.9 5.4 | 高 | 2.1 | 粗砂粒/酸化焰/明 黄褐 | ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り後、無調整。 | 炭素吸着。 |
| 第306図 | 5 | 須恵器 椀 | 掘り方 体部下 位～高台部 | 底 | 6.7 | 台 | 7.5 | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転は右回り。高台部は底部切り離し後の付 け高台。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第306図 | 6 | 須恵器 羽釜 | 口縁部片 | 口 | 27.0 | | 粗砂粒/酸化焰/橙 | ロクロ整形。内外面とも横ナデ。鏝は断面三角形で成形後 に貼付。 | | |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-------------|-------------|-----|------|--|--------------------|---|------------|
| 第306図 | 7 | 須恵器 羽釜 | 口縁部片 | 口 | 25.4 | | 粗砂粒/酸化焰/橙 | ロクロ整形。口縁部は横ナデ。 | 被熱・一部炭素吸着。 |
| 第306図 PL.203 | 8 | 銅製品 器種不詳 | + 4 | | | | | 体部厚さ0.7mmで口縁部は内側に逆「L」字状に張り出す。口縁部幅は4mm。平面形状は、残存部端部で輪花状をなすが、全体形状は不明。 | |
| 第306図 PL.203 | 9 | 銅製品 器種不詳 | + 4 | | | | | 体部厚さ0.7mmで口縁部は片側に逆「L」字状に張り出す。口縁部幅は4mm。破片が小さく全体形状は不明。残存部一端の口縁は、端部上面の平坦面を捻るようにして次第に直口となる。体部にはリベットが認められる。厚さや口縁部形状が似る第 図8と同一個体と仮定すると、口縁部が外方に突き出したカ所の内面張り出しをなくす形状から、注ぎ口の可能性がある。現状でリベットは内側に突き出している。 | |

第110表 3区126号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|-------------|-----|-------------|------------------|--------------------|---|------------|
| 第308図 PL.203 | 1 | 須恵器 杯 | 完形 | 口底 | 9.4 5.6 | 高 1.7 | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第308図 | 2 | 須恵器 杯 | 口縁~底部片 | 口底 | 9.4 5.6 | 高 1.7 | 粗砂粒/酸化焰/明 黄褐 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整。 | 炭素吸着。 |
| 第308図 PL.203 | 3 | 黒色土器 椀 | 床直 1/3 | 口底 | 16.8 7.2 | 高脚 6.3 7.4 | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。体部下半は回転ヘラ削り。内面黒色処理。横位にヘラ磨き。高台は付け高台。 | 外面磨滅。 |
| 第308図 | 4 | 須恵器 椀 | 口縁片 | 口 | 14.8 | | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。 | 内面煤付着。 |
| 第308図 | 5 | 須恵器 椀 | 高台部 | 底 | 7.5 | | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。 | |

126号住居(第307~309図、P L .99・116・203、第110表)

位置 16T・26A-8・9グリッド。

重複 127・158号住居より後出で、125・162号住居、61号溝より前出。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-63°-E

規模 現状での面積29.4㎡。長辺(南北)6.08m、短辺(東西)6m、壁高は12cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。

カマド 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ158cm、焚き口部の幅75cmを測る。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 掘り方調査時にP1~P3が検出された。P1は長径48cm・短径42cm・深さ25cm、P2は長径38cm・短径32cm・深さ22cm、P3は長径31cm・短径30cm・深さ30cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 確認面から床面までの深さがわずかなため、埋没状況の観察には至らなかった。1層は貼床、2~5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さは3~20cmを測る。

出土遺物 床面から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

127号住居(第307・309・310図、P L .99、第111表)

位置 16T-8、26A-7・8グリッド。

重複 158号住居より後出で、126号住居、61号溝より前出。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-74°-E

規模 現状での面積は8.4㎡。長辺(南北)3.78m、短辺(東西)2.36m、壁高は13cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央部からカマドにかけて硬化面が認められる。

カマド 東壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ124cm、焚き口部の幅40cmを測る。

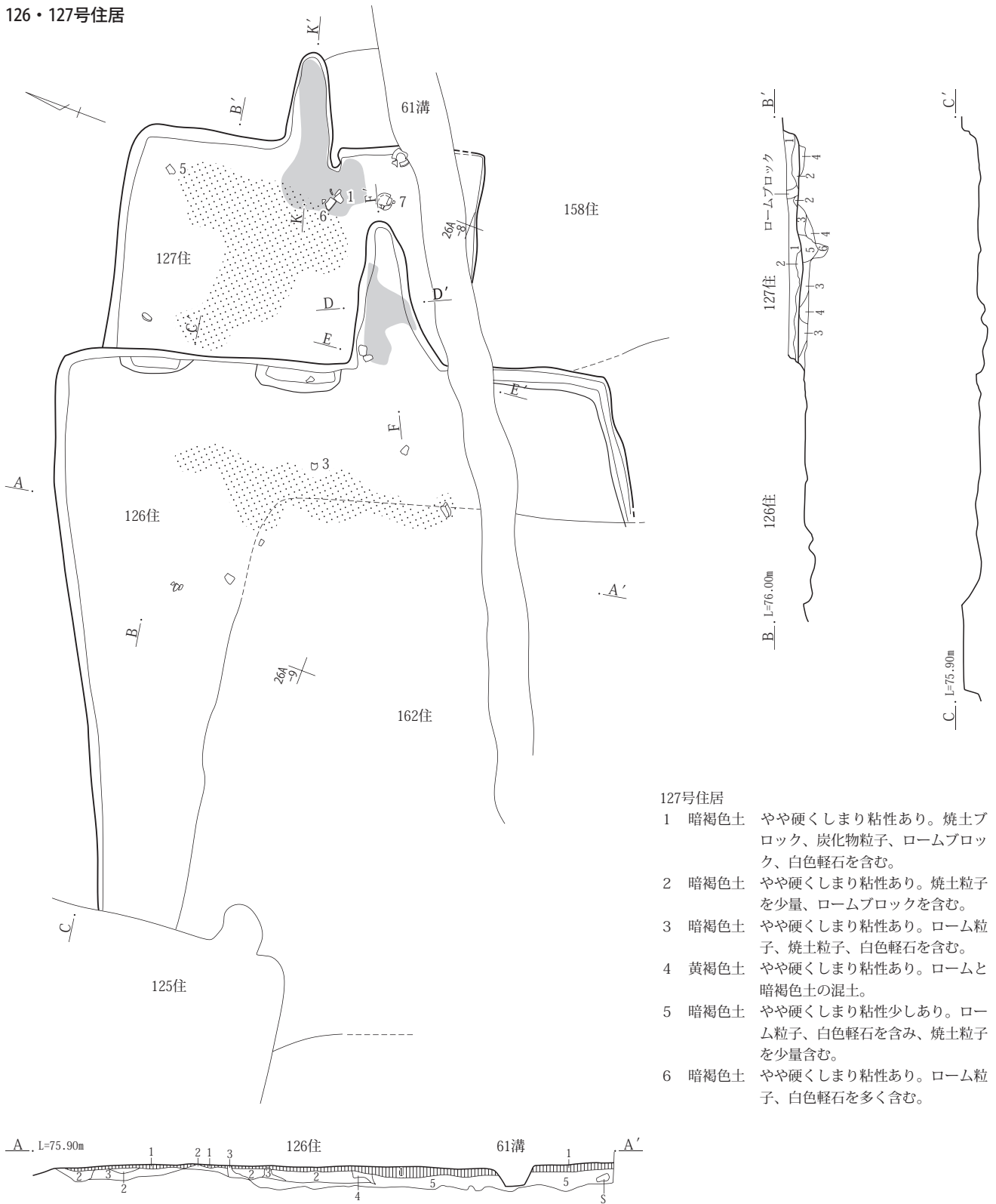
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 掘り方調査時にP1~P4が検出された。P1は長径37cm・短径28cm・深さ47cm、P2は長径38cm・短径34cm・深さ40cm、P3は長径30cm・短径27cm・深さ20cm、P4は長径46cm・短径43cm・深さ36cmを測る。P1-P2間の距離は1.95m、P2-P3間距離2m、P3-P4間距離は1.95m、P4-P1間の距離は2.45mを測る。P5は長径42cm・短径27cm・深さ50cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3・

126・127号住居



127号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性少しあり。ローム粒子、白色軽石を含み、焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を多く含む。

126号住居掘り方

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロック、白色軽石を含む。貼床。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。炭化物粒子を少量、ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。

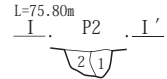
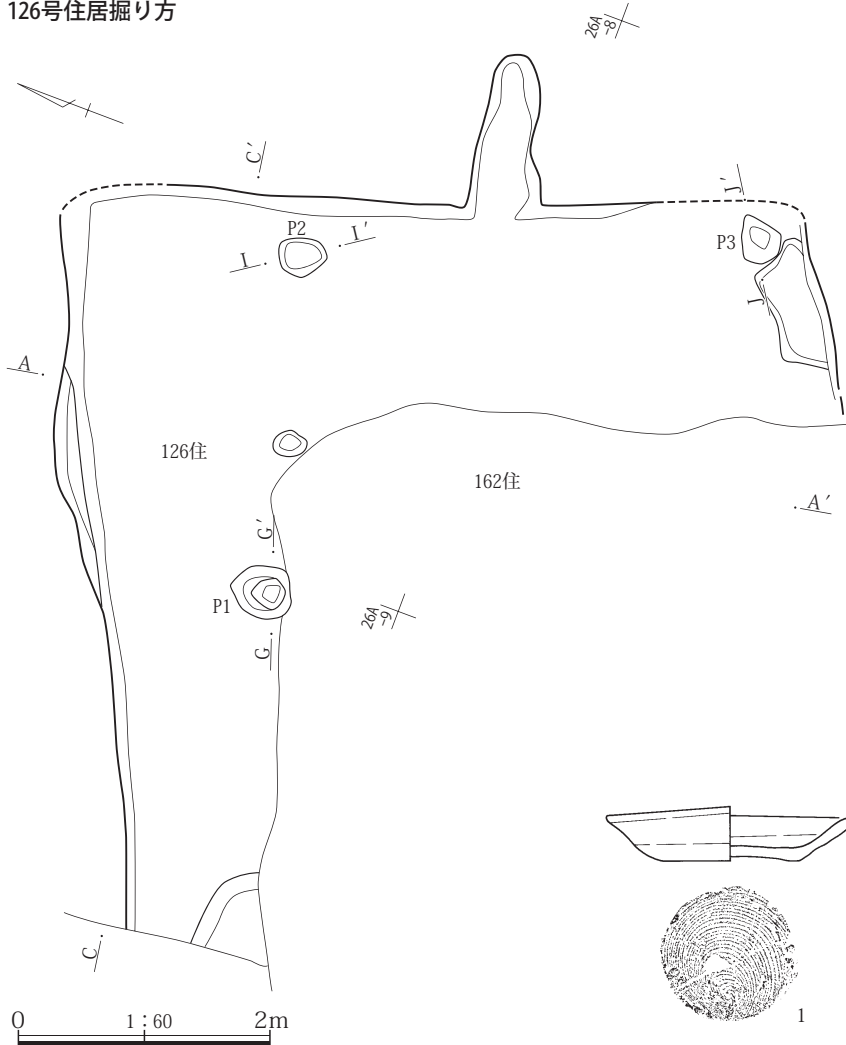
第307図 3区126・127号住居

4層は掘り方充填土、5・6層はピット埋没土になる。
 掘り方 全体的に凹凸がある。深さは5～16cmを測る。
 出土遺物 床面やカマド周辺から少量の土器片が出土し

ている。

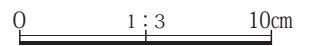
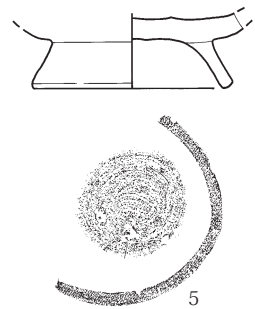
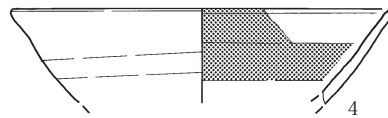
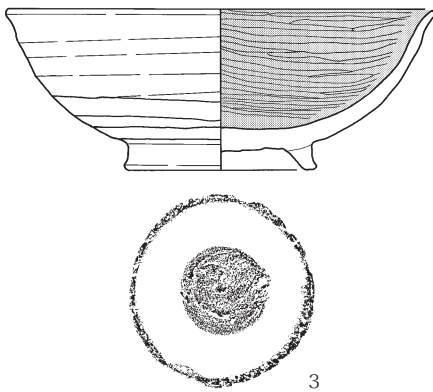
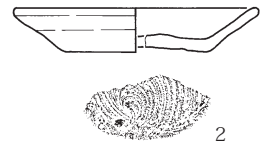
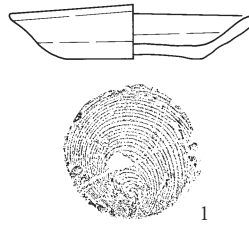
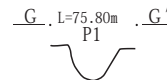
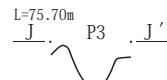
時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

126号住居掘り方



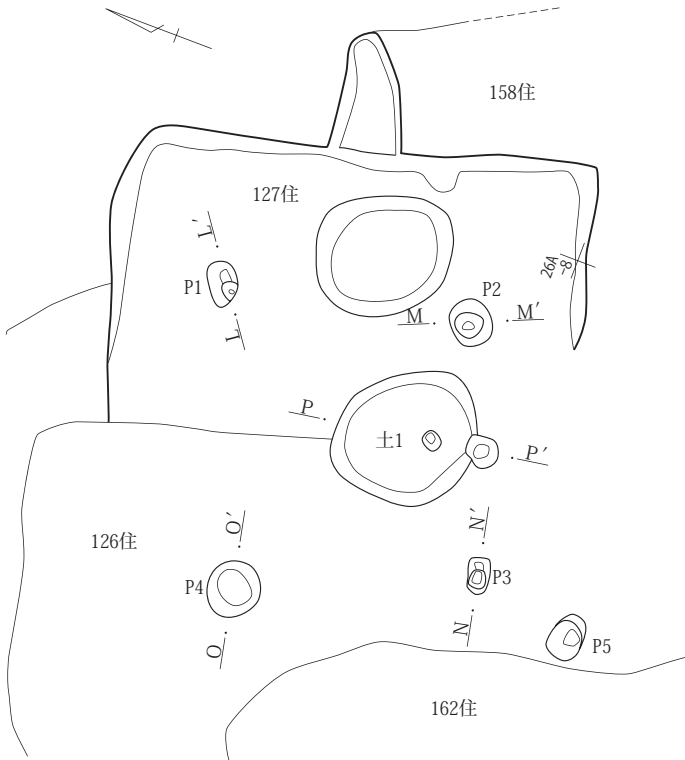
126号住居 P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。



第308図 3区126号住居掘り方と出土遺物

127号住居掘り方



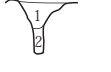
L=75.80m
L . P1 . L'



P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石、炭化物粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。

L=75.80m
M . P2 . M'



P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土を少量、ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。

L=75.80m
N . P3 . N'



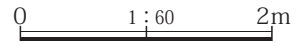
P 4

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土を少量、ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含み、ロームブロックを少量含む。

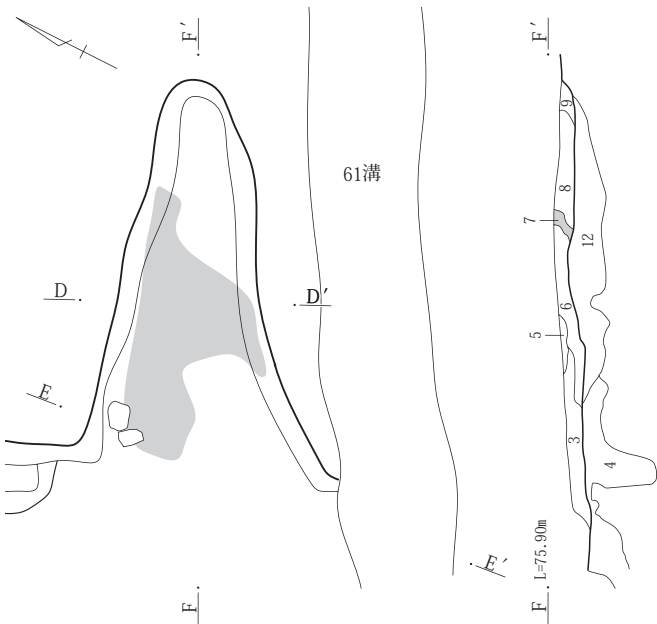
L=75.70m
O . P4 . O'



P . L=75.80m 土1 . P'



126号住居カマド



- 1 黄褐色土 カマド天井部崩落。部分的に溶けている。
- 2 炭化物主体の層
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくしまり良い粘性あり。焼土ブロック、灰色粘質土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくしまり良い粘性あり。焼土ブロック、炭化物、灰色粘質土ブロックを含む。
- 7 焼土層
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくしまり良い。焼土ブロックを多量に含む。
- 10 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを多量に含む。
- 11 灰色土 やや硬くしまり焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 12 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。

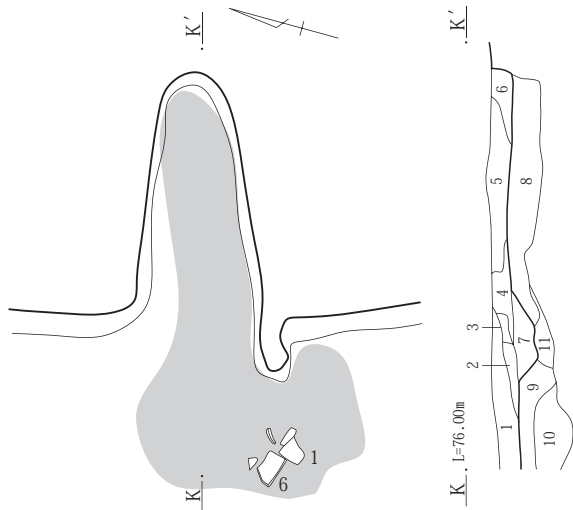
D . L=75.90m . D'

E . L=75.90m . E'

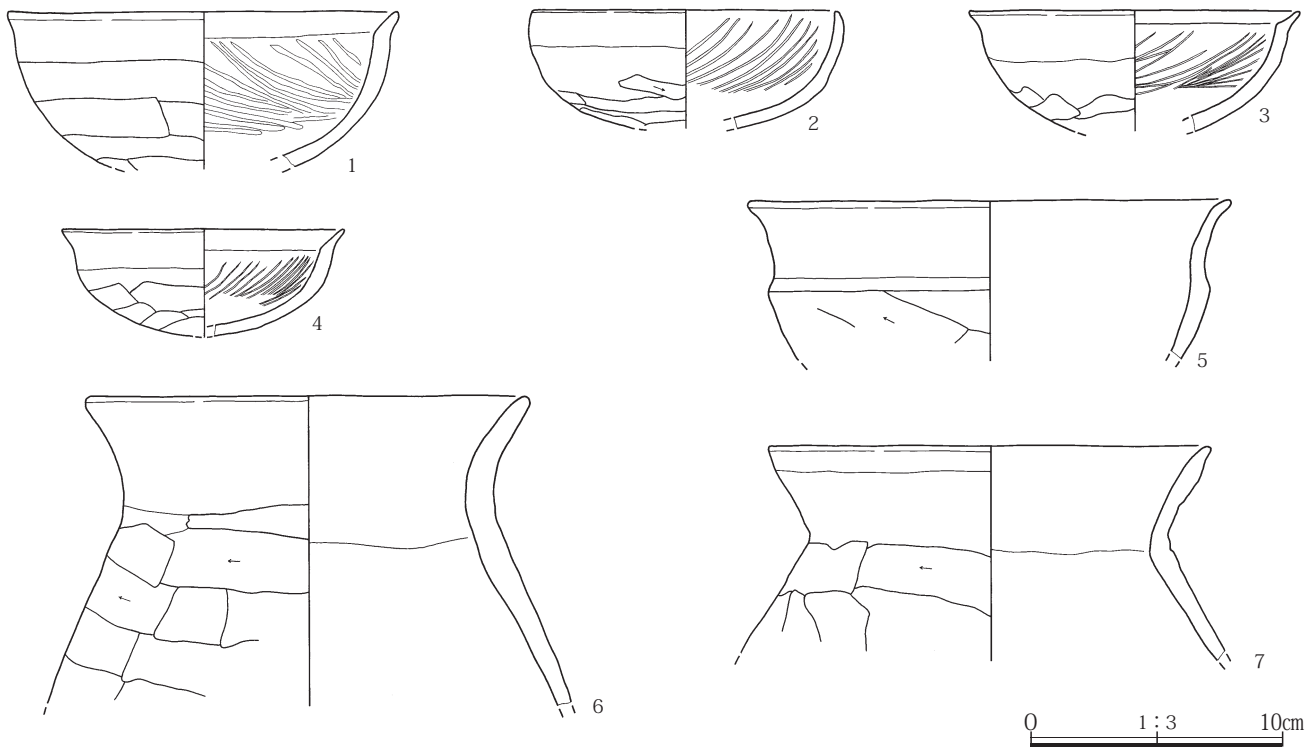
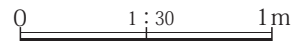


第309図 3区127号住居掘り方と126号住居カマド

127号住居カマド



- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまり良い。焼土粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子を含む。
- 4 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土を主体に暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ろーむぶろっく、白色軽石を少量含む。
- 7 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土を主体に下層に灰層を含む。
- 8 暗褐色土 やや軟らかくしまり良い。ローム粒子を多く含み、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 9 暗褐色土 やや軟らかくしまり良い。ローム粒子を多く含み、ロームブロック、白色軽石を含み、焼土を少量含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く含み、焼土ブロックを少量含む。
- 11 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。



第310図 3区127号住居カマドと出土遺物

第111表 3区 127号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|---------------|-----|------|----------------------|---|-----------------|
| 第310図 | 1 | 土師器 杯 | +8 1/4 | □ | 15.4 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐 | 口縁から体部上位に横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に斜放射状にヘラ磨き。 | 内外面の一部に炭素吸着。 |
| 第310図 | 2 | 土師器 杯 | 掘り方 口縁~底部片 | □ | 11.8 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。体部上位にナデの部分を残す。内面はナデの上に斜放射状にヘラ磨き。 | 外面の一部に炭素吸着・黒斑状。 |
| 第310図 | 3 | 土師器 杯 | 1/4 | □ | 12.8 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐 | 口縁から体部上位に横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に斜放射状にヘラ磨き。 | 外面の一部に炭素吸着・黒斑状。 |
| 第310図 | 4 | 土師器 杯 | 1/4 | □ | 10.9 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁から体部上位に横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に斜放射状にヘラ磨き。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第310図 | 5 | 土師器 鉢 | +2 口縁~体部片 | □ | 18.8 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|---------------|-----|------|--------------------|------------------------------------|---------------|
| 第310図 | 6 | 土師器 甃 | +3 口縁-胴部片 | 口 | 17.2 | | 口縁は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第310図 | 7 | 土師器 甃 | 床直 口縁-胴部上位 | 口 | 17.1 | | 口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 被熱・内外面ともやや磨滅。 |

128号住居(第311図、P L .100)

位置 26A・B-8グリッド。

重複 129号住居より前出で、135・165号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-59°-E

規模 現状での面積3.4㎡。長辺(北東~南西)2.45m、短辺(北西~南東)2.38m、壁高は5cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。土坑1基が検出された。

カマド 東壁の南隅に設置されていたものと思われるが、削平されていて詳細は不明である。

貯蔵穴 確認できなかったが、土坑1はその可能性がある。長径59cm・短径44cm・深さ27cmを測る。埋没土は3層に分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3~5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さは2~20cmを測る。

出土遺物 ほとんど遺物は出土していない。

時期 不明。

129号住居(第312図、P L .100・203、第112表)

位置 26A・B-8・9グリッド。

重複 128・152・166号住居より後出で、126号住居と重複するが新旧関係不明。

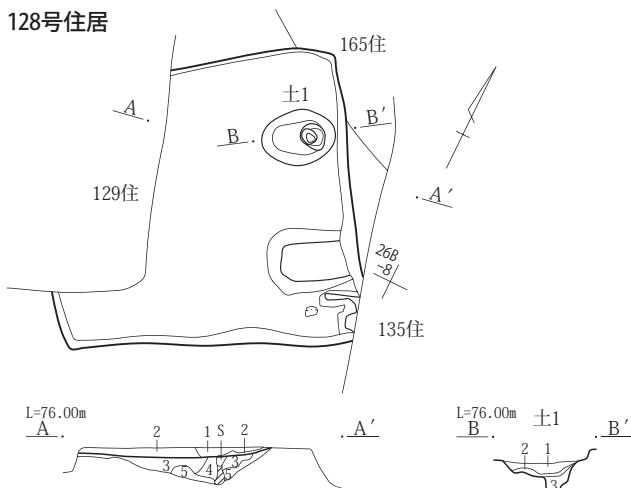
形状 方形を呈する。

主軸方位 N-24°-W

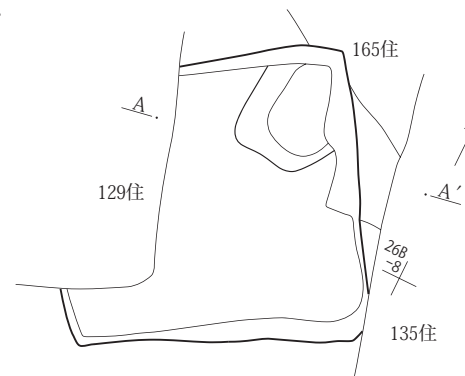
規模 面積は11.7㎡。長辺(北西~南東)3.93m、短辺(北東~南西)3.39m、壁高は4~8cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。床面中央部にかけて硬化面が認められる。

128号住居



掘り方

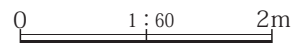


128号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ロームブロック、白色軽石をやや多く含む。明るい色調。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ロームブロックをやや多く含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体で暗褐色土を少量含む。

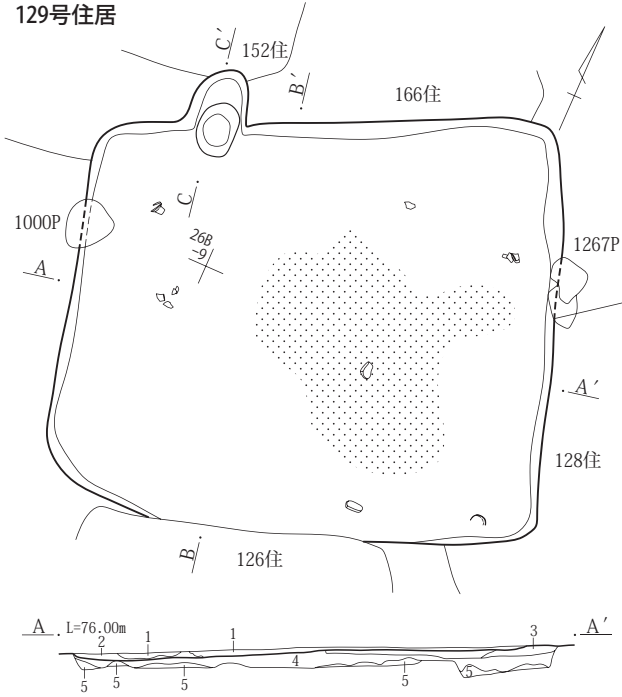
住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色軽石、焼土粒子、炭化物粒子を含み、ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。



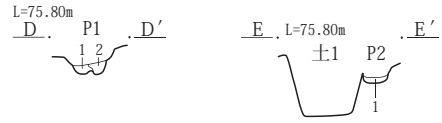
第311図 3区128号住居

129号住居



129号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロック、白色軽石を多量に含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体で暗褐色土を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロックを含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。ロームをやや多く含む。

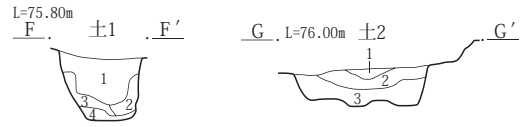


P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含み、ロームブロックを多く含む。

P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。



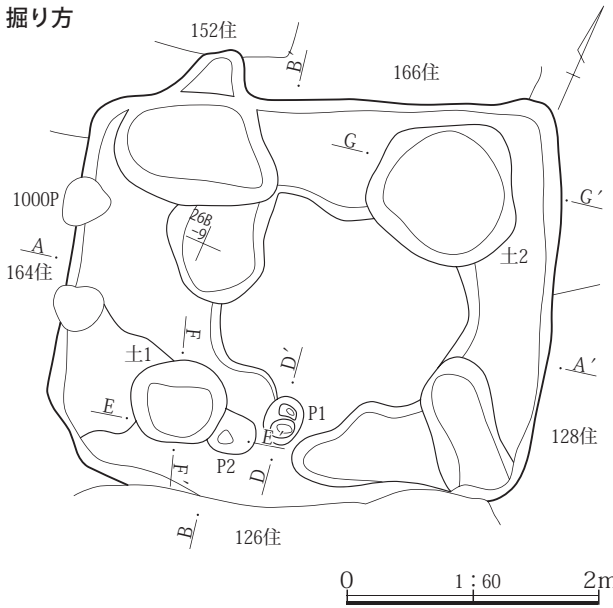
住居内土坑 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性少しあり。焼土粒子、炭化物粒子を含み、ローム粒子、白色粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
- 3 黄褐色土 ロームと暗褐色土の混土。
- 4 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロック主体の層。

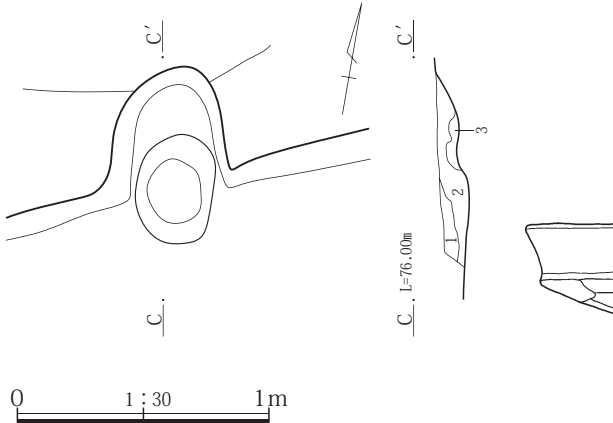
住居内土坑 2

- 1 暗褐色土 しまりややあり。粘性少しあり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を多く含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを非常に多く含む。

掘り方

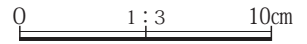
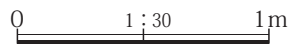
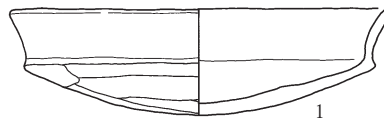


カマド



カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、灰をやや多く含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。



第312図 3区129号住居と出土遺物

第112表 3区 129号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|-------------|-----|------|---|---------------------------|--|----|
| | | | | 口 | 14.8 | 高 | | | |
| 第312図 PL.203 | 1 | 土師器 杯 | 3/4 | 口 | 14.8 | 高 | 4.2 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 平面は長円形。口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | |
| 第312図 | 2 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 13.4 | | 細砂粒・軽石/良好 /にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は丁寧な手持ちへら削り。内面は横位にへら磨き。体部もへら磨きを施すが、単位不明。 | |

カマド 北壁の中央からやや南寄りに設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ70cm、焚き口部の幅40cmを測る。埋没土は3層に分かれた。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層は住居埋没土、3～5層は掘り方充填土、6～8層は土坑1の埋没土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。壁の四周を掘り下げている。深さは3～18cmを測る。掘り方調査時にP1・P2と土坑1・土坑2が検出された。P1は長径39cm・短径30cm・深さ18.5cm、P2は長径33.5cm・短径33cm・深さ18cmを測る。土坑1は長径76.5cm・短径65.5cm・深さ52cm、土坑2は長径121cm・短径118.5cm・深さ38cmを測る。

出土遺物 土坑2から土師器杯(第312図2)が出土する。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

130号住居(第313～315図、P L .101・102・204、第113表)

位置 26A・B-10グリッド。

重複 58号溝より前出で、156号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 全容は不明である。

主軸方位 不明。 **規模** 現状で北東～南西2.3m、北西～南東0.8m、壁高は8cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 ほとんど確認できなかった。

掘り方 掘り方調査時にP1・P2と土坑1・土坑2が検出された。P1は長径32cm・短径23cm・深さ22cm、P2は長径23cm・短径20cm・深さ20cmを測る。土坑1は長径72.5cm・短径54.5cm・深さ48cm、土坑2は長径152cm・短径131.5cm・深さ28cmを測る。土坑2から土器が出土している。

出土遺物 土坑1から土師器杯(第315図1)、土坑2から土師器甕(同2・4)が出土する。

時期 出土遺物から5世紀後半～6世紀前半に比定される。

131号住居(第313～315図、P L .102、第113表)

位置 26B・C-11グリッド。

重複 143・144号住居より後出。

形状 調査区外にのびるために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 現状で面積は2.4㎡。北東～南西3.8m、北西～南東1.1m、壁高は32～42cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床が一部認められた。硬化面は認められなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径65cm・短径40cm・深さ19.5cmを測る。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 確認できなかった。

周溝 床面の南端から部分的に検出された。幅6～10cmを測る。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～4層は住居埋没土、5層は貼床、6・7層は掘り方充填土である。

掘り方 やや凹凸がある。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

132号住居(第313・314図、P L .101)

位置 26B-11グリッド。

重複 143号住居、58号溝より前出。

形状 全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 現状で面積は2.6㎡。北東～南西1.8m、北西～南東1.53m、壁高はほとんど検出することはできなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 ほとんど確認できなかった。1・2層は掘り方充填土になる。

掘り方 やや凹凸がある。深さ6cmほどである。ピット

3基が検出された。P1は長径45.5cm・短径35cm・深さ28cm、P2は長径51.5cm・短径43.5cm・深さ40cm、P3

は長径66.5cm・短径37.5cm・深さ29cmを測る。セクションC-C'の3層はP2の埋没土、4層はP3の埋没土になる。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 不明。

143号住居(第313～315図、P.L.107、第113表)

位置 26B-10・11グリッド。

重複 132号住居より後出で、131・144号住居、58号溝より前出。

形状 調査区外や58号溝に壊されているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-62°-E

規模 現状での面積は10㎡。長辺(北東～南西)4.8m、短辺(北西～南東)2.55m、壁高はほとんど検出することはできなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁に設置される。燃焼部は壁を掘り込んで構築されており、長さ54cm、焚き口部の幅40cm、袖を含めた幅は70cmを測る。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径41cm・短径40cm・深さ28cmを測る。埋没土は2層に分かれた。

柱穴 P1・P2が検出された。主柱穴になるものと思

われる。P1は長径38cm・短径30cm・深さ38cm、P2は長径35cm・短径31cm・深さ40cmを測る。P1-P2間の距離は2.25mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 1・2層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さは5～8cmを測る。ビット1基と土坑1基が検出された。P3は長径35.5cm・短径32.5cm・深さ22cmを測る。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

144号住居(第313・314図、P.L.107)

位置 26B-11グリッド。

重複 143号住居より後出で、131号住居より前出。

形状 重複しているために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 現状で面積は1.2㎡。北東～南西2.51m、北西～南東0.85m、壁高は確認できなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

掘り方 やや凹凸がある。深さ16～25cmを測る。

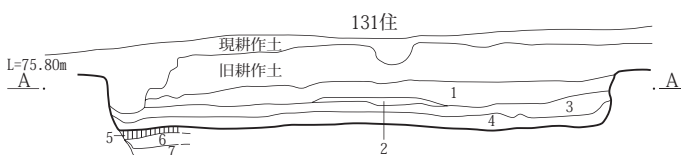
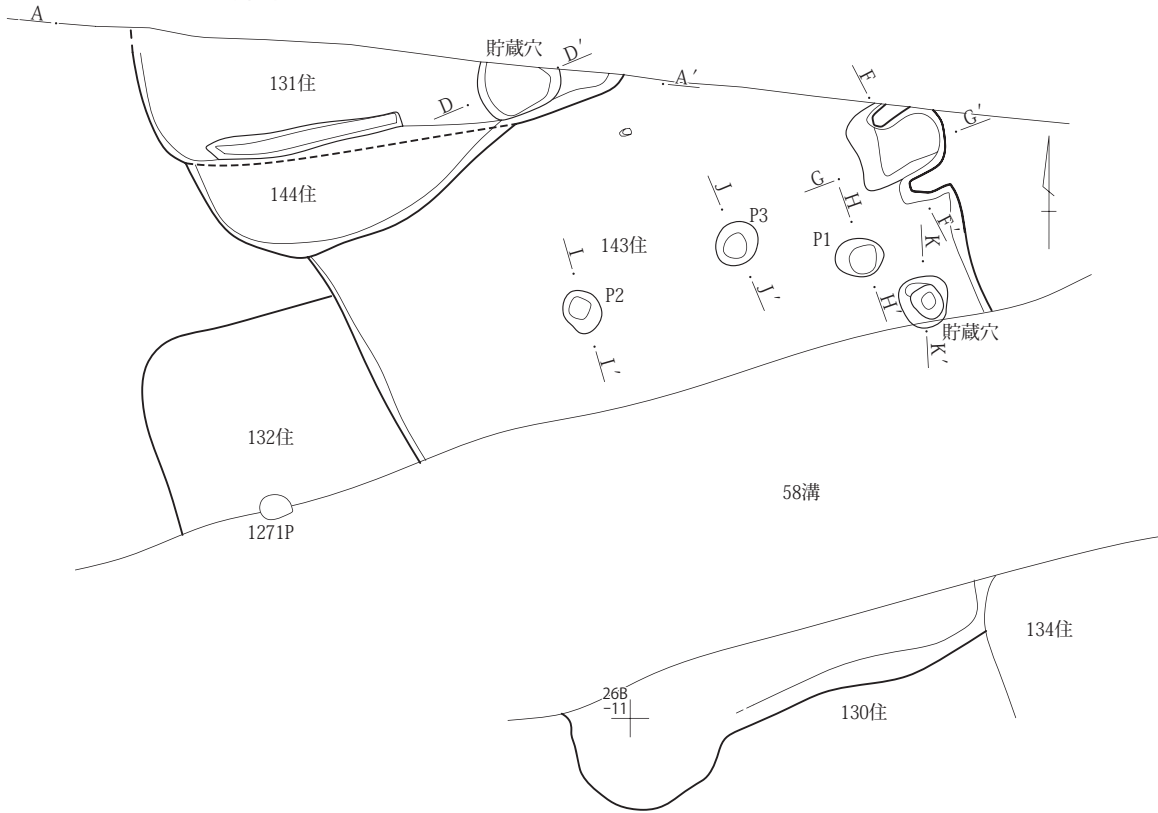
出土遺物 ほとんど出土しなかった。

時期 不明。

第117表 3区130・131・143号住居出土遺物

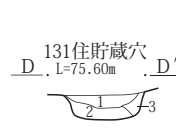
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|--------------------|--------|-------------|-----------|----------------------|--|--------------------|
| | | | | 口 | 底 | 高 | | | |
| 第315図 | 1 | 土師器 杯 | 130住 1/2 | 口 | 12.0 | | 細砂粒・赤色粘土 粒多/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に斜放射状にヘラ磨き。 | |
| 第315図 PL.204 | 2 | 土師器 甕 | 130住 口縁～ 胴部一部欠損 | 口 底 | 18.0 3.3 | 高 13.9 | 粗砂粒/良好/明黄 褐 | 口縁部は横ナデ。体部は斜縦位にヘラ削り。最下位のみ横位にヘラ削り。内面体部は横位にヘラナデ。 | 外面の一部に炭素吸着。 |
| 第315図 | 3 | 土師器 甕 | 130住 口縁～ 頸部片 | 口 | 18.0 | | 粗砂粒・片岩/良好 /にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第315図 PL.204 | 4 | 土師器 小型甕 | 130住 口縁～ 胴部一部欠損 | 口 底 | 13.4 5.9 | 高 16.7 | 粗砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部・頸部近くを除いてヘラ削り。上位・最下位は横位、その間は斜縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱変色。内外面の広範囲に炭素吸着。 |
| 第315図 | 5 | 土師器 高杯 | 131住 杯部片 | 口 | 17.0 | | 粗砂粒・細砂粒/良 好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部はヘラ削り。内面は横ナデ。 | |
| 第315図 | 6 | 土師器 器台 | 131住 杯部片 | 口 | 10.8 | | 精選/良好/明赤褐 | いわゆる装飾は器台で、残存する杯部から口縁部が外反して立ち上がっていたものと考えられる。杯部内外面とも丁寧なナデ。 | |
| 第315図 | 7 | 土師器 甕 | 131住 口縁～ 胴部上位片 | 口 | 19.0 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 内面炭素吸着。 |
| 第315図 | 8 | 土師器 甕 | 131住 口縁～ 胴部上位片 | 口 | 16.8 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。 | 被熱・内面磨減。 |
| 第315図 | 9 | 土師器 杯 | 143住掘り方 1/3 | 口 | 12.0 | 高 5.1 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。体部上位にナデ部分を残す。内面はナデ。 | 底部外面炭素吸着。 |
| 第315図 | 10 | 須恵器 杯身 | 143住 口縁～体部片 | 口 | 12.0 | | 細砂粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転は右回り。 | |

130～132・143・144号住居



131号住居

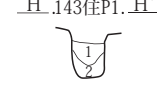
- 1 灰褐色土 やや硬い。白色粒子、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子、ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子、ロームブロックをやや多く含む。
- 4 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。貼床。
- 6 灰褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを含む。
- 7 灰褐色土 やや硬くしまる。サラサラしている。ロームブロックを少量含む。



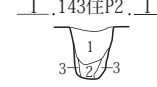
貯蔵穴

- 1 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 2 灰褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。

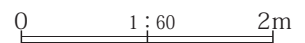
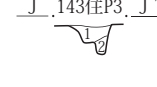
L=75.80m H. 143住P1. H'



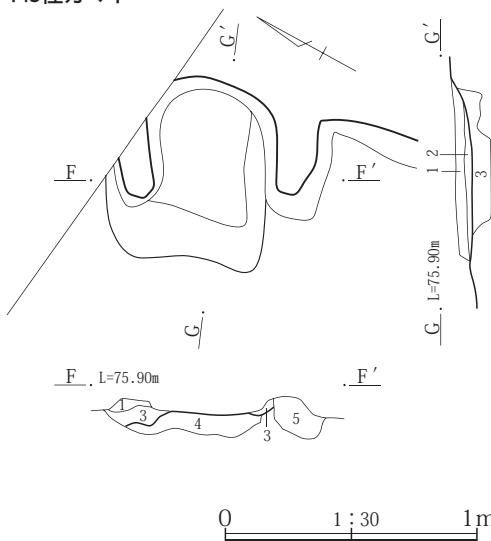
L=75.80m I. 143住P2. I'



L=75.80m J. 143住P3. J'



143住カマド



143号住居

P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を多く、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。

P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を多く、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

P 3

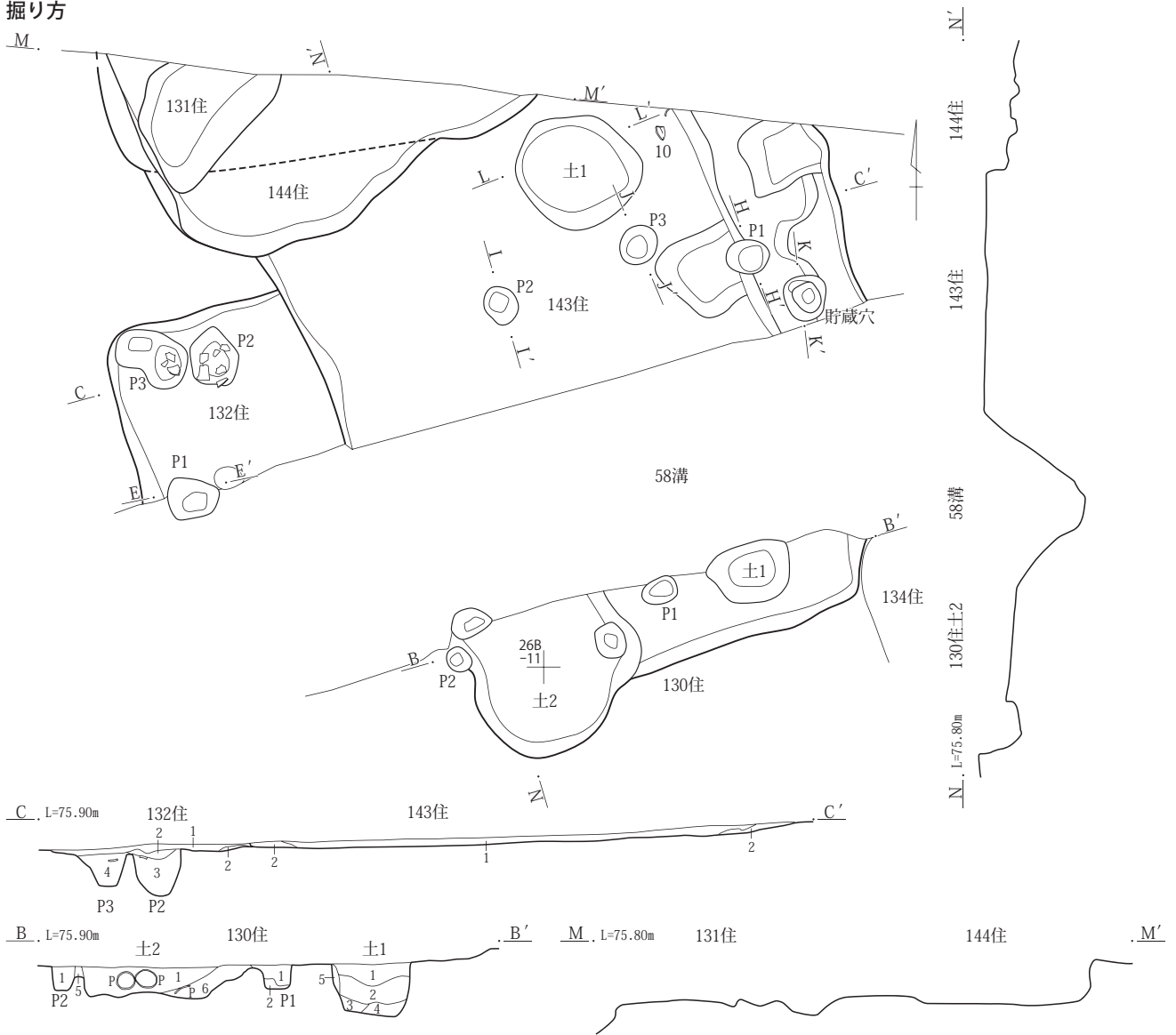
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を多く、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。

カマド

- 1 黄褐色土 硬くしまる。カマド構築材。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子、白色粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子を少量、ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 硬くしまる。ロームブロックを多量に、焼土粒子、白色軽石を含む。

第313図 3区130～132・143・144号住居と143号住居カマド

掘り方



130号住居居内土坑1・2

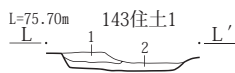
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を多く含む、ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、白色軽石を多く含む、ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 4 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含み、ロームブロック、炭化物粒子を少量含む。
- 5 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含み、ロームブロックを多く含む。
- 6 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く含む、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。

132号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 赤褐色土 硬くしまる。粘土ブロックを多量に、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子を少量、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。

143号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色粒子を含む。1層よりも明るい色調。



143号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を多く、焼土粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。



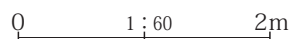
143号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含み、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。



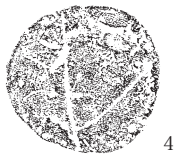
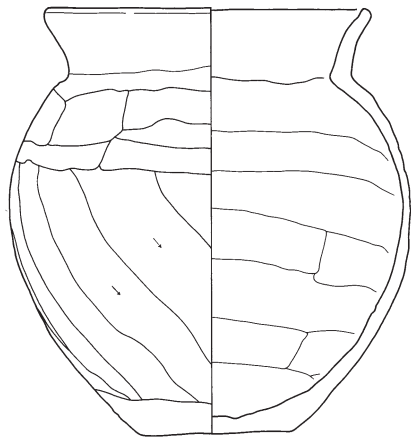
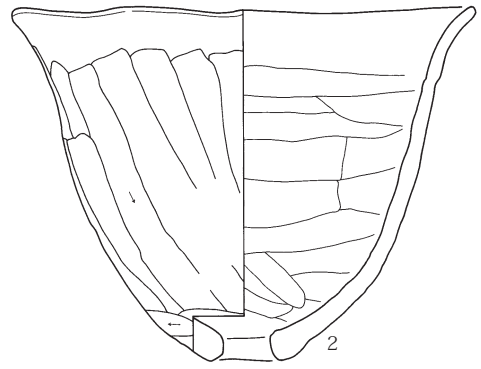
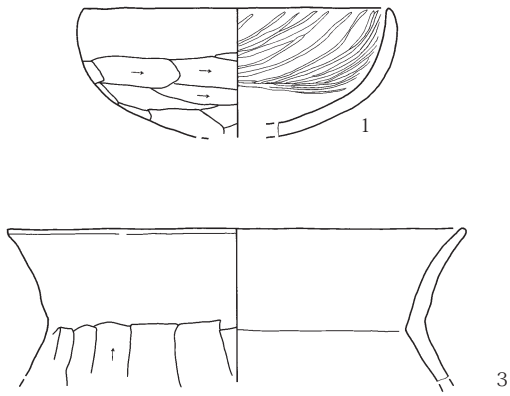
132号住居P1

- 1 暗褐色土 硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 黄褐色土 硬くしまる。粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

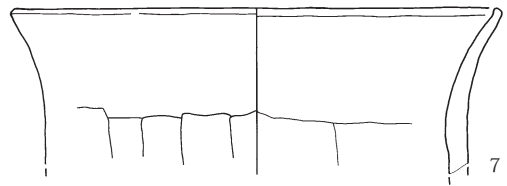
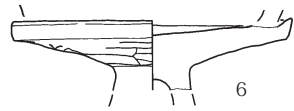
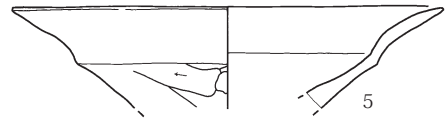


第314図 3区130~132・143・144号住居掘り方

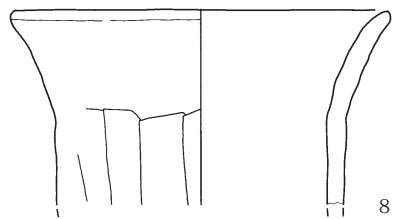
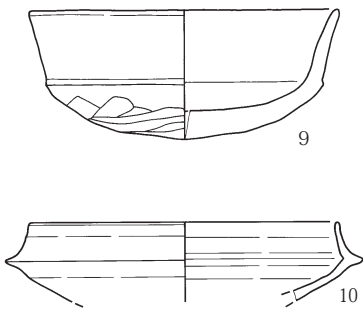
130住



131住



143住



0 1:3 10cm

第315図 3区130・131・143号住居出土遺物

134号住居(第316図、P L .102・204、第114表)

位置 26A・B-9・10グリッド。

重複 152号住居より後出で、58号溝より前出。62号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-60°-E

規模 現状での面積は7.8㎡。長辺(北西~南東)3.22m、短辺(北東~南西)3.05m、壁高は15~18cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁のほぼ中央に設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ98cm、焚き口部の幅31cm、袖を含めた幅は90cmを測る。1~6層はカマド埋没土、5層は焼土になる。7~9層は掘り方になる。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径53.5cm・短径52.5cm・深さ20cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1~3層は住居埋没土、4・5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸があるが、床の西半分に土坑状の掘り込みが認められる。深さは5~15cmを測る。

出土遺物 中央床面で土師器小型甕(第315図1)が出土するほか、カマドや周辺から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀代に比定される。

135号住居(第317~322図、P L .102・103・204~206、第116表)

位置 26A・B-7・8グリッド。

重複 149・165号住居より後出で、136号住居、204号土坑より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-76°-E

規模 面積は27.4㎡。長辺(北東~南西)5.68m、短辺(北西~南東)5.64m、壁高は15~20cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。主柱穴に囲まれた範囲からカマドにかけて硬化面が認められる。

カマド 東壁のほぼ中央に設置されている。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ170cm、焚き口部の幅40cm、袖を含めた幅は88cmを測る。1~6層はカマド埋没土、4層は焼土、5層は灰層になる。7~14層は149号住居の掘り方になる可能性がある。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径112cm・短径70cm・深さ62cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 主柱穴4基が検出された。P1は長径51cm・短径45cm・深さ30cm、P2は長径40cm・短径39cm・深さ33cm、P3は長径39cm・短径33cm・深さ28cm、P4は長径57cm・短径42cm・深さ38cmを測る。P1-P2間の距離3m、P2-P3間距離2.9m、P3-P4間距離2.8m、P4-P5間の距離は3.3mである。

周溝 東壁、南壁、西壁の下から検出された。本来は全周していたものと思われる。幅10~15cm、深さ5~10cmを測る。

埋没土 自然埋没土である。1~4層は住居埋没土、5層は貼床、6~8層は土坑4の埋没土、9・10層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが、主柱穴に囲まれた住居中央部はやや掘り下げは浅い。深さは5~20cmを測る。ピットは3基と土坑4基検出された。P5は長径44cm・短径38cm・深さ25cm、P6は長径34cm・短径30cm・深さ17cm、P7は長径30cm・短径24cm・深さ25cmを測る。土坑1は長径83cm・短径68cm・深さ25cm、土坑2は長径67cm・短径52cm・深さ23cm、土坑3は長径53cm・短径47cm・深さ20cm、土坑4は長径200cm・短径173cm・深さ31cmを測る。ただし土坑1は149号住居の貯蔵穴になる可能性がある。

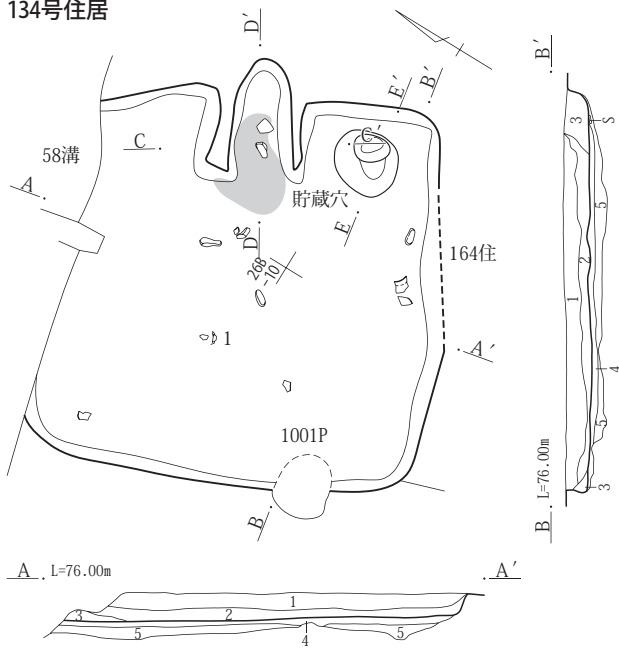
出土遺物 カマド前面やP3周辺の床面から土師器甕や杯がまとまって出土している。

時期 出土遺物から6世紀前半に比定される。

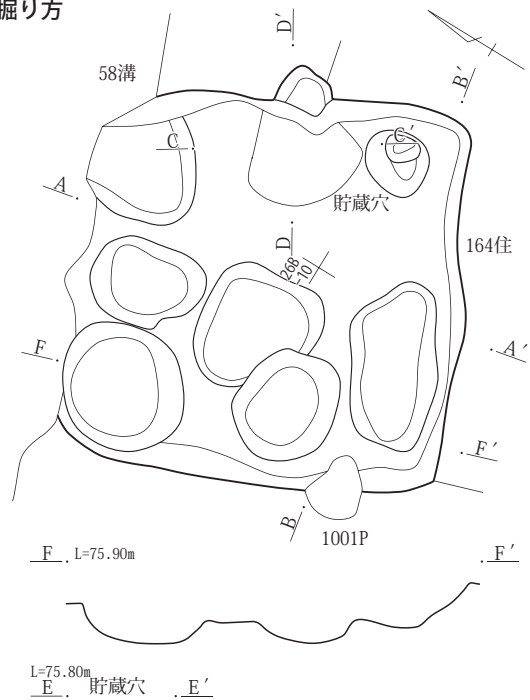
第114表 3区134号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-------------|-----|------|--------------------|-------------------------------------|----------|
| 第316図 PL.204 | 1 | 土師器 小型甕 | 床直 口縁~胴部 | 口 | 12.0 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部ヘラナデと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |

134号住居



掘り方



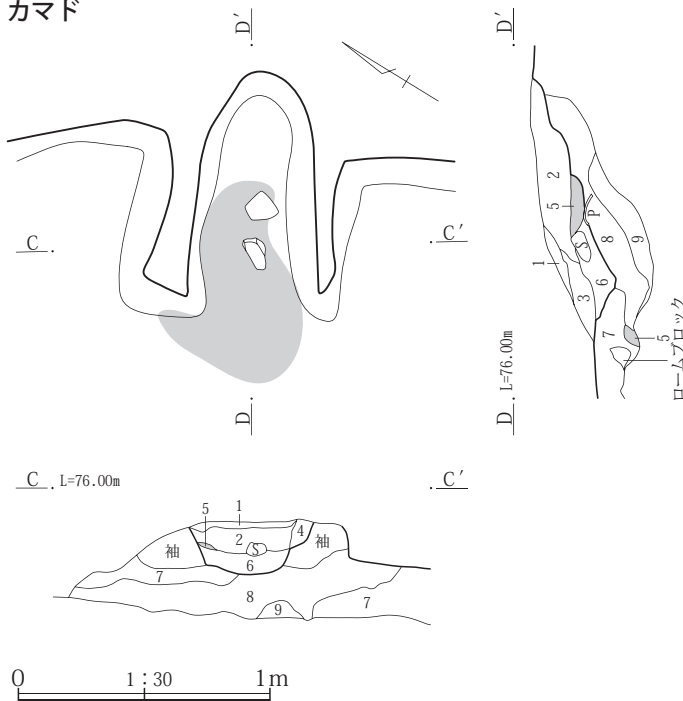
134号住居

- 1 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子、白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 硬くしまる。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

貯蔵穴

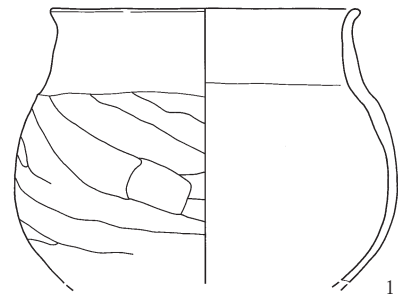
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。

カマド



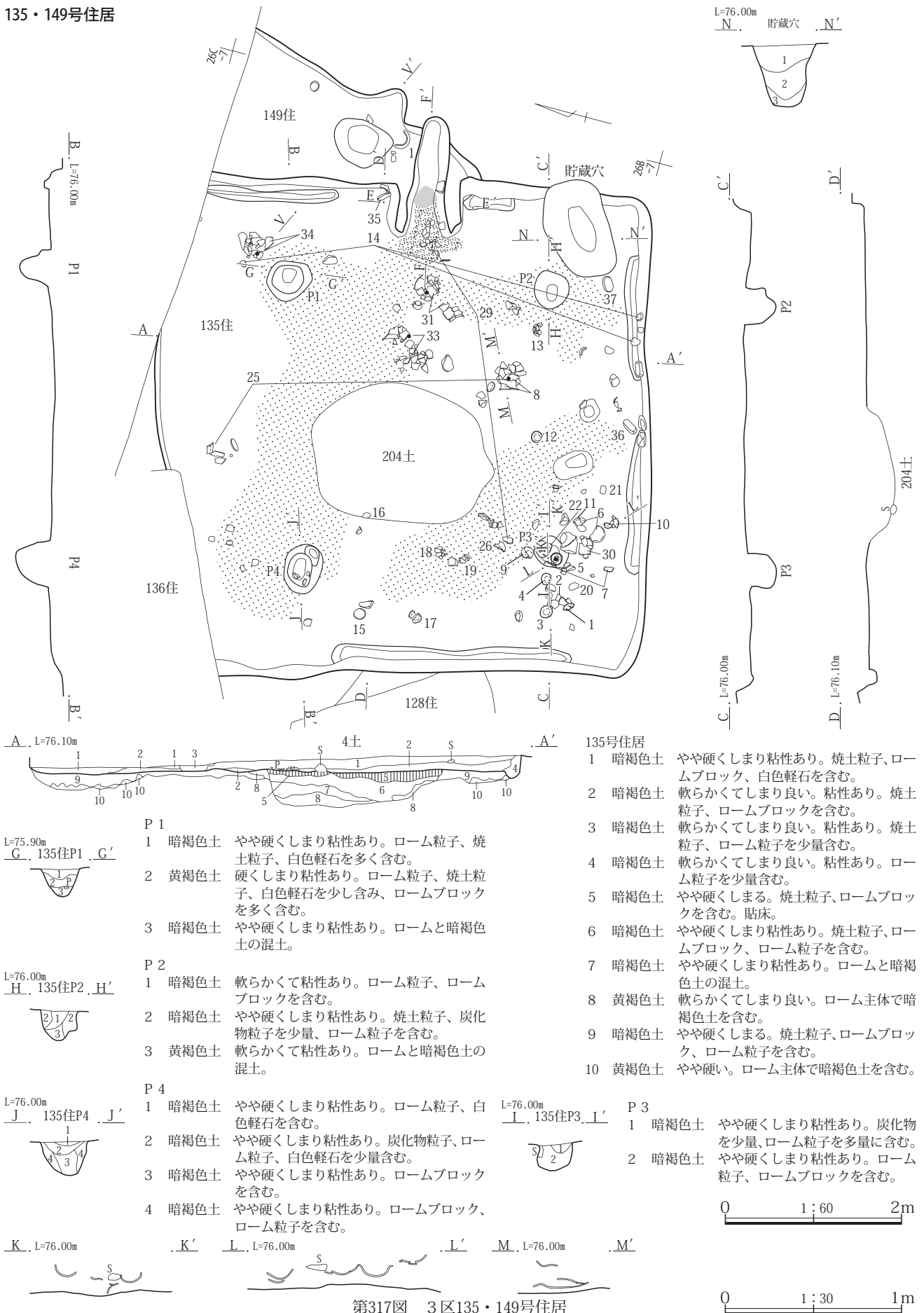
カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロックをやや多く含む。
- 5 焼土
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、炭化物粒子、ロームブロックをやや多く含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ロームブロックをやや多く含む。
- 9 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを少量含む。



第316図 3区134号住居と出土遺物

135・149号住居



第317図 3区135・149号住居

149号住居(第317～319図、P.L.110、第115表)

位置 26B-6・7グリッド。

重複 135号住居より前出。

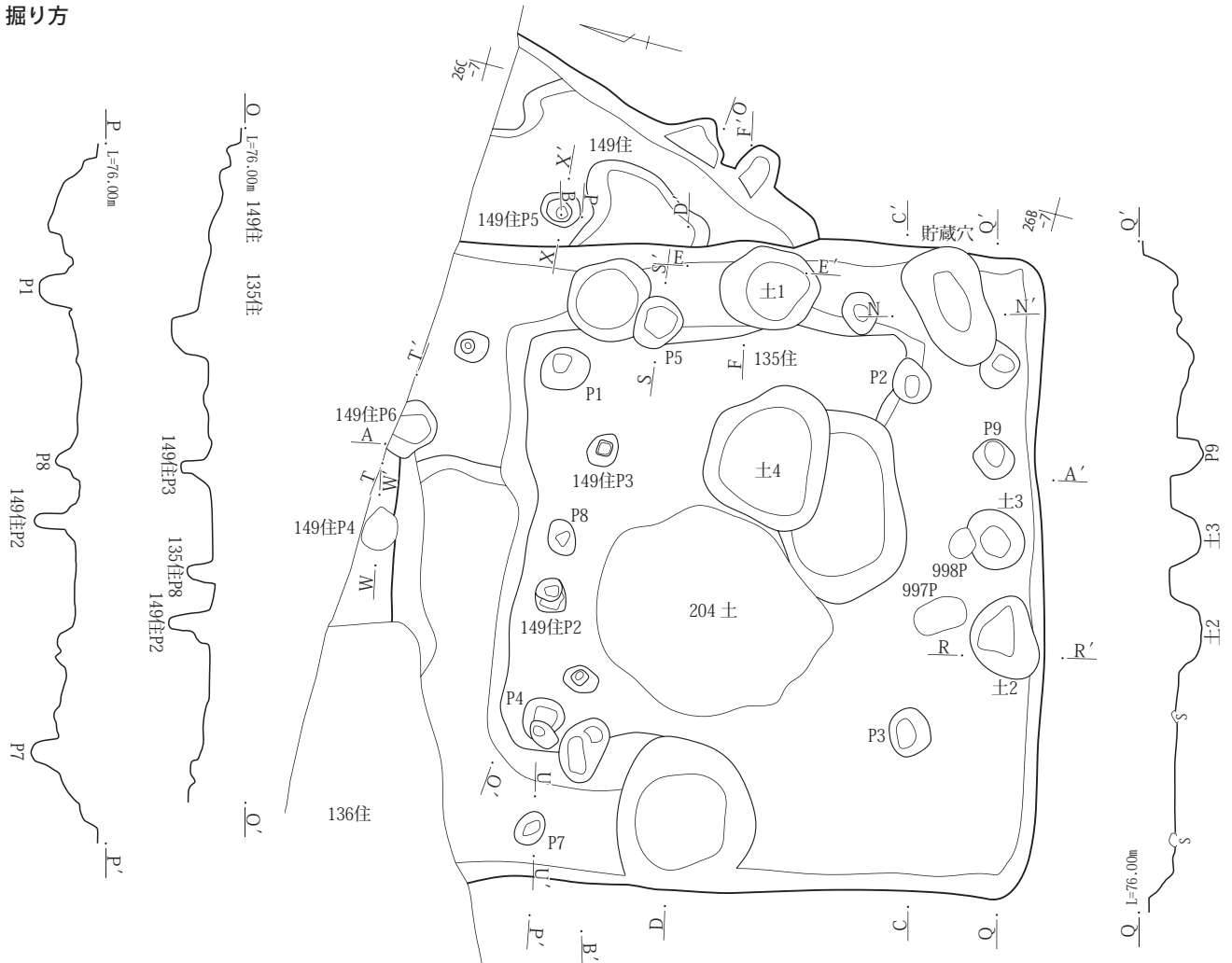
形状 調査区外に延びることと重複しているために全容

は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-108°-E

規模 現状での面積は2.8m²。南北3.07m、東西1.67mを測る。

掘り方



135号住居

L=76.00m R. 135住土2 R' L=75.90m S. 135住P5 S' L=75.70m U. 135住P7 U'



135号住居住居内土坑2

- 1 暗褐色土 しまり少しあり。粘性ややあり。ローム粒子を多く、ロームブロック、焼土ブロック、炭化物粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。白色軽石、焼土ブロックを多く含む。
- 3 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。焼土粒子、白色軽石、白色粘土ブロックを少量含む。

149号住居

L=76.00m W. 149住P4 W' L=75.80m X. 149住P5 X' L=75.90m T. 149住P6 T'



P 4

- 1 暗褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を少量含む。柱痕。
- 2 明褐色～灰褐色土 しまり非常に強い。ロームブロック、暗褐色土ブロックを多量に、暗褐色土ブロックを少量含む。根固め。

P 5

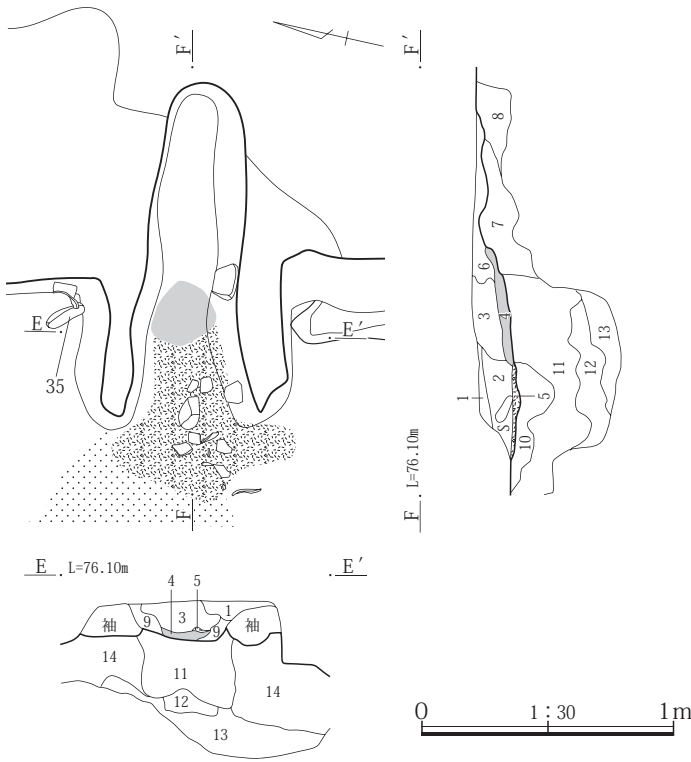
- 1 暗褐色土 しまり弱い。粘性なし。ローム粒子を微量含む。

P 6

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子を含み、白色軽石を多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子、炭化物粒子を含み、ロームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロック、白色軽石を含む。

第318図 3区135・149号住居掘り方

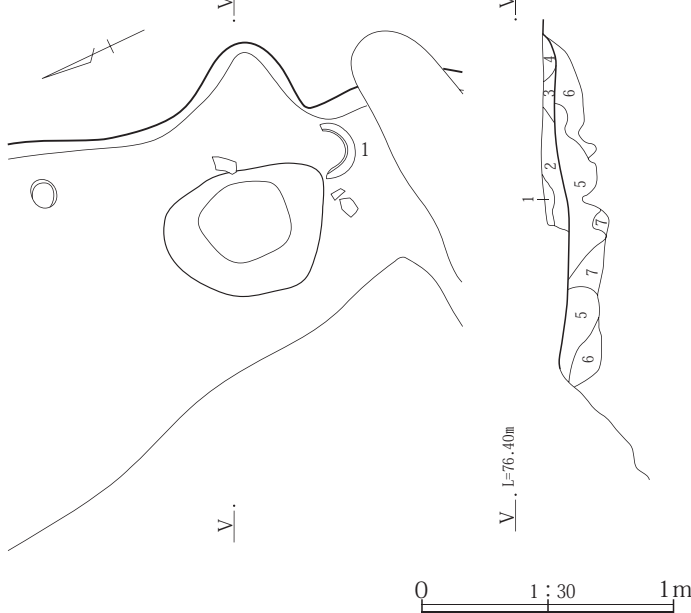
135住居カマド



カマド

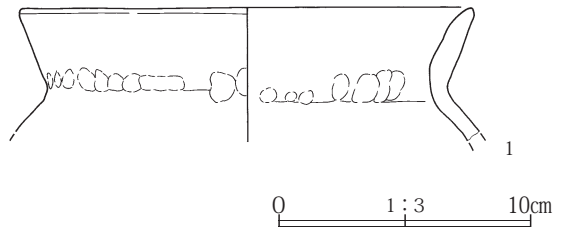
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ローム粒子をやや多く含む。
- 3 赤褐色土 やや硬くしまる。焼土主体で、暗褐色土、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 焼土 灰、暗褐色土を含む。
- 5 灰
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子を少量、白色粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、灰を含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土ブロック、ロームブロックを含む。
- 12 黄白色粘質土 やや硬くしまる。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を多量に含む。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。

149住居カマド



149号住居カマド

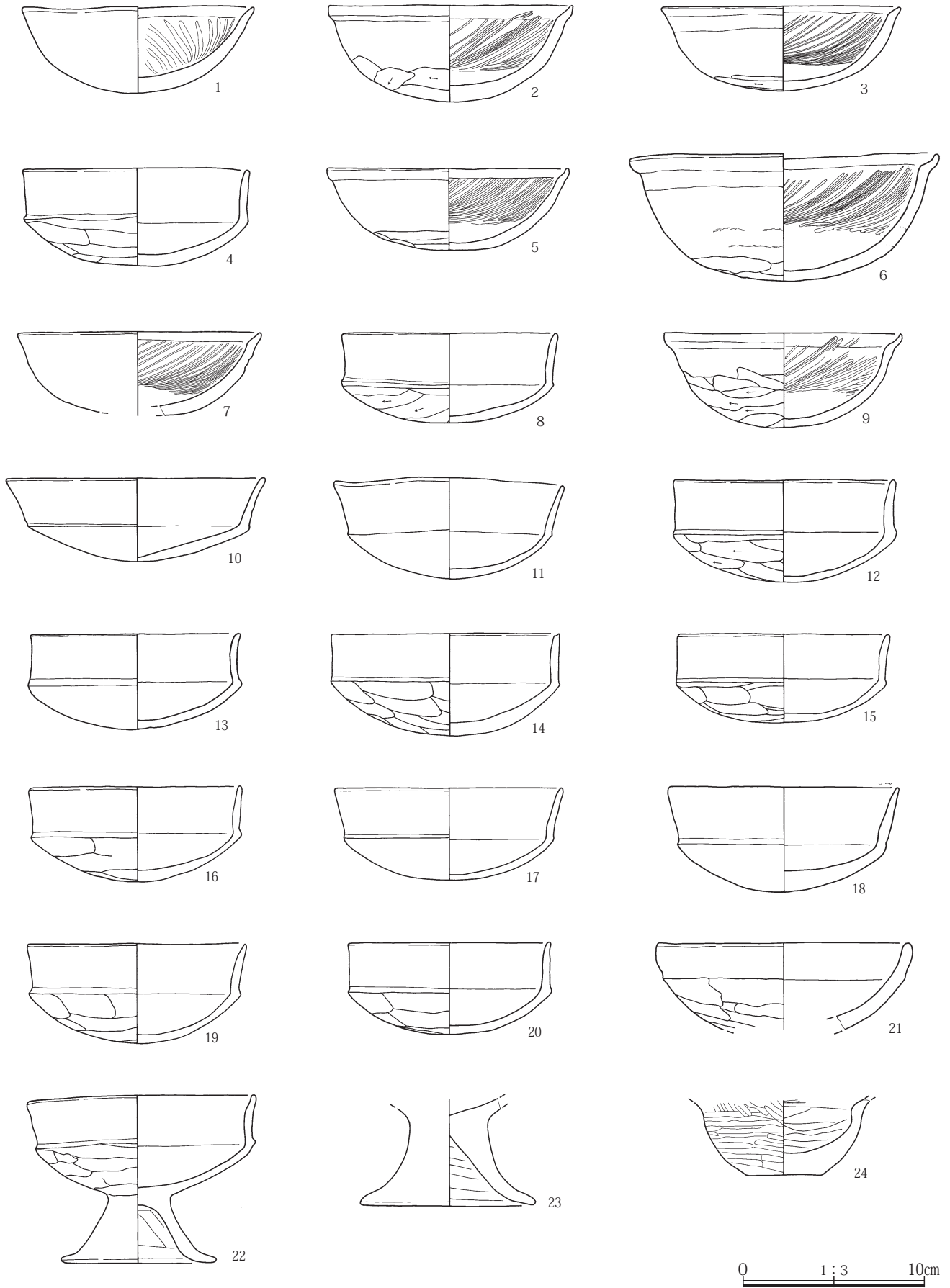
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 軟らかくてサラサラしている。ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を多く、ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 6 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 7 黄褐色土 やや硬くしまり粘性少しあり。ローム主体で暗褐色土を少量含む。



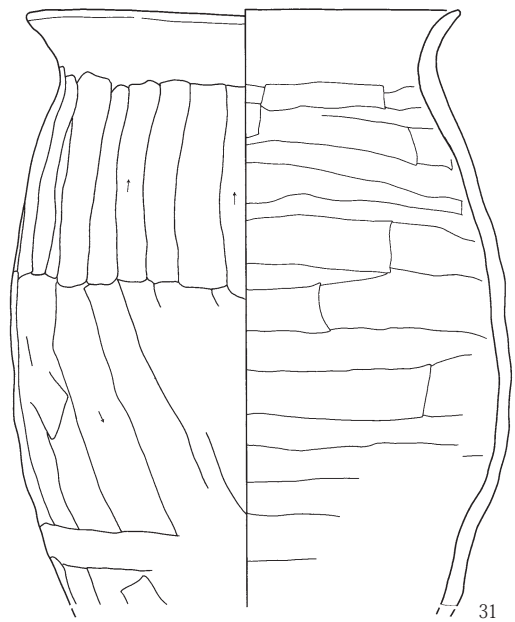
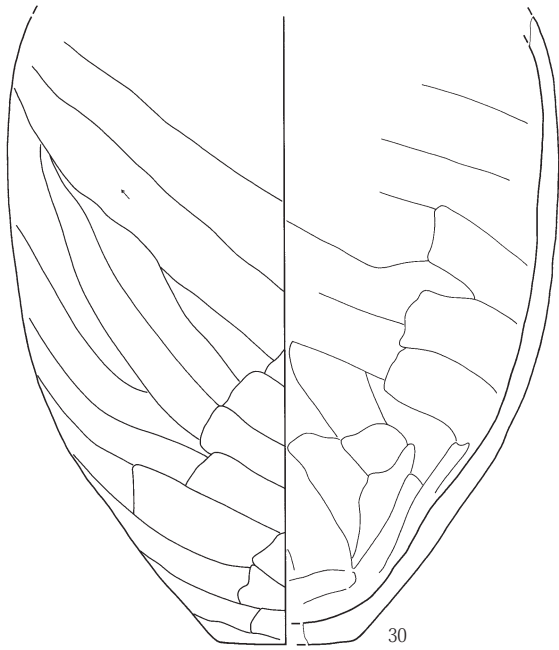
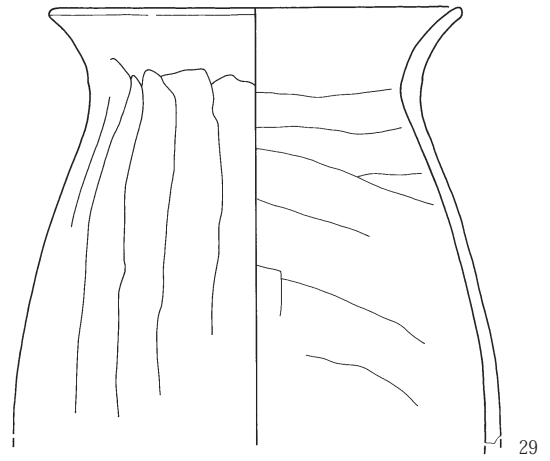
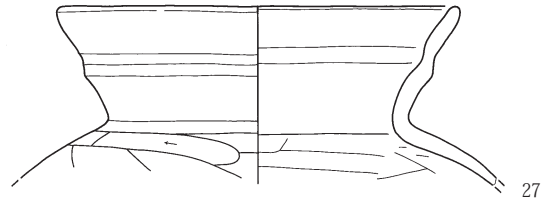
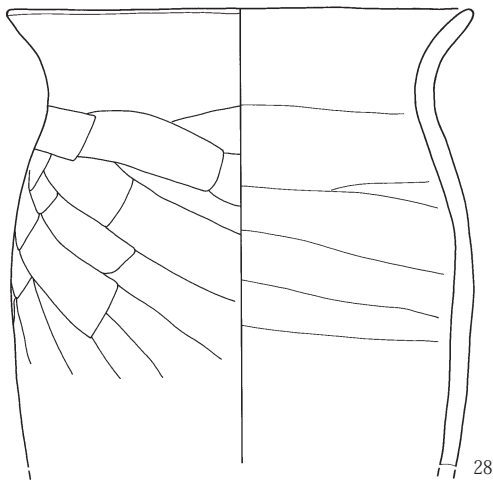
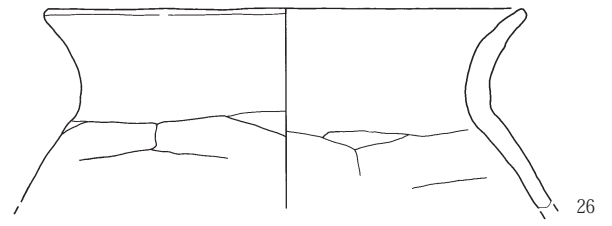
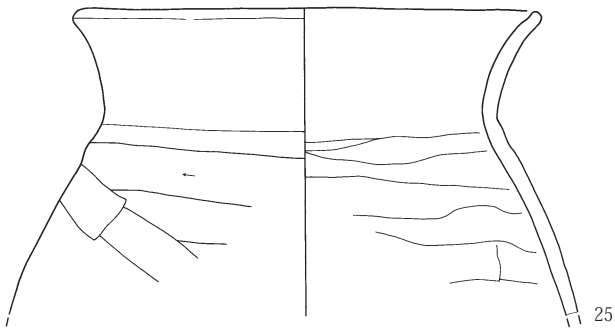
第319図 3区135・149号住居カマドと149号住居出土遺物

第115表 3区149号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|----------------|--------|--------------------|-----------------------------------|-----------|
| 第319図 | 1 | 土師器 甕 | 口縁~胴部上位 2/3 | 口 17.8 | 細砂粒/良好/にぶり 黄褐 | 口縁部は横ナデ。下半には指頭圧痕を残す。胴部はヘラ削りか、不鮮明。 | 被熱・変色・変質。 |

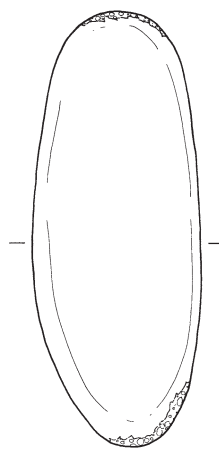
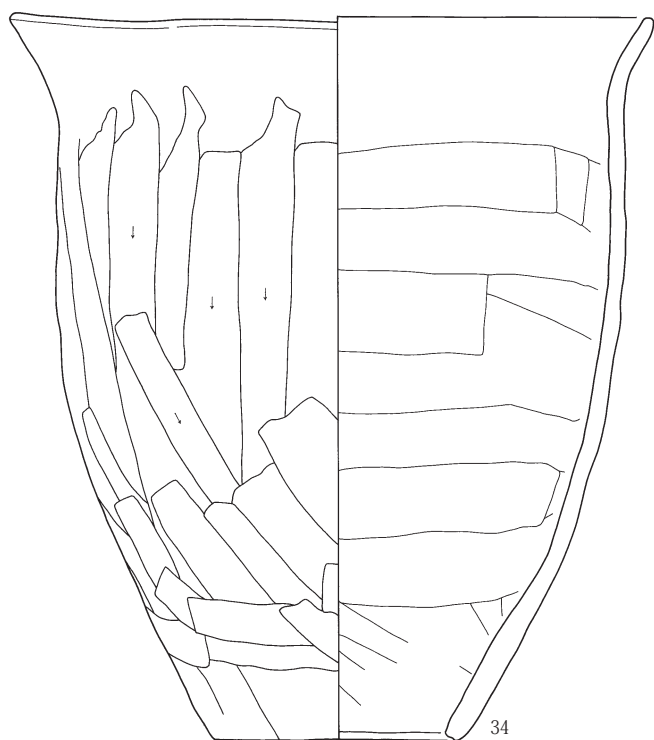
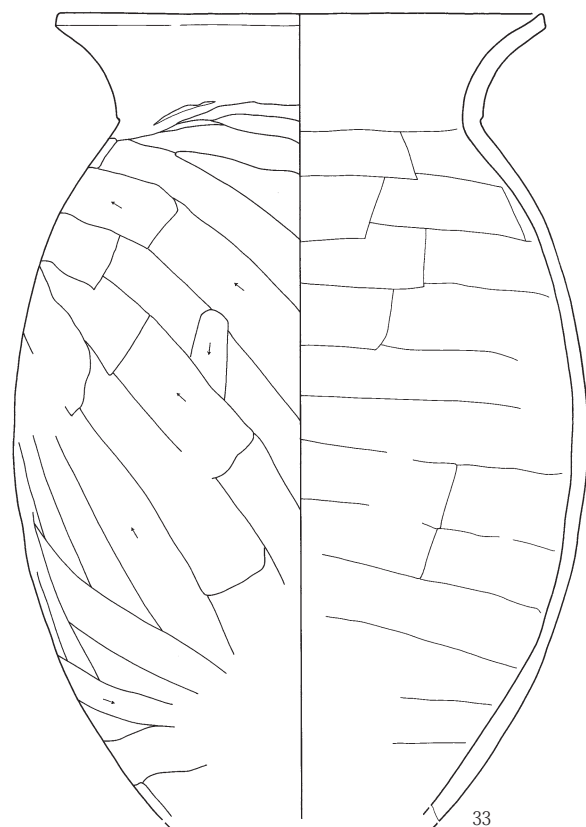
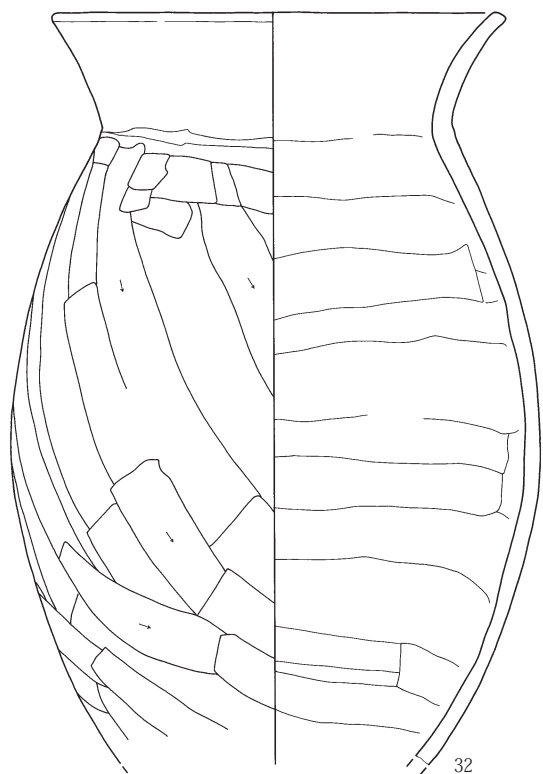


第320図 3区135号住居出土遺物(1)

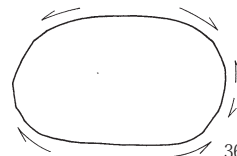
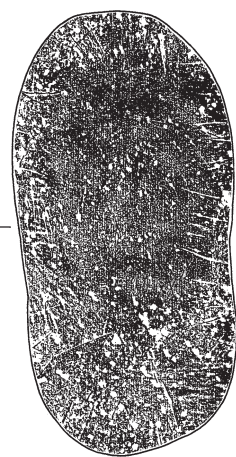


0 1:3 10cm

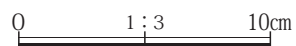
第321図 3区135号住居出土遺物(2)



35



36

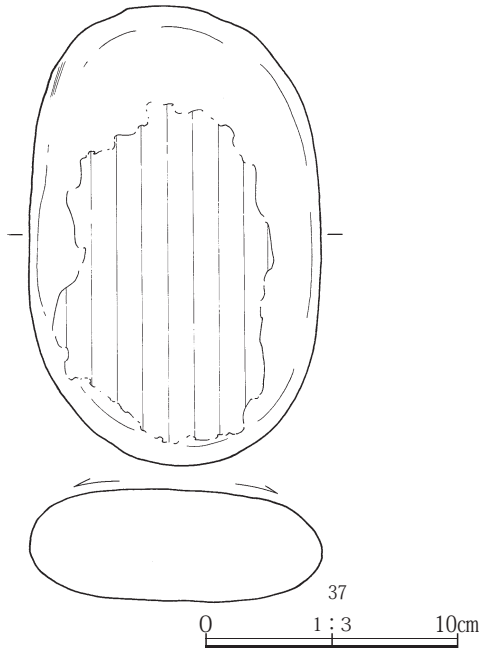


第322図 3区135号住居出土遺物(3)

第116表 3区 135号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|-------------------|--------|-------------|----|--------------------|-------------------|--|-------------------------|
| | | | | 口 | 高さ | 口径 | | | | |
| 第320図 PL.204 | 1 | 土師器 杯 | +8 3/4 | 口 | 12.6 | 高 | 4.7 | 精選/良好/赤褐 | 内面口縁部は横ナデ。底部は左上に斜放射状のヘラ磨き。他資料よりやや粗雑。 | 外面磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 2 | 土師器 杯 | +7 3/4 | 口 | 13.2 | 高 | 5.2 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部から体部上位は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、その間の体部はナデ。内面斜放射状にヘラ磨き。 | 内面炭素吸着・黒色処理か。 |
| 第320図 PL.204 | 3 | 土師器 杯 | +7 一部欠 | 口 | 12.9 | 高 | 4.6 | 精選・赤黒色粘土粒/良好/橙 | 口縁部から体部上位は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面は斜放射状にヘラ磨き。 | 内面炭素吸着・内外面磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 4 | 土師器 杯 | +8 一部欠 | 口 | 12.2 | 高 | 5.3 | 精選・赤黒色粘土粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 5 | 土師器 杯 | +3 口縁一部欠 | 口 | 13.0 | 高 | 4.4 | 粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。横ナデは直下の体部にも及ぶと考えられる。底部は手持ちヘラ削り。内面は斜放射状にヘラ磨き。 | 内面黒色処理か。 |
| 第320図 PL.204 | 6 | 土師器 杯 | +4 口縁一部欠 | 口 | 16.7 | 高 | 6.9 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部から体部上位は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ、上半部に斜放射状にヘラ磨き。 | |
| 第320図 PL.204 | 7 | 土師器 杯 | 床直 3/4 | 口 | 13.1 | 高 | 4.5 | 精選・赤黒色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。内面底部は斜放射状にヘラ磨き。 | 内面炭素吸着・外面磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 8 | 土師器 杯 | 床直 一部欠 | 口 | 11.6 | 高 | 4.9 | 精選・赤黒色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 9 | 土師器 杯 | +2 口縁一部欠 | 口 | 12.8 | 高 | 5.1 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部とその下位の体部上位に横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面斜放射状にヘラ磨き。 | 内面炭素吸着・黒色処理か、外面の一部にも黒色。 |
| 第320図 PL.204 | 10 | 土師器 杯 | +11 1/2 | 口 | 14.0 | 高 | 4.5 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。内面はナデ。 | 外面底部磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 11 | 土師器 杯 | +4 完形 | 口 | 12.2 | 高 | 5.5 | 精選・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。内面底部はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 12 | 土師器 杯 | +6 5/6 | 口 | 11.8 | 高 | 5.5 | 精選・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 13 | 土師器 杯 | +5 底部一部欠 | 口 | 11.2 | 高 | 5.1 | 精選・粗砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 14 | 土師器 杯 | +2 3/4 | 口 | 12.3 | 高 | 5.5 | 精選・赤色粘土粒/良好/橙 | 口唇部は平坦面をなす。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 15 | 土師器 杯 | +3 口縁一部欠 | 口 | 11.3 | 高 | 4.8 | 精選・赤黒色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。 | 内外面とも磨耗。 |
| 第320図 PL.204 | 16 | 土師器 杯 | 床直 口縁一部欠 | 口 | 11.3 | 高 | 5.1 | 精選・赤黒色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。 | 内外面とも磨耗。 |
| 第320図 PL.204 | 17 | 土師器 杯 | +6 一部欠 | 口 | 12.3 | 高 | 5.0 | 精選・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。 | 外面底部磨滅。 |
| 第320図 PL.204 | 18 | 土師器 杯 | +2 口縁体部一部欠 | 口 | 12.4 | 高 | 5.7 | 精選・赤色粘土粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第320図 PL.205 | 19 | 土師器 杯 | +3 口縁一部欠 | 口 | 11.8 | 高 | 5.4 | 精選・赤黒色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。 | 内外面とも磨耗。 |
| 第320図 | 20 | 土師器 杯 | +5 1/2 | 口 | 10.9 | 高 | 5.0 | 精選・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第320図 | 21 | 土師器 杯 | +6 口縁～底部片 | 口 | 13.6 | | | 粗砂粒・雲母/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第320図 PL.205 | 22 | 土師器 脚付杯 | 床直 口縁一部欠 | 口 底 | 12.3 8.0 | 高 | 9.1 | 精選/良好/橙 | 杯部口縁部は横ナデ。底部はヘラ削り。内面はナデ。内面脚部は上半部ナデ、下半部は横撫で。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第320図 | 23 | 土師器 高杯か | +5 脚部 | 底 | 9.2 | | | 粗砂粒少/酸化焙/橙 | 内外面とも横ナデ。外面は丁寧な調整。 | |
| 第320図 | 24 | 土師器 埴 | 底部～体部上位 1/4 | 底 | 4.0 | | | 粗砂粒多/良好/にぶい橙 | 体部上位は斜位、以下は横位にヘラ磨き。内面口縁部は斜横位にヘラ磨き。体部は横位にナデ。 | |
| 第321図 | 25 | 土師器 甗 | +2 口縁～胴部 | 口 | 18.0 | | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位、斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面胴部に炭素吸着。 |
| 第321図 | 26 | 土師器 甗 | +3 口縁～胴部片 | 口 | 18.6 | | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | |
| 第321図 | 27 | 土師器 甗 | 口縁1/3 | 口 | 15.6 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は中位に稜を有する横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 内外面とも磨滅。内面黒色。 |
| 第321図 | 28 | 土師器 甗 | +4 口縁～胴 部中位1/4 | 口 | 17.9 | | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。内面は斜横位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 被熱。胴径は大きくなる可能あり。 |
| 第321図 | 29 | 土師器 甗 | +5 口縁～胴 部1/3 | 口 | 16.0 | | | 粗砂粒・細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第321図 | 30 | 土師器 甗 | +5 底部～胴 部上位1/4 | 底 | 5.4 | | | 小礫・粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 胴部は数回に分けて斜位のヘラ削り。内面胴部は斜位のヘラナデ。 | 被熱。内外面に炭素吸着。 |
| 第321図 PL.205 | 31 | 土師器 甗 | +6 口縁～胴部下位 | 口 | 16.9 | | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は3回に分けて縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面被熱により変色か・器面の一部剥離磨滅。 |
| 第322図 PL.205 | 32 | 土師器 甗 | 床直 口縁～胴部下位 | 口 | 16.7 | | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は2・3回に分けて斜縦位、斜横位のヘラ削り。一部ナデ状。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面胴部被熱・炭素吸着。 |
| 第322図 PL.205 | 33 | 土師器 甗 | 床直 口縁～胴部下位 | 口 | 19.0 | | | 細砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は外方に平坦面をなす。口縁部は横ナデ。胴部上位から中位は斜縦位、下位は斜横位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 全体が被熱のため変色、やや磨滅。 |

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|-------------|-------------|----------------|-----------|--------------------|---|--------------------|
| | | | | 口底 | 高さ | 厚 | | | |
| 第322図 PL.205 | 34 | 土師器 甕 | +6 3/4 | 25.0 9.6 | 28.5 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位・斜縦位のヘラ削り。一部は横位。内面胴部下半は横位のナデ。上半は横位のナデに一部縦位のナデを重ねる。 | 内外面とも広範囲に炭素吸着・黒斑状。 |
| 第322図 PL.206 | 35 | 礫石器 敲石 | +7 | 長幅 6.7 | 17 821.3 | 厚重 4.5 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に敲打痕が残る。 | |
| 第322図 PL.206 | 36 | 石製品 砥石 | +2 | 長幅 8.8 | 17.5 1344.5 | 厚重 6.4 | デイサイト | 表裏面とも激しく使い込まれ、線条痕を伴う光沢面が形成されている。右辺エッジには横位線条痕が著しい。 | 礫砥石 |
| 第323図 PL.206 | 37 | 石製品 砥石 | 床直 | 長幅 11.5 | 18.1 1491.5 | 厚重 4.9 | デイサイト | 背面側に研磨に伴う光沢面が広がる。 | 礫砥石 |



第323図 3区135号住居出土遺物(4)

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ100cm、焚き口部の幅46cmを測る。1～4層はカマド埋没土、5～7層は掘り方になる。

貯蔵穴 135号住居の土坑1が貯蔵穴になる可能性がある。長径83cm・短径68cm・深さ25cmの楕円形を呈する。埋没土はセクションE-E'とF-F'の11・12層が該当するものと思われる。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。

掘り方 全体的に掘り下げられているが浅い。ピットを検出した。P2は長径29cm・短径25cm・深さ35cm、P3は長径28cm・短径25cm・深さ23cm、P4は長径37cm・短径29cm・深さ45cm、P5は長径34cm・短径28cm・深さ20cm、P6は長径50cm・短径32cm・深さ33cmを測る。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 不明。

136号住居(第324・325図、P L .104・105・206、第117表)

位置 26B-7・8グリッド。

重複 135・165号住居より後出で、58号溝より前出。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-66°-E

規模 現状での面積は5.3㎡。長辺(北東～南西)3.62m、短辺(北西～南東)2.17m、壁高は25cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。一部が貼床である。床面の中央部に硬化面が認められる。

カマド 東壁に設置されていたものと思われる。貯蔵穴の位置と焼土の分布から確実と思われる。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径63.5cm・短径46cm・深さ8～20cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～4層は住居埋没土、5層は貼床、6～9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸があるが、床の中央部と西に土坑状の掘り込みが認められる。土坑1は長径113cm・短径70cm・深さ52.5cm、土坑2は長径118cm・短径76.5cm・深さ22.5cmを測る。

出土遺物 中央部及び南壁際の床面から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

165号住居(第324図、P L .116)

位置 26B-8グリッド。

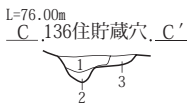
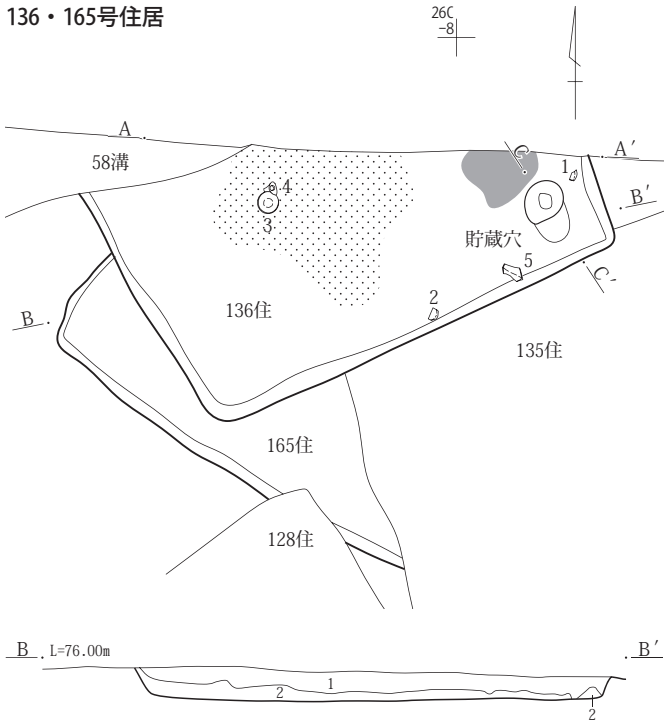
重複 136号住居より前出で、165号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 重複しているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

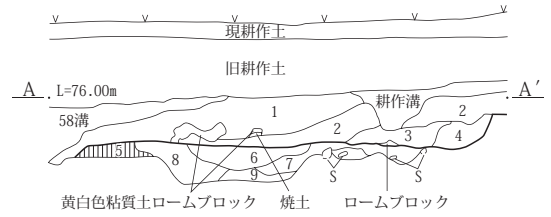
規模 現状での面積は1.67㎡。北西～南東3.40m、北

136・165号住居



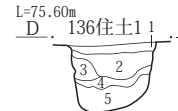
136号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。



136号住居

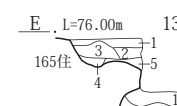
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土ブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロックをやや多く含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロックを多く含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を多量に、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。貼床。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を多く、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 7 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 8 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を多量に含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多く含む。



136住土1

136号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子を多く、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 3 黒褐色土 やや硬くしまり粘性少しあり。ローム粒子、白色粒子、炭化物粒子を含み、ロームブロックを多く含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子を少量、ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。



136住土2

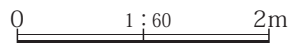
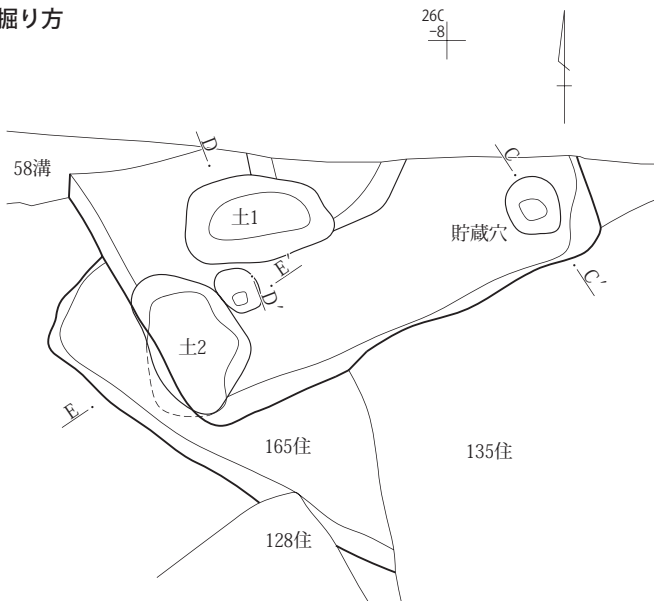
136号住居内土坑2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、炭化物粒子を含み、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含み、ローム粒子を多く含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

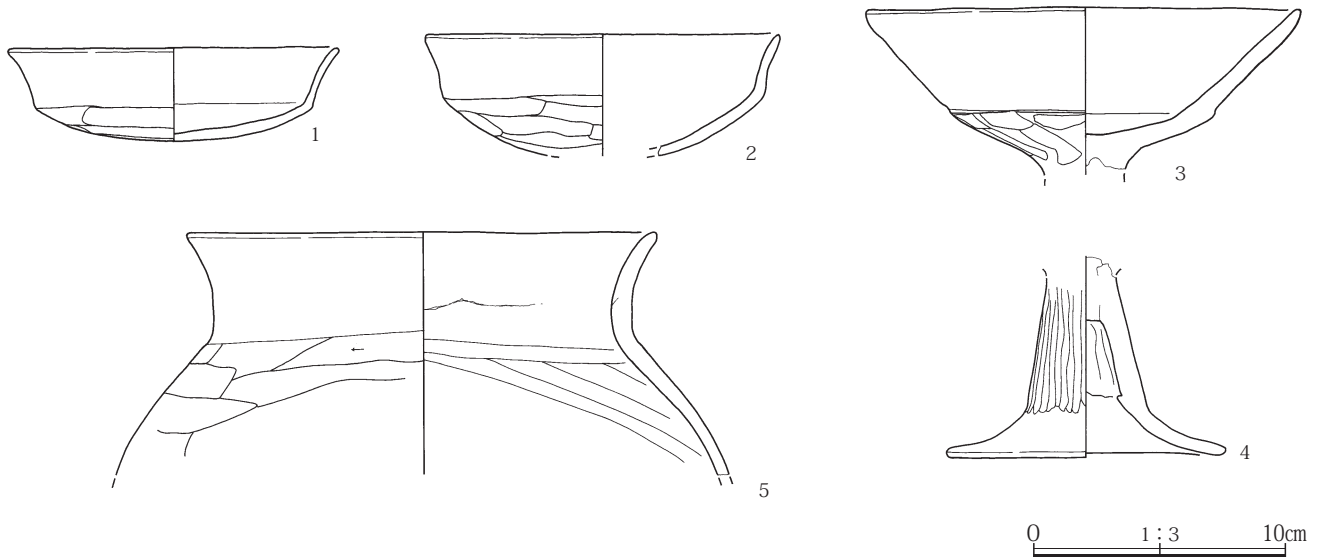
165号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性少しあり。ローム粒子、白色軽石を含み、ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子を含み、ロームブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 ややしり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。

掘り方



第324図 3区136・165号住居



第325図 3区136号住居出土遺物

第117表 3区136号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|-------------------|-----|------|---|--------------------|------------------|--|----------|
| 第325図 | 1 | 土師器 杯 | +10 1/4 | 口 | 12.8 | 高 | 3.6 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第325図 | 2 | 土師器 杯 | +14 口縁~体部1/3 | 口 | 13.8 | | | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第325図 PL.206 | 3 | 土師器 高杯 | 内土坑1 杯部 | 口 | 16.9 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。体部は丁寧なナデ。 | 内面やや磨滅。 |
| 第325図 PL.206 | 4 | 土師器 高杯 | 内土坑1 脚部片 | 底 | 10.8 | | | 精選/良好/橙 | 裾部は屈曲後大きく外反して延びる。外面上半は縦位のナデ。下半は横ナデ。内面上半はナデ。下半は横ナデ。 | |
| 第325図 | 5 | 土師器 甕 | +2 口縁~胴 部上位1/4 | 口 | 18.2 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位にヘラ削り。内面胴部は斜横位のヘラナデ。 | 被熱・炭素吸着。 |

東～南西1.16m、壁高はほとんど検出することはできなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 ほとんど確認できなかった。

出土遺物 ほとんど出土していない。

時期 不明。

137号住居(第326～328図、P L .104・105・206、第118・119表)

位置 16A・B-18・19グリッド。

重複 138・179号住居より後出で、3号溝より前出。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、長方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-56°-E

規模 現状での面積は12.6㎡。長辺(北東～南西)4.78m、短辺(北西～南東)3.9m、壁高は21cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。カマドから床面中央部にかけて硬化面が認められる。

カマド 東壁の中央から南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ100cm、焚き口部の幅48cm、袖を含めた幅は84cmを測る。袖には土師器甕が据えられている。1～4層はカマド埋没土、5～13層は掘り方になる。

貯蔵穴・柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

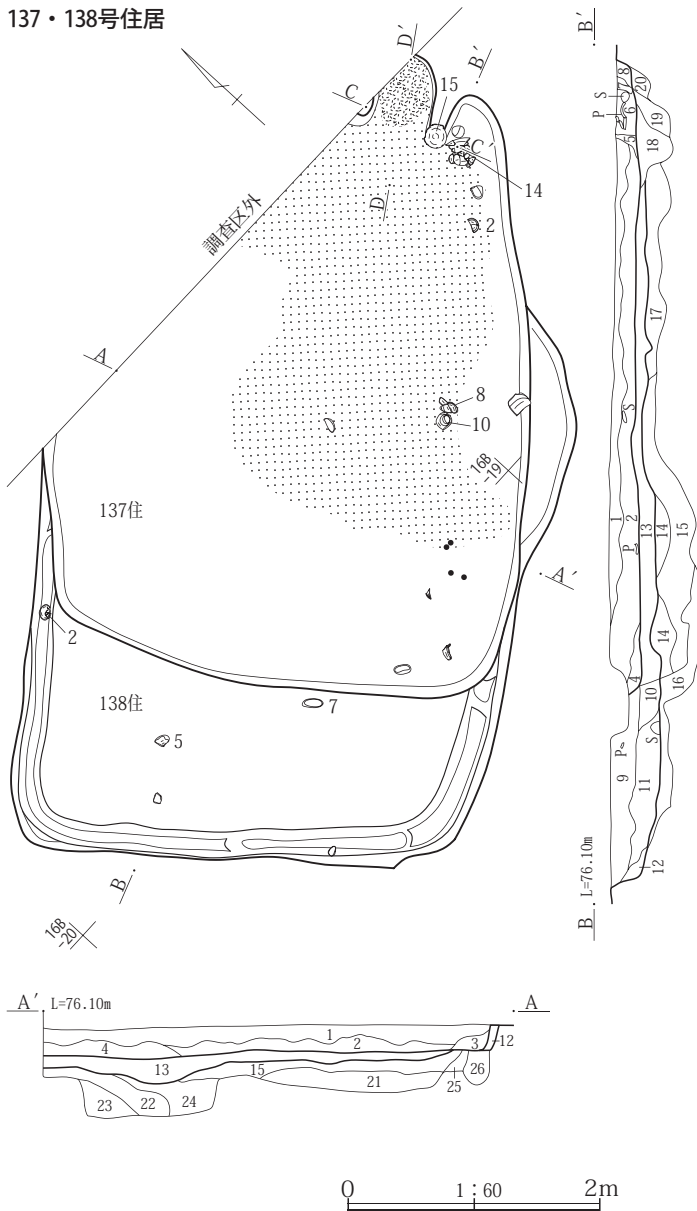
埋没土 自然埋没土である。1～8層は住居埋没土、18～20層は掘り方充填土になる。9～13層は138号住居埋没土、14～17・21～25層は138号住居掘り方充填土である。

掘り方 重複しているために全容は不明である。ピット2基が検出された。P1は長径48cm・短径45cm・深さ15cm、P2は長径39.5cm・短径34cm・深さ24cmを測る。

出土遺物 カマド及び右脇から土師器杯・甕(2・14・15)が出土している。ほか南壁際にややまとまりがある。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

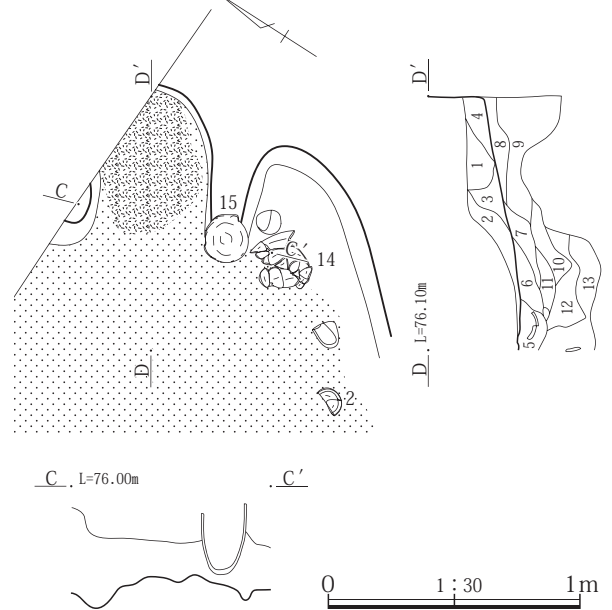
137・138号住居



137・138号住居

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 1層よりローム粒子を多く、焼土粒子、灰と炭化物粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 2層に近いがより色調が暗い。
- 5 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量、炭化物粒子を多量に、粘土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子を多く、炭化物粒子を含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子、焼土粒子を含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 9 暗褐色土 2層よりしまり強い。炭化物粒子を含む。焼土粒子を多量に、軽石を少量含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多く、軽石を含む。
- 11 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量、ローム粒子を含む。
- 12 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを含む。
- 13 暗褐色土 下部に部分的な硬化面あり。
- 14 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを少量、炭化物粒子を微量、ローム粒子、軽石を含む。

137住居カマド

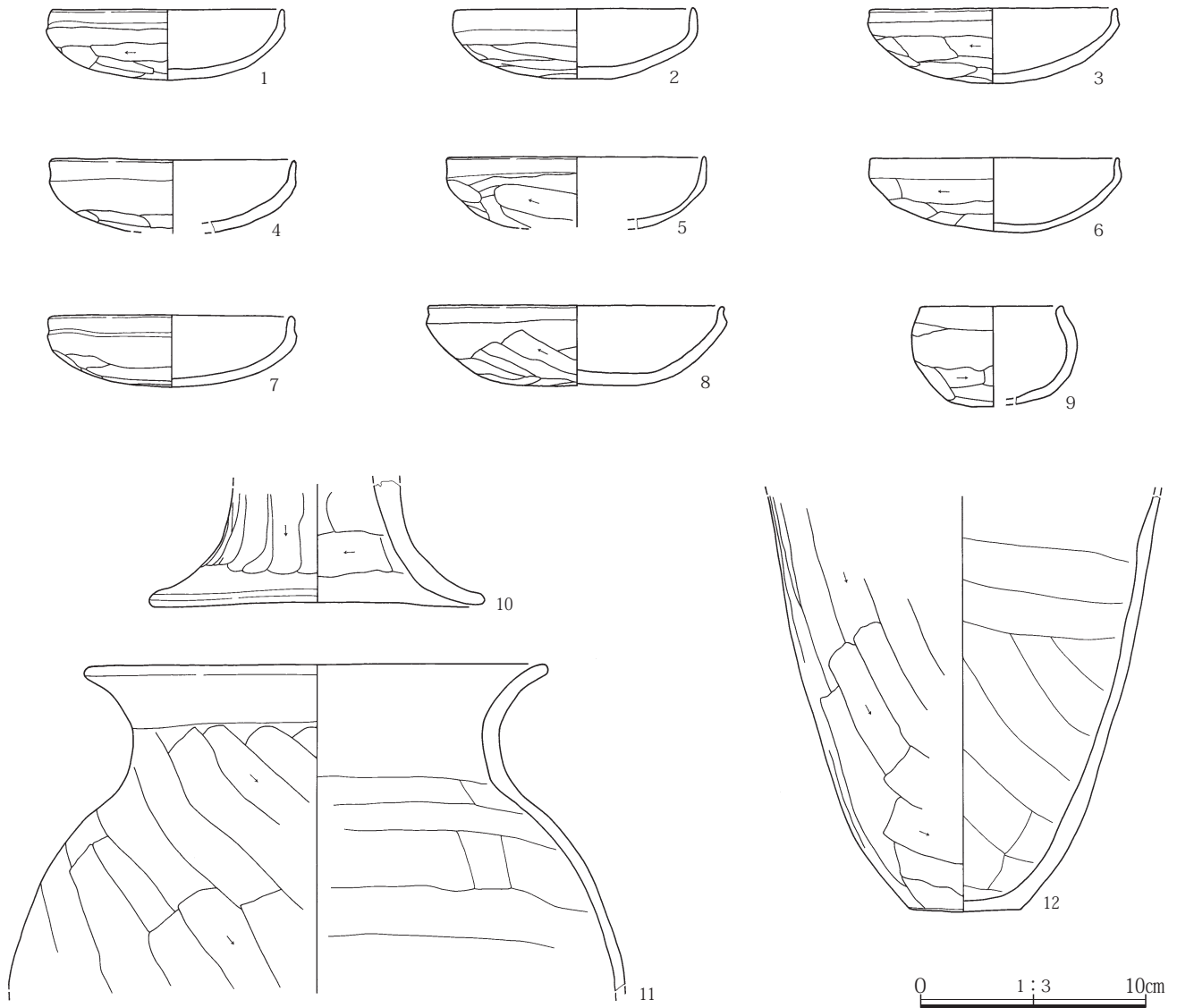


137号住居カマド

- 1 褐色土 しまり強い。粘土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を少量、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量、ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱い。焼土粒子を多く含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱い。焼土粒子を微量含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子、粘土ブロックを少量含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 8 暗褐色土 3層より色調暗い。
- 9 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロック、炭化物粒子を含む。
- 10 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 11 暗褐色土 しまり弱い。灰を多く含む。
- 12 暗褐色土 しまり弱い。焼土粒子を少量、炭化物粒子を含む。
- 13 暗褐色土 しまり弱い。焼土粒子を少量、焼土ブロック、炭化物粒子を含む。

第326図 3区137・138号住居と137号住居カマド

第3章 発掘調査の記録

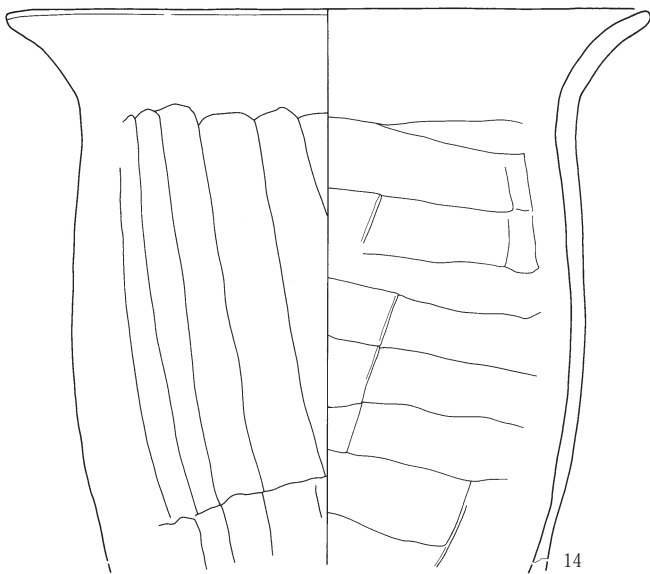
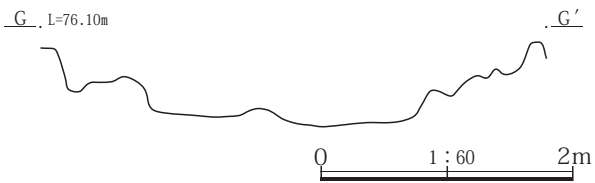
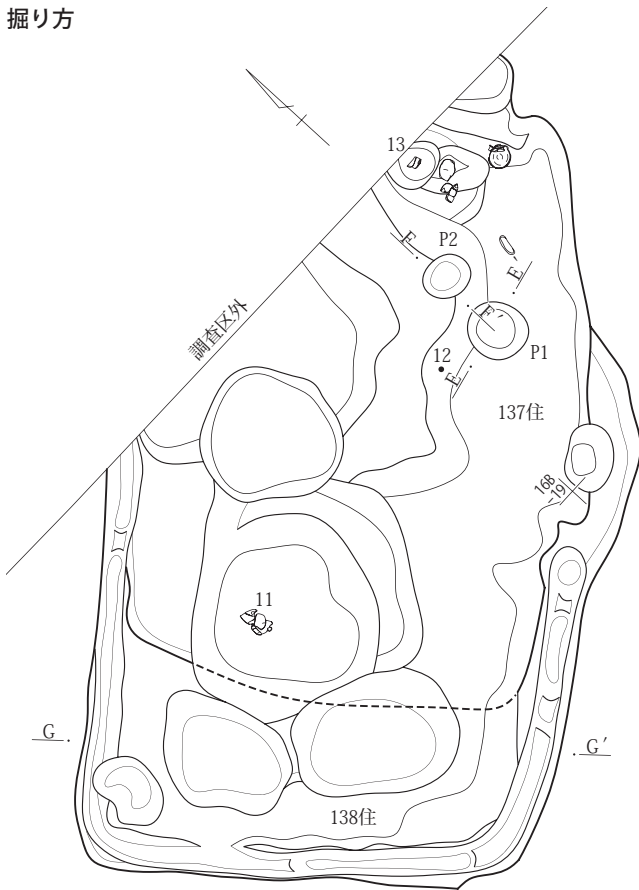


第327図 3区137号住居出土遺物(1)

第118表 3区137号住居出土遺物(1)

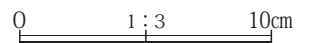
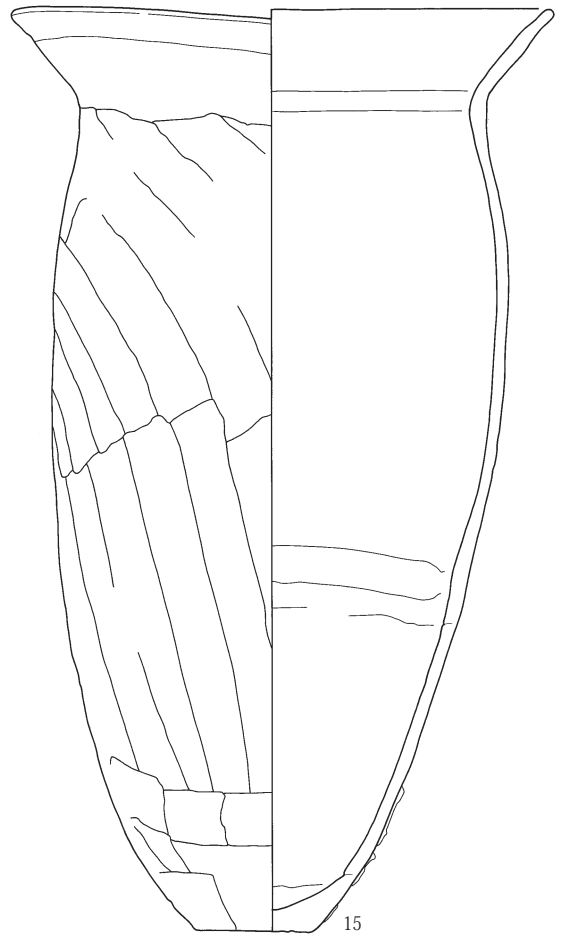
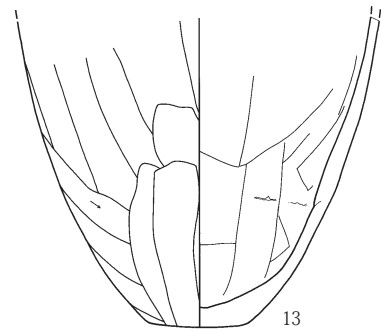
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|-------------|-----|------|---|--------------------|----------------|---|
| | | | | 口 | 高 | 厚 | | | |
| 第327図 PL.206 | 1 | 土師器 杯 | 口縁一部欠 | □ | 10.1 | 高 | 3.1 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内外面ともやや磨滅。 |
| 第327図 PL.206 | 2 | 土師器 杯 | 床直 完形 | □ | 10.3 | | | 粗砂粒少/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分をわずかに残す。内面はナデ。 |
| 第327図 | 3 | 土師器 杯 | 1/4 | □ | 10.8 | 高 | 3.3 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面の底部一部に炭素吸着。 |
| 第327図 | 4 | 土師器 杯 | 1/3 | □ | 10.6 | | | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。体部に撫での部分を残す。内面はナデ。 |
| 第327図 | 5 | 土師器 杯 | 1/3 | □ | 11.2 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分をわずかに残す。内面はナデ。 |
| 第327図 | 6 | 土師器 杯 | 3/4 | □ | 10.7 | 高 | 3.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内面磨滅。 |
| 第327図 | 7 | 土師器 杯 | 1/3 | □ | 10.4 | 高 | 3.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面底部中央に炭素吸着。 |
| 第327図 | 8 | 土師器 杯 | +15 1/4 | □ | 12.8 | 高 | 3.5 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。体部にナデの部分を残す。内面はナデ。 |
| 第327図 PL.206 | 9 | 土師器 鉢 | 完形 | □ | 6.0 | 高 | 4.4 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部上位はナデ。体部下位から底部は手持ちヘラ削り。内面ナデ。外面体部の一部に炭素吸着。 |

掘り方



137号住居 P 1
 E, L=75.70m, E'
 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、焼土粒子を含む。
 2 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子を多く、粘土ブロックを含む。

137号住居 P 2
 F, L=75.70m, F'
 1 黒褐色土 やや軟らかくて粘性あり。白色粒子を少量含む。
 2 黒褐色土 やや軟らかくて粘性あり。



第328図 3区137・138号住居掘り方と137号住居出土遺物(2)

第3章 発掘調査の記録

第119表 3区 137号住居出土遺物(2)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|---------------------|--------|-------------|-----------|-----------------------|---|------------------------------------|
| | | | | | | | | | |
| 第327図 | 10 | 土師器 高杯 | 床直 脚部下位 | | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 外面は縦位にヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は横位にヘラ削り。裾部は横ナデ。 | |
| 第327図 | 11 | 土師器 甗 | 掘り方 口縁部 ～胴部上位1/4 | 口 | 19.8 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第327図 | 12 | 土師器 甗 | 掘り方 底部～胴部下半 | 底 | 4.9 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 胴部最下位は斜横位に、これ以上は斜縦位にヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部は斜位、横位にヘラナデ。 | 外面炭素吸着 ・黒色。 |
| 第328図 | 13 | 土師器 甗 | カマド掘り方 底部～胴部下位 | 底 | 3.8 | | 粗砂粒・白色軽石/ 良好/にぶい黄橙 | 胴部は斜縦位にヘラ削り。底部はヘラ削り。内面は丁寧なヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第328図 | 14 | 土師器 甗 | +5 口縁～胴部中位 | 口 | 25.2 | | 粗砂粒・細砂粒/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第328図 PL.206 | 15 | 土師器 甗 | 3/4 | 口 底 | 21.1 4.6 | 高 36.3 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部最下位が横位、他は2回に分けて斜縦位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 外面胴部一部 に煤付着。被 熱のため変色 ・変質。 |

138号住居(第326・328・329図、P L.105・206、第120表)

位置 16A・B-19グリッド。

重複 137号住居、3号溝より前出。

形状 重複しているために全容は不明であるが、長方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-56°-E

規模 北西～南東3.74m、北東～南西3.4m、壁高は20cmを測る。

床面 やや凹凸がある。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴 確認できなかった。

周溝 北・西・南壁下から検出された。全周していたものと思われる。幅10～20cm、深さ20cmを測る。

埋没土 自然埋没土である。9～13層は住居埋没土、18～20層は掘り方充填土になる。9～13層は138号住居埋没土、14～17・21～25層は138号住居掘り方充填土になる。

掘り方 住居中央部を中心に掘り下げられている。深さ10～36cmを測る。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

139号住居(第330・331図、P L.105・207、第121表)

位置 16B-20グリッド。

重複 140号住居、215号土坑より後出。

形状 調査区外に延びるために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-117°-W

規模 現状での面積は4.2㎡。北東～南西3.6m、北西～南東2.4m、壁高は70～76cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。部分的に貼床である。床面の一部に硬化面が認められた。

カマド 西壁に設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築されており、長さ44cm、焚き口部の幅24cmを測る。1・2層はカマド埋没土になるが、残存状況は悪い。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～13層は住居埋没土、14～16層はピット埋没土になる。3～8層には焼土や灰が含まれている。17・18層は貼床、19・20層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さ5～32cmを測る。

出土遺物 東壁際の床面から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

140号住居(第330・331図、P L.105・207、第121表)

位置 16A・B-20、26B-1グリッド。

重複 5号溝より後出で、139号住居より前出。

形状 調査区外に延びるために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は13.3㎡。北東～南西5.05m、北西～南東4.7m、壁高は25cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 確認できなかった。

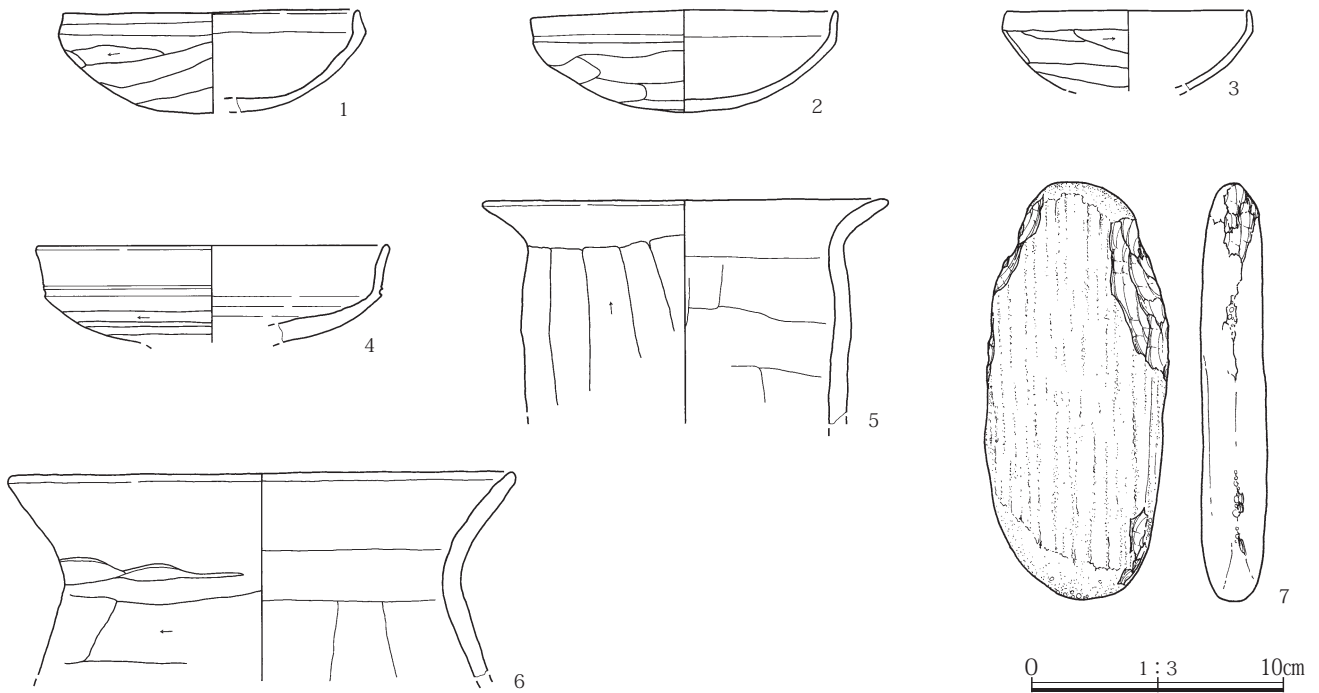
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 床面調査段階では検出できなかったが、掘り方調査時に検出されたP3は主柱穴になる可能性がある。P3は長径60cm・短径44cm・深さ30cmを測る。床面南東隅のP1は長径50cm・短径27cm・深さ16cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。22層は住居埋没土、23層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さ5～25cmを測る。



第329図 3区138号住居出土遺物

第120表 3区138号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|-----------------|-----|-------------|-----------------|--------------------|---|----------|
| | | | | 口 | 高 | 厚 | | | |
| 第329図 | 1 | 土師器 杯 | 1/2 | 口 | 11.6 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第329図 PL.206 | 2 | 土師器 杯 | 周溝内 完形 | 口 | 11.9 | 高 4.0 | 細砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分をわずかに残す。内面はナデ。 | |
| 第329図 | 3 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 9.5 | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第329図 | 4 | 須恵器 高杯 | 杯部片 | 口 | 13.8 | | 白色・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰 | ロクロ整形(回転右回り)。口縁部は回転ヘラ削り。 | 内面自然釉付着。 |
| 第329図 | 5 | 土師器 甕 | +6 口縁~胴 部上位片 | 口 | 15.8 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | |
| 第329図 | 6 | 土師器 甕 | 口縁~胴部上位 片 | 口 | 19.6 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。内面中位に弱い変換点あり。胴部は横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | |
| 第329図 PL.206 | 7 | 礫石器 敲石 | +25 | 長幅 | 16.4 7.2 | 厚重 2.6 471.4 | 雲母石英片岩 | 小口部に近い両側縁が激しく敲打され、これにより剥離痕が生じている。 | 楕円礫 |

ピットと土坑が検出された。P 2は長径83.5cm・短径47cm・深さ58cm、P 4は長径41cm・短径31cm・深さ45cmを測る。土坑1は長径148cm・短径96cmである。

出土遺物 床面全体に分散して少量の土器片・石製模造品(第331図13)、鏝子(同14)が出土している。南東隅床面に菰編石3点が出土する。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

141号住居(第332~334図、P L.106・207、第122表)

位置 16A-19・20グリッド。

重複 142号住居より後出で、60号溝より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-60°-E

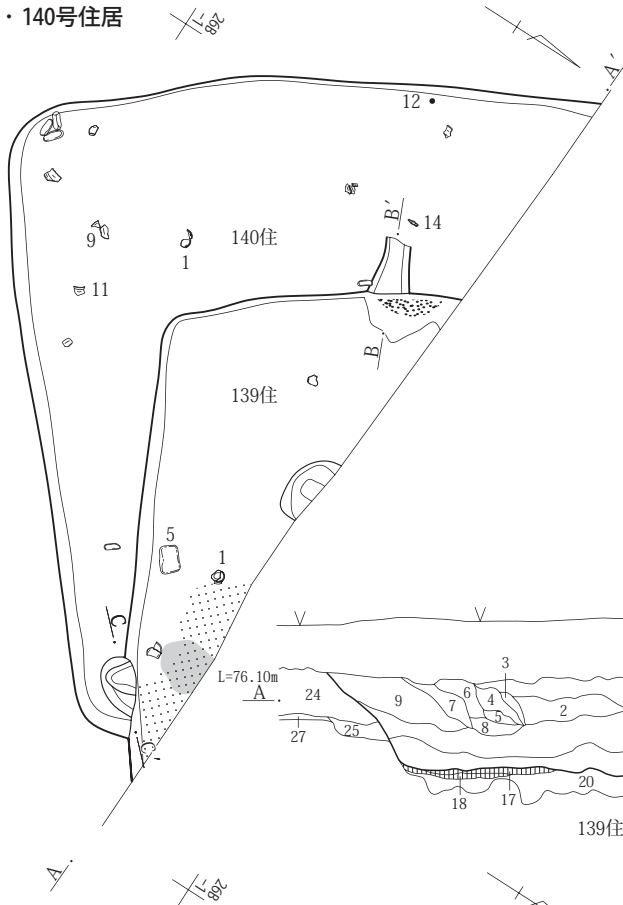
規模 面積は7.4㎡。長辺(北西~南東)3.15m、短辺(北東~南西)2.9m、壁高は10cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。壁際を除いた床面に硬化面が認められた。

カマド 住居南東隅に設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ112cm、焚き口部の幅60cmを測る。1~5層はカマド埋没土、6層は炭層、7~10層は掘り方になる。残存状況は悪い。カマド埋没土から礫が出土している。

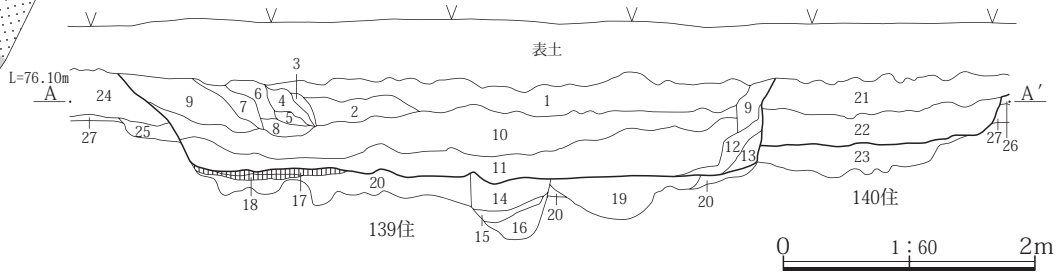
貯蔵穴 床面調査時には検出できなかったが、掘り方調査時に検出されたカマドに付随するピットが貯蔵穴になりそうである。長径34cm、短径30cm、深さ30cmを測る。

139・140号住居

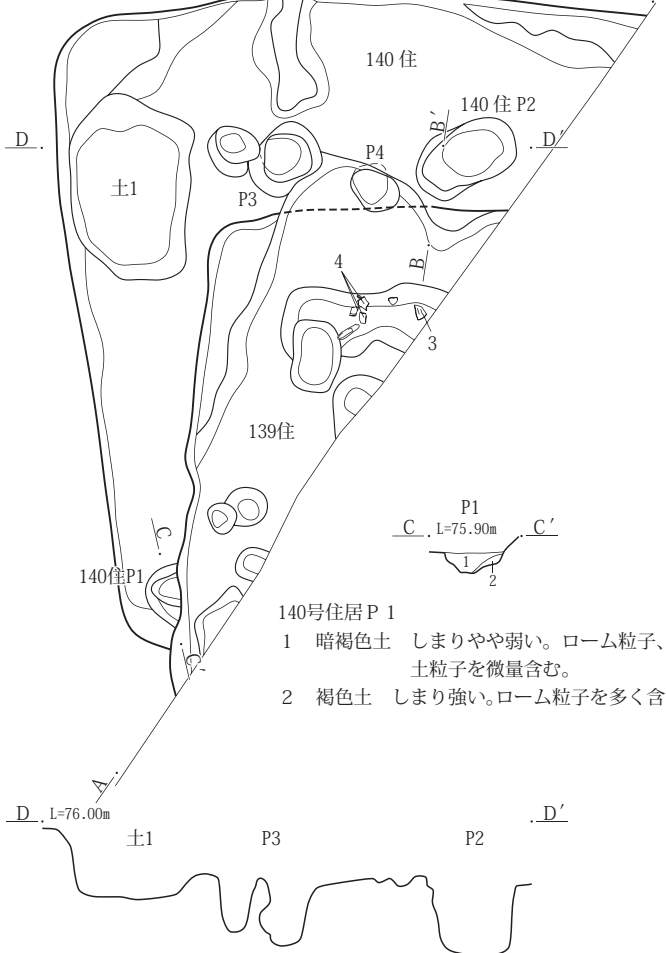


139・140号住居

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子、軽石を含む。
- 2 暗褐色土 1層より、焼土粒子、軽石共に少量。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を少量含む。
- 5 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子、焼土ブロック、灰を含む。
- 6 暗褐色土 4層より軽石を多く含む。
- 7 暗褐色土 6層より焼土粒子を多く含む。
- 8 黒褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子、灰を多く含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや弱い。1層より暗い色調。
- 10 暗褐色土 しまり強い。炭化物粒子を少量、焼土粒子、軽石を含む。
- 11 暗褐色土 しまり強い。軽石を多量、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 12 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 13 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 14 暗褐色土 粘性あり。ロームブロックを含む。
- 15 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。
- 16 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。粘土ブロックを含む。
- 17 暗褐色土 しまり硬く粘性あり。貼床。
- 18 暗褐色土 やや硬く粘性あり。貼床。



掘り方

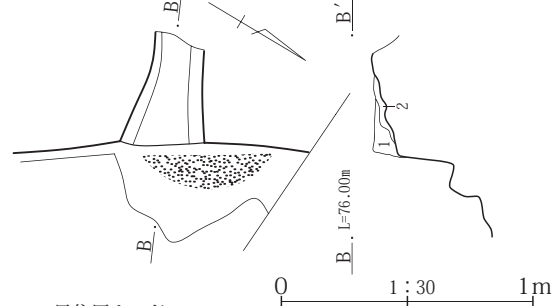


- 19 暗褐色土 しまりやや硬く粘性あり。ロームブロック、ローム粒子、焼土ブロック、焼土粒子を少量含む。
- 20 暗褐色土 しまりやや硬く粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 21 暗褐色土 しまりやや硬く粘性あり。白色粒子、焼土粒子を少量含む。
- 22 暗褐色土 しまりやや硬く粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量、焼土粒子、焼土ブロック、炭化物を微量含む。
- 23 暗褐色土 しまりやや硬く粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 24 暗褐色土 しまりやや軟らかく粘性あり。白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 25 215号土坑フク土
- 26 暗褐色土 しまりやや軟らかくて粘性あり。白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 27 ローム漸移層

140号住居 P 1

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 2 褐色土 しまり強い。ローム粒子を多く含む。

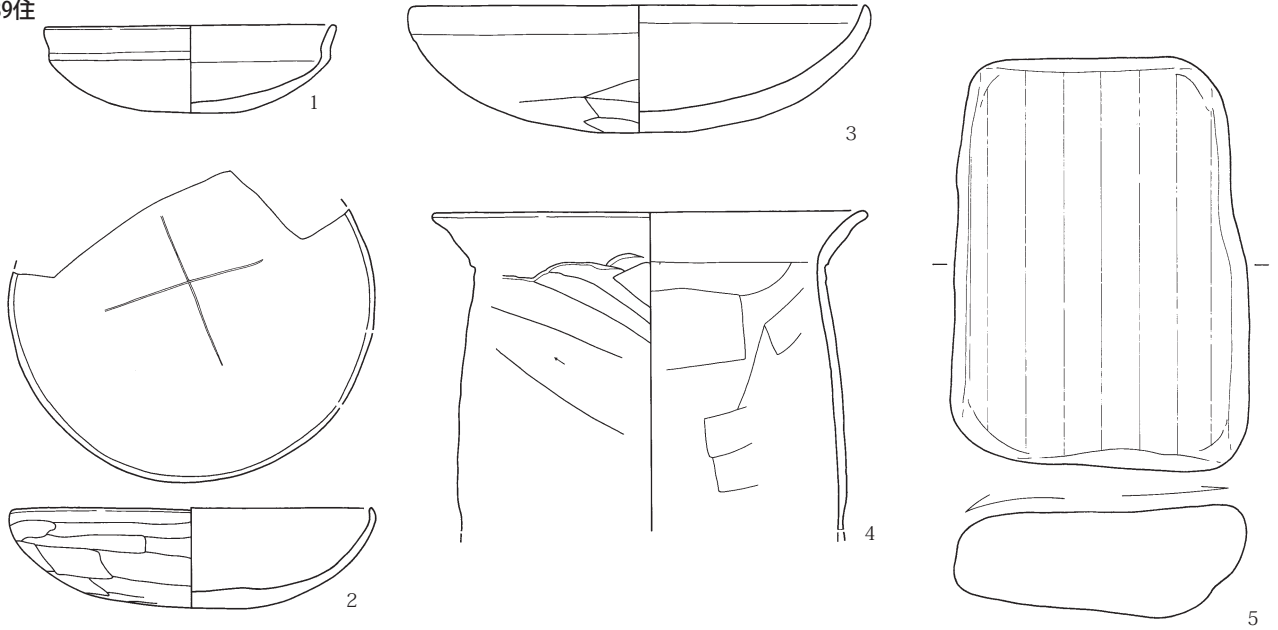
139号住居カマド



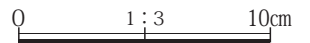
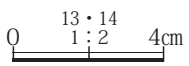
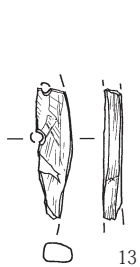
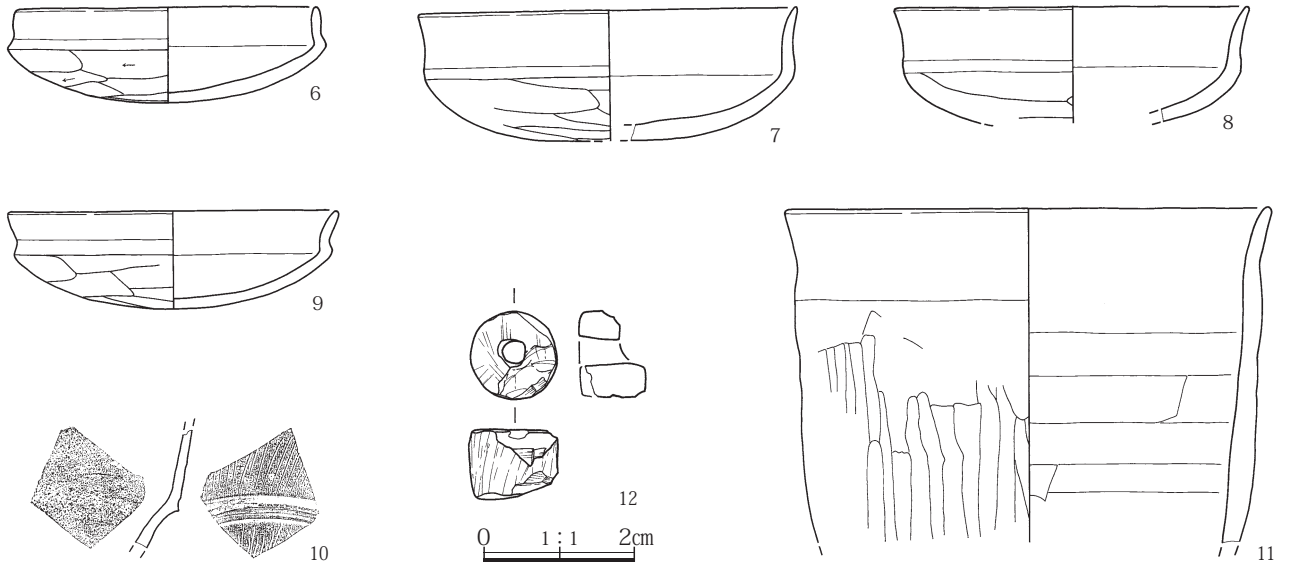
139号住居カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 1層よりしまり強い。ロームブロックを含む。

139住



140住



第331図 3区139・140号住居出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第121表 3区139・140号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-------------|--------------------|-----|----------------|----|--------------------|-----------------|---|------------|
| | | | | 口 | 高さ | 厚重 | | | | |
| 第331図 PL.207 | 1 | 土師器 杯 | 139住 +5 3/4 | 口 | 11.4 | 高 | 3.4 | 精選・粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削りと考えられる。内面はナデ。 | |
| 第331図 PL.207 | 2 | 土師器 杯 | 139住 3/4 | 口 | 14.2 | 高 | 4.0 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちへら削り。内面はナデ。底部内面に細い線で「十」の線刻か。 | |
| 第331図 | 3 | 土師器 杯 | 139住 掘り方 口縁~底部片 | 口 | 17.8 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ部分が残る。体部上位から底部は手持ちへら削り。 | 内面磨滅。 |
| 第331図 | 4 | 土師器 甕 | 139住 掘り方 口縁~胴部 | 口 | 17.0 | | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位のへら削り、頸部に工具痕あり。内面は横位にへらナデ。 | |
| 第331図 PL.207 | 5 | 石製品 砥石 | 139住 +3 | 長幅 | 22.0 15.6 | 厚重 | 6.4 3883.6 | 粗粒輝石安山岩 | 背面側が研磨され、広く光沢面が広がる。 | 扁平礫 |
| 第331図 PL.207 | 6 | 土師器 杯 | 140住 +20 1/2 | 口 | 11.7 | 高 | 3.7 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第331図 | 7 | 土師器 杯 | 140住 床直 1/4 | 口 | 14.9 | | | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第331図 | 8 | 土師器 杯 | 140住 1/4 | 口 | 13.8 | | | 精選・赤色粘土粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第331図 | 9 | 土師器 杯 | 140住 +8 1/4 | 口 | 12.8 | 高 | 3.8 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 | |
| 第331図 | 10 | 須恵器 甕 | 140住 胴部片 | | | | | 精選/還元焰/黒褐 | ロクロ整形。外面中位の稜を挟み、上下に斜位にへら描文を充填している。 | 内面自然釉。 |
| 第331図 | 11 | 土師器 甕 | 140住 床直 口縁部~胴部片 | 口 | 18.8 | | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部はナデの上に縦位のへらナデ。内面は横位のへらナデ。 | 外面炭素吸着、煤か。 |
| 第331図 PL.207 | 12 | 石製模造品 白玉 | 140住 床直 | 径 | 1.2 | 厚重 | 0.9 1.49 | 滑石 | 上・下面とも研磨され、体部に縦位線条痕が残る。 | 扁平礫 |
| 第331図 PL.207 | 13 | 石製模造品 剣形 | 140住 | 長幅 | (3.5) (1.0) | 厚重 | 0.5 2.42 | 滑石 | 中央より左辺を大きく欠いているが、残存部の形状から先端が窄まる剣形石製品と見た。上端側に偏り径3mm弱の孔を両側穿孔する。 | 棒状礫 |
| 第331図 PL.207 | 14 | 鉄器 鑊子 | 140住 床直 両側端部を欠損 | 長幅 | (8.3) 0.6 | 厚重 | 0.3 (8.5) | | 片側が折れ曲がっている。錆化が進んでいる。 | |

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3・4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さ5～20cmを測る。

出土遺物 カマドや床面全体から分散して少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

142号住居(第332～334図、P L.106・107・207、第123表)

位置 16A-20グリッド。

重複 203号土坑より後出で、141号住居、60号溝より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-131°-W

規模 面積は12.1㎡。長辺(北西～南東)4m、短辺(北東～南西)3.71m、壁高は30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。カマドから床面中央にかけて硬化面が認められた。

カマド 西壁の中央から南寄りに設置される。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ87cm、焚き口部の幅30cmを測る。1～15層はカマド埋没土、16～19層は掘り方になる。

貯蔵穴 床面調査時には検出できなかったが、掘り方調査時に検出された203号土坑下、カマドに近接するピットが貯蔵穴になる。長径48cm、短径40cm、深さ30cmを測る。

柱穴・周溝 確認できなかった。

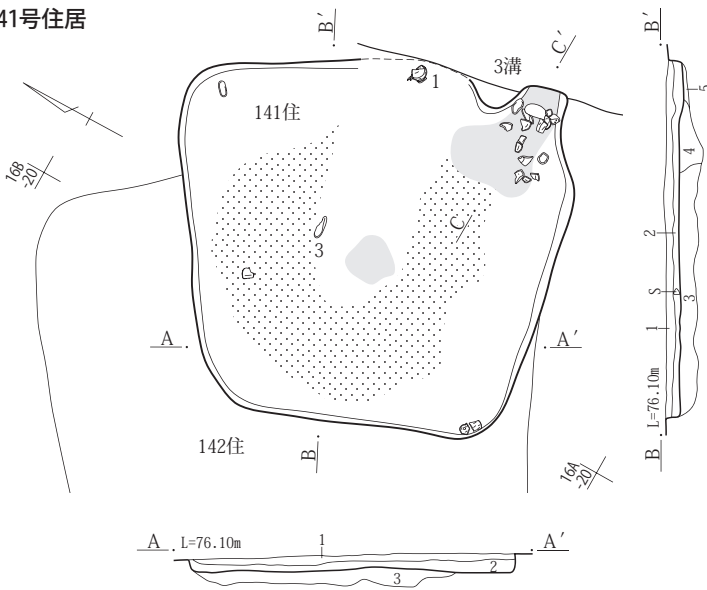
埋没土 自然埋没土である。6・7・10～12層は住居埋没土、13～16層は掘り方充填土になる。8・9層は60号溝埋没土になるものと思われる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さ7～40cmを測る。ピット1基が検出された。長径61cm、短径41.5cm、深さ20cmを測る。

出土遺物 カマドや床面全体から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

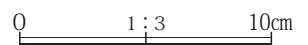
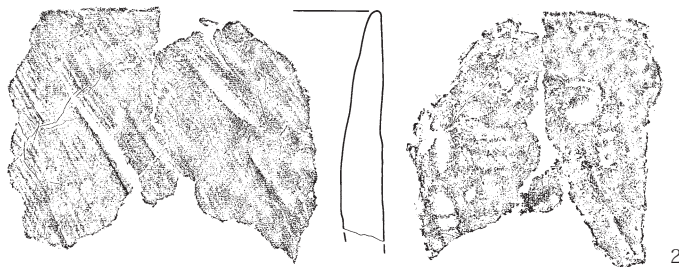
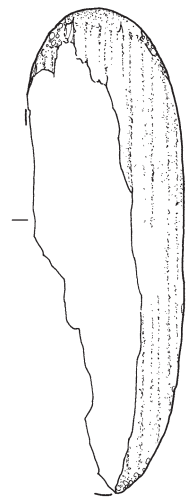
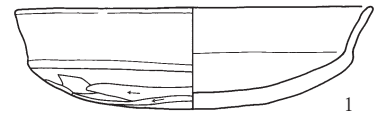
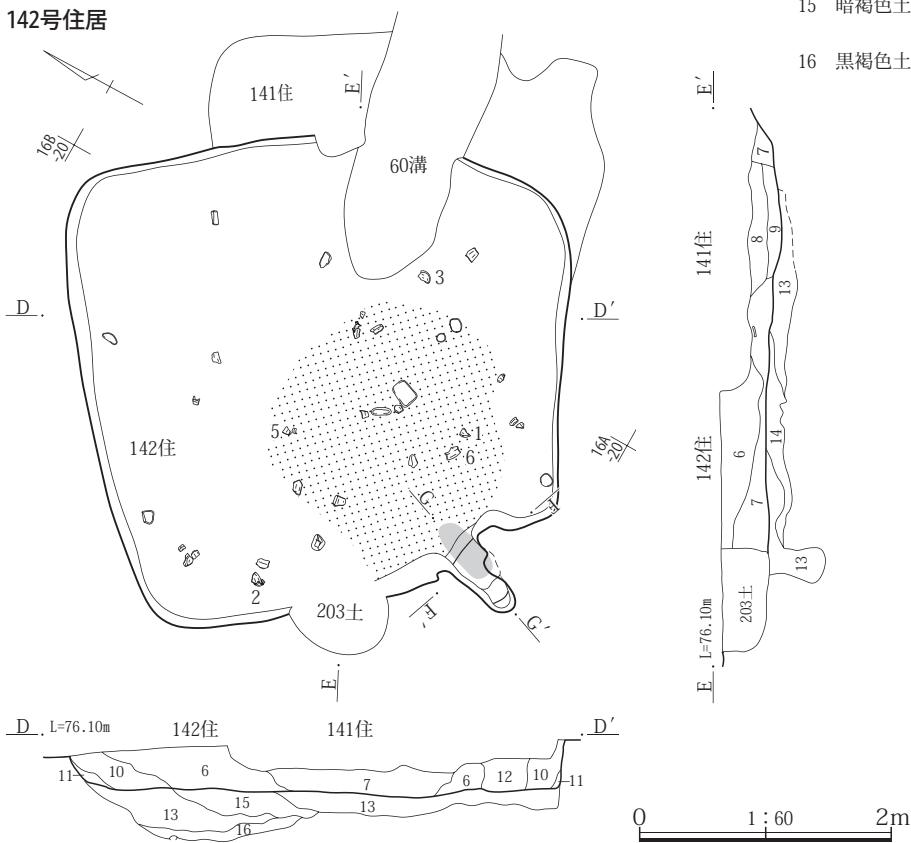
141号住居



141・142号住居

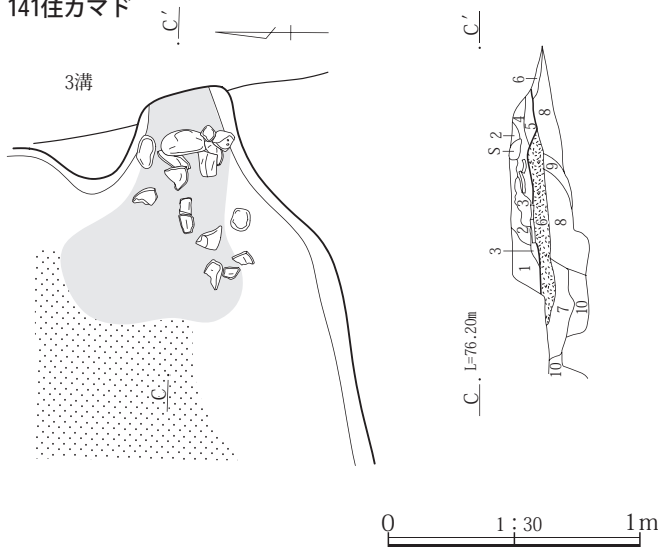
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を微量、ローム粒子を少量、軽石を含む。
- 4 黒褐色土 しまり弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 5 4層よりも色調が明るい。
- 6 7層にロームブロック含む。
- 7 3層より軽石が多い。
- 8 黒褐色土 下部に硬化面あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 9 8層よりロームブロックが多い。
- 10 黒褐色土 しまり弱い。軽石を微量含む。
- 11 10層に12層を含む。
- 12 黒褐色土 しまり弱い。焼土粒子を少量含む。
- 13 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 14 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子を含む。
- 15 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を多く、ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 16 黒褐色土 しまり弱い。軽石を少量含む。

142号住居

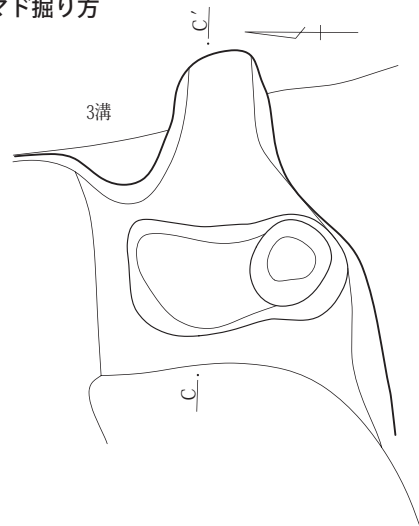


第332図 3区141・142号住居と141号住居出土遺物

141住カマド

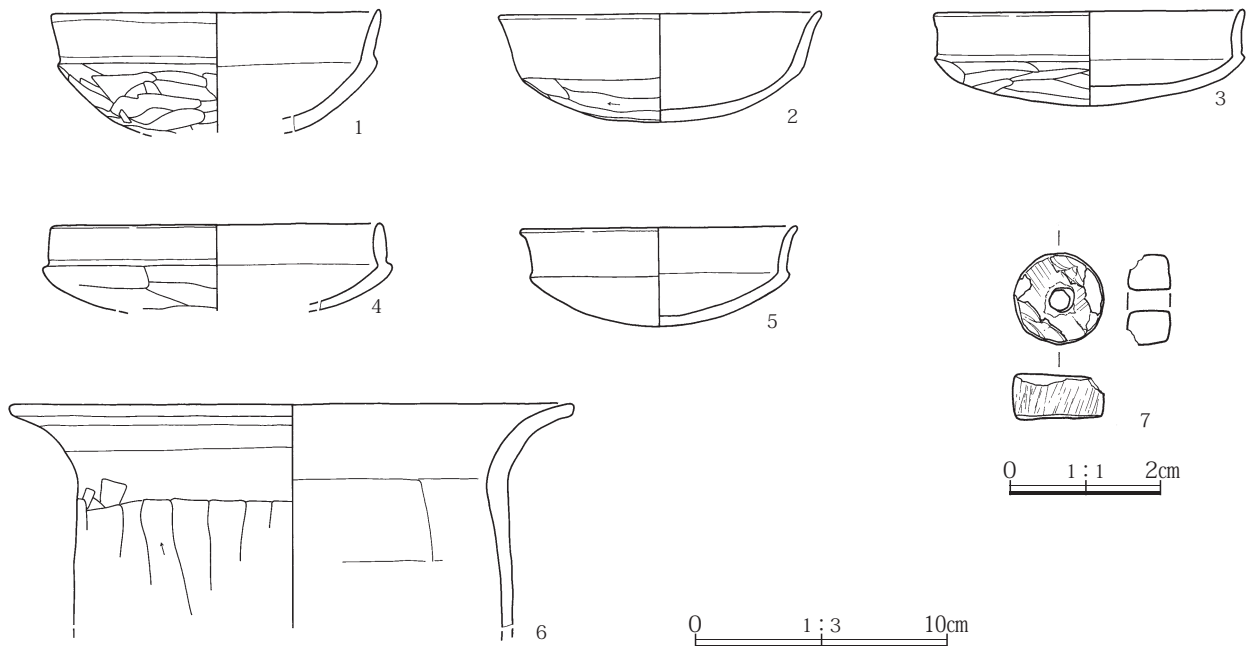


カマド掘り方



141号住居カマド

- | | |
|----------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。 | 6 暗褐色土 しまり強い。下部に炭屑、焼土ブロックを多く含む。 |
| 2 暗褐色土 焼土粒子を少量、ロームブロックを含む。 | 7 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を少量、ローム粒子を含む。 |
| 3 2層より焼土粒子を多く、炭化物粒子を含む。 | 8 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、軽石を含む。 |
| 4 暗褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを含む。 | 9 暗褐色土 しまりやや弱い。灰、焼土粒子を含む。 |
| 5 褐色土 ロームブロックを多く含む。 | 10 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を多く含む。 |

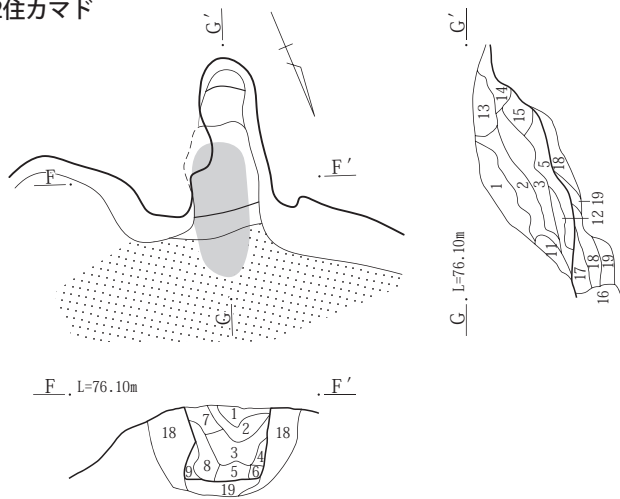


第333図 3区141号住居カマドと142号住居出土遺物

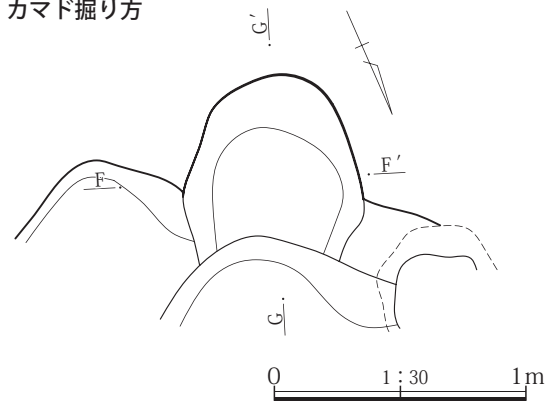
第122表 3区 141号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|-------------|--------|---------------|--------|--------------------|----------------------------|--|----------------------------|
| 第332図 | 1 | 土師器 杯 | +9 3/4 | 口 | 13.9 | 高 | 3.9 | 細砂粒・白色鈺物 粒/良好/にぶい黄 橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。体部上位にナデ部分を残す。内面はナデ。 | 底部外面炭素吸着。 |
| 第332図 | 2 | 土製品 不明 | 破片 | | | | | 粗砂粒/酸化焰・良 好/明赤褐 | 外面は斜ハケ目の上にヘラナデか。内面はナデ。 | 円筒埴輪状を呈するが上端は器肉が薄くなって終息する。 |
| 第332図 PL.207 | 3 | 礫石器 敲石 | 床直 | 長 幅 | 19.1 (6.1) | 厚 重 | 3.0 428.9 | 黒色片岩 | 上端小口部に敲打痕が残る。下端敲打時に器体を大きく欠損する。 | 扁平礫 |

142住カマド



カマド掘り方

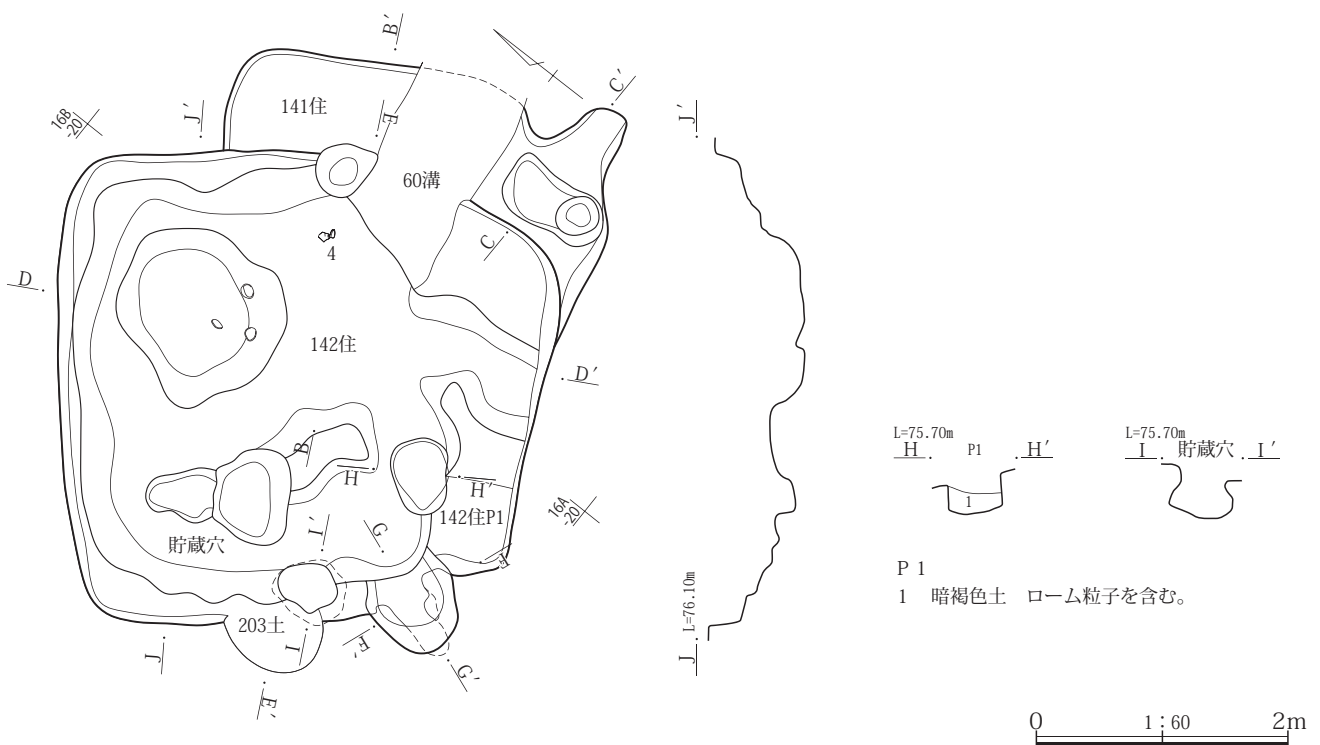


142号住居カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石、ローム粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。
- 4 2層に近いがより焼土粒子が多い。ロームブロックを含む。
- 5 黒褐色土 焼土粒子を多く含む。
- 6 ロームブロック。
- 7 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く含む。
- 8 5層に近いが、ロームブロックを含む。
- 9 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。焼土粒子を少量含む。
- 10 6層に近いが焼土粒子を少量含む。

- 11 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を多く、焼土粒子を含む。
- 12 褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く、焼土ブロックを含む。
- 13 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を多く、焼土ブロックを含む。
- 14 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量含む。
- 15 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子、ローム粒子を多く含む。
- 16 暗褐色土 焼土粒子を多量に、ロームブロックを含む。
- 17 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多量に、焼土粒子を含む。
- 18 暗褐色土 しまり弱い。炭化物粒子を少量、焼土粒子を含む。
- 19 暗褐色土 しまり弱い。粘土ブロック、焼土粒子を含む。

141・142住掘り方



第334図 3区141・142号住居掘り方と142号住居カマド

145号住居(第336図、P L .107、第124表)

位置 26B-9・10グリッド。

重複 58号溝より前出。

形状 調査区外に延びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 東西2.87m、南北0.5m、壁高は23cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。2・3層は住居埋没土、4層は貼床になる。

掘り方 ほぼ平坦である。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 不明。

146号住居(第335・337・338図、P L .107～109・207、第124表)

位置 25T・26A-6・7グリッド。

重複 58・60・181号住居より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-42°-W

規模 面積は12.4㎡。長辺(北東～南西)4.65m、短辺(北西～南東)3.22m、壁高は35～45cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。

カマド カマド2基が検出された。カマド1は北壁の中央からやや東寄りに設置されている。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ131cm、焚き口部の幅43cm、袖を含めた幅は100cmを測る。袖と支脚に礫が使用されている。カマド埋没土の2層は天井部の一部、

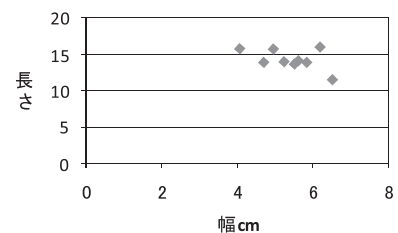
第123表 3区142号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-------------|---------------|--------|------|--------|-------------------------|--|-------------|
| 第333図 PL.207 | 1 | 土師器 杯 | 床直 1/2 | 口 | 12.8 | | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。底部は細かな単位で手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内面やや炭素吸着。 |
| 第333図 PL.207 | 2 | 土師器 杯 | +3 1/2 | 口 | 12.5 | 高 | 4.3 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第333図 | 3 | 土師器 杯 | +15 1/3 | 口 | 12.0 | 高 | 3.7 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面炭素吸着。 |
| 第333図 | 4 | 土師器 杯 | 掘り方 口縁～底部片 | 口 | 12.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面黒色、漆塗りか。 |
| 第333図 | 5 | 土師器 杯 | +20 1/4 | 口 | 10.8 | 高 | 3.9 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りか。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第333図 | 6 | 土師器 甕 | +20 口縁～胴部片 | 口 | 22.0 | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は3回に分けて横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第333図 PL.207 | 7 | 石製模造品 白玉 | | 径 幅 | 1.2 | 厚 重 | 0.6 1.29 滑石 | 上・下面とも粗く研磨するほか、体部に整形時の粗い縦位線条痕が残る。 | |

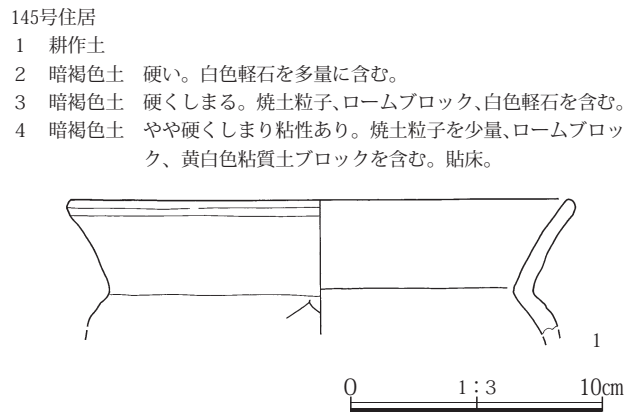
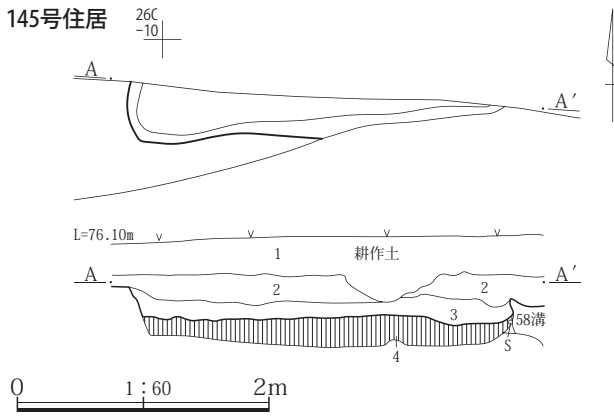
第124表 3区145・146号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|----------------|-----|------|---|------------------------------|---|------------------------|
| 第336図 | 1 | 土師器 甕 | 145住 口縁～胴部片 | 口 | 19.6 | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削りと考えられる。 | 外面の一部に炭素吸着。 |
| 第338図 PL.207 | 1 | 土師器 杯 | 146住カマド 完形 | 口 | 13.1 | 高 | 3.6 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。底部内面は成形不良で凹凸あり。 | 内外面磨滅・外面底部中央に炭素吸着・黒班状。 |
| 第338図 PL.207 | 2 | 土師器 杯 | 146住+11 一部欠 | 口 | 13.1 | 高 | 3.9 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第338図 PL.207 | 3 | 土師器 杯 | 146住 一部欠 | 口 | 10.8 | 高 | 2.7 細砂粒/白色鈹物 粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分をおわずかに残す。内面はナデ。 | 外面底部に炭素吸着。 |
| 第338図 | 4 | 土師器 杯 | 146住 口縁～底部片 | 口 | 16.0 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部上位にナデの部分を残す。一部に輪積み痕。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第338図 | 5 | 須恵器 壺 | 146住 口縁片 | 口 | 12.0 | | 細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰オリ ーブ | ロクロ整形・回転は右回り。 | |

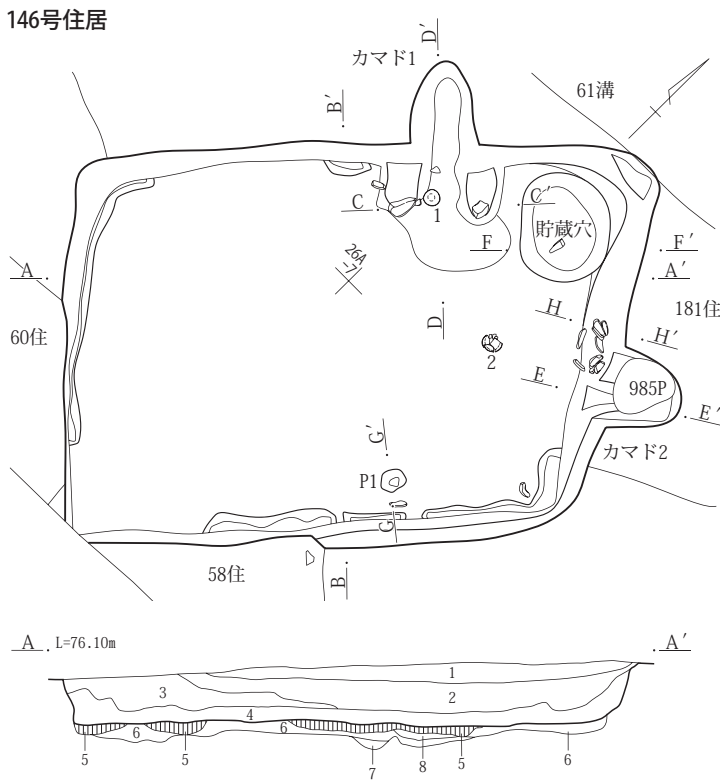
| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 | 備考 |
|-----|----|-----|-------|--------|-------|-------|--------|----|
| 非掲載 | 6 | 菰編石 | 5.5 | 13.5 | 4.7 | 429.5 | 変質安山岩 | |
| 非掲載 | 7 | 菰編石 | 6.2 | 15.8 | 2.9 | 471.4 | 雲母石英片岩 | |
| 非掲載 | 8 | 菰編石 | 5.8 | 13.8 | 4.7 | 556.2 | 閃緑岩 | |
| 非掲載 | 9 | 菰編石 | 5.6 | 13.9 | 3.5 | 389.5 | 溶結凝灰岩 | |
| 非掲載 | 10 | 菰編石 | 4.1 | 15.5 | 3.7 | 392.6 | 変質玄武岩 | |
| 非掲載 | 11 | 菰編石 | 6.5 | 11.5 | 2.5 | 361 | 雲母石英片岩 | |
| 非掲載 | 12 | 菰編石 | 5 | 15.4 | 4.1 | 405 | ひん岩 | |
| 非掲載 | 13 | 菰編石 | 5.2 | 14.1 | 3 | 329.7 | 珩質頁岩 | |
| 非掲載 | 14 | 菰編石 | (6.5) | (13.4) | (4.3) | 566.7 | 珩質頁岩 | |



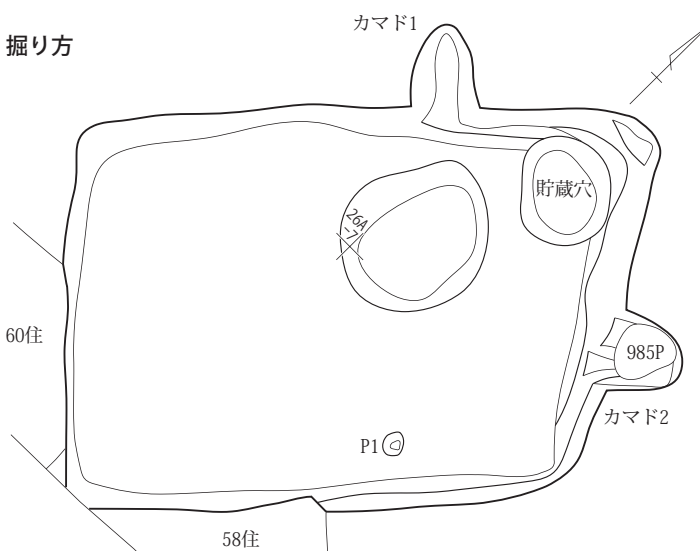
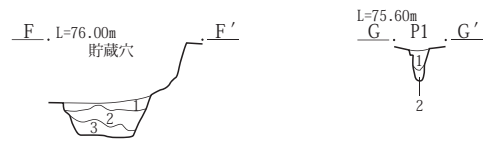
第335図 3区146号住居菰編石長幅比グラフ



第336図 3区145号住居と出土遺物



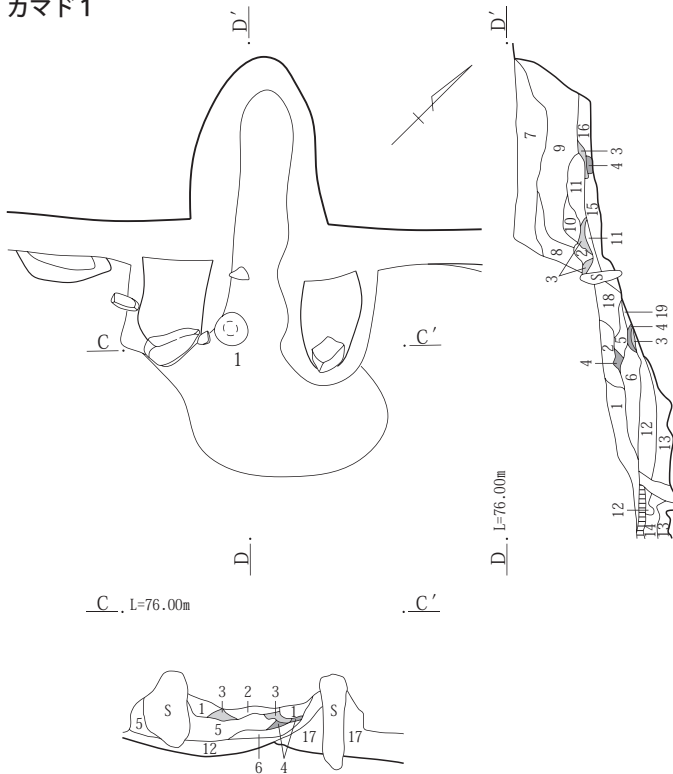
- 146号住居
- 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子、白色軽石をやや多く含む。
 - 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、炭化物粒子を含む。
 - 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロックをやや多く含む。
 - 灰褐色土 やや硬くしまる。サラサラしている。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
 - 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。貼床。
 - 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を少量含む。
 - 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
 - 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。



- 貯蔵穴
- 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
 - 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多く、焼土粒子、ローム粒子を含む。
 - 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- P1
- 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含み、ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
 - 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。

第337図 3区146号住居

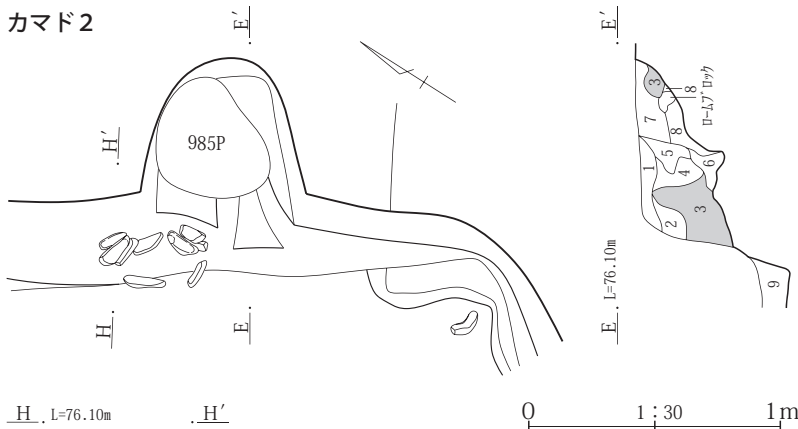
カマド1



カマド1

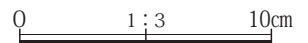
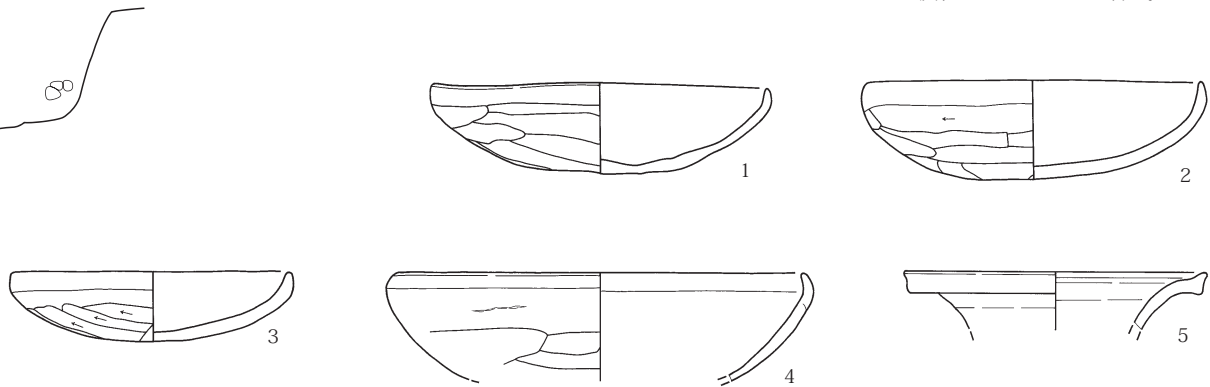
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 黄白色粘質土 軟らかくて粘性あり。カマド構築材。
- 3 焼土
- 4 炭化物
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子を含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。暗い色調。
- 10 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子をやや多く含む。
- 11 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロックを多量に、炭化物を含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 13 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 14 黄白色粘質土 硬くしまり粘性あり。
- 15 赤褐色土 焼土を多量に、灰、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 16 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物を少量、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 17 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を少量含む。
- 18 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを多量に、炭化物、ロームブロックを含む。
- 19 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム主体の層。

カマド2



カマド2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子を含む。
- 3 焼土 やや硬くしまる。暗褐色土を含む。
- 4 赤褐色土 軟らかい。焼土と暗褐色土の混土。
- 5 暗褐色土 軟らかい。焼土粒子、ロームブロックを含む。
- 6 黒色土 軟らかくてサラサラしている。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 8 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子を多量に、ローム粒子を含む。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、灰、ロームブロックを含む。



第338図 3区146号住居カマド1・2と出土遺物

3層は焼土、4層は炭化物になる。12～14層は掘り方である。カマド2は東壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃烧部は壁を掘り込んで構築されており、長さ85cm、焚き口部の幅53cmを測る。カマド埋没土の3層は焼土になる。カマド1に先行するカマドになる。

貯蔵穴 床面の北東隅から検出された。長径86.5cm・短径70.5cm・深さ28cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 確認できなかった。ビット1基が検出された。P

1は長径20.5cm・短径16.5cm・深さ24cmを測る。

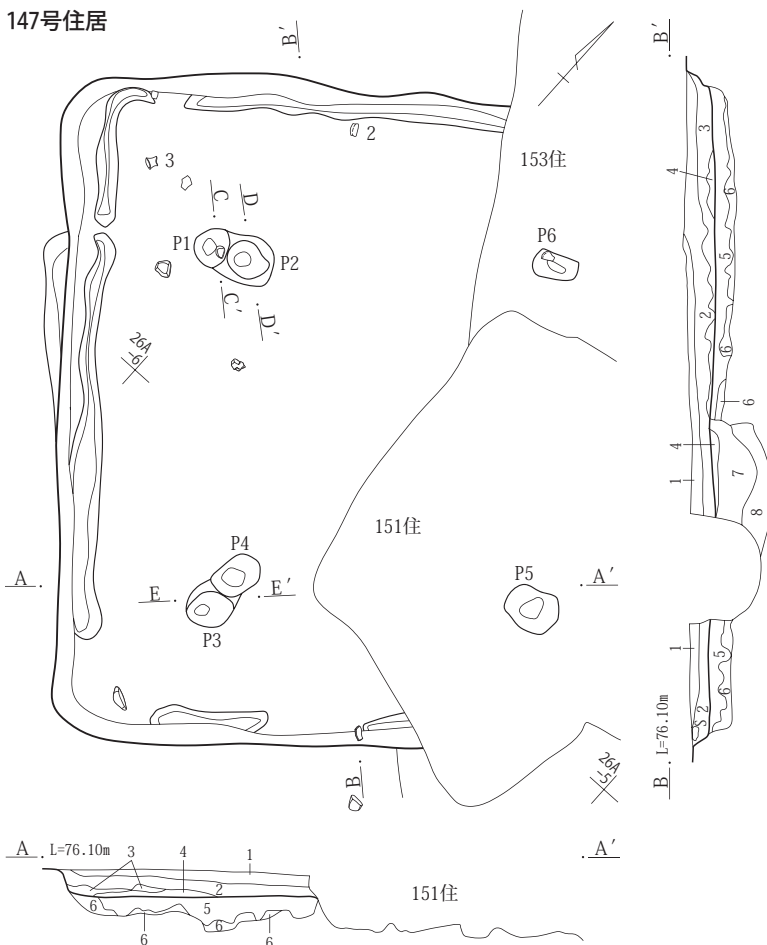
周溝 北壁、東壁、南壁、西壁の下から検出された。本来は全周していたものと思われる。幅5～15cmを測る。

埋没土 自然埋没土である。1～4層は住居埋没土、5層は貼床、6～8層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが浅い。深さは3～12cmを測る。カマド1の前面から土坑状の掘り込みが認められる。

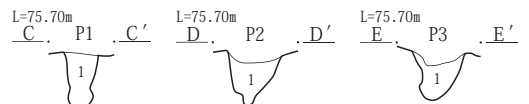
出土遺物 カマドから土師器杯(第338図1)が出土して

147号住居



147号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 6 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体とし、暗褐色土を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。



P 1

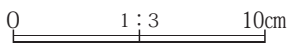
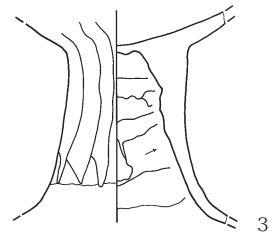
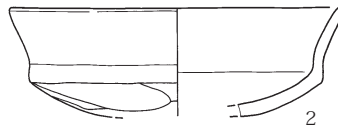
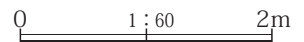
1 灰褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。ロームブロック、シルトブロックを少量含む。

P 2

1 灰褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。ロームブロック、シルトブロックを少量含む。

P 3

1 灰褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。ロームブロック、シルトブロックを少量含む。



第339図 3区147号住居と出土遺物

いる。カマド2前面で菰編石8点がまとまって出土する。

この段階でカマド2は機能していない。

時期 出土遺物から7世紀後半に比定される。

147号住居(第339図、P.L.108、第125表)

位置 25T・26A・B-5・6グリッド。

重複 151・153号住居、61号溝より前出。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は15.2㎡。北西～南東5.36m、北東

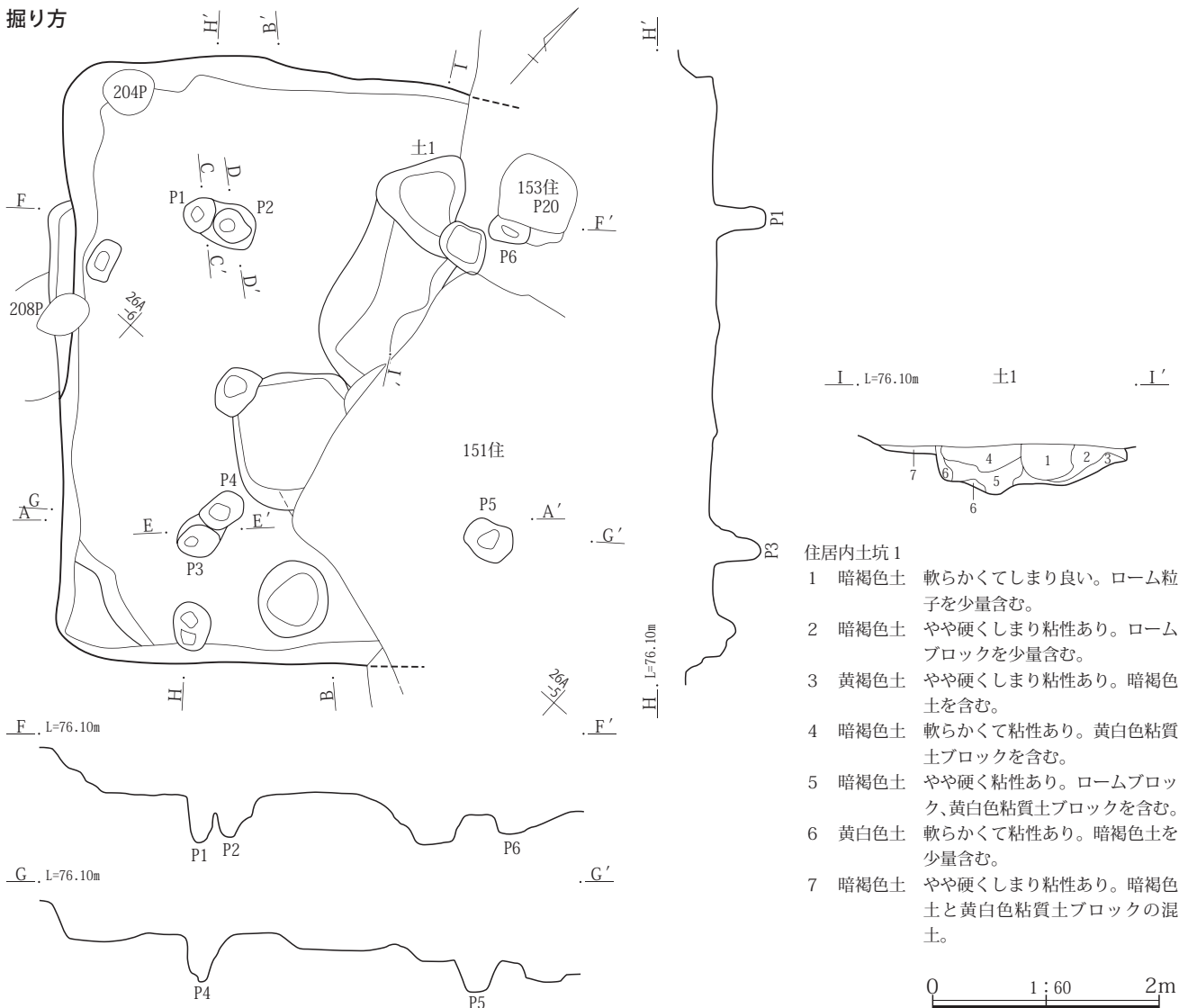
～南西3.56m、壁高は13～18cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 主柱穴6基が検出された。P1は長径32.5cm・短径28cm・深さ42cm、P2は長径52cm・短径42cm・深さ38cm、P3は長径36.5cm・短径29cm・深さ43cm、P4は長径39cm・短径26.5cm・深さ41cm、P5は長径44cm・短径34cm・深さ28cm、P6は長径37cm・短径20cm・深さ

掘り方



第340図 3区147号住居掘り方

第125表 3区147号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|-----------|----------------|--------|---------------------|--|----------|
| 第339図 | 1 | 土師器 杯 | 1/3 | □ 11.8 | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第339図 | 2 | 土師器 杯 | + 4 1/4 | □ 13.0 | 細砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面磨滅。 |
| 第339図 | 3 | 土師器 高杯 | + 6 脚部上位～中位 | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 外面縦位に面取りをするようにヘラ削り。裾部寄りには横ナデ。内面は横位にヘラ削り。 | |

18cmを測る。P 1・P 2 - P 3・P 4間の距離2.8m、P 3・P 4 - P 5間距離2.5m、P 5 - P 6間距離2.65m、P 6 - P 1・P 2間の距離は2.6mである。

周溝 北壁、南壁、西壁の下から検出された。本来は全周していたものと思われる。幅10～25cmを測る。

埋没土 自然埋没土である。1～4層は住居埋没土、5・6層は掘り方充填土、7・8は土坑状掘り込みの埋没土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さは10～18cmを測る。土坑が1基検出された。土坑1は長径80cm・短径74cm・深さ42cmを測る。

出土遺物 床面全体から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

148号住居(第341図、P L .109・207、第126表)

位置 26A・B - 6グリッド。

重複 169号住居より後出で、150号住居、206号土坑より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N - 85° - E

規模 面積は7.4㎡。長辺(南北)3.67m、短辺(東西)2.44m、壁高は17～20cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。

カマド 東壁のほぼ中央に設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ105cm、焚き口部の幅51cmを測る。カマド埋没土の4層は焼土になる。

貯蔵穴 床面の南西隅から検出された土坑1が貯蔵穴になる可能性がある。長径65.5cm・短径48.5cm・深さ18cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～3層は住居埋没土、4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げているが浅い。深さは3～10cmを測る。

出土遺物 カマドや西壁近い床面から須恵器皿(第341図1・2)が出土している。ほかカマドでは土師器甕もが出土する。

時期 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半に比定される。

150号住居(第342～344図、P L .110・111・207・208、第128表)

位置 26B - 5・6グリッド。

重複 148・169号住居より後出。

形状 調査区外に伸びているために全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は8.8㎡。東西3.91m、南北2.93m、壁高は20cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面が認められた。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径76cm・短径70cm・深さ43.5cmの楕円形を呈する。埋没土は4層に分かれた。

柱穴 確認できなかった。

周溝 西壁、南壁下から部分的に検出された。本来は全周していたものと思われる。幅10～29cm、深さ2～5cmを測る。

埋没土 自然埋没土である。3～5層は住居埋没土、6層は掘り方充填土になる。

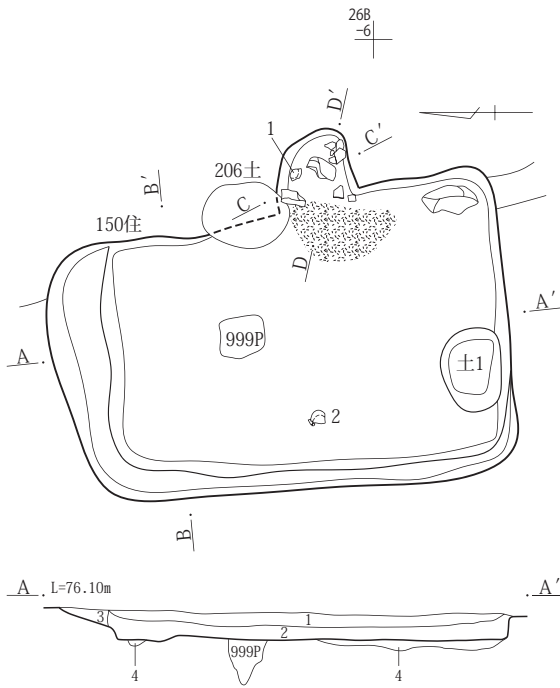
掘り方 全体的に掘り下げているが浅い。深さは10cmを測る。ピット2基と土坑2基を検出した。P 1は長径26.5cm・短径26cm・深さ21cm、P 2は長径32.5cm・短径23.5cm・深さ32cmを測る。土坑1は長径127cm・短径88cm・深さ96cm、土坑2は長径144.5cm・短径95.5cm・深さ26.5cmを測る。土坑1から土器が出土している。

出土遺物 床面全体及び土坑1から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から5～6世紀代に比定される。

第126表 3区148号住居出土遺物

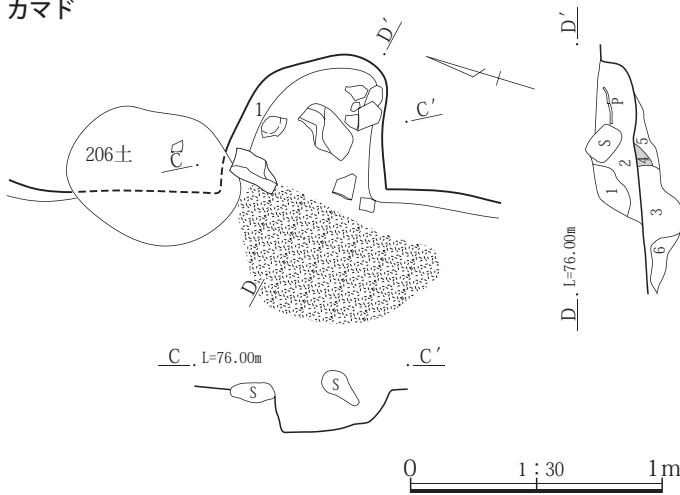
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|----------|-------------|------------|-----------|------------|----------------------|------------------------------------|--------------------------|
| | | | | 口底 | 高さ | 厚さ | | | |
| 第341図 PL.207 | 1 | 須恵器 皿 | カマド 2/3 | 口底 13.6 | 高さ 5.8 | 厚さ 3.25 | 粗砂粒・雲母/酸化 焰/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の付 け高台。 | 内外面に炭素 吸着。内面皿 部磨耗。 |
| 第341図 PL.207 | 2 | 須恵器 皿 | 床直 3/4 | 口底 13.6 | 高さ 7.4 | 厚さ 3.0 | 粗砂粒少/酸化焰/ にぶい橙 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の付 け高台。 | 内外面の一部 に煤付着。 |



148号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

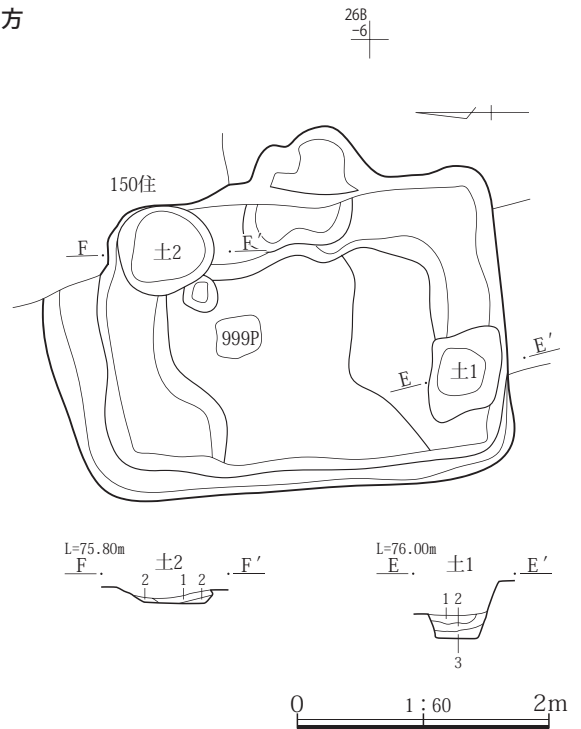
カマド



カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを少量含む。
- 4 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土主体の層。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

掘り方

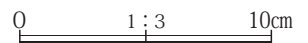
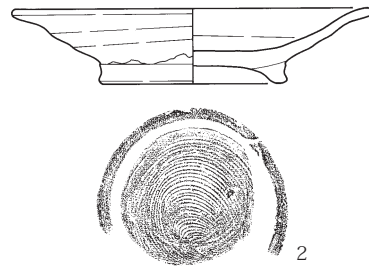
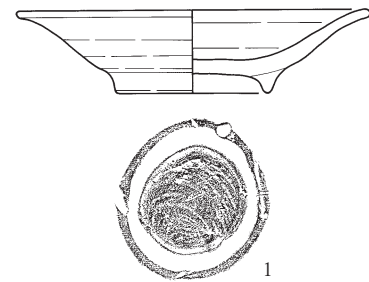


住居内土坑1

- 1 暗褐色土 しまり弱い。炭化物粒子少量、焼土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを多量、ローム粒子を含む。

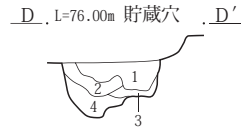
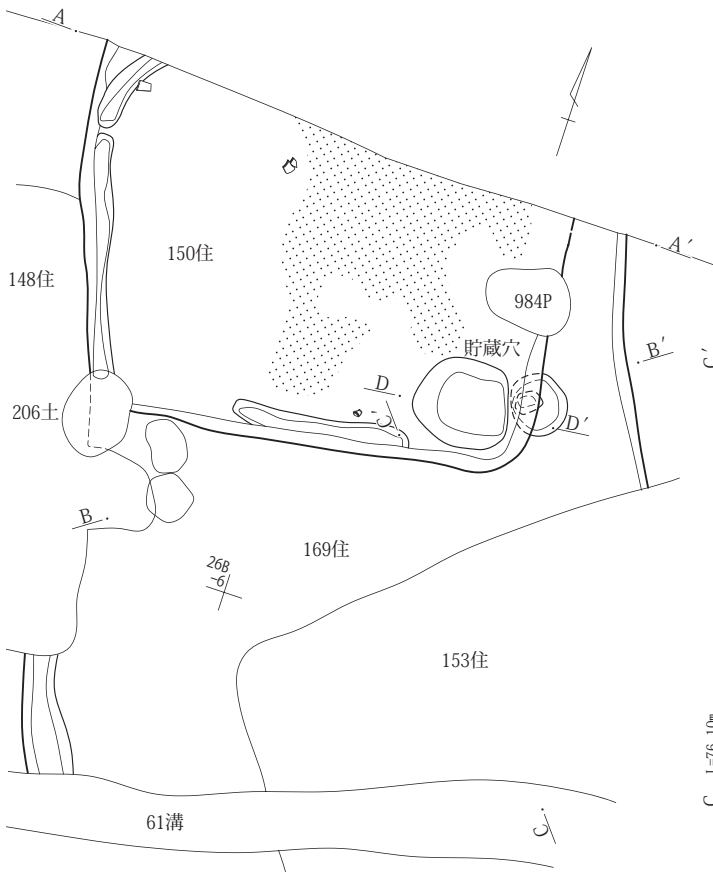
住居内土坑2

- 1 黄褐色土 しまりあり。粘性少しあり。ロームと暗褐色土の混土。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を少量含む。



第341図 3区148号住居と出土遺物

150・169号住居



貯蔵穴

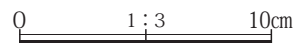
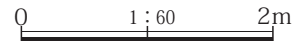
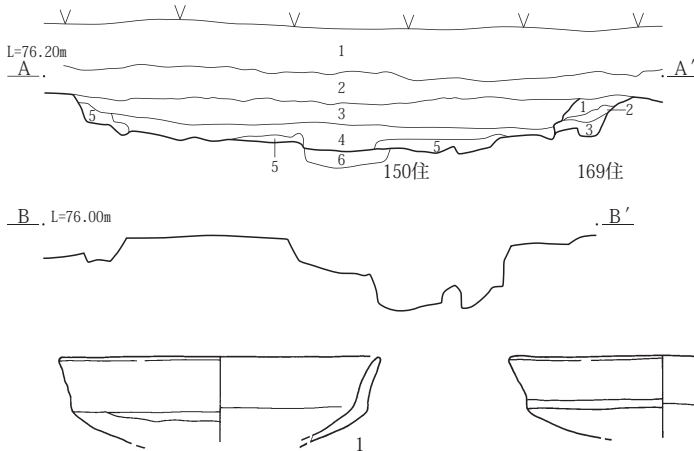
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子、焼土粒子、ローム粒子を含み、ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。白色粒子、ローム粒子を含む。
- 3 褐色土 やや硬くしまり粘性少しあり。ロームブロックを含み、焼土粒子を少量含む。
- 4 褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。

150号住居

- 1 耕作土 浅間A軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬い。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 6 暗白色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を少量含む。

169号住居

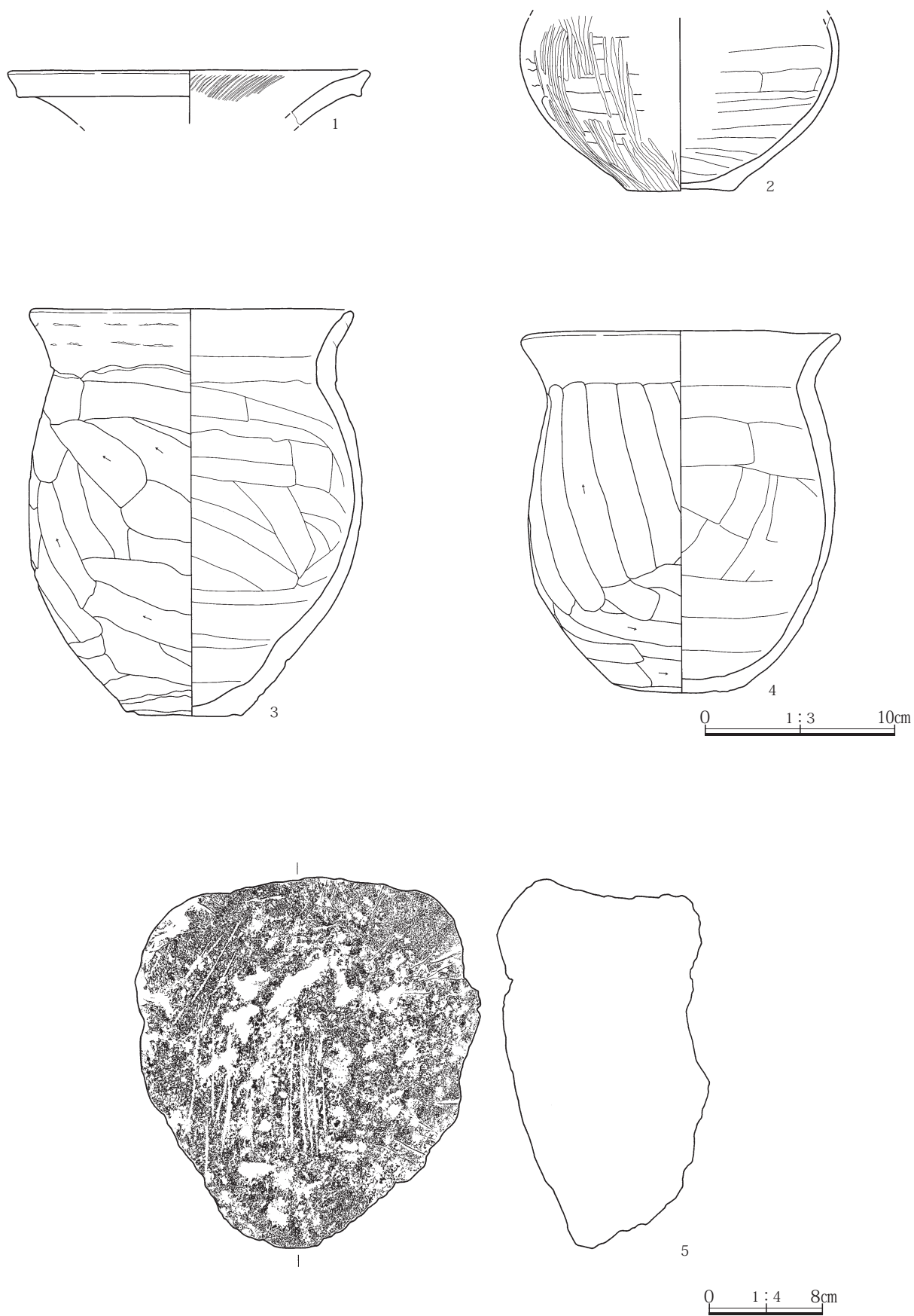
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 軟らかい。ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 軟らかい。ローム主体で暗褐色土を含む。



第342図 3区150・169号住居と169号住居出土遺物

第127表 3区169号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|-----------|-------------|--------|--------------------|-------------------------------|----------|
| 第342図 | 1 | 土師器 杯 | 1/4 | □ 12.4 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第342図 | 2 | 土師器 杯 | 口縁~底部片 | □ 11.8 | 精選/良好/にぶい 黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りか。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第342図 | 3 | 土師器 埴か | 口縁~体部片 | □ 9.5 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデに近いヘラ削り。内面体部はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |



第343図 3区150号住居出土遺物

169号住居(第342・344図、第127表)

位置 26A・B-5・6グリッド。

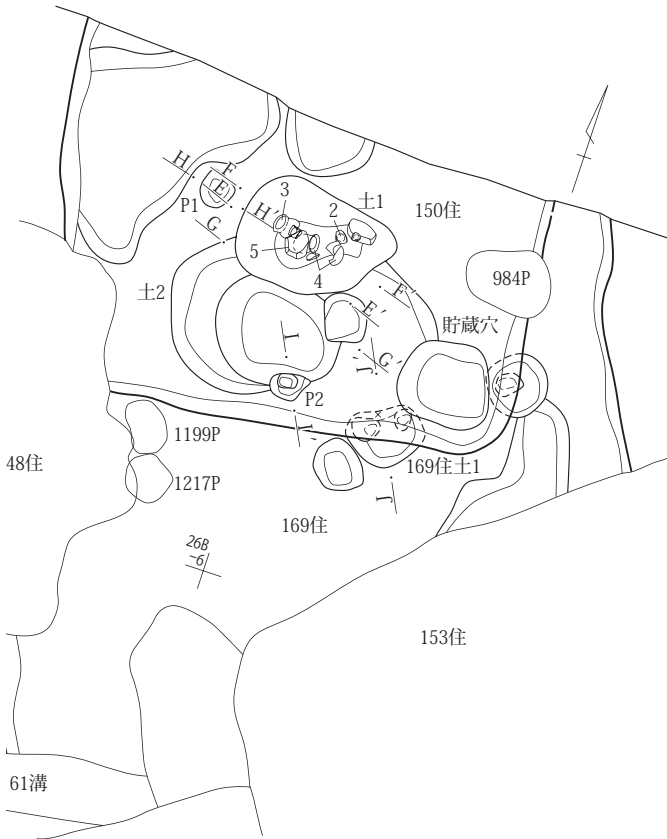
重複 148・150・153号住居、61号溝より前出。

形状 重複が激しいために全容は不明である。

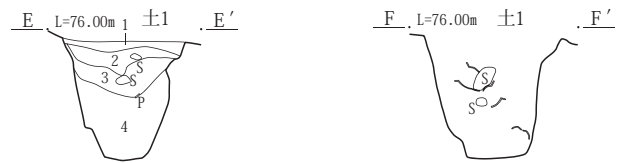
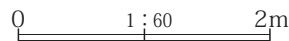
主軸方位 不明。

規模 不明。壁高は15cmを確認できた。

掘り方

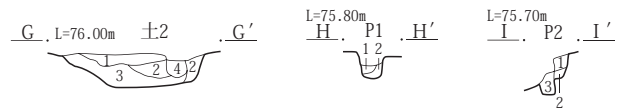


- J L=75.90m J' 169号住居内土坑1
- 1 暗褐色土 しまり強い。粘性ややあり。ローム粒子を多量に、シルトブロックを少量含む。
 - 2 黒褐色土 しまり弱い。ローム粒子、シルトブロックを少量含む。



150号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子を多く、ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多く含み、白色軽石、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多く含み、白色軽石を含む。



150号住居内土坑2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含み、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く、炭化物粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多く、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

150号住居P1

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。

150号住居P2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。

第344図 3区150・169号住居掘り方

第128表 3区150号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|----------------------|--------|-------------|------------------------|--------------------|---|
| 第343図 | 1 | 土師器 壺 | 口縁部片 | 口 | 18.4 | | 細砂粒/良好/灰白 | 口縁部は横ナデ。内面は斜位にヘラ磨き。内面に炭素吸着。 |
| 第343図 | 2 | 土師器 甕 | 内土坑1 胴部上位~底部 | 底 | 5.6 | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 胴部は横位のヘラ削りの上に、縦位のヘラ磨きを重ねる。底部はヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。底部周辺に炭素吸着。 |
| 第343図 PL.207 | 3 | 土師器 甕 | 内土坑1 3/4 | 口 底 | 16.6 6.0 | 高 21.3 | 粗砂粒多・片岩/良 好/明赤褐 | 成・整形粗雑。口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。外面やや磨滅。 |
| 第343図 PL.207 | 4 | 土師器 甕 | 内土坑1 口縁、胴部一部 欠 | 口 底 | 16.3 7.0 | 高 19.0 | 粗砂粒・片岩/良好 /橙 | 口縁部は横ナデ。胴部上位から中位は斜縦位のヘラ削り。下位は斜横位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。全体が被熱磨滅・割れ目を境に外面胴部下位に炭素吸着。 |
| 第343図 PL.208 | 5 | 石製品 砥石 | 内土坑1 | 長 幅 | 262 4.2 | 厚 重 15.0 6750 | 粗粒輝石安山岩 | 背面側に縦位の刃ならし傷が残る。裏面側には鉄サビが厚く付着している。前橋泥流起源の礫か。礫砥石 |

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1～3層は住居埋没土になる。

掘り方 明瞭ではなかつた。土坑1は長径58.5cm・短径46cm・深さ26cmを測る。

出土遺物 床面全体から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

151号住居(第345～347・349・350図、P L.111・208、第129表)

位置 25T・26A-5グリッド。

重複 147・153号住居より後出で、61号溝より前出。

形状 方形を呈する。主軸方位 N-90°-E

規模 面積は7.3㎡。長辺(南北)3.61m、短辺(東西)2.56m、壁高は22～35cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。カマド前面から床中央部にかけて硬化面が認められる。

カマド 東壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ115cm、焚き口部の幅64cmを測る。1～6層はカマド埋没土で、3層は焼土、4層は灰層になる。

貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～7層は住居埋没土、8層は貼床、8・9層は掘り方充填土になる。

掘り方 重複しているために明瞭ではない。掘り下げは浅いものと思われる。セクションA-A'の151号住居8・

9層が該当する。

出土遺物 南半部床面にややまとまりがあり、須恵器杯・椀(第347図4・5・7)が出土する。

時期 出土遺物から9世紀後半かと思われる。

153号住居(第345・346・348～354図、P L.111～113・208・209、第130表)

位置 25T-4・5、26A-3～5、25B-4・5グリッド。

重複 147・169・171・172・186号住居より後出で、151号住居、61号溝より前出。

形状 方形を呈する。主軸方位 N-38°-W

規模 面積は59.2㎡。長辺・短辺ともに8.34m、壁高は20～30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。カマド周辺から床面中央部にかけて硬化面が認められる。

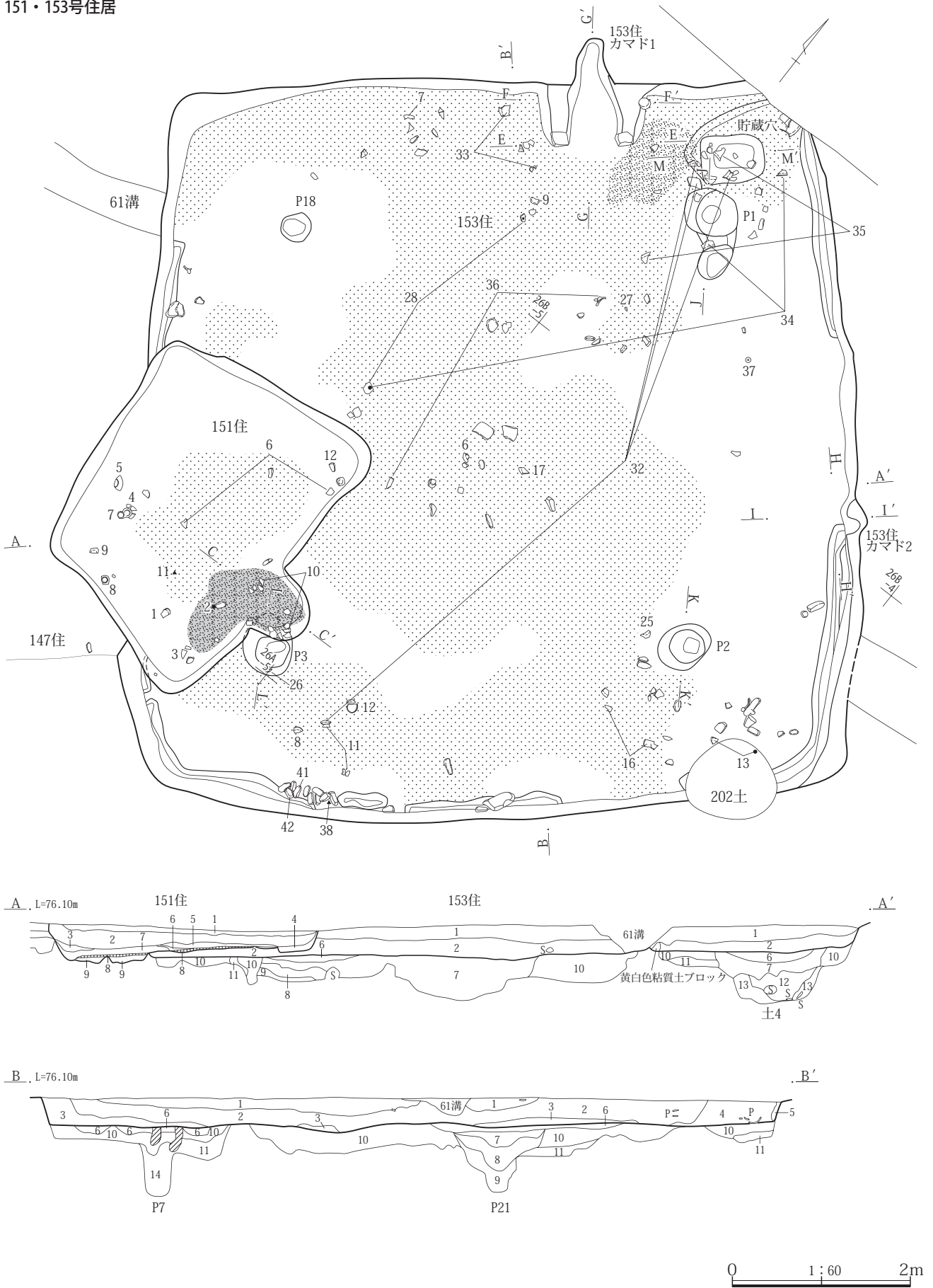
カマド カマド2基が検出された。カマド1は北壁の中央からやや東寄りに設置されている。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ126cm、焚き口部の幅52cm、袖を含めた幅は110cmを測る。1～12・17層はカマド埋没土、7・17層は焼土、9層は灰層になる。13～16層は掘り方になる。袖石が残されている。カマド2は東壁の中央からやや南寄りに設置されている。その痕跡を確認できた。1～6層はカマド埋没土、3層は焼土になる。カマド1に先行するカマドである。

貯蔵穴 床面の北東隅から検出された。長径71.5cm・短径55cm・深さ40cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

第129表 3区151号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-------------|--------------------|--------|----------------|------------------------|-----------------------|---|-------------------|
| 第347図 | 1 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | 口 底 | 11.4 8.2 | 高 3.2 | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。 | 内外面やや磨 滅。 |
| 第347図 | 2 | 須恵器 杯 | 床直 1/4 | 口 底 | 13.0 6.0 | 高 4.2 | 粗砂粒・細砂粒/還 元焰・軟質/灰白 | ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | |
| 第347図 | 3 | 須恵器 杯 | 床直 口縁～体部 | 口 | 18.0 | | 細砂粒/還元焰・軟 質/灰白 | ロクロ整形、回転右回りか。 | |
| 第347図 PL.208 | 4 | 須恵器 杯 | 床直 3/4 | 口 底 | 14.9 6.8 | 高 5.5 | 粗砂粒・細砂粒/酸 化焰/灰黄褐 | ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | 内外面とも炭 素吸着・磨滅。 |
| 第347図 PL.208 | 5 | 須恵器 杯 | 床直 3/4 | 口 底 | 13.0 5.5 | 高 4.1 | 粗砂粒・細砂粒/還 元焰/灰黄褐 | ロクロ整形、回転は左回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | 内外面とも炭 素吸着・磨滅。 |
| 第347図 | 6 | 須恵器 杯 | 床直 体部～底部 | 底 | 5.9 | | 粗砂粒/還元焰・軟 質/褐灰 | ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | 内外面とも炭 素吸着・磨滅。 |
| 第347図 | 7 | 須恵器 椀 | +6 1/2 | 口 底 | 14.4 7.0 | 高 5.0 6.2 | 粗砂粒/還元焰・軟 質/灰 | ロクロ整形、回転は右回り。高台部は底部回転糸切り後の 付け高台。 | 内面・高台端 部磨耗。 |
| 第347図 | 8 | 須恵器 椀 | +14 1/2 | 底 | 6.7 | | 細砂粒/還元焰・軟 質/灰白 | ロクロ整形、回転は右回り。高台部は底部回転糸切り後の 付け高台。 | 内外面とも炭 素吸着。 |
| 第347図 | 9 | 須恵器 椀 | 床直 口縁～底部1/3 | 口 底 | 14.8 7.2 | | 赤黒色粘土粒/還 元焰・軟質/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の 付け高台。高台部剥落後も使用か。 | |
| 第347図 | 10 | 土師器 費 | カマド 口縁～ 胴部下位1/3 | 口 | 20.8 | | 粗砂粒・細砂粒/良 好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部上位は斜位、中位は斜縦位のへら削 り。内面は横位のへらナデ。輪積み痕を残す。 | |
| 第347図 PL.208 | 11 | 石製模造品 白玉 | 床直 | 径 | 0.9 | 厚 0.17 | 滑石 | 上面のみ残存。上面には片側穿孔時に特有な剥落痕が残る。 孔は径3mm弱を測る。 | |
| 第347図 PL.208 | 12 | 礫石器 敲石 | 床直 | 長 幅 | (9.7) (5.4) | 厚 重 3.8 335.9 | 緑色片岩 | 上端小口部に敲打に伴う衝撃剥離痕が生じている。器体の 下半部を大きく破損する。 | 棒状礫 |

151・153号住居



第345図 3区151・153号住居

柱穴 主柱穴4基が検出された。P1は長径60cm・短径51.5cm・深さ60cm、P2は長径55cm・短径47.5cm・深さ62cm、P3は長径65cm・短径49.5cm・深さ36cm、P18は長径34cm・短径32.5cm・深さ48cmを測る。P1-P2間の距離4.8m、P2-P3間距離4.7m、P3-P18間距離4.7m、P18-P1間の距離は4.7mである。

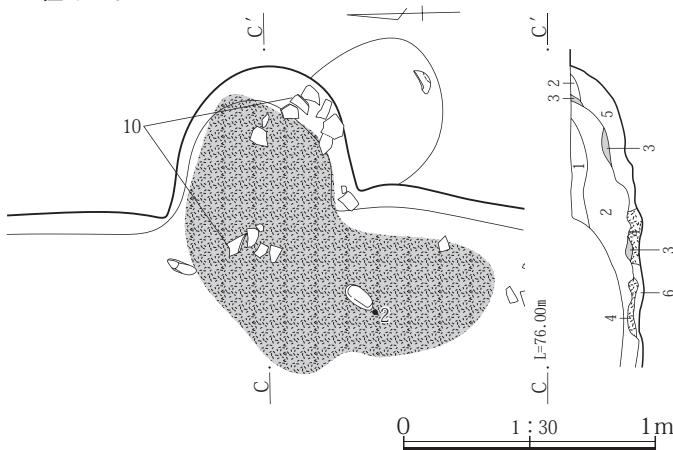
周溝 東壁、南壁、西壁の下から検出された。本来は全周していたものと思われる。幅8~28cmを測る。

埋没土 自然埋没土である。1~5層は住居埋没土、セクションA-A'の7・12・13層は内土坑4の埋没土、セクションB-B'の7~9層はP21と周辺の落ち込み埋没土、同14層はP7の埋没土になる。住居の掘り方充填土は6~11層になる。

151号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
- 6 灰褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。貼床。
- 9 暗褐色土 硬くしまる。粘性あり。炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。

151住カマド

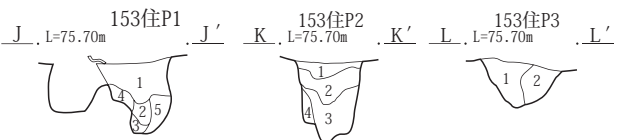


151号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土ブロック、白色軽石を少量含む。
- 3 焼土
- 4 灰
- 5 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、焼土粒子を多量に、黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを含む。

153号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物、ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物、ロームブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ロームブロックを多量に、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを多く含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 7 赤褐色土 やや硬く粘性非常にあり。焼土ブロックを多量に、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 9 褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を多量に、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 11 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、暗褐色土を含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 13 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 14 黄白色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを主体に暗褐色土を含む。



153号住居P1

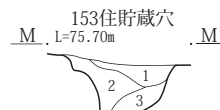
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を多く含む。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

153号住居P2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多く、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。

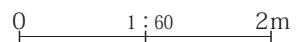
153号住居P3

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を多く、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く、焼土粒子、炭化物粒子を含む。

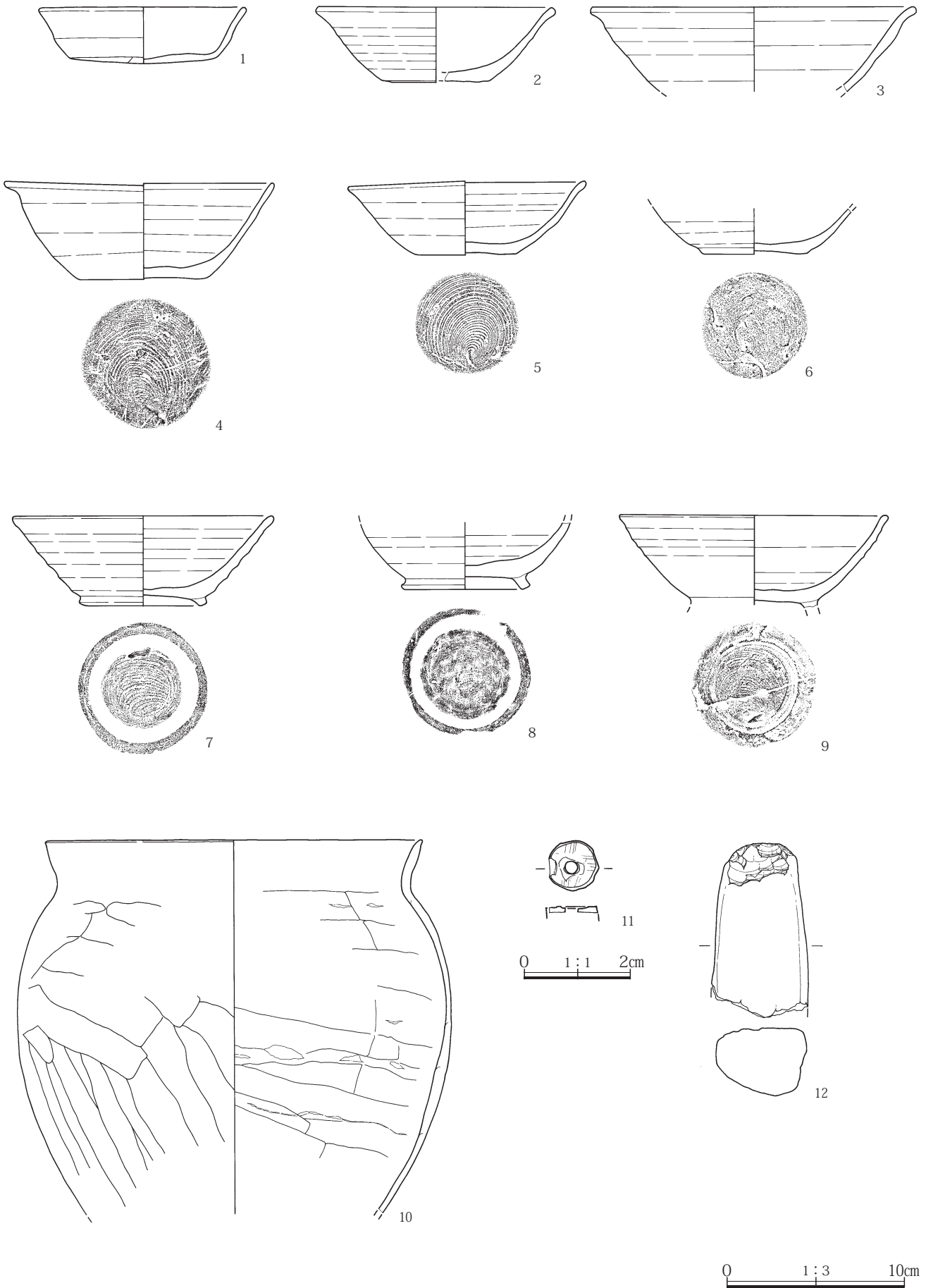


153号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。粘土ブロック、焼土粒子を含む。

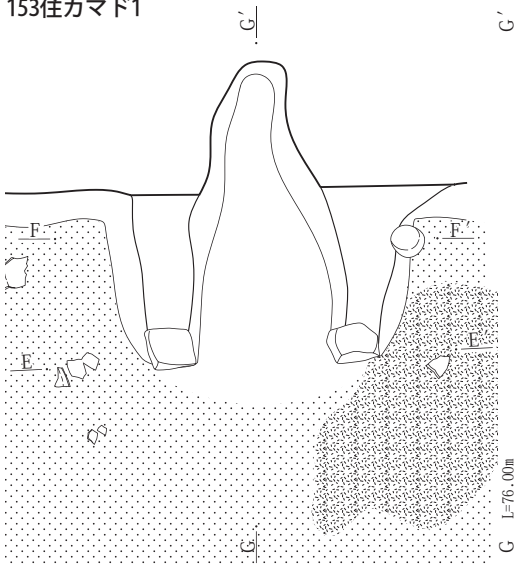


第346図 3区151号住居カマドと153号住居ピット・貯蔵穴断面図



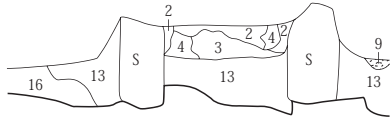
第347図 3区151号住居出土遺物

153住カマド1



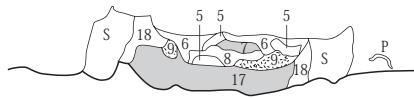
E, L=76.00m

E'

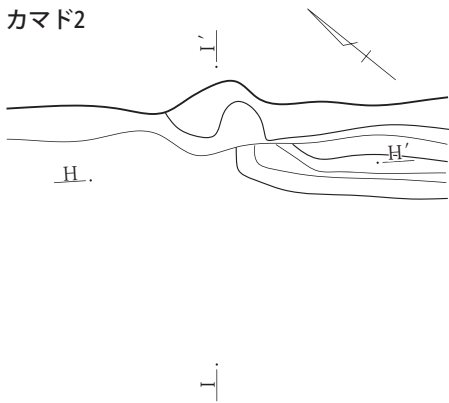


F, L=76.00m

F'

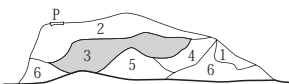


カマド2



H, L=76.00m

H'



L, L=76.00m

153号住居カマド1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、焼土粒子、黄白色粘質土をやや多く含む。
- 3 褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物をやや多く含む。
- 4 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土主体で暗褐色土を含む。
- 5 黄白色粘質土 カマド構築材。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 7 赤褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを多量に、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 8 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。炭化物を多量に、焼土ブロックを含む。
- 9 灰 焼土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、灰、ロームブロックを含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 12 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 13 褐色土 やや硬く粘性非常にあり。焼土ブロック、灰、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 14 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 15 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、灰を少量、黄白色粘質土粒子を多量に含む。
- 16 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 17 赤褐色土 軟らかく粘性非常にあり。焼土を多量に、灰、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 18 赤褐色土 軟らかく粘性あり。焼土ブロックをやや多く、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を含む。

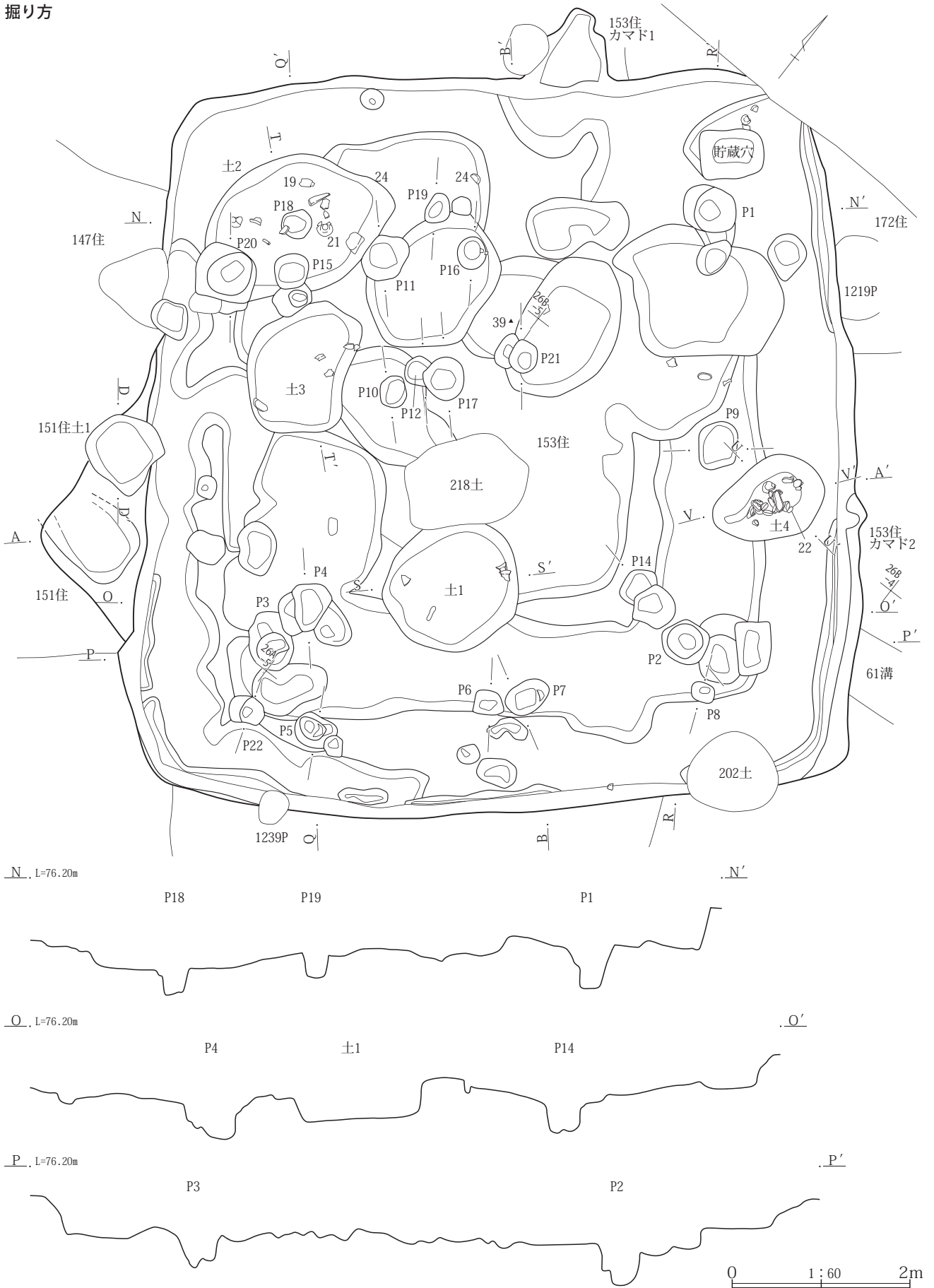
153号住居カマド2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を多量に、ローム粒子を含む。
- 3 赤褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土を多量に、暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、焼土粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。

0 1:30 1m

第348図 3区153号住居カマド1・2

掘り方

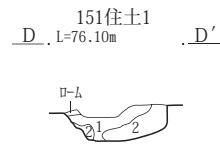


第349図 3区151・153号住居掘り方

掘り方 全体的に掘り下げられていて凹凸が激しい。深さは10～48cmを測る。ピットはP 4～P 22と土坑4基検出された。P 4は長径52.5cm・短径41.5cm・深さ32cm、P 5は長径47.5cm・短径42.5cm・深さ34cm、P 6は長径31.5cm・短径26.5cm・深さ35cm、P 7は長径50cm・短径34cm・深さ46cm、P 8は長径27cm・短径21.5cm・深さ30cmを測る。いずれも南壁に並行するように存在する。P 9は長径52cm・短径44cm・深さ16cm、P 10は長径35cm・短径30cm・深さ30cm、P 11は長径56.5cm・短径44cm・深さ45cm、P 12は長径33cm・短径20cm・深さ45cm、P 14は長径153cm・短径48cm・深さ42cm、P 15は長径40cm・短径37cm・深さ50cm、P 16は長径37cm・短径33cm・深さ40cm、P 17は長径49cm・短径45.5cm・深さ50cm、P 19は長径36.5cm・短径26.5cm・深さ20cm、P 20は長径69cm・短径61cm・深さ50cm、P 21は長径37.5cm・短径33.5cm・深さ30cm、P 22は長径41cm・短径30cm・深さ35cmを測る。土坑1は長径156cm・短径139cm・深さ43cm、土坑2は長径174cm・短径153cm・深さ22cm、土坑3は長径148cm・短径113cm・深さ20cm、土坑4は長径129cm・短径93.5cm・深さ83cmを測る。土坑4から土器や礫が出土している。

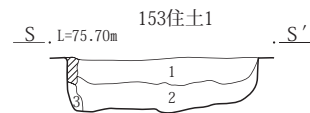
出土遺物 床面全体、カマド周辺、土坑から土師器・須恵器・石製模造品がやや多く出土している。南壁際で菰編石10点がまとまって出土し、うち2点は敲石(第354図41・42)として使われている。菰編石に混じって石製模造品白玉(同38)も出土する。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。



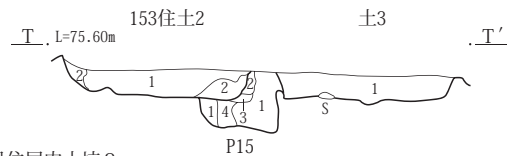
151号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬く粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロック含む。
- 2 暗褐色土 やや硬く粘性あり。黄白色粘質土ブロックと暗褐色土の混土。



153号住居内土坑1

- 1 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを多量に、暗褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを多量に、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 3 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。



153号住居内土坑2

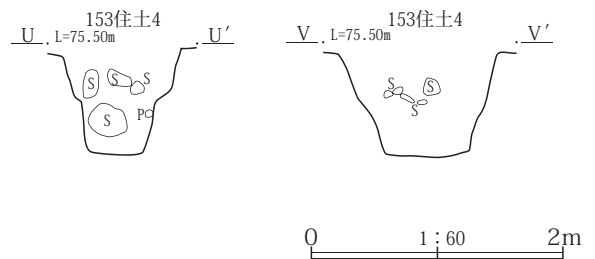
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄白色粘質土 やや硬くしまる。暗褐色土を含む。

153号住居内土坑3

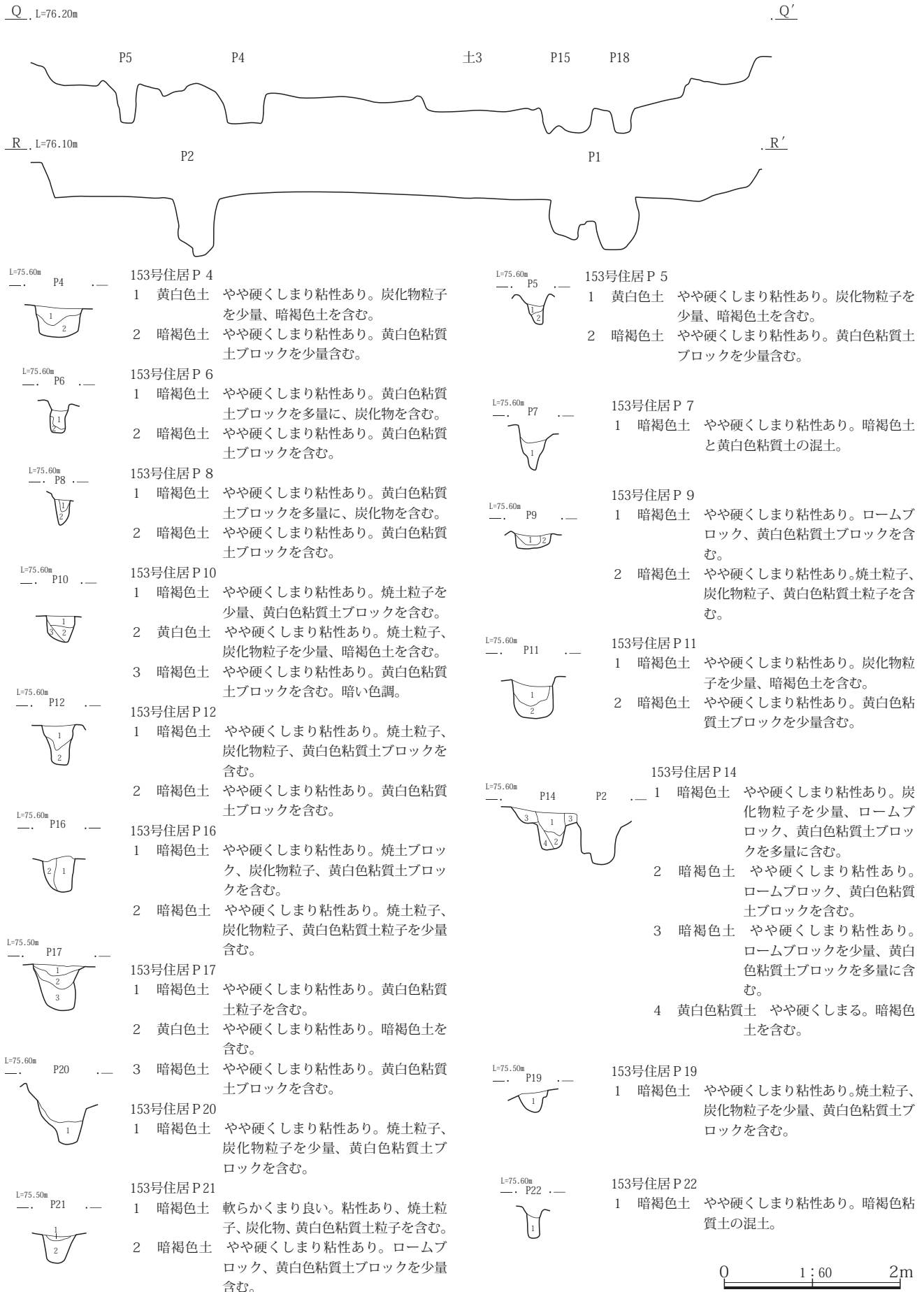
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

153号住居P15

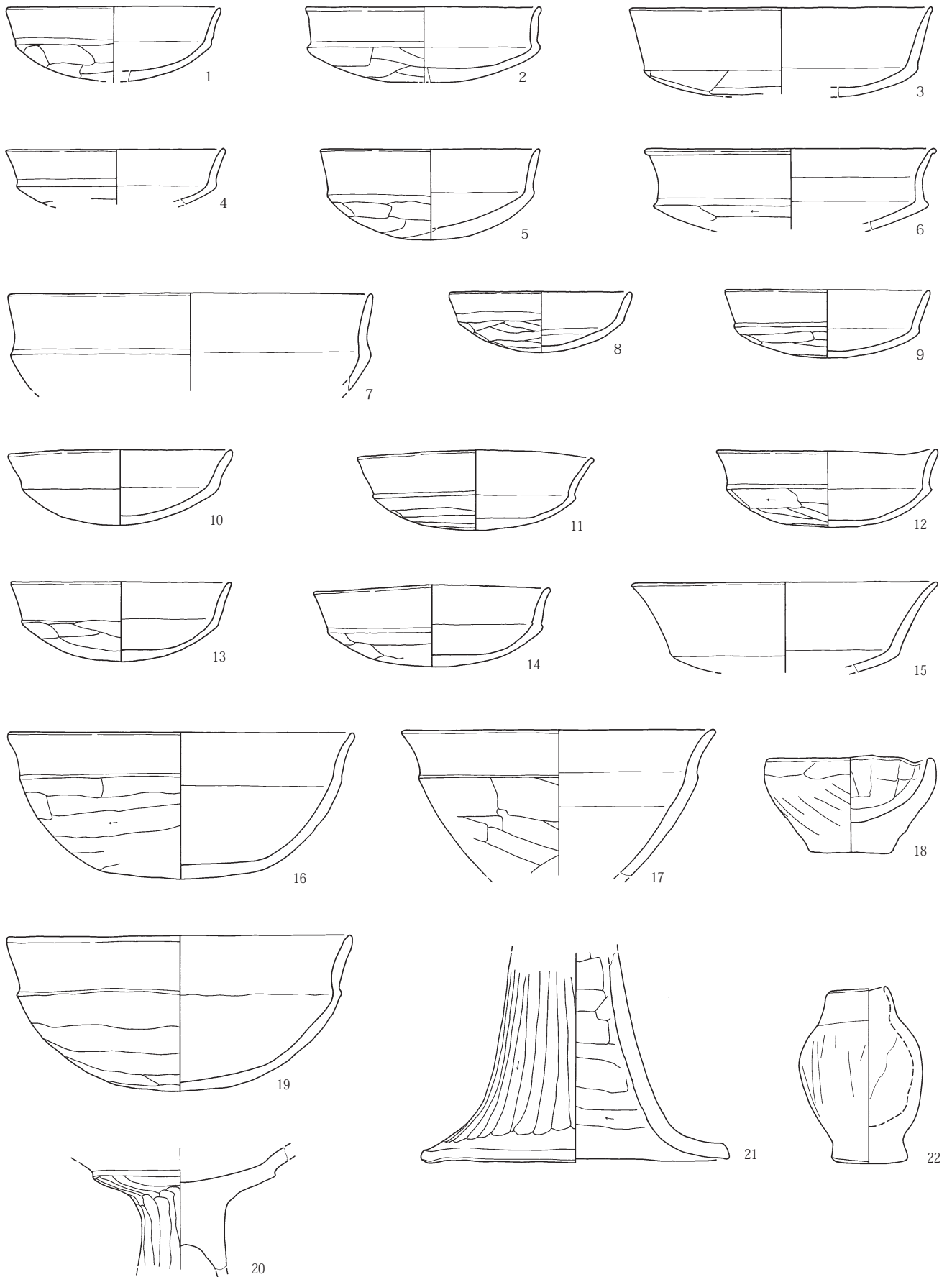
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土粒子を含む。
- 4 黄白色粘質土 やや硬くしまる。暗褐色土を含む。



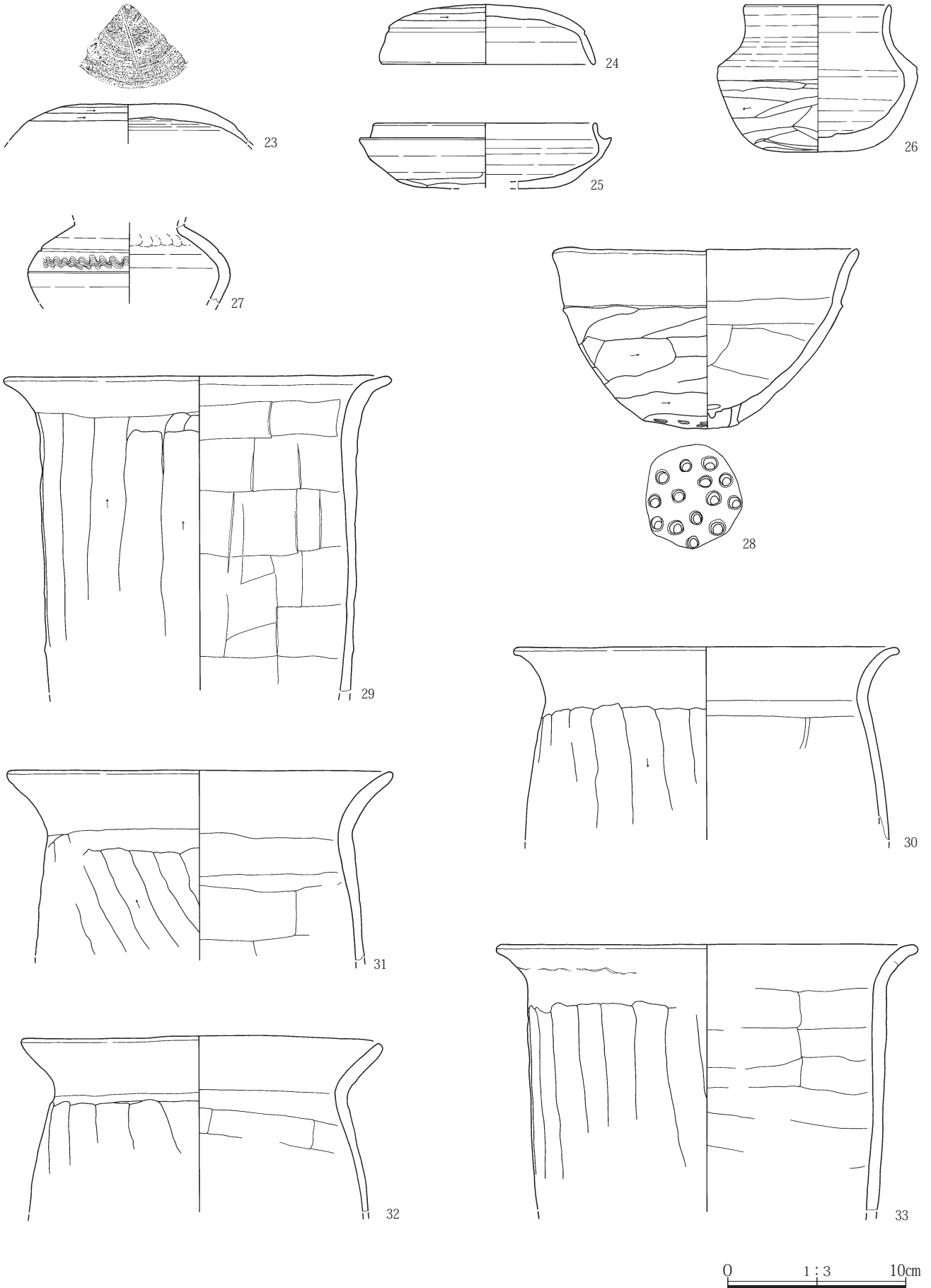
第350図 3区151・153号住居内土坑断面図



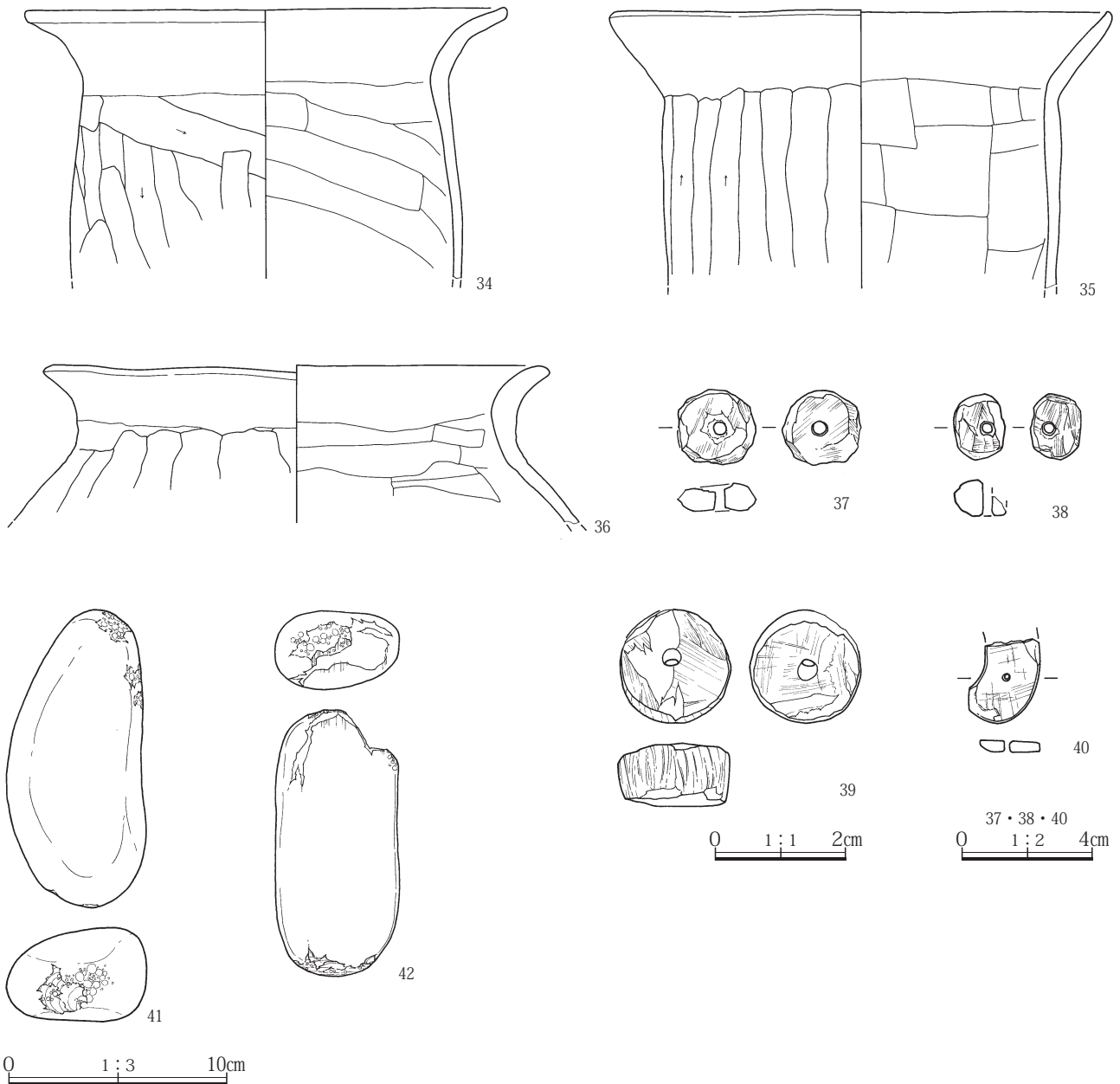
第351図 3区153号住居内ピット断面図



第352図 3区153号住居出土遺物(1)



第353図 3区153号住居出土遺物(2)



第354図 3区153号住居出土遺物(3)

第130表 3区153号住居出土遺物

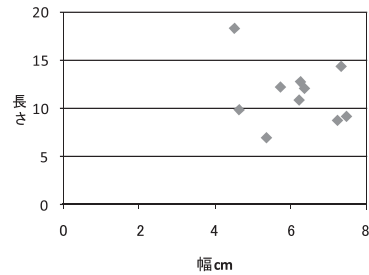
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|---------------|-----|------|--------------------|--------------------------|---|
| 第352図 | 1 | 土師器 杯 | 1/2 | □ | 11.6 | | 精選/良好/にぶい 橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面やや磨滅。 |
| 第352図 | 2 | 土師器 杯 | 1/4 | □ | 12.8 | 高 | 4.1 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面やや磨滅。 |
| 第352図 | 3 | 土師器 杯 | 1/3 | □ | 16.4 | 高 | 4.9 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面やや磨滅。外面底部炭素吸着。 |
| 第352図 | 4 | 土師器 杯 | 2/3 | □ | 11.8 | | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 |
| 第352図 | 5 | 土師器 杯 | 1/4 | □ | 11.8 | 高 | 5.0 赤色粘土粒・雲母/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面底部の一部炭素吸着。 |
| 第352図 | 6 | 土師器 杯 | 掘り方 口縁~体部片 | □ | 15.8 | | 粗砂粒少/良好/橙 | 口唇部は強く外反・外方を向く。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面底部の一部に炭素吸着。 |
| 第352図 | 7 | 土師器 杯 | +6 破片 | □ | 19.8 | | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。 |

第3節 3区の遺構と遺物(1)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-------------|--------------------|--------|--------------|--------|--------------------|--------------------------------|---|--------------------------|
| 第352図 PL.208 | 8 | 土師器 杯 | +5 1/2 | 口 | 10.0 | 高 | 3.3 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は細かい単位で手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第352図 PL.208 | 9 | 土師器 杯 | +13 1/2 | 口 | 11. | 高 | 3.7 | 精選/良好/橙 | 器形大きく歪む。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第352図 PL.208 | 10 | 土師器 杯 | カマド 完形 | 口 | 12.2 | 高 | 4.1 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。 | 内外面とも全て磨滅。 |
| 第352図 PL.208 | 11 | 土師器 杯 | +2 3/4 | 口 | 12.7 | 高 | 4.4 | 精選/良好/橙 | 器形大きく歪む。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第352図 PL.208 | 12 | 土師器 杯 | 床直 完形 | 口 | 12.0 | 高 | 4.2 | 精選/良好/橙 | 器形大きく歪む。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第352図 PL.208 | 13 | 土師器 杯 | +7 2/3 | 口 | 11.9 | 高 | 4.2 | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第352図 PL.208 | 14 | 土師器 杯 | 3/4 | 口 | 12.8 | 高 | 4.4 | 精選/良好/橙 | 器形大きく歪む。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第352図 | 15 | 土師器 杯か | 杯部片 | 口 | 16.6 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りか。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第352図 | 16 | 土師器 鉢 | +4 1/2 | 口 | 18.8 | 高 | 8.0 | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は横位にヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第352図 | 17 | 土師器 鉢 | +13 口縁～体部片 | 口 | 17.0 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第352図 PL.208 | 18 | 土師器 鉢 | 掘り方 2/3 | 口 底 | 8.9 4.4 | 高 | 5.3 | 粗砂粒少/砂不良/ 灰白 | 外面は指ナデ。内面はヘラナデ。 | |
| 第352図 PL.208 | 19 | 土師器 鉢 | 内土坑2 1/2 | 口 | 18.6 | 高 | 8.5 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第352図 | 20 | 土師器 高杯 | 杯部上位～脚部 上位片 | | | | | 細砂粒・輝石ある 角閃石/良好/橙 | 杯体部から脚部はヘラ削り。内面脚部はヘラ削り。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第352図 | 21 | 土師器 高杯 | 内土坑2 脚部中位～下位 | 底 | 16.8 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 裾部は横撫で。それ以外は縦位のヘラ削り。内面は横位にヘラ削り。 | 変色は被熱の 為か。 |
| 第352図 PL.208 | 22 | 土師器 小壺 | 内土坑4 口縁一部欠 | 口 底 | 3.0 4.1 | 高 | 9.7 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 瓶子状を呈し、胴部中位に最大径を有する。底部は平底で、口径を上回る。器面はやや磨滅しているが、丁寧なナデが施されていたと考えられる | 内部に収納物 が残存する。 (漆か) |
| 第353図 | 23 | 須恵器 蓋 | 1/4 | | | | | 細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/褐灰 | ロクロ整形、回転右回りか。天井部外面に回転ヘラ削り。天井部頂部に「二」のヘラ記号。 | |
| 第443図 PL.208 | 24 | 須恵器 杯蓋 | 掘り方 2/3 | 口 | 11.6 | 高 | 3.3 | 黒色鈹物粒/還元 焰/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。天井部に回転ヘラ削り。天井部と口縁部への移行部から凹線状。 | |
| 第353図 | 25 | 須恵器 杯身 | +3 1/4 | 口 底 | 13.8 7.8 | 高 | 3.6 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第353図 PL.208 | 26 | 須恵器 壺 | +19 3/4 | 口 | 7.9 | 高 | 8.2 | 粗砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。口縁部は彎曲して立ち上がる肩部は強く弦る。体部はヘラ削り。底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第353図 | 27 | 須恵器 壺か | +10 頸部～胴 部下位片 | | | | | 細砂粒少/還元焰/ 灰 | ロクロ整形、回転右回り。肩部に細かい凹線が2条めぐり、区画内に6条1単位の波状文を配す。内面頸部に指頭圧痕。 | |
| 第353図 PL.208 | 28 | 土師器 甕 | 床直 口縁～胴 部上位 | 口 | 16.6 | 高 | 10.0 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部は斜横位にヘラ削り。底部直径6.7mmの焼成前穿孔14孔。 | 内面は横位の ナデ。 |
| 第353図 PL.208 | 29 | 土師器 甕 | 床直 口縁～胴 部上位 | 口 | 20.8 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面胴部の一 部に炭素吸着。 |
| 第353図 | 30 | 土師器 甕 | 口縁部～胴部上 位 | 口 | 21.0 | | | 粗砂粒・輝石ある いは角閃石/良好/ にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱か、やや 炭素吸着。 |
| 第353図 | 31 | 土師器 甕 | 口縁部～胴部上 位3/4 | 口 | 21.2 | | | 粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 口縁部周辺は 炭素吸着。 |
| 第353図 | 32 | 土師器 甕 | +2 口縁部～ 胴部上位 | 口 | 19.7 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位にヘラ削り。内面胴部は斜横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第353図 | 33 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～ 胴部上位1/2 | 口 | 23.0 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱・内面や や磨滅。 |
| 第354図 | 34 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～ 胴部上位1/2 | 口 | 21.6 | | | 粗砂粒・細砂粒/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位・縦位にヘラ削り。内面胴部は斜横位にヘラナデ。 | 炭素吸着。 |
| 第354図 | 35 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～ 胴部上位1/3 | 口 | 22.4 | | | 粗砂粒・片岩/良好 /にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 外面炭素吸着。 |
| 第354図 | 36 | 土師器 甕 | 床直 口縁部～ 胴部上位1/2 | 口 | 22.0 | | | 粗砂粒・片岩/良好 /明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第354図 PL.208 | 37 | 石製模造品 白玉 | +3 | 径 | 2.3 | 厚 重 | 0.9 5.93 | 滑石 | 上・下面とも粗く研磨した程度で、分割面を大きく残す。概形を作出した痕跡は見られない。径4mm弱の孔を穿つ。 | 扁平礫 |
| 第354図 PL.208 | 38 | 石製模造品 白玉 | 床直 | 長 短 | 2.0 1.6 | 厚 重 | 1.1 4.78 | 滑石 | 上・下面とも粗く研磨しているようであるが、全般的に研磨は不明瞭。径4mm弱の孔を穿つ。 | |
| 第354図 PL.208 | 39 | 石製模造品 白玉 | 掘り方 | 径 | 1.80 | 厚 重 | 0.9 4.6 | 滑石 | 上下両面とも粗く研磨する。体部側面に縦位の粗い研磨痕が残る。 | |
| 第354図 PL.208 | 40 | 石製模造品 勾玉 | | 長 短 | (2.5) 2.2 | 厚 重 | 0.4 3.88 | 蛇紋岩 | 表裏面とも粗い線条痕が残る。径2mm弱の孔を穿つ。上半部を欠損する。 | |
| 第354図 PL.208 | 41 | 礫石器 敲石 | 床直 | 長 幅 | 13.5 6.3 | 厚 重 | 4.1 510.3 | 変質安山岩 | 小口部両端に著しい敲打痕が残る。 | 棒状礫 |
| 第354図 PL.208 | 42 | 礫石器 敲石 | 床直 | 長 幅 | 12.1 5.7 | 厚 重 | 3.5 348.1 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に著しい敲打痕が残る。 | 扁平礫 |

第3章 発掘調査の記録

| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 |
|-----|----|-----|-----|------|-----|-------|---------|
| 非掲載 | 43 | 菰編石 | 4.5 | 18.3 | 4 | 493.5 | 黒色頁岩 |
| 非掲載 | 44 | 菰編石 | 7.4 | 9.1 | 6.1 | 640.4 | 黒色頁岩 |
| 非掲載 | 45 | 菰編石 | 5.3 | 6.9 | 4.9 | 259.4 | 粗粒輝石安山岩 |
| 非掲載 | 46 | 菰編石 | 7.2 | 8.7 | 3.4 | 504.4 | 細粒輝石安山岩 |
| 非掲載 | 47 | 菰編石 | 6.2 | 12.6 | 2.9 | 380.7 | 溶結凝灰岩 |
| 非掲載 | 48 | 菰編石 | 6.2 | 10.8 | 2.8 | 292.4 | 粗粒輝石安山岩 |
| 非掲載 | 49 | 菰編石 | 6.3 | 12.1 | 3.3 | 431.5 | 細粒輝石安山岩 |
| 非掲載 | 50 | 菰編石 | 4.6 | 9.8 | 2.3 | 167.9 | 石英閃緑岩 |
| 非掲載 | 51 | 菰編石 | 7.3 | 14.3 | 3.9 | 575.2 | 粗粒輝石安山岩 |



第355図 3区 153号住居菰編石長幅比グラフ

第131表 3区166号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|--------------|-----|----------|---------------|-----|------|--------------------|-------------|----------------------------------|----------|
| 第356図 | 1 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 口縁～胴部片 | 口 | 23.0 | | 粗砂粒・片岩/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り、内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第356図 | 2 | 土師器 甕 | 貯蔵穴 口縁～胴部片 | 口 | 16.8 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜位にヘラ削り、内面はヘラナデ。 | 内外面とも磨滅。 |

152号住居(第356図、P L .112)

位置 26B-9グリッド。

重複 129・134号住居、58号溝より前出。160・166号住居と重複するが新旧関係不明で、同一の住居となる可能性がある。

形状 全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は5.7㎡。東西4.5m、南北1.65m、壁高はほとんど確認できなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 1～3層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さは5～12cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 不明。

160号住居(第356図、P L .112)

位置 26B-9グリッド。

重複 58号溝より前出。152・166号住居と重複するが新旧関係不明で、同一となる可能性がある。

形状・主軸方位 不明。

規模 現状での面積は1.3㎡。北東～南西2.9m、北西～南東0.7m、壁高はほとんど確認できなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 埋没状況不詳。

掘り方 全体的に凹凸がある。

出土遺物 ほとんど出土していない。

時期 不明。

166号住居(第356図、P L .116、第131表)

位置 26B-8・9グリッド。

重複 129号住居、58号溝より前出。152・160号住居と重複するが新旧関係不明で、同一となる可能性がある。

形状 全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は3.2㎡。東西1.9m、南北1.85m、壁高は10cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 長径74cm・短径71.5cm・深さ41cmを測る。埋没土は5層に分かれた。埋没土上層から土器片が出土している。

柱穴・周溝 確認できなかった。

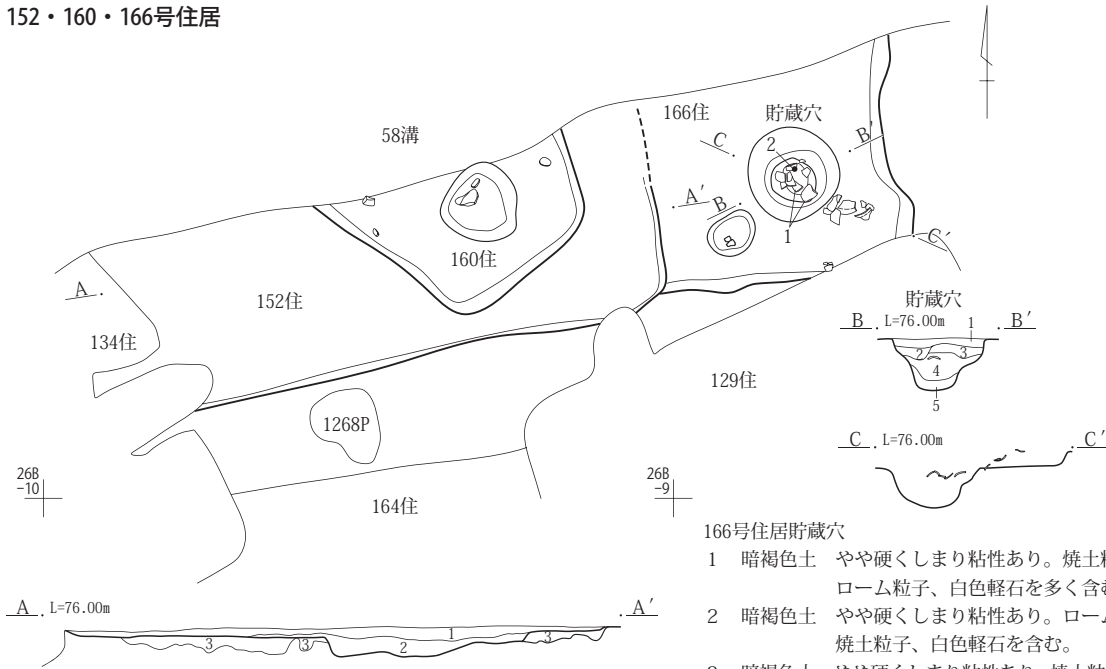
埋没土 ほとんど確認できなかった。

掘り方 確認できなかった。

出土遺物 貯蔵穴周辺からまとも出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半かと思われる。

152・160・166号住居



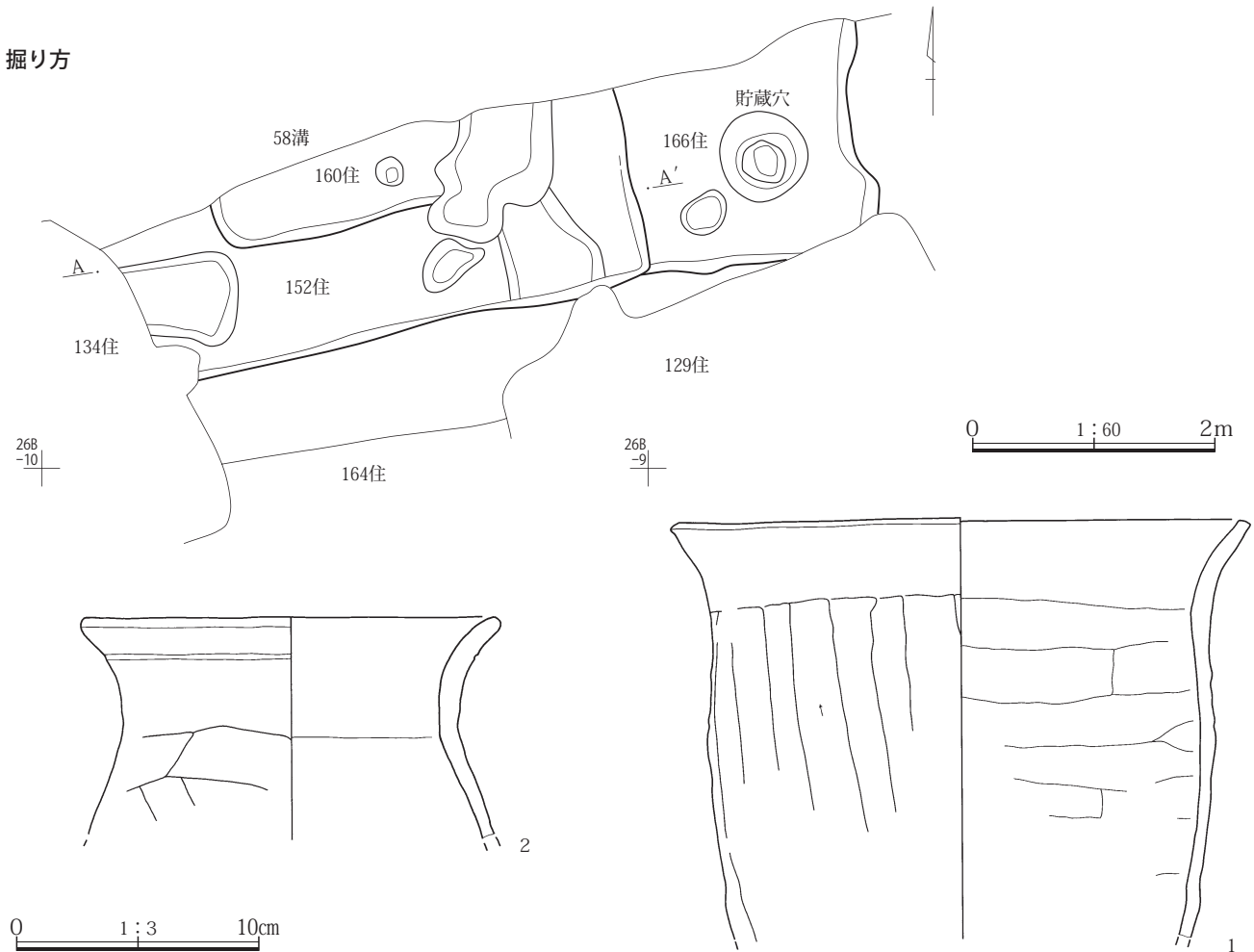
166号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含み、ローム粒子、白色軽石を多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、白色軽石を含み、ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、白色軽石を少量、ローム粒子、ロームブロックを非常に多く含む。
- 5 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

152・160号住居

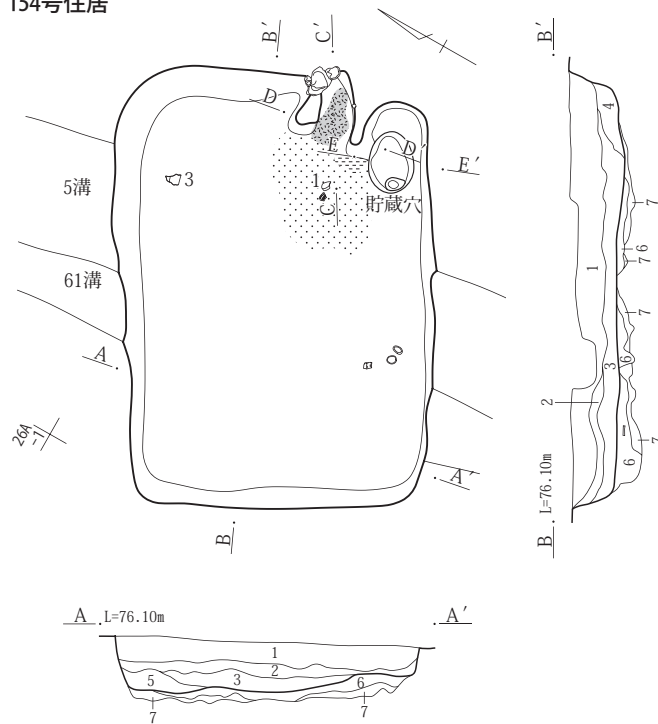
- 1 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子、炭化物を少量、ローム粒子、白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。

掘り方



第356図 3区152・160・166号住居と166号住居出土遺物

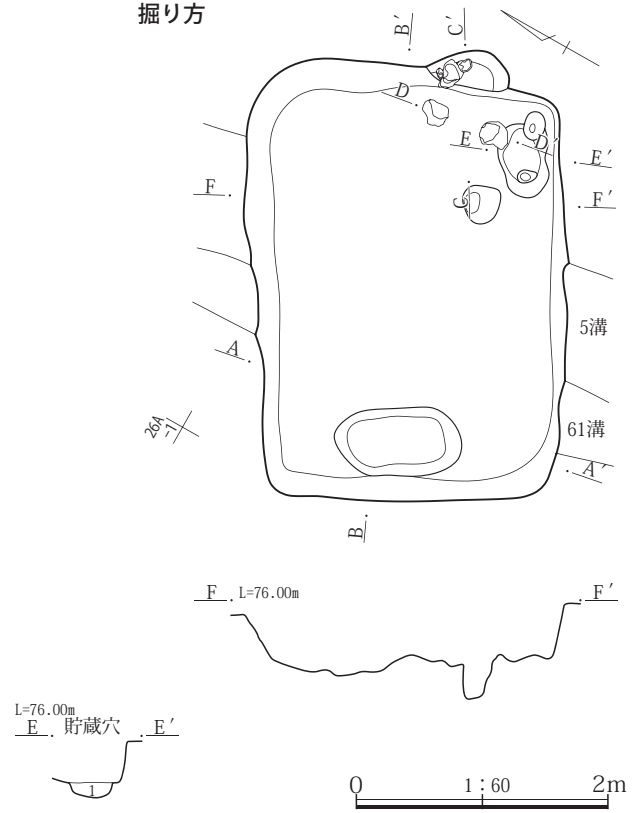
154号住居



154号住居

- 1 暗褐色 しまり強い。ローム粒子、ロームブロック、軽石、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。1層よりロームブロックが多い。
- 4 黒暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 5 黒褐色土 4層よりローム粒子を多く含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 7 灰褐色土 白色粘土ブロックの層。

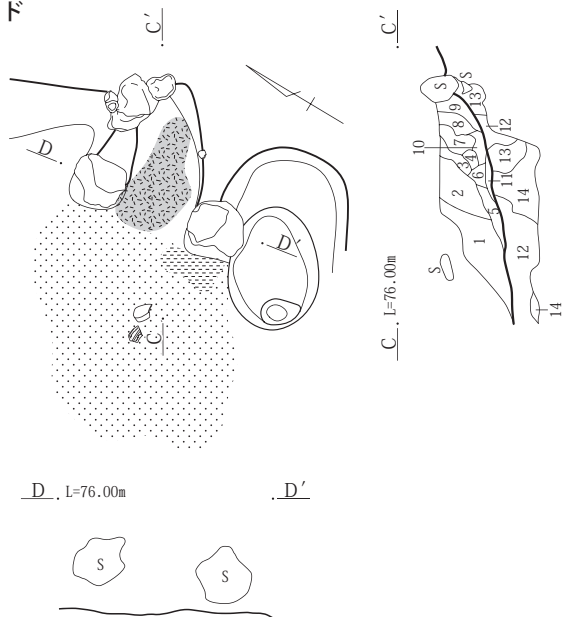
掘り方



貯蔵穴

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を微量、ロームブロック、ローム粒子を含む。

カマド



カマド

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量、軽石を微量含む。
- 2 暗褐色土 1層よりローム粒子を多く含む。
- 3 黒褐色土 しまり弱い。焼土粒子を含む。
- 4 黒褐色土 しまり弱い。炭化物粒子を多く、焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 2層に焼土粒子を含む。
- 6 赤褐色土 しまりやや弱い。焼土ブロックを含む。
- 7 黒褐色土 3層より焼土粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロック主体の層。
- 10 黒褐色土 焼土粒子を多く含む。
- 11 黒褐色土 焼土粒子を多く含む。下部に灰を含む。
- 12 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を微量、ローム粒子を含む。
- 13 暗褐色土 粘土ブロックを含む。
- 14 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量、ロームブロックを含む。

第357図 3区154号住居

154号住居(第357・358図、P L .113、第132表)

位置 15 T・16 A-20グリッド。

重複 28号住居より後出で、155号住居、5・61号溝より前出。

形状 長方形を呈する。

主軸方位 N-66°-E

規模 面積は6.7㎡。長辺(北東~南西)3.45m、短辺(北西~南東)2.55m、壁高は20~42cmを測る。

床面 やや凹凸がある。カマド前面に硬化面が認められる。

カマド 東壁の中央からやや南寄りに設置される。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ60cm、焚き口部の幅30cm、袖を含めた幅は70cmを測る。袖石が残されていた。1~11層はカマド埋没土、12~14層は掘り方になる。11層下部に灰が認められた。

貯蔵穴 床面の南東隅、カマドに近接して検出された。

長径49cm、短径36cm、深さ12cmを測る。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1~5層は住居埋没土、6・7層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さ5~18cmを測る。

出土遺物 カマドや壁際の床面から少量の土器片が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

155号住居(第359図、P L .113・209)

位置 15 T・16 A-20、25 T・26 A-1 グリッド。

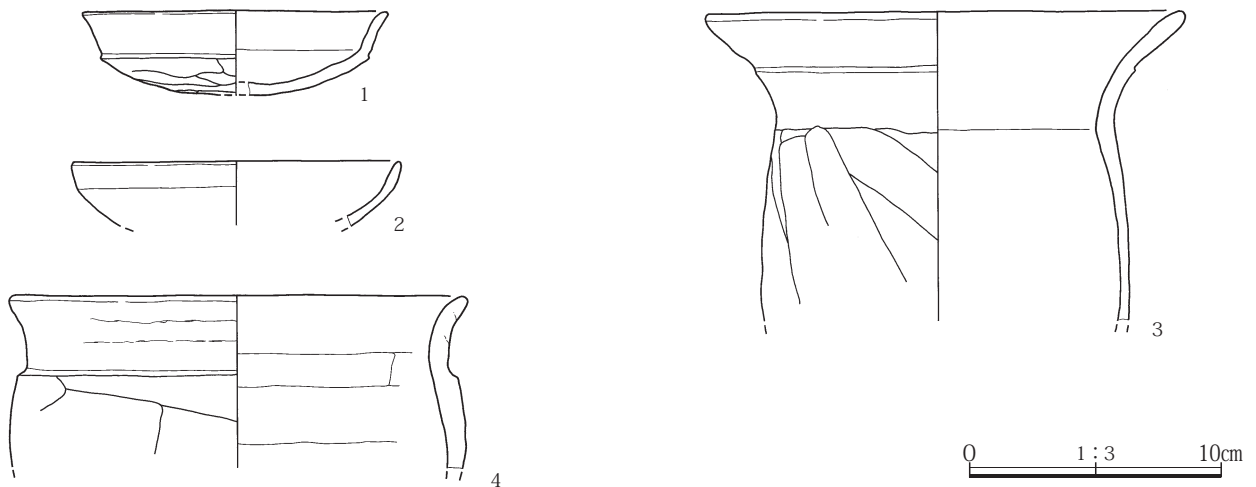
重複 154号住居より後出で、28号住居、5・61号溝より前出。

形状 全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は面積は11.4㎡。北東~南西4.15m、北西~南東3m、壁高は10cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。土坑1基が検出された。長径102.5cm・短径77cm・深さ54cmを測る。埋没土は5層に分かれた。

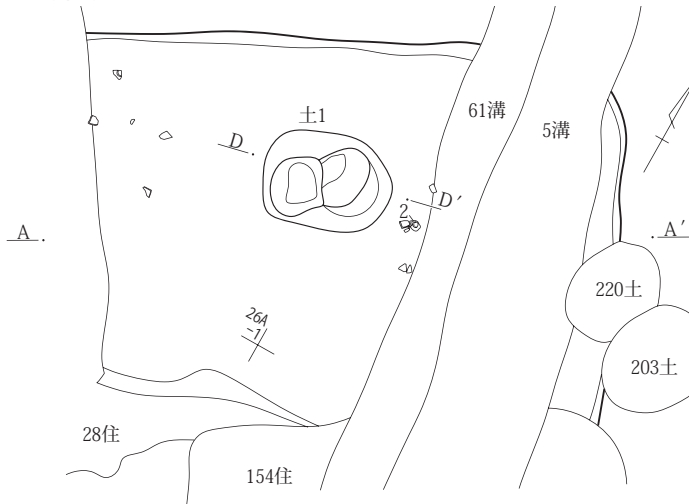


第358図 3区154号住居出土遺物

第132表 3区 154号住居出土遺物

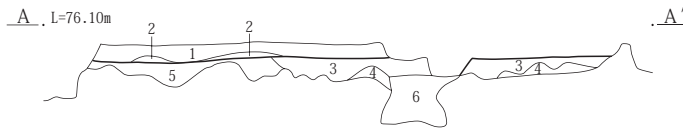
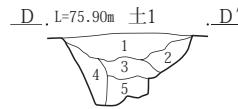
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|-----------------|-----|------|-----------------------|---|-------------|
| 第358図 | 1 | 土師器 杯 | +19 1/4 | □ | 11.8 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第358図 | 2 | 須恵器 瓶 | +5 底部~肩部1/3 | | | 粗砂粒少・黒色鈹 物粒少/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転は右回り。体部下位から底部に回転を伴うヘラ削り。肩部と体部上位に2条の凹線をめぐらし、その間にクシ状工具による列点文を1段を充填する。 | 肩部に自然釉厚く付着。 |
| 第358図 | 3 | 土師器 甕 | +16 口縁~体部1/4 | □ | 19.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は中位に弱い段を有する。2回に分けて横ナデ。胴部は斜位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | |
| 第358図 | 4 | 土師器 甕 | 口縁~胴部片 | □ | 17.8 | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ、輪積み痕を残す。胴部は斜横位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。 | 被熱。 |

155号住居



155号住居

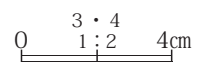
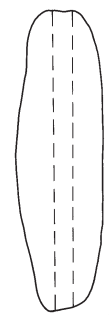
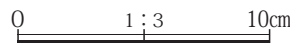
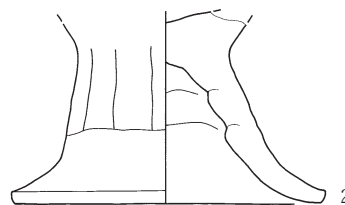
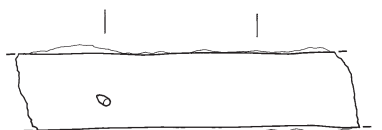
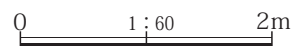
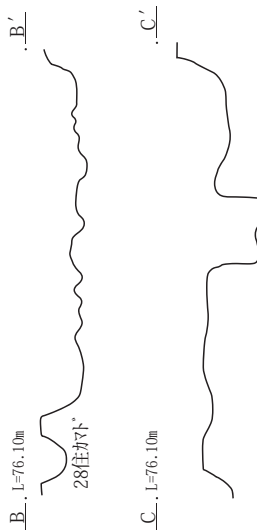
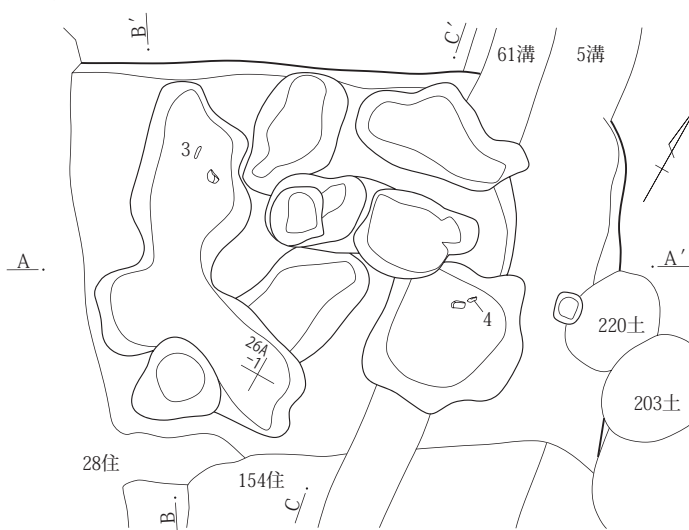
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 4 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。大粒のロームブロックを含む。



155号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。粘土ブロック、粘土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。粘土ブロック主体の層。
- 5 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。

掘り方



第359図 3区155号住居と出土遺物

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3～6層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さ5～25cmを測る。

出土遺物 床面全体から少量の土器片が出土している。掘り方から板状鉄器(第359図4)が出土する。

第133表 3区155号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|------------|-------------|-----|-------|-----------|--------------------|---|---------|
| 第359図 | 1 | 土師器 杯 | 口縁～底部片 | 口 | 13.8 | | 細砂粒少/良好/に ぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第359図 | 2 | 土師器 台付甕 | 床直 台部2/3 | 底 | 11.9 | | 小礫・粗砂粒/良好 /にぶい橙 | 上半は縦位にヘラ削り、下半は横ナデ。内面上半は横位の ナデ、輪積み痕を残す。 | 外面磨滅剥離。 |
| 第359図 PL.209 | 3 | 土製品 土錘 | 掘り方 ほぼ完形 | 長中 | 7.9 | 孔重 2.3 | 粗砂粒/良好/橙 | 小口に面を有しない。 | 器面磨滅。 |
| 第359図 PL.209 | 4 | 鉄器 板状 | 掘り方 一部片か | 長幅 | (9.0) | 厚重 2.0 | | 中ほどに径2mmほどの穿孔痕、錆化が激しい。 | |

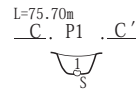
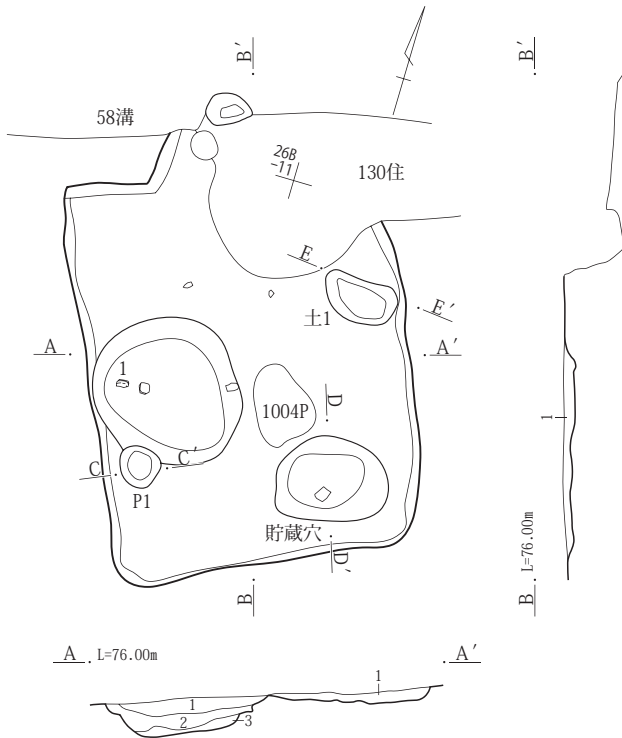
時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

156号住居(第360図、P L .102・114、第134表)

位置 26A・B-10・11グリッド。

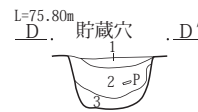
重複 58号溝より前出で、130号住居と重複するが新旧
関係不明。

形状 方形を呈する。



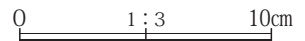
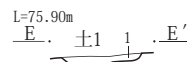
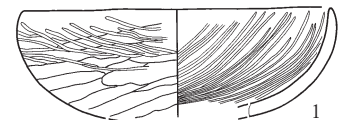
P 1

1 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。



貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子と暗褐色土を含む。

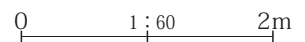


156号住居

- 1 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子を少量、ロームブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 黄褐色土 硬くしまる。ロームを主体に暗褐色土を含む。

住居内土坑 1

1 暗褐色土 硬くしまる。焼土ブロック、ロームブロックを多量に、白色軽石を含む。



第360図 3区156号住居と出土遺物

第134表 3区156号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|-------------|-----|------|--|---------------------|---|----|
| 第360図 | 1 | 土師器 杯 | 口縁～体部 | 口 | 12.2 | | 細砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ後、体部上位にかけて斜横位のヘラ磨き、 以下はヘラナデ。内面は斜放射状にヘラ磨き。 | |

主軸方位 N-25°-W

規模 面積は7.3㎡。長辺(北西～南東)3.23m、短辺(北東～南西)2.53m、壁高はほとんど検出できなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径89cm・短径67cm・深さ42.5cmの楕円形を呈する。埋没土は3層に分かれた。

柱穴 検出できなかったが、ピット1基が検出された。

P1は長径33.5cm・短径31.5cm・深さ16.5cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 確認できなかった。1～3層は掘り方充填土になる。

掘り方 凹凸がある。深さは5～26cmを測る。

出土遺物 遺物の出土は少ない。土坑1から土師器杯(第360図1)が出土する。

時期 出土遺物から5世紀後半に比定される。

157号住居(第361図、P L .114・115・209、第135表)

位置 25T・26A-3・4グリッド。

重複 171・176・185号住居、216号土坑より後出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-93°-E

規模 面積は6.1㎡。長辺(南北)3.24m、短辺(東西)2.45m、壁高は22cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。カマド前面から床中央部にかけて硬化面が認められる。

カマド 住居の南東隅に設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ73cm、焚き口部の幅30cmを測る。袖石が残されている。1～5層はカマド埋没土になる。

貯蔵穴 床面調査時には検出できなかったが、掘り方調査時に検出された土坑1が貯蔵穴になる可能性がある。

長径61.5cm・短径59.5cm・深さ11cmを測る。上層に炭化物を含んでいる。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～3層は住居埋没土、4層は貼床、5・6層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げは浅い。深さ5～10cmを測る。

出土遺物 カマドから須恵器羽釜(第361図3)が出土している。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

158号住居(第362・363図、P L .115、第136表)

位置 25T・26A-7・8グリッド。

重複 2・60・126・127号住居より前出。

形状 全容は不明であるが、方形を呈するか。

主軸方位 N-67°-E

規模 現状での面積は13.6㎡。南北4.16m、東西3.44m、壁高は5～10cmを測る。

床面 ほぼ平坦。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 東壁のほぼ中央に設置されている。燃焼部は床面を掘り込んで構築されており、長さ87cm、焚き口部の幅40cm、袖を含めた幅は100cmを測る。カマド埋没土の5層はカマド構築材の一部になる。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径118cm・短径95cm・深さ81cmの方形を呈する。

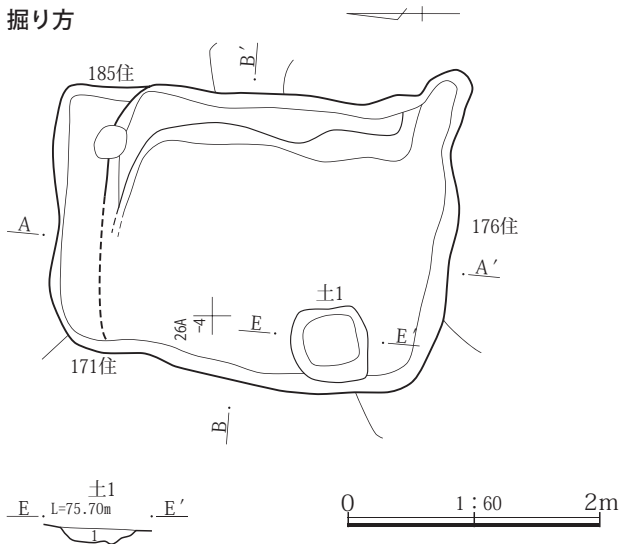
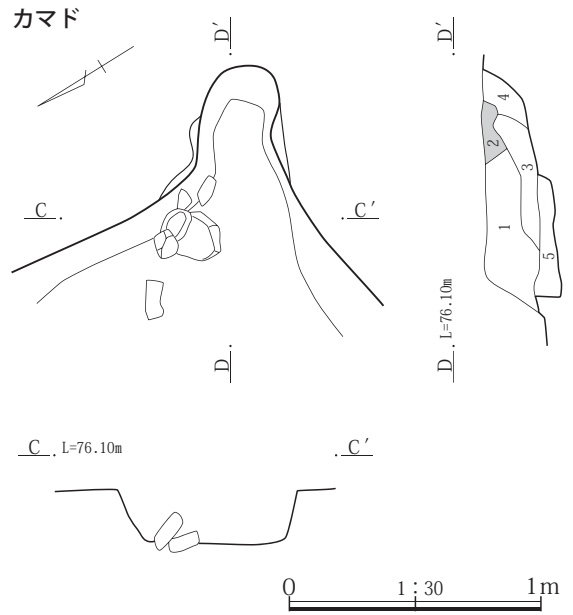
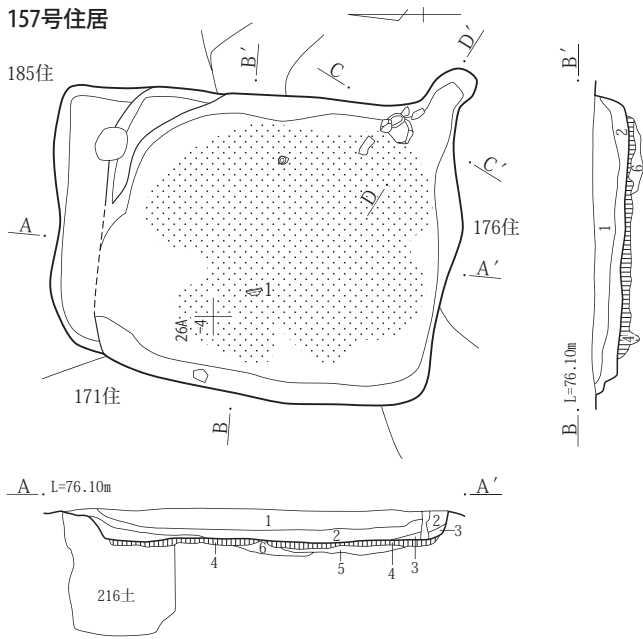
柱穴 支柱穴4基検出された。P1は長径22cm・短径21cm・深さ52cm、P2は長径53.5cm・短径44cm・深さ45.5cm、P3は長径29cm・短径23.5cm・深さ43.5cm、P4は長径30cm・短径12cm・深さ53cmを測る。P1-P2間の距離は2.35m、P2-P3間距離2.1m、P3-P4間距離2.4m、P4-P1間の距離は2.35mを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1～4層は住居埋没土、5・6層は掘り方充填土、7～9層はピット埋没土になる。

第135表 3区157号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-------------|-------------|-----|------|------------------|-----------------------|--|----------|
| | | | | 底 | 厚 | 重 | | | |
| 第361図 PL.209 | 1 | 須恵器 杯 | 床直 底部片 | 底 | 6.8 | | 細砂粒/酸化焰・軟質/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整 | |
| 第361図 | 2 | 須恵器 杯 | 底部1/3 | 底 | 7.0 | | 細砂粒・赤黒色粘土粒/酸化焰・軟質/明黄褐 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後、無調整 | 内面磨滅。 |
| 第361図 | 3 | 須恵器 羽釜 | 口縁部片 | 口 | 26.8 | | 粗砂粒多/酸化焰・軟質/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回りか。 | 被熱・炭素吸着。 |
| 第361図 PL.209 | 4 | 石製模造品 剣形 | 掘り方 | 長幅 | 2.9 | 厚重 0.4 3.6 | 滑石 | 背面側横位、裏面縦位が主な研磨方向。径2mm弱の孔を穿ち。上端側の孔は裏側に片側穿孔特有の剝落痕が残る。 | |



157号住居

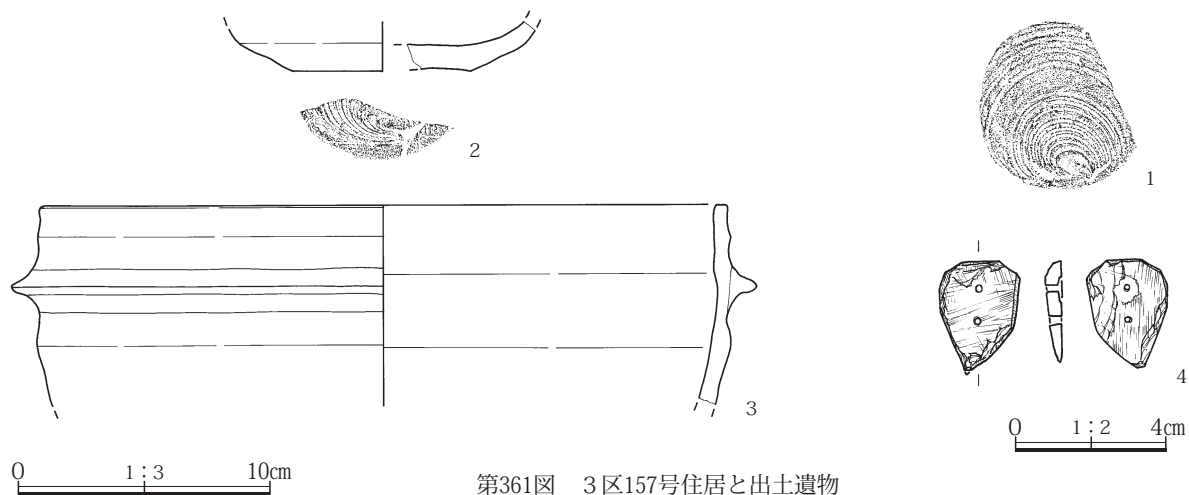
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。貼床。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土粒子を含む。
- 6 暗褐色土

157号住居カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 2 赤褐色土 焼土主体で暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。炭化物、焼土粒子、ローム粒子を含む。

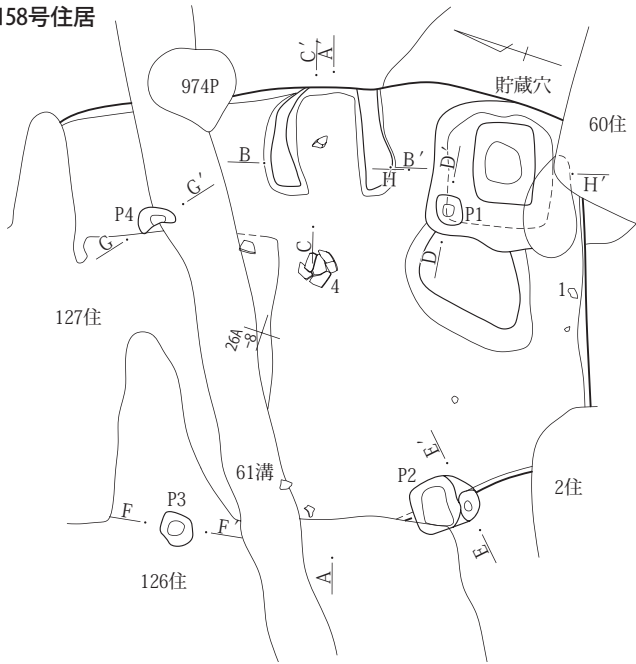
157号住居住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。上層に炭化物を含み、ローム粒子、黄白色粘質土粒子を含む。

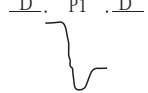


第361図 3区157号住居と出土遺物

158号住居



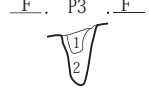
L=75.90m



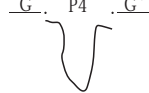
P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を多く、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、焼土粒子を含む。

L=75.80m



L=75.90m



P 3

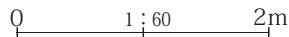
- 1 暗褐色土 しまりあり。粘性無し。ローム粒子を少量含む。
- 2 褐色土 しまり強い。粘性あり。ロームブロックを多量に含む。埋戻土。

L=75.80m



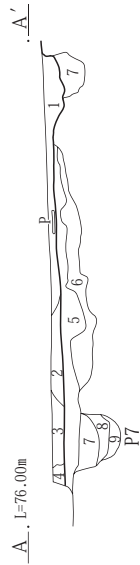
貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子、炭化物ブロック、ロームブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくしまり弱い。粘性あり。ローム粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくしまり弱い。粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。

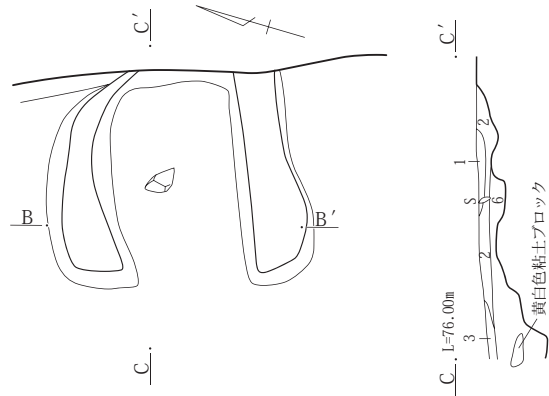


158号住居

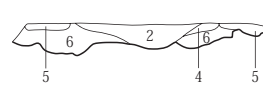
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量、白色粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子を多く、ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子を含み、ロームブロック、焼土粒子を少量含む。
- 4 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を少量含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 6 黄褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロックと暗褐色土の混土。
- 7 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 9 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土を主体に、暗褐色土を含む。



カマド

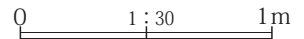


B, L=76.00m



カマド

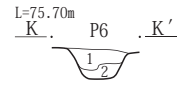
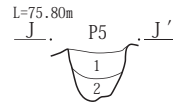
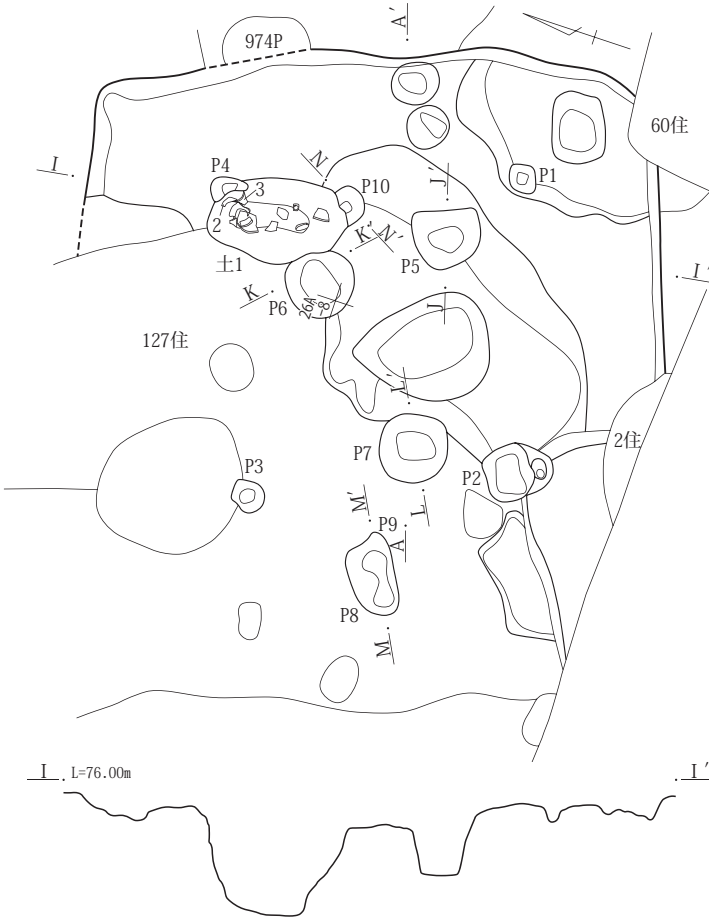
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子、灰を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子、白色軽石を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。焼土粒子を含む。
- 5 灰褐色粘質土 硬くしまる。カマド構築材。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロックを含む。



第362図 3区158号住居

第3節 3区の遺構と遺物(1)

掘り方

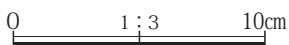
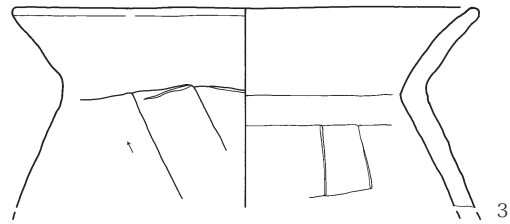
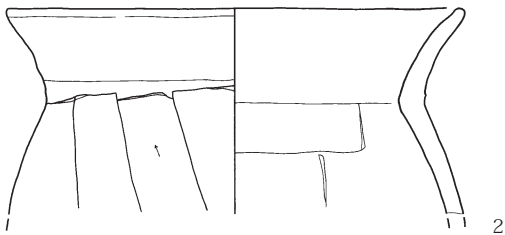
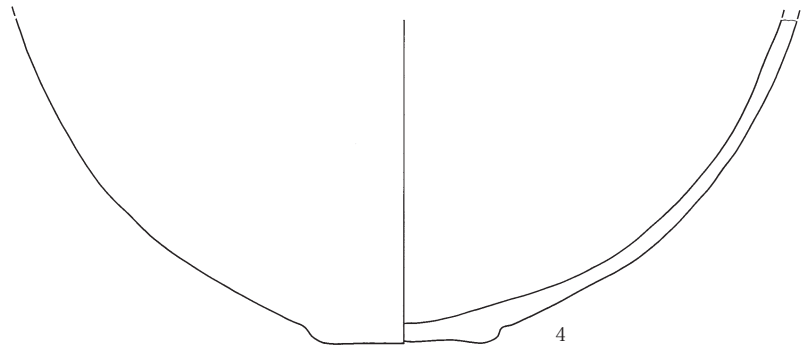
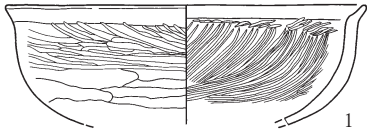
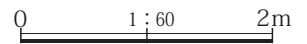
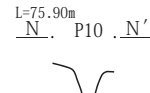
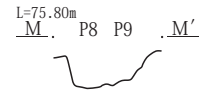
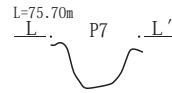


P 5

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含み、白色軽石を少量含む。

P 6

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を少量含む。



第363図 3区158号住居掘り方と出土遺物

掘り方 全体的に掘り下げている。深さは5～30cmを測る。ピット6基と土坑が検出された。P5は長径52.5cm・短径45.5cm・深さ43cm、P6は長径54cm・短径52cm・深さ23cm、P7は長径54cm・短径50cm・深さ34cm、P8・P9は長径67cm・短径35cm・深さ27cm、P10は長径29.5cm・短径18.5cm・深さ21cmを測る。

出土遺物 カマド周辺から土師器甕が出土している。

時期 出土遺物から5世紀後半に比定される。

161号住居(第364図、P.L.115、第137表)

位置 25T-9・10グリッド。

重複 70号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 不明。

主軸方位 不明。

規模 北東～南西2.85m、北西～南東0.94m、壁高は20cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 明瞭な貯蔵穴を確認できなかった。

柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1層は住居埋没土、2層は貼床になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さは8～26cmを測る。

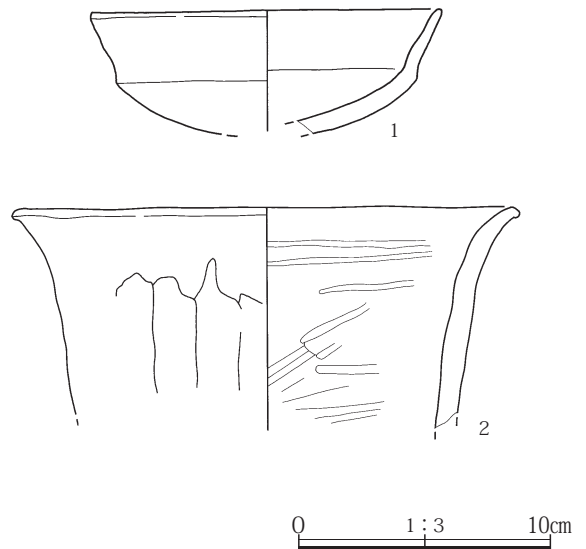
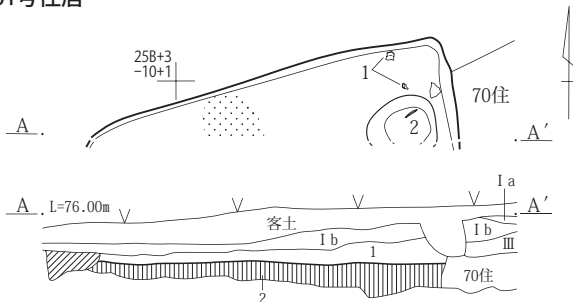
出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

第136表 3区158号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|---------------|-----|------|--------------------|--|------------------------|
| 第363図 | 1 | 土師器 杯 | 床直 口縁部～体部 | 口 | 14.0 | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部上位は斜横位にヘラ磨き、体部から底部はヘラナデ。内面は上半部に斜放射状にヘラ磨きを充填する。 | 外面の一部に炭素吸着・黒斑状。 |
| 第363図 | 2 | 土師器 甕 | 口縁～胴部上位 | 口 | 17.8 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位にヘラ削り、内面は横位にヘラナデ。 | 外面はやや炭素吸着。 |
| 第363図 | 3 | 土師器 甕 | 口縁～肩部片 | 口 | 18.2 | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位にヘラ削り、内面は横位にヘラナデ。 | 2と同一か。 |
| 第363図 | 4 | 土師器 壺 | 床直 底部～胴部中位 | 底 | 7.4 | 細砂粒/良好/橙 | 胴部は丁寧なナデか。内面も丁寧なナデ。 | 内外面とも磨滅。外面の一部炭素吸着・黒斑状。 |

161号住居



- I a 表土 浅間A軽石を多量含む。
- I b 褐色土 硬い、浅間A軽石を多量に、ローム粒子を微量含む。
- III 褐色土 しまり非常に強い。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
- 1 暗褐色土 白色軽石を微量、ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを多量に、炭化物を微量含む。貼床。

第364図 3区161号住居と出土遺物

第137表 3区161号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|--------------|-----|------|--------------------|---|-------------------|
| 第364図 | 1 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | 口 | 13.6 | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。外面底部炭素吸着。 |
| 第364図 | 2 | 土師器 甕 | 床直 口縁～胴部片 | 口 | 19.4 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位に丁寧なヘラ削り。内面胴部は横位にヘラ削り後、ヘラ磨きを重ねる。 | 外面口縁部に炭素吸着・黒斑状。 |

162号住居(第365～367図、P L.115・116・209、第138表)

位置 25T・26A-8・9グリッド。

重複 2・125号住居より前出で、126号住より後出。居70号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 全容は不明だが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は20.4㎡。東西5.73m、南北5.3m、壁高は10cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 床面調査段階では確認できなかった。

柱穴 主柱穴5基検出された。P 1は長径36cm・短径34cm・深さ52cm、P 4は長径40cm・短径30cm・深さ50cm、P 5は長径36cm・短径35cm・深さ40cm、P 6は長径42cm・短径30cm・深さ35cmを測る。セクションから判断するとP 1とP 6が古い柱穴になる。P 1-P 6間の距離は2.5m、P 4-P 5間の距離は2.9mになる。

P 13は長径35cm・短径15cm・深さ47cmを測る。P 4-P 13間の距離は2.75mになる。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1層は住居埋没土、2・3層はP 13の埋没土になる。

掘り方 全体的に掘り下げている。深さは6～40cmを測る。ピットと土坑が検出された。P 2は長径38cm・短径33cm・深さ20cm、P 3は長径40cm・短径26cm・深さ15cm、P 7は長径32cm・短径24cm・深さ30cm、P 8は長径26cm・短径25cm・深さ30cm、P 9は長径22cm・短径20cm・深さ40cm、P 10は長径32cm・短径31cm・深さ27cm、P 11は長径63cm・短径56cm・深さ22cm、P 12は長径30cm・短径26cm・深さ32cmを測る。なお、P 11は貯蔵穴の可能性もある。土坑1は長径55cm・短径50cm・深さ33cm、土坑2は長径116cm・短径100cm・深さ39cm、土坑3は長径117cm・短径114cm・深さ34cm、土坑4は長径96cm・短径90cm・深さ26cmを測る。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

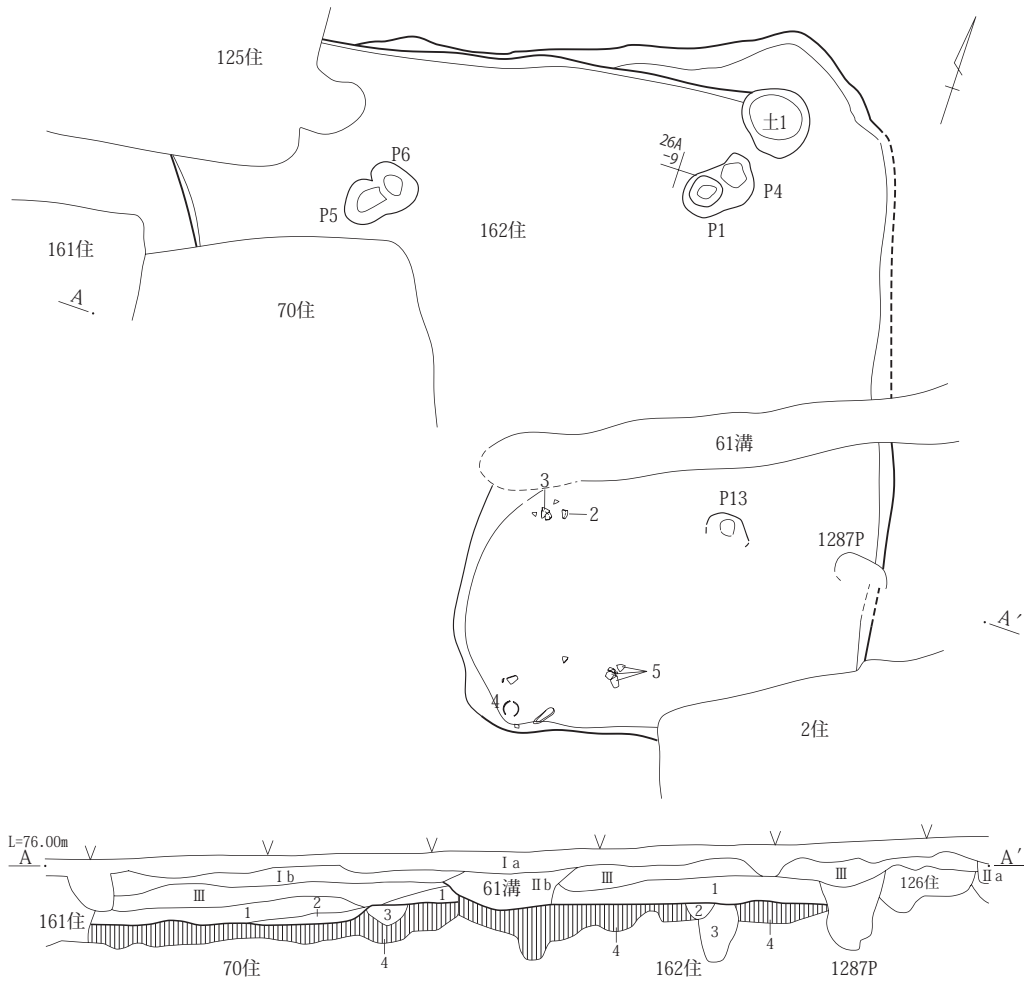
時期 出土遺物は6世紀後半に比定だが、126号住居(10世紀後半)より後代である。

備考 調査段階3号住居と合成。

第138表 3区 162号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|--------------|-----|----------------|---------------------|-----------------------|---|-----------------|
| 第367図 | 1 | 土師器 杯 | 口縁～底部片 | 口 | 11.8 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第367図 | 2 | 土師器 杯 | +11 1/3 | 口 | 11.4 | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 器形やや歪む。口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面炭素吸着、内外面とも磨滅。 |
| 第367図 | 3 | 土師器 杯 | +9 1/3 | 口 | 11.8 | 高 4.0 | 精選/良好/橙 | 器形やや歪む。口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第367図 | 4 | 土師器 壺 | +7 頸部～底部片 | | | | 精選・白色鈹物粒/ 良好/にぶい黄橙 | 体部はヘラ削りの上に磨きに近いヘラナデ。底部はヘラ磨き。内面体部は横位のヘラナデ。 | 底部周辺炭素吸着。 |
| 第367図 | 5 | 土師器 小型壺 | +2 1/3 | 口 | 11.0 | | 細砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部上半はヘラ磨き状のヘラナデ。下半から底部はヘラ削り。内面体部は横位にヘラナデ。 | |
| 第367図 PL.209 | 6 | 石製品 砥石 | | 長幅 | (18.6) 10.6 | 厚重 5.0 1228.2 | 粗粒輝石安山岩 | 背面側全面にが研磨され、光沢を帯びている。特に、左辺側の研磨が強い。 | 礫砥石 |

162号住居



162号住居

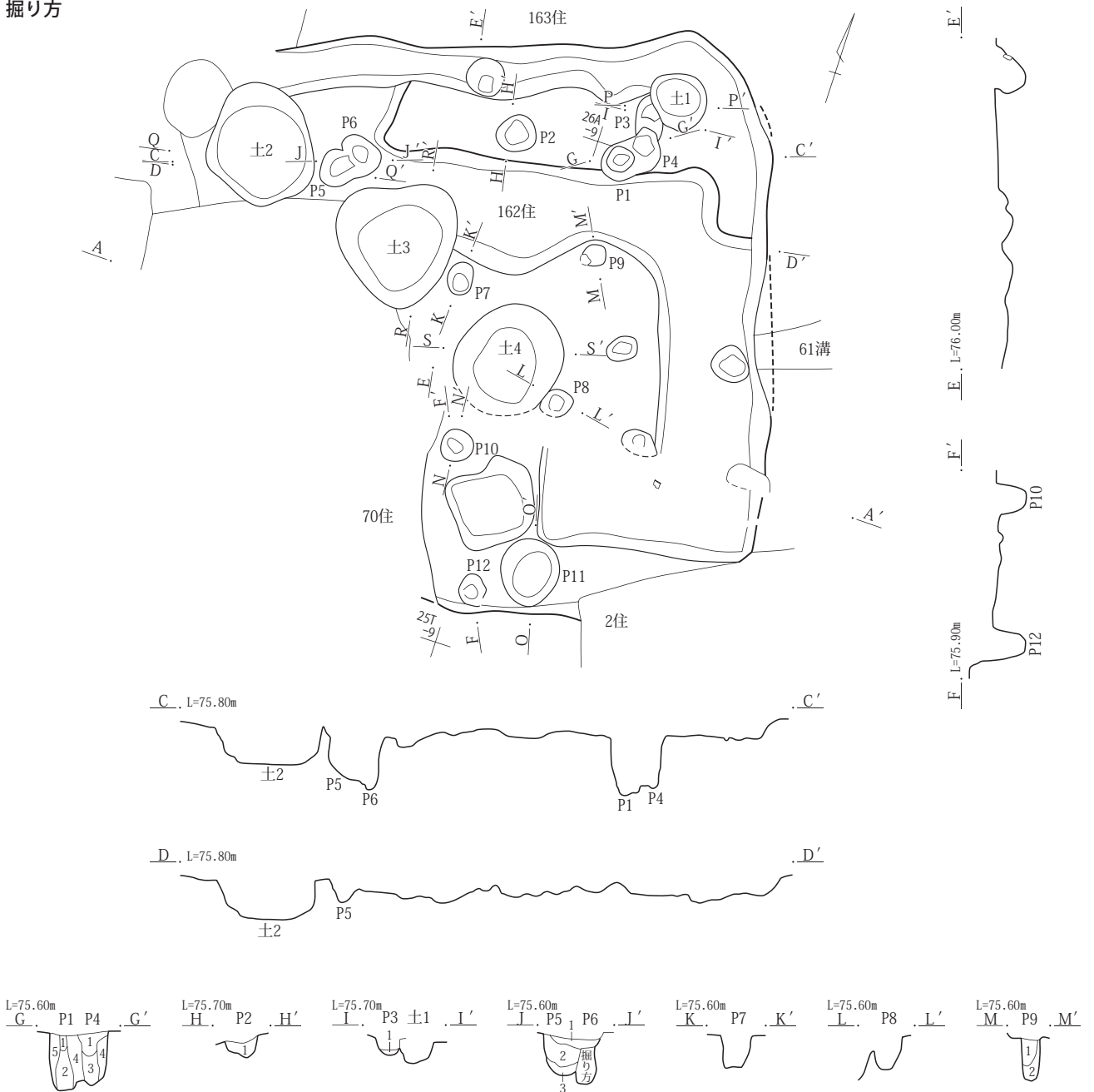
- I a 表土 浅間A軽石を多量含む。
- I b 褐色土 硬い、浅間A軽石を多量に、ローム粒子を微量含む。I a.
- II a 褐色土 しまりあり。浅間B軽石を含む。
- II b 暗褐色土 しまりあり。浅間B軽石を多量に含む。
- III 褐色土 しまり非常に強い。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
- 1 暗褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。
- 2 褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。ロームブロックを多量に含む。P 6 フク土。
- 4 褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を多量に、ロームブロックを少量含む。貼床。

70号住居

- 1 褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
- 3 褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
- 4 褐色～明褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。ロームブロックを少量、ローム粒子を多量に含む。貼床。

第365図 3区162号住居

掘り方



162号住居 P 1・4

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色粒子を多く、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含み、炭化物粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多く、焼土粒子、白色軽石を含む。
- 5 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を少量含む。

162号住居 P 2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く、炭化物粒子を少量含む。

162号住居 P 3

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含み、焼土粒子を少量含む。

162号住居 P 5・6

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性少しあり。ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石を多く含む。
- 3 褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。

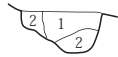
162号住居 P 9

- 1 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層で、暗褐色土、白色軽石を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム主体の層で、白色軽石を多く含む。

第366図 3区162号住居掘り方

第3章 発掘調査の記録

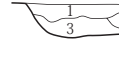
L=75.70m
P. 162住土1 .P'



162号住居内土坑1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含み、炭化物粒子を少量含む。

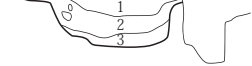
L=75.60m
S. 162住土4 .S'



162号住居内土坑4

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を多く、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性少しあり。ローム粒子、ロームブロックを多く、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体に暗褐色土を少量含む。

L=75.70m
Q. 162住土2 .Q'



162号住居内土坑2

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を多く、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色軽石、焼土粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含み、ロームブロックを少量含む。

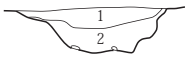
L=75.70m 162住P10
N. .N'



162号住居P10

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、焼土粒子、白色粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

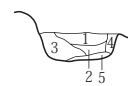
L=75.70m
R. 162住土3 .R'



162号住居内土坑3

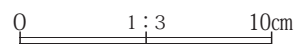
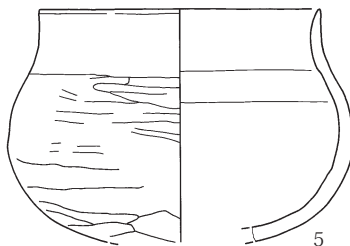
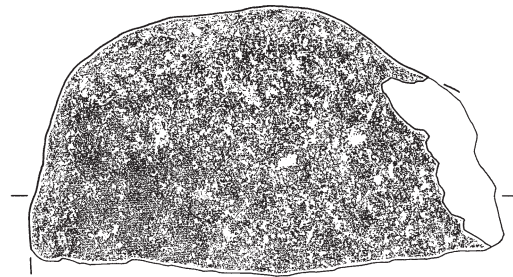
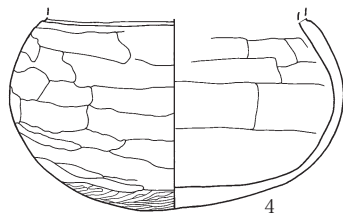
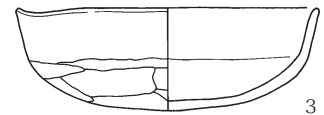
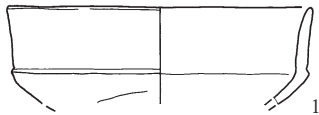
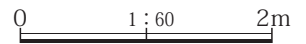
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含み、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを多く、白色軽石、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

L=75.90m
O. 162住P11 .O'



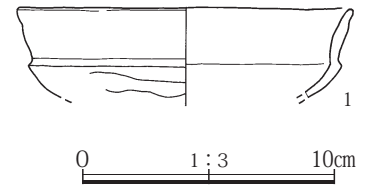
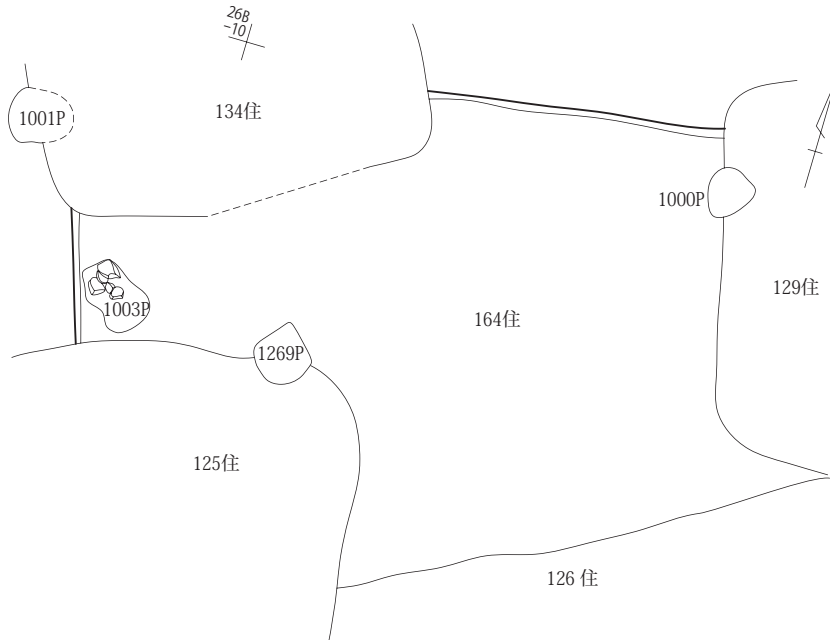
162号住居P11

- 1 黄褐色土 やや硬くしまる。ローム主体で、焼土ブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 黄褐色土 硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。
- 5 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。

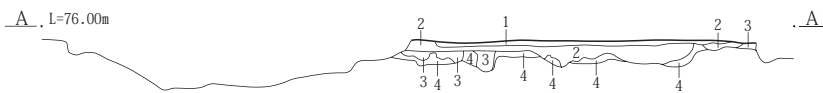
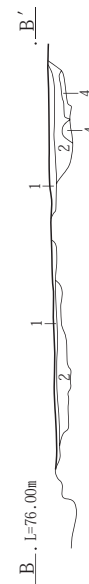
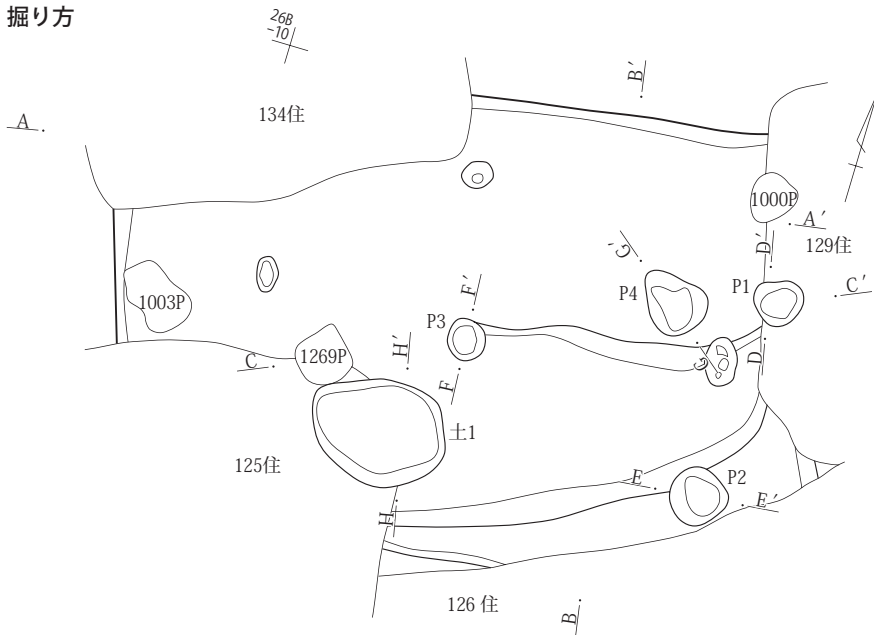


第367図 3区162号住居内土坑・ピット断面と出土遺物

164号住居(第368・369図、P L .115、第139表)



掘り方



164号住居掘り方

- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロック、白色軽石を含む。</p> <p>2 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を多量に、白色軽石を少量含む。</p> | <p>3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を含む。</p> <p>4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを多量に、暗褐色土を含む。</p> |
|---|---|



第368図 3区164号住居と出土遺物

位置 26A-9・10、26B-9グリッド。

重複 125・129・134号住居より前出で、163号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 全容は不明でだ、方形を呈すると思われる。

主軸方位 不明。

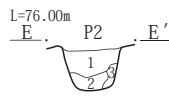
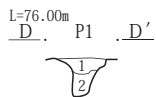
規模 現状での面積は15.9㎡。東西5.22m、南北3.72m、壁高はほとんど確認できなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 確認できなかった。1～4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さは5～20cmを測る。ピット4基、土坑1基が検出された。P1は長径39.5cm・短径39cm・深さ30.5cm、P2は長径44.5cm・短径44cm・深さ35cm、P3は長径34.5cm・短径30.5cm・深さ18cm、P4は長径57cm・短径46.5cm・深さ29cmを測る。土坑1は長径113.5cm・短径86cm・深さ21cmを測る。



- P1
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を多く、ロームブロックを少量含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含み、ロームブロックを多く含む。
- P2
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を少量含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを含む。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

167号住居(第370・372図、P L.116・209、第141表)

位置 15T・16A-18・19グリッド。

重複 168号住居、2号溝より前出で、48号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 隅丸方形を呈する。

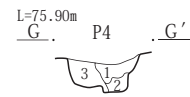
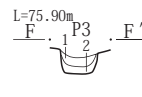
主軸方位 N-18°-W

規模 現状での面積は27㎡。長辺(北西～南東)6m、短辺(北東～南西)5.45m、残存壁高は11～15cmを測る。

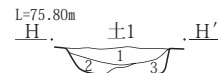
床面 やや凹凸で、硬化面はあまり認められなかった。

炉・貯蔵穴 確認できなかった。

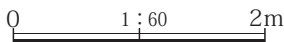
柱穴 主柱穴となるピット5基が検出されている。P1は長径51cm・短径45.5cm・深さ63cm、P3は長径48cm・短径26cm・深さ40cm、P4は長径49cm・短径42.5cm・深さ45cm、P6は長径69.5cm・短径54cm・深さ55cm、P7は長径57cm・短径56cm・深さ72cmを測る。いずれも深い。P3とP4については柱痕が残るP3が新しいものと思



- P3
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を多く、ロームブロックを少量含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含み、ロームブロックを多く含む。
- P4
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、炭化物粒子を少量含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。



- 住居内土坑1
- 1 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。白色軽石を多く、ローム粒子、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、白色軽石を多く、ローム粒子、焼土粒子を含む。
 - 3 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームと暗褐色土の混土。

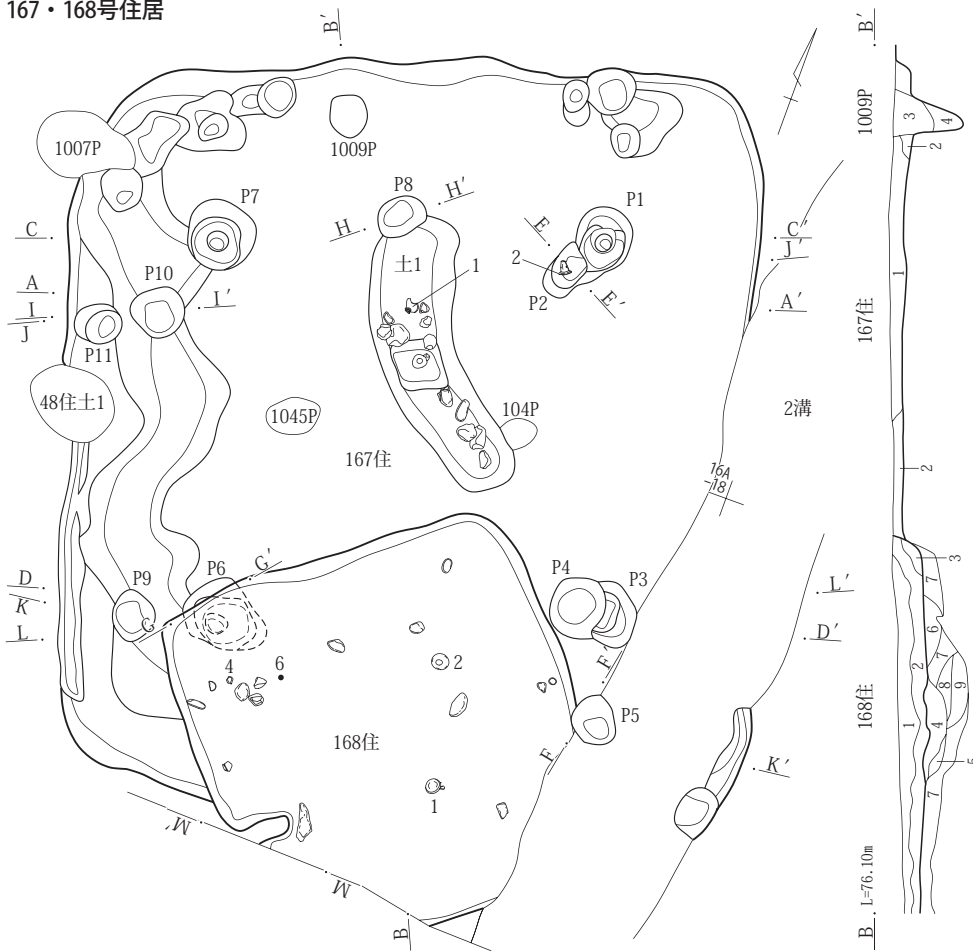


第369図 3区164号住居内ピット・土坑断面図

第139表 3区164号住居出土遺物

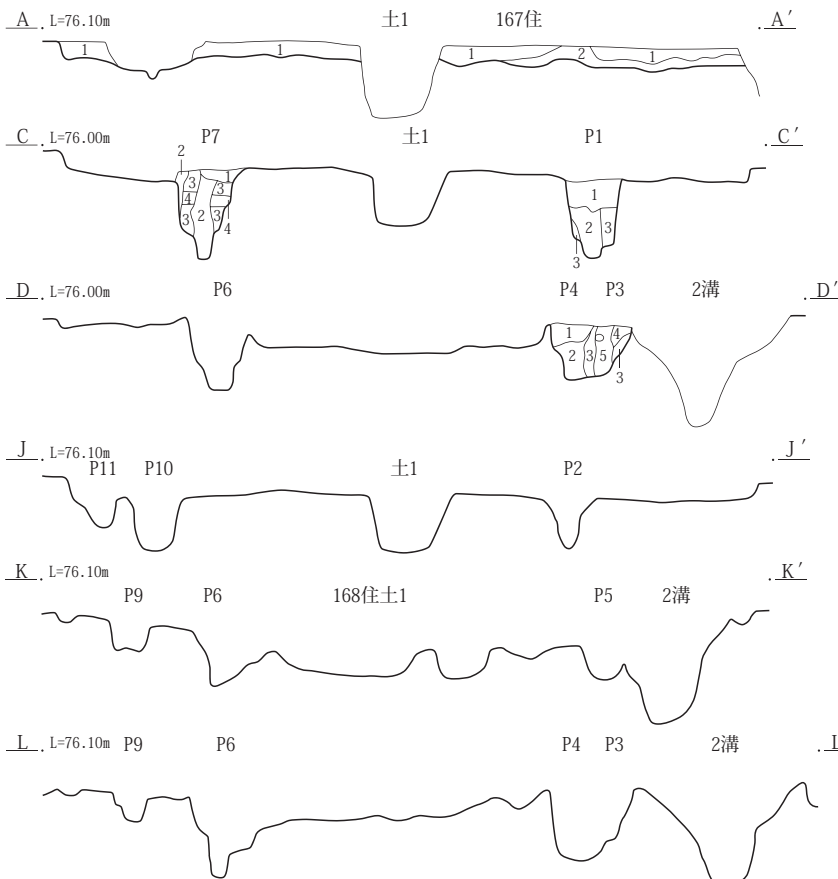
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|-------------|-----|------|--------------------|----------|--|
| 第368図 | 1 | 土師器 杯 | 口縁～底部片 | 口 | 12.9 | | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。 内外面やや磨滅。外面底部炭素吸着・黒斑状。 |

167・168号住居



167・168号住居

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。炭化物粒子、焼土粒子を少量、軽石、ローム粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を微量、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。炭化物粒子、焼土粒子を少量、軽石を含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを少量、ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を微量含む。
- 9 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子を多く含む。



167号住居 P 1

- 1 黒褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 しまり弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロックを含む。

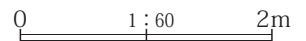
167号住居 P 7

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土 2層よりローム粒子を多く含む。
- 4 黒褐色土 しまり弱い。ローム粒子を少量含む。

167号住居 P 3・4

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。炭化物粒子、ローム粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子、炭化物粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロック、焼土粒子を多量に含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多量に、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 4層よりローム粒子が少ない。

第370図 3区167・168号住居



第3章 発掘調査の記録

L=76.00m
E. P2 E'



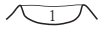
- 167号住居 P 2
1 暗褐色土
2 暗褐色土 ローム粒子を含む。

L=75.90m
F. P5 F'



- 167号住居 P 5
1 暗褐色土 ローム粒子を含む。

L=76.00m
G. P6 G'



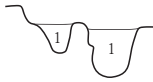
- 167号住居 P 6
1 暗褐色土 ローム粒子を含む。

L=76.00m
H. P8 H'



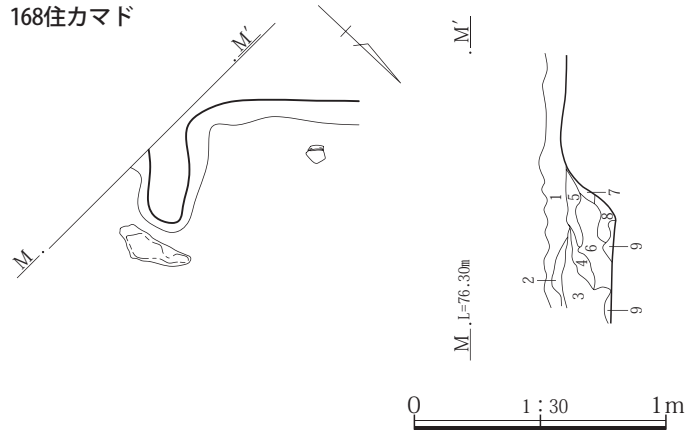
- 167号住居 P 8
1 暗褐色土 焼土粒子を含む。
2 暗褐色土 ローム粒子を含む。
3 暗褐色土 ローム粒子、粘土ブロックを含む。

L=76.10m
I. P11 P10 I'



- 167号住居 P 10
1 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を微量含む。
167号住居 P 11
1 暗褐色土 ローム粒子を含む。

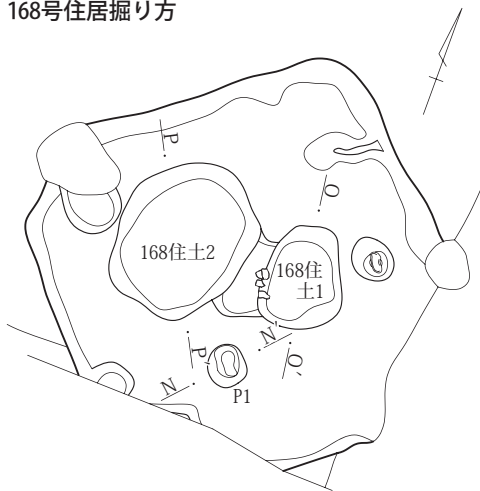
168住カマド



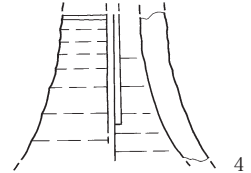
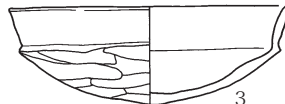
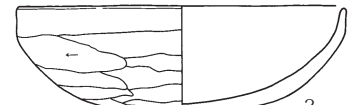
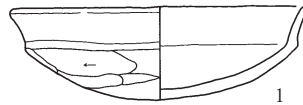
168号住居カマド

- 1 暗褐色土 しまり強い。軽石を少量、焼土粒子を微量含む。
2 暗褐色土 1層に炭化物粒子を含む。
3 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を少量含む。
4 暗褐色土 しまりやや強い。粘土粒子を含む。
5 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子、焼土粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。
6 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
7 褐色土 焼土ブロックを多く、ロームブロックを含む。
8 黒褐色土 しまりやや弱い。炭化物粒子を多く含む。
9 ロームブロック

168号住居掘り方



16A
16

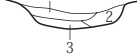


L=75.80m
N. P1 N'

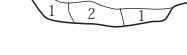


- 168号住居 P 1
1 暗褐色土 ローム粒子を含む。

O. L=75.70m 土1 O'



P. L=75.70m 土2 P'

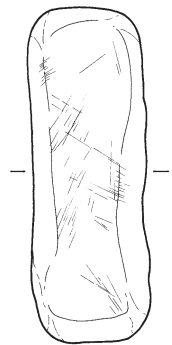
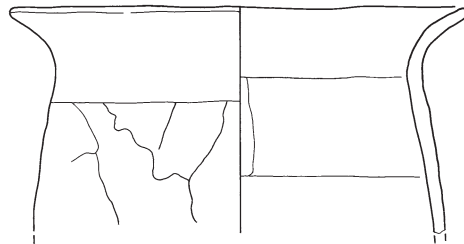


168号住居内土坑 1

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
2 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。
3 暗褐色土 しまり強い。粘土ブロックを多く含む。

168号住居内土坑 2

- 1 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子を多量、ロームブロックを含む。
2 暗褐色土 しまり強い。ローム粒子、焼土粒子を含む。



0 1:1 2cm

0 1:3 10cm

0 1:60 2m

第371図 3区168号住居カマド・掘り方と出土遺物

われる。P1-P3間の距離3m、P3-P6間距離3.1m、P6-P7間距離3.05m、P7-P1間距離は3.1mを測る。このほか6基のピットが検出された。P2は長径39cm・短径29.5cm・深さ45cm、P5は長径39cm・短径33.5cm、深さ30cm、P8は長径39cm・短径29.5cm・深さ41cm、P9は長径41.5cm・短径34cm、P10は長径43.5cm・短径40.5cm・深さ45cm、P11は長径38cm・短径

31.5cm・深さ25cmを測る。

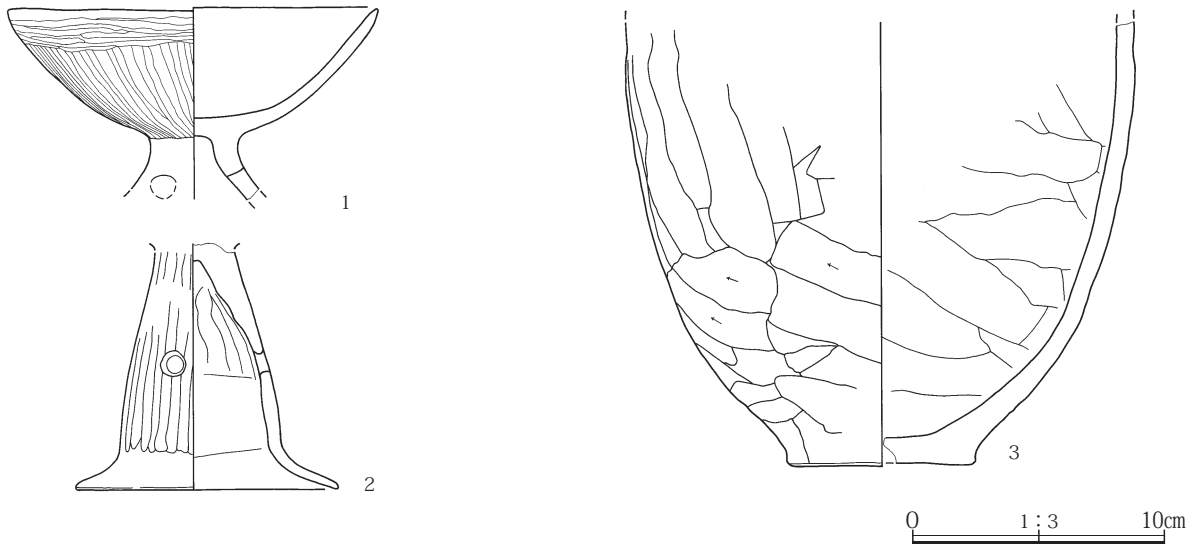
周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層が住居埋没土になる。

掘り方 確認できなかった。

出土遺物 床面全体から散漫に土器片が出土している。

時期 出土遺物から5世紀代かと思われる。



第372図 3区167号住居出土遺物

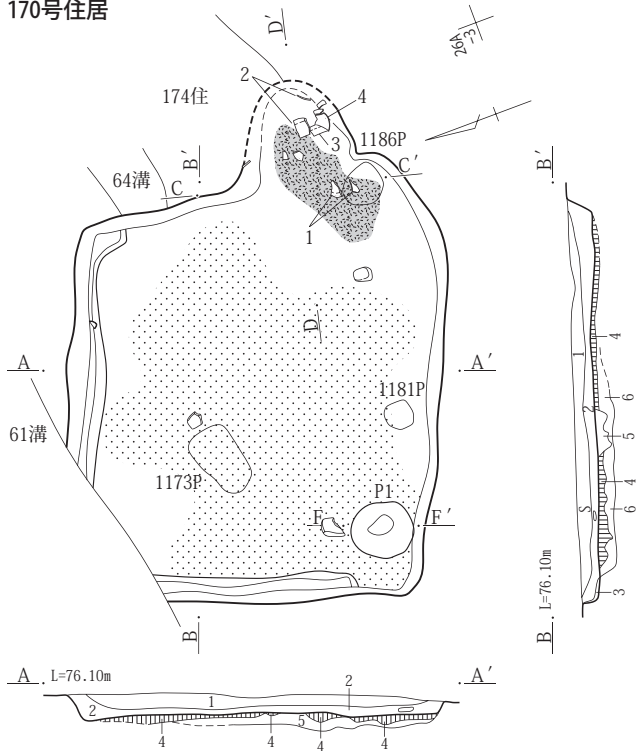
第140表 3区167号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|---------------------|-----|------|--|---------------------|--|---------|
| 第372図 | 1 | 土師器 高杯 | 内土坑1 杯部 ~脚部上位1/2 | 口 | 14.4 | | 精選/良好/橙 | 杯部口唇部寄りに横位の、以下は縦位のヘラ磨き。脚部は丁寧なナデ。内面杯部はナデ。脚部に円形透孔を3単位配する。 | |
| 第372図 PL.209 | 2 | 土師器 高杯 | P2内 脚部片 | 底 | 9.2 | | 精選・黒色鈹物粒/ 良好/明赤褐 | 上半部は柱状を呈し、屈曲後外反、短い裾部をつくる。中位に3単位、小円形の透孔を配す。外面は縦位に磨きに近いナデ。裾部も同様と考えられるが磨滅。内面裾部は横ナデ。これより上位は2回に分けてナデ。 | |
| 第372図 | 3 | 土師器 甕 | 底部~胴部中位 1/3 | 底 | 7.2 | | 粗砂粒/良好/灰黄 褐 | 胴部中位は縦位の、下位は斜位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面胴部は斜横位にヘラナデ。 | 外面炭素吸着。 |

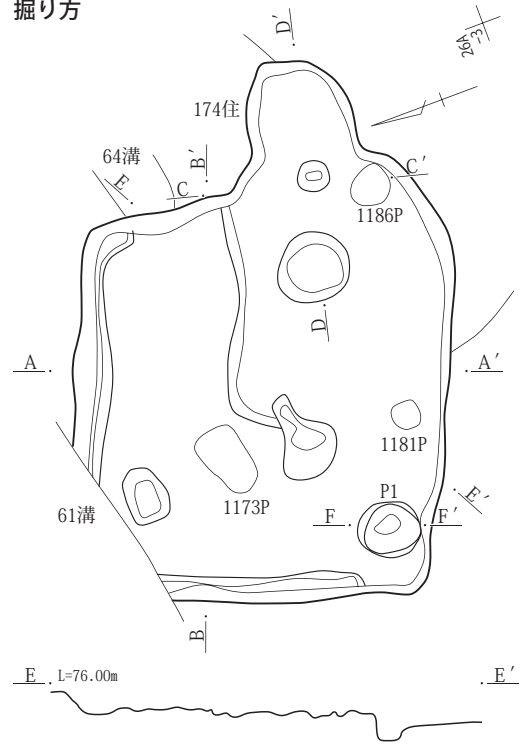
第141表 3区168号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-------------|-------------|-----|------|----------------|-----------------------|--|----------|
| 第371図 PL.209 | 1 | 土師器 杯 | +4 完形 | 口 | 11.6 | 高 3.6 | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第371図 PL.209 | 2 | 土師器 杯 | +20 完形 | 口 | 12.8 | 高 4.2 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第371図 | 3 | 土師器 杯 | +17 1/3 | 口 | 10.8 | 高 3.8 | 精選・雲母/良好/ 橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第371図 | 4 | 須恵器 高杯 | +12 脚部片 | | | | 白色鈹物粒/還元 焰・やや軟質/灰白 | ロクロ整形、回転右回りか。透孔は狭小な長方形を呈していたと考えられる。2単位を配する。 | |
| 第371図 | 5 | 土師器 甕 | 口縁~胴部片 | 口 | 17.6 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位にヘラナデ、ヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | |
| 第371図 PL.209 | 6 | 石製模造品 白玉 | 床直 | 径 | 0.6 | 厚重 0.4 0.21 | 滑石 | 全体的に良く研磨されている。通常は残されている体部の粗い縦位線条痕も見られない。径2mmの孔を片側穿孔。 | |
| 第371図 PL.209 | 7 | 石製品 砥石? | | 長幅 | 13.3 | 厚重 2.8 311 | 珪質頁岩 | 表裏面とも弱い線条痕を伴う研磨面が形成されている。 | 柱状礫 |

170号住居

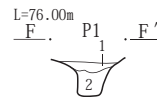


掘り方



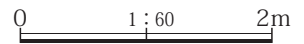
170号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を少量、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、白色軽石を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子、白色軽石を含む。貼床。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多く含む。
- 6 黄褐色土 硬くしまる。ローム主体の層。

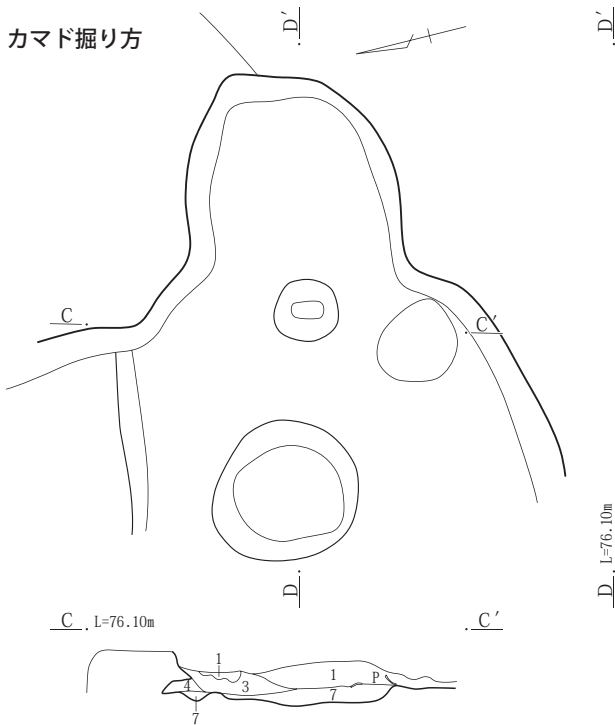


P 1

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含み、白色軽石を含む。

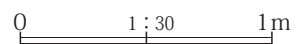


カマド掘り方



カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子を少量含む。
- 2 灰褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土、灰を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 黄白色粘質土 やや硬くしまる。カマド構築材。
- 5 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物、灰を含む。
- 6 焼土 炭化物を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。炭化物をやや多く、焼土粒子、ローム粒子を含む。
- 8 茶褐色土 やや硬い。ロームブロックと暗褐色土の混土。
- 9 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。



第373図 3区170号住居

168号住居(第370・371図、P L .116・117・209、第140表)

位置 15T-18グリッド。

重複 167号住居より後出で、2号溝より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-129°-W

規模 現状での面積は6.8㎡。長辺(北西~南東)3.05m、短辺(北東~南西)3m、残存壁高は20cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 西壁の南寄りに設置されている。燃烧部は床面から壁を掘り込んで構築されているものと思われる。4~9層はカマド埋没土になる。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。カマド前面のP1は長径38cm・短径34.5cm・深さ15cmを測る。167号住居に伴うものであろう。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1~3層が住居埋没土になる。4・5層は土坑の埋没土、6~9層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。土坑2基、ピット1基が検出された。土坑1は長径103.5cm・短径83.5cm・深さ19cm、土坑2は長径127.5cm・短径103.5cm・深さ22cmである。掘り方の深さは約10~30cmを測る。

出土遺物 埋没土中から土器片が少量出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

170号住居(第373・374図、P L .117・118・209、第142表)

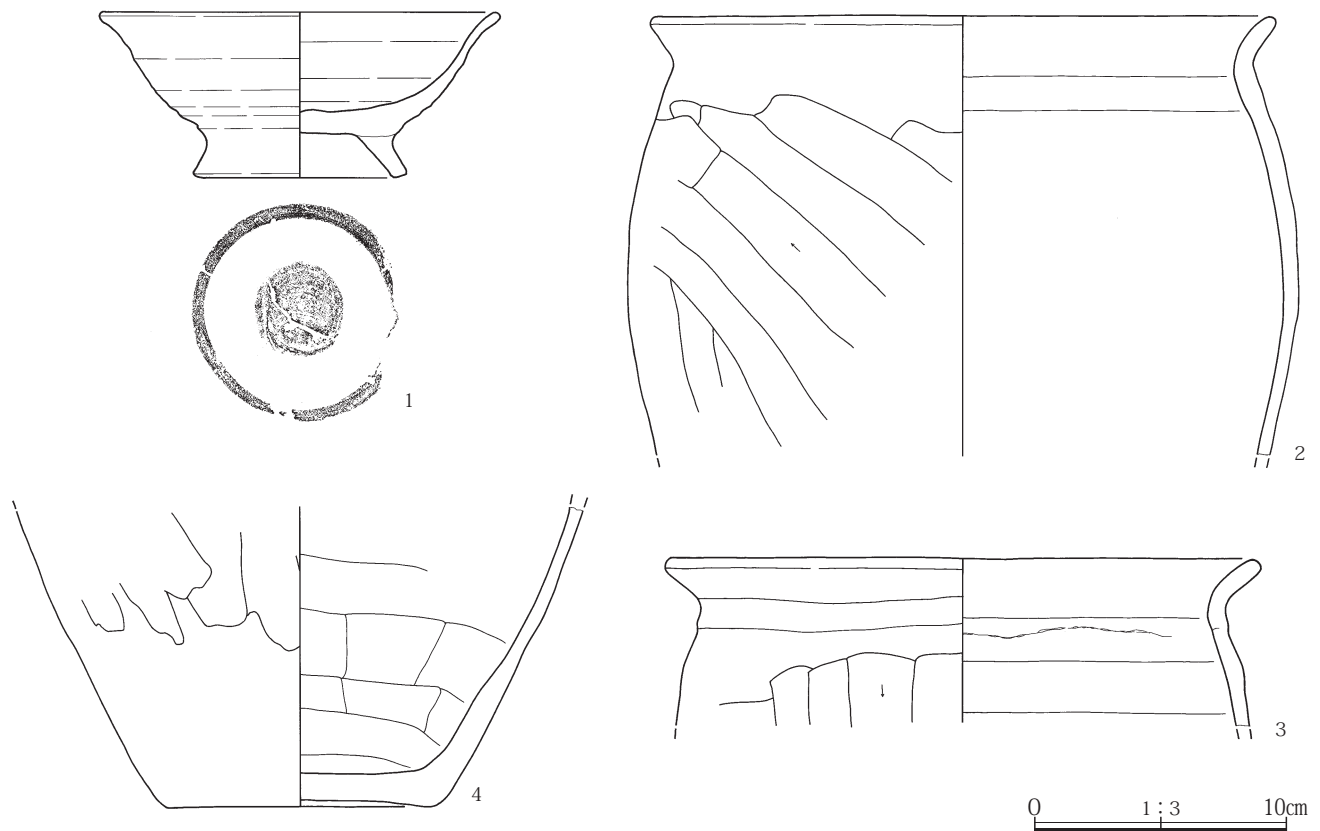
位置 26A-3グリッド。

重複 174・177・185号住居、64号溝より後出で、61号溝より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-96°-E

規模 現状での面積は8.5㎡。長辺(北西~南東)3.48m、短辺(北東~南西)2.98m、壁高は10~20cmを測る。



第374図 3区170号住出土遺物

床面 ほぼ平坦である。貼床である。床面全体に硬化面が認められる。

カマド 東壁の中央から南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ179cm、焚き口部の幅74cmを測る。1～7層はカマド埋没土になり、4層はカマド構築材。6層は焼土である。9層は掘り方になる。

貯蔵穴 床面の南西隅から検出されたP1が貯蔵穴になる可能性がある。長径49cm・短径44cm・深さ26.5cmを測る。埋没土は2層に分かれた。

柱穴 確認できなかった。

周溝 北壁と西壁下から検出された。幅8～15cm、深さ3～7cmを測る。

埋没土 自然埋没土である。1～3層は住居埋没土、4層は貼床、5・6層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げは浅い。深さ5～15cmを測る。

出土遺物 カマド内から須恵器椀(1)、土師器甕・土釜(2～4)が出土している。

時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

171号住居(第375図、P L .118)

位置 25 T ・26 A - 4 グリッド。

重複 153・157号住居より前出。

形状 全容は不明だが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は8.4㎡。北東～南西5.33m、北西～南東2.6m、壁高は10cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 2基検出された。P1は長径47cm・短径38cm・深さ32cm、P2は長径48.5cm・短径44cm・深さ27cmを測る。P1-P2間の距離は2.9mである。

周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3層は貼床、4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げは浅い。深さ5cmを測る。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 非掲載とした出土遺物から概ね古墳時代に比定される。

172号住居(第376図、P L .118、第143表)

位置 26 B - 4 グリッド。

重複 153号住居より前出。

形状 全容は不明だが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 北西～南東2.15m、北東～南西0.95m、壁高は18cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。4・5層は住居埋没土になる。8～10層は153号住居の埋没土である。

掘り方 確認できなかった。

出土遺物 ほとんど出土していない。

時期 出土遺物から6～7世紀に比定される。

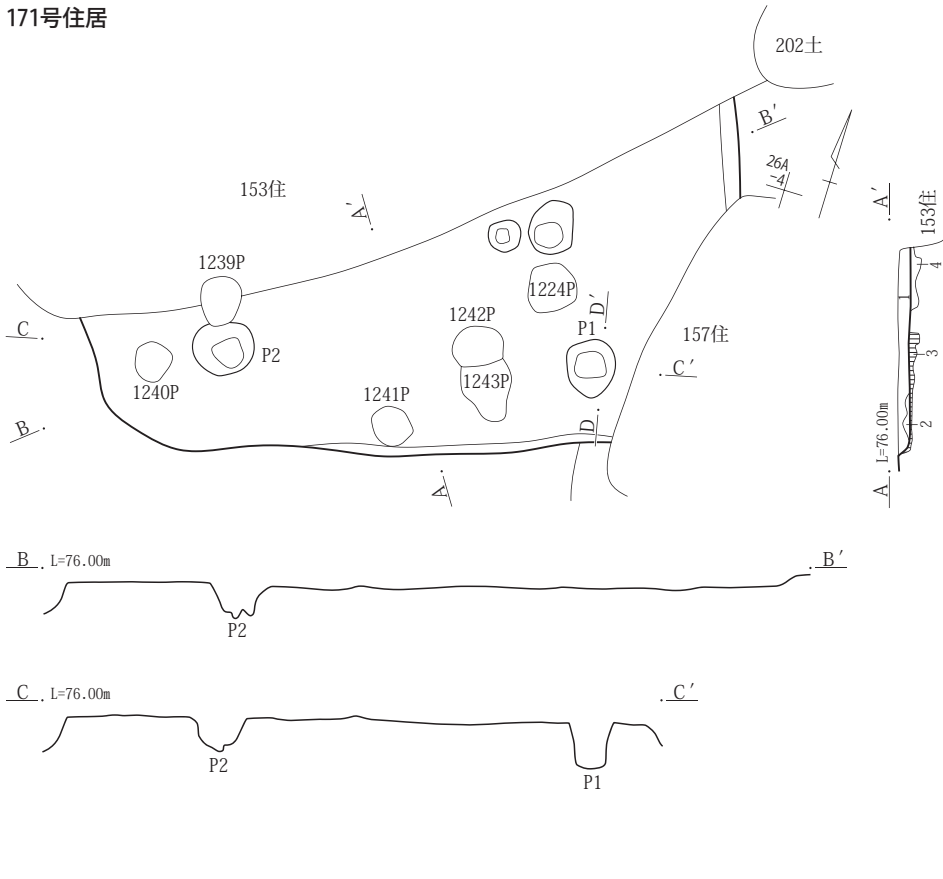
第142表 3区170号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|----------------|-----|-------------|----|--------------------|----------------------|--|------------------------------|
| | | | | 口底 | 高さ | 口径 | | | | |
| 第374図 PL.209 | 1 | 須恵器 椀 | カマド 2/3 | 口底 | 15.4 7.4 | 高台 | 6.5 7.4 | 粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部切り離し後の付け高台。 | 炭素吸着。外面体部に底部切り離し時の糸が当たった跡あり。 |
| 第374図 | 2 | 土師器 土釜 | カマド 口縁～胴部片 | 口 | 24.0 | | | 粗砂粒多/良好/赤 褐 | 口縁部は横ナデ、胴部外面に斜位のヘラ削り。内面は横位のナデと考えられる。 | 外面の一部に煤付着。内面磨滅。4と同一個体か。 |
| 第374図 | 3 | 土師器 甕 | カマド 口縁～胴部上位 | 口 | 22.8 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部から胴部最上位は横ナデ、以下は縦位のヘラ削り。胴部内面は横位のナデ。頸部に輪積み痕を残す。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第374図 | 4 | 土師器 土釜 | カマド 底部片～胴部 | 底 | 10.2 | | | 粗砂粒多・黒色鉄 物粒/良好/赤褐 | 胴部中位はヘラ削り、下位はヘラナデ、底部もナデ。胴部内面は横位のナデ。 | 2と同一個体か。 |

第143表 3区172号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|--------------|-----|----------|-------------|-----|------|----|--------------------|------------------|---------------------------------|------------|
| | | | | 口 | 高さ | 口径 | | | | |
| 第376図 | 1 | 土師器 杯 | +5 3/4 | 口 | 12.8 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は丁寧撫でを施すか、内面はナデ。単位明瞭。 | 内外面とも炭素吸着。 |

171号住居

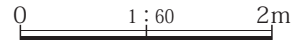


171号住居

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。
- 3 褐色土 しまり強い。粘性あり。ローム主体。貼床。
- 4 暗褐色土 しまりあり。粘性なし。ロームブロックを多量に含む。

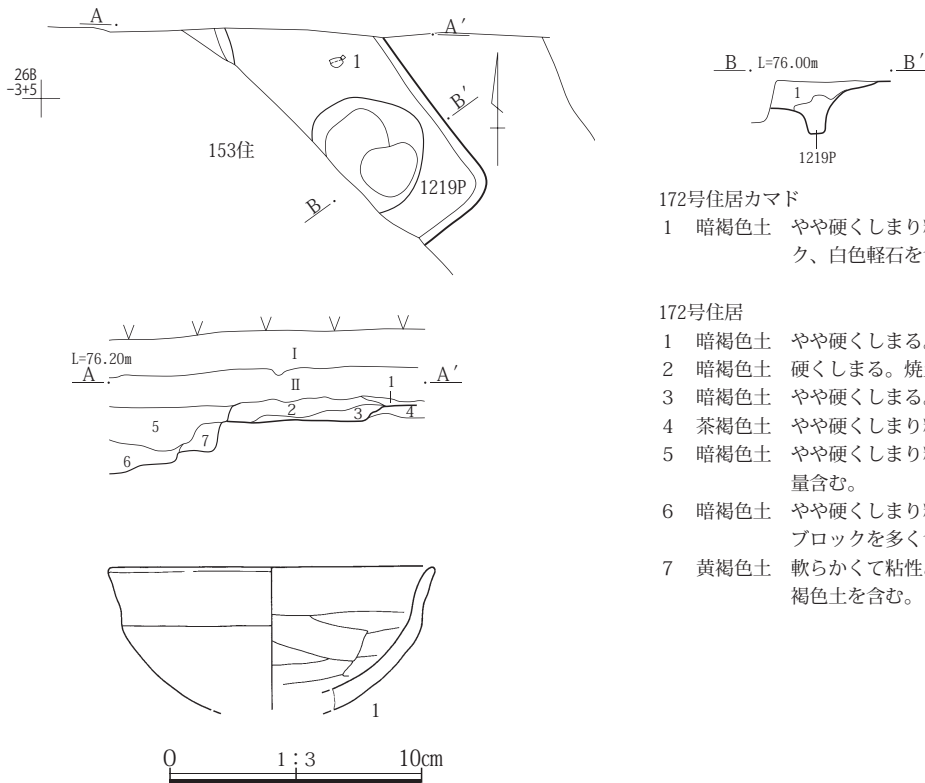
P1

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 3 黄白色粘質土 軟らかい。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームをやや多く含む。
- 5 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。



第375図 3区171号住居

172号住居

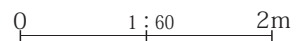


172号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、ロームブロック、白色軽石を含む。

172号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。酸化鉄分を含む。
- 2 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ロームブロックを含む。
- 4 茶褐色土 やや硬くしまり粘性あり。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ロームブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを多く含む。
- 7 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを主体に、暗褐色土を含む。



第376図 3区172号住居と出土遺物

173号住居(第377～379図、P L.118・119・209、第144表)

位置 26B-3・4グリッド。

重複 174号住居より前出。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-14°-W

規模 現状での面積は6㎡。北西～南東4.57m、北東～南西2.2m、壁高は30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド 西壁の中央からやや南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ154cm、焚き口部の幅40cm、袖を含めた幅は90cmを測る。1～8層はカマド埋没土、3層は天井の崩落土、4層は焼土、5層は灰層になる。9～13層は掘り方になる。

貯蔵穴 床面の北西から検出された。長径50.5cm・短径44cm・深さ13cmの楕円形を呈する。埋没土は1層である。

柱穴 確認できなかった。

周溝 西壁、南壁の下から検出された。幅13cm、深さ3～14cmを測る。

埋没土 自然埋没土である。

掘り方 全体的に掘り下げられている。ピット1基検出された。P1は長径66cm・短径56.5cm・深さ43cmを測る。場合によってはP1が貯蔵穴になる可能性もある。

出土遺物 カマド周辺、土坑から土師器杯・甕(第378図1～3)が出土している。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

174号住居(第377・379～383図、P L.118・119・210、第145・146表)

位置 26A・B-2・33グリッド。

重複 173・177号住居、61・64号溝より後出で、170号住居より前出。

形状 方形を呈する。

主軸方位 N-28°-W

規模 現状での面積は39.4㎡。長辺(北西～南東)7.82m・短辺(北東～南西)6.82m、壁高は25～30cmを測る。

床面 平坦である。貼床である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・炉 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 主柱穴4基が検出された。P1は長径63cm・短径50cm・深さ63cm、P2は長径67cm・短径44cm・深さ47cm、P3は長径35cm・短径30cm・深さ33cm、P17は長径47cm・短径46cm・深さ39cmを測る。P1-P2間の距離3.1m、P2-P3間距離3.2m、P3-P17間距離3.3m、P17-P1間の距離は3.55mである。

周溝 東壁、南壁、西壁の下から検出された。本来は全周していたものと思われる。幅10～25cm、深さ3～11cmを測る。

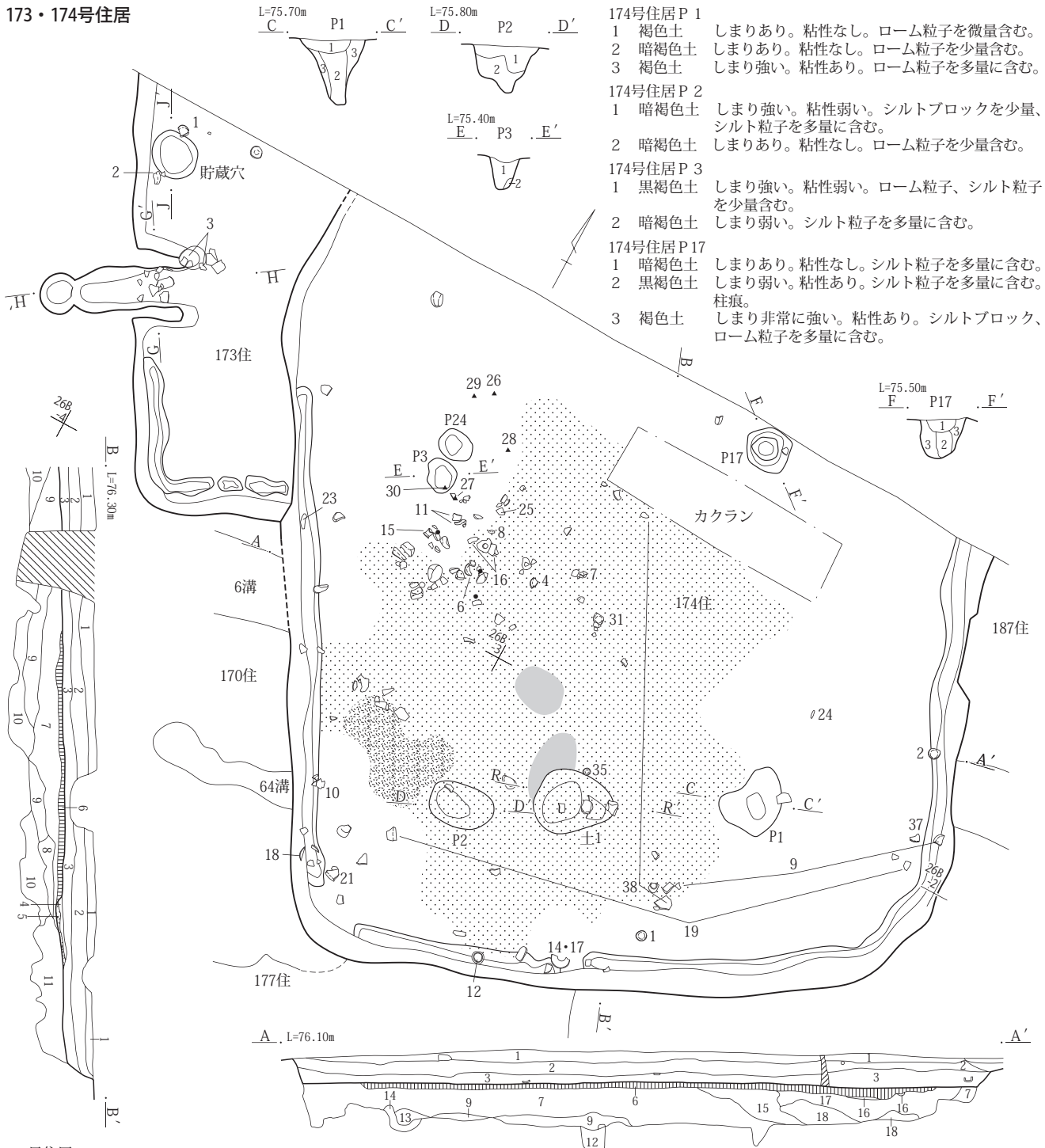
埋没土 自然埋没土である。1～3層は住居埋没土、5層は炭化物層、6層は貼床になる。7～18層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられていて凹凸が激しい。深さは12～40cmを測る。ピットと土坑が検出された。P4は長径38cm・短径35cm・深さ37cm、P5は長径46cm・短径43cm・深さ41cm、P7は長径37cm・短径37cm・深さ22cm、P8は長径39cm・短径35cm・深さ24cm、P10は長径26cm・短径25cm・深さ36cm、P11は長径31cm・短径28cm・深さ25cm、P12は長径45cm・短径40cm・深さ11cm、P13は長径63cm・短径40cm・深さ21cm、P14は長径39cm・短径28cm・深さ16cm、P15は長径62cm・短径38cm・深さ47cm、P16は長径36cm・短径32cm・深さ19cm、P18は長径41cm・短径38cm・深さ16cm、P20は長径31cm・短径31cm・深さ17cm、P21は長径57cm・短径46cm・深さ25cm、P22は長径55cm・短径37cm・深さ

第144表 3区173号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|----------|---------------------|-----|------|---|--------------------|---------------------|---|----------------------------|
| 第378図 PL.209 | 1 | 土師器 杯 | 床直 口縁一部欠 | □ | 11.9 | 高 | 4.1 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデと考 えられる。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第378図 | 2 | 土師器 杯 | +4 1/4 | □ | 16.8 | | | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第378図 PL.209 | 3 | 土師器 甕 | カマド 口縁部 ～胴部下位3/4 | □ | 21.1 | | | 粗砂粒・細砂粒/良 好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。中位に輪積み痕。胴部最上位に横位、以 下斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 内面やや磨滅。 外面胴部中位 に煤付着。 |

173・174号住居



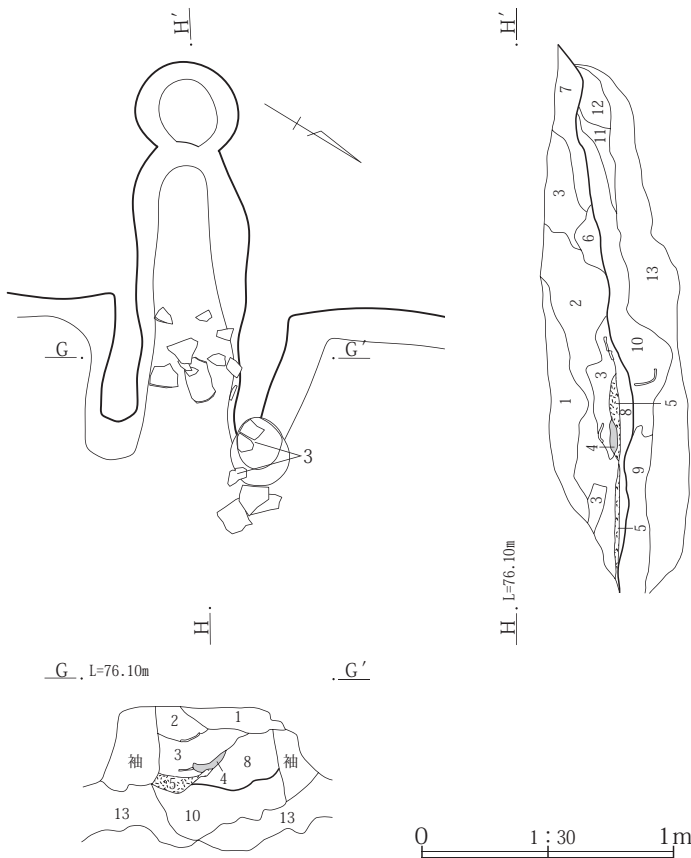
- 174号住居P 1
 1 褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
 2 暗褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
 3 褐色土 しまり強い。粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 174号住居P 2
 1 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。シルトブロックを少量、シルト粒子を多量に含む。
 2 暗褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
- 174号住居P 3
 1 黒褐色土 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子、シルト粒子を少量含む。
 2 暗褐色土 しまり弱い。シルト粒子を多量に含む。
- 174号住居P 17
 1 暗褐色土 しまりあり。粘性なし。シルト粒子を多量に含む。
 2 黒褐色土 しまり弱い。粘性あり。シルト粒子を多量に含む。柱痕。
 3 褐色土 しまり非常に強い。粘性あり。シルトブロック、ローム粒子を多量に含む。

174号住居

- | | | | |
|--------|--|---------|--|
| 1 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を少量、白色軽石を含む。 | 9 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。 |
| 2 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物、ローム粒子、白色軽石を少量含む。 | 10 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。 |
| 3 暗褐色土 | 硬くしまる。焼土粒子、ロームブロックを含む。 | 11 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物を少量、黄白色粘質土ブロックを含む。 |
| 4 暗褐色土 | 軟らかくしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物を少量含む。 | 12 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。 |
| 5 炭化物 | | 13 灰褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。 |
| 6 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。貼床。 | 14 黄白色土 | やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土と暗褐色土の混土。 |
| 7 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。 | 15 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロックを多量に、炭化物、黄白色粘質土ブロックを含む。 |
| 8 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子を少量、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。 | 16 赤褐色土 | やや硬くしまる。焼土を主体に暗褐色土を含む。 |
| | | 17 暗褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。 |
| | | 18 灰褐色土 | やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物を少量含む。 |

第377図 3区173・174号住居

173号住居カマド

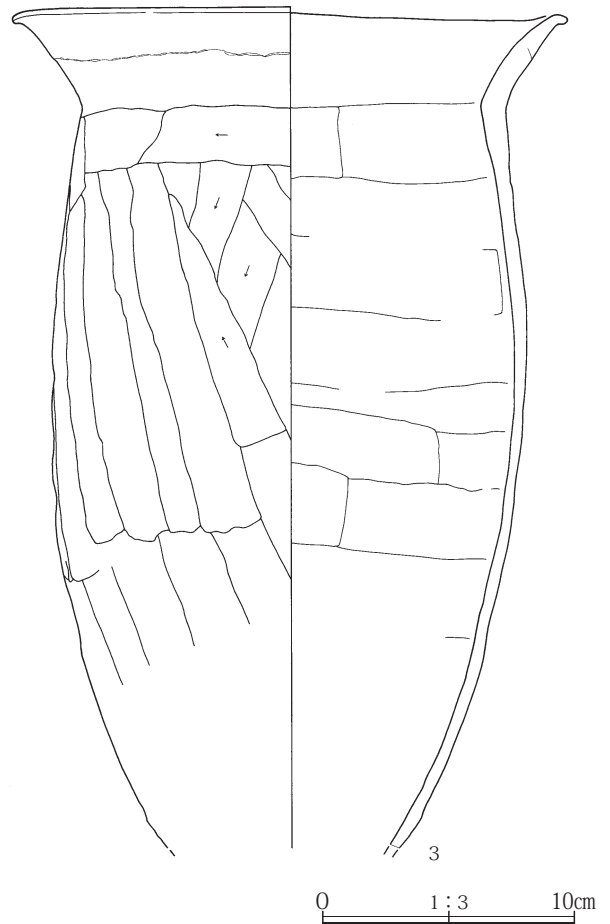
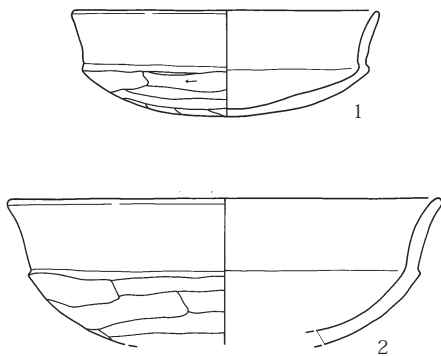


173号住居カマド

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黄白色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、暗褐色土を含む。
- 3 黄白色土 軟らかい。カマド構築材。
- 4 焼土
- 5 灰
- 6 赤褐色土 軟らかい。焼土主体で、暗褐色土を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土ブロック、灰を含む。
- 8 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、灰、黄白色粘質土ブロックを多量に含む。
- 9 暗褐色土 軟らかく粘性あり。黄白色粘質土ブロック、ロームブロックを含む。
- 10 褐色土 軟らかく粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 11 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。灰を主体に、焼土粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 12 褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックをやや多く、灰を含む。
- 13 黄褐色土 軟らかく粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを主体に暗褐色土を含む。住居掘り方充填土。

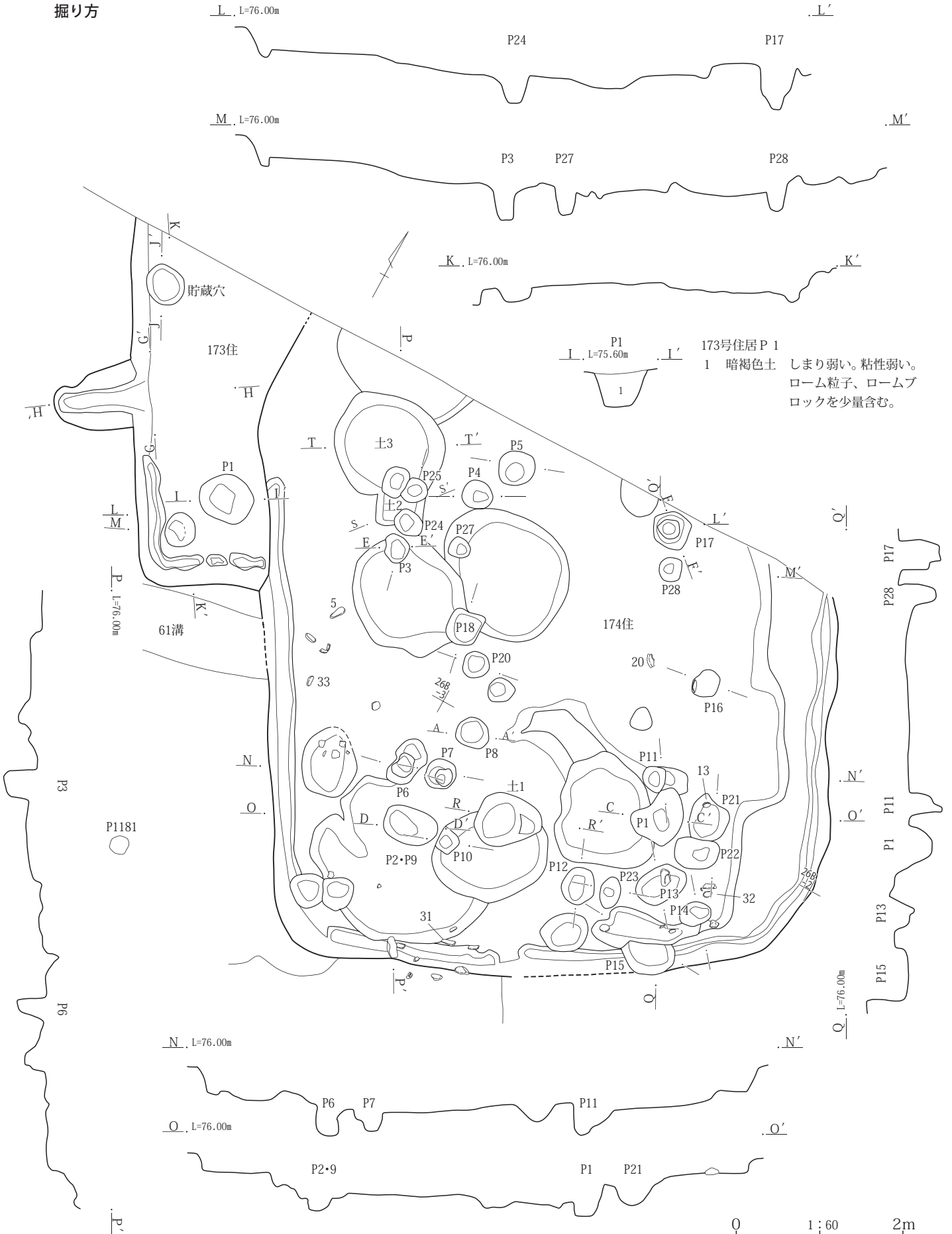
貯蔵穴
J, L=75.70m

173号住居貯蔵穴
1 暗褐色土 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子、ロームブロックを少量含む。



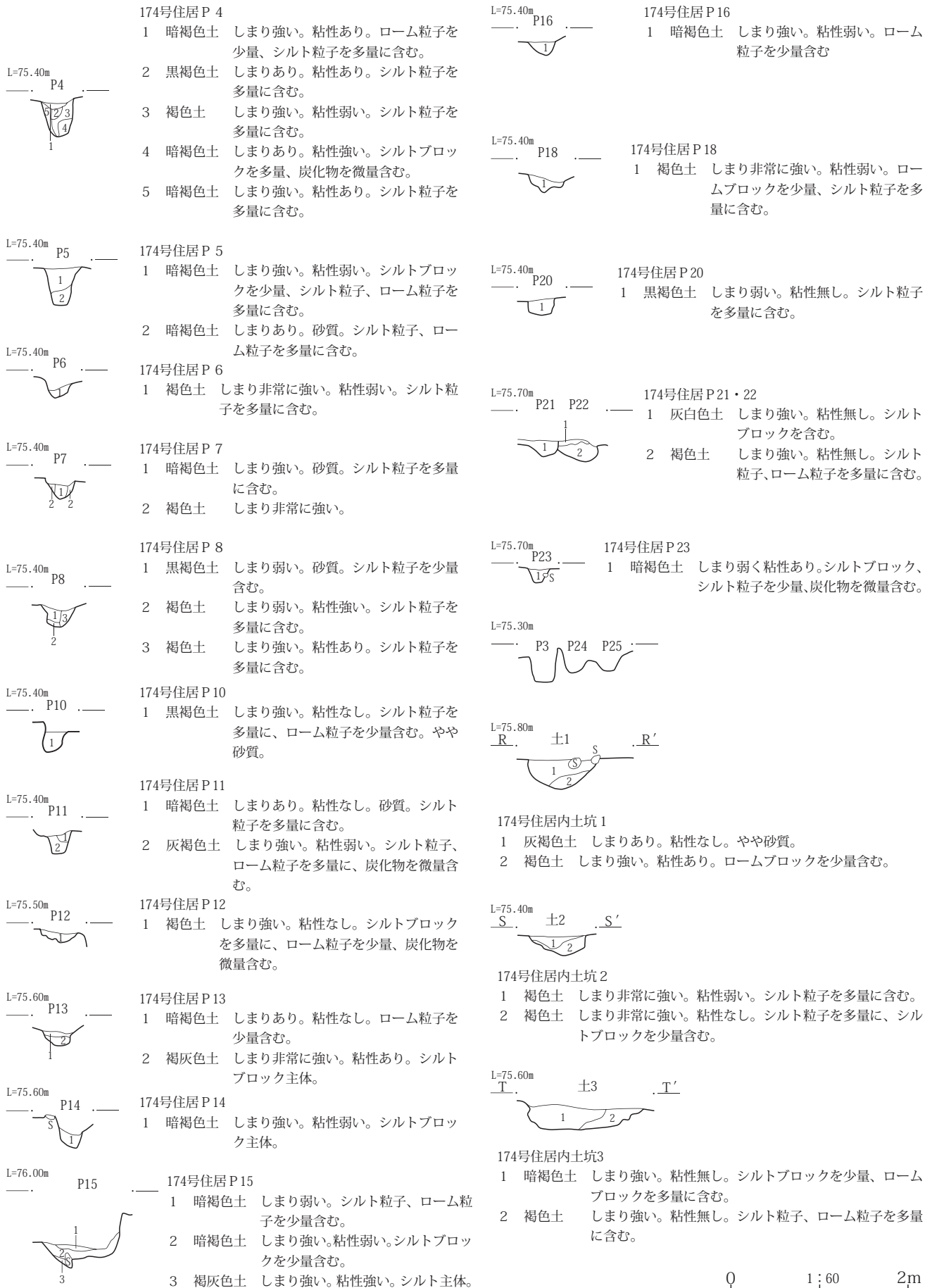
第378図 3区173号住居カマド他と出土遺物

掘り方

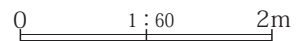


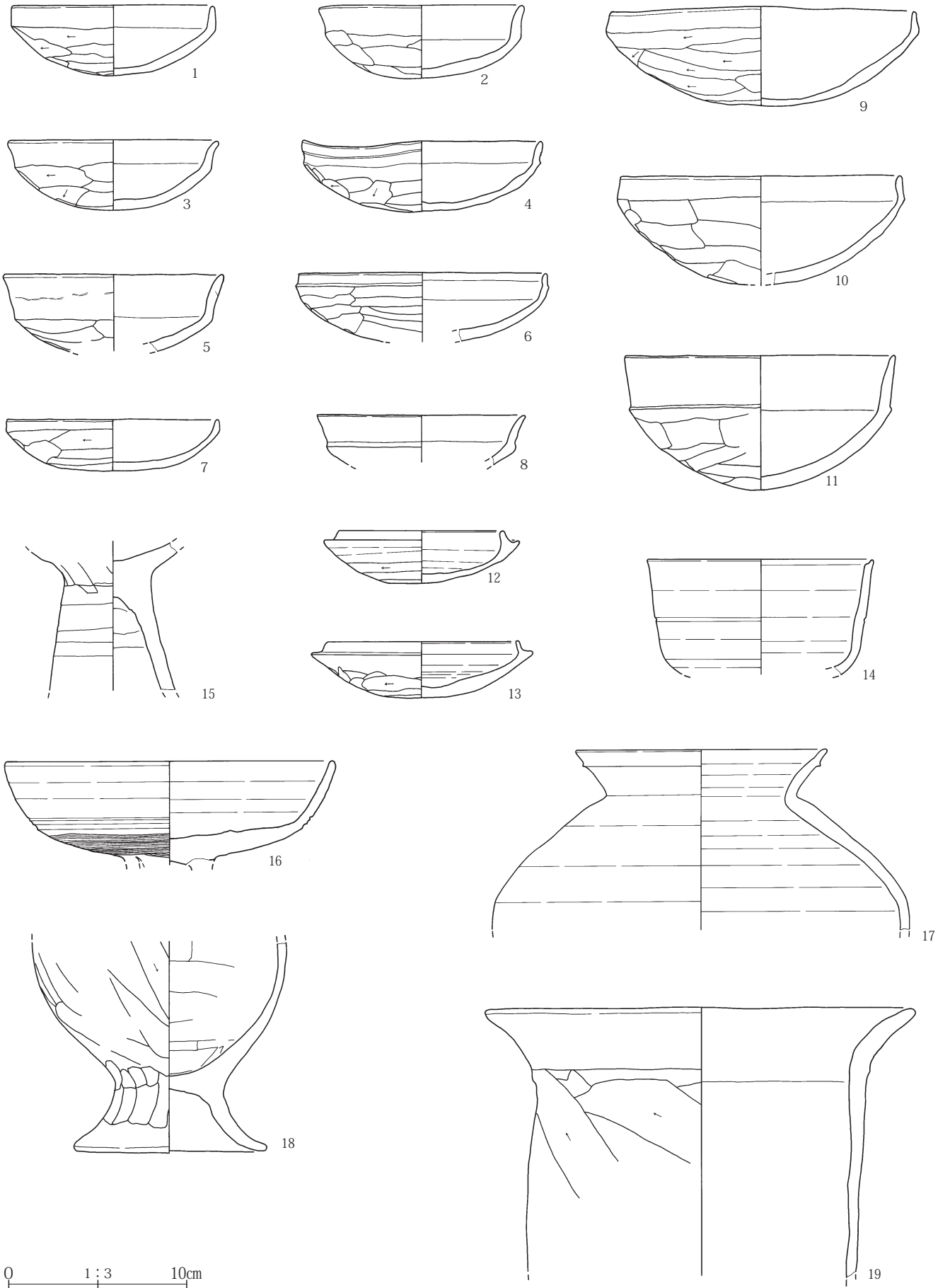
第379図 3区173・174号住居掘り方

第3章 発掘調査の記録

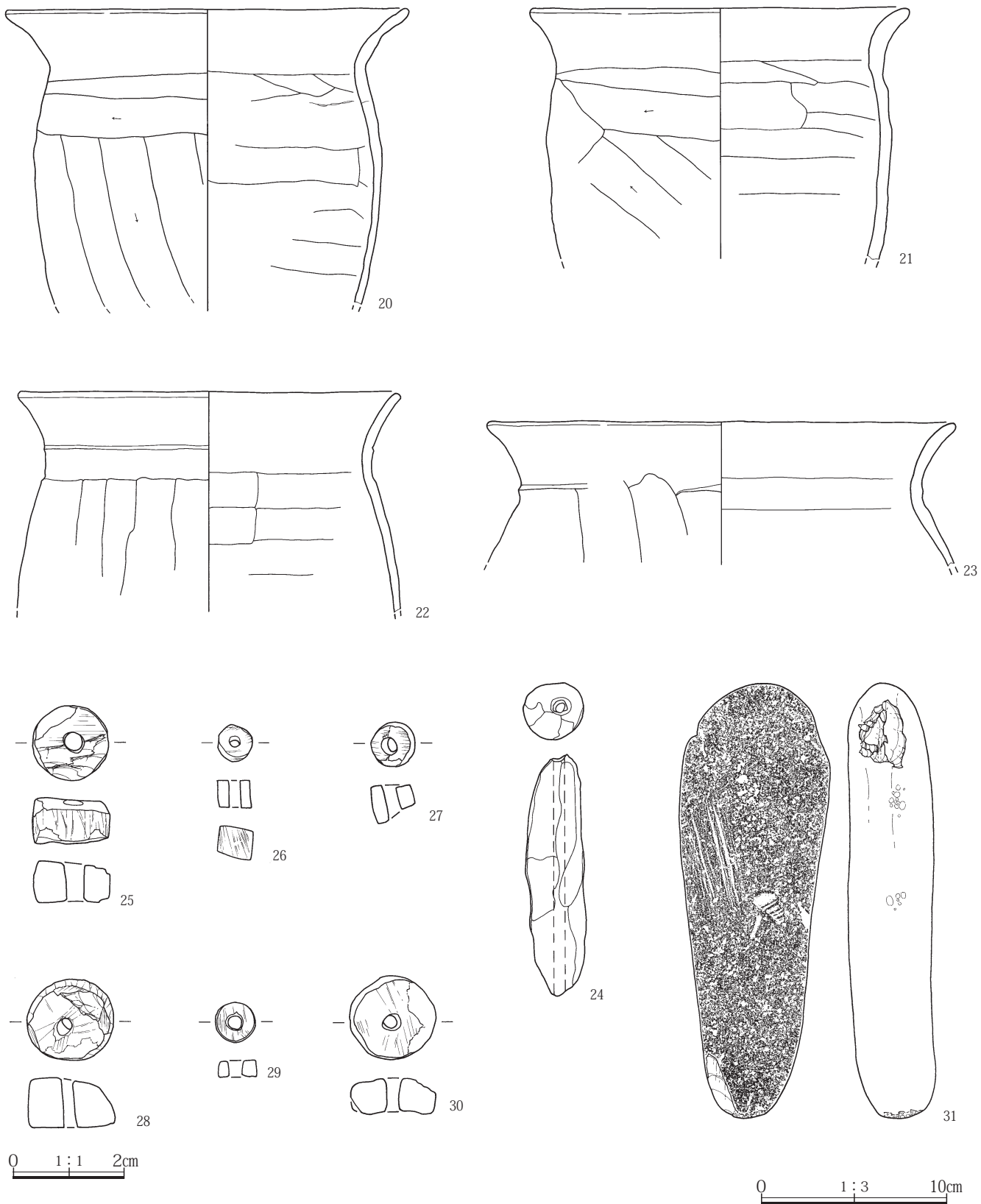


第380図 3区174号住居内土坑・ピット断面図





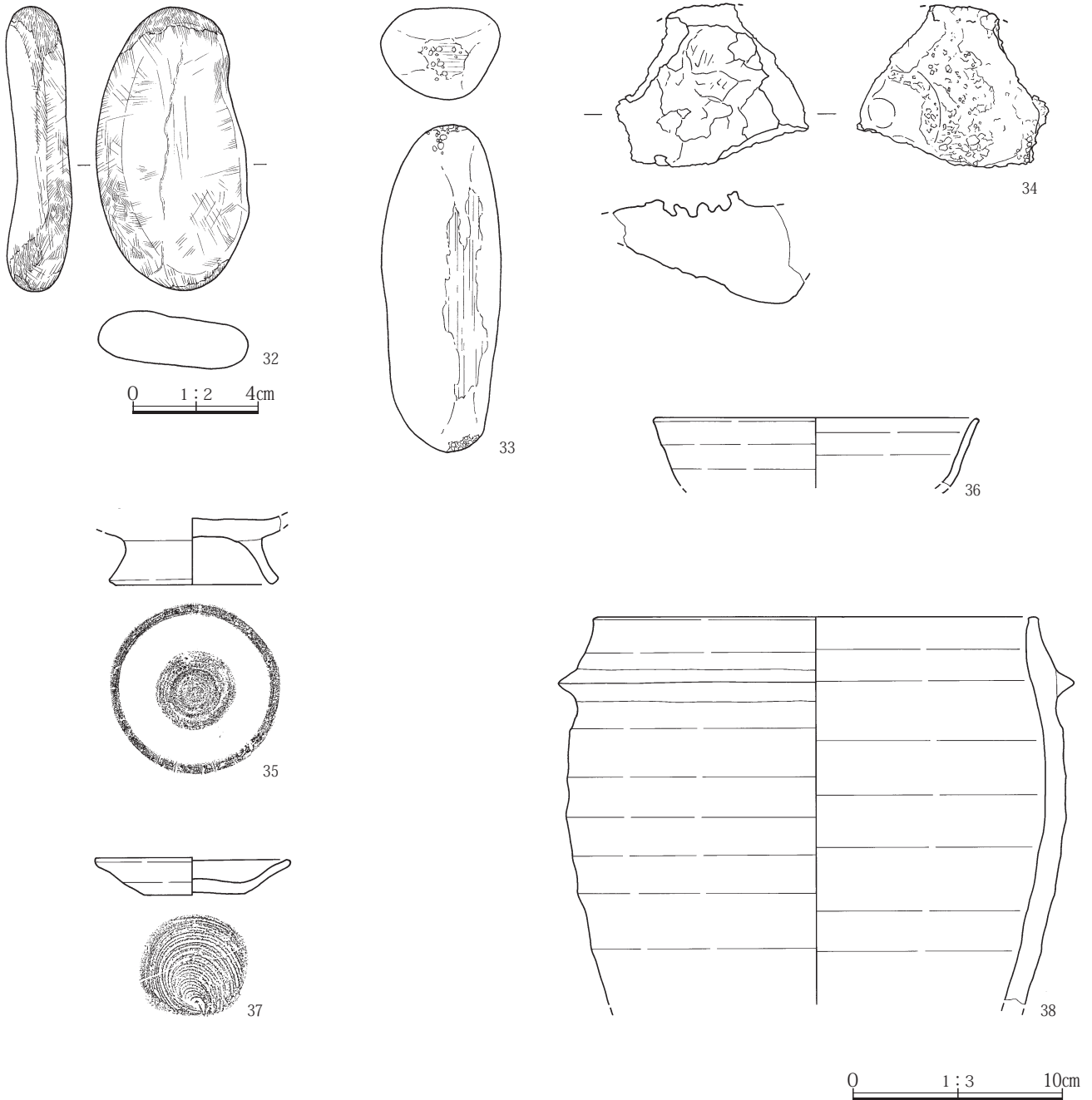
第381図 3区174号住居出土遺物(1)



第382図 3区174号住居出土遺物(2)

18cm、P23は長径39cm・短径24cm・深さ15cm、P24は長径35cm・短径28cm・深さ25cm、P25は長径30cm・短径27cm・深さ25cm、P28は長径29cm・短径27cm・深さ21cmを測る。土坑1は長径80cm・短径65cm・深さ30cm、土坑2は長径58cm・短径40cm・深さ10cm、土坑3は長径133cm・短径126cm・深さ28cmを測る。

出土遺物 中央北西寄りでややまとまって土器が出土する。第383図35～38は時期が異なり、重複する170号住居からの混入とも思えるが、位置的に無理がある。別の遺構との重複も想定されるが、範囲・規模は確認できない。
時期 出土遺物から7世紀前半～中頃に比定される。混入する遺物は10世紀後半である。



第383図 3区174号住居出土遺物(3)

第3章 発掘調査の記録

第145表 3区174号住居出土遺物(1)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|--------------|---------------------|-----|-------------|----|--------------------|----------------------|--|---------------|
| 第381図 PL.210 | 1 | 土師器 杯 | 掘り方 完形 | □ | 11.0 | 高 | 3.9 | 精選・粗砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。 | 外面磨滅。 |
| 第381図 | 2 | 土師器 杯 | +5 口縁一部欠 | □ | 11.1 | 高 | 4.1 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第381図 | 3 | 土師器 杯 | +22 3/4 | □ | 11.6 | 高 | 3.9 | 粗砂粒・細砂粒/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。 | |
| 第381図 | 4 | 土師器 杯 | +16 1/2 | □ | 13.2 | 高 | 3.8 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部との間に沈線状の弱い稜。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面やや磨滅。 |
| 第381図 | 5 | 土師器 杯 | 掘り方 1/3 | □ | 12.0 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部中央に炭素吸着。 |
| 第381図 | 6 | 土師器 杯 | +17 1/3 | □ | 13.6 | | | 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第381図 | 7 | 土師器 杯 | +26 1/4 | □ | 11.6 | 高 | 2.8 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第381図 | 8 | 土師器 杯 | +4 1/4 | □ | 11.4 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第381図 | 9 | 土師器 杯 | +3 口縁一部欠 | □ | 16.8 | 高 | 5.5 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第381図 | 10 | 土師器 杯 | +11 1/3 | □ | 15.6 | | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第381図 | 11 | 土師器 杯 | +12 1/4 | □ | 15.0 | 高 | 7.5 | 精選・細砂粒少/良 好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第381図 | 12 | 須恵器 杯身 | 床直 完形 | □ | 9.1 | 高 | 2.9 | 粗砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。 | |
| 第381図 | 13 | 須恵器 杯身 | 掘り方 完形 | □ | 10.6 | 高 | 3.1 | 黒色・白色鋳物粒/ 還元焰/灰 | ロクロ整形、回転左回り。底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第381図 PL.210 | 14 | 須恵器 椀 | +2 1/3 | □ | 12.4 | | | 精選/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転左回りか。中位に凹線が1条がめぐり。器形は大きく歪む。 | |
| 第381図 | 15 | 土師器 高杯 | +15 基部~脚部上片 | | | | | 細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙 | 杯部はヘラ削り。脚部はナデ。内面脚部は接合部分をナデ消す。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第381図 PL.210 | 16 | 須恵器 高杯 | +15 杯部1/2 | □ | 18.2 | | | 黒色鋳物粒/還元 焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。口縁部から体部への移行部に凹線2条がめぐり。これより以下はカキ目が3段施される。 | 脚部の透孔は3単位。 |
| 第381図 PL.210 | 17 | 須恵器 壺 | +2 口縁~胴部1/3 | □ | 13.8 | | | 細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転右回り。 | 外面に自然釉付着。 |
| 第381図 | 18 | 土師器 台付甕 | +7 胴部下半~台部 片 | | | 台 | 10.3 | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 胴部は斜縦位にヘラ削り。基部から脚部上半はヘラ削り。裾部には横ナデ。内面胴部は横位にヘラナデ。脚台部は横ナデ。 | 被熱の為か炭素吸着・変質。 |
| 第381図 | 19 | 土師器 甕 | +19 口縁部~ 胴部上位3/4 | □ | 23.5 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面胴部は丁寧なヘラナデ。 | |
| 第382図 | 20 | 土師器 甕 | 掘り方 口縁部 ~胴部中位1/2 | □ | 21.2 | | | 粗砂粒・白色軽石 粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部最上位は横位、以下は斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 被熱の為変色。 |
| 第382図 | 21 | 土師器 甕 | +28 口縁~胴 部上位片 | □ | 20.0 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位の荒いヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | 被熱変質・変色。 |
| 第382図 | 22 | 土師器 甕 | 口縁~胴部上位 片 | □ | 20.1 | | | 粗砂粒・細砂粒/良 好/橙 | 口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | |
| 第382図 | 23 | 土師器 甕 | +33 口縁~体部片 | □ | 24.6 | | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | |
| 第382図 PL.210 | 24 | 土製品 土錘 | +25 完形 | 長巾 | 8.5 2.1 | 孔重 | 0.4 31.20 | 精選/良好/橙 | ヘラナデを施すが、成形時の押圧痕を残す。小口に面を有さない。 | |
| 第382図 PL.210 | 25 | 石製模造品 白玉 | +20 | 径幅 | 1.4 | 厚重 | 0.8 2.12 | 滑石 | 上面を粗く研磨、体部に粗い縦位線条痕を残す。下面には折断面が残る。径3mmの孔を片側穿孔する。 | |
| 第382図 PL.210 | 26 | 石製模造品 白玉 | 床直 | 径 | 0.7 | 厚重 | 0.5 0.35 | 滑石 | 全体的に良く研磨されている。通常は残されている体部の粗い縦位線条痕も研磨され、残されていない。径2mmの孔を片側穿孔する。 | |
| 第382図 PL.210 | 27 | 石製模造品 白玉 | +18 | 径 | 0.8 | 厚重 | 0.7 0.55 | 滑石 | 上面を粗く研磨、体部に粗い縦位線条痕を残す。下面には折断面が残る。径3mm弱の孔を片側穿孔する。 | 棒状礫 |
| 第382図 PL.210 | 28 | 石製模造品 白玉 | +12 | 径短 | 1.6 1.5 | 厚重 | 0.9 3.13 | 滑石 | 表裏面とも粗く研磨、体部に粗い縦位線条痕を残す。下面には折断面が残る。径2mmの孔を片側穿孔する。 | 棒状扁平礫 |
| 第382図 PL.210 | 29 | 石製模造品 白玉 | 床直 | 径 | 0.7 | 厚重 | 0.6 0.3 | 滑石 | 表裏面とも粗く研磨、体部に縦位線条痕を残す。下面には折断面が残る。径3mmの孔を片側穿孔する。 | 棒状礫 |
| 第382図 PL.210 | 30 | 石製模造品 白玉 | 床直 | 径 | 1.5 | 厚重 | 0.7 2.43 | 滑石 | 表裏面とも粗く研磨するほか、体部に粗い縦位線条痕を残す。径2mmの孔を片側穿孔する。 | 棒状礫 |
| 第382図 PL.210 | 31 | 石製品 砥石 | 掘り方 | 長幅 | 23.2 8.1 | 厚重 | 4.68 20.1 | デイサイト凝灰岩 | 背面側左辺に偏り斜向する刃ならし傷が残る。右側縁の上端・下端部が敲打され、敲打石としても使用されている。 | 礫砥石 |
| 第383図 PL.210 | 32 | 礫石器 石製研磨具 | 掘り方 | 長幅 | 94.8 | 厚重 | 1.6 117.1 | 珪質頁岩 | 礫外縁部に外縁に直交する線条痕がある。 | 扁平礫 |
| 第383図 PL.210 | 33 | 礫石器 敲打石 | 掘り方 | 長幅 | 15.4 5.6 | 厚重 | 4.4 568.9 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に敲打痕があるほか、背面側礫部に弱い摩擦痕が残る。 | |
| 第383図 PL.210 | 34 | 鉄滓 鉄滓 | 鉄滓 完形 | 長幅 | 6.4 7.6 | 厚重 | 5.3 420.31 | | 下面中央部は瘤状に突き出し、全体に炉床土が残存する。滓質は密で、光沢のある褐灰色を呈する。内面から錆が生じており銹部が内在する。 | |

第146表 3区174号住居出土遺物(2)

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|-----------|-----------------|------------|-----|---|---------------------|-------------------------------|--------------------|
| | | | | 底 | 台 | 高 | | | |
| 第383図 | 35 | 須恵器 椀 | +11 台部 | 6.5 | 7.3 | | 粗砂粒/還元焰・軟質/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部切り離し後の付け高台。 | |
| 第383図 | 36 | 須恵器 椀 | 口縁片 | 15.1 | | | 細砂粒/還元焰・軟質/灰白 | ロクロ整形、回転右回り | |
| 第383図 | 37 | 須恵器 杯 | +5 2/3 | 8.9 5.0 | 1.8 | | 細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後、無調整。 | 内外面の一部に煤付着。 |
| 第383図 | 38 | 須恵器 羽釜 | +10 口縁~胴部下位片 | 20.5 | | | 粗砂粒・白色鈹物粒/酸化焰/にぶい黄褐 | ロクロ整形。成形後に断面三角形の鏝を貼付。 | 内外面とも被熱・炭素吸着・内面磨滅。 |

176号住居(第384図、P.L.119、第147表)

位置 16T-3・4グリッド。

重複 34号住居より後出で、157号住居より前出。234号土坑と重複するが新旧関係不明。

形状 隅丸方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は7.1㎡。長辺(北東~南西)3.6m、短辺(北西~南東)2.8m、壁高は30cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。硬化面はあまり認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

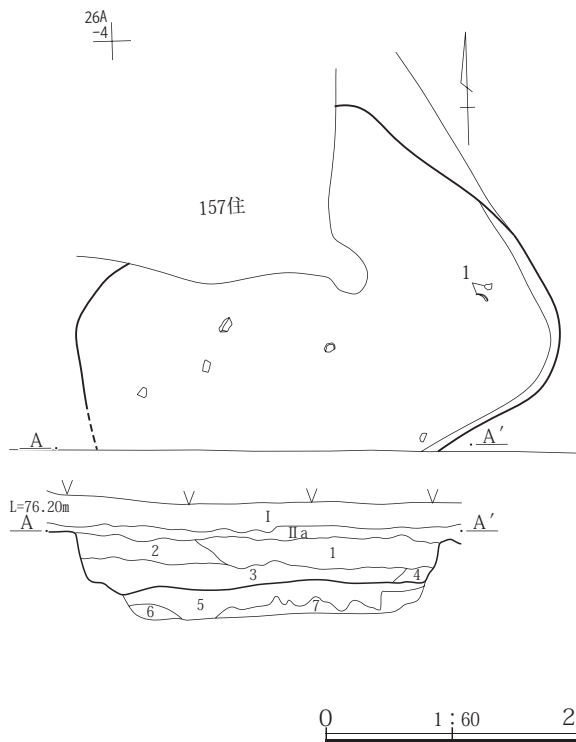
埋没土 自然埋没土である。1~4層は住居埋没土、5~7層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さ17~25cmを測る。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

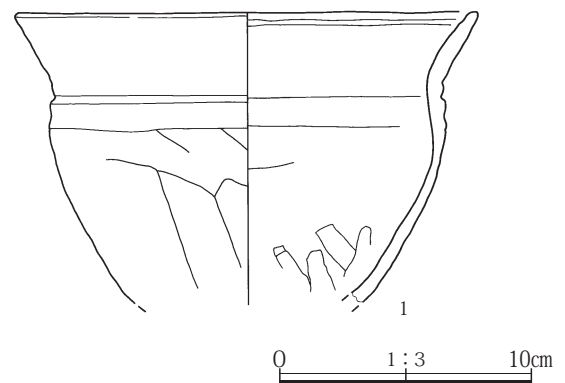
時期 出土遺物から6~7世紀に比定される。

176号住居



176号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロック、白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックと暗褐色土の混土。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロックを含む。
- 6 黄白色粘質土 やや硬くしまる。暗褐色土を含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。

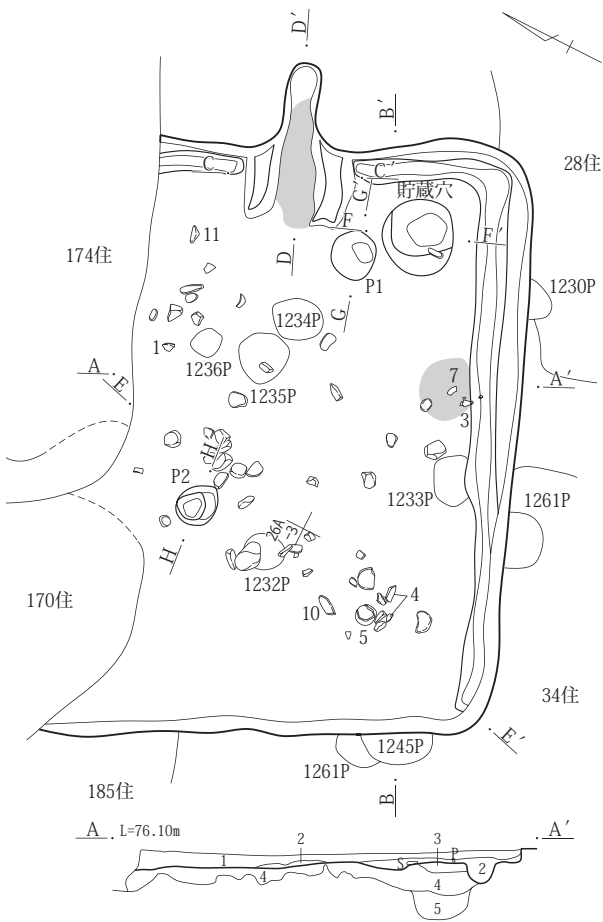


第384図 3区176号住居と出土遺物

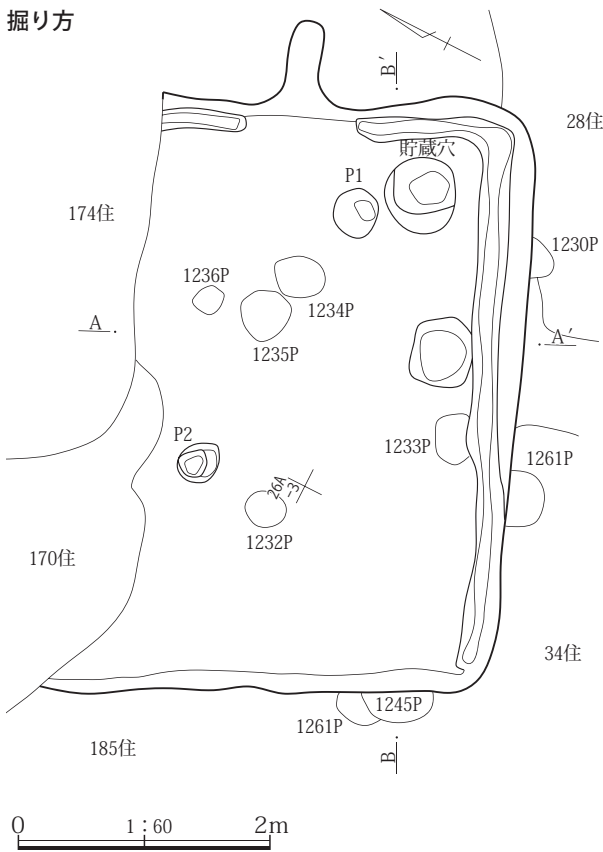
第147表 3区176号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|--------------|------|--|--|--------------------|---------------------------------|--------|
| | | | | 口 | | | | | |
| 第384図 | 1 | 土師器 鉢 | 床直 口縁~胴部片 | 18.0 | | | 粗砂粒・輝石か角閃石/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位・斜縦位のヘラ削り、内面胴部はナデ。 | 被熱・脆弱。 |

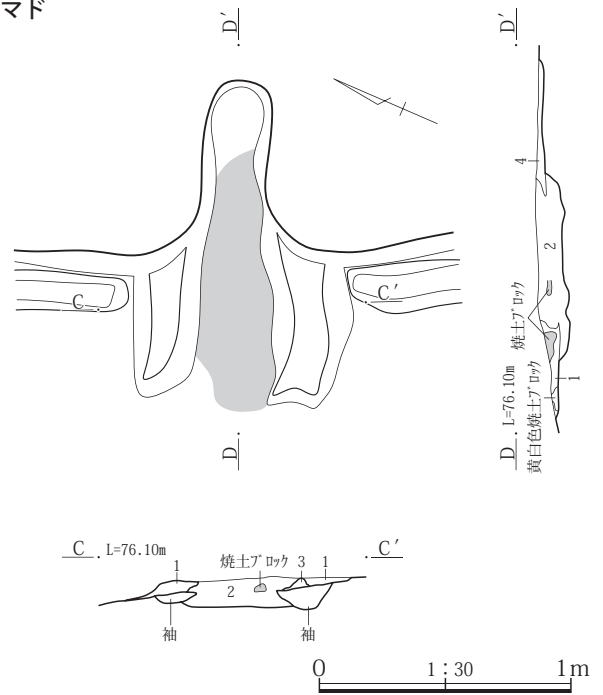
177号住居(第385・387図、P L.119・120・210、第148表)



掘り方



カマド

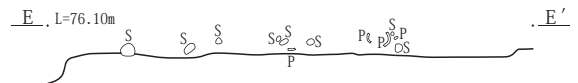


177号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、灰色粘質土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックをやや多く含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、灰色粘質土ブロックを含む。

カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を含む。
- 2 赤褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、焼土粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄白色粘質土粒子を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を少量含む。



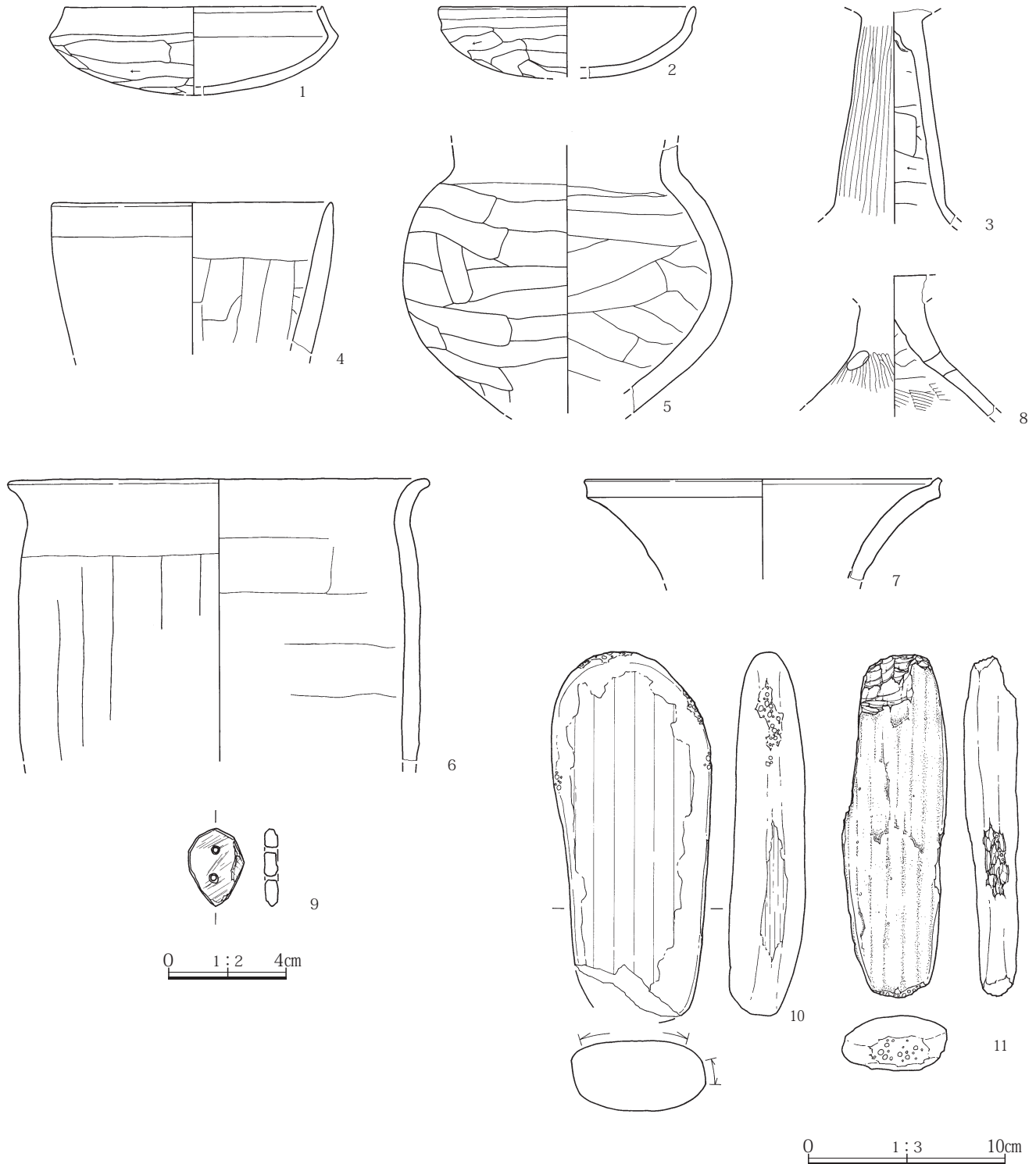
貯蔵穴

- 貯蔵穴 F-F'
 - 1 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を微量含む。
 - 2 褐色土 しまり強い。ロームブロックを少量含む。
- P 1
 - 1 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を微量含む。柱痕。
 - 2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子を少量含む。根固め。
- P 2
 - 1 暗褐色土 しまり弱い。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子を多量に含む。

第385図 3区177号住居

位置 25T・26A-2・3グリッド。
 重複 34号住居より後出で、170・174号住居より前出。
 28号住居と重複するが新旧関係不明。
 形状 方形を呈するものと思われる。
 主軸方位 N-67°-E
 規模 現状での面積は14.4㎡。長辺(北東~南西)4.71m、
 短辺(北西~南東)3.62m、壁高は10~15cmを測る。

床面 ほぼ平坦である。貼床である。硬化面は認められ
 なかった。
 カマド 東壁の中央から南寄りに設置されている。燃
 焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ
 130cm、焚き口部の幅33cm、袖を含めた幅は80cmを測る。
 1~3層はカマド埋没土になる。



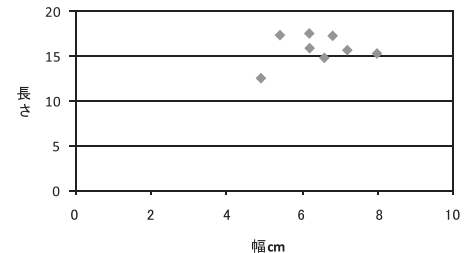
第386図 3区177号住居出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第148表 3区177号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-------------|----------------|-----|---------------|----|--------------|--------------------|---|------------|
| | | | | 口 | 高さ | 厚 | 重 | | | |
| 第386図 | 1 | 土師器 杯 | +6 1/4 | 口 | 13.0 | 高 | 4.4 | 精選・細砂粒少/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも漆塗り。 |
| 第386図 | 2 | 土師器 杯 | 1/4 | 口 | 12.8 | | | 精選・細砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第386図 | 3 | 土師器 高杯 | +5 脚部中位 | | | | | 細砂粒・赤色粘土粒/良好/明赤褐 | 外面は縦位のヘラ磨き。内面は横位のヘラ削り。 | 外面磨滅。 |
| 第386図 | 4 | 土師器 鉢 | +12 口縁～体部片 | 口 | 14.0 | | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。体部外面は縦位のヘラナデか、内面は横位・斜横位のナデ。 | |
| 第386図 | 5 | 土師器 甕 | +10 頸部～胴部下位 | | | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り、内面は横位・斜横位のヘラナデ。 | |
| 第386図 | 6 | 土師器 甕 | 口縁～胴部片 | 口 | 20.4 | | | 粗砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面胴部は横位のヘラナデ。 | |
| 第386図 | 7 | 土師器 壺 | 床直 口縁片 | 口 | 17.6 | | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。口唇部は屈曲、短く上方に立ち上がる。 | |
| 第386図 | 8 | 土師器 高杯 | 掘り方 脚台部 | | | | | 細砂粒/良好/にぶい黄橙 | 中位に透孔3ヶ所。外面上位は丁寧なナデ。下位は縦位のヘラ磨き。内面はナデ、下半にはハケ目を残す。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第386図 PL.210 | 9 | 石製模造品 剣形 | | 長幅 | 2.6 1.9 | 厚重 | 0.5 3.46 | 滑石 | 外縁を粗く研磨して整形する。表裏面とも粗く研磨、裏面側には研磨前の整形面が残る。径2mmの孔2を片側穿孔する。 | |
| 第386図 PL.210 | 10 | 礫石器 敲石 | +2 | 長幅 | (18.3) 8.1 | 厚重 | 3.9 831.9 | 変質安山岩 | 小口部に近い右側縁に著しい敲打痕があるほか、背面側が弱く摩耗する。 | 菰編石 |
| 第386図 PL.210 | 11 | 礫石器 敲石 | +3 | 長幅 | 17.3 5.4 | 厚重 | 2.8 339.6 | 黒色片岩 | 小口部両端が著しく敲打され、これに伴う衝撃剥離痕が生じているほか、右側縁に敲打痕がある。 | 菰編石 |

| 挿図 | 番号 | 礫形状 | 幅 | 長さ | 厚さ | 重さ(g) | 石材 | 備考 |
|-----|----|-----|-----|--------|-----|-------|---------|----|
| 非掲載 | 12 | 菰編石 | 8 | 15.3 | 4.7 | 758.2 | 粗粒輝石安山岩 | |
| 非掲載 | 13 | 菰編石 | 6.8 | 17.3 | 5 | 897.7 | デイサイト | |
| 非掲載 | 14 | 菰編石 | 4.9 | 12.5 | 2.9 | 268.3 | 粗粒輝石安山岩 | |
| 非掲載 | 15 | 菰編石 | 6.6 | 14.8 | 3.3 | 505.7 | 粗粒輝石安山岩 | 被熱 |
| 非掲載 | 16 | 菰編石 | 7.2 | 15.7 | 5.4 | 809.1 | 石英斑岩 | |
| 非掲載 | 17 | 菰編石 | 6.2 | 16 | 5.4 | 744.6 | 粗粒輝石安山岩 | |
| 非掲載 | 18 | 菰編石 | 6.2 | 17.5 | 3.3 | 532 | 雲母石英片岩 | |
| 非掲載 | 19 | 菰編石 | 4.8 | (13.3) | 4 | 382.3 | 石英閃緑岩 | |



第387図 3区177号住居菰編石長幅比グラフ

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径61.5cm・短径57.5cm・深さ30.5cmを測る。埋没土は2層に分かれた。

柱穴 ピット2基が検出されたが支柱穴にはならない。P1は長径38.5cm・短径35cm・深さ27cm、P2は長径36.5cm・短径30.5cm・深さ21cmを測る。

周溝 東壁と南壁下から検出された。本来は全周していたものと思われる。幅10～20cm、深さ5～12cmを測る。

埋没土 自然埋没土である。1・2層は住居埋没土、3～5層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さ5～44cmを測る。

出土遺物 中央部にややまとまって、床面全体に点々と土器が出土する。混在して菰編石11点も出土する。うち2点は敲石(第386図10・11)として使用される。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

178号住居(第388～390図、P.L.119・120・210、第149表)

位置 26A・B-1・2グリッド。

重複 177号住居、61号溝より前出で、28・174号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-66°-E

規模 現状での面積は26.5㎡。長辺(北東～南西)6.33m、短辺(北西～南東)5.22m、壁高は5cmを測る。

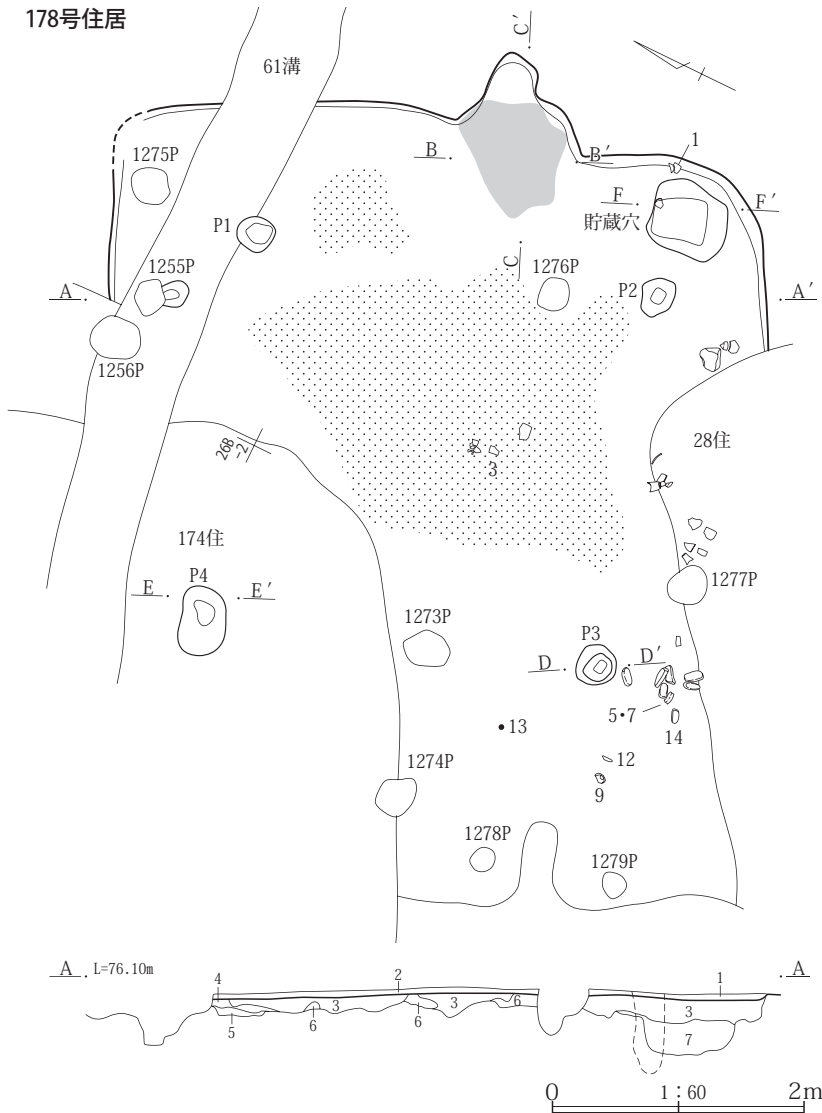
床面 ほぼ平坦である。カマド前面から床面中央部にかけて硬化面が認められた。

カマド 東壁の中央から南寄りに設置されている。燃焼部は床面から壁を掘り込んで構築されており、長さ130cm、焚き口部の幅76cmを測る。1～4層はカマド埋没土、3層は灰である。

貯蔵穴 床面の南東隅から検出された。長径62cm・短径56cm・深さ35cmを測る。埋没土は2層に分かれた。

柱穴 支柱穴4基が検出された。P1は長径29.5cm・短

178号住居



径27cm・深さ34.5cm、P 2は長径32.5cm・短径27.5cm・深さ45cm、P 3は長径34cm・短径32.5cm・深さ38.5cm、P 4は長径55cm・短径35cm・深さ17.5cmを測る。P 1 - P 2間の距離は3.2m、P 2 - P 3間距離2.95m、P 3 - P 4間の距離3.15m、P 4 - P 1間距離は3.05mを測る。

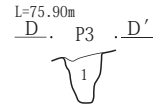
周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土と思われる。1・2層は住居埋没土、3～7層は掘り方充填土になる。



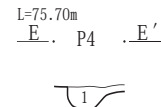
貯蔵穴

- 1 暗褐色土 しまり非常に弱い。
- 2 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を微量含む。



P 3

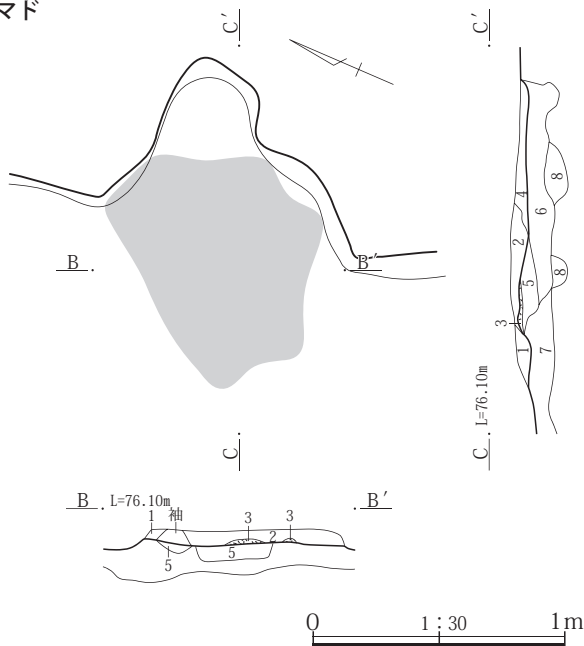
- 1 黒褐色土 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子を多量に含む。



P 4

- 1 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子を少量含む。

カマド



178号住居

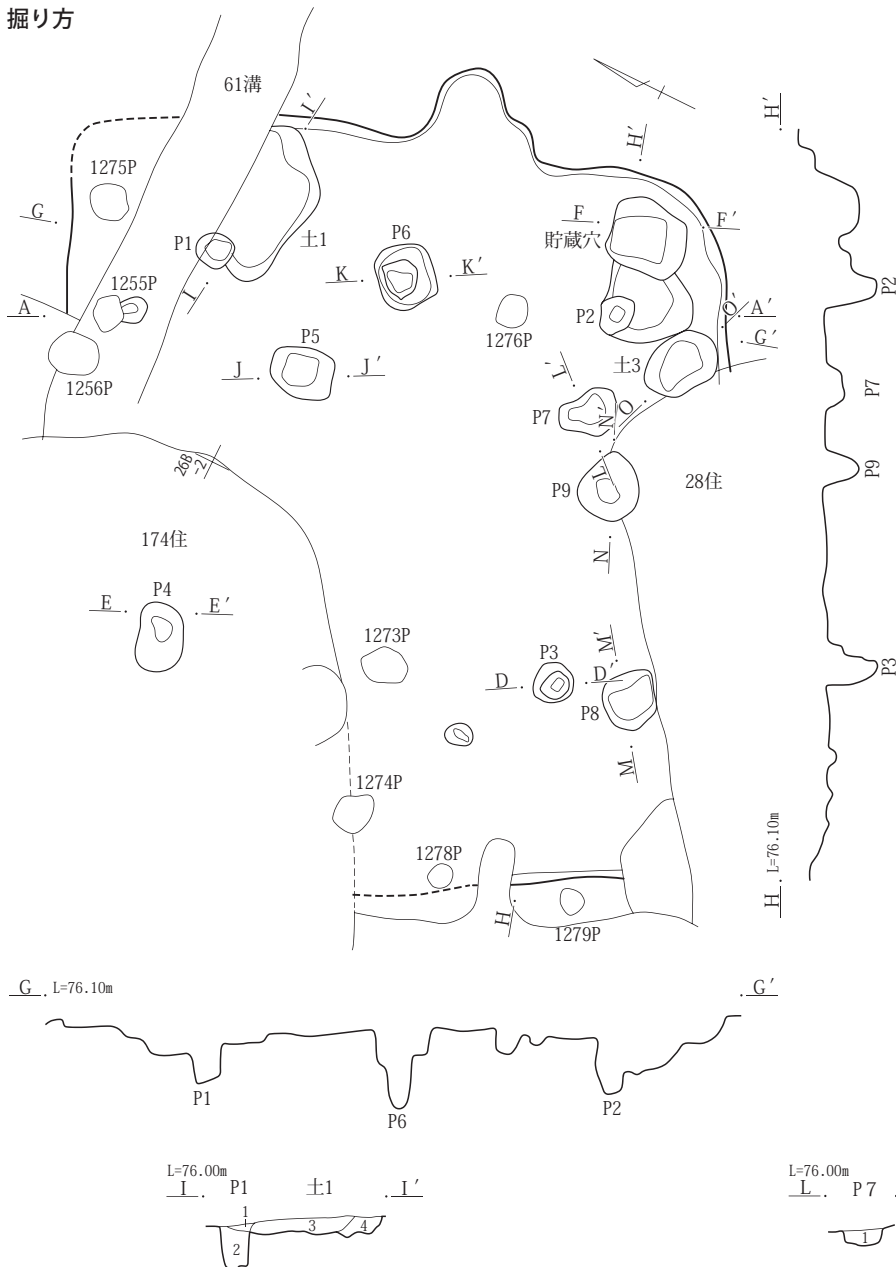
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。
- 6 褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を多量に含む。
- 7 暗褐色土 しまり強い。粘性あり。ロームブロックを多量に含む。床下土坑。

カマド

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄白色粘質土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、黄白色粘質土ブロック、炭化物粒子を多量に含む。
- 3 灰
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 5 黒褐色土 しまりあり。粘性なし。焼土粒子を少量含む。
- 6 黒褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子、焼土粒子を微量含む。
- 7 褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を微量含む。
- 8 暗褐色土 しまりあり。粘性なし。

第388図 3区178号住居

掘り方



掘り方 全体的に掘り下げられている。深さ8～44cmを測る。掘り方調査時にピット5基、土坑3基検出された。P5は長径50.5cm・短径40.5cm・深さ20cm、P6は長径51.5cm・短径45cm・深さ56.5cm、P7は長径49cm・短径34cm・深さ12cm、P8は長径50.5cm・短径45cm・深さ15.5cm、P9は長径55.5cm・短径48.5cm・深さ86.5cmを測る。土坑1は長径120cm・短径60cm・深さ10cm、土坑3は長径63cm・短径43cm・深さ14cmを測る。

出土遺物 中央部床面に点々と土器が出土する。南端で菰編石も出土する。

時期 出土遺物から6世紀後半に比定される。

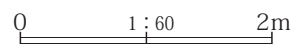
- 住居内土坑1・P1
- 1 暗褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 しまり強い。粘性なし。ロームブロックを多量に含む。埋戻し土。
 - 3 褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
 - 4 褐色土 しまり強い。粘性なし。ロームブロックを少量含む。

- P7
- 1 黒褐色土 しまり弱い。粘性なし。ローム粒子を多量に含む。
- P8
- 1 黒褐色土 しまり弱い。粘性なし。ローム粒子を多量に含む。

- P5
- 1 褐色土 しまり強い。粘性なし。ロームブロックを少量含む。

- P6
- 1 暗褐色土 しまり強い。粘性なし。ローム粒子を少量含む。
 - 2 黒褐色土 しまり弱い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 - 3 黒褐色土 しまり非常に強い。粘性なし。ロームブロックを少量含む。

- 住居内土坑3
- 1 暗褐色土 しまり強い。粘性なし。シルトブロックを多量に含む。



第389図 3区178号住居掘り方

179号住居(第391図、P.L.121、第150表)

位置 16B-18グリッド。

重複 137号住居より前出。

形状 調査区外に延びているために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 北東~南西1.2m、北西~南東1.1m、壁高は25cm

を測る。

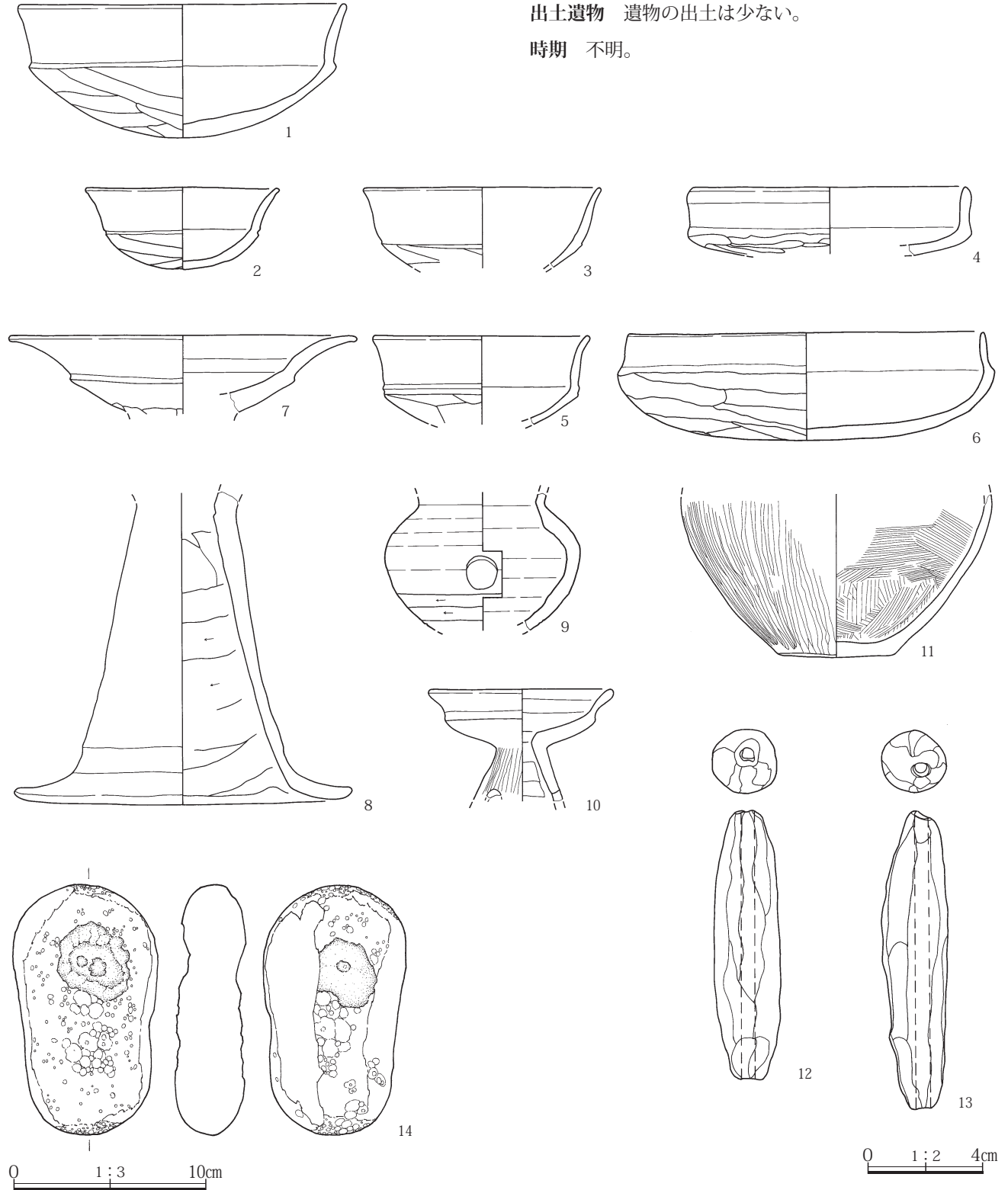
床面・カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 自然埋没土である。1~4層は住居埋没土、5層は掘り方充填土になる。

掘り方 重複しているために全容は不明である。深さ5~20cmを測る。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 不明。



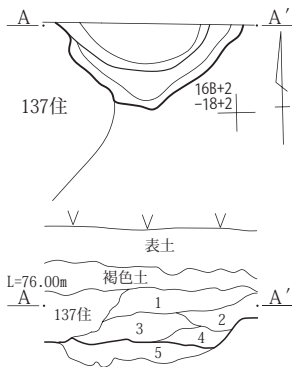
第390図 3区178号住居出土遺物

第3章 発掘調査の記録

第149表 3区178号住居出土遺物

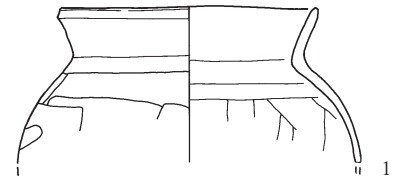
| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|--------------|-----|------|----|--------------------|-----------------------|--|-------------------|
| | | | | 口 | 高 | 厚 | | | | |
| 第390図 | 1 | 土師器 杯 | 床直 1/5 | 口 | 16.8 | 高 | 6.8 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面ともやや磨滅。 |
| 第390図 | 2 | 土師器 杯 | 破片 | 口 | 9.9 | 高 | 4.1 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口唇部は外方に屈曲。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面底部の一部に炭素吸着。 |
| 第390図 | 3 | 土師器 杯 | 床直 1/3 | 口 | 12.0 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/黄褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。底部外面炭素吸着。 |
| 第390図 | 4 | 土師器 杯 | 口縁部～底部片 | 口 | 14.0 | | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着。 |
| 第390図 | 5 | 土師器 杯 | + 2 1/4 | 口 | 11.0 | | | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第390図 PL.210 | 6 | 土師器 大型杯 | 2/3 | 口 | 18.2 | 高 | 5.5 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第390図 | 7 | 土師器 高杯 | + 2 杯部1/3 | 口 | 18.0 | | | 細砂粒・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部上半はナデ、下半は弱いヘラ削り。 | 8と同一個体。 |
| 第390図 | 8 | 土師器 高杯 | 脚部1/2 | 底 | 17.0 | | | 細砂粒・赤黒色粘土粒/ 良好/明赤褐 | 裾部は横撫で。これより上位は丁寧なナデ。内面最上位に絞り痕。裾部は横ナデ、その間はヘラ削り。 | 7と同一個体。 |
| 第390図 | 9 | 須恵器 甗 | + 5 体部片 | | | | | 白色鈹物粒/還元 焰/灰 | ロク口整形、回転右回り。中に直径1.6cmの孔を穿つ。体部下半は回転を伴うヘラ削り。 | |
| 第390図 | 10 | 土師器 器台 | 受け部～台部上半 | 口 | 9.4 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 受け部口縁部は横ナデ。体部は丁寧なナデ、磨きか。脚台部は縦位にヘラ磨き。内面台部にナデ。脚台部に透孔を3単位配す。 | 内外面炭素吸着。 |
| 第390図 | 11 | 土師器 甗 | 底部片～胴部中位 | 底 | 6.0 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 胴部は縦位にヘラ磨き。底部も同様のヘラ磨き。内面胴部は2種類のハケ目。中位は斜横位、下位は斜縦位。底部は丁寧なナデ。 | |
| 第390図 PL.210 | 12 | 土製品 土錘 | + 8 ほぼ完形 | 長巾 | 9.3 | 孔重 | 0.5 39.62 | 精選/良好/橙 | ヘラナデを施すが、成形時の押圧痕を残す。小口に面を有さない。 | |
| 第390図 PL.210 | 13 | 土製品 土錘 | + 8 完形 | 長巾 | 10.3 | 孔重 | 0.5 37.95 | 精選/良好/橙 | ヘラナデを施すが、成形時の押圧痕を残す。小口に面を有さない。 | |
| 第390図 PL.210 | 14 | 石製品 | + 5 | 長幅 | 12.9 | 厚重 | 3.4 448.5 | 粗粒輝石安山岩 | 表裏面とも、上端側に偏る位置に浅い凹部(径3cm程)がある。凹部の内面は敲打されたのみである。表裏面とも全面を敲打痕が覆う。 | |

179号住居



179号住居

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を少量、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、軽石を含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、粘土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を含む。シルトブロック、白色粒子を少量含む。掘り方。



0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第391図 3区179号住居と出土遺物

第150表 3区179号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|--------------|-----|------------|-------------|-----|------|---|--------------------|------------------|---|---------|
| | | | | 口 | 高 | 厚 | | | | |
| 第391図 | 1 | 土師器 小型甗 | 口縁～体部片 | 口 | 10.0 | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部から胴部最上位は横ナデ。胴部不定方向にナデ。内面胴部は横位・縦位のナデ。 | 外面炭素吸着。 |

181号住居(第392図、P L .108)

位置 26A-6・7グリッド。

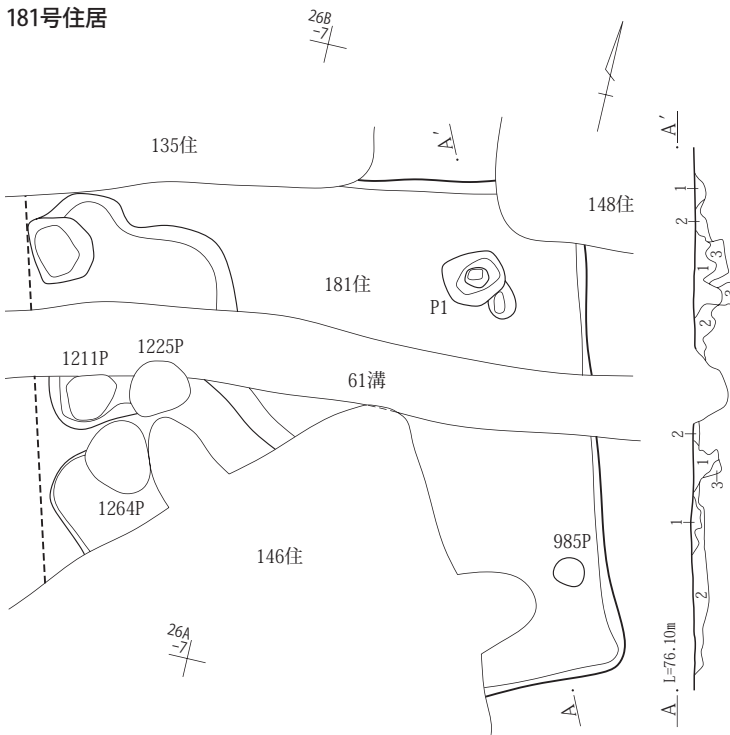
重複 146号住居、61号溝より前出で、135・148号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 方形を呈するものと思われる。

主軸方位 不明。

規模 現状での面積は15.7㎡。東西4.41m、南北4.05m、壁高を検出することはできなかった。

181号住居



181号住居

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 軟らかい。ローム主体で暗褐色土を含む。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 1～3層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられているが浅い。深さは5～12cmを測る。

出土遺物 ほとんど出土していない。

時期 不明。

182号住居(第392図、P L .121)

位置 25T-11・12、26A-12グリッド。

重複 なし

形状 全容は不明であるが、方形を呈するものと思われる。

主軸方位 N-65°-W

規模 北西～南東3.2m、北東～南西1.15m、壁高をほとんど確認できなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド 東壁に設置される。燃烧部は壁を掘り込んで構築され、長さ115cm、焚き口部の幅30cmを測る。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 ピット1基が検出された。P1は長径29.5cm・短径24.5cm・深さ49cmを測る。

周溝 確認できなかった。

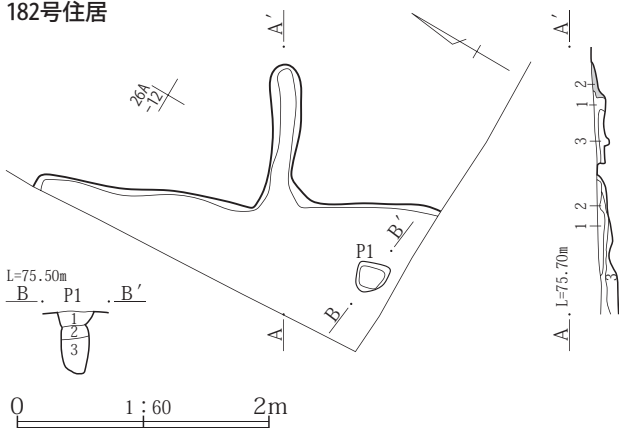
埋没土 1～3層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に浅く掘り下げられている。深さは10～15cmを測る。

出土遺物 出土していない。

時期 不明。

182号住居



182号住居

- 1 暗褐色土 硬くしまる。焼土ブロック、ローム粒子、白色軽石を含む。
 - 2 赤褐色土 硬くしまる。焼土ブロックを多量に、ロームブロックを含む。
 - 3 黄褐色土 硬くしまる。ローム主体で暗褐色土を少量含む。
- P1
- 1 暗褐色土 硬くしまる。白色粒子を少量、ローム粒子、焼土ブロックを微量含む。
 - 2 暗褐色土 やや軟らかくて粘性あり。ローム粒子、ロームブロックを微量含む。
 - 3 暗褐色土 やや軟らかくて粘性あり。ローム粒子を少量含む。

第392図 3区181・182号住居

185号住居(第393図、P L .117、第151表)

位置 25T-3、26A-3・4グリッド。

重複 157・170号住居、61号溝より前出で、153・171・177号住居と重複するが新旧関係不明。

形状 全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 北西～南東4.15m、北東～南西2.9m、壁高を検出することはできなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は認められなかった。

カマド・貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 掘り方調査時にピット2基が検出された。P1は長径53.5cm・短径46.5cm・深さ49cm、P2は長径31cm・短径21.5cm・深さ32.5cmを測る。

周溝 確認できなかった。

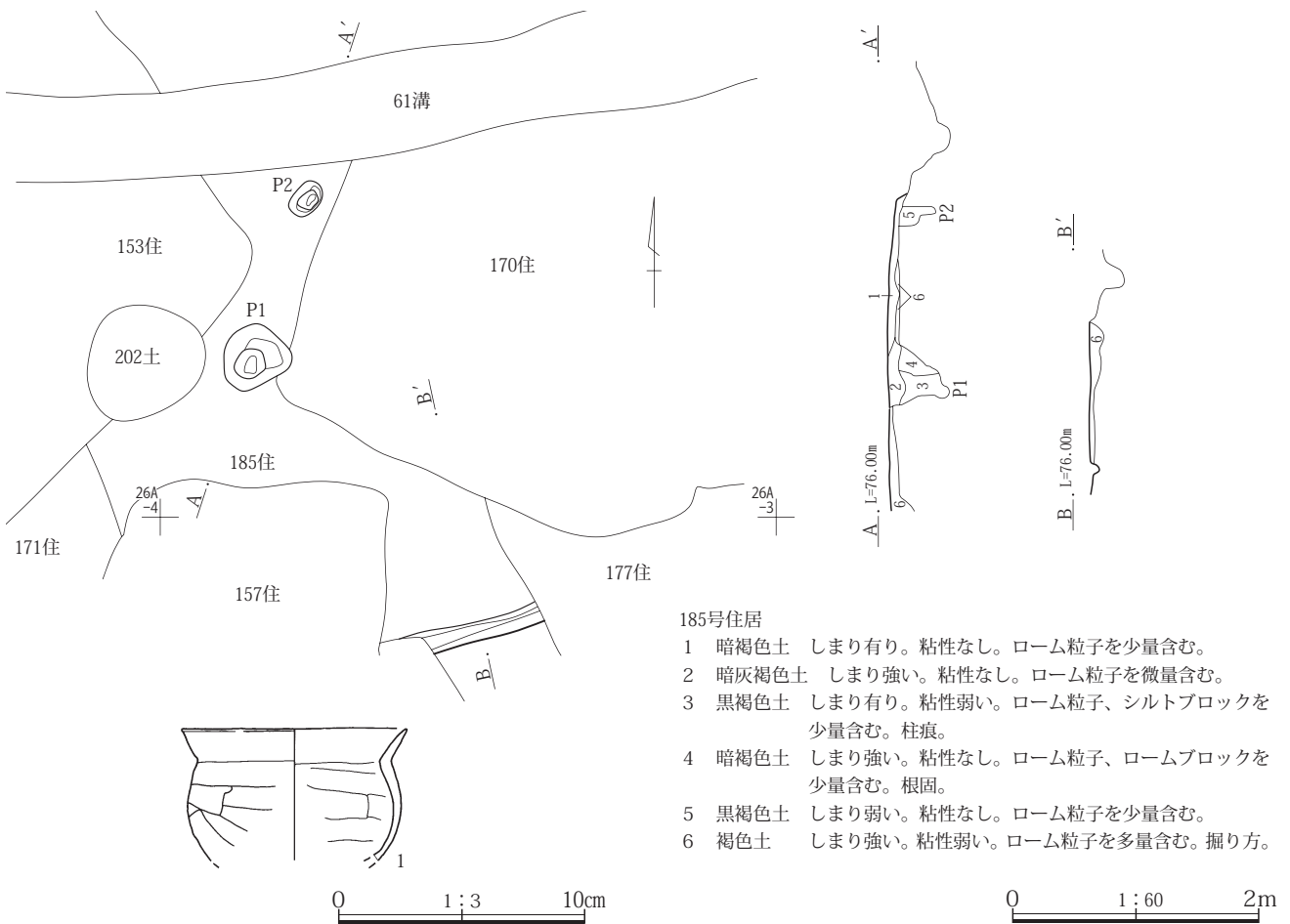
埋没土 1・6層は掘り方充填土、2～5層はピット埋没土になる。

掘り方 全体的に掘り下げは浅い。深さ3～12cmを測る。

出土遺物 遺物の出土は少ない。

時期 出土遺物から6世紀代に比定される。

185号住居



第393図 3区185号住居と出土遺物

第151表 3区185号住居出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|----------|-------------|-------|--------------------|---|----|
| 第393図 | 1 | 土師器 埴 | 口縁～体部片 | □ 8.8 | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部から体部上位は横ナデ。体部横位のヘラ削り。内面 体部は横位のナデ。 | |

186号住居(第394図、P L .112)

位置 26B-4・5グリッド。

重複 153号住居より前出で、169号住居、201号土坑と重複するが新旧関係不明。

形状 調査区外に延びているために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 北東～南西2.8m、北西～南東2m、壁高をほとんど検出することはできなかった。

床面 ほぼ平坦である。部分的に貼床が認められる。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 ピット1基が検出された。P1は長径38.5cm・短径35.5cm・深さ44cmを測る。

周溝 確認できなかった。

埋没土 4層は貼床、5～7層は掘り方充填土、8・9層はピット埋没土になる。

掘り方 全体的に掘り下げられている。深さは12cmを測る。

出土遺物 古墳時代土器1点のみである。

時期 不明。

187号住居(第394図、P L .119)

位置 26B-1・2グリッド。

重複 174号住居、61号溝と重複するが新旧関係不明。

形状 調査区外に延びるために全容は不明である。

主軸方位 不明。

規模 南北1.85m、東西1.3m、壁高をほとんど確認できなかった。

床面 やや凹凸がある。

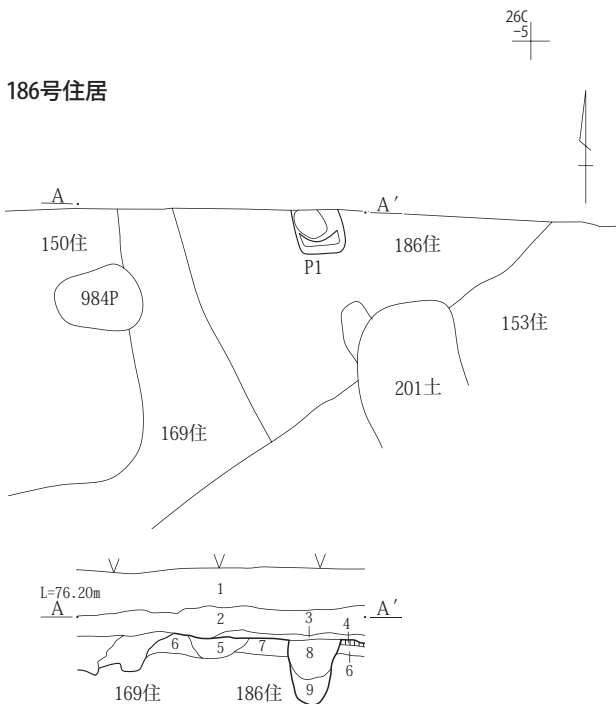
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 確認できなかった。

埋没土 3・4層は掘り方充填土になる。

掘り方 全体的に凹凸がある。深さ20cmを測る。

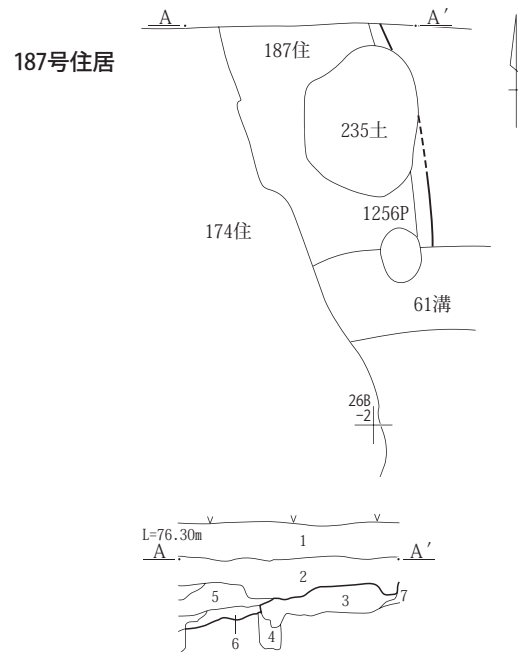
出土遺物 遺物は出土していない。

時期 不明。



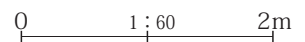
186号住居

- 1 耕作土 浅間A軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬い。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 硬くしまる。酸化鉄分を含む。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。貼床。
- 5 暗褐色土 やや硬く粘性あり。炭化物粒子を少量、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を含む。
- 7 黄褐色土 やや硬い。ロームと暗褐色土の混土。
- 8 暗褐色土 軟らかくしてしまいい。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 軟らかくて粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。



187号住居

- 1 耕作土
- 2 暗褐色土 やや硬い。白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかい。ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくしてしまいい。ロームブロックを含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを少量含む。住居外。



第394図 3区186・187号住居

3 掘立柱建物

3区では53棟の掘立柱建物が検出されたが、そのうち中世区画遺構等に関する49棟を除く4棟をここで扱う。3棟は、調査区中央西寄り、近接して検出される。1棟は2号区画遺構の北側に位置する。主軸方位による分類(第177表)は、2・4類の2種類である。同じ分類ではないが、3棟については柱穴がやや大きい点で共通している。

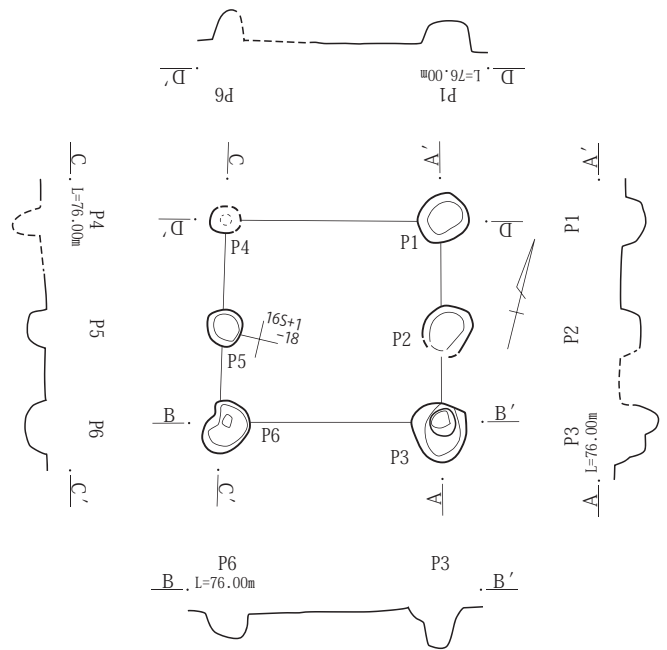
1号掘立柱建物(第395図、P L.121)

位置 15R・S-17・18グリッド

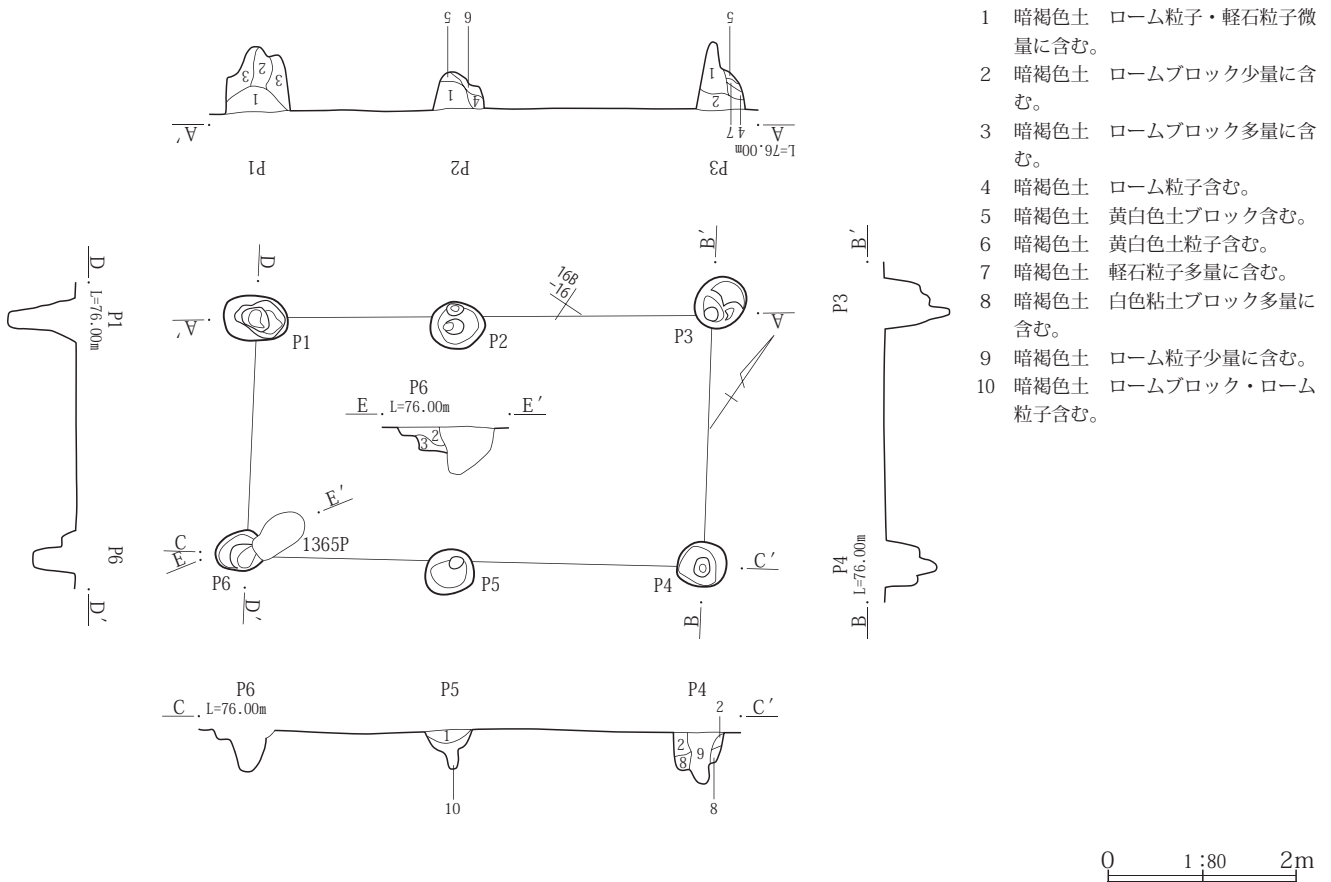
重複 P1~6は32号住居より後出。

主軸方位 N-12~14°-W。面積 4.94㎡

形態 南北2間×東西1間の正方形。西辺の中間柱P5は5cm南に寄る。P2~6は拳大の円礫で密に埋まり人為埋没する。P6は2基が重複し、長径が64cmと大きいP3も2基が重複する可能性が高い。そのほかの短径は38~48cmで概ね大きい。柱穴の形態は全て円形・楕円形である。深さは20~43cmでややばらつきがある。詳細な規模は第152表のとおり。



第395図 3区1号掘立柱建物



- 1 暗褐色土 ローム粒子・軽石粒子微量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子含む。
- 5 暗褐色土 黄白色土ブロック含む。
- 6 暗褐色土 黄白色土粒子含む。
- 7 暗褐色土 軽石粒子多量に含む。
- 8 暗褐色土 白色粘土ブロック多量に含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 10 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子含む。

第396図 3区43号掘立柱建物

第152表 3区1号掘立柱建物計測値

()は重複、境界線による欠損

| 建物全体の規模 | | 1間・2間・正方形 | | | 面積 | 4.94㎡ | | 旧ピット番号 |
|-----------|-------|-------------|------|----|------|-------------|--|--------|
| 主軸方向 | | N-12°~14°-W | | | 位置 | 15R・S-17・18 | | |
| 桁・梁の規模(m) | 柱穴No. | 規模(cm) | | | 形状 | 次ピットとの間隔(m) | | |
| | | 長径 | 短径 | 深さ | | | | |
| 東辺 2.14 | 1 | 53 | 48 | 32 | 楕円形 | 1.18 | | |
| | 2 | (46) | 46 | 25 | 楕円形か | 0.96 | | |
| 南辺 2.22 | 3 | 64 | 58 | 43 | 楕円形 | P6へ2.22 | | |
| 北辺 2.31 | 4 | (32) | (28) | 30 | 円形 | P1へ2.31 | | |
| | 5 | 40 | 38 | 20 | 円形 | P4へ1.15 | | |
| 西辺 2.20 | 6 | 56 | 40 | 35 | 円形 | P5へ1.05 | | |

第153表 3区43号掘立柱建物計測値

()は重複、境界線による欠損

| 建物全体の規模 | | 梁間1間・桁行2間・東西棟 | | | 面積 | 12.58㎡ | | 旧ピット番号 |
|-----------|-------|---------------|----|----|--------|-------------|--|--------|
| 主軸方向 | | N-56°~58°-E | | | 位置 | 16A・B-15・16 | | |
| 桁・梁の規模(m) | 柱穴No. | 規模(cm) | | | 形状 | 次ピットとの間隔(m) | | |
| | | 長径 | 短径 | 深さ | | | | |
| 北辺 4.84 | 1 | 68 | 47 | 71 | 楕円形 | 2.06 | | |
| | 2 | 58 | 50 | 40 | 円形 | 2.80 | | |
| 東辺 2.68 | 3 | 58 | 51 | 70 | 楕円形 | 2.69 | | |
| 南辺 4.80 | 4 | 50 | 50 | 55 | 円形 | 2.60 | | |
| | 5 | 52 | 46 | 42 | 円形 | 2.20 | | |
| 西辺 2.54 | 6 | (50) | 42 | 46 | 不明(重複) | P1へ2.54 | | |

43号掘立柱建物(第396図、P L.122)

位置 16A・B-15・16グリッド

重複 P3・4は120号住居と重複するが新旧関係不明。

主軸方位 N-56°~58°-E。面積 12.58㎡

形態 梁間1間型で桁行2間の東西棟。西辺は東辺より14cm短いため、平面形はやや台形である。北辺の中間柱P2は38cm西へ寄り、南辺の中間柱P5も20cm西へ寄り北辺と付合する。P2・5とも柱穴の掘り方は南北辺の柱筋から内外に外れるが、底面の小穴の通りは良い。P1・4で柱痕が残り、埋没土3・8は充填土である。柱痕の状況からも底面の小穴は柱を据えた部分にあたる。柱穴の長径は50~68cmと大差なく概ね大きく、形態は全て円形・楕円形である。P1・3の深さは71・70cmと深い、そのほかの深さも40~55cmと大差なくやや深い。詳細な規模は第153表のとおり。

56号掘立柱建物(第397図)

位置 15T・16A-15・16グリッド

重複 北西隅の柱穴部分は122号住居と重複して未検出となる。

主軸方位 N-78°~79°-E。面積 22.96㎡以上

形態 2間四方の正方形で、内部中央に柱を持つ。北辺は東下がり傾き、東辺の狭い台形をなす。東辺の中間柱P3は4cm北へ寄る。内部のP7はP3・6間のほぼ中央にある。埋没状況に特徴的なものはない。P1

の長径は38cmと東西に長い、柱の立て替えなどによる柱穴の重複や、柱が抜き取られた可能性もある。その他の柱穴では、P2~4の短径が32~38cm、P5~7の短径が23~26cmと二つに分かれる。柱穴の形態は隅丸方形と円形が混在する。P2の深さは55cmと深い、その他は8~30cmと深さは一様でなくやや浅い。詳細な規模は第154表のとおり。

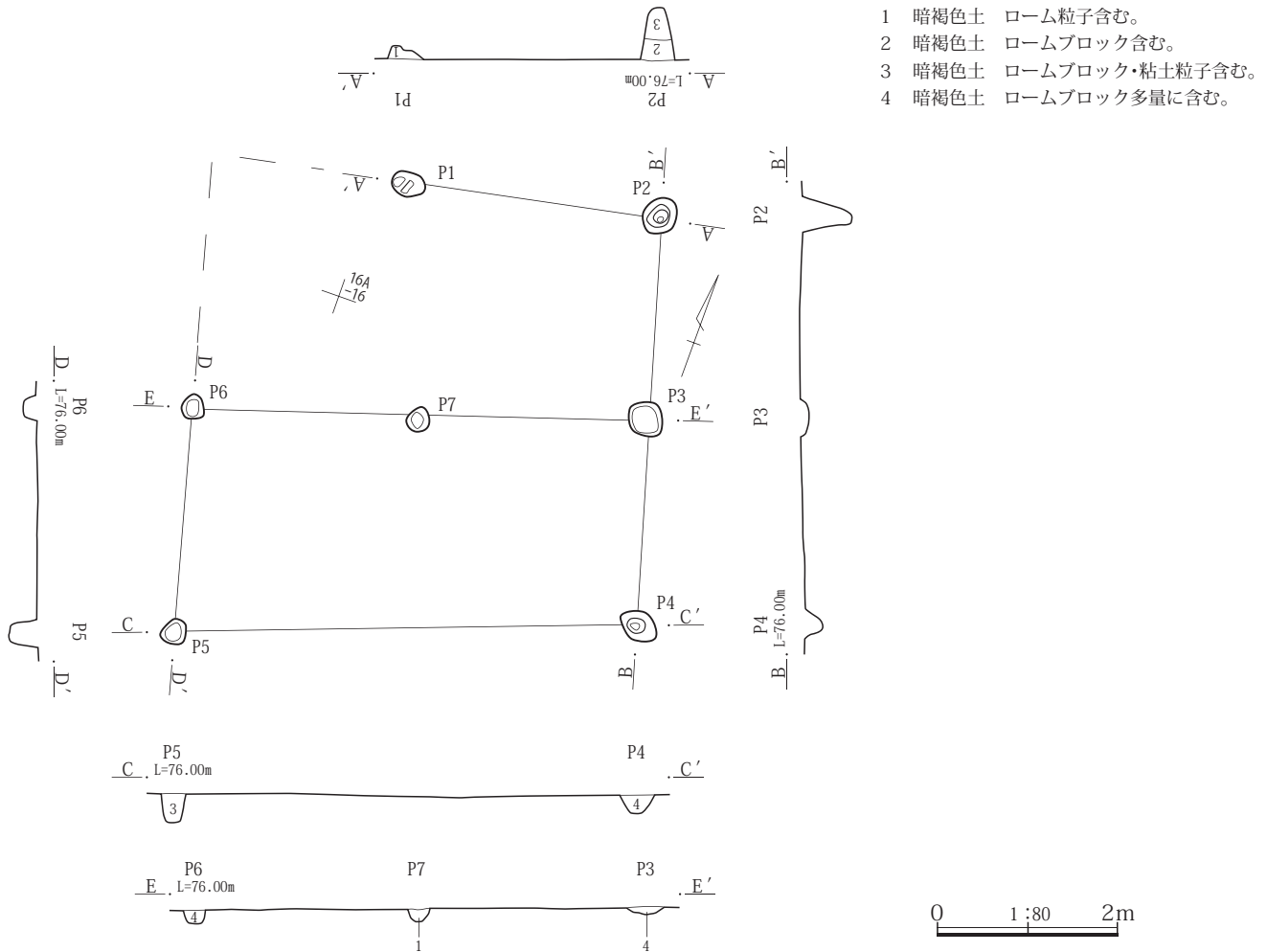
57号掘立柱建物(第398図)

位置 16B-3・4グリッド

重複 P2は829・832号ピット、P3は168号土坑、P5は160号土坑、903号ピット、P7は10号溝と重複するが新旧関係不明。

主軸方位 N-28°-W。面積 6.11㎡

形態 2間四方で南北棟か。東辺は西辺より53cm短いため、北辺は南下がりに傾き、南辺は東下がりに傾き、平面形は台形である。東辺の中間柱P2は北へ5cm寄り、西辺の中間柱P6は南へ5cm寄るが、中間柱同士は付合している。南辺の中間柱P4は38cm東へ寄る。P1・7で柱痕が残り、埋没状況に特徴的なものはない。底面の小穴は柱を据えた部分にあたる。重複により平面形が不明となったP2・3・5とP4を除き、長径は69cm~83cmと大差なく概ね大きく、形態は全て円形・楕円形である。柱穴の深さも42~67cmと概ね深い。詳細な規模は第155表のとおり。



第397図 3区56号掘立柱建物

第154表 3区56号掘立柱建物計測値

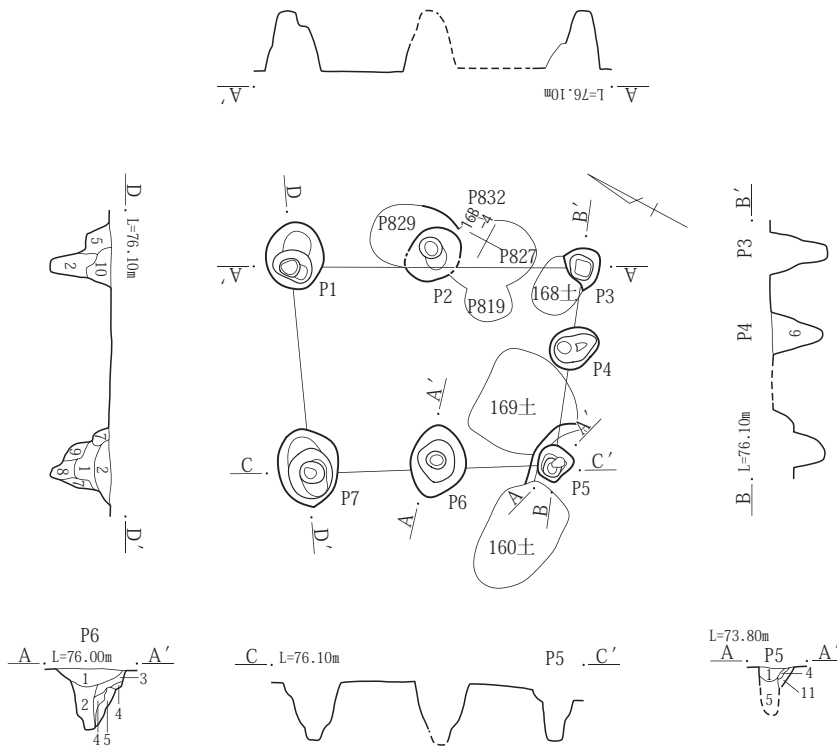
()は重複、境界線による欠損

| 建物全体の規模 | | 2間四方・正方形 | | | 面積 | (22.96) m ² | | |
|-----------|-------|-------------|----|----|----|------------------------|---------|------|
| 主軸方向 | | N-78°~79°-E | | | 位置 | 15T・16A-15・16 | | |
| 桁・梁の規模(m) | 柱穴No. | 規模(cm) | | | 形状 | 次ピットとの間隔(m) | 旧ピット番号 | |
| | | 長径 | 短径 | 深さ | | | | |
| 北辺 | — | 1 | 38 | 27 | 14 | 楕円形 | 2.92 | 1024 |
| 東辺 | 4.52 | 2 | 44 | 36 | 55 | 楕円形 | 2.22 | 1028 |
| | | 3 | 43 | 38 | 8 | 隅丸方形 | 2.30 | 1031 |
| 南辺 | 5.08 | 4 | 46 | 32 | 21 | 楕円形 | 5.08 | 1032 |
| 西辺 | — | 5 | 28 | 26 | 30 | 円形 | 2.50 | 1036 |
| | | 6 | 27 | 23 | 13 | 楕円形 | 2.48 | 1012 |
| | | 7 | 28 | 24 | 14 | 円形 | P3へ2.51 | 1020 |

第155表 3区57号掘立柱建物計測値

()は重複、境界線による欠損

| 建物全体の規模 | | 2間四方・南北棟 | | | 面積 | 6.11m ² | | |
|-----------|-------|----------|----|------|----|--------------------|----------|------|
| 主軸方向 | | N-28°-W | | | 位置 | 16A-4 | | |
| 桁・梁の規模(m) | 柱穴No. | 規模(cm) | | | 形状 | 次ピットとの間隔(m) | 旧ピット番号 | |
| | | 長径 | 短径 | 深さ | | | | |
| 東辺 | 3.10 | 1 | 69 | 61 | 64 | 楕円形 | 1.52 | 125土 |
| | | 2 | 76 | (52) | 65 | 楕円形 | 1.62 | 828 |
| 南辺 | 2.14 | 3 | 41 | 37 | 61 | 不整形円形 | 0.85 | 935 |
| | | 4 | 54 | 43 | 56 | 楕円形 | 1.28 | 936 |
| 西辺 | 2.56 | 5 | 35 | 33 | 42 | 不整形円形 | 1.23 | 938 |
| | | 6 | 77 | 59 | 67 | 楕円形 | 1.35 | 154土 |
| 北辺 | 2.18 | 7 | 83 | 63 | 61 | 楕円形 | P1へ2.148 | 937 |



- 1 暗褐色土 焼土粒子・ローム粒子・黄白色ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子・白色軽石含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量に含む。
- 4 黒褐色土
- 5 暗褐色土 焼土粒子・黄白色ブロック含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒子・白色粘土ブロック含む。
- 7 黒褐色土
- 8 黒褐色土 黄白色ブロック含む。
- 9 黒褐色土 黄白色ブロック・粒子含む。
- 10 暗褐色土
- 11 暗褐色土 焼土粒子・黄白色粒子含む。

第398図 3区57号掘立柱建物

0 1:80 2m

4 竪穴状遺構

遺跡全体で竪穴状遺構は10基検出され、区画遺構に伴わない6基をここで扱う。1～3号竪穴状遺構はまとまって分布し、8・9号竪穴状遺構は東端、10号竪穴状遺構は西端に位置する。

1号竪穴状遺構(第399図、P L.123)

位置 15Q・R-11・12グリッド 主軸方位 N-17°-W

14号住居より前出し、重複により北半部は消滅する。平面形は隅丸方形か。平坦な床面を検出し、15cm程度の掘り方があるが、平面的な確認はできていない。火処は検出されていない。自然埋没か。規模は長軸249cm短軸230cm深さ24cmである。

2号竪穴状遺構(第399図、P L.123)

位置 15Q・R-12・13グリッド 主軸方位 N-70°-E

平面形は隅丸長方形。底面はやや凸凹し、硬化面は認められない。火処は検出されていない。埋没土はロームブ

ロックが目立ち人為埋没か。規模は長軸263cm短軸241cm深さ15cmである。

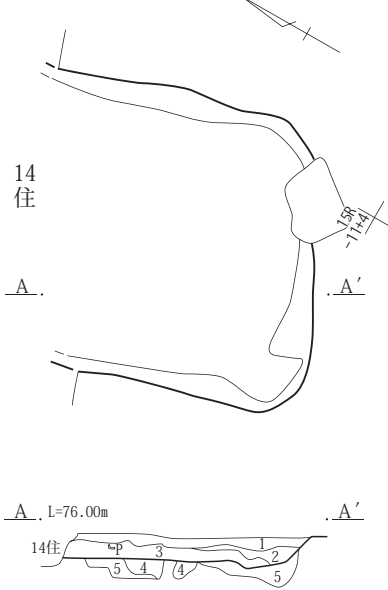
3号竪穴状遺構(第399図、P L.122・123、第156表)

位置 15S-8・9グリッド 主軸方位 N-50°-W
7号溝と重複し、出土遺物などを含めた状況から前出とみられる。上面の平面形は不整形だが、底面の平面形は隅丸長方形に近い。床面はややしまる。火処は検出されていない。掘り方は中央部を主体に25cm程度掘り込む。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸238cm短軸231cm深さ37cmである。埋没土から第399図1の土師器杯が出土する。掲載遺物のほかに第253表のとおり、やや多く土師器が出土する。出土遺物から古墳時代後期に比定される。

8・9号竪穴状遺構(第399図、P L.123、第156表)

位置 5S・T-6グリッド 主軸方位 N-4°-W
2基は重複関係が認められず、一体の遺構である可能性が高い。66号溝と重複して、状況から後出とみられる。9号竪穴状遺構は東側が調査区域外となるが、平面形は長方形か。8号竪穴状遺構は北端のみで全体形は不明で

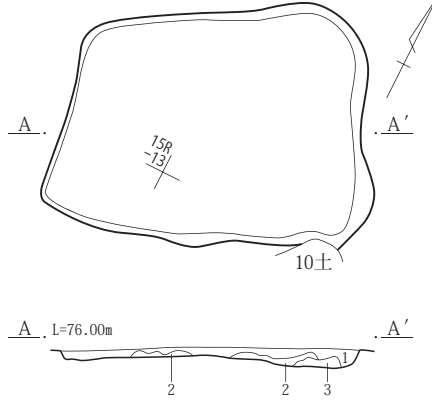
1号竪穴



1号竪穴状遺構

- 1 暗褐色土 しまり弱く粘性あり。均質。
- 2 黒褐色土 しまり弱く粘性あり。黄白色粒子含む。
- 3 黒褐色土 しまり弱く粘性あり。黄褐色土ブロック含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱く粘性あり。ローム粒子多量に含む。
- 5 暗褐色土 よくしまる。ロームブロック・白色軽石含む。

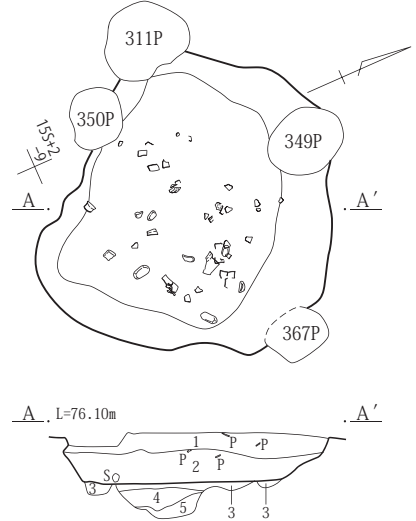
2号竪穴



2号竪穴状遺構

- 1 暗褐色土 よくしまる。ローム粒子・白色粒子少量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子・白色粒子微量に含む。

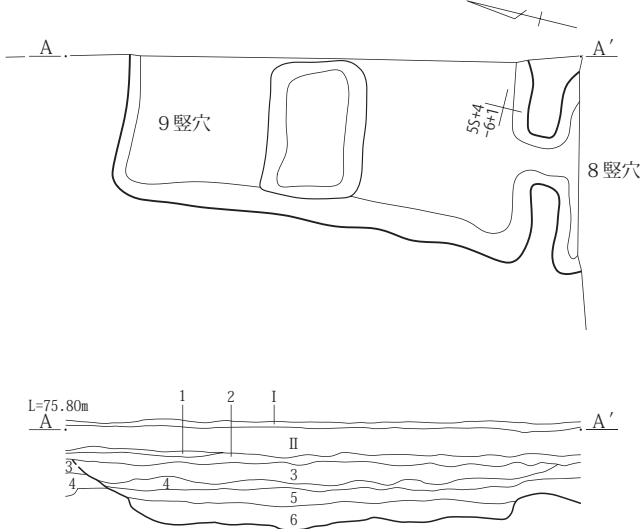
3号竪穴



3号竪穴状遺構

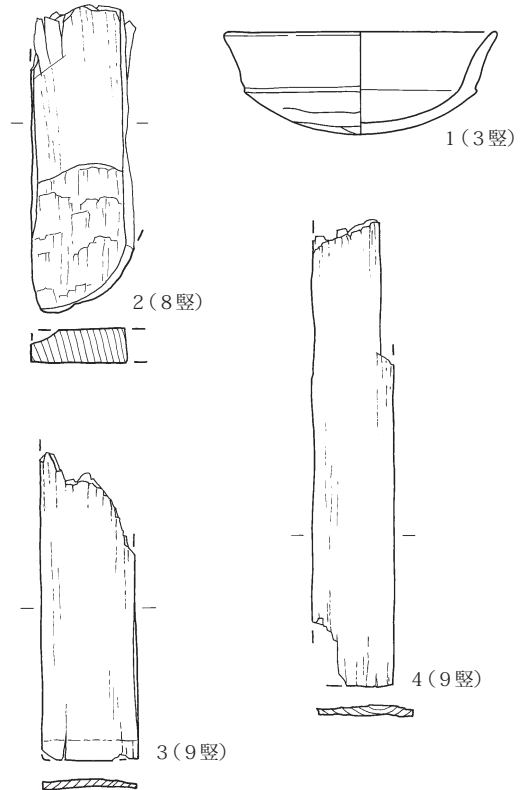
- 1 暗褐色土 よくしまる。細粒白色粒子含む。
- 2 暗褐色土 よくしまる。炭化物粒子・黄白色粒子含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。黄褐色土ブロック・黄白色粒子含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱く粘性あり。黄褐色土大ブロック・黄白色粒子含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱く粘性あり。黄褐色土大ブロック・黄白色土大ブロック多量に含む。

8・9号竪穴



8・9号竪穴状遺構

- 1 灰褐色土 やや硬くしまる。
- 2 灰褐色土 やや硬くしまる。暗褐色土ブロック含む。
- 3 灰褐色土 暗褐色土ブロック・黄白色粘土ブロック含む。
- 4 灰色砂質土
- 5 灰褐色粘質土 黄白色粘土ブロック含む。
- 6 灰褐色粘質土



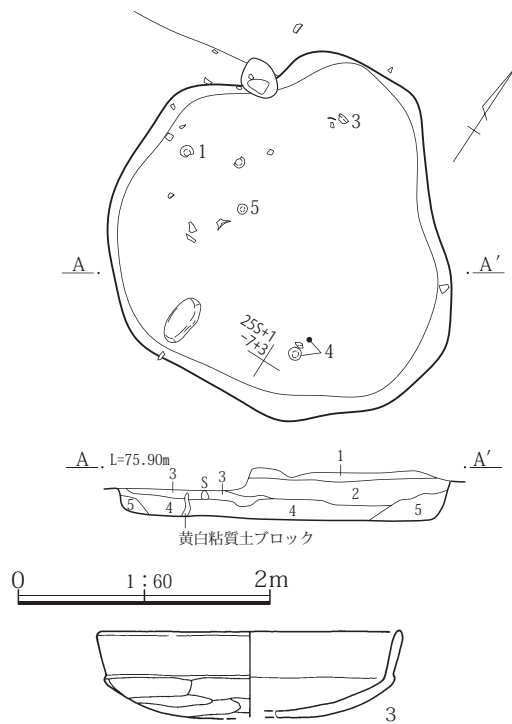
0 1:60 2m

0 1:4 8cm

第399図 3区1～3・8・9号竪穴状遺構と3・8・9号竪穴状遺構出土遺物

ある。この北辺と9号竪穴状遺構の南辺は、長さ約45cm幅約37cmの溝によってつながる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、9号竪穴状遺構の中央部は方形で皿状の土坑がある。埋没土は均質で人為埋没か。9号竪穴状遺構の規模は長軸335cm短軸163cm深さ26cmで、8号竪穴状遺構の規模は長軸161cm短軸25cm以上深さ20cmである。用途は不明である。埋没土から第399図2～4の板材が出土する。形態から桶の一部と思われる。出土遺物から近現代を下限とする。

10号竪穴



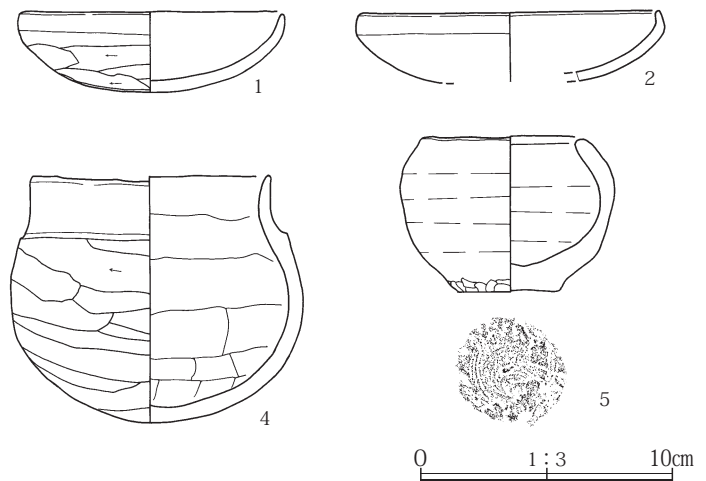
10号竪穴状遺構(第400図、P L.123・211、第156表)

位置 25S-7グリッド 主軸方位 N-87°-E

7号住居より前出で、78号住居より後出。平面形は不整形円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。硬化面、掘り方は認められない。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径291cm短径282cm深さ31cmである。遺物は底面に点在して出土する。出土遺物から古墳時代後期に比定される。

10号竪穴

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、焼土粒子、炭化物粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子、焼土粒子、炭化物、白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性非常にあり。ロームブロックを多量に含む。



第400図 3区10号竪穴状遺構と出土遺物

第156表 3区3・8・9・10号竪穴状遺構出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-------------|------------------|--------|---------------|-----------------------|--------------------|-------------------------------------|----------|
| 第399図 | 1 | 土師器 杯 | 3竪穴 1/4 | 口 | 10.5 | 高 4.0 | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第399図 | 2 | 木製品 不明板材 | 8竪穴 | | | | | 下半部は炭化。桶底に見えるが外縁部は丸みがなく、直線部がある。 | |
| 第399図 | 3 | 木製品 板 | 9竪穴 | 長 幅 | (16.2) 6.0 | 厚 0.5 | | 下端部は尖り気味に凹み、差し込んだ痕跡か。両端はやや摩滅する。桶側か。 | |
| 第399図 | 4 | 木製品 板 | 9竪穴 | 長 幅 | (24.7) 4.3 | 厚 0.6 | | 右端はやや厚く、左端はやや薄く摩滅して尖り気味。 | |
| 第400図 PL.211 | 1 | 土師器 杯 | 10竪穴 口縁部1/5欠損 | 口 | 10.2 | 高 最 10.5 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第400図 | 2 | 土師器 杯 | 10竪穴 1/4 | 口 | 11.7 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第400図 | 3 | 土師器 杯 | 10竪穴 1/4 | 口 | 11.8 | | 精選・赤色粘土粒/ 良好/橙 | 口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第400図 PL.211 | 4 | 土師器 鉢 | 10竪穴 ほぼ完形 | 口 | 9.3 | 高 稜 9.6 10.6 | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第490図 PL.211 | 5 | 須恵器 小型壺 | 10竪穴 完形 | 口 底 | 5.0 4.0 | 高 胴 6.1 8.4 | 細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙 | ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 | |

5 土坑

土坑87基が検出された。区画遺構に関連しないものを扱う。形態別に分類すると、以下のとおりとなる。

| | |
|-------|-----|
| 方形 | 2 |
| 長方形 | 1 |
| 両丸長方形 | 3 |
| 隅丸方形 | 8 |
| 隅丸長方形 | 7 |
| 円形 | 32 |
| 楕円形 | 20 |
| 長楕円形 | 3 |
| 溝状 | 4 |
| 不明・不詳 | 7 |
| 計 | 87基 |

円形・楕円形・長楕円形のものが、不明のものを除くと、7割近くを占めている。分布は全体に点在しており、特に集中する部分はない。円形のもので、桶を埋設したと思われる58・86号土坑はともに近世で、調査区の東端に近接する。

溝状のものは、東端の39号溝部分に限られ、一連の土坑であり、形態は板波状遺構に近い。

隅丸方形や隅丸長方形のものは、16区の13～19ラインの間で、やや集中する傾向がうかがえるが、関連づける特徴はない。

1号土坑(第401図、P L .123)

位置 25 S - 9 グリッド

70号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は整った円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土に焼土粒子を含み、住居から混入した可能性がある。規模は長径60cm短径60cm深さ30cmである。

2号土坑(第401図、P L .123)

位置 25 S - 4・5 グリッド

2・6号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は不整形円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土上位に灰褐色砂質土が水平堆積するが、用途は不明。規模は長径137cm短径103cm深さ15cmである。

3号土坑(第401図、P L .123)

位置 25 S - 6 グリッド

59号住居と重複し状況から後出か。平面形は不整形円形。

壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没状況不詳。規模は長径107cm短径95cm深さ30cmである。

4号土坑(第401図)

位置 25 S - 4 グリッド

44・45号住居と重複し状況から後出か。平面形は両丸長方形。主軸方位はN - 17° - W。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は均質で、埋没状況不詳。規模は長軸223cm短軸107cm深さ15cmである。

5号土坑(第401・408図、P L .123、第157表)

位置 25 S - 4 グリッド

平面形は不整形円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土最下位の8は硬くしまり、上層6は水平堆積して粘土ブロックを多く含んで、なんらかの容器の据え方とみられる。上位を黄白色土などで人為的に埋める。規模は長径150cm短径133cm深さ87cmである。底面近くから第408図1の土師器台付甕台部が出土する。出土遺物から古墳時代後期に比定される。

6号土坑(第401図、P L .123)

位置 15 R・S - 10 グリッド

12号住居、6号溝と重複し状況から後出。平面形は不整形楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土中位以下は粘土などで埋まり硬くしまる。上位はサラサラした砂質土で、8は据えた痕跡と思われ、桶などを据えた土坑と考えられる。規模は長径173cm短径148cm深さ37cmである。埋没土から近現代の陶磁器が出土し、近現代を下限とする。

14号土坑(第401図、P L .124)

位置 15 S - 19 グリッド

15号土坑より後出。平面形はほぼ円形。断面形は皿状。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長径95cm短径95cm深さ13cmである。

15号土坑(第401図、P L .124)

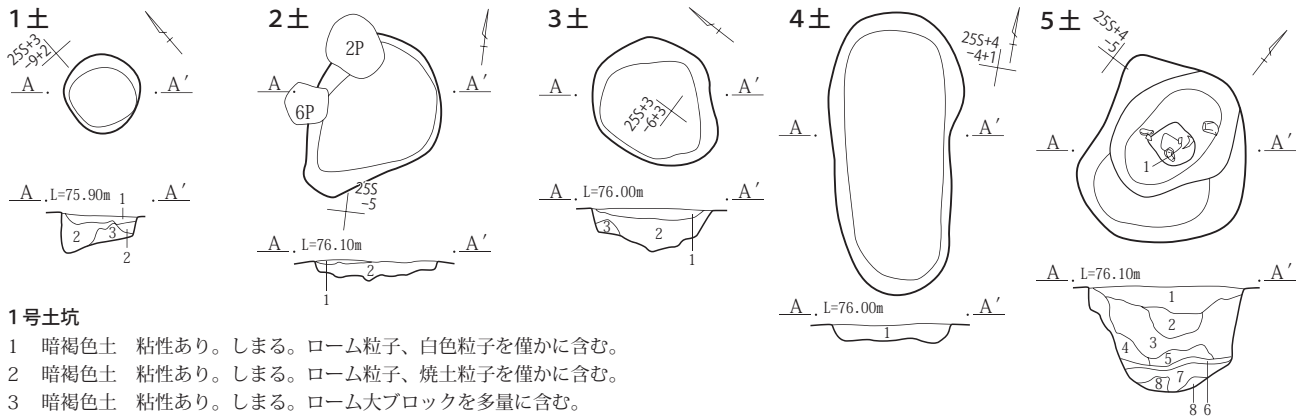
位置 15 S - 19 グリッド

14号土坑より前出。平面形は隅丸方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。上位に土器や礫がやや多く投棄され、人為埋没する。規模は長径105cm短径98cm深さ65cmである。出土遺物から古墳時代に比定される。

19号土坑(第401図)

位置 15 S - 16 グリッド

18号住居と重複し状況から後出か。平面形は不整形円形。



1号土坑

- 1 暗褐色土 粘性あり。しまる。ローム粒子、白色粒子を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。しまる。ローム粒子、焼土粒子を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 粘性あり。しまる。ローム大ブロックを多量に含む。

2号土坑

- 1 灰褐色土 砂質。
- 2 暗褐色土 粘性あり。しまる。白色粒子、焼土粒子をごく僅かに含む。

3号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。白色粒子、ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム粒子を多量に含む。

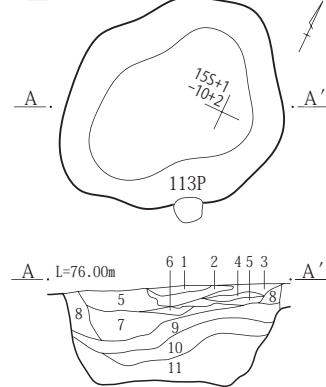
4号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。白色粒子、ローム粒子を少量含む。

5号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。白色粒子、炭化物粒子、黄白色土ブロックを含む。
- 2 黄白色土 軟らかくてしまり良い。暗褐色土、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。黄白色土ブロックを含む。上層より暗い色調。
- 4 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を含む。3層よりも明るい色調。
- 5 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 6 暗黄灰色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。暗黄褐色土ブロックを多く含む。
- 7 褐灰色土 やや硬くしまる。
- 8 明黄褐色土 軟らかくてしまり良い。褐灰色土ブロックを含む。

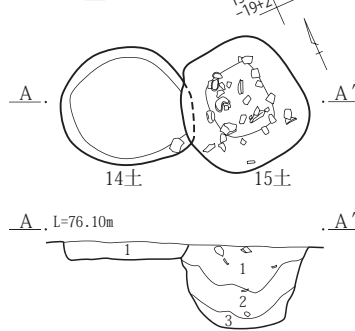
6号土坑



6号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。サラサラしている。浅間B軽石を含む。
- 2 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。浅間B軽石を含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。浅間B軽石を含む。
- 5 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。浅間B軽石を含む。
- 6 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。浅間B軽石を含む。黄白色土ブロックを含む。
- 7 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。浅間B軽石、炭化物を含む。
- 8 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。黄白色土ブロックを含む。
- 9 黄白色粘質土
- 10 黄褐色土 やや硬くしまる。ロームと暗褐色土の混土。
- 11 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロックを少量含む。

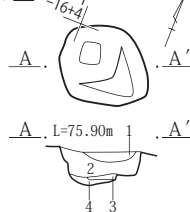
14・15号土坑



14・15号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色土ブロックを含む。

19号土坑



19号土坑

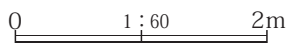
- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。
- 3 灰褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。
- 4 暗褐色土 やや硬くしまり粘性非常にあり。黄白色粘質土ブロックを含む。

30号土坑



30号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを少量含む。



第401図 3区1～6・14・15・19・30号土坑

壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径68cm短径65cm深さ25cmである。

30号土坑(第401図、P L.124)

位置 25S-5グリッド

209号ピットより前出。平面形は不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径97cm短径87cm深さ33cmである。

31号土坑(第402図)

位置 25R-1・2グリッド

平面形は不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没状況不詳。規模は長径96cm短径68cm深さ46cmである。

32号土坑(第402図)

位置 25Q・R-4グリッド

平面形は不整形円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径68cm短径53cm深さ37cmである。

35号土坑(第402図)

位置 15S・T-14グリッド

24号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は不整形円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。埋没状況不詳。規模は長径98cm短径85cm深さ35cmである。

37号土坑(第402図、P L.124)

位置 25T-7グリッド

60号住居と重複し状況から後出。平面形は隅丸長方形か。主軸方位はN-12°-W。断面形は皿状。底面は平坦。埋没土は均質で、浅間B軽石を含む。埋没状況不詳。規模は長軸220cm短軸132cm深さ15cmである。

38号土坑(第402図、P L.124)

位置 25R-2・3グリッド

平面形は不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、植物攪乱顕著。下半は黄褐色土で埋まり、全体に埋没土はやや硬くしまる。何らかの据え方を思わせる。規模は長径100cm短径88cm深さ15cmである。

39号土坑(第402図、P L.124)

位置 25T-3グリッド

平面形は円形。壁は垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長径83cm短径80cm深さ45cmである。

44号土坑(第402・408図、P L.124、第157表)

位置 25T-2グリッド

34号住居より前出。平面形は不整形円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径150cm短径105cm深さ67cmである。埋没土上位に遺物がややまとまり、第408図3の土師器高杯脚部が出土する。出土遺物から古墳時代に比定される。

45号土坑(第402図)

位置 25S・T-7グリッド

平面形は不整形円形。断面形は皿状。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径113cm短径110cm深さ18cmである。

53号土坑(第402・408図、第157表)

位置 25R・S-6グリッド

63号住居と重複するが、新旧関係不明。平面形は隅丸方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸80cm短軸67cm深さ40cmである。埋没土から第408図4の土師器埴が出土する。出土遺物から古墳時代前期に比定される。

54号土坑(第402・408図、P L.211、第157表)

位置 25S・T-5グリッド

4号住居と重複するが、新旧関係不明。上面の平面形は不整形円形で、中位以下は隅丸方形。短軸の壁はほぼ垂直に立ち上がる。中位以下は黄褐色土で埋まり人為埋没する。規模は長径178cm短径128cm深さ75cmである。遺物は中央部凹みに集中する。出土遺物から5世紀後半に比定される。

55号土坑(第403図)

位置 25S-10グリッド

8号住居より前出か。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。自然埋没か。規模は、長径79cm短径65cm深さ14cmである。8号住居の床下土坑の可能性もあるが、調査時の認定により土坑とする。埋没土から4世紀代の土師器が出土する。

56号土坑(第402・409図、P L.124・211、第157表)

位置 25T-11グリッド

重複する溝は遺構認定されず、詳細は不明。平面形は不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土は水平方向に堆積して不自然であり、人為埋没か。埋没土上位から第409図11の敲石ほか棒状礫がやや多く出土する。出土遺物から古墳時代に比定される。規模は

長径215cm短径110cm深さ37cmである。

58号土坑(第402図、P L .124)

位置 5 R - 9 グリッド

平面形は整った円形。壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦で、壁下に沿って断面幅7cm深さ3cmの溝が巡る。桶を埋設した土坑である。埋没状況不詳。掘り方の所見はない。規模は長径140cm短径135cm深さ30cmである。形態から近世以降と考えられる。

71号土坑(第403図、P L .124)

位置 5 R - 10 グリッド

平面形はほぼ楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹して、植物攪乱顕著。埋没土に浅間B軽石を含む。埋没状況不詳。規模は長径118cm短径90cm深さ19cmである。

72号土坑(第403図、P L .124)

位置 5 R - 10 グリッド

平面形はほぼ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹し、中央部はピット状に凹む。埋没土に浅間B軽石を含む。埋没状況不詳。規模は長径65cm短径62cm深さ17cmである。

86号土坑(第403・409図、P L .124・211、第157表)

位置 5 R - 7・8 グリッド

平面形は整った円形。壁は垂直に立ち上がり、壁面に縦板材が残る。底面は平坦で板材が残る。桶を埋設した土坑である。板の下は据え方として、粘質土が8cm埋められる。側面掘り方の所見はない。埋没土は砂質土で水平に埋まり人為埋没。規模は長径103cm短径103cm深さ37cmである。埋没土中位から第409図12の蹄鉄が出土する。出土遺物と形態から近世以降と考えられる。

116号土坑(第403図、P L .124)

位置 6 A - 11・12 グリッド

平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-14°-W。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸173cm短軸65cm深さ11cmである。

117号土坑(第403図、P L .124)

位置 5 S - 10・11 グリッド

13号溝と重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長径73cm短径42cm深さ8cmである。

129号土坑(第403図、P L .125)

位置 6 A - 20 グリッド

27号溝より後出。平面形は両丸長方形。壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸293cm短軸122cm深さ32cmである。出土遺物から近現代に埋没する。

131号土坑(第403図、P L .125)

位置 6 A・B - 20 グリッド

27号溝の北縁に重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。断面形はピット状。埋没土に焼土粒子を含み、106・110号住居のいずれかに帰属する可能性がある。規模は長径58cm短径51cm深さ38cmである。

162号土坑(第403図)

位置 5 T - 8・9 グリッド

平面形は不整楕円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没土は黒みが強い。埋没状況不詳。規模は長径248cm短径150cm深さ35cmである。

163号土坑(第403図、P L .125)

位置 5 S・T - 8・9 グリッド

平面形は溝状。断面形は皿状。底面は凸凹する。埋没土は強くしまる。埋没状況不詳。規模は長軸334cm短軸60cm深さ9cmである。以下、166号土坑までは並走して、形態も類似する。一連の遺構である。南側の39号溝では小規模なものをピットとして掲載した。調査所見はないが、全体として波板状遺構を思わせる。

164号土坑(第403図、P L .125)

位置 5 S・T - 8・9 グリッド

平面形は溝状。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没土は強くしまる。埋没状況不詳。規模は長軸304cm短軸68cm深さ28cmである。

165号土坑(第403図、P L .125)

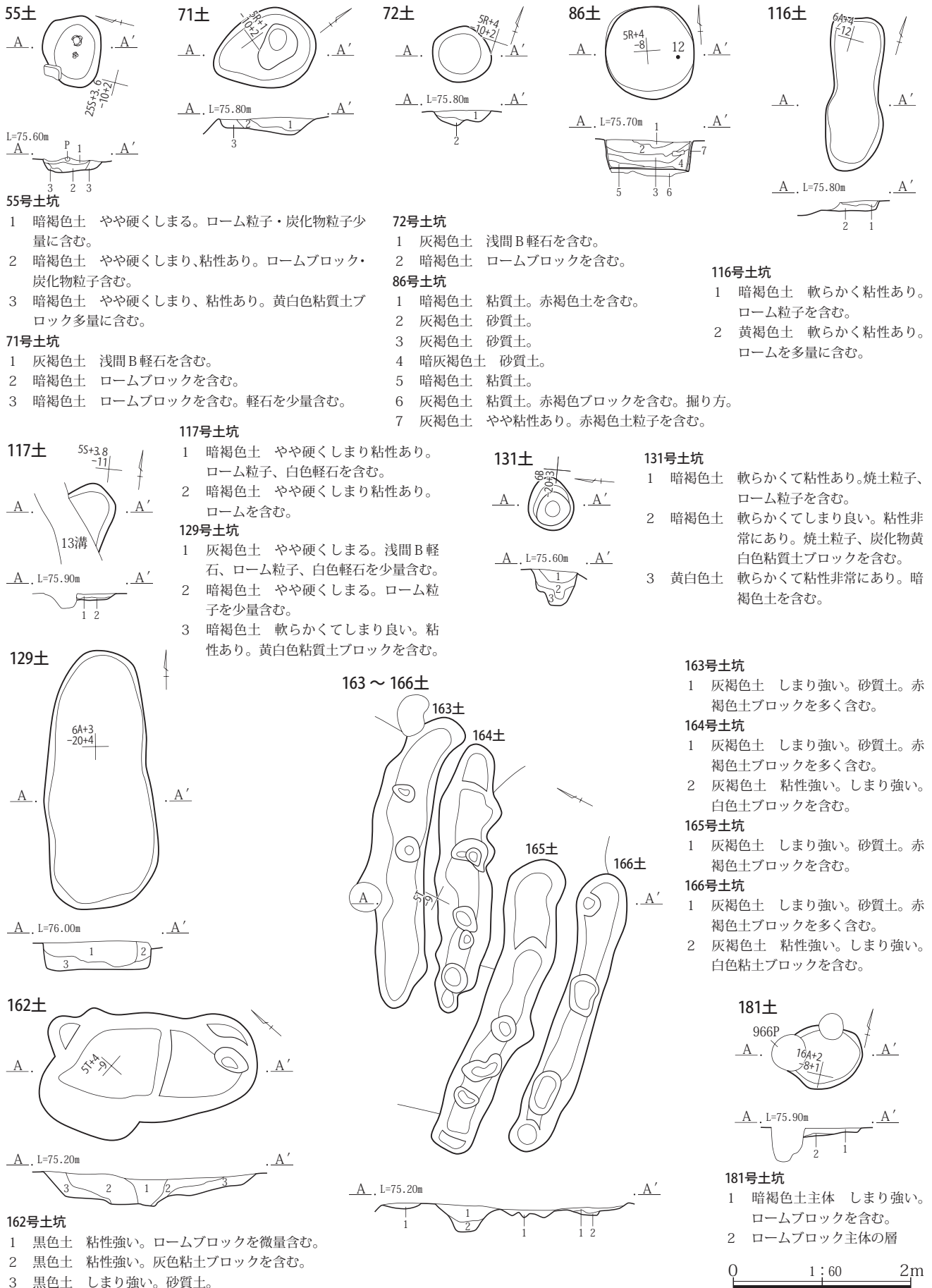
位置 5 S - 8・9 グリッド

平面形は溝状。断面形は皿状。底面は凸凹する。埋没土は強くしまる。埋没状況不詳。規模は長軸348cm短軸63cm深さ7cmである。

166号土坑(第403図、P L .125)

位置 5 S - 8・9 グリッド

平面形は溝状。断面形は皿状。底面は凸凹する。埋没土は強くしまる。埋没状況不詳。規模は長軸328cm短軸57cm深さ8cmである。



第403図 3区 55・71・72・86・116・117・129・131・162～166・181号土坑

181号土坑(第403図)

位置 16A-8グリッド

966号ピットより前出。平面形はほぼ円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径88cm短径71cm深さ9cmである。

182号土坑(第404図、P L .125)

位置 16B-7・8グリッド

183号土坑より前出。平面形は不整形円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径85cm短径65cm深さ52cmである。

183号土坑(第404図、P L .125)

位置 16B-7・8グリッド

182号土坑より後出。平面形は長楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径161cm短径83cm深さ62cmである。

184号土坑(第404図)

位置 16A-8・9グリッド

平面形はほぼ円形。断面形は皿状。底面は丸みがある。埋没土は強くしまる。埋没状況不詳。規模は長径73cm短径67cm深さ7cmである。

185号土坑(第404図、P L .125)

位置 15T-10グリッド

8号溝より後出。平面形はほぼ円形。断面形は円筒形。底面は平坦。埋没土に浅間B軽石を含む。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長径96cm短径78cm深さ77cmである。

186号土坑(第404図、P L .125)

位置 15T・16A-12・13グリッド

1092・1185号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸方形。主軸方位はN-75°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で西半部は方形に一段下がる。西壁側から人為的に埋没する。規模は長軸217cm短軸214cm深さ24cmである。

187号土坑(第404図、P L .125)

位置 16B-13・14グリッド

北半部は調査区域外となるが、平面形は隅丸長方形か。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は水平方向に堆積して不自然であり人為埋没か。規模は長軸212cm短軸40cm深さ23cmである。

188号土坑(第404図)

位置 15T-15グリッド

平面形は隅丸方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長軸124cm短軸97cm深さ30cmである。埋没土から中世以降の土器が出土する。

190号土坑(第404図)

位置 15T-17グリッド

平面形は楕円形。断面形はピット状。埋没状況不詳。規模は長径53cm短径45cm深さ40cmである。

192号土坑(第404図、P L .125)

位置 16A-17グリッド

212号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。自然埋没か。規模は長径125cm短径110cm深さ25cmである。

193号土坑(第404図、P L .125)

位置 16B-16グリッド

平面形は両丸長方形。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没。規模は長軸178cm短軸72cm深さ13cmである。

194号土坑(第404・409図、第157表)

位置 16B-17・18グリッド

983・976号ピット、2号溝と重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸190cm短軸103cm深さ7cmである。埋没土から第409図13の土師器甕が出土する。出土遺物から古墳時代前期の可能性はある。

195号土坑(第404図)

位置 16A・B-12グリッド

215号土坑と近接するが、直接重複はしない。平面形は不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は西へ傾斜する。埋没状況不詳。規模は長径82cm短径75cm深さ17cmである。

197号土坑(第405図、P L .125)

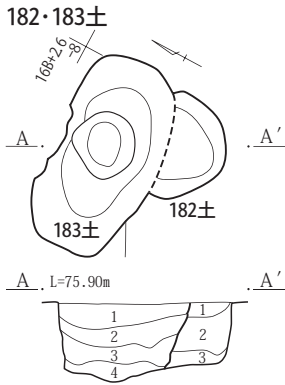
位置 15T・16A-17グリッド

2号溝より後出か。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-53°-E。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長軸185cm短軸90cm深さ22cmである。

198号土坑(第405図、P L .125)

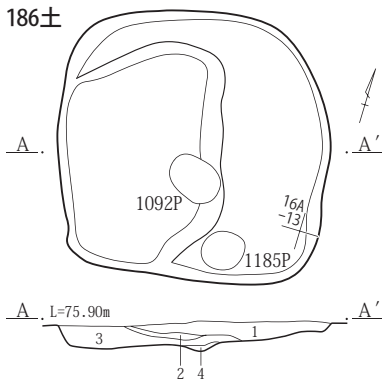
位置 16A-18グリッド

60溝と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。

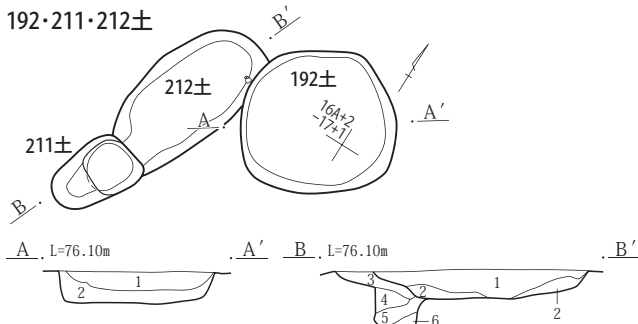


- 182号土坑**
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを少量含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロック、白色軽石を含む。
 - 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。

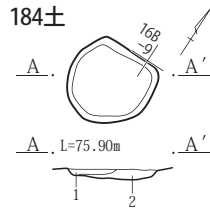
- 183号土坑**
- 1 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
 - 2 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。黄白色粘質土ブロックを少量含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを少量含む。
 - 4 灰褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土をやや多く含む。



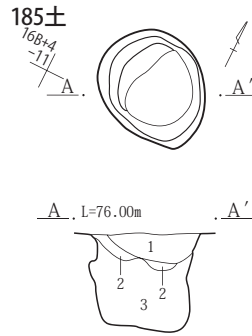
- 186号土坑**
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色軽石を少量含む。
 - 2 黄褐色土 軟らかくてしまり良い。ロームブロックをやや多く含む。
 - 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを少量含む。
 - 4 灰褐色土 軟らかくて粘性あり。



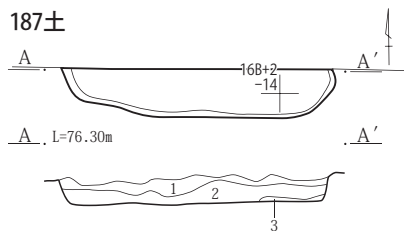
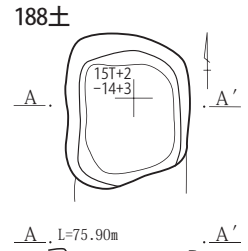
- 192号土坑**
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。ローム粒子、白色粒子を少量含む。
 - 2 黒褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 211・212号土坑**
- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。炭化物粒子を少量、ローム粒子を微量含む。
 - 2 暗褐色土 1層に近いが炭化物粒子を含まない。
 - 3 暗褐色土 しまり弱い。ロームブロックを多く含む。
 - 4 暗褐色土 3層に軽石を含む。
 - 5 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を少量含む。
 - 6 暗褐色土 しまり弱い。粘土ブロック、粘土粒子を含む。



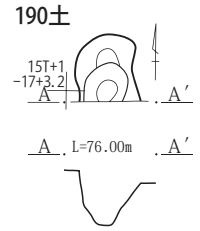
- 184号土坑**
- 1 暗褐色土 しまり強い。軽石を含む。
 - 2 黒褐色土



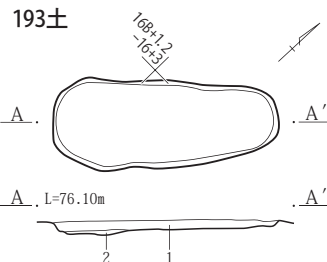
- 185号土坑**
- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。浅間B軽石を含む。
 - 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
 - 3 黒褐色土 軟らかくてサラサラしている。浅間B軽石、黄白色粘質土ブロックを含む。



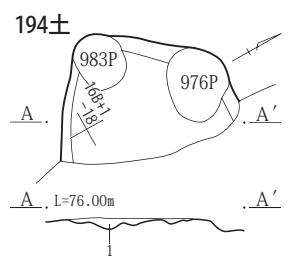
- 187号土坑**
- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。
 - 2 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を微量含む。
 - 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。



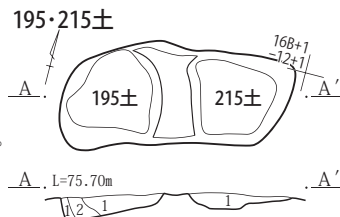
- 191号土坑**
- 1 黒褐色土 しまり強い。軽石を微量、ローム粒子、ロームブロックを含む。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
 - 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多く含む。
 - 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ローム粒子を多く含む。
 - 5 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。



- 193号土坑**
- 1 暗褐色土 しまり強い。焼土粒子、ローム粒子を少量、ロームブロックを多量に含む。
 - 2 暗褐色土 しまりやや弱い。炭化物粒子を多量に、ローム粒子を含む。

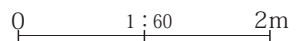


- 194号土坑**
- 1 暗褐色土 軟らかくてしまり粘性あり。ローム粒子、ロームブロック、白色粒子を少量含む。



- 195号土坑**
- 1 黒褐色土 しまり強い。ローム粒子を多量に、ロームブロックを含む。
 - 2 黒褐色土 しまり強い。ローム粒子を微量含む。

- 215号土坑**
- 1 暗褐色土 しまり強い。軽石を少量含む。



第404図 3区 182～188・190～195・211・212・215号土坑

主軸方位はN-27°-W。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没土に浅間B軽石を含む。埋没土は均質で人為埋没か。規模は長軸127cm短軸90cm深さ10cmである。

199号土坑(第405図、P L .125)

位置 16A-18グリッド

60号溝と重複するが、新旧関係不明。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦で東側は方形に掘り込まれる。埋没土は中位まで粘土を多量に含み人為埋没する。規模は長径97cm短径68cm深さ50cmである。埋没土上位で土師器甕が出土したが、調査段階で溝の遺物とされている。

200号土坑(第405・409図、P L .211、第157表)

位置 16A-17グリッド

123号住居より後出。平面形は隅丸方形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。自然埋没か。規模は長軸87cm短軸78cm深さ62cmである。埋没土から第409図14の砥石が出土する。時期は比定できない。

201号土坑(第405・409図、P L .126)

位置 26B-5グリッド

123号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸長方形。主軸方位はN-11°-W。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。規模は長軸162cm短軸85cm深さ10cmである。

202号土坑(第405・409図、第157表)

位置 26A-3・4グリッド

153号住居と重複するが新旧関係不明。平面形はほぼ円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがある。自然埋没か。規模は長径95cm短径95cm深さ67cmである。底面近くから第409図15の土師器杯が出土する。出土遺物から古墳時代後期に比定される。

203号土坑(第405図、P L .126)

位置 16A-20グリッド

142号住居より後出。平面形はほぼ円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長径97cm短径93cm深さ35cmである。

204号土坑(第405・410図、P L .126・211、第157表)

位置 26A-7グリッド

135号住居より後出。平面形は隅丸長方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸みがあり、中央部が更に凹む。埋没状況不詳。規模は長軸212cm短軸155cm深さ45cmである。底面でやや多く遺物が出土した。135号住居と同時

期だが出土遺物から6世紀前半に比定される。

205号土坑(第405図)

位置 25T-7グリッド

60号住居、219号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は不整楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長径83cm短径48cm深さ17cmである。

206号土坑(第405・410図、P L .126・211、第157表)

位置 26B-6グリッド

148・150号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長径69cm短径50cm深さ22cmである。埋没土から第410図23の須恵器椀が出土する。出土遺物から平安時代に比定される。

208号土坑(第406図、P L .126)

位置 16A-18・19グリッド

137号住居と重複するが、新旧関係不明。平面形は楕円形か。断面形は皿状か。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径90cm短径55cm深さ13cmである。

209号土坑(第406図、P L .126)

位置 16A-18・19グリッド

60号溝と重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長軸82cm短軸48cm深さ20cmである。

210号土坑(第406・410図、P L .126、第157表)

位置 15T-15グリッド

13号井戸と重複するが新旧関係不明。平面形は隅丸方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長軸119cm短軸107cm深さ50cmである。底面近くで人頭大角礫が出土し、その横から第410図24の土師器器台が出土する。出土遺物から古墳時代に比定される。

211号土坑(第404図)

位置 16A-17グリッド

212号土坑より前出。平面形は隅丸方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長軸75cm短軸45cm深さ45cmである。

212号土坑(第404図、P L .126)

位置 26A-17グリッド

211号土坑より後出で、192号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は長楕円形。壁は緩やかに立ち上がる。底



197土

198土

199土

200土

197号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや弱い。軽石を微量含む。
- 3 黒褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を微量含む。
- 4 褐色土 ロームブロックを含む。

198号土坑

- 1 暗褐色土 しまり弱い。浅間B軽石、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱い。浅間B軽石を少量含む。

199号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロック、粘土粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロックを多量に、粘土粒子を含む。
- 4 灰褐色土 しまりやや弱い。粘土ブロックを多量に、粘土粒子を含む。

200号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を少量含む。
- 2 黒褐色土 しまりやや弱い。軽石、ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。

201土

202土

203土

204土

201号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬い。焼土粒子、ローム粒子をやや多く含む。

202号土坑

- 1 暗褐色土 軟らかくてサラサラしている。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 軟らかく粘性あり。ローム粒子、黄白色粘質土ブロックを含む。

203号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を微量含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。焼土粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を微量、ローム粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。

204号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロック、白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土ブロック、炭化物、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物、ロームブロックを含む。
- 4 黄褐色土 軟らかくて粘性あり。ローム主体で暗褐色土を含む。

205・219土

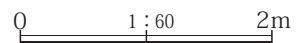
219号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子、白色軽石を含む。暗い色調。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 5 褐色土 ロームブロック主体の層。

206土

206号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子をやや多く含む。



第405図 3区197～206・219号土坑

面は丸みがある。自然埋没か。規模は長径130cm短径65cm深さ22cmである。

213号土坑(第406図)

位置 16A-19グリッド

141・142号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は長楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長径125cm短径53cm深さ10cmである。

214号土坑(第406図、P L .126)

位置 16B-19・20グリッド

138・140号住居と重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸133cm短軸120cm深さ32cmである。

215号土坑(第404図)

位置 16B-12グリッド

195号土坑と近接するが、直接重複はしない。平面形は台形に近い方形。断面形は皿状。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長軸85cm短軸72cm深さ13cmである。

216号土坑(第406・410図、第157表)

位置 25T・26A-3・4グリッド

157号住居より前出。平面形は長方形。主軸方位はN-34°-E。壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦。埋没土は水平方向に堆積して人為埋没か。規模は長軸138cm短軸85cm深さ101cmである。埋没土から第410図25の土師器甕が出土する。出土遺物から古墳時代に比定される。

217号土坑(第406図)

位置 16A-9グリッド

137号住居と重複するが、新旧関係不明。平面形はほぼ円形か。断面形はU字形。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径57cm短径48cm深さ22cmである。

218号土坑(第406図)

位置 26A-4・5グリッド

153号住居より前出。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。自然埋没か。規模は長径182cm短径122cm深さ39cmである。

219号土坑(第405図)

位置 25T-7グリッド

60・146号住居、205号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は不整形円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面上位8cmに硬化面があり、床面の可能性がある。自然埋没か。

規模は長軸225cm短軸193cm深さ32cmである。

220号土坑(第406図、P L .126)

位置 16A-20グリッド

203号土坑と重複するが新旧関係不明。平面形は楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦。埋没状況不詳。規模は長径83cm短径70cm深さ25cmである。

221号土坑(第406図)

位置 16B-9・10グリッド

114号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は不整形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。自然埋没か。規模は長軸155cm短軸42cm深さ70cmである。

222号土坑(第406図)

位置 25T-6グリッド

147号住居、1208号ピットと重複するが新旧関係不明。平面形は不整形円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径98cm短径82cm深さ25cmである。

223号土坑(第406図)

位置 26A-6グリッド

平面形はほぼ円形。断面形はピット状。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。規模は長径63cm短径57cm深さ50cmである。

224号土坑(第407図、P L .126)

位置 26A-11グリッド

平面形は不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は平坦で、西側はピット状に凹む。埋没状況不詳。規模は長径91cm短径67cm深さ19cmである。

225号土坑(第407図、P L .126)

位置 25T-9グリッド

161号住居と重複するが、新旧関係は不明。平面形は不整形円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面は凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径98cm短径75cm深さ30cmである。

226号土坑(第407図、P L .126)

位置 25T-10グリッド

125号住居と重複するが新旧関係不明。平面形は不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は黄褐色土が主体で焼土ブロックを含むが、遺構の性格を示す所見は得られていない。規模は長軸131cm短軸97cm深さ16cmである。

227号土坑(第407図)

位置 26A-11・12グリッド

58号溝と重複するが新旧関係不明。平面形は不整楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径110cm短径105cm深さ13cmである。

228号土坑(第407図、P L.126)

位置 25T-5グリッド

平面形は不整楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径82cm短径51cm深さ33cmである。

229号土坑(第407図、P L.126)

位置 25T-10グリッド

南半部は調査精度の違いで検出できていない。平面形は楕円形か。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土は硬くしめるが、遺構の性格を示す所見は得られていない。規模は長径72cm短径60cm深さ8cmである。

230号土坑(第407図)

位置 25T-10グリッド

平面形は楕円形。壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや凸凹する。埋没状況不詳。規模は長径119cm短径82cm深さ15cmである。

231号土坑(第407・411図、P L.126・211、第157表)

位置 26A-11グリッド

上段の平面形は隅丸方形で、中位から円筒形に掘られる。上段の壁は斜めに立ち上がる。上段の底面は凸凹する。埋没土はロームブロックが目立ち人為埋没か。形態から住居の貯蔵穴である可能性が高いが、帰属する住居は確認できていない。規模は長軸115cm短軸107cm深さ65cmである。底面近くから第410図27の土師器甕、上部壁面か

ら同26の土師器杯が出土する。近現代の陶磁器は混入であろう。出土遺物から5世紀後半に比定される。

232号土坑(第407図、P L.126)

位置 25T・26A-11グリッド

平面形は隅丸方形。断面形は皿状。底面はほぼ平坦。埋没土は黄褐色土を主体とするが、遺構の性格を示す所見は得られていない。規模は長軸102cm短軸90cm深さ11cmである。

233号土坑(第407図)

位置 26B-3グリッド

平面形はほぼ円形。断面形は袋状。底面はほぼ平坦。自然埋没か。規模は長径75cm短径73cm深さ42cmである。

234号土坑(第407・411図、P L.126・211、第157表)

位置 25T-3・4グリッド

45・176号住居と重複するが新旧関係不明。平面形不詳。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没土はロームブロックが目立つ黒褐色土で人為埋没か。規模は長径139cm短径48cm深さ91cmである。底面から第411図29の土師器壺が出土する。出土遺物から古墳時代に比定される。

235号土坑(第407図)

位置 26B-1・2グリッド

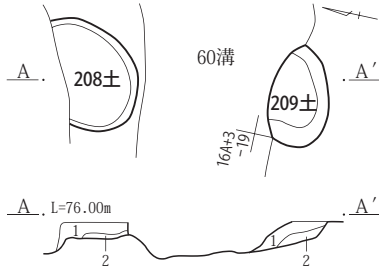
平面形は不整円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みがある。埋没状況不詳。規模は長径120cm短径95cm深さ16cmである。

237号土坑(第407)

位置 25T-8グリッド

平面形不詳。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。埋没状況不詳。規模は長径80cm短径28cm深さ27cmである。

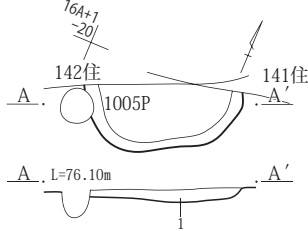
208・209土



208・209号土坑

- 1 暗褐色土 しまり弱い。軽石を微量含む。
- 2 暗褐色土 しまり弱い。軽石を微量、ローム粒子を多く含む。

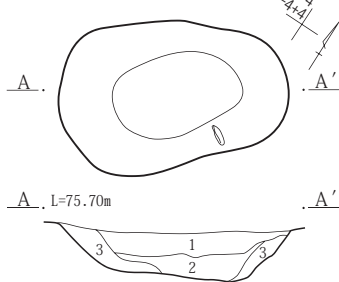
213土



213号土坑

- 1 暗褐色土 しまり弱い。軽石を微量含む。

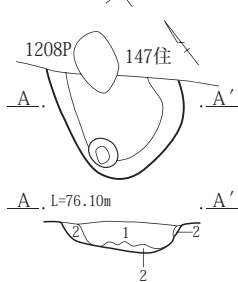
218土



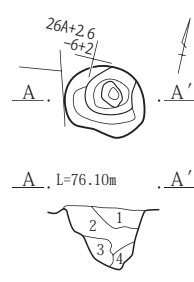
218号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり、粘性少しあり。ローム粒子、白色軽石、焼土粒子、炭化物粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石を多く、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子、白色軽石、ロームブロックを多く、炭化物粒子を少量含む。

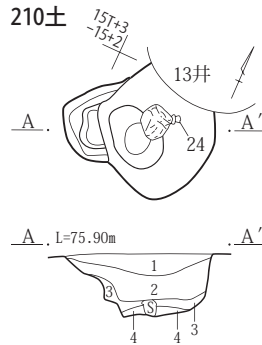
222土



223土



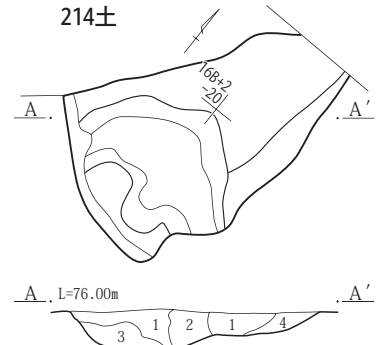
210土



210号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を少量、炭化物粒子、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。

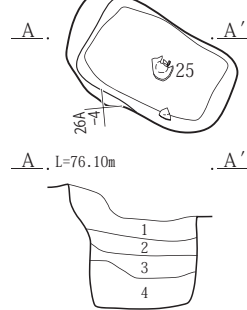
214土



214号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石、ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。軽石を多量、ローム粒子を含む。

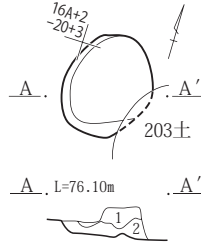
216土



216号土坑

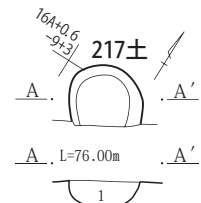
- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロック、黄白色粘質土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロック、同粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックをやや多く含む。
- 4 黄白色粘質土 暗褐色土を少量含む。

220土



220号土坑

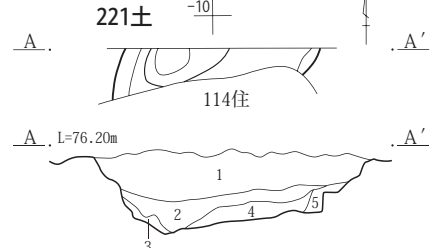
- 1 暗褐色土 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子、白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性弱い。ロームブロックを少量、白色粒子、ローム粒子を微量含む。



217号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。軽石を含む。

221土



221号土坑

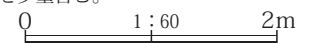
- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。焼土粒子を微量、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を含む。
- 3 褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子を多く含む。

222号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子、白色軽石を含む。
- 2 茶褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロックを含む。

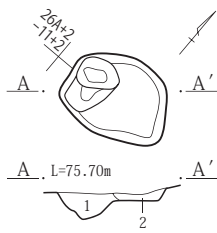
223号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまる。ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。粘性あり。ロームブロックをやや多く含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。ロームブロック、黒色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 軟らかくて粘性あり。黄白色粘質土ブロックを少量含む。

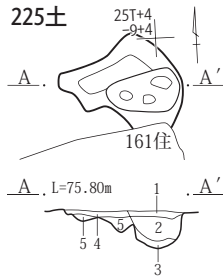


第406図 3区208～210・213・214・216～218・220～223号土坑

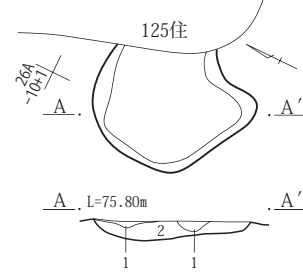
224土



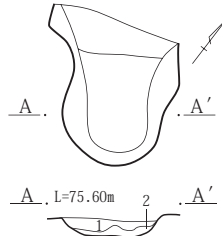
225土



226土



227土



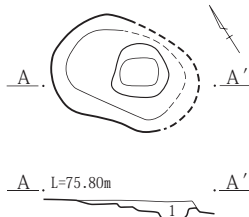
226号土坑

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を少量、ローム粒子を多量に含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームを主体に焼土ブロック、暗褐色土を含む。

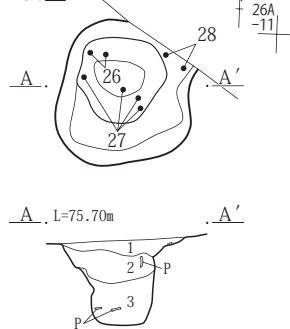
227号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

230土



231土



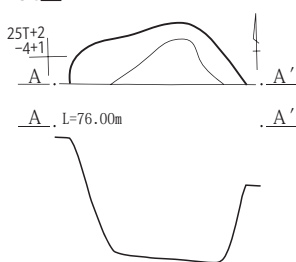
230号土坑

- 1 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子を少量、ロームブロック、白色軽石をやや多く含む。

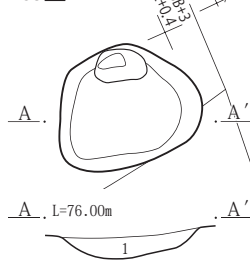
231号土坑

- 1 暗褐色土 硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子を少量、白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 軟らかくてしまり良い。粘性あり。ロームブロックを含む。

234土



235土



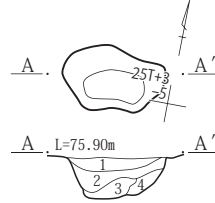
224号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量、ロームブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。ロームブロックを含む。暗い色調。

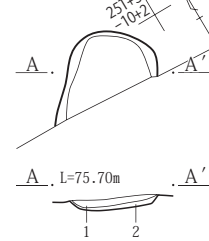
225号土坑

- 1 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや硬くしまる。焼土ブロック、ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 やや硬くしまり粘性あり。黄白色粘質土ブロックを含む。
- 4 黄褐色土 硬くしまる。焼土ブロック、ロームブロック、暗褐色土の混土。
- 5 暗褐色土 硬くしまり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。ロームブロックを含む。

228土



229土



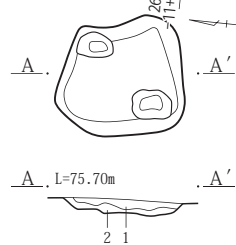
228号土坑

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや弱い。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 しまり強い。ロームブロックを多く含む。

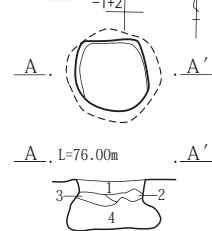
229号土坑

- 1 暗褐色土 硬くしまる。ローム粒子、白色粒子を含む。
- 2 黄褐色土 やや硬くしまり粘性あり。暗褐色土を含む。

232土



233土



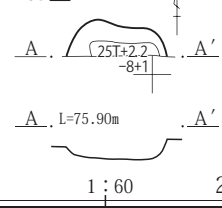
232号土坑

- 1 黄褐色土 硬くしまり粘性あり。ローム主体の層。
- 2 灰色土 硬くしまり粘性あり。ロームブロックを少量含む。

233号土坑

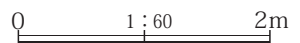
- 1 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ロームブロック、シルトブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 しまりあり。粘性あり。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。

237土

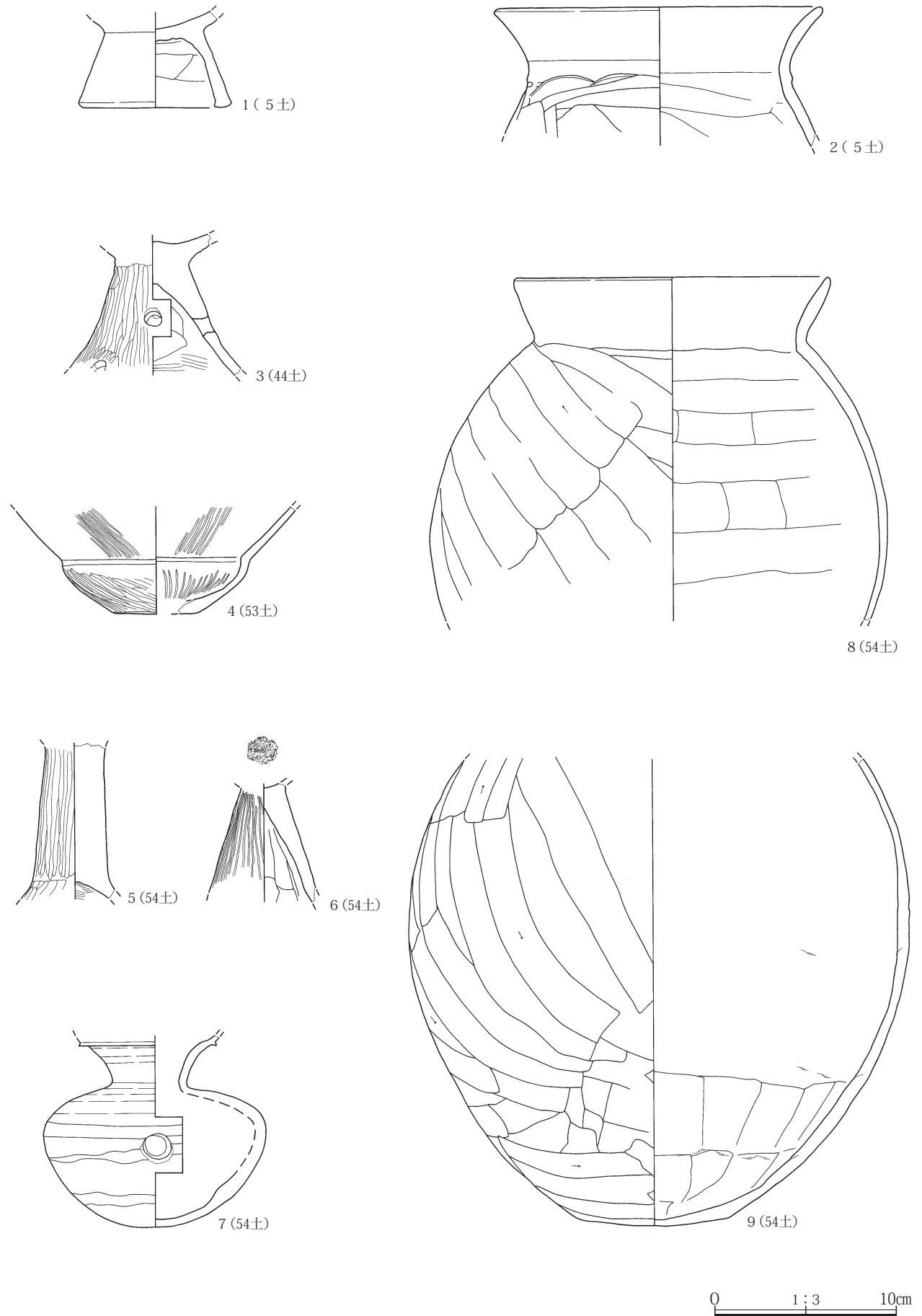


235号土坑

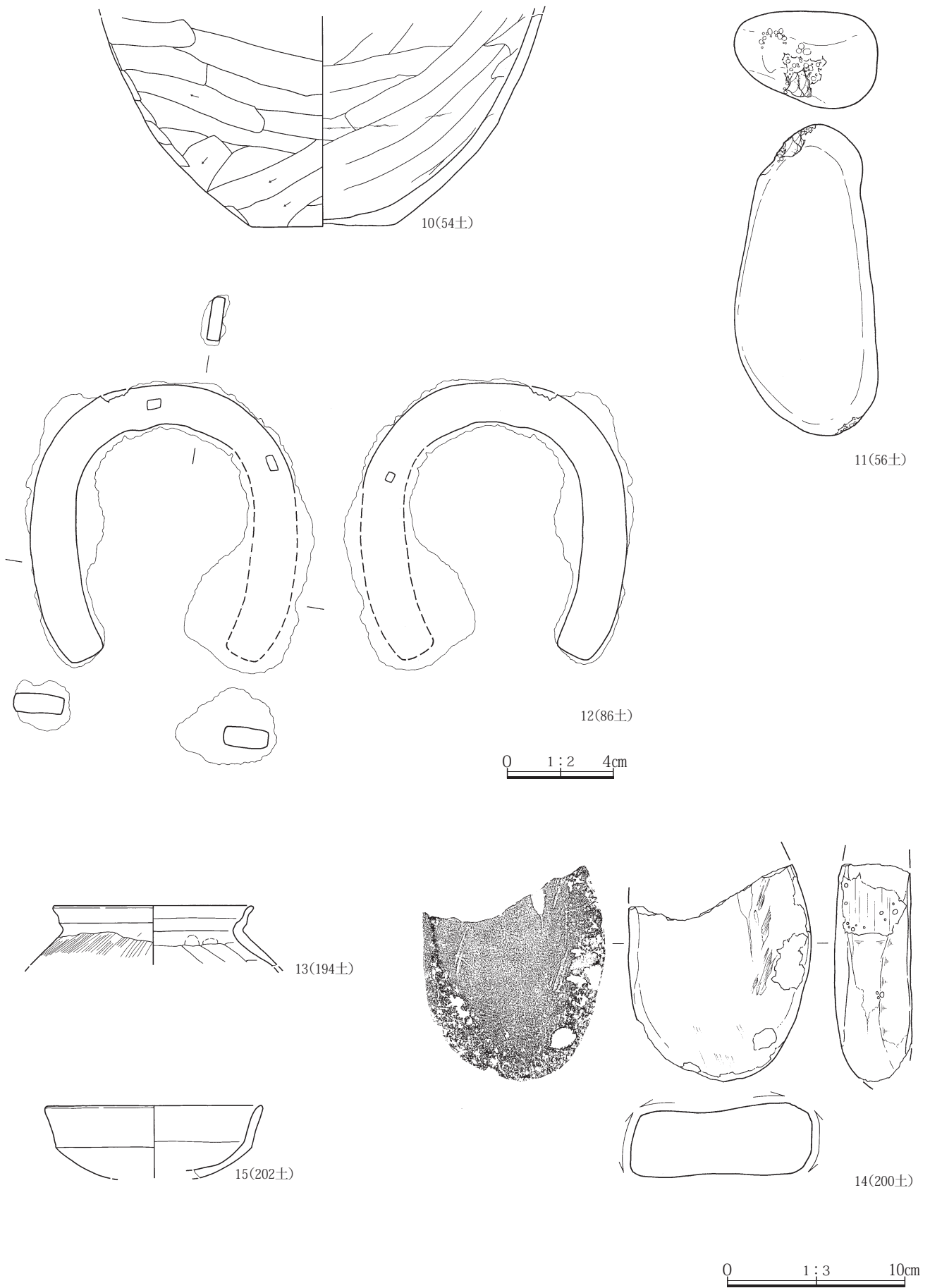
- 1 黒褐色土 しまりあり。粘性なし。ローム粒子を少量含む。



第407図 3区224～235・237号土坑

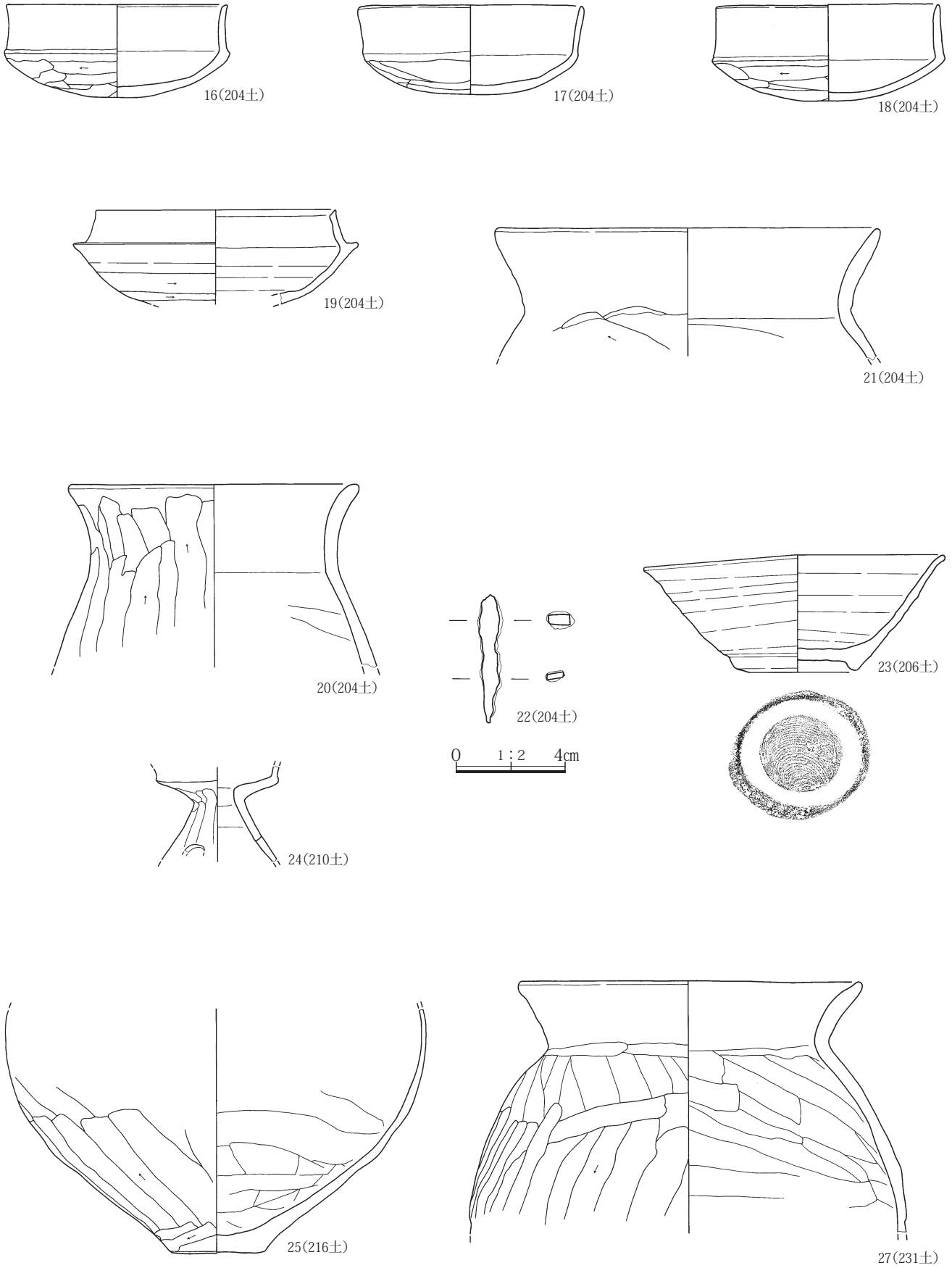


第408図 3区土坑出土遺物(1)

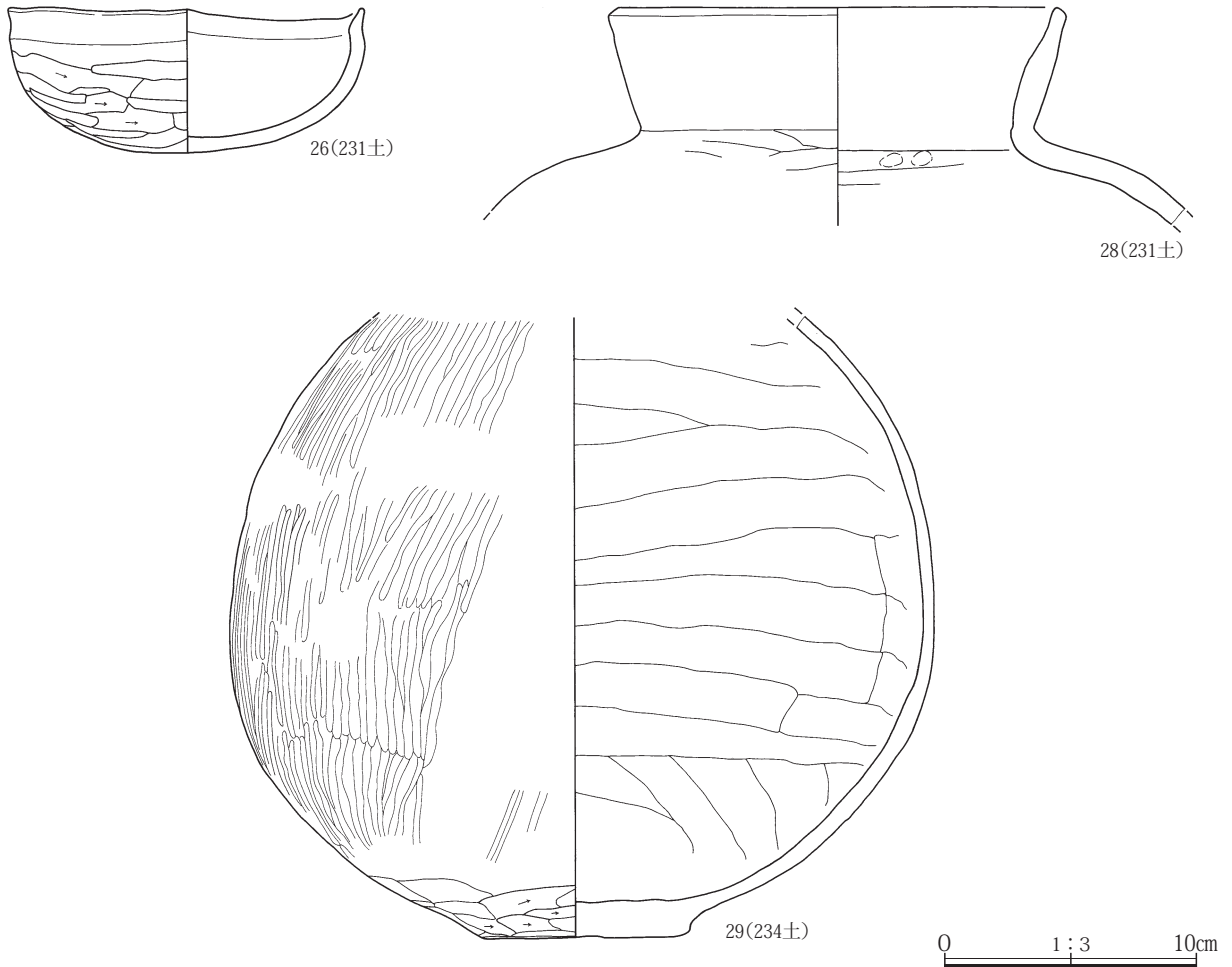


第409図 3区土坑出土遺物(2)

第3章 発掘調査の記録



第410図 3区土坑出土遺物(3)



第411図 3区土坑出土遺物(4)

第157表 3区土坑出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|------------|---------------------|--------|--------------|--------|--------------------|---|---------------------------------------|-----|
| | | | | | | 台 | | | | |
| 第408図 | 1 | 土師器 台付甕 | 5土 台部 | | | 7.7 | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 内外面ともナデ。 | 外面炭素吸着、 煤か。 | |
| 第408図 | 2 | 土師器 甕 | 5土 口縁～胴 部上位片 | 口 | 17.6 | | 粗砂粒・雲母/良好/ 橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位、斜縦位のへら削り。内面胴 部は横位のへらナデ。 | | |
| 第408図 | 3 | 土師器 高杯 | 44土 脚部上半 | | | | 細砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 透孔は円形で上下2段に4単位ずつ配す。穿孔の位置は上 下で45度ずつずらしている。外面縦位にへら磨き。内面は へらナデ、下位にはハケ目を残す。 | | |
| 第408図 | 4 | 土師器 埴 | 53土 1/3 | | | | 精選/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部は内外面とも斜放射状にへら磨き。体部も内外面と もへら磨き。底部は二次的に穿孔された可能性があるか。 | | |
| 第408図 | 5 | 土師器 高杯 | 54土 脚部上位～中位 | | | | 細砂粒/良好/橙 | 外面は縦位にへら磨き。内面はハケ目。 | | |
| 第408図 | 6 | 土師器 高杯 | 54土 脚部上半 | | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 外面は縦位にへら磨き。内面は指ナデ。 | | |
| 第408図 PL.211 | 7 | 須恵器 甕 | 54土 口縁一部欠 | | | | 精選/還元焰/灰 | ロクロ整形、回転は右回りか。体部の一部にへらナデ。肩 部にもカキ目状の器面調整。 | 内面は口縁部 から、外面は 肩部に自然釉 付着。 | |
| 第408図 | 8 | 土師器 甕 | 54土 口縁～胴部 | 口 | 17.0 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位にへら削り。内面胴部は横位 にへらナデ。 | 被熱。 | |
| 第408図 | 9 | 土師器 甕 | 54土 底部～胴部上位 | 底 | 8.0 | | 粗砂粒多/良好/灰 黄褐 | 胴部は数回に分けてへら削り。底部もへら削り。内面胴部 はへらナデ。 | 胴部外面炭素 吸着。内面変 色。 | |
| 第409図 | 10 | 土師器 甕 | 54土 胴部中位～底部 片 | 底 | 8.0 | | 細砂粒/良好/にぶ い橙 | 胴部は斜横位のナデに近いへら削り。底部もへら削り。内 面胴部はへら削りに近いへらナデ。 | 器面に炭素吸 着。内面の一 部に煤付着。 | |
| 第409図 PL.211 | 11 | 礫石器 敲石 | 56土 | 長 幅 | 17.3 8.0 | 厚 重 | 5.4 1137.2 | 粗粒輝石安山岩 | 小口部両端に敲打痕が残る。上端側小口部は激しく敲打さ れ、剥落する。 | 棒状礫 |
| 第409図 PL.211 | 12 | 鉄製品 蹄鉄 | 86土 完形か | 長 幅 | 11.1 10.9 | 厚 重 | 198.3 | | 釘留め穴が2穴確認できるが、その他は錆化が著しく不明。 | |

第3章 発掘調査の記録

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 | |
|-----------------|-----|-----------|----------------------|--------|----------------|--------|--------------------|----------------------|---|-------------------------|
| 第409図 | 13 | 土師器 甕 | 194土 口縁部 ～胴部上部 | 口 | 11.0 | | | 粗砂粒少/良好/に ぶい黄褐 | 口縁部は横ナデ。肩部は斜左下にハケ目(1cmに7本)。内面 頸部は指支え、ナデ。胴部はヘラナデ。 | |
| 第409図 PL.211 | 14 | 石製品 砥石 | 200土 | 長 幅 | (12.1) 10.2 | 厚 重 | 4.4 667.0 | デイサイト | 表裏面とも研磨され浅く研ぎ減る。このほか、両側面にも 研磨面があり、砥面として利用されている。 | 礫砥石 |
| 第409図 | 15 | 土師器 杯 | 202土 1/3 | 口 | 12.0 | | | 精選/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りか。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第410図 | 16 | 土師器 杯 | 204土 3/4 | 口 | 12.0 | 高 | 5.0 | 精選・粗砂粒少/良 好/明赤褐 | 口唇部は平坦面をつくる。口縁部は横ナデ。底部は手持ち ヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第410図 | 17 | 土師器 杯 | 204土 1/3 | 口 | 12.0 | 高 | 4.8 | 精選/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第410図 PL.211 | 18 | 土師器 杯 | 204土 完形 | 口 | 12.1 | 高 | 5.2 | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも磨 滅。 |
| 第410図 | 19 | 須恵器杯 | 204土 口縁部 ～底部1/4 | 口 | 13.0 | | | 白色鈹物粒/還元 焰/褐灰 | 口唇部は内側に削がれ尖る。ロクロ整形、回転は右回りか。 底部に回転を伴うヘラ削り。 | |
| 第410図 | 20 | 土師器 甕 | 204土 口縁～胴部 | 口 | 15.6 | | | 粗砂粒/良好/にぶ い黄橙 | 口縁部はナデ後、胴部から縦位のヘラ削り。内面胴部は横 位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第410図 | 21 | 土師器 甕 | 204土 口縁～胴部上位 | 口 | 20.6 | | | 粗砂粒・片岩/良好 /明黄褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面胴部は横 位にヘラナデ。 | |
| 第410図 PL.211 | 22 | 鉄器 釘 | 204土 頭部欠損 | 長 幅 | (4.6) 0.9 | 厚 重 | 1.7 (2.2) | | 錆化が激しい。 | |
| 第410図 PL.211 | 23 | 須恵器 椀 | 206土 3/4 | 口 底 | 16.0 6.6 | 高 | 6.3 | 粗砂粒/還元焰・や や軟質/灰白 | ロクロ整形、回転右回り。高台部は底部回転糸切り後の付 け高台。 | 内外面ともや や磨滅。 |
| 第410図 | 24 | 土師器 器台 | 210土 受け部 ～脚部上半2/3 | 口 | 6.6 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 受け部の口縁部は横ナデ。体部はナデの上にヘラナデ。脚 部はヘラナデ。内面脚部は削りに近い横ナデ。 | |
| 第410図 | 25 | 土師器 甕 | 216土 底部～胴部中位 | 底 | 5.2 | | | 粗砂粒・細砂粒/良 好/にぶい黄橙 | 胴部は斜位にナデに近いヘラ削り。最下位は斜横位のヘラ 削り。底部ヘラ削り。内面胴部は横位にヘラナデ。 | 内外面とも炭 素吸着。 |
| 第411図 PL.211 | 26 | 土師器杯 | 231土 完形 | 口 | 13.7 | 高 | 5.7 | 粗砂粒・片岩/良好 /橙 | 口縁部から体部上位は横ナデ。体部から底部は手持ちヘラ 削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第410図 | 27 | 土師器 甕 | 231土 口縁～胴部中位 | 口 | 18.3 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部上位は斜位にヘラナデ。中位は斜縦 位にナデに近いヘラ削り。内面胴部は斜横位にヘラナデ。 | 外面被熱・炭 素吸着。 |
| 第411図 | 28 | 土師器 甕 | 231土 口縁～胴部上位 | 口 | 17.2 | | | 細砂粒/良好/明赤 褐 | 口縁部は横ナデ。胴部はヘラナデか。内面胴部は横位にナ デ。指頭圧痕を残す。 | |
| 第411図 PL.211 | 29 | 土師器 壺 | 234土 口縁～頸部欠損 | 底 | 8.5 | | | 粗砂粒/良好/橙 | 胴部最下位に斜横位のヘラ削り、ナデ。これ以外は数回に 分けて縦位にヘラ磨き。底部はヘラ削り。内面胴部は横位、 斜位にヘラナデ。 | 外面の一部に 炭素吸着・黒 班状。 |

6 井戸

井戸は3区全体で13基検出され、区画遺構に関係しない3基をここで扱う。1号井戸は西端に偏在し、残る2基は調査区中央部に隣接する。

1号井戸(第412図、P L .127)

位置 25S-9グリッド

重複 状況から70号住居より後出と思われる。

確認面形状と規模 円形。長径0.95m短径0.90m

断面形 円筒形と推定される。

深さ 55cm以上。

埋没状況 砂質土で埋まる。人為埋没か。

出土遺物 第253表参照(非掲載遺物)

時期 不明

12号井戸(第412図)

位置 15T-13グリッド

重複 状況から119号住居より後出と思われる。

確認面形状と規模 円形。長径1.56m短径1.46m

底面形状と規模 円形。0.49m短径0.48m

断面形 すり鉢状 深さ 1.60m

埋没状況 埋没状況不詳である。

出土遺物 第253表参照(非掲載遺物)

時期 不明

13号井戸(第412図、P L .127、第158表)

位置 15T-15グリッド

重複 210号土坑と重複するが新旧関係不明。

確認面形状と規模 円形。長径1.08m短径1.03m

底面形状と規模 不整円形。長径0.63m短径0.57m

断面形 円筒形で底部に向かって若干細くなる。確認面より下方40cm付近で大きくえぐれが形成される。

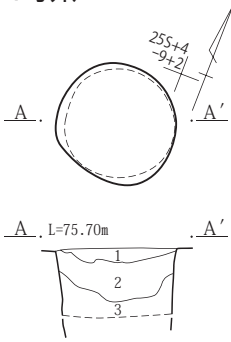
深さ 2.67m以上。

埋没状況 3層以下は人為埋没と思われる。

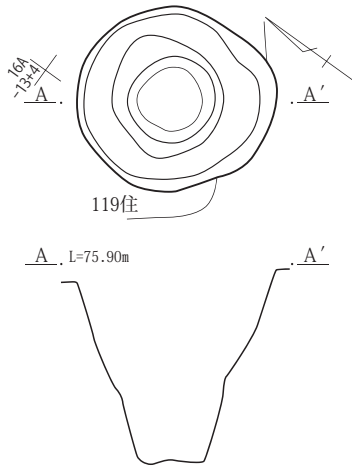
出土遺物 埋没土から1の土師器甕が出土する。非掲載遺物は第253表参照。

時期 出土遺物は古墳時代に属するが、混入と思われ、時期は確定できない。

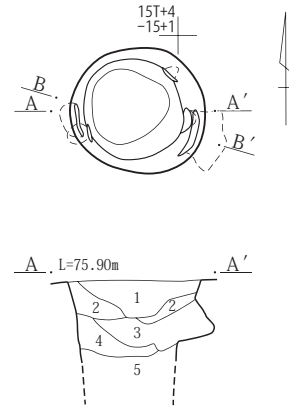
1号井戸



12号井戸



13号井戸

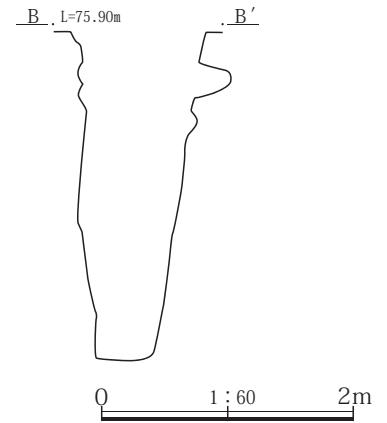
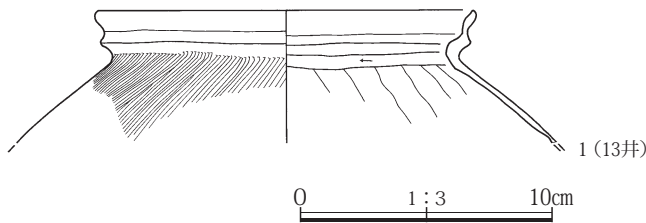


1号井戸

- 1 黒褐色砂質土 ややしまる。ローム粒子・焼土粒子微量に含む。
- 2 黒褐色砂質土 ローム小ブロックやや多量、焼土粒子微量に含む。
- 3 黒褐色砂質土 しまらない。ローム小ブロック少量、焼土粒子微量に含む。

13号井戸

- 1 暗褐色土 ややしまり弱い。軽石含む。
- 2 暗褐色土 ややしまり弱い。粘土粒子多量に含む。
- 3 暗褐色土 粘土ブロック・粘土粒子含む。
- 4 暗褐色土 しまり弱い。砂多量に含む。
- 5 黒褐色土 しまり弱い。粘土粒子少量に含む。



第412図 3区1・12・13号井戸と13号井戸出土遺物

第158表 3区13号井戸出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|--------------|-----|------------|-------------|--------|--------------------|---|---------|
| 第412図 | 1 | 土師器 台付甕 | 口縁~胴部片 | 口 14.8 | 細砂粒/良好/黒褐 | 口縁部は横ナデ。肩部は左下へ縦位のハケ目(1cmに5・6本)内面頸部は横位にヘラ削り。胴部は縦位に指ナデ。 | 外面炭素吸着。 |

7 ピット(第413~425図、P.L.127・211、第159~163表)

調査されたピットの総数は1330基で、このうち137基は掘立柱建物として認定されたため、残る1193基を本書ではピットとして掲載する(以下、各節も同じ)。ここでは、ピット総数1193基のうち、区画遺構に関係しない472基を扱う。分布では調査区中央に集中がある。43・44・53・56号掘立柱建物が検出され、周辺のピットも建物となるものが想定できるが、認定できていない。ピット群のうち、26A-10グリッドでは、1004・970・

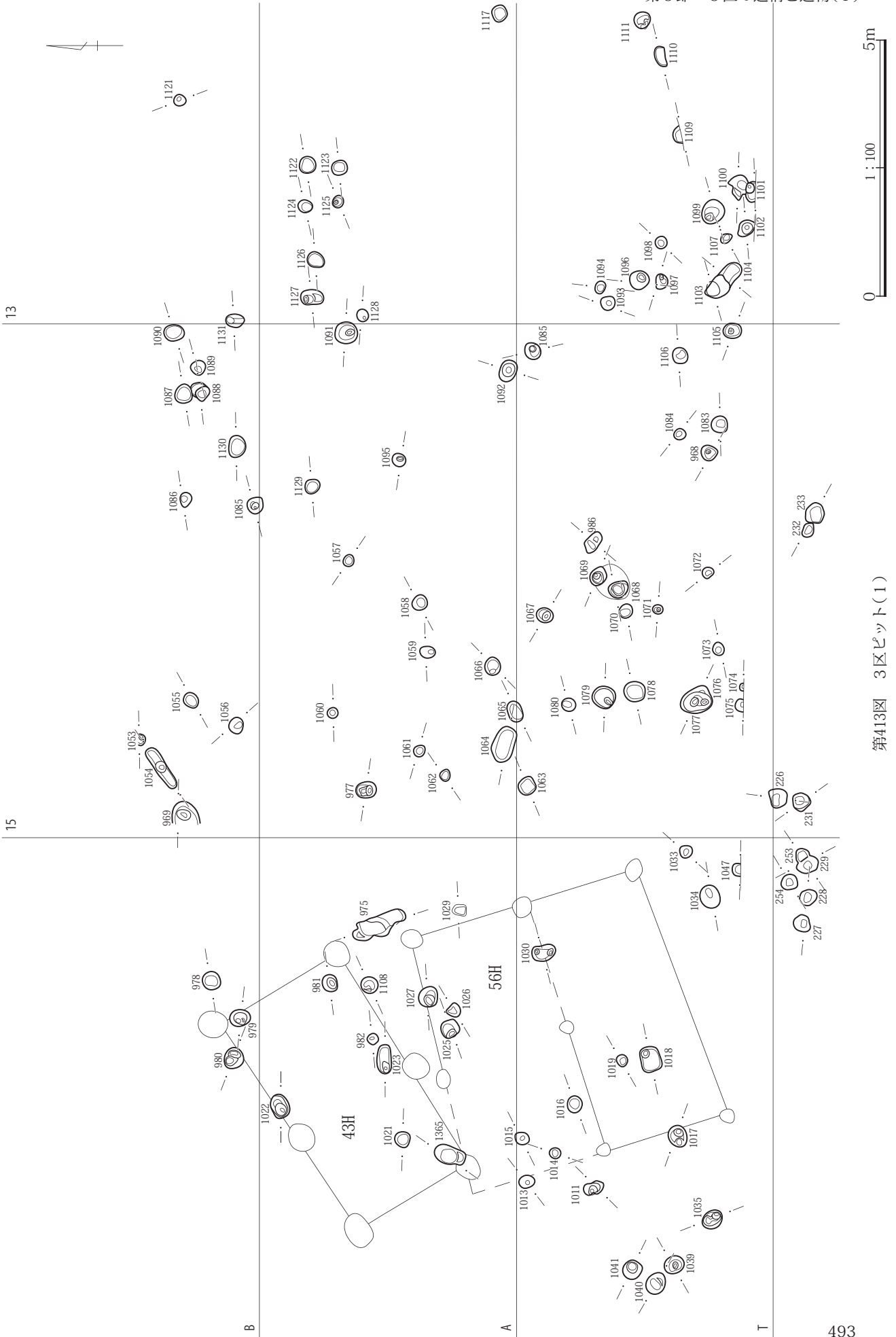
1221・1003・1249・1216・972号ピットの順で、方形にピットが廻っている。相互の間隔は1m前後で一致する。形態から掘立柱建物の可能性も考えられるが、1221号ピットの北東側は134号住居と重複し、ピットが確認できていない。また、972・1216号ピットの深さが他に比べて浅い。このため、柱間が狭いことも考慮して、掘立柱建物と認定しなかった。ここでは可能性に止める。出土遺物は少なく、972・1208・1227号ピットから1点ずつを掲載した。

第159表 3区ピット計測値(1)

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|--------|------|------|----|
| 226 | 15S-14 | 37 | 32 | 13 |
| 227 | 15S-15 | 32 | 31 | 28 |
| 228 | 15S-15 | 35 | 30 | 18 |
| 229 | 15S-15 | 44 | 28 | 25 |
| 231 | 15S-14 | 35 | 33 | 29 |
| 232 | 15S-13 | 30 | 20 | 16 |
| 233 | 15S-13 | 42 | 35 | 30 |
| 253 | 15S-15 | 29 | 22 | 14 |
| 254 | 15S-15 | 32 | 29 | 37 |
| 968 | 15T-13 | 32 | 29 | 20 |
| 969 | 16B-14 | 53 | (50) | 29 |
| 975 | 16A-15 | (70) | 38 | 37 |
| 977 | 16A-14 | 40 | 31 | 42 |
| 978 | 16B-15 | 35 | 34 | 18 |
| 979 | 16B-15 | 40 | 32 | 59 |
| 980 | 16B-15 | 43 | 37 | 27 |
| 981 | 16A-15 | 32 | 28 | 19 |
| 982 | 16A-15 | 23 | 22 | 26 |
| 986 | 15T-13 | 45 | 26 | 30 |
| 1011 | 15T-16 | 41 | 20 | 49 |
| 1013 | 15T-16 | 31 | 25 | 44 |
| 1014 | 15T-16 | 22 | 21 | 11 |
| 1015 | 15T-16 | 30 | 24 | 25 |
| 1016 | 15T-16 | 33 | 28 | 20 |
| 1017 | 15T-16 | 43 | 36 | 45 |
| 1018 | 15T-15 | 50 | 38 | 31 |
| 1019 | 15T-15 | 23 | 20 | 8 |
| 1021 | 16A-16 | 30 | 30 | 17 |
| 1022 | 16A-16 | 46 | 35 | 50 |
| 1023 | 16A-15 | 56 | 28 | 26 |
| 1025 | 16A-15 | 35 | 33 | 50 |
| 1026 | 16A-15 | 25 | 25 | 14 |
| 1027 | 16A-15 | 41 | 37 | 35 |
| 1029 | 16A-15 | 27 | 22 | 8 |
| 1030 | 15T-15 | 46 | 30 | 30 |
| 1033 | 15T-15 | 26 | 25 | 20 |
| 1034 | 15T-15 | 46 | 37 | 28 |
| 1035 | 15T-16 | 43 | 35 | 44 |
| 1039 | 15T-16 | 39 | 33 | 23 |
| 1040 | 15T-16 | 44 | 37 | 37 |
| 1041 | 15T-16 | 37 | 35 | 36 |
| 1047 | 15T-15 | 25 | (16) | 36 |
| 1053 | 16B-14 | 22 | (15) | 16 |
| 1054 | 16B-14 | 92 | 23 | 12 |
| 1055 | 16B-14 | 32 | 27 | 7 |
| 1056 | 16B-14 | 31 | 28 | 22 |
| 1057 | 16A-13 | 23 | 20 | 5 |

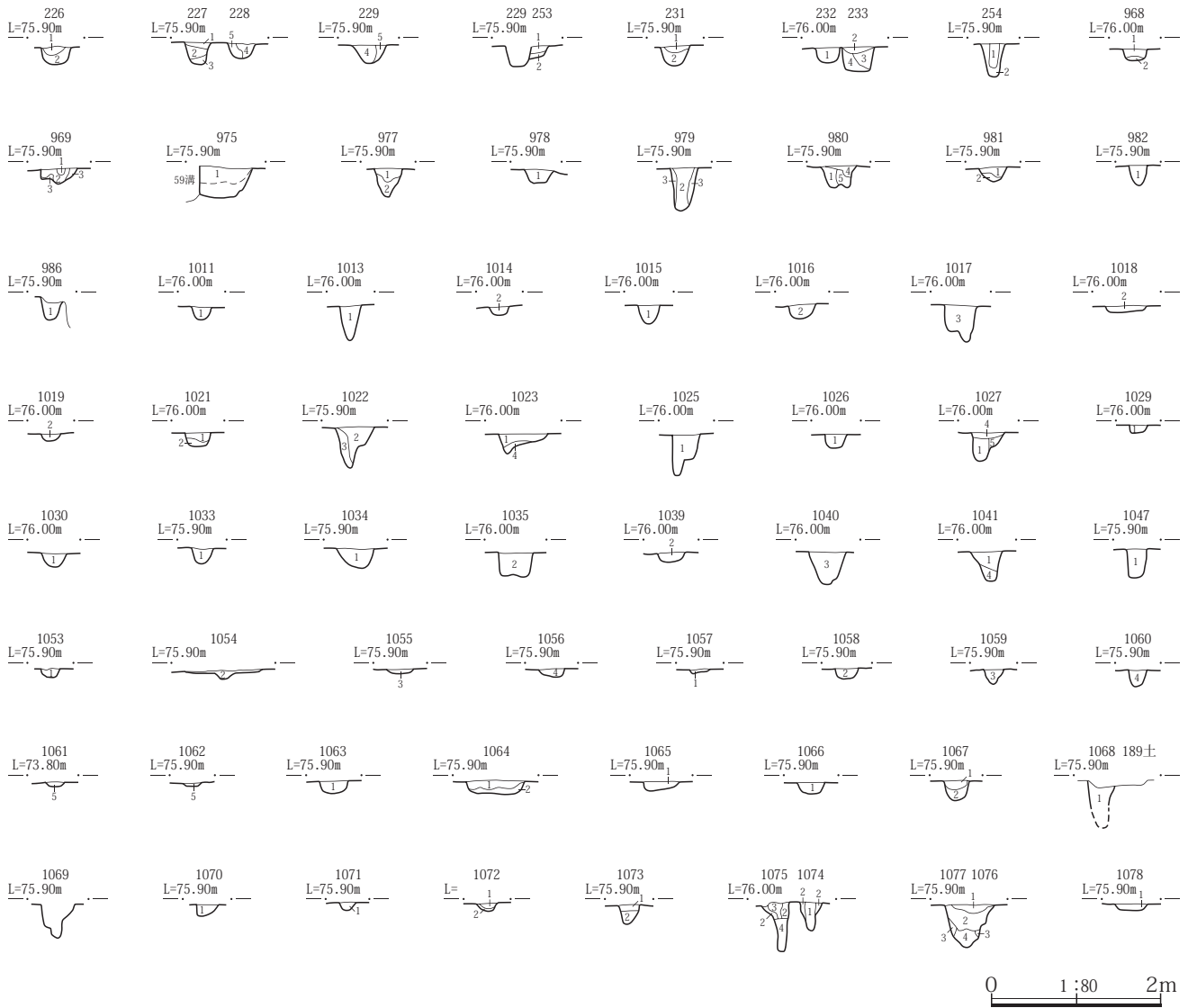
| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|--------|------|------|----|
| 1058 | 16A-14 | 30 | 29 | 9 |
| 1059 | 16A-14 | 30 | 23 | 25 |
| 1060 | 16A-14 | 21 | 21 | 19 |
| 1061 | 16A-14 | 22 | 22 | 6 |
| 1062 | 16A-14 | 23 | 20 | 5 |
| 1063 | 16A-14 | 34 | 32 | 14 |
| 1064 | 16A-14 | 71 | 41 | 13 |
| 1065 | 16A-14 | 42 | 29 | 11 |
| 1066 | 16A-14 | 36 | 31 | 19 |
| 1067 | 15T-14 | 33 | 28 | 28 |
| 1068 | 15T-14 | 40 | 31 | 47 |
| 1069 | 15T-13 | 35 | 30 | 41 |
| 1070 | 15T-14 | 29 | 25 | 17 |
| 1071 | 15T-14 | 21 | 19 | 17 |
| 1072 | 15T-13 | 23 | 20 | 9 |
| 1073 | 15T-14 | 26 | 22 | 25 |
| 1074 | 15T-14 | 15 | (9) | 23 |
| 1075 | 15T-14 | 24 | (16) | 49 |
| 1076 | 15T-14 | - | 48 | 47 |
| 1077 | 15T-14 | - | 45 | 53 |
| 1078 | 15T-14 | 41 | 39 | 9 |
| 1079 | 15T-14 | 44 | 42 | 26 |
| 1080 | 15T-14 | 27 | 26 | 26 |
| 1083 | 15T-13 | 32 | 31 | 32 |
| 1084 | 15T-13 | 23 | 22 | 30 |
| 1085 | 16B-12 | 31 | 31 | 38 |
| 1086 | 16B-13 | 29 | 23 | 13 |
| 1087 | 16B-13 | 38 | 33 | 13 |
| 1088 | 16B-13 | 37 | 31 | 23 |
| 1089 | 16B-13 | 28 | 27 | 15 |
| 1090 | 16B-13 | 39 | 31 | 10 |
| 1091 | 16A-12 | 45 | 43 | 20 |
| 1092 | 16A-13 | 44 | 32 | 39 |
| 1093 | 15T-12 | 27 | 26 | 30 |
| 1094 | 15T-12 | 25 | 19 | 15 |
| 1095 | 16A-13 | 27 | 25 | 25 |
| 1096 | 15T-12 | 37 | 37 | 31 |
| 1097 | 15T-12 | 30 | 23 | 19 |
| 1098 | 15T-12 | 25 | 23 | 10 |
| 1099 | 15T-12 | 48 | 40 | 37 |
| 1100 | 15T-12 | 49 | (40) | 13 |
| 1101 | 15T-12 | 41 | (20) | 30 |
| 1102 | 15T-12 | 40 | 29 | 25 |
| 1103 | 15T-12 | 48 | 45 | 35 |
| 1104 | 15T-12 | (44) | 32 | 12 |
| 1105 | 15T-13 | 36 | 30 | 23 |
| 1106 | 15T-13 | 31 | 30 | 40 |

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|--------|----|------|----|
| 1107 | 15T-12 | 25 | 18 | 11 |
| 1108 | 16A-15 | 33 | 32 | 20 |
| 1109 | 15T-12 | 35 | (16) | 13 |
| 1110 | 15T-11 | 40 | (20) | 32 |
| 1111 | 15T-11 | 33 | 31 | 20 |
| 1117 | 16A-11 | 31 | 30 | 18 |
| 1121 | 16B-12 | 23 | 22 | 37 |
| 1122 | 16A-12 | 32 | 32 | 19 |
| 1123 | 16A-12 | 30 | 28 | 23 |
| 1124 | 16A-12 | 28 | 25 | 27 |
| 1125 | 16A-12 | 25 | 21 | 36 |
| 1126 | 16A-12 | 35 | 30 | 13 |
| 1127 | 16A-12 | 45 | 28 | 45 |
| 1128 | 16A-12 | 24 | 23 | 33 |
| 1129 | 16A-13 | 30 | 28 | 19 |
| 1130 | 16B-13 | 43 | 34 | 13 |
| 1131 | 16B-12 | 36 | 27 | 19 |
| 1185 | 15T-13 | 35 | 30 | 28 |
| 1365 | 16A-16 | 62 | 35 | 60 |



第413図 3区ピット(1)

第3章 発掘調査の記録



- 226ピ：1 暗褐 ローム粒微。2 暗褐 ローム塊
- 227～229ピ：1 暗褐 ローム粒。2 暗褐 ローム塊・粒少。3 黄褐。4 暗褐 ローム塊・炭粒。5 褐
- 231ピ：1 暗褐 ローム塊・炭粒・焼土粒。2 暗褐 ローム粒
- 232・233ピ：1 暗褐 ローム粒微。2 暗褐 ローム粒。3 暗褐 黄褐粒微。4 暗褐 黄褐粒
- 253ピ：1 暗褐 ローム粒。2 黒褐 ローム粒微
- 254ピ：1 暗褐 ローム粒少。2 暗褐 ローム塊・黄白塊多
- 968ピ：1 黒褐。2 白粘土
- 969ピ：1 暗褐 ローム粒少。2 暗褐 ローム塊少。3 褐 ローム
- 975ピ：1 黒褐
- 977ピ：1 黒褐。2 暗褐 ローム粒
- 978～980：1 黒褐。2 黒褐 ローム粒。3 黒褐 ローム塊。4 褐灰。5 黒褐 ローム塊多
- 981ピ：1 暗褐 ローム粒。2 暗褐 ローム粒少
- 982ピ：1 黒褐
- 986ピ：1 黒褐 ローム粒少
- 1011・1013～1019ピ：1 暗褐 ローム粒。2 暗褐。3 暗褐 ローム塊
- 1021～1023・1025～1027ピ：1 暗褐。2 暗褐 ローム粒。3 暗褐 粘土塊・ローム粒。4 暗褐 ローム塊多。5 暗褐 ローム粒少
- 1029ピ：1 黒褐
- 1030・1033～1035・1039～1041ピ：1 暗褐 ローム粒。2 暗褐。3 暗褐 焼土粒微。4 暗褐 ローム塊・粒
- 1047ピ：1 暗褐
- 1053～1056ピ：1 暗褐 ローム粒。2 暗褐。3 暗褐 軽石少。4 暗褐 焼土粒
- 1057～1062ピ：1 暗褐。2 暗褐 ローム塊・粒。3 暗褐 ローム粒・軽石。4 暗褐 ローム粒。5 黒褐 軽石少
- 1063ピ：1 暗褐 ローム粒
- 1064ピ：1 暗褐 軽石少、ローム粒。2 暗褐 ローム粒やや多
- 1065・1067ピ：1 暗褐。2 暗褐 ローム塊・粒
- 1066ピ：1 暗褐 軽石微
- 1068ピ：1 黒褐 ローム塊少
- 1070ピ：1 暗褐 ローム粒
- 1071ピ：1 暗褐 ローム塊
- 1072・1073ピ：1 暗褐 ローム粒少。2 黒褐 ローム粒少
- 1074・1075ピ：1 暗褐 ローム塊少。2 暗褐 ローム粒少。3 黄褐 ローム・暗褐。4 暗褐 ローム塊・粒
- 1076・1077ピ：1 暗褐 ローム粒・焼土粒少。2 黒褐 焼土粒・炭粒・ローム塊少。3 黄白 暗褐少。4 黒褐 黄白粒
- 1078ピ：1 暗褐 ローム粒

第414図 3区ピット(1)断面図(1)

第3節 3区の遺構と遺物(1)

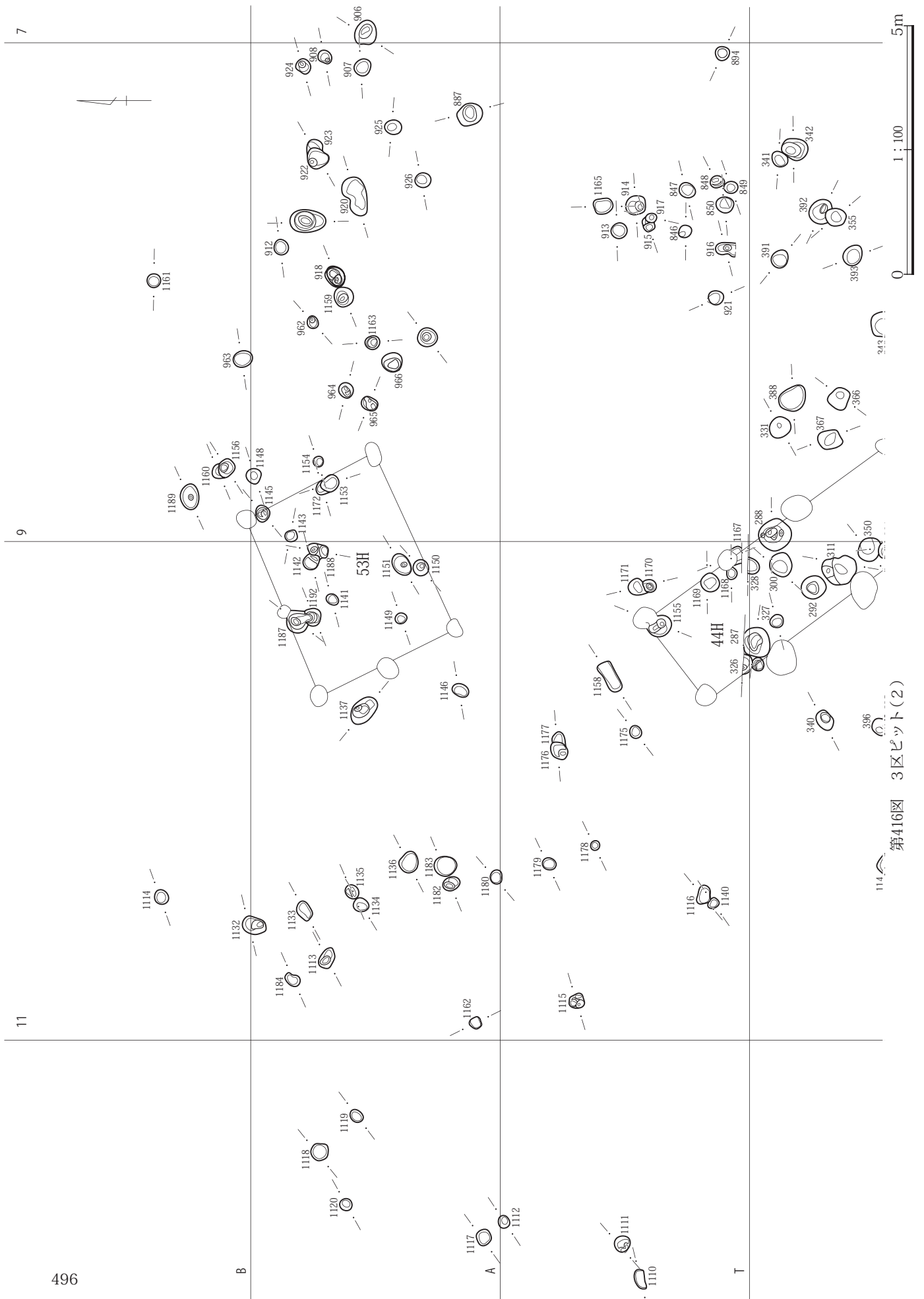


- 1079・1080・1083・1084ピ：1 暗褐 ローム粒。2 暗褐。3 暗褐 ローム塊
 1085～1090ピ：1 暗褐 軽石。2 褐 ローム粒多。3 黒褐 軽石。4 暗褐
 1091ピ：1 暗褐 軽石
 1092ピ：1 暗褐 ローム塊・黄白塊。2 暗褐 ローム塊。3 黄白 暗褐
 1093・1094・1096ピ：1 暗褐 ローム粒
 1095ピ：1 黒褐
 1097～1104・1107ピ：1 暗褐。2 暗褐 ローム塊・粒。3 暗褐 ローム粒
 1105・1106ピ：1 黒褐
 1108ピ：1 黒褐 白粒多、ローム粒少
 1109ピ：1 黒褐 ローム粒
 1110ピ：1 暗褐 軽石。2 暗褐 軽石多
 1111ピ：1 黒褐 軽石微
 1117・1122～1128ピ：1 暗褐。2 黒褐 軽石。3 暗褐 ローム粒微。4 黒褐
 1121ピ：1 暗褐
 1129ピ：1 黒褐 軽石
 1130ピ：1 黒褐 軽石微。2 暗褐
 1131ピ：1 黒褐
 1185ピ：1 黒褐 ローム粒
 1365ピ：1 暗褐 ローム粒・軽石微

第415図 3区ピット(1)断面図(2)

第160表 3区ピット計測値(2)

| ピットNo | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ | ピットNo | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ | ピットNo | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|-------|-------|----|------|----|-------|-------|------|------|----|-------|--------|----|----|----|
| 287 | 15S-9 | 58 | (52) | 54 | 849 | 15T-7 | 28 | 24 | 22 | 963 | 16B-8 | 40 | 33 | 17 |
| 288 | 15S-8 | 62 | 60 | 63 | 850 | 15T-7 | 35 | 32 | 18 | 964 | 16A-8 | 31 | 29 | 44 |
| 292 | 15S-9 | 50 | 45 | 57 | 887 | 16A-7 | 52 | 44 | 59 | 965 | 16A-8 | 34 | 26 | 47 |
| 300 | 15S-9 | 46 | 45 | 44 | 894 | 15T-7 | 29 | 27 | 40 | 966 | 16A-8 | 41 | 38 | 42 |
| 311 | 15S-9 | 69 | 55 | 72 | 906 | 16A-6 | 52 | 43 | 20 | 1112 | 15T-11 | 25 | 23 | 22 |
| 326 | 15T-9 | 40 | (19) | 22 | 907 | 16A-7 | 35 | 32 | 26 | 1113 | 16A-10 | 44 | 27 | 33 |
| 327 | 15S-9 | 28 | 25 | 14 | 908 | 16A-7 | 30 | 24 | 33 | 1114 | 16B-10 | 28 | 28 | 10 |
| 328 | 15S-9 | 32 | (24) | 44 | 912 | 16A-7 | 31 | 29 | 12 | 1115 | 15T-10 | 28 | 28 | 27 |
| 331 | 15S-8 | 44 | 40 | 57 | 913 | 15T-7 | 32 | 30 | 27 | 1116 | 15T-10 | 39 | 25 | 17 |
| 340 | 15S-9 | 42 | 30 | 31 | 914 | 15T-7 | 39 | 36 | 18 | 1118 | 16A-11 | 35 | 34 | 22 |
| 341 | 15S-7 | 35 | 28 | 34 | 915 | 15T-7 | 29 | 22 | 12 | 1119 | 16A-11 | 29 | 22 | 11 |
| 342 | 15S-7 | 52 | 43 | 47 | 916 | 15T-7 | (40) | 22 | 17 | 1120 | 16A-11 | 25 | 24 | 22 |
| 350 | 15S-9 | 48 | 40 | 34 | 917 | 15T-7 | 22 | 18 | 25 | 1132 | 16A-10 | 48 | 34 | 29 |
| 355 | 15S-7 | 41 | 36 | 52 | 918 | 16A-7 | 45 | 32 | 78 | 1133 | 16A-10 | 38 | 28 | 15 |
| 366 | 15S-8 | 42 | 35 | 56 | 919 | 16A-7 | 71 | 45 | 51 | 1134 | 16A-10 | 30 | 27 | 30 |
| 367 | 15S-8 | 45 | 37 | 18 | 920 | 16A-7 | 80 | 46 | 35 | 1135 | 16A-10 | 30 | 26 | 22 |
| 388 | 15S-8 | 60 | 47 | 19 | 921 | 15T-8 | 30 | 29 | 42 | 1136 | 16A-10 | 43 | 37 | 12 |
| 391 | 15S-7 | 37 | 33 | 43 | 922 | 16A-7 | 43 | (35) | 29 | 1137 | 16A-9 | 63 | 41 | 63 |
| 392 | 15S-7 | 51 | (45) | 41 | 923 | 16A-7 | 31 | (28) | 18 | 1140 | 15T-10 | 23 | 18 | 21 |
| 393 | 15S-7 | 44 | 36 | 37 | 924 | 16A-7 | 30 | 27 | 27 | 1141 | 16A-9 | 26 | 21 | 9 |
| 846 | 15T-7 | 27 | 22 | 26 | 925 | 16A-7 | 34 | 30 | 36 | 1142 | 16A-9 | 34 | 29 | 8 |
| 847 | 15T-7 | 34 | 29 | 22 | 926 | 16A-7 | 32 | 29 | 24 | 1143 | 16A-8 | 24 | 22 | 9 |
| 848 | 15T-7 | 28 | 24 | 19 | 962 | 16A-8 | 26 | 22 | 25 | 1145 | 16A-8 | 32 | 28 | 40 |



第416図 3区ピット(2)

第3節 3区の遺構と遺物(1)



287ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒少. 2 暗白 ローム塊・粒. 3 暗褐 黄白塊. 4 黄白 暗褐塊
 288ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒少. 2 暗褐 ローム粒
 300ピ: 1 暗褐 ローム粒・黄白粒少. 2 暗褐 黄白塊多
 311ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒微. 2 暗褐 ローム塊
 326・328ピ: 1 暗褐. 2 暗褐 ローム粒少. 3 褐 ローム塊
 327ピ: 1 暗褐 ローム塊
 331ピ: 1 暗褐. 2 黒褐 ローム粒微. 3 暗褐 ローム塊
 340ピ: 1 暗褐. 2 暗褐 ローム塊多
 341ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒少. 2 暗褐 ローム塊
 342ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 黒褐 ローム粒少
 350ピ: 1 暗褐 白粒微. 2 暗褐 ローム粒少. 3 暗褐 ローム粒多
 355ピ: 1 暗褐. 2 暗褐 黄白大塊
 366ピ: 1 暗褐 白粒少. 2 暗褐 ローム塊・粒少
 367ピ: 1 暗褐 ローム粒少
 388ピ: 1 暗褐 黄粒微
 391ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 暗褐 ローム塊・粒
 392・393ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒. 2 暗褐 ローム塊. 3 暗褐 ローム粒
 846～850ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 黒褐 ローム粒少. 3 暗褐 ローム粒. 4 暗褐 黄白塊. 5 褐 暗褐
 887ピ: 1 暗褐 焼土粒・炭粒少、ローム粒. 2 暗褐 ローム粒やや多
 894ピ: 1 黒褐 ローム粒少

906～908ピ: 1 黒褐 白軽石少、B 軽石. 2 暗褐. 3 黒褐 ローム粒
 912ピ: 1 黒褐 軽石
 913ピ: 1 黒褐 軽石粒少. 2 黒褐 ローム粒
 914ピ: 1 暗褐 ローム塊. 2 暗褐 軽石多
 915ピ: 1 黒褐. 2 黒褐 ローム塊
 916ピ: 1 黒褐 ローム塊・粒
 918・1159ピ: 1 暗褐 ローム塊少. 2 暗褐 ローム塊やや多. 3 黒褐. 4 暗褐 ローム粒多
 919・920・925・926ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒少. 2 暗褐 ローム塊. 3 黒褐 黄白塊. 4 褐. 5 暗褐 黄白塊やや多
 921ピ: 1 暗褐 ローム粒・白軽石少. 2 黒褐 黄白塊少. 3 暗褐 黄白塊やや多
 922・923ピ: 1 暗褐 ローム塊. 2 黄褐. 3 暗褐 ローム粒. 4 黄褐 暗褐
 924ピ: 1 暗褐 黄白塊. 2 暗褐 ローム塊. 3 黄白 暗褐
 962・964・965ピ: 1 黒褐 ローム粒. 2 黒褐
 963ピ: 1 暗褐 ローム粒
 1112ピ: 1 暗褐 ローム粒微
 1113ピ: 1 黒褐. 2 暗褐
 1114ピ: 1 黒褐 軽石微
 1115ピ: 1 黒褐 ローム塊・粒少、白粒微
 1116・1140ピ: 1 黒褐. 2 黒褐 B 軽石・ローム粒
 1118～1120ピ: 1 暗褐. 2 黒褐 軽石. 3 暗褐 ローム粒微
 1132ピ: 1 黒褐 軽石微

第417図 3区ピット(2)断面図(1)

第3章 発掘調査の記録

第161表 3区ピット計測値(3)

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|--------|------|------|----|
| 1146 | 16A-9 | 34 | 25 | 11 |
| 1148 | 16A-8 | 31 | 30 | 23 |
| 1149 | 16A-9 | 25 | 22 | 13 |
| 1150 | 16A-9 | 33 | 32 | 44 |
| 1151 | 16A-9 | 47 | 33 | 35 |
| 1153 | 16A-8 | 37 | 30 | 21 |
| 1154 | 16A-8 | 21 | 20 | 12 |
| 1155 | 15T-9 | 49 | (39) | 48 |
| 1156 | 16B-8 | 35 | 31 | 20 |
| 1158 | 15T-9 | 65 | 27 | 18 |
| 1159 | 16A-7 | 40 | 38 | 50 |
| 1160 | 16B-8 | 30 | (25) | 11 |
| 1161 | 16B-7 | 28 | 27 | 17 |
| 1162 | 16A-10 | 24 | 23 | 25 |
| 1163 | 16A-8 | 29 | 28 | 23 |
| 1164 | 16A-8 | 39 | 37 | 33 |
| 1165 | 15T-7 | 38 | 30 | 14 |
| 1167 | 15T-9 | 34 | (24) | 23 |
| 1168 | 15T-9 | 25 | 20 | 12 |
| 1169 | 15T-9 | 37 | 35 | 34 |
| 1170 | 15T-9 | 26 | 25 | 27 |
| 1171 | 15T-9 | 35 | 32 | 29 |
| 1172 | 16A-8 | 28 | (22) | 10 |
| 1175 | 15T-9 | 26 | 24 | 15 |
| 1176 | 15T-9 | 36 | 33 | 28 |
| 1177 | 15T-9 | (29) | 26 | 10 |
| 1178 | 15T-10 | 20 | 19 | 14 |
| 1179 | 15T-10 | 27 | 24 | 12 |
| 1180 | 16A-10 | 29 | 24 | 22 |
| 1182 | 16A-10 | 35 | 27 | 30 |
| 1183 | 16A-10 | 45 | 40 | 24 |
| 1184 | 16A-10 | 32 | 23 | 15 |
| 1187 | 16A-9 | 45 | (39) | 48 |
| 1188 | 16A-9 | 43 | (29) | 22 |
| 1189 | 16B-8 | 52 | 37 | 26 |
| 1192 | 16A-9 | 36 | 31 | 24 |

ピット群

16A-19グリッド

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|--------|------|----|----|
| 988 | 15T-19 | 43 | 37 | 61 |
| 989 | 15T-19 | 44 | 26 | 49 |
| 990 | 15T-19 | 48 | 36 | 36 |
| 991 | 15T-19 | 24 | 20 | 29 |
| 992 | 15T-19 | 29 | 23 | 35 |
| 993 | 15T-19 | 35 | 33 | 41 |
| 994 | 15T-19 | 40 | 35 | 25 |
| 995 | 15T-19 | 48 | 42 | 55 |
| 996 | 15T-19 | 43 | 38 | 30 |
| 1002 | 16A-19 | 29 | 25 | 20 |
| 1005 | 16A-19 | 28 | 26 | 19 |
| 1006 | 16A-19 | 35 | 25 | 42 |
| 1007 | 16A-19 | 80 | 54 | 64 |
| 1008 | 16A-19 | 37 | 32 | 15 |
| 1009 | 16A-18 | 34 | 30 | 41 |
| 1044 | 15T-18 | (27) | 23 | 8 |
| 1045 | 15T-18 | 44 | 30 | 6 |
| 1081 | 15T-19 | 70 | 41 | 53 |
| 1082 | 15T-19 | 33 | 27 | 42 |

25R-2グリッド

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|--------|----|----|----|
| 27 | 15R-20 | 53 | 44 | 40 |
| 28 | 15R-20 | 83 | 57 | 45 |
| 175 | 15R-20 | 45 | 40 | 35 |
| 176 | 25R-1 | 36 | 27 | 36 |
| 177 | 25R-1 | 36 | 29 | 15 |
| 178 | 25R-1 | 44 | 31 | 34 |

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|-------|------|------|----|
| 179 | 25R-2 | 31 | 27 | 21 |
| 180 | 25R-2 | 38 | 30 | 36 |
| 181 | 25R-2 | 46 | 36 | 12 |
| 182 | 25R-2 | 58 | 51 | 30 |
| 183 | 25R-2 | 60 | 47 | 13 |
| 184 | 25R-2 | 47 | 45 | 37 |
| 185 | 25R-1 | 68 | 60 | 38 |
| 187 | 25Q-2 | 30 | 27 | 11 |
| 188 | 25R-2 | 45 | 38 | 17 |
| 189 | 25Q-2 | 57 | (56) | 27 |
| 190 | 25Q-1 | 45 | 43 | 58 |
| 191 | 25R-1 | 66 | 48 | 30 |
| 219 | 25R-1 | 54 | 50 | 50 |
| 220 | 25R-2 | 27 | 24 | 40 |
| 257 | 25R-2 | 37 | 29 | 18 |
| 258 | 25R-2 | 33 | 30 | 31 |
| 262 | 25R-1 | 46 | 35 | 47 |
| 271 | 25R-1 | 24 | 17 | 23 |
| 272 | 25R-1 | 21 | 19 | 29 |
| 273 | 25R-1 | (28) | 26 | 32 |
| 274 | 25R-2 | 27 | 24 | 26 |
| 278 | 25R-1 | 42 | 29 | 37 |
| 285 | 25R-2 | 30 | 25 | 31 |
| 286 | 25R-2 | 57 | 27 | 45 |
| 294 | 25Q-2 | 50 | (37) | 44 |

25S-5グリッド

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|-------|----|----|----|
| 2 | 25S-4 | 51 | 45 | 33 |
| 3 | 25S-5 | 72 | 52 | 24 |
| 4 | 25S-5 | 38 | 32 | 26 |
| 5 | 25S-4 | 52 | 35 | 26 |
| 6 | 25S-5 | 34 | 34 | 31 |
| 7 | 25S-5 | 25 | 22 | 37 |
| 8 | 25S-4 | 37 | 31 | 27 |
| 9 | 25S-4 | 33 | 32 | 34 |
| 10 | 25R-4 | 48 | 43 | 30 |
| 209 | 25S-5 | 50 | 38 | 31 |
| 210 | 25S-5 | 31 | 24 | 27 |
| 211 | 25S-5 | 25 | 24 | 46 |
| 212 | 25S-5 | 44 | 40 | 24 |
| 264 | 25S-5 | 56 | 55 | 47 |
| 267 | 25S-5 | 36 | 27 | 25 |
| 268 | 25S-5 | 54 | 46 | 36 |
| 276 | 25S-4 | 52 | 36 | 27 |
| 279 | 25S-4 | 32 | 26 | 38 |
| 280 | 25S-5 | 50 | 43 | 20 |
| 281 | 25S-5 | 84 | 78 | 21 |

26A-3グリッド

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|-------|----|------|----|
| 1173 | 26A-3 | 57 | 34 | 17 |
| 1181 | 26A-3 | 22 | 22 | 16 |
| 1186 | 26A-3 | 34 | 30 | 27 |
| 1230 | 25T-2 | 63 | 37 | 54 |
| 1231 | 26A-3 | 30 | 24 | 16 |
| 1232 | 26A-3 | 33 | 29 | 23 |
| 1233 | 25T-2 | 40 | 35 | 29 |
| 1234 | 26A-2 | 42 | 34 | 32 |
| 1235 | 26A-2 | 40 | 40 | 28 |
| 1236 | 26A-2 | 25 | 22 | 21 |
| 1245 | 25T-3 | 59 | 54 | 42 |
| 1261 | 25T-2 | 61 | 48 | 71 |
| 1262 | 25T-3 | 32 | (32) | 35 |
| 1273 | 26A-2 | 37 | 28 | 20 |
| 1277 | 26A-2 | 20 | 17 | 37 |
| 1278 | 26A-2 | 20 | 19 | 29 |
| 1282 | 26A-3 | 26 | 24 | 36 |
| 1371 | 26A-2 | 35 | 28 | 21 |

26A-7グリッド

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|-------|------|----|----|
| 974 | 26A-7 | 69 | 57 | 34 |
| 985 | 26A-6 | 50 | 37 | 29 |
| 997 | 26A-7 | 45 | 28 | 31 |
| 998 | 26A-7 | 26 | 21 | 21 |
| 999 | 26B-6 | 36 | 32 | 37 |
| 1193 | 26B-6 | 43 | 40 | 44 |
| 1194 | 26B-6 | 36 | 30 | 20 |
| 1195 | 26B-6 | 57 | 50 | 8 |
| 1196 | 26B-6 | 48 | 35 | 21 |
| 1197 | 26B-6 | 32 | 25 | 35 |
| 1198 | 26A-6 | 35 | 32 | 17 |
| 1199 | 26B-6 | 28 | 23 | 40 |
| 1200 | 26A-6 | 35 | 30 | 20 |
| 1201 | 26A-6 | 47 | 45 | 50 |
| 1202 | 26A-6 | 37 | 32 | 33 |
| 1203 | 26A-5 | 49 | 43 | 22 |
| 1204 | 26A-6 | 44 | 41 | 35 |
| 1205 | 25T-6 | 51 | 46 | 38 |
| 1206 | 25T-6 | 44 | 40 | 19 |
| 1208 | 25T-6 | 50 | 33 | 34 |
| 1209 | 25T-7 | 69 | 57 | 60 |
| 1210 | 25A-7 | 58 | 55 | 44 |
| 1211 | 25A-7 | 40 | 35 | 27 |
| 1212 | 25A-7 | 47 | 40 | 68 |
| 1213 | 25A-7 | 52 | 50 | 52 |
| 1214 | 26A-6 | 37 | 32 | 40 |
| 1217 | 26B-6 | 28 | 25 | 18 |
| 1218 | 26A-6 | 50 | 48 | 16 |
| 1225 | 26A-7 | 48 | 41 | 37 |
| 1226 | 26A-6 | 31 | 20 | 24 |
| 1227 | 26A-6 | (65) | 52 | 25 |
| 1263 | 26A-6 | 45 | 43 | 25 |
| 1264 | 26A-7 | 57 | 51 | 53 |
| 1272 | 26B-6 | 29 | 22 | 40 |
| 1274 | 25T-7 | 35 | 18 | 14 |
| 1372 | 26B-6 | 38 | 35 | 21 |

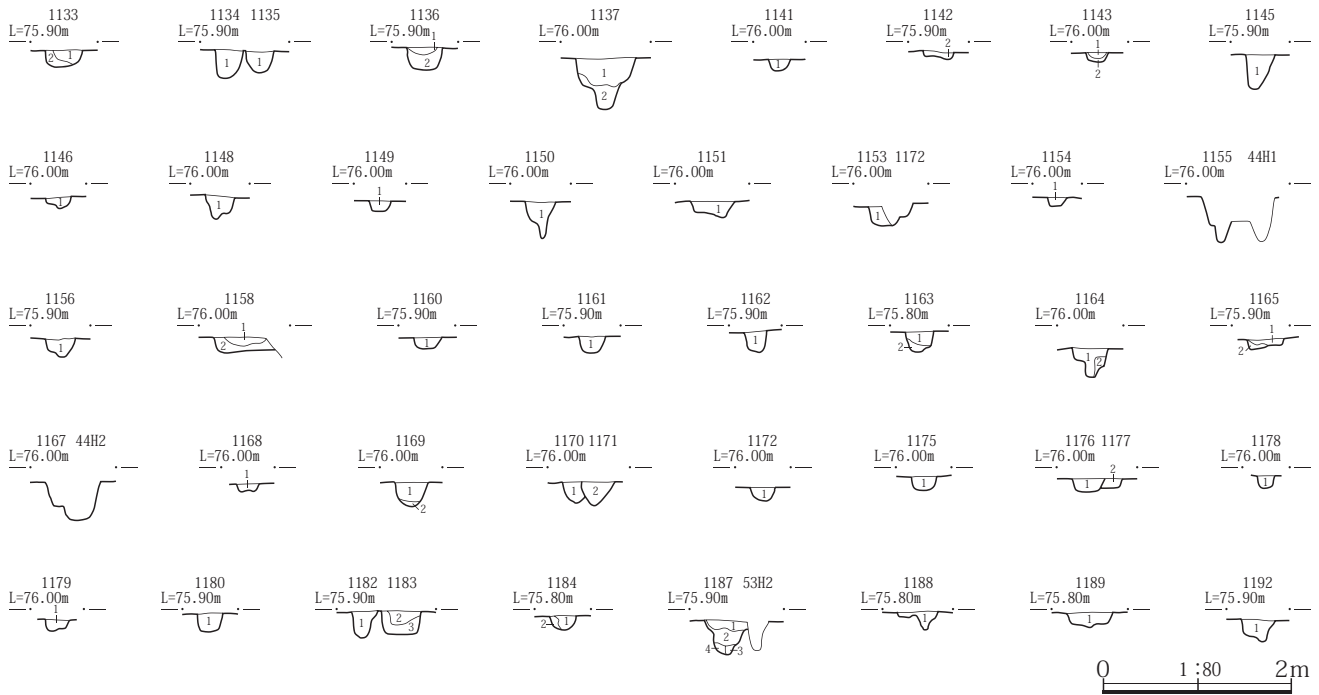
26A-10グリッド

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|--------|----|------|----|
| 970 | 26A-10 | 34 | 34 | 17 |
| 971 | 26A-10 | 40 | 27 | 32 |
| 972 | 26A-10 | 36 | 36 | 15 |
| 973 | 26A-10 | 35 | (31) | 15 |
| 1001 | 26A-10 | 51 | 41 | 31 |
| 1003 | 26A-10 | 58 | 40 | 23 |
| 1004 | 26A-10 | 63 | 48 | 52 |
| 1215 | 26A-10 | 34 | 24 | 7 |
| 1216 | 26A-10 | 48 | 38 | 12 |
| 1219 | 25T-10 | 36 | 30 | 16 |
| 1220 | 26A-10 | 52 | 44 | 23 |
| 1221 | 26A-10 | 40 | 39 | 44 |
| 1222 | 25T-11 | 32 | 27 | 7 |
| 1223 | 26A-10 | 37 | 25 | 28 |
| 1249 | 26A-10 | 48 | 42 | 34 |
| 1269 | 26A-9 | 41 | 41 | 27 |

5Q-12グリッド

| ピットNo. | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|--------|-------|----|----|----|
| 449 | 5Q-12 | 25 | 24 | 19 |
| 450 | 5P-11 | 25 | 24 | 15 |
| 451 | 5Q-11 | 29 | 24 | 27 |
| 452 | 5Q-11 | 47 | 40 | 20 |
| 453 | 5Q-11 | 27 | 25 | 33 |
| 454 | 5Q-11 | 42 | 27 | 20 |
| 455 | 5Q-11 | 45 | 28 | 16 |
| 456 | 5Q-11 | 48 | 32 | 14 |
| 457 | 5Q-11 | 34 | 31 | 16 |
| 458 | 5Q-11 | 39 | 22 | 20 |
| 459 | 5Q-11 | 42 | 36 | 17 |

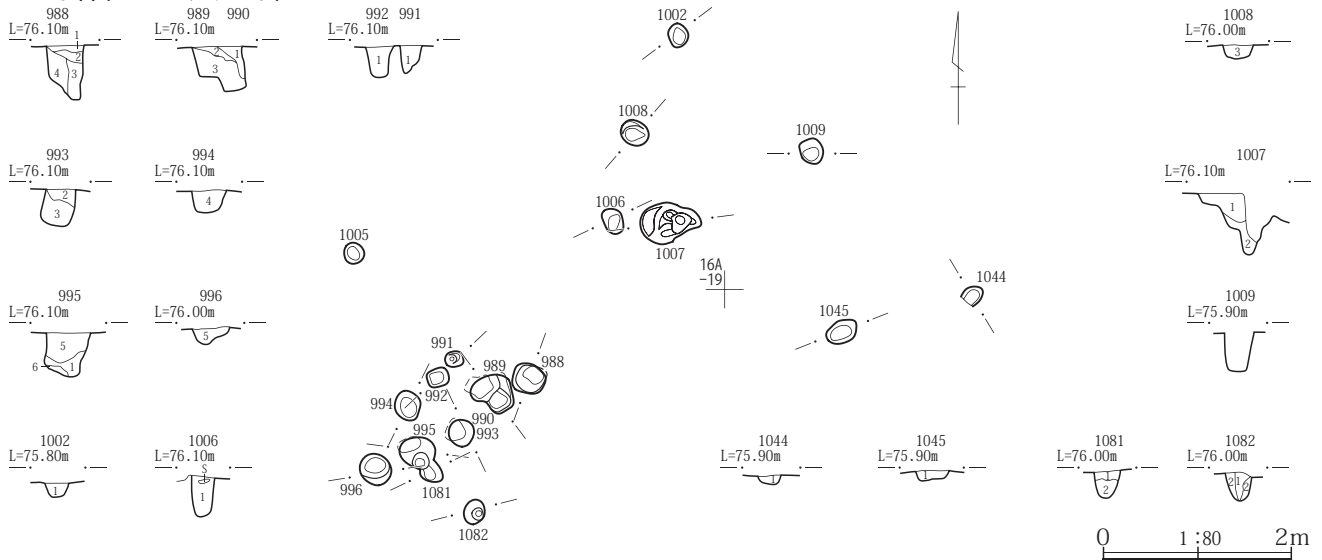
第3節 3区の遺構と遺物(1)



- 1133ピ：1 暗褐 黒褐塊・軽石. 2 暗褐 黒褐塊
 1134～1136ピ：1 黒褐. 2 暗褐
 1137ピ：1 黒褐 ローム粒. 2 黒褐 ローム塊・粒
 1141・1142・1146・1149・1151ピ：1 暗褐. 2 黒褐
 1143・1145・1148・1153・1154・1163・1164・1172ピ：1 黒褐. 2 黒褐 ローム塊
 1150ピ：1 黒褐 ローム塊
 1156・1160ピ：1 黒褐
 1158ピ：1 暗褐 ローム粒多. 2 黒褐 ローム粒少
 1161ピ：1 暗褐 ローム粒
 1162ピ：1 黒褐 ローム塊・粒少、白粒微
 1165ピ：1 黒褐. 2 暗褐 ローム塊
 1168・1169・1175～1179ピ：1 黒褐. 2 黒褐 ローム塊
 1170・1171ピ：1 褐灰 ローム粒. 2 黒褐 ローム粒
 1180・1182・1183ピ：1 黒褐. 2 暗褐. 3 暗褐 黒褐塊
 1184ピ：1 暗褐 黒褐塊・軽石. 2 暗褐 黒褐塊
 1187ピ：1 暗褐 ローム塊・粒・白粒少. 2 黒褐 ローム塊・粒少. 3 黒褐 ローム塊. 4 暗黄褐 ローム塊・粒少
 1188ピ：1 暗褐 ローム粒少、白粒微
 1189ピ：1 暗褐 白粒少、ローム塊・粒微
 1192ピ：1 黒褐 ローム塊・粒やや多

第418図 3区ピット(2)断面図(2)

ピット群(16A-19グリッド)



- 988ピ：1 黒褐 ローム粒少. 2 黒褐 ローム粒多. 3 黒褐 ローム塊多. 4 黒褐 ローム塊少
 989・990ピ：1 暗褐 焼土粒微・軽石・ローム粒. 2 暗褐 軽石少. 3 暗褐 軽石多
 991～996ピ：1 暗褐 ローム粒. 2 暗褐 焼土粒. 3 黒褐 ローム粒. 4 暗褐. 5 暗褐 軽石・ローム粒. 6 暗褐 ローム粒多
 1002ピ：1 暗褐 ローム粒
 1006～1008ピ：1 暗褐 焼土粒微. 2 暗褐 ローム粒. 3 暗褐
 1044ピ：1 黒褐 炭粒微、B 軽石・ローム粒
 1045ピ：1 暗褐 ローム粒
 1081ピ：1 黒褐 軽石微・ローム粒. 2 暗褐 ローム塊・粒
 1082ピ：1 暗褐. 2 暗褐 ローム塊・粒

第419図 3区ピット(3)

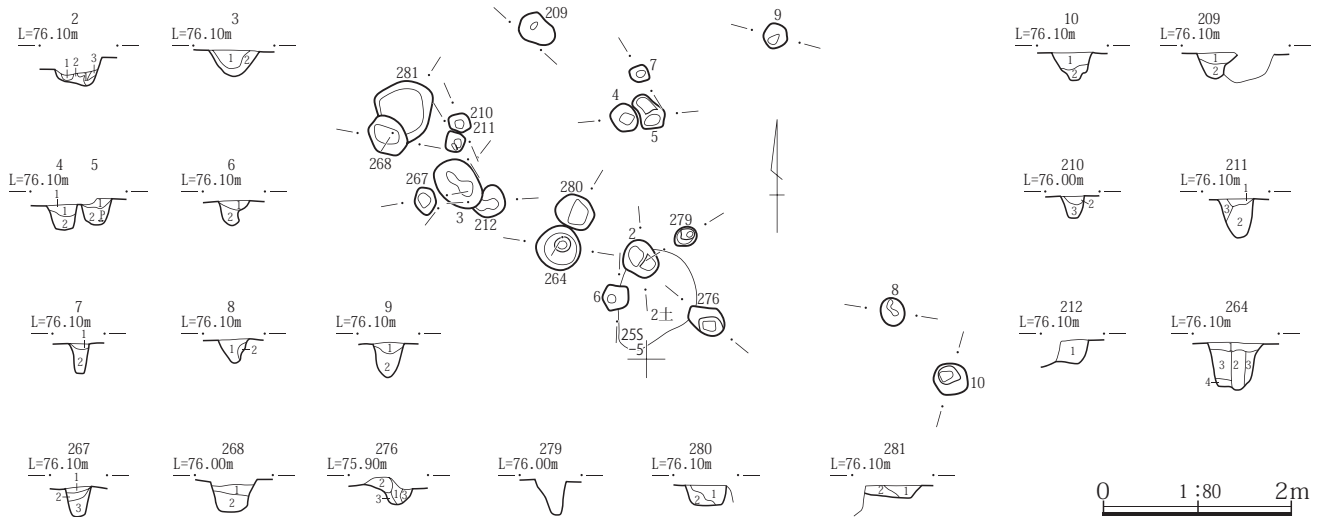
ピット群(25R-2グリッド)



- | | |
|--|---|
| 27・28ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 暗褐 黄白塊. 3 褐 | 191ピ: 1 暗褐 黄粒. 2 暗褐 黄褐塊 |
| 175ピ: 1 暗褐 黄褐粒少. 2 暗褐 黄白塊 | 219ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 暗褐 ローム粒. 3 暗褐. 4 黄白 暗褐塊 |
| 176ピ: 1 暗褐 黄褐粒. 2 灰褐 黄褐粒多 | 220ピ: 1 暗褐 黄白粒微. 2 暗褐 黄白塊 |
| 177~181ピ: 1 暗褐 ローム粒. 2 暗褐 ローム塊. 3 暗褐 ローム粒微. 4 暗褐 ローム塊多. 5 暗褐 | 257・258ピ: 1 暗褐 黄白塊・焼土粒少. 2 暗褐 ローム粒・黄白粒多. 3 暗褐 黄白粒. 4 黄褐 黄白多 |
| 182・183ピ: 1 暗褐 炭粒微・黄褐粒. 2 暗褐 黄褐粒少. 3 暗褐+黄褐+黄白 | 262ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 黒褐 ローム粒 |
| 184・185ピ: 1 暗褐 黄褐粒微. 2 黒褐 ローム粒微. 3 暗褐 黄白塊 | 271~274ピ: 1 暗褐 ローム塊・B軽石. 2 暗褐 黄白塊・ローム粒. 3 黄褐 暗褐 |
| 187ピ: 1 暗褐 | 285・286ピ: 1 暗褐 黄白塊. 2 暗褐 ローム粒多. 3 暗褐 ローム粒・白粒少. 4 黄白 |
| 188ピ: 1 暗褐 黄白塊. 2 黄褐色砂質 | 294ピ: 1 暗褐. 2 黄白 |
| 189ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 暗褐 ローム粒多. 3 暗褐 ローム塊 | |
| 190ピ: 1 暗褐. 2 暗褐 黄白塊 | |

第420図 3区ピット(4)

ピット群(25S-5グリッド)

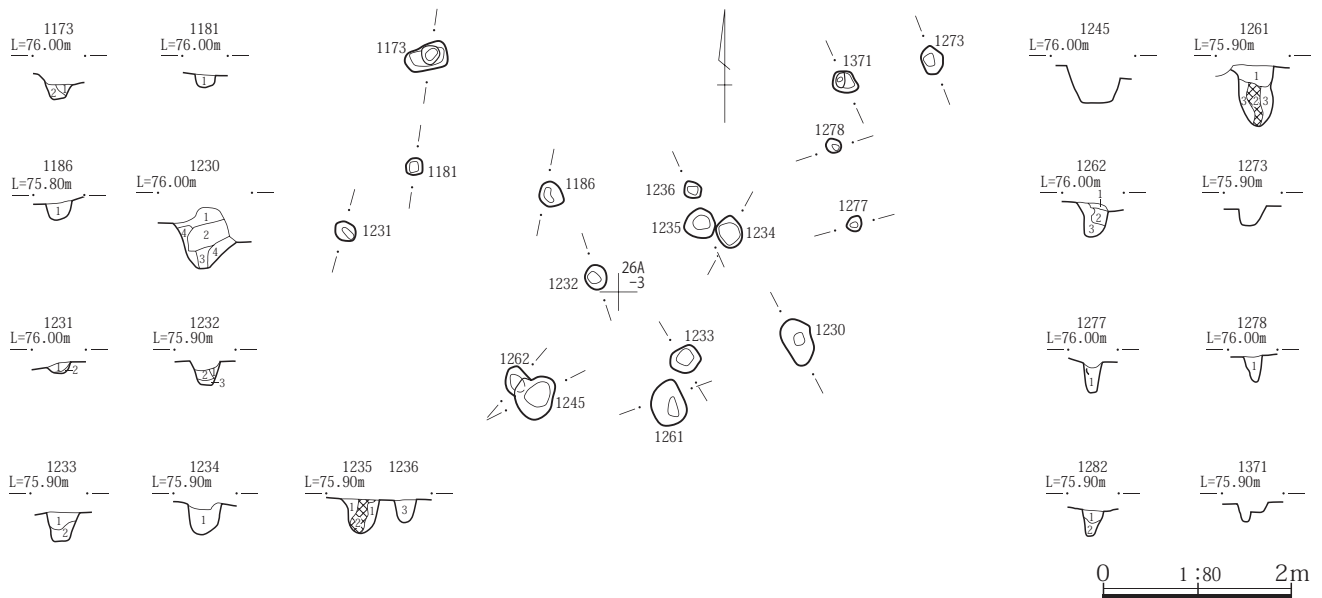


- 2ピ: 1 黒褐 ローム小塊少. 2 暗褐 ローム小塊多. 3 ローム塊
- 3ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒少. 2 暗褐 ローム塊
- 4~6ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 褐灰 ローム粒少
- 7ピ: 1 暗褐 ローム粒. 2 暗褐 ローム塊多
- 8ピ: 1 暗褐+ローム. 2 暗褐 ローム粒多
- 9ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 褐灰 ローム粒少
- 10ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 灰褐 ローム粒少
- 209・210ピ: 1 暗褐 白粒・褐. 2 暗褐 ローム塊・粒. 3 灰褐 ローム塊・粒

- 211ピ: 1 褐 白粒. 2 暗褐 ローム粒. 3 褐
- 212ピ: 1 黄褐+暗褐
- 264ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒. 2 暗褐 ローム塊多・白粒少. 3 暗褐 ローム粒微. 4 暗褐 ローム塊
- 267ピ: 1 暗褐. 2 暗褐 ローム粒少. 3 暗褐 ローム塊
- 268ピ: 1 暗褐. 2 暗褐 ローム塊
- 276ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 褐 白粒少. 3 暗褐 ローム塊多
- 280ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒少. 2 暗褐 ローム粒やや多
- 281ピ: 1 暗褐 ローム粒. 2 褐 ローム多

第421図 3区ピット(5)

ピット群(26A-3グリッド)

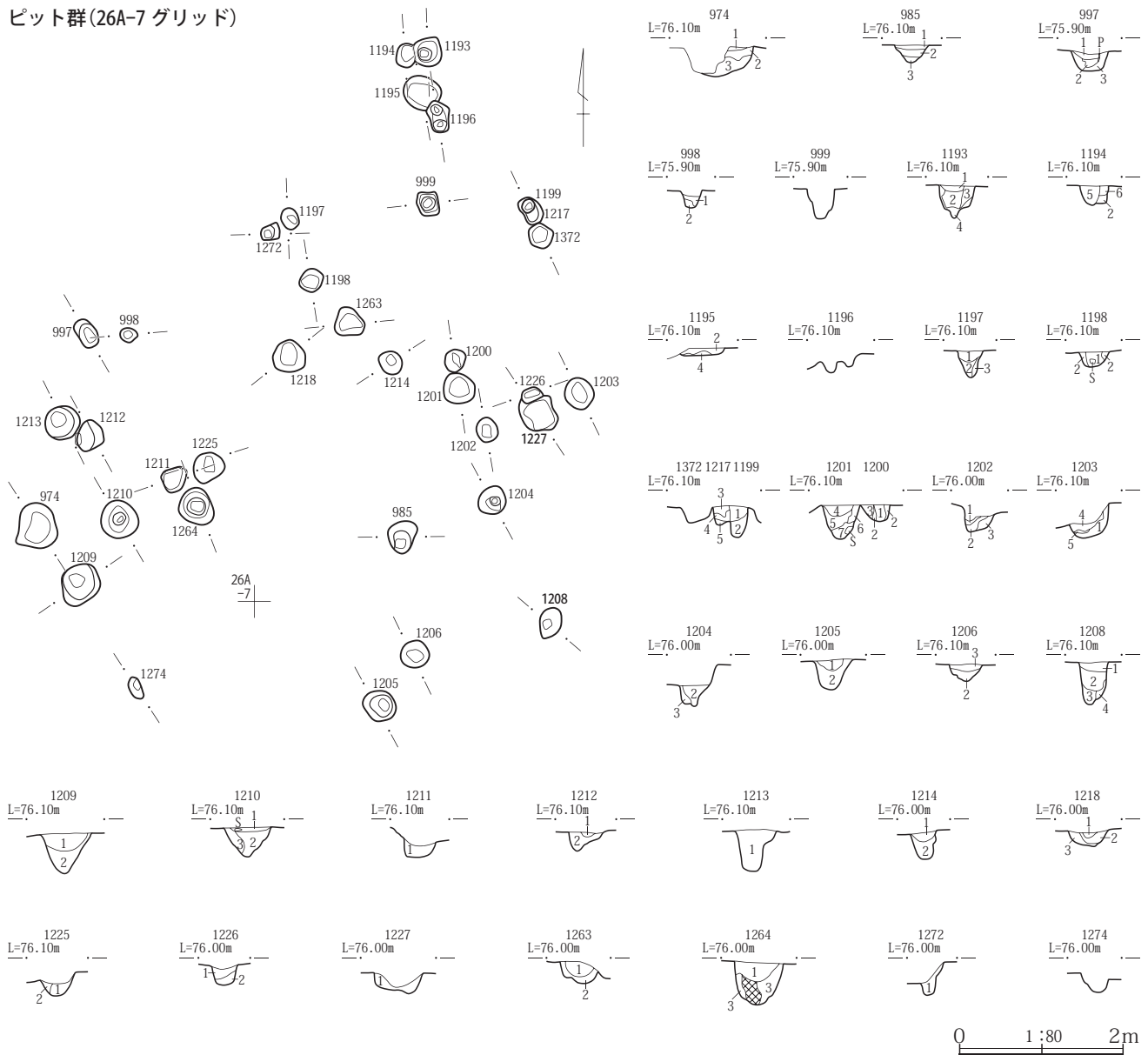


- 1173ピ: 1 黒褐 ローム粒少. 2 黒褐 ローム塊少
- 1181ピ: 1 黒褐 ローム粒少
- 1186ピ: 1 黒褐 ローム粒少
- 1230ピ: 1 黒褐 ローム塊・粒・白粒少. 2 黒褐 ローム塊・粒少. 3 暗褐 ローム粒少. 4 暗褐 ローム塊・粒やや多
- 1231ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 褐 ローム粒多
- 1232ピ: 1 黄褐 軽石塊・白塊. 2 黒褐 ローム粒少. 3 褐 ローム塊多

- 1233ピ: 1 黒褐 ローム粒少. 2 暗褐 ローム塊・白塊多
- 1234~1236ピ: 1 暗褐 ローム塊・シルト塊多. 2 黒褐 ローム粒微・柱痕. 3 黒褐 シルト塊少
- 1261ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 黒褐 ローム粒微・柱痕. 3 黒褐
- 1262ピ: 1 黒褐. 2 暗褐 ローム粒少. 3 褐 ローム粒多・ローム塊少
- 1277・1278ピ: 1 褐 黒褐 ローム粒
- 1282ピ: 1 褐 ローム塊多. 2 黒褐 ローム粒微

第422図 3区ピット(6)

ピット群(26A-7グリッド)

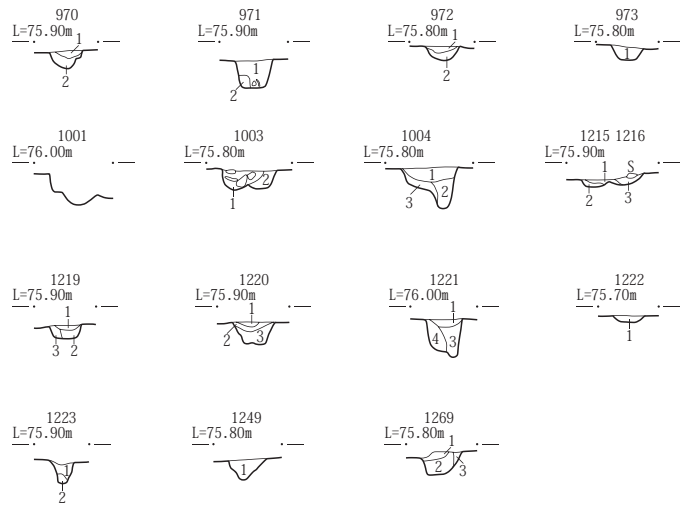
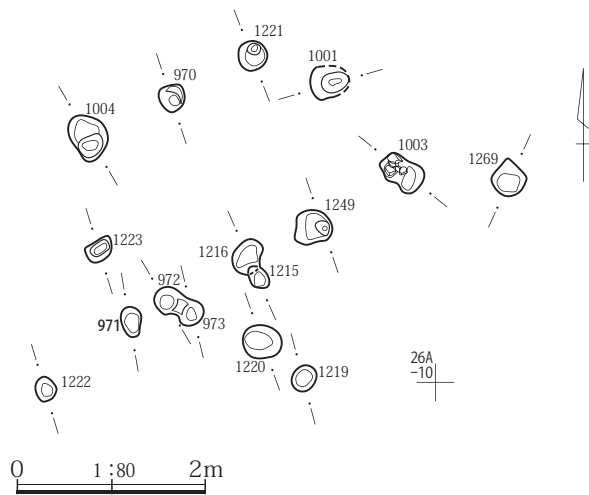


- 974ピ：1 暗褐 炭粒・白軽石。2 暗褐 ローム粒・焼土粒微。3 黒褐 暗褐塊・ローム塊
- 985ピ：1 暗褐 ローム粒・B 軽石。2 暗褐 ローム塊・粒・B 軽石少。3 暗白 ローム塊・粒少
- 997ピ：1 暗褐 ローム粒・白軽石・焼土粒。2 暗褐 ローム粒・白軽石。3 暗褐 +ローム
- 998ピ：1 暗褐 ローム塊・炭粒少、ローム粒・白軽石。2 暗褐 ローム塊・粒少
- 1193～1195ピ：1 暗褐 ローム粒・焼土粒。2 暗褐 ローム塊。3 暗褐 ローム塊少。4 黄白 暗褐。5 暗褐 ローム塊・焼土塊やや多。6 暗褐 ローム粒少
- 1197ピ：1 暗褐 焼土粒・軽石・ローム粒。2 暗褐 ローム塊。3 暗褐 ローム塊やや多
- 1198ピ：1 暗褐 ローム塊・粒少。2 黄褐 暗褐
- 1199・1217ピ：1 暗褐 ローム塊・軽石。2 暗褐 ローム塊・黄白塊。3 暗褐 ローム粒。4 暗褐 黄白塊。5 黄褐 暗褐
- 1200・1201ピ：1 暗褐 ローム塊。2 暗褐 ローム粒多。3 黄褐 暗褐。4 暗褐 ローム粒・白軽石。5 暗褐 黄白塊・炭粒多。6 暗褐 ローム粒やや多。7 暗褐 黄白塊
- 1202～1204ピ：1 暗褐 黄白塊やや多。2 暗褐 黄白塊。3 黄白 暗褐。4 暗褐 ローム塊・黄白粒。5 暗褐

- 1205～1206ピ：1 暗褐 ローム粒・白粒。2 暗褐 黄白塊。3 暗褐 焼土粒・白軽石・ローム粒少
- 1208ピ：1 暗褐 焼土粒・ローム粒・白軽石。2 暗褐 焼土粒・ローム塊少。3 暗褐 黄白塊。4 暗褐 黄白塊やや多
- 1209ピ：1 暗褐 焼土粒・炭粒少、ローム塊・白軽石。2 暗褐 黄白塊・炭粒少
- 1210・1213ピ：1 暗褐 焼土粒・ローム粒・白軽石。2 暗褐 ローム塊。3 暗褐 ローム粒やや多
- 1211ピ：1 黒褐 炭粒
- 1212ピ：1 暗褐 ローム粒少。2 褐 ローム塊少
- 1214ピ：1 暗褐 焼土粒・炭粒・ローム粒・白軽石。2 暗褐 ローム粒・黄白塊少
- 1218ピ：1 暗褐 ローム粒少。2 暗褐 ローム塊やや多、焼土粒少。3 黄褐 暗褐少
- 1225ピ：1 暗褐 ローム塊多。2 暗褐 ローム粒
- 1226ピ：1 暗褐 ローム粒多。2 暗褐 ローム粒
- 1227ピ：1 暗褐 ローム塊・粒・焼土粒
- 1263ピ：1 褐 ローム粒少。2 暗褐 ローム粒多、ローム塊少
- 1264ピ：1 褐 ローム塊・粒少。2 暗褐 ローム粒少・柱痕。3 褐 ローム塊多
- 1272ピ：1 黒褐 ローム粒微

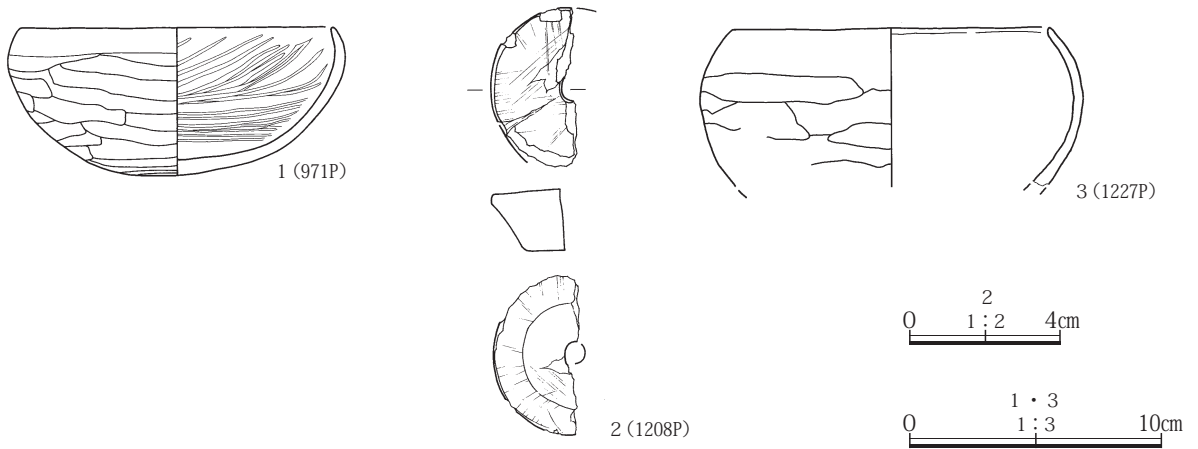
第423図 3区ピット(7)

ピット群(26A-10グリッド)



- 970ピ: 1 褐 焼土粒・ローム粒少. 2 暗褐 ローム塊・焼土粒
- 971ピ: 1 暗褐 焼土粒少・ローム塊・白軽石. 2 黄褐 暗褐
- 972・973ピ: 1 暗褐 ローム粒・白軽石多・焼土粒・炭粒少. 2 暗褐 ローム塊・白軽石多・焼土粒・炭粒少
- 1003ピ: 1 暗褐 ローム塊・炭粒少・ローム粒・白軽石. 2 暗褐 ローム塊・白軽石多・焼土粒・炭粒
- 1004ピ: 1 暗褐 ローム粒・白軽石多・焼土粒・炭粒少. 2 暗褐 ローム塊多・白軽石少. 3 暗褐 ローム塊・粒少
- 1215・1216ピ: 1 褐 ローム粒多・焼土粒少. 2 暗褐 ローム粒・焼土粒. 3 褐 焼土粒・ローム粒

- 1219ピ: 1 暗褐 ローム塊・焼土粒・炭粒. 2 暗褐 ローム塊多. 3 黄褐+暗褐
- 1220・1221ピ: 1 暗褐 ローム粒・焼土粒・白軽石. 2 褐 ローム粒・焼土粒. 3 暗褐 ローム塊・焼土粒. 4 暗褐 ローム粒・焼土粒
- 1222ピ: 1 暗褐 ローム塊多・焼土粒・炭粒少
- 1223ピ: 1 暗褐 炭粒少・ローム塊・白軽石. 2 暗褐 ローム塊
- 1249ピ: 1 黒褐 ローム塊・粒少・焼土塊微
- 1269ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 褐 ローム粒少. 3 黄褐塊

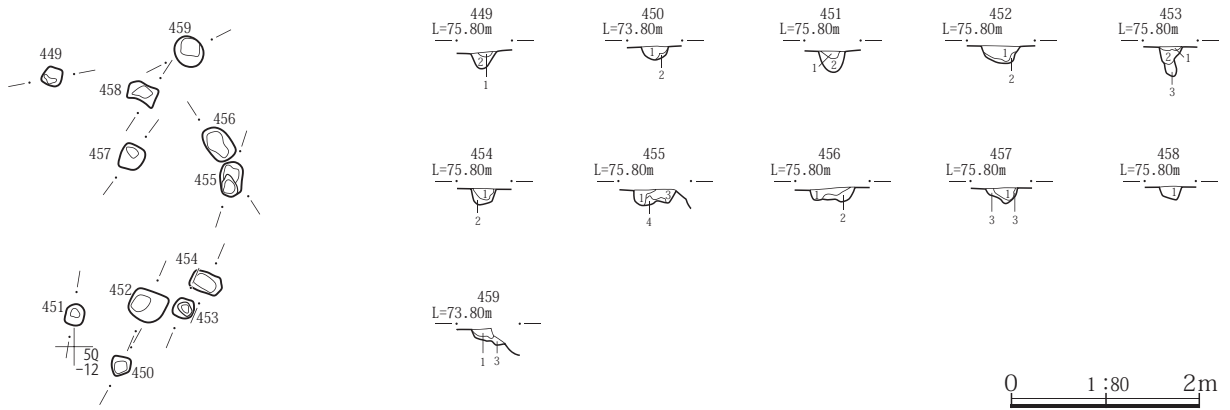


第424図 3区ピット(8)とピット出土遺物

第162表 3区ピット出土遺物

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|-----------------|-----|-----------|-------------------|-----|-------|----|--------------------|------------------|---|
| 第424図 PL.211 | 1 | 土師器 杯 | 971ピット 完形 | 口 | 12.2 | 高 | 5.8 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部から底部は細かな単位で手持ちヘラ削り。内面は斜放射状にヘラ磨き。 |
| 第424図 PL.211 | 2 | 石製品 紡輪 | 1208ピット | 径幅 | (4.2) | 厚重 | 1.7 20.1 | 蛇紋岩 | 上面側使用面の孔周辺が光沢を帯びる。体部整形・稜線等は新鮮で、使用頻度は低い。孔径は破損して不明。 |
| 第424図 | 3 | 土師器 鉢 | 1227ピット 口縁~体部片 | 口 | 12.4 | | | 精選・赤色粘土粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。体部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 |

ピット群(50-12グリッド)



449ピ：1 暗褐 ローム粒少. 2 暗褐 暗褐 ローム粒。

450ピ：1 暗褐 ローム粒. 2 暗褐 黄白色ブ

451・453ピ：1 暗褐 ローム粒少. 2 黒褐 ローム塊. 3 黒褐 ロームやや多量

452ピ：1 暗褐 ローム塊. 2 黒褐 ローム粒少

454・455・458ピ：1 暗褐 ローム粒. 2 褐色. 3 暗褐 ローム塊. 4 黄褐 ローム・暗褐

456・457・459ピ：1 暗褐 ローム粒少. 2 褐色. 3 褐色 ローム塊

第425図 3区ピット(9)

第163表 3区ピット計測値(4)

個別ピット

| ピットNo | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|-------|--------|----|------|----|
| 551 | 5T-11 | 35 | 30 | 25 |
| 552 | 6A-11 | 31 | 30 | 21 |
| 553 | 6A-11 | 26 | (25) | 9 |
| 554 | 6A-11 | 43 | 32 | 11 |
| 555 | 6A-11 | 37 | 25 | 11 |
| 556 | 6A-11 | 47 | 44 | 11 |
| 787 | 6B-19 | 56 | 34 | 24 |
| 788 | 6B-19 | 37 | 32 | 18 |
| 802 | 6A-11 | 67 | (45) | 16 |
| 39 | 15Q-17 | 50 | 31 | 45 |
| 40 | 15Q-17 | 42 | 37 | 50 |
| 41 | 15Q-17 | 38 | 35 | 35 |
| 42 | 15Q-17 | 32 | 30 | 14 |
| 46 | 15R-17 | 35 | 33 | 34 |
| 47 | 15R-17 | 59 | 58 | 46 |
| 76 | 15R-17 | 42 | 37 | 23 |
| 138 | 15S-17 | 27 | 25 | 25 |
| 150 | 15R-19 | 30 | 27 | 17 |
| 186 | 15R-18 | 53 | 47 | 15 |
| 192 | 15R-20 | 81 | 52 | 36 |
| 198 | 15S-18 | 51 | 41 | 24 |
| 199 | 15S-18 | 54 | 46 | 35 |
| 200 | 15S-18 | 61 | 56 | 8 |
| 201 | 15S-18 | 38 | 37 | 7 |
| 202 | 15S-18 | 54 | (45) | 39 |
| 203 | 15S-18 | 50 | (42) | 33 |
| 204 | 15R-18 | 57 | 29 | 11 |
| 205 | 15S-19 | 50 | 43 | 39 |
| 206 | 15Q-19 | 41 | 35 | 41 |
| 214 | 15S-19 | 37 | 36 | 43 |
| 218 | 15Q-20 | 50 | (43) | 44 |
| 259 | 15S-20 | 33 | 31 | 47 |
| 261 | 15S-20 | 26 | 25 | 18 |
| 263 | 15S-20 | 31 | 25 | 34 |
| 270 | 15S-20 | 19 | 18 | 31 |
| 275 | 15T-18 | 38 | 36 | 16 |
| 277 | 15S-17 | 29 | 19 | 34 |

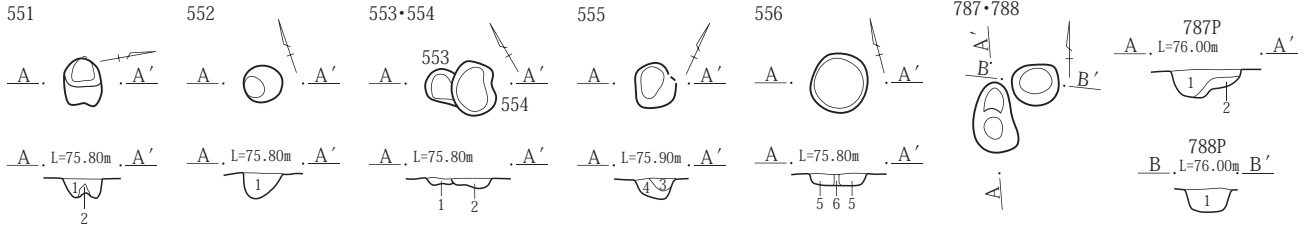
| ピットNo | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|-------|--------|------|------|----|
| 1038 | 15T-17 | 45 | 40 | 31 |
| 1042 | 15T-17 | 52 | (41) | 47 |
| 1043 | 15T-17 | 30 | 26 | 56 |
| 1046 | 15T-18 | 30 | (16) | 23 |
| 976 | 16B-17 | 57 | 49 | 35 |
| 983 | 16B-18 | 45 | 39 | 30 |
| 1010 | 16A-17 | 77 | 31 | 17 |
| 1037 | 16A-17 | 30 | 29 | 38 |
| 1048 | 16B-17 | 34 | (21) | 9 |
| 1049 | 16B-18 | 37 | 29 | 6 |
| 1050 | 16A-18 | 48 | 31 | 15 |
| 1051 | 16B-18 | 42 | 37 | 32 |
| 1052 | 16B-18 | 36 | 27 | 25 |
| 1191 | 16A-20 | 40 | 34 | 21 |
| 1 | 25S-9 | 30 | 20 | 22 |
| 207 | 25S-1 | 54 | 45 | 49 |
| 208 | 25S-1 | 42 | 31 | 20 |
| 213 | 25S-2 | 102 | 59 | 79 |
| 265 | 25Q-4 | 30 | (16) | 17 |
| 266 | 25R-3 | 33 | 30 | 19 |
| 284 | 25S-2 | 47 | 37 | 30 |
| 293 | 25T-2 | 30 | 23 | 35 |
| 332 | 25S-6 | 54 | 54 | 86 |
| 361 | 25S-7 | 52 | 39 | 17 |
| 362 | 25S-7 | 78 | 52 | 29 |
| 394 | 25S-10 | 64 | 58 | 34 |
| 398 | 25S-11 | 32 | 31 | 23 |
| 1207 | 25T-5 | 64 | 56 | 34 |
| 1224 | 25T-5 | 34 | 30 | 10 |
| 1237 | 25T-4 | 35 | 24 | 13 |
| 1238 | 25T-4 | 55 | 48 | 22 |
| 1239 | 25T-4 | 37 | 32 | 48 |
| 1240 | 25T-4 | 30 | 29 | 13 |
| 1241 | 25T-4 | 32 | 29 | 37 |
| 1242 | 25T-4 | 41 | 32 | 25 |
| 1243 | 25T-4 | (45) | 40 | 38 |
| 1244 | 25T-4 | 40 | 40 | 48 |

| ピットNo | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ |
|-------|--------|------|------|----|
| 1280 | 25T-5 | 33 | 25 | 16 |
| 1287 | 25T-8 | 44 | (18) | 35 |
| 984 | 26B-5 | 69 | 52 | 36 |
| 1000 | 26A-9 | 41 | 35 | 19 |
| 1228 | 26A-11 | 63 | 48 | 12 |
| 1246 | 26A-11 | (59) | 50 | 29 |
| 1247 | 26A-11 | 40 | 32 | 13 |
| 1248 | 26A-11 | 34 | 29 | 26 |
| 1250 | 26B-1 | 38 | 37 | 44 |
| 1251 | 26B-1 | 31 | 28 | 16 |
| 1252 | 26B-1 | 44 | (33) | 14 |
| 1253 | 26B-1 | (47) | 35 | 22 |
| 1254 | 26B-1 | 39 | 26 | 29 |
| 1255 | 26B-1 | 31 | 24 | 20 |
| 1256 | 26B-1 | 40 | 33 | 36 |
| 1257 | 26B-4 | 68 | 63 | 34 |
| 1258 | 26B-4 | 61 | 55 | 28 |
| 1259 | 26A-3 | 33 | 28 | 25 |
| 1260 | 26A-11 | 44 | 25 | 27 |
| 1266 | 26A-7 | 45 | 36 | 15 |
| 1267 | 26B-8 | 56 | 30 | 63 |
| 1268 | 26B-9 | 64 | 53 | 47 |
| 1270 | 26B-10 | (55) | 45 | 11 |
| 1271 | 26B-11 | 26 | 20 | 22 |
| 1275 | 25B-1 | 29 | 29 | 29 |
| 1276 | 26A-1 | 26 | 24 | 18 |
| 1281 | 26A-1 | 30 | 20 | 37 |
| 1369 | 26B-4 | 46 | 42 | 28 |
| 1370 | 26A-1 | (33) | 28 | 19 |

第3章 発掘調査の記録

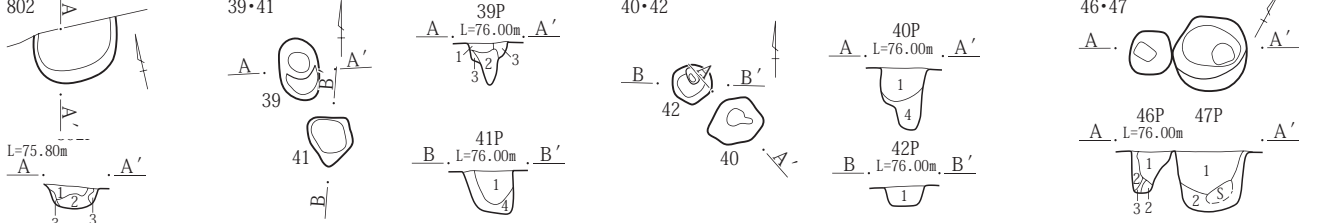
5区

6区

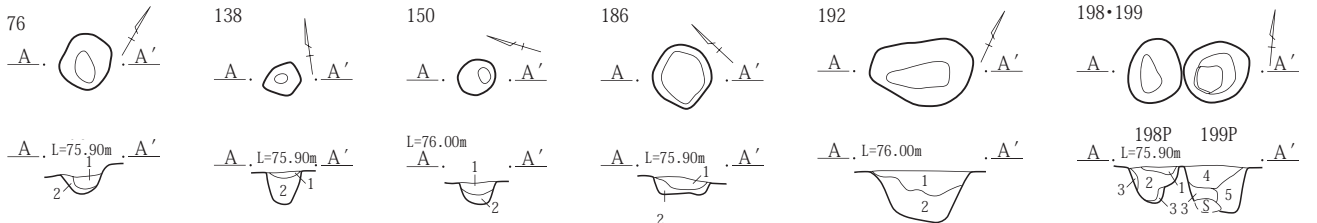


551ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 暗褐 ローム粒
 552 ~ 556ピ: 1 暗褐 ローム粒. 2 褐灰 ローム粒少. 3 暗褐 ローム塊. 4 暗褐 ローム塊・粒やや多. 5 暗褐 ローム塊・黄白塊. 6 黄白塊
 787ピ: 1 黒褐 B 軽石. 2 暗褐
 788ピ: 1 黒褐 ローム粒少. B 軽石

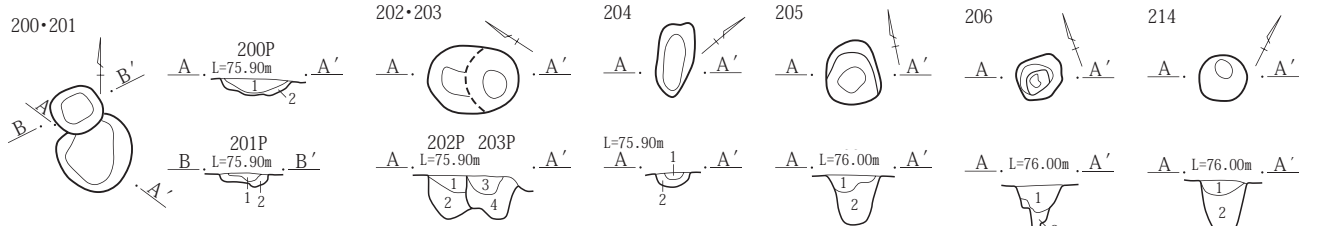
15区



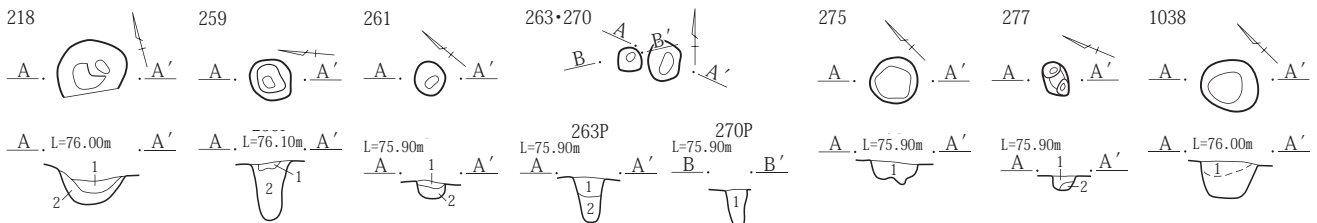
802ピ: 1 暗褐 炭粒・ローム粒. 2 暗褐 黄白塊. 3 褐
 39 ~ 42ピ: 1 暗褐 ローム粒・白粒少. 2 暗褐 ローム塊少. 3 褐. 4 暗褐 ローム塊. 5 黒褐 ローム粒少
 46・47ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 暗褐 ローム粒. 3 暗褐 黄褐塊



76ピ: 1 黒褐 ローム粒微. 2 暗褐 黄褐塊多
 138ピ: 1 暗褐 ローム粒少. 2 暗褐 ローム塊
 150ピ: 1 暗褐 B 軽石. 2 暗褐 ローム粒
 186ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 暗褐 ローム塊多
 192ピ: 1 暗褐 黄褐粒微. 2 暗褐 黄白粒少
 198・199ピ: 1 暗褐 ローム塊多. 2 暗褐 ローム粒・炭粒少. 3 黄褐. 4 暗褐 ローム粒少. 5 暗褐+ローム

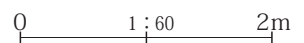


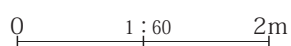
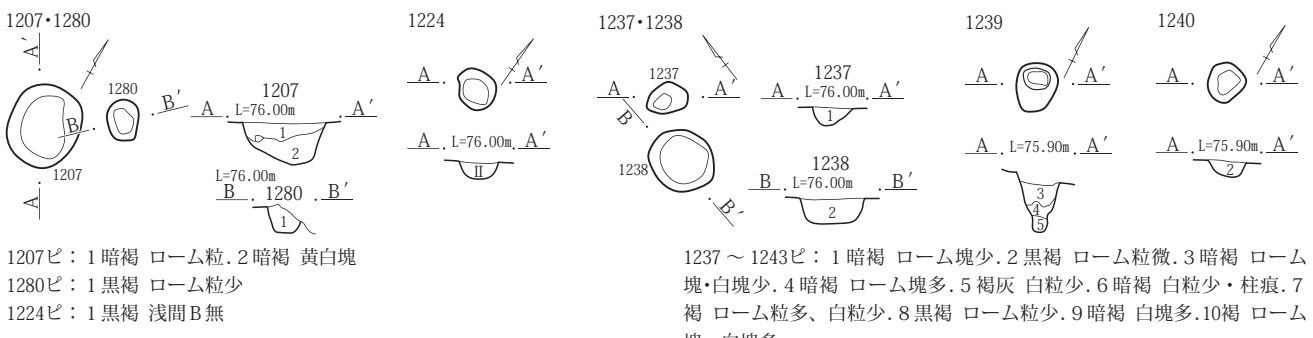
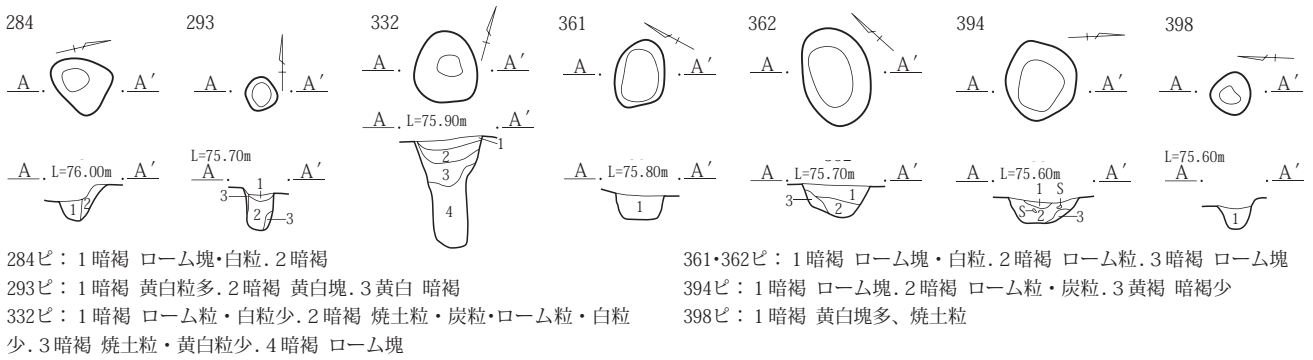
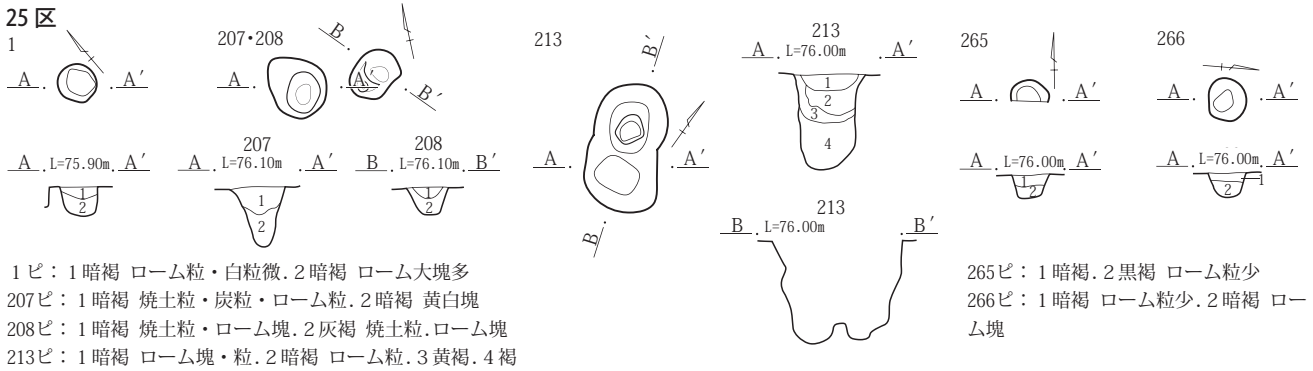
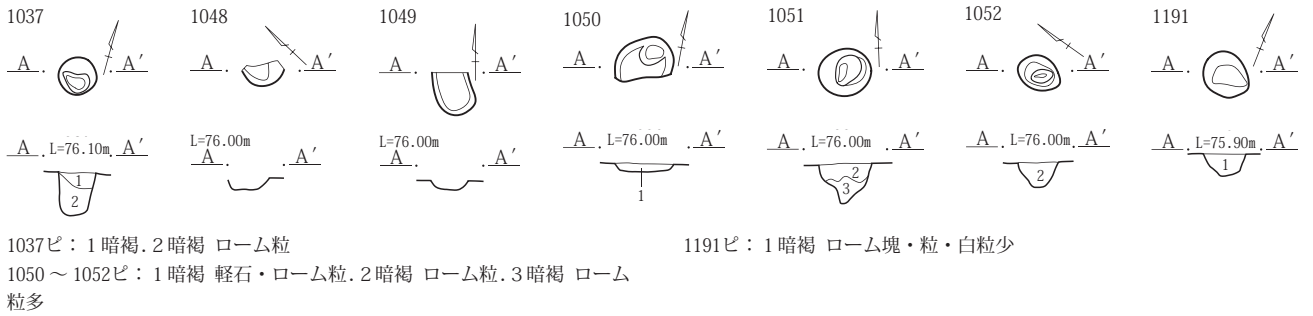
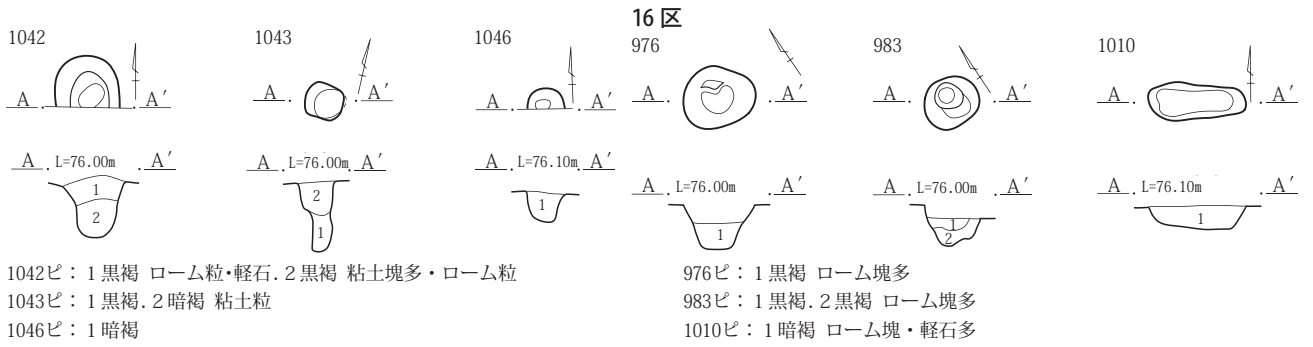
200ピ: 1 暗褐 ローム粒. 2 褐
 201ピ: 1 暗褐 ローム粒. 2 褐
 202・203ピ: 1 暗褐 ローム塊・粒. 2 暗褐 ローム塊多. 3 暗褐 ローム粒・焼土粒少. 4 暗褐 黄白塊
 204ピ: 1 暗褐 ローム粒. 2 暗褐 ローム粒少
 205ピ: 1 暗褐 ローム塊・焼土粒. 2 暗褐 ローム塊・焼土粒少
 206ピ: 1 暗褐 ローム粒. 2 暗褐 ローム塊・黄白塊
 214ピ: 1 暗褐 ローム塊・焼土粒. 2 暗褐 ローム塊・焼土粒少



218ピ: 1 黒褐 ローム粒少. 2 暗褐 ローム塊
 259ピ: 1 暗褐 ローム塊多. 2 暗褐
 261ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 暗褐 ローム塊
 263ピ: 1 暗褐 ローム粒微. 2 暗褐 ローム粒
 270ピ: 1 暗褐 ローム粒・黄白塊少
 275ピ: 1 暗褐 ローム粒少
 277ピ: 1 黒褐 ローム粒・白粒. 2 黄白 暗褐塊
 1038ピ: 1 暗褐 ローム粒少

第427図 3区ピット(10)

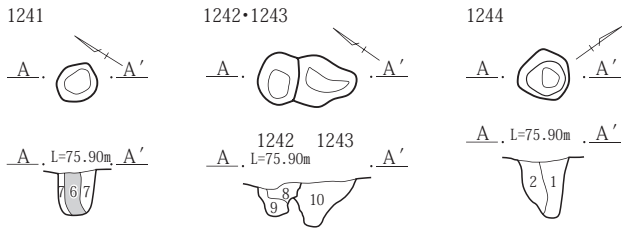




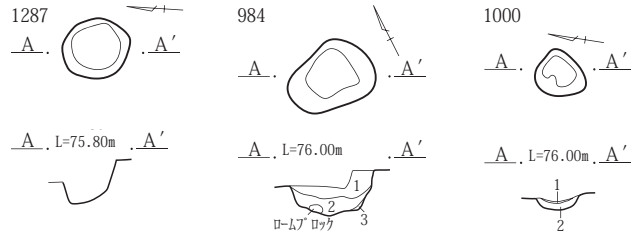
第428図 3区ピット(11)

第3章 発掘調査の記録

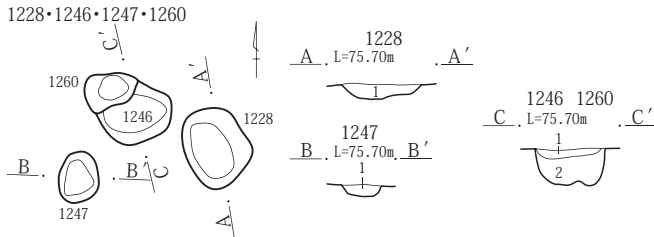
26区



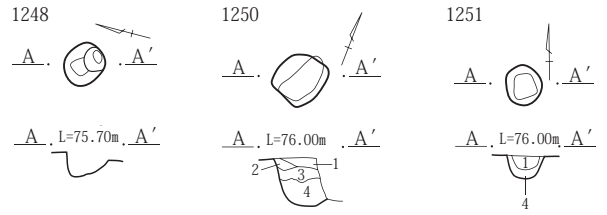
1244ピ：1 黒褐 ローム粒・白粒・柱痕。2 褐 白塊多



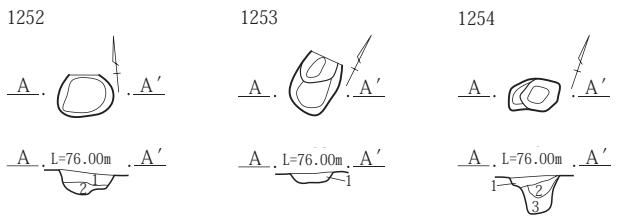
984ピ：1 暗褐 焼土粒・炭粒・ローム塊少。2 暗褐 焼土粒・炭粒・ローム粒。3 黄褐+暗褐
1000ピ：1 暗褐 ローム粒・焼土粒。2 暗褐 ローム粒多、焼土粒



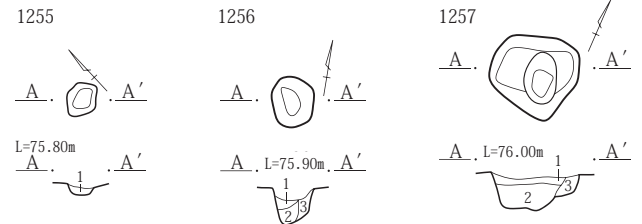
1228ピ：1 暗褐 ローム塊・白粒
1246・1260ピ：1 暗褐 焼土粒少、ローム粒・白粒。2 暗褐 ローム塊
1247ピ：1 暗褐 ローム塊・白粒



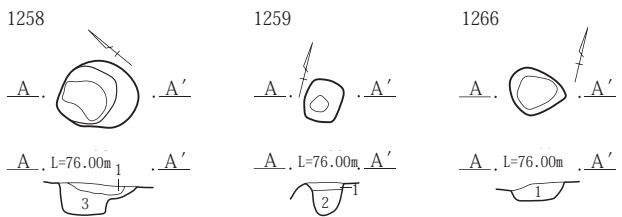
1250・1251ピ：1 暗褐 ローム粒・白粒少、焼土粒微。2 暗黄褐塊。3 暗褐 ローム塊・粒少、白粒微。4 暗褐 ローム粒・焼土粒微



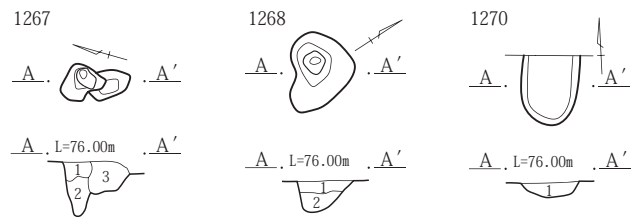
1252ピ：1 暗褐 ローム粒・白粒少、焼土粒微。2 暗褐 ローム塊やや多、ローム粒少
1253ピ：1 暗褐 白粒少、焼土粒微
1254ピ：1 暗褐 ローム粒少。2 暗褐 ローム粒微。3 暗褐 ローム塊・粒多



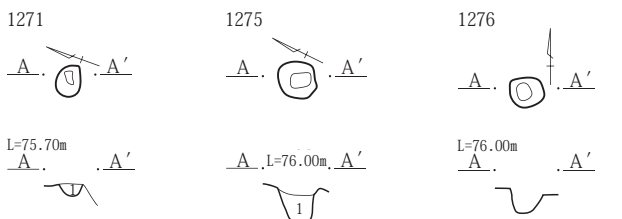
1255ピ：1 黒褐 ローム塊・粒・シルト塊少
1256ピ：1 暗褐 ローム粒少・焼土粒微。2 暗褐 ローム塊・粒中。3 暗褐 ローム塊多、シルト塊中



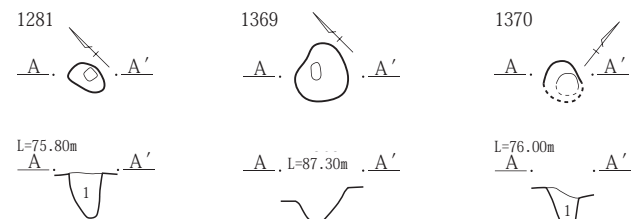
1257・1258ピ：1 暗褐 ローム塊・粒少、白粒微。2 暗褐 ローム塊・粒やや多、白粒微。3 暗褐 ローム塊・粒少
1259ピ：1 暗褐 白粒やや多、ローム塊・粒・焼土粒・炭粒微。2 暗褐 ローム塊・粒少



1266ピ：1 暗褐 ローム粒・C 軽石少
1267ピ：1 褐 ローム粒多。2 暗褐 ローム粒少。3 褐 ローム粒少
1268ピ：1 暗褐 ローム粒多。2 暗褐 ローム粒・炭粒微
1270ピ：1 褐 ローム粒少



1271ピ：1 暗褐 ローム粒多
1275ピ：1 黒褐 シルト塊少、シルト粒多



1281ピ：1 黒褐 ローム粒少
1370ピ：1 黒褐 ローム粒多

第429図 3区ピット(12)

